

# 田口上田尻遺跡 田口下田尻遺跡

— 遺物観察表・写真図版編 —

一般国道17号(前橋渋川バイパス)改築工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書第2集

2012年3月

国 土 交 通 省  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

田口上田尻遺跡  
田口下田尻遺跡

遺物観察表・  
写真図版編  
一般国道17号(前橋渋川バイパス)改築工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書第2集

二〇一二年三月

国 土 交 通 省  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



# 田口上田尻遺跡 田口下田尻遺跡

— 遺物観察表・写真図版編 —

一般国道17号(前橋渋川バイパス)改築工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書第2集

2012年3月

国 土 交 通 省  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団





# 遺物觀察表

## 遺物観察表凡例

- 1 遺物の計測単位は、cm、gである。これ以外の単位については、それぞれ単位を記載した。
- 2 遺物の計測値は、実際に計測できたもの以外は( )で記載した。
- 3 緑釉陶器の胎土の記号は以下のとおりである。
  - A:胎土中に空隙がややあり、白色粒を含む。
  - A:胎土中に空隙がややあり、白色粒を含み、部分的に白色粘土を縞状に含む。
  - B:胎土中に黒色物と白色物を少量縞状に含む。Aに比して空隙は少なくやや緻密。
  - C:白色鉱物と透明鉱物粒を含む。
  - C:硬質に焼きあがり、胎土は白色に灰色が混じる。透明鉱物と白色鉱物を含む。
  - D:緻密、硬質で夾雑物非常に少ない。白色物僅かに含む。
  - E:胎土中にチャート礫を含む。
- 4 在地系土器胎土の記号は以下のとおりである。
  - A:輝石か角閃石多く含む。白色鉱物類多く含む。透明鉱物かガラス類含む。赤色粒含む。
  - B:白色鉱物含む。光を反射する微細な鉱物を含む。赤色粒少量含む。
- 5 中・近世陶磁器の時期は以下のとおりである。
  - 古瀬戸
    - 中期:14世紀前後～14世紀第3四半期位
    - 中期様式Ⅲ期:14世紀第2四半期頃
    - 後期:4世紀第3四半期～15世紀第3四半期頃
    - 後期様式Ⅲ・Ⅳ古:15世紀第2四半期～第3四半期頃
    - 後期様式Ⅳ古:15世紀中頃前後
    - 後期様式Ⅳ新:15世紀後半
  - 大窯
    - I:1480年代から1520年代
    - II:1530年代から1550年代
    - III:1560年代から1580年代
    - IV:1590年代から1610年代を前半、後半、末に細分
  - 登り窯
    - 1小期:17世紀前半
    - 2小期:17世紀前半
    - 3小期:17世紀中頃
    - 4小期:17世紀後半
    - 5小期:17世紀後半(末頃)
    - 6小期:17世紀末～18世紀前半
    - 7小期:18世紀中頃
    - 8小期:18世紀後半
    - 9小期:19世紀前半(第1四半期)
    - 10小期:19世紀前半(第2四半期)
    - 11小期:19世紀中頃
- 6 鉄滓等における磁着度は、鉄関連建物分類用の「標準磁石」を用いて資料との反応単位を1から順に表現したもので、数値が大きいほど磁性が強い。歴博報告書58・59集「日本・韓国の鉄生産技術」資料編国立歴史民俗博物館1994に準じる。
- 7 鉄滓等におけるメタル度は、特殊金属探知器によって判定された金属鉄の残留度を示すもので、金属鉄の遺存により、「なし、錆化(△)、H(○)、M(◎)、L(●)、特L(☆)」の6段階に分類した。

1面1期 田口上田尻遺跡

田口上田尻遺跡1号復旧痕

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
36-1 228	肥前磁器 碗		10.1	3.3	5.1		口縁部・ 底部1/3、 体部完		白		底部器壁厚い。体部から口縁部直線的に開く。外面雪輪梅樹文。高台内不明跡。	波佐見系。18 世紀後半
36-2 228	肥前磁器 碗	1	(9.7)	3.6	5.5		口縁部 1/3、底 部完		白		底部内面コンニャク印判、内面1重網目文。外面2重網目文。	波佐見系。18 世紀前半～中 頃
36-3	美濃陶器 花瓶	3	-	-	-		体部片		灰白		外面銅緑釉。内面無釉。外面上半丸髷により施文。外面中位凹線。	登窯3小期
36-4	美濃陶器 筒形香炉	2	-	(14.1)	(5.0)		1/4		にぶい褐		器壁厚く、大型。内外面轆轤目顕著。貼付脚1カ所残存。内面から体部外面下端錆釉。体部外面灰釉流し掛けで胎釉状となる。底部内面目痕1カ所残存。	登窯5小期
36-5	搬入系土器? 不詳		-	-	-		口縁片	B	にぶい橙		口縁部外傾して立ち上がり、端面正面平坦。七輪の可能性ある。	近現代か
36-6 228	銅製品 銭貨		2.4	-	0.1	3.4	完形				聖宋元宝(篆)	初鑄1101
36-7 228	銅製品 銭貨		3.5	-	0.1	3.0	完形				治平元宝	初鑄1064
36-8 228	銅製品 銭貨		2.9	-	0.2	4.9	完形				寛永通宝(11波)	初鑄1769

田口上田尻遺跡2号復旧痕

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
36-9	鉄製品 不明		(4.4)	3.1	0.4	7.0					断面は四角形を呈し、残存部は刺状を呈しているが、両側が欠損しているため、環状となる可能性もある。	
36-10	在地系 不詳		-	-	-		体部下位 片	A	灰白、器 表黒		底部外面型痕。体部外面縦位の粗い磨き。	江戸時代以降 か
36-11	鉄製品 刀子		(8.4)	1.1	0.3	8.0	1/2				茎側を欠損する。	棟幅0.3cm
36-12	鉄製品 棒状		(8.9)	0.5	0.7	9.7	両端欠				棒状を呈し、断面は四角形を呈していたものと考えられる。	
36-13 228	鉄製品 錠		14.9	1.0	0.7	700.0	完形				「コ」字状の形態で、断面は四角形を呈する。	

田口上田尻遺跡3号復旧痕

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
36-14	在地系 焙烙(二次加工 品)		-	-	-		底部片	A	灰黄		内面押印があるが、印が浅く文字判読不可能。外面型肌。厚みと胎土の特徴から焙烙と考えられる。割れ口が直線的な箇所は内面側に深さ1mmから3mmの直線的な割り込みがあり、二次加工を行っている可能性高い。	江戸時代
36-15 228	石製品 砥石		(5.6)	3.1	1.5	38.5	破片	砥沢石			右側面には鋸状の切断痕が残り、小口面には平整による整形痕が残る。左側面は平坦であるが、器表があれど、割れ面の可能性が高い。幅広い表裏面を使用するが、表面の使用が主で大きく窪む。中砥、2面使用。	砥面：表1-4 か、裏皿か

田口上田尻遺跡4号復旧痕

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
36-16	在地系 焙烙		-	-	2.4		破片	A	にぶい橙		平底。口縁部直立気味。	近現代
36-17	在地系 焙烙		-	-	3.7		破片	A	にぶい橙		器高低く、平底。外面は直線的に開くが、内面は接合部と推定される箇所から割れている。口縁部内傾し、端部上面僅かに窪む。焼し焼成は行っていない。	江戸時代～近 代か
36-18	在地系 焙烙		-	-	5.3		破片	A	黒		断面黒色。器表付近灰白色、器表暗灰から黒色。外面体部下端から底部外面灰白色。内面中位轆轤目状のゆるい段差。外面中位以下から底部外面型肌。	中世～江戸時 代
36-19 228	石製品 砥石		(3.5)	1.4	2.0	15.6	破片	流紋岩			現存長3.4cm。両端を欠損。4面使用し、3面は大きく窪み、1面は比較的軽微な使用。中砥、4面使用。	砥面：形状不 明
42-109 228	石白 上白		37.8	45.2	15.7	32100.0	ほぼ完形	粗粒輝石 安山岩			上白、挽手孔は張り出して作られている。擦面はあまり使用されていないのか目の状態は明瞭、6区画、副溝は各5条。	

田口上田尻遺跡7号復旧痕

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
37-20 228	石製品 砥石		(5.0)	1.7	2.4	32.2	1/4	砥沢石			両端を欠損。相対する2面を主に使用し、他の2面も使用するが、砥面は平坦。中砥、4面使用。	砥面：形状不 明

田口上田尻遺跡8号復旧痕

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
37-21	瀬戸陶器 志野皿		-	6.5	(1.7)		1/3		灰白		底部周縁で屈曲し、口縁部外反。外面下位以下回転ヘラ削り。高台内傾。内面から高台内周縁長石釉。	登窯1・2小 期
37-22	在地系 焙烙		(36.0)	(34.2)	5.7		口縁部一 部、底部 1/5	A	にぶい黄 橙		断面と底部外面器表灰白色に近いにぶい黄橙色。体部から口縁部内外面器表暗黒色から黒色。口縁部正面僅かに窪み、内傾する。内耳2カ所残存し、下部を底部に貼り付ける。底部外面型肌残り、体部下位外面はほとんど擦で消される。体部外面下位くびれる。	江戸時代

田口上田尻遺跡9号復旧痕

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
37-23	肥前陶器 陶胎染付碗		10.5	4.8	7.0		1/2		灰		外面染付。高台外面下位から端部無釉。	18世紀前半
37-24	肥前磁器 小碗		-	3.1	(2.4)		底部		白		高台外面2重、体部外面下位1重圈線。	17世紀末～ 18世紀前半
37-25	美濃陶器 丸碗		(13.8)	-	(5.1)		1/5		にぶい黄 橙		口縁部ゆるく内湾し、端部肥厚。外面染付。内外面灰釉。細かい貫入入る。	登窯5・6小 期
37-26	瀬戸陶器 天目碗		11.7	-	(5.6)		1/3		灰黄		体部内湾して開く。口縁部の立ち上がり低く内傾。口縁部端部小さく外反。器壁やや厚い。体部外面中位以下回転ヘラ削り。高台脇水平に削る。内面から体部外面下位鉄釉。体部下位は釉溜まりにより厚みを増す。	登窯6小期

遺物観察表

37-27	製作地不詳陶器皿		(12.0)	(5.2)	2.4		1/5		灰黄褐		素地の焼き締まり弱い。口縁部外面に弱い稜をなして立ち上がり、端部外反。底部碁笥底状。内面から体部外面下位天目軸と同様の鉄軸。体部外面下位軸溜まりで厚みを増す。	18世紀頃
37-28	美濃陶器黄瀬戸菊皿		13.6	6.1	3.7		口縁部2/3欠		浅黄橙		内面から体部外面中位黄瀬戸軸。口縁部に銅緑釉流す。底部内面目痕3カ所。	登窯4小期
37-29	古瀬戸おろし目付大皿		-	-	-		体部片		灰白		体部内面下位から外面灰軸。内面おろし目。外面凹線状の轆轤目。	古瀬戸後Ⅲ・Ⅳ古 15世紀
37-30	美濃陶器糞水入		-	-	-		体部片		灰白		体部外面鉄絵具による型紙摺。内外面灰軸。細かい貫入。貫入。	登窯5小期
37-31 228	美濃陶器徳利		-	7.2	(14.6)		1/2～完		浅黄		なで肩で体部は下位に向かって開き、下位で径を減じる。外面から高台内灰軸。体部外面下位以下の軸雑に拭う。内面灰軸流れる。	登窯6小期
37-32	銅製品煙管	3	(5.4)	小口径(1.0)	(1.0)	5.4					吸い口。板つなぎ目残る。羅字痕跡あり。	口付径1.3cm
37-33	石製品くぼみ石		17.5	15.5	11.5	2920.0	完形	ニッ岳石			楕円礫の片中央に径6.7cmほどの窪みを設けている。	

田口上田尻遺跡10号復旧痕

挿入番号 PL	種別器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
37-34 228	瀬戸陶器丸碗		(8.7)	3.7	5.4		口縁部1/4、底部完		灰白		体部内湾。口縁部外傾し、直線的に立ち上がる。内面から高台脇軸。灰軸が流れたのか外面部分的に軸調異なる。	登窯8小期
37-35 228	肥前磁器仏飯器		6.5	3.6	5.6		口縁部2/3欠		灰		外面染付笹文。内面から脚裾部透明釉。露胎部にぶい赤褐色。口縁部内面内上方からの細かい叩打により器表剥離。	17世紀末～18世紀前半
37-36	瀬戸陶器すり鉢		(32.3)	-	(10.3)		1/4		浅黄橙		口縁下部内面稜をなし、同部位外面窪む。口縁部肥厚し、端部内側に小さく曲げる。体部外面上位以下回転へら削り。内外面錆軸。	登窯8小期
37-37 228	石製品砥石		(8.9)	2.7	3.0	82.2	2/3か	砥沢石			現存長9.0cm。左側面を水平にした場合の幅は2.3～2.7cm、同一箇所での表裏面幅の差は6mm。使用面は1面で小口側に大きく傾斜。欠損部付近を境に欠損側に僅かに傾斜。断面形やや歪。両側面と裏面に平鑿痕残る。中砥、3面不使用。幅:2.3～2.7cm、差:6mm。	砥面:1b-1

田口上田尻遺跡11号復旧痕

挿入番号 PL	種別器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
38-38	美濃陶器小碗		-	3.5	(1.7)		1/2		淡黄		外部外面下位回転へら削り。削りだし高台。内面胎軸。	登窯5・6小期
38-39	美濃陶器丸碗		-	(4.9)	(2.1)		1/4		灰白		体部外面回転へら削り。体部下位内湾。内面から体部外面下位錆色の鉄軸。	登窯5・6小期
38-40	美濃陶器筒形香炉		(12.2)	-	(5.2)		1/6		灰白		口縁部内傾、端部欠損。体部内面下位から体部外面下位灰軸。貫入。	登窯8小期
38-41	在地系鍋		-	-	-		口縁部片	A	にぶい黄、器表黒		口縁部内湾気味に外反。器壁厚い。	中世～江戸時代
38-42 228	石製品くぼみ石	D	(8.9)	17.3	11.1	1990.0	1/3	粗粒輝石安山岩			内外面とも比較的丁寧な加工。	
38-43 228	石白下白	A	(23.6)	(13.6)	9.4	3350.0	1/3	粗粒輝石安山岩			下白、心棒孔は貫通、擦面は摩耗が激しく、目の状態は確認できない。	
38-44	石白		(22.5)	(14.5)	7.8	-	破片	粗粒輝石安山岩			下白。周縁の擦れが顕著で、ふくみの具合は良好だが、刻み目は認められない。	
38-45	石製品板碑		(8.6)	(7.9)	1.6	123.5	破片	緑色片岩			模様は刻まれているが、詳細は不明。	
38-46 228	石白下白	1	28.0	28.1	12.1	11700.0	緑を欠損	粗粒輝石安山岩			下白、心棒孔は貫通、擦面は磨滅しているが、目の状態は溝が判別可能である。	
38-47	石製品板碑		(18.8)	(12.1)	2.3	775.4	破片	緑色片岩			残存部に刻み等を確認することはできない。	
38-48	石製品板碑		(19.5)	(10.0)	2.0	523.8	破片	緑色片岩			残存部に刻み等を確認することはできない。	

田口上田尻遺跡12号復旧痕

挿入番号 PL	種別器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
39-49	肥前磁器碗		(9.6)	-	(3.7)		1/4		灰白		波佐見系。コンヤク印判による桐文。体部外面の4カ所に施文か。	18世紀第2四半期～後半
39-50 229	美濃陶器せんじ碗		(9.5)	4.0	5.2		口縁部一部、底部完		淡黄		開く体部から大きく内湾し、口縁部直立する。口縁部外面染付。内面から高台脇軸。細かい貫入。	登窯8小期
39-51 229	美濃陶器尾呂茶碗		(12.7)	5.2	7.9		口縁部一部、底部完		灰白		口縁部やや開いて立ち上がる。高台断面方形。内面から高台脇軸。口縁部薬灰軸。高台脇から高台内鉄化粧。	登窯5小期
39-52	肥前陶器刷毛目碗		(9.8)	-	(4.5)		1/6		灰白		貫入。器壁やや薄い。内外面横位の白土刷毛塗り。	17世紀後半
39-53	美濃陶器沈線碗		(10.6)	-	(6.6)		1/4		灰黄		体部内湾し、口縁部やや外湾して立ち上がる。外面中位2条の沈線巡らし、沈線上を部分的に窪ませる。窪みは2カ所残存し、4カ所と推定される。内面から体部外面下位灰軸。内外面に鉄軸を斑状に垂らす。灰軸には粗い貫入。	登窯8小期
39-54	在地系皿		(13.2)	(6.0)	3.6		口縁部一部、底部1/3	A	にぶい黄褐		体部外反し、口縁部は直線的に開く。轆轤左回転成形。底部左回転？糸切無調整。	中世
39-55	美濃陶器型打皿		-	5.0	(1.6)		底部		灰白		木瓜形の御深井皿か。内面から体部外面下位灰軸。貫入。	登窯5・6小期
39-56	美濃陶器摺絵皿		-	7.4	(1.7)		底部		淡黄		内面鉄絵具による型紙摺。内面から高台外面灰軸。細かい貫入。高台内周縁とどが入るが貫通していない。底部内面目痕2カ所。	登窯4・5小期
39-57 229	美濃陶器蓋		12.0	摘径2.3	2.1		ほぼ完形		灰白		落としぶた。つまみ貼付。天井部外面横線巡らす。外面胎軸、部分的に薬灰軸。薬灰軸部分不透明で横線見えない。内面は口縁部を除き回転へら削り。内面無軸。	登窯5・6小期
39-58	美濃陶器筒形香炉		(11.4)	-	(4.2)		1/4		淡黄		体部から口縁部内傾して立ち上がる。外面凹線状の轆轤目。口縁部から外面胎軸。口縁部正面小さく窪む。口縁部外面一部上からの叩打により細かく剥離。口縁部内面細かい叩打により器表剥離。	登窯7小期
39-59 229	銅製品銭貨		2.2	-	0.1	1.0	ほぼ完形				銭銘不明。	
39-60 229	石白下白	1	(33.0)	(24.5)	9.6	6920.0	1/3	粗粒輝石安山岩			下白、器高が低いことから著しく擦り減っている可能性がある。擦面は磨滅が激しく目の状態はわからない。擦面の状態から目が擦り減って消滅した後も使用した可能性がみられる。	

遺物観察表

田口上田尻遺跡13号復旧痕

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
39-61 229	瀬戸陶器 ねり鉢		15.2	7.8	9.0		口縁部一 部欠		灰白		体部均一に内湾し、口縁部やや内湾して立ち上がる。口縁部肥厚し、端部ほぼ平坦。内面から体部外面中位灰釉。貫入。底部内面目痕3カ所。体部外面中位以下回転ヘラ削り。	登窯8小期
39-62	美濃陶器 尾呂茶碗	2	(13.0)	-	(5.6)		1/5		灰白		器壁厚い。胎釉施釉後、口縁部に灰釉に近い薬灰釉。口縁部の釉僅かに白色を呈するのみで灰釉に近い。	登窯5・6小期
39-63	美濃陶器 尾呂茶碗	3・4・5	-	5.5	(5.7)		底部		灰白		高台径大きく断面方形。内面から高台脇胎釉。高台脇から高台内鉄化粧。高台内兜巾状に突き出る。	登窯5小期
39-64	美濃陶器 小碗		(7.5)	-	(3.0)		1/4		淡黄		口縁部下で屈曲し口縁部外傾。内から体部外面下位胎釉。体部外面下位以下回転ヘラ削り。	登窯7小期
39-65 229	美濃陶器 灯火皿		(8.4)	4.6	2.0		口縁部 1/3欠		灰白		底部基筒底状。内面から体部外面中位胎釉。口縁部部に退化した灯芯受け1カ所貼付。口縁部油状黒色物付着。	登窯7小期
39-66	中国 白磁皿		-	-	(1.6)		1/5		にぶい黄 橙	不良	全面施釉。焼成不良で釉白濁し、素地は陶器質。抉り高台、端部欠損。	14世紀～15 世紀 白磁皿 B群
39-67	瀬戸・美濃陶器 端反皿か丸皿		-	(7.0)	(1.0)		1/4		灰白		内面から高台内灰釉。貫入。	大窯1・II
40-68	肥前磁器 小碗		-	3.1	(3.4)		底部		白		高台外面2重、体部外面下位1重圏線。	17世紀末～ 18世紀前半
40-69	在地系 焙烙		-	-	5.2		破片	A	にぶい黄 橙・黒		断面黒色、器表付近にぶい黄橙色、器表黒色。底部外面器表黄灰色。内面中位刷毛目状の条線巡り、下位には紐作り痕残る。残存部外面の紐作り痕はほとんど撫で消される。外面下位から底部外面型肌残り、体部はかるく撫でる。	江戸時代
40-70	在地系 焙烙		-	-	5.1		破片	A	にぶい黄 橙		断面黒色、器表付近にぶい黄橙色、内面器表黒色から暗灰色、口縁部外面から体部外面黒色、体部外面下端から底部外面褐灰色。外面中位紐作り痕残る。外面下位から外面型肌残り、体部はかるい撫でを行っている。	江戸時代
40-71 229	在地系 焙烙		(38.6)	(36.2)	5.8		1/4	A	黒		断面黒色、器表付近灰白色、口縁部から体部内面器表暗灰色、口縁部肩胎部外面器表黒色、底部内面器表暗灰色から灰色、体部外面下端から底部外面赤灰色。体部外面下端ヘラナデ。体部内外面紐作り痕残る。	江戸時代
40-72 229	銅製品 銭貨		2.4	-	0.1	1.4	1/2				寛永通宝	初鑄1626
40-73	鉄製品 釘か		(4.2)	0.7	0.7	6.8					断面四角形で、両端を欠損するが形状から釘の可能性が高い。	
40-74	銅製品 不明		(1.8)	1.2	0.1	0.5					飾り金具か。金メッキ状残。変形している	小片
40-75	石製品 砥石		(12.7)	2.9	2.7	125.8	ほぼ完形	砥沢石			現存長12.8cm。左側面を水平にした場合の幅は2.5～2.9cm、同一箇所での表裏面幅の差は3mmと小さい。砥面は表裏2面で、表面が主要砥面である。研ぎ減りに違いがあるが、砥面形状は共に中央が高く小口面に向かって傾斜する。両側面には平撃痕が残る。中砥、両側面不使用。幅：2.5～2.9cm、差：3mm。	砥面：1 a-1
40-76	石製品 砥石		(11.7)	2.0	2.6	90.7	2/3か	砥沢石			左側面のみ未使用で櫛刃状撃痕残る。主要砥面は幅の狭い表面。右側面と裏面も使用するが、若干窪みが見受けられる程度の使用である。また、両面には石英と思われる、径3mmと5mmの鉱物粒が突き出ており、研ぎの妨げになっている。3面共に中央付近が高く、小口に向かって傾斜する。左側面を水平にした場合の幅は1.5～1.9cm、同一箇所での表裏面幅の差は2mm。中砥、左側面不使用。幅：1.5～1.9cm、差：2mm。	砥面：表・右 1 a-2、裏1 a-3型
40-77	石製品 砥石	2	(7.2)	2.5	1.4	37.0	2/3か	砥沢石			現存長7.1cm。幅は2.4～2.6cmと一定だが、同一箇所での表裏面幅の差は6mmと大きい。両側面と裏面は不使用で表面のみ使用。不使用面には平撃痕が残る。表面は中央が高く小口面に向かって傾斜するが、下部は右側面に向かって傾斜し、小口面付近が再び高くなっている。中砥、3面不使用。幅：2.4～2.6cm、差：6mm。	砥面：1 a+1 d

田口上田尻遺跡15号復旧痕

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
40-78	肥前陶器 陶胎染付碗		-	4.3	(3.1)		体部一部 ～底部 1/2		灰		外面染付。高台端部のみ無釉。	17世紀後半～ 18世紀世紀前 半
40-79	瀬戸・美濃陶器 縁軸はさみ皿		(10.8)	-	(1.5)				灰白		口縁部内面から口縁部端部灰釉。轆轤成形で外面のヘラ削りも行わない。	大窯I
40-80	龍泉窯系? 青磁皿		-	(5.8)	(1.0)				灰オリーブ ・灰白		内面青磁釉。外面無釉。内面櫛目文様。	龍泉窯系青磁 皿1類か
40-81	龍泉窯系 青磁盤類		-	-	-				オリーブ 灰・灰		内面から高台胎釉。貫入。体部外面高台から続く凸帯。底部内面周縁段差。高台端部の釉擦れる。	14世紀～15 世紀
40-82	在地系 皿		(11.0)	(6.8)	5.8		口縁部 1/6、底 部1/4	A	にぶい褐		体部から口縁部直線的に開く。底部左回転糸切無調整、圧痕による凹凸あり。底部内面指撫で。	中世
40-83 229	堺陶器 すり鉢		(33.7)	(18.1)	13.5		1/4		橙		口縁部外面縁帯をなし、内面は内側に突き出る。外面口縁部以下回転ヘラ削り。底部内面使用により摩滅。	18世紀前～中 頃
40-84	在地系 不詳		-	-	-		破片	A	灰黄褐		体部との接合部は、中央から灰黄褐色、暗灰色、灰黄褐色。脚か短い取っ手と推測される。	不詳
40-85	在地系 鍋		-	-	-		口縁部片	A	黒		断面中央から黒色、灰白色、黒～灰白色のサンドイッチ状。体部から口縁部僅かに内湾し、直線的に開く。口縁部横撫で。端部内面、丁寧な横撫でにより非常に低い段差を生じる。体部外面紐作り痕と指頭丘状の凹凸あり。	江戸時代
40-86	銅製品 煙管		(3.5)	小口径 1.0	-	2.7					雁首。火皿欠。	
40-87 229	銅製品 煙管		口径 (1.8)	-	(0.4)	1.9					雁首。火皿。上下に押し潰され変形。	
40-88	鉄製品 指貫か		外径 2.0	-	0.2	9.0	完形				鉄板を環状にしたもので、指貫かまたは締め金具の可能性ある。	内径1.6cm

田口上田尻遺跡18号復旧痕

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
41-89	美濃陶器 小碗		(11.7)	-	(3.2)		口縁部片		灰		口縁部小さく内側に屈曲。外面轆轤目顕著。内外面錆色の鉄釉。	登窯3・4小 期
41-90 229	銅製品 煙管		(4.0) 口径 2.0	小口径 0.9	(2.5)	5.0					雁首。火皿変形。板つなぎ目残。	



遺物観察表

41-91	銅製品 銭貨		2.6	-	0.1	2.3	完形				天禧通宝	初鑄1017
田口上田尻遺跡19号復旧痕												
挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
41-92 229	石製品 砥石		(7.8)	2.9	2.6	85.4	1/2か	砥沢石			現存長7.7cm。右側面を水平にした場合の幅は2.3～2.7cm。同一箇所での表裏面幅は5mmであるが、4面すべて使用しており、参考程度の数値である。砥面は表面以外の3面はほぼ平坦で、表面は捻れたような砥面を呈する。両端欠損部には、やや角張った溝状研磨痕?が認められ、ほぼ平行する。この溝状箇所から欠損しており溝幅は不明。中砥、4面使用。幅:2.3～2.7cm、差:5mm。	砥面:表面不明、裏・両側面皿か
田口上田尻遺跡20号復旧痕												
挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
41-93 229	銅製品 煙管		(4.0)	小口径 0.7	(3.3)	4.8					雁首。脂返しが立ち上がる。火皿基部に補強体あり。羅字差込口に凹線2本が回る。口径1.4cm。	
41-94	銅製品 煙管		(5.6)	小口径 1.1	-	9.2					雁首。火皿欠。羅字差込口が厚く肩をもつ。	
41-95	鉄製品 工具か		(7.3)	2.4	0.5	11.8	一部欠損				片側が幅広く、ヘラ状の形態となる。	
田口上田尻遺跡23号復旧痕												
挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
41-96	美濃陶器 小碗		(7.2)	-	(3.2)		1/5		灰白		口縁部ほぼ直立。内面から高台脇灰釉。粗い貫入。高台脇以下無釉。	登窯8小期
41-97	美濃陶器 筒形香炉		(10.8)	-	(2.7)			口縁部片	灰白		口縁部内傾。口縁端部外面外方に突出。端部内傾し、上面僅かに窪む。口縁端部内面から外面鉛釉。	99と同一個体か。登窯8小期
41-98	瀬戸陶器 鐙碗		-	-	(4.5)		1/3		にぶい黄橙		腰は張り、体部直線的に立ち上がる。外面回転施文具により施文。内面から口縁部外面銅緑釉。体部外面やや鉛色の灰釉。	登窯8小期
41-99	美濃陶器 筒形香炉		-	(8.4)	(2.9)		1/4		灰白		体部内傾。貼付脚1カ所残存。体部外面鉛釉。	97と同一個体か。登窯8小期
41-100	肥前磁器 鉢か		-	-	-			体部片	白		体部下位片。外面植物文の染め付け。	18世紀前半
田口上田尻遺跡27号復旧痕												
挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
41-101	瀬戸・美濃陶器 丸皿		(7.8)	(5.2)	2.0		1/3		灰白		体部内湾し、口縁端部小さく外反。内面から高台内灰釉。貫入。底部内面を中心に釉白濁。	大窯II
41-102	肥前磁器 碗		(9.8)	-	(4.0)		1/3		灰白		口縁部直線的に開く。外面2重網目文。	波佐見系。18世紀中頃～後半
41-103	常滑陶器 甕		-	-	-			肩部片	灰黄・にぶい黄橙		頸部から肩部片。外面自然釉流れる。	中世
41-104	鉄製品 不明		(8.9)	0.6	0.7	9.7	破片				断面が長方形状を呈する。両端を欠損し、用途は不明である。	
田口上田尻遺跡28号復旧痕												
挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
42-105	肥前磁器 碗		(9.5)	-	(4.3)		1/3		灰白		外面雪輪梅樹文。波佐見系としては呉須の発色やや良好。	18世紀中頃～後半
42-106	鉄製品 不明		(4.8)	0.5	0.6	4.7	破片				断面は四角形を呈し、一方は刺又状を呈するものと見られるが、片側が欠損している。用途は不明。	
42-107 229	銅製品 銭貨		2.3	-	0.1	2.4	完形				皇宋通宝(篆)	初鑄1039
42-108	銅製品 不明		(7.1)	0.2	(0.1)	1.6	2片				断面蒲鉾形の1片と断面長方形の1片あり。ピン止め状。髪飾りの一部か。	
1面1期 田口下田尻遺跡												
田口下田尻遺跡2号復旧痕												
挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
58-1 229	銅製品 銭貨	1	2.46	-	0.1	1.9	完形				元祐通宝(真)。北宋。表面鉄錆。	初鑄1086
田口下田尻遺跡4号復旧痕												
挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
58-2	石製品 砥石		3.7	1.2	3.0	13.2	破片	泥岩			小片で、砥面は2面の使用が確認できる。	
田口下田尻遺跡5号復旧痕												
挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
58-3 229	鉄製品 釘か		(6.5)	0.5	0.4	2.6	両端欠損				断面方形の細身の製品で、釘の可能性が高い。	
田口下田尻遺跡6号復旧痕												
挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
58-4 229	鉄製品 不明		(3.5)	1.3	1.0	7.9	破片				厚手の板状の素材を管状に曲げたものであるが、用途は不明である。	
58-5 229	鉄製品 不明		(3.8)	2.5	0.6	8.1	破片				板状の製品で、両端を欠損しているため用途は不明である。	
58-6 229	鉄製品 釘か		(8.6)	7.0	0.6	5.3	頭部欠損				3点に分かれて出土したが同一個体と考えられる。断面方形で、残存する端部は先細りで尖っている。	
田口下田尻遺跡7号復旧痕												
挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
58-7	肥前磁器 小碗		-	(3.2)	(2.8)		1/4		灰白		焼成不良により釉白濁し、染付不明瞭。	18世紀前半

遺物観察表

58-8 229	鉄製品 釘		(2.2)	0.8	0.5	1.2	破片				断面長方形をした棒状のもので、両端部を欠損しているため用途は判然としないが、釘の可能性が高い。	
58-9 229	鉄製品 不明		(4.2)	1.9	0.5	5.9	破片				断面が紡錘形を呈する板状の製品であるが、用途は不明である。	

田口下田尻遺跡8号復旧痕

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
58-10 229	鉄製品 釘か		(3.5)	1.0	0.6	3.3	破片				断面は長方形を呈しており、両端を欠損している。	

田口下田尻遺跡9号復旧痕

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
58-11	肥前磁器 猪口か		7.8	-	(5.2)				白		やや焼成不良で貫入。梅と竹の染付。	17世紀末～ 18世紀前半

田口下田尻遺跡13号復旧痕

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
58-12	肥前陶器 刷毛目碗		(12.0)	-	(4.2)		1/6		オリーブ 黒		器壁薄く、焼き締まる。内外面白土打ち刷毛。	18世紀前半
58-13 229	銅製品 煙管		5.9	1.3	1.2	6.4	破片				火皿は欠損し、雁首に羅字の一部と見られる木質が残存していた。	羅字残
58-14 229	鉄製品 火打金		2.8	7.4	0.4	17.3	ほぼ完形				三角形を呈し、頂部をわずかに欠損する。	
58-15 229	石製品 砥石		(4.5)	2.4	(1.7)	24.8	1/3	変質デ サイト			2面使用。小型。	

1面II期 田口上田尻遺跡

田口上田尻遺跡1号建物

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
65-1	美濃陶器 丸碗	28	(8.7)	4.0	5.7		口縁部一 部、底部 2/3		灰白		体部下位強く内湾し、口縁部僅かに内湾。高台「ハ」字状に開く。体部外面染付僅かに残存。内面から高台脇灰釉。細かい貫入。入る。	登窯8小期
65-2	肥前磁器 碗	2	(9.9)	-	(4.1)		1/4		灰白		内面1重、外面2重網目文。	波佐見系、18世 紀前半～中頃
65-3	肥前磁器 碗	24・26・ 27・30・ 33	(10.2)	3.5	4.6		口縁部 1/3、底 部1/2		白		器壁薄く、全体に内湾。内外面格子目地に菊家文。	18世紀第2～ 第3四半期
65-4	肥前磁器 仏飯器か小杯	37	(7.4)	-	(2.2)		1/4		灰白		杯部浅く、外面に唐草状文染付。	18世紀
65-5	美濃陶器 小碗	102	(7.0)	3.9	3.8		口縁部 1/4、底 部完		灰白		体部内湾し、口縁部ほぼ直立。体部外面中位以下回転ヘラ削り。高台径大きく、脇は削り込む。削りだし高台。内面から体部外面中位胎釉。	登窯5・6小 期
65-6	美濃陶器 小碗	26	(7.6)	-	(3.2)		1/3		灰白		体部内湾し、口縁部ほぼ直立。体部外面中位以下回転ヘラ削り。高台脇削り込む。内面から体部外面中位胎釉。	登窯5・7小 期
65-7	美濃陶器 せんじ碗	44	-	-	-		口縁部片		灰オリーブ		口縁部外面鉄絵具による下絵と緑色の上絵。内外面透明釉。貫入。入る。	登窯7小期
65-8	美濃陶器 碗	45	-	-	-		口縁部片		灰オリーブ		口縁部下で屈曲し、口縁部直立。外面鉄絵具による下絵と緑色の上絵。内面にも藍色の上絵がかすかに認められる。	江戸時代
65-9	美濃陶器 皿	54	(12.2)	-	(1.8)		1/5		灰白		口縁部内湾。内外面灰釉。貫入。入る。摺絵皿であろう。	登窯6・7小 期
65-10 230	肥前陶器 皿		12.9	4.2	3.5		1/2		灰白		内面銅緑釉。外面体部下位まで透明釉。高台脇以下無釉。見込み高台蛇の目剥き。	内野山。17世 紀末～18世 紀前半
65-11	美濃陶器 筒形香炉	26	(10.5)	-	(2.5)		口縁部片		灰白		口縁部内面に折り返すように小さく突出。口縁部内面から外面灰釉。細かい貫入。入る。	登窯8小期
65-12	肥前陶器 皿	87	(18.7)	-	(4.3)		1/5		灰白		体部中位で2段に屈曲。口縁部内湾して開く。内外面透明釉で厚い部分は白濁する。	内野山。17世 紀末～18世 紀前半
65-13	在地系 皿	56	7.7	(4.0)	1.0		口縁部～ 底部片	細砂粒	にぶい橙	酸化焙	轆轤整形、回転方向不明。底部は回転糸切り無調整か。	
65-14 230	在地系 皿	101	9.2	6.2	2.5		完形	細砂粒	にぶい橙	酸化焙	轆轤整形、回転左回り。底部は回転糸切り無調整。	
65-15	在地系 すり鉢	60	-	-	-		口縁部片	A	にぶい 褐、器表 黒	酸化→煙 し	煙し焼成。内面から口縁部横撫で。口縁部内外面に丸く突出する。	15世紀中
65-16	瀬戸陶器 すり鉢	80	-	(14.3)	(8.2)		1/4		浅黄		体部外面から底部外面周縁回転ヘラ削り。内外面錯釉。体部外面下位以下釉を拭う。体部内面下位から底部使用によりやや摩滅。底部外面周縁やや摩滅。	登窯5～7小 期
65-17	瓦	86	-	-	2.7		破片		黄灰		煙し焼成により一部器表付近黒色。器表キラ附着。	
65-18	瓦		-	-	2.5		破片		灰		煙し焼成により一部器表付近黒色。	
65-19	銅製品 煙管	14	口径 1.6	-	(1.1)	2.7					雁首。火皿。	
65-20 230	銅製品 煙管	71	(5.6)	-	(2.9)	9.5					雁首。火皿変形。	羅字残 口径2.0cm
65-21 230	銅製品 煙管	21	(5.5)	小口径 1.2	(2.0)	5.9					雁首。火皿変形。肩部に凹線文様。	羅字の竹残
65-22 230	銅製品 煙管	91	(6.7)	小口径 1.0	-	5.8					吸い口。板あわせ目残。	羅字残
65-23	銅製品 煙管	16	(4.3)	小口径 (1.1)	(0.9)	4.2					吸い口。	
65-24 230	銅製品 煙管		(6.9)	小口径 1.1		7.3					吸い口。板あわせ目あり。	口径0.2cm
65-25	銅製品 煙管	13	(3.7)	-	(0.6)	2.0					吸い口。	口径0.2cm
65-26	銅製品 煙管	98	(5.2)	小口径 1.1	-	3.7					雁首。火皿欠。側面に板あわせ目あり。	
65-27	銅製品 煙管	20	(1.9)	-	-	0.7					吸い口。小片。	



遺物観察表

65-28	銅製品 不明	99	(3.4)	-	-	0.2							断面円形。幅0.1の針状だが、両端を板状に潰す。回転軸棒か。	
65-29	銅製品 不明	広間床下	(3.0)	1.0	0.1	1.5							飾り金具か。周縁は平坦だが中央部は波打っている。	
65-30	銅製品 刀装具	72	(2.8)	-	0.1	2.5							馬または獅子または麒麟か。前足欠。金メッキ残。裏面に取り付け金具の一部残。	
65-31	銅製品 不明	広間床下	長(3.3)	短(3.0)	0.2	3.1							一端に径0.3cmの孔のある板状金具。	
66-32	鉄製品 釘	ピット	3.4	0.5	0.5	3.0	完形						断面四角形で、頭部は1.0cm×0.7cmの三角形を呈する。	
66-33	鉄製品 釘		(6.5)	0.6	0.6	9.0	先端欠						断面四角形で、先端部は欠損している。頭部は一部欠損するが三角形を呈するものと考えられる。	
66-34	鉄製品 釘	部屋下	6.5	0.7	0.6	6.0	完形						断面四角形で、頭部は三角形を呈する。	
66-35	鉄製品 釘	広間下	(5.0)	0.4	0.4	3.0	先端欠						断面四角形で、曲がっており先端が欠損している。頭部は楕円形状を呈する。	
66-36	鉄製品 紡錘車軸か	69	(13.7)	0.6	0.6	8.0							紡錘車の軸上半と考えられ、欠損しているが上端部に鉤状の痕跡がある。	
66-37 230	鉄製品 鉞	83	23.2	身幅 4.5	1.0	233.0	ほぼ完形						片刃で、平棟造り。刃部背面側は内反り造りで、頭部は刃部のみ冠落し状を呈する。茎の造り込みは木質が残り不明。茎尻は四角味を帯びる。柄には錫が一部残存している。	茎長6.2cm 茎幅2.4cm
66-38	鉄製品 火打ち金	82	3.1	(6.0)	0.4	15.0	2/3						三角形を呈し、頂部に径4mmほどの孔を有する。	
66-39	鉄製品 火打ち金		2.4	5.7	0.3	10.0	完形						三角形を呈し、頂部に径2mmほどの孔を有する。	
66-40 230	銅製品 銭貨	3	2.8	-	0.1	3.1	完形						寛永通宝(11波)	初鑄1769
66-41 230	銅製品 銭貨	2	2.8	-	0.2	5.0	完形						寛永通宝(11波)	初鑄1769
66-42	銅製品 銭貨	92	2.3	-	0.1	1.7	完形						寛永通宝	初鑄1626
66-43 230	銅製品 銭貨	8	2.3	-	0.1	2.2	完形						寛永通宝	初鑄1626
66-44 230	銅製品 銭貨	10	2.4	-	0.1	2.3	完形						寛永通宝	初鑄1626
66-45 230	銅製品 銭貨	1	2.4	-	0.2	2.3	完形						銭銘不明	
66-46 230	銅製品 銭貨	7	2.4	-	0.1	2.4	完形						寛永通宝	初鑄1626
66-47 230	銅製品 銭貨	9	2.4	-	0.2	2.3	完形						○永○○	
66-48 230	銅製品 銭貨	73	2.5	-	0.1	2.3	完形						銭銘不名	
66-49 230	銅製品 銭貨	4	2.8	-	0.1	3.1	完形						銭銘不明。波銭か。	
66-50 230	銅製品 銭貨	8	2.5	-	0.1	2.6	完形						寛永通宝	初鑄1626
66-51 230	銅製品 銭貨	6	2.4	-	0.1	2.0	完形						寛永通宝	初鑄1626
67-52 230	銅製品 銭貨	5	2.9	-	0.1	3.0	完形						寛永通宝(波銭)	初鑄1769
67-53	銅製品 銭貨	68	2.6	-	0.2	2.8							寛永通宝、他1枚不明。	2枚錯着
67-54 230	銅製品 銭貨		2.4	-	0.1	2.8	完形						寛永通宝	初鑄1626
67-55 230	石製品 砥石		(6.6)	2.6	3.1	74.4	小口欠	砥沢石					現存長8.5cm。右側面を水平にした場合の幅は2.2cmから2.5cm、同一箇所での表裏面幅の差は3mm。表裏面を主に使用し、左側面は僅かな使用である。右側面全面には櫛刃状磨痕が残る、左側面の一部にも残る。磨痕には明瞭な条線があり櫛刃状としたが、条線幅が不均一で疑問が残る。主要砥面は表裏2面で中央が高く、小口に向い傾斜する。中砥、1面不使用。幅：2.2～2.5cm、差：3mm。	砥面：表1a・1b、裏1b、左側面Ⅲ
67-56	石製品 砥石		(15.1)	3.0	4.2	298.9	ほぼ完形	砥沢石					本遺跡出土砥石中数少ない完形に近い砥石である。長さ15.1cm。右側面を水平にした場合の幅は2.5～3.1cm。同一箇所での表裏面幅の差は、大きい箇所でも3mmと小さい。砥面は表のみで幅の狭い面を選択している。両側面と裏面、下部小口面には櫛刃状磨痕が残る。整形は丁寧で磨で無整形の窪みを残さない。砥面下半は右側への傾斜がやや強く、傾斜に沿った条線が残る。中砥、3面不使用。幅：2.5～3.1cm、差：3mm。	砥面：1b-1
67-57	石製品 砥石		(13.1)	2.6	1.8	84.2	一部欠損	砥沢石					現存長13.2cmと長く、完形に近いと推測される。右側面を水平にした場合の幅は2.3～2.5cm。薄いため同一箇所での表裏面幅の差は2mmと小さい。砥面は表面のみで両側面と裏面には櫛刃状磨痕が残る。上部小口面にも櫛刃状磨痕が残る。砥面は中央が高く、小口付近が僅かに窪むか、ほぼ平坦である。小口付近は端部に向かい傾斜が急となっている。中砥、3面不使用。幅：2.3～2.5cm、差：2mm。	砥沢石 砥面：Ⅲ-4
67-58	石製品 砥石		(9.7)	2.9	5.0	277.2	1/2か	砥沢石					現存長9.8cm。幅2.8～2.9cm、表裏面幅の差はほとんどなく、直方体状の整った形状である。高さは5.1cm。幅の狭い2面を使用し、幅の広い2面には櫛刃状磨痕が残る。残存する小口面にも櫛刃状磨痕が残る。主要砥面は表面で、残存部中央付近が浅く窪む。裏面は軽微な使用で面は平坦かつ磨痕の段差が残る。中砥、2面不使用。幅：2.8～2.9、差：なし。	変質デザイン 砥面：表裏Ⅲ
67-59	石製品 砥石		(11.9)	3.2	1.9	107.2	1/2か	砥沢石					現存長11.8cm。左側面を水平にした場合の幅は2.9～3.1cmとほぼ均一。同一箇所における表裏面幅の差は6mm。砥面は表面のみで、両側面と裏面、下部小口面には櫛刃状磨痕が残る。砥面形状自体は他の砥石と同様であるが、中央稜線がきつ明瞭で、稜線に近い傾斜部下端には低い段差が形成される。またこの段差付近の研ぎ減りが最も著しい。中砥、3面不使用。	砥沢石 幅：2.9～3.1cm 差：6mm 砥面：1a-2
67-60 230	石臼 上臼	96	(31.9)	(16.0)	11.0	4290.0	1/3	粗粒輝石 安山岩					上臼、器高が低いことから著しく擦り減っている可能性がある。擦面は磨減が激しく目の状態はわからない。	

遺物観察表

67-61	石白 上白	90	(30.7)	(16.8)	13.2	5300.0	1/4	粗粒輝石 安山岩			上白、片側だけ著しく擦り減っている。擦面は磨滅が激しく目の状態はわからない。	
67-62 230	石白 下白	89	(23.9)	34.9	8.0	8050.0	2/3	牛伏砂岩			下白、器高が低いことから著しく擦り減っている可能性がある。擦面は磨滅が激しく目の状態はわからない。	

田口上田尻遺跡2号建物

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
67-63	美濃陶器 上絵碗		-	-	-		口縁部片		灰白		口縁部外湾して直立。外面上絵。上絵具は左側が緑、右側が藍色。内外面透明釉。貫入入る。	登窯8小期
67-64	石製品 砥石		(6.9)	2.4	1.3	32.7	1/3か	砥沢石			現存長6.9cm。右側面を水平にした場合の幅は2.2～2.5cm、同一箇所での表裏面幅の差は3mm。砥面は表面のみで、両側面と裏面には櫛刃状磨痕が残る。上部小口面は幅狭く整形痕不明。中央部が残っており、砥面形状は不詳。中砥、3面不使用。	幅：2.2～2.5cm 差：3mm 砥面：不詳

田口上田尻遺跡1号井戸

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
72-1	製作地不詳磁器 碗		11.5	3.8	4.6		1/2		灰白		平碗。内外面型紙刷り。	近現代
72-2	瀬戸・美濃磁器 急須		6.8	6.2	5.9		2/3		灰白		体部全面に鳳凰文。注ぎ口端部欠損。体部下端以下と蓋受け部無釉。体部横の取手は欠損。	近現代
72-3 230	石製品 石鉢	3	28.0	17.9	17.3	11900.0	ほぼ完形				外面は側面に縦位の加工痕、底面には多少の凹凸が残る加工。内面は使用による磨滅によるためかわずかに凹凸が残る程度である。	
72-4	石製品 くぼみ石	2	18.8	17.5	7.0	3740.0	完形	粗粒輝石 安山岩			下白。周縁の擦れが顕著で、ふくみの具合は良好だが、刻み目は認められない。	

田口上田尻遺跡48a号溝

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
76-1 230	肥前陶器 刷毛目碗	12	(11.9)	4.5	7.4		1/3		褐灰		体部から口縁部直線的に立ち上がる。高台内の抉り深い。内外面白土刷毛塗り。	18世紀前半
77-2	肥前磁器 碗	26	(11.8)	-	(4.9)		口縁部片		白		外面花卉文。	1690～18世紀第1四半期
77-3	美濃陶器 丸碗	40	(10.8)	-	(4.1)		1/3		灰白		口縁部外傾。口縁端部肥厚。内外面錆色の鉄釉。	登窯8・9小期
77-4 230	美濃陶器 鑑碗	30	8.2	4.3	6.4				灰白		腰は張り、体部直線的に立ち上がる。外面回転施文具により施文。内面から口縁部外面鉄釉。体部外面から高台内灰釉。高台端部のみ無釉。	登窯8小期
77-5	美濃陶器 丸碗	29	(12.0)	-	(6.7)		1/4		灰白		体部下位内湾し、体部から口縁部ほぼ直立。外面口縁部以下回転へら削り。内面から体部外面下位灰釉。	登窯5・6小期
77-6	肥前磁器 碗	54	-	(3.5)	(4.6)		1/3		白		体部下位の張り弱く、体部は広がらずに立ち上がる。白磁が染付碗。	17世紀後半
77-7	肥前磁器 小碗	40	-	3.3	(3.0)		1/3		灰白		体部外面唐草文。高台脇と高台境1重圏線。	17世紀後半
77-8	肥前磁器 青磁花瓶か仏花 器	24・55	-	5.4	(2.2)		底部		白		外面高台端部を除き青磁釉。内面無釉。	18世紀
77-9 230	美濃陶器 丸皿	88	13.0	6.4	2.9		口縁部 1/2欠		灰黄		体部から口縁部内湾して開く。口縁部外面凹線状に窪む。外面口縁部以下回転へら削り。高台脇僅かに削り込む。外面露胎部油状黒色物付着するが、一部割れ口にも付着。	登窯5小期
77-10	瀬戸・美濃陶器 志野丸皿	90	11.4	6.5	2.0		1/2		灰白		底部周縁で屈曲し、口縁部僅かに外反。口縁部下位内面緩い段状をなす。外面中位以下回転へら削り。高台内目痕2カ所残存。	登窯2小期
77-11	瀬戸・美濃陶器 端反皿	13	(10.5)	(6.0)	2.2		1/5		灰		器壁均一に薄く、体部内湾。口縁部外反。底部内面押印。内外面灰釉。口縁部に油状黒色物付着。口縁部割れ口にも油状黒色物付着し、端部が欠けた後にも灯火皿として使用。	大窯1
77-12	美濃陶器 丸皿	4	-	6.0	(1.4)		底部		淡黄		焼成不良により釉白濁し、器表ざらつく。底部内面菊花状のスタンブ文。内面から高台内の一部灰釉。底部内面弧状の重焼痕。底部内面目痕1カ所。	登窯1・2小期
77-13	瀬戸・美濃陶器 鉄絵皿	2	-	(7.6)	(1.8)		1/4～ 1/3		灰白		外面回転へら削り。高台脇削り込む。内面鉄絵。内面から高台内面長石釉。高台は非常に低いが、磨滅か人為的な研磨で平坦となる。	登窯2・3小期
77-14	瀬戸陶器 盤	32	(19.0)	-	(3.6)				灰白		口縁部下で内湾し、口縁部に至る。口縁部外面凹線2条巡らし、端部を外面から押しつけて輪花とする。内外面灰釉。貫入入る。	登窯8小期
77-15	肥前磁器 青磁灰落	96	-	(5.2)	(4.2)		1/3		灰白		体部外面青磁釉。内面と外面体部下端無釉。底部外面から体部下端の一部鉄化粧。やや焼成不良で磁化不十分で釉にも貫入入る。	17世紀末～18世紀前半
77-16	美濃陶器 徳利	107	-	(9.4)	-		1/4		淡黄		底部器壁厚い。内面輪軸目顕著。外面胎釉施釉後体部外面下位以下の釉拭う。内面胎釉薄く掛かる。	登窯5・6小期
77-17	瀬戸陶器 半胴甕	56・57・ 85	(15.9)	-	(15.0)		口縁部一 部、体部 1/4		にぶい黄 橙		体部ほぼ直立し、口縁部内面内側に突き出る。端部正面平坦でやや内傾。外面上位2条の凹線。内外面錆釉。口縁部正面目痕1カ所残る。	登窯7小期
77-18	瀬戸陶器 すり鉢	6	(33.3)	-	(8.0)		口縁部片		にぶい橙		口縁部外反し、端部内側に折り返す。外面口縁部以下回転へら削り。内外面錆釉。	登窯6小期
77-19	肥前陶器 三鳥手大皿	28	(37.7)	-	(5.8)		口縁部片		にぶい赤 褐		内面施文後に白土を掛けるが、施文が浅く、文様部に白土が残らない。内面から口縁部外面透明釉。外面体部中位無釉。	18世紀前半
77-20	在地系 鍋	28	-	-	-		体部下位 片	A	黒褐		色調、断面中央から黒、灰白、黒褐色のサンドイッチ状。体部下位内湾し下端凹線状に窪む。外面型肌と接合痕残る。外面煤付着。	江戸時代
77-21	在地系 焙烙	4・101	(38.6)	(35.6)	5.4		1/4	A	にぶい黄 褐		内面器表暗灰からにぶい黄褐色、外面器表黒色で、底部の色は薄い。底部外面から体部外面下位縮細状型肌。体部外面下端へらナデ。内耳下部は底部に貼付。	江戸時代
77-22	美濃陶器 尾呂茶碗	25	-	4.4	(1.4)		底部		灰白		内面胎釉。体部を高台周囲で細かく打ち欠き、円盤状に整形。	登窯7小期
77-23 230	銅製品 銭貨	1	2.35	-	0.1	2.4	完形				寛永通宝	初鑄1626
78-24	石製品 砥石	68	(5.9)	3.7	2.7	88.0	小口片	砥沢石			現存長5.9cm。小口面際を除く幅は3.5cm。同一箇所での表裏面幅の差は7mm。表面のみ使用され、他の3面には平磨痕が残る。表面は中央付近が高く、小口左側に向かって傾斜する。平磨による整形は、他の資料と異なり長軸と直交方向に削る。中砥、3面不使用。	幅：3.5cm 差：7mm 砥面：1b-1

遺物観察表

78-25	石製品 砥石	81	(5.8)	2.8	2.2	49.3	1/2か	砥沢石			表面のみ使用され、残る3面には櫛状整痕が残る。右側の整形面を水平にした場合の幅は2.4～2.7cm。同一箇所での表裏面幅の差は15mmと非常に大きい。右側面から裏面にかけての角は欠けているが、欠損部にも平滑面が認められ、整形時から角がなかったと判断される。両小口を欠損するが、下側の幅が狭いことから、下側がより小口面に近い可能性が高い。中砥、3面不使用。	幅:2.4～2.7cm 差:15mm 砥面:1bか 最も歪
78-26	石製品 砥石	69	(6.2)	2.7	2.5	64.9	1/2か	砥沢石			現存長6.1cm。砥面は表裏、両側面の4面で摩擦度合いに大きな差がない。いずれの面も中央が低く、小口側が高い。左側面と裏面は稜が左上がりであり表面と右側面は小口面とほぼ平行である。中砥。	砥面:表II c-4、右側II c-4、左側II a-3、裏IIa
78-27	石製品 砥石	71	(10.3)	2.5	2.9	102.0	2/3か	砥沢石			現存長10.3cm。左側面を水平にした場合の幅は1.8～2.5cm。同一箇所での表裏面幅の差は7mm。砥面は表面のみで、中央が高く両端に向かって傾斜する。両側面と裏面には平滑痕が残る。中砥、3面不使用。	幅:1.8～2.5cm 差:7mm 砥面:1a
78-28 230	石白 下白	6	(15.3)	28.0	7.5	2990.0	1/2	粗粒輝石 安山岩			下白、心棒孔は貫通、擦面は磨滅しているが、目の状態は溝が判別可能である。	
78-29 231	石白 上白	69	(12.2)	(7.2)	5.9	470.0	1/3	粗粒輝石 安山岩			上白、張り出して作られた挽手孔の先端片。	
78-30 231	石白 上白	109	(20.2)	(14.6)	12.0	3670.0	1/5	粗粒輝石 安山岩			上白、擦面はやや磨滅しているが、目の状態は明瞭、溝は分区を超えて彫り込まれているため斜格子状になっている。	
78-31 231	石白 下白	82	(22.7)	(18.2)	11.4	5200.0	1/4	粗粒輝石 安山岩			下白、擦面はやや磨滅しているが、目の状態は明瞭、溝は分区を超えて彫り込まれているため斜格子状になっている。	
78-32 231	石白 上白	70	(19.2)	(13.2)	10.9	6300.0	1/4	粗粒輝石 安山岩			上白、挽手孔は外に張り出して作られている。擦面はあまり磨滅していないが目の状態はわからない。	
78-33 231	五輪塔 水輪	7	21.4	22.0	15.3	6350.0	ほぼ完形	ニッ岳石			水輪、上面には深さ5.5cm、下面には深さ2.5cmの窪み。	

田口上田尻遺跡49・50号溝

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
80-1 231	在地系 風炉	4・6	-	18.4	(11.7)		1/2	A	にぶい橙		底部外面型痕。体部に弧状の切り込みがあり、風炉と考えられる。底部外面脚貼付痕2カ所残存し、全体では3カ所であろう。内面横撫で。体部外面横位磨き。	江戸時代か

田口上田尻遺跡50号溝

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
80-2 231	肥前陶器 皿		(12.9)	4.8	4.4		口縁部一 部、底部 完		灰白		内面から高台脇貫入の入る透明釉。底部内面簡略化した鉄絵。高台内の扱いは深い。	京焼風、18世紀前半
80-3	肥前陶器 陶胎染付碗	12・27	-	5.0	(6.4)		1/2		灰白		外面東屋山水文。器壁厚い。	17世紀後半～ 18世紀前半
80-4	肥前磁器 碗	5	(9.4)	-	(4.5 9)		1/4		灰白		外面雪輪梅樹文。波佐見系としては呉須の発色良好。	18世紀中頃～ 後半
80-5 231	肥前磁器 小碗	28	(8.0)	(3.5)	4.4		口縁部～ 体部1/5 欠		白		底部周縁内湾し、体部から口縁部直線的に開く。外面花卉文。	18世紀前半
80-6	肥前磁器 碗	2	(10.2)	-	(3.5)		1/6		白		口縁部直線的に開く。外面2重網目文。	18世紀後半
80-7 231	瀬戸陶器 せんじ碗		(9.3)	-	(4.2)		口縁部一 部、体部 1/2		灰白		体部外面稜をなして屈曲。口縁部内傾して立ち上がる。外面屈曲部直上凹縁上に窪む。口縁部僅かに内湾。口縁部外面染付。内外面灰釉。貫入する。	登窯8小期
80-8	肥前磁器 碗	5	-	(5.4)	(2.0)		1/4		灰白		外面雪輪梅樹文。波佐見系としては呉須の発色良好。	18世紀中頃～ 後半
80-9	肥前陶器 火入		(11.0)	-	(3.2)		1/5		淡黄		京焼風陶器と同様な胎土・釉調。口縁部外径し、端部は内側に折り曲げ内傾する。口縁部内面から外面透明釉。	17世紀後半～ 18世紀初頭
80-10 231	美濃陶器 輪壳皿		(12.5)	6.6	2.9		口縁部一 部、底部 1/2		浅黄		口縁部外反。体部外面回転ヘラ削り。内面底部周縁突部釉剥。底部内面丸撃で施文。内面から高台脇灰釉。粗い貫入する。	登窯2小期
80-11	在地系 すり鉢		-	-	-		体部片	A	黄灰	還元	体部中位片。	中世
80-12	在地系 鍋	20	-	-	-		底部片	A	灰黄、器 表暗灰		底部内面に四角内に「めや」押印。外面厚く煤付着。	江戸時代以降
80-13 231	在地系 焙烙	8・10・ 24・25・ 26	(37.8)	(33.8)	5.4		1/4～ 1/3		にぶい橙		口縁部から体部器表黒色。接合部での色違い大きく、廃棄後に片方のみ被熱している。外面体部下半はやや粗いヘラ？撫でにより型肌のお多きを撫で消す、下端はヘラナデ。底部外面型肌残るが、周縁のみ軽くヘラ？撫でを行うが、型肌は消えていない。底部に1対の補修孔がある。	江戸時代
80-14	在地系 焙烙	7・9	(35.0)	(31.6)	5.2		1/5	A	にぶい黄 橙		器表から器表付近灰白色から暗灰色。口縁部上面僅かに窪む。体部外面凹凸少なく、下位はヘラ削りかヘラナデ。底部外面型肌残る。内面輪軸目3段。	江戸時代か
80-15	瓦		-	-	2.2		破片		黄灰		焼し焼成により器表付近黒色。器表キラ付着。	
80-16	瓦	15	-	-	2.3		破片		灰白		焼し焼成により器表付近黒色。器表キラ付着。	
80-17	石製品 砥石		(3.1)	2.4	1.2	11.9	小片	砥沢石			現存長3.3cmと小さく、残存部位も不明。幅は2.3cmで、同一箇所における表裏面幅の差は2mm。砥面は表裏2面で両側面には櫛状整痕が残る。中砥、2面不使用。	幅:2.3cm、差: 2mm、砥面: 形状不明

田口上田尻遺跡50・57号溝

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
81-18	瀬戸陶器 刷毛目碗	17	13.1	4.8	6.2		口縁部 1/2欠		浅黄		口縁部から体部内湾して立ち上がる。内面底部周縁段をなす。高台脇水平に削る。内外面白土刷毛塗り。内面から外面体部下位灰釉。貫入する。	登窯8小期
81-19 231	肥前陶器 陶胎染付碗	14	9.3	4.0	6.0		口縁部 1/2、底 部完		黄灰		やや小型。体部下位が張り、口縁部ほぼ直立。外面に圏線5条。	17世紀後半～ 18世紀前半
81-20	在地系 鍋	16・19	-	(19.0)	(7.0)		1/4	A	暗灰		色調、断面中央から暗灰、灰白、灰色のサンドイッチ状。体部外面下端極端な括れ。体部外面煤厚く付着。底部外面器表黒色。	江戸時代

田口上田尻遺跡1号土壘

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
84-1	美濃陶器 尾呂茶碗		-	(5.5)	(4.2)				灰白		胎土緻密で焼き締まる。高台断面方形で、底部器壁厚い。内面から高台脇胎軸。内外面体部まで薬灰釉掛かる。高台脇から高台内鉄化粧。	登窯4小期

遺物観察表

84-2	美濃陶器 尾呂茶碗	-	4.9	(5.2)			体部一 部、底部 完	灰白		底部器壁厚く、径は小さい。体部下位の張り強い。内面から高台胎輪軸。体部外面胎輪軸流下する。高台胎以下無軸。	登窯7小期
84-3	瀬戸陶器 片口鉢	(17.6)	-	(6.4)			1/4	にぶい黄 橙		体部内湾し、口縁部直立。内外面灰釉。	登窯5小期
84-4	美濃陶器 型打皿	-	5.3	(2.4)			底部	灰白		木瓜形の御深井皿。内面から高台胎灰釉。貫入する。	登窯4小期
86-5	瀬戸陶器 反皿	(13.3)	7.0	3.5			口縁部 1/3、底 部2/3	灰白		水平に開く底部から屈曲し、口縁部外反。高台端部を除き、長石釉を厚く施す。貫入する。	登窯1小期
86-6	美濃陶器 丸皿	-	6.5	(2.4)			体部一 部～底 部 1/2	灰黄		体部内湾して開く。外面口縁部以下回転ヘラ削り。高台断面シャープな三角形。内面から体部外面灰釉。底部内面高台の重ね焼き痕。高台内と高台割れ口部分的に黒色物付着。	登窯4小期
86-7	瀬戸・美濃陶器 黄瀬戸鉢	(28.9)	-	(6.7)			破片	浅黄橙		口縁部外反し、端部上方に引き上げる。内面横位と波状の櫛目文。内外面黄瀬戸釉、内面に銅緑釉流す。	登窯2小期
86-8	瀬戸・美濃陶器 志野盤	-	-	-			体部片	淡黄・灰 白		厚い長石釉。粗い貫入する。内面鉄絵。	大窯IV後半
86-9	須恵器 杯	-	7.2	(1.4)			底部			回転糸切り離し。	
86-10	肥前陶器 呉器手碗	-	5.4	(2.0)			底部	灰白		高台内の挟り浅い。高台端部付近を除き透明釉。高台周縁で体部を打ち欠き、円盤状に整形している可能性高い。	18世紀前半
86-11	在地系 焙烙	(31.6)	(29.8)	5.6			1/6	A	にぶい 褐、器表 灰～灰白	断面中央の一部暗灰色。外面器表黒色。外面体部下端から底部赤灰色。内面幅広の耳貼付。耳中央部両端器表摩滅。左側摩滅後に欠損する。	江戸時代
86-12	在地系 焙烙	(34.4)	(15.1)	6.1			1/3	A	灰	断面灰色、器表付近にぶい橙色、口縁部から体部内面器表灰白、底部内面器表にぶい橙色、口縁部から体部外面黒色から暗灰色、底部外面器表暗灰色からにぶい橙色。底部外面から体部外面下位縮緬状型肌。口縁部から体部外面部分的に煤付着。	江戸時代
86-13	在地系 焙烙	19・20	-	-			破片	A	黒	断面黒色、器表付近にぶい黄橙色、外面器表暗灰色、内面器表暗灰色から灰色。底部外面から体部外面下位型肌。口縁部外面紐作り痕僅かに残る。口縁部外面一部煤付着。	江戸時代
86-14	在地系 鍋	-	-	-			口縁部片	A	にぶい黄 橙	口縁部外反後、内湾する。外面口縁部下接合痕明瞭に残る。口縁部横線で。退化した内耳が貼り付けられていた可能性あり。	江戸時代
86-15	在地系 焙烙	-	-	-			破片	A	黒	断面黒色、器表付近にぶい黄橙色、外面器表暗灰色、内面器表暗灰色から灰色。底部外面から体部外面下位型肌。口縁部外面紐作り痕僅かに残る。口縁部外面一部煤付着。	江戸時代
86-16	在地系 焙烙	-	-	-			底部片	A	にぶい黄 褐	内面丁寧な撫で調整で、円形菊花状押印後に多角形菊花状押印を強く押す。外面型肌。	江戸時代
86-17 231	在地系 壺	37.3	48.2	22.3			上部	A	黒褐	組み合わせ式土製壺の上部で煙突が存在する。外型成形で外面に凹凸を有し、赤色塗彩痕が残る。上面には変色による重ね痕が認められる。	近現代か
86-18	石製品 砥石	16	(5.1)	2.7	2.0	33.9	破片	砥沢石		現存長5.1cm。左側面を水平にした場合の幅は2.5～2.8cm、同一箇所における表裏面幅の差は7mmとやや大きい。砥面は表面のみで、両側面と裏面には浅い条線が残る平整痕が認められる。中砥、3面不使用。	幅：2.5～ 2.8cm 差：7mm 砥面：1b
86-19 231	石製品 砥石		(6.1)	3.3	2.5	91.8	破片	砥沢石		現存長6.2cm。左側面を水平にした場合の幅は2.3～2.5cm。同一箇所における表裏面幅の差は8mm。側面は凹凸が多く実際には幅の差は少ない。砥面に比して裏面の幅は狭く、前者は2.3～2.4cm、後者は1.4cm～1.5cmである。高さは2.9cmあり、幅の狭い面を主要砥面として選択している。3面不使用で、両側面、裏面、小口面に櫛目状整痕が残る。中砥、3面不使用。	幅：2.3～ 2.5cm 差：8mm 砥面：1b-3
86-20	石製品 砥石	14.5	3.7	3.0	161.8		ほぼ完形	砥沢石		下部小口面僅かに欠損。現存長14.6cm。左側面を水平にした場合の幅は2.8～3.6cm、同一箇所での表裏面幅の差は10mm。砥面は表裏2面で、主要砥面は表面である。程度の差はあるが、砥面状態は同様で、共に中央が高く、両小口に向かって傾斜する。両側面は不使用で櫛目状整痕が残る。中砥、2面不使用。	幅：2.8～ 3.6cm 差：10mm 砥面：表裏1 b-1・1a-1
86-21	茶白 下白	(11.0)	(12.8)	(6.0)	877.2		破片	粗粒輝石 安山岩		下白側縁で、はんざりを欠損。	
86-22 231	銅製品 銭貨	2.6	-	0.2	3.2		完形			寛永通宝	初鑄1626

田口上田尻遺跡1号土壘・34号溝

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
87-23	瀬戸陶器 壺		(11.8)	-	(2.0)		1/4		灰白		肩部内湾し、口縁部短く立ち上がり、端部平坦。肩部内面から外面鉄軸。口縁端正面の釉拭う。	登窯8～11 小期

田口上田尻遺跡1号土壘・50号溝

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
87-24	美濃陶器 輪禿皿	83	(12.5)	6.6	2.9		口縁部一 部、底部 1/2		浅黄		口縁部外反。体部外面回転ヘラ削り。内面底部周縁突部軸剥。底部内面丸鑿で施文。内面から高台胎灰釉。粗い貫入する。	登窯2小期

田口上田尻遺跡1号土壘・48号溝

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
87-25 231	美濃陶器 尾呂茶碗		11.1	4.7	6.8		口縁部 1/2欠		灰白		高台径小さく、高台内面「ハ」字状に開く。内面から高台胎輪軸。口縁部裏灰釉を掛けたようで、釉が流下しているが、僅かに白色を呈するのみである。高台胎から高台内面僅かに鉄化粧。	登窯7小期
87-26	美濃陶器 尾呂茶碗		-	(5.7)	(5.5)		体部一 部、底部 完		灰白		器壁厚い。内面から高台胎輪軸。内面胎輪軸流れる。高台胎から高台内胎軸を薄く化粧掛け。	登窯5小期
87-27 231	肥前磁器 碗		9.0	3.8	4.6		口縁部 1/2、底 部完		灰白		体部内湾して開く。残存部染付圏線のみ。	17世紀後半～ 18世紀前半
87-28 232	美濃陶器 反皿	118	12.2	7.3	2.5～ 2.8		口縁部 1/2、底 部2/3		オリーブ 灰		体部直線的に開き、口縁部外反。外面口縁部以下回転ヘラ削り。高台胎水平に近く削り、高台はシャープ。内面から体部外面灰釉。底部内面目痕2カ所残存。	登窯4小期
87-29	瀬戸陶器 輪禿皿		-	6.5	(2.8)		1/2		灰白		口縁部外反。底部内面周縁輪軸に釉を掻き取る。釉掻き取り部内側小さい段をなす。内面から口縁部外面長石釉。	登窯5小期
87-30 232	肥前磁器 皿		-	(10.2)	(1.8)		1/4		白		高台内傾。内面「寿」字風風文。主に東南アジア向けの製品。	1650～60年 代
87-31 232	美濃陶器 摺絵皿		-	7.0	(2.5)		体部～底 部		灰白		口縁部欠損。口縁部波状もしくは輪花。底部内面鉄絵具による型紙摺絵。内面から高台外面灰釉。貫入する。	登窯5小期



遺物観察表

87-32	美濃陶器 黄瀬戸菊皿		(13.4)	6.6	5.6		口縁部一 部、底部 3/4		淡黄		内面の菊花文浅く、部分的に見えない。底部周縁凹線。窯道具部 分器表決れる。内面から口縁部外面灰釉。口縁部銅緑釉流す。	登窯4小期
87-33 232	肥前磁器 瓶	34	-	7.2	(8.8)		体部1/2、 底部完		灰白		外面から高台内施釉。高台端部無釉。外面圏線。やや焼成不良で、 釉に貫入する。	17世紀後半～ 18世紀初頭
87-34	在地系 焙烙		(40.0)	-	(5.2)		破片	A	にぶい 褐、器表 灰色		口縁部下で厚くなり、口縁部は括れた後、端部で肥厚する。端部 上面窪む。外面に紐作り痕明瞭に残り、内面はほとんど撫で消す。	江戸時代

田口上田尻遺跡1号土壘・57号溝

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
87-35	肥前陶器 陶胎染付碗	9	9.3	4.0	6.0		口縁部 1/2、底 部完底部 完		黄灰		やや小型。体部下位が張り、口縁部ほぼ直立。外面に圏線5条。	17世紀後半～ 18世紀前半
87-36 232	肥前陶器 呉器手碗		-	5.3	(6.0)		体部～底 部		灰白		高台内の挟り深く、高台幅狭い。高台端部を除き透明釉。	17世紀後半
87-37	肥前陶器 呉器手碗		-	5.3	(4.7)		体部～底 部		灰白		体部下位の張りはやや弱い。高台端部を除き透明釉。	17世紀後半
87-38 232	肥前磁器 皿		13.6	8.5	4.5		口縁部 1/4欠		白		胎部内湾し、口縁部波状。見込み五弁花コンヤク印判。高台内 1重圏線内に渦福字崩れ銘。	波佐見系。18 世紀中頃

田口上田尻遺跡1号畑

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
103-1	在地系 焙烙		(35.8)	(32.8)	5.6		破片	A	黒		断面黒色、器表付近灰白色、内面器表灰色から灰白色、口縁部か ら体部外面黒から暗灰色、底部外面暗灰色。口縁部僅かに窪み 内傾する。外面中位に紐作り痕残る。体部外面下位括れる。体部 外面下位から底部外面縮縮状型肌。	江戸時代
103-2	在地系 鍋		-	-	-		底部片	A	灰白、器 表黒		底部内面周縁横撫で。内面に押印あり。底部外面煤付着。	江戸時代

田口上田尻遺跡11号畑

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
103-3	美濃陶器 せんじ碗		-	3.4	(1.9)		底部		淡黄橙		高台低く、体部水平に近く開く。灰釉と鉄釉(錆釉)の左右掛け分け。 高台端部のみ無釉。	登窯7小期 高台端部のみ無釉。

田口上田尻遺跡13号畑

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
103-4	肥前磁器 碗		(11.9)	(4.0)	6.6		1/5		灰白		外面雪輪梅樹文。底部器壁厚い。波佐見系としては呉須の発色良好。	18世紀第2～ 第3四半期。
103-5	肥前陶器 陶胎染付碗	12・27	-	5.0	(6.6)		1/2		灰白		外面東屋山水文。器壁厚い。	17世紀後半～ 18世紀前半
103-6	肥前磁器 碗		(9.6)	-	(3.8)		1/4		灰白		波佐見系。コンヤク印判による桐文。体部外面の4カ所に施文か。	18世紀第2四 半期～後半
103-7	肥前磁器 仏飯器か小杯		(7.5)	-	(2.3)		1/4		灰白		杯部浅く、外面に唐草状文染付。	18世紀
103-8	瀬戸陶器 せんじ碗		(9.3)	-	(4.1)		口縁部一 部、体部 1/2		灰白		体部外面稜をなして屈曲。口縁部内傾して立ち上がる。外面屈曲 部直上凹線に窪む。口縁部僅かに内湾。口縁部外面染付。内外 面灰釉。貫入する。	登窯8小期
103-9 232	製作地不詳陶器 碗		9.7	-	(3.6)		1/2		灰白		体部直線的に開く。口縁部は稜をなして立ち上がり、やや外湾。 口縁部外面鉄絵1カ所。	18世紀中頃～ 後半
103-10	肥前磁器 香炉か火入		(13.8)	(6.0)	6.3		1/8～ 1/3		白		体部外面と口縁部端部上面に蔓状の植物文。口縁部から高台脇施釉。 腰は張り、口縁部は「了」字状を呈する。	1630～50年 代
103-11	瀬戸陶器 すり鉢	5	(34.0)	-	(8.3)		1/5		淡黄		口縁下部で外方に屈曲した後、上方に屈曲する。口縁部肥厚。 体部外面中位以下回転ヘラ削り。内外面錆釉。	登窯8小期
103-12	在地系 焙烙	1	-	-	5.8		破片	A	にぶい 褐、器表 灰～黄灰		内耳上部は口縁部下、下部は底部に貼り付け。残存部、外面中位 の紐作り痕、ほとんど撫で消す。外面下位から底部外面型肌。体 部外面下端ヘラナダ。	江戸時代
103-13	在地系 すり鉢		-	-	-		体部下位 片	A	黄灰	還元	体部片。内面幅広のすり目。内面下位使用によりやや摩滅。	15世紀中～ 16世紀
103-14	銅製品 銭貨	30	2.0	-	0.2	1.7	完形か				銭銘不明	錆厚い
103-15 232	石製品 砥石		(4.5)	2.9	1.8	40.3	破片	砥沢石			現存長4.5cm。左側面を水平にした場合の幅は2.7～3.0cm。同一 箇所での表裏面幅は2mm。4面使用されているが、表面以外はほ ぼ平坦である。表面は残存部中央が窪み、小口付近で高くなった後、 再び薄くなる。中砥、4面使用。	幅：2.7～3.0 cm、差：2mm 砥面：表面1 -4、他はⅢか
103-16 232	石製品 砥石		(4.5)	2.6	1.0	17.8	小口片	砥沢石			現存長4.5cm。左側面を水平にした場合の幅は2.3～2.6cm。同一 箇所における表裏面幅は4mm。小口付近の薄い破片のため、数値 上は4mmであるが右側面が斜めであり、厚みがあれば幅の差はよ り大きくなる。両側面は不使用で、小口面と共に櫛状状整痕が残る。 表面は小口付近が高く、欠損部と小口面に向かい傾斜する。裏面 はほぼ平坦である。中砥、2面不使用。	幅：2.3～2.6 cm 差：4mm 砥面：表1 -4、裏Ⅲ
103-17 232	石製品 砥石		(4.3)	2.6	1.4	24.1	破片	砥沢石			現存長4.5cm。右側面を水平にした場合の幅は2.5～2.6cm。裏面 と両側面との角度が鈍角であり、薄い割に同一箇所における表裏 面幅の差は10mmと大きい。砥面は表面のみで、両側面と裏面には 櫛状状整痕が残る。中砥、3面不使用。	幅：2.5～2.6 cm 差：10mm 砥面：1か
103-18 232	石製品 砥石		(7.0)	2.6	1.8	35.0	1/2か	砥沢石			現存長7.1cm。左側面を水平にした場合の幅は2.6～2.7mmと一定で ある。同一箇所での表裏面幅の差は、薄いわりに5mmとやや大きい。 砥面形状は判然としないが、残存部中央付近が高く、小口面と欠損 部側が低い。3面不使用で両側面と裏面には櫛状状整痕が残る。中 砥、3面不使用。	幅：2.6～2.7 cm 差：5mm 砥面：Ⅲ-4か
103-19 232	石製品 砥石		(6.2)	3.4	1.9	60.5	破片	砥沢石			現存長6.1cm。横断面形は整い、長方形を呈する。幅は3.3cmで、 同一箇所での表裏面幅は1mm程度である。2面を使用するが、幅 の広い表面と狭い側面を使用する。不使用の裏面と左側面、小口 面には櫛状状整痕が残る。表面は小口付近が最も高く、欠損部と 小口面がやや低い。右側面は欠損部と小口付近が高く、残存部中 央付近と小口面が薄くなる。中砥、2面不使用。	幅：3.2～3.3 cm 差：1mm 砥面：表？ -4、右側1-2

田口上田尻遺跡14号畑

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
103-20	銅製品 不明	1	(1.9)	0.9	0.2	1.7					長辺に平坦面があり板状で、両端が折れている。	

田口上田尻遺跡16号畑

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
103-21	在地系 鍋		30.5	17.0	12.6			A	灰黄褐		内面器表灰色、体部外面から底部外面器表黒色。口縁部僅かに外反して開き、中央でやや内湾する。口縁部内面に内耳を意識した粘土紐を貼り付ける。中央部外面は突出するが、中央部に隙間は認められない。底部外面から体部外面下位型肌明瞭に残る。体部から口縁部外面の一部に型肌残る。	江戸時代

田口上田尻遺跡30号畑

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
103-22 232	鉄製品 鎌		(10.0)	3.1	0.2	35.4	1/2				切っ先側1/2を欠損し、棟と刃部の一部腐食して欠損する。柄の締め具が茎に錆びついて残存する。	

田口上田尻遺跡墓地

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
105-1	銅製品 鏡		11.2	-	0.2	200.0	完形				背面中央に亀紐があり亀は上を向く。内側の最上位に仏像様の顔と手4本がある。愛染明王か。鈕と仏像の中間に鳥が2羽向き合う。地は径0.6cmの菊花紋スタンプで埋める。鏡面の周縁やや反る。	縁高さ0.9cm、 婚礼女性用か
105-2 232	銅製品 鏡		10.6	-	0.2	129.0	完形				背面中央に亀紐があり亀は左を向いて鶴2羽の嘴を銜える。地は木葉状のスタンプ紋様で埋める。内側の最上位に桐の葉紋様1枚あり。一部破損。	縁の高さ 0.9cm
105-3 232	銅製品 銭貨		2.4	-	0.1	2.3	完形				寛永通宝。布片出土。	初鑄1626
105-4 232	銅製品 銭貨		2.3	-	0.1	2.8	完形				寛永通宝	初鑄1626
105-5 232	銅製品 銭貨		2.5	-	0.1	3.3	完形				寛永通宝	初鑄1626
105-6 232	銅製品 銭貨		2.5	-	0.1	2.1	完形				寛永通宝	初鑄1626
105-7 232	銅製品 銭貨		2.4	-	0.1	2.8	完形				寛永通宝	初鑄1626
105-8 232	銅製品 銭貨		2.3	-	0.1	2.8	完形				寛永通宝	初鑄1626
105-9 232	銅製品 銭貨		2.4	-	0.1	2.8	完形				天禧通宝	初鑄1017
105-10 232	銅製品 銭貨		2.4	-	0.1	2.8	完形				元豊通宝	初鑄1078
105-11 232	銅製品 銭貨		2.4	-	0.1	3.2	完形				元祐通宝	初鑄1086
105-12 232	銅製品 銭貨		2.5	-	0.1	3.2	完形				政和通宝(篆)	初鑄1111
105-13 232	石製品 地蔵像		13.5	10.5	35.0	6100.0	完形	粗粒輝石 安山岩			裏面に「安永六年二月廿七日博倫童女」の銘。	

田口上田尻遺跡281号土坑

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
106-1 233	銅製品 金具	7	(1.6)	1.7	(0.7)	0.6					花形の飾り金具か。中央部に細長い板状金具を二つ折りにして差し込み固定している。	花形
106-2	不明		(7.6)	0.5	0.1	(0.3)	一部欠損				素材は不明で、やや弾力がある。	
106-3 233	銅製品 煙管	3	(4.6)		(2.1)	4.9	ほぼ完形				雁首。火皿は楕円形。	羅宇残 口径1.7cm
106-4 233	銅製品 煙管	3	(8.1)	小口径 1.0	-	4.0	ほぼ完形				吸い口。口付の一部破損。	羅宇残 口付径0.5cm
106-5 233	鉄製品 鉄	6	13.9	2.6	0.5	50.0	完形				和鉄で、刃の部分に不明の鉄製品が錆びついている。	
106-6 233	銅製品 銭貨	4	2.3	-	0.1	1.8	完形				寛永通宝	初鑄1626
106-7	銅製品 銭貨	4	2.3	-	-	2.3	完形				寛永通宝	初鑄1626
107-8	銅製品 銭貨	4	2.3	-	0.1	2.5	完形				寛永通宝	初鑄1626
107-9 233	銅製品 銭貨	4	2.3	-	0.1	2.2	完形				寛永通宝	初鑄1626
107-10	銅製品 銭貨	4	2.3	-	0.1	2.7	完形				寛永通宝	初鑄1626
107-11 233	銅製品 銭貨	4	2.5	-	0.2	4.2	完形				寛永通宝	初鑄1626
107-12 233	銅製品 銭貨	4	2.5	-	0.1	3.9	完形				寛永通宝(裏に文有り)	初鑄1668
107-13 233	銅製品 銭貨	4	2.4	-	0.1	2.8	完形				寛永通宝	初鑄1626
107-14 233	銅製品 銭貨	4	2.5	-	0.1	3.0	完形				寛永通宝	初鑄1626
107-15 233	銅製品 銭貨	4	2.5	-	0.1	2.9	完形				寛永通宝	初鑄1626
107-16 233	銅製品 銭貨	4	2.5	-	0.1	3.7	完形				寛永通宝	初鑄1626
107-17 233	銅製品 銭貨	4	2.5	-	0.1	3.6	完形				寛永通宝	初鑄1626
107-18 233	銅製品 銭貨	5	2.5	-	0.1	3.3	完形				寛永通宝。裏面「文」(布片)あり	初鑄1668
107-19 233	銅製品 銭貨	5	2.4	-	0.1	2.5	完形				寛永通宝	初鑄1626
107-20 233	銅製品 銭貨	5	2.5	-	0.1	2.8	完形				寛永通宝	初鑄1626
107-21 233	銅製品 銭貨	5	2.5	-	0.1	2.9	周縁一部 欠				寛永通宝	初鑄1626
107-22 233	銅製品 銭貨	5	2.4	-	0.1	2.8	周縁一部 欠				寛永通宝	初鑄1626

遺物観察表

107-23	銅製品 銭貨	5	2.5	-	0.1	3.2	完形						寛永通宝	初鑄1626
田口上田尻遺跡4号配石														
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等			備考
109-1	石製品 くぼみ石		16.2	13.6	8.9	1012.0		二ツ岳石			縁周辺に粗い整形を加えており、片面中央に敲打による窪みが1カ所見られる。			
1面II期 田口下田尻遺跡														
田口下田尻遺跡1b号道														
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等			備考
110-1	美濃陶器 御深井皿	6	-	5.6	(1.5)		底部		灰白		内面から高台外面灰釉。貫入。貼り付け高台。木瓜形か。			登窯4小期
110-2	瀬戸陶器 すり鉢	3	-	-	-		口縁部片		淡黄		口縁部波状に摩滅又は加工。内外面錆。釉。			登窯5・6小期
110-3 233	銅製品 銭貨	19	2.5	-	0.1	2.2	ほぼ完形				寛永通宝。			初鑄1626
110-4	石製品 硯か		7.2	2.0	8.0	12.9	破片	珪質粘板 岩			側面に擦痕あり、一部が面取りされている。硯の破片か。			
1面III期 田口上田尻遺跡														
田口上田尻遺跡8号溝														
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等			備考
120-1	在地系 皿		(9.6)	(6.0)	2.0		口縁部～ 底部破片		にぶい橙	酸化焰	轆轤整形、回転方向不明。底部切り離し技法も不明。			
120-2 233	在地系 皿		(8.6)	(5.6)	1.8		口縁部～ 底部破片		にぶい褐	酸化焰	轆轤整形、回転方向不明。底部は回転糸切り後ヘラナデか。			
120-3 233	在地系 皿		(9.6)	(7.4)	1.7		口縁部～ 底部破片		にぶい褐	酸化焰	轆轤整形、回転方向不明。底部切り離し技法も不明。			
120-4	在地系 皿		(8.4)	(6.3)	2.3		1/4	A	にぶい赤 褐	酸化焰	径に比して体部・口縁部短く、直線的に開く。口縁部尖り気味。轆轤回転方向不明。底部回転糸切無調整。			
120-5	在地系 皿		(12.0)	-	(2.2)		1/3	B	にぶい橙	酸化焰	体部から口縁部内面にかけて内湾するように2カ所窪ませる。轆轤左回転成形。			
120-6	在地系 皿		12.0	-	(2.8)		1/2	A	にぶい褐	酸化焰	体部僅かに外反し、口縁部直線的に開く。轆轤左回転成形。			
120-7	在地系 皿		(11.2)	(5.8)	2.7		口縁部一 部、底部 1/3	B	にぶい黄 橙	酸化焰	内面は底部周縁と口縁部下で凹線状に内湾し、体部から口縁部断面形が波状を呈する。底部右回転糸切後ヘラナデか。			
120-8	在地系 皿		(11.1)	(6.4)	2.9		1/5	B	にぶい橙	酸化焰	体部直線的に開き、口縁部僅かに外反。底部内面周縁凹線状に窪む。底部左回転糸切無調整。			
120-9	瀬戸・美濃陶器 反皿		(12.0)	(6.8)	2.3		口縁部一 部、底部 1/5		灰白		体部緩く外湾し、口縁部小さく外反。高台内削り込み。底部内面周縁沈線状に窪む。全面灰釉。貫入。高台内目痕。			大窯IV前半
120-10	常滑陶器 甕		-	-	-		口縁部片		暗灰		口縁部帯下部が長い「N」字状。内面器表灰赤色、外面器表黄灰色。			14世紀中～後
120-11	常滑陶器 甕		-	-	-		破片		褐灰		肩部小片。外面上部自然釉。外面上部叩き目。			中世
120-12	在地系 内耳鍋		-	-	-		口縁部片	B	にぶい 褐、器表 暗灰	燻し	口縁部短く、体部外面境を凹線状に窪ませる。口縁部丸味を帯び、端面内面小さく張り出す。内面口縁部下の段差低く緩い。内耳一部残る。			大窯I
120-13	在地系 内耳鍋		-	-	-		口縁部片	B	にぶい赤 褐、器表 黄灰		口縁部内面と体部境明瞭な段をなす。口縁部上面僅かに窪み、外面は小さく突き出る。			16世紀
120-14	在地系 すり鉢		-	-	-		口縁部片	A	にぶい黄 褐	還元	体部器壁薄いが、口縁部厚い。内面から口縁部横撫で。口縁部内外面に小さく突出。口縁部内面突出部摩滅。			15世紀前～中頃
120-15	在地系 片口鉢		-	-	-		口縁部片		にぶい 橙・灰黄 褐・橙		口縁部横撫で。端面内面小さく凸出。口縁部内面以下摩滅。端面凸出部僅かに摩滅。			15世紀前半
120-16	在地系 内耳鍋		-	-	-		口縁部片	A	暗灰		断面暗灰色、器表付近灰白色、器表灰色から灰白色。口縁部、内面に低い段をなして内湾する。破片内面側左端に押さえ痕があり、耳が貼り付けられていた可能性高い。退化した内耳を貼り付ける段階の鍋であろう。			江戸時代
120-17	在地系 内耳鍋か		-	(3.8)	(2.1)		底部片	A	にぶい 褐、器表 黒	燻し	平底。底部外面周縁から体部下端ヘラナデ。外面体部下端から底部外面暗褐色。底部外面砂底状。			中世
120-18 233	銅製品 銭貨	3	2.4	-	0.9	1.6	完形				開元通宝			初鑄621
120-19 233	銅製品 銭貨	2	2.5	-	0.1	2.8	完形				天聖元宝			初鑄1023
120-20	銅製品 銭貨	17	2.4	-	0.1	2.6	ほぼ完形				熙寧元宝			初鑄1068
120-21 233	銅製品 銭貨	1	2.4	-	0.1	2.0	完形				皇○通宝(篆)。皇宗か。			
121-22 233	茶白 上白		(11.0)	(12.8)	11.2	1550.0	1/3	粗粒輝石 安山岩			上白、上面の縁は打ち欠かされている。挽手孔の周りには菱形文。擦面はあまり摩滅しておらず、目の状態は比較的明瞭である。			
121-23 233	茶白 下白		(21.0)	(20.2)	13.3	4350.0	1/3	粗粒輝石 安山岩			下白、受皿部分は打ち欠かされている。擦面はやや磨滅しており、目の状態はあまり明瞭ではない。			
121-24 234	茶白 下白		(23.8)	(14.1)	11.3	3110.0	1/4	粗粒輝石 安山岩			下白、受皿部分は打ち欠かされている。擦面はやや磨滅しており、目の状態はあまり明瞭ではない。			
121-25 234	石白 上白		34.0	(19.8)	12.8	8900.0	1/2	粗粒輝石 安山岩			上白、擦面は磨耗が激しく、目の状態は全く不明、わずかにものくぼりの痕跡が確認できるだけである。			
121-26 234	石白 上白	9	(24.8)	(14.2)	10.8	3290.0	1/3	粗粒輝石 安山岩			上白、上縁もくぼみ面近くまで擦り減っている。擦面は磨滅が激しく目の状態は不明。			
121-27 234	石白 下白		(26.3)	(15.5)	9.2	4230.0	1/3	粗粒輝石 安山岩			下白、擦面は磨滅が激しく目の状態は全く判別できない。			
121-28 234	石白 下白		32.5	(17.5)	14.3	11100.0	1/2	粗粒輝石 安山岩			下白、擦面は磨滅が激しく目の状態はほとんど判別できないが、溝が2条ほど確認できる。			
122-29 234	石白 下白	1	(28.8)	(15.5)	11.8	6250.0	1/3	粗粒輝石 安山岩			下白、心棒孔は貫通。擦面は激しく磨滅しており、目の状態はかすかに溝痕が残るだけである。			
122-30	石製品 石鉢	2	37.8	-	(13.2)	1030.0	口縁片	粗粒輝石 安山岩			内外面とも比較的丁寧な加工。			

遺物観察表

122-31	石製品 石鉢		-	20.4	(11.7)	1180.0	底部へ体部	ニッ岳石			口縁部を欠損。内外面ともやや凹凸が残る加工。	
122-32 234	石製品 くぼみ石		17.1	18.0	11.1	1900.0	ほぼ完形	ニッ岳石			窪み部は使用により平滑化。	
122-33 234	石製品 くぼみ石		13.5	15.7	11.4	1450.0	完形	ニッ岳石			窪み部は使用により平滑化。	
122-34 234	石製品 くぼみ石		19.7	25.8	11.8	7700.0	2/3	ニッ岳石			凹凸が残るが比較的丁寧な加工。	
122-35 234	石製品 くぼみ石		12.6	13.2	10.9	1100.0	ほぼ完形	ニッ岳石			全体を方形に加工、窪み部は使用により平滑化。	
123-36 234	石製品 くぼみ石		30.1	30.0	(17.5)	12000.0	1/2	ニッ岳石			内外面とも細かい凹凸が残る加工。	
123-37 234	石製品 不明		9.6	9.2	9.8	1250.0	完形	粗粒輝石 安山岩			表面はわずかな凹凸が残るが丁寧な加工か。下面端部に敲打痕。	
123-38 234	石製品 不明		11.2	10.4	9.2	1350.0	完形	粗粒輝石 安山岩			表面はわずかな凹凸が残るが丁寧な加工か。	
123-39 234	石製品 不明		14.4	13.6	12.5	1500.0	完形	粗粒輝石 安山岩			球状に加工？上部と側面の一部が使用によって平滑化している。	
123-40 234	五輪塔 空風輪		22.1	15.1	14.7	3390.0	完形	粗粒輝石 安山岩			空風輪、空輪上半部に加工痕が残る。下面に火輪へ差し込む径7.0cm、長さ3.8cmの円柱状のほぞが作られている。	
123-41 234	五輪塔 空風輪		24.7	20.6	19.4	8550.0	完形	ニッ岳石			空風輪、全体的に小規模な凹凸が残る加工。下面はわずかに窪む。梵字は確認できない。	
123-42 234	五輪塔 空風輪	13	23.2	14.5	14.5	4200.0	ほぼ完形	粗粒輝石 安山岩			空風輪、地輪への差し込みを有しない。	
123-43 235	五輪塔 空風輪		25.2	13.7	13.7	3300.0	完形	粗粒輝石 安山岩			空風輪、正面？に線刻状の刻みが見られる。	
123-44 235	五輪塔 空風輪		27.0	13.4	15.2	3750.0	ほぼ完形	ニッ岳石			空風輪、上部、右側面を欠損。正面に梵字が彫られているようであるが、欠損部のため判読不能。	
124-45 235	宝篋印塔 笠	12	31.4	30.0	20.2	17700.0	2/3	粗粒輝石 安山岩			笠、周囲を打ち欠かされている。上面には相輪を差し込むほぞ穴。	
124-46 235	五輪塔 火輪		25.7	26.6	15.1	9850.0	完形	ニッ岳石			火輪、上下、各側面ともやや粗い加工。上面中央に風輪を差し込むの円柱状のほぞ穴。	
124-47 235	五輪塔 火輪		22.0	22.4	11.0	5400.0	ほぼ完形	粗粒輝石 安山岩			火輪、正面に梵字の痕跡あり、上面中央に風輪を差し込む径6.5cm、深さ4.5cmの円柱状のほぞ穴。	
124-48 235	五輪塔 水輪		26.0	24.5	14.7	8240.0	完形	粗粒輝石 安山岩			水輪、平面形態は楕円形を呈す。上面は2.0cm、下面は1.5cmの浅い窪み。	
125-49 235	五輪塔 水輪	19	28.3	30.1	27.1	29430.0	完形	ニッ岳石			水輪、上下面比べて側面はやや凹凸が残る加工。	
125-50 235	五輪塔 水輪		19.8	21.6	13.1	5270.0	ほぼ完形	ニッ岳石			水輪、上下面。側面とも若干の凹凸が残る加工。	
125-51 235	石製品 磨石		14.4	12.0	8.3	1210.0	完形	粗粒輝石 安山岩			上下面を擦面として使用、上下面は使用により平滑化。	
125-52 235	石製品 不明		27.8	32.6	22.6	20000.0	ほぼ完形	ニッ岳石			五輪塔地輪の再利用品可能性もある。各面とも凹凸が残る粗い加工。	
126-53 235	五輪塔 地輪		24.4	25.2	20.3	14700.0	ほぼ完形か	粗粒輝石 安山岩			水輪か、周囲を激しく打ち欠かれ外面が残存する部分はわずかである。	
126-54 236	五輪塔 地輪		25.2	25.0	18.1	17600.0	完形	ニッ岳石			地輪、上面はわずかに膨らみ、下面はわずかに窪む。各面とも凹凸が残るやや粗い加工。	
126-55 236	五輪塔 地輪		23.9	24.6	16.7	9450.0	ほぼ完形	ニッ岳石			地輪、上面はわずかに膨らみ、下面はわずかに窪む。各面とも凹凸が残るやや粗い加工。	
126-56 236	五輪塔 地輪		18.8	19.3	14.7	5800.0	完形	ニッ岳石			地輪、側面は平坦面をつくる、上面はわずかに膨らみ、下面はわずかに窪む。	
126-57	石製品 板碑	4	(10.1)	(6.1)	2.8	310.0	破片	緑色片岩			残存部に刻み等は確認できない。	

田口上田尻遺跡8号溝石積み

挿入番号 PL	種別 形	注記番号	口径(径) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 土材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
127-58	在地系 内耳鍋	35	-	(19.0)	(8.2)		1/4	A	にぶい褐色 器表黒	焼し	丸底。底部外面周縁から体部下端へラナデ。底部外面から体部下端二次的被熱により焼し取れる。体部外面煤付着。底部外面縮細状。	中世
127-59	在地系 内耳鍋	34	-	-	-			B	にぶい褐色 器表黒	焼し	口縁部屈曲して開く。口縁部平坦で外方に小さく張り出す。耳は粘土紐を口縁部に貼り付ける。	IV期
127-60	尾張型 片口鉢		-	-	-				器表： 断面：灰 白		体部下位片。内面下部に自然軸。外面回転へラ削り。常滑の1類。	中世
127-61	土製品 土人形	1	-	-	-		顔面	砂含まない	橙	良好	顔面部分。前後の型合わせ目で欠損。口付近表面欠損。着色残らない。	近世以降
127-62 236	銅製品 銭貨	32	2.5	-	0.1	2.6	完形				開元通宝	初鑄621
127-63 236	銅製品 銭貨	24	2.5	-	0.1	2.3	一部欠損				景祐元宝(篆)	初鑄1034
127-64 236	銅製品 銭貨	15	2.4	-	0.1	1.2	完形				天聖元宝	初鑄1023
127-65 236	銅製品 銭貨	27	2.5	-	0.1	3.2	完形				天聖元宝	初鑄1023
127-66 236	銅製品 銭貨	30	2.4	-	0.1	2.0	完形				祥符通宝	初鑄1009
127-67 236	銅製品 銭貨	29	2.5	-	0.1	1.1	1/2				○符通○	
127-68 236	石製品 砥石		(11.0)	4.7	3.3	168.8	2/3か	砥沢石			主な使用面は相対する2面で、共に中央を境として小口側に傾斜する。中砥、4面使用。	砥面：右側面Ⅲ、右側面以外Ⅰa・b・c-Ⅰ
127-69 236	石白 上白	22	(24.0)	(12.4)	12.6	3430.0	1/3	粗粒輝石 安山岩			上白、擦面は磨滅が激しく目の状態は不明。	
127-70 236	石白 上白	7	27.3	27.6	11.2	26800.0	完形	粗粒輝石 安山岩			上白、擦面は片側だけ激しく磨滅し、本来の器高の半分程度まで擦り減っている。目の状態は溝が磨滅して不明。	
127-71 236	石白 上白	5	27.0	(20.0)	13.5	7000.0	1/2	粗粒輝石 安山岩			上白、挽手孔、心棒孔は残存。擦面は磨滅しており、目の状態は主溝、副溝がかすかに判別できる程度である。	
128-72 237	茶白 下白	3	(18.2)	30.6	11.3	6050.0	1/3	粗粒輝石 安山岩			下白、受皿縁部は打ち欠かされている。擦面はやや磨滅しているが目の状態は明瞭である。	
128-73 236	五輪塔 水輪	16	23.9	26.7	8.0	5100.0	上位1/4	粗粒輝石 安山岩			水輪、上面中央に浅い窪み、端部に加工痕が打ち欠き痕が明らかでないが痕跡がみられる。	



遺物観察表

128-74 237	五輪塔 地輪	11	18.8	19.4	12.8	2850.0	ほぼ完形	ニッ岳石			地輪の二次利用。上面に径9.0cmの円形、深さ3.8cmの半球状の窪み、側面は弧状を呈す。	
128-75 237	五輪塔 火輪	17	24.8	14.0	26.0	7980.0	ほぼ完形	ニッ岳石			火輪、笠の一部は打ち欠きか。上面に風輪を差し込むほぞ穴の加工は見られない。	
129-76 236	五輪塔 空風輪	1	31.2	18.4	15.4	7700.0	完形	ニッ岳石			空風輪、空輪部分の裏面は平坦面に再加工されている。	
129-77 237	五輪塔 火輪	9	26.5	26.3	11.8	8700.0	ほぼ完形	粗粒輝石 安山岩			火輪、平面形は軒先が弧状。各面とも凹凸が残るやや粗い加工。上面に風輪のほぞをさし込む円柱状ほぞ穴。	
129-78 237	石殿 屋根蓋部	20	(25.0)	35.0	16.7	13600.0	1/2	粗粒輝石 安山岩			屋根蓋部、上面、軒、側面は比較的丁寧な加工、下面は凹凸が残る粗い加工。	
129-79 237	五輪塔 地輪	37	19.5	19.7	15.3	6450.0	完形	ニッ岳石			地輪、上面と各側面は丁寧な加工、下面はやや凹凸が残る。	
130-80 237	五輪塔 火輪	10	30.0	30.3	17.2	16850.0	ほぼ完形	粗粒輝石 安山岩			火輪、平面形および正面形ともわずかに歪む。各面とも凹凸が残るやや粗い加工。上面に風輪のほぞをさし込む円柱状ほぞ穴。	
130-81 237	五輪塔 地輪	8	29.8	29.5	17.5	17450.0	ほぼ完形	ニッ岳石			地輪、角や縁が打ち欠かれている。各面とも凹凸が残る加工。	
130-82 237	五輪塔 地輪	12	25.3	26.7	17.7	22100.0	ほぼ完形	粗粒輝石 安山岩			地輪、各面とも比較的丁寧な加工。	

田口上田尻遺跡8・48号溝

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
131-83	在地系 焙烙		(38.6)	(34.8)	5.4		1/3	A	灰		断面灰色、器表付近にふい橙色、内面器表暗灰色から灰色、外面器表黒色。内面明瞭な段を有し、内耳下部は体部下位に貼り付ける。耳部中央の体部内面は窪ませる。口縁部上面明瞭に窪む。体部外面下位から底部外面型肌残る。口縁部外面紐作り痕残る。内耳2カ所残存。	
131-84	在地系 内耳鍋		-	-	-		体部下位 ~底部片	A	灰黄、内 面器表灰	還元	器壁厚く、丸底。欠損部上端付近内面には段差、外面には横撫でがあり、器高は低いと考えられる。底部外面周縁から体部外面へ削り後など。体部外面煤付着。底部外面灰黄褐色。	16世紀か
131-85	在地系 焙烙		(32.8)	(31.8)	6.0		1/8	A	黒		断面黒色、器表付近にふい橙色、外面器表暗灰色、内面器表灰色。外面中位紐作り痕、外面下位から底部外面型肌。外面体部下位かるい撫で。内耳下部底部周縁に貼付。	江戸時代
131-86	在地系 鍋		-	15.9	-		底部片	A	黄灰		平底で器壁薄い。外面煤厚く付着。内面に押印箇所。	江戸時代以降
131-87	在地系 鍋		-	-	-		口縁部片	A	黄灰・灰 黄		口縁部直線的に開く。口縁部丁寧な横撫でにより器壁薄くなる。外面口縁部下紐作り痕残る。外面煤付着。	江戸時代

田口上田尻遺跡11～13号溝

挿入番号 PL	種別 器形	遺構名 注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
134-1	在地系 内耳鍋	11号溝	-	-	-		口縁部 ~体部片	A	灰白	還元	口縁部外反し、端部付近僅かに内湾する。端部内面僅かに張り出し、上面丸味を有する。口縁部横撫で。口縁部下内面に段差なく、緩い稜をなす。	15世紀後半
134-2 238	銅製品 銭貨	12号溝 5	2.4	-	0.1	2.9	完形				〇〇元宝	2枚錯着
134-3 238	銅製品 銭貨	12号溝 5	2.4	-	0.2	3.2	完形				治平通宝	初鑄1064
134-4	石白 下白	13号溝 7	-	-	-		破片	粗粒輝石 安山岩			下白のはんぎり片。側面から上面の調整は丁寧。	

田口上田尻遺跡21号溝

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
136-1	瀬戸・美濃陶器 折縁皿		-	(5.6)	(1.1)		1/4		灰白		高台脇削り込む。底部内面突起あり。体部内面菊花状の削ぎ。内面から高台内灰釉。高台端部重ね焼きにより無釉。貫入する。	5と同一個体か。大窯IV前
136-2	中国磁器 皿		-	-	-		小片		にふい黄 橙		粗製。口縁部端部面取りされたように角張る。	16世紀
136-3	瀬戸陶器 片口鉢		-	7.6	(2.8)		1/2		灰白		内面灰釉。高台貼付。	登窯8・9小期
136-4	瀬戸・美濃陶器 稜皿		(9.6)	(6.0)	2.5		1/5		灰黄・灰 白		体部直線的で口縁部外反。内面から高台内鉄釉。高台内輪下子痕。大窯III	
136-5	瀬戸・美濃陶器 折縁皿		-	(5.6)	(1.4)		1/4		灰白		高台脇削り込む。底部内面突起あり。体部内面菊花状の削ぎ。内面から高台内灰釉。貫入する。	1と同一個体か。大窯4前
136-6	美濃陶器 徳利		-	6.4	(15.6)		1/3～ 1/2		灰白		なで肩で体部中位ほぼ直立。体部下位外傾。外面から高台内灰釉。体部外面下位の釉雑に拭う。	登窯6・7小期
136-7	銅製品 煙管	4	(3.0)	-	(1.0)	2.7	破片				雁首。脂返し。金メッキ痕跡。	羅字痕跡
136-8	銅製品 銭貨	6	-	-	0.1	0.8	1/3				〇平元〇	
136-9 238	銅製品 銭貨	7	2.5	-	0.1	3.1	完形				咸平元宝	初鑄998
136-10	石製品 石鉢	13	(30.0)	-	(11.1)	625.0	1/6	粗粒輝石 安山岩			器厚は3cmほどで、鉢形に丁寧に整形され、下端に段が認められる。	
136-11	石製品 砥石	8	(7.2)	2.2	3.9	50.0	1/2か	珪質粘板 岩			主要砥面は相対する2面で欠損側が大きく磨り減る。非主要砥面は、若干使用されるが砥面を残す。撥面に広がった小口面も砥面が残る。河川転礫素材の砥石であろう。いずれの面も直線的な細かい条線がある。なお、裏面の研ぎ減り側には段差が認められる。仕上砥、4面使用。	砥面：表裏II b-5、右側II c-5、左側不明。

田口上田尻遺跡22号溝

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
137-1 238	製作地不詳陶器 天目碗	17	11.2	4.8	6.8		口縁部一 部、底部 3/4		灰黄～灰		体部僅かに内湾して開く。口縁部端部の外反弱く、口縁部は外湾するように見える。高台脇水平に削る。内面から体部外面下端錆色の鉄釉。	時期不詳
137-2 238	瀬戸陶器	3	-	4.0	(4.0)		口縁部欠		灰白		口縁部内湾。灯芯挿入部欠損。内面から脚部脇筋釉。脚底部底部右回転糸切無調整。脚底部固定孔1カ所。	登窯7小期
137-3	茶白 下白	8	-	-	-	39.7	破片	粗粒輝石 安山岩			受部の破片で、厚みは2.5cmほどである。	
137-4	石製品 くぼみ石	12	(11.1)	(6.1)	5.8	343.9	1/3	角閃石 安山岩			くぼみは浅く、底面は平坦に剥離されている。	
137-5	石製品 砥石		(8.3)	3.1	2.5	82.1	1/4	砥沢石			小口は欠損するが、両側には櫛刃状整形が残る。表裏で両側幅に2mmの差があるが、両側はほぼ平行に整形される。表裏の主要砥面は、中央付近を境に小口側に薄くなる。また、稜をなして側面に向かって傾斜する面も認められる。中砥。	幅：2.9～3.1cm、差：2mm 砥面：1dか

遺物観察表

137-6	石製品 砥石	4	(6.9)	1.8	2.5	68.4	2/3か	砥沢石			表裏2面が主要砥面で中央付近が厚く、小口に向かって薄くなる。1側面は整形時の窪みが一部に残る程度の使用で、残る側面は不使用。左側面には平整痕が残る。中砥。	幅:2.2-2.9cm 差:2mm、砥面: 表1a、右側 裏1b
137-7	石製品 板碑	14	(16.1)	(13.0)	2.7	830.0	破片	緑色片岩			刻みなどは確認できない。	

田口上田尻遺跡25号溝

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
140-1	在地系 焙烙	6	-	-	5.4		破片	A	黒		断面中央黒色、器表付近にぶい黄橙、口縁部から体部外面黒色、内面灰色から暗灰色。外面体部下端から底部外面器表赤灰色。外面体部下位型肌状をかるく撫でる。内面耳貼付。耳部屈曲部内外面擦れにより器表摩滅し、両端は断面中央部の黒色部が露出する。	江戸時代
140-2	常滑陶器 甕	4	-	-	-		破片		暗灰		外面器表にぶい赤褐色。外面叩き目。	中世
140-3	美濃陶器 反皿	3	(11.6)	(6.1)	2.7		破片		灰白		体部下位で屈曲し、口縁部外反。内面から高台外面長石釉。	登窯1・2小期
140-4	在地系 皿		(11.0)	(5.8)	2.4		1/6	細砂粒	にぶい褐	良好	小さく外反。底部左回転系切無調整。	中世
140-5	銅製品 銭貨	1	2.5	-	0.1	2.6	完形				永楽通宝	初鋳1408
140-6	石製品 砥石	2	(10.6)	4.2	3.6	149.3	1/2か	砥沢石			残存部が多い3面の砥面はいずれも使用され、1面は大きく窪む。他の1面は比較的平坦で、残る1面は半分が斜めに傾斜して境は稜をなす。中砥。	砥面:形状不明

田口上田尻遺跡28号溝

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
142-1	在地系 鍋	1	(28.0)	-	(9.1)		1/6	B	にぶい黄 橙		体部直線的に開き、口縁部外反。口縁部内面の段差は痕跡的で稜線に近い。口縁部上面平坦で端部外面下位撫でにより窪むため尖り気味に見える。口縁部横撫で、体部外面撫で、組作り痕跡者に残る。外面体部下位型肌。色調、断面から中央から黒、にぶい黄橙、黒色のサンドイッチ状。	江戸時代

田口上田尻遺跡29号溝

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
142-2	在地系 皿	2	(11.2)	5.9	3.0		3/4	粗砂粒少量・細砂粒	にぶい橙	良好	底部器壁厚い。体部僅かに内湾し、口縁部小さく外反。底部左回転系切無調整。	中世
142-3	在地系 焙烙	3	(34.2)	(29.6)	6.5		1/8～ 1/5	A	にぶい 橙、器表 灰黄～黒 色		内面から体部外面横撫で。体部内面中位小さく緩い段。口縁部肥厚し、端部上面凹線状に窪む。体部外面下位端回転へら削り。体部外面下端から底部外面にぶい橙色。底部外面砂底状型肌と型の段差残る。	中世～江戸時代
142-4	在地系 焙烙	3	(34.8)	(29.1)	6.8		1/6	A	にぶい褐		器表から器表付近暗灰色から黒色。口縁部から体部内面中位低い段を有する。口縁部上面丸みを持つが、僅かに段を有する。内耳は1カ所残存するが、近接して内耳中央部の窪みが認められ、1個と2個が対をなす2個側であろう。内耳下位は体部内面中位付近に貼り付け、中央部の体部内面を窪ませている。体部外面下位以下へらナデ。体部外面下位は面取りするように斜めにへらナデを行う。体部外面の組作り痕や型肌はほとんど撫で消される。底部外面型肌残る。	内耳両端摩滅。中世～江戸時代
142-5 238	茶白 上白	1	(14.2)	(9.2)	11.3	1370.0	1/4	粗粒輝石 安山岩			上白、上縁は打ち欠か。挽手孔の周りに菱形文。擦面はやや磨滅しているが目状態は明瞭。	

田口上田尻遺跡31号溝

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
144-1	美濃陶器 せんじ碗	4・5	(10.3)	-	(4.4)		1/5		灰白		口縁部下で稜をなして屈曲する。口縁部僅かに外反。灰釉と錆色の鉄釉左右掛け分け。	登窯8小期
144-2	美濃陶器 せんじ碗	3・6	(10.0)	-	(3.9)		1/3		灰白		口縁部下で稜をなして屈曲する。口縁部僅かに外反。灰釉と錆色の鉄釉左右掛け分け。	登窯7小期
144-3 238	美濃陶器 腰折碗	2・11・ 14・43・ 44	11.7	5.0	7.0		1/4欠		灰白		体部屈曲し、口縁部直立。口縁部外面2条の横線。横線部2カ所小さく窪ませる。内面から高台脇灰釉。口縁部から底部内面2カ所鉄釉流す。高台内螺旋状に高まり残り、兜巾状をなす。	登窯7小期
144-4	美濃陶器 折縁輪壳鉢	10	-	8.6	(2.6)		1/2		灰白		内面から高台脇灰釉。貫入する。底部内面下ナツ状に軸を掻き取る。掻き取り部高台重ね焼き痕。	登窯7・8小期
144-5	美濃陶器 筒形香炉	9	12.0	9.8	6.0		1/4～ 1/2		灰白		体部から口縁部内傾。口縁部外面方に突き出る。端部正面平坦で内傾。対外面轆轤目顕著で、轆轤目内に横線巡る。内面から体部外面胎釉。底部内面目痕1カ所。	登窯7・8小期
144-6 238	美濃陶器 筒形香炉	13	11.0	8.0	(5.5)		底部欠		淡黄		体部内傾し、口縁部小さく外反。口縁部内側に突き出す。端部上面窪む。体部外面丸撃状工具で極浅い松状。脚は3カ所貼付であろう。口縁部から体部外面胎釉。	登窯7小期
144-7	在地系 焙烙	8	(33.0)	(31.0)	5.2		1/7	A	にぶい黄 橙		断面と底部外面器表灰白色に近いにぶい黄褐色。体部から口縁部内外面器表暗黒色から黒色。口縁部正面僅かに窪み、内傾する。内耳1カ所残存し、下部を底部に貼り付ける。底部外面型肌残り、体部下位外面はほとんど撫で消される。体部外面下位くびれる。	江戸時代
144-8	石白 下白	1	(13.1)	(10.7)	6.6	926.1	破片	粗粒輝石 安山岩			下白。周縁部にすり目が残る。すり目が凹レンズ状をなすが、周縁部は非常に平滑。下面周縁に欠損が認められず、中央部の加工が粗く、上白とは考えられない。	

田口上田尻遺跡47号溝

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
144-9	肥前磁器 中皿	2	-	-	-		体部片		灰白		焼成不良により釉やや白濁し、貫入が入る。内縁口縁部下2重圏線。	1640～60年代
144-10	美濃陶器 折縁鉄絵皿	7	(12.9)	(7.0)	(2.1)		破片		灰白		体部屈曲して開き、口縁部水平に開く。端部内面僅かに窪む。外面口縁部以下回転へら削り。口縁部内面から端部銅緑釉。底部内面高台重ね焼き痕。鉄絵部と高台欠損。	登窯1小期

田口上田尻遺跡33号溝

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
146-1 238	石製品 石鉢	1	(12.4)	(10.8)	12.5	890.0	1/4	粗粒輝石 安山岩			外面は凹凸が残るやや粗い加工、内面は若干の凹凸が残るが外面より丁寧な加工。	

遺物観察表

田口上田尻遺跡34号溝

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
146-2	瀬戸・美濃陶器 志野丸皿	9	(10.9)	(7.0)	2.3		1/4		灰白		底部周縁内湾し、口縁部外反。外面中位以下回転ヘラ削り。高台脇小さく削り込む。内面から高台内の一部长石軸。高台内目痕1カ所残存。	登窯3小期
146-3	美濃陶器 不詳		(9.8)	(5.6)	2.5		1/4		灰白		口縁部下で屈曲し、端部外反。底部右回転糸切無調整。内面から体部外面下位柿軸。内面と口縁部外面糞灰釉流す。	登窯4・5小期
146-4	瀬戸陶器 反皿	6	-	(6.5)	(1.7)		1/4		灰白		高台端部を除き長石軸厚く掛ける。粗い貫入入る。	登窯1小期
146-5	瀬戸陶器 壺		(11.8)	-	(2.0)		1/4		灰白		肩部内湾し、口縁部短く立ち上がり、端部平坦。肩部内面から外面鉄軸。口縁部正面の軸拭う。	登窯8～11小期
146-6	肥前磁器 青磁香炉		10.0	-	(4.2)		1/4		白		頸部直立し、口縁部外方に開く。口縁部上面窪む。体部開く。口縁部内面から外面青磁釉。	17世紀後半～18世紀初頭
146-7	在地系 焙烙	3	-	-	-			内耳部片	A	灰白、器表暗灰から黒	やや幅広い粘土紐を口縁部から体部下位内面に貼り付ける。口縁部は幅広く、上面やや窪む。口縁部横撫で。体部外面は凹凸が著しく、型肌明瞭に残る。	内耳両端摩滅。中世～江戸時代
146-8	在地系 焙烙	13	-	-	-			破片	B	にぶい橙、器表灰黄～黒	口縁部から体部直線的に開く。口縁部幅広く、上面やや窪む。体部外面下位型肌残る。内面上部窪み、ゆるい段状をなす。破片内面右上部に内耳上部が残る。上部貼付部下の体部内面には窪みがあり、耳下部は体部に貼り付けていた可能性が高い。	中世～江戸時代
146-9 238	石白 下白	2	(12.7)	(23.4)	9.2	3100.0	1/3	粗粒輝石 安山岩			擦面は摩耗が激しく、目の状態は確認できない。	
147-10 238	石製品 石鉢	4	(11.5)	(10.4)	10.8	770.0	1/4	粗粒輝石 安山岩			縁の一部に欠損部あり、内面は平滑化している。	
147-11	石製品 くぼみ石	1	(17.4)	(12.5)	(12.4)	1900.0	1/8	粗粒輝石 安山岩			縁を欠く、使用面は比較的平滑である。	

田口上田尻遺跡35号溝

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
147-12	石製品 砥石	5	(8.7)	4.0	4.0	160.1	中央部片	砥石			現存長8.6cmで両小口を欠損する。右側面を水平にした場合の幅は2.4～3.3cm、同一箇所での表裏面幅の差は8mmとやや大きい。砥面は表面のみで両側面と裏面には平整痕が残る。砥面は幅の狭い面を選択している。1号建物の67-56・67-58と同様な規格であったと考えられる。中砥、3面不使用。	幅:2.4～3.3cm 差:8mm 砥面:1b

田口上田尻遺跡36号溝

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
147-13	在地系 内耳鍋	1	-	-	-		口縁部片	B	にぶい黄褐、器表灰～暗灰	器表付近還元	口縁部屈曲して外反。口縁部平坦。端部外面張り出す。内面口縁部下の縁は鈍いが段差は明瞭。	16世紀

田口上田尻遺跡40号溝

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
147-14 238	在地系 皿	1	8.5	6.0	2.1		口縁一部欠	細砂粒	にぶい赤褐	良好	体部内面下端窪む。口縁部外面強い回転横撫でにより段をなす。口縁部端部油や油煙付着。底部外面摩滅。底部左回転糸切無調整。	江戸時代
147-15	在地系 皿		(9.4)	(6.0)	2.0		1/3	細砂粒	にぶい橙	良好	器壁厚い。底部左回転糸切無調整。	江戸時代
147-16 238	石白 上白	5	(22.3)	25.5	9.1	6750.0	3/4	粗粒輝石 安山岩			上白、上縁の大部分を欠く、擦面は比較的目の状態が明瞭である。ものくぼり、主構、副溝は明瞭である。	

田口上田尻遺跡42号溝

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
147-17 238	在地系 皿	2	9.6	5.1	2.2		ほぼ完形	細砂粒	にぶい橙	良好	器表摩滅し糸切り回転方向不明。	江戸時代
147-18 238	石製品 石鉢	1	(12.0)	(8.3)	7.5	380.0	1/3	粗粒輝石 安山岩			脚付き、三脚か四脚かは不明。内面の底面周縁部に加工痕が残る。	

田口上田尻遺跡43号溝

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
147-19	美濃陶器 筒形香炉		(10.4)	-	(6.0)		1/3		灰白		体部から口縁部ほぼ直立。体部外面回転ヘラ削り。口縁部外方に突き出る。体部外面丸鑿状工具による松文。口縁部内面から体部外面胎軸。内面口縁部以下胎軸を薄く化粧塗り。口縁部内外面叩打により表面小さく剥離。	登窯6小期

田口上田尻遺跡46号溝

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
147-20	美濃陶器 鬘水入		-	-	-		体部片		灰白		体部外面鉄絵具による型紙摺。内外面灰釉。細かい貫入入る。	登窯5・6小期

田口上田尻遺跡48b号溝

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
149-1	美濃陶器 小碗		(7.7)	(3.6)	3.5		1/4		灰白		体部下位内湾し、体部から口縁部直線的に開く。体部外面中位以下回転ヘラ削り。高台脇水平に削る。内面から高台脇柿軸。	登窯4小期
149-2 239	美濃陶器 小碗		(7.0)	(3.8)	3.1		1/3		灰黄		体部下位内湾して開く。高台断面方形。外面口縁部以下回転ヘラ削り。内面から体部外面下位胎軸。体部外面下位、焼成時の付着物。	登窯5小期
149-3 239	美濃陶器 小碗		8.0	4.3	3.7			口縁部 1/2、底 部完	灰白		体部下位緩く屈曲し、体部から口縁部直線的に開く。外面口縁部以下回転ヘラ削り。高台脇水平に削る。内面から体部外面錆色の鉄軸。	登窯5・6小期
149-4	美濃陶器 小碗		(8.2)	(4.0)	4.3		1/3		灰白		体部ゆるく内湾し、口縁部は直線的に開く。外面轆轤目顕著。体部外面中位以下回転ヘラ削り。高台脇小さく挟り込む。内面から体部外面下位鉄軸。	登窯3・4小期
149-5	美濃陶器 小碗		9.0	4.0	3.8				淡黄		体部から口縁部僅かに内湾して開く。体部外面中位以下回転ヘラ削り。内面から体部外面下位胎軸に近い胎軸。底部内面目痕2カ所残存。	登窯5・6小期
149-6	美濃陶器 小碗	173	(7.5)	-	(3.0)		1/4		灰白		外面口縁部下回転ヘラ削り。内面から口縁部外面胎軸。高台脇削り込む。	登窯7小期
149-7	瀬戸陶器 小碗		(7.8)	-	(3.3)		1/4		にぶい黄橙		体部下位で緩く屈曲し、体部から口縁部直線的に開く。体部外面中位以下回転ヘラ削り。内面から体部下位外面柿軸。	登窯5・6小期

遺物観察表

149-8	美濃陶器 小碗		(7.7)	-	(2.5)		1/4		淡黄		体部下位で小さく屈曲し、口縁部は直線的に開く。体部外面下位 回転ヘラ削り。内面から体部外面下位胎釉。	登窯7小期
149-9	瀬戸陶器 小碗		(7.2)	-	(3.2)		1/4		灰白		口縁部僅かに外傾。内外面灰釉。貫入する。	登窯5・6小期
149-10	美濃陶器 小碗		-	4.8	(1.8)		1/2		淡黄		高台は径大きく低い。内面から高台胎釉。	登窯7小期
149-11	肥前磁器 白磁小碗		-	3.9	(2.4)				白		部分的に釉のかからない箇所あり。釉は僅かに水色味がかかる。	17世紀後半
149-12	肥前磁器 青磁猪口か碗		-	4.5	(2.1)		底部		灰白		体部外面下位稜をなし、体部は直線的に開く。高台端部を除き青 磁釉。	18世紀第2四 半期
149-13	肥前磁器 白磁小碗		-	3.9	(3.4)				白		部分的に釉のかからない箇所あり。釉は僅かに水色味がかかる。	17世紀後半
149-14 239	瀬戸陶器 丸碗		(8.9)	3.9	5.2		口縁部 1/4、底 部完		灰白		体部内湾し、口縁部僅かに外傾。内面から体部外面下位柿釉。口 縁部内面僅かに肥厚。	登窯5～7小 期
149-15 239	美濃陶器 尾呂茶碗		11.8	5.5	7.0		口縁部 1/2欠		灰白		体部から口縁部やや開いて立ち上がる。高台径大きい。内面から 外面体部下位胎釉。口縁部薬灰釉。外面体部下位以下全面鉄化粧。	登窯5小期
150-16 239	美濃陶器 尾呂茶碗		11.4	4.6	6.6		口縁部 1/2欠		灰白		器壁やや薄い。高台内面「ハ」字状に開く。内面から高台胎釉。 口縁部薬灰釉。高台脇から高台内僅かに鉄化粧。	登窯6小期
150-17	美濃陶器 尾呂茶碗		(11.4)	4.7	7.2		口縁部一 部、底部 完		灰白		高台断面台形状。体部下位の湾曲強い。内面から体部外面下位胎釉。 口縁部の薬灰釉僅かに見える。	登窯7小期
150-18	美濃陶器 尾呂茶碗		(11.3)	-	(6.5)		1/4		灰白		器壁やや厚い。口縁部直立気味。胎釉施釉後、口縁部に薬灰釉。	登窯5・6小 期
150-19	美濃陶器 尾呂茶碗		(11.8)	-	(7.0)		1/6		灰白		器壁やや厚い。内面から外面体部下位胎釉。口縁部薬灰釉。外面 体部下位以下胎釉を極薄く化粧掛け。	登窯5・6小 期
150-20	美濃陶器 尾呂茶碗		12.3	-	(6.2)		1/2		灰白		口径に比して器高低い。内外面透明度の低い胎釉。口縁部の釉は 白色を呈さず灰釉に近く、胎釉状をなす。	登窯5・6小 期
150-21	美濃陶器 尾呂茶碗		(11.7)	-	(6.2)		1/3		灰白		口縁部直立気味。内面から外面体部下位胎釉。口縁部薬灰釉。	登窯5・6小 期
150-22	美濃陶器 丸碗		(12.9)	-	(5.0)		1/4		灰白		口縁部ゆるく内湾して立ち上がる。内外面胎釉。	登窯4小期
150-23	肥前陶器 呉器手碗		(12.3)	-	(5.0)		1/4		灰白		口縁部僅かに外傾。内外面透明釉。	17世紀後半
150-24	美濃陶器 尾呂茶碗		(11.7)	-	(6.6)		1/4		灰白		器壁やや厚い。内面から体部外面下位胎釉。口縁部薬灰釉。体部 外面下位以下薄い胎釉化粧掛け。	登窯5・6小 期
151-25	美濃陶器 丸碗		(12.0)	-	(6.2)		1/3		灰白		体部内湾し、口縁部ほぼ直立。外面口縁部以下回転ヘラ削り。内 面から体部外面下位胎釉。	登窯6・7小 期
151-26	美濃陶器 尾呂茶碗		(12.0)	-	(6.2)		1/5		灰白		口縁部ほぼ直立。内面から外面体部下位胎釉。口縁部から体部中 位灰釉に近い薬灰釉か。胎釉は鉄釉に近い色調で、口縁部は一般 的な胎釉に近い状態となる。口縁部はごく一部白色の斑が認めら れる程度。	登窯5小期
151-27	肥前陶器 呉器手碗		(11.9)	-	(6.1)		1/4		灰白		口縁部僅かに外傾。内外面透明釉。	17世紀後半
151-28	美濃陶器 丸碗		(9.2)	-	(5.2)		口縁部片		淡黄		体部下位張る。体部から口縁部外傾し、直線的に延びる。内面か ら体部外面下位柿釉。体部外面灰釉流し、胎釉状をなす。	登窯3・4小 期
151-29	瀬戸陶器 丸碗		-	4.8	(4.1)		体部～底 部		灰白		底部から体部均一に内湾。底部器壁厚く、高台内低い。内面から 体部外面下位胎釉。	登窯5・6小 期
151-30	美濃陶器 尾呂茶碗		-	(5.3)	(6.3)		1/4		灰白		底部器壁厚い。高台脇削り込む。内面から高台胎釉。口縁部薬 灰釉。高台脇から高台内胎釉を薄く化粧掛け。	登窯6小期
151-31 239	肥前磁器 青磁碗		(12.3)	4.8	7.0		口縁部 1/5、底 部3/4		灰白		高台端部を除き青磁釉。体部上位で内湾し、口縁部ほぼ直立。高 台内兜巾状。口縁部内面石爆1カ所。	1630～40年 代
151-32	瀬戸陶器 天目碗		(12.0)	4.4	6.5		口縁部 1/4、底 部完		灰白		体部直線的に開く。口縁部の立ち上がりは高く、端部外反。内面 から体部外面中位鉄釉。高台胎水平に削り、高台は回転横撫で、 高台外面撫でが途中のため、低い稜ができる。	登窯4小期
151-33	美濃陶器 天目碗		(11.8)	-	(4.6)		1/4		浅黄橙		体部直線的に開く。口縁部立ち上がりやや高い。口縁部端部小さく 外反。内外面鉄釉。	登窯5小期
151-34	美濃陶器 天目碗		-	-	-		1/4		灰白		体部直線的に延びる。内面から体部外面下位鉄釉。	登窯3～5小 期
151-35	瀬戸陶器 片口鉢		-	7.4	(4.6)		底部		灰白		底部から体部下位内湾。器壁厚い。内面から体部外面下位胎釉。 貫入する。	登窯8・9小 期
151-36 239	肥前磁器 色絵碗		11.1	4.9	6.1		口縁部 2/3欠		白		体部から口縁部ゆるく内湾して開く。外面赤と緑色の上絵。高台 外面の2重圈線も赤絵。釉の厚い場所やや青みを帯びる。	有田。1650 ～60年代
151-37	肥前磁器 碗		(8.9)	-	(5.6)		1/4		灰白		外面梅の折枝文か。	17世紀末～ 18世紀前半
151-38	肥前磁器 碗		(8.7)	(3.6)	4.8				灰白		外面唐草文。高台内「大明」銘。	1650～70年 代
151-39	肥前磁器 碗		-	3.5	(4.2)		体部一 部、底部 完		白		体部下位の張り弱い。外面染付。高台内1重圈線。	17世紀第4四 半期～18世 紀第1四半期
151-40	肥前磁器 碗		(10.7)	-	(3.0)		1/3		白		口縁部内碗。外面東屋山水文。	17世紀後半～ 18世紀初頭
151-41	肥前磁器 碗		(8.9)	-	(4.1)		1/4		灰白		外面梅の折枝文か。	17世紀末～ 18世紀前半
151-42	肥前陶器 陶胎染付碗		-	(4.9)	(4.0)		1/3		灰白		外面染付。体部下位器壁厚い。	17世紀後半～ 18世紀前半
151-43	龍泉窯系 青磁碗		-	4.8	(1.8)		1/2		灰白		底部内面施文されるが、不鮮明。内面から高台外面まで胎釉。貫 入する。	13世紀～14 世紀
151-44	肥前陶器 陶胎染付碗		(11.0)	5.1	7.8		1/8～完		灰		外面染付。呉須の発色は良好。高台大きく、器高高い。	17世紀後半
151-45	肥前磁器 碗	19	12.5	6.0	7.3		3/4		灰黄		京焼風。やや焼成不良で釉が白濁する。体部外面の呉須絵不鮮明。 内面から高台胎透明釉。	1660～90年 代
151-46	肥前陶器 陶胎染付碗		(11.7)	(5.6)	7.7		1/3		灰白		外面に松や山を比較的丁寧に描き、発色も良好。底部器壁薄く、 高台径大きく、器高が高い。	17世紀末～ 18世紀初頭
151-47	肥前磁器 鉄釉掛分碗		-	-	-		口縁部、 体部下位 片		白		外面から口縁部内面鉄釉、口縁部内面以下透明釉の掛け分け。	1640～50年 代
151-48	美濃陶器 丸碗		(13.0)	-	(6.7)		1/6		にぶい黄 橙		口縁部ゆるく内湾し、端部肥厚。外面染付。内外面灰釉。細かい 貫入する。	登窯5・6小 期



遺物観察表

151-49	龍泉窯系青磁碗		(13.0)	-	(4.2)		1/6	灰白		外面鎊連弁文。釉に貫入なく発色良好。	13世紀～14世紀前半
151-50	景德鎮磁器皿		-	(6.0)	(1.5)		1/4	白		蛇の目高台。高台端部から高台内無釉。	1630～40年代
151-51	製作地不詳陶器急須か		-	(5.6)	(2.4)		1/4	暗赤灰		無釉炆器質の万古風陶器。	近現代か
151-52	肥前磁器白磁碗		-	-	-		口縁部片	白		外面に細線で施文。有田内山。	1650～60年代
151-53	肥前磁器中皿		-	-	-		口縁部片	灰白		焼成不良により釉やや白濁し、貫入が入る。口縁部内面1重圈線。体部外面内湾し、先端は尖り気味。391と同一個体の可能性高い。	1640～60年代か。
151-54	肥前磁器鉄釉掛分碗		-	-	-		口縁部、体部下位片	白		外面から口縁部内面鉄釉、口縁部内面以下透明釉の掛け分け。	1640～50年代
151-55	美濃陶器腰箱碗		(9.7)	-	(4.4)		1/3	灰白		外面口縁部下5条の螺旋状凹線。内面から口縁部外面灰釉。体部外面鉄釉。	登窯8小期
151-56	美濃陶器尾呂茶碗		-	-	-		口縁部片	口縁部片		内外面胎釉。口縁部灰釉。	登窯5・6小期
152-57	美濃陶器沈線碗		(10.6)	-	(6.5)		1/4	灰黄		体部内湾し、口縁部やや外湾して立ち上がる。外面中位2条の沈線巡らし、沈線上を部分的に窪ませる。窪みは2カ所残存し、4カ所と推定される。内面から体部外面下位灰釉。内外面に鉄釉を斑状に垂らす。灰釉には粗い貫入入る。	登窯8小期
152-58	肥前陶器火入		-	(5.0)	(4.2)		1/3	淡黄		京焼陶器と同様な胎土・釉調。底部周縁で外面稜をなし、体部外傾して延びる。体部直線的。体部外面透明釉。	17世紀後半～18世紀初頭
152-59 239	肥前陶器刷毛目碗	180	11.7	(5.4)	7.5		口縁部1/2、底部一部	にぶい黄橙		体部下位で大きく内湾し、体部から口縁高く延びる。口縁部白土をかけ、体部外面と内面口縁部以下は白土刷毛塗り。高台端部を除き施釉。貫入に白土が入り、文様状を呈する。	17世紀後半
152-60	肥前陶器刷毛目碗		(11.7)	-	(4.8)		1/10	にぶい黄橙		口縁部緩く外反。貫入入る。器壁薄い。内外面横位の白土刷毛塗り後、外面に鉄絵。	17世紀後半
152-61 239	肥前磁器手塩皿		7.2	2.9	1.7		ほぼ完	白		蛇の目高台。外面松葉文。内面圈線のみで色絵素地か。	1640年代頃
152-62 239	瀬戸陶器志野丸皿		10.9	6.6	2.0		完形	灰白		底部周縁で内湾し、口縁部緩く外反。外面中位以下回転ヘラ削り。内面から高台内の一部長石釉。高台脇小さく削り込む。底部内面と高台内目痕3カ所。	登窯3小期
152-63 239	瀬戸・美濃陶器志野丸皿		11.0	6.8	2.1		2/3	灰		器壁厚い。底部周縁で内湾し、口縁部やや内湾して開く。外面中位以下回転ヘラ削り。内面から高台内周縁長石釉。底部内面と高台内目痕2カ所残存。高台端部や口縁部端部の器表剥離部や無釉部に油状黒色物付着。灯火皿として使用か。	登窯3小期
152-64	瀬戸陶器志野丸皿		(12.1)	7.0	2.4		口縁部1/4、底部1/2	灰白		底部周縁内湾し、口縁部僅かに内湾して開く。外面下位以下回転ヘラ削り。高台脇部分的に小さく削り込む。内面から高台内長石釉。	登窯2小期
152-65	美濃陶器丸皿		13.2	6.3	2.7		1/2	淡黄		体部から口縁部緩く内湾して開く。外面口縁部以下回転ヘラ削り。高台脇削り込む。高台断面三角形。内面から体部外面灰釉。底部内目高台の重ね焼き痕。	登窯5小期
152-66	肥前陶器皿		(11.3)	(4.5)	3.2		1/3	にぶい黄橙		内面銅緑釉。外面口縁部から高台脇透明釉。高台脇以下無釉。見込み蛇の目軸剥ぎ。	内野山。17世紀末～18世紀前半
152-67 239	瀬戸陶器志野丸皿		11.1	6.4	2.1		1/2	灰白		底部周縁で内湾し、口縁部直線的に開く。外面中位以下回転ヘラ削り。内面から高台内長石釉。貫入入る。底部内面と高台内2カ所目痕残存。	登窯3小期
152-68	美濃陶器黄瀬戸皿		(12.9)	(7.6)	2.6		1/4	浅黄		体部から口縁部内湾して開く。外面口縁部以下回転ヘラ削り。高台脇小さく削り込む。内面から高台外面灰釉。口縁部内面銅緑釉流す。細かい貫入入る。	登窯1・2小期
152-69	志戸呂陶器灯火皿		(9.9)	-	(2.0)		1/8	にぶい橙		口縁部外傾。体部外面下位以下回転ヘラ削り。内面から口縁部外面鎊釉。口縁部外面油状黒色物付着。	18世紀中頃～後半
152-70 239	瀬戸陶器志野丸皿		11.5	6.3	2.4		口縁部1/3欠	灰白		底部緩く内湾し、口縁部直線的に開く。外面中位以下回転ヘラ削り。高台脇小さく削り込む。内面から高台内長石釉。貫入入る。口縁部内面内面滑らかな磨き、平滑に擦る。	登窯2小期
152-71 239	瀬戸陶器反皿		(13.1)	6.9	3.2		口縁部1/3、底部完	灰白		水平に開く底部から屈曲し、口縁部外反。高台端部を除き、長石釉を厚く施す。貫入入る。	登窯1小期
152-72 239	美濃陶器反皿	153	12.3	7.0	2.6		1/2～3/4	灰白		体部直線的に開き、口縁部外反。口縁部端部上方に小さく引き上げる。外面口縁部以下回転ヘラ削り。高台脇水平削る。内面から高台外面灰釉薄く施す。底部内面目痕2カ所残存。	登窯4小期
152-73 239	瀬戸・美濃陶器志野丸皿		12.1	(6.3)	2.2			褐灰		胎部内湾し口縁部外反。高台脇削り込む。内面から高台内周縁長石釉。貫入入る。	大窯IV後半
152-74	美濃陶器折縁鉄絵皿		(12.8)	(7.6)	2.8		1/5	灰白		体部内湾し、口縁部内面に稜をなして開く。端部内面僅かに窪む。口縁部灰釉。外面口縁部以下回転ヘラ削り。底部内面鉄絵部欠損。	登窯3・4小期
152-75	瀬戸陶器輪壳皿	161	(13.0)	(6.9)	3.0		1/4	灰白		体部内湾して広がり、口縁部強く外反。外面口縁部下回転ヘラ削り。口縁部釉厚薄く不明瞭だが、長石釉か。内面底部周縁無釉。	登窯5小期
152-76	瀬戸陶器反皿		(12.2)	-	(2.5)		破片	灰白		水平に開く底部から屈曲し、口縁部外反。長石釉を厚く施す。貫入入る。	登窯1小期
152-77	瀬戸陶器輪壳皿		(11.2)	-	(2.0)		1/6	灰白		破片が小さく、口縁径は図より大きい可能性あり。口縁部外反。外面口縁部以下回転ヘラ削り。口縁部長石釉。	登窯5小期
152-78	瀬戸陶器反皿		(12.3)	-	(2.5)		1/4	灰白		水平に開く底部から屈曲し、口縁部外反。長石釉を厚く施す。貫入入る。	登窯1小期
152-79	瀬戸・美濃陶器丸皿		(11.9)	-	(1.9)		口縁部片	灰黄		破片小さく、口径不正確。体部下位で屈曲し、外面稜をなす。口縁部外反。内外面灰釉。細かい貫入入る。	大窯II
152-80	瀬戸陶器輪壳皿		(12.2)	-	(2.0)		1/4	灰白		体部屈曲し口縁部屈曲気味に外反。内外面長石釉。	登窯5小期
152-81	美濃陶器端反皿		(12.6)	-	(2.7)		1/3	灰白		口縁部外反。口縁部長石釉。やや焼成不良で釉白濁し、焼き締まり弱い。	登窯5・6小期
152-82	美濃陶器折縁鉄絵皿		-	-	-		口縁部片	浅黄		口縁部水平に近く開く。外面口縁部以下回転ヘラ削り。口縁部内面から口縁部端部銅緑釉。鉄絵部は欠損。	登窯1小期
152-83	瀬戸陶器反皿		(14.0)	-	(2.3)		1/6	淡黄		体部屈曲し、口縁部外反。長石釉厚く掛ける。粗い貫入入る。	登窯1小期
152-84	瀬戸・美濃陶器丸皿		-	(5.0)	(1.0)		1/3	灰白		焼成不良により釉白濁し、焼き締まり弱い。全面灰釉。	大窯II・III
152-85	瀬戸・美濃陶器内壳皿		-	(6.0)	(1.5)		1/4	にぶい黄橙		底部内面周縁盛り上がる。高台は葎筈底状で、高台内2段に削り込む。内面から高台内灰釉。底部内面無釉。	大窯IV前半
152-86	瀬戸・美濃陶器折縁皿		-	(6.0)	(0.7)		1/6	浅黄		底部内面周縁沈線状に窪み、内部の釉拭う。高台脇削り込む。内外面灰釉。貫入入る。	大窯IV前半
152-87	美濃陶器皿		-	(7.2)	(1.3)		1/3	灰白		高台脇削り込む。内面から高台内の一部灰釉。焼成不良により釉ほとんども白濁。底部内面目痕2カ所残存。	登窯1～4小期

遺物観察表

152-88	美濃陶器 皿		-	6.6	(1.3)		1/2		灰白		高台外面内傾。高台脇削り込む。体部外面下位稜をなして開く。内外面長石釉。底部内面目痕2カ所残存。	登窯1~4小期
152-89	肥前陶器 皿		-	4.4	(2.0)				にぶい黄 橙		内面銅緑釉。外面体部下位まで透明釉。高台脇以下無釉。見込み蛇の目軸剥ぎ。	内野山。17世紀末~18世紀前半
152-90	美濃陶器 折縁鉄絵皿	144	-	(6.9)	(2.2)		1/4		灰白		外面の回転ヘラ削りシャープ。高台幅も狭く、断面三角形。残存部ほとんど無釉。底部内面鉄絵。	登窯1・2小期
152-91	美濃陶器 摺絵皿		-	(7.8)	(2.4)		1/3		淡黄		底部周縁段をなして立ち上がる。口縁部は内面に稜をなして水平に近く開く。内面鉄絵具により草花文を型紙摺。内面から高台外面灰釉。細かい貫入。底部内面目痕1カ所。	93と揃いか。登窯4・5小期
152-92	美濃陶器 鉄絵中皿		(15.7)	8.8	4.2		口縁部一 部、底部 1/4		灰白		体部から口縁部直線的に開く。体部外面中位以下回転ヘラ削り。内面鉄絵。内面から体部外面中位灰釉。底部内面高台の重ね焼き痕。	登窯1・2小期
152-93	美濃陶器 摺絵皿		-	7.4	(1.6)		底部		淡黄		内面鉄絵具による型紙摺。内面から高台外面灰釉。細かい貫入。高台内周縁ヒビが入るが貫通していない。底部内面目痕2カ所。	91と揃いか。登窯4・5小期
152-94	瀬戸・美濃陶器 折縁皿		(10.6)	-	(2.2)		1/6		灰白		体部内面菊花状の削ぎ。口縁端部上端丸味を帯びる。内外面灰釉。貫入。貫入。	大窯IV前半
153-95	美濃陶器 黄瀬戸菊皿	239	(13.0)	5.7	3.6		1/3		淡黄		内面から体部外面中位黄瀬戸釉。部分的に銅緑釉流す。底部内面目痕2カ所。	登窯4小期
153-96	美濃陶器 黄瀬戸菊皿	239	13.6	6.1	3.7		口縁部 2/3欠		浅黄橙		内面から体部外面中位黄瀬戸釉。口縁部に銅緑釉流す。底部内面目痕3カ所。	登窯4小期
153-97	美濃陶器 黄瀬戸菊皿		-	6.0	(2.2)		底部		淡黄		内面の菊花文浅く、部分的に見えない。底部周縁凹線。窯道具部分器表抉れる。内面から口縁部外面灰釉。口縁部銅緑釉流す。	登窯4小期
153-98	瀬戸・美濃陶器 折縁皿	239	(12.0)	6.0	2.3		1/3		灰		口縁部内面と底部周縁窪ませる。体部内面菊花状の削ぎ。内外面灰釉。底部内面軸拭う。口縁端部上方に立ち上げる。貫入。	大窯4前半
153-99	瀬戸・美濃陶器 折縁皿		(10.6)	-	(2.0)		1/5		灰黄		体部内面菊花状の削ぎ。体部器壁やや厚い。口縁端部上端丸味を帯びる。灰釉やや薄い。貫入。高台脇削り込む。	大窯IV前半
153-100	美濃陶器 菊皿		(11.7)	-	(1.9)		1/4		灰白		内面から外面体部下位まで灰釉。粗い貫入。	
153-101	美濃陶器 菊皿		-	-	-		口縁部片		灰白		長石釉。粗い貫入。釉やや厚い。	登窯1小期
153-102	志戸呂陶器 灯火受皿	184	9.1	4.4	2.4		受け部 1/2欠		橙		受け部外傾。体部から口縁部直線的に開く。受け部の折りアーチ状で1カ所。外面中位以下回転ヘラ削り。内面から口縁部外面銅釉。	18世紀中頃~後半
153-103	美濃陶器 筒形香炉	135	13.4	9.8	7.6		1/4~ 1/3		灰白		体部中位やや内湾。体部外面下位張り出す。口縁端部肥厚し、上面は平坦で内傾。内面から体部外面下端鉛釉。貼付脚1カ所残存。口縁端部外面角、上面からの叩打により器表付近細かな割がれ。	登窯6小期
153-104	美濃陶器 筒形香炉		-	9.2	(2.5)		底部		灰白		体部下位張る。貼付脚3カ所。内面から体部外面下位鉛釉。底部内面目痕3カ所。	登窯6小期
153-105	美濃陶器 筒形香炉		-	(7.8)	(2.6)		1/4		灰白		体部外面鉛釉。体部外面丸盤状工具による松文。貼付脚1カ所残存。内面銅釉状に鉛釉薄く掛かる。	登窯5・6小期
153-106	美濃陶器 筒形香炉		-	(8.4)	(2.6)		1/4		浅黄		体部外面鉛釉。体部外面丸盤状工具による松文。貼付脚1カ所残存。	登窯7小期
153-107	美濃陶器 片口鉢		(18.5)	-	(4.8)		口縁部片		淡黄		片口部欠損。内外面鉛釉。口縁端部銅緑釉流す。	登窯5小期
153-108	美濃陶器 筒形香炉		(10.0)	-	(4.8)		1/4		灰白		体部から口縁部ほぼ直立。口縁端部内側に突き出す。端部正面僅かに窪み内傾。口縁部内面から外面鉛釉。口縁端部内外面叩打により器表小さく剥離。	登窯7小期
153-109	肥前磁器 青磁灰落		(7.0)	-	(7.6)		1/5		白		体部から口縁部ほぼ直立。体部下位張り出す。口縁端部肥厚。外面から口縁部青磁釉、内面口縁部以下青磁釉薄く施す。	有田。18世紀頃
153-110	瀬戸陶器 硝煙搨		(13.1)	-	(4.0)		1/5		淡黄		口縁部外反し、端部内面に折り返す。端部は丸みが強い。口縁部内面から体部外面下位厚めの鉛釉。体部外面下端回転ヘラ削り。	登窯4小期
153-111	瀬戸陶器 硝煙搨		(13.4)	-	(5.0)		1/4		淡黄		口縁部外反し、端部内面に折り返す。外面体部下位回転ヘラ削り、高台脇削り込む。口縁部内面から体部下位厚めの鉛釉。内面轆轤目顕著で摩滅痕認められない。	登窯4小期
153-112	瀬戸陶器 硝煙搨		(13.6)	-	(2.8)		1/6		淡黄		口縁部緩く外反し、内面に折り返し丸く仕上げ上げる。口縁端部内面から外面厚めの鉛釉。器壁やや厚い。	登窯5小期
153-113	瀬戸陶器 硝煙搨		(12.8)	-	(3.3)		1/8		浅黄橙		内外面厚めの鉛釉。口縁部内面に折り返す。	登窯5小期
153-114	肥前磁器 香炉か火入		(13.8)	(6.0)	6.3		1/8~ 1/3		白		体部外面と口縁端部上面に蔓状の植物文。口縁部から高台脇施す。腰は張り、口縁部は「了」字状を呈する。	1630~50年代
153-115	瀬戸・美濃陶器 志野盤	239	-	-	-				灰白		厚い長石釉。粗い貫入。口縁部と底部内面鉄絵。	大窯IV後半
153-116	肥前陶器 刷毛目片口鉢		(20.0)	(9.0)	11.0		1/6		黄灰		口縁部外方に折り返す。内面と体部外面上位白土刷毛塗り。内面から体部外面中位透明釉、口縁部端部無釉、重ね焼き痕。体部外面中位から高台外面鉄絵。高台端部から高台内無釉。	17世紀後半~18世紀第2四半期
153-117	古瀬戸 緑釉小皿		-	-	-		口縁部片		浅黄		口縁部灰釉。貫入あり。	後IV期古
154-118	瀬戸陶器 片口鉢		(14.4)	(8.8)	9.1		1/8		浅黄		片口部は口縁部にはめ込む。高台脇回転ヘラ削り。内面から高台脇軸釉。外面口縁部から体部下位に灰釉を斜めに掛け、鉛釉状を呈する。	登窯4小期
154-119	瀬戸陶器 盤	239	(18.5)	(7.8)	4.3		1/3		灰白		口縁部下で内湾し、口縁部に至る。口縁部外面凹線2条巡らし、端部を外面から押しつけて輪花とする。底部基筋底状。内面から高台脇灰釉。貫入。底部内面目痕1カ所。	登窯8小期
154-120	肥前陶器 三島手大皿		(36.0)	(11.8)	11.2		1/3		にぶい赤 褐		内面施文後に白土掛けするが、文様が浅く、白土がほとんど残らない。高台外面斜めに削る。内面から口縁部外面透明釉。体部下位から高台内鉄絵。体部外面中位と高台端部、外面無釉。	18世紀前半
154-121	瀬戸・美濃陶器 鉄絵鉢	106	(32.2)	(15.0)	9.9		1/4		灰白		笠原鉢。口縁端部一端括れ、外方に開く。内面鉄絵。体部内面中位に銅緑釉を波状に施す。底部内面目痕2カ所残存。内面から高台脇灰釉。外面口縁部以下回転ヘラ削り。	登窯2小期
154-122	肥前陶器 三島手大皿		(31.7)	-	(5.4)		口縁部片		灰褐		内面施文後に白土を掛けるが、施文が浅く、文様部に白土が残らない。内面から口縁部外面透明釉。外面体部下半施釉以前に鉄泥塗布。	18世紀前半
154-123	肥前陶器 三島手皿		(26.8)	-	(5.2)		口縁部片		赤灰		内面施文後に白土を掛けるが、施文が浅く、文様部に白土が残らない。内面から口縁部外面透明釉。外面体部下位鉄泥を塗布。	18世紀前半
154-124	美濃陶器 折縁輪弁鉢		(21.7)	-	(2.5)		口縁部片		灰白		口縁部直線的に開き、端部外反。端部内面窪む。外面口縁部以下回転ヘラ削り。	登窯7小期
154-125	肥前磁器 皿		(20.0)	-	(3.6)		1/8		白		口縁部緩く外反し、端部薄い玉縁状をなす。口縁部下で緩い段をなし底部に至る。端部内面1重凹線内に染付。	17世紀後半
154-126	堺陶器 すり鉢		(36.3)	-	(7.3)		口縁部片		明赤褐		口縁部外面縁帯をなし、内面は内側に折り返す。外面口縁部以下回転ヘラ削り。	18世紀前~中頃
154-127	瀬戸陶器 すり鉢		(36.0)	-	(6.3)		口縁部片		淡黄		口縁部下内面を稜をなして外反。端部肥厚して僅かに内湾。内外面銅釉。	登窯8小期

遺物観察表

154-128	瀬戸陶器 すり鉢		(31.3)	-	(8.0)		1/6		淡黄		口縁部水平に折れた後、上方に立ち上げる。体部外面中位以下回転ヘラ削り。内外面錆蝕。	登窯 5 小期
154-129	龍泉窯系 青磁盤		-	-	-		口縁部片		オリブ 灰	やや不良	体部内面削ぎによる蓮弁が施される可能性高いが、軸が不透明で不明確。	14世紀～15 世紀
154-130	瀬戸・美濃陶器 すり鉢		-	-	-		口縁部片		にぶい黄 橙		やや光沢のある錆蝕。口縁部外方に屈曲し、屈曲部内面に段差。口縁部内面窪み、端部は尖り気味。端部器表小さく剥離。	1 小期
154-131	瀬戸・美濃陶器 すり鉢		-	-	-		口縁部片		浅黄		口縁部内面折り返し段差。端部上面窪む。錆蝕。口縁部端部上面の凸部摩滅し、表面は波状を呈する。	大窯 4 後
155-132	瀬戸・美濃陶器 すり鉢	183	(31.4)	-	(9.0)		体部片		浅黄橙		体部外反。器表ほとんど剥離。内外面錆蝕。	大窯
155-133	瀬戸・美濃陶器 すり鉢		-	-	-		体部片		浅黄		光沢のない錆蝕。器表剥落著しい。すり目単位毎の間隔広い。	古瀬戸IV新か 大窯 1
155-134	志戸呂陶器 すり鉢		-	-	-		口縁部片		明赤褐		光沢のない錆蝕。口縁部小さく内湾し、外面は下方に延びる。口縁部端部摩滅と表面の剥離があり、擦れた部分は波状を呈する。	大窯 4
155-135	在地系 鍋		-	-	-		口縁部片	A	にぶい黄 橙、器表 暗灰		口縁部外反し、端部斜め上方に引き上げる。器壁厚い。外面口縁部以下煤付着。	江戸時代
155-136	在地系 すり鉢		-	(13.8)	(7.4)		1/5	A	にぶい橙	酸化	体部内面花卉状のすり目。体部内面下位使用により器表摩滅。	15世紀か
155-137	製作地不詳陶器 急須		6.3	6.4	6.0		1/2		暗褐		無釉、炆器質の万古風。注ぎ口の網は外側から挿入。外面上下端に1重圏線と刺突文。	近現代
155-138	美濃陶器 汁次		-	(6.8)	(5.0)				灰白		内面から高台脇胎釉。外面の一部薬灰釉？流下する。内面轆轤目顯著。高台脇以下無釉。	登窯 4・5 小 期
155-139	美濃陶器 汁次		(6.0)	-	(2.0)		1/3		灰白		内外面胎釉。口縁部から体部の一部に薬灰釉？流す。取っ手欠損。	登窯 4・5 小 期
155-140	美濃陶器 小壺		-	-	-		1/4		浅黄		内外面柿釉。口縁部と底部欠損。	時期不詳
155-141	肥前か中国磁器		-	-	-		小片		白		外面染付。透明釉やや濁る。	17世紀後半か
155-142	瀬戸陶器 徳利		-	-	-		1/4		浅黄橙		内面約半分と外面柿釉。頸部と肩部の一部に灰釉かかり、胎釉状を呈する。	登窯 3・4 小 期
155-143	肥前陶器 瓶		-	-	-		体部上位 片		灰白		呉器手碗と同様な胎土と釉。内面無釉。	17世紀後半～ 18世紀初頭
155-144	肥前陶器		-	-	-		体部上位 片		灰白		呉器手碗と同様な胎土と釉。内面無釉。	17世紀後半～ 18世紀初頭
155-145	美濃陶器 耳付水注		-	-	-		1/4		灰白		肩部に1カ所耳残存。内外面柿釉？外面上位は胎釉状を呈する。	登窯 1～4 小 期
155-146	美濃陶器 徳利		-	-	-		1/2		淡黄		頸部細く外湾。肩部稜をなして体部に至る。肩部上3条の横線。口縁部内面から外面銅緑釉。貫入する。	登窯 1 小期
155-147	肥前磁器 仏飯器		-	-	-		2/3		灰白		焼成不良により透明やや油濁る。外面1重圏線上に唐草文。	17世紀末～ 18世紀前半
155-148	在地系 皿		(8.6)	5.8	1.8		口縁部 1/4、底 部完	A	にぶい橙		体部僅かに内湾して開き、口縁部丸く肥厚。底部左回転系切無調整。口縁部部に灯芯痕1カ所。	江戸時代
155-149	在地系 皿		9.2	4.8	2.2		ほぼ完形					
155-150 239	在地系 皿	87	9.5	5.6	2.3		1/2	細砂粒	にぶい橙	酸化焰	轆轤整形、回転右回り。底部は回転系切り無調整。	
155-151 239	在地系 皿	133・135	10.0	(6.7)	2.0		1/3(底部 中央欠損)	細砂粒	にぶい橙	酸化焰	轆轤整形、回転右回り。底部は回転系切り無調整。	
155-152 239	在地系 皿		8.4	(4.6)	2.3		1/2	細砂粒	にぶい橙	酸化焰	轆轤整形、回転右回り。底部は回転系切り無調整。	
155-153 239	在地系 皿		8.8	(5.0)	2.4		1/3	細砂粒	にぶい橙	酸化焰	轆轤整形、回転右回り。底部は回転系切り無調整。	
155-154	在地系 皿	179	(11.6)	-	(2.0)		口縁部片	細砂粒	にぶい橙	酸化焰	轆轤整形、回転方向不明。底部は回転系切り後部分的にヘラナデ。	
155-155	在地系 皿		(10.0)	(5.9)	2.3		1/4	A	にぶい黄 橙		体部僅かに内湾し、口縁部僅かに外反。内面底部周縁と内面の2カ所に凹線状の窪み巡る。底部左回転系切無調整。	江戸時代
155-156 239	在地系 皿		10.0	(7.0)	2.4		1/4	細砂粒	にぶい褐	酸化焰	轆轤整形、回転方向不明。底部は回転系切り無調整。	
155-157 239	在地系 皿		8.8	(5.8)	2.1		1/4(底部 中央欠損)	細砂粒	にぶい橙	酸化焰	轆轤整形、回転右回りか。底部は回転系切り無調整。	
155-158	在地系 皿		8.0	(6.2)	2.0		1/4(底部 中央欠損)	細砂粒	浅黄橙	酸化焰	轆轤整形、回転方向不明。底部は回転系切り無調整。	
155-159	在地系 皿		(11.0)	(8.2)	2.3		口縁部片	細砂粒	にぶい橙	酸化焰	轆轤整形、回転方向不明。底部は回転系切り無調整。	
156-160 239	在地系 皿		8.2	(5.0)	2.2		1/4	細砂粒	橙	酸化焰	轆轤整形、回転方向不明。底部は砂底か。	
156-161 239	在地系 皿		9.6	(6.2)	1.8		1/4	細砂粒	にぶい褐	酸化焰	轆轤整形、回転右回り。底部は回転系切り無調整。	
156-162 239	在地系 皿		9.0	(6.0)	2.7		1/4(底部 中央欠損)	細砂粒	にぶい橙	酸化焰	轆轤整形、回転右回り。底部は回転系切り無調整。	
156-163	在地系 皿	182	(10.4)	(6.0)	2.3		口縁部片	細砂粒	にぶい橙	酸化焰	轆轤整形、回転方向不明。底部は回転系切り無調整。	
156-164	在地系 皿		(9.8)	-	(1.9)		口縁部片	細砂粒	にぶい橙	酸化焰	轆轤整形、回転方向不明。底部はヘラナデか。	
156-165 239	在地系 皿		(9.6)	(7.0)	2.1		1/4	細砂粒	にぶい黄 橙	酸化焰	轆轤整形、回転方向不明。底部は回転ヘラ削り。	
156-166	在地系 鍋		(31.0)	(17.8)	11.5		口縁部一 部、底部 1/4	A	黒		口縁部外反し、中程で内湾する。口縁部僅かに窪む。口縁部横撫で。体部外面紐作り痕と指頭庄痕状の凹凸あり。体部外面下位から底部外面型肌残る。体部外面から底部外面煤付着。	江戸時代
156-167 239	在地系 鍋		30.5	17.0	12.6		口縁部と 底部1/2 欠	A	灰黄褐		内面器表灰色、体部外面から底部外面器表黒色。口縁部僅かに外反して開き、中央でやや内湾する。口縁部内面に内耳を意識した粘土紐を貼り付ける。中央部外面は突出するが、中央部に隙間は認められない。底部外面から体部外面下位型肌明瞭に残る。体部から口縁部外面の一部に型肌残る。	江戸時代
156-168	在地系 内耳鍋		-	-	-		口縁部片		にぶい黄 褐、器表 灰～暗灰		口縁部やや短い。内耳部のためやや変形し、口縁部形態不明瞭。口縁部水平で、外方に僅かな張り出し。内面口縁部下の段差不明瞭。	16世紀



遺物観察表

156-169	在地系鍋		-	-	-		口縁部片	A	暗灰		断面中央から暗灰色、灰黄色、褐色のサンドイッチ状。体部から口縁部僅かに内湾し、直線的に開く。口縁部丁寧な横撫でにより、僅かに内湾。内面口縁部下横線状に窪む。外面口縁部以下紐作り痕と指頭圧痕状の凹凸あり。外面口縁部以下煤付着。	江戸時代
156-170	在地系内耳鍋		-	-	-		口縁部片	A	にぶい褐、外面器表黒褐		口縁部短く、体部外面境を凹線状に窪ませる。口縁部緩く内湾。口縁部僅かに窪み、内面小さく張り出す。	大窯 I
156-171	在地系鍋		-	-	-		口縁部片	A	黄灰、器表暗灰		体部から口縁部直線的に開く。器壁薄い。口縁部丁寧な横撫で。口縁部内面下端横線状に浅く窪む。外面口縁部以下紐作り痕とヘラ削り痕残る。外面下位煤付着。	江戸時代
156-172	在地系鍋		-	-	-		口縁部片	A	灰白、器表褐灰		口縁部強い横撫でにより小さく外反する。端部内面は段差をなし、端部上面はやや平坦。外面接合痕明瞭に残る。	江戸時代
156-173	在地系鍋		-	-	-		口縁部片	A	暗灰		口縁部器表付近灰黄色。体部から口縁部直線的に開く。内面から口縁部外面横撫で。内面口縁部下浅い横線状の条線 2 条。外面口縁部以下紐作り痕と指頭圧痕状の凹凸あり。外面煤付着。	江戸時代
156-174	在地系焙烙		(38.2)	(36.6)	5.4		1/5	A	暗灰		断面暗灰色、器表付近灰白色、内面器表暗灰、底部内面器表灰白色、口縁部から体部外面黒色、底部外面浅黄橙～黒色。内耳部 1カ所残存。内耳下部は底部に貼付。外面中位紐作り痕残る。体部外面下位から底部外面型肌。体部から口縁部外面一部に煤残る。	江戸時代
156-175	在地系焙烙		(33.6)	(31.6)	5.3		1/4	A	黒		断面黒色、器表付近灰白色、内面器表灰色から灰白色、口縁部から体部外面暗灰色、底部外面にぶい黄橙色。口縁部上面沈線状に小さく窪む。体部外面紐作り痕残る。内耳下部は底部に貼付。底部外面から体部外面下位縮縮状型肌。体部外面煤付着。	江戸時代
156-176	在地系焙烙		(39.6)	-	(4.5)		1/4	A	にぶい褐～にぶい橙		断面にぶい褐色からにぶい橙色、器表暗灰色から灰色。外面中位紐作り痕、下位縮縮状の型肌残る。	江戸時代
156-177	在地系焙烙	157	35.0	(33.0)	5.5		1/3	A	灰		断面灰色、器表付近にぶい褐色、内面器表灰白色、外面器表暗灰色。口縁部内面側が次第に薄くなり、端部丸みを帯びる。内耳下部は体部と底部境に貼り付ける。外面中位紐作り痕、体部外面下位から底部外面縮縮状型肌残る。外面中位に補修孔 1カ所残存。	江戸時代
156-178	在地系焙烙		(41.4)	(38.0)	5.3		1/6	A	暗灰		断面暗灰、器表付近灰白色、器表黒色から灰白色。口縁部内面凹線巡り、凹線上に内耳上部の貼付痕残る。内面下位と外面中位に紐作り痕残る。外面下位から底部外面型肌。体部外面下位は撫で調整後にヘラナデ。	江戸時代
156-179	在地系焙烙		-	-	5.5		破片	A	暗灰		断面暗灰色、器表付近にぶい褐色、口縁部から体部外面黒色、内面器表灰色から灰白色。底部外面器表暗灰色。内耳下部底部と体部境に貼付。外面体部下位凹凸著しい。	江戸時代
156-180	在地系焙烙		-	-	6.2		破片	A	黒		断面黒色、器表にぶい褐色、内面器表暗灰色、外面器表黒色。体部中位紐作り痕、体部外面下位括れ、型肌残る。内面断面円形の耳貼付。耳下部は体部下端に貼り付ける。耳中央部の体部側は浅く窪ませる。	中世～江戸時代
156-181	在地系焙烙		-	-	5.8		破片	A	黒		断面黒色、器表付近にぶい褐色、器表灰色から暗灰色。内面耳貼付。耳下部は底部周縁に位置する。口縁部内傾し、上面わずかに窪む。外面中位紐作り痕残る。外面下位から底部外面型肌残り、体部下位はかるく撫で消す。	江戸時代
156-182	在地系焙烙	139	-	-	-		口縁部?片	A	にぶい橙、器表黒		腫し焼成。口縁部平坦。端部内面上方からの加撃による小剥離多い。台部の可能性もある。	中世以降
157-183	在地系焙烙	157	(38.4)	(36.0)	5.8		1/7	A	暗灰		断面暗灰色、器表付近にぶい褐色、口縁部から体部外面黒色、内面器表灰色から灰白色。底部外面器表黄灰色。内面中位輪軸目状に突き出る。外面中位紐作り痕明瞭。外面下半から底部外面型肌。外面 2 段約 5 cm 間隔で指厚痕状のくぼみ連続する。	江戸時代
157-184	在地系焙烙		(36.8)	(34.6)	5.3		1/8	A	黒		断面黒色、器表付近にぶい褐色、外面器表暗灰色、内面器表にぶい黄橙色。外面上中位紐作り痕わずかに残る。外面下位から底部外面型肌。外面体部下位やや弱い横撫で。	江戸時代
157-185	在地系焙烙		(39.8)	(35.6)	5.2		1/4	A	黒		断面黒色、器表付近にぶい黄褐色、体部から口縁部暗灰色から灰色。底部外面暗灰色。底部内面暗灰色から灰色。口縁部小さく窪む。口縁部から体部外面中位紐作り痕残る。下位は型肌を横位ヘラナデによりほとんど撫で消す。底部外面型肌残る。	江戸時代
157-186	在地系焙烙		(38.8)	(36.6)	5.4		1/4	A	黒		断面暗灰色、器表付近灰白色、内面器表灰白～灰色で底部は灰白色、口縁部から体部外面黒色、底部外面浅黄褐色。口縁部強い横撫でにより、内外面段差状に窪む。口縁部上面外寄凹線状に窪む。外面上位紐作り痕残る。体部外面下位から底部外面型肌残り、型の段差による圧痕が認められる。	江戸時代
157-187	在地系焙烙		(39.6)	(35.8)	5.7		1/6	A	灰白、器表黒		底部内面器表と外面体部下端から底部外面器表灰白色。外面中位紐作り痕残る。外面下位から底部外面型肌。内面中位に明瞭な段差巡る。	中世から江戸時代
157-188	在地系焙烙		(35.8)	(33.0)	5.6		1/7	B	にぶい橙		断面と体部外面下端から底部外面器表にぶい褐色。口縁部から体部内外面器表暗灰色から黒色。底部内面器表にぶい黄褐色。口縁部内反し、端部は幅広で平坦。口縁部から体部内面上位の強い撫でにより、下部に緩い段が生じる。内耳は 1カ所残存し、下部は体部下端に貼り付ける。貼付部は扁平で、中央部の体部内面側の窪みは不明瞭ながら存在する。耳両端に摩擦が認められる。体部外面下位から底部外面型肌残り、体部外面下位は型肌を消しきれない程度のヘラナデを行う。	内耳両端摩擦減。中世から江戸時代
157-189	在地系焙烙	174	(35.2)	(33.8)	5.6		1/4	A	暗灰		断面暗灰色、器表付近灰白色、内面器表灰白～灰色、口縁部から体部外面黒色、底部外面浅黄褐色。内外面紐作り痕残る。体部外面下位から底部外面型肌残る。	江戸時代
157-190	在地系焙烙	168	-	-	5.5		破片	A	黒		断面黒色、器表付近灰白色、器表暗灰から黒色、内面器表暗灰色、外面黒色。外面中位以下型肌。外面中位と内面上位と下位に紐作り痕。	江戸時代
157-191	在地系焙烙		-	-	5.8～6.0		破片	A	にぶい褐、器表黒～暗灰		器壁厚く、残存部内面両側に窪みと耳貼付痕が認められる。残存部内面左側には耳下部貼付痕が残る。外面中位紐作り痕残る。外面中位以下から底部外面型肌残り、体部外面はほぼ撫で消す。外面体部下端から後部外面器表褐色。体部内面には段は認められない。	中世から江戸時代
157-192	在地系焙烙		-	-	6.0		破片	A	にぶい褐、器表黒～暗灰		断面中央の一部黒色。内耳下部は体部と底部境に貼り付ける。内外面中位紐作り痕残る。外面下位から底部外面型肌残る。	江戸時代
157-193	在地系焙烙		-	-	-		口縁部片	A	灰白、器表黒		断面円形の内耳を貼り付け、下部は体部に位置する。内耳中央部体部側は大きく窪み、外面は突出し変形が著しい。外面下位型肌残る。内耳上部の両端器表摩擦減し、灰白色が露出する。	中世から江戸時代
157-194	在地系焙烙		-	-	5.5		破片	A	灰		断面灰色、内面器表と外面器表付近灰白色、外面器表黒色。内耳下部は底部と体部の境に貼り付ける。外面下半から底部外面型肌。	江戸時代



遺物観察表

157-195	在地系内耳鍋		-	-	-		口縁部片	A	にぶい褐、外面器表黒灰		口縁部短く、体部外面境を凹線状に窪ませる。口縁部緩く内湾。口縁部端僅かに窪み、外面は丸味を帯びる。端部内面小さく張り出す。	1期
157-196	在地系焙烙		-	-	5.0		破片	A	褐、器表暗灰		体部内湾し、口縁部直線的に伸びる。内面に耳貼付痕があるが、幅広く薄い。外面中位組作り痕、中位以下型肌残る。	江戸時代
157-197	在地系不詳		-	-	-		破片	A	黄灰		焼し焼成。外面と端部器表灰色でキラ附着。胎土・焼成は瓦と同様であるが、内面指頭圧痕の凹凸あり。外面2種の小押印。	江戸時代以降か
157-198	在地系すり鉢		-	-	-		体部下位片	A	にぶい褐	酸化～還元	体部下位片。体部内面下位使用による摩滅著しい。内面すり目。	15世紀中～16世紀
157-199	在地系すり鉢	170	-	-	-		体部下位片	A	灰褐	還元	体部下位片。内面下部使用により摩滅。	中世
157-200	在地系鍋		-	-	-		底部片	A	暗灰		底部中央から底部周辺片。内面押印1カ所。外面煤附着。	江戸時代か
157-201	在地系焙烙か鍋		-	-	-		底部片	A	灰白		断面灰白色、器表付近淡褐色、内面器表にぶい橙色、外面器表灰色。底部内面に押印1カ所。厚みから焙烙底部の可能性が高い。	江戸時代
157-202	在地系すり鉢		-	(9.0)	(3.4)	1/4	A	灰黄褐	酸化～還元		内面器表にぶい橙色。体部内面下位と底部周縁使用により摩滅。底部と体部境は摩滅していない。底部外面回転糸切痕僅かに残る。	15世紀中～16世紀
157-203	常滑陶器円盤状製品(二次加工品)	4.8	4.6	1.2					褐灰		中世常滑の体部片を細かく打ち欠いて円盤状に整形。整形時期は不詳。	中世
157-204	肥前陶器呉器茶碗		-	5.2	(2.8)		底部		灰白		高台端部を除き透明釉。高台脇を外面から細かく打ち欠いて整形。	17世紀後半
157-205	在地系円盤状土製品(焙烙)	3.8	3.9	0.7			完形	A	暗灰		断面暗灰色、器表付近にぶい橙、器表灰白色。焙烙底部片の周囲を細かく打ち欠き円盤状に整形。	江戸時代か
157-206	肥前磁器碗		-	(3.4)	(1.6)				白		高台周辺を調整剥離して円盤状に整形した可能性高い。	江戸時代
158-207	美濃陶器鉄絵皿(円盤状製)	6.1	5.5	1.1			完形		淡黄		底部内面鉄絵。内外面灰釉。鉄絵鉢底部片を細かく打ち欠いて円盤状に整形。整形時期不詳。	登窯1～4小期
158-208	在地系円盤状土製品(焙烙)	4.8	4.4	0.6			完形	A	黒		断面黒色、器表付近灰白色、器表灰色。焙烙の底部片周囲を細かい叩打により円盤状に整形。	江戸時代か
158-209	美濃陶器尾呂茶碗		-	5.4	(1.8)		底部		灰白		器壁厚い。内面胎釉。薄い胎釉化粧掛け。高台周辺を細かく打ち欠き円盤状に整形。	登窯5小期
158-210	肥前陶器呉器茶碗		-	5.1	(2.1)		底部		灰白		高台内の挟り深い。高台端部を除き透明釉。高台周縁で体部を打ち欠き、円盤状に整形している可能性高い。	17世紀後半～18世紀初頭
158-211	肥前陶器呉器茶碗		-	5.6	(2.0)		底部		灰白		高台径大きく、高台内の挟り浅い。高台端部を除き透明釉。高台周縁の体部を打ち欠き、円盤状に整形した可能性高い。	17世紀第2四半期～後半
158-212	美濃陶器尾呂茶碗		-	5.6	(1.4)				灰白		高台断面方形。内面胎釉。外面薄く鉄化粧。高台脇で円形に割れる。細かい叩打や擦りは認められないが、円盤に加工した可能性がある。	登窯5・6小期
158-213	瀬戸・美濃陶器円盤状製品(黄瀬戸鉢)	4.2	4.2	0.6			完形		淡黄		内面櫛描き波状文。内外面黄瀬戸釉に内面のみ銅緑釉を流す。黄瀬戸鉢体部中位片を細かく打ち欠いて円盤状に整形。整形時期不詳。	登窯1・2小期
158-214	在地系置輪か	37.1	29.0	18.7		1/2	A		黒褐		体部中位には楕円形の窓を設け、残存部に1カ所直径3cmの円窓がある。上部には隙間を埋めるように漆喰状のものを詰めている。	近現代か
158-215	在地系? 焔炉		-	22.6	(12.8)		体部下半	A	褐灰		焔炉内側か。下部に空気窓を設け、残存部中位内面に網受け2カ所残存するが、配置から3カ所と考えられる。体部内面の網受け上部2～3cm間は赤変し、さらには高熱により若干表面が溶け、ひび割れている。外面鈔の上下には筋状の錆が付着しており、針金状の鉄線で補強した痕跡と考えられる。	近現代か
158-216	銅製品煙管		口径1.5	-	(1.1)	1.9					雁首。火皿	
158-217	銅製品煙管		口径1.3	-	(0.7)	2.7					雁首。火皿	
158-218	鉄製品釘	(5.4)	0.6	0.5	6.0		先端欠				断面四角形で、先端を欠損する。頭部は不整形円形の笠状を呈している。	頭部幅1.9cm
158-219	鉄製品釘	5.5	0.9	0.3	2.0		完形				断面四角形で、中程で直角に曲がっている。頭部は片側にやや肥厚している。	
158-220	石製品砥石	(10.1)	3.4	2.5	70.2	2/3か	砥沢石				現存長10.2cm。右側面を水平にした場合の幅は2.5cm～3.1cm、同一箇所での表裏面幅の差は7mm。砥面は表面のみで両側面と裏面には平整痕が残る。砥面は中央部の稜がややきつく、小口面に向かって傾斜するが、側面側への傾斜が非常にきついが特徴である。端部が残る上半では、裏面幅は半分まで研ぎ減っている。中砥、3面不使用。	幅:2.5～3.1cm 差:7mm 砥面:1d-1
158-221	石製品砥石	(11.7)	4.0	3.7	153.4	2/3か	砥沢石				現存長12.1cm。右側面を水平にした場合の幅は2.6～3.3cm、同一箇所での表裏面幅の差は6mm。砥面は表裏2面で、研ぎ減り具合はほぼ同じである。両側面は不使用で平整痕が残る。幅に比して最厚部が大きく、幅の狭い面を砥面として選択したことが分かる。	幅:2.6～3.3cm 差:6mm 砥面:表裏1d-1
158-222	石製品砥石	(10.7)	3.2	1.5	80.6	2/3か	砥沢石				現存長10.7cm。左側面を水平にした場合の幅は2.6～3.1cm、同一箇所での表裏面幅の差は4mm。砥面は表面1面のみで、両側面と裏面には櫛刃状整痕が残る。上部小口面に櫛刃状整痕は認められない。砥面はかなり平坦で稜線部分と窪みの比高差は2・3mmである。砥面全体の形状としては、一般的な中央が高く小口に向かって傾斜するパターンである。中砥、3面不使用。	幅:2.6～3.1cm 差:4mm 砥面:1a-2
159-223	石製品砥石	(5.3)	3.3	2.9	72.4	破片	砥沢石				現存長5.4cmと遺存が悪い。主要砥面は表面で、中央付近を境に小口側に傾斜する。裏面はほぼ平坦で櫛刃状整痕の深い部分が残り、未使用に近い状態。両側面は未使用で櫛刃状整痕が残る。左側面を水平にした場合の幅は3.2～3.3cm。同一箇所での表裏面幅の差は9mm。中砥、両側不使用。	幅:3.2～3.3cm 差:9mm 砥面:1b
159-224	石製品砥石	(6.4)	2.9	2.1	70.7	1/2か	砥沢石				砥面は1面で表面は波状を呈する。両側面、裏面、下部小口面には櫛刃状整痕が残る。右側面を水平にした場合の幅は2.8～2.9cmと一定。同一箇所での表裏面幅の差は7mm。中砥、3面不使用。	幅:2.8～2.9cm 差:7mm 砥面:-2
159-225	石製品砥石	(7.9)	2.8	2.0	71.7	1/2	砥沢石				現存長7.9cm。右側面を水平にした場合の幅は1.8～2.7cm。同一箇所での表裏面幅の差は3mmと小さい。砥面は表面のみである。両側面と上部小口に櫛刃状整痕残る。表面は、中央が高く小口面に向かって傾斜し、傾斜部中程でやや窪んだ後に厚みを増し、再び小口面に向かって傾斜する。上部小口付近砥面は、左側面に向かってゆるく傾斜する。中砥、3面不使用。	幅:1.8～2.7cm 差:3mm 砥面:1a-4

遺物観察表

159-226 240	石製品 砥石		(4.7)	(4.1)	1.5	31.9	破片	珪質粘板 岩		両側面と残存する小口面には切断もしくは調整時の条線残る。表面は大きく凹み、残存部で0.6cmほどの厚さとなり、中央部は更に薄かった可能性が高い。裏面も使用するが、表面ほど使用していない。仕上砥、表裏2面使用。	砥面：形状不明
159-227	石製品 砥石		(9.4)	2.6	2.1	86.8	2/3か	砥沢石		現存長9.9cm。主要砥面は表面で、中央部はほぼ平坦で左側面側にやや傾斜し、小口付近で端部に向かい傾斜する。裏面は櫛刃状整痕の深い部分が条線状に残り、軽微な使用もしくは砥面調整を行った状態である。両側面には櫛刃状整痕が残り、整痕の最大幅は10mm。櫛刃状整痕は、幅の1/3程度に条線が認められるのみで、2/3程は平整状を呈する。左側面を水平にした場合の幅は2.0～2.9cm。同一箇所での表裏面幅の差は6mm。中砥、2面不使用。	幅：2.0～2.7 cm 差：6mm 砥面：表1 b-1、裏Ⅲ
159-228	石製品 砥石		(7.8)	2.9	1.6	59.0	2/3か	砥沢石		現存長7.9cm。砥面は表面のみで凹凸は少ないが、中央付近が高く、一端窪んだ後に小口付近で厚みを増し、再び小口に向かって傾斜する。両小口欠損。左側面を水平にした場合の幅は2.5cm～3.0cm。同一箇所での表裏面幅の差は7mmと大きい。両側面と裏面には平整痕が残るが、左側面は櫛刃状整痕か。中砥、3面不使用。	幅：2.5～3.0 cm 差：7mm 砥面：1 a-2
159-229	石製品 砥石		(8.6)	2.1	1.8	45.1	2/3か	砥沢石		現存長8.6cm。砥面は表面のみで、中央付近を境に小口側に傾斜する。左側面を水平にした場合の幅は2.0～2.1cm。同一箇所での表裏面幅の差は4mm。両側面と裏面に櫛刃状整痕残る。中砥、3面不使用。	幅：2.0～2.1 cm、差：4mm 砥面：1 a
159-230	石製品 砥石		(7.2)	2.6	2.2	43.7	1/3か	砥沢石		現存長7.1cm。左側面を水平にした場合の幅は2.1～2.6cm。右側面の傾斜がきつくと、同一箇所での表裏面幅の差は9mmと大きい。砥面は表裏2面で、両側面には平整痕が残る。主要砥面は表面で、傾斜面下端と同方向の条線が認められる。中砥、2面不使用。	幅：2.1～2.6 cm、差：9mm 砥面：表1 a-4、裏1-3
159-231	石製品 砥石		(5.1)	5.3	2.4	97.1	小口片	砥沢石		表面が左側面の位置に図示されているが、本来は左端の面が表面である。以下左端に図示された面を表面として記述する。存長5.1cmで下部小口面残る。幅は2.6cmで同一箇所における表裏面幅は10mmと大きい。砥面は表面のみで、幅の狭い2面中、より幅広い面を選択している。3面不使用で、両側面と裏面、小口面には櫛刃状整痕が残る。小口片のため砥面の全体形状は不明。中砥、3面不使用。	幅：2.6cm 差：10mm 砥面：-4
159-232	石製品 砥石		(7.9)	2.1	3.1	91.0	1/2	砥沢石		現存長7.9cm。右側面を水平にした場合の幅は2.4～2.8cm。同一箇所での表裏面幅の差は12mmと大きい。砥面は表面のみで、裏面と両側面には櫛刃状整痕が残る。下部小口面にも不明瞭だが櫛刃状整痕が残る。砥面は、残存部中央がやや盛り上がるがほぼ平坦で、厚みも3.1cmと厚いため使用頻度が少ない可能性が高い。中砥、3面不使用。	幅：2.4～2.8 cm 差：12mm 砥面：Ⅲ
159-233	石製品 砥石		(4.0)	2.7	1.6	24.2	小口片	砥沢石		現存長4.0cm。左側面を水平にした場合の幅は2.4～2.6cm。同一箇所での表裏面幅の差は4mm。表面のみ使用され、他の3面には櫛刃状整痕が残る。また、残存する下部小口面にも櫛刃状整痕が残る。中央部が欠損するため不明瞭であるが、砥面は中央部が高く、端部に向かい薄くなり、小口面付近で一端厚くなり、再び小口面に向かい薄くなるタイプであろう。中砥、3面不使用。	幅：2.4～2.6 cm 差：4mm 砥面：1 -4か
159-234 240	石製品 砥石		(15.2)	3.3	3.5	155.9	小口欠	砥沢石		主要砥面は表面で、裏面はほぼ平坦で軽微な使用であろう。両側面には平整痕が残る。整痕には浅い条線が認められる。現存長15.1cm。左側面を推定にした場合の幅は1.9～2.9cm。同一箇所での表裏面幅の差は5mm。表面は中央が高く、小口に向かい薄くなるが、下半の摩擦がより著しく急傾斜となる。中砥、両側面不使用。	幅：1.9～2.9 cm、差：5mm 砥面：表1 a-1・1b-1、 裏Ⅲ
159-235	石製品 砥石		13.9	2.9	3.7	143.0	ほぼ完形	砥沢石		表面のみ使用され、中央付近が厚く、小口に向かって傾斜する。左側面を水平にした場合の幅は2.0～2.7cm。同一箇所での表裏面幅の差は13mm。両側面と裏面は未使用で平整痕が残る。最も広い平整痕幅は12mm。左側面は比較的平坦であるが、右側面は裏面に向かって傾斜する箇所が多い。側面がより幅広であるが、狭い表面を砥面に選択している。中砥、3面不使用。	幅：2.0～2.7 cm 差：13mm 砥面：1 b-1
159-236	石製品 砥石		(12.0)	2.6	2.2	91.7	両小口欠 損	砥沢石		現存長11.9cm。左側面を水平にした場合の幅は1.6cm～2.6cm。同一箇所での表裏面幅の差は4mm。不使用面は左側面1面のみで、丸整工具痕が残る。表面と右側面は中央が高く両小口に向かい傾斜するが、裏面はほぼ平坦な砥面である。中砥、1面不使用。	幅：1.6～2.6 cm、差：4mm 砥面：表・右 側1 b、裏Ⅲ
159-237	石製品 砥石		20.5	4.6	4.6	757.1	完形	砥沢石		長さ20.4cm。幅は4.1～4.8mmであるが、研ぎ減りによる差である。厚さは4.6cmと幅に近い、断面形は正方形に近い。両小口面には平整痕が残る。表面は中央が低く小口付近で厚みが増し、小口に向いて低くなる。左側面も中央部が窪む。右側面と裏面はほぼ平坦である。表面と裏面には細かい斜位条線が密に認められる。両側面に認められる横位条線はやや粗い。裏面の上部小口面付近には平整痕が斜めに残っている。中砥、1面不使用か。	幅：4.1～4.8 cm 差：- 砥面：表Ⅱ b-3、左側Ⅱ e-5、右側・ 裏Ⅲ
159-238	石製品 砥石		(8.2)	2.8	3.0	71.5	1/2	砥沢石		現存長8.1cm。右側面を水平にした場合の幅は2.2～2.8cm。同一箇所での表裏面幅の差は7mmと大きい。砥面は表面のみで、裏面と両側面には櫛刃状整痕が残る。下部は中央付近まで残り、高さは幅とほぼ同じ2.9cmである。中砥、3面不使用。	幅：2.2～2.8 cm 差：7mm 砥面：1 b-1
159-239 240	石製品 砥石		(10.4)	2.7	2.6	80.5	小口欠	砥沢石		主要砥面は表面で、裏面は僅かに使用する。両側面は不使用。現存長10.3cm。左側面を水平にした場合の幅は1.7～2.7cm。同一箇所での表裏面幅の差は7mm。両側面と裏面下半には平整痕残る。表面の中央は高く、両小口に向かって傾斜する。中砥、両側面不使用。	幅：1.7～2.7 cm 差：7mm 砥面：1 b-1
159-240	石製品 砥石		(4.6)	3.2	2.2	50.3	小口片	砥沢石		現存長4.6cm。小口面際を除く幅は2.8～3.2cm。同一箇所での表裏面幅の差は3mm。両側面と小口面には平整痕が残る。両側面と小口面の境は面取り状に整形される。主要砥面は表で、小口面に向かって傾斜した後、厚みを増し、再び傾斜する。裏面は傾斜が不明瞭で横断面が鈍錐状を呈する。中砥、両側面不使用。	幅：2.8～3.2 cm、差：3mm 砥面：表1 b-4か、裏Ⅲ か
159-241 240	石製品 砥石		(3.0)	2.8	1.3	11.8	小口片	砥沢石		残存長3.1cmと短く、欠損部の厚さは7mmと薄い。研ぎ減りにより薄くなった箇所から折れたと考えられる。幅は2.1～2.3cm。薄いため表裏面幅の差は1mm程度である。砥面は小口付近が高く、欠損部と小口面に向かい傾斜する。中砥、3面不使用。	幅：2.1～2.3 cm 差1mm 砥面1? -4
160-242	石製品 砥石		(8.8)	2.7	2.1	88.8	2/3か	砥沢石		現存長8.9cm。砥面は表面のみで、中央付近がやや窪み厚みを増した後、小口付近で傾斜する。中央付近は左半分が左側に傾斜する。右側面を水平にした場合の幅は1.9～2.7cm。同一箇所での表裏面幅の差は5mm。小口面の調整痕は不明であるが、両側面と裏面には最大幅10mmの平整痕が残る。整痕に对こぼれがあるようで、細かい条線が認められる。中砥、3面不使用。	幅：1.9～2.7 cm 差：5mm 砥面：Ⅱ d-4
160-243	石製品 砥石		(6.2)	2.8	2.7	70.3	1/2か	砥沢石		現存長6.2cm。右側面を水平にした場合の幅は2.5～2.8cm。同一箇所での表裏面幅の差は5mm。表面のみ使用される。砥面は中央が高く、小口面に向かって傾斜すると考えられる。両側面と裏面には櫛刃状整痕が残る。3面共に櫛刃状整痕による整形後、一部平整による整形が認められる。中砥、3面不使用。	幅：2.5～2.8 cm 差：5mm 砥面：1 a
160-244	石製品 砥石		(6.8)	3.2	2.2	57.2	1/2か	砥沢石		現存長6.8cm。砥面は表の1面のみで両側面と裏面には平整痕が残る。表面の摩擦は顕著で、中央付近が高く、小口に向かって大きく傾斜する。両小口欠損。右側面を水平にした場合の幅は2.6cm～3.2cm。同一箇所での表裏面幅の差は7mmと大きい。裏面に「三〇(1字不明)」の文字と考えられる刻書。中砥、3面不使用。	砥沢石 幅：2.6～3.2 cm 差：7mm 砥面：表1 b

遺物観察表

160-245 240	石製品 砥石		(3.8)	(4.3)	1.5	23.4	破片	珪質粘板 岩		側面と小口には切断もしくは整形時の条線残る。表面のみの使用で、砥面は急傾斜をなす。残存部の薄い部分は厚さ0.2cm。裏面は鑿状工具の削り痕を明瞭に残す。上砥、1面使用。	砥面：形状不明
160-246	石製品 砥石		(8.1)	2.8	2.2	63.9	2/3か	砥沢石		表面のみ使用され、残る3面には櫛状状鑿痕が残る。左側面を水平にした場合の幅は2.4～2.6cm。同一箇所での表裏面幅の差は6mm。表面は中央付近を境に小口側に傾斜する。傾斜部分には条線が認められる。中砥、3面不使用。	幅：2.4～2.6 cm 差：6mm 砥面：1b
160-247	石製品 砥石		(8.1)	2.5	2.0	47.8	2/3か	砥沢石		表面のみ使用し、中央付近を境として小口に向かい傾斜する。他の3面は櫛状状鑿痕が残り不使用。左側面を水平にした場合の幅は1.8～2.6cm。同一箇所での表裏面幅の差は4mm。両小口欠損。右側面に欠損したような箇所があるが、凸部に櫛状状鑿痕が認められ、使用以前の剥落が整形以前の窪みであろう。中砥、3面不使用。	幅：1.8～2.6 cm 差：4mm 砥面：1a+1b
160-248	石製品 砥石		(8.5)	3.0	3.2	80.1	1/2か	砥沢石		表面の使用頻度が最も高く、小口に向かって強く傾斜する。両側面は不使用で平鑿痕が残る。鑿痕幅は1.1cm。裏面には凹凸があり軽微な使用であろう。右側面を水平にした場合の幅は2.2～2.7cm。同一箇所での表裏面幅の差は3mm。中砥、両側面不使用。	幅：2.2～2.7 cm 差：3mm 砥面：表1b
160-249	石製品 砥石		(8.2)	2.1	2.2	48.1	破片	砥沢石		主要砥面は表面だが、欠損部が多く砥面形状は不明。右側面の1/2は使用されるが、残りの部分には平鑿痕が残る。裏面は不使用で平鑿痕が残る。左側面は欠損。上部は、表面から中央に向かって平鑿痕が認められ、中央部で折れている。また、裏面には溝状の切り込みもあり、人為的な折取りであろう。この折取りは左側面欠損以前であるが、製作時、使用時のいずれかは不明。中砥、1面不使用(1面欠損)。	幅・差：不明 砥面：不明
160-250	石製品 砥石		(7.0)	3.1	2.4	85.6	1/2か	砥沢石		現存長7.0cmで幅3.0～3.1cmと差が少ない。横断面形も長方形で側面はほぼ平行する。下方の小口は残存。いずれの面も整形用工具痕が見えず、小口側にやや傾斜しており使用された可能性が高い。主要砥面は表面で、小口面に向かって厚みを増した後、小口側に緩く傾斜する。横断面形は長方形で整っている。中砥、4面使用。	幅：3.0～3.1 cm 差：1mm 砥面：表面： II b-2
160-251 240	石製品 砥石		(5.8)	3.0	2.2	45.3	1/3	砥沢石		現存長5.5cm、幅2.9cm、同一箇所での表裏面幅の差は2mm。砥面は表面のみで両側面と裏面には櫛状状鑿痕残る。中砥、3面不使用。	幅：2.9cm 差：2mm 砥面：1a
160-252	石製品 砥石		(8.1)	2.7	1.9	63.1	2/3か	砥沢石		両側面と裏面に櫛状状鑿痕が残る。左側面を水平にした場合の幅は2.3～2.8cm。同一箇所での表裏面幅の差は5mm。裏面は低い部分に櫛状状鑿痕があり、使用頻度は少ない。裏面鑿痕付近には条線が認められる。中砥、両側面と裏面不使用。	幅：2.3～2.8 cm 差：5mm 砥面：1b
160-253	石製品 砥石		(7.6)	2.9	1.6	53.9	2/3か	砥沢石		両側面に櫛状状鑿痕が残る。片側面を水平にした場合の幅は2.2～2.9cm。裏面の幅が狭く、同一箇所での表裏面幅の差は最大5mmである。裏面には窪みが多数認められ、軽微な使用であろう。表面は小口側に向かって傾斜する。中砥、両側面不使用。	幅：2.2～2.9 cm 差：5mm 砥面：表1a、 裏1c-4
160-254	石製品 砥石		(7.3)	2.7	2.5	80.1	1/2か	砥沢石		主要砥面は裏面で、小口側に向かって斜めに傾斜する。表面はほぼ平坦で使用頻度は少ない。両側面には平鑿痕が残り不使用。鑿痕幅は1.1cm。右側面を水平にした場合の幅は2.2～2.6cm。同一箇所での表裏面幅の差は5mm。主要砥面の側面寄りに細かい条線が認められる。砥面中央を横切る溝状条線は廃棄後の傷と考えられる。中砥、両側面不使用。	砥沢石 幅：2.2～2.6 cm 差：5mm 砥面：表1b、 裏III
160-255	石製品 砥石		(9.0)	2.7	3.2	92.0	1/2か	砥沢石		現存長9.0cm。右側面を水平にした場合の幅は1.9～2.7cm。同一箇所での表裏面幅の差は5mm。砥面は表裏2面、両側面は不使用で櫛状状鑿痕が残るが、窪みが多く整形は雑である。裏面には横方向の条線が認められる。表裏の砥面は中央が高く、小口側に向かい傾斜する。小口付近で一端厚みを増した後、再び小口面に向かって傾斜する。中砥、両側面不使用。	幅：1.9～2.7 cm 差：5mm 砥面：表1 a-3、裏1a-4 か
160-256	石製品 砥石		(14.2)	(8.6)	2.6	-	破片	緑色片岩		右上部片。主尊上端が左下に残る。主尊はキリークか。2条線なし。裏面に剝離時の矢痕なし。	
160-257	石製品 砥石		(4.9)	2.8	2.3	48.4	小口片	砥沢石		現存長4.8cm。右側面を水平にした場合の幅は2.5～2.6cm。同一箇所での幅の差は5mm。主要砥面は表面で中央部が高かった可能性が高い。小口付近は一端高くなり、再び小口面に向かって小さく傾斜する。裏面は小口面に向かって緩く傾斜するが、中央部はほぼ平坦の可能性が高い。右側面の下部1/3には軽微な使用もしくは砥面調整がなされるが、上部2/3には鑿痕が残る。左側面は不使用で鑿痕が残る。表面を除く3面には断面「U」字状の溝を廻らす。この溝の周囲には平行する条線がある。また、表裏面には斜行する条線が認められる。特に裏面には全体に短い条線がある。中砥、両側面不使用。	幅：2.5～2.6 cm 差：5mm 砥面：表1 b-4、裏1c-1
160-258 240	石臼 下臼	176	33.3	31.7	17.5	23400.0	縁を欠損	粗粒輝石 安山岩		下臼、心棒孔は貫通、擦面は磨滅が激しく目の状態は溝の痕跡も不明。擦面の3か所に浅い窪みがある。	
161-259 240	石臼 上臼	177	(25.5)	(13.5)	8.1	2950.0	1/3	粗粒輝石 安山岩		上臼、擦面は磨滅が激しく目の状態は不明、上縁も擦り減って本来より低くなっている可能性がある。	
161-260 240	石製品 くぼみ石		26.6	26.8	17.5	12900.0	ほぼ完形	粗粒輝石 安山岩		全体的に隅を丸く加工、上面中央に径10.0×9.0cm、深さ3.5cmの窪み。	
161-261 240	五輪塔 火輪		30.2	30.3	18.0	15100.0	4/5	粗粒輝石 安山岩		火輪、笠の傾きが均等ではない。上面中央に風輪を差し込むほぞ穴。	

田口上田尻遺跡 8・48b号溝接合

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
162-262	在地系 焙烙		38.6	(34.8)	5.4		1/3	A	灰		断面灰色、器表付近にぶい橙色、内面器表暗灰色から灰色、外面器表黒色。内面明瞭な段を有し、内耳下部は体部下位に貼り付ける。耳部中央の体部内面は窪ませる。口縁上部上面明瞭に窪む。体部外面下位から底部外面型肌残る。口縁部外面紐作り痕残る。内耳2カ所残存。	
162-263	在地系 焙烙		(32.8)	(31.8)	6.0		1/8	A	黒		断面黒色、器表付近にぶい橙色、外面器表暗灰色、内面器表灰色。外面中位紐作り痕。外面下位から底部外面型肌。外面体部下位から内耳下部底部周縁に貼付。	江戸時代
162-264	在地系 内耳鍋		-	-	-		体部下位 から底部 片	A	灰黄、内 面器表灰	還元	器壁厚く、丸底。欠損部上端付近内面には段差、外面には横撫でがあり、器高は低いと考えられる。底部外面周縁から体部外面へラ削り後など。体部外面煤付着。底部外面灰黄褐色。	16世紀か
162-265	在地系 鍋		-	-	-		口縁部片	A	黄灰・灰 黄		口縁部直線的に開く。口縁部丁寧な横撫でにより器壁薄くなる。外面口縁部下紐作り痕残る。外面煤付着。	江戸時代
162-266	在地系 鍋		-	15.9	-		底部片	A	黄灰		平底で器壁薄い。外面煤厚く付着。内面に押印箇所。	江戸時代以降



田口上田尻遺跡48b・57号溝接合

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
163-267 240	美濃陶器 丸碗		12.1	5.4	7.2		1/2		灰白		器壁厚い。口縁部僅かに外反。内面から体部外面下位胎釉。体部外面下位から高台内錆釉に近い鉄化粧。高台端部摩滅し、鉄化粧取れる。高台内兜巾状を呈する。	登窯4小期
163-268	美濃陶器 尾呂茶碗	114・132	(11.7)	-	(6.6)		1/3		灰白		器壁やや厚く、器高高い。内面から高台胎釉。口縁部錆灰釉。高台胎以下鉄化粧。	登窯5小期
163-269	肥前陶器 兵器手碗		-	5.3	(6.0)		体部～底部		灰白		高台内の挟り深く、高台幅狭い。高台端部を除き透明釉。	17世紀後半
163-270	美濃陶器 尾呂茶碗		10.4	-	(5.3)		1/2		灰白		体部均一に内湾し、口縁部も僅かに内湾。内外面胎釉。口縁部に釉の流下が認められるが、白く発色していない。	登窯6・7小期
163-271	肥前陶器 碗	111	(13.2)	-	(6.4)		破片		灰白		口縁端部小さく外反。内面から体部外面下位銅緑釉。体部外面下位以下無釉。	内野山。17世紀中頃～18世紀前半
163-272	瀬戸陶器 腰錆碗		(11.8)	-	(3.8)		1/4		灰白		口縁部下外面3条の凹線。内面から口縁部外面灰釉。体部外面下位錆釉。	登窯5・6小期
163-273	肥前陶器 陶胎染付碗		11.1	4.6	6.7		1/2		灰		外面口縁部の2重凹線と高台胎の1重凹線間に山水文染付か。高台端部無釉。	17世紀末～18世紀前半
163-274	肥前陶器 陶胎染付碗		10.5	4.8	7.0		1/2		灰		外面染付。高台外面下位から端部無釉。	18世紀前半
163-275 240	肥前磁器 小杯		6.1	2.8	3.1		口縁部 1/2、底部完		灰白		残存部無文。体部下端やや張り、体部は直線的に開く。口縁部外反。	18世紀前半
163-276	瀬戸・美濃陶器 志野中皿		(12.8)	6.5	2.6		口縁部一部、 底部1/2		灰白		底部周縁と口縁部下で屈曲し、口縁部外反。高台胎水平に削る。内面から高台内周縁長石釉。高台端部摩滅。	登窯1小期
163-277 240	瀬戸陶器 志野丸皿		11.2	7.6	2.1		3/4		暗灰黄		底部周縁で内湾し、口縁部直線的に開く。外面上位から中位以下回転ヘラ削り。底部外面周縁水平に削る。底部内面の削り込みはなく、無高台。底部内面目痕2カ所。底部外面弧状に窯道具痕残る。	登窯3小期
163-278 240	瀬戸・美濃陶器 志野中皿		11.0	6.6	2.2		口縁部 1/3欠		灰白		底部外傾し、直線的に立ち上がる。外面中位以下回転ヘラ削り。内面から高台内の一部長石釉。底部内面と高台内目痕3カ所。	登窯3小期
163-279 240	志戸呂陶器 灯火受皿		(11.1)	5.3	(2.6)		口縁部 1/5、底部1/2		にぶい黄 褐		受け部欠損。体部外湾。外面口縁部以下回転ヘラ削り。受け部の挟りはアーチ状。挟り部が一対か否か不明。内面から口縁部外面錆釉。	18世紀中頃～後半
163-280	肥前磁器 猪口		(7.7)	-	(5.3)		1/5		白		体部から口縁部直線的。口縁端部僅かに内側に屈曲。	18世紀前半から中頃
163-281	美濃陶器 筒形香炉		(12.0)	(8.6)	6.0		1/4		浅黄		体部から口縁部内傾し、直線的に立ち上がる。口縁端部内傾し、上面やや窪む。口縁部から体部外面下位胎釉。貼付脚2カ所残存。	登窯7小期
163-282	美濃陶器 筒形香炉		-	(8.0)	(4.3)		1/4		淡黄		体部外傾し、直線的に立ち上がる。体部外面丸盤状工具による松文。体部外面胎釉。貼付脚1カ所残存。	登窯7・8小期
163-283	瀬戸陶器 片口	60	(13.5)	-	(7.9)		1/4		灰黄		体部から口縁部直線的。片口は口縁部にはめ込む。口縁部内面から外面柿釉。口縁端部の大部分器表剥落。細かなにより生じた可能性がある。	登窯5小期
163-284	瀬戸陶器 半胴裏	27・37・ 47	(14.8)	-	(15.2)		口縁部一部、 体部1/4		浅黄橙		体部ほぼ直立し、口縁端部内面内側に突き出る。端部正面平坦でやや内傾。外面上位2条の凹線。内外面錆釉。	登窯7小期
163-285 240	肥前陶器 刷毛目片口鉢		22.1	(9.3)	10.2		1/3		にぶい赤 褐		口縁部外方に折り返す。内面と体部外面上位白土刷毛塗り。内面から体部外面中位透明釉、口縁部端部無釉。体部外面中位から高台外面上半鉄泥。高台外面下半から高台内無釉。	17世紀後半～18世紀第1四半期
163-286	堺陶器 すり鉢		(31.0)	(13.9)	14.1		口縁部～ 体部片		にぶい赤 褐		口縁部外面縁帯をなし、内面は内側に折り返す。口縁部鉄泥。外面口縁部以下回転ヘラ削り。	18世紀前～中頃
163-287	丹波陶器 すり鉢		(32.3)	15.3	12.0		口縁部一部、 底部1/2		にぶい黄 橙		口縁部立ち上がり、端部上面平坦。外面縁帯下部外方に突き出る。内外面無釉。体部内面下位から底部内面使用により摩滅。	17世紀後半～18世紀中頃
163-288	在地系 鍋	80	-	-	-		口縁部片	A	にぶい黄 橙		器壁厚い。口縁部内面緩い稜をなして外反し、端部内面は上方に厚くなる。断面中央から褐色、にぶい黄褐色、褐色のサンドイッチ状。器壁非常に厚い。	江戸時代
164-289	丹波陶器 すり鉢		(31.6)	-	(8.1)		1/3		褐灰		口縁部立ち上がり、端部上面平坦で内傾。外面縁帯下部外方に突き出る。内外面無釉。	17世紀後半～18世紀中頃
164-290	在地系 鍋		-	-	-		口縁部片	A	にぶい橙		体部から口縁部僅かに外湾して開く。口縁端部外方に開く。口縁端部上面平坦。口縁部丁寧な横撫で。体部外面紐作り痕残る。外面煤付着。	江戸時代
164-291	在地系 鍋	123	-	-	-		体部片	A	黒褐、外 面器表直 下灰白		外面指押さえ痕と接合痕顕著。外面下半煤付着。	江戸時代

田口上田尻遺跡48b号溝・1号土壘接合

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
165-292	美濃陶器 尾呂茶碗		11.1	4.7	6.8		口縁部 1/2欠		灰白		高台径小さく、高台内「ハ」字状に開く。内面から高台胎胎釉。口縁部錆灰釉を掛けたようで、釉が流下しているが、僅かに白色を呈するのみである。高台胎から高台内面僅かに鉄化粧。	登窯7小期
165-293	美濃陶器 尾呂茶碗		-	5.7	(5.5)		体部一 部、底部完		灰白		器壁厚い。内面から高台胎胎釉。内面胎釉流れる。高台胎から高台内胎釉を薄く化粧掛け。	登窯5小期
165-294	肥前磁器 碗		9.0	3.8	4.6		口縁部 1/2、底部完		灰白		体部内湾して開く。残存部染付圏線のみ。	17世紀後半～18世紀前半
165-295	美濃陶器 反皿	118	12.2	7.3	2.5～ 2.8		口縁部 1/2、底部2/3		オリーブ 灰		体部直線的に開き、口縁部外反。外面口縁部以下回転ヘラ削り。高台胎水平に近く削り、高台はシャープ。内面から体部外面灰釉。底部内面目痕2カ所残存。	登窯4小期
165-296	瀬戸陶器 輪壳皿		-	6.5	(3.0)		1/2		灰白		口縁部外反。底部内面周縁輪状に釉を掻き取る。釉掻き取り部内側小さい段をなす。内面から口縁部外面長石釉。	登窯5小期
165-297	肥前磁器 皿		-	(10.2)	(2.0)		1/4		白		高台内傾。内面「寿」字鳳凰文。主に東南アジア向けの製品。	1650～60年代
165-298	美濃陶器 黄瀬戸菊皿		(13.4)	6.6	5.6		口縁部一 部、底部3/4		淡黄		内面の菊花文浅く、部分的に見えない。底部周縁凹線。窯道具部分器表抉れる。内面から口縁部外面灰釉。口縁部銅緑釉流す。	登窯4小期
165-299	美濃陶器 摺絵皿		-	7.0	(2.6)		体部～底 部		灰白		口縁端部欠損。口縁部波状もしくは輪花。底部内面鉄絵具による型摺摺絵。内面から高台外面灰釉。貫入する。	登窯5小期
165-300	肥前磁器 瓶	34	-	7.2	(8.8)		体部1/2、 底部完		灰白		外面から高台内胎釉。高台端部無釉。外面凹線。やや焼成不良で、釉に貫入する。	17世紀後半～18世紀初頭

遺物観察表

165-301	在地系 焙烙		(40.0)	-	(5.2)		破片	A	にぶい 褐、器表 灰色		口縁部下で厚くなり、口縁部は括れた後、端部で肥厚する。端部 上面窪む。外面に紐作り痕明瞭に残り、内面はほとんど撫で消す。	江戸時代
田口上田尻遺跡48b・25号溝接合												
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
165-302	美濃陶器 反皿	3	(11.6)	(6.1)	2.7		破片		灰白		体部下位で屈曲し、口縁部外反。内面から高台外面長石釉。	登窯1・2小 期
田口上田尻遺跡48b・60号溝接合												
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
165-303	美濃陶器 反皿		(11.2)	(6.6)	2.6		口縁部一 部、底部 1/3		灰		底部内面水平に広がり、周縁で屈曲して開く。体部直線的に開き、 口縁部外反。内面から口縁部外面灰釉。外面口縁部下回転へら削り。 高台脇水平に削る。	登窯3・4小 期
田口上田尻遺跡48b・21号溝接合												
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
166-304	美濃陶器 徳利		-	6.4	(15.6)		1/3～ 1/2		灰白		なで肩で体部中位ほぼ直立。体部下位外傾。外面から高台内灰釉。 体部外面下位の軸維に拭う。	登窯6・7小 期
田口上田尻遺跡48b・31号溝接合												
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
166-305	美濃陶器 折縁輪壳鉢	10	-	8.6	(2.6)		1/2		灰白		内面から高台脇灰釉。貫入入る。底部内面下ナツツに軸を掻き 取る。掻き取り部高台重ね焼き痕。	登窯7・8小 期
166-306	美濃陶器 筒形香炉		11.0	8.0	(5.6)		底部欠		淡黄		体部内傾し、口縁部小さく外反。口縁端部内側に突き出す。端部 上面窪む。体部外面丸鬘状工具で極浅い松状。脚は3カ所貼付で あろう。口縁部から体部外面釉。	登窯7小 期
田口上田尻遺跡48b・47号溝接合												
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
166-307	肥前磁器 中皿		-	-	-		体部片		灰白		焼成不良により釉やや白濁し、貫入が入る。内縁口縁部下2重圏線。	1640～60年 代
田口上田尻遺跡48b号溝・1号井戸接合												
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
166-308	製作地不詳磁器 碗		11.5	3.8	4.6		1/2		灰白		平碗。内外面型紙刷り。	近現代
田口上田尻遺跡58号溝												
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
167-1	在地系 内耳鍋		-	-	-		体部片	B	灰オリー ブ	還元	還元炎焼成であるが、焼き締まりはない。器壁薄く、口縁部屈曲 して開く。内面の段差明瞭。内面段差の撫で消しがあり、耳付近 片であろう。	15世紀か
167-2	在地系 甕		-	-	-		破片	A	褐・黒褐		外型成形により外面凹凸を付ける。内面横撫で。外面赤色塗彩残る。 上下不明。	近現代か
田口上田尻遺跡57号溝												
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
168-1	瀬戸陶器 丸碗		9.8	-	(4.1)				灰黄		体部から口縁部内湾し、端部付近のみ直立気味。内外面柿釉。	登窯7・8小 期
168-2	肥前磁器 小碗		(7.8)	-	(3.1)		1/4		灰白		口縁部外面雨降文。	18世紀前半
168-3 240	製作地不詳陶器 碗	4	9.2	5.4	6.7		口縁部 1/2欠		灰白		大型のわりに器壁薄い。体部下位で湾曲し、体部から口縁部僅か に内湾して立ち上がる。内面から高台脇灰釉。口縁部を中心に青 色絵具による上絵。文様は2カ所か。	18世紀後半～ 19世紀前半
168-4	肥前磁器 小碗		(8.9)	-	(3.4)		1/3		白		口縁部外面2重圏線。	18世紀前半
168-5	美濃陶器 型打皿		-	5.6	(1.6)		1/2		灰白		木瓜形の御深井皿か。内面から体部外面下位灰釉。貫入入る。	登窯5・6小 期
168-6	肥前磁器 火入		(10.5)	-	(2.6)		口縁部片		白		口縁端部内面に突き出す。口縁部内面から外面施釉。外面染付。	18世紀前半
169-7	瀬戸陶器 片口		(15.0)	(9.1)	9.1		1/6		浅黄		片口部欠損。高台脇回転へら削り。内面から高台脇柿釉。外面体 部下位灰釉を波状に掛け、胎状を呈する。底部内面高台状の重 焼痕。	登窯4小 期
169-8	美濃陶器 丸碗		(13.8)	-	(5.1)		1/5		にぶい黄 橙		口縁部ゆるく内湾し、端部肥厚。外面染付。内外面灰釉。細かい 貫入入る。	登窯5・6小 期
169-9	瀬戸陶器 半胴甕		(16.8)	-	(8.4)		1/4		にぶい黄 橙		体部ほぼ直立し、口縁端部内面内側に突き出る。端部正面平坦で やや内傾。外面上位2条の凹線。内外面錆釉。口縁端部正面目痕1カ 所残る。	登窯7小 期
169-10	美濃陶器 有耳壺		-	10.3	(5.4)		底部		淡黄		体部ゆるく内湾して立ち上がる。内面軸維目顕著。体部外面下位 以上胎釉。	登窯7・8小 期
169-11	美濃陶器 有耳壺	11	(10.2)	-	(6.0)		1/4		灰黄		頸部短くなで肩。口縁部外方に折り返す。肩部1カ所耳貼付部残存。 内外面胎釉。口縁部外面のみ釉を拭う。	登窯8～11 小 期
169-12 240	丹波・信楽陶器 すり鉢		-	14.8	(9.2)		1/2		褐		外面凹線状の深い軸維目。内外面無釉。	江戸時代
169-13 240	在地系 鍋		(37.0)	(20.0)	12.4		1/3	A	灰白		外面器表黒色、内面器表灰色～暗灰色。口縁端部外方に広げる。 端部上面の内側やや窪む。外面器表煤付着。外面紐作り痕残る。 体部外面下位から底部外面型肌残る。	江戸時代
170-14	在地系 鍋		(33.0)	-	(9.3)			A	にぶい黄 褐、器表 暗灰		体部ゆるく外湾。口縁部強い横撫でにより外反させ、端部僅かに 上方に立ち上げる。体部外面紐作り痕と指頭圧痕状の凹凸あり。 体部外面煤付着。	江戸時代
170-15	瀬戸陶器 すり鉢	13	-	(14.9)	(5.0)		1/4		浅黄		底部右回転糸切無調整。内外面錆釉。底部内面使用による摩滅著 しい。底部外面周縁摩滅。	登窯5～7小 期
170-16 240	在地系 円盤(焙烙か)		3.6	3.1	0.7		完形	A	にぶい 褐、器表 暗灰		焙烙底部片の周囲を細かく打ち欠き円盤状に整形。	江戸時代か
170-17	棧瓦	3	-	-	2.1		破片		黄灰		左下角片か。全体の反りが弱い。煙し焼成により器表付近黒色。 器表キラ付着。	
170-18 240	銅製品 煙管	15	(6.3)	小口径 1.1	(1.4)	5.3	雁首				雁首。側面に板つなぎ目。	口径1.5cm

遺物観察表

170-19	石製品 砥石		(7.3)	3.2	2.1	85.2	1/3か	砥沢石			現存長7.2cm。右側面を水平にした場合の幅は3.1～3.3cmと均一である。同一箇所における表裏面幅の差は5mm。砥面は表面のみで両側面と裏面には櫛状状痕が残る。中央部がなく、砥面の全体形状は不詳。中砥、3面不使用。	幅:3.1～3.3 cm 差:5mm 砥面:1-2
170-20	石製品 石鉢		(9.5)	(15.3)	12.8	1290.0	一部片	粗粒輝石 安山岩			胴部の一部か。	
170-21 241	五輪塔 火輪	16	23.2	26.4	15.7	8890.0	ほぼ完形	ニッ岳石			火輪、平面形は長方形を呈す。上面中央に風輪を差し込む径6.0cm、深さ4.7cmの円柱状ぼぞ穴。	

田口上田尻遺跡57・48b号溝接合

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
171-22	美濃陶器 丸碗		12.1	5.4	7.2		1/2		灰白		器壁厚い。口縁部僅かに外反。内面から体部外面下位胎釉。体部外面下位から高台内胎釉に近い鉄化粧。高台端部摩滅し、鉄化粧取れる。高台内兜巾状を呈する。	登窯4小期
171-23	美濃陶器 尾呂茶碗	114・132	(11.7)	-	(6.7)		1/3		灰白		器壁やや厚く、器高高い。内面から高台胎釉。口縁部薬灰釉。高台胎以下鉄化粧。	登窯5小期
171-24	肥前陶器 器手碗		-	5.3	(6.1)		体部～底 部		灰白		高台内の挟り深く、高台幅狭い。高台端部を除き透明釉。	17世紀後半
171-25	美濃陶器 尾呂茶碗		10.4	-	(5.3)		1/2		灰白		体部均一に内湾し、口縁部も僅かに内湾。内外面胎釉。口縁部に釉の流下が認められるが、白く発色していない。	登窯6・7小 期
171-26	肥前陶器 碗	111	(13.2)	-	(6.4)		破片		灰白		口縁部小さく外反。内面から体部外面下位胎釉。体部外面下位以下無釉。	内野山。17世 紀中頃～18 世紀前半
171-27	瀬戸陶器 腰鉢		(11.8)	-	(3.8)		1/4		灰白		口縁部下外面3条の凹線。内面から口縁部外面胎釉。体部外面下位胎釉。	登窯5・6小 期
171-28	肥前陶器 陶胎染付碗		11.1	4.6	6.7		1/2		灰		外面口縁部の2重圏線と高台胎の1重圏線間に山水文染付か。高台端部無釉。	17世紀末～ 18世紀前半
171-29	肥前陶器 陶胎染付碗		10.5	4.8	7.0		1/2		灰		外面染付。高台外面下位から端部無釉。	18世紀前半
172-30	肥前磁器 小杯		6.1	2.8	3.1		口縁部 1/2、底 部完		灰白		残存部無文。体部下端やや張り、体部は直線的に開く。口縁部外反。	18世紀前半
172-31	瀬戸・美濃陶器 志野丸皿		(12.8)	6.5	2.6		口縁部一 部、底 部1/2		灰白		底部周縁と口縁部下で屈曲し、口縁部外反。高台胎水平に削る。内面から高台内周縁長石釉。高台端部摩滅。	登窯1小期
172-32	瀬戸陶器 志野丸皿		11.2	7.6	2.1		3/4		暗灰黄		底部周縁で内湾し、口縁部直線的に開く。外面上位から中位以下回転ヘラ削り。底部外面周縁水平に削る。底部内面の削り込みはなく、無高台。底部内面目痕2カ所。底部外面弧状に窯道具痕残る。	登窯3小期
172-33	瀬戸・美濃陶器 志野丸皿		11.0	6.6	2.2		口縁部 1/3欠		灰白		底部緩く内湾し、口縁部内湾して開く。外面中位以下回転ヘラ削り。内面から高台内の一部长石釉。底部内面と高台内目痕3カ所。	登窯3小期
172-34	志戸呂陶器 灯火受皿		(11.1)	5.3	(2.5)		口縁部 1/5、底 部1/2		にぶい黄 褐		受け部欠損。体部外湾。外面口縁部以下回転ヘラ削り。受け部の挟りはアーチ状。挟り部が一対か否か不明。内面から口縁部外面胎釉。	18世紀中頃～ 後半
172-35	肥前磁器 猪口		(7.7)	-	(5.3)		1/5		白		体部から口縁部直線的。口縁部僅かに内側に屈曲。	18世紀前半 から中頃
172-36	美濃陶器 筒形香炉		(12.0)	(8.6)	6.0		1/4		浅黄		体部から口縁部内傾し、直線的に立ち上がる。口縁部内傾し、上面やや窪む。口縁部から体部外面下位胎釉。貼付脚2カ所残存。	登窯7小期
172-37	美濃陶器 筒形香炉		-	(8.0)	(4.4)		1/4		淡黄		体部外傾し、直線的に立ち上がる。体部外面丸盤状工具による松文。体部外面胎釉。貼付脚1カ所残存。	登窯7・8小 期
172-38	瀬戸陶器 片口	60	(13.5)	-	(8.0)		1/4		灰黄		体部から口縁部直線的。片口は口縁部にはめ込む。口縁部内面から外面胎釉。口縁部端部の大部分器表剥落。細かなにより生じた可能性がある。	登窯5小期
172-39	瀬戸陶器 半胴裏	27・37・ 47	(14.8)	-	(15.0)		口縁部一 部、体 部1/4		浅黄橙		体部ほぼ直立し、口縁部内面内側に突き出る。端部正面平坦でやや内傾。外面上位2条の凹線。内外面胎釉。	登窯7小期
172-40	肥前陶器 刷毛目片口鉢		22.1	(9.3)	10.2		1/3		にぶい赤 褐		口縁部外方に折り返す。内面と体部外面上位白土刷毛塗り。内面から体部外面中位透明釉、口縁部胎釉無釉。体部外面中位から高台外面上半鉄泥。高台外面下半から高台内無釉。	17世紀後半～ 18世紀第1四 半期
172-41	堺陶器 すり鉢		34.0	(13.9)	14.1		口縁部～ 体部片		にぶい赤 褐		口縁部外面縁帯をなし、内面は内側に折り返す。口縁部鉄泥。外面口縁部以下回転ヘラ削り。	18世紀前～中 頃
172-42	丹波陶器 すり鉢		(32.3)	15.3	12.0		口縁部一 部、底 部1/2		にぶい黄 橙		口縁部立ち上がり、端部上面平坦。外面縁帯下部外方に突き出る。内外面無釉。体部内面下位から底部内面使用により摩滅。	17世紀後半～ 18世紀中頃
172-43	在地系 鍋	80	-	-	-		口縁部片	A	にぶい黄 橙		器壁厚い。口縁部内面緩い稜をなして外反し、端部内面は上方に厚くなる。断面中央から褐灰色、にぶい黄橙色、褐灰色のサンドイッチ状。器壁非常に厚い。	江戸時代
172-44	丹波陶器 すり鉢		31.6	-	-		1/3		褐灰		口縁部立ち上がり、端部上面平坦で内傾。外面縁帯下部外方に突き出る。内外面無釉。	17世紀後半～ 18世紀中頃
172-45	在地系 鍋		-	-	-		口縁部片	A	にぶい橙		体部から口縁部僅かに外湾して開く。口縁部胎釉外方に開く。口縁部上面平坦。口縁部丁寧な横撫で。体部外面紐作り痕残る。外面煤付着。	江戸時代
172-46	在地系 鍋	123	-	-	-		体部片	A	黒褐、外 面器表直 下灰白		外面指押さえ痕と接合痕顕著。外面下半煤付着。	江戸時代

田口上田尻遺跡57・50号溝・1号土壘接合

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
173-47	肥前陶器 陶胎染付碗	9	9.3	4.0	6.0		口縁部 1/2、底 部完		黄灰		やや小型。体部下位が張り、口縁部ほぼ直立。外面に圏線5条。	17世紀後半～ 18世紀前半

田口上田尻遺跡57・50号溝接合

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
173-48 241	瀬戸陶器 刷毛目碗	10	13.1	4.8	6.2		口縁部 1/2欠		浅黄		口縁部から体部内湾して立ち上がる。内面底部周縁段をなす。高台胎水平に削る。内外面白土刷毛塗り。内面から外面体部下位胎釉。貫入する。	登窯8小期
173-49	在地系 鍋	2	-	(19.0)	(7.0)		1/4	A	暗灰		色調、断面中央から暗灰、灰白、灰色のサンドイッチ状。体部外面下位胎釉。体部外面胎釉黒色。	江戸時代

遺物観察表

田口上田尻遺跡57号溝・1号土壘接合

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
173-50	肥前陶器 呉器手腕		-	5.3	(4.7)		体部～底部		灰白		体部下位の張りはやや弱い。高台端部を除き透明釉。	17世紀後半
173-51	肥前磁器 皿		13.6	8.5	4.5		口縁部 1/4欠		白		胎部内湾し、口縁部波状。見込み五弁花コンニャク印判。高台内1重圏線内に溝幅字崩れ銘。	波佐見系。18世紀中頃

田口上田尻遺跡60号溝

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
176-1	須恵器 注口付瓶		-	-	-		肩部片	細砂粒 少・黒色粒	灰	還元焰	轆轤整形、回転方向不明。注口は貼付、肩部に凹線が2条巡る、胴部に叩き痕が残る。降灰による自然釉が厚く付着か。	
176-2	常滑陶器 甕		-	-	-		破片		橙・灰黄褐		体部片。内面調整は丁寧。	中世
176-3	在地系 焙烙		-	-	5.5		破片	A	にぶい 褐、器表 暗灰		内面幅広の耳貼付。外面中位以下型肌痕部粗い撫で。体部外面下端ヘラナデにより型肌痕撫で消す。	江戸時代
176-4	美濃陶器 反皿		(11.2)	(6.6)	2.6		口縁部一 部、底部 1/3		灰		底部内面水平に広がり、周縁で屈曲して開く。体部直線的に開き、口縁部外反、内面から口縁部外面灰釉。外面口縁部下回転ヘラ削り。高台脇水平に削る。	登窯3・4小 期

田口上田尻遺跡67号溝

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
180-1 241	美濃陶器 天目碗		10.6	4.8	6.6		口縁部 1/3欠		淡黄		体部直線的に延び、口縁部ほぼ直立。口縁端部の外反弱い。外面高台脇小さく削り込む。高台脇削り込む。内面から体部外面下位錆色の鉄釉。	登窯3・4小 期
180-2	瀬戸陶器 片口	60	(13.5)	-	(8.0)		1/4		灰黄		体部から口縁部直線的。片口は口縁部にはめ込む。口縁部内面から外面柿釉。口縁端部の大部分器表剥落。細かなにより生じた可能性はある。	登窯5小 期
180-3 241	石製品 砥石		(4.7)	2.3	1.4	23.4	破片	砥沢石			現存長4.8cm。右側面を水平にした場合の最大幅は2.7cmで同一箇所における表裏面幅の差は6mm。砥面は裏面のみで、裏面と両側面には櫛刃状整痕が残る。砥面は直線的で、残存部中央が僅かに窪む程度であるが、小口に向かい薄くなる。中砥、3面不使用。	幅:2.2～2.7 cm 差:6mm 砥面:1a-2

田口上田尻遺跡78号溝

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
181-1	在地系 内耳鍋	20	-	-	-		体部下位 ～底部片	B	にぶい 褐		平底。底部外面周縁から体部下位ヘラ削り後撫で。	中世

田口上田尻遺跡1号低地

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
184-1	肥前磁器 小碗		8.9	-	(3.5)				白		口縁部外面雨降文。	18世紀前半

田口上田尻遺跡2号低地

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
185-1	美濃陶器 丸皿	8	10.9	5.9	2.6		1/2		灰白		体部内湾して開き、口縁部外反。外面口縁部以下回転ヘラ削り。高台脇小さく削り込む。内面から高台脇胎部から高台内部分的に油状黒色物付着。	登窯3・4小 期
185-2	美濃陶器 天目碗		12.0	-	(3.6)				暗灰		口縁部下の屈曲緩く、端部の外反も弱い。器壁やや厚い。内外面鉄釉。	登窯1・2小 期
185-3	瀬戸・美濃陶器 すり鉢		(31.5)	-	(5.2)		口縁部片		灰白	不良	口縁部縁帯をなし、上下端外方に張り出す。光沢のない錆釉。口縁端部上面やや摩滅。	大窯IV前
185-4	瀬戸陶器 すり鉢		(31.8)	-	(7.9)		口縁部片		淡黄		口縁部下内面稜をなして外方に折れた後、上方に立ち上げる。口縁部肥厚し、端部縁帯状に幅広となる。体部外面上位以下回転ヘラ削り。内外面錆釉。	登窯8小 期
185-5	在地系 皿		(8.6)	5.0	1.5		1/3	細砂粒	にぶい 橙	酸化焰	轆轤整形、回転左回り。底部は回転系切り無調整。	
185-6	在地系 皿		(8.7)	(5.9)	2.1		1/4	細砂粒	浅黄橙	酸化焰	轆轤整形、回転左回り。底部は回転系切り無調整。	
185-7	在地系 皿		-	(6.7)	(1.0)		底部片	細砂粒	にぶい 橙	酸化焰	轆轤整形、回転左回りか。底部は回転系切り無調整。	
185-8	石製品 砥石		(10.3)	2.7	2.6	110.6	3/4か	砥沢石			現存長10.3cm。右側面を水平にした場合の幅は1.9～2.7cm。同一箇所における表裏面幅の差は4mm。表面には幅広の条線が認められ、上半は面が平滑であるが、下半には浅い条線が残る平整痕が認められる。両側面には浅い条線が残る平整痕が明瞭に残り、明瞭な砥面は裏面1面である。中砥、3面不使用か。	幅:1.9～ 2.7cm 差:4mm 砥面:表1 a-1
185-9	肥前陶器 陶胎染付碗		10.5	4.8	7.0		1/2		灰		外面貼付。高台外面下位から端部無釉。	18世紀前半
185-10	瀬戸陶器 片口	60	(13.5)	-	(7.9)		1/4		灰黄		体部から口縁部直線的。片口は口縁部にはめ込む。口縁部内面から外面柿釉。口縁端部の大部分器表剥落。細かなにより生じた可能性はある。	登窯5小 期
185-11	在地系 焙烙		(35.8)	(32.8)	5.6		破片	A	黒		断面黒色、器表付近灰白色、内面器表灰色から灰白色、口縁部から体部外面黒から暗灰色、底部外面暗灰色。口縁端部僅かに窪み内傾する。外面中位に紐作り痕残る。体部外面下位削れる。体部外面下位から底部外面縮緬状型肌。	江戸時代

田口上田尻遺跡1号道

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
186-1	銅製品 銭貨		2.4	-	0.1	2.7	完形				寛永通宝	初鑄1626

田口上田尻遺跡18号畑

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
190-1	肥前陶器 碗		(12.0)	-	(4.0)		口縁部片		灰オリ ーブ		京焼陶器。外面鉄絵。内外面透明釉。細かい貫入入る。	17世紀後半
190-2	瀬戸・美濃陶器 丸皿		-	(6.0)	(1.4)		1/4		灰白		内面から高台内灰釉。貫入入る。	大窯II・III



遺物観察表

190-3	製作地不詳陶器碗		9.7	-	(3.6)		1/2		灰白		体部直線的に開く。口縁部は稜をなして立ち上がり、やや外湾。口縁部外面鉄絵1カ所。	18世紀中頃～後半
190-4 241	美濃陶器灯明皿		11.4	5.8	2.0		1/2		灰白		高台基筒底状。内面から口縁部餘釉。口縁部裏灰釉。内面目痕2カ所。高台内から体部外面下位油状の黒色物付着。	登窯5・6小期
190-5	龍泉窯系青磁碗		-	-	-		体部片		灰		残存部無文。内外面青磁釉。粗い貫入。	中世
190-6	瀬戸陶器片口鉢		(17.6)	-	(6.4)		1/4		にぶい黄橙		体部内湾し、口縁部直立。内外面灰釉。	登窯5小期
190-7 241	石製品砥石		(4.0)	1.4	1.5	14.8	1/2か		砥沢石		4面使用。1面のみ砥面が僅かに窪む。中砥、4面使用。	砥面：Ⅲか

田口上田尻遺跡19号畑

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
190-8 241	石製品砥石		(6.5)	5.3	1.1	46.9	破片	珪質粘板岩			裏面は剥がれか否か不明瞭。表面は使用により傾斜する。表面の段差は調査時の欠損。小口面と右側面には、鋸状の切断痕(条線)が残る。左側面は軽微な使用で平坦である。主要砥面との境は面取り状の狭い砥面が残る。仕上げ砥、1面使用。	砥面：形状不明

田口上田尻遺跡20号畑

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
190-9 241	石製品砥石		(8.7)	2.8	1.8	88.1	1/2か	砥沢石			現存長8.6cm。左側面を水平にした場合の幅は2.5～2.7cm。同一箇所における表裏面幅の差は2mmと少ないが、横断面形が平行四辺形に近いのである。砥面は表裏2面で幅の広い側を選択している。砥面は共に使用頻度が少ないようで、研ぎ減りが少ない。両側面と小口面には鎌刃状整痕が残る。中砥、2面不使用。	幅：2.5～2.7cm 差：2mm 砥面：1c-4

田口上田尻遺跡6号集石

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
192-1 241	肥前磁器小碗	7	7.8	3.1	4.2		口縁部1/4欠		白		底部から体部内湾し、口縁部直線的に開く。口縁部外面雨降り文。高台外面から高台脇螺旋状横線。	18世紀前半
192-2 241	瀬戸陶器丸碗	16	(10.0)	(4.6)	6.0		1/3		淡黄		体部内湾し、口縁部ほぼ直立。高台「ハ」字状に小さく開く。高台貼付後撫で。内面から体部外面下位種釉。体部外面の一部に灰釉流し、胎釉状となる。	登窯6・7小期
192-3	美濃陶器糸目碗		(8.6)	-	(4.2)		1/3		褐灰		体部下位で屈曲し、体部から口縁部直線的に延びる。体部外面細かい横線。内面から口縁部外面灰釉。体部外面鉄釉。灰釉粗い貫入。	登窯8小期
192-4	美濃陶器せんじ碗		(10.4)	(4.0)	4.7		1/4		明褐灰		体部下位で屈曲し、口縁部下で稜をなして屈曲。口縁部直線的に開く。高台端部を除き施釉。釉は灰釉と錆色の鉄釉との掛け分け。	登窯8小期
192-5 241	美濃陶器筒形香炉		12.0	9.0	6.8		1/2		灰白		体部から口縁部直立。体部外面輪軸目顕著。口縁部外面輪軸目内に掻き目状の横線。体部外面下位張り出す。口縁部内面から体部外面下位種釉。貼付脚1カ所残存。口縁部外面の一部器表の小さい剥離あり。口縁部内面細かい叩打により器表剥離。	登窯6小期
192-6	在地系焙烙		-	-	-		底部片	A	黒		断面黒色、器表付近にぶい黄橙色、内面器表暗灰色、外面器表褐灰色。外面型肌。内面押印2カ所。	江戸時代
192-7	美濃陶器か蓋	4	3.6	2.5	1.7				淡黄		無釉。下面底部左回転糸切無調整。	時期不詳
192-8 241	堺陶器すり鉢	10	(29.0)	15.7	12.2		口縁部1/4～底部1/2		赤		口縁部厚く、口縁部内面に段差。外面口縁部以下回転ヘラ削り。底部内面のすり目ウールマーク状。底部内面使用により摩滅。	18世紀後半～19世紀前半
192-9	瀬戸陶器すり鉢	5	(34.0)	-	(8.4)		1/5		淡黄		口縁部下で外方に屈曲した後、上方に屈曲する。口縁部肥厚。体部外面中位以下回転ヘラ削り。内外面種釉。	登窯8小期
192-10	在地系焙烙	12	-	-	-		破片	A	にぶい橙		厚い箇所の断面中央灰色、断面にぶい橙色。器表暗灰色から黒色。口縁部から体部開いて立ち上がる。底部外面から体部外面下位型肌残るが、体部下位は一部撫で消し、下端はヘラナデにより全て撫で消す。	江戸時代
192-11	瓦	9	-	-	1.9		破片		にぶい黄橙		酸化炎焼成。釘孔1カ所残存。焼き締まりなく軽い。	
192-12	瓦	13	-	-	1.9		破片		にぶい黄橙		煙し焼成により器表付近黒色。器表キラ付着。右下角の破片と考えられるが、欠き込みはない。	
192-13 241	銅製品銭貨	2	2.6	-	0.2	2.8	完形				寛永通宝	初鑄1626
192-14 241	銅製品銭貨	1	2.4	-	0.1	1.6	完形				寛永通宝	初鑄1626
192-15	銅製品銭貨	2	2.6	-	0.1	0.8	1/2				寛永通宝	初鑄1626
192-16	銅製品煙管	3	1.5	-	(1.1)	2.6					火皿	
193-17 241	石白下白	18	34.5	15.3	7.5	3900.0	完形か	粗粒輝石安山岩			下白、擦面以外を打ち欠き二次利用可。擦面は磨滅が激しく目の痕跡も見られない。擦面の擦痕から目が消滅したのちも利用可。	

田口上田尻遺跡2号土坑

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
194-1	瀬戸陶器すり鉢		-	12.1	(6.1)		1/2		淡黄		体部外面回転ヘラ削り。底部右回転糸切無調整。内外面種釉施後、体部外面下位以下の釉を拭う。内面使用による摩滅。底部外面周縁やや摩滅。	登窯1～4小期

田口上田尻遺跡51号土坑

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
195-1	瀬戸陶器反皿	3	13.3	(6.5)	3.0				灰白		水平に開く底部から屈曲し、口縁部外反。高台端部を除き、長石釉を厚く施す。貫入。	登窯1小期
195-2	肥前磁器青磁碗	2	(10.2)	-	(4.6)		1/5		白		体部ゆるく内湾して立ち上がる。内外面青磁釉。	1630～50年代
195-3	瀬戸陶器天目碗	9	(11.8)	-	(4.4)		1/6		灰白		口縁部下で内湾して立ち上がる。口縁部の立ち上がりは高い。口縁部外反。内外面鉄釉。	登窯4小期
195-4	瀬戸陶器天目碗	8	(11.8)	-	(5.0)		口縁部片		灰黄		口縁部下稜をなして立ち上がる。口縁部外反。内外面鉄釉。	登窯4小期
195-5	肥前磁器皿	1	-	(4.9)	(1.7)		1/3		灰白		底部内面染付。底部中央器壁厚い。	1640～50年代
195-6	在地系焙烙	7	-	-	-		破片	A	暗灰		断面中央暗灰色、器表付近褐色、器表暗灰から黒色。口縁部肥厚し、上面平坦。内面中位段差状に窪む。外面中位紐作り痕残る。外面下位の型肌ほとんど撫で消す。	中世～江戸時代



遺物観察表

195-7 241	茶白 下白	21	(14.0)	21.0	11.5	3650.0	1/2							下白、受皿部分はすべて打ち欠かされている。擦面は激しく磨滅しており、目の状態はあまり明瞭ではない。	
195-8	石製品 板碑	18	(15.1)	(13.2)	2.5	738.5	破片	緑色片岩						残存部に刻み等は確認できない。	
195-9	石製品 くぼみ石	20	13.4	10.8	6.1	1243.6	完形	ニッ岳石						扁平な楕円盤を素材に、片面中央に径5.5cmほどの窪みを設けている。	
195-10	石製品 くぼみ石	23	13.2	12.4	9.2	1104.4	完形	ニッ岳石						円盤の中央に径9.5cmほどの深めの窪みを設けている。	
195-11	石製品 くぼみ石	22	15.5	13.5	12.0	867.5	完形	ニッ岳石						円盤の中央に敲打によると思われる浅い窪みを設けている。	
<b>田口上田尻遺跡74号土坑</b>															
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 材	色調	焼成	成整形の特徴等			備考	
196-1	銅製品 煙管		(5.1)	小口径 1.0	-	4.7	吸い口端 部欠損					羅字がわずかに残存しており、吸い口の端部が欠損している。			口付径0.6cm
<b>田口上田尻遺跡86号土坑</b>															
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 材	色調	焼成	成整形の特徴等			備考	
197-1 241	美濃陶器 小碗	1	(7.3)	4.4	3.7		1/3～ 1/2		淡黄		体部下位張り、口縁部やや外傾して立ち上がる。高台断面方形で径大きい。内面から体部外面下位胎釉。			登窯5小期	
197-2	瀬戸陶器 天目碗	1	(11.8)	-	(5.0)		口縁部片		灰黄		口縁部下稜をなして立ち上がる。口縁部外反。内外面鉄釉。			登窯4小期	
<b>田口上田尻遺跡92号土坑</b>															
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 材	色調	焼成	成整形の特徴等			備考	
197-3	鉄製品 不明		1.8	2.5	0.3	7.0	完形				板状の素材を「C」字状に曲げたもので、両端部は接していない。締め具の可能性ある。				
<b>田口上田尻遺跡155号土坑</b>															
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 材	色調	焼成	成整形の特徴等			備考	
200-1	志呂陶器 皿		(9.6)	(4.4)	2.0		1/5		にぶい橙		口縁部小さく屈曲して開く。底部回転糸切無調整。内面から体部外面鉄釉。			18世紀中頃～ 後半	
200-2	肥前陶器 陶胎染付碗		-	4.7	(2.1)		1/2		灰		外面染付。器壁薄い。			17世紀後半～ 18世紀前半	
<b>田口上田尻遺跡156号土坑</b>															
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 材	色調	焼成	成整形の特徴等			備考	
200-3	肥前磁器 筒型碗		-	4.2	(2.2)		底部		灰白		青磁染付。見込五弁花コンニャク印判。見込周縁2条の圈線。素地の灰色味強く、青磁釉も潤る。焼成不良。			1750～80年 代	
<b>田口上田尻遺跡165号土坑</b>															
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 材	色調	焼成	成整形の特徴等			備考	
200-4	美濃陶器 尾呂茶碗		-	5.3	(1.4)		底部		灰黄褐		高台内面「ハ」字状に開く。内面胎釉。外面胎釉を薄く化粧掛け。高台胎で円形に割れる。細かい叩打や擦りは認められないが、円盤に加工した可能性もある。			登窯5・6小 期	
<b>田口上田尻遺跡168号土坑</b>															
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 材	色調	焼成	成整形の特徴等			備考	
201-1	美濃陶器 菊皿	6	(13.1)	(7.8)	2.9		口縁部一 部、底部 1/3		淡黄		高台径大きく、体部から口縁部短い。菊花文浅く不鮮明。内面から体部外面灰釉。貫入する。底部内面目痕1カ所。			登窯4・5小 期	
<b>田口上田尻遺跡164号土坑</b>															
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 材	色調	焼成	成整形の特徴等			備考	
201-2	肥前陶器 火入		-	(5.0)	(4.2)		1/3		淡黄		京焼風陶器と同様な胎土・釉調。底部周縁で外面稜をなし、体部外傾して延びる。体部直線的。体部外面透明釉。			17世紀後半～ 18世紀初頭	
<b>田口上田尻遺跡280号土坑</b>															
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 材	色調	焼成	成整形の特徴等			備考	
201-3 241	在地系 皿	1	9.9	6.0	2.6		一部欠	A	橙		体部直線的に開き、口縁部肥厚。歪み著しい。底部左回転糸切無調整。			4と口合わせ 江戸時代	
201-4 241	在地系 皿	2	9.8	5.6	3.0		完形	A	橙		体部内湾し、口縁部肥厚。歪み著しい。底部左回転糸切無調整。底部外面石燻。			3と口合わせ 江戸時代	
<b>田口上田尻遺跡288号土坑</b>															
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 材	色調	焼成	成整形の特徴等			備考	
202-1 241	銅製品 銭貨		2.4	-	0.1	2.7	完形				咸平元宝			初鑄998	
<b>田口上田尻遺跡289号土坑</b>															
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 材	色調	焼成	成整形の特徴等			備考	
202-2 241	銅製品 銭貨	2	2.5	-	0.1	2.1	完形				咸平元宝			初鑄998	
<b>田口上田尻遺跡297号土坑</b>															
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 材	色調	焼成	成整形の特徴等			備考	
202-3	瀬戸・美濃陶器 小杯		(7.2)	-	(1.8)		口縁部片		灰黄		器壁薄く、口縁部大きく外反。灰釉。細かい貫入する。			大窯I・II	
<b>田口上田尻遺跡322号土坑</b>															
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 材	色調	焼成	成整形の特徴等			備考	
203-1 241	銅製品 銭貨	1	2.5	-	0.1	3.2	完形				寛永通宝			初鑄1626	

1 面川期 田口下田尻遺跡

田口下田尻遺跡48号溝

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
206-1	石製品 硯		8.2	5.2	1.5	84.4	破片	珪質粘板 岩			陸部のみ遺存	

田口下田尻遺跡49号溝

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
206-1	石白 下白		29.8	(16.2)	8.2	4700.0	1/2	粗粒輝石 安山岩			下白、心棒孔は貫通、擦面は磨滅が激しく目わずかに確認できる程度である。	

田口下田尻遺跡1c号道・4号溝

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
209-1	肥前陶器 碗	24・25・ 26	-	(6.0)	(2.4)		1/3		灰白		京焼風。高台内「富永」印	1660～1680 年代
209-2	瀬戸・美濃陶器 稜皿	3	-	(6.0)	(0.8)				灰白		鉄釉。底部内外面窯道具痕。	大窯Ⅱ
209-3	龍泉窯系 皿		-	-	-				灰白		口縁部外反。体部下位以下無釉。劃花文皿か。	12世紀後半?
209-4	美濃陶器 鉄絵皿	18	-	7.3	(1.4)				灰白		底部内面鉄絵。内面から高台脇長石釉。底部内面重ね焼き痕。	登窯3小期
209-5	龍泉窯系 皿	10	-	(7.0)	(1.6)		1/4		灰白～に ぶい黄橙		内底施文不明瞭。高台端部以外施釉。貫入。やや焼成不良であるが、釉厚く上質。	13～14世紀 中
209-6	肥前磁器 皿	12	21.8	-	(1.9)		1/6		白		口縁端部内面の圈線部小さく窪む。髭皿か。	1650～1660 年代
209-7	在地系 内耳鍋	7	-	-	-			A	にぶい黄 橙	酸化	器壁薄い。内耳部のため口縁部形状不明。	15世紀後半か
209-8	古瀬戸 梅瓶	-	-	-	-				にぶい黄 橙		外面灰釉。釉の流下があり、体部下位片か。	古瀬戸中期
209-9	銅製品 煙管	1	3.7	1.8	1.9	3.2	ほぼ完形				雁首の一部が欠損しており、上部に合わせがある。火皿の径は1.9cmほどで、状態は良好である。	
209-10	銅製品 煙管	4	5.0	1.2	1.1	2.9	一部欠損				吸い口で、羅字側は上下に潰れている。合わせは上部に見られる。	
209-11	鉄製品 刀子茎か		(4.6)	1.1	0.5	4.1					断面四角。	
209-12	鉄製品 釘か	14	(4.0)	0.7	0.5	2.9	破片				断面長方形を呈し、両端が欠損しているため用途を特定しにくい が、釘の可能性が高い。	
209-13	鉄製品 不明		(3.3)	0.5	0.5	1.6						
209-14	銅製品 不明	20	1.7	0.9	0.5	0.7	ほぼ完形				断面は円形で、先細りの空洞製品である。留め金のようなものか 不明。	
210-15	金銅製品 鈴	1	2.6	2.2	2.2	13.3	完形				上下の合わせ部に段差がみられる。鈕は環状で基部にヤスリかの 痕跡がある。鈴子は1個である。	
210-16	銅製品 銭貨	17	2.5	-	0.1	3.1	完形				永楽通宝	初鑄1408
210-17	銅製品 銭貨	7	2.3	-	0.1	1.6	完形				寛永通宝	初鑄1626
210-18	銅製品 銭貨	13	2.3	-	0.1	1.6	一部欠損				判読不可。	
210-19	石製品 石鉢	15	(29.6)	-	(9.8)	484.7	剥片	粗粒輝石 安山岩			小片。表面仕上げ丁寧。	
210-20	石製品 石鉢	31	(24.0)	-	(11.5)	469.2	剥片	粗粒輝石 安山岩			底部欠。小ぶり。	
210-21	五輪塔 地輪		23.3	24.5	17.7	10100.0	ほぼ完形	ニッ岳石			本来は五輪塔地輪か。上面に不整形(規模17.0×15.0cm)、深さ6.0cm の窪み。	

田口下田尻遺跡204号土坑

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
211-1	美濃陶器 小碗	77	7.9	4.1	3.7		口縁1/3 欠		淡黄		内面から高台脇鉄釉。底部内面目痕3カ所。外面口縁部以下回転 ヘラ削り。	登窯4小期 ヘラ削り
211-2	美濃陶器 小碗	92	7.5	4.0	3.6		完形		灰白		内面から高台脇鉄釉。外面口縁部以下回転ヘラ削り。高台脇水平 に削る。高台端部回転系切り痕残る。削りだし高台。	登窯4小期
211-3	瀬戸陶器 鉄絵皿		-	(8.0)	(1.9)		1/4		灰白		底部内面鉄絵。高台端部以外に長石釉。貫入。	大窯Ⅳ後半
211-4	須恵器 杯	93	8.5	5.4	2.3		完形	砂粒を 含む	橙	酸化	外底左回転系切り。	
212-5	渥美? 甕	-	-	-	-		頸～胴部 片	細砂粒を 含む	灰白	還元	外面に釉。	6と同一か?
212-6	渥美? 甕	-	-	-	-		頸～胴部 片	細砂粒を 含む	灰白	還元	外面に釉。	
212-7	須恵器 甕		-	(19.6)	(4.8)		底部片	白色粒子 を含む	灰白	還元	外底不明圧痕。	小片
212-8	石製品 砥石		(4.3)	2.9	1.6	30.5	破片	砥沢石			両端部を欠損しており、主要砥面は1面で、他3面は切り出した 面が残存しているものと考えられる。	
212-9	銅製品 銭貨	90	2.5	-	0.1	2.6	完形				寛永通宝	初鑄1626
212-10	銅製品 銭貨	91	2.6	-	0.1	2.7	完形				寛永通宝	初鑄1626
212-11	銅製品 銭貨	101	2.3	-	0.1	3.1	完形				寛永通宝	初鑄1626
212-12	銅製品 銭貨	100	2.4	-	0.1	1.4	一部欠損				寛永通宝	初鑄1626

田口下田尻遺跡212号土坑

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
212-13	瀬戸・美濃陶器 鉄絵皿	3	11.8	7.5	2.2				灰白		内面鉄絵具による簡略化した蘭竹文。内面から体部外面の長石釉 焼成不良により白濁。内外面目痕3カ所。	登窯3小期
212-14	石製品 砥石	5	(8.1)	2.9	2.4	72.9	剥片	砥沢石			両端部を欠損しており、主要な砥面は2面と考えられる。	

遺物観察表

212-15 242	石製品 砥石	4	(7.3)	4.5	4.5	188.0	1/3	流紋岩			両端部を欠損しており、主要な砥面は4面と考えられる。	
田口下田尻遺跡214号土坑												
挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
213-1 242	石製品 砥石	1	(10.1)	2.8	2.0	97.6	完形	砥沢石			一端を欠損しており、主要砥面は上下2面で、両側面は整形痕が認められる。	
田口下田尻遺跡62号土坑												
挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
213-2	在地系 すり鉢	1	-	(11.4)	(8.4)			A	にぶい黄 褐	酸化気味	内面5本単位の放射状すり目3カ所残存。5カ所に施した可能性高い。体部内面下位から底部内面使用により摩滅。底部と体部との境の屈曲は摩滅しない。	15世紀中～ 16世紀
213-3 242	石製品 砥石	3	8.8	5.1	2.2	103.4	完形	砥沢石			一端を欠損しており、主要砥面は1面と見られる。	
213-4	石製品 土鉢	4	(26.5)	-	(7.9)	415.0	剥片	粗粒輝石 安山岩	灰		下白の可能性あり。	
2面1期 田口上田尻遺跡												
田口上田尻遺跡 3号溝												
挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
216-1	龍泉窯系 青磁皿		(12.6)	-	(2.6)		1/6		灰白		体部内湾し、口縁部ゆるく外反。内外面青磁釉。釉の透明度低い。14世紀末～15世紀中	
216-2	石製品 模造品		2.2	2.3	0.3	3.3	完形	滑石			周囲を打ち欠いて円盤状に整形し、両面を研磨。中央に穿孔。	
田口上田尻遺跡 4号溝												
挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
216-3	常滑陶器 甕		-	-	-		破片		にぶい褐 暗灰黄		肩部小片。器壁厚。外面上部自然釉。上面割れ口漆継ぎ痕。	中世
田口上田尻遺跡 14号溝												
挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
217-1	常滑陶器 甕		-	-	-		頸部片		断面：灰 黄		頸部から口縁部片。外面肩部と口縁部内面自然釉。	12世紀～14 世紀
217-2	制作地不詳陶器 瓶類		-	-	-		破片		黄灰		体部片。外面器表黒色。外面、上部から灰釉流れる。上面割れ口に漆継ぎ痕。湿美か。	時期不詳
217-3 242	石製品 砥石		(4.0)	2.5	1.8	27.1	ほぼ完形	変質デイ サイト			表裏2面の主要砥面が研ぎ減り、薄くなった端部付近に直径4mmの孔を開け、接するカ所に1カ所未完通の孔がある。側面も若干使用される。穿孔されない側の小口面には細かい条線がある。穿孔される側の小口面は、新しい欠損部とやや摩滅した折れ面が認められ、欠損後に穿孔された可能性が高い。中砥、4面使用。	砥面：形状不 明
218-4	須蓋器 蓋		(15.8)	摘径-	(2.5)		1/4	細砂粒	灰	還元炎	焼き締まりなし。つまみ欠損。口縁部内面かえりなし。天井部外面右回転ヘラ削り。	
218-5	土師器 台付甕	6・9	(16.2)	-	(7.2)		1/4	粗砂粒・ 細砂粒	にぶい橙	良好	口縁部「S」字状。外面やや粗い斜位ハケ目(1cm当たり5)後、横線状のハケ目。器壁やや厚い。口縁部横撫で。頸部内面ハケ目。口縁部下位内面指頭圧痕。体部内面撫で。	
218-6 242	土製品 土鉢		4.3	3.5	3.1	41.6	完形	細砂粒	灰白	普通	長さ短く丸みを帯びる。表面は撫で。	
218-7 242	石製品 管玉未成品か	1	2.1	1.0	1.0	3.1	破片	砥沢石			幅広で薄い形状。4面使用され、一方の側面は砥面の窪みが目立つ。欠損のためか、表裏の窪みは目立たないが、厚みに7mmの差がある。破片のため砥面形状は不明。中砥、4面使用。	砥面：形状不 明
田口上田尻遺跡 37号溝												
挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
220-1	常滑陶器 甕	6	-	-	-		破片		褐灰		肩部小片。外面上部自然釉斑状にかかる。	中世
220-2	在地系 内耳鍋	4	(29.8)	-	(4.8)		1/5	A	にぶい黄 褐、器表 灰黄褐		口縁部内面と体部境明瞭な段。口縁部平坦で、外方に張り出す。器壁やや厚い。	16世紀
220-3	在地系 内耳鍋	7	-	-	-			A	にぶい黄 橙 外面 器表褐灰	還元気味	口縁部内面と体部境明瞭な段をなす。口縁部上面僅かに窪み、外面は外方に突き出る。器壁やや厚い。	16世紀
220-4	在地系 片口鉢か		-	-	-			A	灰白、器 表灰		器壁厚。口縁部横撫で。口縁部内面やや窪む。	中世以降
220-5	在地系 内耳鍋	12	-	-	-		体部下位 ～底部片	A	にぶい 褐、器表 黒		平底。内面から体部外面下部黒色、体部外面下部から底部外面にぶい褐色。体部外面下端ヘラ削り後撫で。器壁やや厚い。	中世
221-6 242	五輪塔 火輪	13	27.4	27.2	17.4	14200.0	ほぼ完形	ニッ岳石			火輪、笠に梵字が彫り込まれている(判読不能)。上面に風輪のぼぞを差し込む円柱状のぼぞ穴。	
221-7 242	五輪塔 水輪	15	25.5	25.7	17.2	12100.0	完形	ニッ岳石			水輪、側面は丁寧な加工。上下面は細かい凹凸が残るやや粗い加工。	
221-8 243	五輪塔 地輪	17	21.7	21.8	16.2	12300.0	完形	ニッ岳石			地輪、各面とも比較的丁寧な加工。	
221-9 243	五輪塔 地輪	14	18.7	22.5	13.0	6450.0	ほぼ完形	ニッ岳石			地輪、短辺の側面はわずかに膨らみをもつ。側面は丁寧な加工、上下面は細かい凹凸が残る。	
222-10 243	五輪塔 地輪	16	27.5	28.0	20.9	23200.0	ほぼ完形	ニッ岳石			地輪、上面、側面は若干の凹凸が残るが比較的丁寧な凹凸、下面はやや粗い加工。	
222-11 243	五輪塔 地輪	18	23.6	23.4	16.7	13600.0	完形	ニッ岳石			地輪、上面は比較的丁寧な加工であるが、側面、下面はやや粗い加工。	
田口上田尻遺跡 53号溝												
挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
226-1	在地系 皿		(8.0)	(4.2)	2.3		1/2	A	にぶい黄 橙		体部内面に段を有する。内面底部周縁小さく窪ませる。底部器壁厚。他に比して色調が白っぽく、類例の少ない器形。底部左回転？糸切無調整。	
226-2	在地系 皿		-	(5.0)	(1.0)		底部	A	にぶい黄 橙		底部底部左回転糸切無調整。底部内面左回転の螺旋状轆轤目。	中世か

遺物観察表

226-3	在地系皿		(13.0)	(5.8)	3.8		口縁部一部、底部完	A	灰黄		酸化	体部は外湾し、口縁部は内湾。口縁部肥厚。底部静止系切無調整。底部内面強い指撫により凹凸生じる。	中世
227-4	在地系すり鉢		(33.0)	-	(8.0)		1/8	A	にぶい黄橙	還元	酸化	片口部。口縁部僅かに丸味を帯びる。端部内面摩滅。体部内面下位使用によりやや摩滅。	15世紀中～後半
227-5	在地系すり鉢		-	-	-		口縁部から体部片	A	にぶい黄褐、器表灰白	還元		内面体部下位使用により器表摩滅。口縁部内面やや突出するが、摩滅のため突出程度は不詳。	中世
227-6	在地系すり鉢		-	-	-		口縁部片	A	にぶい黄橙	還元	酸化	片口部。口縁部僅かに丸味を帯びる。端部内面小さく突出。	15世紀中～後半
227-7	在地系内耳鍋?		-	(11.0)	(1.3)		底部片	A	にぶい黄褐、器表黒	還元		底部外面砂底状の型作り痕。底部外面周縁丁寧な撫で。体部下端外面も丁寧な横撫で。	中世か
227-8	在地系すり鉢		-	-	-		体部片	B	灰黄褐	還元	酸化	体部片。内面幅が不均一なすり目。内面下部使用により器表摩滅。	15世紀中～16世紀
227-9	古瀬戸おろし皿		-	-	-		底部片		灰黄			底部外面回転系切無調整。内面おろし目。一部に灰釉。	古瀬戸後期
227-10	石製品砥石		(8.7)	3.4	3.5	137.8	3/4	砥沢石				現存長8.6cm。幅は、端部を除き3.5cmとほぼ一定。4面すべて使用するが、主要砥面は幅の広表表面である。両側面は、残存部中央付近に僅かに窪む程度ではほぼ平坦。両側面共に下部小口面付近で斜めに傾斜するが、砥面に細かな窪みが多く、研ぎによって形成された傾斜ではなく、製作時から傾斜していた可能性が高い。表面は残存部中央が窪む。裏面も同様であるが、砥面に斜め傾斜が認められる。下部小口面に平整形が認められる。中砥、4面使用。	幅：3.5mm 差：- 砥面：表 I c-5か、裏 I a-5か
227-11 243	石製品砥石		(5.6)	(4.4)	1.3	39.9	破片	砥沢石				現存長5.6cm。両側面は一部残存するのみである。裏面の薄い部分は砥面状を呈するが、厚い部分は割れ面であり、当初からの厚さではない可能性が高い。残存部位が不明なため、砥面形状も不明。	中砥、砥面：形状不明
227-12 243	石白上白	1	(15.2)	(15.2)	8.2	1350.0	1/6	粗粒輝石安山岩				上白、擦面は磨滅しており目の状態は不明瞭。	
227-13	銅製品銭貨		2.5	-	0.1	2.2	完形					景德元宝	初鑄1004

田口上田尻遺跡 54号溝

挿入番号 PL	種別器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考	
227-14	中国白磁皿		-	3.8	(1.4)		底部		灰白		やや焼成不良で十分磁化していない。内面から体部外面下位施釉。中央から貫入する。体部外面回転へら削り。削り出し高台で、高台底部外面斜めに削る。	白磁皿 B 群 14世紀後半～15世紀	
227-15	在地系内耳鍋		-	-	-		口縁部片	B	灰黄褐、器表灰～暗灰	還元と燻しの間		口縁部外反し、端部付近は内湾。端部内面僅かに張り出し、この部分器表摩滅。体部外面境口縁部横撫でにより段差生じる。内面口縁部下ごく僅かな段差。	Ⅲ期
227-16	在地系すり鉢	6	-	-	-		体部下位片	A	黄灰、器表灰	還元		内面6本一単位のすり目。底部周縁から体部下端使用により器表摩滅。底部外面周縁も器表摩滅。	15世紀中～16世紀
227-17	常滑陶器甕	3	-	-	-		口縁部片		黄灰			縁部口縁部に密着。端部上面沈線状に窪む。内面器表にぶい赤褐色。	16世紀前～中
228-18 243	銅製品銭貨	1	2.6	-	0.2	3.8	完形					永楽通宝	初鑄1408

田口上田尻遺跡 55号溝

挿入番号 PL	種別器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考	
228-19 243	石白上白	1	(19.4)	(25.4)	16.5	6460.0	1/3	粗粒輝石安山岩				上白、擦面はやや磨滅しているが目は主構、副溝が判別可能である。	

田口上田尻遺跡 62号溝

挿入番号 PL	種別器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考	
230-1	中国白磁皿		(9.0)	-	(2.1)		1/3		灰白		県内で多く出土する白磁に比して口縁部の内湾強く、口径小さい。内面から体部外面下位施釉。細かい貫入する。体部外面下半回転へら削り。焼成は良好。	白磁皿 B 群 14世紀後半～15世紀	
230-2	在地系片口鉢	1	-	-	-		片口部片	A	灰黄	燻し		素地が還元する燻し焼成で、焼き締めはない。燻しは器表のみ。口縁部玉縁状をなし、端部尖る。	中世

田口上田尻遺跡 70号溝

挿入番号 PL	種別器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考	
234-1	在地系内耳鍋		-	-	-		口縁部片	A	黄灰	還元		耳部やや太い。耳貼付部外面に撫でが認められることから、粘土紐を口縁部に通していると考えられる。器壁厚く口縁部短い。端部は内面に突き出る。口縁部横撫で。体部外面の撫でも丁寧。	中世
234-2	在地系内耳鍋		-	-	-		口縁部片	B	にぶい橙			内面器表灰色、外面器表黒色。口縁部段をなして外方に屈曲。口縁部端部外方に突出する。端部上面僅かに窪む。	中世
234-3	在地系片口鉢		-	(11.0)	(6.2)		1/3	A	黄灰	還元		底部回転系切無調整。体部外面指押さえ後、粗い撫で。外面体部下端強い撫で。体部内面使用により器表平滑となり、下位の轆轤目部分2カ所は器表摩滅。底部周縁屈曲部は磨滅していない。	中世

田口上田尻遺跡 213号土坑

挿入番号 PL	種別器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考	
237-1 243	銅製品銭貨	1	2.5	-	0.1	2.4	完形					景德元宝	初鑄1004
237-2 243	銅製品銭貨	2	2.5	-	0.1	3.1	完形					景德元宝	初鑄1004
237-3 243	銅製品銭貨	2	2.5	-	0.1	2.5	完形					永楽通宝	初鑄1408
237-4 243	銅製品銭貨	1	2.4	-	0.1	2.1	完形					至道元宝か	
237-5 243	銅製品銭貨	1	2.5	-	0.1	2.1	完形					天禧通宝	初鑄1017
237-6 243	銅製品銭貨	2	2.4	-	0.2	2.8	ほぼ完形					洪武通宝	初鑄1368

田口上田尻遺跡 283号土坑

挿入番号 PL	種別器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考	
239-1 243	銅製品銭貨	1	2.5	-	0.1	2.6	完形					永楽通宝	初鑄1408
239-2 243	銅製品銭貨	1	2.5	-	0.1	3.2	完形					永楽通宝	初鑄1408



遺物観察表

239-3	銅製品 銭貨	1	2.4	-	0.1	2.4	完形					聖宋元宝	初鑄1101
-------	-----------	---	-----	---	-----	-----	----	--	--	--	--	------	--------

田口上田尻遺跡 338号土坑

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
239-4 243	銅製品 銭貨	3	2.5	-	0.1	2.8	完形				聖宋元宝(篆)	初鑄1101
239-5 243	銅製品 銭貨	3	2.5	-	0.1	3.1	完形				元祐通宝	初鑄1086
239-6 243	銅製品 銭貨	3	2.4	-	0.1	2.7	完形				元祐通宝	初鑄1086
239-7	銅製品 銭貨	3	2.4	-	0.1	3.5	完形				熙寧元宝	初鑄1068
239-8	銅製品 銭貨	3	2.3	-	0.1	3.4	完形				熙寧元宝	初鑄1068
239-9	銅製品 銭貨	3	2.4	-	0.1	2.9	完形				大観通宝	初鑄1107

田口上田尻遺跡 4号集石

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
243-1	在地系 内耳鍋	8	-	-	-	-	口縁部片	B	にぶい 橙、器表 黒		口縁部下で屈曲し、内面緩い段差。口縁部緩く内湾。口縁部端部水平で小さく外方に張り出す。耳部1カ所残存。燻し焼成。	IV期
243-2	在地系 内耳鍋	19	-	-	-	-	口縁部片	A	にぶい 褐、器表 黄灰		口縁部外反し長い。端部上面丸味を帯び、内面稜をなす。体部外面境強い横撫でにより凹線状に窪む。	III期
243-3	在地系 内耳鍋	15	-	-	-	-	口縁部～ 体部片	B	にぶい 褐、器表 黄灰	燻し	口縁部屈曲して外反。口縁部平坦で端部外面張り出す。体部外面境を凹線状に窪ませる。内面口縁部下の稜は鈍いが段差は明瞭。	16世紀
243-4	在地系 内耳鍋	30	-	-	-	-	口縁部～ 体部片	A	灰、器表 暗灰	還元	口縁部下で外反し、端部付近で内湾。端部内面は小さく内側に突き出し、上面は平坦。内面口縁部下の段差は非常に小さく低い。外面口縁部下強い横撫でにより凹線状に窪む。	中世
243-5	在地系 すり鉢	29	(30.6)	-	(7.6)	-	1/5	A	にぶい 褐	酸化	口縁部付近器表黒灰色。内面から口縁部外面横撫で。口縁部内面突出。突出部器表摩滅。端部外面沈線巡る。体部内面下位使用により平滑。	15世紀前半～ 中
243-6	在地系 内耳鍋	34	-	-	-	-	口縁部片	A	にぶい 黄、器表 灰～暗灰	還元気味	内耳部付近のためかやや歪で撫でが認められる。口縁部平坦。口縁部横撫で。	大窯IV
243-7	石製品 石鉢	7	(41.0)	-	(9.6)	875.0	口縁片	粗粒輝石 安山岩			内外面とも比較的丁寧な加工。	
243-8 244	茶白 上白	4	(11.6)	19.0	12.4	2640.0	1/2	粗粒輝石 安山岩			上白、挽手孔の裝飾は一重の方形、擦面はあまり摩滅しておらず、目の状態は明瞭。	
243-9 244	茶白 下白	3	-	(28.6)	12.8	2635.0	1/4	粗粒輝石 安山岩			下白、受皿は打ち欠かれている。擦面はあまり摩滅しておらず、目の状態は明瞭。	
243-10 244	茶白 下白	6	(23.0)	(16.4)	8.9	3550.0	1/4	粗粒輝石 安山岩			下白、心棒孔は貫通。擦面は激しく磨滅しており、目はかすかに溝が確認できる程度である。	

田口上田尻遺跡 5号集石

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
243-11 244	石白 上白	1	(10.9)	(14.1)	(9.2)	950.0	1/8	粗粒輝石 安山岩			上白、挽手孔は一辺2.5cmの方形で奥行4.0cm、擦面は磨滅しており目の状態は不明瞭。	

田口上田尻遺跡 49号土坑

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
245-1	在地系 焙烙	4・5	-	-	-	-	破片	B	黒		断面中央黒色、器表付近灰白色、器表黒色。内面中位明瞭な段をなす。外面中位紐作り痕残る。外面下位型削残る。	中世～江戸時代

田口上田尻遺跡 60号土坑

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
245-2 244	中国 白磁皿	1	(9.6)	(4.0)	2.5	-	1/2		灰白・淡 黄・橙		焼成不良により釉白濁し、器表ざらつく。焼き締まりない。底部内目から高台内施釉。高台4カ所抉り、高台端部摩滅。底部内面2カ所重ね焼き痕残る。	14世紀後半～ 15世紀

田口上田尻遺跡 242号土坑

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
247-1	中国磁器 青花皿		(11.7)	-	(1.9)	-	1/6		灰白	不良	粗い貫入あり。釉やや濁る。	皿B2群

田口上田尻遺跡 358号土坑

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
248-1 244	中国 白磁皿	1	8.0	4.0	2.0	-	口縁部 2/3欠		灰白		全面施釉。底部内面重ね焼き痕4カ所。高台4カ所抉る。細かい貫入入る。焼成やや不良で磁化していない。	14世紀後半～ 15世紀

田口上田尻遺跡 374号土坑

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
249-1	在地系 内耳鍋		-	-	-	-	口縁部片	A	にぶい 褐、器表 黒		口縁部外反し、屈曲部内面緩い稜線をなす。口縁部丸みを帯びる。口縁部横撫で。口縁部内面右側中央部がやや窪み、耳部に近い可能性高い。	中世

田口上田尻遺跡 382号土坑

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
249-2	在地系 片口鉢		-	-	-	-	体部下位 片	B	にぶい 黄	酸化	若干還元気味で器表黄灰色。外面指押さえ。内面上位使用により器壁平滑となり、下位は器表摩滅。	中世

2面1期 田口下田尻遺跡

田口下田尻遺跡 21号溝

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
256-1 244	石白 下白	2	(40.8)	-	(5.2)	371.0	破片	粗粒輝石 安山岩	灰		粉受け部。	

田口下田尻遺跡 37号溝

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
258-1 244	鉄製品 鏃	1	20.8	1.9	1.3	30.8	完形				刃部三角形	劣化

田口下田尻遺跡 202号土坑

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
261-1 244	銅製品 銭貨		2.47	-	0.1	2.2	完形				永楽通宝、明	初鑄1408
261-2 244	銅製品 銭貨		2.4	-	0.1	2.4	完形				判読不可	
261-3 244	銅製品 銭貨	1~3	2.5	-	0.1	2.4	ほぼ完形				元通宝	
261-4 244	銅製品 銭貨	4	2.4	-	.11	2.1	完形				政和通宝(篆)、北宋	初鑄1111
261-5 244	銅製品 銭貨	4・5	2.4	-	0.1	3.1	完形				景祐元宝か、北宋	初鑄1034
261-6 244	銅製品 銭貨	6	2.3	-	0.1	2.9	完形				洪武通宝、明	初鑄1368
262-7 244	銅製品 銭貨	7	2.5	-	0.1	2.6	完形				開元通宝、唐	初鑄621
262-8 244	銅製品 銭貨	7	2.4	-	0.1	2.9	完形				皇宗通宝(篆)、北宋	初鑄1039
262-9 244	銅製品 銭貨	8	2.5	-	0.1	3.2	完形				永楽通宝、明	初鑄1408
262-10 244	銅製品 銭貨	9-11	2.4	-	0.1	2.6	完形				永楽通宝、明	初鑄1408
262-11 244	銅製品 銭貨	10	2.6	-	0.1	2.4	完形				天禧通宝か、北宋	初鑄1017
262-12 244	銅製品 銭貨	11	2.3	-	0.1	2.4	完形				熙寧元宝、北宋	初鑄1068
262-13 244	銅製品 銭貨	12	2.4	-	0.2	2.2	完形				永楽通宝、明	初鑄1408
262-14	鉄製品 不明	13	(2.0)	0.6	0.6	0.9	破片				断面長方形の棒状の製品で、15・16と同一個体の可能性がある。	
262-15	鉄製品 不明	13	(4.9)	1.7	0.7	7.8	破片				断面長方形の棒状の製品で、14・16と同一個体の可能性がある。	
262-16	鉄製品 不明	13	(7.7)	1.0	0.4	6.3	破片				断面長方形の棒状の製品で、14・15と同一個体の可能性がある。	
262-17	鉄製品 釘か	14	(6.6)	0.6	0.4	1.4					木質残、2片接合。	

田口下田尻遺跡 206号土坑

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
262-18 244	銅製品 銭貨	1	2.5	-	0.1	3.7	完形				永楽通宝、明	初鑄1408
262-19 244	銅製品 銭貨	2	2.5	-	0.1	2.1	完形				元祐通宝(篆)、北宋	初鑄1086
262-20 244	銅製品 銭貨	3・4	2.5	-	0.1	2.8	完形				大観通宝、北宋	初鑄1107
262-21 244	銅製品 銭貨	4	2.4	-	0.1	2.6	完形				元豊通宝、北宋	初鑄1078
263-22 244	銅製品 銭貨	5	2.3	-	0.1	2.9	完形				洪武通宝、明	初鑄1368
263-23 244	銅製品 銭貨	6	2.4	-	0.1	2.4	完形				開元通宝、唐	初鑄621

田口下田尻遺跡 227号土坑

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
263-24 244	銅製品 銭貨	1	2.5	-	0.1	3.0	完形				紹聖元宝(篆)、北宋	初鑄1094
263-25 244	鉄製品 不明	2	(2.0)	0.4	0.3	0.2	破片				断面が円形を呈する針状の製品であるが、用途は不明である。	

田口下田尻遺跡 1号集石F

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
265-1	石白 下白	1	(42.4)	-	(4.5)	224.6	破片	粗粒輝石 安山岩			粉受け部	

田口下田尻遺跡 1号集石G

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
265-2	石製品 石鉢	2	(35.4)	-	(12.2)	2052.1	剥片	粗粒輝石 安山岩			浅い、表面凹凸。	
265-3	石白 上白	1	-	-	(9.8)	1100.0	剥片	粗粒輝石 安山岩			投入孔に煤付着。	

田口下田尻遺跡 2号集石

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
266-1	石白 下白	2	-	-	(11.5)	1200.0	剥片	粗粒輝石 安山岩			摺り目磨滅。	

田口下田尻遺跡 24号土坑

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
267-1 244	石製品 石鉢	8	(27.4)	-	(12.4)	335.9	破片	粗粒輝石 安山岩			口唇部・内面は滑らか。	

遺物観察表

田口下田尻遺跡 28号土坑

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
267-2	在地系 すり鉢		-	-	-			A	明褐色	還元	口縁部緩く内湾。口縁部内面低く突き出る。口縁部平坦。口縁部内外面のみやや磨滅。	15世紀前半
267-3 244	銅製品 銭貨	1	2.1	-	0.2	2.5	完形				洪武通宝、明	初鑄1368

田口下田尻遺跡 29号土坑

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
268-1 244	銅製品 銭貨		2.5	-	0.1	2.4	完形				永楽通宝、明	初鑄1408

田口下田尻遺跡 30号土坑

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
268-2 244	銅製品 銭貨	1	2.3	-	0.1	1.6	一部欠損				天聖元宝(篆)か、北宋	初鑄1023

田口下田尻遺跡 46号土坑

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
269-1 245	鉄製品 釘か	24	(2.7)	0.7	0.8	3.4	破片				断面方形で直角に近い角度に曲がっている。両端部を欠損しているため判然としないが、釘の可能性が高い。	
269-2 245	鉄製品 釘か		(4.7)	0.8	0.5	3.8	破片				断面方形で、直角に近い角度に曲がっている。両端部が欠損しており用途は判然としないが、細身の釘の可能性が高い。	
269-3 245	鉄製品 釘か		(2.6)	0.6	0.5	0.8	破片				断面長方形で、両端部が欠損する。一端に向かって細くなっていることから釘の可能性が高い。	
269-4 245	鉄製品 釘か	2	(3.8)	1.1	1.0	6.2	破片				断面方形の棒状を呈するもので、両端部を欠損しているため用途は判然としないが、釘の可能性が高い。	
269-5 245	鉄製品 釘か		(4.0)	0.7	0.6	1.7	破片				断面方形の棒状の製品で、一端に向かってより細くなっていることから釘の可能性が高い。	
269-6 245	石白 下白	26	-	-	(11.5)	400.0	破片	粗粒輝石 安山岩			上白、投入孔あり、摺り目磨滅。	
269-7 245	茶白 下白		(28.8)	(14.4)	12.1	4400.0	1/2	粗粒輝石 安山岩			下白、受血縁は打ち欠かされている。擦面の磨滅は激しく目の状態は溝がかすかに残るだけで不鮮明である。	
269-8 245	石白 下白		(24.9)	(27.5)	13.8	12470.0	4/5	粗粒輝石 安山岩			下白、受血縁は打ち欠かされている。擦面の磨滅はしているが、目は明瞭で溝の判別は可能である。	
269-9 245	石白 下白		(15.0)	(17.2)	11.0	3040.0	1/6	粗粒輝石 安山岩			下白、擦面は磨滅が激しく、わずかに目の痕跡が残る程度である。	
269-10 245	石白 下白		(15.8)	(20.2)	13.2	4500.0	1/5	粗粒輝石 安山岩			下白、心棒孔は貫通、擦面は磨滅が激しいが、目は明瞭で溝は判別可能である。	

田口下田尻遺跡 65号土坑

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
270-1	中国 白磁皿	1	(9.8)	-	(1.6)		1/2		灰白		内面降り物目立つ。外面口縁部以下回転ヘラ削り。内外面施釉。	白磁皿B群 14世紀後半～ 15世紀

田口下田尻遺跡 73号土坑

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
271-1 245	石白 上白		(28.5)	(17.0)	13.1	5100.0	1/3	粗粒輝石 安山岩			上白、上縁と下面の縁一部を欠く。擦面は磨滅しているが、目の状態は明瞭。	

田口下田尻遺跡 154号土坑

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
272-1	在地系 内耳鍋		-	-	-			A	器表： 断面： にぶい褐色		口縁部短く外反し、端部は上方に小さく立ち上げる。外面口縁部下、横位の刷毛状目調整痕。	大塚 I 14世紀末～15世紀初頭?

2面II期 田口上田尻遺跡

田口上田尻遺跡 2号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
275-1 245	須恵器 環	1	16.2	6.5	5.3		ほぼ完形	礫重量・ 砂粒	オリーブ 黒、黄褐色	酸化焰	内面器表黒色部分多い。口縁部強い回転横撫でにより外反し、内面は稜をなす。底部内面螺旋状轆轤目。底部右回転糸切無調整。	
275-2 245	須恵器 環		(9.8)	(5.8)	3.1		1/4	粗砂粒・ 細砂粒	にぶい黄 橙	酸化焰	体部下位内湾し、口縁部外反。右回転轆轤調整。底部右回転糸切無調整。	
275-3 245	須恵器 環	7・9	(9.8)	-	(3.2)		1/3	粗砂粒・ 細砂粒	にぶい黄 橙	酸化焰	右回転轆轤調整。口縁部外反。体部下位轆轤目顕著。	
275-4 245	須恵器 塊か		(15.7)	-	(3.8)		1/7	細砂粒	にぶい黄 橙	酸化焰	右回転轆轤調整。口縁部外反。口縁部やや歪み、推定径がやや大きい可能性がある。	
275-5 245	土師器 塊	1	-	(7.8)	(2.5)		底部	細砂粒	にぶい褐色	良好	底部外面ヘラ削り。貼付高台。内面2/3黒色。内面ヘラ磨き。	
276-6 245	須恵器 塊	2	(14.5)	(9.8)	7.8		1/4	粗砂粒・ 細砂粒	浅黄	還元焰	高台高く、外反する。口縁部外反。轆轤右回転調整。	
276-7 245	須恵器 塊		-	(6.4)	(2.2)		底部	細砂粒	にぶい黄 橙	酸化焰	器表割れ目磨滅。轆轤回転方向不明。貼付高台。底部切り離し技法不明。	
276-8 245	須恵器 塊		-	(8.8)	(4.0)		底部	粗砂粒・ 細砂粒	にぶい褐色	酸化焰	轆轤右回転調整。貼付高台。底部切り離し技法不明。	
276-9 245	須恵器 羽釜	3	(20.0)	-	(7.4)		口縁部片	礫少量・ 砂粒	にぶい黄 橙	酸化焰	口縁部内傾。鈔貼付。轆轤回転方向不明。	

田口上田尻遺跡 3a号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
277-1 245	須恵器 環	31	-	4.0	(3.3)		下半	砂粒	橙、暗赤 褐色、赤褐色	酸化焰	底径小さい。底部右回転糸切無調整。底部内面螺旋状の轆轤目残る。	
278-2 245	須恵器 塊	19	13.0～ 14.0	6.8	5.0～ 5.5		一部欠	礫・砂粒	灰、浅黄	還元焰	轆轤右回転整形。口縁部歪む。高台貼付。	
278-3 245	須恵器 塊	2	-	(5.8)	(3.0)		底部	粗砂粒・ 細砂粒	にぶい黄 橙、黒褐色	還元焰	底部内面器表付近黒色。右回転轆轤整形。底部内面螺旋状轆轤目残る。高台貼付。	

278-4 245	須恵器 埴	6	-	6.4	(2.6)		底部	砂粒	灰黄、黒 褐	還元焰	底部中央付近黒色。右回転轆轤調整。底部内面螺旋状の轆轤目残る。高台貼付。
278-5	須恵器 埴	3	-	6.2	(2.3)		底部	砂粒	黒	燻し	右回転轆轤整形。底部内面螺旋状轆轤目残る。高台貼付。
279-6 246	須恵器 羽釜	14・15 ・16・A貯 貯蔵穴	19.6 ~ 21.2	-	(23.0)		3/4 (底 部欠損)	礫・砂粒	灰白	還元焰	口縁一部やや歪む。鈔貼付。轆轤整形、外面下部縦位ヘラ削り。外面に紐作り痕一部残る。
279-7 245	須恵器 埴	8・20	(13.0)	-	(4.4)		1/4	粗砂粒	浅黄橙、 灰	還元焰	轆轤右回転整形。高台貼付。内外面轆轤目立たない。
279-8 246	須恵器 埴	貯蔵穴30	(13.8)	-	(4.8)		1/4	砂粒	灰白	還元焰	右回転轆轤整形。口縁部歪む。

田口上田尻遺跡 3 b 号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
279-9 246	須恵器 環	13	9.8 ~ 10.8	5.0 ~ 5.4	2.7 ~ 3.4		ほぼ完形	砂粒	にぶい黄 橙、灰黄 褐	還元焰	底部右回転系切無調整。歪み著しい。	
279-10 246	土師器 埴	27・Aカ マド	(12.6)	-	(5.3)		1/3	砂粒	にぶい黄 橙、灰褐	礫・砂粒	口縁部小さく外反。体部外面ヘラ削り。高台貼付。	
279-11 246	須恵器 埴	4	(13.4)	5.8	5.1		3/4	赤色粒・ 粗砂粒	にぶい 橙、にぶ い黄橙	酸化焰	轆轤右回転整形。口縁部外反。高台貼付。	
279-12	須恵器 埴	Aカマド	-	(5.4)	(2.8)		底部小片	礫・砂粒	オリーブ 黒	還元焰	右回転轆轤調整。高台貼付。	
279-13	須恵器 羽釜か	カマド	-	7.2 ~ 7.5	(6.2)		底部	礫・砂粒	にぶい黄 橙、橙	酸化焰	外面ヘラ削り。内面整形粗く、凹凸多い。	

田口上田尻遺跡 3 a・b 号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
279-14 246	灰釉陶器 皿		(12.7)	6.3	2.5		口縁部一 部、底部 完		灰白	普通	体部は緩く内湾して開き、口縁端部は外反する。端部外面は尖り気味。低く「ハ」の字状に開く高台を貼り付ける。口縁部内外面漬け掛け。	
279-15	須恵器 埴	Aカマド	(10.8)	-	(3.2)		口縁部片	礫・砂粒	灰黄	還元焰	轆轤右回転整形。小型品。	
279-16	灰釉陶器 瓶		-	(7.5)	(3.4)		底部片		灰白	普通	体部外面回転ヘラ削り。貼付高台。高台端部内傾し、端部はくぼむ。外面施釉もしくは自然釉。	
279-17 246	灰釉陶器 皿		-	-	-		口縁部~ 底部片		灰白	普通	体部中位で上方に弱く屈曲して口縁部に至る。口縁端部は外反するが、端部欠損する。口縁部から体部中位まで施釉。高台欠損。	

田口上田尻遺跡 5 号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
280-1 246	須恵器 環	5	12.2 ~ 12.8	5.0	4.3 4.7		ほぼ完形	細砂粒	浅黄、黄 灰、にぶ い橙	酸化焰	体部下位丸みを帯びる。口縁部小さく外反。底部右回転系切無調整。	
281-2 246	須恵器 埴	8	14.0	9.8	6.9		完形	礫少量・ 砂粒	橙、黄橙、 黒	良好	轆轤右回転整形。高い高台貼付。内面黒色仕上げ。	
281-3 246	須恵器 埴	1	-	(9.8)	(3.5)		底部片	細砂粒	淡黄、灰 白	酸化焰	右回転轆轤整形。高い高台を貼り付ける。高台貼付時の撫でが中央にまで及び、切り離し技法不明。	
281-4 246	須恵器 埴	カマド	-	(7.8)	(2.4)		底部片	細砂粒含 むが緻密	橙、にぶ い黄橙	酸化焰	内面丁寧なヘラ磨きで、方向不明瞭。轆轤右回転整形。貼付高台。底部切り離し技法不明。胎土中に高師小僧含む。	

田口上田尻遺跡 8 号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
284-1 246	土師器 環	14	10.0	-	3.2		3/4	細砂粒	橙	良好	体部屈曲し、口縁部やや内傾。体部内面から口縁部外面横撫で。底部外面ヘラ削り。底部成形時に大きな凹凸を生じている。	
284-2	土師器 環	42	(10.4)	-	2.9		1/4	細砂粒	橙	良好	器表摩滅。口縁部外面横撫で。底部外面ヘラ削り、単位と方向不明瞭。体部外面指頭圧痕状の凹凸残る。	
284-3 246	土師器 環	37	10.6	-	3.0		1/2	細砂粒	橙	良好	口縁部内湾。体部内面から口縁部外面横撫で。底部外面ヘラ削り。底部内面ヘラナデ。	
284-4 246	土師器 環		(12.6)	-	(3.4)		1/5	細砂粒	にぶい橙	良好	口縁部僅かに内湾。体部内面から口縁部外面横撫で。底部外面ヘラ削り。底部外面ヘラ削り、摩滅により単位と方向不明瞭。内面器表摩滅。	
284-5 246	土師器 環		(10.8)	-	(3.0)		1/4	細砂粒	にぶい橙	良好	口縁部内傾く。体部内面から口縁部内面横撫で。底部外面ヘラ削り、摩滅により単位と方向不明瞭。	
284-6	土師器 環		(9.2)	-	(2.6)		1/6	細砂粒	橙	良好	胎土緻密で焼成硬質だが器表摩滅著しい。口縁部外反。外面口縁部下稜をなす。	
284-7 246	土師器 環	19	(13.8)	(8.8)	3.3		1/4 (底 部中央欠 損)	細砂粒	黄灰	還元焰	器高低く、底径大きい。右回転轆轤調整。底部回転ヘラ切り。	
284-8	土師器 環		(14.4)	(7.6)	3.9		1/4	細砂粒	灰	還元焰	器高やや高い。底部回転ヘラ切り。	
284-9 246	土師器 環	35	(13.8)	(10.0)	3.9		1/2	細砂粒	黄灰	還元焰	器高低く、底径大きい。右回転轆轤調整。底部回転ヘラ切り。	
284-10 246	土師器 環	36	-	8.0	(4.4)		1/2	細砂粒	黄灰	還元焰	体部やや内湾。残存部口縁部から体部外面と底部外面周縁自然釉かかり、伏せて焼成されたと考えられる。底部右回転系切り後、一部弧状にヘラ削りされる。口縁端部欠損。	
284-11	土師器 環	45	(12.8)	(7.2)	4.2		1/6 (底 部中央欠 損)	細砂粒	黄灰	還元焰	体部から口縁部ゆるく内湾。	
284-12	須恵器 埴		-	(6.4)	(2.4)		底部片	細砂粒	黄灰	還元焰	焼き締まりなく軟質。器表摩滅。高台貼り付け。高台内右回転系切り痕残る。胎土中に結晶片岩含む。	
284-13	須恵器 埴	6	-	(7.2)	(2.1)		底部片	細砂粒	灰	還元焰	高台貼り付け。高台内回転系切り痕かすかに残る。轆轤回転方向不明。	
284-14	須恵器 埴	82	(15.4)	-	(5.6)		1/4 (高 台部欠 損)	細砂粒	黄灰	還元焰	体部内湾し、口縁部小さく外反。右回転轆轤調整。高台接合部から剥落。	
284-15	須恵器 埴		(10.0)	-	(4.0)		口縁部片	細砂粒	黄灰	還元焰	口縁部外反。口縁部外面凹線 1 条巡る。	
284-16	土師器 甕	カマド	(19.6)	-	(6.8)		1/8	粗砂粒・ 細砂粒	にぶい褐	良好	体部から湾曲し、口縁部外反。口縁部横撫で。端部付近強めの横撫でにより、端部肥厚したように見える。口縁部外面中位から体部外面縦位幅の狭いヘラナデ。体部内面幅広のヘラナデ。	



遺物観察表

284-17	土師器 甕	71・75	(19.4)	-	(7.2)		口縁部片	細砂粒	にぶい黄 橙	良好	口縁部外反し、端部は更に水平に開く。口縁部内面上位やや凹み、 端部正面も凹線状に凹む。口縁部外面は中位と下端に、横撫でによる 小さい段を形成する。体部外面へラ削り。体部内面へラナデか。
284-18	土師器 甕	71・75	-	-	(7.0)		口縁部片	細砂粒	にぶい橙	良好	口縁部僅かに欠損。口縁部外反し、端部は更に水平に開く。口 縁部内面上位やや凹み、端部正面も凹線状に凹む。口縁部外面は 中位と下端に、横撫でによる小さい段を形成する。体部外面へラ 削り。体部内面へラナデか。
284-19	須恵器 甕	85	-	-	-		胴部片	細砂粒	灰	還元焰	外面格子状叩き目。内面格子状当て具痕。
285-20 246	土師器 甕	15・17・18・ 21・29・36・ 70・80・84・ 89	19.4	4.0	34.1		口縁部 完、体部 3/4	微量・ 砂粒	にぶい橙	良好	口縁部屈曲して外反。口縁部横撫で。体部外面へラ削り。外面口 縁部下へラ削りにより段差を生じる。体部内面へラナデ。
285-21 246	須恵器 壺か	31・32	-	-	-		肩部片	細砂粒	灰	還元焰	体部外面カキ目後格子状叩き目。内面、重複の激しい当て具痕残 るが、湾曲。
285-22	須恵器 甕		-	-	-		肩部片	細砂粒	灰	還元焰	外面カキ目。内面回転横撫でと撫で。
285-23 246	須恵器 甕	39・41・43・ 44・46・56・ 58・60・61・ 63・64・66 ~69・76・81	-	-	-		頸部～体 部片	細砂粒	灰	還元焰	断面黄灰色を呈し、器表付近のみ還元状態。外面格子状叩き目。 内面同心円状当て具痕残る。器表剥離部分多い。
285-24	石製品 砥石	92	13.7	6.8	3.5	445.4	完形	粗粒輝石 安山岩			荒砥。側面が舟形を呈する。主使用面は大きく窪み、他の使用面 は小さく窪む。いずれの面にも丸みを帯びた浅い条線が認められ、 主使用面と側面端部付近には鋭い条線がある。平坦な側の小口は 欠損後に整形か。下部小口面は欠損するが、割れ面凸部が平坦か つ平滑であり、欠損後に整形されている。

田口上田尻遺跡11号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
287-1 246	土師器 環	5・6	10.8	-	3.3～ 3.5		ほぼ完形	細砂粒	橙	良好	器表やや摩滅。口縁部歪む。体部内面から口縁部外面横撫で。底 部外面へラ削り。外面口縁部下型肌残る。	
287-2	土師器 環		12.0	-	(3.6)		口縁部片	細砂粒	橙	良好	口縁部横撫で、体部(稜下)から底部は手持ちへラ削り。	
287-3	土師器 環		12.0	-	(3.2)		口縁部片	細砂粒	橙	良好	口唇部は横撫で、口唇部下から体部はへラ削りであるが、器面摩 滅のため単位不鮮明。	
287-4	土師器 甕	掘り方	21	-	(3.5)		口縁部片	細砂粒	橙	良好	口唇部は横撫で、口唇部下から体部はへラ削りであるが、器面摩 滅のため単位不鮮明。	
287-5	土師器 環	掘り方	10	-	(3.8)		口縁部片	細砂粒	明赤褐	良好	口縁部横撫で、体部(稜下)から底部は手持ちへラ削り。	
287-6	鉄製品 釘か	82	(9.6)	0.7	0.6	9.0	一部欠損				「C」字状に曲がっているが、残存する一端は尖っており、断面形状 が方形を呈することから釘の可能性が高い。	

田口上田尻遺跡16号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
288-1 246	土師器 環	23	10.8～ 11.1	-	2.9		完形	細砂粒	橙	良好	胎土緻密で焼成硬質。器表摩滅著しく、調整痕残らない。	
288-2 246	土師器 環		(11.0)	-	3.2		1/4	細砂粒	橙	良好	器表やや摩滅。口縁部、内面下部で屈曲して外反。口縁部外面横 撫で。底部外面へラ削り。	
288-3 246	土師器 環	28	10.2	-	3.0		1/2	粗砂粒少 量・細砂 粒	橙	良好	胎土緻密で焼成硬質。器表摩滅し、内面がより著しい。口縁部外 湾して上方に立ち上がる。口縁部外面横撫で。底部外面へラ削り 単位と方向やや不明瞭。	
288-4 246	土師器 環	29	(11.4)	-	3.3		1/4	細砂粒	にぶい橙	良好	胎土緻密で焼成硬質。外面器表摩滅。体部内面から口縁部外面横 撫で。底部外面へラ削り。へラ削り単位と方向不明瞭。	
289-5	土師器 環	V区 16、 埋土	(9.9)	-	(2.8)		1/4	細砂粒	にぶい橙	良好	胎土緻密で焼成硬質。器表やや摩滅。体部内面から口縁部外面横 撫で。外面口縁部下横撫でにより低い段差を作る。底部外面へラ 削り。外面稜線下位に型肌痕一部残る。	
289-6	土師器 環	6	(11.4)	-	(2.7)		口縁部片	細砂粒	にぶい橙	良好	器壁厚い。口縁部外反。体部内面から口縁部横撫で。口縁部外面 の横撫でにより、口縁部下に低い段差を作る。底部外面へラ削り。	
289-7 246	土師器 甕	3-5	21.6	-	(3.6)		上半部	粗砂粒少 量・細砂 粒	にぶい橙	良好	口縁部外反。口縁部横撫で。体部外面縦位へラ削り。体部内面撫で。 外面へラ削り痕単位やや不明瞭。	
289-8	土師器 環		(12.2)	-	(3.6)		1/4	細砂粒	にぶい橙	良好	体部内面から口縁部外面横撫で。底部外面へラ削り。器表やや摩 滅し、へラ削り単位と方向不明瞭。底部内面撫で。	
291-9 246	土師器 環	8	12.2	-	3.7		完形	細砂粒	にぶい橙	良好	口縁部器壁やや厚く、外反。体部中位内面から口縁部外面横撫で。 底部外面へラ削り。底部内面撫で。口縁部外面横撫で。簾状を呈 する。	
291-10 246	土師器 環	20	(14.1)	-	(4.0)		1/4	細砂粒	にぶい褐	良好	口縁部直立し、端部小さく外反。内面器表摩滅。口縁部外面横撫で。 底部外面へラ削り。	
291-11	土師器 甕	22	(12.8)	-	(5.5)		1/5	細砂粒	にぶい黄 橙	良好	器表摩滅。体部外面へラ削り。口縁部から内面の調整痕不明。	
291-12	土師器 甕		(23.4)	-	(7.0)		1/7	粗砂粒・ 細砂粒	橙	良好	口縁部横撫で、外面上半強い横撫でにより段差を生じる。体部 外面へラ削り。体部内面へラナデか。小片のため推定径の誤差大 きい可能性高い。	
291-13	土師器 甕	4	(23.0)	-	(5.6)		1/6	粗砂粒・ 細砂粒	にぶい黄 橙	良好	器壁やや厚く、口縁部外反。口縁部横撫で。体部外面へラ削り。 内面口縁部下位撫で。体部内面へラナデ。	
291-14	土師器 甕	19	(22.4)	-	(5.4)		1/3	粗砂粒少 量・細砂 粒	にぶい黄 橙	良好	口縁部強く外反。口縁部横撫で。体部外面へラ削り。外面口縁部 下一部撫でと指頭圧痕状の窪み残る。体部内面へラナデで、一部 へラ削り状を呈する。	
291-15 247	土師器 甕	3-5	21.6	-	(21.2)		上半部	粗砂粒少 量・細砂 粒	にぶい橙	良好	口縁部外反。口縁部横撫で。体部外面縦位へラ削り。体部内面撫で。 外面へラ削り痕単位やや不明瞭。	
291-16 247	土師器 甕	7	-	4.0	(20.6)		下半部	粗砂粒・ 細砂粒	にぶい橙	良好	外面へラ削り。器表やや摩滅し、へラ削り単位不明瞭。内面器表 やや荒れる。底部内面へラナデ。	
291-17 247	土師器 甕	4	-	(5.4)	(10.6)		1/2	粗砂粒・ 細砂粒	にぶい黄 橙	良好	外面器表摩滅。外面へラ削りであるが、単位や方向不明瞭。内面 撫で。	
291-18	土師器 甕	37、掘 り方	(4.7)	(4.7)	(11.8)		1/6	粗砂粒少 量・細砂 粒	にぶい黄 橙	良好	外面へラ削り。内面撫で。	
291-19	土師器 甕	1	-	(11.2)	(17.2)		1/3	細砂粒	にぶい黄 橙	良好	体部外面へラ削り。体部内面下位撫で。体部内面中位単位不明瞭 な撫で。底部外面やや摩滅。	
291-20	須恵器 甕か瓶	36	-	-	-		体部小片	細砂粒	灰白	良好	外面下半格子状叩き目。上半細かい掻き目。内面下半撫で。内面 上半回転横撫で。	

田口上田尻遺跡17号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
292-1 247	土師器 環	4	12.0	-	4.2		完形	細砂粒	橙	良好	胎土緻密で焼成硬質だが、外面の器表摩滅著しい。外面口縁部下、横撫でにより3条の凹線状に窪む。底部外面へら削り、単位と方向不明。体部内面から口縁部外面横撫で。底部内面撫で、成形時の凹凸残る。	
292-2 247	土師器 環		(13.2)	-	(4.0)		1/5	粗砂粒少量・細砂粒	黒褐	良好	外面口縁部下に明瞭な段差と稜をなし、口縁部外反。口縁部横撫で。底部外面へら削り。底部内面撫で。	
292-3	土師器 環	掘り方	(12.8)	-	(3.6)			口縁部小片 細砂粒	にぶい褐	良好	口縁部横撫で。口縁部外面中位と下端、強い横撫でにより小さい段差を形成。底部外面へら削り。	
292-4	土師器 甕	1	-	-	(6.4)			口縁部小片 粗砂粒・細砂粒	にぶい橙	良好	口縁部外反。口縁部外面中位で屈曲する。口縁部横撫で。外面口縁部下端、横撫でにより段をなす。体部外面へら削り。体部内面撫で。	

田口上田尻遺跡20号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
294-1 247	土師器 甕	カマド3	(18.6)	-	(20.6)		上半部	粗砂粒・細砂粒	にぶい褐	良好	体部外面へら削り。体部内面へらナデ。口縁部横撫で。口縁部端部僅かに窪む。	
294-2	須恵器 甕		-	-	-		体部片	粗砂粒少量	灰白	還元焰	器壁厚い。外面格子状叩き目。内面当て具痕。器壁が薄い部分の表裏工具痕撫で消す。内面接合痕明瞭に残る。	
294-3	須恵器 甕		-	-	-		体部片	粗砂粒少量	灰	還元焰	外面格子状叩き目。内面同心円状当て具痕。	

田口上田尻遺跡25号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
295-1 247	土師器 環	2・3	(10.4)	-	(4.3)		1/2	細砂粒	橙	良好	口縁部外反。外面口縁部下横撫でにより低い段差を形成し、底部へら削りにより稜をなす。器表摩滅。体部内面から口縁部外面横撫で。底部外面へら削り。底部内面へらナデか。	
295-2	土師器 環		(11.8)	-	(4.1)		1/5	細砂粒	橙	良好	器表摩滅。内面調整痕不明。口縁部外面横撫で、下端の強い横撫でによりゆるい段を形成。底部外面へら削り。へら削りの単位と方向不明瞭。	
296-3 247	土師器 環	3	(16.6)	-	(6.8)		1/3	細砂粒	橙	良好	胎土緻密で焼成硬質だが器表摩滅著しい。外面口縁部下横撫でにより段を形成し、へら削りにより稜をなす。底部外面へら削り、単位と方向不明。内面調整痕不明。	
296-4	土師器 甕	4	(17.4)	-	(9.6)		1/4	粗砂粒・細砂粒	にぶい黄 橙	やや不良	口縁部外反。口縁部横撫で。体部外面縦位へら削り。内面へらナデか。外面器表やや摩滅し、へら削り単位不明瞭。	
296-5 247	土師器 甕	4	(17.2)	-	(10.6)		1/8	粗砂粒・細砂粒	にぶい黄 橙	やや不良	口縁部外反。口縁部横撫で。体部外面縦位へら削り。内面へらナデか。外面器表やや摩滅し、へら削り単位不明瞭。	
296-6 247	土師器 甕	6・8・10・水 得助方	-	-	(19.8)		下半部	粗砂粒・細砂粒	橙	良好	体部外面縦位へら削り。底部付近斜位へら削り。底部付近のへら削り単位不明瞭。内面撫で。	
296-7 247	土師器 甕	5	-	(3.8)	(13.2)		1/3	細砂粒	にぶい黄 橙	良好	体部外面縦位へら削り。底部付近斜位へら削り。内面器表やや摩滅。内面撫で。	

田口上田尻遺跡29号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
298-1	須恵器 環	8	(12.8)	(6.6)	3.7		1/4	礫微量・砂粒	橙	酸化焰	口縁部歪む。底部右回転系切無調整。器表摩滅。	
298-2 247	須恵器 壺	カマド2	(13.8)	5.6	5.2		口縁部一部、底部完	礫微量・砂粒	橙	酸化焰	口縁部外反。高台貼り付け。高台内右回転系切り痕残る。	
298-3	須恵器 壺	6・掘り 方	-	7.2	(2.4)		底部	細砂粒	にぶい黄 橙	酸化焰	右回転軸調整。高台貼り付け。高台つぶれ、扁平となる。高台内回転系切り痕残る。	
298-4	須恵器 羽釜	5・8	-	-	-		口縁部片	粗砂粒・細砂粒	にぶい黄 橙	酸化焰	口縁部内湾し、端部内側に小さく突き出る。口縁部から下部回転横撫で。体部内外面横撫で。	
298-5 247	土師器 甕	9・貯蔵 穴4・掘り 方	(17.8)	-	(8.6)		1/4	粗砂粒少量・細砂粒	浅黄橙	良好	口縁部「コ」の字状。肩は張らず、内傾気味。口縁部横撫で、外面屈曲部と下位強い横撫で。口縁部内面中位ハケ目後横撫で。高部外面へら削り。肩部内面ハケ目(1cmあたり5)。	

田口上田尻遺跡31号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
300-1 247	須恵器 壺	10・11	(14.2)	(6.4)	5.1		1/3	礫少量・砂粒	灰	還元焰	底部右回転系切後、高台貼付。口縁部やや歪む。	
300-2	須恵器 壺	1	(14.0)	-	(3.1)		1/4	細砂粒	灰	還元焰	軸部右回転。口縁部肥厚し小さく外反する。外面一部黒色。	
300-3	土師器 甕	2・4	(18.6)	-	(11.4)		1/4	細砂粒	にぶい橙	良好	頸部外面上下に強い横撫でを加え、「コ」の字状とする。頸部外面中位と口縁部外面の横撫では弱く、凹凸が残る。口縁部外面沈線状に窪む。体部外面へら削り。体部内面へらナデ。口縁部から頸部横撫で。	
300-4	土師器 甕	3・4	-	-	(10.2)		1/2	粗砂粒少量・細砂粒	橙	良好	外面へら削り。内面へらナデ。外面煤状黒色物付着。	
300-5 247	石製品 紡錘車	12	4.2	3.9	1.6	36.3	完形	滑石			周縁は7面の研磨で整形されている。中央の穿孔は径0.7mmほどで下部からの片面穿孔である。	孔径0.9cm

田口上田尻遺跡34号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
302-1 247	土師器 環	2	10.6～ 11.4	-	3.3		完形	粗砂粒少量、細砂粒 粗砂粒	にぶい橙	良好	器形歪み、平面楕円形。体部内面から口縁部外面横撫で。底部外面へら削り。内面1/2器表剥離。底部外面やや摩滅。	
302-2 247	土師器 環	11・15・ 16	11.0	-	3.7		ほぼ完形	細砂粒	橙	良好	口縁部僅かに内湾。器表摩滅。底部外面へら削り、単位と方向不明瞭。	
302-3 247	土師器 環	5・6・7	11.6～ 12.0	-	3.6～ 4.2		完形	細砂粒	橙	良好	器形歪み、平面楕円形。体部内面上位から口縁部横撫で。底部外面へら削り。	
302-4 247	土師器 環	1	(12.6)	-	4.3		1/2	細砂粒	橙	良好	体部内面から口縁部外面横撫で。底部外面へら削り。器表やや摩滅し、へら削り単位と方向不明瞭。	
302-5 247	土師器 環	3	11.0	-	3.4		1/2	細砂粒	橙	良好	口縁部外反。体部内面から口縁部外面横撫で。口縁下部、強い横撫でにより稜をなす。底部外面へら削り。	

遺物観察表

302-6 247	土師器 環	8	11.6	-	3.4		1/2	粗砂粒少量・細砂粒	橙	良好	口縁部外反。口縁部歪む。体部内面から口縁部横撫で。外面口縁部明瞭な段をなす。底部外面へラ削り。	
302-7 247	土師器 甗	13	18.0~ 19.0	3.8~ 4.4	26.8		ほぼ完形	粗砂粒・細砂粒	にぶい橙	良好	口縁部外反。体部外面へラ削り。体部内面へラナデ。	
302-8 247	土師器 甗	9・13	-	-	(13.8)		口縁部一部、肩部1/3	礫少量、微量、砂粒	橙	良好	口縁部横撫で。体部外面へラ削り。体部内面へラナデ。	

田口上田尻遺跡37号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
304-1	須恵器 埴		-	(6.8)	(2.2)		高台片	細砂粒	にぶい黄 橙	酸化焰	轆轤回転方向不明。高台貼付。	

田口上田尻遺跡41号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
306-1 248	土師器 環	6	10.2~ 10.8	-	2.7~ 3.2		完形	細砂粒	橙	良好	器表摩滅するが、内面が著しい。底部外面へラ削り。全体に歪む。	
306-2 248	土師器 環	7	10.6~ 10.4	-	(2.7)		3/4	細砂粒	橙、にぶい 橙	良好	やや歪む。器表やや摩滅し、へラ削り方向不明瞭。口縁部横撫で。底部外面へラ削り。	
306-3 248	土師器 環	1	10.4	-	3.3		1/2	細砂粒	橙、褐灰	良好	口縁部横撫で。底部外面へラ削り。底部外面黒斑あり。	
306-4 248	土師器 環	8	(10.4)	-	4.6		1/4	細砂粒	橙	良好	体部内面から口縁部外面横撫で。口縁部外面1条の沈線。口縁部内面段をなす。底部外面へラ削り。底部外面器表黒色。	
306-5	土師器 環		(14.8)	-	(4.3)		口縁部片	細砂粒	にぶい橙	良好	口縁部小さく屈曲。体部内面から口縁部横撫で。体部から底部外面へラ削り。	
306-6	須恵器 環	11	(10.9)	-	(3.9)		1/4	細砂粒	灰	還元焰	口縁部内傾して立ち上がる。底部外面右回転へラ削り。	
306-7 248	土師器 甗	5・カマ ド	16.2~ 16.5	-	(19.0)		上半部	粗砂粒・ 細砂粒	にぶい黄 橙、にぶ い橙、黒 褐	良好	口縁部横撫で。体部外面へラ削り。体部内面へラナデ。	
306-8 248	土師器 甗	3-5	19.8	-	(14.9)		上半部	粗砂粒・ 細砂粒	にぶい黄 橙	良好	口縁部横撫で。体部外面へラ削り。体部へラ削りが厚く、口縁部下で段差を生じる。体部内面へラナデ。	
306-9	土師器 甗		(23.8)	-	(7.8)		口縁部片	細砂粒	にぶい橙	良好	口縁部横撫で。外面へラ削りやや厚く、口縁部下に小さい段差を生じる。体部内面へラナデ。	

田口上田尻遺跡42号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
307-1	須恵器 環		(11.0)	(5.2)	(4.0)		1/4	粗砂粒・ 細砂粒	灰黄	還元焰	底部付近断面黒色。轆轤右回転調整。底部回転系切無調整。	
307-2 248	須恵器 埴	1	-	-	(3.0)		底部	細砂粒	浅黄、灰 黄	還元焰	轆轤右回転調整。体部下位と高台意図的な打ち欠きの可能性高い。高台の一部摩滅。底部外面焼成後の「×」へラ描き。	
307-3 248	土製品 土鉢	3	3.0	1.3	孔径 0.4	4.1	完形	細砂粒	にぶい橙	良好	孔径は4mm前後と大きい。	

田口上田尻遺跡46号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
308-1 248	土師器 環	8	(11.8)	-	(3.3)		1/4	細砂粒	橙	やや不良	器表摩滅。底部外面へラ削り、単位と方向不明瞭。外面口縁部下指頭圧痕状凹凸残る。	
308-2	土師器 甗	10	-	-	-		口縁部小 片	細砂粒	にぶい橙	良好	口縁部上半屈曲して外方に開く。内外面横撫で。	

田口上田尻遺跡48号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
311-1	須恵器 環	6	-	(4.8)	(2.5)		底部	粗砂粒・ 細砂粒	灰白	還元焰	底部内面盛り上がる。底部右回転系切無調整。底部内面螺旋状轆轤目。	
311-2	須恵器 環	5	-	4.0	(1.4)		底部	細砂粒	灰白	還元焰	底部内面盛り上がる。底部右回転系切無調整。	
311-3 248	須恵器 埴	3	(11.8)	(5.4)	5.6		1/3	粗砂粒・ 細砂粒	浅黄	還元焰	口縁部外反。貼付高台。高台内回転系切痕残る。	
311-4 248	須恵器 埴	2	-	5.8	(2.2)		底部	細砂粒	灰白	還元焰	貼付高台。高台内回転系切痕残る。	
311-5	須恵器 埴	掘り方	-	(7.8)	(3.2)		底部	粗砂粒・ 細砂粒	灰白	還元焰	高い高台貼り付ける。高台内中央部回転系切痕残る。	
311-6 248	灰釉陶器 折縁皿か	7	-	6.3	(2.0)		底部		灰白	普通	体部ゆるくの内湾して開き、体部上位で稜をなして屈曲する。口縁部は欠損する。貼付高台。高台内周縁付近まで回転系切痕残る。内面内外面まで施釉。底部内面と高台端部やや平滑。	
311-7	須恵器 羽釜	4	-	-	-		鈔部片	粗砂粒・ 細砂粒	浅黄	還元焰	鈔貼り付け。残存部にへラ削り認められない。	

田口上田尻遺跡52号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
313-1 248	土師器 環	17	10.8		3.8		1/2	細砂粒	にぶい橙	良好	口縁部横撫で、体部(稜下)から底部は手持ちへラ削り。	
313-2 248	土師器 環	1・2	9.8		3.6		1/3	細砂粒	明赤褐	良好	口縁部は横撫で、口縁部下に撫で部分がわずかに残る。体部から底部は手持ちへラ削り。	
313-3	土師器 環		11.6		(3.7)		口縁部片	細砂粒	にぶい黄	良好	口縁部は横撫で、体部から底部は手持ちへラ削り。	
313-4	須恵器 盤	2・9	30.2	-	(2.4)		口縁部片	細砂粒	灰白	還元焰	轆轤整形、回転方向不明。内面底部はカキ目(1cmあたり8)。	
313-5	須恵器 甗か瓶		18.8		(2.2)		口縁部片	細砂粒	灰黄	還元焰	轆轤整形、回転方向不明。	
313-6	須恵器 甗		-	-	-		胴部片	粗砂粒・ 細砂粒	灰	還元焰	外面は平行叩き痕、内面は同心円状アテ具痕が残る。	

田口上田尻遺跡53号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
314-1	土師器 環	貯蔵穴2	(12.0)	(8.6)	(2.8)		口縁部片	細砂粒	にぶい橙	良好	口縁部は横撫で、体部は撫で、底部は手持ちへラ削り。	

遺物観察表

314-2	土師器 環	貯蔵六3	(12.6)	(8.2)	(2.6)			口縁部片	細砂粒	にぶい橙	良好	口縁部は横撫で、体部は撫で、底部は手持ちヘラ削り。	
田口上田尻遺跡56号住居													
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等		備考
315-1 248	土師器 環	掘り方48	11.9	-	4.0		3/4	細砂粒	橙	やや軟質		口縁部横撫で、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
315-2 248	土師器 環	27・37・ 掘り方	11.5	-	3.7		1/2	細砂粒	橙	やや軟質		口縁部横撫で、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
315-3 248	土師器 環	掘り方49	(11.4)	-	4.5		1/3	細砂粒	橙	やや軟質		口縁部横撫で、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
315-4	土師器 環	15	(12.8)	-	(3.6)			口縁部片	細砂粒	にぶい黄 橙	良好	口縁部横撫で、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
315-5	土師器 環	24	(15.0)	-	(3.5)			口縁部片	細砂粒	浅黄橙	良好	口縁部横撫で、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。内面は底部から体部に斜放射状ヘラ磨き。	
315-6	土師器 環		-	-	-			口縁部一 部、体部 1/6	細砂粒	にぶい赤 橙	良好	口縁部内湾。体部内面から口縁部外面横撫で。外面口縁部下撫で部分型肌痕残る。底部外面ヘラ削り。	
315-7	土師器 甕	45	(18.8)	-	(5.7)			口縁部片	細砂粒	浅黄橙	良好	内面頸部に輪積み痕が残る。口縁部横撫で、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
315-8	土師器 甕	2	(18.8)	-	(5.2)			口縁部片	細砂粒	浅黄橙	良好	口縁部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
316-9	土師器 甕	掘り方51	-	-	(8.8)			肩部片	細砂粒	にぶい橙	良好	頸部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
田口上田尻遺跡60号住居													
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等		備考
319-1	須恵器 環	10	-	(6.2)	(1.8)			底部片	細砂粒	灰白	還元焰	轆轤整形、回転右回りか。底部は回転系切り無調整。	
319-2 248	土師器 甕	1・3・5・8・ 11・13・が	21.6	4.8	28.2			ほぼ完形	細砂粒・ 粗砂粒	橙	良好	口縁部から頸部は横撫で、胴部、底部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
319-3 248	土師器 甕	2	22	4.4	28.6			ほぼ完形	細砂粒	にぶい橙	良好	口縁部は横撫で、胴部、底部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
田口上田尻遺跡61号住居													
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等		備考
321-1 248	須恵器 埴	11	15.0	6.9	5.4		1/3	細砂粒	黄灰	還元焰		轆轤整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転系切り。	
321-2 248	須恵器 埴	8・9・掘り方	13.5	(6.0)	(4.6)		1/4(高台 部欠損)	細砂粒	灰	還元焰		轆轤整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転系切り。	
321-3	黒色土器 埴	掘り方24	-	6.4	(1.8)			底部	細砂粒	灰黄	酸化焰	内外面黒色処理。轆轤整形、回転右回り。高台は貼付、内面放射状ヘラ磨き。	
321-4	土師器 甕	1・4・19・ 21・23・掘り方	19.0	-	(14.0)			口縁部片	細砂粒	にぶい橙	良好	外面口縁部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
321-5	土師器 甕	72・4・5・ 掘り方	17.0	-	(8.2)			口縁部片	細砂粒	にぶい橙	良好	口縁部から頸部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
321-6	土師器 甕		21.1	-	(5.5)			口縁部片	細砂粒	橙	良好	口縁部から頸部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
321-7 248	土師器 甕	2・4・5・7・ 掘り方	-	(3.0)	(7.6)			底部片	細砂粒・ 粗砂粒	にぶい黄 橙	良好	胴部は斜めのヘラ削り。内面はヘラナデ。	
田口上田尻遺跡62号住居													
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等		備考
323-1	黒色土器 埴	1	10.8	7.1	5.4			ほぼ完形	細砂粒・ 粗砂粒	にぶい黄 橙	良好	胴部は斜めのヘラ削り。内面はヘラナデ。	
323-2 248	須恵器 埴	38・が	(10.7)	-	(4.4)			口縁部片	細砂粒・ 粗砂粒	にぶい黄 橙	酸化焰	轆轤整形、回転右回りか。高台は貼付、底部の切り離し技法不明。	
323-3	須恵器 埴	38・が	(10.8)	-	(4.4)			口縁部片	細砂粒多	橙	酸化焰	轆轤整形、回転方向不明。高台が付く器形か。	
323-4	須恵器 埴	13	-	(9.0)	(2.2)			底部片 (高台端 部欠損)	細砂粒	灰白	還元焰	轆轤整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転ヘラ削り。	
323-5	黒色土器 埴		(14.4)	-	(3.2)			口縁部片	細砂粒	にぶい黄 橙	酸化焰	内面黒色処理。轆轤整形、回転方向不明。内面はヘラ磨き、単位不鮮明。	
323-6	須恵器 羽釜か	10・が	-	7.5	(5.9)			底部	細砂粒・ 粗砂粒	にぶい黄 橙	酸化焰	轆轤整形、胴部と底部はヘラ削り、内面は撫で。	
323-7	須恵器 甕	14	-	-	-			胴部片	細砂粒・ 粗砂粒	灰	還元焰	外面は平行叩き後部分的にヘラ磨き、内面は同心円状アテ具痕が残る。	
田口上田尻遺跡63号住居													
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等		備考
324-1 248	土師器 環	9	(12.2)	-	3.6		1/4	細砂粒	橙	良好		口縁部は横撫で、口縁部下に撫で部がかすかに残る、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
324-2	土師器 環	2	(12.0)	-	4.2		1/4	細砂粒	橙	良好		口縁部は横撫で、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
324-3 248	土師器 環		(12.0)	-	(3.0)			口縁部片	細砂粒	橙	良好	口縁部は横撫で、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
325-4 248	土師器 環	4・10	(12.8)	-	(3.0)			口縁部片	細砂粒	橙	良好	口縁部は上半が横撫で、下半が撫で、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
325-5	土師器 環	カマド	(12.0)	-	(3.4)			口縁部片	細砂粒	にぶい橙	良好	口縁部は上半が横撫で、下半が撫で、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
325-6 249	須恵器 蓋	7・8	13.8	摘径-	(2.3)			ほぼ完形 (摘み部 欠損)	細砂粒・ 粗砂粒	灰	還元焰	轆轤整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部中央は回転ヘラ削り。	
325-7 249	土師器 甕	11・12	21.8	-	(8.0)			口縁部	細砂粒・ 褐色粒	橙	良好	外面口縁部に輪積み痕が残る。口縁部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
325-8	須恵器 瓶	掘り方16・ 81住21	-	-	-			胴部片	細砂粒・ 粗砂粒	灰	還元焰	胴部閉塞箇所が残る。外面は螺旋状にカキ目(1cmあたり10)。内面は閉塞部分以外は同心円状アテ具痕が残る。	



遺物観察表

田口上田尻遺跡64号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
327-1 249	土師器 環	15	13.7	-	3.9		1/2	細砂粒	橙	良好	口縁部は上半が横撫で、下半が撫で、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
327-2	土師器 環		(14.0)	-	(4.2)		口縁部片	細砂粒	橙	良好	口縁部横撫で、体部上半撫で、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
327-3	須恵器 塊		10.8	6.6	5.7		1/4(底部 中央欠損)	細砂粒	灰白	還元焰	轆轤整形、回転右回りか。高台は貼付、底部撫で。	
327-4	土師器 甕	5	(23.0)	-	(12.4)		口縁部片	細砂粒・ 褐色粒	赤褐	良好	外面口縁部に輪積み痕が残る。口縁部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
327-5	土師器 甕		(14.0)	-	(3.6)		口縁部片	細砂粒	明褐	良好	口縁部横撫で。	
328-6	須恵器 甕	6・7	-	-	-		胴部片	細砂粒	灰	還元焰	外面は平行叩き痕がかすかに残る。内面は同心円状アテ具痕が残る。	
328-7 249	緑釉陶器 不詳		-	-	-		小片	A'	灰	普通	小片のため部位不詳。内外面緑釉。	

田口上田尻遺跡66号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
329-1	土師器 環		(11.7)	(8.0)	2.6		口縁部片	細砂粒	橙	良好	口縁部は横撫で、体部は撫で、底部は手持ちヘラ削り。内面は横撫で。	
329-2	須恵器 塊	掘り方	-	(8.4)	(2.8)		底部	細砂粒・ 粗砂粒	灰	還元焰	轆轤整形、回転右回りか。高台は貼付、底部は回転糸切り。	
330-3	須恵器 蓋	掘り方	(14.6)	摘径-	(2.2)		1/4(天井 中央欠損)	細砂粒・ 粗砂粒	灰	還元焰	轆轤整形、回転方向不明。天井部中央は回転ヘラ削り。	
330-4	土師器 甕		(16.2)	-	(4.0)		口縁部片	細砂粒	灰褐	良好	口縁部から頸部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
330-5	土師器 甕		(11.5)	-	(5.1)		口縁部片	細砂粒	橙	良好	口縁部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
330-6 249	鉄製品 鍔鉋	4	(7.2)	1.1	0.3	4.8					茎は欠損し、刃部は湾曲しており、鋸が観察できる。	

田口上田尻遺跡67号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
331-1	須恵器 塊		-	5.6	(2.0)		底部	細砂粒	にぶい橙	酸化焰	轆轤整形、回転右回りか。高台は貼付、底部は撫で。	

田口上田尻遺跡68号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
333-1 249	土師器 環	3	12.6	-	2.9		完形	細砂粒	橙	良好	口縁部は横撫で、体部は撫で、底部は手持ちヘラ削り。	
334-2	土師器 甕	10・11・ 14	(17.8)	-	(9.2)		口縁部片	細砂粒	にぶい褐	良好	口縁部から頸部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
334-3	土師器 甕	13	(21.2)	-	(6.2)		口縁部片	細砂粒	にぶい褐	良好	口縁部から頸部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
334-4	土師器 甕	13	-	-	(11.4)		胴部片	細砂粒	にぶい赤 褐	良好	胴部は外面がヘラ削り、内面はヘラナデ。	
334-5	土師器 甕	1	-	(4.0)	(6.6)		底部片	細砂粒	灰褐	良好	底部、胴部ともヘラ削り、内面はヘラナデ。	

田口上田尻遺跡69号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
336-1 249	須恵器 環	23	9.6	5.0	2.2		ほぼ完形	細砂粒・ 粗砂粒	にぶい黄 橙	酸化焰	轆轤整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
336-2	須恵器 環	23	-	6.5	(1.2)		底部	細砂粒・ 粗砂粒	灰	還元焰	轆轤整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
336-3 249	須恵器 塊	掘り方46・ 26	15.4	7.2	7.1		1/2	細砂粒・ 粗砂粒	にぶい黄 橙	酸化焰	轆轤整形、回転右回り。高台は貼付、底部は撫で。	
336-4	須恵器 塊		(10.2)	-	(1.9)		口縁部片	細砂粒	にぶい橙	酸化焰	轆轤整形、回転方向不明。	
336-5	須恵器 塊	25・32	-	6.2	(2.7)		底部	細砂粒・ 粗砂粒	にぶい橙	酸化焰	轆轤整形、回転右回りか。高台は貼付、底部は撫で。	
336-6 249	灰釉陶器 段皿		(13.3)	-	(1.6)		口縁部片		灰白	普通	口縁部器壁肥厚し、端部は尖る。内面口縁部下明瞭な段を設ける。施釉は不明瞭であるが、口縁端部付近のみ施釉している可能性がある。	
336-7 249	灰釉陶器 段皿		(13.5)	-	(1.8)		口縁部片		灰白	普通	口縁部直線的に開き、下端で低い段をなす。内面の灰釉は非常に薄い。	
336-8 249	緑釉陶器 塊	34・35	-	-	-		口縁部～ 体部片	A'	灰	普通	体部下位は貼り、緩く内湾する体部から外反する口縁部に至る。内外面緑釉。釉厚薄く、器表白濁したように見える。	
337-9 249	須恵器 突起有鉢	カマド2	(20.3)	-	(7.4)		口縁部片	細砂粒・ 粗砂粒	にぶい橙	良好	口縁部は横撫で、体部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
337-10	須恵器 甕	31	(22.0)	-	(8.0)		口縁部片	細砂粒・ 粗砂粒	橙	良好	口縁部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
337-11	須恵器 羽釜	カマド	(22.8)	-	(10.9)		口縁部片	細砂粒・ 粗砂粒	にぶい赤 褐	酸化焰	轆轤整形、回転方向不明。鐔は貼付、胴部はヘラ削り。内面は口縁部がヘラナデ。	
337-12 249	須恵器 羽釜	カマド1・2・8	(21.8)	-	(24.8)		1/4(底部 欠損)	粗砂粒・ 褐色粒	橙	酸化焰	内外面に輪積み痕が残る。轆轤整形、回転方向不明。鐔は貼付、胴部は縦位のヘラ削り。	
338-13	須恵器 羽釜	カマド3・9・40・ 21・37・24	21.4	-	(24.3)		上半部片	粗砂粒	浅黄橙	酸化焰	外面口縁部に輪積み痕が残る。鐔は貼付、胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
338-14	須恵器 羽釜	カマド7	19.6	-	(11.6)		口縁部～ 胴部上位 片	粗砂粒	浅黄橙	酸化焰	外面口縁部に輪積み痕が残る。鐔は貼付、胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	

田口上田尻遺跡71号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
339-1	土師器 ミニチュア		-	-	(2.3)		破片	細砂粒	にぶい赤 褐	良好	口縁部は横撫で、胴部は撫で、内面はヘラ磨きか、単位不鮮明。	

田口上田尻遺跡72号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
740-1	須恵器 環	9	(11.4)	(7.2)	3.7		1/4(底部 中央欠 損)	細砂粒	灰	還元焰	轆轤整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
740-2	須恵器 埴	7	-	(8.6)	(3.4)		底部片	細砂粒	灰	還元焰	轆轤整形、回転方向不明。高台は貼付、底部は回転撫で。	
740-3	須恵器 蓋	掘り方	17.0	摘径-	(1.8)		端部片	細砂粒・ 粗砂粒	灰	還元焰	轆轤整形、回転方向不明。	
740-4 249	灰釉陶器 瓶	27	-	-	(8.1)		1/4		灰白	普通	肩部外面以下回転ヘラ削り。外面灰釉施釉。頸部下端で肩部と接 合する。	
740-5	土師器 甗	8・73住1	(20.6)	-	(7.1)		口縁部片	細砂粒	にぶい赤 褐	良好	口縁部から頸部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
341-6	土師器 甗	13	11.8	-	(8.7)		上半部片	細砂粒	にぶい橙	良好	口縁部から頸部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
341-7	土師器 甗	12	11.9	-	(10.6)		上半部片	細砂粒	にぶい赤 褐	良好	口縁部から頸部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
341-8	須恵器 凸帯付四耳壺	3・474	-	-	(12.8)		胴部片	細砂粒・ 粗砂粒・ 白色粒	灰	還元焰	轆轤整形、回転右回りか。凸帯と耳部は貼付、胴部は格子目状叩 き痕が残るが、凸帯上下は撫で。	
341-9	鉄製品 刀子	37	14.0	1.7	0.6	20.0	完形				茎はほぼ完全な形で残存し、刃部は折れている。錆のため判断と しなないが、刃部の研ぎ減りが激しい。	

田口上田尻遺跡73号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
342-1	土師器 環	3	11.8	-	(4.0)		1/4(底部 中央欠 損)	細砂粒	明赤褐	良好	口縁部は横撫で、体部は撫で、底部は手持ちヘラ削り。	
342-2	須恵器 環	掘り方7	-	6.6	(1.7)		底部	細砂粒・ 粗砂粒	明赤褐	酸化焰	轆轤整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
342-3 249	須恵器 埴	掘り方6・72 住掘り方	15.2	(8.4)	8.3		1/4	細砂粒	灰白	還元焰	轆轤整形、回転右回りか。高台は貼付、底部は回転糸切り。	
342-4	須恵器 蓋	掘り方5	-	摘径 4.4	(1.9)		摘み部	細砂粒	灰	還元焰	轆轤整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部中央は回転ヘラ削り。	

田口上田尻遺跡74号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
344-1 249	須恵器 環	21	10.2	5.5	3.3		ほぼ完形	細砂粒	灰黄	酸化焰	轆轤整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
344-2 249	土師器 環	10	9.9	4.9	3.7		ほぼ完形	粗砂粒	にぶい橙	良好	外面体部に輪積み痕が残る。口縁部は横撫で、体部は上位・中位 が撫で、下位はヘラ削り。底部は砂底。	
344-3 249	土師器 環	4	14.6	6.0	4.9		1/2	粗砂粒	浅黄	良好	外面体部に輪積み痕が残る。口縁部は横撫で、体部は上位・中位 が撫で、下位はヘラ削り。底部は砂底。	
344-4 249	須恵器 埴	13	7.4	6.0	4.0		1/2	細砂粒・ 粗砂粒	褐灰	酸化焰	轆轤整形、回転右回りか。高台は貼付、底部は回転ヘラナデ。	
344-5 249	須恵器 埴	20	8.3	6.4	5.1		ほぼ完形	細砂粒・ 粗砂粒	灰	還元焰	轆轤整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転糸切り。	
344-6 249	須恵器 埴	2	-	7.8	(3.9)		底部	細砂粒・ 粗砂粒	にぶい黄 橙	酸化焰	轆轤整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転ヘラ削り。	
344-7	須恵器 埴	47掘り方 45・43	13.6	-	(4.1)		口縁部片	細砂粒・ 粗砂粒	灰黄	酸化焰	轆轤整形、回転右回りか。	
344-8	須恵器 埴	27・38	-	8.0	(4.0)		底部(高 台部欠 損)	細砂粒・ 粗砂粒	にぶい黄 橙	酸化焰	轆轤整形、回転右回りか。高台は貼付、底部は回転ヘラナデ。	
344-9 249	灰釉陶器 埴	23	12.6	6.8	4.0		ほぼ完形		灰白	普通	体部内湾し、口縁部僅かに外反する。内湾する高台をやや雑に張 り付ける。口縁部内外面施釉。釉は薄く、部分的な白濁や器表の 光沢がある程度である。底部に貫通する石爆が1カ所認められる。	
344-10 249	灰釉陶器 瓶	17	-	-	-		体部下位 ~底部片	細砂粒	灰黄褐	還元焰	轆轤整形、回転右回り。胴部下半から底部は手持ちヘラ削り。	
344-11	須恵器 羽釜	47	(16.0)	-	(7.4)		口縁部片	細砂粒・ 粗砂粒	にぶい黄 橙	酸化焰	轆轤整形、回転方向不明。銜は貼付。	
344-12	須恵器 羽釜	1・19	(19.6)	-	(9.4)		口縁部片	細砂粒・ 粗砂粒	褐	酸化焰	轆轤整形、回転方向不明。銜は貼付、胴部は横位のヘラ削り。	
344-13	須恵器 羽釜	30・32	-	(3.8)	(5.8)		底部片	細砂粒・ 粗砂粒	にぶい橙	酸化焰	轆轤整形、回転方向不明。底部から胴部下位はヘラ削り。	
344-14 249	須恵器 甗	3・5・26・28・ 29・31・32・ 35・36・37・ 47掘り方43	-	14.2	(13.8)		下半部	粗砂粒	にぶい黄 橙	酸化焰	轆轤整形、回転右回りか。底部、胴部下位は手持ちヘラ削り。	
344-15	須恵器 甗	22	-	-	-		胴部片	細砂粒	灰	還元焰	外面は平行叩き痕を大部分撫で消しているが、内面はアテ具痕が 残る。	
344-16	石製品 砥石	8	(8.0)	5.2	1.2	82.5	破片	砥沢石			幅広く薄い形状。4面使用され、一方の側面は砥面の窪みが目立つ。砥面：形状不 明 欠損のためか、表裏の窪みは目立たないが、厚みに7mmの差がある。 破片のため砥面形状は不明。中砥、4面使用。	

田口上田尻遺跡75号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
345-1	土師器 環		(10.6)	-	(3.5)		1/4	細砂粒	橙	良好	口縁部は横撫で、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
345-2	土師器 環		(10.8)	-	(3.1)		口縁部片	細砂粒	橙	良好	口縁部は横撫で、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
345-3	須恵器 蓋		(17.0)	摘径-	(2.0)		端部片	細砂粒	灰	還元焰	轆轤整形、回転方向不明。内面口縁部に身受けのカエリを有す。	

田口上田尻遺跡76号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
346-1	須恵器 埴	掘り方	(12.7)	-	(2.6)		口縁部片	細砂粒	灰黄	還元焰	轆轤整形、回転方向不明。	
346-2	土師器 甗	2	(19.9)	-	(5.6)		口縁部片	細砂粒	橙	良好	口縁部から頸部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

遺物観察表

346-3 249	土師器 甕	17・13、カ マド18・20	21.0	-	(11.2)			口縁部	細砂粒	にぶい橙	良好	口縁部から頸部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
346-4	土師器 甕	10	(14.9)	-	(6.2)			口縁部片	細砂粒	にぶい赤 褐	良好	口縁部から頸部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
346-5	土師器 甕	カマド32	-	3.0	(4.5)			底部	細砂粒	にぶい褐	良好	底部と胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
346-6	石製品 砥石	23	(13.0)	4.6	2.3	141.6	3/4	砥沢石				板状をなし、表面端部に穿孔を意図したと考えられる円形2段の窪みを有する。表面と右側面が使用により窪む。裏面と左側面は前者に比して使用は少ない。側面端部付近には鋭い条線が残る。下部が折れた後にも使用したようで、折れ面凸部が擦れて平滑となる。中砥、4面使用。	砥面：左側面Ⅲ、左側面以外Ⅱc-5

田口上田尻遺跡77号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考	
347-1	土師器 坏	4	(10.8)	-	(2.9)			口縁部片	細砂粒	橙	良好	口縁部横撫で、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
347-2	土師器 甕	1・3	(10.4)	-	(8.0)			上半部片	細砂粒	橙	良好	口縁部から頸部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

田口上田尻遺跡78号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考	
348-1	土師器 坏	カマド17	(10.7)	(8.4)	3.3		1/4	細砂粒	にぶい橙	良好	口縁部は横撫で、体部は撫で、底部は手持ちヘラ削り。		
348-2	土師器 甕	6・掘り 方	(13.0)	-	(4.4)			口縁部片	細砂粒	にぶい赤 褐	良好	口縁部から頸部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
349-3 249	土師器 甕	9・12	(20.4)	-	(17.4)			上半部片	細砂粒	にぶい赤 褐	良好	口縁部から頸部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
349-4	緑釉陶器 段皿	-	-	-	-			口縁部片	C	灰白	やや不良 か	胎土は淡黄色に近い灰白色で還元していない。口縁部欠損。胎土の色調も影響し、内外面の緑釉は黄緑色を呈する。	

田口上田尻遺跡79号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考	
350-1	須恵器 坏	掘り方17	-	6.0	(1.9)			底部	細砂・粗 砂粒	灰	還元焰焼	轆轤整形、回転右回り。底部は回転系切り無調整。	
350-2	須恵器 埴	11	-	(7.3)	(2.2)			底部	細砂粒	灰黄	還元焰	轆轤整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転系切り後周囲を撫で。	
350-3	須恵器 埴	掘り方	(12.8)	-	(4.5)			口縁部片	細砂粒	灰白	還元焰	轆轤整形、回転方向不明。	
351-4 250	灰釉陶器 埴	6・掘り方 14・16・76 住	(14.7)	7.2	4.6		1/2		灰白	普通		体部緩く内湾し、口縁部に至る。口縁部は僅かに外反する。外面の轆轤目は顕著で凹凸が大きい。貼付高台。口縁部から体部下位まで薄く灰釉を塗り掛ける。	
351-5 250	灰釉陶器 埴	3	(13.9)	-	(3.9)		1/5		灰白	普通		体部内湾し、口縁部肥厚して僅かに外反する。灰釉塗り掛け。	
351-6 250	灰釉陶器 埴	19・20	(15.2)	-	(4.2)		1/6		灰白	普通		深めの埴で口縁部小さく外反する。灰釉は薄く、内面は白濁し、外面は器面に光沢を有する程度である。	
351-7 250	緑釉陶器 埴	1	-	-	-			口縁部片	Aか	白	普通	胎土はA、A'に伴う白色粘土に似る。器壁薄く、全体に緩く内湾して口縁部に至る。内面、口縁部下轆轤目部分で器壁やや厚くなる。内外面の緑釉は透明感がある。	
351-8 250	緑釉陶器 埴	18	-	-	-			口縁部片	A	灰	普通	口縁部器厚ほぼ一定だが、外面端部下のみ僅かに窪む。	
351-9	須恵器 羽釜	掘り方15	(17.6)	-	(4.4)			口縁部片	細砂粒・ 粗砂粒	灰白	還元焰	轆轤整形、回転方向不明。鏝は貼付。	
351-10	須恵器 羽釜	カマド掘り方	-	-	-			胴部片	細砂粒・ 粗砂粒	灰白	還元焰	轆轤整形、回転方向不明。	
351-11	土製品 土鍾	13	3.9	1.6	孔径 0.3	8.7		ほぼ完形	細砂粒	黄灰	良好	外面は撫で。	

田口上田尻遺跡80号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考	
352-1	須恵器 坏	貯蔵穴1	(12.7)	(7.0)	4.1		1/4(底 部中央欠 損)	細砂粒・ 粗砂粒	灰	還元焰	轆轤整形、回転方向不明。底部は回転系切り無調整。		
352-2 250	須恵器 埴	貯蔵穴1・ カマド	14.8	7.2	5.6		1/2	細砂粒	にぶい黄 橙	酸化焰	轆轤整形、回転右回り。高台は貼付、底部は撫で。		
352-3 250	須恵器 埴	カマド8・掘り 方	(17.7)	-	(7.0)		1/4(高台 部欠損)	細砂粒	にぶい橙	酸化焰	轆轤整形、回転右回りか。高台は貼付、底部は撫で。		
352-4	須恵器 坏	-	-	-	-			体部片	細砂粒	灰黄褐	酸化焰	轆轤整形、回転方向不明。	
353-5	土師器 甕	貯蔵穴1・ 掘り方10	(20.0)	-	(3.2)			口縁部片	細砂粒・ 粗砂粒	褐灰	良好	口唇部は平坦面を作る。口縁部から頸部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
353-6	土師器 甕	カマド	(19.8)	-	(10.0)			口縁部片	細砂粒	明赤褐	良好	口縁部から頸部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
353-7	土師器 甕	掘り方9	(20.9)	-	(8.5)			口縁部片	細砂粒	にぶい橙	良好	口縁部から頸部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
353-8	須恵器 羽釜	3	-	-	-			胴部片	細砂粒・ 粗砂粒	灰	還元焰	外面は平行引き痕がすかに、内面は同心円状アテ具痕が残る。	

田口上田尻遺跡82号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考	
355-1 250	須恵器 坏	2	10.5	5.5	3.4		完形	細砂粒	にぶい橙	酸化焰	轆轤整形、回転右回り。底部は回転系切り無調整。		
355-2	灰釉陶器 埴	1	(15.0)	7.2	4.9		1/2		灰白	普通	体部から口縁部緩く内湾する。口縁部は肥厚するのみで外反しない。外面体部下位以下を回転ヘラ削りした後、幅が狭くやや高い高台を貼り付ける。口縁部内外面施釉。釉は薄く、溜まり部分が発色している程度である。		
355-3	灰釉陶器 皿	3	12.8	6.3	2.0		口縁部 3/4～底 部完		灰白	普通	体部直線的に開き、口縁部外反する。丸みを帯びた高台を貼り付ける。口縁部から体部中位まで灰釉塗り掛け。底部内面と高台端部平滑。		
355-4	須恵器 羽釜	7	(18.0)	-	(13.0)			口縁部片	細砂粒	にぶい黄 橙	酸化焰	轆轤整形、回転方向不明。鏝は貼付、胴部は下位にヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	

田口上田尻遺跡83号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考	
357-1 250	土師器 環	8	(10.8)	-	3.5		1/4	細砂粒	明赤褐	良好	口縁部横撫で、体部上半撫で、下半から底部は手持ちヘラ削り。		
357-2	土師器 環	21	(11.2)		(3.7)		1/4	細砂粒	にぶい橙	良好	口唇部は横撫で、口縁部から体部、底部は手持ちヘラ削り。		
357-3	土師器 環	9	(13.0)		(2.5)			口縁部片 細砂粒	橙	良好	口縁部は横撫で、体部から底部は手持ちヘラ削り。		
357-4	土師器 環	掘り方	(18.0)		(3.6)			口縁部片 細砂粒	にぶい橙	良好	口縁部は横撫で、体部から底部は手持ちヘラ削り。		
357-5	須恵器 環	1	(8.6)	(6.2)	3.6		1/4	細砂粒	灰	還元焰	轆轤整形、回転右回りか。底部はヘラナデ。		
357-6 250	須恵器 蓋	12・14・ 15	12.4	摘径-	(2.9)			ほぼ完形 (摘み部 欠損)	細砂粒・ 粗砂粒	灰	還元焰	轆轤整形、回転右回り。摘みは貼付であるが欠落、天井部中央は回転ヘラ削り。	

田口上田尻遺跡84号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
362-1	土師器 環	84	(13.8)	-	(2.1)			口縁部片 細砂粒	にぶい橙	良好	口縁部横撫で、体部ヘラ削り。	
362-2	土師器 環	58	(13.8)	-	(3.3)		1/4	細砂粒	にぶい橙	良好	口唇部横撫で、口縁部から体部は手持ちヘラ削り。	
362-3 250	土師器 環	14	(14.4)	-	(3.5)		1/4 (底 部中央 欠損)	細砂粒	橙	良好	口唇部横撫で、口縁部は撫で、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
362-4 250	須恵器 環	1・120	11.4	7.2	3.4			ほぼ完形 細砂粒・ 粗砂粒	灰白	還元焰	轆轤整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	「○」ヘラ記号
362-5 250	須恵器 環	31・78	12.6	8.2	3.7			ほぼ完形 (底部中 央欠損)	灰白	還元焰	轆轤整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
362-6	黒色土器 埴	4・12	-	(7.0)	(5.6)			下半部片 細砂粒	暗灰	還元焰か	外面底部を除き黒色処理。轆轤整形、回転方向不明。高台は貼付、 底部は撫で。	
362-7 250	須恵器 壺	15・16	-	(5.7)	(7.6)			底部片 細砂粒・ 粗砂粒	暗灰	還元焰	轆轤整形、回転右回り。胴部下位はヘラ削り。	
362-8 250	土師器 甕	2・4・30・33 ・136・140	(22.8)	-	(20.9)			上半部片 細砂粒・ 粗砂粒	赤褐	良好	口縁部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
362-9	土師器 甕	139・137・ か下	(24.0)	-	(14.2)			上半部片 細砂粒	明赤褐	良好	口縁部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
362-10	土師器 甕	141・56・ 57	(20.9)		(7.8)			口縁部片 細砂粒	にぶい橙	良好	口縁部から頸部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
362-11	須恵器 把手付瓶	17	-	-	-			破片 細砂粒	灰	還元焰	把手は貼付、把手周囲は撫で。胴部は外面にかすかに叩き痕が残る、 内面は同心円状アテ具痕が残る。	
363-12	土師器 甕	142・154・ か下	(20.8)		(14.6)			上半部片 細砂粒	にぶい黄 橙	良好	口縁部から頸部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
363-13 250	土師器 甕	1・4・8・ 11	(22.8)		(16.8)			口縁～胴 部下位片 細砂粒・ 粗砂粒	灰黄褐	良好	口縁部横撫で、胴部ヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
363-14 250	土師器 甕	81	(13.3)		(10.4)			上半部片 細砂粒	明赤褐	良好	口縁部から頸部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
363-15	鉄製品 不明		1.7	0.8	0.2	2.0		完形			細い板状の素材を曲げて環状にしたもので、一部重なりが見られる。 形状は変形によるものか、柄などの締め具として原形を留めたものか無判断できない。	
363-16	銅製品 不明	109	(3.4)	0.2	0.2	0.3					断面が三角形状を呈する棒状の製品で両端を欠損し、「く」の字状 に折れ曲がっている。	
363-17 250	鉄製品 未成品	18	19.0	1.6	0.8	44.2		完形			刀子状を呈するが、断面形は長方形であり刃部はないことから未 成品の可能性が高い。	
363-18 250	石製品 砥石	3	39.7	22.4	12.9	10850.0		完形	粗粒輝石 安山岩		上下面、右側面に擦り痕、左側面に敲打痕。	

田口上田尻遺跡86号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考	
367-1 251	須恵器 環	9	10.3	4.7	3.7			ほぼ完形 細砂粒多	にぶい黄 橙	酸化焰	轆轤整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。		
367-2	須恵器 環	8	-	(5.8)	(1.5)			底部 細砂粒多	灰	還元焰	轆轤整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。		
367-3 251	須恵器 埴	4・カマ ド・掘り 方	12.8～ 13.6	(7.5)	(5.2)			ほぼ完形 (高台部 欠損)	細砂粒	黄灰	還元焰	轆轤整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転ヘラナデ。	
367-4	灰釉陶器 埴	6・掘り 方	-	(7.9)	(2.8)			1/4		灰白	普通	ほぼ直立する高めの高台を貼り付ける。内面全面施釉。残存部外 面無釉。	
367-5 251	須恵器 甌	5・カマ ド13・ 掘り方 17-23	28.0	-	(28.4)			口縁～胴 部下位片 (底部裾 欠損)	粗砂粒	にぶい橙	酸化焰	轆轤整形、回転右回り。罎は貼付、胴部下位はヘラナデ。	
367-6 251	須恵器 甕	15・か下 10-12・14	19.8	-	(19.8)			上半部片 粗砂粒	黄灰	酸化焰	轆轤整形、回転方向不明。		

田口上田尻遺跡90号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考	
368-1 251	土師器 甌	掘り方3・ 4・110住1	15.6	8.0	11.0			ほぼ完形 細砂粒・ 褐色粒	にぶい橙	良好	内面黒色処理。口縁部は横撫で、胴部上位から中位は撫で、下位 から底部はヘラ削り。内面はヘラナデ後上半にヘラ磨き。		
368-2 251	緑釉陶器 埴か皿	1	-	-	-			体部片	A	灰	普通	緩く内湾する。内外面緑釉。	

田口上田尻遺跡87号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
369-1	土師器 環		(9.8)	-	(3.2)			口縁部片 細砂粒	橙	軟質	口縁部横撫で、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り、器面摩滅 のため単位不鮮明。	



遺物観察表

田口上田尻遺跡88号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考	
370-1 251	土師器 環	40・43	12.0	-	3.0		1/2	細砂粒	橙	良好	口縁部は横撫で、体部は撫で、底部は手持ちヘラ削り。		
370-2	土師器 環	42	(13.0)	-	(3.6)		1/4	細砂粒	橙	良好	口唇部は横撫で、口縁部、体部から底部は手持ちヘラ削り。		
370-3	土師器 環	28	(12.0)	-	(3.2)			口縁部片 細砂粒	橙	良好	口縁部は横撫で、体部から底部は手持ちヘラ削り。		
370-4 251	土師器 環	掘り方	(10.0)	-	(3.6)			口縁部片 細砂粒	にぶい橙	良好	口縁部横撫で、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。		
371-5	須恵器 環	12	-	(9.0)	(1.8)			底部片 細砂粒・ 粗砂粒・ 白色粒	灰	還元焰	轆轤整形、回転方向不明。底部は回転糸切り後周縁部を回転ヘラ削り。		
371-6	須恵器 盤か埴	18	-	(10.8)	(3.7)			底部片	灰	還元焰	轆轤整形、回転方向不明。高台は貼付。		
371-7	須恵器 蓋	掘り方	(10.4)	摘径-	(1.1)			端部片	細砂粒	灰	還元焰	轆轤整形、回転方向不明。内面にカエリを有す。	
371-8	須恵器 盤か蓋	9	(16.8)	摘径-	(2.9)			口縁部片	細砂粒	灰	還元焰	轆轤整形、回転方向不明。	
371-9	須恵器 瓶		-	-	(5.2)			底部片	細砂粒・ 白色粒	黄灰	還元焰	轆轤整形、回転右回りか。胴部下半から底部は手持ちヘラ削り。	
371-10	土師器 甕		(13.9)	-	(6.2)			口縁部片	細砂粒	にぶい黄 褐	良好	口縁部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
371-11	土師器 甕		(18.6)	-	(3.4)			口縁部片	細砂粒	にぶい橙	良好	口縁部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
371-12	土師器 甕		-	(5.0)	(3.5)			底部片	細砂粒	灰黄褐	良好	底部から胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
371-13	土師器 甕	39	(13.8)	-	(4.7)			口縁部片	細砂粒	にぶい橙	良好	外面口縁部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
371-14	土師器 台付甕		-	-	(3.8)			底部片	細砂粒	橙	良好	胴部はヘラ削り、台部は横撫で。内面は胴部がヘラナデ。	

田口上田尻遺跡92号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考	
372-1 251	土師器 環	8	14.4	6.8	4.4		1/2	細砂粒・ 粗砂粒	褐	良好	口唇部横撫で、口縁部から体部上半撫で、下半は手持ちヘラ削り。底部は砂底か。		
372-2	土師器 環	3	-	(7.2)	(2.1)			底部片	細砂粒	赤褐	良好	体部はヘラ削り、底部は砂底か。	
372-3	土師器 環	13	-	(6.6)	(2.0)			底部	細砂粒	赤褐	良好	体部はヘラ削り、底部は砂底か。	
372-4	土師器 環	7	-	(6.6)	(2.4)			底部片	細砂粒	暗褐	良好	体部はヘラ削り、底部は砂底か。	
372-5	土師器 環		(14.0)	-	(3.4)			口縁部片	細砂粒	明赤褐	良好	外面体部に輪積み痕が残る。口縁部横撫で、体部撫で。	
372-6	土師器 環		(13.0)	-	(3.0)			口縁部片	細砂粒	暗褐	良好	口縁部横撫で、体部撫で。	
372-7 251	灰釉陶器	掘り方	(15.8)	-	(3.5)		1/8		灰白	普通	体部緩く内湾し、口縁部端緩く外反する。口縁部付近灰釉漬り掛け。灰釉は薄く、白濁から器面が光沢を有する程度である。		

田口上田尻遺跡94号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考	
373-1 251	須恵器 環	2	9.8	4.3	3.3		ほぼ完形	細砂粒	浅黄	酸化焰	轆轤整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。		
373-2	須恵器 埴	掘り方	-	(8.6)	(3.1)			底部片	細砂粒・ 粗砂粒	浅黄橙	酸化焰	轆轤整形、回転方向不明。高台は貼付、底部は器面摩滅のため不明。	

田口上田尻遺跡97号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考	
375-1	土師器 環		11.7	-	(2.9)			口縁部片	細砂粒	橙	良好	口縁部は横撫で、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
375-2	須恵器 甕		-	-	-			胴部片	細砂粒	灰	還元焰	外面は格子目状叩き痕、内面がアテ具痕が残るが器面やや摩滅。	

田口上田尻遺跡98号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考	
376-1 251	土師器 環	15	(12.0)	-	3.5		1/4	細砂粒	橙	軟質	口縁部横撫で、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。		
376-2	土師器 環	19・掘り 方	(9.9)	-	(3.5)			口縁部片	細砂粒	橙	軟質	口縁部横撫で、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り、器面摩滅のため詳細不鮮明。	
376-3 251	土師器 環	15	12.9	-	3.4		ほぼ完形	細砂粒	橙	軟質	口縁部横撫で、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。		
376-4	土師器 甕	11		3.8	(2.0)			底部	細砂粒	にぶい褐	良好	底部、胴部ともヘラ削り。	
376-5 251	土師器 甕	12・14	(18.2)	-	(25.4)		1/4 (底 部欠損)	細砂粒・ 粗砂粒	にぶい橙	良好	口縁部から頸部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。		
377-6 251	土師器 甕	16	15.4	5.4	24.7		ほぼ完形	細砂粒・ 粗砂粒	褐	良好	口縁部から頸部は横撫で、胴部はヘラ削り。後縦位のヘラ磨き、底部にはも木葉痕が残る。内面胴部はヘラナデ。		
377-7 251	土師器 甕	8・4・7・9・ 14・20・ 21・掘り方	22.5	-	(28.8)		1/2 (底 部欠損)	細砂粒・ 粗砂粒	にぶい橙	良好	口縁部から頸部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。		
377-8 251	土師器 甕	3	20.6	-	(38.8)			口縁部片	細砂粒・ 粗砂粒	橙	良好	口縁部から頸部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ、器面摩滅のため単位不鮮明。	
377-9	土師器 甕	10・14	(19.0)	-	(7.5)			口縁部片	細砂粒・ 粗砂粒	にぶい橙	良好	口縁部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
377-10 251	土師器 甕	14・16	-	9.8	(21.8)		下半部	細砂粒・ 粗砂粒	にぶい赤 褐	良好	胴部はヘラ削り後撫で、底部はヘラ削り。内面はヘラナデ。		

田口上田尻遺跡101号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考	
380-1	須恵器 環	10	(11.7)	(5.8)	3.4		1/6 (底部中央欠損)	細砂粒	黒褐	還元焰焼	轆轤整形、回転方向不明。底部は回転糸切りか。		
380-2 252	須恵器 埴	1	15.2	7.8	7.2		3/4	細砂粒・粗砂粒	灰黄	酸化焰	轆轤整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転ヘラナデ。		
380-3	須恵器 埴	6・掘り方	-	(7.4)	(3.1)		下半部(高台端部欠損)	細砂粒・粗砂粒	にぶい黄橙	酸化焰	轆轤整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転糸切り。		
380-4	灰釉陶器 埴	2	(15.8)	7.3	5.4		1/2 ~ 2/3		灰白	普通	体部内湾し、口縁端部水平に開く。体部中位から底部回転ヘラ削り後、三日月状の高台を貼り付ける。体部内外面灰釉漬け掛け。外面口縁部下の軸は非常に薄く、器表に光沢がある程度である。底部周縁と高台端部平滑。		
380-5	須恵器 羽釜か甗	-	(35.6)	-	(11.0)			口縁部片	細砂粒	にぶい黄橙	酸化焰	内面黒色処理。轆轤整形、回転方向不明。鈔は貼付。	小片のため計測値不確定

田口上田尻遺跡103号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考	
382-1	土師器 甕	掘り方	(13.6)	-	(4.9)			口縁部片	細砂粒	灰黄褐	良好	外面口縁部に輪積み痕が残る。口縁部は横撫で、胴部はヘラ削りか。内面は胴部がヘラナデ。	
382-2 252	土師器 甕	4・3・7・8・11・掘り方	-	(6.4)	(15.4)		下半部	細砂粒	赤褐	良好	胴部はヘラ削り、上半は器面摩滅のため詳細不明、底部はヘラ削り。内面はヘラナデ。		
382-3 252	土師器 甕	6・掘り方13-15	-	4.7	(19.6)		下半部	細砂粒	赤褐	良好	胴部はヘラ削り、上半は器面摩滅のため詳細不明、底部はヘラ削り。内面はヘラナデ。		
382-4	土師器 甕	4	-	(5.4)	(2.0)			底部片	細砂粒	橙	良好	底部と胴部はヘラ削り。内面はハケ目(1cmあたり10)。	
382-5	土師器 台付甕		-	(5.4)	(2.6)			底部	粗砂粒	にぶい赤褐	良好	胴部から脚部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

田口上田尻遺跡105号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考	
383-1 252	須恵器 環	106住14	(9.8)	4.9	2.6		1/3	細砂粒	灰白	還元焰	轆轤整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。		
383-2 252	黒色土器 埴	106住12	-	9.4	(2.9)			底部	細砂粒	浅黄橙	酸化焰	内面黒色処理。轆轤整形、回転方向不明。高台は貼付、底部の整形は器面摩滅のため不明。	
383-3	灰釉陶器 皿		(11.9)	6.3	2.3		1/2		灰白	普通	体部中位内湾し、口縁部は直線的に延びる。底部回転糸切り後、低い高台を貼り付ける。高台内中央に糸切痕残す。体部内外面灰釉漬け掛け。外面の軸は薄い。		
383-4 252	緑釉陶器 埴か	30	-	-	-			口縁部片	A	にぶい橙	不良	胎土酸化。口縁部内湾し、1カ所輪花残存。内外面緑釉。	
383-5 252	灰釉陶器 瓶	20	-	(15.5)	(6.6)			底部片	灰白	普通	大型の瓶類底部。体部外面回転ヘラ削り。貼付高台。高台内中央部に灰釉掛かる。		
383-6	灰釉陶器 瓶	21・25	-	-	(13.0)			体部片	灰白	普通	大型の瓶類体部下位片で外面に灰釉掛かる。外面は回転ヘラ削り。内面下位には紐作り痕残る。		
383-7	須恵器 甕	11	(27.6)	-	(7.4)			口縁部片	細砂粒	にぶい黄橙	酸化焰	口縁部は轆轤整形、回転方向不明。	
383-8 252	須恵器 甕	15-19・22・24	-	(16.6)	(20.9)		下半部片	細砂粒	にぶい黄橙	酸化焰	口縁部は轆轤整形、回転方向不明。		
384-9	須恵器 甕	27	(27.6)	-	(7.0)			口縁部片	細砂粒	にぶい黄橙	酸化焰	口縁部は轆轤整形、回転方向不明。	
384-10	須恵器 壺か甕	3・4	-	-	-			胴部片	細砂粒・粗砂粒	還元焰	胴部はヘラ削りか、底部はヘラナデ。内面は胴部がヘラナデ、底部は撫で。		
384-11	須恵器 甕	1	-	-	-			胴部片	細砂粒・粗砂粒・礫	還元焰	外面は格子目状叩き痕が残るが、内面のアテ具痕は撫で消されている。		

田口上田尻遺跡109号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考	
385-1	須恵器 羽釜か	カマド1	-	-	-			胴下部片	細砂粒	灰黄褐	酸化焰	轆轤整形、回転方向不明。胴部はヘラ削り。	

田口上田尻遺跡110号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考	
387-1	土師器 環	7	(13.8)	-	(3.2)			口縁部片	細砂粒	明褐灰	良好	口縁部横撫で、体部ヘラ削り。内面にはハケ目(1cmあたり7)が一部残る。	
387-2	土師器 甕	カマド掘り方17	-	6.8	(3.6)			底部	細砂粒	にぶい黄橙	良好	細砂粒。	
387-3	土師器 甕		-	3.9	(3.0)			底部片	細砂粒	褐灰	良好	底部と胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
387-4	土師器 台付甕		-	-	(2.8)			底部	細砂粒	明赤褐	良好	胴部はヘラ削り、内面はヘラナデ。脚部への差し込み部分は撫で。	
387-5	土師器 甕	6・掘り方・240土坑4	(22.6)	-	(3.5)			口縁部片	細砂粒	にぶい橙	良好	口縁部から頸部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
387-6	土師器 甕		(24.7)	-	(6.6)			口縁部片	細砂粒	にぶい橙	良好	口縁部は横撫で。球形形態の甕か。	

田口上田尻遺跡112号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考	
389-1	土師器 甕		(24.5)	-	(5.3)			口縁部片	細砂粒	にぶい橙	良好	口縁部から頸部は横撫で、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

田口上田尻遺跡115号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
391-1	須恵器 羽釜	2	(19.4)	-	(13.5)		1/6	礫微量・砂粒	浅黄橙	酸化焰	口縁部僅かに外反。轆轤調整。体部外面下位ヘラ削り。	
391-2	須恵器 羽釜	5	(21.0)	-	(10.6)		1/3	粗砂粒少量・細砂粒	浅黄橙	酸化焰	体部から口縁部内湾し、口縁端部外方に肥厚。轆轤調整。鈔貼り付け。体部内面接合痕残る。	

遺物観察表

田口上田尻遺跡116号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
392-1 252	土師器 環	カマド1	11.8 ~ 12.3	8.1	3.4 ~ 3.7		ほぼ完形	細砂粒	橙	良好	口縁部歪み、体部の凹凸も多い。口縁部外反し、端部内面窪む。体部内面から口縁部外面横撫で。体部外面型肌痕明瞭。底部外面へら削り。	
392-2	土師器 環	23・115・ 116住	(10.7)	(6.0)	(3.2)		1/4	細砂粒	橙	良好	平底で口縁部緩く外反。体部内面から口縁部外面横撫で。体部外面型肌痕明瞭に残る。底部外面へら削り。	
392-3	土師器 環	24	(11.3)	-	(3.0)		1/4	細砂粒	橙	良好	器表やや摩滅し、内面がより著しい。平底気味で口縁部外反。口縁部外面横撫で。体部外面型肌痕残る。底部外面へら削り。	
392-4	土師器 環	15・16	(10.9)	-	(2.9)		1/3	細砂粒	にぶい橙	やや不良	器表摩滅し、調整痕不明瞭。口縁部小さく外反。体部外面型肌痕残る。	
392-5 252	土師器 環	掘方・ 115・116住	(5.7)	(9.1)	(3.0)		1/2	細砂粒	にぶい黄 橙	良好	器表摩滅し、調整痕不明瞭。口縁部外面横撫で。底部外面へら削り。体部外面撫でか。	
392-6 252	須恵器 環	カマド2	(13.1)	7.2 ~ 7.7	3.6		口縁部一 部、底部 完	粗砂粒・ 細砂粒	灰白	還元焰	体部から口縁部直線的に伸び、口縁部内面僅かに窪む。底部右回転糸切無調整だが、最低3度の切り離し痕が認められる。	
392-7 252	須恵器 環	10	12.6	6.4	3.8		口縁部 1/3欠	礫少量・ 砂粒	灰	還元焰	口縁部緩く外反し、端部肥厚。底部右回転糸切無調整。	
392-8	須恵器 壺	13	-	8.4	(2.4)		底部	礫微量・ 砂粒	にぶい橙	酸化焰	底部内面の器表2/3黒色。轆轤右回転調整。貼付高台。底部内面放射状のへら磨きの可能性高いが、器表やや摩滅するため不明瞭。	
392-9 252	須恵器 皿	9・12・115・ 116住	14.0	7.7	2.7 ~ 3.0		口縁部 1/3欠	細砂粒	灰	還元焰	体部から口縁部大きく開く。底部右回転糸切後、高台貼り付け。高台内糸切痕残る。	
392-10	須恵器 壺	115・116 住	(17.8)	-	(3.4)		1/8	礫微量・ 砂粒	にぶい橙	酸化焰	口縁部内湾気味に開く。残存率低く、推定口径不確定。器表摩滅。	
393-11	土師器 甕	カマド5	(22.0)	-	(6.2)		1/8	細砂粒	橙	良好	口縁部歪んでいるようで、口縁部より開く可能性高い。図は口縁部水平で表現。口縁部横撫で。体部外面横位へら削り。	
393-12	土師器 台付甕か	29・カマ ド掘り方	(11.7)	-	(4.8)		1/5	細砂粒	にぶい赤 褐	良好	口縁部「コ」の字状。口縁部横撫で。外面上部と頸部は強い横撫でで中央は弱い横撫で。体部外面へら削り。台付甕であろう。	
393-13	土師器 台付甕か	21	-	10.0	(3.2)		1/2	細砂粒	橙	良好	器表摩滅し調整痕不明。脚端部上方に小さく折り返す。	
393-14	須恵器 甕	28・115・ 116住	-	-	-		体部片	細砂粒	灰	還元焰	外面平行叩き目。内面同心円状当て具痕。	
393-15	鉄製品 不明	掘り方	(6.0)	0.9	0.7	9.0	一部欠損				一端を欠損しており、断面形状が方形を呈する棒状の製品である。	

田口上田尻遺跡117号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
395-1 252	土師器 環	30・貯蔵 穴45	11.6 ~ 12.4	-	3.9 ~ 4.3		完形	細砂粒	橙	良好	胎土緻密で硬質だが器表摩滅。口縁部歪む。口縁部外反し、長く延びる。体部内面から口縁部外面横撫で。外面口縁部下は横撫でによる段をつけ、へら削りにより稜をなす。底部外面へら削り。	
395-2 252	土師器 環	掘り方	11.8	-	4.1		1/2	細砂粒	橙	良好	器表下部分的に灰色。胎土緻密で硬質な焼成だが、器表摩滅ししやすい。口縁部やや外反。体部内面から口縁部外面横撫で。	
395-3 252	土師器 環	21・カマ ド	(11.6)	-	4.1		1/4	細砂粒	にぶい黄 橙、橙	良好	器表摩滅し、調整痕不明瞭。口縁部僅かに外反。	
395-4	土師器 環	22	(12.0)	-	(4.2)		1/4	細砂粒	橙	良好	口縁部外反して延びる。体部内面器表摩滅。口縁部横撫で。口縁部外面横撫で簾状をなす。底部外面へら削り。外面口縁部下撫でか。	
395-5	土師器 環		(12.3)	-	(3.3)		1/4	細砂粒	橙	良好	器表やや摩滅。口縁部横撫で。底部外面へら削り。	
395-6	土師器 環		(12.0)	-	(3.2)		1/3	細砂粒	橙	良好	器表摩滅し調整痕不明。口縁部外反し、外面口縁部下稜をなす。外面口縁部下位から底部外面灰白色。	
395-7 252	須恵器 環	1	10.6 ~ 11.0	-	4.7		ほぼ完形	細砂粒	灰白、灰 黄、暗灰 黄	還元焰	焼き締まり弱い。口縁部内傾。蓋受け部短い。右回転轆轤調整。底部外面回転へら削り。底部内面螺旋状轆轤目。	
395-8	土師器 甕		(16.2)	-	(5.0)		1/4	細砂粒		良好	口縁部上位外反し、端部を下方に丸める箇所もある。口縁部横撫での後、へらナデを上位にまで施す。	
395-9	土師器 甕		(17.0)	-	(5.6)		1/8	細砂粒		良好	体部外面のへら削りにより口縁部外面屈曲する。体部外面へら削り。体部内面へらナデ。	
395-10	土師器 甕	カマド2	(22.6)	-	(9.7)		1/4	粗砂粒・ 細砂粒		良好	頸部「く」の字状に外反し、口縁部は直線的に延びる。体部外面縦位へら削り。体部内面へらナデ。	
395-11	土師器 甕	カマド3・ 118住	(22.4)	-	(5.5)		1/8	細砂粒		良好	頸部屈曲して外反。口縁部横撫で。口縁部外面下位横撫でにより、僅かな段をなす。体部外面へら削り。体部内面へらナデ。	
395-12 252	土師器 甕	29・39・12 ・かド5・6	25.0	-	(15.6)		1/2	粗砂粒・ 細砂粒		良好	頸部強く外反し、口縁部直線的に開く。口縁部横撫で。体部外面縦位へら削り。体部内面へらナデ。	
396-13	土師器 甕	掘り方・ 貯蔵穴42	(21.0)	-	(12.0)		1/4	粗砂粒・ 細砂粒		良好	口縁部横撫で。体部外面へら削り。体部内面へらナデか。	
396-14	土師器 甕	40・掘り 方	(21.6)	-	(6.3)		1/3	粗砂粒・ 細砂粒		良好	口縁部外反し、端部付近は水平に近く開く。口縁部横撫で。体部外面へら削り。体部内面へらナデ。	
396-15	土師器 甕	7	-	4.0 ~ 4.5	(3.0)		底部	粗砂粒・ 細砂粒	にぶい黄 橙、にぶ い橙	良好	体部外面へら削り。体部内面へらナデ。	
396-16	土師器 甕	37	-	3.8 ~ 4.2	(3.8)		底部	細砂粒	にぶい黄 橙、橙	良好	体部外面単位不明のへら磨き。体部外面下端、へら削りかへらナデによる稜線残る。内面へらナデ。底部の孔は、内面からの棒状工具複数回刺突によりあける。底部外面へら磨き。	
396-17	土師器 甕	15	-	3.2 ~ 3.5	(3.5)		1/2	粗砂粒・ 細砂粒	にぶい黄 橙、にぶ い橙、黒	良好	体部内湾気味で、小型品か。体部から底部外面へら削り。内面撫で。	
397-18 252	土師器 甕	かド4・掘り 方・118住 かド掘り方	21.0	-	(34.2)		口縁部 1/2、体 部完	粗砂粒・ 細砂粒		良好	口縁部強く外反。端部は外方に肥厚。口縁部横撫で。体部外面へら削り。体部内面横位へらナデ。体部内面接合痕複数段残る。	
397-19 252	土師器 甕	27	20.0	-	(21.8)		上半部	粗砂粒少 量・細砂 粒		良好	頸部横撫でにより一端括れ、「く」の字状に外反。口縁部横撫で。体部外面へら削り。体部内面へらナデか撫で。	
397-20 253	土師器 甕	28	15.0	-	(19.6)		底部欠	粗砂粒・ 細砂粒	にぶい黄 橙	良好	器壁厚い。口縁部外反し、強い横撫でにより肩部外面との間に明瞭な段をなす。体部外面へらナデ後、下半を中心に間隔の広いへら磨き。下部は横位へら磨き後斜位へら磨き。体部内面へらナデで、部分的にへら磨き。	
397-21	土師器 甕	17・118 住	-	-	(24.2)		1/2	細砂粒		良好	体部外面へら削り。体部内面へらナデ。	
397-22 253	土師器 甕	14	-	8.6 ~ 9.1	(9.2)		底部	細砂粒	にぶい橙	良好	体部外面へら削り。体部内上半強い撫で。底部付近内面へらナデ。欠損部に明瞭な偽口縁が認められる。	

397-23 253	土師器 甕	13・25・ 26	8.0	6.4	12.6～ 13.4		ほぼ完形	細砂粒		良好	口縁部長く、外面中位と下端に段をなす。口縁部付近は内湾。体部外面から底部外面へラ削り。口縁部外面中位段差部分の内面に接合痕残る。体部内面ヘラナデ。	
397-24	鉄製品 不明		(4.7)	3.0	0.5	26.0	破片				両端部を欠損するが、断面形状が長方形を呈する板状の製品である。小札の可能性はある	
398-25 253	土師器 甕	24	20.6	-	(22.5)		口縁1/2、 体部1/4	粗砂粒少 量・細砂 粒	にぶい黄 橙	良好	体部球状に内湾し、口縁部外反。口縁部内面から体部外面上端横撫で。体部外面部分的に摩滅。体部外面ハケ目後ヘラナデ若しくは幅広のヘラ磨き。体部外面接合痕残る。頸部内面撫でで、指頭圧痕状の窪み残る。体部内面幅広のヘラナデで、下部は砂粒の移動が目立つ。	
398-26	須恵器 甕		(14.0)	-	(6.6)		1/4	細砂粒	浅黄橙	酸化焙	口縁部外反し、端部肥厚。端部外面下凸帯状の稜を有し、直上には凹線巡る。	
398-27	須恵器 甕		-	-	-		体部片	細砂粒	灰白、黄 灰	還元焙	外面格子状叩き目。同心円状当て具。	

田口上田尻遺跡118号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
400-1	須恵器 環	8・9・掘り 方	(11.8)	(5.6)	3.7		1/3	礫微量・ 砂粒	灰白、灰 黄	還元焙	口縁部外反し、端部丸みを帯びる。右回転軸調整。底部回転糸切無調整。	
400-2	須恵器 壺	カマド1・ 118住1坑	-	-	(2.6)		底部	礫微量・ 砂粒	灰白、灰 黄	還元焙	高台貼り付け。底部内面調整丁寧。底部切り離し技法不明。	
400-3 253	灰釉陶器 壺		-	-	-		口縁部片		にぶい黄 橙	不良	胎土酸化状態。口縁部内湾したの後に小さく外反する。端部外面沈線状に窪む。体部内外面灰釉漬け掛け。	
401-17	石製品 砥石	50	28.5	16.1	13.1	6780.0	完形	粗粒輝石 安山岩			円礫を使用した荒砥。小口を除く使用により、断面八角形をなし、中央が細くなる。一部に幅広の条痕が残る。小口寄りの傾斜面も使用する。荒砥、10面使用。	砥面：裏面 III、裏面以外 II c-5

田口上田尻遺跡119号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
402-1	土師器 環		(13.6)	(8.0)	4.2		1/6	細砂粒	暗褐、に ぶい暗褐	良好	体部内面中位から口縁部外面横撫で。体部外面撫でだが成形時の凹凸目立つ。体部内面から底部外面撫で。底部外面砂底。	
402-2	土師器 環		(14.6)	-	(3.8)		1/3	細砂粒	にぶい赤 褐、暗赤 褐	良好	体部内面から口縁部外面横撫で。体部外面撫でだが成形時の凹凸目立つ。	
402-3 253	須恵器 壺	8	12.4～ 13.6	6.2	4.6～ 5.5		完形	礫微量・ 砂粒	にぶい黄 橙、にぶ い橙	酸化焙	器形歪む。器壁厚い。口縁部外反。高台貼り付け。右回転軸調整。高台内中央、回転糸切り痕僅かに残る。	
402-4 253	須恵器 壺	2	(13.6)	(6.4)	5.0		1/3	細砂粒	明赤褐、 にぶい 褐、黄褐、 灰褐	酸化焙	体部直線的に開き、口縁部強く外反。右回転軸調整。高台貼り付け。	
402-5	土師器 甕か	19	(22.6)	-	(11.6)		1/5	粗砂粒・ 細砂粒	明褐、に ぶい赤 褐、黒褐	良好	口縁部短く、外反。体部下位鉢状にすぼむ。口縁部横撫で。体部内外面ヘラ削りからヘラナデ。	

田口上田尻遺跡120号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
404-1 253	須恵器 環	47・49	10.0	5.6	3.2		ほぼ完形	細砂粒	浅黄橙	酸化焙	口縁部僅かに外反。底部右回転糸切無調整。夾雑物多く、ややがさついた胎土。	
404-2	須恵器 環か	32	(11.0)	-	(3.3)		1/4	細砂粒	にぶい黄 橙、黒褐	酸化焙	口縁部付近小さく外反し、内面稜をなす。内外面軸調整の凹凸低く滑らか。左回転軸調整。口縁部灯心痕(油煙)残る。	
404-3 253	土師器 壺	63	(14.2)	9.0	6.3		3/4	礫微量・ 砂粒	橙	良好	口縁部小さく外反。高台やや高い。体部内面中位から口縁部外面横撫で。体部外面ヘラ削り。高台貼付部外面強い撫で。	
404-4 253	須恵器 壺	44	10.3～ 10.9	6.0	4.4～ 4.8		ほぼ完形	礫・砂粒	褐灰	還元焙	焼き締まりない。器表粗く、器形歪む。高台貼り付け。高台内回転糸切痕残る。軸調整左回転調整か。	
404-5 253	須恵器 壺	50・3・ カマド	(12.8)	6.6	4.3～ 5.3		口縁部 1/3、底 部完	細砂粒	橙、にぶ い黄橙、 浅黄橙	酸化焙	口縁部傾く。底部内面平坦で底径大きい。高台やや雑に貼り付ける。高台内右回転糸切痕残る。	
404-6 253	須恵器 壺	5・カマ ド	(10.8)	(6.6)	4.4		1/2	粗砂粒・ 細砂粒	にぶい黄 橙、灰黄 褐	酸化焙	口径やや小さく、体部直線的に延びる。軸調整右回転調整。高台貼り付け。高台内回転糸切り痕残る。体部外面墨書が認められるが、大半が欠損し判読不能。	
404-7	土師器 壺		-	-	(2.3)		1/2	細砂粒	橙、暗赤 褐、にぶ い赤褐	良好	体部外面ヘラ削り。高台貼り付け。体部内面横撫で。底部内面撫で。砂底。	
404-8 253	緑釉陶器 壺	61	8.4	-	(2.1)		底部	A	灰	普通	高台端部僅かに窪み、内面側が浮き上がる。高台外面中位窪む。底部内面周縁窪んだ後に立ち上がり、圈線状を呈する。底部内面、設置部間隔6cmのトン痕残る。高台外面と高台内の一部無釉。高台内の釉は薄く、白濁して見える。釉は濃緑色で光沢がある。	
404-9	須恵器 壺	57	-	(6.4)	(2.8)		1/2	礫微量・ 砂粒	浅黄灰、 褐灰、オ リーブ黒	還元焙	焼き締まりない。右回転軸調整。高台貼り付け。底部内面螺旋状軸調整目。	
404-10	須恵器 壺	3	14.0	-	(4.5)		1/2	細砂粒	にぶい黄 橙、黒褐	酸化焙	口縁部外反。器表面は滑らかで軸調整方向不明。	
404-11 253	灰釉陶器 皿	51・74	13.9	6.8	2.9		2/3		灰白	普通	体部から口縁部ゆるく内湾して広がる。外面体部下位以下回転ヘラ削り後、高台貼り付け。口縁部内外面灰釉漬け掛け。	
404-12 253	灰釉陶器 深壺	20・掘り 方	(18.4)	(9.4)	8.1		1/4～ 1/2		灰白	普通	体部下位は強く内湾し、口縁部は外傾して直線的に延びる。口縁部内面はやや肥厚する。外面口縁部下から底部外面を周縁を回転ヘラ削りした後、「ハ」の字状に広がる高い高台を貼り付ける。高台内中央部回転糸切痕残る。口縁部内外面灰釉漬け掛け。	
404-13	灰釉陶器 深壺	9	(15.5)	-	(4.6)		1/8		灰白	普通	体部下位の内湾強く、体部は高く立ち上がる。口縁部は端部で小さく外反する。外面は口縁部以下回転ヘラ削り。内外面体部下位まで施釉。釉厚は薄い。	
404-14	須恵器 甕	6	-	-	-		体部小片	細砂粒	灰黄	酸化焙	酸化気味で焼き締まりやや弱い。外面格子状叩き目。内面同心円状当て具痕。内面器表やや擦れ、当て具痕の高い部分に光沢がある。転用された可能性高い。	
405-15 253	須恵器 瓶	14・19・ 33・36・ 40・69・78	-	-	(27.0)		1/2	粗砂粒少 量・細砂 粒	橙、にぶ い黄橙、 黒褐	酸化焙	軸調整。回転方向不明。外面器表上半剥離。	
405-16 253	灰釉陶器 瓶	48・54・ 55・80	(22.6)	-	(21.6)		口縁部～ 体部上位		灰	普通	口縁外反し、端部は上方に立ち上げる。頸部内面から体部外面灰釉掛かるが、本来の施釉範囲は不詳。	
405-17	須恵器 瓶類	1	-	-	(6.0)		1/3	粗砂粒・ 細砂粒	橙、にぶ い黄橙	酸化焙	底部外面周縁欠損。高台貼り付けか。	



遺物観察表

405-18	須恵器 甕	12	-	(14.0)	(7.0)		底部	粗砂粒・ 細砂粒	灰	還元焰	右回転轆轤調整。体部外面下位回転ヘラ削り。	
405-19	須恵器 壺	18	-	-	(11.0)		1/6	礫微量・ 砂粒	黄灰	還元焰	体部外面螺旋状沈線。	
405-20 254	須恵器 羽釜	35・42・ 70	(19.8)	-	(17.9)		2/3	粗砂粒・ 細砂粒	灰黄、黄 褐	還元焰	口縁部外面中位強い回転横撫でにより窪む。鈔貼り付け。体部外面中位以下ヘラ削り。体部上位外面接合痕残る。	
405-21	須恵器 羽釜	カマド	-	(6.4)	(9.4)		1/4	粗砂粒・ 細砂粒	灰黄、灰 白、にぶ い黄橙、 灰褐	還元焰	外面ヘラ削り。体部内面下端撫で。底部外面圧痕残る。	
406-22 254	須恵器 甕	1・39	(29.6)	(16.6)	(52.0)		上半部片	礫微量・ 砂粒	明赤褐、 橙、褐灰、 にぶい黄 橙、灰褐	酸化焰	焼き締まりない。口縁部回転横撫で。内面器表剥離。	
406-23 254	須恵器 羽釜	25・27・ 29・34・ 掘り方	(21.2)	-	(22.0)	-	口縁～胴 部下位片	粗砂粒・ 細砂粒	にぶい黄 橙	酸化焰	口縁部直立気味。口縁部回転横撫で。体部外面縦位ヘラ削り後、粘土接合部の盛り上り部を横位ヘラ削り。部分的に盛り上がり部残る。体部内面撫で。	
406-24	石製品 砥石	72	26.8	10.9	12.0	5100.0	完形	粗粒輝石 安山岩			円礫を使用した荒砥。平両面の使用は僅かで、側面の使用が顕著。砥面：Ⅱc-5 砥面中央窪む。荒砥、1面使用。	
406-25	棒状礫	73	19.5	6.2	4.9	933.9	完形	変質安山 岩			棒状礫の両小口面は擦れにより光沢をもつほど平滑となる。下部小口面には剥離が認められるが、剥離面も擦れにより光沢を有している。	
406-26	鉄製品 不明	64	(6.1)	1.2	0.5	7.0	一部欠損				欠損する側は断面方形の棒状を呈し、先端はヘラ状に広くなりクランク状に屈曲している。工具か。	
406-27	鉄製品 不明	66	(4.7)	0.5～ 0.9	0.5～ 0.8	16.0	一部欠損				断面方形の棒状の素材をヘアピン状に曲げたものである。一端が欠損しているため全体形状は不明である。	
406-28	鉄製品 不明	67	(7.9)	1.8	0.4	13.0	1/2				断面形状が長方形を呈する板状の製品で、残存した部分では茎状に一方に細くなる。刀子の可能性ある。	
406-29	鉄製品 鎌	68	(9.2)	4.7	0.4	37.0	基部欠損				鎌の刃部で、切っ先の一部と基部側の1/2程度が失われている。刃部幅が一致しないが、30と同一個体の可能性がある。	
406-30	鉄製品 鎌	65	(6.5)	3.6	0.7	18.0	刃部欠損				鎌の基部で、刃部側の大半が失われている。29と同一個体か。	

田口上田尻遺跡121号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
407-1	須恵器 碗		-	6.3	(3.4)		2/3	細砂粒	にぶい 橙、にぶ い黄橙	酸化焰	右回転轆轤調整。底部内面螺旋状轆轤目。貼り付け高台。高台内切離残らない。	
407-2	土釜	掘り方1	(21.0)	-	(8.9)		1/5	礫微量・ 砂粒	明赤褐、 橙、褐、 灰褐	良好	口縁部横撫で。体部外面縦位ヘラ削り。体部外面接合痕残る。体部内面撫で。	

田口上田尻遺跡125号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考	
409-1 254	須恵器 環	掘り方7・ 8	(10.3)	4.8	3.3		1/4	粗砂粒・ 細砂粒	にぶい橙	酸化焰	口縁部外反。底部右回転系切無調整。底部内面轆轤目螺旋状。底部内面中央盛り上がる。		
409-2 254	灰釉陶器 碗	掘り方6	(13.0)	6.8	3.9		1/2		灰白	普通	体部中位で屈曲するように内湾し、口縁部は小さく外反する。貼付高台。高台内中央回転系切痕残る。口縁部から体部内外面灰釉漬け掛け。		
409-3	土師器 甕		(22.4)	-	(6.0)		1/6	粗砂粒・ 細砂粒	橙	良好	内面器表摩滅。口縁部外面横撫で。体部外面横位ヘラ削り。		
409-4	土師器 甕	カマド	-	(4.8)	(7.5)		1/4	粗砂粒・ 細砂粒	橙	良好	内外面器表摩滅。体部外面ヘラ削り、単位と方向不明瞭。体部内面調整痕不明だが、2カ所に細かい目玉の始点が終点が残る。		
409-5	須恵器 羽釜	3	-	-	-			口縁部小 片	礫微量・ 砂粒	灰白	還元焰	口縁部やや内傾。鈔貼り付けやや丁寧。	
409-6	鉄製品 鎌	5	(14.7)	3.5	0.3	35.0	一部欠損				3点に折れて出土したものであるが同一個体と判断した。		

田口上田尻遺跡127号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
411-1	須恵器 環		-	(7.8)	(2.5)		1/2	細砂粒	灰～灰白	還元焰	断面灰赤色。右回転轆轤調整。底部回転ヘラ切り無調整。	
411-2	須恵器 環		-	(8.1)	(2.9)		1/2	細砂粒	灰白	還元焰	底部器壁厚い。底部右回転系切無調整。	
411-3	須恵器 環	カマド	-	5.0	(1.4)		底部	礫・砂粒	にぶい黄 橙	酸化焰	底部右回転系切無調整。底部内面螺旋状轆轤目。	
411-4	須恵器 瓶類	カマド	-	-	(2.0)		底部片	緻密	褐灰	還元焰	丸底で器壁厚く、内面轆轤目深い。底部内面中央降灰による自然釉かかる。	
411-5	須恵器 蓋		(13.8)	摘径-	(2.0)		1/8	細砂粒	灰白	還元焰	右回転轆轤調整。口縁部粘土中に礫が含まれるようで、轆轤調整時の回転による礫移動の凹凸がある。天井部外面回転ヘラ削り。残存部につまみ貼り付け時の回転横撫で認められない。	
411-6	土師器 甕		-	(4.1)	(3.3)		1/2	粗砂粒・ 細砂粒	にぶい橙	良好	外面ヘラ削り。内面丁寧撫で。	
411-7	石製品 権か		5.5	3.1	3.1	73.4	完形	砥沢石			截頭四角錐状を呈し、頭部に横方向と、上部から直行する穿孔が1カ所見られる。	

田口上田尻遺跡128号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
412-1 254	須恵器 環か碗		(14.0)	(6.2)	5.9		1/3	粗砂粒・ 細砂粒	にぶい橙	酸化焰	口縁部を除き器表剥離。轆轤回転方向不明。底部切り離し技法不明。高台欠損の可能性もあるが不明。外面口縁部下に細く浅い横線1条。	
412-2 254	須恵器 碗	カマド 10・11	(12.8)	5.4	5.4		1/2	粗砂粒少 量・細砂 粒	褐	酸化焰	器表黒色部分多く煙し焼成。器表斑状に剥離。右回転轆轤調整。高台貼り付け。高台内中央回転系切痕残るが、器表の剥離により不明瞭。底部内面螺旋状轆轤目。	
412-3	須恵器 壺	3	-	-	-		体部小片	細砂粒	浅黄橙	酸化焰	酸化炎気味だが焼き締まる。外面叩き目後横位凸帯貼り付け。破片左端付近に縦位凸帯貼り付け痕が僅かに残る。	

田口上田尻遺跡130号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
415-1 254	土師器 環	46	12.6～ 13.0	-	4.4		完形	細砂粒	橙	良好	体部内面から口縁部横撫で。内面横撫で2段に施し、同一箇所を撫であげ、その順序は口縁部が新しい。底部外面ヘラ削り。底部内面撫で。	

遺物観察表

415-254	土師器環	34・75	14.4	-	5.6		1/2	細砂粒	明赤褐	良好	口縁部下内湾し、口縁部内傾。体部内面から口縁部外面横撫で。体部外面から底部外面へラ削り。
415-3	土師器環		(14.8)	-	(4.0)		1/5	細砂粒	にぶい橙	良好	口径大きく器高やや高い。器表摩滅。内面横撫で範囲不明瞭。口縁部外面の横撫で範囲狭い。底部外面へラ削り。外面口縁部下撫でかへラ削りか不明。
415-4	土師器環		(13.6)	-	(4.4)		1/8	細砂粒	にぶい褐	良好	内面器表暗灰色。内面器表やや摩滅。内面横撫で範囲不明瞭。口縁部外面横撫でにより外反させる。底部外面へラ削り。
415-5	土師器環	50	(15.6)	-	(3.8)		1/8	細砂粒	にぶい橙	良好	口径大きく器高やや高い。器表摩滅し、外面がより著しい。口縁部横撫で。底部外面へラ削り。
415-6254	土師器環	71・109	(9.4)	-	3.4		1/4	細砂粒	にぶい橙	良好	口縁部から底部内湾し、口縁部は内傾。内面底部周縁から口縁部外面横撫で。底部外面へラ削り。
415-7	土師器環		(11.0)	-	(2.4)		1/4	細砂粒	にぶい橙	良好	胎土緻密で焼成硬質だが器表摩滅。口縁部僅かに外反。内面横撫で範囲不明。口縁部外面横撫で。体部外面へラ削り。口縁部外面型肌痕残る。
415-8254	土師器環	28・73	(9.8)	-	(3.2)		1/3	細砂粒	にぶい橙	良好	口縁部下内湾し、口縁部やや内傾。体部内面から口縁部外面横撫で。底部外面へラ削り。体部外面撫で。
415-9254	土師器高環	38	(10.0)	7.0	5.6		3/4	粗砂粒・細砂粒	外：にぶい黄橙、内：黒	良好	内面黒色処理。内面へラ磨きで、口縁部付近の単位不明瞭。口縁部外面横撫で。外面体部から脚部上位へラナデで、部分的にへラの傷による糸線はいる。脚根部横撫で。
415-10254	土師器甗	67・4・30	20.6	-	(6.6)		4/5	細砂粒	にぶい橙	良好	口縁部大きく開き、内外面横撫で。体部外面縦位へラ削り。体部内面へラナデ。
415-11	須恵器瓶類	79	-	-	(8.2)		体部下位片	細砂粒	灰	還元焰	器壁薄く焼き締まる。体部外面下位へラ削り。内面上端、肩屈曲部僅かに残存。
415-12254	土師器甗	1・カマド	(16.6)	-	(15.2)		1/4	粗砂粒・細砂粒	にぶい橙	良好	口径やや小さく、口縁部大きく外反。口縁部横撫で。体部外面縦位へラ削り。内面へラナデ。
415-13	土師器甗		(9.8)	-	(3.5)		1/3	細砂粒	にぶい黄橙	やや不良	外面器表摩滅。口縁部横撫で。体部外面へラ削り、単位と方向不明瞭。体部内面へラナデ。
415-14	土師器甗		-	(7.0)	(5.4)		1/3	粗砂粒少量・細砂粒	灰褐	やや不良	体部外面から底部外面へラ削り。内面器表摩滅。体部外面焼けた粘土？付着。
415-15	土師器甗		-	-	(2.0)		1/2	粗砂粒少量・細砂粒	にぶい橙	やや不良	外面器表摩滅し、へラ削り単位と方向不明瞭。底部内面丁寧な撫で。
415-16254	土師器台付甗	19	-	9.8	(5.6)		底部～台部	粗砂粒・細砂粒	にぶい黄橙	良好	裾部横撫で。底部外面へラ削り。くびれ部外面へラナデ。底部内面撫で。
415-17	土師器高環	41	-	(11.6)	(4.3)		1/4	粗砂粒少量・細砂粒	橙	良好	裾部横撫で。脚柱部外面へラナデ後、一部へラ磨き。脚柱部内面へラ削り。
415-18	須恵器瓶類か甗	31	(13.0)	-	(4.2)		口縁部片	粗砂粒・細砂粒	灰	還元焰	焼き締まる。口縁部外反し、端部は上方に立ち上がる。
415-19254	須恵器壺	22・38・62・77	-	-	(11.0)		1/2	細砂粒	にぶい赤褐、オリーブ黒	還元焰	丸底で口縁部欠損。断面にぶい赤褐で器表灰色からオリーブ黒色で焼き締まる。外面体部中位以下螺旋状のハケ目。体部中位以下内面撫で。
415-20254	須恵器甗	33・49・80	(20.9)	-	(12.2)		1/3	細砂粒	灰色	還元焰	口縁部外面凹、凹線に凹む。肩部外面平行叩き目。肩部内面同心円状当て具痕。肩部外面か口縁部内面自然釉が斑状にかかる。
415-21255	須恵器甗	10・44・54・66・74・76	-	-	(17.8)		底部	細砂粒	灰色	還元焰	外面平行叩き目であるが、細かい横線が入る。内面同心円状当て具痕不明瞭に残る。
416-22255	須恵器甗		(22.2)	-	(25.4)		1/3	細砂粒	灰色	還元焰	頸部屈曲し、口縁部外反。口縁部付近内面やや凹む。口縁部外面稜をなし、上部に凹線を巡らす。体部外面格子状叩き目の後、へラ状工具で間隔を開けて横線状に撫で消す。体部内面同心円状叩き目。
416-23255	須恵器甗		28.0	-	(45.8)		口縁部～体部下半	細砂粒	灰色	還元焰	口縁部外面波状文。体部外面格子状叩き目。内面同心円状当て具痕残る。

田口上田尻遺跡131号住居

挿図番号 PL	種別形	注記番号	口径(底) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
418-1255	土師器環	カマド9	12.6	4.8	4.4～4.9		ほぼ完形	細砂粒	にぶい赤褐	やや不良	器表摩滅。口縁部横撫で。体部外面撫で、成形時の凹凸残る。体部外面下位へラ削り。体部内面器表の摩滅著しい。底部外面型肌痕残る。	
418-2255	須恵器環	カマド	13.2	6.0	3.8～4.3		3/4	細砂粒	にぶい橙	酸化焰	口縁部やや歪む。口縁部外反。底部右回転糸切無調整。	
418-3	須恵器塊	1	-	6.0	(2.2)		底部	粗砂粒・細砂粒	黄灰	還元焰	断面にぶい赤褐色。高台貼り付け。高台内右回転糸切り痕残る。	
418-4255	灰釉陶器塊	3・カマド7	(14.2)	(6.2)	4.4		1/2		灰白	普通	体部から口縁部ほぼ均一に内湾し、口縁部のみ丸みを帯びて外反する。外面体部中位以下回転へラ削りの後、高台を貼り付ける。体部や底部のへラ削り痕は高台貼り付け時の回転撫でにより消している。口縁部から体部内外面灰釉漬け掛け。底部内面と高台端部は光沢を有するほどに平滑となる。	
418-5	土師器壺か		-	-	-		肩部小片	細砂粒	にぶい赤褐	良好	外面へラ磨き。肩部内面指頭圧痕の窪み。残存部頸部側は丸みをおび、端部が摩滅したような状態であり、口縁部の可能性もある。しかし、内面側横撫で範囲は非常に狭く、頸部の接合部として図示した。	
418-6	土師器甗	6・カマド7・8	(18.8)	-	(16.0)		1/4	細砂粒	にぶい赤褐	良好	口縁部「コ」の字状。口縁部小さく内湾気味。口縁部横撫で。口縁部外面中位接合痕か型肌痕残る。体部外面へラ削り。体部内面上位粗いハケ目(1cmあたり4)。体部内面へラナデか撫で。	
418-7	土師器甗	カマド10	-	5.4	(6.3)		1/2	粗砂粒・細砂粒	明赤褐	良好	体部外面へラ削り。底部内面幅広のハケ目(1cmあたり4)。体部内面へラナデ。	
418-8	土師器甗	カマド11	(19.2)	-	(16.6)		口縁部一部、体部1/3	粗砂粒・細砂粒	にぶい赤褐	良好	口縁部「コ」の字状。口縁部横撫で。口縁部外面屈曲部強い横撫で。体部外面縦位へラ削り。肩部外面粗い撫で。体部内面上位ハケ目、中位以下へラナデ。	

田口上田尻遺跡132号住居

挿図番号 PL	種別形	注記番号	口径(底) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
420-1	土師器環	4	13.0	-	4.4		3/4	細砂粒	橙	良好	胎土緻密で焼成硬質だが器表やや摩滅。口縁部短く、内傾。体部内面から口縁部外面横撫で。内面の横撫で幅広く、撫で上げも1/4幅。	
420-2	土師器環	4	(13.0)	-	(4.0)		1/2	細砂粒	橙	良好	口縁部短く、直立。器表摩滅し、調整痕不明瞭。口縁部外面横撫で。底部外面へラ削り。	
420-3	土師器環	掘り方	(13.8)	-	(3.5)		1/4	細砂粒	にぶい橙		口縁部小さく内湾。体部内面から口縁部外面横撫で。永部外面へラ削り。体部外面型肌痕残る。	
420-4	土師器環		(10.8)	-	(2.4)		1/4	細砂粒	にぶい橙	良好	口縁部下内湾。体部内面から口縁部外面横撫で。底部外面へラ削り。	

遺物観察表

420-5	土師器 環		(10.8)	-	(3.2)		1/5	細砂粒	にぶい橙	良好	口縁部内湾。体部内面から口縁部外面横撫で。底部外面へラ削り。
420-6	土師器 環		(11.8)	-	(2.0)		1/8	細砂粒	にぶい橙	良好	口縁部短く、直線的に外傾。体部内面から口縁部外面横撫で。底部浅い。底部外面へラ削り。
420-7	土師器 環		(10.0)	-	(2.8)		1/5	細砂粒	にぶい橙	良好	器壁やや厚い。体部内面から口縁部外面横撫で。口縁部内面強い横撫でにより、僅かな緩い段をなす。口縁部外面下は横撫でにより浅い凹線状に凹む。底部外面へラ削り。推定径やや小さい可能性あり。
420-8 256	土師器 甕	1	20.1	(5.2)	(28.5)		2/3	粗砂粒・ 細砂粒	橙、にぶ い黄橙	良好	口縁部直線的に開く。口縁部横撫で。体部外面器表剥離部分多い。体部内面へラナデ。
420-9	土師器 甕	2	(16.8)	-	(9.4)		1/4	粗砂粒・ 細砂粒	にぶい黄 橙	良好	径やや小さく、口縁部短い。口縁部横撫で。体部外面へラ削り。体部内面へラナデで接合痕残る。
420-10	土師器 甕		-	-	(2.8)		1/2	粗砂粒・ 細砂粒	にぶい橙	良好	内外面撫で。
420-11	土師器 甕		-	(3.4)	(3.2)		1/2	細砂粒	にぶい黄 橙	良好	内外面へラナデ。底部中央焼成前の穿孔。
420-12	石製品 砥石	6	13.0	5.6	4.4	361.1	完形	砥沢石			主な使用面は幅広の表裏面と一方の側面に共に中央が窪む。他方の側面は、面自体は平坦だが、断面片影り状の長い研ぎ減り痕が2条残る。厚みのある小口面と側面の砥面端部には深い条線が残る。平坦で薄い小口面は折れ面ではないものの凹凸が認められ、切り出した砥石ではない可能性が高い。中砥、4面使用。
420-13	石製品 砥石	7	11.8	5.6	6.3	573.4	完形	砥沢石			4面使用で中央が細くなり、その箇所では折れている。小口に至る傾斜面にも砥面があり、条線が認められる。傾斜面の砥面は中央とは別な砥面。両小口面には砥面が残る。転磨を用いた砥石。中砥、4面使用。
420-14 256	石製品 砥石		(5.9)	3.7	2.0	60.9	破片	砥沢石			一方の側面には平整痕が残る。この側面の小口側は溝状の整形痕があるが、走向直交方向の条線が認められ、中央側と同様な工具による整形と考えられる。主要砥面は長軸方向の中央に向ってやや窪む。また、一方の主要砥面は短軸方向の中央部も窪み、ほぼ中央は長軸に沿って浅い溝状に窪む。一方の小口が残存。中砥、4面使用。

田口上田尻遺跡135号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
422-1	土師器 埴輪か	2-136住カ マ掘り方	(14.0)	-	(3.4)		1/3	粗砂粒・ 細砂粒	にぶい橙	良好	体部内湾した後口縁部外反。体部内面から口縁部外面横撫で。体部外面へラ削り。	
422-2	須恵器 環か	12	(11.8)	-	(3.2)		1/3	細砂粒	黄灰	還元焰	器表摩滅。轆轤回転方向不明。	
422-3 256	須恵器 埴輪	14・カマ ド6・7	14.1～ 14.6	7.7	5.8～ 6.7		ほぼ完形	礫・砂粒	にぶい黄 橙	酸化焰	体部から口縁部歪み、器高差大きい。口縁部小さく外反。右回転轆轤調整。高台貼り付け。礫と砂の含有が多く、器表荒れる。	
422-4	須恵器 埴輪	カマド8・ 掘り方	-	7.4	(4.8)		体中位～ 底部	礫・砂粒	にぶい黄 橙	酸化焰	体部内湾。高台貼り付け。轆轤回転方向不明。	
422-5 256	灰釉陶器 瓶類	掘り方	-	9.1	(2.7)		底部片		灰白	普通	体部外面回転へラ削り。やや雑な貼付高台で場所により形状が異なる。高台内中央回転系切痕残る。高台端部植物質状の厚痕。	
422-6	土師器 台付甕	13	(11.7)	-	(6.2)		1/4	細砂粒	にぶい橙	良好	頸部器壁厚い。口縁部直立気味。器表やや摩滅。口縁部付近強い横撫で。頸部付近やや強い横撫で。器形は異なるが、横撫で位置と口縁部外面形状から、「コ」の字状口縁台付き甕の可能性高い。	
422-7	土師器 台付甕	20	-	8.2	(7.8)		台部	細砂粒	暗灰黄	良好	体部外面へラ削り。体部内面へラナデか撫で。脚部内面から外面接合部横撫で。内面には横撫での撫で上げ痕残る。	
422-8	須恵器 羽釜	3	(22.8)	-	(11.4)		1/8	粗砂粒少 量・細砂 粒	にぶい褐	良好	口縁部僅かに外湾。口縁部横撫で。体部外面へラ削り。体部内面へラナデ。鈔貼り付け。	
422-9	鉄製品 鎌か		(5.5)	0.8	0.7	6.0	破片				断面形状は方形を呈し、残存部は先端に向かって細くなる。形状から鎌の茎の可能性ある。	

田口上田尻遺跡136号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
423-1 256	灰釉陶器 埴輪	2	13.2	7.0	4.4		3/4		灰白	普通	底部周縁で内湾し、体部から口縁部は直線的に延びる。口縁部は外反するように丸める。外面体部以下回転へラ削りの後、高台を貼り付ける。高台脇から高台内は高台貼り付け時の回転横撫でによりへラ削り痕が消される。体部内外面灰釉漬け掛け。底部外面中央小さいヒビが認められる。高台端部のみ光沢を有するほど平滑。	
423-2 256	緑釉陶器 不詳	掘り方	-	-	-		小片	A'	灰	普通	埴輪体部片か。内外面緑釉。	

田口上田尻遺跡137号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
425-1	須恵器 環	2	(14.8)	-	(3.2)		1/6	細砂粒	黄灰	還元焰	断面赤灰色。器形歪み、底部外面窪む。口縁部も歪み、推定径が大きくでている。	
425-2	土師器 甕	1	(18.5)	-	(5.7)		1/4	細砂粒	にぶい橙	良好	口縁部「コ」の字状。口縁部横撫で。口縁部屈曲部外面強い横撫で。径部下位外面強い横撫でだが、残存部の多くはへラ削りで削り取る。頸部外面型肌痕僅かに残る。	

田口上田尻遺跡139号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
426-1	須恵器 環	掘り方	(12.6)	(6.0)	4.1		1/4	細砂粒	黄灰	還元焰	体部僅かに内湾し、口縁部肥厚。底部右回転系切無調整。	
426-2	須恵器 埴輪	掘り方・ 貯蔵穴29	-	6.2	(2.0)		底部完	細砂粒	にぶい黄 褐	酸化焰	内面黒色処理。内面器表摩滅。高台貼り付け。高台内右回転系切痕残る。	
428-3	須恵器 埴輪	7	-	(6.8)	(3.6)		1/3	礫・砂粒	灰	還元焰	器表摩滅著しい。高台貼り付け。	
428-4	土師器 台付甕	掘り方	(11.8)	-	(5.4)		1/8	細砂粒	にぶい褐	良好	器表摩滅。体部外面へラ削り単位・方向不明。体部内面へラナデか。	
428-5 256	土師器 甕	カマド 12・14・ 15	(19.0)	-	(8.5)		1/3	細砂粒	にぶい橙	良好	口縁部「コ」の字状。口縁部横撫で。口縁部屈曲部外面強い横撫で。径部下位外面やや強い横撫で。体部外面へラ削り。体部内面へラナデ。	
428-6	土師器 甕	掘り方23	(20.8)	-	(5.6)		1/9	細砂粒	にぶい橙	良好	残存率悪く、推定径大きい可能性高い。口縁部「コ」の字状に近く、屈曲部外面にやや強い横撫で。体部外面横撫でへラ削り。体部内面へラナデか。頸部内面に接合痕らしき痕跡残る。口縁部に製作時の傷を補修したような痕跡あり。	
428-7	土師器 甕	掘り方・ カマド16	(22.8)	-	(5.1)		1/5	細砂粒	にぶい橙	良好	口縁部「コ」の字状。口縁部外面屈曲部と端部強い横撫で。器表やや摩滅。	



田口上田尻遺跡141号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
430-1	須恵器 壺か	10	(11.0)	-	(3.3)		1/4	細砂粒	にぶい橙	酸化焰	体部内湾し、口縁部緩く外反。器表摩滅。	
430-2	須恵器 壺		-	5.6	(1.6)		底部完	細砂粒	灰	還元焰	高台貼り付けやや粗い。高台内底部右回転糸切痕残る。	
430-3	須恵器 壺	4	-	(5.8)	(2.9)		底部片			還元焰	焼き締まりない。右回転軸調整。高台貼り付け。底部切り離し技法不明。高台端部摩滅。	
430-4	灰釉陶器 皿	7	-	(6.8)	(1.4)		1/4		灰白	普通	体部は直線的に開く。丸みを帯びた高台を貼り付ける。体部下位まで施釉。	
430-5	須恵器 羽釜	15	(20.6)	-	(10.0)		1/5	礫・砂粒	淡橙	酸化焰	口縁部内湾し、端部尖り気味。口縁部横撫で。口縁部外面接合痕明瞭。体部外面へラ削り。体部内面へラナデもしくは幅広の撫で。	
430-6	須恵器 羽釜	21・26・ 28・29・ 38・90	(20.4)	-	(24.2)		1/3	礫・砂粒	淡橙	酸化焰	口縁部内湾し、端部尖り気味。口縁部横撫で。口縁部外面接合痕明瞭。体部外面へラ削り。体部内面へラナデもしくは幅広の撫で。体部下位内面撫で。	
430-7	須恵器 羽釜	26・33・ カマド17	(23.6)	-	(13.1)		1/4	粗砂粒・ 細砂粒	橙	酸化焰	口縁部横撫で。体部外面へラ削り。外面鈔下部に接合痕残る。内面器表摩滅。	
430-8	須恵器 羽釜	25・32・ 34・35	(24.0)	-	(17.2)		1/4	粗砂粒・ 細砂粒	橙	酸化焰	口縁部横撫で。口縁部外面2条の接合痕残る。体部外面へラ削り。鈔接合部下横撫で。体部内面へラナデ。	
430-9	須恵器 甕か(羽釜転用)	カマド15・16・ 19・23・24	-	-	(10.0)		1/3	粗砂粒・ 細砂粒	橙	酸化焰	外面へラ削り。内面撫で。羽釜と推定される体部下位をほぼ水平に整形した後、端部を擦って仕上げる。	
430-10	須恵器 羽釜	32・掘り 方	-	(8.2)	(6.2)		1/3	粗砂粒・ 細砂粒	橙	酸化焰	外面へラ削り。内面撫で。	

田口上田尻遺跡142号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
432-1	須恵器 壺	5	-	(7.0)	(2.8)		1/4	細砂粒	灰白	還元焰	焼き締まりない。高台貼り付けやや粗。底部内面中央付近盛り上がる。高台内回転糸切痕残る。軸調整方向不明。	
432-2	須恵器 壺	3	-	6.0	(4.0)		下半部	細砂粒	灰	還元焰	焼き締まりない。外面軸調整目顕著。高台貼り付け。高台内右回転糸切痕残る。底部内面螺旋状軸調整目。器表やや摩滅。	
432-3	灰釉陶器 壺	4	-	7.3	(1.6)		1/2		灰白	普通	丸みを帯びた三日月状の高台貼り付け。内外面体部下位まで施釉。	
432-4	須恵器 蓋		-	摘径 4.0	(1.4)		摘み部	細砂粒	灰白	還元焰	天井部内面平滑でやや光沢を有し、転用された可能性高い。	
432-5	灰釉陶器 瓶	掘り方	-	-	-		小片		灰白	普通	口縁部にかけて開く。火前のみ灰釉厚かかると推定される。	
432-6	須恵器 甕か瓶類	6	-	-	-		体部片	細砂粒	暗灰	還元焰	外面平行叩き目。内面当て具痕。内面の一部に降灰があり、底部付近の可能性高い。	

田口上田尻遺跡143号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
434-1	須恵器 環	15・16	13.0～ 13.4	6.0	3.4～ 3.8		ほぼ完形	礫微量・ 砂粒	灰褐	還元焰	部分的に酸化状態で焼き締まりない。器表摩滅。器形やや歪む。口縁部外反し、端部肥厚。底部右回転糸切無調整。	
434-2	須恵器 環	8	(11.0)	(4.0)	3.9		口縁部 1/4、底 部1/2	粗砂粒少 量・細砂 粒	にぶい黄 橙	酸化焰	体部下位と口縁部下軸調整目状に凹む。底部右回転糸切無調整。口縁部端部と内面油煙状黒色物付着。灯火皿として使用した可能性高い。底部内面器表剥離。	
434-3	須恵器 壺か	16	(17.6)	-	(5.2)		1/5	細砂粒	黄灰	還元焰	焼き締まりない。器表摩滅。軸調整方向不明。	
434-4	灰釉陶器 壺	26	(14.3)	-	(3.0)		1/4		灰白	普通	体部中位内湾し、口縁部端部は外方肥厚させる。口縁部端部外面は稜をなす。内外面体部まで施釉するが、釉厚は薄く、器表が白色を呈する程度である。	
434-5	灰釉陶器 壺	17	-	6.8	(2.1)		底部完		灰白	普通	丸みを帯びた高台を貼り付ける。内面施釉範囲不明瞭であるが、高台重焼部まで灰釉かかる。底部下位、高台に沿って人為的に打ちかけられている可能性高い。高台貼付部に一部にヒビが入る。	
434-6	土師器 甕	カマド 35・37	18.0	-	(5.4)		1/2	細砂粒	灰褐	良好	口縁部「コ」の字状。器表やや摩滅。口縁部横撫で。口縁部外面中位指頭圧痕状の窪み連続し、接合痕残る。体部外面へラ削り。	
434-7	須恵器 甕	10	-	(24.8)	(5.2)		1/9	粗砂粒・ 細砂粒	明褐色	酸化焰	器表摩滅。軸調整方向不明。体部との接合部、断面中央に色調の異なる箇所があり、体部と異なる粘土を使用した可能性高い。	
434-8	須恵器 甕	24	-	-	-		体部片	礫微量・ 砂粒	灰白	還元焰	焼き締まりない。外面板状工具による撫で、細かく浅いハゲ目状条線残る。内面丁寧な撫で。	
434-9	須恵器 甕	12	-	-	-		口縁部片	礫少量・ 砂粒	灰	還元焰	肩部ほぼ水平。軸調整方向不明。肩部接合痕明瞭。	
434-10	須恵器 甕	9	-	-	-		口縁部片	粗砂粒少 量・細砂 粒	灰	還元焰	口縁部強く外反。縁部外面下端外方につまみ出し、上部が凹線状となる。	
434-11	土釜か	カマド	(20.8)	-	(12.3)		1/8	細砂粒	にぶい赤 褐	やや不良	口縁部外反し、上半僅かに内湾。口縁部内面から端部横撫で。口縁部外面から体部外面撫で(口縁部は弱い横撫で)。口縁部外面から体部外面型肌状の痕跡残る。体部内面器表摩滅。	
434-12	須恵器 羽釜	カマド34	(19.6)	-	(15.9)		1/4	細砂粒	にぶい黄 橙	酸化焰	器壁薄く、鈔もシャープ。口縁部横撫で。体部外面軸調整目明瞭。体部内面撫で、接合痕残る。体部内面中央に粘土を撫で付けた箇所があり、製作時の補修痕の可能性高い。	
434-13	土釜か	5・32	-	8.0	(4.4)		1/2	細砂粒	にぶい橙	良好	体部外面へラナデとへラ削り。内面撫で。底部外面砂大量に付着。	
434-14	土釜か	3・6	-	-	-		体部片	細砂粒	にぶい橙	良好	口縁部内面へラナデ。体部内面ハゲ目(1cmあたり5)。体部外面粗撫で。頸部から体部外面型肌状痕跡残り、接合痕明瞭に残る。	

田口上田尻遺跡144号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
435-1	土師器 環	カマド4	(11.8)	-	(3.2)		1/8	細砂粒	橙	良好	体部内湾し、口縁部外反。体部内面から口縁部外面横撫で。口縁部外面の一部と体部外面型肌痕残る。	
435-2	須恵器 壺	6	(12.8)	(6.0)	5.0		1/6	粗砂粒・ 細砂粒	灰白	還元焰	口縁部薄くなり外反。貼付高台。	
435-3	須恵器 壺		(13.8)	-	(4.0)		1/3	細砂粒	灰黄	燻しか	器表から器表付近黒色。口縁部外反。外面軸調整目細かい。右回転軸調整。	

田口上田尻遺跡147号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
438-1	土師器 環	11	(12.8)	(8.4)	(3.3)		1/4	細砂粒	橙	良好	体部外湾し、口縁部内湾。体部内面から口縁部外面横撫で。体部外面撫で。	
438-2	土師器 台付甕	2・7・ 142住	(14.2)	-	(8.4)		1/2	細砂粒	橙	良好	口縁部「コ」の字状。口縁部外面中位を除き強い横撫で。体部外面へラ削り。体部内面へラナデ。	



遺物観察表

田口上田尻遺跡150号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
439-1	須恵器 盤	1	(30.0)	-	(3.9)		1/16	細砂粒	黄灰	還元焰	断面中央黄灰色、器表付近灰白色。底部内面カキ目。轆轤回転方向不明。	

田口上田尻遺跡152号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
440-1	須恵器 環		-	(6.0)	(3.2)		1/3	細砂粒	黄灰	還元焰	底部右回転系切無調整。轆轤右回転整形。	

田口上田尻遺跡153号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
441-1	土師器 環		(10.2)	-	(3.4)		口縁部一部、底部1/4	細砂粒	橙	良好	口縁部やや短く、緩く外反。体部内面から口縁部横撫で。底部外面ヘラ削り。	
441-2 256	土師器 環	カマド	(10.5)	-	(3.5)		1/4	細砂粒	橙	良好	体部内面から口縁部外面横撫で。底部外面ヘラ削り。底部外面の器表やや摩滅し、ヘラ削り単位不明瞭。	
441-3	土師器 環	1	(11.3)	-	(2.5)		口縁部一部、底部1/5	細砂粒	橙	良好	内面から口縁部外面横撫で。底部外面の器表やや摩滅しており、ヘラ削り単位不明。	
441-4	土師器 環		(12.6)	-	(2.8)		1/8	細砂粒	橙	良好	口縁部付近内湾。体部内面から口縁部外面横撫で。底部外面ヘラ削り。	
441-5	土師器 環		(15.2)	-	(4.6)		1/8	細砂粒	橙	良好	口縁部付近やや内湾。内面から口縁部付近外面横撫で。外面口縁部下撫でだけが型肌痕残る。体部外面横撫でヘラ削り。	
441-6	須恵器 高環		(15.0)	-	(3.2)		口縁部片	細砂粒	灰白	還元焰	轆轤右回転整形。外面口縁部下2条の凹線。外面底部付近右回転ヘラ削り。	
441-7	土師器 甗		(20.0)	-	(6.7)		1/5	細砂粒	明赤褐	良好	口縁部横撫で。体部外面斜位ヘラ削り。体部内面ヘラナデか。	
441-8	土師器 甗	カマド	(20.6)	-	(6.9)		1/9	細砂粒	赤褐	良好	口縁部横撫で。体部外面斜位ヘラ削り。体部内面ヘラナデか。	

田口上田尻遺跡154号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
445-1 256	土師器 環	掘り方・156住	(11.8)	-	(4.0)		1/2	細砂粒	橙	良好	口縁部外反。口縁部横撫で。口縁部外面型肌痕残る。底部外面ヘラ削り。	
445-2	土師器 環	26・27・155住掘り方	(12.0)	-	(3.7)		口縁部一部、体部1/4	細砂粒	橙	良好	胎土緻密で硬質に焼きあがる。断面中央青灰色。口縁部直線的に開き、端部のみ小さく外反。体部内面から口縁部外面横撫で。底部外面ヘラ削り。底部内面器表やや摩滅。	
445-3 256	土師器 環	34	(12.0)	(7.7)	(3.7)		1/2	細砂粒	橙	良好	器表摩滅し、調整痕不明。口縁部内面の一部にヘラ磨き残る。体部外面型肌痕残る。	
445-4 256	土師器 環		(14.0)	(9.8)	(4.0)		1/3	細砂粒	橙	良好	器表やや摩滅。内面底部周縁から口縁部横撫で。体部外面指頭圧痕残る。体部外面から底部外面ヘラ削りか。	
445-5 256	土師器 環		12.8	5.0	3.6～4.2		ほぼ完形	細砂粒	橙	良好	器表やや摩滅。平底気味で口縁部やや内湾。体部内面から口縁部外面横撫で。内面横撫で後にヘラ磨き。体部外面摩滅し、調整痕不明。体部外面型肌痕状の皺状亀裂が一部に残る。	
445-6 256	土師器 環	14	11.6	8.7～9.3	3.3		ほぼ完形	細砂粒	にぶい褐	良好	器表摩滅。内面調整痕不明。口縁部外面横撫で。体部外面から底部外面調整痕不明。口縁部緩く屈曲して外反。	
445-7 256	土師器 環	カマド	(12.8)	-	2.9		2/3	細砂粒	橙	良好	口縁部内湾。体部内面から口縁部外面横撫で。体部外面型肌痕残る底部外面ヘラ削り。器表やや摩滅し、ヘラ削り単位不明瞭。	
445-8	土師器 環		(13.0)	-	2.8		1/6	細砂粒	橙	良好	口縁部内湾し、端部内面は小さく内面側に丸める。体部内面から口縁部外面横撫で。体部内面撫で。底部外面ヘラ削り。	
445-9	土師器 環	掘り方	(12.3)	-	(2.6)		1/3	細砂粒	橙	良好	口縁部屈曲気味に内湾。内面から口縁部外面横撫で。体部外面撫で。底部外面ヘラ削り。	
445-10	須恵器 環		(11.7)	(7.6)	3.7		1/3	細砂粒	灰	還元焰	断面中央にぶい赤褐色。口縁部小さく外反。右回転轆轤調整。底部ヘラ切か。	
445-11 256	須恵器 環	13	12.1～12.3	6.5	2.9		口縁部1/2、底部完	細砂粒	灰	還元焰	口縁部内湾し、端部小さく外反。底部右回転系切無調整。口縁部歪むが、欠損のため口径にはほとんどあられない。	
445-12 256	須恵器 塊	1	(16.4)	10.8	6.7		口縁部一部、底部完	細砂粒	灰	還元焰	右回転轆轤調整。高台貼り付け。高台は「ハ」の字状に開く。体部外面下端回転ヘラ削り。底部外面中央右回転ヘラ削り痕残る。	
445-13 257	土師器 鉢	12	(18.7)	(10.0)	8.6		1/4	粗砂少量・細砂粒	橙	良好	器表摩滅し、調整痕不明瞭。口縁部横撫で。体部から底部外面ヘラ削りだが、単位不明。体部から底部内面の調整痕摩滅のため不明。	
445-14	土師器 甗		(12.2)	-	(5.1)		口縁部片	細砂粒	明赤褐	良好	口縁部「コ」の字状。口縁部横撫で。体部外面ヘラ削り。体部内面ヘラナデ。	
445-15 257	土師器 甗	4・156住	(20.0)	-	(6.2)		2/3	細砂粒	橙	良好	口縁部外反し、端部丸みを帯びる。口縁部横撫で。体部外面ヘラ削り。体部内面ヘラナデ。	
445-16	土師器 甗	掘り方	(18.3)	-	(7.6)		口縁部一部、頸部1/4	細砂粒	明赤褐	良好	口縁部ほぼ均一に外反。口縁部横撫で。体部外面ヘラ削り。体部内面ヘラナデか。	
445-17	土師器 甗		(19.8)	-	(5.3)		1/8	細砂粒	明赤褐	良好	口縁部ゆるい「コ」の字状。口縁部横撫で、端部と外面下端は強い横撫で。口縁部外面中位、成形時の窪み残る。肩部外面横位ヘラ削り。	
445-18	土師器 甗	カマド	(15.4)	-	(10.3)		1/4	細砂粒	明赤褐	良好	体部丸みを帯びる。口縁部横撫で。体部外面横位ヘラ削り。体部内面器表摩滅し、調整痕不明。	
445-19	土師器 甗	掘り方	(20.0)	-	(5.6)		口縁部片	細砂粒	明赤褐	良好	口縁部外反し、端部外面小さく外反。口縁部横撫で。体部外面ヘラ削り。	
445-20	土師器 甗		(19.2)	-	(5.6)		1/4	細砂粒	明赤褐	良好	口縁部外反し、上半は僅かに内湾。口縁部横撫で。体部外面横位ヘラ削り。体部内面ヘラナデか。	
445-21	土師器 甗		-	(7.1)	(3.9)		底部片	細砂粒	にぶい橙	良好	底部形状が多角形のため、推定径が不正確。底部形状は小判形で、実際はより小さい可能性高い。外面ヘラ削り。	
445-22	土師器 甗	9・カマド	-	(4.0)	(9.9)		1/4	粗砂少量・細砂粒	にぶい赤褐	良好	体部外面縦位ヘラ削り。体部内面斜位ヘラナデ。	
445-23	土師器 甗	15	-	(4.6)	(4.0)		1/4	細砂粒	明赤褐	良好	外面ヘラ削り。外面の一部に粘土付着。	
445-24 257	土師器 台付甗	14	-	8.6	(5.2)		台部	細砂粒	明赤褐	良好	体部外面縦位ヘラ削り。体部内面ヘラナデ。台部横撫で。	

遺物観察表

445-25	鉄製品 不明	掘り方	(3.5)	0.4	0.7	2.0	破片						断面形状が長方形を呈する棒状の製品で、屈曲している。	
田口上田尻遺跡156号住居														
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等		備考	
446-1 257	土師器 環	2・4・6・ カマド	11.9	-	4.1		2/3	細砂粒	橙	良好	焼成は良好で硬質であるが、器表は粉っぽく摩滅しやすい。底部外面やや摩滅。体部内面から口縁部横撫で。口縁部外面の横撫では廉状をなす。底部外面へラ削り。			
446-2 257	土師器 環	10	11.5～ 12.0	-	3.7～ 3.9		完形	細砂粒	橙	良好	器表やや摩滅。口縁部外面の一部に塗布されたような黒色物付着。体部内面から口縁部外面横撫で。口縁部外面の横撫で、廉状をなす箇所がある。底部外面へラ削り。			
446-3 257	土師器 環	7	11.1	-	3.8		完形	細砂粒	にぶい橙	良好	焼成は良好で硬質であるが、器表は摩滅する。摩滅著しく調整痕不明。			
446-4 257	土師器 環	3・8・9	10.8～ 11.6	-	3.8～ 4.1		完形	細砂粒	にぶい褐	良好	焼成は良好で硬質であるが、器表は摩滅する。体部内面から口縁部横撫で。底部外面へラ削り。			
446-5 257	土師器 環	カマド	10.6～ 11.1	-	3.6～ 3.8		完形	細砂粒	橙	良好	焼成は良好で硬質であるが、器表は摩滅する。摩滅により調整痕不明。			
446-6 257	土師器 環	11・12	11.9～ 12.4	-	4.1		完形	細砂粒	にぶい橙	良好	焼成は良好で硬質であるが、器表は摩滅する。摩滅により調整痕不明瞭。口縁部外面に型肌痕残る。			
446-7 257	土師器 甕	6	11.3	-	(6.6)		1/2	細砂粒	にぶい橙	良好	焼成は良好で硬質であるが、器表は摩滅する。摩滅により調整痕不明瞭。口縁部横撫で。体部外面斜位へラ削り。体部内面へラナデ。			
田口上田尻遺跡157号住居														
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等		備考	
449-1	土師器 甕	3	(17.0)	-	(12.3)		1/4	細砂粒	明赤褐	良好	口縁部の外反は弱い。口縁部横撫で。体部外面ハケ目状のへラナデ。体部内面へラナデ。			
田口上田尻遺跡158号住居														
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等		備考	
450-1 257	土師器 環	15	14.0	-	4.9		完形	粗砂粒・ 細砂粒	にぶい黄	良好	内面黒色処理で内面から口縁部外面の器表黒色。口縁部横撫で。外面の横撫で痕廉状を呈する。底部外面へラ削り。外面口縁部下撫で。体部から底部内面撫で。			
450-2 257	土師器 甕	17・159 住掘り方	(17.2)	-	(6.2)		1/3	細砂粒	褐	良好	口縁部長く伸び、端受け口状をなす。肩部張らない。口縁部横撫で。体部外面撫で。体部内面撫でかへラナデ。			
450-3	鉄製品 小札か		(2.5)	2.7	0.2	6.0	一部欠損				薄板で中央部に縦に2カ所径2～3mmほどの穿孔がある。裏金が小札の可能性ある。			
452-4	棒状礫	9	15.1	7.0	5.0	743.0	完形	粗粒輝石 安山岩			断面三角形の棒状礫で敲打痕や擦れ痕は認められない。			
452-5	棒状礫	10	15.4	6.5	5.2	813.0	完形	溶結凝灰 岩			断面三角形の棒状礫で敲打痕や擦れ痕は認められない。			
452-6	棒状礫	11	14.8	7.0	5.8	814.0	完形	粗粒輝石 安山岩			断面三角形の棒状礫で敲打痕や擦れ痕は認められない。			
452-7	棒状礫	12	14.8	7.8	4.9	746.0	完形	変質安山 岩			断面三角形の棒状礫で敲打痕や擦れ痕は認められない。			
452-8	棒状礫	13	17.1	6.4	5.7	973.3	完形	石英閃緑 岩			棒状礫で敲打痕や擦れ痕は認められない。			
452-9	棒状礫	14	14.7	7.3	4.9	758.0	完形	ひん岩			やや歪な棒状礫で敲打痕や擦れ痕は認められない。			
田口上田尻遺跡160号住居														
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等		備考	
454-1	須恵器 埴	2	-	5.5	(2.5)		底部	礫微量・ 砂粒	にぶい褐	酸化焙	器表摩滅。高台貼り付けるが、粘土紐が3mmほど足りず途切れている。高台内右回転糸切痕残る。			
454-2 257	灰釉陶器 埴	カマド5	(17.4)	(8.0)	5.0		1/3		灰白	普通	体部ゆるく内湾して開き、口縁部は小さく上方に立ち上げた後外反する。外面体部下位以下回転へラ削りの後、三日月状の高台を貼り付ける。内面から体部外面下位、灰釉刷毛掛け。			
454-3	土師器 甕	3	-	-	-			口縁部小片	細砂粒	明褐	良好	口縁部ゆるい「コ」の字状。口縁部横撫で。口縁部外面中位接合痕残る。		
454-4	鉄製品 鎌	1	(8.2)	3.9	0.3	15.0	一部欠損				脇掛鎌で、先端に丸味のあるやや長脚の逆刺が付く。茎の幅は0.5cm、厚みは0.3cmほどで、基部側を欠損している。			
454-5	鉄製品 不明		(3.7)	0.7	0.2	2.0	破片				断面形状が長方形の棒状の製品で、刀子の茎の可能性ある。			
田口上田尻遺跡161号住居														
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等		備考	
455-1 257	土師器 環	1	11.2	-	3.2～ 3.5		完形	細砂粒	橙	良好	口縁部内湾し、短く立ち上がる。体部内面から口縁部外面横撫で。底部外面へラ削り。底部内面撫で。			
田口上田尻遺跡162号住居														
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等		備考	
456-1 257	灰釉陶器 埴	2	(12.3)	-	(3.0)		1/3		灰	普通	体部中位で内湾し、口縁部は外反する。内外面体部中位まで漬け掛け。釉は薄く、内面は白濁、外面は器表が光沢を有する程度である。			
456-2	須恵器 甕	5	-	-	-		体部片	礫微量・ 砂粒	灰	還元焙	外面平行叩き目で、異方向から重ねる箇所あり。内面撫でだが、平滑に擦れる。転用された可能性高い。			
456-3	須恵器 瓶類か	-	-	-	-		底部片	礫微量・ 砂粒	灰	還元焙	底部外面擦れる。底部内面凹凸多いが、凸部擦れて平滑。			
田口上田尻遺跡167号住居														
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等		備考	
458-1 257	土師器 環	20	10.0～ 10.4	-	3.1～ 3.5		完形	礫微量・ 砂粒	橙	良好	口縁部の1カ所、片口状に変形するが、意図的か否か不明。体部内面から口縁部外面横撫で。底部外面へラ削り。底部外面型肌痕残る。底部内面凹凸目立つ。			
458-2 257	土師器 環	13・21	10.5	-	3.4		ほぼ完形	粗砂粒少 量・細砂粒	にぶい赤 褐	良好	口縁部僅かに外反。体部内面から口縁部外面横撫で。底部外面へラ削り。			
458-3 257	土師器 環		(10.6)	-	3.6		1/4	細砂粒	橙	良好	胎土緻密で焼成硬質。体部内面から口縁部外面横撫で。内外面の横撫で、廉状を呈する部分がある。底部外面へラ削り。			
458-4 257	土師器 環		(10.8)	-	3.3		1/4	細砂粒	橙	良好	口縁部外反。底部内外面器表剥離箇所多し。体部内面から口縁部外面横撫で。底部外面へラ削り。			

遺物観察表

458-5	土師器 環		(9.8)	-	(2.8)		1/6	細砂粒	にぶい黄 褐	良好	残存部大きく歪み、推定径不明確で器形も測定部位で異なる。口 縁部屈曲して外反。体部内面から口縁部外面横撫で。外面口縁部 下位大きい段差。
458-6	土師器 環		(10.2)	3.7	(3.8)		1/3	細砂粒	にぶい橙	良好	体部から口縁部内湾。体部内面から口縁部外面横撫で。底部外面 へら削りだが、器壁摩滅のため単位と方向不明。口縁平面形歪み、 推定口径は不正確。
458-7	土師器 環	カマド	(10.8)	-	3.4		1/4	細砂粒	橙	良好	口縁部小さく外反。体部内面から口縁部外面横撫で。底部外面へら 削り。
460-8 257	土師器 環	カマド5	(11.0)	-	(3.1)		1/3	細砂粒	にぶい橙	良好	口縁部、ゆるく内湾する体部から屈曲して内傾。全体に器壁やや 厚い。体部内面から口縁部外面横撫で。底部外面へら削り。屈曲 部外面型肌痕僅かに残る。
460-9	土師器 環	掘り方	(10.0)	-	(3.2)		1/4	粗砂粒・ 細砂粒	橙	良好	体部内湾し、口縁部僅かに外反して立ち上がる。体部内面から口 縁部外面横撫で。底部外面へら削り。
460-10	土師器 環	カマド	(12.0)	-	(3.2)		1/3	細砂粒	にぶい橙	良好	体部屈曲し、口縁部内傾。体部内面から口縁部外面横撫で。体部 内面指頭圧痕状の窪み残る。底部外面へら削り。
460-11	須恵器 蓋	掘り方	(10.8)	摘径-	(3.0)		1/6	細砂粒	灰	還元焰	天井部器壁薄く、口縁部直線的に開く。天井部内面撫で。天井部 外面右回転へら削り。口縁上端浅い凹線1条巡る。
460-12	土師器 直口壺	2・掘り 方・177 住掘り方	(11.8)	-	(6.3)		1/8	細砂粒	にぶい橙	良好	口縁部外反し、上面やや凹む。口縁部上位横撫で。内外面中位 以下丁寧な撫で。外面幅広く間隔の開いたヘラナデ若しくはヘラ 磨き。
460-13 257	土師器 甕	22・カマ ド25	16.0	-	(6.1)		4/5	粗砂粒少 量・細砂 粒	にぶい褐	やや不良	外面器表剥離し、調整痕不明箇所多い。口縁部横撫で。体部外面 へら削りか。肩部内面撫でかヘラナデ。
460-14 257	土師器 甕	カマド1・ 26	22.2	-	(21.0)		口縁部 1/2、体 部1/4	粗砂粒少 量・細砂 粒	にぶい褐	良好	頸部屈曲し、口縁部外反して開く。体部外面縦位へら削り。体部 内面斜位へらナデ。
460-15	土師器 甕	17・カマ ド7	(17.6)	-	(10.4)		1/5	粗砂粒・ 細砂粒	にぶい赤 褐	良好	口縁部横撫で。体部外面斜位へら削り。体部外面器表摩滅し体部 内面撫でかヘラナデ。
460-16	土師器 甕	カマド4	(21.4)	-	(8.6)		1/7	粗砂粒少 量・細砂 粒	にぶい橙	良好	口縁部外反し、大きく開く。口縁部内面浅く窪む。口縁部横撫で。 体部外面斜位へら削り。体部内面へらナデ。
460-17	土師器 甕	18・カマ ド3・6	-	-	(10.1)		1/3	粗砂粒少 量・細砂 粒	にぶい橙	良好	外面縦位へら削り。内面へらナデ。
460-18 257	土師器 甕	カマド7	22.0 ~ 23.0	5.0 ~ 5.5	42.6		ほぼ完形	粗砂粒・ 細砂粒	にぶい黄 橙	良好	口縁部の開き具合、場所により異なる。口縁部横撫で。体部外面 横撫で。体部内面へらナデ。
460-19 257	土師器 甕	カマド9	22.2 ~ 22.6	-	(38.8)		底部欠	粗砂粒・ 細砂粒	にぶい黄 橙	良好	口縁部横撫で。体部外面へら削り。体部内面へらナデ。

田口上田尻遺跡170号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
462-1 258	土師器 環	19	11.9	-	3.1		1/2	細砂粒	橙	良好	口縁部形状は場所によりやや異なる。体部内面から口縁部外面横 撫で。底部外面へら削り。	
462-2	土師器 環	7	(10.4)	-	(3.6)		1/4	細砂粒	橙	良好	断面中央灰白色。焼成良好で硬質。体部内面から口縁部外面横撫で。 底部外面へら削り。	
462-3	土師器 環		(10.8)	-	(2.5)		1/3	細砂粒	橙	良好	外面口縁部下端、凹線状に窪む。内面摩滅により調整痕不明。口 縁部横撫で。底部外面へら削り。	
462-4 258	土師器 甕	5・21・ 25	19.2	-	(18.5)		2/3	粗砂粒少 量・細砂 粒	にぶい橙	良好	頸部屈曲し、口縁部直線的に大きく開く。口縁部横撫で。体部外 面へら削り。体部内面へらナデ。	
462-5	須恵器 甕		(18.7)	-	(6.8)		口縁部片	礫微量・ 砂粒	浅黄橙	酸化焰	口縁部外反し、端部付近僅かに内湾。口縁部外面1条の凹線。 口縁部内面器表剥離。	
463-6	土師器 甕	21	22.4	5.0	37.9 ~ 38.4		ほぼ完形	礫・砂粒	橙	良好	器壁やや厚く、口縁部大きく開く。口縁部横撫で。体部外面縦位 へら削り、底部外面へら削り。体部内面へらナデ。	
463-7 258	土師器 甕	1・21・ 22	21.8	(4.2)	38.3		ほぼ完形	礫・砂粒	明赤褐	良好	器壁やや厚く、口縁部の開き弱い。肩部やや張る。口縁部横撫 で。口縁部内面中位に接合痕一部残る。体部外面縦位へら削り。 底部外面へら削り。体部内面へらナデ。	

田口上田尻遺跡172号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
464-1	須恵器 環	2	(12.2)	(8.0)	3.5		1/6	細砂粒	灰	還元焰	体部下位外湾し、口縁部は僅かに内湾。底部外面へら切無調整。	

田口上田尻遺跡175号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
465-1	土師器 環	掘り方	(10.7)	-	(2.3)		1/7	細砂粒	橙	良好	口縁部やや短く、直線的に開く。口縁部横撫で。	
465-2	須恵器 環	10	(12.7)	(8.2)	3.9		1/8	細砂粒	灰白	還元焰	口縁部直線的に伸びる。底部外面回転へら切無調整。	
465-3 258	土師器 甕	5・カマ ド	(19.6)	-	(12.4)		1/5	細砂粒	橙	良好	口縁部外反。口縁部横撫でだが、外面には2段に成形時の窪みを 残す。体部外面へら削り。体部内面へらナデ。	
465-4	土師器 甕	6・カマ ド	(21.4)	-	(7.1)		1/5	細砂粒	赤褐	良好	口縁部「く」の字状。口縁部横撫でを行うが、外面中位と下位に成 形時の窪みを残す。肩部外面横位へら削り。	
465-5	土師器 甕	カマド	(23.0)	-	(6.6)		1/5	粗砂粒少 量・細砂 粒	橙	良好	器壁やや厚い。口縁部外反。口縁部横撫で。口縁部外面中位接合 痕残る。肩部外面横位へら削り。頸部内面へら削り状のヘラナデ。	
466-6	土師器 甕	6・7・掘 り方	(19.9)	-	(7.8)		1/5	細砂粒	橙	良好	口縁部「コ」の字状。口縁部横撫で。口縁部横撫で。口縁部外面中 位接合痕とへらのあたり痕残る。肩部外面横位へら削り。	
466-7	鉄製品 不明	カマド	(5.8)	0.3	0.2	1.0	両端欠損				細い丸棒状を呈し、両端部を欠損しているため用途を特定できな いが、紡錘車の軸の可能性はある。	

田口上田尻遺跡176号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
467-1	棒状礫	2	15.3	4.7	4.3	502.0	完形	変質安山 岩			棒状礫で敲打痕や擦れ痕は認められない。	
467-2	棒状礫	3	15.9	6.1	4.5	755.0	完形	粗粒輝石 安山岩			断面三角形の棒状礫で敲打痕や擦れ痕は認められない。	
467-3	棒状礫	4	16.1	5.8	5.0	702.0	完形	溶結凝灰 岩			断面三角形の棒状礫で敲打痕や擦れ痕は認められない。	

467-4	棒状礫	5	16.8	5.8	4.6	705.0	完形	砂岩				断面三角形の棒状礫で敲打痕や擦れ痕は認められない。	
468-5	棒状礫	6	15.4	5.5	5.5	715.0	完形	粗粒輝石 安山岩				断面三角形の棒状礫で敲打痕や擦れ痕は認められない。	
468-6	棒状礫	1	19.4	5.7	3.8	777.0	完形					棒状礫で敲打痕や擦れ痕は認められない。	
468-7	棒状礫	7	16.3	5.7	4.8	775.0	完形	変質安山 岩				棒状礫で敲打痕や擦れ痕は認められない。小口寄りに剥離が認められるが、人為的か否か不明。	
468-8	棒状礫	8	15.1	6.2	5.8	751.0	完形	変質安山 岩				棒状礫で敲打痕や擦れ痕は認められない。	
468-9	棒状礫	9	14.1	5.5	3.1	414.0	完形	粗粒輝石 安山岩				棒状礫で敲打痕や擦れ痕は認められない。	
468-10	棒状礫	10	18.0	6.2	3.7	527.0	完形	片玄武岩				やや扁平な棒状礫。両側縁と一方の小口に剥離痕。小口頂部を開始部とする最大の剥離痕は摩滅しており、河川流下に伴う剥離である。	

田口上田尻遺跡179号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
469-1	須恵器 環	掘り方	(13.1)	-	(3.1)		1/10	細砂粒	灰	還元焰	口縁部付近外反。轆轤整形。轆轤回転方向不明。	
469-2	土師器 甕	2	(24.0)	-	(6.2)		1/9	粗砂粒少量・ 細砂粒	明赤褐	良好	口縁部「コ」の字状。口縁部横撫で。口縁部外面中位成形時の窪み残る。体部外面へラ削り。体部内面へラナデ。残存率悪く、推定径不明確。	

田口上田尻遺跡180号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
470-1	須恵器 環	カマド	-	(6.0)	(1.7)		1/4	粗砂粒・ 細砂粒	灰	還元焰	底部右回転糸切無調整。	
470-2	須恵器 蓋	カマド	(16.0)	摘径-	(2.0)		1/8	礫微量・ 砂粒	灰	還元焰	口縁部外反し、端部は内傾して折り曲げる。右回転轆轤整形。	

田口上田尻遺跡71号溝

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
471-1	鉄製品 釘か		(5.1)	0.7	0.6	12.8					断面形状は判然としませんが、本来は方形をしていたものと思われ、釘の可能性が高い。	

田口上田尻遺跡81号溝

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
472-1	須恵器 環		-	(7.6)	(2.3)		1/4	細砂粒	灰白	還元焰	轆轤右回転整形。底部外面回転へラ切無調整。	
472-2	須恵器 蓋		(15.5)	摘径-	(2.2)		1/8	細砂粒	黄灰	還元焰	口縁部内面に折り返す。轆轤回転方向不明。	
472-3	須恵器 瓶類か		-	-	-		体部片	細砂粒	黄灰	還元焰	外面叩き目。内面当て具痕残る。外面降灰による白濁釉斑状に付着。	

田口上田尻遺跡5号土坑

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
473-1	須恵器 環		-	5.6	(2.4)		1/2	細砂粒	灰オリーブ	還元焰	底部右回転糸切無調整。底部外面大きく凹み、変形する。	
473-2	須恵器 壺	1・2・4	18.8	-	(7.4)		3/4	細砂粒	黄灰	酸化焰	体部から口縁部内湾。右回転轆轤調整。外面轆轤目顕著だが、内面は目立たない。体部外面下端、高台貼り付け時の回転横撫で。	

田口上田尻遺跡6号土坑

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
473-3 258	須恵器 壺	1	12.6	7.2	5.4		口縁部～ 体部3/4、 底部完	細砂粒	灰黄褐	還元焰	体部内湾し、口縁部外反。底部内面螺旋状轆轤目。高台貼り付け。高台内底部右回転糸切り痕残る。	

田口上田尻遺跡12号土坑

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
474-1 258	土師器 環	1	(14.0)	-	(4.6)		1/4	細砂粒	橙	良好	器表摩滅。口縁部僅かに外反。体部内面から口縁部外面横撫で。底部外面へラ削り、単位と方向不明瞭。	

田口上田尻遺跡149号土坑

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
475-1 258	灰釉陶器 皿	1	12.9	6.3	3.0		ほぼ完形		灰白	普通	体部ゆるく内湾し、口縁部は直線的に開く。外面口縁部下の轆轤目顕著。外面体部下端から底部外面回転へラ削りのち高台貼り付け。体部下端は高台貼り付け時の回転撫でによりへラ削り痕不明瞭。口縁部粗雑な輪花が3カ所残存し、4カ所に施していたと考えられる。	
475-2 258	灰釉陶器 壺	2	(13.2)	(7.0)	3.7		1/3		灰白	普通	体部内湾し、口縁部は緩く外反する。体部外面中位の轆轤目顕著で、それ以下は回転へラ削り後、高台貼り付け時の回転横撫で。貼付高台。口縁部から体部灰釉漬け掛け。	
475-3	須恵器 甕か	3	-	-	-		胴部片	細砂粒	灰	還元焰	轆轤整形。回転方向不明。外面はへラナデ、内面には轆轤痕が残る。	

田口上田尻遺跡206号土坑

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
476-1 258	緑釉陶器 不詳		-	-	-		小片	Aか	灰	普通	小片のため部位不詳。内外面緑釉。	

田口上田尻遺跡223号土坑

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
476-2	須恵器 甕		-	-	-		胴部片	細砂粒	灰	還元焰	外面の叩き痕は撫で消されているが、内面のアテ具痕は残る。	

田口上田尻遺跡240号土坑

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
478-1 258	灰釉陶器 皿	1	-	(7.1)	(1.8)		1/3		灰白	普通	貼付高台厚みのある三日月状を呈する。内面厚みのある灰釉を全面施釉。	



遺物観察表

田口上田尻遺跡258号土坑

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
477-1	土師器 坏		(14.9)	-	(4.0)			口縁部片 細砂粒	褐	良好	外面体部に輪積み痕が残る。口縁部は横撫で、体部は撫で。	砂底

田口上田尻遺跡263号土坑

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
478-2 258	緑釉陶器 不詳	2	-	-	-			口縁部片 A	灰	普通	口縁部片。内外面緑釉。	

田口上田尻遺跡305号土坑

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
478-3	土師器 坏		(7.6)	-	(4.1)		1/4	細砂粒	明赤褐	良好	口縁部内傾して外湾。口縁部横撫での後、体部外面へラ削り。体部内面撫でか。	

田口上田尻遺跡326号土坑

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
479-1	須恵器 埴	6	-	6.3	(2.6)			底部 細砂粒多量	明赤褐	酸化焰	轆轤整形、回転方向不明。高台は貼付、底部は回転撫で。	

田口上田尻遺跡333号土坑

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
479-2	須恵器 埴		-	(6.8)	(2.6)		1/3	細砂粒	灰白	還元焰	右回転轆轤整形。高台貼り付け。高台内中央回転糸切痕残る。	

田口上田尻遺跡340号土坑

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
479-3	土師器 甕		-	(5.6)	(1.4)		1/4	礫少量・ 砂粒	明褐	良好	底部外面砂付着。底部外面高台状の一部高台状の高まりが認められる。	

田口上田尻遺跡368号土坑

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
481-1	須恵器 埴	7	(15.8)	-	(7.1)		1/8	細砂粒	橙	酸化焰	右回転轆轤整形。体部外面下位に丁寧な回転横撫で痕が認められ、高台付近と考えられる。	
481-2 258	灰釉陶器 深埴	1	(15.3)	8.0	6.6		1/3~ 2/3		灰白	普通	体部下位で強く内湾し、器高が高い。口縁部外反する。体部外面下位から底部回転へラ削りの後高台を貼り付ける。下手削痕の一部は高台貼付時の回転横撫でにより消される。口縁部から体部灰釉漬け掛け。高台端部平滑。	
481-3 258	緑釉陶器 埴	1	-	-	-			口縁部片 C'	灰	普通	体部から口縁部内湾し、端部小さく外反する。内外面緑釉。	
481-4 258	緑釉陶器 埴	4	-	-	-			口縁部片 A'	灰	普通	内湾する体部から、外湾する口縁部に至る。内外面緑釉。	
481-5 258	緑釉陶器 埴	5	-	-	-			口縁部片 Aか	白	普通	胎土はA、A'に伴う白色粘土に似る。器壁薄く、口縁部緩く内湾する。口縁部外面軽く押さえ輪花とする。内外面の緑釉は透明感がある。	
481-6 258	緑釉陶器 埴	10	-	-	-			口縁部片 C'	灰	普通	体部から口縁部内湾し、端部小さく外反する。内外面緑釉。	
481-7 258	緑釉陶器 皿	8	(14.8)	-	(1.8)		1/5	A	灰	普通	口縁部歪む。体部直線的に開き、口縁部内面側が薄くなる。内面底部周縁には低い段差が認められる。口縁部部の釉剥落。内面底部周縁と歪んだ箇所外面の釉には擦れが著しい。	
481-8	須恵器 甕	6	-	-	-			頸部片 細砂粒	灰	還元焰	大型の甕頸部から肩部片。接合部の撫で明瞭に残る。	

田口上田尻遺跡411号土坑

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
480-1	土師器 甕	1	(18.0)	-	(4.4)		1/8	細砂粒	にぶい赤 褐	良好	口縁部「コ」の字状。口縁部横撫で。口縁部と外面屈曲部強い横撫で。口縁部内面中位指頭状圧痕の窪み残る。	

田口上田尻遺跡415号土坑

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
480-2	須恵器 埴	1	(14.1)	-	(3.8)		1/5	細砂粒	灰	還元焰	口縁部外反。口縁部やや歪み、推定径が実際と異なる可能性高い。右回転轆轤整形。	

田口上田尻遺跡417号土坑

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
480-3 258	須恵器 瓶	1	-	(10.0)	(5.6)		1/2	礫微量・ 砂粒	暗灰	還元焰	断面オリーブ灰色。胎土緻密だが、微量礫を含む。高台貼り付け。底部右回転糸切り痕残る。外面器表黒色に近い。	

田口上田尻遺跡219号土坑

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
481-9	須恵器 坏		-	(6.0)	(3.4)			底部片 細砂粒	灰	還元焰	轆轤整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	

田口上田尻遺跡300号土坑

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
481-10 258	灰釉陶器 耳皿	1	-	(4.0)	(2.6)		1/2		灰白	普通	底部右回転糸切り無調整。内面から口縁部外面施釉。内面降り物が付着する。	

田口上田尻遺跡412号土坑

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
481-11	須恵器 坏		-	(7.2)	(1.8)		1/4	細砂粒	灰から灰 白	還元焰	轆轤整形。轆轤回転方向不明。底部回転糸切り無調整。	
481-12	土師器 甕		(20.0)	-	(6.2)		1/8	細砂粒	にぶい褐	良好	器壁やや厚い。口縁部「コ」の字状。口縁部横撫で。口縁部と外面屈曲部強い横撫で。体部内面へラナデか。	

田口上田尻遺跡413号土坑

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
481-13	須恵器 甕か	1・3	-	-	-			体部片 細砂粒	灰白	還元焰	断面中央橙色、器表付近灰白色。外面格子状叩目。内面当て具痕残る。	

2面II期 田口下田尻遺跡

田口下田尻遺跡1号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(円) cm	底径(軸) cm	器高(円) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
484-1 258	土師器 環		(14.2)	-	(5.2)		口縁～体 部部片	砂粒を含 む	赤褐	酸化	体部は外傾し、口縁部は短く直立する。口縁部は横撫で、体部上半は指押さえて、粘土紐接合痕を残す。体部下端斜位へら削り、内面撫で。	
484-2 258	須恵器 環	80	10.4	5.0	3.2		ほぼ完形	細砂粒を 含む	明黄褐	酸化気味	右回転轆轤整形。底部回転糸切り無調整。腰部に張りがあり、口縁部はわずかに外反する。	
484-3 258	須恵器 環	27・73・ 6	10.8	5.6	3.3		2/3	砂粒を含 む	にぶい黄 橙	還元	右回転轆轤整形。底部回転糸切り無調整。腰部の張りが強く、口縁部は外反しない。	
484-4 258	須恵器 環	1・72	10.5	4.8	3.3		2/3	砂粒を含 む	灰白	還元	右回転轆轤整形。底部回転糸切り無調整。体部に張りがあり、口縁部は外反しない。	
484-5 258	須恵器 壺	59・85	15.2	-	(4.4)		底部欠	小石を含 む	灰黄	還元	右回転轆轤整形。底部を欠損する。	焼成時の歪み
484-6 258	須恵器 壺	48	(14.6)	-	(4.6)		口縁部片	砂粒を含 む	にぶい黄 橙	還元	右回転轆轤整形。体部に張りはなく、口縁部はごくわずかに外反する。	
484-7 258	須恵器 壺	8・10	11.4	6.9	4.7		3/4	砂粒を含 む	灰白	還元	右回転轆轤整形。高台は底部回転糸切り後の丁寧な付け高台で、端部は平坦で内傾する。体部の張りは弱く、口縁部は外反しない。	体部外面に煤 付着
484-8 258	須恵器 壺	51	10.7	6.6	5.4		完形	砂粒を含 む	灰白	還元	右回転轆轤整形。高台は丁寧な付け高台。腰部に張りがあり、口縁部はわずかに外反する。	
484-9 258	須恵器 壺	47	11.2	7.2	4.5		ほぼ完形	砂粒を含 む	橙	酸化気味	右回転轆轤整形。高台は底部回転糸切り後の付け高台。体部の張りは弱く、口縁部はわずかに外反する。口縁部の一部に雑な補修による変形。	口縁部焼成前 の修復痕
484-10 259	須恵器 壺	26・31	(11.4)	6.4	4.6		3/4	砂粒を含 む	灰白	還元	右回転轆轤整形。高台は丁寧な付け高台で、端部は平坦で浅い沈線状の窪みが巡り内傾する。体部にやや張りがあり、口縁部は外反する。	
484-11 259	須恵器 壺	3・カマ ド	(11.4)	7.6	4.7		1/2	砂粒を含 む	にぶい黄 橙	還元	右回転轆轤整形。高台は底部回転糸切り後のやや雑な付け高台。体部に弱い張りがあり、口縁部は外反しない。	
484-12 259	須恵器 壺	33・36・ 37・38・ 42・掘り方	11.1	6.2	5.1		3/4	砂粒、黒 色粒を含 む	淡黄	還元	右回転轆轤整形。高台は丁寧な付け高台で、端部は平坦で浅い窪みが巡る。体部に張りがあり、口縁部は外反し、口唇部は平坦でやや内傾する。	
484-13 259	須恵器 壺	29・36坑	11.2	(6.8)	6.3		1/2	細砂粒、 黒色粒を 含む	淡黄	還元	右回転轆轤整形。高台はやや長脚で八字状に開く付け高台。腰部の張りが強く、口縁部は外反せず、口唇部は平坦でやや内傾する。	
484-14 259	須恵器 壺	67・カマ ド	(15.2)	8.2	6.1		3/4	粗粒、細 砂粒を含 む	にぶい黄 橙	酸化気味	右回転轆轤整形。高台は長脚で八字状に開く丁寧な付け高台で、体部中位に張りがあり、口縁部は外反する。	内面轆轤整形 痕顕著
484-15 259	須恵器 壺	62	(13.6)	9.4	6.8		3/4	粗粒、細 砂粒を含 む	灰白	還元	右回転轆轤整形。高台は長脚で八字状に開く丁寧な付け高台で、端部は平坦。体部の張りは弱く、口縁部はわずかに外反する。	
484-16 259	須恵器 壺	81	14.3	8.8	6.8		ほぼ完形	細砂粒を 含む	橙	酸化気味	右回転轆轤整形。高台は長脚で八字状に開く丁寧な付け高台で、体部中位に張りがあり、口縁部は外反する。	体部内面の一 角に米粒状の 炭化物付着
484-17 259	須恵器 壺	2	-	9.6	(3.0)		底部	細砂粒を 含む	灰白	還元	轆轤整形。高台は長脚で八字状に開く丁寧な付け高台で、端部は平坦。	
484-18 259	黒色土器 壺	94・P2	-	(7.6)	(1.6)		底部片	砂粒を含 む	灰白	還元	轆轤整形。高台は付け高台。内面丁寧なへら磨き後黒色処理。内面への吸炭は1mm程度。	
484-19 259	土師器 土釜	17・39・ 49・78・ 80・P6	10.9	7.0	13.1		3/4	砂粒を含 む	にぶい橙	酸化	紐作り、轆轤成形。口縁部は短く外反し、胴部上半に張りがある。胴部上半轆轤撫で、下半斜位へら削り、内面撫で、粘土紐の痕跡を明瞭に残す。	
485-20 259	土師器 土釜	23	(20.3)	-	(15.6)		口縁部～ 胴部片、 1/3	小石を含 む	にぶい赤 褐	酸化	紐作り。口縁部は短く外反し、胴部に強い張りがある。口縁部外面に沈線が巡る。口縁部横撫で、胴部上半横位、下半斜位へら削り、内面横位撫で。	
485-21 259	須恵器 羽釜	19・22・24・ 44・50・63・ 66・70・75・ 76・78	(20.0)	6.0	25.3		3/4	砂粒を含 む	にぶい黄 橙	還元	紐作り、轆轤整形。口縁部は内傾し、鑿はやや下方を向く。胴部上半に張りがあり、底部は極めて小さい。口縁部から胴部上半轆轤撫で、下半は斜位へら削り、内面は横位の撫で。	胴部上半の一 部と下半に煤 付着
485-22 259	須恵器 羽釜	88	(22.0)	-	(10.6)		口縁部片	粗砂粒を 含む	灰白	還元	紐作り、轆轤整形。口縁部は強く外反し、端部外面は太い沈線状の窪みが巡る。内傾し、やや反りぎみの鑿は丁寧な貼り付けである。内外面ともに轆轤撫で。	
485-23 259	須恵器 羽釜	41・55・56・ 60・61・64・ 82・89・90	-	(6.0)	(22.1)		肩～底部	砂粒を含 む	灰黄褐	還元	紐作り、轆轤整形。胴部外面上半轆轤撫で、下半斜位へら削り、内面は横位撫で、輪積みの痕跡を明瞭に残す。	外面煤付着 内面は横位撫 で、輪積みの 痕跡を明瞭に 残す。
485-24 259	須恵器 甗	79	-	21.7	(9.9)		胴下～底 部片	砂粒を含 む	にぶい橙	酸化	紐作り、轆轤整形。内外面ともに轆轤撫で。	
485-25 259	須恵器 甗	65	-	(24.2)	(12.4)		底部片	砂粒を含 む	灰白	還元	紐作り、轆轤整形。口縁部は強く外反し、端部外面は太い沈線状の窪みが巡る。	
485-26 259	鉄製品 鏃か	9	(10.9)	2.1	0.7	15.1	茎の一部 欠損				長三角形鏃で、逆刺は短く鋭い。鋒の断面は菱形を呈していることから鎗が通っているものと思われるが、器面の観察では判然としない。鏃基部と茎の断面は長方形を呈し、間に明瞭な段を有する。	
485-27 259	鉄製品 鏃か	11	(6.6)	1.25	0.6	4.9	破片				断面は長方形を呈しており、残存部は一方に細くになっている。鏃の茎の可能性はある。	
485-28 259	鉄製品 鏃	11	(6.3)	3.8	0.5	19.7	1/3				鏃の基部で、折れが残存している。刃部の大半が欠損する。	

田口下田尻遺跡2号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(円) cm	底径(軸) cm	器高(円) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
487-1 259	土師器 環	3	(13.4)	-	(4.1)		1/3	細砂粒を 含む	橙	酸化	丸底で、口縁部は短く内湾する。口縁部横撫で、底部手持ちへら削りで、削りは横撫で部に及ばない。内面撫で。	粉っぽい胎土
487-2 259	土師器 環		(13.0)	-	(2.8)		1/4	細砂粒を 含む	赤褐	酸化	浅い丸底で、口縁部は短く内屈する。口縁部横撫で、底部手持ちへら削りで、削りは横撫で部に及ぶ。内面撫で。	
487-3 259	須恵器 蓋		-	摘径-	(2.6)		天井部片	白色粒子 を含む	灰	還元	右回転轆轤整形。底部回転へら削り。内面轆轤撫で。	
487-4 259	土師器 甗	8	8.5	-	7.9		完形	砂粒を含 む	橙	酸化	丸底で、口縁部は短く反りぎみに直立し、胴部に強い張りがある。口縁部横撫で、胴部斜位へら削り、内面撫で。	器面摩滅
487-5 259	土師器 甗	4・5・7・9・ 10・17	(22.2)	-	(27.3)		口縁～胴 部下位	砂粒を含 む	橙	酸化	口縁部は外反し、胴部上位に張りがある。口縁部横撫で、胴部斜位へら削り、内面横位へらナデ。	内外面に煤付 着
487-6 259	土師器 甗	16	24.0	-	(8.9)		口縁部	砂粒を含 む	にぶい橙	酸化	口縁部は外反し、胴部に張りを持つ。口縁部横撫で、胴部斜位へら削り、内面横位へらナデ。	
487-7 259	須恵器 壺	2	-	-	(13.8)		頸～胴部 片	黒色粒を 含む	黄灰	還元	叩き整形。肩部に強い張りを持つ。胴部外面上半轆轤撫で、下半へら削り、内面下半青海波文を残すが、上半は轆轤撫でで消されている。	肩部に自然釉
487-8 260	須恵器 横瓶か	1・99坑・ 100坑	-	-	-		胴部片	砂粒を含 む	灰	還元	叩き整形。外面平行叩きで、残存部で3条の平行する雑な飾描き。内面青海波文。	

遺物観察表

487-9 260	須恵器 碗	6	11.5	7.3	5.5		完形	小石を含む	にぶい赤 褐	酸化気味	右回転軸整形。高台は丁寧な付け高台、端部は平坦で、やや内傾する。腰の張りが強く、口唇部がやや平坦で、口縁部は外反しない。	
488-10 260	棒状礫	51	7.4	4.2	2.2	108.6	完形	粗粒輝石 安山岩			楕円に近い棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
488-11 260	棒状礫	27	7.7	4.9	3.3	183.7	完形	粗粒輝石 安山岩			楕円に近い棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
488-12 260	棒状礫	50	8.5	4.6	2.4	123.2	完形	流紋岩			小型の棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
488-13 260	小礫	30	(7.1)	4.3	3.0	151.3	2/3	石英閃緑 岩			本来小型の棒状礫であったものが破損したものと考えられる。	
488-14 260	棒状礫	22	9.1	4.1	2.9	150.7	完形	粗粒輝石 安山岩			不整形を呈する棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
488-15 260	棒状礫	29	8.7	2.3	2.3	91.2	完形	粗粒輝石 安山岩			小型の棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
488-16 260	棒状礫	29	9.1	4.5	3.2	215.4	完形	アプライト			棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
488-17 260	棒状礫	23	9.6	4.1	2.5	128.6	完形	変質安山 岩			小型の棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
488-18 260	棒状礫	24	9.2	4.0	3.1	170.7	完形	粗粒輝石 安山岩			小型の棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
488-19 260	棒状 礫	28	9.2	4.0	2.7	156.6	完形	流紋岩			小型の棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
488-20 260	棒状礫	44	8.8	5.2	3.9	220.6	完形	粗粒輝石 安山岩			小型の楕円に近い棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
488-21 260	棒状礫	26	9.6	5.0	3.4	222.9	完形	変質安山 岩			不整形楕円を呈する棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
488-22 260	棒状礫	33	9.9	5.3	3.2	264.5	完形	石英閃緑 岩			楕円に近い棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
488-23 260	棒状礫	32	8.8	5.6	2.7	209.6	完形	砂岩			楕円に近い棒状礫で、端部に荒れた部分が認められるが、敲打などの使用痕跡とは考えられない。	
488-24 260	棒状礫	21	10.0	4.8	2.6	194.7	ほぼ完形	変質安山 岩			棒状礫で、端部が欠損しているが、使用に伴うものとは考えにくい。	
488-25 260	棒状礫	45	8.3	5.7	2.4	167.0	完形	粗粒輝石 安山岩			楕円に近い棒状礫で、端部に荒れた部分が認められるが、敲打などの使用痕跡とは考えられない。	
488-26 260	棒状礫	25	10.8	4.0	3.4	222.0	完形	粗粒輝石 安山岩			棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
488-27 260	棒状礫	38	(10.3)	5.6	3.9	416.5	2/3	変質安山 岩			割れた棒状礫で、残存する端部に荒れた部分が認められるが、敲打などの使用痕跡とは考えられない。	
488-28 260	棒状礫	52	12.7	4.7	4.4	393.4	完形	粗粒輝石 安山岩			棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
488-29 260	棒状礫	42	12.2	5.6	4.8	507.8	完形	石英閃緑 岩			棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
488-30 260	棒状礫	41	13.3	6.5	4.3	506.7	完形	溶結凝灰 岩			棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
488-31 260	棒状礫	34	14.7	8.2	2.7	534.5	完形	ひん岩			棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
488-32 260	棒状礫	54・20	16.2	5.8	4.4	661.3	完形	粗粒輝石 安山岩			棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
488-33 260	棒状礫		15.5	8.3	4.2	782.4	完形	砂岩			棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
488-34 260	棒状礫	49	13.6	6.2	4.3	591.2	完形	粗粒輝石 安山岩			棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
488-35 260	棒状礫	35	12.7	7.0	3.6	523.8	完形	粗粒輝石 安山岩			楕円に近い棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
488-36 260	棒状礫	47	13.9	6.5	4.0	542.8	完形	火山礫凝 圧岩			棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
488-37 260	棒状礫	36	15.6	6.5	3.3	520.5	完形	粗粒輝石 安山岩			棒状礫で、両端部に荒れた部分が認められるが、敲打などの使用痕跡とは考えにくい。	
488-38 260	棒状礫	39	16.3	6.7	3.9	699.8	完形	粗粒輝石 安山岩			棒状礫で、両端部にわずかに荒れた部分が認められるが、敲打などの使用痕跡とは考えにくい。	
488-39 260	棒状礫	40	15.9	6.1	5.1	744.3	完形	輝緑岩			棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
488-40 260	棒状礫	53	14.0	7.1	5.6	813.3	完形	石英閃緑 岩			棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
488-41	鉄製品 刀子	11	(5.0)	1.5	0.4	4.5	破片				平棟で、刃部の研ぎ減りも顕著ではない。切先と基部側を欠損している。	
488-42	鉄製品 刀子	12	(11.2)	1.7	0.4	12.3	基部欠損				やや反りぎみの棟を有し、刃部の研ぎ減りは顕著ではない。切先と茎を欠損している。	

田口下田尻遺跡 3号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
490-1	土師器 環		(12.0)	-	(2.5)		口縁部片	細砂粒を 含む	橙	酸化	丸底で、口縁部との間に段があり、口縁部は直立する。口縁部横撫で、底部へら削り、内面撫で。	
490-2	土師器 環		(12.0)	-	(3.3)		口縁部片	細砂粒を 含む	にぶい赤 褐	酸化	丸底で、口縁部は短く内傾する。口縁部横撫で、底部へら削り、内面撫で。	
490-3 260	黒色土器 環		(12.0)	-	(3.9)		1/4	細砂粒を 含む	橙	酸化	丸底で、口縁部は短くやや反りぎみに直立する。口縁部横撫で、底部へら削り、内面撫で、体部粗い横位へら磨き。内面丁寧なへら磨き後黒色処理。	内黒
490-4 260	土師器 甕	カマド1	(23.8)	-	(25.2)		口縁部～ 胴部下位 3/4欠損	小石を含 む	橙	酸化	口縁部は強く外反し、胴部上位に張りがある。口縁部横撫で、胴部斜位へら削り、内面横位から斜位へらナデで、内面下半に明瞭な上下の接合痕。	
490-5 260	土師器 甕	カマド1・ 2・6	-	-	(29.3)		頸～胴部 下位	砂粒を含 む	橙	酸化	胴部上位に張りのある長胴甕で、外面斜位へら削り、内面横位へらナデ、胴部内面下半に明瞭な上下の接合痕。	

田口下田尻遺跡 4号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
491-1	土師器 高環	28	-	-	(2.4)		環底部	細砂粒を 含む	にぶい橙	酸化	杯部円盤状、内底との境に段あり、内外面撫で。	
491-2	棒状礫	1	12.9	6.0	3.9	404.8	完形	溶結凝灰 岩			棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	

遺物観察表

491-3	棒状礫	2	14.4	5.2	3.4	463.5	完形	変玄武岩			棒状礫で、器面のハゼが激しい。	
491-4	棒状礫	2	(7.7)	4.4	2.9	143.5		変玄武岩			棒状礫が割れたものと考えられる。	

田口下田尻遺跡5号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
494-1 260	土師器 環	2	13.4	-	4.0		3/4	細砂粒を含む	橙	酸化	丸底で口縁部は内湾ぎみに直立する。口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削りで、削りは横撫で部に及ぶ。内面撫で。	
494-2 260	土師器 環	21	(12.0)	-	3.2		1/3	細砂粒を含む	にぶい褐	酸化	やや浅い丸底で、口縁部は内湾する。口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削りで、削りは横撫で部に及ばない。内面撫で。	
494-3	須恵器 壺		-	-	(1.2)		底部片	白色粒を含む	灰白	還元	轆轤整形。高台は付け高台。施釉部分がないため施釉技法不明。	
494-4 260	土師器 甕		(19.0)	-	(7.8)		口縁部片	砂粒を含む	にぶい橙	酸化	口縁部は外反し、胴部の張りは強い。口縁部丁寧で強い横撫で後、肩部横位ヘラ削り、内面撫で。弱い。口縁部横撫で後、胴部斜位ヘラ削り。内面横位撫で。	口縁部内面に炭化物付着
494-5 260	土師器 甕	3・24	(19.0)	-	(5.7)		口縁部片	砂粒を含む	橙	酸化	口縁部は外反し、胴部の張りが強い。口縁部横撫で後肩部斜位ヘラ削り。	
495-6 260	鉄製品 鉸具	32	6.9	4.2	1.6	29.2	完形				縁金はコ字状を呈するもので、基部が幅広くっており、ここに穿孔して刺金の軸金を通しての。刺金は棒状を呈するもので、基部に穿孔されここに軸金に通っている。	
495-12 261	棒状礫	11	7.0	4.3	2.1	104.1	完形	粗粒輝石 安山岩			小型の棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
495-13 261	棒状礫	10	8.2	3.9	2.6	128.3	完形	輝緑岩			小型の棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
495-14 261	礫	6	7.5	5.1	2.7	158.6	完形	粗粒輝石 安山岩			楕円形の自然礫で、使用痕跡は判然としない。	
495-15 261	棒状礫	7	8.8	5.2	3.3	170.9	完形	砂岩			楕円形の自然礫で、使用痕跡は判然としない。	
495-16 261	棒状礫	13	8.0	3.3	2.0	88.9	完形	変質安山 岩			小型の棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
495-17 261	棒状礫	8	8.7	3.7	3.6	141.9	完形	粗粒輝石 安山岩			小型の棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
495-18 261	棒状礫	14	9.3	4.5	2.8	171.3	完形	溶結凝灰 岩			小型の棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
495-19 261	棒状礫	9	9.7	4.3	3.7	251.7	完形	溶結凝灰 岩			小型の棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
495-20 261	棒状礫	5	10.4	5.3	3.6	351.8	完形	片状ホル ンフェルス			不整形の棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
495-21 261	棒状礫		9.8	6.0	2.5	229.1	完形	粗粒輝石 安山岩			小型の棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
495-22 261	棒状礫		11.4	5.8	4.7	440.0	完形	流紋岩			棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
495-23 261	棒状礫	33	12.3	5.5	3.6	421.5	完形	ひん岩			棒状礫で、両端部に敲打痕状の荒れが見られる。	
495-24 261	棒状礫	34	11.9	6.2	5.6	566.1	完形	ひん岩			楕円形の自然礫で、使用痕跡は判然としない。	
495-25 261	棒状礫	35	15.2	5.5	3.8	593.1	完形	粗粒輝石 安山岩			棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	煤付着か
495-26 261	棒状礫	38	13.9	7.0	5.0	717.2	完形	凝灰質砂 岩			棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
495-27 261	棒状礫	12	14.9	7.9	4.6	764.5	完形	粗粒輝石 安山岩			棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
495-28 261	棒状礫	36	16.6	6.6	4.7	766.7	完形	砂岩			棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	

田口下田尻遺跡7号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
497-1	須恵器 壺	1	(12.0)	-	(3.7)		口縁～体 部片	砂粒を含む	灰黄褐	還元	右回転轆轤整形。腰部にやや張りがあり、口縁部はわずかに外反する。内面に焼成後の刻書「口且」か	片岩含む

田口下田尻遺跡8号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
497-2 261	土師器 環	1・23	(13.2)	(6.0)	(4.5)		口縁～底 部片1/5	砂粒を含む	にぶい赤 褐	酸化	平底で、体部は外傾し、口縁部は短く直立する。口縁部横撫で、底部砂底、体部は指押さえ、内面横位撫で。	
497-3 261	須恵器 壺	15	13.8	6.0	5.1		3/4	砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	右回転轆轤整形。高台は底部回転糸切り後の丁寧な付け高台。体部上半に弱い張りがあり、口縁部は短く外反する。	器面摩滅 片岩含む
497-4 261	須恵器 壺	17	(14.6)	6.8	6.1		1/2	砂粒を含む	灰白	還元	右回転轆轤整形。高台は底部回転糸切り後の付け高台で、底部は突出ぎみ。体部中位に張りがあり、口縁部はやや外反する。体部外面及び見込み部に轆轤整形痕を顕著に残す。	内外面煤付着
497-5 261	須恵器 壺	18	(13.8)	6.8	5.3		3/4	砂粒を含む	灰白	還元	右回転轆轤整形。高台は底部回転糸切り後の付け高台。体部上半に弱い張りがあり、口縁部は外反する。	
497-6 261	灰釉陶器 壺	22	(16.1)	7.4	(5.1)		1/4	白色粒 子・細砂 粒を含む	灰黄	還元	高台外面ににぶい稜あり、底部厚手、外底回転削り後高台貼付け、ハケ掛けか、内面に重ね焼痕あり磨滅。	
497-7 261	土師器 甕	15	(12.1)	-	(6.5)		口縁～胴 部上位	砂粒を含む	にぶい赤 褐	酸化	口縁部はコ字状で、肩部に強い張りがある。口縁部横撫で、肩部横位ヘラ削り、胴部斜位ヘラ削り、内面横位撫で、内面口縁部下から褐色に変色。	外面煤付着
497-8 261	土師器 甕	10・11・ 23	(20.1)	-	(14.6)		1/2	砂粒を含む	明赤褐	酸化	口縁部は外反し、肩部に強い張りがある。口縁部横撫で後、肩部横位ヘラ削り、胴部中位斜位ヘラ削り、内面木口状のヘラによる横位ヘラナデ。	
497-9 261	土師器 甕	12・23・ 24・25・ 33・34	24.9	5.2	17.8		3/4	小石を含む	赤褐	酸化	口縁部はコ字状で、肩部に強い張りがある。口縁部横撫で後、肩部、胴部中位、下半と3段の斜位ヘラ削り、内面横位撫で、胴部中位の内面に上下の接合痕を残す。	
497-10 261	須恵器 把手付瓶	16・カマ ド2	-	-	-		胴部片	砂粒を含む	黄灰	還元	轆轤整形。手付瓶の肩部破片で、把手の上半は欠損している。胴部外面轆轤整形痕を残し、内面は轆轤撫で。把手基部に貼付のための撫で痕跡を明瞭に残す。	
497-11 261	須恵器 羽釜	カマド・ 2・5・7・ 9	21.6	-	(23.0)		口縁～胴 部下位	黒色粒を含む	浅黄	還元	轆轤整形。口縁部は内傾し、口唇部は平坦で浅い沈線状の窪みが巡る。鐙はやや上向きで丁寧な貼り付け。胴部上半から口縁部轆轤撫で、胴部下半斜位ヘラ削り、内面轆轤撫で。	



遺物観察表

田口下田尻遺跡9号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
498-1 261	黒色土器 碗	47坑-1	13.4	-	(5.2)		口縁~底 部	細砂粒を 含む	灰黄褐	還元	右回転轆轤整形。高台は付け高台で、剥落。体部の張りが強く、口縁部はわずかに外反する。内面丁寧なヘラ磨き後黒色処理。	
498-2 261	須恵器 碗	36坑	(13.0)	-	(4.2)		口縁~底 部	砂粒を含 む	黄灰	還元	右回転轆轤整形。高台は付け高台で、貼り付け部から剥落。体部に弱い張りがあり、口縁部は外反する。	内面に炭化物 付着
498-3 261	須恵器 碗	17	-	8.3	(2.2)		底部	白色・黒色 粒を含む	にぶい橙	酸化気味	右回転轆轤整形。高台は丁寧な付け高台。	
498-4 261	須恵器 碗	16・19・ 21・24坑	-	9.6	(3.6)		底部	白色・黒色 粒を含む	灰黄褐	還元	右回転轆轤整形。高台は丁寧な付け高台。	
499-5 261	須恵器 甗	18	-	-	-		口縁部片	白色粒を 含む	赤灰	還元	狭口縁部で、口縁部下に7本単位の櫛描き波状文を3状巡らせる。内部セピア色。	
499-6 261	須恵器 甗	2・30坑2	-	-	-		頸部片	白色粒を 含む	紫黒	還元	狭頸部で、6本単位の櫛描き波状文が残存部で2状見られる。内外面に自然釉	
499-7 261	須恵器 甗	16・46・ 78坑	(41.0)	-	(6.4)		口縁部片	小石を含 む	暗青灰	還元	外反する口縁部で、口唇部外面に窪みが巡る。	
499-8 261	須恵器 羽釜	1・3・4	(29.6)	-	(12.4)		口縁部片	小石を含 む	灰黄	還元	轆轤整形。口縁部は内傾し、口唇部はやや丸みを持つ。鈔はほぼ水平で丁寧な貼り付け。内外面ともに轆轤撫で。	
499-9 261	鉄製品 釘	14	(3.1)	0.7	0.5	1.1	破片				断面が方形の細い棒状を呈する製品である。残存部の一方が細くなっていることから釘の可能性はある。	

田口下田尻遺跡10号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
501-1	土師器 環	13	(11.0)	-	(3.0)		1/4	細砂粒を 含む	明赤褐	酸化	丸底で、口縁部は短く内湾する。口縁部横撫で、底部ヘラ削りで、削りは横撫で部に及ぶ。内面撫で。	
501-2	土師器 環		(12.2)	-	(3.2)		1/4	細砂粒を 含む	橙	酸化	丸底で、口縁部は短く内屈する。口縁部横撫で、底部ヘラ削りで、削りは横撫で部に及ぶ。内面撫で。	
501-3	土師器 環	18	(13.3)	-	(3.8)		1/4	細砂粒を 含む	橙	酸化	丸底で、口縁部は短く内屈する。口縁部横撫で、底部ヘラ削りで、削りは横撫で部に及ぶ。内面撫で。	
501-4	土師器 皿		(18.0)	-	(1.9)		口縁部片	細砂粒を 含む	にぶい褐	酸化	浅い丸底で、口縁部は短く外反する。口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削りで、削りは横撫で部に及ぶ。内面撫で。	
501-5	土師器 皿	26・27	(21.0)	-	(3.1)		1/4	細砂粒を 含む	橙	酸化	浅い丸底で、口縁部は短く外反する。口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削りで、削りは横撫で部に及ぶ。内面撫で。	
501-6 261	須恵器 蓋	28・68・3 住・70住	(13.5)	摘径-	(2.2)		摘み部欠	砂粒を含 む	黄灰	還元	轆轤整形。天井部は平坦で、ヘラ削りの痕跡はない。内面カエリは短くシャープな造り。摘みの形態は剥落するため不明。	天井部の器厚 が厚い
501-7 261	土師器 壺	33	-	-	(3.7)		底部片	砂粒を含 む	明赤褐	酸化	底部丸底で、上半を欠損する。底部に黒斑。	内面のハゼが 顕著
501-8 261	土師器 鉢か	34・2住	(23.4)	-	(7.8)		口縁部片	砂粒を含 む	にぶい黄 橙	酸化	口縁部は外反し、肩にやや張りを持つ。口縁部横撫で、胴部ヘラ削り。口縁部にヘラ削りのヘラのあたりがある。	
501-9 261	土師器 甗	29	(19.4)	-	(8.0)		口縁~肩 部片	細砂粒を 含む	橙	酸化	口縁部はく字状を呈し、胴部の張りが強い。口縁部横撫で後、胴部斜位ヘラ削り、内面横位ヘラナデ。	
501-10	土師器 甗	31	(22.2)	-	(3.5)		口縁部片	黒色粒を 含む	にぶい橙	酸化	口縁部は強く外反する。口縁部横撫で。	
501-11 262	鉄製品 壺籠吊り金具	44	7.8	5.1	0.7	45.9	ほぼ完形				壺籠の木質がわずかに残存しており錆で判然としないが、前後ともに釘が2カ所打たれているものと考えられる。	
501-12 262	鉄製品 鎌か	48	(12.4)	1.1	0.7	12.3					断面方形の棒状の製品で、鎌の茎の可能性はある。	
501-13 262	鉄製品 鎌か	49	(5.9)	0.9	0.7	5.5					断面方形の棒状の製品で、鎌の茎の可能性はある。	
501-14 262	鉄製品 鎌か	71	(2.8)	0.8	0.6	2.1					断面方形の棒状の製品で、鎌の茎の可能性はある。	
501-15 262	鉄製品 不明	46	(4.3)	2.1	0.6	4.9					刀子の茎に近い形状をしているが、断面形状から刀子とは考えにくい。	
501-16 262	鉄製品 刀子か		(4.1)	1.3	0.9	4.8	破片				棟区、刃区ともに明瞭に残存しているが、刃部の大半と茎の約1/2が欠損している。	
501-17 262	鉄製品 不明	45	(5.7)	0.9	0.8	8.7	破片				断面は長方形で、一方は細くなっている。	
501-18 262	鉄製品 不明	47	(3.7)	1.3	1.1	8.3					錆が進んでおり、断面が隅丸方形状を呈するが、釘の可能性が高い。	
501-19 262	棒状礫	72	13.2	6.1	4.5	505.6	完形	閃緑岩			棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
501-20 262	棒状礫	53	12.7	7.2	4.2	391.9	完形	黒色頁岩			不整楕円を呈する棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
501-21 262	棒状礫	61	14.5	6.0	4.2	586.6	完形	変玄武岩			棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
501-22 262	棒状礫	73	13.8	7.6	4.5	823.3	完形	変質安山 岩			棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
501-23 262	棒状礫	58	14.4	7.1	4.2	604.1	完形	粗粒輝石 安山岩			棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
501-24 262	棒状礫	62	13.0	7.9	4.9	902.7	完形	変質安山 岩			棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
502-25 262	棒状礫	55	14.3	7.0	4.9	641.6	完形	角閃石安 山岩			棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
502-26 262	棒状礫	54	15.5	6.7	4.8	675.8	完形	粗粒輝石 安山岩			棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
502-27 262	棒状礫	63	15.4	7.6	5.6	986.8	完形	ホルン フェルス			棒状礫で、一端が割れているが使用に伴うものとは考えにくい。	
502-28 262	円礫	70	7.9	6.2	6.4	472.3	完形	かこう岩			円礫で、使用痕跡は判然とせず、用途は不明である。	
502-29 262	緑釉陶器 皿	1~4・6・ 7	(12.5)	(6.7)	(1.8)		口縁部片	A'	灰	普通	口縁部外面窪めるように薄くする。体部から口縁部歪む。白色粘土の高台貼付。高台部分に底部のヒビが認められる。内外面緑釉。	
502-30 262	灰釉陶器 碗	17	(15.8)	-	(4.8)		口縁部片	細砂粒を 含む、気 孔あり	灰白	還元	口縁部外面に持ち上げ痕か、外面釉不明、ハケ掛けか、小片。	
502-31 262	須恵器 羽釜	29坑・30坑 ・33坑・36	(19.0)	-	(12.2)		口縁~胴 部中位片	細砂粒を 含む	にぶい黄 橙	還元	轆轤整形。口縁部は内傾し、端部は平坦。鈔は水平で丁寧な貼り付け。残存部内外面は轆轤撫で。	

田口下田尻遺跡11号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考	
505-1 262	須恵器 環	105	9.9	5.0	3.0		3/4	砂粒を含む	灰黄	還元	右回転轆轤整形。底部回転糸切り無調整。体部の張りは弱く、口縁部は外反する。内面見込み部と体部との境が明瞭。		
505-2 262	須恵器 環	158	10.9	4.9	3.3		完形	白色粒を含む	灰黄	還元	右回転轆轤整形。底部回転糸切り無調整。体部中位に張りがあり、口縁部は外反する。		
505-3	須恵器 環	113	(10.4)	5.2	3.0		1/3	砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	右回転轆轤整形。底部回転糸切り無調整。体部中位の張りが強く、口縁部はわずかに外反する。	灯火具か	
505-4 262	須恵器 環	154	10.8	5.8	3.4		3/4	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	右回転轆轤整形。底部回転糸切り無調整。体部中位に張りがあり、口縁部はわずかに外反する。		
505-5 262	須恵器 環	159・168	13.3	5.2	5.4		3/4	白色粒を含む	橙	還元	右回転轆轤整形。底部回転糸切り無調整。腰部の張りが強く、口縁部は外反しない。	厚手で重い	
505-6 262	須恵器 環	110・ 136・157	(10.8)	7.0	4.9		3/4	砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	右回転轆轤整形。高台は丁寧な付け高台で、端部は平坦で内傾する。体部に張りがあり口縁部はほとんど外反しない。	煤付着か	
505-7 262	須恵器 塊	117	11.9	6.8	5.4		完形	砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	右回転轆轤整形。高台は丁寧な付け高台で、端部は平坦で内傾する。腰部の張りが強く、口縁部はごくわずかに外反し、口唇部は平坦で内傾する。	厚手で重い	
505-8 262	須恵器 塊	156	12.4	7.7	4.7		2/3	砂粒を含む	灰白	還元	右回転轆轤整形。高台は丁寧な付け高台で、端部はやや平坦。腰部に張りがあり、口縁部はわずかに外反する。		
505-9	須恵器 環	104・119	(12.9)	(6.0)	5.3			口縁～底 部片 白色粒を 含む	にぶい黄 橙	還元	右回転轆轤整形。底部回転糸切り無調整。腰部に強い張りがあり、口縁部は外反する。		
505-10	須恵器 環	14	-	5.4	(2.0)			底部片 砂粒を 含む	灰白	還元	右回転轆轤整形。底部回転糸切り無調整。		
505-11 262	須恵器 塊	121・124	10.2	8.1	5.0			ほぼ完形 砂粒を 含む	灰白	還元	右回転轆轤整形。高台は丁寧な付け高台で、端部は平坦。体部中位に張りがあり、口縁部は外反する。		
505-12 262	須恵器 塊	142	11.5	7.1	5.0			ほぼ完形 砂粒を 含む	灰白	還元	右回転轆轤整形。高台は丁寧な付け高台で、端部は平坦。腰部の張りが強く、口縁部はわずかに外反する。		
505-13	須恵器 塊	118	-	6.9	(1.9)		高台部	白色粒子 を含む	黄灰	還元	轆轤整形。高台は丁寧な付け高台で、端部は平坦で水平。		
506-14 262	須恵器 皿	116	11.8	6.7	4.1			ほぼ完形 砂粒を 含む	灰白	還元	右回転轆轤整形。高台は底部回転糸切り後の丁寧な付け高台。体部に弱い張りがあり、口縁部は外反する。		
506-15 262	須恵器 塊	131・P6・カ ワ	(13.8)	(10.5)	6.5		1/2	砂粒を含む	灰黄	還元	右回転轆轤整形。高台はやや長脚で八字状に開き、丁寧な貼付。体部に張りはなく、口縁部は外反する。		
506-16 262	須恵器 塊	120・125・ 128・135	15.5	10.1	7.0			ほぼ完形 白色粒子 を含む	にぶい黄 橙	還元	右回転轆轤整形。高台はやや長脚で、丁寧な付け高台。端部は平坦で水平。体部に張りはなく、口縁部はほとんど外反しない。	厚手で重い	
506-17 262	須恵器 塊	95・ 100・121	15.2	-	(5.2)		高台部欠 損	砂粒を 含む	にぶい黄 橙	還元	右回転轆轤整形。高台は付け高台で、作為的に削り取られたものか。体部に弱い張りがあり、口縁部は外反する。体部内面に轆轤整形痕が顕著。		
506-18 262	須恵器 塊	72	-	9.5	(4.7)		高台部	砂粒を 含む	黄灰	還元	右回転轆轤整形。高台は長脚で八字状に開き、端部は平坦で内傾。	煤付着か	
506-19	須恵器 塊	6・145	(15.4)	-	(4.3)			口縁部片 砂粒を 含む	灰白	還元	轆轤整形。体部に張りがあり、口縁部は外反する。		
506-20	須恵器 塊	122	-	7.6	(2.5)		高台部	砂粒を 含む	にぶい黄 橙	還元	右回転轆轤整形。高台は丁寧な付け高台で、端部は平坦で内傾。	煤付着	
506-21	須恵器 塊	19	-	(6.8)	(2.4)		高台部片	砂粒を 含む	灰白	還元	轆轤整形。高台は丁寧な付け高台で、端部は丸みがある。		
506-22 262	黒色土器 塊	75・96・ 129	(12.0)	-	(5.0)		口縁～体 部片	砂粒を 含む	灰黄	還元	右回転轆轤整形。腰部の張りが強く、口縁部はわずかに外反する。内面へう磨き後黒色処理。		
506-23 262	黒色土器 塊	11住・12 住	(15.0)	-	(5.8)		口縁～体 部片	砂粒を 含む	にぶい黄 橙	還元	右回転轆轤整形。高台は付け高台。腰部に張りがあり、口縁部はほとんど外反しない。内面は丁寧なへう磨き後黒色処理しており光沢がある。吸炭は口縁部外面に及ぶ。		
506-24	黒色土器 塊	12住	(14.0)	-	(3.4)		口縁～体 部片	砂粒を 含む	にぶい黄 橙	還元	轆轤整形。体部の張りは弱く、口縁部はわずかに外反する。内面へう磨き後黒色処理。吸炭は口縁部外面に及ぶ。		
506-25	黒色土器 塊	P-7	-	(7.0)	(3.4)		底部片	砂粒を 含む	灰黄	還元	轆轤整形。高台は付け高台。腰部の張りが強く、内面はへう磨き後黒色処理。		
506-26	黒色土器 塊		-	6.9	(5.2)		体部上位 ～底部片	砂粒を 含む	黒	還元	右回転轆轤整形。高台は丁寧な付け高台。体部に張りがあり、口縁部は外反しない。内面へう磨き後黒色処理。		
506-27 262	灰釉陶器 塊	106	(16.8)	(8.0)	6.2		口縁～底 部片	精良	灰白	還元	高台外面ににぶい稜をもつ、口縁部薄い、底部欠、漬掛けか、内面に重ね焼痕あり、小片。		
506-28 262	灰釉陶器 塊	133	-	(7.4)	(3.3)		体～底部 片	白色粒子 を含む	灰白	還元	外底回転糸切り後高台貼付け、内面自然釉か、小片。		
506-29 262	灰釉陶器 塊	75・12住 16	(15.9)	-	(5.1)		口縁～体 部片	細砂粒を 含む	灰白	還元	口唇部丸味あり、高台脇外面回転削り、ハケ掛けか、内面磨減、小片。		
506-30 262	灰釉陶器 塊	103	-	(6.9)	(2.1)		底部片	細砂粒を 含む	灰白	還元	外底回転糸切り後高台貼付け、漬掛けか、内面に重ね焼痕あり磨減、小片。		
506-31 262	灰釉陶器 塊	37	-	(6.7)	(1.6)		底部片	白色粒子 を含む	灰白	還元	底部厚手、外底回転糸切り後高台貼付け、削り出し高台状、漬掛けか、内面磨減、体部欠。		
506-32 262	灰釉陶器 塊	134・137・ 141・151住	(18.1)	9.3	7.8		1/4	白色粒子 を含む	灰白	還元	全体に薄手、外底-高台脇外面右回転削り後高台貼付け、外底に補充粘土、ハケ掛けか、内底とくに磨減。		
507-33 262	灰釉陶器 皿	14溝3	(12.0)	(6.0)	2.4		1/3	白色粒子 を含む	灰白	還元	外底回転糸切り後高台貼付け、漬掛けか、内面に重ね焼痕あり、内底磨減、口唇部釉剥げ。		
507-34 262	緑釉陶器 塊か皿	1	-	-	-		体部下位 片	A	灰	普通	体部内湾する。内外面緑釉。		
507-35	緑釉陶器 塊か皿	73	(15.8)	-	(3.0)		1/8	D	明赤灰	普通	断面明赤灰色、器表付近灰色。体部内湾した後、屈曲して外反する口縁部に至る。内外面緑釉。		
507-36 263	須恵器 羽釜	22・59・14 住4・14溝 2	(20.1)	-	(12.8)			口縁～胴 部中位片	砂粒を 含む	灰黄	還元	轆轤整形。口縁部は短く内傾し、口唇部は平坦で窪みが巡り、わずかに内傾する。罫はやや上向きで、丁寧な貼付。胴部内外面ともに轆轤撫で。	
507-37 263	須恵器 土釜	35・126・ 127	12.1	7.1	13.5		完形	砂粒を 含む	にぶい黄 橙	酸化	右回転轆轤整形。口縁部はC字状に外反し、肩部に張りがある。胴部上半から内面轆轤撫で、胴部下半斜位へう削り。	内面炭化物	
507-38 263	須恵器 羽釜	24・120・ 124・135・ 143・144	(21.6)	(8.0)	26.7		1/2	白色粒子 を含む	黄褐	還元	右回転轆轤整形。口縁部は内傾し、口唇部は平坦で内傾する。罫は水平で丁寧な貼付。胴部上半から内面轆轤撫で、胴部下半斜位へう削り。	外面煤付着	
507-39 263	須恵器 羽釜	54・56・ 57	(18.0)	-	(8.1)			口縁部片	砂粒を 含む	橙	還元	轆轤整形。口縁部は内傾し、口唇部は丸みがあり、内面に微隆帯状の突帯を巡らす。罫は水平で、丁寧な貼付。胴部は内外面ともに轆轤撫で。	
507-40 263	須恵器 羽釜	21・64・ 80・85・ 125	(20.0)	-	(9.0)			口縁～胴 部中位片	砂粒を 含む	灰白	還元	轆轤整形。口縁部は短く内傾し、口唇部は丸みがある。罫は水平で短く、下端の貼付はやや雑。胴部上半の整形は雑で、下半は斜位へう削り、内面撫で。	外面煤付着

遺物観察表

507-41 263	須恵器 羽釜	173・ 176・177	-	(4.8)	(10.7)		胴下位～ 底部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	轆轤整形。胴部外面下半斜位へラ削り、内面轆轤撫で。	外面煤付着
507-42	須恵器 羽釜か	99	-	(6.6)	(7.0)		底部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	轆轤整形。胴部下半斜位へラ削り、内面轆轤撫で。	
508-43 263	須恵器 羽釜	63-123-108- 109-111-112- 114-146-155- 152-153-155- 160-162・ 164-168-170- 171-172-148	(22.2)	-	(27.9)		口縁～胴 部下位	白色粒子 を含む	にぶい黄 橙	還元	右回転轆轤整形。口縁部はC字状に外反し、肩部に張りがある。胴部上半から内面轆轤撫で、胴部下半斜位へラ削り。口縁部は内傾し、口唇部は平坦で内傾。鏝はやや上向きで丁寧な貼付。胴部上半から内面轆轤撫で、胴部下半斜位へラ削り。	外面煤付着
508-44 263	須恵器 土釜か	90・ 169・178	(19.6)	-	(6.0)		口縁部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	轆轤整形。口縁部はコ字状で、口唇部上端に突帯が巡る。胴部の張りが強く、内外面ともに轆轤撫で。	
508-45	須恵器 土釜	3・12住カマ ド・掘方69	(20.6)	-	(5.4)		口縁部片	砂粒を含む	黒褐	還元	轆轤整形。胴部に弱い張りがあり、口縁部は短くわずかに反りぎみに直立し、口唇部は平坦で水平。内外面ともに轆轤撫で。	外面煤付着か
508-46	須恵器 土釜か	P11・184	-	5.7	(2.4)		底部片	白色粒子 を含む	黒褐	還元	轆轤整形の底部破片で、外面斜位へラ削り、内面轆轤撫で。	外面煤付着
508-47 263	鉄製品 刀子	183	17.0	1.5	0.5	22.9	茎一部欠 損				棟は直線的で、刃部はあまり研ぎ減りしていない。	
508-48 263	鉄製品 刀子か		(2.8)	1.1	0.6	1.9	破片				断面が楕円形を呈している。刀子の茎か。	
508-49 263	鉄製品 釘か		(3.2)	0.6	0.5	1.8	破片				断面四角形を呈し、直角に曲がっている。釘の可能性ある。	
508-50 263	鉄製品 釘か	182	3.3	0.5	0.4	0.9	破片				断面四角形を呈し、先が細くなっていることから釘か鉄製の茎の可能性ある。	
508-51 263	鉄製品 棒状	67	(6.5)	0.8	0.4	3.5	破片				断面長方形を呈し、鉄製の茎の可能性ある。	
508-52 263	鉄製品 不明		(4.9)	1.2	1.0	8.7	破片				断面が長方形を呈しており、わずかに曲がっている。両端を欠損するため用途は不明である。	

田口下尻遺跡12号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(径) cm	底径(径) cm	器高(寸) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
511-1 263	須恵器 環	23	10.7	5.1	3.1		完形	砂粒を含む	橙	酸化気味	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。腰部に張りがあり、口縁部はわずかに外反する。	
511-2 263	須恵器 環	68	(11.0)	5.2	3.1		1/2	砂粒を含む	灰白	還元	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。体部中位に張りがあり、口縁部はわずかに外反する。体部内外面の対応する場所に黒斑状の変色。	
511-3	須恵器 環	30	(10.3)	5.2	3.3		1/2	砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。体部の張りは弱く、口縁部は外反しない。体部外面の轆轤整形痕顕著。	1と胎土共通
511-4 263	須恵器 環	49	(11.7)	(6.7)	3.8		3/4	白色粒子 を含む	浅黄橙	酸化気味	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。体部の張りは弱く、口縁部はわずかに外反する。体部外面の轆轤整形痕顕著。	
511-5 263	須恵器 環	カマド堀り 方	(11.9)	(5.6)	3.3		1/3	砂粒を含む	灰黄褐	還元	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。体部に弱い張りがあり、口縁部は外反しない。内面に黒斑状の変色。	
511-6	須恵器 環		(11.9)	(5.7)	3.6		1/4	白色粒子 を含む	灰	還元	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。体部中位の張りが強く、口縁部は外反しない。	
511-7 263	須恵器 環	38	(16.4)	7.4	6.3		1/3	白色粒子 を含む	灰黄	還元	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。体部の張りが強く、口縁部はほとんど外反しない。	
511-8 263	須恵器 碗	42	(14.3)	(8.0)	6.2		1/3	砂粒を含む	灰黄褐	還元	轆轤整形。高台は比較的小丁寧な付け高台。腰部に張りがあり、口縁部は外反しない。	口縁部内外面に 1カ所油煙 状付着物
511-9	須恵器 碗	41	(14.8)	-	(4.2)		口縁～体 部片	白色粒子 を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	右回転轆轤整形。体部に張りがあり、口縁部は外反する。	外面煤付着
511-10 263	須恵器 碗	65	(15.1)	9.6	7.3		3/4	砂粒を含む	灰黄褐	還元	右回転轆轤整形。高台は長脚で八字状に開き、端部は平坦でやや内傾。丁寧な貼付。腰部に弱い張りがあり、口縁部は外反する。体部外面の轆轤整形痕顕著。	内面煤付着
511-11 263	須恵器 碗	57	-	(9.2)	(3.6)		底部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	右回転轆轤整形。高台はやや長脚で八字状に開き、端部は平坦。	
511-12 263	須恵器 碗	18	-	(7.6)	(2.2)		底部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	右回転轆轤整形。高台は丁寧な付け高台。	
511-13 263	黒色土器 碗	37	-	(6.7)	(2.6)		底部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	右回転轆轤整形。高台は底部回転系切り後の付け高台。内面丁寧なへら磨き後黒色処理。	
511-14 263	須恵器 碗	11	-	(10.0)	(3.2)		底部片	砂粒を含む	黒褐	還元	右回転轆轤整形。高台は長脚で八字状に開く丁寧な付け高台。	煤付着か
511-15	須恵器 碗	58	-	-	(1.8)		底部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	右回転轆轤整形。高台は付け高台。	
511-16	須恵器 碗	43	-	(7.4)	(2.2)		底部片	白色粒子 を含む	暗灰	還元	右回転轆轤整形。高台は丁寧な付け高台で、端部は平坦で水平。	
511-17	須恵器 碗	P-72	-	(6.0)	(2.4)		底部片	砂粒を含む	暗褐	還元	右回転轆轤整形。高台は付け高台で、破損。	
511-18	須恵器 碗	44	-	-	(2.8)		底部(高 台端部欠 損)	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	轆轤整形。高台は付け高台。	
511-19	須恵器 碗		-	-	(1.7)		底部片 (高台端 部欠損)	砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	右回転轆轤整形。高台は丁寧な付け高台で、内側の撫でが顕著。	
511-20	黒色土器 碗		-	-	(1.9)		底部(高 台端部欠 損)	砂粒を含む	黄灰	還元	右回転轆轤整形。高台は底部回転系切り後の付け高台。内面丁寧なへら磨き後黒色処理。	
511-21	須恵器 環		-	-	-		口縁部片	砂粒を含む	灰黄	還元	轆轤整形。体部の張りは弱く、口縁部は外反しない。	体部外面に墨 書、文字不明
512-22 263	灰釉陶器 碗	12・19- 22	13.2	6.8	4.2		3/4	白色粒子 を含む	灰白	還元	口縁部薄手、外底右回転系切り後高台貼付け、ハケ掛けか、内底に重ね焼痕あり磨減。	
512-23 263	灰釉陶器 碗	29・31・ 32	(14.0)	(6.8)	4.0		1/3	精良	灰白	還元	口縁部薄手、外底右回転系切り後高台貼付け、漬掛け、内底に重ね焼痕あり磨減、口縁部釉剥げ	
512-24 263	灰釉陶器 碗	61	-	(8.0)	(3.2)		底部片	精良、気 孔あり	-	還元	轆轤整形。三日月高台で、丁寧な付け高台。施釉技法は不明。	
512-25 263	灰釉陶器 碗	10・15・ 47	(12.7)	(7.0)	4.0		1/2	精良	灰白	還元	轆轤整形。高台は三角高台状の付け高台。施釉は漬け掛け。	
512-26 263	灰釉陶器 碗		(13.4)	-	(2.7)		口縁部片	細砂粒を 含む	灰黄	還元	轆轤整形。底部欠損のため高台形状不明。施釉は漬け掛け。	



遺物観察表

512-27 263	緑釉陶器 碗	25住8		(7.1)	(2.4)		2/3	C'	灰、白	普通	体部内湾。貼付高台。全面緑釉施釉するが、白濁部分多い。底部内外面トチン痕残る。素地は白色で、体部との境は明瞭。素地に生じたヒビを高台と同じ白土で補修した跡が2カ所認められる。体部内面でも最も明瞭な補修は、白土塗布以前にヒビと直行方向の撫でで消そうと試みた後、ヒビに沿って白土を塗っている。同一場所の外側は白土をヒビに塗り込められている。	25号住と接合
512-28 263	緑釉陶器 碗		-	-	-		口縁部片	A	灰	普通	残存部下端で外反する。端部外面僅かに突き出る。内外面緑釉、釉厚薄い。	
512-29 263	緑釉陶器 不詳		-	-	-		体部片	A	灰	普通	内外面緑釉。釉厚薄く、ほとんど白濁した状態。	
512-30 264	須恵器 羽釜	3・7・47・ 59・69・ 70・灰下	(22.2)	-	(27.2)		1/4	白色粒子 を含む	にぶい黄 橙	還元	右回転轆轤整形。口縁部は内傾し、口唇部は平坦で内傾。鈔はやや下向きで丁寧な貼付。胴部上半から内面轆轤撫で、胴部下半縦位ヘラ削り。	31と同一か
512-31 264	須恵器 羽釜	71・73	(21.0)	-	(20.7)		口縁～胴 部中位片	砂粒を含 む	にぶい黄 橙	還元	右回転轆轤整形。口縁部は内傾し、口唇部は平坦で内傾。鈔はやや下向きで丁寧な貼付。胴部上半から内面轆轤撫で、胴部下半縦位ヘラ削り。	30と同一か
512-32	須恵器 羽釜	2・44住	(24.0)	-	(6.2)		口縁部片	砂粒を含 む	にぶい橙	酸化気味	轆轤整形。口縁部は比較的長く、内湾ぎみに内傾する。口唇部は平坦で窪みか巡り水平。鈔は水平で丁寧な貼付。胴部内面轆轤撫で。	
513-33 264	須恵器 羽釜	56・60・62・ 灰下助方	(22.0)	-	(12.4)		口縁～胴 部上位片	白色粒子 を含む	橙	酸化気味	口縁部は内傾し、口唇部は平坦で内傾。鈔は水平で、薄くシャープな作り。胴部上半から内面轆轤撫で、胴部下半縦位ヘラ削り。	
513-34 264	須恵器 瓶	8・23・ 25住	-	-	(15.6)		体部片	砂粒を含 む	灰褐色	還元	轆轤整形。肩部に鈔を巡らし、残存部で2カ所縦方向の穿孔がされている。内外面轆轤撫で。	
513-35 264	須恵器 羽釜	14・52・ 11住	-	(8.0)	(14.1)		胴中位～ 底部片	細砂粒を 含む	灰黄褐色	還元	轆轤整形。羽釜胴部で、上半轆轤撫で、下半斜位ヘラ削り、内面轆轤撫で。	
513-36 264	須恵器 土釜	25・31	(17.0)	-	(11.2)		口縁～胴 部上位片	白色粒子 を含む	黒褐色	還元	右回転轆轤整形。口縁部はく字状で、肩部の張りが強い。内外面ともに雑な轆轤撫で。	
513-37 264	須恵器 土釜	4・26・ 41・43・ 11住	(24.1)	-	(26.3)		口縁～胴 部下位 1/4(底部 欠損)	砂粒を含 む	にぶい黄 褐色	還元	右回転轆轤整形。口縁部はく字状で、胴部中位に張りがある。胴部外面上半から内面轆轤撫で、胴部下半縦位ヘラ削り。	
513-38 264	鉄製品 刀子		(5.9)	1.3	0.4	3.7	区部				棟区は明瞭に残存しているが刃区ははっきりとしない。	
513-39 264	鉄製品 刀子か	66	(2.5)	0.8	0.4	1.7	破片				断面が三角形状を呈しており、刀子の可能性が高い。	
513-40 264	鉄製品 不明	67	10.0	(5.5)	0.5	58.1	破片				半円形の薄板状で、用途は不明である。	

田口下田尻遺跡14号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
514-1 264	須恵器 碗	7・14溝	13.2	7.2	5.1		ほぼ完形	白色粒子 を含む	灰	還元	右回転轆轤整形。高台は底部回転糸切り後のやや雑な付け高台。体部に張りがあり、口縁部は外反しない。見込み部に轆轤成形痕を明瞭に残す。	
514-2 264	須恵器 碗	3・5	-	-	(1.7)		底部	細砂粒を 含む	黄褐色	還元	右回転轆轤整形。底部回転糸切り後、周辺回転ヘラ削り。見込み部に轆轤成形痕を明瞭に残す。	見込み部に油 煤状の付着物
514-3 264	灰釉陶器 碗	1	(15.4)	(7.7)	5.5		1/3	細砂粒を 含む	灰黄	還元	高台外面ににぶい稜をもつ、外底回転削り後高台貼付け、漬掛けか、内底に重ね焼痕あり、内面磨減	
514-4	緑釉陶器 碗	8		(6.9)	(1.7)		底部片		明赤灰	やや不良	断面明赤灰色、器表付近灰色。貼付高台。全面緑釉施釉するが、焼成不良のためか光沢がない。底部内面トチン痕1カ所残存。高台端部の釉摩滅。	

田口下田尻遺跡15号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
516-1 264	土師器 環	6	10.6	-	3.7		3/4	精良	橙	酸化	底部は扁平な丸底で、口縁部はわずかに反りぎみに直立する。口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	
516-2	土師器 環	7	(13.0)	-	(2.8)		1/4	精良	明赤褐色	酸化	底部は丸底で、口縁部は短く直立する。口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	
516-3	土師器 環		-	3.8	(3.0)		底部片	砂粒を含 む	橙	酸化	底部は扁平な丸底で、口縁部はわずかに反りぎみに直立する。口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	
516-4 264	土師器 環	16・20	(21.6)	-	(10.1)		口縁～胴 部上位片	砂粒を含 む	にぶい黄 褐色	酸化	口縁部は外反し、胴部の張りは弱い。口縁部横撫で後、胴部縦位ヘラ削り、内面撫で。	
516-5 264	土師器 環	13	(22.0)	-	(5.6)		口縁部片	黒色粒を 含む	にぶい黄 橙	酸化	口縁部は弱い受け口状で、口縁部横撫で後、肩部斜位ヘラ削り。	6と同一か
516-6 264	土師器 環	5	(22.0)	-	(9.1)		口縁～頸 部部片	砂粒を含 む	橙	酸化	口縁部は弱い受け口状で、胴部の張りは強い。口縁部横撫で後、外面煤付着、肩部斜位ヘラ削り。	

田口下田尻遺跡16号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
520-1	土師器 環	6	13.0	-	4.3		1/2	細砂粒を 含む	明赤褐色	酸化	丸底で、口縁部は短く直立する。口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削りで、削りは横撫で部に及ばない。内面撫で。	
520-2	土師器 環	7	13.8	-	4.4		1/2	細砂粒を 含む	橙	酸化	丸底で、口縁部は短く直立する。口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削りで、削りは横撫で部に及ばない。内面撫で。	
520-3	土師器 環		(13.5)	-	4.1		1/3	細砂粒を 含む	明赤褐色	酸化	底部はやや扁平な丸底で、口縁部はやや内湾する。口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削りで、削りは横撫で部に及ばない。内面撫で。	
520-4	土師器 環	5	(10.4)	-	(3.0)		口縁～体 部片	細砂粒を 含む	明赤褐色	酸化	丸底で、口縁部は短くわずかに内湾する。口縁部横撫で、底部ヘラ削りで、削りは横撫で部に及ぶ。内面撫で。	
520-5 264	土師器 環	2・18	18.4	-	6.9～ 7.7		1/2	細砂粒を 含む	橙	酸化	半球形の深い丸底で、口縁部は短く直立する。口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削りで、削りは横撫で部に及ぶ。内面見込み部一定方向、体部横位撫で。	
520-6	土師器 環	6	(16.9)	-	(5.3)		口縁～体 部片	細砂粒を 含む	橙	酸化	丸底で、口縁部は反りぎみに直立する。口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削りで、削りは横撫で部に及ぶ。内面撫で。	
520-7 264	土師器 環	15・57土 坑	21.0	-	(10.0)		口縁～肩 部	砂粒を含 む	にぶい橙	酸化	口縁部は外反りぎみに直立し、胴部の張りが強い。口縁部横撫で後、肩部横位ヘラ削り。内面横位撫で。	
520-8 265	土師器 環	1・8-16-18- 40-42-52- 掘方・18溝	24.0	-	(36.8)		口縁～胴 部下位	白色粒 子・小石 を含む	にぶい橙	酸化	口縁部は強く外反し、胴部の張りは弱い。口縁部横撫で後、胴部縦位ヘラ削り、内面横位ヘラナデ。	9と胎土・焼 成共通
520-9 265	土師器 環	44-46-51- 掘方・18溝	23.5	-	(34.7)		口縁～胴 部下位	小石を含 む	橙	酸化	口縁部は強く外反し、胴部の張りは弱い。口縁部横撫で後、胴部縦位ヘラ削り、内面横位ヘラナデ。	8と胎土・焼 成共通
521-10 265	土師器 環	12・カマ ド・18溝	20.2	-	(6.1)		口縁～肩 部	砂粒を含 む	にぶい黄 橙	酸化	口縁部は反りぎみに直立し、胴部の張りが強い。口縁部横撫で後、胴部縦位ヘラ削り、内面横位ヘラナデで、口縁部外面に接合痕を残す。	11と焼成共通



遺物観察表

521-11 265	土師器 甕	13	(14.0)	-	(8.3)		口縁～肩 部	砂粒を含 む	にぶい黄 橙	酸化	口縁部は外反し、肩部に強い張りがある長胴甕で、口縁部横撫で後、胴部縦位へラ削り、内面横撫で。	10と焼成共通
521-12 265	土製品 土錘	20	4.7	1.8	孔 径 0.6	12.7	完形	細砂粒を 含む	にぶい黄 橙	酸化	紡錘形で、両端部に面取りがあり、一部欠損する。器面は撫で。	
521-13 265	棒状礫	26	10.9	5.2	3.7	296.5	完形	変質安山 岩			棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
521-14 265	棒状礫	22	12.0	5.0	3.7	341.3	完形	粗粒輝石 安山岩			棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
521-15 265	棒状礫	25	12.5	5.2	4.3	450.4	完形	変質安山 岩			棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
521-16 265	棒状礫	33	10.3	6.1	3.3	372.4	完形	変質安山 岩			楕円に近い棒状礫で、使用痕跡は認められない。	
521-17 265	棒状礫	34	12.6	6.6	4.4	486.1	完形	アブライ ト			楕円に近い棒状礫で、使用痕跡は認められない。	
521-18 265	棒状礫	31	14.4	6.4	4.8	675.6	完形	圧砕岩?			棒状礫で、一端が剥離しているが使用痕跡とは考えにくい。	
521-19	円礫	37	8.1	8.4	6.6	603.9	完形	粗粒輝石 安山岩			円礫で、使用痕跡は判然としない。	
521-20 265	棒状礫	36	15.5	4.7	6.0	744.2	完形	ひん岩			棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
521-21 265	棒状礫	29	16.8	5.2	4.6	870.0	完形	石英閃緑 岩			棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
521-22 265	棒状礫	30	15.5	6.8	5.4	726.6	完形	粗粒輝石 安山岩			棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
521-23 265	棒状礫	23	16.0	7.5	4.7	911.3	完形	石英閃緑 岩			棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
521-24 265	棒状礫	38	16.1	7.3	5.4	984.6	完形	粗粒輝石 安山岩			一端に敲打痕、全周擦っている	
521-25 265	棒状礫	24	15.7	6.1	4.3	641.5	完形	変質安山 岩			棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
521-26 265	棒状礫	27	15.4	7.1	4.7	771.6	完形	粗粒輝石 安山岩			棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
521-27 265	棒状礫	32	15.8	6.6	5.8	959.2	完形	ひん岩			棒状礫で、全体が磨滅したような様相を呈しているが、石質によるものと考えられる。	
521-28 265	棒状礫	35	18.7	8.4	5.7	1272.7	完形	粗粒輝石 安山岩			棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
521-29	扁平礫	28	18.4	5.6	6.5	652.0	剥片	粗粒輝石 安山岩			扁平な円礫の縁辺が剥離したもので、用途は不明。	
521-30	礫	54	3.8	1.5	1.1	9.8	剥片	珪化木			角柱状を呈する破片であり、用途は不明である。	
521-31 265	鉄製品 鎌か	21	(6.0)	1.2	0.8	9.0	基部破片				2点出土しており、接合はしないが同一個体と判断した。断面長方形を呈し、一端がやや薄くなっている。鎌の茎部分の可能性はある。	
521-32 265	鉄製品 蛇尾裏金か	39	(3.5)	2.6	0.4	5.5	1/2				一端が隅丸の薄板で、径2mmほどの孔が3カ所に開けられている。形状から蛇尾の裏金の可能性が高い。	
521-33 265	鉄製品 不明	カマド	(3.2)	1.8	0.6	5.0	破片				錆が進んでおり、断面形状も判然としない。用途は不明である。	
521-34 265	鉄製品 鎌か		(4.3)	0.9	0.6	2.1	破片				2点出土しており、接合はしないが同一個体と判断した。断面長方形を呈し、鎌の茎の可能性はある。	

田口下田尻遺跡17号住居

挿図番号 PL	種 別 器 形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残 存	胎 土 石 材	色 調	焼 成	成 整 形 の 特 徴 等	備 考
525- 1 265	土師器 環	39	(9.6)	-	3.3		1/3	細砂粒を 含む	橙	酸化	浅い丸底で、口縁部は外反ぎみに直立する。口縁部横撫で、底部手持ちへラ削り、内面撫で。	器面磨滅
525- 2	土師器 環	23	(14.0)	-	2.8		口縁～体 部片	細砂粒を 含む	橙	酸化	深い丸底で、口縁部は短く内湾する。口縁部横撫で、底部手持ちへラ削りで、削りは横撫で部に及ぶ。内面撫で。	
525- 3 265	土師器 環	94	10.0	-	3.2		ほぼ完形	砂粒を含 む	橙	酸化	丸底で、口縁部は短くわずかに内屈する。口縁部横撫で後、体部手持ちへラ削りで、削りは横撫で部に及ぶ。内面撫で。	
525- 4	土師器 環	36・39	(11.8)	-	3.7		1/2	細砂粒を 含む	橙	酸化	やや扁平な丸底で、口縁部は内湾ぎみに直立する。口縁部横撫で、底部手持ちへラ削りで、削りは横撫で部に及ぶ。内面撫で。	底部黒斑
525- 5 265	土師器 環	41	10.4	-	3.2		1/2	細砂粒を 含む	にぶい橙	酸化	丸底で、口縁部は短くわずかに内屈する。口縁部横撫で後、体部手持ちへラ削りで、削りは横撫で部に及ぶ。内面撫で。	
525- 6	土師器 環	10	(10.4)	-	(3.2)		1/2	砂粒を含 む	にぶい橙	酸化	丸底で、口縁部は短く内湾する。口縁部横撫で、体部手持ちへラ削りで、削りは横撫で部に及ぶ。内面撫で。	
525- 7 265	土師器 環	掘り方	(10.4)	-	(3.4)		1/3	細砂粒を 含む	橙	酸化	丸底で、口縁部は短く内湾する。口縁部横撫で後、体部手持ちへラ削りで、削りは横撫で部に及ぶ。内面撫で。	
525- 8	土師器 環	23	(12.8)	-	3.7		1/2	細砂粒を 含む	橙	酸化	丸底で、口縁部は短く内湾する。口縁部横撫で後、体部手持ちへラ削りで、削りは横撫で部に及ぶ。内面撫で。	
525- 9	土師器 環		(9.0)	-	(2.7)		口縁～体 部片	細砂粒を 含む	橙	酸化	丸底で口縁部は短く内湾する。口縁部横撫で、底部手持ちへラ削りで、削りは横撫で部に及ぶ。内面撫で。	底部黒斑
525-10	土師器 環		(10.0)	-	(3.3)		口縁～体 部片	細砂粒を 含む	橙	酸化	丸底で口縁部は短く内湾する。口縁部横撫で、底部手持ちへラ削り、内面撫で。	
525-11	土師器 環		(12.0)	-	(3.5)		1/4	細砂粒を 含む	橙	酸化	丸底で、口縁部は直立する。口縁部横撫で、底部へラ削り、内面撫で。	
525-12	土師器 環		(11.0)	-	(3.0)		口縁～体 部片	細砂粒を 含む	橙	酸化	浅い丸底で、口縁部は外傾ぎみに直立する。口縁部横撫で、底部手持ちへラ削り、内面撫で。	
525-13	土師器 環		(11.6)	-	(3.0)		口縁～体 部片	細砂粒を 含む	橙	酸化	丸底で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部横撫で、底部手持ちへラ削り、内面撫で。	
525-14	土師器 環		(11.0)	-	(2.6)		口縁～体 部片	細砂粒を 含む	橙	酸化	丸底で、口縁部は短く内湾する。口縁部横撫で、底部手持ちへラ削り、内面撫で。	
525-15	土師器 環	35	(12.0)	-	(3.0)		口縁～体 部片	細砂粒を 含む	橙	酸化	深い丸底で、口縁部は短く内湾する。口縁部横撫で、底部手持ちへラ削りで、削りは横撫で部に及ぶ。内面撫で。	
525-16	土師器 環		(12.0)	-	(2.3)		口縁～体 部片	細砂粒を 含む	橙	酸化	丸底で、口縁部は短く内屈する。口縁部横撫で、底部手持ちへラ削りで、削りは横撫で部に及ぶ。内面撫で。	
525-17	土師器 環		(12.2)	-	(2.5)		口縁～体 部片	細砂粒を 含む	橙	酸化	丸底で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部横撫で、底部手持ちへラ削り、内面撫で。	
525-18	土師器 環		(15.0)	-	(4.8)		口縁～体 部片	細砂粒を 含む	橙	酸化	深い丸底で、口縁部は短く内湾する。口縁部横撫で、底部手持ちへラ削りで、削りは横撫で部に及ぶ。内面撫で。	
525-19	土師器 環		-	-	-		底部片	細砂粒を 含む	明赤褐	酸化	丸底で、底部手持ちへラ削り、内面撫で後、粗く放射状暗文施文。	

遺物観察表

525-20 265	土師器 環	23	17.5	-	6.9		ほぼ完形	細砂粒を 含む	明赤褐	酸化	半球形の器形で、口縁部は短く内湾する。口縁部横撫で後、体部から底部手持ちヘラ削りで、削りは横撫で部に及ぶ。内面は体部は横位、見込み部は一定方向の指先による撫で。	
525-21	土師器 環		(17.0)	-	(4.5)		1/3	細砂粒を 含む	橙	酸化	深い丸底で、口縁部は短く内湾する。口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削りで、削りは横撫で部に及ぶ。内面撫で。	
525-22	土師器 皿		(15.7)	-	(2.8)		口縁～体 部片	細砂粒を 含む	橙	酸化	浅い丸底で、口縁部は外反する。口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	
525-23 265	須恵器 環		(12.0)	-	(3.1)		1/6	白色粒子 を含む	灰	還元	轆轤成形。口縁部は短く内傾し、作りはシャープで、受けはほぼ水平である。底部手持ちヘラ削り。	
526-24 265	須恵器 高環	19	-	-	(5.4)		杯部～脚 部片	白色粒子 を含む	褐灰	還元	轆轤整形。環部は底部回転ヘラ削り後脚部を貼り付け。内面中央に脚貼り付けに伴う窪みがある。	
526-25	土師器 甕		-	(3.8)	(2.4)		底部	砂粒を含 む	オリーブ 黒	酸化	胴部外面は撫でて一部に刷毛目が残る。内面撫でて、底部に焼成前に1カ所穿孔されている。	穿孔径0.5cm
526-26	土師器 甕	46・18注	-	(5.8)	(12.8)		下半部	砂粒を含 む	にぶい橙	酸化	長胴甕の底部で、胴部外面斜位ヘラ削り、内面横位ヘラナデ。	
526-27 265	土師器 甕	8・22・26・ 27・29・31・ 34・36・40・ 46・93・18注	23.0	-	(28.6)		口縁～胴 部下位	砂粒を含 む	橙	酸化	紐作り。口縁部は外反し、球形の胴部を有する。口縁部横撫で後、胴部斜位ヘラ削り、内面撫でと思われるが、摩滅するため判然としない。胴部下内面に上下の接合痕。	
526-28 266	土師器 甕	18	22.1	-	(16.6)		上半部	砂粒を含 む	橙	酸化	口縁部は外反し、胴部の張りの強い器形で、口縁部横撫で後、胴部上半斜位ヘラ削り、内面横位ヘラナデ。	肩部の一部に煤付着
526-29	土師器 甕	15・17	(23.0)	-	(11.8)		口縁～胴 上部片	砂粒を含 む	にぶい橙	酸化	口縁部は外反し、胴部の張りは強い。口縁部丁寧で強い横撫で後、肩部斜位ヘラ削り、内面撫で。	器面の摩滅なし
526-30	土師器 甕	17	(22.2)	-	(12.4)		口縁～胴 上部部片	砂粒を含 む	黄橙	酸化	口縁部は強く外反し、肩に張りを有する。口縁部横撫で後、肩部斜位ヘラ削り、内面横位ヘラナデ。	
526-31 266	土師器 甕	42-44	22.0	5.0	36.7		ほぼ完形	砂粒を含 む	橙	酸化	紐作り。口縁部は強く外反し、肩にやや張りを有する長胴の甕で、口縁部横撫で後、肩部斜位、胴部中位から下半斜位、胴部下端は横位ヘラ削り、内面横位ヘラナデ。	
527-32 266	土師器 甕	42・43・ 46	19.3	-	(22.5)		口～胴部 下位	砂粒を含 む	橙	酸化	口縁部はく字状を呈し、内面上位に沈線状の窪みが巡り、胴部上半に弱い張りを持つ。口縁部横撫で後、胴部上半斜位、下半斜位から縦位ヘラ削りで、肩部のヘラ削りは口縁部に深く食い込んでいる。内面ヘラナデ。	外面煤付着
527-33 266	土師器 甕	10・25・30・ 33・34・38・ 18注	21.4	-	(24.3)		口縁～胴 部下位	砂粒を含 む	明赤褐	酸化	口縁部は外反し、外面に段が見られる。胴部上位に弱い張りがあり、底部は欠損する。口縁部横撫で、胴部斜位ヘラ削り、内面横位ヘラナデで、胴部下内面に上下の接合痕。	
527-34 266	土師器 甕	95	(20.5)	-	(18.7)		口縁～胴 部中位	砂粒を含 む	明赤褐	酸化	口縁部は強く外反し、胴部の張りの比較的弱い長胴甕で、口縁部横撫で後、胴部縦位ヘラ削り、内面横位ヘラナデ。	片岩を含む藤岡か
527-35 266	土師器 甕	20・21・掘 り方・18注	(21.9)	-	(7.4)		口縁部片	砂粒を含 む	橙	酸化	口縁部は外反し、胴部の張りのない長胴甕で、口縁部横撫で後、胴部縦位ヘラ削り、内面横位撫で。	
527-36	須恵器 甕	98	-	-	-		胴部片	細砂粒を 含む	灰白	還元	叩き成形。外面平行叩き、内面青海波文。	
527-37 266	鉄製品 紡錘車	97	(6.7)	0.9	0.5	4.6	破片				断面長方形で、残存部の一端に偏った位置に断面楕円形の肥厚部がある。肥厚部は紡輪が付いていた部分の可能性が有る。	
527-38 266	鉄製品 不明	96	(3.7)	2.2	0.3	2.5	破片				板状の製品で、0.3mmほどの穿孔が認められるが、用途は不明である。	
527-39 266	棒状礫		12.8	6.2	3.7	494.9	完形	石英閃緑 岩			棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
527-40 266	棒状礫	50	13.0	6.9	5.15	648.3	完形	ひん岩			楕円に近い棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
527-41 266	棒状礫	84	13.7	7.7	4.6	670.0	完形	溶結凝灰 岩			楕円に近い棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
527-42 266	棒状礫	83	14.0	7.0	4.6	682.1	完形	粗粒輝石 安山岩			棒状礫で、両端部に敲打状の荒れが認められる。	
527-43	棒状礫	85	13.7	7.6	4.8	680.0	完形	粗粒輝石 安山岩			棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
527-44	棒状礫	88	10.4	6.0	3.3	282.0	完形	粗粒輝石 安山岩			楕円に近い棒状礫で、両端部に荒れが認められるが、使用痕跡とは考えにくい。	
528-45 266	棒状礫	68	9.6	4.6	3.1	229.0	完形	変質安山 岩			棒状礫で、器面のハゼが激しい。使用痕跡は不明。	
528-46 266	棒状礫	53	10.1	5.3	3.0	215.6	完形	粗粒輝石 安山岩			棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
528-47 266	棒状礫	52	11.5	5.2	3.8	278.5	完形	粗粒輝石 安山岩			棒状礫で、端部縁辺に荒れが認められるが、使用痕跡とは考えにくい。	
528-48 266	棒状礫	63	11.2	4.4	4.9	341.0	完形	ホルン フェルス			棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
528-49	棒状礫	89	9.6	6.8	4.5	420.1	完形	溶結凝灰 岩			楕円に近い棒状礫で、端部縁辺に荒れが目立つが、使用痕跡とは考えにくい。	
528-50 266	棒状礫	58	11.1	6.1	3.5	344.4	完形	粗粒輝石 安山岩			楕円に近い棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
528-51 266	棒状礫	64	11.2	6.7	3.3	388.9	完形	粗粒輝石 安山岩			楕円に近い棒状礫で、両端部に荒れが認められるが、使用痕跡とは考えにくい。	
528-52 266	棒状礫	79	11.2	7.1	5.4	714.2	完形	粗粒輝石 安山岩			楕円に近い棒状礫で、両端部に荒れが認められるが、使用痕跡とは考えられない。	
528-53 266	棒状礫	56	12.9	7.0	4.0	652.4	完形	ひん岩			楕円に近い棒状礫で、両端部に荒れが認められるが、使用痕跡とは考えにくい。	
528-54 266	棒状礫	54	12.4	7.1	4.2	620.0	完形	アプライ ト			楕円に近い棒状礫で、両端部に荒れが認められるが、使用痕跡とは考えにくい。	
528-55 266	棒状礫	90	14.7	5.2	3.4	342.0	完形	変質玄武 岩			棒状礫で、端部と側面の一部に剥離が見られる。	
528-56 266	棒状礫	87	14.6	6.3	4.3	702.1	完形	変質玄武 岩			棒状礫で、器面にハゼが顕著に認められる。	
528-57	棒状礫	101	13.3	7.3	5.5	744.1	ほぼ完形	角閃石安 山岩			楕円に近い棒状礫で、両端部に荒れが認められるが、使用痕跡とは考えにくい。	
528-58 266	棒状礫	77	13.6	5.4	5.6	585.0	完形	粗粒輝石 安山岩			棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
528-59 266	棒状礫	61	14.2	6.2	5.2	677.5	完形	石英閃緑 岩			棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
528-60 266	棒状礫	60	14.6	6.7	5.7	775.0	完形	粗粒輝石 安山岩			棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
528-61 266	棒状礫	81	15.9	5.9	5.1	692.6	完形	粗粒輝石 安山岩			棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	

遺物観察表

528-62 266	棒状礫	65	14.9	6.6	3.3	483.5	完形	粗粒輝石 安山岩			棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
528-63 266	棒状礫	80	15.2	7.3	3.8	684.3	完形	変質蛇紋 岩			棒状礫で、一端に敲打痕状の窪みが形成されている。	
528-64 266	棒状礫	78	20.5	8.0	6.1	1654.3	完形	粗粒輝石 安山岩			棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
528-65 266	棒状礫	82	19.4	8.0	6.0	1416.7	完形	石英閃緑 岩			棒状礫で、器面にハゼが顕著に認められる。	
528-66	礫	99	18.0	10.5	6.0	2100.3	完形	溶結凝灰 岩			楕円に近い礫で、使用痕跡は判然としない。	
528-67 266	棒状礫	57	16.8	8.5	6.1	1248.0	完形	粗粒輝石 安山岩			楕円に近い大形の棒状礫で、両端部に荒れが認められるが、使用痕跡とは考えにくい。	
528-68 266	棒状礫	62	16.2	6.9	4.8	853.4	完形	粗粒輝石 安山岩			棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
528-69 266	棒状礫	73	16.8	6.7	4.2	720.7	完形	溶結凝灰 岩			楕円に近い棒状礫で、端部等に使用痕跡は認められない。	
529-70	棒状礫	76	14.1	7.1	3.3	591.4	完形	粗粒輝石 安山岩			不整楕円を呈する棒状礫で、使用痕跡は認められない。	
529-71 266	棒状礫	69	15.2	8.4	4.1	840.8	完形	粗粒輝石 安山岩			不整楕円を呈する棒状礫で、使用痕跡は認められない。	
529-72 266	棒状礫	91	16.6	9.0	4.1	1027.3	完形	粗粒輝石 安山岩			楕円に近い棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
529-73	楕円礫	75	10.2	11.0	6.8	128.7	完形	粗粒輝石 安山岩			平坦な面を有するが、磨り面ではなく自然面である。	
529-74	礫	86	(11.0)	(8.0)	7.2	630.6	剥片	粗粒輝石 安山岩			1/4ほどに割れており、側面に荒れが認められる。	

田口下田尻遺跡18号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
529-75	土師器 環		(12.1)	-	(2.4)		口縁部片	細砂粒を 含む	橙	酸化	底部との境に段があり、口縁部はやや反りぎみに直立する。口縁部横撫で、内面撫で。	
529-76	土師器 環		(12.0)	-	(2.6)		口縁～体 部片	細砂粒を 含む	明赤褐	酸化	口縁部はわずかに内湾ぎみで、口唇部内面に浅い窪みが巡り、シャープな作り。体部横位へら削り、口縁部横撫で、内面撫で後、比較密な放射状暗文施文。	北武蔵型暗文 環
529-77 267	土師器 甕	4	22.2	-	(28.3)		口縁～胴 部下位	砂粒を含 む	にぶい橙	酸化	く字状に外反する口縁部の長胴の甕で、胴部上位にわずかに張りがある。胴部外面斜位へら削り、内面横位撫で。	
529-78 267	土師器 甕	3	19.6	-	(25.4)		口縁～胴 部下位	砂粒を含 む	浅黄	酸化	口縁部は外反し、胴部の張りは弱い。口縁部横撫で後、胴部縦位へら削り、内面横位へらナデで、内面に輪積み痕が顕著。胴部内面は黒色で、底部付近だけ茶色に変色。	

田口下田尻遺跡19号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
531-1	土師器 環	5・P4	(13.0)	-	(4.1)		口縁～体 部片	砂粒を含 む	褐	酸化	体部に張りはなく、口縁部はやや内湾ぎみに直立する。口縁部横撫で、体部雑な撫で、内面横位撫で。	
531-2	須恵器 環	14	-	-	(0.8)		底部片	白色粒子 を含む	灰黄褐	還元	右回転轆轤整形。底部回転へら起し後、周辺回転へら削り。	
531-3 267	須恵器 壺	15	12.9	6.7	5.0		完形	白色粒子 を含む	灰白	還元	右回転轆轤整形。高台は、底部回転系切り後の付け高台。体部中位にわずかに張りがあり、口縁部は外反する。体部内外面に轆轤整形痕を残す。	
531-4 267	須恵器 環	13	11.1	5.4	4.0		ほぼ完形	白色粒子 を含む	灰黄	還元	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。体部下半に張りがあり、口縁部はわずかに外反する。	体部外面に 「王」墨書
531-5 267	須恵器 壺		-	7.4	(3.6)		体中位～ 底部	砂粒を含 む	灰黄褐	還元	右回転轆轤整形。高台は底部回転系切り後の丁寧な付け高台。	
531-6	須恵器 羽釜	5	-	(6.9)	(5.0)		底部片	砂粒を含 む	にぶい橙	還元	轆轤整形。胴部外面下半縦位へら削り、内面雑な轆轤撫で。	
531-7 267	鉄製品 釘	8	3.5	0.7	0.5	1.6	破片				断面は四角形を呈し、一方が先細りになっていることから釘かまたは鉄鍔の茎の可能性もある。	
532-8	須恵器 羽釜	4	(19.3)	-	(6.0)		口縁部片	砂粒を含 む	灰黄	還元	轆轤整形。口縁部は内傾し、口唇部は平坦。鈔は水平で丁寧な貼り付け。内外面轆轤撫で。	
532-9	須恵器 羽釜	9	(21.2)	-	(5.0)		口縁部片	砂粒を含 む	褐灰	酸化気味	轆轤整形。口縁部は内傾し、口唇部は平坦で浅い窪みが巡る。鈔は短くほぼ水平で、丁寧な貼り付け。内外面轆轤撫で。	

田口下田尻遺跡20号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
534-1 267	須恵器 壺	4	12.4	6.2	5.2		3/4	砂粒を含 む	浅黄	還元	右回転轆轤整形。高台は、底部回転系切り後の丁寧な付け高台。体部の張りは弱く、口縁部はわずかに外反する。	
534-2 267	須恵器 壺	2	13.9	7.4	4.8		3/4	砂粒を含 む	褐灰	還元	右回転轆轤整形。高台は、底部回転系切り後の丁寧な付け高台で、自重で潰れている。体部の張りは弱く、口縁部は外反する。	
534-3 267	須恵器 壺	15・カマ ド掘り方	13.2	5.3	4.6		3/4	砂粒を含 む	にぶい黄 橙	還元	底部は丸底で、口縁部は短く直立する。口縁部横撫で、底部手持ちへら削り、内面撫で。	
534-4 267	須恵器 壺	2	(12.8)	-	(3.3)		口縁部	砂粒を含 む	にぶい黄 橙	還元	轆轤整形。底部切り離し不明。体部中位にわずかに張りがあり、口縁部はごくわずかに外反する。底部は厚くやや突出ぎみ。体部に張りはなく、口縁部は外反しない。	
534-5	土師器 甕	9	(17.0)	-	(6.0)		口縁部片	砂粒を含 む	赤褐	酸化	口縁部は外反し、胴部上半に張りがある。口縁部横撫で後、肩部横位へら削り、内面横位へらナデ。	
534-6 267	土師器 甕	2・4	(17.9)	-	(7.3)		口縁部片	砂粒を含 む	明褐	酸化	口縁部は反りぎみに直立し、口唇部外面に比較的深い沈線状の窪みが巡る。口縁部横撫で後、肩部横位へら削り、内面横位へらナデ。	
534-7 267	須恵器 羽釜	3・11・ 13	(20.2)	-	(14.0)		上半部片	砂粒を含 む	にぶい黄 橙	還元	轆轤整形。胴部の張りは弱く、口縁部は内傾し、口唇部は平坦で内傾する。鈔は上向きで丁寧な貼り付け。胴部内外面轆轤撫で。	内面付着物
534-8	須恵器 羽釜	1	-	-	-		口縁部片	細砂粒を 含む	浅黄	酸化気味	轆轤整形。胴部の貼りは弱く、口縁部は直立し、口唇部は内外面に肥厚する。鈔は水平で丁寧な貼り付け。胴部内外面轆轤撫で。	
535-9 267	須恵器 羽釜	1・4・8・ 11・17	(19.2)	-	(17.8)		上半部片	砂粒を含 む	にぶい黄 橙	酸化	轆轤整形。胴部上位に張りがあり、口縁部は反りぎみに直立し、口唇部は平坦で内傾しわずかに外面肥厚する。鈔は水平で丁寧な貼り付け。胴部内外面轆轤撫で。	
535-10	須恵器 羽釜	13	(18.2)	-	(5.0)		口縁部片	細砂粒を 含む	橙	酸化気味	轆轤整形。口縁部は短く内傾し、口唇部はやや平坦で、外面肥厚する。鈔は上向きで丁寧な貼り付け。胴部内外面轆轤撫で。	
535-11 267	須恵器 羽釜	2	(17.4)	-	(10.4)		上半部片	砂粒を含 む	にぶい黄 橙	還元	轆轤整形。胴部の張りは弱く、口縁部は短く内傾し、口唇部は平坦で内傾する。鈔は短く上向きで、やや雑な貼り付け。胴部内外面轆轤撫で。	



遺物観察表

535-12	須恵器 羽釜	21	(21.3)	-	(4.6)		口縁部片	小石を含む	褐	還元	轆轤整形。口縁部は短く内傾し、口唇部は平坦で浅い窪みが巡り、内傾する。鈔はごく短く、上向きで丁寧な貼り付け。胴部内外面轆轤撫で。	
--------	-----------	----	--------	---	-------	--	------	-------	---	----	--	--

田口下田尻遺跡22号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(径) cm	底径(輪) cm	器高(胴) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
538-1 267	須恵器 環	14	9.6	4.9	3.0		完形	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	右回転轆轤整形。底部回転糸切り無調整。体部に弱い張りがあり、口縁部はわずかに外反する。	
538-2 267	須恵器 環	37	10.4	4.3	3.2		完形	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	右回転轆轤整形。底部回転糸切り無調整。体部中位に張りがあり、口縁部はわずかに外反する。底部は突出する。	
538-3 267	須恵器 環	27	10.1	5.1	2.9		ほぼ完形	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	右回転轆轤整形。底部回転糸切り無調整。体部に弱い張りがあり、口縁部はわずかに外反する。	
538-4 267	須恵器 環	16	10.1	4.9	2.8		ほぼ完形	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	右回転轆轤整形。底部回転糸切り無調整。体部に弱い張りがあり、口縁部はわずかに外反する。	
538-5 267	須恵器 環	カマド掘り方	(10.0)	5.4	3.0		1/2	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	右回転轆轤整形。底部回転糸切り無調整。体部に弱い張りがあり、口縁部外反しない。	
538-6 267	須恵器 環	28・掘り方	(10.0)	4.6	3.1		1/2	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	右回転轆轤整形。底部回転糸切り無調整。体部に弱い張りがあり、口縁部はわずかに外反する。	
538-7	須恵器 環		(11.2)	(6.3)	3.6		1/4	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	轆轤整形。体部に張りがあり、口縁部はわずかに外反する。	
538-8	須恵器 環		(9.1)	(4.7)	2.9		1/4	砂粒を含む	黄灰	還元	右回転轆轤整形。底部回転糸切り無調整。体部に弱い張りがあり、口縁部はわずかに外反する。	
538-9	須恵器 環		(11.0)	-	(3.4)		口縁～体 部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	轆轤整形。体部中位に屈曲があり、口縁部は外反するため、稜碗状の器形となる。	
538-10	須恵器 環	38	(8.6)	-	(3.0)		1/4	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	轆轤整形。体部に張りがあり、口縁部はわずかに外反する。	
538-11	須恵器 環		(10.0)	-	(2.4)		口縁～体 部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	轆轤整形。体部に張りがあり、口縁部はわずかに外反する。	
538-12 267	黒色土器 碗	カマド掘り方34	-	7.2	(2.6)		底部	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	右回転轆轤整形。高台は底部回転糸切り後の丁寧な付け高台。内面こまかなへら磨き後黒色処理されたものが、焼き戻されたものか。	内面こまかなへら
538-13 267	黒色土器 碗	24	(13.4)	7.1	5.6		1/2	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	右回転轆轤整形。高台は底部回転糸切り後の丁寧な付け高台。体部に張りがあり、口縁部は外反しない。内面丁寧なへら磨き後黒色処理で、吸炭は口縁部外面に及ぶ。	14と胎土・焼成・技法共通色処理で、吸炭は口縁部外面に及ぶ。
538-14 267	黒色土器 碗	11	(14.1)	(8.3)	6.4		1/3	白色粒子を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	轆轤整形。高台は長脚で八字状に開く丁寧な付け高台で、端部は平坦。丁寧な付け高台。体部に張りがあり、口縁部は外反しない。内面丁寧なへら磨き後黒色処理。口縁部外面もわずかに吸炭。	13と胎土・焼成・技法共通
538-15	須恵器 皿	P1	(10.0)	-	(1.7)		口縁部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	轆轤整形。体部に弱い張りがある。	
538-16 267	須恵器 碗	25	-	5.7	(2.2)		底部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	右回転轆轤整形。高台は底部回転糸切り後の付け高台で、端部は平坦で低く、蛇の目高台状を呈する。	
538-17 267	須恵器 皿	カマド掘り方35	10.8	6.1	2.7		完形	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	右回転轆轤整形。高台は丁寧な付け高台で、端部は平坦。体部から口縁部はやや反りきみ。	
538-18 267	灰釉陶器 碗	1・29	(14.5)	(7.3)	6.8		1/3	白色粒子・細砂粒を含む	灰白	還元	轆轤整形。高台は高めの三角高台で、底部回転糸切り後の付け高台。腰の張りが強い深碗で、口縁部内面に凹線が廻る。施釉は漬け掛けて、見込部に重ね焼痕がある。	虎溪山
538-19 267	灰釉陶器 碗	12・17・24住	15.8	8.0	6.5		2/3	白色粒子・細砂粒を含む	灰白	還元	轆轤整形。高台は高めの三角高台で、比較的丁寧な付け高台。腰の張る深碗で、施釉は漬け掛けて、見込部に重ね焼痕がある。	
538-20	灰釉陶器 小碗		-	(4.6)	(1.6)		底部片	細砂粒を含む	灰白	還元	轆轤整形。高台は低い三日月高台。見込みに重ね焼痕を残す。施釉技法は不明。見込部は磨滅し、朱墨が残存。転用碗か	内面朱墨残存。転用碗か
538-21 267	灰釉陶器 碗	24溝	(14.8)	-	(3.8)		口縁部片	細砂粒を含む、気孔多い	灰オリーブ	還元	轆轤整形。高台は低い三日月高台状。施釉技法不明。	
538-22 267	灰釉陶器 段皿	32	(13.2)	7.3	2.2		1/3	細砂粒を含む	灰白	還元	轆轤整形。高台は低い三角高台で、体部下端に貼付。施釉は漬け掛けて、見込部に重ね焼痕が見られる。体部内面中位に弱い段があり、段皿になる可能性がある。	
539-23 267	灰釉陶器 皿	13	(13.8)	(7.2)	25.5		1/3	細砂粒を含む	灰白	還元	轆轤整形。高台は低い三角高台で、底部回転糸切り後に、体部下端に貼付。施釉は漬けて、見込部に重ね焼痕が見られる。	
539-24	須恵器 土釜	36	(15.0)	-	(10.2)		口縁～胴 部中位片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	轆轤整形。口縁部は短くC字状に外反し、胴部上半に張りがある。肩部から胴部内面轆轤撫で、胴部斜位から縦位へら削り。	頸部に炭化物付着
539-25	須恵器 羽釜		(27.8)	-	(7.9)		口縁部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	轆轤整形。口縁部は直立し、口唇部は平坦。鈔は水平で、丁寧な貼り付け。内外面ともに轆轤撫で。	
539-26	須恵器 羽釜		(23.1)	-	(7.2)		口縁部片	白色粒子を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	轆轤整形。口縁部内傾し、口唇部は平坦で、浅い窪みが巡り、内傾する。鈔はやや下向きでやや雑な貼り付け。鈔から胴部内面轆轤撫で、鈔より下の胴部外面縦位へら削り。	
539-27	須恵器 羽釜		(20.0)	-	(4.5)		口縁部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	口縁部はわずかに内傾し、口唇部は平坦。鈔はやや上向きで丁寧な貼り付け。内外面ともに轆轤撫で。	
539-28 267	須恵器 羽釜	5	(21.0)	-	(14.8)		口縁～胴 部中位片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	轆轤整形。口縁部内傾し、口唇部は平坦で、浅い窪みが巡り、内傾する。鈔はやや下向きでやや雑な貼り付け。鈔から胴部内面轆轤撫で、鈔より下の胴部外面縦位へら削り。	内面炭化物付着
539-29	須恵器 羽釜	33	(20.9)	-	(6.6)		口縁部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	轆轤整形。口縁部は短く内傾し、口唇部は丸みがある。鈔は短く水平で、作りはやや雑。内外面ともに轆轤撫で。	

田口下田尻遺跡23号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(径) cm	底径(輪) cm	器高(胴) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
541-1	須恵器 環		(12.0)	-	(3.4)		口縁部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	轆轤成整形。体部の張りは弱く、口縁部はわずかに外反する。	
541-2	須恵器 碗		-	(8.7)	(3.5)		底部片	砂粒を含む	浅黄橙	酸化気味	轆轤右回転の成整形。高台は長脚で、底部回転糸切り後の丁寧な付け高台。	
541-3	須恵器 碗		-	(6.0)	(2.0)		底部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	轆轤右回転の成整形。高台は底部回転糸切り後の付け高台。	
541-4 268	灰釉陶器 皿		(12.4)	(6.8)	(2.1)		底部片	細砂粒を含む	灰白	還元	轆轤整形。高台は三角高台で比較的丁寧な付け高台。施釉は漬け掛け。	
541-5	緑釉陶器碗か皿		(8.0)	(1.8)			高台片	A	灰白	やや不良	焼き締まりやや弱い。内外面緑釉。釉厚薄く、端部の釉摩滅。	
541-6 268	須恵器 羽釜	1・11	(24.0)	-	(13.1)		口縁～胴 部上位片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	紐作り、轆轤整形。口縁部はやや内傾ぎみに直立し、口唇部はシャープで、端部に沈線状の窪みが巡る。胴部内面から口縁部、鈔部は轆轤撫で、鈔部下から胴部外面は縦位へら削り。	
541-7 268	須恵器 羽釜	2・3・4・9・12・18・20・24・28	(27.6)	(9.0)	31.0		口縁～胴 部上位片	砂粒を多く含む	黄褐	酸化気味	紐作り、轆轤整形。口縁部は内傾し、鈔部は水平で短く、作りは丁寧である。口縁部から胴部上半は轆轤撫で、下半斜位へら削り、内面は轆轤撫で。	胴部外面下端にわずかに炭化物付着



遺物観察表

541-8	須恵器 羽釜		(20.6)	-	(6.8)		口縁部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	轆轤整形。口縁部は短く、わずかに内傾きみて、端部は平坦。鈔は短くやや上向きで丁寧な貼付。器面内外面轆轤撫で。	
542-9	須恵器 羽釜	30・カマ ド	(24.0)	-	(6.2)		口縁部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	紐作り、轆轤整形。口縁部は内傾し、鈔は水平を向く。残存部内外面は轆轤撫で。	器面の摩滅が 顕著
542-10 268	須恵器 羽釜	7・13・ 14・19・ 29	(26.0)	-	(14.4)		口縁～胴 部上位片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	紐作り、轆轤整形。口縁部はわずかに内傾し、口唇部は平坦でシャープである。鈔はやや下向きで作りは丁寧。鈔から胴部内面轆轤撫で、鈔より下位の胴部は斜位のヘラ削りで、ヘラのあたりが鈔貼り付け部に痕跡を残す。	内面に炭化物 付着

田口下田尻遺跡24号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
543-1 268	須恵器 環	22	(10.1)	(5.0)	3.6		1/3	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	轆轤整形。底部切り離し不明。体部中位にわずかに張りがあり、口縁部はごくわずかに外反する。底部は厚くやや突出ぎみ。	
543-2	須恵器 環		(11.6)	-	(3.5)		口縁～体 部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	轆轤整形。体部中位に張りがあり、口縁部はわずかに外反する。	
543-3 268	須恵器 環	39	(11.6)	6.2	4.2		1/2	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	右回転轆轤整形。高台は丁寧な付け高台。腰部に張りがあり、口縁部はわずかに外反する。	
543-4 268	須恵器 埴	1	-	(6.8)	(2.7)		底部片	白色粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	右回転轆轤整形。高台は底部回転系切り後の付け高台。体部内外面に細かな轆轤整形痕を残す。	
545-5	須恵器 埴		(14.8)	-	(4.8)		口縁～体 部片	白色粒を含む	黒褐	還元	轆轤整形。体部の張りは弱く、口縁部は外反する。	煤付着か
545-6	須恵器 埴	17	(14.6)	-	(3.4)		口縁～体 部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	轆轤整形。体部の張りは弱く、口縁部はごくわずかに外反する。	
545-7	須恵器 埴		-	(6.2)	(1.9)		底部片	白色粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	右回転轆轤整形。高台は、底部回転系切り後の付け高台。	
545-8 268	灰釉陶器 埴	15	-	5.9	(2.0)		底部片	精良、気 孔あり	灰白	還元	右回転轆轤整形。高台は底部回転系切り後の付け高台で、シャープさを欠いた三日月高台。施釉技法は不明で、見込み部に比較的厚く釉薬が掛かる。	
545-9 268	灰釉陶器 皿		(12.0)	(6.3)	(2.1)		口縁部片	細砂粒を含む	灰白	還元	轆轤整形。高台は低い三角高台で、突出した底部の周縁に貼付されているため、上げ底状を呈する。施釉は漬け掛けと見られ、発色も光沢もほとんど見られない。見込み部に重ね焼き痕。	
545-10 268	灰釉陶器 皿	21	(12.7)	6.8	2.1		1/3	白色粒 子・細砂 粒を含む	灰白	還元	右回転轆轤整形。高台は崩れた三角高台状で、底部回転系切り後、底部周縁へ貼付しているため、底部がやや突出する。体部に弱い張りがあり、口縁部は外反しない。施釉は漬け掛けと見られ、発色も光沢もほとんど見られない。見込み部に重ね焼き痕。	
545-11 268	灰釉陶器 皿	28溝14	(13.0)	(6.4)	2.6		1/3	白色粒 子・細砂 粒を含む	灰白	還元	轆轤整形。高台は低い三日月高台状で、丁寧な付け高台。施釉は漬け掛けで、光沢はなく、白色に発色している。	
545-12	須恵器 蓋		(16.0)	摘径-	(1.2)		天井～口 唇部端部 片	細砂粒を 含む	灰	還元	轆轤整形。端部は短く外傾する。	
545-13 268	須恵器 羽釜	27住1	(28.7)	-	(14.0)		口縁～胴 部上位片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	轆轤整形。口縁部はく字状に屈曲し、鈔は上向きぎみで丁寧な貼り付け。鈔から胴部内面轆轤撫で、鈔より下位の胴部外面縦位ヘラ削り。	
545-14	須恵器 羽釜	34	(24.1)	-	(8.4)		口縁～胴 部上位片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	轆轤整形。口縁部は内傾し、口唇部は平坦で浅い窪みが巡る。鈔は下向きでやや雑な貼り付け。胴部内面轆轤撫で、鈔下の胴部外面は縦位ヘラ削り。	
545-15	須恵器 羽釜		(23.2)	-	(8.1)		口縁～胴 部上位片	砂粒を含む	灰黄褐	還元	轆轤整形。口縁部は直立し、口唇部はやや平坦で内傾する。鈔は水平で丁寧な貼り付け。胴部外面上半から内面轆轤撫で、胴部下半縦位ヘラ削り。	
545-16 268	須恵器 羽釜	14・15溝	(23.4)	-	(10.5)		口縁～胴 部上位片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	轆轤整形。口縁部はやや内傾ぎみに直立し、口唇部には丸みがある。鈔は水平で丁寧な貼り付け。鈔下の胴部外面から内面轆轤撫で、胴部下半は縦位ヘラ削り。	
545-17	須恵器 羽釜	9	(23.1)	-	(10.8)		口縁～胴 部上位片	砂粒を含む	橙	酸化気味	轆轤整形。口縁部は内傾し、口唇部に丸みを持つ。鈔はやや上向きで丁寧な貼り付け。胴部上半から内面轆轤撫で、胴部外面下半縦位ヘラ削り。	
545-18	須恵器 羽釜	3-5	-	(9.6)	(11.7)		胴中位～ 底部片	砂粒を含む	褐	酸化気味	轆轤整形。胴部下縦位ヘラ削り、底部ヘラ削り、内面轆轤撫で。	
545-19	須恵器 羽釜	13・16	-	(6.0)	(8.4)		胴下位～ 底部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	轆轤整形。胴部下縦位ヘラ削り、底部ヘラ削り、内面轆轤撫で。	
545-20	須恵器 羽釜	32	-	(6.3)	(2.2)		底部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	轆轤整形。胴部下縦位ヘラ削り、底部ヘラ削り、内面轆轤撫で。	
545-21 268	鉄製品 不明	29	13.9	0.7	0.6	11.6	ほぼ完形				断面は四角形を呈し、両端が細くなる棒状の製品である。	
545-22 268	鉄製品 刀子か	30	(2.4)	0.9	0.5	2.0	破片				断面は長方形を呈し両端を欠損していることから全体形状は不明であるが、刀子の茎の可能性が高い。	
545-23 268	鉄製品 刀子か	35	(2.6)	0.9	0.25	1.8	破片				断面は長方形の板状を呈しており、刀子の茎の可能性が高い。	

田口下田尻遺跡25号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
547-1 268	須恵器 環	31・34	(13.0)	-	(3.4)		1/3	砂粒を含む	橙	酸化気味	轆轤右回転の成整形。底部回転系切り無調整。体部にわずかに張りを有し、口縁部は弱く外反する。内面の撫では丁寧で、外面は轆轤整形痕を明瞭に残す。	器面摩滅
547-2	須恵器 埴	6	-	7.4	(1.7)		底部	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化	轆轤右回転の成整形。高台は底部回転系切り後の付け高台。	器面摩滅
547-3 268	須恵器 埴	25	11.4	6.0	5.3		3/4	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	轆轤右回転の成整形。高台は上げ底状の付け高台。体部中位に張りを有し、口縁部はわずかに外反する。体部内外面に轆轤整形痕を明瞭に残す。	
547-4	黒色土器 埴		(13.0)	-	(4.4)		口縁～体 部片	細砂粒を 含む	にぶい黄 褐	還元	轆轤整形。体部に張りがあり、口縁部はわずかに外反する。内面丁寧なヘラ磨き後黒色処理。	
547-5 268	灰釉陶器 埴	12	(13.5)	-	(5.4)		口～体部 片	白色粒子 を含む、 気孔あり	灰白	還元	轆轤整形。高台は付け高台で、形状は不明。体部中位に弱い張りがあり、口縁部はごくわずかに外反する。施釉は漬け掛けで、ほとんど発色と光沢が見られない。	
547-6 268	灰釉陶器 埴	11	-	8.0	(3.4)		体～底部	細砂粒を 含む、気 孔あり	灰黄	還元	右回転轆轤整形。高台は底部回転系切り後の付け高台で、やや厚手の三日月高台。施釉は漬け掛けと見られ、見込み部の重ね焼き部分まで釉薬が溶けだしている。	
547-7 268	灰釉陶器 埴	7・14	13.0	7.2	4.3		ほぼ完形	細砂粒を 含む、気 孔あり	灰白	還元	左回転轆轤整形。高台はシャープさを欠く三日月高台状。体部の張りは弱く、口縁部は外反する。施釉は漬け掛けて、外面の発色は悪い。見込み部に傾いた重ね焼き痕を残す。	

遺物観察表

547-8 268	灰釉陶器 碗	32	(16.7)	-	(3.8)		口へ体部	細砂粒を 含む、気 孔多い	灰白	還元	轆轤整形。体部に弱い張りがあり、口縁部はごくわずかに外反する。施釉は刷毛掛けと見られ、内外面に厚く施釉されている。	
547-9	緑釉陶器 碗	4・18	(16.0)	-	(3.7)		1/3	A	灰白	普通	口縁部小さく外反する。内外面緑釉。口縁部内面の突き出た部分の釉摩滅する。	
547-10 268	鉄製品 不明	15	(1.8)	0.7	0.4	0.9	破片				断面長方形を呈する小片で、刀子の茎の可能性ある。	
547-11 268	鉄製品 不明	16	(2.5)	0.4	0.5	1.1	破片				断面は四角形を呈するものと思われ、一端が半円状に曲がっているが、先端は欠損しており、本来は環状であった可能性ある。用途は不明。	
547-12 268	鉄製品 不明	17	(9.0)	0.8	0.5	6.9	両端欠損				断面が長方形を呈する屈曲する棒状の製品であるが、用途は不明。	
547-13 268	鉄製品 不明	P1	(2.3)	1.0	0.4	1.5	破片				錆が進んでいるため断面形も判然とせず、用途は不明である。	

田口下田尻遺跡26号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重量 g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
549-1 268	土師器 環	3	13.1	-	3.6		ほぼ完形	細砂粒を 含む	明赤褐	酸化	平底で、口縁部はやや内湾ぎみに外傾する。口縁部横撫で、底部及び体部下半へら削り、内面は撫で後体部に斜放射状暗文を施す。	内面炭化物付着か
549-2	土師器 環		(11.4)	(8.2)	3.0		1/4	細砂粒を 含む	にぶい褐	酸化	平底で、口縁部は短くやや外反する。口縁部横撫で、体部撫で、底部へら削り、内面撫で。	
549-3	土師器 環		(12.0)	-	3.4		1/2	細砂粒を 含む	橙	酸化	平底で、口縁部はやや内湾ぎみに外傾する。口縁部横撫で、底部へら削り、内面は撫で。	
549-4 268	土師器 環	2	(11.6)	(7.0)	3.0		1/4	細砂粒を 含む	にぶい赤 褐	酸化	平底で、口縁部はわずかに内湾ぎみに外傾する。口縁部横撫で、底部へら削り、内面撫で。	内面炭化物
549-5 268	土師器 環		(13.6)	(8.0)	2.9		1/4	細砂粒を 含む	赤褐	酸化	平底で、体部中に張りがあり、口縁部は外反する。口縁部横撫で、底部へら削り、体部型肌、内面撫で。	内外面煤付着
549-6	土師器 環		(12.0)	-	(3.3)		口縁部片	細砂粒を 含む	明赤褐	酸化	平底で、口縁部はわずかに内湾ぎみに外傾する。口縁部横撫で、底部へら削り、内面撫で。	
549-7	須恵器 環		(13.0)	-	(3.5)		1/4	細砂粒を 含む	灰黄	還元	轆轤整形。底部回転系切り無調整。体部に弱い張りがあり、口縁部は外反しない。	
549-8	須恵器 環		(12.0)	(5.8)	3.8		1/6	細砂粒を 含む	オリーブ 黒	還元	轆轤整形。底部回転系切り無調整。体部の張りは弱く、口縁部は外反しない。	
549-9	須恵器 環		-	(7.0)	(1.4)		底部片	黒色粒を 含む	灰	還元	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。	見込み部に手ずれ
549-10 268	須恵器 碗	4	-	8.8	(2.8)		底部	白色粒を 含む	灰	還元	右回転轆轤整形。高台は底部回転系切り後の付け高台で、端部は平坦で、浅い窪みが巡る。	
549-11	須恵器 環	カマド	(12.0)	-	(2.9)		口縁部片	細砂粒を 含む	灰黄	還元	轆轤整形。体部の張りは弱く、口縁部は外反する。	
549-12 268	須恵器 蓋	1	17.4	-	(3.0)		3/4	白色粒を 含む	灰黄	還元	右回転轆轤整形。天井部回転系切り無調整。摘みは残存部に貼り付け痕がないことから貼付されなかったものと考えられる。	
549-13	土師器 甕		(21.0)	-	(3.6)		口縁部片	細砂粒を 含む	にぶい褐	酸化	口縁部はコ字状で、横撫で。	
549-14	土師器 甕		(21.9)	-	(3.1)		口縁部片	細砂粒を 含む	にぶい褐	酸化	口縁部はコ字状で、横撫で。	
549-15	土師器 甕	掘り方	(20.0)	-	(5.3)		口縁部片	細砂粒を 含む	明赤褐	酸化	口縁部はコ字状で、横撫で。	
549-16 268	鉄製品 鎌	9	14.4	4.4	0.5	49.1	ほぼ完形				棟、刃部ともに強く湾曲する形態で、基部の折れは欠損している。	
549-17 268	鉄製品 刀子か		(3.9)	2.0	0.4	3.8	破片				刀子の刃部と考えられ、18と同一個体の可能性ある。	
549-18 268	鉄製品 刀子か		(3.4)	0.8	0.5	1.9	破片				断面が長方形で刀子の茎と考えられ、17と同一個体の可能性ある。	

田口下田尻遺跡28号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重量 g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
550-1	土師器 環		(10.2)	-	(1.9)		口縁へ体 部片	細砂粒を 含む	にぶい黄 橙	酸化	丸底で口縁部は短く内湾する。口縁部横撫で、底部手持ちへら削り、削りは口縁部に及ぶ。内面撫で。	
550-2	土師器 環	10	(11.6)	-	(3.2)		口縁へ体 部片	細砂粒を 含む	橙	酸化	丸底で口縁部は内湾する。口縁部横撫で、底部手持ちへら削り、内面撫で。	底部に黒斑
550-3 268	須恵器 環	2	9.8	4.6	2.8		ほぼ完形	白色粒子 を含む	明褐	酸化気味	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。体部中に弱い張りがあり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部に3カ所煤付着
550-4	須恵器 碗		-	(7.2)	(2.3)		底部片	細砂粒を 含む	オリーブ 黒	還元	右回転轆轤整形。高台は底部回転系切り後の丁寧な付け高台。	
550-5	須恵器 碗		-	-	(4.6)		体上位へ 底部(高 台端部欠 損)	砂粒を含 む	にぶい橙	酸化気味	轆轤整形。高台は付け高台。内面に轆轤整形痕を明瞭に残す。	
550-6 268	緑釉陶器 碗か皿	6	-	-	-		底部片	A'	褐灰	やや不良	焼き締まり弱い。底部内面へら磨き。高台内器表と断面の一部に白土質あり。高台外面やや窪む。全面緑釉であるが、端部摩滅。	
550-7	須恵器 羽釜	4	(24.0)	-	(9.4)		口縁へ胴 上位片	砂粒を含 む	にぶい橙	還元	轆轤整形。口縁部は長くやや外傾ぎみに直立し、銚は水平からやや下向きで、やや雑な貼り付け。口縁部から胴部内面轆轤撫で、銚より下位の胴部外面縦位へら削り。	
550-8 268	須恵器 羽釜	1	(26.1)	-	(6.7)		口縁部片	砂粒を含 む	にぶい黄 橙	還元	轆轤整形。口縁部は内傾し、口唇部は平坦でシャープ。銚は水平で丁寧な貼り付け。内外面ともに轆轤撫で。	
550-9	土師器 甕		-	5.9	(2.0)		底部片	砂粒を含 む	にぶい褐	酸化	胴部下端へら削り、内面撫で。	
550-10	土師器 甕	9	-	(6.5)	(3.0)		底部片	砂粒を含 む	にぶい橙	酸化	胴部下端斜位へら削り。	

田口下田尻遺跡29号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重量 g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
552-1	土師器 環		(12.0)	-	(2.7)		1/4	細砂粒を 含む	明赤褐	酸化	丸底で扁平な器形で、体部から口縁部はわずかに内湾する。器面の磨滅のため整形は不明瞭。	
552-2	土師器 環		(10.0)	-	(3.8)		口縁へ体 部片	砂粒を含 む	にぶい褐	酸化	紐作り。口縁部横撫で後、体部横位の手持ちへら削り、底部に付け高台の痕跡。内面撫で。	
552-3 268	須恵器 環	4・6	10.0	5.1	3.7		ほぼ完形	白色粒子 を含む	灰白	還元	右回転轆轤整形。底部は回転系切り後無調整。腰部にやや張りを漆状の付着物	口縁内外面に
552-4 268	須恵器 碗	44・39	(11.7)	(6.7)	5.9		1/3	砂粒を含 む	にぶい黄 橙	還元	右回転轆轤整形。高台は底部回転系切り後の丁寧な付け高台。体部に張りを有し、口縁部は外反しない。	

遺物観察表

552-5 268	須恵器 埴	40	-	6.3	(3.2)		底部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	右回転轆轤整形。高台は付け高台。腰部の張りが強い。	
552-6 268	須恵器 埴	38	(10.3)	(6.4)	3.8		1/4	砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	紐作り。口縁部横撫で後、体部斜位の手持ちヘラ削り、高台は体部のヘラ削り後の付け高台。底部砂底。内面は斜位の撫で、粘土紐の痕跡が顕著。	
552-7 268	須恵器 埴	44	(14.6)	-	(5.4)		1/4 (高台 端部欠損)	砂粒を含む	にぶい橙	還元	右回転轆轤整形。高台は付け高台で欠損。体部の張りは弱く、口縁部はわずかに外反さみ。	
552-8	須恵器 埴	18	-	(7.0)	(3.6)		底部	砂粒を含む	褐	還元	右回転轆轤整形。高台は底部回転系切り後の雑な付け高台。	
552-9	土師器 台付甕		-	-	(1.7)		台部上位 片	細砂粒を 含む	にぶい赤 褐	酸化	小型台付甕の底部。胴部、脚部ともに欠損。胴部内面はヘラナデ。	煤付着
552-10	須恵器 甕	33	-	-	-		胴～底部 片	砂粒を含む	灰白	還元	叩き成形。外面平行叩き、内面当て具素文。	藤岡寮
552-11 269	須恵器 羽釜	1・9・11・ 13・14・ 19・35	19.2	-	(19.1)		口縁～胴 部下位	砂粒を含む	にぶい橙	還元	轆轤整形。口縁部はわずかに内傾し、口唇部は平坦。罫は水平で、貼り付けは比較的丁寧。胴部外面上半は轆轤撫で、下半は縦位ヘラ削り、内面は木口状工具の横位撫で。	煤付着
552-12 269	須恵器 羽釜	3・12・16・ 29・31・34・ 36・45・46	(20.0)	-	(24.0)		口縁～胴 部下位	砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	紐作り。口縁部は直立し、口唇部は丸みを持つ。罫は水平で短く、貼り付けはやや雑。胴部は上半は斜位、下半は縦位ヘラ削り、内面は横位から斜位の撫で、中位に上下の接合痕を残す。	
552-13	須恵器 羽釜	28	(22.0)	-	(8.6)		口縁～胴 部上位片	砂粒を含む	灰黄褐	還元	轆轤整形。口縁部は外反さみに直立し、口唇部は平坦で内傾する。罫はほぼ水平で、貼り付けは丁寧。胴部内外面ともに轆轤撫で。	
552-14 269	須恵器 羽釜	25・32	(22.0)	-	(15.2)		口縁～胴 部中位片	砂粒を含む	灰黄	還元	轆轤整形。口縁部はやや反りぎみに内径し、口唇部は平坦でほぼ水平。罫は上面水平で、丁寧な貼り付け。内外面ともに轆轤撫で。	
552-15	須恵器 羽釜	10	-	(5.6)	(9.2)		胴中位～ 底部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	紐作り。胴部外面縦位ヘラ削り、内面横位撫で、下位に上下の接合痕を残す。	
553-16 269	須恵器 甕	2・5・26 ・30	-	(22.0)	(20.4)		胴中位～ 底部	砂粒を含む	浅黄	還元	轆轤整形。胴部外面は比較的丁寧な轆轤撫で、内面はやや雑な撫で。	外面煤付着
553-17 269	楕円盤	23	20.6	17.6	4.6	2133.8	完形	粗粒輝石 安山岩			扁平な大形楕円盤で、縁辺に敲打痕状の荒れが認められるが、使用痕跡とは考えにくい。	

田口下田尻遺跡30号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
554-1	土師器 環		(10.0)	-	(2.9)		口縁～体 部片	細砂粒を 含む	にぶい褐	酸化	平底と思われ、体部から口縁部は外傾する。口縁部横撫で、体部横位ヘラ削り、内面撫で。	
554-2	須恵器 環		(11.5)	(6.4)	3.3		1/4	砂粒を含む	灰	還元	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。体部に貼りはなく、口縁部は外反しない。内面見込み部と体部の境が明瞭。	

田口下田尻遺跡31号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
555-1	須恵器 埴		-	(7.3)	(1.6)		底部片	細砂粒を 含む	灰黄	還元	轆轤整形。高台はやや雑な付け高台。	
555-2	須恵器 埴		-	(7.2)	(2.2)		底部片	細砂粒を 含む	黒褐	還元	轆轤整形。高台はやや雑な付け高台。	
555-3 269	須恵器 埴		-	(9.2)	(3.6)		底部片	砂粒を含む	灰黄	還元	轆轤整形。高台はやや長脚の付け高台。	

田口下田尻遺跡33号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
556-1 269	須恵器 環	2	-	5.1	(3.4)		体中位～ 底部	細砂粒を 含む	にぶい黄	還元	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。底部はやや突出する。	内外面に墨書 (佛)
556-2	須恵器 環		(11.1)	(6.5)	3.6		口縁～底 部片	細砂粒を 含む	灰白	還元	轆轤整形。底部回転系切り無調整。体部に張りはなく、口縁部は外反しない。	
556-3	須恵器 埴	7	-	(7.0)	(2.8)		底部片	砂粒を含む	灰	還元	轆轤整形。高台は付け高台。	
557-4 269	須恵器 埴	1	14.5	7.2	5.9		3/4	細砂粒を 含む	灰白	還元	右回転轆轤整形。高台は底部回転系切り後の付け高台で、端部は平坦で浅い窪みが巡り、わずかに外傾する。体部に張りがあり、口縁部は短く外反する。	
557-5	須恵器 埴		(13.9)	-	(2.5)		口縁～体 部片	細砂粒を 含む	灰	還元	轆轤整形。体部に弱い張りがあり、口縁部は外反する。	
557-6	須恵器 埴		-	(6.7)	(1.6)		底部片	細砂粒を 含む	にぶい黄 橙	還元	轆轤整形。高台は丁寧な付け高台で、端部は平坦で浅い窪みが巡り、やや内傾する。	
557-7 269	土師器 甕	9	(19.4)	-	(14.4)		口縁～胴 部中位	砂粒を含む	にぶい赤 褐	酸化	口縁部はコ字状で、肩部に張りがある。口縁部横撫で後、肩部横位、中位は斜位のヘラ削り、内面横位ヘラナデ。	
557-8	土師器 甕		(17.0)	-	(3.9)		口縁部片	細砂粒を 含む	にぶい橙	酸化	口縁部はコ字状で、接合痕を残す。口縁部横撫で。	
557-9	土師器 甕	4	(17.0)	-	(6.2)		口縁～肩 部片	細砂粒を 含む	にぶい橙	酸化	口縁部はコ字状で、肩部に張りがある。口縁部横撫で後、肩部横位、中位は斜位のヘラ削り、内面横位ヘラナデ。	
557-10	須恵器 甕	5	-	-	-		胴部片	細砂粒を 含む	灰黄	還元	叩き整形。内面当て具素文、外面叩き不明。	

田口下田尻遺跡35号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
560-1	土師器 環		(15.0)	-	(2.6)		口縁～体 部片	細砂粒を 含む	橙	酸化	深い丸底で、口縁部は短く内湾する。口縁部横撫で、底部ヘラ削り、内面丁寧な撫で。	
560-2	土師器 環		(10.6)	-	(2.4)		口縁部片	細砂粒を 含む	にぶい橙	酸化	丸底で、口縁部は短く内屈する。口縁部横撫で、底部ヘラ削り、内面丁寧な撫で。	
560-3	土師器 環		(11.0)	-	(2.2)		1/5	細砂粒を 含む	橙	酸化	丸底で、口縁部は内屈する。口縁部横撫で、底部ヘラ削り、内面撫で。	
560-4	土師器 環		(9.8)	-	(2.9)		口縁部片	細砂粒を 含む	明赤褐	酸化	丸底で、口縁部との境で屈曲し、口縁部は直線的に外傾する。口縁部横撫で、底部ヘラ削り、内面撫でと思われるが、器面摩滅で不明。	
560-5 269	土師器 環	40	(10.9)	-	(3.2)		1/2	細砂粒を 含む	にぶい褐	酸化	丸底で、口縁部は短くわずかに内屈する。口縁部横撫で、底部ヘラ削り、間に型肌を残す。内面丁寧な撫で。	
560-6	土師器 環		(11.2)	-	(3.3)		口縁～体 部片	細砂粒を 含む	橙	酸化	丸底で、口縁部は短く内屈する。口縁部横撫で、底部ヘラ削り、内面撫で。	
560-7 269	土師器 環	5	(12.0)	-	(3.8)		1/3	細砂粒を 含む	にぶい褐	酸化	丸底で、口縁部は短く内屈する。口縁部横撫で後、底部ヘラ削り、内面丁寧な撫で。	
560-8	土師器 環		(11.0)	-	(3.6)		口縁～体 部片	細砂粒を 含む	橙	酸化	丸底で、口縁部は短く内湾する。口縁部横撫で、底部ヘラ削り、内面撫で。	
560-9	土師器 環		(11.0)	-	(3.3)		1/4	細砂粒を 含む	橙	酸化	丸底で、口縁部は短く内湾する。口縁部横撫で後、底部ヘラ削り、内面撫で。	



遺物観察表

560-10	土師器 環		(12.0)	-	(3.1)		口縁部片	細砂粒を含む	明黄褐	酸化	丸底で、口縁部は短く内湾する。口縁部横撫で、底部へラ削り、内面撫で。	器面摩滅
560-11	土師器 環		(12.0)	-	(2.8)		1/4	細砂粒を含む	橙	酸化	丸底で、口縁部は内屈する。口縁部横撫で、底部へラ削り、内面撫で。	
560-12	土師器 環		(12.8)	-	(2.8)		口縁部片	細砂粒を含む	橙	酸化	丸底で、口縁部は短く内湾する。口縁部横撫で、底部へラ削り、内面撫で。	器面摩滅
560-13	土師器 環		(13.0)	-	(3.7)		1/6	細砂粒を含む	橙	酸化	丸底で、口縁部は短く内湾する。口縁部横撫で、底部へラ削り、内面撫で。	器面摩滅
560-14	土師器 環		(14.2)	-	(4.0)		口縁部片	細砂粒を含む	橙	酸化	丸底で、口縁部はごく短く内湾する。口縁部横撫で、底部へラ削り、内面撫で。	
560-15	土師器 環	11	(15.1)	-	(3.7)		口縁～体部片	細砂粒を含む	明赤褐	酸化	深い丸底で、口縁部は短く内湾する。口縁部横撫で、底部へラ削り、内面撫で。	器面摩滅
560-16	土師器 環		(15.0)	-	(4.1)		口縁～体部片	細砂粒を含む	橙	酸化	やや深い丸底で、口縁部は短く内湾する。口縁部横撫で、底部へラ削り、内面撫で。	
560-17	土師器 環	3	(16.2)	-	(6.1)		1/4	細砂粒を含む	橙	酸化	半球形の丸底で、口縁部は短く内湾する。口縁部横撫で、底部へラ削り、内面丁寧な撫で。	
560-18 269	須恵器 壺	10・25溝	(16.3)	-	(6.2)		1/2 (高台端部次掛)	砂粒を含む	浅黄	還元	右回転轆轤整形。高台は、底部回転糸切り後の付け高台であるが、貼り付けから剥落。体部上位にわずかな張りがあり、口縁部は外反する。	器面摩滅
560-19	須恵器 壺		(13.0)	-	(3.2)		口縁部片	細砂粒を含む	黄灰	還元	轆轤整形。体部に張りはなく、口縁部はわずかに外反する。	
560-20	土師器 甕		(17.3)	-	(3.9)		口縁部片	砂粒を含む	橙	酸化	く字状の口縁部破片で、内外面横撫で。	器面摩滅
560-21	土師器 甕		(18.3)	-	(3.6)		口縁部片	砂粒を含む	にぶい褐	酸化	コ字状口縁部で、丁寧な横撫で。	
560-22	土師器 甕	12	(20.0)	-	(5.9)		口縁部片	砂粒を含む	橙	酸化	口縁部はく字状で、胴部の張りは弱い。口縁部横撫で後、肩部斜位へラ削り、内面横位へラナデ。	
560-23	土師器 甕		(22.0)	-	(5.8)		口縁部片	砂粒を含む	橙	酸化	口縁部はく字状で、胴部の張りは弱い。口縁部横撫で後、肩部斜位へラ削り、内面横位へラナデ。	
560-24	須恵器 長頸瓶		-	-	-		頸部片	細砂粒を含む	灰	還元	轆轤整形。頸部破片で内外面ともに轆轤撫で。	
560-25	須恵器 長頸瓶	38	-	-	-		頸部片	細砂粒を含む	灰	還元	轆轤整形。頸部破片で内外面ともに轆轤撫で。	
560-26 269	鉄製品 鎌	1	(7.5)	4.2	0.7	9.7	一部欠損				雁又鎌で、二股の形状は外反する「V」字状を呈している。	
560-27	円礫	20	4.0	3.5	3.0	57.1	完形	粗粒輝石安山岩			自然の小型の円礫で、使用痕跡は判然としない。	
560-28 269	棒状礫	13	15.7	6.8	4.9	866.2	完形	粗粒輝石安山岩			棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	煤付着か

田口下田尻遺跡36号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
562-1	土師器 環		(10.4)	-	(1.9)		口縁～体部片	細砂粒を含む	橙	酸化	底部は丸底で、口縁部は短く内傾する。底部へラ削り、口縁部横撫で、内面撫で。	
562-2	土師器 環		(13.0)	-	(4.0)		口縁～体部片	細砂粒を含む	橙	酸化	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は反りぎみに直立する。口縁部横撫で、底部へラ削り、内面は丁寧な撫で。	
562-3	土師器 甕		-	(3.9)	(2.6)		底部片	砂粒を含む	暗灰	酸化	胴部下端横位へラ削り、内面へラナデ。	
562-4	土師器 甕		(18.0)	-	(6.6)		口縁部片	砂粒を含む	橙	酸化	口縁部は外反し、胴部の張りの弱い長胴甕で、口縁部横撫で後、胴部縦位へラ削り、内面横位撫で。	
562-5 269	土師器 甕	8・10・34・35	(22.0)	-	(30.4)		口縁～胴部下位	砂粒を含む	橙	酸化	口縁部がく字状に強く外反し、胴部上半にやや張りがある長胴甕で、口縁部強い横撫で後、胴部外面斜位へラ削り、内面横位へラナデ。胴部内面下半に上下の接合痕が見られる。	
562-6 269	土製品 土錘	14	7.1	1.6	孔 径 0.3	14.1	完形	細砂粒を含む	橙	酸化	変形した紡錘形で、器面は撫で、2個所に指頭痕状の窪みが見られる。	孔径0.4cm
562-7 269	棒状礫	16	14.0	6.6	4.0	602.3	完形	圧砕岩			棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
562-8 269	棒状礫	24	14.4	4.9	4.2	434.8	完形	粗粒輝石安山岩			棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
562-9 269	棒状礫	38	12.7	5.7	6.4	808.1	完形	輝緑岩			棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
562-10 269	棒状礫	15	13.8	5.1	5.0	594.1	完形	石英閃緑岩			棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
563-11 270	土師器 甕	3・30・34・36	(21.6)	-	(39.6)		口縁～胴部下位	砂粒を含む	にぶい黄橙	酸化	口縁部が外反し、肩部に弱い張りを有する長胴甕で、口縁部横撫で後、胴部縦位へラ削り、内面横位～斜位撫で。	
563-12 270	棒状礫	21	11.4	6.7	4.5	483.6	完形	かこう岩			楕円に近い棒状礫で、両端部に敲打痕状の荒れが認められる。	
563-13 270	棒状礫	19	13.0	6.4	3.6	502.5	完形	粗粒輝石安山岩			棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
563-14 270	棒状礫	26	12.8	6.4	4.3	535.8	完形	粗粒輝石安山岩			楕円に近い棒状礫で、両端部に敲打痕状の荒れが認められるが、使用痕跡とは考えにくい。	
563-15 270	棒状礫	25	14.2	6.0	4.4	539.2	完形	粗粒輝石安山岩			楕円に近い棒状礫で、両端部に敲打痕状の荒れが認められるが、使用痕跡とは考えにくい。	
563-16	棒状礫	28	19.3	7.7	8.0	1912.2	完形	輝緑岩			大形の棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
563-17	棒状礫	22	18.9	5.6	4.9	844.4	完形	粗粒輝石安山岩			棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
563-18 270	棒状礫	37	15.6	7.7	5.9	1054.9	完形	粗粒輝石安山岩			大形の棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
563-19 270	棒状礫	17	14.7	6.5	3.6	575.1	完形	粗粒輝石安山岩			棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	

田口下田尻遺跡37号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
565-1 270	須恵器 環	3・カマド34	(10.6)	5.8	3.0		ほぼ完形	砂粒を含む	灰黄褐	酸化気味	轆轤右回転の成整形。底部回転糸切り無調整。腰部に張りを有し、口縁部は外反しない。	
565-2	須恵器 環	カマド	-	(6.9)	(2.5)		底部片	細砂粒を含む	灰	還元	轆轤整形。底部回転糸切り無調整。	
565-3 270	須恵器 壺		(12.0)	6.2	5.0		1/2	砂粒を含む	灰褐	酸化気味	轆轤右回転の成整形。高台は底部回転糸切り後の付け高台。腰部にやや張りを有し、口縁部は外反しない。	外面煤付着



遺物観察表

565-4 270	須恵器 埴	9	12.2	6.9	5.3		完形	砂粒を含む 白色粒を含む	灰黄 にぶい黄 橙	還元 酸化気味	轆轤右回転の成整形。高台は丁寧な付け高台で、端部は平坦に仕上げられている。腰部に張り有し、口縁部は外反しない。	体部外面に油煙状の付着物
565-5 270	須恵器 埴	18・27	(12.2)	7.2	5.3		ほぼ完形	砂粒を含む 白色粒を含む	にぶい黄 橙	還元 酸化気味	轆轤右回転の成整形。高台は丁寧な付け高台で、端部は丸みを有する。腰部に張り有し、口縁部は外反しない。	
565-6	須恵器 埴	8・25	(14.0)	-	(4.8)		口縁部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	轆轤右回転の成整形。体部の張りが強く、口縁部は短く外反する。内面の撫では丁寧で、外面に轆轤整形痕を残す。	
565-7 270	須恵器 埴	1・32	(14.4)	-	(5.1)		1/2	白色粒を含む	橙	酸化気味	轆轤右回転の成整形。高台はやや雑な付け高台で、内面接合部に段が生じている。体部の張りは弱く、口縁部は外反する。内外面ともに整形は雑。	
565-8	須恵器 埴	16	-	(6.8)	(5.3)		体部～底部片	砂粒を含む	灰黄褐	還元	轆轤成整形。付け高台。	
565-9	須恵器 埴	1	-	-	(1.6)		底部(高台端部欠損)	砂粒を含む	暗灰黄	還元	轆轤成整形。付け高台。	
565-10	須恵器 埴	6	-	(8.0)	(3.0)		底部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	轆轤右回転の成整形。高台は丁寧な付け高台。見込み部に轆轤整形痕顕著。	
565-11	須恵器 埴	12	-	(9.8)	(4.6)		底部片	白色粒を含む	にぶい黄 褐	還元	轆轤右回転の成整形。高台は長脚で丁寧な付け高台。	
565-12	緑釉陶器 埴	7	(15.0)	-	(3.7)		口～体部片	A'	灰白	やや不良	焼き締まりやや弱い。体部下位内湾し、中位は直線的に開く。口縁部端付近は外反する。内外面の緑釉薄い。	
565-13	須恵器 壺		(12.5)	-	(2.2)		口縁部片	細砂粒を含む	灰	還元	轆轤整形。内外面轆轤撫で。	
565-14	土師器 甕	13	(17.9)	-	(3.6)		口縁部片	細砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化	口縁部はく字状で、口縁部横撫で、肩部は横位ヘラ削り。	
565-15	土師器 甕		(16.9)	-	(5.9)		口縁～肩部片	細砂粒を含む	にぶい赤 褐	酸化	口縁部はコ字状で、胴部上半にやや張りがある。口縁部横撫で、肩部横位ヘラ削り、内面横位撫で。	
565-16	土師器 甕	3	(21.7)	-	(8.4)		口縁～肩部片	砂粒を含む	にぶい橙	酸化	口縁部は強く外反し、胴部に張りを有する。口縁部横撫で後、胴部上半斜位ヘラ削り、内面横位ヘラナデ。	
565-17	須恵器 土釜か	カマド	(22.0)	-	(3.6)		口縁部片	白色粒を含む	にぶい橙	酸化	口縁部はやや外反ぎみで厚手。	
565-18	須恵器 羽釜	4・15	(23.0)	-	(11.0)		口～胴上位片	砂粒を含む	灰赤	還元	紐作り、轆轤整形。口縁部は内傾し、罫はやや上方を向く。口縁部から跗下端は轆轤撫で、胴部は縦位ヘラ削り、内面轆轤撫で。	
565-19	須恵器 羽釜	10	(22.0)	-	(4.9)		口縁部片	砂粒を含む	明赤褐	還元	紐作り、轆轤整形。口縁部は内傾し、罫はやや上方を向く。内外面ともに轆轤撫で。	
565-20	須恵器 羽釜		(23.1)	-	(7.8)		口縁部片	細砂粒を含む	にぶい黄 褐	還元	紐作り、轆轤整形。口縁部は短くやや内傾し、罫は水平である。残存部の器面整形は轆轤撫で。	内外面に油煙状物付着
565-21	須恵器 羽釜	5	-	(8.1)	(17.2)		胴上位～底部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	紐作り、轆轤整形。胴部上半外面轆轤撫で、下半斜位ヘラ削り、内面雑な撫で。	

田口下田尻遺跡38号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
567-1 270	須恵器 環	8	(9.7)	4.6	2.9		1/2	白色粒を含む	浅黄	還元	轆轤右回転の成整形。底部回転糸切り無調整。体部中位に弱い張りを有し、口縁部はわずかに外反する。	
567-2	須恵器 環		(12.0)	-	(3.2)		口縁～体部片	細砂粒を含む	灰黄	還元	轆轤整形。腰部に張りがあり、口縁部は短く外反する。	
567-3	須恵器 環	3	(11.0)	-	(3.0)		口縁～体部片	砂粒を含む	にぶい褐	酸化	轆轤成整形。体部中位に張りを有し、口縁部は弱く外反する。	
567-4	須恵器 埴	3・24	-	(9.7)	(2.7)		底部	砂粒を含む	にぶい褐	酸化気味	轆轤右回転の成整形。高台は長脚で、付け高台。外面の整形は丁寧であるが、内面は貼り付け部に隙間が見られる。	
567-5	須恵器 埴		-	(6.1)	(2.1)		底部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	轆轤右回転の成整形。高台は底部回転糸切り後の付け高台で、大半は剥落している。	
567-6	須恵器 埴		(14.0)	-	(4.7)		口縁～体部片	砂粒を含む	灰	還元	轆轤右回転の成整形。腰部に張り有し、口縁部は外反する。	
567-7 270	須恵器 埴	18	(15.9)	-	(4.4)		口縁～体部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	轆轤右回転の成整形。高台は付け高台で、長脚と考えられるが剥落している。体部中位に張りがあり、口縁部は強く外反する。内外面に轆轤整形痕を顕著に残す。	
567-8 270	須恵器 羽釜	10・20	(23.1)	-	(13.2)		口～胴上位片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	紐作り、轆轤整形。口縁部は内傾し、罫は水平で丁寧な作り。内外面ともに轆轤撫で。	口縁部内面わずかに炭化物付着
567-9	須恵器 羽釜	23	-	(7.6)	(7.2)		胴部下位～底部	砂粒を含む	にぶい褐	還元	紐作り、轆轤整形。胴部外面下半斜位ヘラ削り、内面横位撫で、底部は一方のヘラ削り。	煤付着
567-10	須恵器 羽釜	カマド	-	-	-		罫～胴上位片	砂粒を含む	浅黄	酸化気味	紐作り、轆轤整形。罫下位は縦位ヘラ削り。	
567-11	須恵器 羽釜	6・21	-	9.2	(2.2)		底部	砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	底部破片で、外面下端横位ヘラ削り、内面轆轤撫で。	
567-12	棒状礫	17	11.8	8.2	4.5	624.2	完形	粗粒輝石安山岩			楕円に近い棒状礫で、一方の端部縁辺に敲打痕状の荒れが認められる。	

田口下田尻遺跡39号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
569-1 270	土師器 環	11	11.3	-	3.5		ほぼ完形	精良	にぶい橙	酸化	丸底で口縁部は段を持ち短く直立する。底部ヘラ削り、口縁部横撫で、内面撫で。	
569-2	土師器 環		(9.6)	-	(2.5)		口縁～体部片	精良	橙	酸化	丸底で口縁部は段を持ち短く直立する。底部ヘラ削り、口縁部横撫で、内面撫で。	
569-3	土師器 環	掘り方	(11.1)	-	(3.4)		口縁～体部片	精良	橙	酸化	丸底で口縁部はやや短く直立し、底部との境の段は明瞭でない。底部ヘラ削り、口縁部横撫で、内面撫で。	
569-4	土師器 環		(12.4)	-	(2.2)		口縁～体部片	細砂粒を含む	橙	酸化	深い丸底で、口縁部は短く内湾する。底部ヘラ削り後、口縁部横撫で、内面撫で。	
569-5	土師器 環	4	(11.0)	-	(3.0)		口縁～体部片	精良	にぶい橙	酸化	丸底で、口縁部は短く内傾する。底部ヘラ削り後、口縁部横撫で、内面撫で。	内外面塗塗り
569-6	土師器 環		(11.5)	-	(2.5)		口縁～体部片	精良	橙	酸化	丸底で、口縁部は短く内傾する。底部ヘラ削り後、口縁部横撫で、内面撫で。	
569-7	土師器 環		(13.2)	-	(2.3)		口縁～体部片	細砂粒を含む	橙	酸化	深い丸底で、口縁部はわずかに内湾する。底部のヘラ削りは口縁部まで及び、口縁部の横撫では外面にはほとんど施されていない。内面撫で。	
569-8	土師器 環		(12.0)	-	(4.4)		1/4	精良	橙	酸化	深い丸底で、口縁部は短く内傾する。底部ヘラ削り後、口縁部横撫で、内面撫で。	
569-9	土師器 環		(13.0)	-	(3.2)		口縁～体部片	細砂粒を含む	橙	酸化	丸底で、口縁部はごく短く外反ぎみに直立する。底部ヘラ削り後、口縁部横撫で、内面撫で。	畿内産暗文土師器環に類似する器形

遺物観察表

569-10	土師器 坏		(13.0)	-	(3.3)		口縁～体 部片	細砂粒を 含む	橙	酸化	深い丸底で、口縁部は短く内湾する。底部へら削り後、口縁部横撫で、内面撫で。	
569-11	土師器 坏		(13.3)	-	(3.2)		口縁～体 部片	精良	橙	酸化	深い丸底で、口縁部は短く内湾する。底部へら削り後、口縁部横撫で、内面撫で。	
569-12	土師器 坏	2	(15.0)	-	(4.2)		口縁～体 部片	細砂粒を 含む	橙	酸化	深い丸底で、口縁部は短く内湾する。底部へら削り後、口縁部横撫で、内面撫で。	
569-13	土師器 坏		(13.5)	-	(4.0)		口縁～体 部片	細砂粒を 含む	橙	酸化	深い丸底で、口縁部は短く内湾する。底部へら削り後、口縁部横撫で、内面撫で。	内面摩滅
569-14	土師器 坏	5	(13.6)	-	(3.7)		口縁～体 部片	精良	橙	酸化	深い丸底で、口縁部は短く内湾する。底部へら削り後、口縁部横撫で、内面撫で。	
569-15	須恵器 蓋		(10.9)	摘径-	(2.9)		口縁～体 部片	細砂粒を 含む	黄灰	還元	轆轤左回転の成整形。口縁部はわずかに外に開き、天井部との境に2条の平行沈線が巡る。天井部外面中央は回転へら削り。	
569-16	土師器 甕		(13.0)	-	(8.1)		口縁～胴 部下位	精良	橙	酸化	口縁部はわずかに外反ぎみに直立し、胴部に張り有する。口縁部強い横撫で、胴部斜位へら削り、内面撫で。	
569-17	土師器 甕		(14.0)	-	(6.6)		口縁～体 部片	細砂粒を 含む	にぶい赤 褐	酸化	口縁部は、受口状に外傾し頸部は直立する。口縁部横撫で、胴部横位へら削り、内面横位撫で。	
569-18 270	土師器 甕	掘り方	(19.2)	-	(7.0)		口縁～胴 上位片	砂粒を含 む	橙	酸化	口縁部がく字状に外反し、胴部に張り有する。口縁部横撫で後、胴部縦位へら削り。内面撫で。弱く外反し、胴部の張りは弱い。口縁部横撫で後、胴部斜位へら削り、内面横位へら削り。	内外面に酸化鉄付着
570-19 270	土師器 甕	7・掘り 方・50住	(17.8)	-	(17.1)		口縁～胴 中位片	砂粒を含 む	にぶい橙	酸化	く字状に外反する口縁部を有する長胴の甕で、口縁部上位に段を有する。口縁部横撫で後、胴部斜位へら削り。内面横位へら削り。	
570-20 270	棒状礫	15	16.0	9.0	5.4	1001.1	完形	粗粒輝石 安山岩			楕円に近い大形の棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
570-21	棒状礫	21	14.0	8.3	4.5	834.5	完形	石英閃緑 岩			楕円に近い棒状礫で、端部の一方に敲打痕跡の窪みが認められる。	
570-22 270	須恵器 坏	3	(11.8)	6.1	3.5		1/3	砂粒を含 む	灰白	還元	轆轤右回転の成整形。底部は回転糸切り無調整。体部中位に張りがあり、口縁部は外反しない。	内外面に酸化鉄付着

田口下田尻遺跡50号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考	
572-1 272	須恵器 坏		(16.0)	(6.1)	5.8		1/4	細砂粒を 含む	黄灰	還元	右回転轆轤整形。底部回転糸切り無調整。体部に張りがあり、口縁部は外反する。口縁部外面に剥離。		
572-2 272	須恵器 坏	1	(14.0)	(7.0)	4.8		1/4	粗砂を含 む	にぶい黄 橙	還元	轆轤整形。高台は底部回転糸切り後の付け高台で、一部貼り付け部から剥落。体部に張りがあり、口縁部は外反する。		
572-3 272	土師器 甕	カマド	(11.2)	-	(6.3)			口縁～胴 上位片	砂粒を含 む	褐	酸化	口縁部がく字状で、口唇部は短く内湾ぎみに立ち上がる。口縁部横撫で、肩部横位へら削り、内面横位撫で。	煤付着
572-4	土師器 甕		(14.0)	-	(3.5)			口縁部片	細砂粒を 含む	にぶい黄 橙	酸化	コ字状口縁で横撫でを施す。	
572-5	土師器 甕		(18.1)	-	(3.6)			口縁部片	細砂粒を 含む	にぶい赤 褐	酸化	口縁部はコ字状で、口唇部外側に細い沈線状の窪みが巡る。口縁部横撫で、肩部横位へら削り、内面横位撫で。	
572-6 272	鉄製品 鎌	7	(8.6)	4.5	0.4	32.4		基部欠			切先だけが残存したもので、刃部の研ぎ減りは多くない。		

田口下田尻遺跡41号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考	
574-1	土師器 甕	3-9・174 坑2・174	18.4	4.3	29.0			ほぼ完形	砂粒を多 く含む	にぶい赤 褐	酸化	口縁部は外反し、胴部の張りのない長胴甕で、口縁部横撫で後、胴部外面縦位へら削り、内面横位撫で。	
574-2	土師器 甕	1	(22.0)	-	(6.9)			口縁～肩 部片	砂粒を含 む	にぶい褐	酸化	口縁部が外形する胴部の張りの強い甕で、口縁部横撫で、胴部上端横位へら削り、内面撫で。	

田口下田尻遺跡43号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考	
575-1 270	土師器 坏	11	(10.0)	5.0	3.5			ほぼ完形	砂粒を含 む	明褐	酸化	紐作り。腰部に張りはなく、口縁部は短く直立する。底部砂底、口縁部横撫で、体部内外面撫で。	
575-2 270	土師器 坏	12	10.5	5.2	4.3			ほぼ完形	砂粒を含 む	にぶい赤 褐	酸化	紐作り。高台は三角高台状の付け高台。腰部に張りはなく、口縁部は短く直立する。口縁部横撫で、体部内外面撫で。	
575-3	須恵器 坏		-	(5.0)	(1.7)			底部片	細砂粒を 含む	にぶい橙	還元	右回転轆轤整形。底部回転糸切り無調整。	
575-4 270	須恵器 坏	3	(13.0)	8.8	5.9		1/3	砂粒を含 む	灰	還元	体部に張りはなく、口縁部は短く外反する。高台は丁寧な付け高台。体部外面は横位へら削り後、口縁部横撫で、内面撫で。		
575-5 271	須恵器 台付鉢	1・7-9・ 21-23・ 29住37	20.3	-	(8.5)		3/4	粗砂を含 む	灰黄褐	酸化	紐作り、轆轤右回転の整形。体部に張りを有し、口唇部には内傾する平坦部が作りだされ、口縁部は外反しない。高台は付け高台。内外面に轆轤撫で痕跡が顕著。		
575-6 271	須恵器 台付土釜	15・21・ 22	16.1	-	(14.4)		3/4 (台 部欠損)	砂粒を含 む	浅黄	還元	紐作り、轆轤整形。口縁部は短く外反し、肩部と胴部下半にわずかに張りを有する。胴部上半斜位撫で、口縁部轆轤による強い横撫で、胴部下半は斜位へら削り後、高台貼り付け。	高台剥落。口縁部外面に油煙状物質付着	
575-7 271	須恵器 羽釜(鍋)	15・47住	20.2	11.0	10.2			ほぼ完形	粗砂を含 む	にぶい橙	還元	浅い羽釜で、口縁部は直立し鑊はやや反りぎみで、上端の貼付は丁寧であるが、下端はやや雑で、段差を生じている。鑊から口縁部及び内面は撫で、胴部外面は横位～斜位へら削り、底部は砂底に削りを加えている。	
575-8 271	土師器 羽釜	13・20	(21.5)	-	(14.4)			口縁～胴 部中位	砂粒を含 む	にぶい黄 橙	還元	口縁部は直立し、鑊は水平で、下端の貼り付けがやや雑で、接合痕を残している。鑊から口縁部横位撫で、胴部上半横位～斜位、下半縦位へら削り、内面は横位～斜位撫で。胴部下半内面に上下の接合痕がある。	武蔵型甕と整形技法が共通
575-9 271	土師器 羽釜	14・16・ 17・19	(21.0)	-	(19.2)			口縁～胴 部中位	砂粒を含 む	にぶい黄 橙	酸化気味	口縁部は直立し、鑊は水平で、下端の貼り付けがやや雑で、接合痕を残している。鑊から口縁部横位撫で、胴部上半横位～斜位、下半縦位へら削り、内面は横位～斜位撫で。胴部下半内面に上下の接合痕がある。	武蔵型甕と成整形技法が共通
575-10	須恵器 羽釜	2	(21.9)	-	(8.2)			口縁～胴 部上位片	砂粒を含 む	灰	還元	轆轤整形。口縁部は内径し、口唇部はやや丸みがある。鑊は上面水平で、丁寧な貼付。胴部内外面轆轤撫で。	

田口下田尻遺跡44号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
577-1 271	須恵器 坏	47住	(10.0)	(6.1)	2.9		1/4 (底 部中央欠 損)	砂粒を含 む	にぶい橙	酸化気味	右回転轆轤整形。体部中位に張りがあり、口縁部は外反しない。	
577-2 271	須恵器 坏か	カマド・45 住・47住	(11.0)	(6.0)	5.3		1/3	白色粒子 を含む	褐灰	還元	右回転轆轤整形。底部回転糸切り無調整。腰部と体部中位に張りがあり、口縁部は短く外反する。	
577-3	須恵器 坏	170坑	(10.4)	-	(3.7)		1/4	砂粒を含 む	にぶい黄 橙	酸化気味	右回転轆轤整形。底部回転糸切り無調整。腰部の張りが強く、口縁部は反りぎみに直立する。	

遺物観察表

578-4	須恵器 環	47住	(11.7)	-	(3.7)		口縁～体 部片	砂粒を含む	明赤褐	還元	轆轤整形。体部の張りは弱く、口縁部は外反しない。
578-5	須恵器 環	47住	(11.9)	-	(3.7)		口縁～体 部片	砂粒を含む	灰黄	還元	轆轤整形。口縁部は外反し、内面上端に浅い窪みが巡る。
578-6	須恵器 環	45住	(12.5)	-	(4.1)		口縁～体 部片	細砂粒を 含む	黄灰	還元	轆轤整形。体部に張りがあり、口縁部は外反しない。
578-7	須恵器 環		(14.1)	-	(4.2)		口縁～体 部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	右回轆轤整形。体部に弱い張りがあり、口縁部は外反する。
578-8	須恵器 環	47住	(12.4)	-	(4.0)		口縁～体 部片	砂粒を含む	浅黄橙	還元	右回轆轤整形。体部に弱い張りがあり、口縁部は外反しない。
578-9	須恵器 環	47住	(12.3)	(7.6)	5.1		1/4 (底 部中央欠 損)	白色粒子 を含む	にぶい褐	還元	右回轆轤整形。高台は底部回転系切り後の丁寧な付け高台で、 端部は平坦。腰部に張りがあり、口縁部は外反する。
578-10	緑釉陶器 環	14	-	-	-		口縁部片	A	灰	普通	体部外面は屈曲して稜をなし、口縁部に至る。口縁部は中程で屈 曲するように外反する。口縁部屈曲部の器壁薄い。内外面緑釉。
578-11	須恵器 環	6・14・ 170坑	(15.4)	(9.9)	7.6		1/4	白色粒子 を含む	にぶい橙	酸化気味	右回轆轤整形。高台は長脚の付け高台で、端部に浅い窪みが巡る。 体部に弱い張りがあり、口縁部は外反する。
578-12	須恵器 環	2・171坑・ 47住	(14.9)	-	(5.0)		口縁～底 部(高台 欠損)	砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	轆轤整形。高台は付け高台で、貼り付け部から剥落。体部の張りが 強く、口縁部は外反しない。
578-13	須恵器 環		-	(7.0)	(2.4)		底部片	砂粒を含む	にぶい褐	還元	轆轤整形。高台は底部回転系切り後の付け高台。
578-14	須恵器 環	8・15・45住 23・47住	-	-	(17.8)		頸～胴部 片	砂粒を含む	褐灰	還元	轆轤整形。胴部外面斜位ヘラ削り後、下端撫で、内面に轆轤整形 痕が顕著。
579-15	須恵器 羽釜	44・47住	(21.0)	-	(9.0)		口縁～胴 上位片	砂粒を含む	浅黄橙	酸化気味	轆轤整形。口縁部は内傾し、口唇部に丸みがある。罫は水平で、 やや雑な貼り付け。内外面ともに轆轤撫で。
579-16	須恵器 羽釜		(20.0)	-	(10.1)		口縁～胴 上位片	砂粒を含む	にぶい黄 褐	還元	轆轤整形。口縁部はやや反りぎみに内傾し、口唇部は平坦。罫は 水平で丁寧な貼り付け。胴部上半から内面轆轤撫で、胴部下半縦 位ヘラ削り。
579-17	土製品 土鍾	1	5.4	1.7	孔 径 0.3	13.6	ほぼ完形	細砂粒を 含む	灰白	酸化	紡錘形で、両端部が欠損する。器面撫で。
579-18	鉄製品 刀子	13	(4.1)	1.8	0.5	4.1	破片				刀子の身側と考えられ、茎は残存していない。棟寄りの部分に径2mm ほどの孔が1カ所見られるが、故意にあげられたものとは考えにくい。 茎の一部と棟区部分は残存し、身側は欠損している。
579-19	鉄製品 刀子か		(3.8)	1.2	0.4	3.8	破片				

田口下田尻遺跡45号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(内) cm	底径(内) cm	器高(内) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
581-1	須恵器 環		-	(6.1)	(4.0)		体～底部 片	砂粒を含む	灰黄褐	還元	右回轆轤整形。底部は回転系切り後無調整。内面磨き後黒色処理。	内面激しいい げ
581-2	須恵器 環	94	(12.4)	6.5	4.9		3/4	砂粒を含む	灰黄	還元	轆轤右回転の整形。高台は底部回転系切り後のやや雑な付け高台 で、体部側の接合部に段が生じている。体部中位に弱い張りがあり、 口縁部は外反する。	
581-3	須恵器 環		-	(7.0)	(4.5)		体中位～ 底部	砂粒を含む	灰白	還元	轆轤右回転の整形。高台は底部回転系切り後の付け高台。体部の 張りは弱い。	
581-4	須恵器 環	21	(11.2)	(7.1)	5.3		1/4	砂粒を含む	灰白	還元	右回轆轤整形。高台は底部回転系切り後のやや雑な付け高台で、接 合部に隙間が生じている。腰部の張りがやや強く、口縁部は外反しない。	
581-5	須恵器 環	93	(13.2)	(6.1)	4.4		1/2	砂粒を含む	灰白	還元	轆轤右回転の整形。高台は底部回転系切り後の丁寧な付け高台。 体部に張りがあり、口縁部は外反しない。	
581-6	須恵器 環	171坑	(15.0)	-	(3.6)		口縁～体 部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	右回轆轤整形。体部に張りを有し、口縁部は弱く外反する。内 面撫では丁寧で、外面はやや雑。	
581-7	須恵器 環	3	(15.0)	-	(4.3)		口縁～体 部片	白色粒子 を含む	灰黄	還元	右回轆轤整形。体部に弱い張りを有し、口縁部はわずかに外反 する。	
581-8	須恵器 環	17	(13.9)	-	(4.6)		口縁～体 部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	轆轤整形。体部の張りは弱く、口縁部は外反しない。	
581-9	須恵器 環	14	-	(6.8)	(2.6)		底部片	細砂粒を 含む	灰黄	還元	右回轆轤整形。高台は丁寧な付け高台。	
581-10	須恵器 盤		(22.0)	-	(2.6)		口縁～体 部片	砂粒を含む	灰白	還元	轆轤整形。口縁部は内面肥厚する。	
582-11	灰釉陶器 環	20	-	6.6	(1.8)		底部片	砂粒を多く 含む、 気孔多い	にぶい黄 橙	還元	右回轆轤整形。高台は低い三日月高台で、底部回転系切り後の 付け高台。底部はやや厚手の作りで、体部欠損のため、器形及び 施釉は不明。見込み部に重ね焼き痕が残る。	胎土粗雑
582-12	灰釉陶器 段皿	18	13.6	7.3	2.7		2/3	細砂粒を 含む	にぶい黄 橙	還元	轆轤整形。高台はシャープな三日月高台で、底部回転ヘラ削り後 の付け高台。体部に弱い張りがあり、口縁部は水平方向に外反す る。施釉は漬け掛けと見られ、内面は重ね焼き部分で釉薬が止まっ ている。	
582-13	緑釉陶器 環	24	-	(8.0)	(2.0)		1/3	A'	褐灰	普通	貼付高台。底部内面ヘラ磨き。高台内面ヘラ磨き状の幅の狭い撫で。 底部内面トチン痕1カ所。全面緑釉、高台端部の釉摩滅。	
582-14	土師器 土釜か甗	10・12・ 171坑	(19.2)	-	(21.2)		口縁～胴 部下位片	白色粒子 を含む	にぶい褐	酸化	紐作り。胴部上位に弱い張りを有し、口縁部はやや外反ぎみに直 立する。胴部上半は斜位、下半は縦位ヘラ削りで、口縁部は横撫で、 内面は横位撫で後、下半から斜位撫で。	
582-15	須恵器 羽釜	8・13・16・ 171坑	(19.6)	-	(23.8)		口縁～胴 部下位片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	轆轤整形。口縁部はやや外反ぎみに内傾し、罫は水平で貼り付けは 丁寧。胴部上半は轆轤撫で、下半は斜位ヘラ削り。内面轆轤撫で。	外面煤付着
582-16	須恵器 羽釜	22	(23.9)	-	(9.4)		口縁～胴 上位片	砂粒を含む	明赤褐	還元	轆轤成形。口縁部は短く直立し、口唇部は平坦で沈線状の窪みが 2条巡り、内傾する。罫はやや反りぎみで貼り付けは丁寧。胴部 内外面ともに轆轤撫で。	
582-17	須恵器 甗	9	-	-	-		胴部片	細砂粒を 含む	灰	還元	外面平行叩き、内面青海波文。	
582-18	須恵器 甗	5	-	-	-		胴部片	砂粒を含む	灰	還元	叩き成形。外面平行叩き、内面当て具は斜格子状。	
582-19	須恵器 甗	2	-	-	-		胴部片	細砂粒を 含む	灰白	還元	外面平行叩き、内面当具素文。	
582-20	鉄製品 刀子	1	(10.0)	1.2	0.35	9.0	茎一部欠 損				刃部は研ぎ減りが激しく、茎よりも棟区と茎部に木質がわずかに 遺存していた。	
582-21	鉄製品 刀子	96	(8.7)	1.3	0.4	8.3	茎一部欠 損				棟区の残存は良好で、刃部も研ぎ減りしているものの残存してい る。茎は先端部が欠損している。	
582-22	鉄製品 不明	28	(8.0)	4.1	0.5	4.3	両端欠損				断面が長方形の棒状の素材を鉤の手状に曲げたもので、用途は不 明である。	
583-33	石製品 不明		25.6	28.4	14.2	10700.0	完形				端部剥離。	



遺物観察表

583-34 272	石製品 磨石		(21.2)	(22.0)	(19.1)	8180.0	1/2					上面が全体的に平滑化している。	
583-35	石製品 不明		(18.5)	36.1	10.2	9300.0	1/2					側面に打ち欠き痕。	

田口下田尻遺跡47号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成形の特徴等	備考
585-1	須恵器 環		(11.0)	(5.7)	2.8		口縁～底 部片	砂粒を含 む	灰黄褐	還元	右回転轆轤整形。体部下半に稜があり、口縁部は外反する。	
585-2 272	須恵器 環	14	11.0	5.5	3.5		ほぼ完形	砂粒を含 む	浅黄橙	酸化気味	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。腰部に張りがあり、口縁部はわずかに外反する。	
585-3 272	須恵器 壺	1	11.5	6.9	5.4		ほぼ完形	砂粒を含 む	にぶい黄 橙	還元	右回転轆轤整形。高台は丁寧な付け高台で、天井部は平坦で水平。腰部に張りがあり、口縁部は外反する。	
585-4 272	灰釉陶器 壺	31	(12.8)	(6.4)	(4.1)		口～底部 片	白色粒子 を含む	灰白	還元	右回転轆轤整形。高台はシャープさのない崩れた三日月高台で、底部回転系切り後の付け高台。施釉は漬け掛けと見られ、発色も 光沢も見られない。	口縁部内外面に 油煙付着
585-5	灰釉陶器 壺		-	(6.9)	(1.2)		底部片	細砂粒を 含む	灰白	還元	轆轤整形。高台は三角高台状で、底部回転系切り後の付け高台。高台貼付位置は、底部周縁で、削り出し高台状を呈する。体部欠損のため施釉は不明。	
585-6	須恵器 環	2	(12.2)	-	(3.3)		口縁～体 部片	砂粒を含 む	にぶい橙	酸化気味	轆轤整形。体部に張りがあり、口縁部は外反する。内面の轆轤整形痕顕著。	
585-7	須恵器 環		(13.0)	-	(3.3)		口縁～体 部片	白色粒子 を含む	灰黄褐	還元	轆轤整形。体部に張りがあり、口縁部は外反する。	
585-8 272	須恵器 壺	40	-	(7.0)	(2.8)		底部	細砂粒を 含む	橙	酸化気味	轆轤整形。高台は低い三角高台状で、丁寧な付け高台。内面は丁寧なへう磨き後、黒色処理。光沢がある。	
585-9 272	須恵器 壺	22	-	(8.1)	(2.9)		底部	砂粒を含 む	にぶい橙	還元	右回転轆轤整形。高台は底部回転系切り後の付け高台。	
585-10	須恵器 壺	19	-	(8.2)	(2.0)		底部	砂粒を含 む	赤橙	還元	右回転轆轤整形。高台は底部回転系切り後の付け高台。	
585-11 272	須恵器 壺	16	-	(9.6)	(5.4)		体～底部	白色粒子 を含む	にぶい黄 橙	還元	右回転轆轤整形。高台は長脚で八字状に開く丁寧な付け高台で、端部は平坦で水平。腰部に張りがあり、見込み部の轆轤整形痕顕著。	
585-12 272	灰釉陶器 壺	43	(15.3)	(7.8)	5.1		1/3	精良	灰白	還元	轆轤整形。高台は高い三角高台状で、底部回転系切り後の付け高台。体部に弱い張りがあり、口縁部はわずかに外反する。施釉は漬け掛けで、見込み部に重ね焼き痕が残り、色調の違い顕著。	
585-13 272	灰釉陶器 壺	8	-	(7.1)	(4.4)		底部片	細砂粒を 含む、気 孔あり	灰白	還元	右回転轆轤整形。高台は、三角高台状で、底部回転系切り後の付け高台。体部は残存しているが、施釉部分がないため技法不明。	
586-14 272	須恵器 壺	37	(7.1)	-	(6.4)		口縁～胴 中位片	細砂粒を 含む	にぶい黄 橙	還元	右回転轆轤整形。口縁部は反りぎみに直立し、肩部に張りがある。内外面ともに轆轤撫で。	
586-15 272	須恵器 羽釜	26・掘り 方	(23.0)	-	(9.4)		口縁～胴 上位片	砂粒を含 む	橙	酸化気味	轆轤整形。口縁部は反りぎみに直立し、口唇部には丸みがある。鏝は厚手で雑な貼付。胴部外面は鈔際まで縦位へう削り、内面轆轤撫で。	
586-16 272	須恵器 羽釜		(22.2)	-	(13.4)		口縁～胴 中位片	砂粒を含 む	灰白	還元	轆轤整形。口縁部はやや内傾ぎみに直立し、口唇部の平坦面はあまり顕著でない。鏝はやや上向きで、丁寧な貼付。胴部上半轆轤撫で、下半縦位へう削り、内面轆轤撫で。	
586-17 272	須恵器 羽釜	9	(22.0)	-	(10.1)		口縁～胴 上位片	砂粒を含 む	にぶい黄 橙	還元	轆轤整形。口縁部は直立し、口唇部は平坦でわずかに内傾する。鏝はやや上向きで、丁寧な貼付。胴部内外面轆轤撫で。	

田口下田尻遺跡48号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成形の特徴等	備考
587-1 272	須恵器 環	9	(9.3)	4.6	2.9		1/2	粗砂を含 む	にぶい黄 橙	酸化気味	右回転轆轤整形。底部は回転系切り無調整。腰部の張りが強く、口縁部は反りぎみに直立する。	
587-2 272	須恵器 環	8	10.7	6.0	3.4		完形	白色粒子 を含む	褐灰	還元	右回転轆轤整形。腰部に張りがあり、口縁部はわずかに外反する。体部に小礫の抜けた孔が1カ所見られる。	内外面煤付着 か
587-3 272	須恵器 環	10	10.5	5.8	3.3		ほぼ完形	粗砂を含 む	にぶい橙	酸化気味	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。腰部の張りが強く、口縁部はわずかに外反する。	内面に煤付着
587-4 272	須恵器 環	15	10.9	5.4	3.5		ほぼ完形	砂粒を含 む	にぶい黄 橙	酸化気味	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。腰部に張りがあり、口縁部はわずかに外反する。	
587-5	須恵器 環	14	(10.5)	(5.0)	3.3		1/4	粗砂を含 む	灰白	還元	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。体部中位に張りがあり、口縁部はわずかに外反する。	
587-6 272	須恵器 環		(11.0)	(6.2)	3.4		1/2	粗砂を含 む	黒	還元	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。腰部の張りが強く、口縁部はわずかに外反する。	内外面吸炭
587-7 272	須恵器 環	24	(11.2)	4.4	3.8		1/2	粗砂を含 む	にぶい黄 橙	酸化気味	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。体部に張りがあり、口縁部はわずかに外反する。	
587-8 272	須恵器 環	カマド	(11.3)	(4.3)	4.4		1/4	粗砂を含 む	暗灰	還元	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。体部中位に張りがあり、口縁部はわずかに外反する。	重ね焼きの痕 跡か口縁部以 外内外面とも に吸炭
588-9	須恵器 環	22	(10.8)	-	(4.3)		口縁～体 部片	白色粒子 を含む	灰白	還元	右回転轆轤整形。体部中位に張りがあり、口縁部は外反する。	
588-10	須恵器 環		(11.2)	(5.0)	4.8		1/4	白色粒子 を含む	明黄褐	還元	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。腰部の張りが強く、口縁部は外反しない。	
588-11	須恵器 環	14	(11.9)	-	(3.4)		口縁～体 部片	粗砂を含 む	灰白	還元	轆轤整形。体部に張りがあり、口縁部は外反しない。	
588-12	須恵器 環	14	(11.9)	-	(2.8)		口縁～体 部片	白色粒子 を含む	灰白	還元	轆轤整形。口縁部は外反しない。	
588-13	須恵器 環	6	-	5.0	(1.2)		底部片	粗砂を含 む	にぶい黄 橙	還元	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。	
588-14	須恵器 環	20	-	4.4	(1.2)		底部片	粗砂を含 む	明褐	酸化気味	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。	
588-15	須恵器 環	16	-	(4.7)	(1.0)		底部片	粗砂を含 む	黒褐	還元	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。	
588-16	須恵器 壺	17	-	-	(2.6)		底部(高台 端欠損)	粗砂を含 む	にぶい黄 橙	酸化気味	右回転轆轤整形。高台はやや雑な付け高台。	
588-17	須恵器 壺	13	-	6.9	(2.8)		底部	白色粒を 含む	灰黄	還元	右回転轆轤整形。高台は底部回転系切り後の付け高台で、端部は平坦でやや内傾する。	
588-18 272	須恵器 壺	7	(15.7)	(9.8)	8.0		1/2	砂粒を含 む	にぶい黄 橙	酸化気味	右回転轆轤整形。高台は長脚の丁寧な付け高台で、端部は平坦で浅い窪みが巡り、内傾する。体部下半に弱い張りがあり、口縁部は外反する。体部内面の轆轤整形痕顕著。	



遺物観察表

589-19 272	黒色土器 埴	5	13.5	7.1	6.0		3/4	砂粒を含む	橙	酸化気味	轆轤整形。高台は丁寧な付け高台で、端部の摩滅が激しい。体部の張りが強く口縁部は短く外反する。体部外面下半回転ヘラ削り、口縁部横位ヘラ磨き、内面丁寧なヘラ磨き後黒色処理。内面器面から1mm程度まで吸炭。	
589-20 272	灰釉陶器 埴	2-3	(12.4)	7.0	3.7		1/2	細砂粒を含む	灰白	還元	轆轤整形。高台は三角高台状で、底部回転ヘラ切り後の付け高台で、灯明か底部中央に突起が残る。体部に弱い張りがあり、口縁部はわずかに外反する。施釉は漬け掛けと見られ、口縁部に沿って狭い範囲に施釉されており、発色は悪い。口縁部外面に1カ所炭化物付着。	
589-21	土師器 甕	12	(14.1)	-	(5.5)			口縁部片	砂粒を含む	橙	酸化気味	轆轤整形。脚部破片で、端部は平坦。
589-22	須恵器 羽釜	7	(21.0)	-	(5.0)			口縁部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	轆轤整形。口縁部は短くやや内傾し、口唇部は平坦で浅い窪みが巡る。罫はほぼ水平で丁寧な貼り付けであるが、端部は欠損する。内外面ともに轆轤撫で。
589-23 272	須恵器 羽釜	21	(22.1)	-	(9.0)			口縁～胴 上位片	砂粒を含む	にぶい赤 褐	酸化気味	轆轤整形。口縁部は内傾し、口唇部は平坦でやや内傾する。罫は下向きで、貼り付けはやや雑。罫から胴部内面轆轤撫で、胴部外面縦位ヘラ削り。

田口下田尻遺跡49号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
590-1	須恵器 埴		-	(6.1)	(1.6)			底部片	にぶい黄 橙	還元	轆轤整形。高台は底部回転系切り後の付け高台。	器面摩滅

田口下田尻遺跡52号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考	
591-1 273	須恵器 環	カマド	(10.0)	(5.0)	3.1		1/2	砂粒を含む	浅黄橙	酸化	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。腰部に張りがあり、口縁部はわずかに外反する。		
591-2 273	須恵器 埴	6	(10.8)	(6.8)	4.6		1/4	細砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	轆轤整形。高台は三角高台状で丁寧な貼り付け。体部の張りは弱く、口縁部は外反しない。		
591-3 273	須恵器 埴	4	(13.7)	7.8	6.0		1/2	細砂粒を含む	にぶい橙	酸化	右回転轆轤整形。高台は丁寧な付け高台で、端部は平坦で窪みが巡り、わずかに内傾する。体部中に張りがあり、口縁部は外反する。		
591-4 273	須恵器 甕	9	(16.1)	-	(5.2)			口縁部片	砂粒を含む	灰黄	還元	轆轤整形。口縁部はC字状に外反し、有段の口縁端部は強い撫でが行われている。	外面の剥落顕著
591-5	須恵器 羽釜	19	(22.5)	-	(5.5)			口縁部片	砂粒を含む	明褐	酸化気味	口縁部は直立し、端部は丸みがある。罫は水平で、貼り付けは雑、上面に張り付けの痕跡を明瞭に残す。罫下胴部外面斜位ヘラ削り、内面横位撫で、罫内面に指圧痕。	
591-6 273	須恵器 羽釜	2	(25.8)	-	(9.8)			口縁～胴 上部片	白色粒子 を含む	にぶい橙	酸化	轆轤整形。口縁部はわずかに内傾し、端部は平坦。罫はやや上向きで丁寧な張り付け。内外面ともに轆轤撫で。	
591-7 273	須恵器 甕	7	-	(22.8)	(16.2)			口縁～胴 部中位	白色粒子 を含む	灰白	還元	轆轤整形。胴部下半斜位ヘラ削り、開口部周囲ヘラ削り、他は轆轤撫で。	
591-8 273	鉄製品 釘か	14	(8.8)	1.0	0.6	10.8		両端欠損				断面長方形で、「J」字状に曲がっている。釘の可能性はある。	

田口下田尻遺跡53号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
592-1 273	土師器 環	1	10.2	-	3.4		3/4	精良	明褐	酸化	丸底で、口縁部が短く内屈する。口縁部横撫で、体部ヘラ削り、内面丁寧な撫で。	内面黒色付着物
592-2	棒状礫	1	13.1	6.5	6.5	865.4		完形	変質安山 岩		棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
592-3	楕円礫	3	14.6	9.0	4.5	1001.9		完形	粗粒輝石 安山岩		楕円形の自然礫で、使用痕跡は判然としない。	
592-4	楕円礫	2	15.8	9.9	4.1	1026.6		完形	粗粒輝石 安山岩		楕円形の自然礫で、端部の一方に敲打痕状の荒れが認められる。	

田口下田尻遺跡54号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考	
593-1 273	土師器 甕		(13.9)	-	(8.2)			口縁～肩 部片	砂粒を含む	明赤褐	酸化	口縁部はく字状で、肩部の張りは弱い。口縁部横撫で後、肩部斜位の雑なヘラ削り、内面雑な横位撫で。	
593-2 273	鉄製品 鎌か	2	(6.9)	0.9	0.5	6.9		破片				鑿形形の鎌で、基部の断面形は長方形を呈しており、茎を欠損している。	
593-3 273	鉄製品 刀子	1	9.3	1.5	0.5	8.0		ほぼ完形				棟区は明瞭であるが、刃区ははっきりとしない。刃部は研ぎ減りによって短くなっている。茎先端部はわずかに欠損する。	

田口下田尻遺跡55号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考	
595-1 273	須恵器 埴	5	11.0	6.4	4.5			完形	砂粒を含む	褐	酸化	紐作り。高台は、三角高台状の雑な付け高台。体部に張りはなく、口縁部は外反せず、口唇部は内面肥厚する。口縁部横撫で、体部指押さえ、内面撫で。	
595-2 273	須恵器 埴	4	(11.2)	6.2	4.0		1/2	砂粒を含む	にぶい橙	酸化気味	右回転轆轤整形。高台は底部回転系切り後の付け高台。体部の張りは弱く、口縁部はわずかに外反する。		
595-3	須恵器 埴	11	(11.6)	-	(3.2)			口縁部片	砂粒を含む	橙	酸化	右回転轆轤整形。体部に張りがあり、口縁部はわずかに外反する。	
595-4	須恵器 埴	9	-	(7.2)	(2.2)			底部	砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	右回転轆轤整形。高台は丁寧な付け高台で、端部にわずかな平坦面。底部と内面に黒斑状変色。	
595-5	須恵器 埴	17	-	6.5	(1.8)			底部	砂粒を含む	にぶい褐	酸化気味	右回転轆轤整形。高台は底部回転系切り後のやや雑な付け高台。	見込み部に3カ所油煙状付着物
595-6 273	須恵器 埴	8	-	7.8	(3.2)			底部	砂粒を含む	にぶい褐	還元	右回転轆轤整形。高台はやや長脚で、八字状に開く丁寧な付け高台。	
595-7 273	須恵器 羽釜	3	(17.4)	-	(5.8)			口縁部片	砂粒を含む	にぶい橙	酸化気味	轆轤整形。口縁部は短く内傾し、口唇部は平坦で内傾。罫は短く、上面水平で、丁寧な貼付。胴部内外面轆轤撫で。	
595-8 273	鉄製品 鎌	5	(11.4)	1.2	1.1	18.6		茎の一部 欠損				長三角形鎌で、逆刺は短く鋭い。鋒の基部と茎の断面ともに長方形を呈し、一部を欠損している。	
595-9 273	鉄製品 鎌	1	16.8	2.5	0.9	24.3		ほぼ完形				長三角形鎌で、逆刺は短く鋭い。鋒の断面は菱形を呈しており、中央に鎧が通っている。鎌の基部は断面四角形で太く、茎の断面は長方形で先細りである。	

田口下田尻遺跡56号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考	
597-1	土師器 環		(11.3)	-	(2.6)			口縁部片	細砂粒を含む	橙	酸化	底部は丸底で、口縁部との境に低い段があり、口縁部は短く外反する。口縁部横撫で後、底部ヘラ削り、内面撫で。	

遺物観察表

597-2 273	土師器 環	2・8	12.9	-	4.0		3/4	細砂粒を 含む	にぶい橙	酸化	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段があり、口縁部は反りぎみに直立する。口縁部横撫で、底部へら削り、内面撫で。	粉っぽい胎土
597-3 273	土師器 甕	1・3-14 16-18	20.0	2.8	38.5		3/4	白色粒を 含む	にぶい橙	酸化	口縁部はく字状に外反し、肩部に弱い張りがある。口縁部横撫で後、胴部は3段の斜位へら削り、内面斜位へらナデで、胴部下内面に上下の接合痕を明瞭に残す。	外底煤付着

田口下田尻遺跡57号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石 材	色 調	焼 成	成 整 形 の 特 徴 等	備 考
598-1 273	土師器 環	9	(12.8)	6.0	4.0		1/2	砂粒を 含む	赤褐	酸化	平底で、体部に張りはなく、口縁部は短く内湾ぎみに外傾する。底部砂底。口縁部横撫で、体部下端斜位へら削り、内面撫で、体部外面上半は指の押さえ。	
598-2	土師器 環		(13.0)	-	(2.8)			口縁部片 砂粒を 含む	明赤褐	酸化	紐作り。口縁部は短く反りぎみに外傾する。口縁部横撫で、体部外面整形不明。	
598-3	須恵器 環		-	(8.0)	(1.3)			底部片 細砂粒を 含む	灰	還元	轆轤整形。底部と体部下端手持ちへら削り。	
598-4	土師器 環	カマド	-	(6.0)	(2.8)			底部片 砂粒を 含む	赤褐	酸化	紐作り。底部砂底でやや突出。内面撫で。	
598-5	土師器 環	11	-	(7.0)	(3.0)			体中位～ 底部片 砂粒を 含む	明赤褐	酸化	紐作り。底部砂底でやや突出。体部に張りはなく、外面指押さえ、内面撫で。	
598-6 273	須恵器 環	19	13.2	4.4	5.1			ほぼ完形 白色粒を 含む	灰褐	還元	右回転轆轤整形。底部回転糸切り無調整。体部に弱い張りがあり、口縁部はわずかに外反する。内面に重ね焼きの痕跡と見られる変色がある。	
598-7	須恵器 環	17	-	5.2	(2.4)			底部片 砂粒を 含む	灰	還元	右回転轆轤整形。底部回転糸切り無調整。重ね焼きの痕跡か、底部内外面黒斑状変色。	
598-8	須恵器 環		(13.0)	-	(2.7)			口縁部片 細砂粒を 含む	にぶい褐 色	酸化気味	轆轤整形。体部の張りは弱く、口縁部は外反する。	
599-9	須恵器 塊	15	-	(7.1)	(2.0)			底部片 砂粒を 含む	灰褐	酸化気味	轆轤整形。高台は丁寧な付け高台で、端部は平坦で、窪みが巡る。	
599-10	須恵器 塊		-	(7.0)	(2.1)			底部片 砂粒を 含む	赤褐	酸化	轆轤整形。高台はやや雑な付け高台。	
599-11	須恵器 塊	7	-	(7.2)	(2.0)			底部片 砂粒を 含む	明赤褐	酸化	紐作り。高台は丁寧な付け高台で、内面に段がある。	
599-12	須恵器 塊	16・18	-	(8.3)	(3.0)			底部 白色粒を 含む	赤褐	酸化	轆轤整形。高台は付け高台。内外面整形やや雑。	
599-13	須恵器 塊	10・59住 掘り方	-	(7.4)	(2.4)			底部片 白色粒を 含む	赤褐	酸化	轆轤整形。高台は丁寧な付け高台。	
599-14	土師器 壺		(12.4)	-	(2.5)			口縁部片 砂粒を 含む	明赤褐	酸化	紐作り。口縁部は短かく内湾ぎみで、横撫で。	
599-15	須恵器 長頸壺	5	-	-	(5.2)			頸部 細砂粒を 含む	青灰	還元	平瓶の頸部で、内面に接合痕顕著。	

田口下田尻遺跡58号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石 材	色 調	焼 成	成 整 形 の 特 徴 等	備 考
600-1	須恵器 環	カマド	(13.0)	-	(2.8)			口縁部片 細砂粒を 含む	灰白	還元	轆轤整形。体部に弱い張りを有する。	
600-2	須恵器 甕	1	-	-	-			胴部片 砂粒を 含む	灰	還元	外面格子叩き、内面当て具素文。	

田口下田尻遺跡59号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石 材	色 調	焼 成	成 整 形 の 特 徴 等	備 考	
603-1 273	土師器 環	31	13.0	6.0	4.6			完形 砂粒を 含む	明赤褐	酸化	平底で、体部は外傾し、口縁部は内湾ぎみに直立する。口縁部横撫で、体部上半指押さえ、下端斜位へら削り、内面横位撫で。		
603-2 273	土師器 環	46	12.6	5.2	4.6			ほぼ完形 砂粒を 含む	赤褐	酸化	平底で、体部は外傾し、口縁部は内湾ぎみに直立する。口縁部横撫で、体部上半指押さえ、下端斜位へら削り、内面横位撫で、底部は砂底の痕跡を残す。		
603-3 273	土師器 環	39・42・ 掘り方	13.9	5.4	5.1		3/4	砂粒を 含む	赤褐	酸化	平底で、体部は外傾し、口縁部は内湾ぎみに直立する。口縁部横撫で、体部上半指押さえ、下端斜位へら削り、内面横位撫で。		
603-4 273	土師器 環	36・37・ 49	13.1	5.7	4.6		3/4	砂粒を 含む	明赤褐	酸化	平底で、体部は外傾し、口縁部は内湾ぎみに直立する。口縁部横撫で、体部上半指押さえ、下端の一部斜位へら削り、内面横位撫で。		
603-5	土師器 環	55	(13.0)	6.4	4.2		1/4	砂粒を 含む	明赤褐	酸化	平底で、体部は外傾し、口縁部は内湾ぎみに直立する。口縁部横撫で、体部指押さえ、内面横位撫で。底部がわずかに突出する。		
603-6 273	土師器 環	38・47	(13.5)	6.2	4.4		1/2	砂粒を 含む	赤褐	酸化	平底で、体部は外傾し、口縁部は内湾ぎみに直立する。口縁部横撫で、体部上半指押さえ、下端斜位へら削り、内面横位撫で。		
603-7 273	土師器 環	57・58・ 掘り方	12.6	5.6	4.6		1/2	砂粒を 含む	明赤褐	酸化	平底で、体部は外傾し、口縁部は内湾ぎみに直立する。口縁部横撫で、体部上半指押さえ、下端斜位へら削り、内面横位撫で。底部に砂底の痕跡を残す。		
603-8 273	土師器 環		12.5	5.8	4.6		1/2	砂粒を 含む	赤褐	酸化	平底で、体部は外傾し、口縁部は内湾ぎみに直立する。口縁部横撫で、体部指押さえ、内面横位撫で。底部がわずかに突出する。		
603-9	土師器 環		(14.0)	(6.2)	4.3		1/5	砂粒を 含む	にぶい赤 褐	酸化	平底で、体部は外傾し、口縁部は内湾ぎみに直立する。口縁部横撫で、体部上半指押さえ、下端斜位へら削り、内面横位撫で。底部に砂底の痕跡を残す。		
603-10 273	土師器 環		(12.6)	(7.2)	4.6		1/2	砂粒を 含む	赤褐	酸化	平底で、体部は外傾し、口縁部は内湾ぎみに直立する。口縁部横撫で、体部指押さえ、内面横位撫で。底部がわずかに突出する。		
603-11	土師器 環		(12.8)	(7.0)	4.2		1/4	砂粒を 含む	赤褐	酸化	平底で、体部は外傾し、口縁部は内湾ぎみに直立する。口縁部横撫で、体部指押さえ、内面横位撫で。底部がわずかに突出する。		
603-12 273	土師器 環		(12.0)	(7.0)	4.4		1/4	砂粒を 含む	明赤褐	酸化	平底で、体部は外傾し、口縁部は内湾ぎみに直立する。口縁部横撫で、体部指押さえ、内面横位撫で。底部がわずかに突出する。		
603-13	土師器 環	56	(12.0)	(6.0)	4.1			口縁～底 部片(底部 中央欠)	砂粒を 含む	赤褐	酸化	平底で、体部は外傾し、口縁部は内湾ぎみに直立する。口縁部横撫で、体部指押さえ、内面横位撫で。底部がわずかに突出する。	
603-14	土師器 環	52	(11.6)	(6.1)	4.1			口縁～底 部片(底部 中央欠)	砂粒を 含む	明赤褐	酸化	平底で、口縁部・体部ともに外傾する。口縁部横撫で、体部指押さえで、内面横位撫で、底部がわずかに突出する。	
603-15	土師器 環	50	(13.4)	(5.9)	4.3			口縁～底 部片(底部 中央欠)	砂粒を 含む	赤褐	酸化	平底で、体部は外傾し、口縁部は内湾ぎみに直立する。口縁部横撫で、体部上半指押さえ、下端斜位へら削り、内面横位撫で。	
603-16 273	土師器 環		(12.0)	(6.0)	4.2		1/4	砂粒を 含む	赤褐	酸化	平底で、体部は外傾し、口縁部は内湾ぎみに直立する。口縁部横撫で、体部指押さえ、内面横位撫で。底部がわずかに突出する。		
603-17	土師器 環		-	(6.0)	(2.6)			底部片 砂粒を 含む	明赤褐	酸化	平底で、体部は外傾する。体部上半指押さえ、下端斜位へら削り、内面横位撫で。		

遺物観察表

603-18	土師器 環	68	(15.3)	-	(4.9)		口縁～体 部片	細砂粒を 含む	黒	酸化	体部は外傾し、口縁部はわずかに内湾する。口縁部横撫で、体部 撫で、内面横撫で、口縁部直下に整合痕を残す。	
603-19 273	須恵器 環	14	11.7	6.0	3.4		3/4	砂粒を含 む	灰白	還元	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。体部の張りは弱く、口 縁部はわずかに外反する。	
603-20 274	須恵器 環	33	11.8	5.6	4.5		ほぼ完形	砂粒を含 む	灰白	還元	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。体部中位に弱い張りが あり、口縁部はわずかに外反する。	底部窪む
603-21 274	須恵器 環	30	12.0	5.3	3.9		3/4	砂粒を含 む	にぶい黄 橙	酸化	紐作り。底部砂底でわずかに突出。体部に弱い張りがあり、口縁 部は短く直線的に外傾する。口縁部横撫で、体部撫で、内面撫で、 口縁部外面に接合痕が残る。	
603-22 274	須恵器 環	4・32・ 48	13.2	6.2	3.8		ほぼ完形	砂粒を含 む	黒	還元	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。体部に弱い張りがあり、 口縁部は外反する。	煙し焼成
603-23 274	須恵器 環	62・64・ 掘り方	13.5	5.5	3.7		1/3	細砂粒を 含む	灰黄	還元	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。腰部に張りがあり、口 縁部は外反する。	
603-24	須恵器 環		(11.5)	(6.0)	4.2		口縁～底 部片	細砂粒を 含む	黒	還元	轆轤整形。底部回転系切り無調整。体部に張りはなく、口縁部は わずかに外反する。	
603-25	須恵器 環	掘り方	(12.0)	-	(3.6)		口縁部片	細砂粒を 含む	暗黄灰	還元	轆轤整形。体部の張りは弱く、口縁部はわずかに外反する。	内面と口縁部 外面に光沢の ある油煙状付 着物
603-26 274	須恵器 環	40・45	12.6	-	(4.2)		口縁～体 部片	細砂粒を 含む	灰白	還元	轆轤整形。体部の張りは弱く、口縁部は外反する。	体部外面に墨 書、文字不明
603-27 274	須恵器 環	80・81・ 掘り方	(12.6)	(5.5)	5.1		口縁～底 部片	細砂粒を 含む	灰黄	還元	右回転轆轤整形。高台は、底部回転系切り後の付け高台で、貼り 付け部で剥落。体部に張りがあり、口縁部は外反する。	
603-28	須恵器 環	20	-	(5.9)	(1.8)		底部片	細砂粒を 含む	灰	還元	轆轤整形。底部回転系切り無調整。回転方向不明。	
603-29	須恵器 環		-	(6.0)	(2.8)		底部片	細砂粒を 含む	灰白	還元	轆轤整形。底部回転系切り無調整。	
603-30	須恵器 環	63	-	(8.0)	(2.6)		底部片	細砂粒を 含む	灰白	還元	轆轤整形。底部回転系切り無調整。	
604-31 274	土師器 塊	16	13.7	6.8	4.9		3/4	細砂粒を 含む	にぶい橙	酸化	紐作り。高台は三角高台状で、やや雑な貼り付けで、内面に隙間 がある。体部に弱い張りがあり、口縁部は外反しない。口縁部横 撫で、体部斜位へラ削り、内面撫で、内面に粘土紐の痕跡を残す。	内面煤付着
604-32 274	須恵器 塊	72・掘り 方・57住	(13.6)	(6.0)	5.4		1/4	細砂粒を 含む	橙	還元	右回転轆轤整形。高台は丁寧な付け高台。体部の張りは弱く、口 縁部は外反する。	
604-33 274	須恵器 塊	13	(13.3)	5.9	4.6		1/2	砂粒を含 む	にぶい褐	酸化気味	右回転轆轤整形。高台は底部回転系切り後の雑な付け高台で、端 部は狭い平坦部がある。体部の張りは弱く、口縁部は外反する。	内外面煤付着
604-34 274	須恵器 塊	22・29・ 掘り方	12.9	6.0	5.6		3/4	砂粒を含 む	にぶい黄 橙	還元	轆轤整形。高台は雑な付け高台。体部の張りは弱く、口縁部はわ ずかに外反する。	器面摩滅
604-35 274	須恵器 塊	48	13.2	6.3	4.6		ほぼ完形	砂粒を含 む	にぶい黄 橙	酸化気味	右回転轆轤整形。高台は底部回転系切り後の比較的丁寧な付け高 台。体部に張りはなく、口縁部は外反する。	
604-36 274	須恵器 塊	カマド	13.5	7.1	5.0		3/4	砂粒を含 む	灰	還元	右回転轆轤整形。高台は底部回転系切り後の雑な付け高台。体部 に張りはなく、口縁部は外反する。	
604-37 274	須恵器 塊	35・41	13.8	7.2	5.0		ほぼ完形	細砂粒を 含む	灰白	還元	右回転轆轤整形。高台は、底部回転系切り後の付け高台。体部の 張りは弱く、口縁部は強く外反する。	煙し焼成
604-38 274	須恵器 塊	45	12.8	6.6	5.6		完形	砂粒を含 む	灰白	還元	右回転轆轤整形。高台はやや雑な付け高台で、外面に稜を有する。 体部に張りは無く、口縁部はわずかに外反する。	
604-39 274	須恵器 塊	44・掘り 方	13.5	6.7	5.2		3/4	白色粒を 含む	灰白	還元	右回転轆轤整形。高台は、底部回転系切り後の丁寧な付け高台で、 外面に稜がある。体部に張りがあり、口縁部は外反する。	
604-40 274	須恵器 塊	82	(14.8)	7.8	5.9		1/4	白色粒を 含む	にぶい橙	酸化気味	轆轤整形。高台はやや雑な付け高台。体部の張りは弱く、口縁部 は強く外反する。	
604-41 274	須恵器 塊	43	15.1	7.7	6.1		ほぼ完形	砂粒を含 む	にぶい黄 橙	還元	右回転轆轤整形。高台は、底部回転系切り後の丁寧な付け高台で、 端部は平坦で窪みが巡る。体部の張りは弱く、口縁部はほとんど 外反しない。口縁部外面に作為的と見られる打ち欠きがある。	比重がある
604-42	須恵器 塊	17	-	-	(2.7)		体中位～ 底部片(高 台欠損)	白色粒を 含む	灰黄	還元	右回転轆轤整形。高台は底部回転系切り後の付け高台で、貼り付 け部から剥落。	
604-43	黒色土器 塊		-	6.0	(1.8)		底部	細砂粒を 含む	にぶい橙	酸化気味	右回転轆轤整形。高台は、底部回転系切り後の丁寧な付け高台。 内面丁寧なへラ磨き後黒色処理。	
604-44 274	灰釉陶器 塊	26・34	(13.6)	(7.2)	4.6		1/2	白 色 粒 子・細砂 粒を含む	灰白	還元	右回転轆轤整形。高台は崩れた三日月高台状で、底部回転系切り 後の雑な付け高台。体部の張りは弱く、口唇部外面が肥厚する。 施釉は漬け掛けで、内面がやや厚く施釉され、発色・光沢ともに 顕著。	
604-45 274	灰釉陶器 塊	7	(13.9)	(7.2)	4.3		1/4	細砂粒を 含む、気 孔あり	灰白	還元	右回転轆轤整形。高台はシャープさのない崩れた三日月高台で、 底部回転系切り後の付け高台。施釉は刷毛掛けで、内面の発色は 比較的良好。体部の張りは強く、口縁部が短く外側に折れる。	
604-46 274	灰釉陶器 皿か		-	(6.5)	(1.6)		底部片	細砂粒を 含む、気 孔多い	灰白	還元	轆轤整形。高台は低く崩れた三日月高台状で、底部回転へラ削り 後の付け高台。皿と見られる見込み部に重ね焼き痕を残す。	
604-47 274	緑釉陶器 塊	6	-	-	-		体部片	A	灰	普通	体部下位内湾し、中位も内湾して立ち上がる。内外面緑釉。	
604-48 274	緑釉陶器 皿	24	-	-	-		体部片	A	灰黄褐	やや不良	焼き締まり弱い。内外面緑釉。	
604-49 274	緑釉陶器 塊か	65	-	-	-		体部片	A	灰	普通	内湾し、体部下位片と考えられる。内外面緑釉。	
604-50 274	緑釉陶器 皿	23	(15.5)	-	(0.8)		1/3	A	灰白	普通	口縁端部は若干下がり気味に開く。黄緑がかり、光沢のある緑釉 を内外に施す。	
604-51 274	緑釉陶器 皿	25	(15.8)	-	(2.0)		口縁部片	A	灰白	普通	体部やや内湾して開き、口縁端部は若干下がり気味に開く。内外 面にへラ磨き状の痕跡が僅かに認められる。黄緑がかり、光沢の ある緑釉を内外に施す。	
605-52	土師器 甕	66・掘り 方	(20.0)	-	(5.2)		口縁部片	細砂粒を 含む	暗赤褐	酸化	口縁部はく字状で、肩部に強い張りがある。口縁部横撫で後、肩 部横位へラ削り、内面撫で。	
605-53	土師器 甕		(20.2)	-	(5.6)		口縁部片	砂粒を含 む	にぶい褐	酸化	口縁部はく字状で、肩部に張りがある。口縁部横撫で後、肩部横 位へラ削り、内面雑な撫で。	
605-54 274	須恵器 羽釜		(18.0)	-	(7.6)		口縁～胴 上位部片	砂粒を含 む	灰白	還元	轆轤整形。口縁部は短く内傾し、口唇部は平坦で窪みが巡る。鏝 は上面が水平で、丁寧な貼付。胴部内外面ともに轆轤撫で。	
605-55 274	須恵器 羽釜	1・3・5・8・ 78・掘り 方	(19.6)	-	(26.6)		口縁部片 鏝～胴 下位片	砂粒を含 む	黒褐	酸化気味	轆轤整形。鏝は上半水平で丁寧な貼付。胴部上半から内面轆轤撫 で、胴部下半斜位へラ削り。	
605-56 274	鉄製品 刀子	77	(3.7)	1.2	0.5	2.0	切先破片				断面は三角形状を呈しており、切先側が残存したものとと思われる。 57と同一個体か。	



遺物観察表

605-57	鉄製品 刀子か		(2.3)	1.0	0.4	1.7	破片							刃部破片で、断面は三角形を呈する。56と同一個体か。	
田口下田尻遺跡60号住居															
挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(cm)	底径(輪) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等				備考
607-1	土師器 環		(11.0)	-	(2.2)		口縁～体 部片 細砂粒を 含む	橙	酸化	深い丸底で、口縁部は短く内屈する。口縁部横撫で、底部へら削り、内面撫で。					
607-2	土師器 環	136	(11.0)	-	(2.0)		口縁～体 部片 精良	橙	酸化	丸底で、口縁部との間に稜があり、口縁部は短く外傾する。口縁部横撫で、底部へら削り、内面撫で。				粉っぽい胎土で、器面摩滅	
607-3	土師器 環	221	(11.0)	-	(2.5)		口縁～体 部片 精良	橙	酸化	丸底で、口縁部との間に稜があり、口縁部は短く外傾する。口縁部横撫で、底部へら削り、内面撫で。				粉っぽい胎土で、器面摩滅	
607-4	土師器 環	8	(12.9)	-	(2.2)		口縁～体 部片 精良	橙	酸化	丸底で、口縁部との間に稜があり、口縁部は短く外傾する。口縁部横撫で、底部へら削り、内面撫で。				粉っぽい胎土で、器面摩滅	
607-5	土師器 環		(12.0)	-	(3.0)		口縁～体 部片 精良	橙	酸化	底部は平底ぎみの丸底で、体部に弱い張りがあり、口縁部は内湾ぎみに直立する。口縁部横撫で、底部へら削り、間に整形不明瞭な部分がある。内面撫で。					
607-6	土師器 環	220	(13.5)	-	(3.8)		口縁～体 部片 精良	橙	酸化	扁平な丸底で、口縁部はやや内湾する。口縁部横撫で後、底部へら削り、内面撫で。					
607-7	土師器 環	6	(11.9)	-	(2.6)		口縁～体 部片 精良	橙	酸化	丸底で、口縁部との間に稜があり、口縁部は短く外傾する。口縁部横撫で、底部へら削り、内面撫で。				粉っぽい胎土で、器面摩滅	
607-8 274	土師器 環		(11.6)	-	(3.3)		1/5 精良	にぶい褐	酸化	底部は平底ぎみの丸底で、体部に弱い張りがあり、口縁部は内湾ぎみに直立する。口縁部横撫で、底部へら削り、間に整形不明瞭な部分がある。内面撫で。					
607-9	土師器 環	3	(13.0)	-	(3.5)		口縁～体 部片 細砂粒を 含む	明赤褐	酸化	丸底で、口縁部との間に稜があり、口縁部は短く外傾する。口縁部横撫で、底部へら削り、内面撫で。					
607-10 274	土師器 環		(12.2)	-	(3.4)		1/4 細砂粒を 含む	にぶい褐	酸化	平底で、体部に張りがあり、口縁部は受け口状に外傾する。口縁部横撫で、底部へら削り、体部指押さえ、内面撫で。					
607-11	土師器 環	223	(11.4)	-	(2.9)		口縁～体 部片 細砂粒を 含む	にぶい黄 橙	酸化	丸底で、口縁部との間に稜があり、口縁部は短く外傾する。口縁部横撫で、底部へら削り、内面撫で。				粉っぽい胎土で、器面摩滅	
607-12	土師器 環		(12.0)	-	(3.3)		口縁～体 部片 精良	橙	酸化	丸底で、口縁部との間に稜があり、口縁部は反りぎみに直立する。口縁部横撫で、底部へら削り、内面撫でと思われるが、器面摩滅のため不明瞭。				粉っぽい胎土	
607-13	土師器 環		(13.0)	-	(3.8)		口縁～体 部片 細砂粒を 含む	にぶい橙	酸化	丸底で、口縁部との間に稜があり、口縁部は直線的に外傾する。口縁部横撫で、底部へら削り、内面は撫で後黒色処理。					
607-14	須恵器 長頸壺	57坑	(9.6)	-	(1.2)		口縁部片 細砂粒を 含む	灰	還元	瓶の口縁部で、有段。					
608-15	土師器 鉢	1・4	(11.0)	-	(4.8)		口縁～胴 上位片 精良	橙	酸化	胴部に丸みを持ち、口縁部は反りぎみに直立する。口縁部横撫で、胴部へら削りと思われるが、器面摩滅のため不明瞭。				粉っぽい胎土	
608-16	土師器 甕	150・222	-	(4.0)	(2.8)		胴下位～ 底部 砂粒を含 む	褐灰	酸化	甕底部破片で、外面斜位へら削り、内面撫で。				底部周辺磨滅	
608-17	土師器 甕		(22.0)	-	(3.8)		口縁部片 砂粒を含 む	にぶい橙	酸化	コ字状の口縁部で、横撫で。					
608-18	土師器 甕	7・139	(20.8)	-	(7.2)		口縁～胴 上位片 砂粒を多 く含む	にぶい橙	酸化	胴部に張りがなく、口縁部は外反する。口縁部横撫で後、胴部縦位へら削り、内面横位へらナデ。					
608-19 274	土師器 甕	141	(22.0)	-	(6.7)		口縁～胴 上位片 砂粒を多 く含む	にぶい黄 橙	酸化	胴部に張りがなく、口縁部は外反する。口縁部横撫で後、胴部縦位へら削り、内面横位へらナデ。					
609-20 274	鉄製品 針か	189	2.3	0.2	0.2	0.2	ほぼ完形			断面はやや潰れた円形で、管状を呈する。一端は尖っており原形を保っている。					
609-21 274	鉄製品 毛抜きか	192	(6.6)	0.9	0.5	3.9	一部欠損			毛抜き状を呈する製品で、片側は欠損している。					
609-22 274	鉄製品 不明	190	(1.2)	0.3	0.1	0.4	破片			薄板状で変形している。用途は不明。					
609-23 274	鉄製品 不明	19	5.0	1.2	1.1	5.0	ほぼ完形か			断面形状が環状を呈し、先端の尖った中空の製品で、工具の可能性もある。					
609-24 274	鉄製品 不明		(3.5)	0.6	0.4	1.8	破片			断面が長方形を呈する棒状の製品で、両端を欠損しているため、用途は不明である。					
609-25 274	鉄製品 不明		(2.1)	0.3	0.3	0.3	破片			断面は長方形を呈しており、細く仕上げられている。用途は不明。					
609-26 274	鉄製品 紡錘車か	191	(12.8)	0.7	0.5	6.1	一端欠損			断面は四角形で、細くないことから紡錘車の軸の可能性はある。					
609-34 274	棒状礫	203	9.4	4.4	3.4	182.6	完形	流紋岩		小型の棒状礫で、使用痕跡は判然としない。					
609-35	棒状礫	186	9.8	6.1	3.7	351.3	完形	かこう岩		楕円に近い棒状礫で、使用痕跡は判然としない。					
609-36 274	棒状礫	200	10.7	5.8	3.5	330.8	完形	かこう岩		楕円に近い棒状礫で、使用痕跡は判然としない。					
609-37	棒状礫	199	12.2	7.2	4.1	644.7	完形	粗粒輝石 安山岩		楕円に近い棒状礫で、使用痕跡は判然としない。					
609-38	棒状礫	193	13.9	6.4	4.0	522.8	完形	ホルン フェルス		棒状礫で、使用痕跡は判然としない。					
609-39 274	棒状礫	197	13.5	6.3	4.5	588.1	完形	粗粒輝石 安山岩		棒状礫で、使用痕跡は判然としない。					
609-40	棒状礫	196	13.2	7.4	4.6	717.1	完形	粗粒輝石 安山岩		楕円に近い棒状礫で、使用痕跡は判然としない。					
609-41 274	棒状礫	212	19.9	6.9	4.4	822.8	完形	変質安山 岩		棒状礫で、使用痕跡は判然としない。					
609-42 274	棒状礫	194	14.8	5.8	4.8	553.3	完形	黒色頁岩		棒状礫で、使用痕跡は判然としない。					
609-43 274	棒状礫	201	15.1	6.7	4.5	771.7	完形	変質安山 岩		棒状礫で、使用痕跡は判然としない。					
609-44 274	棒状礫	211	17.0	8.0	3.0	629.3	完形	変質安山 岩		棒状礫で、側面に1カ所剥離が見られるが、使用に伴うものとは考えにくい。					
609-45 274	棒状礫	195	13.4	5.7	4.7	500.0	完形	文象斑岩		棒状礫で、使用痕跡は判然としない。					
609-46	棒状礫	205	13.8	6.8	3.3	514.0	完形	石英閃緑 岩		棒状礫で、ハゼが前面に及んでいる。					
609-47	棒状礫	209	11.4	5.5	3.1	329.1	完形	凝灰質砂 岩		棒状礫で、使用痕跡は判然としない。					



遺物観察表

田口下田尻遺跡61号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
610-1 274	土師器 環	16	(11.0)	-	(3.0)		口縁～体 部片	細砂粒を 含む	橙	酸化	平底で、体部にわずかに張りがあり、口縁部はやや内湾ぎみに外傾する。口縁部横撫で、底部へら削り、体部雑な撫で、内面丁寧な撫で。	
610-2	土師器 環		(11.0)	-	(2.8)		口縁～体 部片	細砂粒を 含む	にぶい橙	酸化	丸底で、口縁部は短くわずかに内湾する。口縁部横撫で、底部へら削り、内面撫で。	
610-3	土師器 環		(10.4)	-	(2.4)		口縁～体 部片	細砂粒を 含む	橙	酸化	丸底で、口縁部との間に明瞭な段を有し、口縁部は直立する。口縁部横撫で、底部へら削り、内面にへら磨きは認められないが、黒色処理されている。	
610-4	土師器 甕	14	(14.5)	-	(4.4)		口縁～頸 部片	砂粒を 含む	明褐	酸化	口縁部はく字状で、肩部に張りがある。口縁部横撫で、肩部斜位へら削り、内面撫で。	
610-5	土師器 甕		(18.1)	-	(3.0)		口縁部片	砂粒を 含む	にぶい橙	酸化	口縁部はく字状を呈するものと思われ、横撫でを施す。	
610-6	土師器 甕		(20.0)	-	(4.5)		口縁部片	砂粒を 含む	橙	酸化	口縁部はく字状に外反する。口縁部横撫で、肩部斜位へら削り、内面横位撫で。	

田口下田尻遺跡62号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
611-1 275	灰釉陶器 皿	6・カマ ド	12.8	6.1	2.4		完形		灰白	還元	底部厚手、外底回転系切り後高台貼付け、口縁部外面に持ち上げ痕4ヶ所残、漬掛け、内底重ね焼痕あり磨滅	
611-2	土師器 甕	13	(21.1)	-	(5.6)		口縁部片	砂粒を 含む	明赤褐	酸化	口縁部はく字状で、横撫で、肩部横位へら削り、内面横位へらナデ。	
611-3 275	須恵器 羽釜	4・5	(24.0)	-	(20.4)		口縁～胴 部中位片	砂粒を 含む	にぶい黄 橙	酸化気味	轆轤整形。口縁部は内湾ぎみに内傾し、口唇部は平坦で内傾する。罫は上面水平で、丁寧な貼付。胴部外面上半と内面轆轤撫で、胴部下半は斜位へら削り。	
612-4 275	鉄製品 刀子	2	8.4	1.1	0.7	5.1	ほぼ完形				棟区は明瞭に残存するが、刃区ははっきりとしない。刃部は研ぎ減りで短くなっており、切先を欠損している。	
612-5 275	鉄製品 刀子	3	9.8	1.2	0.5	6.8	ほぼ完形				棟区ははっきりせず、刃区が明瞭に捉えられる。刃部は細く切先が欠損している。	
612-6 275	石製品 巡方	1	4.2	3.9	0.8	29.8	3/4	珪質頁岩	黒色		2孔1対で4カ所に「V」字状の穿孔が認められる。一部を破損したもののか両角を割った後に研磨した痕跡があり、形状から鈍尾に転用しようとしたものと考えられる。	

田口下田尻遺跡63号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
614-1 275	土師器 環		(11.0)	-	(3.4)		口縁～体 部片	細砂粒を 含む	明赤褐	酸化	平底で、体部は外傾し、口縁部は短く内湾する。口縁部横撫で、底部へら削り、内面丁寧な撫で。	
614-2	須恵器 環	2	(12.0)	-	(3.9)		口縁～体 部片	細砂粒を 含む	にぶい黄 橙	還元	轆轤整形。腰部に張りがあり、口縁部は外反しない。	
614-3	土師器 環		(14.6)	(10.0)	2.5		口縁～底 部片	細砂粒を 含む	橙	酸化	平底で、体部は外傾する。口縁部横撫で、体部下半横位へら削り、内面撫で。	
614-4 275	須恵器 環	13・14・ P4	(13.0)	7.8	3.2		1/3	細砂粒を 含む	灰	還元	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。体部中位に弱い張りがあり、口縁部は外反する。	
614-5 275	須恵器 環	P4・11・14・ 62・63住	(12.8)	6.0	3.7		1/3	砂粒、白 色粒子を 含む	灰	還元	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。体部中位に張りがあり、口縁部は強く外反する。	片岩 藤岡
614-6	須恵器 環	カマド	(11.6)	-	(3.4)		口縁～体 部片	白色粒子 を含む	褐灰	還元	轆轤整形。体部に張りがあり、口縁部はわずかに外反する。	片岩 藤岡
614-7 275	須恵器 壺	12	-	8.6	(3.1)		底部	細砂粒を 含む	にぶい黄 橙	還元	右回転轆轤整形。高台は底部回転系切り後の丁寧な付け高台で、端部は平坦で、沈線状の窪みが巡る。	
614-8	須恵器 環		(12.0)	-	(2.5)		口縁部片	細砂粒を 含む	灰黄	還元	轆轤整形。体部に張りがあり、口縁部はわずかに外反する。	
614-9	須恵器 環	1	(13.7)	-	(2.6)		口縁～体 部片	白色粒子 を含む	褐灰	還元	轆轤整形。体部の張りは弱く、口縁部は強く外反する。	
615-10 275	土師器 台付甕	8・9	-	-	(8.6)		胴中位～ 下部	砂粒を 含む	橙	酸化	台付甕の胴部下半で、外面斜位へら削り、内面撫で。	
615-11	土師器 甕		(20.6)	-	(7.8)		口縁～肩 部片	砂粒を 含む	明赤褐	酸化	口縁部はコ字状を呈し、口唇部外面に沈線状の窪みが巡る。口縁部横撫で後、肩部横位へら削り、内面横位撫で。	
615-12	土師器 甕	10	(22.1)	-	(8.0)		口縁～肩 部片	砂粒を 含む	橙	酸化	口縁部はコ字状を呈し、口縁部横撫で後、肩部横位へら削り、内面横位撫で。口縁部中位に接合痕を残す。	器厚が薄い
615-13	土師器 甕		(20.4)	-	(6.2)		口縁～肩 部片	砂粒を 含む	暗褐	酸化	口縁部はく字状で、胴部上半にやや張りがある。口縁部横撫で後、肩部横位へら削り、内面横位撫で。	
615-14	土師器 甕		(21.0)	-	(3.8)		口縁部片	細砂粒を 含む	褐	酸化	口縁部は典型的なコ字状を呈する。口縁部横撫で。	
615-15	土師器 甕		(15.2)	-	(3.4)		口縁部片	細砂粒を 含む	橙	酸化	口縁部は典型的なコ字状の前段階の形状を呈する。口縁部横撫で。	
615-16	土師器 甕		-	(4.9)	(2.0)		底部	砂粒を 含む	にぶい褐	酸化	胴部下端横位から縦位へら削り、底部へら削り、内面へらナデ。	

田口下田尻遺跡68号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
617-1 275	須恵器 環	19	12.4	5.4	3.9		完形	砂粒を 含む	にぶい黄 橙	還元	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。体部中位に弱い張りがあり、口縁部は外反する。	
617-2	土師器 甕	5	(20.0)	-	(2.6)		口縁部片	細砂粒を 含む	にぶい橙	酸化	口縁部はコ字状を呈する。口縁部横撫で。	
617-3	須恵器 甕	16	-	-	-		頸部片	白色粒子 を含む	明赤灰	還元	須恵器甕の頸部で、断面三角形の突帯が1本巡り、上下に8本単位の櫛状工具による波状文を施文。	

田口下田尻遺跡70号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
618-1	土師器 環	238坑	(12.2)	-	(3.1)		口縁～胴 部片	砂粒を 含む	にぶい橙	酸化	体部は外傾し、口縁部は短く直立する。口縁部は横撫で、体部外面は雑な押さえ、内面は横位撫で。	
618-2	土師器 環		(12.0)	-	(4.3)		口縁～胴 部片	砂粒を 含む	にぶい橙	酸化	体部は外傾し、口縁部は短く直立し、口縁部直下に接合痕が残る。口縁部は横撫で、体部外面は雑な押さえ、内面は横位撫で。	
618-3	土師器 環	238坑2	(12.0)	-	(5.0)		口縁～胴 部片	砂粒を 含む	明赤褐	酸化	体部は外傾し、口縁部は短く直立する。口縁部は横撫で、体部外面は雑な押さえ、内面は横位撫で。	
618-4 275	土師器 環	11	(13.0)	-	(5.0)		口縁胴部 片	砂粒を 含む	赤褐	酸化	平底で、体部はやや反りぎみに外傾し、口縁部は短く直立する。口縁部は横撫で、体部外面は雑な押さえ、内面は横位撫で。	

遺物観察表

618-5 275	土師器 環	238坑	(12.0)	-	(4.6)		口縁～胴 部片	砂粒を含む	赤褐	酸化	平底で、体部は外傾し、口縁部は短く直立する。体部斜位の雑なヘラ削り、口縁部横撫で、内面横撫で。
618-6 275	土師器 環	12	-	7.0	(1.8)		底部	細砂粒を含む	明赤褐	酸化	砂底状の底部で、突出する。
619-7 275	須恵器 埴	2・3・10	15.4	7.5	6.2		ほぼ完形	細砂粒を含む	灰白	還元	右回転轆轤整形。高台は丁寧な付け高台。体部の張りは弱く、口縁部は外反する。
619-8 275	灰釉陶器 埴	6・18	(13.7)	6.9	4.2		1/4	白色粒子を含む	浅黄	還元	口縁部外反する。高台外面に稜あり、外底-体部外面下店削り後高台貼付け、漬掛け、内面に重ね焼痕、内底磨減
619-9 275	緑釉陶器 埴	1	13.8	6.8	4.1		1/2から 3/4	C'	灰白	普通	底部で屈曲し、体部は直線的に開く。口縁は端部で小さく外反する。底部内外面は幅の狭い工具によるヘラ磨き状の撫でが認められる。同様の撫で。は体部外面下店にも僅かに認められる。全面緑釉。高台端部の釉擦れる。
619-10	須恵器 瓶	10・238	-	(6.7)	(12.0)		肩～底部	砂粒を含む	にぶい褐	酸化	轆轤整形。胴部上位にやや張りがある。胴部上半から内面轆轤撫で、胴部下端斜位ヘラ削り。
619-11	土師器 甕	68住-4	-	(5.6)	(3.2)		底部片	細砂粒を含む	明赤褐	酸化	胴部下端は縦位ヘラ削り、内面ヘラナデ。斜位から縦位ヘラ削り、内面撫で。

田口下田尻遺跡74号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特 徴等	備考
620-1 275	須恵器 環	21・カマド	11.2	6.0	2.8		3/4	砂粒を含む	にぶい橙	酸化気味	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。体部中位に弱い張りがあり、口縁部はわずかに外反する。	
620-2	須恵器 環	2	-	5.6	(2.2)		底部片	白色粒子を含む	灰黄	還元	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。	
620-3 275	須恵器 埴	9・16・ 18・20	(11.8)	6.5	5.0		1/2	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	右回転轆轤整形。高台は底部回転系切り後の丁寧な付け高台で、端部はやや丸みを持つ。体部の張りが強く、口縁部はわずかに外反する。	
620-4 275	須恵器 埴	23	10.3	6.5	4.7		3/4	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	右回転轆轤整形。高台は丁寧な付け高台で、端部は平坦で浅い窪みが巡る。腰部に張りがあり、口縁部はわずかに外反する。	
622-5 275	須恵器 埴	19・38	(15.0)	-	(5.8)		1/2(高台 端部欠)	砂粒を含む	にぶい橙	酸化気味	右回転轆轤整形。高台は付け高台で、端部破損。腰部にやや張りがあり、口縁部はわずかに外反する。	
622-6 275	須恵器 埴	22・25	(16.5)	(10.1)	7.2		1/2	白色粒子を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	右回転轆轤整形。高台は底部回転系切り後の丁寧な付け高台。体部中位に弱い張りがあり、口縁部は外反する。体部外面に細い轆轤整形痕を残す。	内外面煤付着 か
622-7 275	須恵器 埴	6・29・ 掘り方	(13.8)	-	(6.0)		1/4(高台 端部欠)	白色粒子を含む	にぶい橙	酸化気味	右回転轆轤整形。高台は付け高台で、端部欠損。体部の張りは弱く、口縁部は外反する。	
622-8 275	須恵器 埴	31・75住	(15.1)	(10.6)	8.7		1/2	砂粒を含む	にぶい橙	酸化気味	右回転轆轤整形。高台は長脚で、八字状に開く付け高台。腰部の張りが強く、口縁部は外反しない。	
622-9 275	須恵器 埴		(10.0)	(6.8)	5.1		1/4	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	轆轤整形。高台は丁寧な付け高台。体部中位に張りがあり、口縁部はわずかに外反する。	
622-10 275	須恵器 埴	8・26・ 32・36	15.7	-	(6.0)		3/4(高台 端部欠)	粗砂を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	右回転轆轤整形。高台は付け高台で、剥落。腰部の張りが強く、口縁部はごくわずかに外反する。	
622-11	須恵器 埴	35	-	7.5	(2.2)		底部片	砂粒を含む	にぶい橙	酸化気味	右回転轆轤整形。高台は底部回転系切り後の丁寧な付け高台で、端部は平坦で浅い窪みが巡る。	
622-12	須恵器 埴	17	(12.6)	-	(4.2)		口縁～体 部片	砂粒を含む	灰黄	還元	轆轤整形。体部の張りは弱く、口縁部は外反する。	
622-13	須恵器 埴	3	-	7.1	(2.5)		底部片	砂粒を含む	にぶい橙	酸化気味	右回転轆轤整形。高台は丁寧な付け高台で、端部は平坦。見込み部に轆轤整形痕が顕著。	煤付着か 部に轆轤整形痕が顕著。
622-14 275	黒色土器 埴	11・13	(12.0)	-	(3.6)		口縁～体 部片	細砂粒を含む	浅黄橙	還元	轆轤整形。体部に張りがあり、口縁部は外反しない。体部下半回転ヘラナデ、内面ヘラ磨き後黒色処理。	
622-15	須恵器 長頸瓶		-	(7.0)	(2.6)		底部片	白色粒子を含む	灰黄	還元	轆轤整形。高台は付け高台で、端部は平坦でシャープ。胴部下端は回転ヘラ削り。底部内面に轆轤整形痕が顕著で、自然釉が掛かる。	
622-16	須恵器 埴	24	-	(10.0)	(3.0)		高台部	砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	轆轤整形。八字状に開く長脚の付け高台で、端部は平坦で、浅い窪みが巡る。	
622-17	須恵器 埴	15	-	(10.2)	(2.8)		高台部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	轆轤整形。八字状に開く長脚の高台部。	
622-18 276	須恵器 羽釜	37	(21.6)	-	(10.5)		口縁～胴 部中位片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	轆轤整形。口縁部は直立し、口唇部は平坦で浅い窪みが巡り、やや内傾する。鈔はやや上向きで丁寧な貼り付け。胴部内外面轆轤撫で。	外面煤付着 内傾する。
622-19 276	須恵器 羽釜	4	(23.0)	-	(9.5)		口縁～胴 部中位片	砂粒を含む	にぶい橙	還元	轆轤整形。口縁部は直立し、口唇部は平坦で浅い窪みが巡り、内傾する。鈔はほぼ水平で丁寧な貼り付け。胴部内外面ともに轆轤撫で。	外面煤付着
622-20 276	須恵器 羽釜	6・29・ 掘り方	(22.0)	-	(13.8)		口縁～胴 部中位片	砂粒を含む	にぶい橙	還元	右回転轆轤整形。口縁部は内傾し、口唇部は平坦で窪みが巡る。鈔はやや上向きで丁寧な貼り付け。胴部内外面ともに轆轤撫で。	
622-21 276	須恵器 羽釜	1・5・10・ 12・か下掘り方	(24.8)	-	(18.8)		口縁～胴 部中位片	砂粒を含む	灰黄褐	還元	轆轤整形。口縁部は比較的長く内傾し、口唇部は平坦。鈔は水平で丁寧な貼り付け。鈔下から胴部内面轆轤撫で、胴部下斜位ヘラ削り。	

田口下田尻遺跡75号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特 徴等	備考
623-1	土師器 環		(11.0)	-	3.5		1/3	精良	にぶい橙	酸化	丸底で、口縁部は短く直立する。口縁部横撫で、底部ヘラ削り、内面丁寧な撫で。	
623-2 276	土師器 環	21・44溝	(13.0)	-	4.4		1/3	細砂粒を含む	にぶい橙	酸化	丸底で、口縁部は短く直立する。口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削りで、削りは横撫で部には及ばない。内面撫で。	内外面褐色の 塗幕状付着物
623-3	土師器 環		11.2	-	3.0		1/2	細砂粒を含む	明褐	酸化	丸底で、口縁部は短くやや内湾する。底部手持ちヘラ削り、口縁部横撫で、ヘラ削りは横撫で部には及ばない。内面撫で。	内面に褐色の 付着物
623-4 276	土師器 環		(12.8)	-	(4.6)		1/2	細砂粒を含む	にぶい褐	酸化	比較的深い丸底で、口縁部は短く内湾する。口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削りで、削りは横撫で部には及ばない。内面撫で。	
623-5	土師器 環	23	(11.0)	-	(3.1)		口縁～体 部片	細砂粒を含む	褐	酸化	丸底で、口縁部は短く直立する。口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削りで、削りは横撫で部には及ぶ。内面撫で。	内外面に褐色 付着物
625-6	土師器 環	13	(12.0)	-	(3.0)		口縁～体 部片	精良	橙	酸化	丸底で、口縁部は短く内湾する。口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削りで、削りは横撫で部には及ばない。内面撫で。	
625-7	土師器 環	44溝	(12.3)	-	2.3		口縁～体 部片	細砂粒を含む	にぶい赤 褐	酸化	浅い丸底で、口縁部は短く直立する。口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削りで、削りは横撫で部には及ばない。内面撫で。	内面に褐色の 付着物
625-8	土師器 環		(11.6)	-	(2.4)		口縁～体 部片	精良	明赤褐	酸化	丸底で、口縁部は内湾ぎみに直立する。口縁部横撫で、底部ヘラ削りで、削りは横撫で部には及ばない。内面撫で。	内面褐色付着 物
625-9	土師器 環		(13.0)	-	(2.3)		口縁～体 部片	精良	にぶい黄 橙	酸化	丸底で、口縁部は短く反りぎみに直立する。口縁部は強い横撫で、底部手持ちヘラ削り、内面撫で。	
625-10 276	土師器 環	44溝	(13.0)	-	(4.8)		1/3	砂粒を含む	明赤褐	酸化	比較的深い丸底で、口縁部は短く内湾する。口縁部横撫で、底部手持ちヘラ削りで、削りは横撫で部には及ぶ。内面撫で。	底部の剥落が 激しい
625-11	土師器 甕	2	(16.2)	-	(3.5)		口縁～頸 部片	砂粒を含む	にぶい褐	酸化	口縁部はく字状で、口縁部横撫で、肩部ヘラ削り、内面撫で。	
625-12	土師器 甕	16	(17.0)	-	(3.6)		口縁～肩 部片	砂粒を含む	明褐	酸化	口縁部は強く外反し、胴部に張りはない。口縁部横撫で後、胴部縦位ヘラ削り、内面撫で。	

遺物観察表

625-13 276	土師器 甕	4・22・ 24・44溝	(17.9)	-	(10.8)		口縁～胴 上位片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化	口縁部は強く外反し、胴部に張りはない。口縁部横撫で後、胴部縦位ヘラ削り、内面撫で。
625-14	土師器 甕	11・12	(22.0)	-	(8.0)		口縁～肩 部片	砂粒を含む	にぶい橙	酸化	口縁部は外反し、胴部上半に弱い張りを持つ。口縁部横撫で後、胴部上半斜位ヘラ削り、内面横位ヘラナデ。
625-15 276	土師器 甕		(25.0)	-	(13.8)		口縁～胴 上位片	砂粒を含む	にぶい橙	酸化	口縁部は外反し、胴部上半に弱い張りを持つ。口縁部横撫で後、胴部上半斜位ヘラ削り、内面横位ヘラナデ。
625-16 276	土師器 甕	6	-	(7.2)	(10.2)		胴中位～ 底部	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化	紐作り。胴部外面下半斜位ヘラ削り、内面横位撫で。底部に指押さえ痕と粘土紐の痕跡を明瞭に残す。
625-17	土師器 甕		-	(5.0)	(4.1)		底部片	砂粒を含む	灰褐	酸化	長胴甕の底部で、胴部外面縦位ヘラ削り、内面撫で。

田口下田尻遺跡77号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
626-1 276	須恵器 環	33	(10.4)	5.1	3.3		1/2	白色粒子 を含む	浅黄	還元	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。腰部に張りがあり、口縁部はわずかに外反する。	
626-2 276	須恵器 環	13・53	11.0	5.4	3.7		3/4	白色粒子 を含む	灰白	酸化気味	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。体部に張りがあり、口縁部は外反しない。	
626-3 276	須恵器 環	6	(12.9)	(6.2)	(4.3)		1/4	白色粒子 を含む	浅黄	還元	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。体部に張りがあり、口縁部はわずかに外反する。	
626-4 276	須恵器 環	19	10.8	5.3	3.7		完形	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。体部中位に張りがあり、口縁部はわずかに外反する。	
626-5 276	須恵器 塊	13・20	12.0	7.5	5.1		3/4	砂粒を含む		還元	右回転轆轤整形。高台は丁寧な付け高台で、端部は平坦で水平。体部に張りがあり、口縁部は外反する。	
626-6 276	須恵器 塊	23	-	7.0	(1.6)		底部	砂粒を含む	橙	酸化気味	右回転轆轤整形。高台は、底部回転系切り後の付け高台で、端部は平坦で水平。	
626-7	須恵器 塊	13	-	6.4	(2.1)		底部	砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	轆轤整形。高台は付け高台で、端部は平坦で水平。	
626-8	須恵器 塊	25	-	6.7	(2.2)		底部	砂粒を含む	淡黄	還元	右回転轆轤整形。高台は丁寧な付け高台で、端部は平坦で水平。	
626-9 276	黒色土器 塊	52	(12.2)	7.2	6.0		3/4	砂粒を含む	黒	還元	右回転轆轤整形。高台は丁寧な付け高台で、端部は平坦でやや内傾する。腰部の張りが強く、口縁部は外反しない。内面丁寧なヘラ磨き後黒色処理で、光沢がある。	
627-10 276	須恵器 塊	44・45	14.8	8.8	7.5		3/4	砂粒を含む	灰白	還元	右回転轆轤整形。高台は長脚で八字状に開く付け高台。体部の張りは弱く、口縁部は外反する。	高台内面黒斑 状変色
627-11 276	須恵器 塊	42	14.7	9.6	7.2		ほぼ完形	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化	右回転轆轤整形。高台は長脚で、八字状に開く付け高台で、内側に弱い段がある。体部の張りは弱く、口縁部の外反も弱い。	厚手で重い
627-12 276	須恵器 塊	15・16	15.6	9.8	7.4		ほぼ完形	砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	右回転轆轤整形。高台は長脚で八字状に開く付け高台で、端部は平坦で水平。体部の張りは弱く、口縁部は外反する。	内面煤付着
627-13 276	須恵器 塊	47・56	14.0	-	(4.0)		口縁～体 部片	砂粒を含む	灰黄	還元	右回転轆轤整形。体部の張りは弱く、口縁部は外反する。	底部欠損
627-14	須恵器 塊	1	(10.2)	-	(3.2)		口縁部片	砂粒を含む	灰白	還元	轆轤整形。腰部に張りがあり、口縁部は外反しない。	
627-15	須恵器 塊	67・70	-	7.0	(3.0)		底部	砂粒を含む	橙	酸化気味	轆轤整形。高台は丁寧な付け高台。	
627-16	須恵器 塊	22	-	-	(2.2)		底部	砂粒を含む	灰黄	還元	轆轤整形。高台は付け高台で、欠損。	
627-17 276	灰軸陶器 塊	7	(13.3)	7.5	3.9		3/4	細砂粒を 含む	灰白	還元	外底回転系切り後回転削り、体部外面も回転削り、持ち上げ痕1ヶ所残、漬掛けか、内面に重ね焼痕あり、内底磨減	
627-18 276	須恵器 鉢	52・60	(25.8)	(15.6)	17.3		口縁～底 部片	白色粒子 を含む	黒褐	酸化	轆轤整形。体部に弱い張りがあり、口唇部は平坦。口縁部から体部内面轆轤撫で、体部下半は弱いヘラ削り。	
628-19 276	須恵器 羽釜	55・58・ 85・88	(21.8)	-	(24.8)		口縁～胴 部下位片	白色粒子 を含む	橙	還元	右回転轆轤整形。口縁部は内傾し、口唇部は平坦で内傾。罫は上部内水平で、丁寧な貼付。胴部中位にやや張りがあり、上半轆轤撫で、下半斜位ヘラ削り、内面轆轤撫で。	口縁部から胴 部内外面に粘 土による補修 痕
628-20 277	須恵器 羽釜	46・50・ 69・71	(22.1)	-	(19.5)		口縁～胴 中位片	白色粒子 を含む	にぶい黄 橙	還元	轆轤整形。胴部上半に張りがあり、口縁部は内傾し、口唇部は平坦で内傾する。胴部上半から内面轆轤撫で。	煤付着
628-21 277	土師器 土釜	62	(23.8)	-	(16.6)		口縁～胴 部中位片	砂粒を含む	にぶい橙	酸化気味	口縁部はく字状で、胴部上位に弱い張りがある。口縁部横撫で後、胴部外面縦位ヘラ削り、内面ヘラナデ。	内面下半変色
628-22	須恵器 羽釜	49・98	-	(6.0)	(10.4)		胴部下位 ～底部片	砂粒を含む	橙	還元	轆轤整形。胴部内面轆轤撫で、外面は縦位ヘラ削り。	
628-23	須恵器 甕	24・27・34・ 35・38・74・ 4集石3・55 住15・水11	-	6.4	(12.6)		下半部	白色粒子 を含む	にぶい黄 橙	還元	胴部外面叩き不明、内面当て具素文。底部はヘラ削り。	
628-24 277	須恵器 甕	32	-	-	-		胴部片	白色粒子 を含む	灰	還元	叩き整形。内面当て具不明。外面平行叩き。	
628-25 277	鉄製品 釘か	32	(3.1)	0.8	0.5	1.3	破片				断面方形で、片側が「L」字状に肥厚している。一端は欠損しているため判然としないが、細身の釘の可能性が高く、27と同一個体と考えられる。	
628-26 277	鉄製品 鎌か	3	(4.9)	(2.0)	0.4	6.4	破片				薄い板状を呈しており、断面は欠損している方向に狭くなっているように見えることから、鎌の可能性が高い。	
628-27 277	鉄製品 釘か	4	(4.1)	0.6	0.6	1.6	破片				断面方形で、残存する一端は細く尖っていることから細身の釘と思われる。太さから25の先端部とも考えられる。	
628-28 277	鉄製品 不明	9	(3.9)	0.6	0.7	5.1	破片				断面が方形を呈する棒状の素材を曲げて「T」字形としたもので、用途は不明である。	

田口下田尻遺跡78号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
629-1	須恵器 塊	3・掘り 方	(14.7)	-	(4.8)		口縁部片	砂粒を含む	灰白	還元	轆轤整形。体部に張りがあり、口縁部は外反する。	器面磨減
629-2 277	灰軸陶器 塊	2	-	7.5	(4.4)		体中位～ 底部	白色粒子・ 細砂粒を 多く含む 、気孔多い	灰白	還元	口縁部欠、高台外面ににぶい稜をもつ、外底回転削り後高台貼付け、漬掛けか、内面に重ね焼痕あり、内底磨減	
629-3	須恵器 羽釜		-	-	-		口縁部片	砂粒を含む	灰黄	還元	口縁部は直立し、外面肥厚。口唇部は平坦で、やや内傾する。罫はやや上向きで丁寧な貼り付け。胴部内外面轆轤撫で。	
629-4 277	須恵器 羽釜	7	-	-	-		口縁部片	砂粒を含む	にぶい褐	酸化気味	口縁部は直立し、口唇部は平坦。罫は水平で、やや雑な張り付け。胴部内外面轆轤撫で。	
629-5 277	石製品 砥石		4.6	3.1	0.7	15.6	破片	砥沢石			砥面は3面で、2面は自然面。もう1面は割れた面である。	



田口下田尻遺跡79号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
631-1 277	土師器 環	2	12.2	-	3.2		3/4	精良	明赤褐	酸化	扁平な丸底で、口縁部はやや内湾ぎみに直立する。口縁部横撫で、底部へう削り、間に整形不明瞭な部分がある。	
631-2	土師器 台付甕	1	-	-	(4.2)		底部片	砂粒を含む	にぶい褐	酸化	台付甕の台部で、外面に上下の接合痕が顕著。	
633-3 277	石製品 砥石	5	(7.5)	5.1	3.9	198.0	1/3	砥沢石			4面の使用面があり、うち3面の研ぎ減りが顕著。	

田口下田尻遺跡80号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
635-1 277	須恵器 環	6	(9.8)	(5.0)	3.2		1/4	白色粒子を含む	浅黄	還元	轆轤右回転の成整形。底部は回転系切り無調整。体部中位にわずかに張りがあり、口縁部はやや外反ぎみ。	
635-2 277	須恵器 環	20	(11.5)	(6.0)	3.5		1/4	白色粒子を含む	にぶい黄 橙	酸化	轆轤成整形。底部回転系切り無調整。体部の張りは弱く、口縁部はわずかに外反する。	
635-3 277	須恵器 環	23	(11.8)	(5.8)	(3.2)		口縁～体 部片	砂粒を含む	橙	酸化気味	轆轤成整形。底部回転系切り無調整。体部の張りは弱く、口縁部はわずかに外反する。	
635-4 277	須恵器 塊	5	(10.7)	6.5	4.4		1/2	白色粒子を含む	灰	還元	轆轤右回転の成整形。高台は丁寧な付け高台で、端部は平坦に仕上げられている。腰部に張りがあり、口縁部は外反せず、口唇部は平坦に内傾する。	
635-5 277	須恵器 塊	8	-	9.2	(3.6)		底部	砂粒を含む	黄灰	還元	轆轤右回転の成整形。高台は整形が丁寧で、八字状に開く長脚の付け高台。	
635-6 277	須恵器 塊	2・21	18.2	-	(8.4)		1/4	砂粒を含む	にぶい橙	還元	轆轤右回転の成整形。体部中位に張りがあり、口縁部は短く外反する。高台は底部回転系切り後の付け高台で、外面の整形は丁寧だが、内面は接合部に段と隙間が生じている。内面はへう磨き後、黒色処理したものであるが、器面が摩滅しており、光沢は失われている。	体部内面上位に轆轤整形痕を残す
635-7 277	須恵器 塊		(11.3)	-	(3.6)		口縁部	細砂粒を含む	にぶい褐	酸化気味	丸みのある体部を有し、体部横位へう削り後、口縁部横撫で、内面は丁寧なへう磨き後黒色処理。	
635-8 277	須恵器 塊	24	-	(10.0)	(3.6)		底部片	砂粒を含む	灰黄	還元	轆轤右回転の成整形。高台は八字状に開く長脚の付け高台で、接合部には内外面ともわずかな段差が見られる。	
635-9 277	須恵器 土釜	17	-	6.6	(4.8)		胴下位～ 底部	砂粒を含む	にぶい橙	酸化気味	紐作り、轆轤整形。胴部下半縦位、下端横位へう削り。内面比較的雑な横位撫で。	
635-10	須恵器 土釜	18	-	(14.2)	(7.3)		胴下位～ 底部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化	轆轤整形。胴部内外面撫で、底部回転系切り無調整。	
636-11 277	須恵器 甕	1・3	(13.0)	-	(5.7)		口縁部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化	轆轤整形。口縁部は短く直立し、肩に張りを有する。内外面ともに轆轤撫で、内面の撫ではやや雑。	
636-12	須恵器 羽釜	7・22	(17.8)	-	(6.4)		口縁部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	紐作り、轆轤整形。口縁部は内傾し、鈎は反りぎみ。内外面ともに轆轤撫で。	
636-13 277	鉄製品 鎌	14	(13.6)	3.1	1.2	41.4	茎一部欠 損				長三角形鎌で、逆刺は短く鋭い。鎌中央には鋸が通り、基部は長方形を呈している。茎の断面も長方形を呈し、先端が欠損している。	14と錯ついで出土
636-14 277	鉄製品 鎌	14	(13.6)	3.1	1.2	41.4	茎一部欠 損				長三角形鎌で、逆刺は短く鋭い。鎌中央には鋸が通り、基部は長方形を呈している。茎の断面は方形を呈し、先端が欠損している。	13と錯ついで出土
636-15 277	鉄製品 鎌か	15	(14.1)	7.0	0.7	16.0	両端欠損				断面方形の棒状のもので、鎌の茎の可能性はある。	
636-16 277	鉄製品 刀子	32	(15.3)	1.8	0.6	20.2	ほぼ完形				棟区、刃区ともに明瞭で、棟はやや逆反りぎみである。刃部は研ぎ減りでやや内湾ぎみとなっている。茎は断面長方形で、先端が欠損している。	
636-17 277	鉄製品 不明		5.7	5.6	1.2	26.5	完形				断面長方形の素材を「ロ」字状に曲げたもので、馬具の辻金具のような用途が想定できる。	

田口下田尻遺跡81号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
637-1 277	須恵器 環	18	10.3	6.5	3.0		ほぼ完形	砂粒を含む	灰赤褐	酸化	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。腰部の張りが強く、口縁部は外反する。底部黒斑状に変色。	
637-2 277	須恵器 環	22	10.2	6.4	3.4		ほぼ完形	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。腰部の張りが強く、口縁部はやや反りぎみに直立する。見込み部の轆轤整形痕顕著。	
637-3 277	須恵器 環	3・30	(9.8)	(5.3)	(2.7)		1/2 底部 中央欠	白色粒子を含む	にぶい橙	酸化気味	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。腰部の張りが強く、口縁部はわずかに外反する。	
639-4 277	須恵器 環	24	10.4	5.0	3.4		ほぼ完形	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。腰部の張りが強く、口縁部はわずかに外反する。見込み部の轆轤整形痕顕著。	
639-5 277	須恵器 環	2	10.5	6.5	2.9		ほぼ完形	砂粒を含む	浅黄	還元	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。体部中位に張りがあり、口縁部は外反する。	
639-6	須恵器 環	23・28	-	5.1	(2.0)		底部	砂粒を含む	にぶい橙	酸化気味	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。	
639-7 277	須恵器 塊	16	10.0	5.4	4.8		ほぼ完形	砂粒を含む	浅黄橙	還元	右回転轆轤整形。高台は三角高台状で、底部回転系切り後の付け高台。体部の張りは弱く、口縁部は外反する。体部外面の轆轤整形痕顕著。	系切りの底部突出
639-8 277	須恵器 塊	11	11.4	6.8	4.8		1/2	砂粒を含む	浅黄橙	還元	右回転轆轤整形。高台は丁寧な付け高台で、端部は平坦で水平。体部中位に張りがあり、口縁部は外反し、口唇部は平坦で、わずかに内傾する。	体部に製作時の補修痕
639-9 277	須恵器 塊	9	(12.0)	(6.8)	5.3		1/4	白色粒子を含む	灰	還元	右回転轆轤整形。高台は丁寧な付け高台。体部に張りがあり、口縁部はわずかに外反する。	いぶし焼成
639-10 277	須恵器 塊	5	(16.2)	-	(6.2)		口縁～体 部片	砂粒を含む	にぶい橙	酸化気味	轆轤整形。腰部の張りが強く、口縁部はわずかに外反し、口唇部は平坦で、平坦面は内傾する。	
639-11 277	須恵器 塊	13・14	(14.5)	(9.2)	6.7		3 / 4	砂粒を含む	にぶい橙	酸化気味	右回転轆轤整形。高台は長脚で八字状に開き、端部に水平な平坦面を持つ。腰部に張りがあり、口縁部は外反する。	
639-12 277	須恵器 塊	40・41	(13.6)	-	(4.9)		口縁～体 部	砂粒を含む	橙	酸化気味	右回転轆轤整形。体部に張りがあり、口縁部は外反する。	
639-13	黒色土器 塊	46	(11.0)	-	(4.0)		口縁～体 部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	轆轤整形。体部に張りがあり、口縁部は外反する。内面丁寧なへう磨き後黒色処理され、光沢がある。	
639-14 277	黒色土器 塊		-	-	(3.2)		体中位～ 底部(高 台欠損)	砂粒を含む	明赤褐	酸化気味	轆轤整形。高台は付け高台で、貼り付け部から剥落。腰部の張りが強く、内面は丁寧なへう磨きで、黒色処理されたものが焼き戻されたものと思われる。	
639-15 277	須恵器 塊	37	-	8.9	(3.6)		底部	白色粒子を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	右回転轆轤整形。高台は長脚で、八字状に開く丁寧な付け高台。	
639-16	須恵器 塊	10	-	6.0	(1.4)		底部	砂粒を含む	灰白	還元	右回転轆轤整形。高台は底部回転系切り後のやや雑な付け高台。	器面摩滅
639-17	須恵器 塊	32	-	6.4	(2.0)		底部	砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	右回転轆轤整形。高台は丁寧な付け高台で、端部は平坦で窪みが巡る。	



遺物観察表

639-18	須恵器 甕		(17.0)	-	(2.3)		口縁部片	白色粒子を含む	灰	還元	轆轤整形。口縁部は有段で、直立する口縁部外面に2条の沈線が巡る。頸部に櫛描き波状文が見られるが、単位は不明。	内外面自然釉
639-19 277	須恵器 羽釜	12・19・ 36・38	(24.0)	-	(15.9)		上半部片	砂粒を含む	灰黄	還元	右回転轆轤整形。口縁部は内傾し、口唇部は平坦でやや内傾する。銚は水平で、丁寧な貼付。胴部は銚下から縦位へラ削り、内面轆轤撫で。	
639-20	須恵器 羽釜		-	-	-		口縁部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	轆轤整形。口縁部は反りぎみに直立し、口唇部は平坦でわずかに内傾する。銚は上面水平で、丁寧な貼付。胴部内外面轆轤撫で。	器面摩滅
639-21	須恵器 土釜	15	-	-	-		口縁部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	口縁部はC字状で厚い。口縁部横撫で、胴部斜位へラ削り。	
639-22 277	鉄製品 釘か	26	(7.2)	0.8	0.5	5.6	1/2				断面が楕円形を呈し、残存する一端が尖っていることから釘と思われる。	
639-23 277	鉄製品 釘か	50	(6.9)	1.3	1.1	10.8	破片				断面方形の棒状のもので、釘の可能性が高い。	
639-24 277	鉄製品 釘か		(10.2)	0.4	0.4	0.7	破片				断面方形で、一端がやや細身になることから釘の可能性が高い。	

田口下田尻遺跡82号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
642-1 278	須恵器 環	27	10.2	5.5	3.3		完形	細砂粒を含む	橙	酸化	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整でわずかに突出。腰部の張りが強く、口縁部は外反しない。	
642-2	須恵器 環	51	-	5.0	(1.9)		底部	細砂粒を含む	橙	酸化	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。	
642-3	須恵器 環	23	-	(6.6)	(2.0)		底部片	白色粒子を含む	灰	還元	轆轤右回転の成整形。底部回転系切り無調整。	
642-4 278	須恵器 環	41	13.7	6.9	6.2		ほぼ完形	細砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	右回転轆轤整形。高台は丁寧な付け高台で、端部は摩滅。腰部の張りが強く、口縁部下に当て具痕があり、段を形成。	
642-5 278	須恵器 環	36	(15.6)	7.4	6.6		1/2	細砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	右回転轆轤整形。高台はやや雑な付け高台で変形。体部の張りは弱く、口縁部はわずかに外反する。	内面荒れ
642-6 278	黒色土器 壺	40・42	14.5	6.5	5.8		ほぼ完形	細砂粒を含む	外黄 内褐	還元	轆轤整形。高台は丁寧な低い付け高台。体部の張りが強く、口縁部は外反しない。内面は全体にへら磨き後、十字状とその先端部分及び間に螺旋状の磨きを加え文様化し、黒色処理。	体部外面の摩滅顕著
642-7 278	黒色土器 壺		-	7.0	(4.8)		体中位～ 底部	砂粒を含む	浅黄 内黒	還元	轆轤整形。高台は三角高台状で、底部回転系切り後の比較的丁寧な貼付。体部に張りがあり、内面は丁寧なへら磨き後黒色処理。	
642-8 278	灰釉陶器 壺	61・64・ 72	(16.0)	7.7	6.3		1/2	細砂粒を含む	灰	還元	外底右回転削り後高台貼付け、高台脇外面回転削り、漬掛けか、内面に重ね焼痕あり磨滅	
642-9 278	灰釉陶器 壺		(13.3)	(5.9)	(4.2)		1/4	白色粒子・細砂粒を含む	灰白	還元	高台外面に稜をもつ、高台脇外面回転削り、漬掛けか、内面に重ね焼痕あり磨滅	
642-10 278	灰釉陶器 壺	77	(16.1)	(7.6)	(4.9)		口縁～底 部片	精良、気孔あり	灰白	還元	高台外面に稜をもつ、外底回転削り後高台貼付け、体部外面も回転削りか、漬掛け、内底磨滅	
642-11	灰釉陶器 壺		(16.5)	-	(3.8)		口縁部片	細砂粒を含む	灰白	還元	口唇部内面に稜をもつ、体部外面下位回転削り、ハケ掛けか、内面磨滅	
642-12 278	灰釉陶器 壺	26	-	(8.0)	(2.0)		底部	精良、気孔あり	灰白	還元	高台外面に稜をもつ、外底右回転削り後高台貼付け、高台脇外面回転削り、軸わずか残、内面重ね焼痕あり磨滅	
642-13 278	緑釉陶器 壺か皿	1	-	(8.2)	(2.4)		底部片	A	にぶい黄 橙	不良	素地酸化。底部内面へら磨き。	
642-14	土師器 甕		(12.7)	-	(4.4)		口縁部片	砂粒を含む	黒褐	酸化	小型の土釜で、C字状に強く外反する口縁部を有する。口縁部横撫で、胴部内外面ともに横位の撫でを施す。	
642-15	須恵器 瓶		-	(19.4)	(10.8)		胴下位～ 底部片	白色粒子を含む	黄灰	還元	紐作り、轆轤整形。胴部中位は轆轤整形痕を残し、下端は横位のへら削り、内面は横位の撫でを施す。	
643-16 278	土師器 羽釜	5・6・7	(18.8)	-	(13.1)		口縁～胴 部下位片	砂粒を含む	黒褐	酸化気味	口縁部は内傾し、口唇部は丸い。銚は短く水平でやや雑な貼付で、下部に隙間があり、一部変形する。胴部の張りは弱く鍋状に浅い。口縁部撫で、胴部へら削り、内面撫で。	胴部外面に煤付者顕著
643-17 278	須恵器 羽釜	44・71・カ マド	(19.8)	-	(18.4)		上半部片	白色粒子を含む	灰黄褐	還元	紐作り、轆轤整形。口縁部が内傾し、胴部上半に弱い張りを有する。胴部外面は回転による雑な撫で、内面は横位の撫でを施す。	
643-18	土師器 土釜	57	(18.1)	-	(6.8)		口縁部片	砂粒を含む	灰黄褐	酸化	口縁部は弱く外反し、端部は外面肥厚する。口縁部横撫で、胴部は粗いへら削りを施す。	
643-19	土師器 土釜	カマド	(19.4)	-	(6.9)		口縁部片	砂粒を含む	にぶい黄 褐	酸化気味	口縁部はC字状に短く外反する。口縁部横撫で後、胴部は撫で、内面横位の撫でを施す。	
643-20 278	土師器 土釜	35・43・ カマド・	(21.2)	-	(12.4)		上半部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化	口縁部はC字状に短く外反し、胴部上半に張りを有する。口縁部粗い横撫で後、胴部横位の粗い撫で、内面横位のへらナデを施す。	外面煤付着
643-21 278	土師器 土釜	2・3・20・カ マド・振り方・ 掘り方	(23.3)	7.4	(24.7)		上半部片、胴 中位～底部	砂粒を含む	橙、にぶい 黄橙	還元	口縁部はC字状に短く外反し、肩部に最大径を有する。口縁部横撫で後、胴部縦位のへら削り、内面横位の撫でを施す。	
643-22 278	鉄製品 釘	78	(11.4)	1.4	1.2	26.6	頭部欠損				断面長方形で、残存する一端は先細りで尖っている。頭部を欠損した釘と考えられる。	
643-23 278	鉄製品 不明	37	10.4	1.0	0.7	10.1	完形か				断面長方形を呈する棒状のもので、両端が細くなっている。用途は不明である。	
643-24 278	鉄製品 紡錘車	28	4.2	4.1	0.7	10.7	軸欠損				紡錘部分と考えられ、軸は残存していなかった。	
643-25 278	鉄製品 刀子	50	14.2	2.1	1.1	40.4	完形か				刀子形をしているが、断面は各部分ともに長方形を呈しており、刃にあたる部分は見られない。鉄素材の可能性が高い。	
643-26 278	鉄製品 壺金具	29	4.7	2.8	0.8	14.6	ほぼ完形				断面四角形の素材を鍵孔状に曲げ、脚の両端を外側に強く折り曲げている。扉の軸受のようなものか	
643-27 278	鉄銅複合品 鉸具	74	3.6	4.2	1.4	16.8	ほぼ完形				緑金は細板状の青銅製素材を「コ」字状に曲げたものの両端をさらに短く折り曲げ、これを中央に方形の孔を開けた鉄板で挟み、革帯に鉸で固定するとともに可動する構造としている。同様に青銅製の「T」字形の刺金も鉄板で挟むことで可動としている。	革帯の一部残存

田口下田尻遺跡83号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
645-1	須恵器 環	29	-	7.3	(1.3)		底部	細砂粒を含む	灰	還元	右回転轆轤整形。底部は回転系切り無調整。	
645-2 278	土師器 壺	11	10.8	6.2	4.2		ほぼ完形	白色粒子を含む	灰褐	酸化	紐作り。底部は砂底で、高台は三角高台状の付け高台。腰部に張りはなく、口縁部は短く外反する。体部外面横位撫で、内面撫で。	
645-3 278	須恵器 壺	42	(13.8)	7.0	6.4		1/2	砂粒を含む	にぶい黄 褐	還元	右回転轆轤整形。高台は底部回転系切り後の丁寧な付け高台で、端部は平坦で浅い窪みが巡る。体部中位に張りがあり、口縁部は外反する。	
645-4 278	須恵器 壺	39	(13.7)	(6.3)	5.4		1/4	細砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	右回転轆轤整形。高台は丁寧な付け高台。体部に弱い張りがあり、口縁部は外反する。	

645-5	須恵器 埴	47	-	6.0	(2.0)		底部	砂粒を含む	にぶい 橙	酸化気味	轆轤整形。高台は三角高台状の付け高台。	
645-6 278	須恵器 埴	46	-	5.5	(2.6)		体中位～ 底部	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	轆轤整形。高台はやや雑な付け高台。	
645-7 278	須恵器 埴	43	-	-	(1.7)		体中位～ 底部	砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	右回転轆轤整形。高台は底部回転糸切り後の付け高台で、貼り付け部から剥離。	
645-8	須恵器 埴	10	(12.9)	-	(5.3)		口縁部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	右回転轆轤整形。高台は底部回転糸切り後の付け高台で、貼り付け部から剥離。	
645-9 278	須恵器 埴	31	-	-	(2.1)		体中位～ 底部	細砂粒を含む	灰黄	還元	右回転轆轤整形。高台は、底部回転糸切り後の付け高台で、貼り付け部から剥離。	
645-10 278	灰釉陶器 埴	16	(15.8)	-	(4.6)		口縁～下 位片	細砂粒を含む	灰白	還元	口唇部に丸味あり、口縁部外面に持ち上げ痕、内面釉不明、内面磨滅。	
645-11 278	灰釉陶器 埴	1	(16.8)	8.0	5.6		1/4	白色粒子を多く含む	灰白	還元	高台外面に稜をもつ、外底-体部外面右回転削り高台貼付け、ハケ掛け、内底に重ね焼痕あり、内面磨滅。	
645-12 278	灰釉陶器 瓶	4	-	7.0	(5.6)		胴部下位 ～底部	精良、気孔あり	灰白	還元	底部中央にヒビ割れ、体部内面回転撫で、体部外面下位削り、外底撫で、内面に灰被りか	
646-13 278	須恵器 鉢	9	21.4	9.6	12.0		1/2	砂粒を含む	黒褐	酸化	轆轤整形。胴部上半に弱い張りがあり、口縁部は短く反りぎみに直立する。口縁部から胴部内面轆轤撫で、胴部外面縦位へら削り、底部撫で。羽釜の胴部下半と共通する。	口縁部外面におこげ炭化物付着
646-14 278	土師器 甕	40	(16.7)	-	(16.9)		口縁～胴 部下位片	砂粒を含む	褐	酸化	口縁部はコ字状で、胴部上位に張りがある。口縁部横撫で、肩部横位へら削り、下位は斜位へら削り、内面横位へらナデ。	
646-15 278	土師器 甕	41	(16.7)	-	(10.4)		口縁～肩 部片	砂粒を含む	にぶい赤 褐	酸化	口縁部はコ字状で、胴部上位に張りがある。口縁部横撫で、肩部横位へら削り、内面横位へらナデ。頸部に接合痕。	
646-16 278	土師器 甕	38	(18.0)	-	(9.7)		口縁～肩 部片	砂粒を含む	黒褐	酸化	口縁部はC字状に外反し、肩部に強い張りがある。口縁部横撫で、肩部横位、肩下は斜位へら削り、内面木口状工具の横位へらナデ。	
646-17	須恵器 羽釜	45	-	-	-		口縁部片	砂粒を含む	褐	酸化気味	轆轤整形。口縁部は直立し、口唇部はやや平坦。鈎は水平で、やや雑な貼り付け。内外面ともに轆轤撫で。	
646-18 278	鉄製品 不明		(3.4)	0.9	0.5	2.3	破片				断面長方形を呈する棒状の製品で、両端を欠損するため用途の特定はできないが、太さから鎌の茎の可能性はある。	
646-19 278	鉄製品 不明	28	(5.1)	0.8	0.6	3.8	破片				断面が円形を呈する棒状の製品で、両端を欠損するため用途は不明である。	
646-20 278	鉄製品 不明	26	(6.8)	0.7	0.4	2.8	破片				断面長方形の棒状の製品で、両端を欠損するため用途は判然としないが、鎌の茎の可能性はある。	
646-21 278	鉄製品 刀子		(12.3)	1.7	0.8	19.0	両端欠損				棟区は比較的明瞭に残存し、刃区は研ぎ減りのためか明瞭ではない。	

田口下尻遺跡84号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(段) cm	底径(輪) cm	器高(脚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
648-1 279	須恵器 環	30	10.0	4.7	3.5		1/2	砂粒を含む	にぶい 橙	酸化気味	右回転轆轤整形。底部回転糸切り無調整。腰部がやや張り、口縁部は外反する。	
648-2	須恵器 環		-	(6.0)	(1.2)		底部片		灰白	還元	右回転轆轤整形。底部切り離し後回転へら削り。	見込み部に油煙状付着物
648-3	須恵器 環	48	-	(6.0)	(1.4)		底部片	砂粒を含む	灰白	還元	轆轤整形。器面磨滅のため底部切り離し不明。	
648-4	須恵器 環	13	-	(5.0)	(2.6)		1/4	砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	轆轤整形。底部へら削り。	
648-5 279	土師器 埴	32	11.2	7.2	5.9		完形	砂粒を含む	橙	酸化気味	体部の張りは弱く、口縁部は短く直立する。底部は砂底で、高台は丁寧な付け高台。口縁部横撫で、体部斜位へら削り、内面横位撫で、輪積み痕を残す。	
648-6 279	土師器 埴	28	11.0	6.1	4.1		完形	砂粒を含む	灰黄褐	還元	体部の張りは弱く、口縁部は短く直立する。底部は砂底で、高台は丁寧な付け高台。口縁部横撫で、体部横位へら削り、内面横位撫で、輪積み痕を残す。	
648-7 279	土師器 埴	21	(10.0)	6.0	4.1		1/2	砂粒を含む	橙	酸化気味	体部の張りは弱く、口縁部は短く直立する。底部は砂底で、高台は丁寧な付け高台。口縁部横撫で、体部横位へら削り、内面横位撫で、輪積み痕を残す。	
648-8 279	須恵器 埴	12	(10.2)	(5.5)	4.3		1/2	砂粒を含む	灰黄	還元	体部の張りは弱く、口縁部は短く直立する。高台は丁寧な付け高台。口縁部横撫で、体部横位へら削り、内面横位撫で、輪積み痕を残す。	
648-9 279	須恵器 埴	6・19	(13.7)	6.8	6.8		1/2	砂粒を含む	灰黄	還元	右回転轆轤整形。高台は付け高台で、端部は平坦で浅い窪みが巡る。体腰部に張りがあり、口縁部は外反しない。	
648-10 279	須恵器 埴	34	11.2	5.7	4.4		ほぼ完形	小石を含む	にぶい黄 橙	還元	体部の張りは弱く、口縁部は短く直立する。底部は砂底で、高台は丁寧な付け高台。口縁部横撫で、体部横位へら削り、内面横位撫で、輪積み痕を残す。	
648-11 279	須恵器 埴	6・22	11.4	(6.5)	4.8		ほぼ完形	砂粒を含む	橙	酸化気味	轆轤整形。高台は丁寧な付け高台で、端部は内径し、窪みが廻る。腰部の張りが強く、口縁部は外反しない。	
648-12 279	須恵器 埴	17	(13.0)	-	(5.5)		1/2 高 台端部欠 損	白色粒子を含む	褐	酸化気味	右回転轆轤整形。高台は丁寧な付け高台。体部に張りがあり、口縁部は外反する。	
648-13 279	須恵器 埴	45	14.3	8.0	8.0		ほぼ完形	砂粒を含む	灰黄	還元	右回転轆轤整形。高台は長脚で丁寧な付け高台。腰部に弱い張りがあり、口縁部は外反する。体部内外面に細かな轆轤整形痕を残す。	
648-14 279	灰釉陶器 輪花埴	1・2	16.5	8.1	6.1		口縁～底 部片、口 縁部片	細砂粒を含む	灰白	還元	轆轤整形。高台は崩れた三日月高台で、底部回転糸切り後の付け高台。施釉は漬け掛けで、内外面ともに発色は悪い。体部に張りがあり、口縁部はわずかに外反し、4カ所に押しし輪花としている。見込み部に重ね焼き痕を残し、釉薬の流れが及んでいる。	
648-15 279	灰釉陶器 皿	16	-	(6.8)	(2.2)		体中位～ 底部	細砂粒を含む、気孔多い	灰白	還元	轆轤整形。高台は低い三日月高台状で、底部回転へら削り後の付け高台で、端部の一部は重ね焼きにより剥離。施釉技法は不明で、釉薬の流れが重ね焼き部に及び、高台端部が融着している。	
648-16	須恵器 埴		-	(6.0)	(1.9)		底部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	轆轤整形。高台は底部回転糸切り後の付け高台。	
648-17	灰釉陶器 長頸瓶		(15.0)	-	(4.1)		口縁部片	精良、気孔多い	灰白	還元	轆轤整形。瓶の頸部で、口縁部は有段。施釉は丁寧な刷毛掛けで、外面は厚く発色も良い。	
649-18	須恵器 甕	14	-	-	-		胴部片	白色粒子を含む	褐灰	還元	叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。外面細かな平行叩き、内面当て具素文。外面に自然釉。	
649-19 279	須恵器 甕		-	-	-		胴部片	細砂粒を含む	灰白	還元	甕の破片で、外面細かな平行叩き、内面当て具不明。	

遺物観察表

649-20 279	土師器 羽釜	29・31・ 43・46・ 50	(19.8)	(7.0)	26.3		1/2	砂粒を含む	褐	還元	紐作り。口縁部は短く直立し、端部は丸みがある。罫は水平で丁寧な貼付であるが、上面接合部の内外面に指先で押さえた痕跡が顕著。罫より下半の胴部上半横位、下半斜位ヘラ削り、内面に上下の接合痕を残し、これより上半雑な横位撫で、下半丁寧な撫で。底部砂底。	
649-21 279	須恵器 羽釜	18・33・ 35-38	(20.8)	(6.0)	25.2		1/4	小石を含む	にぶい橙	酸化	轆轤整形。口縁部は反りぎみに内傾し、口唇部は平坦で窪みが巡り、内傾する。罫は上向きで、丁寧な貼り付け。胴部内外面ともに轆轤撫で。	
649-22	須恵器 羽釜	5	(18.8)	-	(4.9)			口縁部片	砂粒を含む	浅黄	還元	轆轤整形。口縁部はやや内傾し、口唇部は平坦で浅い窪みが巡り、外面にわずかに肥厚する。罫は上向きで丁寧な貼り付け。内面轆轤撫で。
649-23 279	須恵器 羽釜	39・40	(20.0)	-	(10.8)			口縁部片	砂粒を含む	にぶい褐	還元	轆轤整形。口縁部は内傾し、端部はやや丸みがある。罫は水平で丁寧な貼付。胴部内外面ともに轆轤撫で。
649-24 279	灰釉陶器 平瓶	10・11・ 40・44	(25.5)	(16.2)	(11.9)			肩～底部片	細砂粒を含む、気孔あり	灰黄	還元	轆轤整形。算盤玉状の体部を有し、天井部中央内面に円孔を粘土板で塞いだ痕跡が顕著。体部下半は回転ヘラ削り、内面は撫で。高台は付け高台で、端部に内傾する平坦面がある。把手基部側面にはヘラによる面取りが見られる。施釉は刷毛掛けと見られ、体部上面に厚く施釉され、体部下半には施釉されない。頸部と板状の把手は欠損。
649-25 279	鉄製品 不明	25	(4.7)	0.8	0.6	9.2		破片				断面長方形で、釣針状を呈するが、端部が欠損していることから本来の形状から若干の変形を受けているものと考えられる。辻金具のようなものか。
649-26	鉄製品 釘か	24	(5.2)	0.8	0.8	9.7		破片				断面長方形で、両端を欠損しているため用途を特定しにくい。一端が若干細くなることから釘の可能性が高い。

田口下田尻遺跡85a号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
651-1	土師器 環		(12.8)	-	(3.2)			口縁部片	砂粒を含む	にぶい赤褐	酸化	体部は外傾し、口縁部は短く内湾ぎみに直立する。口縁部横撫で、体部指押さえ、内面横位撫で。
651-2	土師器 環		-	(7.0)	(1.6)			底部片	砂粒を含む	赤褐	酸化	底部がわずかに突出する。
651-3 279	須恵器 台付鉢か	カマド	-	9.5	(3.4)			台部	砂粒を含む	にぶい黄橙	還元	右回転轆轤整形。高台はやや長脚の丁寧な付け高台で、端部は平坦。
651-4 279	須恵器 壺		-	-	-			口縁部片	砂粒を含む	にぶい橙	酸化気味	轆轤整形。体部の張りは弱く、口縁部はわずかに外反する。体部外面に墨書。文字判読不能。
651-5 279	灰釉陶器 壺	カマド	-	6.6	(1.4)			底部片	白色粒子を含む、気孔多い	灰白	還元	轆轤整形。高台は三日月高台で、底部回転ヘラ削り後の丁寧な付け高台。見込み部に重ね焼き痕を残し、釉薬の流れが及んでいる。
651-6 279	灰釉陶器 壺		-	(7.7)	(1.5)			底部片	白色粒子・小石を含む、気孔多い	灰白	還元	轆轤整形。高台は低い三日月高台で、底部回転系切り周辺ヘラ削り後の付け高台。体部欠損のため施釉技法不明。見込み部に小穴が抜けた孔が見られる。
651-7 279	須恵器 盤		(24.4)	-	(2.2)			口縁部片	白色粒子を含む	灰	還元	轆轤整形。体部下半ヘラ削り。口唇部はシャープで窪み状を呈する。
651-8 279	須恵器 短頸壺	カマド	-	-	(13.7)			上半部片	砂粒を含む	灰黄	還元	轆轤整形。口縁部は短くC字状に外反する。胴部中に張りがあり、胴部上半轆轤撫で、下半斜位ヘラ削り、内面横位撫で。
651-9 279	須恵器 甕	1	-	-	-			頸部片	白色粒子を含む	灰	還元	頸部破片で、ごく浅い沈線を2条巡らせ、上下に3本単位の太い櫛状工具で2単位の波状文を施文。内面撫で。
651-10	須恵器 羽釜	カマド	(26.2)	-	(9.4)			口縁部片	白色粒子を含む		酸化気味	轆轤整形。口縁部は反りぎみに直立し、端部は平坦で外傾する。罫は水平で丁寧な貼り付け。残存部の内外面は轆轤撫で。
651-11 279	須恵器 円形土盤		5.2	4.6	1.6			完形	精良	灰白	還元	外面に平行叩きのある須恵器甕の破片を加工した円盤状土製品。縁辺摩滅周辺は7カ所程度の加工痕がある。
651-12 279	鉄製品 釘か		(3.1)	1.1	0.4	1.5		破片				断面方形で、残存する一端が先細になっていることから釘と考えらる。

田口下田尻遺跡86号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
653-1	須恵器 環	3	(10.8)	(5.0)	3.1		1/4	砂粒を含む	灰白	還元	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。腰部に強い張りがあり、口縁部は外反する。	
653-2 279	須恵器 壺	16	-	(6.5)	(3.0)			体中位～ 底部	砂粒を含む	黒褐	還元	右回転轆轤整形。高台は丁寧な付け高台で、端部は平坦。見込み部に轆轤整形痕を明瞭に残す。
653-3 279	灰釉陶器 壺	1	(17.1)	(7.9)	5.9		1/4	細砂粒を含む	灰白	還元	轆轤整形。高台はシャープさのない三日月高台で、底部雑なヘラ削り後の付け高台。体部に弱い張りがあり、口縁部は短く外反する。施釉は漬け掛けで、内外面ともに発色は悪い。	
653-4	須恵器 羽釜	11	-	-	-			口縁部片	砂粒を含む	明褐	酸化気味	口縁部は直立し、罫は水平で、比較的丁寧な貼り付け。罫から胴部内面は轆轤撫で、罫より下位の胴部外面縦位ヘラ削り。

田口下田尻遺跡87号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
655-1	須恵器 環	4	-	(5.6)	(1.3)			底部	白色粒子を含む	黄灰	還元	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。
655-2 279	須恵器 壺	20	-	8.4	(2.7)			底部	白色粒子を含む	にぶい黄褐	還元	右回転轆轤整形。高台はやや長脚の丁寧な付け高台。高台内面変色。
655-3	黒色土器 壺	掘り方	(14.3)	-	(4.8)			口縁～ 体部片	砂粒を含む	にぶい黄褐	酸化気味	轆轤整形。体部上位に張りがあり、口縁部は外反する。内面は丁寧なヘラ磨き後黒色処理。
656-4 279	黒色土器 壺	5	-	6.6	(3.2)			体中位～ 底部	白色粒子を含む	明褐	酸化気味	右回転轆轤整形。高台は底部回転系切り後の付け高台。内面は丁寧なヘラ磨き後黒色処理したものと考えられるが、吸炭が不十分で褐色を呈する。
656-5 279	土師器 壺か		(20.2)	-	(3.8)			口縁部片	砂粒を含む	赤褐	酸化	口縁部は外反する。口縁部横撫で、内面撫で。
656-6 279	土師器 土釜か	8・13・ 14	-	7.8	(9.4)			下半部	砂粒を含む		酸化気味	胴部外面斜位ヘラ削り、内面撫で。
656-7 279	鉄製品 釘か		(3.2)	1.0	0.7	3.7		破片				断面方形で、頭部は片側にわずかに突出させている。

田口下田尻遺跡88号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
658-1 280	須恵器 環	11・47	(10.8)	(6.0)	3.7		1/2	砂粒を含む	にぶい黄橙	還元	轆轤整形。底部切り難し不明。体部に張りはなく、口縁部は直線的に外傾する。	
658-2 280	須恵器 壺	39・41・ 掘り方	(12.7)	(9.9)	7.1		1/4	細砂粒を含む	褐灰	還元	轆轤整形。高台は長脚で八字状に開く付け高台。腰部に張りがあり、口縁部はわずかに外反する。	



遺物観察表

658-3 280	灰釉陶器 埴	25・27・ 32・42	(15.4)	(3.9)	5.2		1/4	細砂粒を 含む	灰白	還元	左回転轆轤整形。高台は、三日月高台で、底部回転系切り、周辺へら削り後の丁寧な付け高台。体部に弱い張りがあり、口縁部は外反しない。施釉は漬け掛けで、内外面ともに光沢はあるが発色は悪い。見込み部に重ね焼き痕を残す。
658-4 280	灰釉陶器 埴	46	-	(7.4)	(1.7)		底部片	白色粒子・細砂粒を含む、気孔多い	灰黄	還元	轆轤整形。高台は三日月高台で、底部回転へら削り後の付け高台。端部の一部は重ね焼きにより剥離している。体部欠損のため施釉技法は不明。
658-5 280	土師器 鉢か	13・14	-	8.7	(8.8)		下半部	白色粒子を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	底部は突出し、砂底で周辺部撫で。胴部下半縦位へら削り、下端横位撫で、内面撫で。
658-6	須恵器 鉢か	カマド	(27.8)	-	(5.3)		口縁部片	砂粒を含む	灰	還元	轆轤整形。口縁部は外反し、端部は平坦で沈線状の窪みが巡る。
658-7 280	須恵器 羽釜	15・16・ 22・26・ 28・43	(18.1)	-	(20.4)		口縁～胴 部下位片	砂粒を含む	にぶい褐	酸化気味	轆轤整形。口縁部は内傾し、端部は平坦で内傾、わずかに内面肥厚する。罫は短くやや上向きで、丁寧な貼付。胴部上半から内面轆轤撫で、胴部外面下半斜位へら削り。
658-8 280	土師器 土釜	2・3・12・ 23・24・ 31・35・36	18.6	-	(23.3)		口縁～胴 部下位	砂粒を含む	にぶい橙	酸化気味	口縁部はC字状で、胴部上半に張りがある。口縁部横撫で、胴部上半横位、下半縦位へら削り、内面横位へらナデで、胴部中に上下の接合痕が顕著で、口縁部直下にも接合痕がある。
658-9	須恵器 土釜	4	(22.8)	-	(8.2)		口縁部片	砂粒を含む	にぶい橙	酸化気味	轆轤整形。口縁部は屈曲し受け口状を呈する。
658-10 280	土師器 土釜	20・21・ 33	(21.5)	-	(12.5)		口縁～肩 部片	砂粒を含む	明赤褐	酸化気味	口縁部はく字状で、胴部上半に張りがある。口縁部横撫で後、肩部と胴部中位で角度の異なるへら削り。内面は雑な横位へらナデ。

田口下田尻遺跡89号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
660-1 280	須恵器 環	7	(13.0)	5.0	5.0		1/2	白色粒子 を含む	明赤褐	酸化気味	轆轤右回転の成整形。底部回転系切り無調整。底部は小さく、体部に張りは弱い。体部外面に墨書、文字は判読不能。	口縁部の一部に被熱痕跡一部に歪み
660-2 280	須恵器 環	6	-	5.1	(2.4)		体中位～ 底部	砂粒を含む	灰	還元	轆轤右回転の成整形。底部回転系切り無調整。底部と見込み部に焼成後の「×」の刻書。	焼し焼成
660-3	土師器 甕		(21.2)	-	(3.6)		口縁部片	砂粒を含む	灰黄褐	酸化	口縁部は外反する。	
660-4	土製品 土鉢	1	6.6	1.6	孔径 0.6	12.6	完形	細砂粒を 含む	明褐	酸化	紡錘形を呈し、両端部は面取りされていない。器面は撫で。	
660-5 280	土製品 土鉢	2	6.1	1.3	孔径 0.3	12.1	完形	細砂粒を 含む	橙	酸化	紡錘形を呈し、両端部は面取りされ、器面は撫で。	

田口下田尻遺跡90号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
662-1	須恵器 埴	23	(14.3)	6.1	5.6		1/2	砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	轆轤右回転の成整形。高台は底部回転系切り後の付け高台。体部内外面ともに摩滅。	
662-2 280	須恵器 埴	6・8	13.2	6.4	5.4		ほぼ完形	砂粒を含む	黄灰	還元	轆轤右回転の成整形。高台は底部回転系切り後の付け高台で、端部に沈線状の窪みを巡らせるが、整形はやや粗雑である。内面の撫では丁寧で、外面には轆轤整形痕が顕著である。	体部に歪み
662-3	須恵器 埴		(15.2)	-	(4.2)		口縁部片	砂粒を含む	灰黄	還元	轆轤整形。体部に弱い張りを有し、口縁部はわずかに外反する。	
662-4	須恵器 皿		(13.6)	-	(2.2)		口縁部片	砂粒を含む	黄灰	還元	轆轤整形。口縁部が外反する。	
662-5 280	須恵器 埴	22	-	6.4	(2.6)		体中位～ 底部	砂粒を含む	灰白	還元	轆轤右回転の成整形。高台は底部回転系切り後の雑な付け高台。器面摩滅	器面摩滅
662-6 280	黒色土器 埴	19	-	(7.7)	(4.5)		体中位～ 底部	細砂粒を 含む	にぶい橙	還元	轆轤整形。高台は丁寧な付け高台。内面はへら磨き後黒色処理。	焼き戻されたものか黒色が弱い
662-7 280	灰釉陶器 埴	24	(13.6)	(6.4)	4.0		1/4	白色粒子・細砂粒を含む	灰黄	還元	右回転轆轤整形。高台はシャープな三日月高台で、底部回転へら削り後の丁寧な付け高台。体部に張りがあり、口縁部は短く外反する。施釉は刷毛掛けで、見込み部に重ね焼き痕を明瞭に残す。	
662-8 280	土師器 甕	34	(16.8)	-	(4.4)		口縁部片	砂粒を含む	明褐	酸化	口縁部がコ字状を呈し、口唇部外面に沈線状の窪みが巡る。口縁部は屈曲部は強い横撫で、内面撫で。	
663-9 280	須恵器 甕	1	-	-	-		胴部片	砂粒を含む	灰	還元	紐作り、叩き整形。外面細い平行叩き、内面当て具は手の平か。	
663-10 280	須恵器 甕	21・31・ 108住1	-	(16.8)	(8.2)		底部片	砂粒を含む	灰白	還元	紐作り、叩き整形。外面細い平行叩き、内面当て具は手の平か。外面に平行叩き、内面当て具は判読しない。胴部外面下半に自然釉が掛かっている。	藤岡窯
663-11 280	鉄製品 不明	27	7.3	4.0	1.0	20.9	完形				断面長方形の鉄素材を「ロ」字状に曲げ、一辺の中央に棒状の鉄を先端を折り曲げて固定している。馬具の帯金具か	
663-12 280	鉄製品 紡錘車	29	(8.4)	5.2	0.9	23.2	両端部欠 損				軸断面は方形で、両端部は欠損している。紡錘は錙の進行により一部が欠損している。	
663-13 280	鉄製品 不明	38	(8.7)	1.6	1.0	10.8	破片				断面方形で、両端部が欠損している。釘か鋸の茎か不明。	
663-14 280	鉄製品 不明		(2.9)	1.0	0.7	2.3	破片				断面法稀有で、残存する一端は薄くなっている。工具か鋸の可能性はある。	
663-15 280	鉄製品 刀子か	28	(1.9)	0.7	0.4	0.7	破片				断面は三角形を呈しているが、身幅が狭く茎の可能性はある。	
663-16 280	鉄製品 釘か	25	(3.2)	0.8	0.6	2.2	破片				断面は長方形を呈し両端部を欠損しているが、一端に向かって細くなるように見えることから釘の可能性はある。	
663-17 280	鉄製品 不明	26	(15.6)	1.5	1.1	38.7	一端欠損				断面が方形を呈する棒状のもので、用途は不明である。	

田口下田尻遺跡91号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
664-1	須恵器 環	1	-	(6.0)	(2.0)		底部片	細砂粒を 含む	浅黄	還元	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。	器面摩滅
664-2 280	須恵器 埴	13	(13.7)	(6.6)	5.7		1/4	細砂粒を 含む	にぶい黄 橙	還元	右回転轆轤整形。高台は底部回転系切り後の付け高台で、体部との貼り付け部に棒状工具による強い撫で。体部に張りはなく、口縁部は外反する。	
664-3	須恵器 埴		-	(7.0)	(3.8)		底部片	細砂粒を 含む	黄灰	還元	轆轤整形。高台は底部回転系切り後の付け高台で、三日月高台状を呈する。	内外面自然釉
664-4 280	黒色土器 埴	8・9	13.8	5.4	7.5		1/2	細砂粒を 含む	にぶい褐	酸化気味	右回転轆轤整形。高台は底部回転系切り後の付け高台。体部に張りがあり、口縁部は短く外反する。内面丁寧なへら磨き後黒色処理。焼き戻されたものか内面は赤化。	



遺物観察表

665-5	須恵器 埴		-	(6.5)	(1.6)		底部片	細砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	轆轤整形。高台は底部回転系切り後の雑な付け高台。	
665-6	須恵器 埴	3・90住 掘り方	-		(2.2)		底部片(高 台欠損)	細砂粒を含む	浅黄	還元	轆轤整形。高台は付け高台で、貼り付け部から剥離。	器面摩滅
665-7	須恵器 羽釜	10	-	8.5	(2.0)		底部	白色粒子 を含む	にぶい黄 橙	還元	羽釜の底部で、胴部下端へラ削り。	
665-8 280	須恵器 羽釜	11	(21.9)	-	(10.5)		口縁部片	砂粒を含む	にぶい橙	還元	轆轤整形。口縁部は反りぎみに内傾し、口唇部は平坦で内傾する。罫は水平で丁寧な貼り付け。罫から胴部内面轆轤撫で、罫から下位の胴部縦位へラ削り。	

田口下田尻遺跡92号住居

挿入番号 PL	種 別 形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残 存	胎 土 石 材	色 調	焼 成	成 整 形 の 特 徴 等	備 考
667-1 280	須恵器 埴	1	-	(6.2)	(3.0)		底部片	砂粒を含む	にぶい赤 橙	酸化	右回転轆轤整形。高台は底部回転系切り後の丁寧な付け高台。	
667-2 280	須恵器 埴	3	(14.3)	-	(4.3)		口縁部片	砂粒を含む	橙	酸化	轆轤整形。体部中位に張りがあり、口縁部はわずかに外反する。	
667-3	須恵器 埴	8	-	(5.5)	(2.1)		底部片	砂粒を含む	灰白	還元	轆轤整形。高台は丁寧な付け高台で、外面に稜を有する。	内面に赤色顔 料残存
667-4 280	緑釉陶器 埴か皿		-	-	-		高台部片	A		普通	高台外方に開く。端面内面側小さく窪む。内外面緑釉。貼付高台。	
667-5	土師器 台付甕	4	-	(9.2)	(3.0)		台部片	砂粒を含む	にぶい赤 褐	酸化	八字状に開く脚部で、横撫で。	
667-6	須恵器 鉢	5	-	(11.0)	(2.7)		底部片	砂粒を含む	灰黄褐	酸化気味	底部破片で、回転系切り無調整。	
667-7 280	土師器 甕	16	(17.8)	-	(6.2)		口縁部片	砂粒を含む	褐	酸化	口縁部はコ字状で、肩部が張る。口縁部横撫で後、肩部横位へラ削り、内面横位撫で、口縁部外面に接合痕を明瞭に残す。	
667-8 280	土師器 羽釜	12	(17.8)	-	(6.8)		口縁部片	砂粒を含む	橙	酸化気味	轆轤整形。口縁部は内傾し、口唇部は平坦で水平。罫は上半水平で丁寧な貼付。胴部内外面轆轤撫で。	
667-9	須恵器 甕	11	-	-	(8.4)		胴下部片	砂粒を含む	明黄褐	酸化気味	甕下部破片で、胴部下半へラ削り、内面撫で。	
667-10 280	鉄製品 鎌か		(3.3)	2.4	0.4	8.1	破片				基部に近い部分と考えられ、刃部の大半は欠損している。	

田口下田尻遺跡93号住居

挿入番号 PL	種 別 形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残 存	胎 土 石 材	色 調	焼 成	成 整 形 の 特 徴 等	備 考
668-1 281	須恵器 環	掘り方	(14.3)	6.4	3.8		1/2	細砂粒を含む	灰黄	還元	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。体部に弱い張りがあり、口縁部は外反しない。	
668-2	須恵器 環	掘り方	(15.6)	(6.6)	5.3		1/4	白色粒子 を含む	灰	還元	右回転轆轤整形。高台は底部回転系切り後の付け高台。体部に張りがあり、口縁部は外反する。	
669-3 281	須恵器 環	17	13.5	5.9	4.1		完形	細砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整で、わずかに突出する。体部上半に張りがあり、口縁部は外反する。内面に黒斑状変色。	
669-4 281	須恵器 環	25・46	(13.7)	6.0	3.7		口縁～底 部(高台 欠損)	細砂粒を含む	灰オリーブ	還元	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。体部下半に弱い張りがあり、口縁部はわずかに外反する。	
670-5 281	須恵器 環	6	(12.4)	5.6	4.1		1/2	細砂粒を含む	黄灰	還元	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。体部の張りは弱く、口縁部は強く外反する。	
670-6	須恵器 環	2	-	5.7	(1.5)		底部	白色粒子 を含む	灰黄	還元	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。	
670-7	須恵器 環	14	-	(6.6)	(3.2)		底部片	白色粒子 を含む	内・外黒	還元	轆轤整形。底部切り難し不明。体部に張りはなく、口縁部は直線的に外傾する。底部回転系切り無調整。	
670-8 281	須恵器 環	3・45	-	5.8	(3.6)		体中位～ 底部(高 台欠損)	細砂粒を含む	灰白	還元	右回転轆轤整形。高台は底部回転系切り後の付け高台で、貼り付け部から剥離。体部に弱い張りがある。器面摩滅。	細雲母片を均 質に含有。藤 岡か
670-9 281	須恵器 埴		(13.7)	(6.7)	5.1		1/2	細砂粒を含む	灰黄	還元	右回転轆轤整形。高台は底部回転系切り後の付け高台。体部の張りは弱く、口縁部は外反する。	
670-10	須恵器 埴	11	-	(5.7)	(2.5)		底部	細砂粒を含む	灰オリーブ	還元	轆轤整形。高台は角高台状で、底部回転系切り後の付け高台。一部貼り付け部から剥離。	
670-11 281	須恵器 埴	9	-	7.7	(2.4)		底部	細砂粒を含む	にぶい褐	還元	右回転轆轤整形。高台は底部回転系切り後の丁寧な付け高台で、端面は平坦で窪みが巡る。	細雲母片を均 質に含有。藤 岡か
670-12	須恵器 埴		-	7.8	(2.5)		底部	細砂粒を含む	浅黄	還元	右回転轆轤整形。高台はやや雑な貼り付けの高台。	
670-13 281	土師器 台付甕	18・42	12.1	-	(8.3)		上半部	細砂粒を含む	橙	酸化	口縁部はく字状で、肩部の張りは弱い。口縁部横撫で、肩部横位、胴部斜位へラ削り、内面木口状工具によるへラナデ。	
670-14	土師器 台付甕	43	-	-	(6.2)		胴下部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化	台付甕の胴部下半で、胴部外面斜位へラ削り、内面へラナデ。	
670-15 281	土師器 甕	21・掘り 方	(18.0)	-	(5.3)		口縁部片	砂粒を含む	橙	酸化	口縁部はコ字状で、口縁部横撫で後、肩部横位へラ削り、内面横位へラナデ。口唇部外面下に細い沈線状の窪みが巡る。	
670-16 281	土師器 甕	15	18.8	-	(24.4)		上半部	細砂粒を含む	褐	酸化	口縁部はコ字状で、肩部の張りは弱く、口縁部横撫で後、肩部横位、胴部斜位へラ削り、内面横位へラナデ。口縁部外面に輪積み痕を残す。	
670-17 281	土師器 甕	12	(19.8)	-	(14.4)		上半部	砂粒を含む	橙	酸化	口縁部はコ字状で、肩部に張りがある。口縁部横撫で後、肩部横位、胴部斜位へラ削り、内面横位へラナデ。口縁部外面に輪積み痕を残す。	
670-18 281	土師器 甕	23	(19.5)	-	(7.2)		口縁部片	砂粒を含む	にぶい橙	酸化	口縁部はコ字状で、口縁部横撫で後、肩部横位へラ削り、内面横位へラナデ。口縁部外面に輪積み痕を残す。	
670-19 281	土師器 甕	16	18.5	-	(14.9)		上半部	砂粒を含む	橙	酸化	口縁部はコ字状で、肩部に張りがある。口縁部横撫で後、肩部横位、胴部斜位へラ削り、内面横位へラナデ。胴部中位内面に上下の接合痕を残す。	
670-20 281	土師器 甕	1	(17.0)	-	(7.0)		口縁部片	砂粒を含む	橙	酸化	口縁部はコ字状で、口縁部横撫で後、肩部横位へラ削り、内面横位へラナデ。口唇部外面下に細い沈線状の窪みが巡る。器厚が薄く丁寧な作り。	
670-21	土師器 甕	31	(17.7)	-	(6.0)		口縁部片	砂粒を含む	にぶい赤 褐	酸化	口縁部はコ字状で、肩部に張りがある。口縁部横撫で後、肩部横位へラ削り、内面横位へラナデ。口縁部外面に輪積み痕を残す。	
671-22	土師器 甕	13	-	(4.0)	(4.0)		底部片	砂粒を含む	にぶい赤 褐	酸化	甕胴部下半で、外面縦位へラ削り、内面へラナデ。	外面煤付着
671-23	土師器 甕	カマド	-	(4.0)	(4.3)		底部片	砂粒を含む	にぶい橙	酸化	甕胴部下半で、外面縦位へラ削り、内面へラナデ。	外面煤付着
671-24	土師器 甕		-	(3.1)	(5.8)		底部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化	甕胴部下半で、外面縦位へラ削り、内面へラナデ。	
671-25 281	鉄製品 刀子	26	(7.6)	1.3	0.8	8.0	切先と茎 基部欠損				棟区は明瞭に残存するが、刃区は不明瞭である。茎に木質が遺存している。	

遺物観察表

671-26 281	鉄製品 刀子	28	(11.3)	1.5	0.9	14.6	切先と茎 欠損				棟区は明瞭に残存し、刃区は判然とし無い。	
671-27 281	鉄製品 刀子	27	(12.3)	1.7	0.8	16.8	切先欠損				棟区、刃区ともに明瞭で、残存する刃部には研ぎ減りが認められる。茎の断面は長方形で、基部まで残存している。	
671-28 281	鉄製品 不明	29	(4.1)	0.9	1.0	4.9	破片				断面方形で、一端は被へら状の段差を持って細くなっている。両端ともに欠損しているため判然とし無いが、鎌の可能性はある。	
671-29 281	石製品 くぼみ石		30.9	20.1	13.0	1025.0	ほぼ完形				上面に径6.0×5.2cm、深さ1.5cmの半球状の窪み、側面は平滑化している。	

田口下田尻遺跡94号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
672-1 281	土師器 環	5・6	(12.0)	(7.0)	4.5		1/2	砂粒を含む	暗褐	酸化	体部に張りはなく、口縁部はやや内湾ぎみに直立する。底部は砂底で突出する。口縁部横撫で、体部指押さえ後雑な撫で、内面横位撫で。	
672-2 281	土師器 環		(14.0)	(9.2)	4.5		1/4	砂粒を含む	明赤褐	酸化	体部に張りはなく、口縁部はやや内湾ぎみに直立する。底部は砂底で、やや突出する。口縁部横撫で、体部指押さえ、内面横位撫で。	
672-3 281	土師器 環		14.0	-	(4.3)			口縁部片 砂粒を含む	赤褐	酸化	体部の張りはなく、口縁部は反りぎみに直立する。口縁部横撫で、体部外面雑な撫で、内面横位撫で。	
672-4	須恵器 甕	12・16	-	-	-			胴部片 白色粒子を含む	黄灰	還元	叩き整形。内面当て具素文、外面叩き不明。	内面ハゼ
673-5 281	緑釉陶器 埴	9	(15.0)	-	(2.8)		1/9	Aか	黄灰	普通	体部器壁薄い。体部内湾し、内面に明瞭な境を形成して外反する口縁部に至る。外面中位以下回転へら削り。	
673-6 281	緑釉陶器 埴	10	(15.9)	-	(3.7)		1/6	A	灰白	普通	体部内湾し、外反する口縁部に至る。体部中位器壁薄く、口縁部は厚みを増す。口縁部輪花1カ所残存。内外面緑釉。	
673-7 281	緑釉陶器 埴	15	-	-	-			口縁部片 Aか	灰白	やや不良か	焼き締まりやや弱い。端部に輪花1カ所残存。内外面緑釉。	
673-8 281	須恵器 鉢	3・4・7・ 8・11	(25.8)	14.2	10.8		1/2	砂粒を含む	灰褐	酸化	轆轤整形。体部はわずかに張りがあり、口唇部は平坦で水平。体部外面は斜位へら削り、内面はへら磨き後黒色処理。底部は周辺へら削り。	
673-9 281	鉄製品 不明		(2.5)	0.7	0.6	1.5	破片				断面隅丸長方形状のもので、屈曲し両端を欠損している。用途は不明。	

田口下田尻遺跡95号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
675-1 281	須恵器 環	6	11.4	(4.6)	4.1		1/2	砂粒を含む	浅黄	還元	轆轤右回転の成整形。底部回転系切り無調整。体部は直線的に外傾する。	
675-2 281	須恵器 埴	1・2・4・ 12・13	(13.2)	(5.0)	5.7		1/2	砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	轆轤右回転の成整形。高台は底部回転系切り後の付け高台。体部中位の張りが強く、口縁部は外反する。	
675-3 281	須恵器 埴	1・10	(12.8)	-	(4.4)			口縁部片 砂粒を含む	灰白	還元	轆轤右回転の成整形。体部中位に張りがあり、口縁部はわずかに外反する。	
675-4 281	須恵器 環	7	12.2	5.7	5.7		1/2	砂粒を含む	灰白	還元	轆轤右回転の成整形。底部は回転系切り無調整で、わずかに突出する。体部中位の張りは比較的強く、口縁部は弱く外反する。	
675-5 281	須恵器 埴	8	12.9	5.2	5.6			完形 砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	轆轤右回転の成整形。高台は底部回転系切り後の比較的丁寧な付け高台。体部中位に弱い張りがあり、口縁部はわずかに外反する。	
675-6	須恵器 土釜	2	(13.8)	-	(5.2)			口縁部片 砂粒を含む	暗灰黄	還元気味	轆轤右回転の整形。口縁部はく字状に外傾する。	
675-7	須恵器 瓶	1	-	(6.4)	(7.2)			胴中位～ 底部片 白色粒子を含む	にぶい黄 橙	還元気味	紐作り、轆轤整形。底部はわずかに突出する。	

田口下田尻遺跡96号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
677-1 281	須恵器 埴	28	11.2	6.6	5.1		完形	細砂粒を含む	橙	酸化気味	轆轤整形。高台は丁寧な付け高台。体部の張りが強く、口縁部は外反しない。	器面摩滅
677-2 281	土師器 埴	30	(14.5)	-	(4.0)			口縁～底 部(高台 欠損) 砂粒を含む	黒褐	還元	紐作り。口縁部横撫で後、体部斜位の手持ちへら削り。高台は体部へら削り後の付け高台で、剥落している。底部と高台剥落部に砂底の痕跡を残す。内面は撫でて、組織の痕跡が明瞭に残る。	口縁部外面の一部に煤付着
677-3 282	土師器 甕	26・42	(15.8)	-	(11.9)			口縁～胴 部下位 砂粒を含む	にぶい黄 褐	酸化	紐作り。胴部上半外面は粗い斜位の撫で後、口縁部に強い横撫で、下半は縦位の粗いへら削り。内面は木口状工具の横位撫で。胴部外面に粘土紐の接合痕を残す。胴部の張りは強く、口縁部は短く外反する。	
678-4 282	須恵器 土釜	32	11.4	-	(12.2)			口縁～底 部(台部 欠損) 砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化	轆轤整形。胴部外面上半から口縁部は轆轤撫で、胴部下半は斜位へら削り。高台は付け高台で、剥落。内面下半に轆轤整形痕を明瞭に残す。	
678-5	須恵器 甕か	25	-	-	-			砂粒を含む	灰白	還元	轆轤整形。端部は沈線状の窪みが巡り、シャープな作りである。	
678-6	須恵器 甕	2カマド 43	-	-	-			胴部片 白色粒子を含む	灰	還元	紐作り、叩き成形。内面手の平と思われ尙具痕、外面狭い平行叩きを残すが全体に撫でられ不明瞭。	接合部で割れている
678-7 282	須恵器 羽釜	43	(20.4)	-	(23.4)			口縁～胴 部下位 砂粒を含む	にぶい黄 褐	還元	轆轤整形。口縁部は短く内傾し、口唇部は平坦で、鐙はやや上向きで短く、貼り付けは丁寧。胴部上位外面から内面轆轤撫で、胴部外面下半縦位へら削り。	
678-8 282	須恵器 羽釜	7・16・27・ 42・44	(19.0)	-	(13.6)			上半部片 細砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	轆轤整形。口縁部は強く内傾し、鐙は水平で短く、貼り付けは丁寧。胴部内外面ともに残存部は轆轤撫で。	
678-9 282	須恵器 羽釜	50・1土 坑	(22.3)	-	(11.8)			口縁部片 砂粒を含む	橙	酸化気味	轆轤整形。口縁部は内傾し、口唇部は平坦で細い沈線状の窪みが巡る。鐙の端部は平坦で、沈線状の窪みが巡る。胴部外面上位は轆轤撫で、中位より下はへら削りと思われる。内面は轆轤撫でであるが、粘土紐の痕跡を残す。	
678-10	須恵器 羽釜	1・2	-	(7.0)	(13.0)			下半部片 小石を含む	にぶい赤 褐	還元	轆轤整形。胴部上半と内面に粗い轆轤撫でを残し、胴部外面下半は斜位へら削り。	
678-11 282	須恵器 瓶	4・6・8・ 10・13・ 18・38・43	-	(10.8)	(23.6)			肩～底部 細砂粒を含む	浅黄	還元	轆轤整形。胴部下端は横位へら削り、胴部は轆轤撫で、中位に横位の粗い撫でが認められる。	
678-12 282	石製品 砥石	34	(11.3)	5.1	2.5	166.4	4/5	変質デイ サイト			一端を欠損しており、中央部の減りが激しい。使用面は2面で、両側面、端部の器面も平滑に整形されている。	

田口下田尻遺跡97号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
680-1 282	須恵器 環	3	11.1	6.4	3.2		完形	白色粒子を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。体部下半に張りがあり、口縁部は外反する。	
680-2 282	須恵器 環	22	11.2	6.0	3.9		完形	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。体部にわずかに張りがあり、轆轤整形痕を顕著に残し、口縁部はわずかに外反する。	

遺物観察表

680-3 282	須恵器 坏	19	10.5	6.5	3.2		ほぼ完形	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	右回転轆轤整形。底部回転糸切り無調整。腰部に弱い張りがあり、口縁部はわずかに外反する。
680-4 282	須恵器 埴	15	11.2	7.2	5.0		ほぼ完形	白色粒子を含む	にぶい黄 褐	酸化気味	右回転轆轤整形。高台は丁寧な付け高台。腰部に張りがあり、口縁部はわずかに外反する。
680-5 282	須恵器 埴	13	15.6	9.0	7.4		ほぼ完形	白色粒子を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	右回転轆轤整形。高台は長脚の丁寧な付け高台で、端部は平坦で、やや内傾する。体部下半に弱い張りがあり、口縁部は外反する。内面の轆轤整形痕は顕著。
680-6 282	須恵器 埴	11	15.8	9.7	7.5		ほぼ完形	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	右回転轆轤整形。高台は長脚の丁寧な付け高台で、端部は平坦。体部の張りは弱く、口縁部はわずかに外反する。
680-7 282	須恵器 埴	4	-	(8.8)	(5.4)		体中位～ 底部	白色粒子を含む	にぶい黄 橙	還元	右回転轆轤整形。高台は長脚で、丁寧な付け高台。
681-8	須恵器 埴	16	-	(5.8)	(3.1)		底部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	轆轤整形。高台は丁寧な付け高台で、端部は平坦で浅い窪みが巡り、内傾する。
681-9 282	灰釉陶器 段皿	6	(11.2)	5.2	2.1		1/2	細砂粒を含む	灰黄	還元	右回転轆轤整形。高台はごく低い三日月高台状で、突出した底部周縁に貼付。体部は反りぎみで、口縁部は外反する。施釉は刷毛掛けで、施釉は内面の段の内側に及び、特に内面の発色が良好。底部の厚みが顕著。
681-10 282	灰釉陶器 皿		(13.3)	(6.9)	2.3		口縁部片	細砂粒を含む	灰	還元	右回転轆轤整形。高台は低く、やや突出した底部周縁に貼付。体部に弱い張りがあり、口縁部は外反しない。口縁部に押圧が1カ所残存することから輪花になるものと考えられる。施釉は漬け掛けで、内面の発色がやや良好。
681-11 282	須恵器 羽釜	5・18	(20.4)	-	(20.4)		口縁～胴 部片	砂粒を含む	灰	還元	右回転轆轤整形。胴部上半に張りがあり、口縁部はやや内傾し、口唇部は平坦で、わずかに内傾する。鈎はやや上向きで、丁寧な貼りつけ。胴部上半から内面轆轤撫で、胴部下半縦位へラ削り。
681-12 282	須恵器 羽釜	7・12・ 17・20・ 27	(23.5)	-	(15.0)		上半部	白色粒子を含む	黄褐	還元	轆轤整形。胴部上半に張りがあり、口縁部は短く内傾し、口唇部は平坦で、わずかに内傾する。鈎はやや上向きで、貼り付けは丁寧。胴部上半から内面轆轤撫で、胴部下半縦位へラ削り。
681-13 282	鉄製品 刀子		(3.2)	0.8	0.3	破片					断面は三角形状を呈しており、刃部が認められることから刀子の刃部と考えられる。

田口下田尻遺跡98号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
682-1	土師器 坏	85住	(1.4)	(5.0)	4.4		1/4	砂粒を含む	明赤褐	酸化	体部は外傾し、口縁部はやや内湾する。口縁部横撫で、底部砂底で高台状に突出し、体部は雑な撫で、内面撫で、やや摩滅。	
682-2	土師器 坏		-	(8.0)	(4.2)		1/4	砂粒を含む	明赤褐	酸化	体部は外傾し、口縁部は短く直立する。口縁部横撫で、底部砂底で高台状に突出する。体部外面指押さえ、内面撫で。	
682-3 282	須恵器 埴	5・17・ 85住	(11.8)	(6.0)	4.6		1/2	白色粒子を含む	浅黄	還元	轆轤整形。高台は比較的丁寧な付け高台。体部中位に張りがあり、口縁部は外反する。器面にひび割れが多く、比重が軽い。	
682-4	須恵器 埴	14	-	(7.2)	(2.0)		底部(高 台欠損)	砂粒を含む	明赤褐	還元	轆轤整形。高台は付け高台で、欠損。	
682-5 282	須恵器 埴		(13.8)	-	(4.4)		口縁部片	細砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	轆轤整形。体部に弱い張りを有し、口縁部はわずかに外反する。体部内面に焼成後「×」の刻書。	
682-6	須恵器 埴		-	(5.0)	(1.4)		底部片	細砂粒を含む	褐灰	還元	轆轤整形。高台は底部回転糸切り後の丁寧な付け高台。	いぶし焼成
682-7 282	須恵器 埴	掘り方	(12.0)	-	(2.6)		口縁部片	細砂粒を含む	黒	還元	轆轤整形。体部に弱い張りを有し、口縁部はわずかに外反する。	いぶし焼成
682-8 282	須恵器 埴	23	-	6.1	(1.7)		底部	細砂粒を含む	黒	還元	轆轤整形。高台は底部回転糸切り後の丁寧な付け高台。	いぶし焼成
682-9 282	須恵器 埴	9	-	5.8	(2.8)		体中位～ 底部	砂粒を含む	橙	還元	右回転轆轤整形。高台は底部回転糸切り後のやや雑な付け高台。腰部にやや張りがある。	
683-10 282	灰釉陶器 埴		-	(7.8)	(2.3)		底部片	細砂粒を含む	灰黄褐	還元	轆轤整形。高台は高くシャープさに欠ける三日月高台。施釉技法は不明。見込み部に重ね焼き痕を残し、釉薬の流れが及んでいる。	
683-11 282	緑釉陶器 埴	19	(15.8)	-	(2.6)		口縁部片	A	灰から淡 橙	やや不良	残存部素地、酸化部分と還元部分が半々。輪花1カ所残存。	
683-12 282	緑釉陶器 埴	15	(16.0)	-	(4.4)		口縁部片	A	灰	普通	体部内湾し、口縁部外反する。外面口縁部下は回転へラ削りか。内外面緑釉。口縁部の釉剥落する。	
683-13 282	緑釉陶器 埴		-	-	-		口縁部片	A	灰白	普通	口縁部端部小さく外反。内外面緑釉。	
683-14 282	緑釉陶器 不詳	2	-	-	-		小片	A	灰白	普通	器壁やや薄く、外面轆轤目、内面平滑なため埴か皿の可能性高い。内外面緑釉。	
683-15 282	緑釉陶器 埴か皿	16	-	-	-		体部片	Aか	にぶい黄 橙	不良か	素地酸化状態であるが、やや焼き締まっている。体部内湾し、外反して口縁部に至ると考えられる。内外面緑釉。	
683-16 282	須恵器 甗	20	-	-	-		口縁部片	砂粒を含む	褐灰	還元	口縁部破片で、有段部下に太い櫛状工具による波状文施文。内面轆轤撫で。	

田口下田尻遺跡99号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
685-1	土師器 坏	5	(12.0)	-	(3.5)		1/4	精良	橙	酸化	扁平な丸底で、口縁部との境に段があり、口縁部は反りぎみに外傾する。口縁部横撫で、底部へラ削り、内面撫で、内面撫では木口状工具の痕跡がある。	
685-2 283	土師器 坏		(12.2)	-	(3.2)		口縁部片	精良	橙	酸化	丸底で、口縁部との境に段があり、口縁部は直線的に外傾する。口縁部横撫で、底部へラ削り、内面撫でとみられるが、摩滅のため不明瞭。	均質で粉っぽい胎土
685-3 283	土師器 坏	3	12.2	-	5.1		3/4	精良	暗灰黄	酸化	丸底で口縁部との境に段があり、口縁部は段を有しわずかに内傾する。口縁部横撫で、底部へラ削り、内面撫で、口縁部外面から内面漆仕上げ。	
685-4 283	土師器 鉢	6・8・ 12・17・ 299坑2	-	7.1	(9.4)		3/4	砂粒を含む	褐	酸化	深い丸底で、口縁部との境に段があり、口縁部は反りぎみに外傾する。口縁部横撫で、底部へラ削り、内面撫で。	均質で粉っぽい胎土
686-5 283	土師器 甗	13・16・18・ 21・23・25・ 31・34・38・ 28坑1	-	(7.0)	(15.4)		下半部	砂粒を含む	橙	酸化	胴部は球胴で平底。胴部外面へラ削り、内面横位撫で、上下の整合痕が顕著。胴部整合痕に対応する位置の外面に、幅4cmほどの荒れて変色した部分が帯状にある。同様に底部周辺にも荒れて変色したリング状の部分がある。	
686-6 283	鉄製品 鎌	44	(7.4)	1.0	0.4	3.8	茎欠損				壱簡式と見られる鎌であり、茎の大半は欠損している。	
686-7 283	鉄製品 鎌か	43	(5.2)	0.8	0.4	1.5	破片				断面長方形で、残存する一端が細くなる。形状から6と同一個体の可能性がある。	
686-8 283	鉄製品 不明		(3.6)	0.8	0.3	1.5	破片				断面長方形を呈し、両端部が欠損している。用途は不明である。	
686-9 283	棒状礫	53	11.9	4.4	4.8	406.3	完形	変質安山 岩			棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	



686-10 283	棒状礫	57	13.1	5.1	3.8	386.9	完形	変質安山岩			棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
686-11 283	棒状礫	54	10.9	5.8	4.0	383.3	完形	粗粒輝石安山岩			楕円に近い棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
686-12	棒状礫	51	11.9	6.8	3.1	366.4	完形	変質安山岩			楕円に近い棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
686-13	棒状礫	52	12.7	6.4	3.9	401.3	完形	溶結凝灰岩			不整楕円を呈する棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
686-14	棒状礫	50	11.7	7.7	3.3	485.1	完形	粗粒輝石安山岩			不整楕円を呈する棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
686-15	棒状礫	58	12.6	5.8	4.3	505.4	完形	変質安山岩			棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
686-16	棒状礫	56	12.2	7.0	3.8	485.4	完形	粗粒輝石安山岩			楕円に近い棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
686-17	棒状礫	55	13.5	7.3	4.2	646.2	完形	変質安山岩			楕円に近い棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
686-18	棒状礫	59	17.3	7.1	4.3	797.8	完形	黒色頁岩			棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
686-19 283	棒状礫	48	16.3	6.6	5.4	884.4	完形	変質安山岩			棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
686-20	棒状礫	47	17.1	6.7	5.1	1031.7	完形	変質安山岩			棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
686-21	棒状礫	60	15.4	7.2	5.8	946.9	完形	変質安山岩			棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	煤付着か
686-22	棒状礫	46	12.6	7.2	5.4	738.9	完形	文象斑岩			楕円に近い棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
686-23	棒状礫	61	10.5	5.7	4.5	445.6	完形	粗粒輝石安山岩			不整楕円を呈する棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	

田口下田尻遺跡100号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
687-1 283	須恵器 環	3・21	10.0	5.0	2.2		1/2	細砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	轆轤右回転の成整形。底部回転系切り無調整。腰部に張り有り、口縁部は外反しない。見込み部に轆轤整形痕顕著。	
687-2	須恵器 環	1	(9.7)	(4.7)	3.2		1/4	白色粒子を含む	にぶい黄 橙	還元	轆轤右回転の成整形。底部回転系切り無調整。腰部に張り有り、口縁部は外反しない。底部わずかに突出する。	
687-3	須恵器 塊	96住	(14.7)	-	(4.4)			口縁部片 砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	轆轤右回転の成整形。体部上位に弱い張り有り、口縁部は外反する。	
687-4	須恵器 塊	13	(14.8)	-	(3.2)			口縁部片 砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	轆轤右回転の成整形。体部中位に弱い張り有り、口縁部は外反する。内外面ともに轆轤整形痕が顕著。	
687-5	須恵器 塊	13・19・ 96住	-	(9.1)	(3.2)			高台部片 白色粒子を含む	にぶい黄 橙	還元	轆轤成整形。高台は長脚で、丁寧な作りである。	
687-6	須恵器 台付鉢	16・25・ 27	-	-	(9.6)			胴部下位 砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	紐作り、轆轤整形。胴部内外面ともに轆轤撫で、下端は斜位ヘラ削り。高台は付け高台で、欠損している。	
687-7 283	須恵器 土釜	9・17-19・ 22・129・ 96住	(21.9)	-	(11.3)			口縁～肩 部片 白色粒子を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	紐作り、轆轤整形。口縁部は外反し、胴部上位に張り有り。胴部上位から内面轆轤撫で、胴部中位～下半縦位ヘラ削り。	
687-8 283	須恵器 羽釜	4・7・15	(20.9)	-	(23.6)			口縁～胴 下位片 白色粒子を含む	灰白	還元	紐作り、轆轤整形。口縁部は内傾し、口唇部は平坦でシャープ。銚は上面反りぎみで、端面下面に沈線状の窪みがある。胴部上位に張り有り。胴部外面上位から内面轆轤撫で、胴部外面下半縦位ヘラ削り。	

田口下田尻遺跡101号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
689-1 283	須恵器 塊	5	(15.0)	(8.0)	6.3		1/2	砂粒を含む	灰白	還元	轆轤整形。高台はやや長脚の付け高台。体部に弱い張りがあり、口縁部は外反する。	
689-2 283	石製品 砥石	11	9.8	4.3	1.5	76.3	ほぼ完形	砥沢石			4面使用しており、片面だけ砥面に反りが見られる。	

田口下田尻遺跡102号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
690-1 283	土師器 環	3	(12.8)	(9.4)	3.2		1/2	精良	橙	酸化	平底で、体部に張りがあり、口縁部はわずかに内湾ぎみに外傾する。口縁部横撫で、底部は周辺のみヘラ削りで、底部中央と体部に型押し痕跡。内面撫で。	口唇部外面に煤付着
690-2	須恵器 環	16	-	(6.2)	(2.4)			底部片 砂粒を含む	黄灰	還元	轆轤整形。底部回転系切り無調整。	
692-3 283	須恵器 環	38・39	(13.2)	6.5	4.3		1/2	白色粒子を含む	にぶい黄 橙	還元	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。体部の張りは弱く、口縁部はわずかに外反する。外面の轆轤整形痕顕著。	
692-4	須恵器 環	11	-	6.2	(1.6)			底部 砂粒を含む	黄灰	還元	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。	
692-5 283	須恵器 塊		(14.7)	6.2	5.3		1/2	砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	右回転轆轤整形。高台は底部回転系切り後のやや雑な付け高台。体部中位に張りがあり、口縁部はわずかに外反し、肥厚する。	
692-6	須恵器 塊		(14.4)	(6.2)	(5.5)		1/6	砂粒を含む	灰白	還元	轆轤整形。高台は丁寧な付け高台。体部中位に弱い張りがあり、口縁部はわずかに外反し、肥厚する。	
692-7	須恵器 塊	36	-	(8.0)	(3.4)			底部片 白色粒子を含む	灰白	還元	轆轤整形。高台は丁寧な付け高台。	
692-8 283	須恵器 塊	5	-	5.6	(2.2)			底部 砂粒を含む	浅黄橙	還元	轆轤整形。高台は、底部回転系切り後の付け高台。	器面摩滅
692-9	須恵器 塊	37	-	(6.4)	(2.4)			底部片 白色粒子を含む	黄灰	還元	右回転轆轤整形。高台は、底部回転系切り後の付け高台で、端部は平坦。	
692-10 283	土師器 台付甕	26	-	(9.5)	(3.8)			底～台部 砂粒を含む	橙	酸化	台付甕の脚部で、八字状に開く。	
692-11 283	土師器 甕	21	19.6	-	(16.0)			上半部 砂粒を含む	橙	酸化	口縁部はコ字状で、上半がやや内湾ぎみで受け口状。口縁部横撫で後、肩部横位、胴部斜位ヘラ削り、内面横位ヘラナデで、胴部中位内面に上下の接合痕明瞭。	
692-12	土師器 甕	32	(19.6)	-	(6.2)			口縁部片 砂粒を含む	橙	酸化	口縁部はコ字状で、口縁部横撫で後、肩部横位ヘラ削り、内面横位ヘラナデ。頸部外面に接合痕。	
692-13	土師器 甕	カマド	-	(5.0)	(4.6)			底部片 砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化	甕底部で、外面斜位ヘラ削り、内面ヘラナデ。	
692-14	須恵器 甕	31	-	-	-			底部片 細砂粒を含む	黄灰	還元	叩き整形。外面平行叩きで、全体に撫で消す。内面青海波。	



遺物観察表

692-15 283	鉄製品 刀子		(10.9)	1.2	0.6	8.5	切先欠損				茎側は断面長方形で完存するが、刃部は切先側が欠損している。棟区、刃区ともに判然としない。
692-16 283	鉄製品 刀子か	17	(3.0)	1.0	0.5	2.1	破片				断面は判然としないが、一端が広がっており刀子の可能性はある。
692-17 283	棒状礫	43	16.3	6.7	5.9	1086.7	完形	粗粒輝石 安山岩			棒状礫で、使用痕跡は判然としない。

田口下田尻遺跡103号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
693-1 283	黒色土器 環	31	-	6.5	(3.9)		体中位～ 底部	白色粒子 を含む	褐灰	還元	右回転轆轤整形。体部に張りがある。内面へラ磨き後黒色処理。	
693-2 283	須恵器 壺	42	10.2	6.8	5.1		完形	砂粒を含む	にぶい橙	酸化気味	右回転轆轤整形。高台は丁寧な付け高台。腰部に弱い張りがあり、口縁部は外反しない。	
693-3	須恵器 壺	24	-	(6.8)	(2.8)		底部	砂粒を含む	橙	酸化	右回転轆轤整形。高台は底部回転系切り後の付け高台。	
693-4	須恵器 壺	9	-	(7.2)	(2.8)		底部	砂粒を含む	にぶい橙	酸化気味	右回転轆轤整形。高台は付け高台で、欠損。	
693-5 283	灰釉陶器 壺	34	(13.0)	(6.6)	4.4		1/4	白粒子・ 細砂粒を含む	灰白	還元	轆轤整形。高台はややシャープさに欠ける三日月高台で、底部回転へラ削り後の付け高台。体部の張りが強く、口縁部はごくわずかに外反する。施釉は漬け掛けで、光沢はあるが発色は悪い。見込み部に重ね焼き痕を残す。	
693-6 283	灰釉陶器 壺		(15.0)	-	(4.6)		体部片	細砂粒を含む	灰白	還元	轆轤整形。体部に弱い張りがあり、口縁部はわずかに外反する。施釉は刷毛掛けと見られ、内外面ともに発色は悪い。	
693-7 283	灰釉陶器 壺		(18.3)	-	(4.3)		口縁～体 部片	白色粒子 を含む	灰白	還元	轆轤整形。体部に弱い張りがあり、口縁部はごくわずかに外反する。施釉は刷毛掛けと見られ、内面の発色が比較的良好。	
693-8 283	灰釉陶器 折縁皿	39	12.4	6.8	2.5		完形	細砂粒を含む	灰白	還元	右回転轆轤整形。高台は低い三角高台で、回転系切り痕を残す突出した底部の周縁に貼付。体部に弱い張りがあり、口縁部で屈曲する。施釉は漬け掛けで、内外面ともに発色は比較的良好。口唇部に3方所炭化物付着。	灯明皿か
693-9 283	灰釉陶器 皿	2	(12.8)	(6.3)	2.3		1/4	細砂粒を含む	灰白	還元	轆轤整形。高台は低くシャープさに欠ける三日月高台状で、底部周縁に貼付。体部にわずかに張りがあり、口縁部は外反しない。施釉は刷毛掛けで、内外面ともに発色は良好。内面の釉葉の流れは重ね焼きの部分まで及んでいる。	口唇部の釉葉が剥落
694-10	緑釉陶器 壺		-	-	-		口縁部片	E	淡黄	不良か	素地は酸化状態であるが、やや焼き締まっている。内湾する体部から、器壁が薄く外反する口縁部に至る。内外面の緑釉剥落する。	
694-11	須恵器 甕	4	-	(11.5)	(2.4)		底部片	砂粒を含む	黄灰	還元	轆轤整形。胴部下端及び底部へラ削り。	
694-12	須恵器 土釜か	35	-	8.4	(3.2)		底部	砂粒を含む	にぶい橙	酸化気味	轆轤整形。胴部下端及び底部へラ削り、内面雑な撫で。	
694-13	須恵器 羽釜か	12	-	(8.0)	(1.7)		底部片	白色粒子 を含む	にぶい橙	還元	轆轤整形。胴部下端及び底部へラ削り。	
694-14	須恵器 羽釜	30	(24.6)	-	(7.2)		口縁部片	砂粒を含む	にぶい橙	還元	轆轤整形。口縁部は内傾し、口唇部はやや平坦で水平。罫は水平で丁寧な貼り付け。胴部内外面轆轤撫で。	
694-15 283	須恵器 羽釜	10・25・ 43・44	(26.0)	-	(25.0)		口縁～胴 部下位片	砂粒を含む	明褐色	還元	轆轤整形。口縁部は内傾し、口唇部は平坦で内傾する。罫はやや上向きで丁寧な貼り付け。胴部外面上半から内面轆轤撫で、胴部外面下半縦位へラ削り。	
694-16	須恵器 甕		(18.6)	-	(4.0)		口縁部片	白色粒子 を含む	オリーブ 黒	還元	轆轤整形。口縁部外面に2条の沈線がめぐり、頸部に6本単位の櫛描き波状文を施文。	
694-17 283	鉄製品 釘か		(3.7)	0.8	0.7	2.5	破片				断面方形で、残存する一端がやや先細りの傾向があることから釘の可能性が高い。	

田口下田尻遺跡108号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
695-1	須恵器 壺	4	-	(6.0)	(2.6)		底部片	砂粒を含む	灰白	還元	轆轤整形。高台は底部回転系切り後の付け高台。腰部の張りは弱い。	
695-2 284	灰釉陶器 皿	7	(13.7)	(5.8)	2.5		1/4	白色粒子 を含む	灰白	還元	轆轤整形。高台は低い三日月高台で、底部へラ削り後の付け高台。体部に弱い張りがあり、口縁部はわずかに外反する。施釉は刷毛掛けで、内外面ともに発色は良好。	
695-3 284	鉄製品 刀子	6	(14.7)	1.7	0.7	19.2	切先欠損				棟区は明瞭で、刃区は判然としない。茎の断面は長方形で基部は欠損している。残存する刃部には研ぎ減りが観察できる。	
695-4 284	鉄製品 刀子	6	(7.6)	1.4	0.7	8.2	両端部欠 損				刃部の破片で、一端が大きく変形している。	

田口下田尻遺跡109号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
697-1 284	須恵器 壺	1・4	14.3	8.4	6.4		1/2	白色粒子 を含む	橙	酸化	轆轤右回転の成整形。高台は底部切り離し後の付け高台で、底面は丁寧に撫でられている。腰に張りを有し、口縁部は強く外反する。	

田口下田尻遺跡110号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
699-1	須恵器か 環		(10.3)	(5.0)	3.2		1/4	砂粒を含む	にぶい褐	酸化気味	平底で、体部は外傾し、口縁部は短く外傾ぎみに直立する。口縁部横撫で、体部外面斜位へラ削り、内面撫で、底部は砂底。	
699-2	須恵器 壺	11	(10.7)	6.6	5.1		3/4	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	右回転轆轤整形。高台は丁寧な付け高台。腰部に張りがあり、口縁部はわずかに外反する。	
699-3 284	須恵器 壺	18	(12.6)	7.2	4.5		1/2	白色粒子 を含む	灰黄褐	還元	右回転轆轤整形。高台は底部回転系切り後の付け高台。腰部にわずかに張りがあり、口縁部は外反しない。	
699-4	須恵器 壺		10.9	-	(3.4)		口縁部片	精良	にぶい褐	還元	轆轤整形。底部回転へラ起し無調整。体部の張りが強く、口縁部は外反しない。	
699-5	須恵器 壺	17	(12.4)	-	(3.8)		口縁部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	体部にわずかに張りがあり、口縁部は短く直立する。口縁部横撫で、体部斜位へラ削り、内面撫で。	
699-6	須恵器 壺	10	-	6.2	(2.2)		底部	砂粒を含む	にぶい赤 褐	酸化気味	高台は丁寧な付け高台。底部砂底。	
699-7	須恵器 壺	16	-	(6.0)	(3.6)		体中位～ 底部片	白色粒子 を含む	内、外黒	還元	右回転轆轤整形。高台は底部回転系切り後の付け高台で、剥落する。端部は平坦で沈線状の浅い窪みが巡る。	
699-8 284	須恵器 壺	14	(14.0)	(10.1)	6.8		1/2	砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	右回転轆轤整形。高台は長脚で丁寧な付け高台。腰部に高台貼り付け時の強い撫で残りが形成されている。体部はわずかに張りがあり、口縁部はごくわずかに外反する。	
699-9 284	須恵器 長頸瓶	5・7・9・ 49・96住 1・床下 土坑	-	7.7	(4.6)		肩～底部	細砂粒を含む	灰	還元	右回転轆轤整形。高台は胴部下端回転へラ削り後の丁寧な付け高台。胴部は算盤玉状を呈するものと思われ、頸部の基部の一部が残存し、開口していた場所の下部にあたる胴部内面に自然釉が掛かる。内面に轆轤整形痕が残り、別作りの体部を上下に接合している。胴部外面の一部に自然釉が掛かる。	

遺物観察表

699-10	須恵器 甕	1	-	-	-		胴部片	白色粒子 を含む	灰	還元	外面平行叩き、内面当て具素文で、全体に横位撫でを施す。	
田口下田尻遺跡111号住居												
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
701-1 284	土師器 環	11・掘り 方	(12.0)	-	3.8		1/2	精良	橙	酸化	浅い丸底で、段を有し口縁部は直線的に立ち上がる。口縁部横撫で、 底部手持ちヘラ削り、内面は撫でを施す。	
701-2 284	土師器 環	2	(12.0)	-	(4.4)		1/4	精良	橙	酸化	丸底で、口縁部はやや内湾ぎみに立ち上がる。口縁部横撫で、底 部手持ちヘラ削り、内面は丁寧な撫でを施す。	
701-3 284	弥生土器 壺		-	-	-		肩部片	砂粒を含 む	にぶい橙	酸化	肩部外面に櫛状工具によるカキ目。	
701-4 284	弥生土器 壺		-	-	-		肩部片	砂粒を含 む	にぶい橙	酸化	肩部外面に櫛状工具による回転文様。同工具押捺列。	
701-5	土師器 壺		(6.8)	-	(3.8)		口縁部片	細砂粒を 含む	明黄褐	酸化	直線的に外傾する口縁部を有し、胴部の張りが強い。	
701-6	土師器 甕	9・10	(20.6)	-	(2.4)		口縁部片	砂粒を含 む	にぶい橙	酸化	強く外反する甕の口縁部で、横撫でを施す。	
701-7 284	土師器 甕	1	16.4	5.4	35.3		完形	砂粒を含 む	明褐	酸化	肩と胴部下端に張りを有し、底部は台状に突出する。外反する口 縁部は横撫で、胴部は縦位のヘラ削り、内面は撫でを施す。	肩部より下半 に煤付着
田口下田尻遺跡112号住居												
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
703-1 284	須恵器 環	1	11.8	5.0	4.2		ほぼ完形	白色粒子 を含む	にぶい黄 橙	還元	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。体部中位に顕著な張り があり、口縁部は外反する。	
703-2 284	須恵器 環		(10.5)	(4.6)	3.2		1/2	砂粒を含 む	橙	酸化気味	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整で、わずかに突出する。 体部中位に張りがあり、口縁部はわずかに外反する。	
703-3	須恵器 環	6	-	6.0	(1.6)		底部	白色粒子 を含む	にぶい黄 橙	還元	右回転轆轤整形。高台は丁寧な付け高台で、端部は平坦で窪みが 巡り、わずかに内傾する。体部中位に張りがあり、口縁部は外反 する。底部回転系切り無調整。	
703-4 284	須恵器 壺	3	(13.8)	(6.6)	(5.6)		1/2底 部 中央欠	砂粒を含 む	橙	酸化気味	右回転轆轤整形。高台はやや雑な付け高台で、体部の張りは強く 口縁部は短く外反する。内外面の轆轤整形痕顕著。	器面摩滅
703-5 284	須恵器 壺		(12.3)	-	(3.8)		口縁～体 部	砂粒を含 む	にぶい褐	還元	轆轤整形。体部に弱い張りがあり、口縁部は外反しない。体部外 面に黒色の付着物あり。	内面のハゼ顕 著
703-6	須恵器 壺	カマド	(12.2)	-	(5.4)		口縁～体 部片	砂粒を含 む	にぶい黄 橙	還元	轆轤整形。体部の張りは弱く、口縁部は外反する。	
703-7 284	灰釉陶器 環	113住	(14.0)	-	(3.0)		口縁部片	細砂粒を 含む	灰白	還元	轆轤整形。体部に張りがあり、口縁部は外反しない。光沢がまっ たく見られず、施釉技法不明。	
703-8 284	灰釉陶器 壺	12	17.2	7.8	5.6		1/2	白色粒子 を含む	灰白	還元	轆轤整形。高台は低くシャープさに欠ける三日月高台状で、底部 ヘラ削り後の付け高台。体部に張りがあり、口縁部はごくわずか に外反する。施釉は遺り掛け。	
703-9	須恵器 瓶	9・10	(15.9)	-	(6.4)		口縁部片	砂粒を含 む	明黄褐	酸化気味	轆轤整形。口縁部は強く外反し、端部は有段で、窪みが巡る。	
703-10	須恵器 羽釜	7	(20.8)	-	(5.5)		口縁部片	砂粒を含 む	にぶい黄 橙	酸化気味	轆轤整形。口縁部は内傾し、端部は平坦でわずかに内傾する。罅 はやや下向きで、厚手で丁寧な張り付け。内外面ともに轆轤撫で。	
703-11 284	須恵器 羽釜	2	(20.0)	-	(12.4)		口縁～胴 上位片	砂粒を含 む	橙	酸化気味	轆轤整形。口縁部は内傾し、端部は平坦でわずかに内傾する。罅は 水平で丁寧な貼付。胴部下縦位ヘラ削り、ほか内外面轆轤撫で。	
703-12 284	鉄製品 刀子	13	(19.3)	1.5	1.0	28.3	切先欠損				棟区は明瞭に捉えられるが、刃区は判然としない。茎は完存して いるが、刃部は切先が欠損している。	
703-13 284	鉄製品 鋤		6.4	2.5	0.9	21.3	刃部破片				袋状の身受けがあり、刃部は直線状を呈する。鋤の刃部か。	
703-14 284	石製品 砥石	8	(9.7)	3.0	1.9	78.7	3/4	変質安山 岩			3面に整形の痕跡があり、1面は船底状に研ぎ減りし、平滑な面 を形成。側面の一端に刃先を砥いだような溝状の痕跡がある。	
田口下田尻遺跡126号住居												
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
705-1 284	須恵器 羽釜	5	(22.8)	-	(6.6)		口縁部片	砂粒を含 む	にぶい橙	酸化気味	轆轤整形。口縁部は短く内傾し、口唇部は平坦で窪みが巡る。罅 はやや上向きで、丁寧な貼付。胴部外面は罅部まで縦位ヘラ削り、 内面轆轤撫で。	外面煤付着
田口下田尻遺跡128号住居												
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
706-1 284	土師器 環	20・31・ 32	12.0	7.4	4.7		ほぼ完形	砂粒を含 む	にぶい赤 褐	酸化	平底で、口縁部はやや内湾ぎみに直立する。口縁部横撫で、底部 及び体部下半ヘラ削り、内面撫でで、口縁部付近に接合痕が見ら れる。	
706-2 284	土師器 環	38・41	12.2	5.5	6.0		ほぼ完形	白色粒子 を含む	にぶい赤 褐	酸化	平底で、体部にやや張りがあり、口縁部は短く反りぎみに直立する。 口縁部横撫で、底部及び体部下半ヘラ削り、内面撫でで、底部の 一部に砂底が残存。	
706-3 284	土師器 環	67・掘り 方	12.4	7.6	5.2		ほぼ完形	白色粒子 を含む	にぶい赤 褐	酸化	平底で、体部にやや張りがあり、口縁部は短く反りぎみに直立する。 口縁部横撫で、底部及び体部下半ヘラ削り、内面撫でで、底部の 一部に砂底が残存。わずかに張りがあがる。口縁部横撫で、底部ヘ ラ削りで、体部外面に指の押さえの痕跡が顕著。内面はヘラ磨き 状の痕跡が残る。	
706-4 284	土師器 環	14・18	12.9	5.4	3.6		1/2	砂粒を含 む	にぶい赤 褐	酸化	平底で、体部は直線的に開き、口縁部はわずかに内湾する。口縁 部横撫で、底部及び体部下端ヘラ削り、内面撫で。	
706-5 284	土師器 環	45	(12.9)	(6.0)	(5.0)		1/4	白色粒子 を含む	赤褐	酸化	平底で、体部内外面に輪積み痕跡が顕著。口縁部横撫で、体部下 半雑な横位ヘラ削り、底部ヘラ削り、内面撫で。	
706-6 284	土師器 環	56・カマ ド掘り方	(13.1)	(5.0)	(4.5)		1/4	砂粒を含 む	にぶい赤 褐	酸化	平底で、体部にわずかな張りがあがる。口縁部横撫で、体部下 半雑な横位ヘラ削り、底部ヘラ削り、内面丁寧な撫で。	
706-7 285	土師器 環	65・129 住	(12.4)	-	(3.6)		口縁部片	砂粒を含 む	にぶい赤 褐	酸化	平底で、体部中位が屈曲し、口縁部はやや内湾する。口縁部横撫で、 体部下端ヘラ削り、内面撫でで、体部外面に接合痕を残す。	
706-8	土師器 環		(12.0)	-	(3.8)		1/4	砂粒を含 む	橙	酸化	平底で、体部に張りがあがる。内外面ともに器面の摩滅が顕著で、 整形は判然としない。	
706-9 285	須恵器 環	49	13.2	7.0	4.0		ほぼ完形	砂粒を含 む	にぶい黄 橙	酸化気味	轆轤右回転の成整形。底部回転系切り無調整。体部に張りはなく、 口縁部は外反する。	
706-10 285	須恵器 環	54	13.5	6.0	4.4		ほぼ完形	砂粒を含 む	にぶい黄 橙	酸化気味	轆轤右回転の成整形。底部回転系切り無調整。体部に張りはなく、 口縁部は外反する。	
707-11 285	須恵器 壺	64・69	14.0	6.6	4.9		1/2	白色粒子 を含む	灰白	還元	轆轤右回転の成整形。底部回転系切り後の付け高台。高台端部に 沈線状の窪みが巡る。体部中位にわずかに張りがあり、口縁部は 弱く外反する。	
707-12 285	須恵器 壺		14.5	7.0	5.6		1/2	砂粒を含 む	灰黄	還元	轆轤右回転の成整形。高台は底部回転系切り後の比較的丁寧な付 け高台。体部中位に弱い張りがあり、口縁部はわずかに外反する。	

遺物観察表

707-13 285	須恵器 埴		13.8	6.0	5.3		1/2	砂粒を含む	灰	還元	轆轤右回転の成整形。高台は底部回転系切り後の雑な付け高台。体部中位に弱い張りがあり、口縁部はわずかに外反する。	
708-14 285	須恵器 埴	4	14.2	6.1	5.6		1/2	砂粒を含む	灰	還元	轆轤右回転の成整形。高台は底部回転系切り後の雑な付け高台。体部中位に弱い張りがあり、口縁部はわずかに外反する。	
708-15	須恵器 埴		(17.0)	-	(4.4)			口縁部片	砂粒を含む	灰白	還元	轆轤右回転の成整形。体部中位に張りがあり、口縁部はわずかに外反する。
708-16	須恵器 埴	8	-	(7.0)	(1.6)			底部片	砂粒を含む	オリブ黒	還元	轆轤右回転の成整形。高台は底部回転系切り後の丁寧でシャープな付け高台。
708-17 285	灰釉陶器 埴		(16.9)	-	(4.3)			口縁部片	細砂粒を含む、気孔多い	灰白	還元	轆轤整形。体部に張りがあり、口唇部がわずかに外面肥厚する。施釉は刷毛掛けと考えられ、内面の施釉は見込み部にも及ぶ。
708-18 285	灰釉陶器 埴		(14.4)	7.2	(4.2)		1/4	細砂粒を含む	黄灰	還元	轆轤整形。高台はシャープな三日月高台で、底部回転ヘラ削り後の付け高台。体部に弱い張りがあり、口唇部がわずかに外面に折れる。施釉は刷毛掛けで、底部中央に刷毛掛けされている。釉薬は光沢はあるが、発色は悪い。	
708-19	土師器 甕	カマド・2面	-	(6.5)	(4.3)			底部片	砂粒を含む	にぶい黄橙	酸化	甕の底部で、砂底の痕跡がある。胴部下半ヘラ削り、内面撫で。
708-20 285	土師器 甕	13・17・19・18・25・10・21・24・28・30・48・カマド・掘り方	17.6	4.6	26.4			ほぼ完形	砂粒を含む	赤褐	酸化	口縁部はC字状に外反し、胴部上位に張りがある。口縁部横撫で、肩部横位、下は斜位ヘラ削り、内面撫で、胴部中位内面に上下の接合痕が顕著。
708-21	須恵器 甕	47	-	-	-			胴部片	白色粒子を含む	灰	還元	紐作り、叩き整形。外面の叩き痕跡は判然とせず、内面に当具痕を明瞭に残す。
708-22	須恵器 甕	34・39・42	(23.7)	-	(17.4)			口縁部片、胴部片、底部片	砂粒を含む	灰白	還元	轆轤整形。口縁部は直立し、鈿部を欠損する。
708-23	須恵器 甕	34・39・42	-	(18.7)	(3.5)			口縁部片、胴部片、底部片	砂粒を含む	灰白	還元	轆轤整形。下部は強く外に開く器形で、内外面ともに轆轤撫で。
708-24 285	鉄製品 刀子	53	15.6	1.6	0.9	23.5		ほぼ完形				棟区は明瞭であるが、刃区は判然としない。刃部は完存し、研ぎ減りが見られる。
708-25 285	鉄製品 刀子	52	(16.7)	1.7	0.9	35.8		茎欠損				棟区、刃区ともに明瞭で、刃部の研ぎ減りは顕著ではない。切先はやや丸みを有する。

田口下田尻遺跡129号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
710-1 285	須恵器 埴	掘り方38	9.2	4.0	2.7		完形	白色粒子を含む	にぶい橙	酸化	轆轤右回転の成整形。底部回転系切り無調整。	
710-2 285	須恵器 埴	掘り方40	9.1	5.0	3.2		ほぼ完形	白色粒子を含む	にぶい黄橙	酸化	轆轤右回転の成整形と思われる。底部は回転系切り無調整で、指先が当たったような窪みがある。	
710-3 285	須恵器 埴	掘り方39	9.8	4.6	2.8		ほぼ完形	白色粒子を含む	にぶい黄橙	酸化	轆轤右回転の成整形。底部は回転系切り無調整。内面は丁寧な撫で、外面は轆轤整形痕を残す。	内面の荒れが顕著
710-4	須恵器 埴	2	(9.2)	(3.6)	2.6		1/4	白色粒子を含む	にぶい黄橙	酸化気味	轆轤右回転の成整形。底部回転系切り無調整。やや内湾する体部を有し、薄く作りが丁寧。	
710-5	須恵器 埴	掘り方	(10.0)	(4.0)	2.6		1/4底部中央欠	砂粒を含む	にぶい橙	酸化	轆轤右回転の成整形と思われる。底部は回転系切り無調整。	
710-6 285	須恵器 埴	8	10.0	6.0	4.1		ほぼ完形	白色粒子を含む	にぶい橙	酸化気味	轆轤右回転の成整形。底部回転系切り後の付け高台。腰に張りをも有し、口縁部はわずかに外反する。	
710-7	須恵器 埴	27	(18.6)	-	(4.8)		口縁部片	白色粒子を含む	にぶい橙	酸化気味	轆轤右回転の成整形。体部中位に張りがあり、口縁部はわずかに外反する。	
711-8 285	黒色土器 埴	20	-	(6.9)	(3.2)		体中位～底部	砂粒を含む	にぶい黄橙	酸化	轆轤右回転の成整形。底部回転系切り後の付け高台。内面はヘラ磨き後黒色処理。	
711-9	須恵器 埴	掘り方	-	(9.0)	(2.6)		底部	砂粒を含む	橙	酸化	轆轤右回転の成整形。底部切り離しは不明。高台は付け高台で、整形は雑である。	
711-10	須恵器 埴		-	(5.8)	(2.8)		底部	精良	にぶい橙	酸化	轆轤成整形。回転方向不明。高台は付け高台で、丁寧な調整を加えている。	
711-11	須恵器 埴		-	6.9	(2.6)		底部	白色粒子を含む	浅黄橙	酸化	轆轤右回転の成整形。底部切り離しは不明。高台は付け高台。	
711-12 285	須恵器 埴	24	-	8.6	(4.7)		体中位～底部	白色粒子を含む	にぶい黄橙	還元	轆轤右回転の成整形。高台は長脚で、丁寧な付け高台。内外面ともに轆轤整形根を明瞭に残す。	
711-13	須恵器 埴		-	-	(4.0)		体部片	砂粒を含む	にぶい黄橙	還元	轆轤成整形。回転方向不明。高台は付け高台で剥落している。	
711-14 285	灰釉陶器 埴	31	(15.7)		(4.8)		口縁部片	精良、気孔あり	灰白	還元	轆轤整形。体部の張りは弱く、口唇部は外に折れる。施釉は刷毛掛けで、光沢はあるが、発色は悪い。	
711-15 285	緑釉陶器 埴か	掘り方35	-	-	-		体部片	A	外面側褐灰、内面側灰褐	やや不良	素地還元しきっておらず、やや軟質。内外面緑釉。	
711-16	須恵器 羽釜か	11・14・15・19・21・23・掘り方	-	-	(22.6)		胴部片	白色粒子を含む	にぶい橙	還元	轆轤整形と思われる羽釜の胴部破片で、外面縦位ヘラ削り、内面横位撫で。	
711-17 285	須恵器 羽釜	22	(22.6)	-	(11.2)		口縁部片	白色粒子を含む	にぶい黄橙	酸化気味	紐作り、轆轤整形。口縁部が内傾し、肩部に張りをも有する。口縁部から鈿部下端は轆轤回転の撫で、胴部外面は斜位ヘラ削り、内面斜位の撫で。	
711-18	須恵器 羽釜	掘り方 53・54	(20.0)	-	(13.0)		上半部片	白色粒子を含む	にぶい橙	酸化	紐作り、轆轤整形。鈿の貼り付けは雑で、下端に隙間が見られる。口縁部は轆轤回転による撫で、胴部は雑なヘラ削り。内面は横位の撫でを施す。	
711-19 285	須恵器 羽釜	2・6・8・30	(22.0)	-	(14.5)		上半部片	白色粒子を含む	にぶい橙	酸化気味	紐作り、轆轤整形。口縁部から鈿部は轆轤回転による撫で、胴部ヘラ削り、内面は撫でを施す。鈿部の整形は雑で、胴部外面縦位ヘラ削り、内面横撫で。	
711-20	土師器 羽釜		(20.2)	-	(7.0)		口縁部片	砂粒を含む	にぶい橙	酸化気味	紐作り、轆轤整形。口縁部と鈿は丁寧な轆轤整形で、胴部内面撫でを施す。	
711-21	須恵器 土釜か	掘り方36	-	8.0	(3.6)		底部	砂粒を含む	にぶい黄橙	酸化気味	紐作り、胴部下端外面ヘラ削り、内面撫で、底部一方向の雑な撫でを施す。	煤付着
711-22	須恵器 羽釜	3	(20.0)	-	(7.8)		口縁部片	砂粒を含む	にぶい橙	還元	紐作り、轆轤整形。口縁部から鈿部は轆轤回転による撫で、胴部ヘラ削り、内面は撫でを施す。	
712-23	須恵器 甕	6・10・掘り方43	-	(23.0)	(15.4)		同中位～底部片	白色粒子を含む	にぶい橙	酸化気味	紐作り、轆轤整形。下端は水平に開く。胴部外面縦位ヘラ削り、内面は粗い撫でを施す。	
712-24 285	鉄製品 釘か	57	(10.5)	1.3	0.95	29.8		先端部欠損			断面方形で、頭部は肥厚している。	



田口下田尻遺跡130号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
714-1 285	須恵器 埴	25・45	12.6	6.2	4.8		ほぼ完形	砂粒を含む	黒	還元	轆轤右回転の成整形。高台は底部回転系切り後の雑な付け高台。内面の撫では丁寧で、体部外面に轆轤整形痕を残す。体部の張りはやや強く、口縁部は短く外反する。	いぶし焼成
714-2 285	須恵器 埴	1・4・6	(12.7)	6.1	5.4		1/2	砂粒を含む	灰白	還元	轆轤右回転の成整形。比較的丁寧な付け高台。体部中位の張りは弱く、口縁部はわずかに外反する。	器面に剥落
714-3 285	須恵器 埴	36	(14.1)	-	(6.0)		1/2	砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	轆轤右回転の成整形。高台は付け高台で剥落。体部の張りは弱く、口縁部はわずかに外反する。	
714-4	須恵器 埴	37・40	(12.2)	-	(4.4)			口縁部片 細砂粒を含む	灰白	還元	轆轤右回転の成整形。体部の張りが強く、口縁部は短く外反する。内面の撫では丁寧で、外面に轆轤整形痕を残す。張りが比較的強く、口縁部は外反する。	底部欠
714-5 285	須恵器 埴		-	7.8	(5.2)		1/2体 中 位～底部	砂粒を多 く含む	灰白	還元	轆轤右回転の成整形。高台は丁寧な付け高台で、端部は平坦である。	
714-6 285	須恵器 埴			12.4	(6.2)		底部	砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	轆轤右回転の成整形。高台は長脚で、底部回転系切り後の丁寧な付け高台。	内外面煤付着
714-7	須恵器 埴	5・7・22	-	7.5	(6.0)		1/2体 中 位～底部	砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	轆轤成整形。やや雑な付け高台。	焼成が甘く、 器面摩滅
714-8	須恵器 瓶		-	(11.4)	(4.5)		底部片	白色粒子 を含む	灰	還元	轆轤整形。胴部下端横位へら削り。	
714-9 285	須恵器 羽釜	36・48	(19.8)	(7.3)	27.0		1/4	砂粒を含む	にぶい橙	還元	轆轤整形。胴部上半に張りがあり、口縁部は短く直立する。鈿はやや短く上向きで、丁寧な貼り付け。胴部中位から内面轆轤撫で、胴部下半及び底部へら削り。	
714-10 285	須恵器 羽釜	9・10	(20.6)	-	(13.8)		上半部	砂粒を含む	にぶい橙	還元	轆轤整形。胴部上半の張りは弱く、口縁部は内傾し、口唇部は平坦でやや内傾する。鈿は水平で、丁寧な貼り付け。胴部上半から内面は轆轤撫で、外面の轆轤整形痕は顕著。	外面煤付着
714-11 285	須恵器 羽釜	16・21・23・ 24・26・36・ 49	(20.8)	-	(14.9)		上半部片	砂粒を含む	灰白	還元	轆轤整形。胴部上半に貼りがあり、口縁部はわずかに内傾し、口唇部は平坦。鈿は丁寧な貼り付けで、やや上向き。胴部内外面ともに轆轤撫で、下半のへら削りは残存部では確認できない。	
714-12 286	須恵器 羽釜	19・20・ 33・36	(21.8)	-	(22.6)		口～胴部 下位片	砂粒を含む	にぶい橙	還元	轆轤整形。胴部上半の張りは弱く、口縁部は内傾ぎみで、上端が直立する。口唇部は平坦で、浅い窪みが巡り、内傾する。鈿は短く上向きで、丁寧な貼り付け。胴部上半から内面轆轤撫で、胴部下半縦位へら削り。	
715-13 286	須恵器 羽釜	12・30	(21.0)	-	(8.2)		口縁部片	砂粒を含む	灰白	還元	轆轤整形。胴部の張りは弱く、口縁部はやや内傾ぎみで、口唇部は平坦で浅い窪みが巡り、内傾する。胴部内外面轆轤撫で。	
715-14 286	鉄製品 不明	43	(3.0)	1.9	0.15	4.0	破片				薄い板状で、一端がより薄く作られているが、鎌とするには薄く身幅が狭いように思える。	

田口下田尻遺跡136号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
715-15 286	灰釉陶器 皿か	2	(13.3)	-	(1.8)		口縁部片	精良	灰白	還元	轆轤整形。体部に張りがあり、口縁部は短くわずかに外反する。施釉は均一な刷毛掛けで、発色は良好。	
715-16 286	灰釉陶器 埴	6	(16.1)	(7.2)	5.0		1/2	精良、気 孔あり	灰白	還元	轆轤整形。高台はシャープな三日月高台で、底部回転へら削り後の丁寧な貼付。体部に張りがあり、口縁部は短く外反する。施釉は刷毛掛けと思われる、光沢はなく、発色も悪い。見込み部に重ね焼き痕を残す。	
715-17	土師器 甗	1	(20.8)	-	(7.4)		口縁部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化	口縁部はく字状で、胴部上半の張りは弱い。口縁部横撫で後、肩部横位へら削り、内面雑なへらナデで、頸部外面に接合痕顕著。	
715-18 286	土師器 甗	5・130住	(18.0)	-	(7.1)		口縁部片	砂粒を含む	褐	酸化	口縁部は崩れたコ字状で、胴部上半に張りがあがる。口縁部雑な横撫で後、肩部横位へら削り、内面木口状工具の横撫で。頸部外面の接合痕顕著。	

田口下田尻遺跡131号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
716-1	土師器 甗	3	(20.0)		(5.4)		口縁部片	砂粒を含む	にぶい赤 褐	酸化	口縁部はC字状で、上端は短く直立する。口縁部横撫で後、肩部横位へら削り、内面横位へらナデ。	
716-2	須恵器 甗		-	-	-		胴部片	細砂粒を含む	灰	還元	叩き整形。外面平行叩き、内面当て具不明。薄手の作り。	
716-3	須恵器 甗	138住	-	-	-		肩部片	精良	灰	還元	頸部破片で、外面に7本単位の櫛描きの波状文と浅い凹線を巡らす。内面撫で。	
716-4	須恵器 甗	138住	-	-	-		肩部片	精良	灰	還元	叩き整形。肩部に沈線を1状巡らし、上位に7本単位の櫛描き波状文を施す。下半外面は平行叩き、対応する内面青波状文で、上位は轆轤撫で。	
716-5	須恵器 甗	138住	-	-	-		肩部片	精良	灰	還元	外面に浅い凹線と波状紋を施す。	
716-6 286	土製品 土錘	1	4.8	2.4	孔径 0.5	24.6	完形	精良	黄灰	酸化	不整な紡錘形を呈し、器面撫で、両端面面取り。	孔径 長0.5 cm短0.3cm

田口下田尻遺跡132号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
721-1	須恵器 環か	10	(13.8)	-	(4.1)		口縁部片	精良	灰白	還元	轆轤整形。体部の張りは弱く、口縁部は外反しない。	
721-2	須恵器 環		-	(7.0)	(0.9)		底部片	細砂粒を含む	灰	還元	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。体部の剥落部に系切り痕跡を残す。	
721-3	須恵器 環	12	-	7.0	(1.8)		底部	細砂粒を含む	灰白	還元	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。底部に径5.5cmほどの円形の焼成時の土器のあたり痕跡がある。	内面手ずれ痕
721-4	須恵器 環	掘り方	-	(8.0)	(2.3)		底部片	細砂粒を含む	灰白	還元	轆轤整形。底部回転へら起し無調整。	
721-5	土師器 甗		(20.0)	-	(5.0)		口縁部片	砂粒を含む	明褐	酸化	紐作り。口縁部は外反する。口縁部横撫で後、肩部横位へら削り、内面横位撫で。	
721-6 286	土師器 甗	10・13	(20.7)	-	(16.8)		上半部片	砂粒を含む	橙	酸化	紐作り。典型的なコ字状口縁になる1段階前の口縁部形態で、口縁部横撫で後、胴部上半横位から斜位、下半斜位から縦位へら削り、内面横位撫で。	
721-7 286	土師器 甗	2・3・掘 り方	(21.2)	-	(9.8)		口縁部片	砂粒を含む	明赤褐	酸化	紐作り。口縁部は外反し、肩にやや張りがある。口縁部横撫で後、肩部横位へら削り、内面横位へらナデ。	9と同一個体 か
721-8 286	土師器 甗	1・14	(20.0)	-	(10.4)		口～肩部	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化	口縁部は典型的なコ字状を呈し、口縁部横撫で後肩部横位、胴部中位は斜位へら削り、内面は横位撫で。	
721-9	土師器 甗	3	(24.3)	-	(16.0)		上半部片	砂粒を含む	橙	酸化	口縁部は典型的なコ字状を呈し、口縁部横撫で後肩部横位、胴部中位は斜位へら削り、内面は横位撫で。	7と同一個体 か



遺物観察表

田口下田尻遺跡133号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
721-10 286	土師器 環		(12.0)	-	(2.6)		口縁部片	精良	明赤褐	酸化	扁平な丸底で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部横撫で、底部ヘラ削り、内面撫で。	
721-11	土師器 甕	3・カマド 掘り方	(19.8)	-	(6.0)		口縁部片	砂粒を含む	にぶい橙	酸化	口縁部は弱いコ字状で、口縁部横撫で、内面横位ヘラナデで、頸部外面に接合痕。	12と同一個体か
721-12	土師器 甕	1・2・132 -134住	(19.0)	-	(8.2)		口縁部片	砂粒を含む	明赤褐	酸化	口縁部は弱いコ字状で、胴部上半に張りがある。口縁部横撫で後、肩部横位ヘラ削り、内面横位ヘラナデ。	

田口下田尻遺跡134号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
721-13 286	須恵器 環	10	12.6	6.5	3.9		完形	白色粒子を含む	灰白	還元	轆轤右回転の成整形。底部回転系切り無調整。やや張りのある体部と短く外反する口縁部を有し、見込み部に歪みがある。	
721-14 286	須恵器 環	8	13.0	6.0	4.5		ほぼ完形	細砂粒を含む	灰白	還元	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。体部中位に弱い張りがあり、口縁部はわずかに外反する。	
721-15 286	須恵器 環	6・7	12.4	6.6	4.5		ほぼ完形	細砂粒を含む	浅黄	還元	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。体部の張りは弱く、口縁部は外反しない。	粉っぽい
721-16	須恵器 環	カマド	(12.0)	(6.0)	(3.9)		1/4	細砂粒を含む	灰	還元	轆轤成整形。底部は回転系切り無調整。	煙し状黒色
722-17 286	須恵器 環	11	13.1	8.0	3.2		完形	細砂粒を含む	灰白	還元	轆轤右回転の成整形。内面の整形はやや雑。	
722-18	須恵器 塊か		(14.6)	-	(3.7)		口縁部片	細砂粒を含む	灰	還元	轆轤右回転の成整形。体部にやや張りを有する。	
722-19	須恵器 塊か	8	(13.8)	-	(2.8)		口縁部片	細砂粒を含む	灰	還元	轆轤成整形。体部にわずかな張りを有する。	器面に黒色斑状
722-20 286	須恵器 環	15	-	8.6	(3.0)		1/4	細砂粒を含む	灰	還元	轆轤右回転成整形。底部回転系切り後の付け高台。高台貼り付けは腰部よりやや内側。	いぶし焼成
722-21 286	須恵器 皿	9	12.8	6.4	3.5		完形	砂粒を含む	灰	還元	轆轤右回転の成整形。底部回転系切り後の丁寧な付け高台。体部外面に轆轤成形痕を明瞭に残す。	
722-22	土師器 甕	カマド	(19.6)	-	(7.1)		口縁部片	砂粒を含む	にぶい橙	酸化	コ字状を呈する口縁部を有し、胴部上半に張りがある。口縁部横撫で後に、胴部上半横位のヘラ削り、内面横位のヘラナデを施す。	
722-23 286	土師器 甕	4・5・カマド	(19.8)	-	(9.6)		口縁部片、 胴部片	砂粒を含む	橙	酸化	コ字状を呈する口縁部を有し、胴部上半に張りがある。口縁部横撫で後に、胴部上半横位のヘラ削り、内面横位のヘラナデを施す。	
722-24 286	土師器 甕	18・21・28・ 掘り方・ 132-134住	(20.0)	-	(13.0)		上半部片	砂粒を含む	橙	酸化	コ字状を呈する口縁部を有し、胴部上半に張りがある。口縁部横撫で後に、胴部上半横位のヘラ削り、内面横位のヘラナデを施す。	
722-25 286	鉄製品 釘か		(7.6)	2.4	1.3	17.0	一端欠損				断面長方形で、頭部側を欠損する。先端部はやや細く仕上げられており、木質が残存する。	
722-26 286	鉄製品 釘	12	7.1	0.9	0.7	10.4	完形				断面長方形で、頭部はわずかに片側に突出させている。先端部は頭部と比較するとわずかに細くなる。頭部以外の部分には木質が残存した。	

田口下田尻遺跡132～134号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
722-27 286	土師器 環		(12.0)	-	(2.8)		口縁部片	精良	明赤褐	酸化	扁平な丸底で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部横撫で、底部ヘラ削り、内面撫で。	
722-28	須恵器 塊		(14.2)	-	(5.2)		口縁部片	細砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	轆轤整形。体部に弱い張りがあり、口縁部は外反しない。	

田口下田尻遺跡135号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
724-1	土師器 甕		(18.0)	-	(6.1)		口縁部片	砂粒を含む	明赤褐	酸化	口縁部はコ字状で、上端は受け口状を呈する。口縁部横撫で後、肩部外面横位ヘラ削り、内面横位ヘラナデ。	

田口下田尻遺跡137号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
727-1 286	土師器 環	3	10.9	-	3.6		完形	細砂粒を含む	橙	酸化	丸底で口縁部はわずかに内湾する。口縁部横撫で、底部ヘラ削りで、間の整形不明瞭。内面撫で。	
727-2 286	土師器 環	4	(14.3)	-	(4.2)		1/4	細砂粒を含む	橙	酸化	丸底で口縁部はわずかに内湾する。口縁部横撫で、底部ヘラ削りで、間の整形不明瞭。内面撫で。	
727-3 286	須恵器 蓋	2	(17.2)	摘径 6.0	3.4		1/2	細砂粒を含む	灰	還元	右回転轆轤整形。摘みは環状で、天井部回転ヘラ削り後の丁寧な貼付。内面のカエリはシャープ。	

田口下田尻遺跡138号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
728-4 286	須恵器 環	7	(11.8)	(6.5)	3.4		1/2	白色粒子を含む	灰	還元	轆轤右回転の成整形。底部回転系切り無調整。体部に弱い張りを有する。	
728-5 286	須恵器 環	28	10.4	4.6	4.1		ほぼ完形	砂粒を含む	浅黄橙	酸化気味	轆轤右回転の成整形。底部は回転系切り無調整。体部に張りがあり、口縁部はわずかに外反する。内面の整形は丁寧。	口唇部に炭化物付着
728-6 286	須恵器 環		(12.1)	5.9	3.6		1/2	白色粒子を含む	にぶい黄 橙	還元	轆轤右回転の成整形。底部は回転系切り無調整。底部がやや突出ぎみで、腰に張りを有する。	器面摩滅
728-7	須恵器 環	18	(11.0)	(5.7)	3.2		1/4	砂粒を含む	浅黄橙	還元	轆轤右回転の成整形。底部はヘラ削りに見えるが、摩滅が激しく判然としない。体部はわずかに張りがあり、口縁部の外反もわずかである。	内外面摩滅
728-8	須恵器 環		-	(6.5)	(2.8)		底部片	砂粒を含む	橙	還元	轆轤右回転の成整形。底部は回転系切り無調整。内外面ともに丁寧な整形がなされている。	
728-9 286	須恵器 塊	27	(11.7)	6.6	4.9		1/2	砂粒を含む	灰白	還元	轆轤右回転の成整形。高台はやや雑な付け高台で、体部との接合面に段差が生じている。内外面ともに轆轤整形痕を明瞭に残す。	
728-10 287	須恵器 塊	6	13.0	(6.5)	4.7		ほぼ完形	砂粒を含む	灰白	還元	轆轤右回転の成整形。高台は底部回転系切り後の付け高台。体部中位に弱い張りを有し、口縁部はわずかに外反する。	体部内面中位に炭化物が帯状に付着
728-11	須恵器 塊	29	-	8.2	(2.8)		底部	白色粒子を含む	灰黄	還元	轆轤右回転の成整形。高台は底部回転系切り後の丁寧な付け高台。	見込み部にハゼが顕著
728-12	須恵器 塊	掘り方35	(13.5)	(6.1)	(5.9)		口縁部片、 底部片	砂粒を含む	灰白	還元	轆轤右回転の成整形。高台は付け高台。体部の張りが弱い。	器面の摩滅が顕著
728-13 287	灰釉陶器 塊	掘り方38	-	6.5	(1.8)		底部	白色粒子多し、 細砂粒を含む	灰白	還元	左回転轆轤整形。高台は崩れた三日月高台状で、底部回転系切り後の付け高台。体部欠損のため施釉技法不明。	厚手の作り

遺物観察表

728-14	須恵器 埴	27	-	6.2	(1.8)		底部	砂粒を含む	橙	酸化気味	轆轤右回転の成整形。高台は底部回転系切り後の雑な付け高台で、器面摩滅 体部との接合部に隙間が生じている。	
728-15 287	灰釉陶器 埴	19	(14.7)	-	(2.2)		口縁部片	精良	灰白	還元	轆轤整形。口唇部が外面に肥厚し、玉縁状を呈する。施釉技法は 不明で、発色は不良。	
728-16 287	灰釉陶器 埴	掘り方	-	(6.4)	(2.1)		底部片、 口縁部片	細砂粒を 含む	灰白	還元	轆轤整形。高台は崩れた三日月高台状で、底部回転系切り後の雑 な付け高台。施釉技法は不明で、内面に厚く施釉され、発色は良好。 高台に重ね焼きのためと思われる粘土付着。	
728-17	須恵器 羽釜	掘り方	(20.9)	-	(6.4)		口縁部片	砂粒を含む	にぶい橙	酸化気味	紐作り、轆轤整形。口縁部は内傾し、口唇部はシャープで沈線状 の窪みが巡る。鈔部は短く、作りは丁寧である。残存部内外面は 轆轤撫で。	口縁部内面に わずかに炭化 物付着
728-18 287	須恵器 羽釜	15	(19.6)	-	(8.0)		口縁部片	砂粒を含む	灰黄褐	還元	紐作り、轆轤整形。口縁部は内傾し、口唇部は平坦でシャープな 作りである。鈔はやや上方を向き、貼り付けの撫では丁寧である。 残存部内外面は轆轤による撫で。	
728-19	須恵器 羽釜	カマド	(19.0)	-	(7.4)		口縁部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	紐作り轆轤整形。口縁部は短く直立する。口唇部、鈔部ともに丸 みのある作りである。残存部内外面は轆轤撫で。	
728-20	須恵器 甗	14	-	(23.0)	(5.8)		底部片	砂粒を含む	橙	酸化気味	紐作り、轆轤整形。	内面のハゼが 顕著
728-21 287	鉄製品 刀子	43	(8.0)	1.5	1.0	9.1	刃部欠損				棟区、刃区ともに明瞭で、締め金具が残存している。残存する刃部 には研ぎ減りが観察される。茎は完存し柄の木質が残存している。	
728-22 287	鉄製品 刀子	26	10.5	1.2	0.6	11.0	茎一部欠 損				棟区は明瞭で、刃区は判断としない。刃部の研ぎ減りはすすんで おり、身幅が狭い。茎の基部は欠損している。	
728-23 287	鉄製品 鎌か	42	(3.6)	(2.4)	0.2	4.3	破片				薄板状で、一端がより薄く仕上げられていることから、鎌の刃部 と考えられる。	
728-24 287	鉄製品 釘か		(2.2)	0.4	0.4	0.8	破片				断面方形で、細身の釘と思われる。	
728-25 287	鉄製品 釘	41	(6.1)	1.0	0.75	7.6	破片				断面長方形で残存する一端がやや細く仕上げられていることから、 釘の先端部部分と思われる。	

田口下田尻遺跡140号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
729-1 287	土製品 紡錘車	5	-	-	2.6	73.6	1/4	砂粒を含む	にぶい赤 褐	酸化	土製紡錘車で、器面はヘラ削りで整形。上面の軸孔周辺に窪みが見られる。	

田口下田尻遺跡141号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
730-1	須恵器 環		(13.0)	(5.8)	(3.8)		1/4	白色粒子 を含む	灰白	還元	轆轤整形。底部切り離し不明。体部の張りは弱く、口縁部は外反 しない。器面の摩滅顕著。	
730-2	須恵器 環か		(14.6)	-	(4.0)			口縁部片 細砂粒を 含む	灰白	還元	右回転轆轤整形。体部中位に張りがあり、口縁部は外反する。	
730-3	須恵器 環	1	-	(5.6)	(1.8)			下半部 細砂粒を 含む	灰白	還元	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。体部欠損。	
730-4	土師器 甕		(21.9)	-	(4.4)			口縁部片 細砂粒を 含む	にぶい赤 褐	酸化	口縁部はコ字状で、横撫で。	
730-5 287	鉄製品 不明	3	(7.4)	1.9	0.5	11.6	破片				断面長方形を呈し、一端が狭く仕上げられていることから刀子の 茎の可能性が高い。棟区などは残存していない。	

田口下田尻遺跡19号溝

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
731-1	土師器 甕		(22.0)	-	(2.4)			口縁部片 砂粒を多 く含む	橙	酸化	く字状に開く甕の口縁部で、横撫で。内外面に接合痕が残る。	

田口下田尻遺跡14号溝

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
734-1 287	須恵器 環		(11.2)	5.5	4.0		1/2	白色粒子 を含む	灰	還元	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。体部に弱い張りがあり、 口縁部はわずかに外反する。	
734-2	須恵器 環		-	6.0	(1.7)			底部 白色粒子 を含む	灰	還元	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。	外底刻書か
734-3	須恵器 埴		(11.9)	-	(3.2)			口縁部片 砂粒を含 む	にぶい黄 橙	還元	轆轤整形。体部の張りは弱く、口縁部は外反する。	
734-4	須恵器 埴		-	(6.6)	(2.0)			底部片 白色粒子 を含む	褐	酸化気味	轆轤整形。高台は底部回転系切り後の付け高台で、底部外縁に貼 付され、極めて低く蛇の目高台状を呈する。内面は丁寧なヘラ磨 ぎで光沢がある。本来黒色処理されていたものと思われるが、赤 褐色を呈しており、焼き戻されたものと考えられる。	
734-5	須恵器 埴		-	-	(1.8)			底部 砂粒を含 む	褐	酸化気味	轆轤整形。高台は付け高台で欠損。内面は丁寧なヘラ磨ぎ後黒色 処理されたはずであるが、焼き戻されたものか。	
734-6	須恵器 蓋	14	-	摘径 4.6	(2.4)			摘み～天 井部 細砂粒を 含む	黄灰	還元	轆轤整形。天井部外面回転ヘラ削り後、環状摘み貼付。	
734-7 287	須恵器 蓋		(19.0)	摘径 4.2	4.2		1/2	精良	灰	還元	右回転轆轤整形。摘みは環状で、天井部外面回転ヘラ削り後の貼付。	
734-8	須恵器 甕		-	-	-			胴部片 細砂粒を 含む	灰白	還元	叩き整形。外面平行叩き、内面当て具無文で、ヘラナデ。	

田口下田尻遺跡25号溝

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
735-1	須恵器 埴		-	7.0	(1.6)			底部片 砂粒を含 む	浅黄	酸化気味	轆轤整形。高台は付け高台。	
735-2	須恵器 埴		-	(7.7)	(2.6)			底部片 砂粒を含 む	明赤褐	酸化	高台は底部外縁部への付け高台。	
735-3 287	灰釉陶器 埴		-	(8.2)	(4.0)			体中位～ 底部 細砂粒を 含む、気 孔多い	灰白	還元	口縁部欠、内底に重ね焼きあり、施釉一部残、内底磨滅	

田口下田尻遺跡54号溝

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
737-1 287	棒状礫		18.1	6.4	5.2	1035.6	完形	粗粒輝石 安山岩			棒状礫で両端部に敲打痕状の荒れが認められる。	

遺物観察表

田口下田尻遺跡1号低地廃洋場

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(径) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考	
740-1	土師器 環		(13.3)	(3.8)	(5.8)		1/6、底部 中央欠	砂粒を含む	明赤褐	酸化	平底で、体部に弱い張りがあり、口縁部は短く直立する。口縁部横撫で、体部雑なへら削り、内面撫で。		
740-2	土師器 環		(13.1)	-	(3.4)			口縁部片 砂粒を含む	明赤褐	酸化	平底と思われ、体部に張りはなく口縁部は短く外傾する。口縁部横撫で、体部雑な撫で、内面比較的丁寧な撫で。		
740-3	土師器 環		(13.0)	-	(4.0)			口縁部片 砂粒を含む	にぶい赤 褐	酸化	平底と思われ、体部に張りはなく口縁部は短くやや内湾ぎみに直立する。口縁部横撫で、体部調整不明、内面撫で。		
740-4	土師器 環		(10.8)	-	(2.5)			口縁部片 砂粒を含む	にぶい赤 褐	酸化	平底と思われ、体部に張りはなく、口縁部は短く外傾する。口縁部横撫で、体部不明、内面撫で。		
740-5	須恵器 環	2529	12.0	5.0	4.3		3/4	細砂粒を 含む	明赤褐	酸化	右回転轆轤整形。底部回転糸切り無調整。体部中に弱い張りがあり、口縁部はわずかに外反する。		
740-6	須恵器 環	2524	-	4.2	(3.4)			体上位～ 底部	砂粒を含む	にぶい橙	酸化気味	右回転轆轤整形。底部回転糸切り無調整。腰部に張りがある。	
740-7	須恵器 環	2523	(15.4)	7.5	6.7		1/4	砂粒を含む	にぶい黄 褐	酸化気味	右回転轆轤整形。高台は底部回転糸切り後の付け高台。体部下半に弱い張りがあり、口縁部は外反する。		
740-8	須恵器 環		-	(9.2)	(2.6)			底部片	砂粒を含む	にぶい褐	酸化	轆轤整形。高台はやや長脚で八字状に開く付け高台。	
740-9	須恵器 環	105・106	-	(6.3)	(4.0)			体中位～ 底部 底部 中央欠損	砂粒を含む	にぶい橙	酸化	轆轤整形。高台は体部下端側への付け高台。体部の張りは弱い。	
740-10	灰釉陶器 環	2538	(13.6)	(6.0)	4.4		1/4	細砂粒を 含む、気 孔あり	灰白	還元	右回転轆轤整形。高台はシャープな三日月高台で、底部及び腰部回転へら削り後の付け高台。体部に張りがあり、口縁部はわずかに外反する。施釉は刷毛掛けて、発色は良好。		
740-11	灰釉陶器 環		(15.8)	(6.9)	4.1			口縁～体 部片	細砂粒を 含む	灰白	還元	轆轤整形。高台は崩れた三日月高台で、底部へら削り後の付け高台。体部の張りは弱く、口縁部はごくわずかに外反する。施釉は刷毛掛けと思われ、内面の発色はやや良好。	
740-12	緑釉陶器 環	2536・ 2537	(17.0)	(8.2)	5.4			口縁部一 部、底部 1/5	Aか 灰黄	灰白から 灰黄	やや不良	底部付近素地還元していない。体部内湾し、口縁部付近のみ外反する。全面緑釉。底部内面と高台端部の軸擦れる。体部内面へら磨き。貼付高台。	篠前山窯に類似
740-13	須恵器 甕		-	-	-			頸部片	白色粒子 を含む	灰	還元	頸部接合痕あり。	
740-14	須恵器 甕	91	-	-	-			頸部片	白色粒子 を含む	灰	還元	体部外面平行叩き、内面当て具素文。頸部内面接合痕顕著。	
740-15	須恵器 羽釜		(21.0)	-	(7.0)			口縁部片	砂粒を含む	灰白	還元	轆轤整形。口縁部はほぼ直立し、口唇部は平坦で水平。鈔は水平で丁寧な貼付。胴部内外面轆轤撫で。	
740-16	須恵器 羽釜		-	-	-			鈔部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	轆轤整形。口縁部は内傾する。鈔は短くやや雑な貼付。胴部内外面轆轤撫で。	
740-17	鉄製品 釘か	58	(3.5)	0.6	0.5	1.7		破片				断面は四角形を呈し、一端が細くなっていることから釘と考えられる。	
740-18	鉄製品 不明	1003	(5.4)	1.6	0.8	12.9		破片				断面が「L」字 状を呈するもので、用途は不明である。	
740-19	鉄製品 不明	1001 ~1003	(9.2)	0.8	0.8	10.6		破片				断面方形の棒状の製品であるが、用途は不明である。	
740-20	鉄製品 不明	2476	(4.6)	1.6	1.4	8.3		破片				断面は円形を呈しており、一端の錆が顕著で全体形状が判然としない。用途は不明である。	
740-21	鉄製品 不明	1002	(2.4)	0.4	0.3	1.0		破片				断面楕円状を呈する細身の製品であるが、用途は不明である。	
740-22	円礫	527	6.0	5.1	4.6	200.2		完形	粗粒輝石 安山岩			小型の円礫で、使用痕跡は判然としない。	

田口下田尻遺跡3号低地

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(径) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考	
744-1	須恵器 環		(11.4)	6.0	3.0		1/2	白色粒子 を含む	黒褐	還元	右回転轆轤整形。底部回転糸切り無調整。体部の張りは弱く、口縁部は外反する。体部外面の轆轤整形痕顕著。		
744-2	須恵器 環	1	(12.4)	(6.2)	3.2		1/4	白色粒子 を含む	灰	還元	右回転轆轤整形。底部回転糸切り無調整。体部の張りは弱く、口縁部はわずかに外反する。	内外面に火だすき	
744-3	須恵器 環	1・2	(12.9)	(5.8)	3.3		1/2	砂粒を含む	黄灰	還元	右回転轆轤整形。底部回転糸切り無調整。体部に弱い張りがあり、口縁部は外反する。	器面摩滅	
744-4	須恵器 環		(11.8)	(5.0)	3.0		1/4	白色粒子 を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	轆轤整形。底部磨滅のため切り離し技法不明。体部の張りはごく弱く、口縁部は外反しない。		
744-5	須恵器 環	5	(14.0)	-	(4.0)			口縁部片	細砂粒を 含む	灰白	還元	轆轤整形。体部外面に稜がある。内外面の器面に黒色粒顕著。	秋間産か
744-6	須恵器 環	3	11.9	5.2	4.8		3/4	白色粒子 を含む	褐灰	還元	右回転轆轤整形。底部回転糸切り無調整で、突出する。体部に張りがあり、口縁部は外反しない。内外面に重ね焼きの痕跡か、円形の変色部がある。		
744-7	須恵器 環		-	7.0	(2.3)			底部片	砂粒を含む	褐灰	還元	右回転轆轤整形。底部回転糸切り無調整。体部にやや張りがある。	
744-8	須恵器 環		-	(8.0)	(2.4)			底部片	砂粒を含む	黄灰	還元	右回転轆轤整形。底部回転糸切り無調整。	
744-9	須恵器 環	6	15.0	6.6	6.6			ほぼ完形	白色粒子 を含む	灰黄	還元	右回転轆轤整形。高台は丁寧な付け高台で、外面に稜がある。体部に張りがあり、口縁部は外反する。	器面摩滅
744-10	須恵器 環	7	(13.8)	-	(5.2)			1/2(高台 欠損)	砂粒を含む	灰白	還元	轆轤整形。高台は底部回転糸切り後の付け高台で、貼り付け部から剥落。体部の張りが強く、口縁部は外反しない。	
744-11	須恵器 環	5	(14.8)	7.7	5.8			1/2	白色粒子 を含む	灰	還元	轆轤整形。高台は底部回転糸切り後の丁寧な付け高台。体部に弱い張りがあり、口縁部はわずかに外反する。体部内面の轆轤整形痕が顕著。	
744-12	須恵器 環		(19.5)	-	(4.4)			口縁部片	細砂粒を 含む	灰白	還元	轆轤整形。高台は付け高台で、端部は平坦で内径する。底部は剥落し、切り離し技法は不明。	
744-13	須恵器 環	3	-	7.6	(2.0)			底部	砂粒を含む	黄灰	還元	右回転轆轤整形。高台は、底部回転糸切り後の付け高台で、端部は平坦で水平。	
744-14	須恵器 環	2	-	(11.4)	(2.6)			底部片	細砂粒を 含む	灰白	還元	右回転轆轤整形。高台は丁寧な付け高台で、底部のハゼが顕著。見込みに轆轤整形痕が顕著で、摩滅。	
744-15	須恵器 蓋		(16.5)	摘径-	(1.6)			端部片	細砂粒を 含む	褐灰	還元	轆轤整形。口縁部端部は肥厚する。	
744-16	土師器 甕	4	(18.6)	-	(13.0)			口縁～肩 部片	砂粒を含む	明赤褐	酸化	口縁部はコ字状で、肩部に張りがある。口縁部横撫で、肩部横位、胴部斜位へら削り、内面撫で、口縁部外面に接合痕が残る。	



遺物観察表

745-17	須恵器 羽釜	5	(21.8)	-	(8.6)			口縁部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	轆轤整形。口縁部は内傾し、口唇部は平坦でわずかに内傾する。鈎は上面水平で、丁寧な貼り付け。胴部内外面轆轤撫で。	
745-18 288	須恵器 甕	1	-	-	-			胴部片	砂粒を含む	褐灰	還元	叩き整形。外面平行叩きで、全体に撫で消している。内面当て具は弧状の平行沈線状の文様が観察できる。	内面転用硯か
745-19 288	鉄製品 鎌		(5.7)	3.0	0.4	14.3		破片				基部の折れ部分がわずかに残存し、刃部の大半は欠損している。	
745-20 288	鉄製品 鎌か		(6.0)	1.6	0.8	9.9		破片				鎌の被へら部と考えられる。	
745-21 288	鉄製品 不明		(4.1)	0.7	0.4	1.8		破片				断面長方形で、両端部を欠損している。形状から鎌の茎の可能性があるが判然としない。	

田口下田尻遺跡2号道

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考	
751-1	土師器 環		12.5	6.6	4.4		3/4	細砂粒を含む	にぶい褐	酸化	紐作り。平底で、体部に張りはなく、口縁部はやや内湾ぎみに外傾する。口縁部横撫で、体部下端斜位へら削り、内面撫で。		
751-2	土師器 環		(12.3)	-	(3.4)			口縁部片	精良	橙	酸化	平底で、体部から口縁部は内湾ぎみに外傾する。口縁部横撫で、内面撫で、腰部から底部に型肌を残す。	
751-3	須恵器 環		(10.2)	(5.0)	(3.1)			口縁～底部片	砂粒を含む	浅黄橙	酸化気味	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。腰部の張りが強く、口縁部は外反する。	
751-4	須恵器 壺		(13.7)	-	(4.1)			口縁部片	細砂粒を含む	浅黄	還元	轆轤整形。体部にわずかに張りがあり、口縁部は外反する。	底部内外面黒色
751-5	須恵器 壺		-	6.8	(2.0)			底部	砂粒を含む	浅黄	還元	轆轤整形。高台はやや雑な付け高台。内面の轆轤整形痕顕著。	
751-6	須恵器 壺		-	(6.3)	(2.0)			底部	細砂粒を含む	灰黄	還元	轆轤整形。腰部に張りがあり、口縁部は外反しない。高台は付け高台。	
751-7	黒色土器 壺	3道	-	(6.9)	(2.4)			底部	白色粒子を含む	明赤褐	酸化気味	轆轤整形。高台は丁寧な付け高台。内面は丁寧なへら磨き後、黒色処理。	
751-8	須恵器 壺		-	(7.9)	(2.2)			底部片	細砂粒を含む	褐灰	還元	轆轤整形。高台は底部回転系切り後の丁寧な付け高台で、端部は平坦で水平。	
751-9	須恵器 皿	7	(13.0)	(5.7)	2.7			口縁～底部片	細砂粒を含む	灰	還元	轆轤整形。高台はやや雑な付け高台。体部から口縁部の反りが強い。	墨書「日置」 内面の轆轤整形痕顕著。
751-10	須恵器 皿		(14.7)	(6.8)	(2.6)			口縁～底部片	細砂粒を含む	灰白	還元	右回転轆轤整形。高台は丁寧な付け高台。体部から口縁部は強く外反する。内面の轆轤整形痕顕著。	
751-11	灰釉陶器 壺		-	6.2	(2.5)			底部	白色粒子・細砂粒を含む	灰白	還元	底部中央が下がる、外底回転削り後高台貼付け、ハケ掛けか、内面に重ね焼痕、内底磨減	
751-12	須恵器 甕	3	-	-	-			胴部片	細砂粒を含む	灰白	還元	外面平行叩き、内面当て具は青海波文。外面に「×」刻書。	
751-13	須恵器 羽釜		(21.5)	-	(6.4)			口縁部片	細砂粒を含む	浅黄橙	還元	轆轤整形。口縁部は反りぎみに直立し、口唇部は平坦で水平。鈎は水平で、丁寧な貼付。胴部内外面轆轤撫で。	

田口下田尻遺跡3号道

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考	
751-14	須恵器 環		(10.2)	(4.8)	2.8		1/4	白色粒子を含む	にぶい橙	酸化気味	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。腰部に弱い張りがあり、口縁部は外反する。		
751-15	須恵器 環	3	(10.3)	5.6	2.8		1/2	細砂粒を含む	灰白	還元	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。体部に張りがあり、口縁部は外反する。		
751-16	須恵器 環	21	10.4	5.2	3.3			ほぼ完形	白色粒子を含む	橙	酸化気味	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。体部中位にやや張りをもち、口縁部は外反しない。	
751-17	須恵器 環	14	9.8	4.4	3.1			ほぼ完形	白色粒子を含む	にぶい橙	酸化	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。体部に張りがあり、口縁部は外反しない。	
751-18	須恵器 環	25	(11.1)	5.3	3.4		2/3	砂粒を含む	浅黄	還元	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。体部にやや張りがあり、口縁部は外反する。		
751-19	須恵器 環		(10.9)	(6.1)	3.2		1/2	細砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。体部に張りがあり、口縁部は外反せず、口唇部は平坦で内傾する。		
751-20	須恵器 環	24	(10.4)	(5.0)	3.1		1/4	細砂粒を含む	灰白	還元	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。体部の張りは弱く、口縁部は外反しない。		
751-21	須恵器 環		(10.2)	(5.6)	3.1		1/4	細砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。体部に張りがあり、口縁部はわずかに外反する。		
752-22 288	須恵器 環	8	10.7	4.8	4.2			完形	白色粒子を含む	灰黄褐	還元	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。体部の張りはやや弱く、口縁部はわずかに外反する。見込み部に螺旋状の轆轤整形痕を残す。	
752-23 288	須恵器 環	20・2道	10.9	4.8	4.0			ほぼ完形	砂粒を含む	灰黄	還元	右回転轆轤整形。底部は回転系切り無調整と思われるが、磨減が激しく判然としない。腰部に張りがあり、口縁部はわずかに外反する。	器面磨減
752-24	須恵器 環	24	(8.9)	(4.0)	3.6		1/4	細砂粒を含む	にぶい橙	酸化気味	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。体部の張りが強く、口縁部は外反する。		
752-25	須恵器 環		(10.8)	-	(4.2)			口縁部片	砂粒を含む	灰	還元	右回転轆轤整形。腰部の張りが強く、口縁部は外反しない。	いぶし焼成
752-26	須恵器 壺	36	(12.1)	(5.4)	4.6		1/4	砂粒を含む	灰黄	還元	右回転轆轤整形。高台は底部回転系切り後の付け高台。体部の張りは弱く、口縁部はわずかに外反する。		
752-27	須恵器 壺		(11.5)	(7.4)	4.6		1/4	細砂粒を含む	灰白	還元	右回転轆轤整形。高台は丁寧な付け高台。体部に張りがあり、口縁部はわずかに外反する。		
752-28 288	須恵器 壺	10	11.2	6.6	5.0			ほぼ完形	砂粒を含む	にぶい橙	酸化	轆轤整形。高台はやや雑な付け高台。腰部の張りが強く、口縁部は外反しない。	体部外面に煤状の付着物
752-29 288	須恵器 壺		10.9	6.8	6.8		3/4	砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	右回転轆轤整形。高台は比較的丁寧な付け高台で、端部は平坦。腰部に弱い張りがあり、口縁部は外反しない。		
752-30 288	須恵器 壺	22	13.0	7.7	7.7			ほぼ完形	砂粒を含む	灰白	還元	右回転轆轤整形。高台は長脚で丁寧な付け高台。体部の張りは弱く、口縁部はわずかに外反する。	
752-31	須恵器 壺		(14.6)	-	(3.6)			口縁部片	砂粒を含む	浅黄橙	還元	轆轤整形。体部に張りがあり、口縁部は弱く外反する。	
752-32	須恵器 壺	2道	(16.8)	-	(5.6)			口縁部片	細砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	轆轤整形。体部に弱い張りがあり、口縁部は外反する。体部内外面ともに轆轤整形痕を顕著に残す。	
752-33	須恵器 環		(16.0)	-	(4.0)			口縁部片	細砂粒を含む	灰	還元	轆轤整形。体部に張りがあり、口縁部は外反しない。	
752-34	黒色土器 壺	2道	(18.6)	-	(5.9)			口縁部片	砂粒を含む	内黒、外 灰黄	還元	轆轤整形。体部外面轆轤撫で、内面へら磨き後黒色処理。	
752-35 288	須恵器 壺	23	-	8.0	(3.8)			体中位～ 底部	細砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	紐作り。体部外面横位へら削り後、高台貼り付け。内面撫で。	



遺物観察表

752-36	須恵器 埴		-	(6.0)	(1.8)		底部	細砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	右回転轆轤整形。高台は底部回転糸切後の比較的丁寧な付け高台。	
752-37	須恵器 埴	27	-	5.8	(1.8)		底部	細砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	右回転轆轤整形。高台は丁寧な付け高台。	
752-38	須恵器 埴		-	7.4	(2.8)		底部	砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	右回転轆轤整形。高台は丁寧な付け高台で、端部は平坦で浅い沈線状の窪みが巡る。	
752-39	須恵器 埴		-	7.3	(2.0)		底部	細砂粒を含む	灰黄	還元	右回転轆轤整形。高台は丁寧な付け高台で、端部は平坦で外傾する。	
752-40	須恵器 埴	19	-	8.2	(2.4)		底部	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	右回転轆轤整形。高台は比較的シャープで丁寧な付け高台。	器面摩滅
752-41	須恵器 埴		-	(6.3)	(2.5)		底部	砂粒を含む	浅黄橙	酸化気味	右回転轆轤整形。高台は底部回転糸切後の丁寧な付け高台。	
752-42	須恵器 埴		-	9.8	(4.5)		底部片	白色粒子を含む	灰黄	還元	轆轤整形。高台は長脚の丁寧な付け高台で、外に強く開く。	
752-43	須恵器 皿		(13.3)	-	(2.0)		口縁部片	細砂粒を含む	灰	還元	轆轤整形。体部の張りは弱く、口縁部は外反する。	
752-44	須恵器 瓶		-	(13.0)	(2.4)		底部	細砂粒を含む	褐灰	還元	轆轤整形。瓶の底部で、高台は丁寧な付け高台。器面は煙して灰色を呈するが、内部は橙色を呈する。	
752-45 288	灰釉陶器 埴	4	(12.8)	(6.8)	4.1		体～底部	白色粒子を含む	灰白	還元	轆轤整形。高台は崩れた三日月高台状で、底部へう割り後の付け高台。体部に張りがあり、口縁部は外反しない。施釉は漬け掛けで、発色は比較的良好。	
752-46 288	灰釉陶器 埴		-	(6.0)	(2.1)		底部片	細砂粒を含む	灰白	還元	轆轤整形。高台は低く崩れた三日月高台状で、底部周縁への付け高台。施釉技法は不明で、発色は悪い。	
752-47 288	灰釉陶器 埴		-	(7.3)	(3.0)		底部片	精良	灰白	還元	轆轤整形。高台は長脚で崩れた三日月高台状で、丁寧な貼付。施釉技法は不明で、発色は悪い。	
752-48 288	灰釉陶器 輪花皿		(12.5)	(6.1)	2.6		口縁～底 部片	白色粒子を含む	灰白	還元	轆轤整形。高台は崩れた三日月高台状で、やや雑な付け高台。体部に弱い張りがあり、口縁部は外反しない。残存部に1カ所外面の押圧が見られることから輪花皿と考えられる。施釉技法は不明で、光沢はまったく見られず、発色は悪い。	
752-49	緑釉陶器 埴	11	(15.8)		(3.3)		口縁部片	A	灰白	普通	体部緩く内湾し、口縁部は外反する。体部に比して口縁部の器壁厚い。内外面緑釉。	
753-50 288	須恵器 土釜		(12.3)	-	(11.1)		口縁～胴 下位片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	轆轤整形。口縁部はく字状で、胴部中に張りがある。内外面ともに轆轤撫で。	
753-51	須恵器 甕	12	-	-	-		頸部片	白色粒子を含む	灰	還元	頸部破片で、内外面ともに撫で。内面に頸部接合痕顕著。	
753-52	須恵器 甕	2	-	-	-		肩部片	白色粒子を含む	黄灰	還元	叩き整形。外面叩き、内面当て具ともに素文。頸部張り付け部で剥離。	
753-53	須恵器 甕	31	-	-	-		頸部片	細砂粒を含む	黄灰	還元	頸部破片で、胴部と頸部の接合部に外面から補強の粘土を貼付。	
753-54	土師器 土釜		(21.3)	-	(8.8)		口縁部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	口縁部はC字状で、胴部上半に張りがある。口縁部横撫で、肩部横位へう割り、内面横位へう割り。	
753-55	土師器 土釜	29・31	(22.5)	-	(10.4)		口縁部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	口縁部は厚手で、外反ぎみに直立する。口縁部横撫で、胴部縦位へう割り、横位撫で。	
753-56	須恵器 土釜		-	8.6	(2.0)		底部	砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	土釜の底部と思われる、底部磨滅、内面撫で。	
753-57 288	鉄製品 釘	1	(7.7)	1.3	0.7	6.1	ほぼ完形				2点出土し、接しなかったが同一個体と判断した。頭部は扁平にした部分を折り曲げている。	
753-58 288	鉄製品 釘か	17	(3.6)	0.8	0.8	2.1	破片				断面方形で、両端部を欠損しているが、一端が細くなっていることから釘の先端部分と考えられる。	
753-59 288	鉄製品 釘		(8.2)	1.4	0.8	13.3	先端欠損				断面長方形で、頭部はやや扁平にした部分を折り曲げて造り出している。先端部は欠損する。	

田口下田尻遺跡170号土坑

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
754-1 288	須恵器 埴	9	10.8	7.0	4.8		ほぼ完形	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	轆轤整形。高台は体部下端側への丁寧な付け高台で、端部は平坦でわずかに内傾する。体部に張りがあり、口縁部は外反しない。	
754-2	須恵器 埴	3	-	7.3	(2.6)		底部	砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	轆轤整形。高台は付け高台で、端部は平坦で内傾する。	見込み部に黒色付着物
754-3 288	須恵器 埴	4	-	9.2	(6.0)		体上位～ 底部	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	轆轤整形。高台は長脚で八字状に開く付け高台。体部に張りはない。	
754-4 288	灰釉陶器 皿	5	(13.0)	(6.9)	3.1		1/4	細砂粒を含む	灰白	還元	轆轤整形。高台は三日月高台で、体部下端か回転へう割り後の付け高台。体部に弱い張りがあり、口縁部は外反しない。施釉は刷毛掛けと見られ、光沢・発色ともにあまり良好ではない。内面の施釉部分に細かなハゼが見られる。	
754-5 288	石製品 砥石	6	19.2	6.0	4.9	508.9	完形	砥沢石			大形の砥石で、主要な砥面は上下2面で、中央部の研ぎ減りが顕著である。	

田口下田尻遺跡346号土坑

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
755-1	土師器 環		(11.8)	-	(2.7)		口縁部片	精良	橙	酸化	扁平な丸底で、口縁部は直線的に直立する。口縁部横撫で、底部へう割り、間の調整は不明瞭。内面撫で。	粉っぽい胎土

田口下田尻遺跡4号集石

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
756-1	須恵器 埴	8	-	(7.4)	(2.4)		底部片	砂粒を含む	浅黄	還元	轆轤整形。高台は付け高台。	器表荒れ顕著。
756-2	須恵器 羽釜	4	(18.2)	-	(8.6)		口縁部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	轆轤整形。口縁部は内傾し、口唇部はやや丸みがある。鈔はやや上向きで、丁寧な貼付。胴部上半及び内面轆轤撫で、胴部外面下半縦位へう割り。	

田口下田尻遺跡8号集石

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
757-1	須恵器 埴		-	-	(13.4)		底部片、 胴部片	白色粒子を含む	黄灰	還元	轆轤整形。胴部にカキ目。	

田口下田尻遺跡7号集石

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
758-1	須恵器 環		(11.8)	(6.9)	(3.2)		口縁～底 部片	細砂粒を含む	黄灰	還元	轆轤整形。底部回転糸切り無調整。体部は反りぎみに外傾し、口縁部は外反しない。	

遺物観察表

758-2	須恵器 環	-	(5.0)	(3.5)			底部片	砂粒を含む	黄褐	酸化気味	右回転轆轤整形。底部回転糸切り無調整。体部下半に張りがある。		
田口下田尻遺跡22号土坑													
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考	
759-1	須恵器 環	3	(10.0)	(5.2)	(3.2)		1/6	砂粒を含む	灰黄	還元	右回転轆轤整形。底部回転糸切り無調整。体部中位に張りがあり、口縁部は外反する。		
759-2 288	須恵器 環		(10.5)	4.5	4.2		1/2	砂粒を含む	明赤褐	酸化	右回転轆轤整形。底部回転糸切り無調整。体部に張りはなく、口縁部はごくわずかに外反する。	底部厚手で重い	
759-3 288	須恵器 環	1	-	4.2	(2.2)			体中位～ 底部	砂粒を含む	灰黄	還元	右回転轆轤整形。底部回転糸切り無調整。体部に弱い張りがある。	底部周縁摩滅
759-4	須恵器 壺		-	6.6	(2.0)			底部	砂粒を含む	灰白	還元	轆轤整形。高台は丁寧な付け高台。	
759-5 288	灰釉陶器 壺		(13.4)	-	(2.4)			口縁部片	精良、気 孔あり	灰白	還元	轆轤整形。体部に張りがあり、口縁部は外反しない。施釉は漬け 掛けで、光沢がまったく見られず、発色は悪い。	
田口下田尻遺跡36号土坑													
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考	
760-1	須恵器 壺		-	6.8	(2.0)			底部	砂粒を含む	にぶい橙	還元	轆轤整形。高台は付け高台で、端部は平坦でほぼ水平。	
760-2 288	灰釉陶器 壺	4・46坑 14	-	(8.6)	(4.3)			体中位～ 底部	精良、気 孔あり	灰白	還元	轆轤整形。高台は崩れた三日月高台状で、底部へう削り後の付け 高台。施釉技法は不明で、内面の釉葉の流れは重ね焼きの部分に 及んでいる。	
760-3 288	灰釉陶器 皿		-	(7.0)	(2.0)			底部片	精良、気 孔あり	灰白	還元	轆轤整形。高台は低い三日月高台で、丁寧な貼付。施釉は刷毛掛 けと考えられ、光沢・発色ともに良好。見込み部には重ね焼き痕 が明瞭で、釉葉が厚く及んでいる。	
760-4	須恵器 羽釜		(17.8)	-	(3.8)			口縁部片	砂粒を含む	にぶい橙	酸化	轆轤整形。口縁部は直立し、口唇部はやや丸みがある。罫は下半 がほぼ水平で、丁寧な貼付。胴部内外面轆轤撫で。	
760-5 288	鉄製品 釘		(3.5)	1.1	0.6	2.9	1/2					断面は方形で頭部は両側にわずかに広がっており、先端側が欠損 している。	
田口下田尻遺跡41号土坑													
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考	
760-6 288	鉄製品 不明		(2.1)	0.6	0.7	1.8	破片					断面長方形の棒状を呈する製品で、若干曲がっている。	
田口下田尻遺跡45号土坑													
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考	
761-1 288	須恵器 壺	5	(9.8)	5.6	3.9		1/2	小石を含む	にぶい褐	酸化	紐作り。高台は付け高台で一部に変形がみられ、底部中央に砂底 を残す。体部に張りはなく、口縁部は反りぎみに直立する。口縁 部横撫で、体部内面撫で、外面には指押さえの痕跡がある。		
761-2	須恵器 壺	3	-	6.0	(3.3)			体中位～ 底部	砂粒を含む	灰黄	還元	轆轤整形。高台は比較的丁寧な付け高台。体部の張りは弱い。	
761-3	須恵器 壺	2	-	-	(4.0)			底部	砂粒を含む	明赤褐	酸化	轆轤整形。高台は長脚で端部側を欠損する。	
761-4 288	須恵器 壺	1	-	9.5	(3.7)			底部	砂粒を含む	にぶい黄 褐	還元	轆轤整形。高台は付け高台で、歪みで楕円形を呈する。端部外面 に細い沈線が巡る。	いぶし焼成
761-5 288	鉄製品 不明		(3.4)	1.7	0.3	2.6	破片					極めて薄い板状で、棟にあたるような厚みが見られないことから 刀子とは考えられない。	
田口下田尻遺跡78号土坑													
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考	
761-6 289	須恵器 環	12	10.2	5.0	2.9		完形	砂粒～小 石を含む	橙	酸化	右回転轆轤整形。底部回転糸切り無調整。体部中位に張りがあり、 口縁部は外反する。		
761-7 289	須恵器 壺	13	14.3	9.2	6.7			ほぼ完形	砂粒～小 石を含む	灰黄	還元	右回転轆轤整形。高台は長脚で、八字状に開く丁寧な付け高台で、 腰部に弱い張りがあり、口縁部は外反する。	器面摩滅
761-8	須恵器 壺	5	-	-	(5.4)			体中位～ 底部片	砂粒～小 石を含む	灰黄	還元	右回転轆轤整形。高台は付け高台で、端部欠損。体部に張りがある。 体部内面整形はやや雑。	
761-9 289	灰釉陶器 皿	9	-	(6.0)	(1.2)			底部片	細砂粒を 含む	灰白	還元	高台外面に稜をもつ、外底右回転糸切り後高台貼付け、施釉不明、内 底磨滅。	
761-10 289	灰釉陶器 壺	8	-	(8.9)	(3.8)			体中位～ 底部片	細砂粒を 含む	灰白	還元	底部中央くぼむ、外底-高台脇外面回転削り後高台貼付け、ハケ掛け か、内底磨滅。	
761-11 289	灰釉陶器 瓶	10	-	-	-			頸部片	精良、気 孔あり	灰オリー ブ	還元	小型品、頸部外面に釉。	
田口下田尻遺跡97号土坑													
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考	
762-1	土師器 環		(11.2)	-	(3.1)			口縁部片	精良	橙	酸化	丸底で、口縁部との境に弱い段があり、口縁部は短く外傾する。 口縁部横撫で、底部へう削り、内面撫で。	
762-2	須恵器 蓋		-	摘径-	(1.6)			天井部片	砂粒を含む	灰白	還元	轆轤整形。天井部外面回転へう削り。摘みは欠損。	
田口下田尻遺跡99号土坑													
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考	
762-3	須恵器 壺		-	(6.4)	(2.8)			底部片	砂粒を含む	黄灰	還元	轆轤整形。高台は底部回転糸切り後の付け高台。	
762-4	土師器 甕	1	(16.0)	-	(5.7)			口縁部片	砂粒を含む	にぶい橙	酸化	く字状に開く口縁部で、口縁部横撫で、肩部横位へう削り。	
762-5	須恵器 甕		-	-	-			胴部片	白色粒子 を含む	灰	還元	外面カキ目、内面撫で。	
田口下田尻遺跡101号土坑													
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考	
762-6	須恵器 壺		-	(7.0)	(1.6)			底部片	砂粒を含む	浅黄	酸化気味	右回転轆轤整形。高台は底部回転糸切り後の付け高台。	
田口下田尻遺跡121号土坑													
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考	
763-1	須恵器 壺		-	(6.8)	(1.8)			底部片	白色粒子 を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	轆轤整形。高台は付け高台。	

遺物観察表

763-2	土師器 甕	-	3.0	(3.8)			底部	砂粒を多く含む	にぶい褐	酸化	裏底部で、外面斜位へラ削り、内面撫で。	
763-3	鉄製品 釘か	(4.6)	0.7	0.4	3.3	1/2					断面は長方形状を呈し、先端部が欠損している。残存する端部はやや肥厚していることから釘である可能性が高い。	
田口下田尻遺跡128号土坑												
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
763-4	須恵器 埴	-	-	(1.9)			底部	砂粒を含む	浅黄橙	酸化気味	轆轤整形。高台は底部回転系切り後の付け高台。	
763-5	須恵器 埴	-	(7.1)	(2.4)			底部片	砂粒を含む	にぶい黄橙	還元	轆轤整形。高台はやや長脚の付け高台で、端部は平坦で内傾する。	
763-6 289	灰軸陶器 環か埴	(13.0)	-	(2.9)			口縁部片	細砂粒を含む、	灰白	還元	轆轤整形。体部に張りがあり、口縁部はわずかに外反する。施釉は漬け掛けで、発色は悪い。	
763-7	須恵器 埴	(13.8)	-	(4.0)			口縁部片	砂粒を含む	にぶい黄橙	還元	轆轤整形。体部に張りがあり、口縁部は外反する。	
田口下田尻遺跡144号土坑												
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
763-8 289	須恵器 環	(10.3)	5.4	2.9			1/2	砂粒を含む	にぶい黄橙	酸化気味	右回転轆轤整形。底部回転系切り後無調整。腰部の張りが強く、口縁部は弱く外反する。	
田口下田尻遺跡146号土坑												
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
764-1	須恵器 瓶か	1	-	(7.1)	(6.2)		胴部下位 ~底部片	砂粒を含む	明褐	酸化	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。胴部内外面轆轤撫で。	
田口下田尻遺跡157号土坑												
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
764-2 289	須恵器 埴	3	-	8.0	(2.2)		底部	砂粒を含む	にぶい黄橙	酸化気味	右回転轆轤整形。高台は丁寧でシャープな付け高台で、端部は平坦で水平。	
764-3	須恵器 埴	2	-	7.0	(2.4)		底部	砂粒を含む	にぶい黄橙	酸化気味	右回転轆轤整形。高台は丁寧な付け高台。	
田口下田尻遺跡168号土坑												
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
765-1	須恵器 環	-	5.4	(1.8)			底部	砂粒を含む	浅黄橙	酸化気味	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。	体部外面赤彩
田口下田尻遺跡171号土坑												
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
765-2	須恵器 埴	3	-	(2.0)			底部片	砂粒を含む	灰黄	還元	轆轤整形。高台は付け高台で、剥落。	
田口下田尻遺跡174号土坑												
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
765-3 289	土師器 埴	3	10.5	-	3.4		完形	精良	にぶい橙	酸化	丸底で、口縁部は短くわずかに内湾する。口縁部横撫で、底部へラ削り、内面撫で、内面に灰白色の付着物。	
765-4	土師器 環	1	(13.1)	-	(3.2)		口縁部片	精良	橙	酸化	丸底で、口縁部は短く直立する。口縁部横撫で、底部へラ削り、内面撫で。	
田口下田尻遺跡209号土坑												
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
765-5 289	灰軸陶器 埴	1	-	(7.0)	(1.8)		体部片	細砂粒を含む	灰	還元	轆轤整形。高台はシャープな三日月高台で、底部へラ削り後の丁寧な付け高台。施釉技法は不明で、発色は悪い。	
田口下田尻遺跡238号土坑												
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
766-1	須恵器 289	5・6・36	12.1	6.5	4.2		2/3	砂粒~小石を含む	にぶい橙	酸化気味	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整で、わずかに突出する。体部上半に張りがあり、腰部に張りがない。口縁部はやや内湾する。	
766-2	須恵器 環	3	-	5.0	5.4		中~底部	砂粒~小石を含む	にぶい橙	酸化気味	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。腰部に張りがなく、体部上半にやや張りがある。底部わずかに突出。	
田口下田尻遺跡248号土坑												
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
766-3	土師器 環	(11.8)	-	(3.2)			口縁部片	精良	橙	酸化	丸底で、口縁部は短く内湾する。口縁部横撫で、底部へラ削り、内面撫で。	
766-4	須恵器 埴	-	(6.0)	(3.2)			底部片	砂粒を含む	黄灰	還元	右回転轆轤整形。高台は底部回転系切り後の付け高台で、低い三日月高台状の断面形状。体部下半に弱い張りがある。	
田口下田尻遺跡279号土坑												
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
767-1	須恵器 埴	-	(5.4)	(2.0)			底部	白色粒子を含む	黄灰	還元	轆轤整形。高台は底部回転系切り後の付け高台で、剥落部分に糸いぶし焼成切り痕を残す。	
767-2	須恵器 埴	-	(6.8)	(1.8)			底部片	白色粒子を含む	褐灰	還元	轆轤整形。高台は外縁を横つ丁寧な付け高台。	いぶし焼成
767-3	須恵器 埴	-	(7.1)	(1.8)			底部片	砂粒を含む	浅黄	還元	轆轤整形。高台は底部回転系切り後の付け高台。	
767-4 289	灰軸陶器 埴	-	(8.0)	(1.6)			底部片	白色粒子を含む	浅黄橙	還元	高台外面に稜をもつ、底部薄手、外底右回転削り後高台貼付け、釉不明、内底磨滅。	
767-5 289	灰軸陶器 埴	-	(6.8)	(2.4)			底部片	細砂粒を含む気孔あり	灰	還元	外底回転削り後高台貼付け、釉一部残、内底磨滅。	
田口下田尻遺跡286号土坑												
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
767-6 289	土製品 土錘	1	3.8	1.4	孔径 0.5	7.0	完形	砂粒を含む	明褐	酸化	棒状のものに巻きつけて製作されたもので、器面は丁寧な撫で、両端部に面取りはない。	

田口下田尻遺跡295号土坑

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石 材	色調	焼成	成 整 形 の 特 徴 等	備 考
768-1	須恵器 埴		-	(8.3)	(3.6)		底部	砂粒を含む	にぶい黄 橙	還元	右回転轆轤整形。高台は長脚で、八字状に開く丁寧な付け高台。	

田口下田尻遺跡307号土坑

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石 材	色調	焼成	成 整 形 の 特 徴 等	備 考
768-2	須恵器 埴		-	(6.9)	(1.7)		底部片	砂粒を含む	灰黄	還元	轆轤整形。高台は丁寧な付け高台。	
768-3	須恵器 埴		-	(7.0)	(2.8)		底部片	白色粒子 を含む	灰	還元	轆轤整形。高台は底部回転系切り後の付け高台。	
768-4	須恵器 埴		-	6.9	(2.5)		底部	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	轆轤整形。高台は丁寧な付け高台。	
768-5 289	灰釉陶器 皿		12.2	6.8	2.5		1/4	細砂粒を 含む	灰白	還元	轆轤整形。高台は低く崩れた三日月高台で、底部へら削り後の やや雑な付け高台。体部に張りがあり、口縁部は外反しない。施 釉は漬け掛けと見られるが、光沢・発色が悪いため判然としない。	

田口下田尻遺跡334号土坑

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石 材	色調	焼成	成 整 形 の 特 徴 等	備 考
768-6	須恵器 埴	1	-	7.0	(2.3)		底部	砂粒を含む	橙	酸化	轆轤整形。高台は底部回転系切り後のやや雑な付け高台。内面丁 寧なへら磨き後黒色処理したものと思われるが焼き戻されている。	
768-7 289	灰釉陶器 埴	2	-	(8.2)	(4.4)		底部片	精良、気 孔あり	灰白	還元	轆轤整形。高台はシャープさのない三日月高台で、底部へら削り 後の付け高台。体部に弱い張りがあり、口縁部は外反しない。施 釉は漬け掛けと見られるが、発色が悪く判然としない。	

田口下田尻遺跡377号土坑

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石 材	色調	焼成	成 整 形 の 特 徴 等	備 考
770-1 289	土師器 環		(11.2)	-	(3.5)		1/4(底部 中央欠損)	精良	明赤褐	酸化	平底で、体部にやや張りがあり、口縁部はわずかに外反する。口 縁部横撫で、底部へら削り、体部雑な撫で、内面丁寧な撫で。	

田口下田尻遺跡368号土坑

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石 材	色調	焼成	成 整 形 の 特 徴 等	備 考
770-2 289	黒色土器 埴	3	15.8	7.5	5.0		ほぼ完形	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	轆轤整形。底部は回転系切りで、底部縁辺に2重に沈線状の窪み を巡らせて、いわゆる削り出し高台としたものと考えられる。体 部に張りがあり、口縁部は外反しない。内面はへら磨き後黒色処 理している。吸炭範囲は口縁部外面に及んでいる。	底部と体部下 半のハゼが顕 著
770-3	須恵器 甗	1	-	-	-		底部	細砂粒を 含む	にぶい橙	還元	叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	

田口下田尻遺跡360号土坑

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石 材	色調	焼成	成 整 形 の 特 徴 等	備 考
771-1	土師器 環		(12.0)	(6.8)	2.7		口縁部片	精良	橙	酸化	平底で、体部は直線的に外傾し、口縁部は短く、わずかに内湾する。 口縁部横撫で、体部雑な撫で、底部へら削り、内面撫で。	

田口下田尻遺跡363号土坑

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石 材	色調	焼成	成 整 形 の 特 徴 等	備 考
771-2	須恵器 蓋		(14.6)	摘径-	(2.4)		端部片	白色粒子 を含む	灰	還元	轆轤右回転の成整形。端部は丸く折り曲げている。摘みの形状は 不明。	硬質
771-3	土師器 甗		(19.8)	-	(6.4)		口縁部片	砂粒を含む	にぶい橙	酸化	口縁部はコ字状で、口縁部横撫で、肩部横位へら削り、内面横位 へらナデ。	

田口下田尻遺跡371号土坑

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石 材	色調	焼成	成 整 形 の 特 徴 等	備 考
771-4 289	須恵器 環	3	10.6	4.6	3.4		完形	砂粒を含む	にぶい橙	還元	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。腰部に張りがあり、口 縁部は外反する。	
771-5 289	須恵器 環	(12.6)	6.6	3.2		1/2	砂粒を含む	灰白	還元	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。体部に弱い張りがあり、 口縁部は短く外反する。		
771-6 289	須恵器 埴	1	-	-	(3.2)		底部片 (高台端 部欠損)	白色粒子 を含む	にぶい褐	還元	轆轤整形。高台は付け高台で、欠損。体部に弱い張りがある。内 面は丁寧なへら磨き後黒色処理。	
771-7	須恵器 環		(10.5)	-	(3.3)		口縁部片	砂粒を含む	黒	還元	轆轤整形。腰部に張りがあり、口縁部は外反しない。	
771-8 289	須恵器 埴	2	(11.0)	6.1	4.6		1/2	細砂粒を 含む	にぶい橙	還元	轆轤整形。高台は底部回転系切り後の丁寧でシャープな付け高台 で、角高台状。腰部に張りがあり、口縁部は外反しない。	

田口下田尻遺跡372号土坑

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石 材	色調	焼成	成 整 形 の 特 徴 等	備 考
771-9 289	須恵器 環		(9.9)	(5.4)	(2.8)		1/4(底部 中央欠 損)	小石を含む	橙	酸化気味	右回転轆轤整形。高台は、底部回転系切り後の付け高台で、端部 は平坦で水平。底部回転系切り無調整。体部中に張りがあり、 口縁部は外反する。	
771-10 289	須恵器 皿	1・2	(14.0)	18.4	2.7		1/2	白色粒子 を含む	灰	還元	右回転轆轤整形。高台は底部回転系切り後の付け高台。体部から 口縁部はやや反りぎみに開く。内面に重ね焼き痕跡。	
771-11	須恵器 蓋		-	摘 径 3.1	(2.8)		摘み部片	砂粒を含む	灰	還元	轆轤整形。摘みは環状摘み。天井部内面に重ね焼き痕跡。	秋間産

田口下田尻遺跡42号土坑

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石 材	色調	焼成	成 整 形 の 特 徴 等	備 考
772-1 288	鉄製品 釘		(3.4)	0.8	0.75	2.3	破片				断面四角。	
772-2 288	鉄製品 釘か	1	(5.2)	0.9	0.7	4.2	破片				一端曲がる、断面四角。	

田口下田尻遺跡53号土坑

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石 材	色調	焼成	成 整 形 の 特 徴 等	備 考
772-3 288	緑釉陶器 埴	11	-	-	-		口縁部片	A	灰	普通	口縁部外面稜をなして小さく外反する。内外面緑釉。焼き締まり やや弱い。	



遺物観察表

772-4 288	緑釉陶器 埴	1	-	-	-		体部片	A	灰白	やや不良	胎土焼き締まり弱い。下部内湾し、上部は外反する。埴体部下位片であろう。内外面緑釉。	
772-5 288	緑釉陶器 不詳	10	-	-	-		体部片	A	灰白	普通	残存部やや内湾。内外面緑釉。釉厚薄い。	
772-6 288	灰釉陶器 皿	9	(13.7)	-	(2.6)		口~底部 片	精良	灰白	還元	高台一部残、ハケ掛けか、小片。	
田口下田尻遺跡54号土坑												
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石 材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
772-7 288	緑釉陶器 皿	1	-	-	-		口縁部片	A'	灰	普通	口縁部直線的に開き、端部小さく外反する。内外面緑釉。	
田口下田尻遺跡56号土坑												
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石 材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
772-8	須恵器 長頸瓶		(10.6)	-	(4.7)		口縁部片	精良	灰	還元	轆轤整形。口縁部は直線的に外傾する。外面に自然釉。	
田口下田尻遺跡75号土坑												
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石 材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
772-9 288	緑釉陶器 不詳	1	-	-	-		体部片	A	灰白	普通	内湾した後外反する可能性高い。埴か皿の口縁部片の可能性あり。内外面緑釉。	
田口下田尻遺跡110号土坑												
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石 材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
772-10	須恵器 埴		-	-	(2.6)		底部片	精良	灰白	還元	外底回転系切り後高台貼付け。	
田口下田尻遺跡124号土坑												
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石 材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
772-11	須恵器 羽釜		(19.6)	-	(3.5)		口縁部片	砂粒を含む	灰黄褐	酸化気味	口縁部内湾する。	
田口下田尻遺跡167号土坑												
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石 材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
772-12 289	須恵器 埴		(10.9)	6.0	3.9		1/2	白色粒子 を含む	にぶい橙	酸化気味	右回転轆轤整形。高台は丁寧な付け高台。体部下半に弱い張りがあり、口縁部は外反しない。	
田口下田尻遺跡190号土坑												
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石 材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
772-13	須恵器 環	1	-	7.6	(1.2)		底部	精良	灰白	還元	外底右回転系切り。	
田口下田尻遺跡234号土坑												
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石 材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
772-14	須恵器 埴	1	-	-	(1.8)		底部片	砂粒を含む	灰黄	還元	内外面回転撫で、高台欠。	
田口下田尻遺跡243号土坑												
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石 材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
772-15	土師器 甕		(14.2)	-	(3.9)		口縁部片	砂粒を含む	にぶい橙	酸化	コ字状?、内外面器表荒れ。	
田口下田尻遺跡266号土坑												
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石 材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
772-16 289	須恵器 環		10.1	4.7	3.8		ほぼ完形	白色粒子 を含む	にぶい黄 橙	酸化気味	右回転轆轤整形。底部回転系切り無調整。体部の張りは弱く、口縁部はわずかに外反する。	体部に歪み
772-17 289	須恵器 埴	1	10.1	6.1	4.1		ほぼ完形	白色粒子 を含む	褐	酸化気味	高台は丁寧な付け高台で、底部中央に砂粒を残す。体部に張りがあり、口縁部は反りぎみに直立する。口縁部横撫で、体部横位へラ削り、内面雑な撫で。	
田口下田尻遺跡269号土坑												
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石 材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
772-18 289	鉄製品 刀子	1	(11.4)	1.8	0.7	18.9	茎欠損				棟区が明瞭に捉えられる。刃部は研ぎ減りしている。	
田口下田尻遺跡273号土坑												
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石 材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
772-19	須恵器 埴		(15.9)	-	(3.8)		口縁部片	細砂粒を 含む	浅黄橙	還元	轆轤整形。体部の張りは弱く、口縁部はわずかに外反する。	
772-20	須恵器 環		(10.8)	(4.9)	3.6		1/4	細砂粒を 含む	灰白	還元	轆轤整形。底部回転系切り無調整。体部の張りは弱く、口縁部は外反しない。	
田口下田尻遺跡288号土坑												
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石 材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
772-21	須恵器 埴		-	(6.0)	(1.3)		底部片	細砂粒を 含む	灰白	還元	内外面器表荒れ。	
田口下田尻遺跡296号土坑												
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石 材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
772-22 289	灰釉陶器 皿		(12.6)	(6.8)	3.2		1/2	白色粒子 ・細砂 粒を含む	灰白	還元	口縁部玉縁状、高台断面三角形、外底回転系切り後高台貼付け、体部外面持ち上げ痕2ヶ所残、ハケ掛けか、内底に重ね焼痕あり磨滅。	
田口下田尻遺跡318号土坑												
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石 材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
772-23 289	灰釉陶器 埴	1	(15.0)	(7.0)	4.0		1/6	白色粒子 を含む	灰白	還元	高台薄手、外底-高台脇外面回転削り後高台貼付け、ハケ掛けか、内底重ね焼痕あり、内面磨滅。	

田口下田尻遺跡332号土坑

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
772-24	須恵器 埴		-	7.3	(2.0)		底部	白色粒子 を含む	黄灰	還元	外底回転糸切り後高台貼付け。	
772-25	須恵器 埴		-	(7.0)	(1.4)		底部片	精良	黄灰	還元	外底右回転糸切り後高台貼付け。	

田口下田尻遺跡337号土坑

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
772-26	土師器 甕		(16.5)	-	(3.7)		口縁部片	細砂粒を 含む	にぶい褐	酸化	内外面撫で。	

田口下田尻遺跡343号土坑

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
772-27	鉄製品 鎌か		(4.1)	4.3	0.15	8.7	破片				薄い板状。	

田口下田尻遺跡354号土坑

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
772-28	須恵器 埴	1	(13.1)	(6.0)	4.3		1/4	砂粒を 含む	にぶい黄 橙	酸化気味	轆轤整形。高台は付け高台。体部に張りはなく、口縁部は外反する。	

田口上田尻遺跡鉄滓・羽口

田口上田尻遺跡84号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存長	メタル度 錆化	磁着度	成整形の特徴等	備考
363-19 250	土製品 羽口(B型)	125	中心部 外径 6.2			511.8	14.4	なし	1	先端部～基部まで残存する。基部の一部欠損。外面は歪んで指頭圧痕が点在する。通風孔の内面は芯棒を抜き取った筋状の痕跡がそのままみられる。通風孔内径は約2.4cm。基部の先端から約4cmのところからラッパ状に開く。羽口先端部は比較的平坦に溶損している。頸部には椀形鍛冶滓の破片が付着している。胎土は荒い粒子で白色軽石を含む。やや軟質に焼成。	
364-20 250	土製品 羽口(B型)	68	基部外 径7.0			522.4	12.1	なし	2	先端部～基部まで残存する。完成品。外面は歪んで指頭圧痕が点在する。通風孔の内面は芯棒を抜き取った筋状の痕跡がそのままみられる。通風孔内径は約2.2cm。通風孔は基部までほぼ直線で基部の先端から約2cmのところからラッパ状に開く。羽口先端部は比較的平坦に溶損している。頸部には椀形鍛冶滓の破片が付着している。胎土は荒い粒子で白色軽石を含む。やや軟質に焼成。	
364-21 250	土製品 羽口(B型)	147	先端部 内径 2.7			221.5	7.5	なし	1	先端部破片。基部欠損。外面は歪んで指頭圧痕が点在する。通風孔の内面は芯棒を抜き取った筋状の痕跡がそのままみられる。通風孔内径は約2.7cm。羽口の先端部は比較的平坦に溶損している。頸部には椀形鍛冶滓の破片が付着している。胎土は荒い粒子で白色軽石を含む。やや軟質に焼成。	
364-22	土製品 羽口(B型)	40	基部外 径8.0			367.3	9.1	なし	1	先端部～基部まで残存する。基部の内面の一部欠損。外面は歪んで指頭圧痕が点在する。通風孔の内面は芯棒を抜き取った筋状の痕跡がそのままみられる。通風孔内径は約2.8cm。羽口先端部は比較的平坦に溶損している。頸部には椀形鍛冶滓が付着していた痕跡がみられる。胎土は荒い粒子で白色軽石を含む。やや軟質に焼成。	
364-23	土製品 羽口(B型)	17	先端部 内径 2.0			143.6	8.8	なし	2	羽口頸部片。椀形鍛冶滓が付着している。外面は歪んで指頭圧痕が点在する。通風孔の内面は芯棒を抜き取った筋状の痕跡がそのままみられる。通風孔内径は2.8cm。胎土は荒い粒子で白色軽石を含む。やや軟質に焼成。	
364-24	土製品 羽口(B型)	73	先端部 内径 2.0			101.6	7.6	なし	2	羽口先端部片。外面は歪んで指頭圧痕が点在する。通風孔の内面は芯棒を抜き取った筋状の痕跡がそのままみられる。通風孔内径は2.8cm。羽口先端部はやや先が丸みをおびるように溶損している。羽口先端部は比較的平坦に溶損している。頸部には椀形鍛冶滓の破片が付着している。胎土は荒い粒子で白色軽石を含む。やや軟質に焼成。	
364-25	椀形鍛冶滓 (特大、含鉄)	11	14.3	15.1	5.3	1204.3		M(◎)	3	平面不整形円形。内部から錆がにじみ出ており、全体に鉄部が含有している。厚さ5.3cmやや厚手。色調は酷褐色。滓質は密で比重が高い。上面は起伏に富んだ形状で中央が窪んでいる。下面は全面に細かい粉炭痕が観察でき一部炉床土が付着している。錆化した鉄部が多く内在している。また、滓質は密で比重が高い。	分析資料 TAG-6
364-26 250	椀形鍛冶滓 (大、含鉄)	76	11.8	9.8	5.8	643.9		錆化(△)	4	平面不整形円形の椀形鍛冶滓は二段に重なる。上段の厚さ1.3cm、下段の厚さ2.0cm。上段上面左部の粘土質溶解物は羽口の頸部の溶損か。下段上面には幅1.0cm、長さ2.0cmほどの木炭痕がみられる。	
364-27	椀形鍛冶滓 (大、含鉄)	115	13.5	9.8	3.8	504.4		錆化(△)	4	3個体の椀形鍛冶滓が付着している。左側上段の椀形鍛冶滓上面左部には粘土質溶解物が付着しており、羽口の頸部の溶損である可能性が高い。左側下段の椀形鍛冶滓の上下面には幅0.8cm、長さ1.5cmほどの木炭痕が多く付着している。右側の椀形鍛冶滓の上面には幅1.0cm、長さ2.0cmほどの木炭痕が観察でき下面は細かい木炭痕が噛み込んだ垂れが生じている。	
364-28 250	椀形鍛冶滓 (大、含鉄)	27	11.5	12.0	5.3	675.7		H(○)	3	平面不整形円形。厚さ5.3cmとやや厚手。破面なくほぼ完形。上面には細かい木炭痕、下面には全面炉床土が付着している。滓質は密で比重が高い。内面から錆がにじんでおり鉄部が内在している。	
364-29	椀形鍛冶滓 (大、含鉄)	14	13.4	10.9	4.6	841.8		H(○)	4	平面不整形円形。内部から錆がにじみ出ており、全体に鉄部が含有している。厚さ4.6cmとやや厚手。二段気味。色調は黒褐色。滓質は密で比重が高い。上面は起伏に富んだ形状である。下面に炉床土が付着しており一部剥離している。滓質は密で比重が高い。	分析資料 TAG-7
364-30	椀形鍛冶滓 (大、含鉄)	106	12.6	10.4	4.1	629.8		H(○)	3	平面不整形円形。厚さ4.1cmとやや厚手。一部欠損しているがほぼ完形。上下面に細かい木炭痕がある。滓質は密で比重が高い。一部酸化土砂が付着しており土砂中には鍛冶剥片が多くある。工房床面の土砂が付着したものか。	
364-31	椀形鍛冶滓 (中)	9	11.5	12.7	3.7	352.8		なし	1	平面不整形円形。厚さ3.7cmと薄手。右側面の一部が欠損しているがほぼ完形。上面左端部に欠け口があり、羽口の頸部の痕跡か。上面の木炭痕は幅1.0cm、長さ1.5cmと比較的大型。下面には炉床土が付着している。	
364-32	椀形鍛冶滓 (中、含鉄)	60	6.6	4.9	4.5	155.4		錆化(△)	4	厚さ4.5cmとやや厚手。周縁は破面。上面には細かい木炭痕。滓質は密で比重が高い。	

遺物観察表

364-33 250	梃形鍛冶滓 (中、含鉄)	G-5	8.5	10.0	3.6	296.2		錆化(△)	3	平面楕円形。厚さ3.6cmとやや薄手。破面がなくほぼ完形。上面には幅1.0cmほどの比較的大型の木炭痕。下面には全面炉床土が付着している。滓質は密で比重が高い。内面から錆がにじんでおり鉄部が内在している。	
364-34 250	梃形鍛冶滓 (中、含鉄)	144	11.4	14.9	4.5	391.8		錆化(△)	3	平面不整楕円形。左側部に羽口先端部下半が付着している。羽口の外径は約7cmと推定される。羽口胎土には白色軽石とスサを含む。先端部は黒色ガラス化し梃形鍛冶滓上面に向かって垂れが生じている。羽口先端部付近の梃形鍛冶滓上面にHr・FP軽石が付着している。上面は幅0.5cm、長さ1.5cmほどの比較的大型の木炭痕を噛み込んでいる。下面は細かい木炭痕を噛みながら垂れが生じており、一部、酸化土砂がおおっている。滓は厚さ2.5cmと薄手で滓質は粘土質溶解物が主体で粗である。	
364-35 250	梃形鍛冶滓 (中、含鉄)	103	9.4	8.6	4.4	334.4		錆化(△)	3	平面不整楕円形。厚さ4.4cmとやや厚手。破面なくほぼ完形。上面周縁に細かい木炭痕。中央は羽口頸部の溶損が乗っている。下面には全面細かい木炭痕があり下面の一部に酸化土砂が付着しており、土砂中には鍛造剥片が多くある。工房床面の土砂が付着したものか。内面から錆がにじんでおり鉄部が内在している。	
365-36 250	梃形鍛冶滓 (中、含鉄)	94	9.7	7.7	5.0	317.2		錆化(△)	3	平面不整楕円形。厚さ5.0cmとやや厚手。破面なくほぼ完形。上下面とも細かい木炭痕がある。滓質は粗。下面の酸化土砂中に鍛造剥片がある。内面から錆がにじんでおり鉄部が内在している。	
365-37 250	梃形鍛冶滓 (中、含鉄)	12	11.6	8.6	3.7	387.3		H(○)	3	平面不整楕円形。厚さ3.7cmと薄手。破面なくほぼ完形。上面は平坦で中央はやや窪んでいる。破面の一部には炉床土が付着している。内面から錆がにじんでおり鉄部が内在している。	
365-38	梃形鍛冶滓 (中、含鉄)	103	11.2	9.5	3.0	398.1		H(○)	5	平面不整楕円形。内部から錆がにじみ出ており全体に鉄部を含有している。厚さ3.0cmとやや薄手。色調は黒褐色。滓質は密。上面は起伏に富んだ形状で中央が窪んでいる。上面左端部に羽口の頸部の溶損が付着している。下面には全面に細かい粉炭痕が観察できる。滓質は密で比重が高い。	分析資料 TAG-8
365-39	梃形鍛冶滓 (中、含鉄)	23	9.9	6.2	5.4	329.4		L(●)	5	黒褐色。内部から錆がにじみ出ており、全体に鉄部が含有している。メタル度が高くL(●)と比較的金属鉄が残存している。大形の梃形鍛冶滓と考えられるが、鍛冶工房に持ち込まれた炉内滓の可能性もある。滓全体が酸化土砂に覆われており、破面多く形状も不整形であることから、肉眼観察から分類が困難である。本遺物が分析結果で梃形鍛冶滓と分類されれば、本遺跡で製錬系の滓は全くない可能性が高い。鍛造剥片を大量に含んだ上側側は酸化土砂が厚く付着している。滓質は密で比重が高い。	分析資料 TAG-9
365-40 250	梃形鍛冶滓 (小)	1号土抗	7.5	7.3	2.6	134.9		なし	1	平面不整楕円形。厚さ2.6cmとやや薄手。破面なくほぼ完形。上面には細かい木炭痕が噛みこんでおり木炭は幅5mm以下、長さ1.0cm以下とやや小ぶり。下面の一部には炉床土が付着している。粘土質溶解物が主体。	
365-41	梃形鍛冶滓 (小)	29	5.1	5.9	2.7	109.5		なし	1	厚さ2.7cmとやや薄手。縁部は破面。滓質は密で比重が高い。下面には全面炉床土が付着している。	
365-42	梃形鍛冶滓 (小)	18	8.1	5.6	2.5	96.4		なし	1	平面不整楕円形。厚さ2.5cmとやや薄手。色調は黒褐色。滓質は密。上面平滑で垂れが生じている。上面左側は錆がにじんでいる。右側は粘土質溶解物。羽口の頸部の溶損か。下面には前面に細かい木炭痕が観察できる。木炭を多く噛みこんでいる。	
365-43 250	梃形鍛冶滓 (小、含鉄)	43	8.7	7.8	3.3	230.5		錆化(△)	3	平面不整楕円形。厚さ3.3cmとやや薄手。左側部は欠損。滓質は密で比重が高い。上面中央は平滑。下面中央には酸化土砂が付着している。	
365-44	梃形鍛冶滓 (小、含鉄)	37	8.3	7.5	2.5	198.6		錆化(△)	3	平面不整楕円形。内部から錆がにじみ出ており、全体に鉄部が含有している。厚さ2.5cmとやや薄手。色調は黒褐色。滓質は密。上面は平滑で垂れが生じている。上面右側には炉床土が厚く付着している。滓質は密で比重が高い。	分析資料 TAG-10
365-45	梃形鍛冶滓 (小、含鉄)	38	7.5	6.6	3.6	188.2		錆化(△)	4	平面不整楕円形。厚さ3.6cmとやや薄手。破面なくほぼ完形。上面中央部は窪んでいる。上面は粘土質溶解物が主体で比重が低く、下面の滓は内面から錆がにじんでおり鉄部が内在していて比重が高い。	
365-46	梃形鍛冶滓 (極小)		5.3	5.5	2.3	52.3		なし	1	平面不整楕円形。厚さ2.3cmとやや薄手。色調は黒褐色。滓質はやや粗。密度が低い。上下面とも細かい木炭痕が観察できる。	
365-47	梃形鍛冶滓 (極小)		4.7	4.8	2.0	51.8		なし	1	平面不整楕円形。厚さ2.0cmと薄手。破面なくほぼ完形。上下面とも細かい木炭痕がある。粘土質溶解物が主体で滓質は粗で比重が低い。	
365-48	梃形鍛冶滓 (極小)	59	7.4	7.6	1.5	52.5		なし	1	厚さ1.5cmと薄手。周縁は破面。上面は平滑で下面全体に炉床土が付着している。粘土質溶解物主体で滓質は粗。	
365-49	梃形鍛冶滓 (極小、含鉄)	143	6.0	3.9	1.7	47.6		錆化(△)	3	平面不整楕円形。厚さ1.7cmと薄手。滓質は粗。表面から錆がにじんでおり鉄部が内在している。比重はやや高い。上下面とも平滑で垂れが生じている。下面には細かい木炭痕が観察できる。右側部に粒状の滓が付着している。	
365-50	梃形鍛冶滓 (極小、含鉄)	149	6.5	5.8	1.8	80.8		錆化(△)	4	平面不整楕円形。厚さ1.8cmと薄手。破面なくほぼ完形。上面は平滑で粘土質溶解物主体。下面は内面から錆がにじんでおり鉄部が内在しており比重が高い。	
365-51	梃形鍛冶滓 (極小、含鉄)	54	7.7	6.0	2.3	98.1		錆化(△)	3	平面不整楕円形。内部から錆がにじみ出ており、全体に鉄部が含有している。厚さ2.3cmとやや薄手。色調は黒褐色。滓質は密。表面から錆がにじんでおり鉄部が内在している。下面は細かい木炭痕が観察できる。気泡が多く滓質はやや粗であるが錆化した鉄部が内在し、比重はやや高い。	分析資料 TAG-11
365-52	梃形鍛冶滓 (極小、含鉄)	35	7.6	6.9	1.3	91.3		錆化(△)	4	平面不整楕円形。厚さ1.3cmと薄手。破面がほとんどなくほぼ完形。上面は中央が窪んだ形状。上下面には細かい木炭痕がある。内面から錆がにじんでおり鉄部が内在している。	
365-53	再結合滓	99	5.1	4.3	1.5	26		錆化(△)	3	上面は細かい薄片や鍛造剥片、下面に多量の鍛造剥片を含む。84号住床面付近で結合した再結合滓。	
365-54	単位流動滓	1号土抗	3.1	0.7	0.4	1.8		なし	1	本遺跡の唯一の単位流動滓であるが製錬系の滓はほとんどなく鍛冶工程で生じたものか。	
365-55	鉄塊系遺物	132	6.5	4.7	3.6	113.1		L(●)	5	黒褐色。放射割れが激しく錆化がすすんでいる。メタル度L(●)と高く金属鉄が多く残存している。酸化土砂に厚くおおわれている。	
365-56	鉄塊系遺物	1号土抗 135	4.9	4.5	3.8	129.9		L(●)	5	黒褐色。放射割れが激しく錆化がすすんでいる。メタル度L(●)と高く金属鉄が多く残存している。酸化土砂に厚くおおわれている。酸化土砂中に鍛造剥片が含まれている。	
365-57	鉄塊系遺物	1号土抗	2.9	2.9	1.3	20.1		L(●)	5	黒褐色。放射割れが激しく錆化がすすんでいる。メタル度L(●)と高く金属鉄が多く残存している。滓部がほとんどなく鉄塊系遺物とした。酸化土砂に厚くおおわれている。	

田口上田尻遺跡118号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存長	メタル度 錆化	磁着度	成整形の特徴等	備考
400-4	土製品 羽口(C-2型)	18	7.3	7.5	3.0	164.5		なし	1	羽口先端部片。通風孔の内面は荒く芯棒を抜き取ったままで整形されていない可能性が高い。他時期の羽口に比べて肉厚。胎土は白色軽石を含みき細かい粘土が主体でスサを含む。焼成は甘くもろい。外面は丁寧に撫で整形されている。先端部の溶損はやや丸みをもつ形状である。	
400-5	土製品 羽口(C-2型)	22	5.2	7.6	3.5	124.7		なし	1	羽口体部片。通風孔の内面は荒く芯棒を抜き取ったままで整形されていない可能性が高い。他時期の羽口に比べて肉厚。胎土は白色軽石を含みき細かい粘土が主体でスサを含む。焼成は甘くもろい。外面は丁寧に撫で整形されている。	
400-6	土製品 羽口(C-2型)	16	9.6	6.9	3.2	191.3		なし	1	羽口先端部～体部片。通風孔の内面は荒く芯棒を抜き取ったままで整形されていない可能性が高い。工具は若干角ばった形状か。胎土は白色軽石を含みき細かい粘土が主体でスサを含む。焼成は甘くもろい。外面は撫で整形されているが形は歪んで成形は荒い。先端部の溶損はやや丸みをもつ形状である。	
401-7	土製品 羽口(C-2型)	17	5.0	6.4	3.6	89.1		なし	1	羽口先端部片。通風孔の内面は荒く芯棒を抜き取ったままで整形されていない可能性が高い。他時期の羽口に比べて肉厚。胎土は白色軽石を含みき細かい粘土が主体でスサを含む。焼成は甘くもろい。外面は丁寧に撫で整形されている。通風孔に対して直角で平坦である。	
401-8 253	椀形鍛冶滓 (中、含鉄)	23	6.7	8.6	3.8	266.4		H(○)	4	平面円形。厚さ3.8cmとやや厚手。滓質はやや密で比重が高め。内面から錆がにじんでおり鉄部が内在している。上面は平滑である。幅1.0cm、長さ1.5cm大の比較的大きな木炭の痕跡あり。	
401-9	椀形鍛冶滓 (中、含鉄)	49	10.9	9.1	3.0	350.4		L(●)	4	平面不整形円形。厚さ3.0cmとやや薄手。色調は黒褐色。気泡があり、滓質はやや粗であるが、鉄部が内在し比重が高い。メタル度L(●)と金属鉄がやや多く残存している。上面は平滑で垂れが生じている。上面左側の粘土質の滓は羽口の頸部の溶損か。下面は一部炉床土が残存し炉底面で形成された椀形鍛冶であることがわかる。	分析資料 TAG-15
401-10 253	椀形鍛冶滓 (小)	31	6.4	7.2	4.8	156.5		なし	2	羽口先端の頸部に付着した椀形鍛冶滓。厚さ1.5cmと薄手。下面には細かい木炭痕が付着している。滓質はやや密で比重が高い。羽口の胎土には白色軽石と細かいスサが混入している。羽口先端部は黒色ガラス化した椀形鍛冶滓上面へとつながっている。	
401-11	椀形鍛冶滓 (小)	48	5.9	6.3	3.0	96.1		なし	3	椀形鍛冶滓の端部片。残存は約1/3。流動性の高い青黒色の滓が主体。気泡が多く滓質はやや粗。下面に酸化土砂が付着している。	
401-12	椀形鍛冶滓 (小)	34	5.9	6.1	2.2	81.9		なし	2	平面不整形円形。厚さ2.2cmとやや薄手。色調は黒褐色。気泡が多くあり滓質はやや粗で錆化した金属鉄が含まれておらず比重がやや低い。上面は平坦で垂が生じている。下面は木炭痕が観察できる。	分析資料 TAG-16
401-13	椀形鍛冶滓 (小、含鉄)		5.3	6.3	2.3	96.2		錆化(△)	2	椀形鍛冶の端部片。残存は約1/2。内面から錆がにじんでおり鉄部が内在している。気泡が多くあり滓質はやや粗であるが錆化した金属鉄が含まれており比重はやや高い。	分析資料 TAG-17
401-14 253	椀形鍛冶滓 (極小)	38	6.3	7.4	2.8	65.8		なし	2	平面不整形円形。厚さ2.8cmとやや薄手。色調は黒褐色。滓質は粗で比重が低い。粘土質溶解物が主体である。上面は起伏に富んだ形状で、細かい木炭痕がある。下部の窪みは工具痕か。下面にも細かい木炭痕が観察できる。	
401-15	椀形鍛冶滓 (極小)	46	3.8	3.5	2.8	46.4		なし	2	黒褐色。内部から錆がにじみ出ており全体に鉄部が含有している。下側面が生きている。メタル度が低く金属鉄があまり残存していない。小形の椀形鍛冶滓か鍛冶工房に持ち込まれた炉内滓か、肉眼観察から分類が困難であるため分析対象遺物とした。本遺構から出土した製錬系の可能性のある滓はわずかで本遺物を報告書掲載遺物とした。本遺物が分析結果で椀形鍛冶と分類されれば本遺構での製錬系の滓はないと判断でき再検討したい。	
401-16	鉄塊系遺物		2.8	2.5	1.6	13.3		M(◎)	4	黒褐色。放射割れが激しく錆化がすすんでいる。メタル度M(◎)と低く金属鉄はほとんど残存していない。酸化土砂に厚くおおわれている。	

田口上田尻遺跡遺構外

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存長	メタル度 錆化	磁着度	成整形の特徴等	備考
995-56	土製品 羽口(D-2型)		基部外 径6.2			439.7	12.2	なし	1	羽口基部～体部片。先端部欠損。通風孔内面は比較的なめらかに整えられている。通風孔は基部から先端部に向かって広がっており他時期の形状と逆である。基部も先端部も通風孔の平面形状は円形で直径2.4cmをはかる。長軸は3.0cmと大きい。	
995-57	土製品 羽口(D-2型)		中心部 外 径 7.0			469.4	12.2	なし	1	羽口基部～体部片。先端部欠損。通風孔内面は荒く芯棒を抜き取ったものの整形されていない可能性が高い。通風孔は基部から先端部に向かって広がっており他時期の形状と逆である。基部の通風孔の平面形状が円形で直径2.8cmをはかる。先端部では楕円形の形状になっており長軸3.5cmと大きい。先端部は滓化した箇所もあるがほとんど欠損。基部先端部は炭化物が付着している。胎土は白色軽石を含みき細かい粘土が主体である。焼成は固く良好である。外面は丁寧に撫で整形されている。	
995-58	椀形鍛冶滓 (中、含鉄)		18.4	12.1	2.5	331.9		なし	2	平面不整形円形。厚さ2.5cmとやや薄手。色調は黒褐色。滓質は粗で比重が低い。粘土質溶解物主体。上面は平滑で底面の椀形に沿っている。下面はほぼ全面に炉床土が付着している。炉床土は砂質で細かい白色粒を含んでいる。	分析資料 TAG-18

田口下田尻遺跡鉄滓・羽口

田口下田尻遺跡5号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存長	メタル度 錆化	磁着度	成整形の特徴等	備考
495-7	椀形鍛冶滓 (中、含鉄)	50	8.7	8.7	3.6	264.7		錆化(△)	4	平面不整形円形。厚さ0.5cmの薄手の椀形鍛冶滓に3.0cm滓が中央に付着している。色調は黒褐色。滓質はやや密。中央に付着した滓は比重が低い。上面は平滑で細かい垂が生じている。中央に付着した滓は羽口の頸部の溶損か。下面は全面に粒子の細かい炉床土が付着しており炉底面で生成された椀形鍛冶滓であることがわかる。	分析資料 TAG-1
495-8 260	椀形鍛冶滓 (極小)	52	4.4	4.5	2.3	16.6		なし	1	平面不整形円形。厚さ2.3cmとやや薄手。破面なくほぼ完形。粘土質溶解物主体の発泡した滓。滓質は粗で比重は低い。	
495-9	椀形鍛冶滓 (極小)	30	5.4	4.0	2.7	62.3		なし	1	平面不整形円形。厚さ2.7cmとやや薄手。断面の色調は光沢のある灰褐色である。滓質は密で比重が高い。上面は平滑で中央に酸化土砂が付着している。下面に細かい木炭痕が観察できる。	分析資料 TAG-2
495-10 260	椀形鍛冶滓 (極小)		4.0	3.2	2.2	40.0		なし	2	厚さ2.2cmと薄手。周縁は破面。上下面に細かい木炭痕が付着している。流動性の高い青黒色の滓が主体で滓質はやや密。比重も比較的高い。	



遺物観察表

495-11 260	鉄塊系遺物	187	6.7	7.0	4.0	201.9		M(◎)	6	黒褐色。放射割れが激しく錆化がすすんでいる。メタル度M(◎)と低く金属鉄はほとんど残存していない。酸化土砂に厚くおおわれている。	
田口下田尻遺跡45号住居											
挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存長	メタル度 錆化	磁着度	成整形の特徴等	備考
582-23 272	土製品 羽口(C-1)	56	9.3	6.9	2.9	145.5		なし	1	先端頸部。わずかに椀形鍛冶滓が付着している。肉厚。胎土は白色軽石を含むきめ細かい粘土が主体でスサを含む。焼成は甘くもろい。	
582-24	土製品 羽口か(C-1)	53	6.0	6.2	3.1	78.5		錆化(△)	3	Hr・FP軽石を羽口に加工したものか。羽口の先端部である可能性が高い。上面に通風孔の痕跡とみられる酸化面があり先端には椀形鍛冶滓が付着する。外面はわずかに加工痕がみられる。	
582-25	椀形鍛冶滓 (中、含鉄)	55	8.4	7.8	3.0	276.5		H(○)	4	平面不整形椀形。厚さ3.0cmとやや厚手。色調は黒褐色。上面は平坦で細かな垂が生じる。下面は椀形で細かい垂が生じており酸化土砂が覆っている。滓質は密で比重が高い。	分析資料 TAG-12
582-26	椀形鍛冶滓 (小、含鉄)	44	7.0	7.0	2.7	140.1		H(○)	4	平面不整形椀形。厚さ2.7cmとやや薄手。色調は黒褐色。気泡がやや多く、滓質やや粗であるが、比重は比較的高い。表面に錆がにじんでおり鉄部が内在する。上面は平滑で下面に炉床土が一部付着しており炉底部で生成された滓であることがわかる。	分析資料 TAG-13
582-27	椀形鍛冶滓 (極小、含鉄)	57	4.2	3.8	2.4	24.3		錆化(△)	2	平面不整形。厚さ2.4cmと薄手。内面から錆がにじんでおり鉄部が内在している。粘土質溶解物主体であるが鉄部が多く内在し滓全体が錆化している。気泡が多く滓質は粗。比重は低い。	
582-28	椀形鍛冶滓 (極小、含鉄)		4.9	6.0	1.8	68.7		錆化(△)	3	平面椀形。厚さ1.8cmと薄手。放射割れが激しく内面から錆がにじんでおり鉄部が多く内在している。比重は高い。	分析資料 TAG-14
582-29	椀形鍛冶滓 (極小、含鉄)	27	4.8	5.3	1.6	47.5		錆化(△)	2	平面円形。厚さ1.6cmと薄手。内面から錆がにじんでおり鉄部が内在している。比重は高い。	
582-30	鉄塊系遺物	ビット5	5.0	3.1	2.4	30.1		H(○)	6	黒褐色。細かい木炭痕が付着し鉄塊系遺物としたが残存金属鉄の滓である可能性もある。メタル度H(○)と低く金属鉄はほとんど残存していない。酸化土砂に厚くおおわれている。	
582-31	不明滓 (含鉄)		5.9	3.3	2.3	51.5		錆化(△)	2	粘土質溶解物主体。滓質は密で比重は比較的高い。椀形鍛冶滓片か。	
582-32	不明滓 (含鉄)	91	4.8	4.8	3.1	85.2		H(○)	6	黒褐色。メタル度H(○)と低く金属鉄はほとんど残存していない。酸化土砂に厚くおおわれている。鉄部が錆化し比重が低くなった鉄塊系遺物か。	
田口下田尻遺跡60号住居											
挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存長	メタル度 錆化	磁着度	成整形の特徴等	備考
609-27	土製品 羽口(A型)	180	先端部 内径2.2			57.2	5.6	なし	1	羽口先端部片。通風孔内径は約1.8cmで直線。胎土はきめ細かく白色軽石を含む。やや硬質に焼成。	
609-28	椀形鍛冶滓 (小)	158	5.9	5.5	2.4	113.8		なし	1	平面不整形椀形。厚さ2.4cmとやや薄手。右側部が破面で残存約1/3。粘土質溶解物主体の滓で上下面とも青黒色を呈している。滓質は密で比重が高い。	
609-29	椀形鍛冶滓 (極小)	175	3.6	4.0	2.8	73.3		なし	2	厚さ2.8cmとやや薄手。気泡がほとんどない光沢のある灰褐色～紫紅色の滓で滓質は密で比重が高い。高温操作で生じた滓か。	
609-30	椀形鍛冶滓 (極小)	35	5.8	5.4	2.3	63		なし	1	平面不整形。厚さ2.3cmとやや薄手。左側部が欠損。粘土質溶解物主体の滓で上下面とも青黒色を呈している。気泡が多く滓質が粗で比重が低い。下面は白色軽石を含んだ炉床土が全面に付着している。下側部は欠損部にも見えるが上面からの垂れに覆われており不明である。	
609-31	椀形鍛冶滓 (極小)	156	6.3	8.4	2.6	107.2		なし	1	平面不整形。厚さ2.6cmとやや薄手。上面の一部の気泡がはがれ欠損しているもののほぼ完形。粘土質溶解物主体の滓で上下面とも青黒色を呈している。下面の一部に錆化した含鉄部がある。滓質は粗で比重が低い。	
609-32	椀形鍛冶滓 (極小、含鉄)	184	4.8	4.4	1.8	39.2		錆化(△)	3	平面不整形。厚さ1.7cmと薄手。気泡が多く滓質は粗であるが鉄部が多く比重が高い。	
609-33	椀形鍛冶滓 (極小、含鉄)	38	5.0	5.5	2.3	76.8		錆化(△)	3	平面ほぼ円形。厚さ2.3cmとやや薄手。右側部が欠損している。光沢のある灰褐色～青黒色の気泡の少ない滓質が密で比重が高い。滓の上にガラス化した粘土質溶解物が付着している。羽口の溶損か。	
田口下田尻遺跡61号住居											
挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存長	メタル度 錆化	磁着度	成整形の特徴等	備考
610-7	椀形鍛冶滓 (中)	22	8.2	9.0	2.8	267.6		なし	2	平面不整形椀形。厚さ2.8cmと薄手。一部欠損しているもののほぼ完形。滓質は密で比重が高いが、滓の上に黒色ガラス化した粘土質溶解物が付着しており二段気味になっている。粘土質溶解物は羽口の溶損か。下面の一部には炉床土が付着している。	
610-8	椀形鍛冶滓 (中)	23	5.0	4.0	4.2	127.3		なし	3	厚さ4.2cmと厚手。周縁が破面。光沢のある灰褐色～青黒色の気泡の少ない滓で比重が高い。上面には木炭痕、下面には炉床土が付着している。上側部の一部に錆化した含鉄部がある。	
610-9	椀形鍛冶滓 (小)	8	5.4	4.5	2.5	127.8		なし	2	厚さ2.5cmとやや薄手。周縁は全面破面。流動性が高い光沢のある灰褐色～青黒色の気泡の少ない滓で比重が高い。上面には木炭痕があり、下面には発泡した炉床土の残存がみられる。	
610-10	椀形鍛冶滓 (極小)	29	5.7	3.1	1.6	23.8		なし	2	平面不整形椀形。厚さ1.6cmと薄手。下側部が欠損しており残存1/3。粘土質溶解物主体の滓で上下面とも青黒色を呈している。滓質は密であるが比重は低い。上下面とも細かい木炭痕がある。	
田口下田尻遺跡68号住居											
挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存長	メタル度 錆化	磁着度	成整形の特徴等	備考
617-4	椀形鍛冶滓 (極小、含鉄)	9	5.0	4.5	1.6	39.3		錆化(△)	3	平面不整形椀形。厚さ1.6cmと薄手。粘土質溶解物主体の滓で上下面とも青黒色を呈している。滓質は密で比重が高い。内面から錆がにじんでおり鉄部が内在している。	
田口下田尻遺跡70号住居											
挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存長	メタル度 錆化	磁着度	成整形の特徴等	備考
619-12	椀形鍛冶滓 (小、含鉄)	37	5.9	4.1	1.9	65.9		錆化(△)	4	平面不整形椀形。厚さ1.9cmと薄手。周縁は全面破面。残存1/4。粘土質溶解物主体の滓で上下面とも青黒色を呈している。気泡がほとんどなく滓質は密で比重が高い。	

田口下田尻遺跡1号低地廃滓場

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(内) cm	口径(外) cm	器高(内) cm	器高(外) cm	重さ g	残存長	メタル度 錆化	磁着度	成整形の特徴等	備考
741-23 287	土製品 羽口(A型)		基部外 径7.2				348.6	8.9	なし	2	一部欠損するもののほぼ完形。使用により体部が溶損し基部のみが残存。羽口内径は1.9cm。内面は基部に向けてラップ状に開く。通風孔内面は丁寧に撫で整形されている。先端部はやや先が丸みをおびるように溶損している。胎土はきめ細かく白色軽石を含む。やや硬質に焼成。	
741-24 287	土製品 羽口(A型)	1058 1059 1694	中心部 外 径 6.3				305.3	9.5	なし	2	基部が一部欠損するもののほぼ完形。使用により体部が溶損し基部のみが残存。羽口内径は2.3cm。内面は基部に向けてラップ状に開く。通風孔内面は丁寧に撫で整形されている。先端部はやや先が丸みをおびるように溶損している。胎土はきめ細かく白色軽石を含む。やや硬質に焼成。	
741-25 287	土製品 羽口(A型)	1051	先端部 内 径 2.2				209.4	9.0	なし	1	基部欠損。羽口の先端部の内径は2.2cm。先端部～基部にかけて直接的に開いており基部付近まで使用されていたと考えられる。先端部はやや先が丸みをおびるように溶損している。通風孔内面は丁寧に撫で整形されている。胎土はきめ細かく白色軽石を含む。やや硬質に焼成。	
741-26	土製品 羽口(A型)		中心部 外 径 5.6				263.4	10.3	なし	1	羽口体部～基部片。通風孔内径2.2cm。内面は基部に向けてラップ状に開く。通風孔内面は丁寧に撫で整形されている。先端部の頸部に欠け口があり椀形鍛冶滓が付着していた痕跡か。胎土はきめ細かく白色軽石を含む。やや硬質に焼成。	
741-27	土製品 羽口(A型)		中心部 外 径 5.5				255.6	9.0	なし	2	羽口体部～基部片。基部のほとんど欠損。通風孔内径2.2cm。先端部はやや先が丸みをおびるように溶損している。通風孔内面は丁寧に撫で整形されている。先端部の頸部に欠け口があり椀形鍛冶滓が付着していた溶損か。胎土はきめ細かく白色軽石を含む。やや硬質に焼成。	
741-28	土製品 羽口(A型)	1061	中心部 外 径 5.4				176.2	7.3	なし	1	基部欠損。先端部の内径は2.1cm。内径の形状は欠損した基部まで直線であることから基部の大部分が欠損していると考えられる。先端部はやや先が丸みをおびるように溶損している。通風孔内面は丁寧に撫で整形されている。胎土はきめ細かく白色軽石を含む。やや硬質に焼成。	
741-29	土製品 羽口(A型)	1020	基部外 径8.6				145.8	9.5	なし	1	通風孔の内面の基部が先端から約2cmのところからわずかに開いていることから体部～基部にかけた羽口片であると考えられる。先端部はやや丸みをおびるように溶損しており、頸部に椀形鍛冶滓の一部が付着している。通風孔内面は丁寧に撫で整形されている。胎土はきめ細かく白色軽石を含む。やや硬質に焼成。	
741-30	土製品 羽口(A型)	1021	基部外 径9.6				168.1	10.4	なし	1	羽口体部～基部片。基部先端まで残存。基部側の内面が剥離している。外面には指頭圧痕。羽口先端部は先端が尖るように溶損している。通風孔内面は丁寧に整形されている。胎土はきめ細かく白色軽石を含む。やや硬質に焼成。	
741-31	土製品 羽口(A型)	10241031	中心部 外 径 5.9				95.0	6.9	なし	1	羽口先端部～基部片。通風孔内面の基部側が少し開いており基部片とした。先端部はやや先が丸みをおびるように溶損している。通風孔内面は丁寧に撫で整形されている。	
741-32	土製品 羽口(A型)	1011	4.8	5.7	1.9	43.9			なし	1	基部片。通風孔内面は丁寧に撫で整形されている。胎土はきめ細かく白色軽石を含む。やや硬質に焼成。	
741-33	土製品 羽口(A型)	2174	6.8	5.7	2.4	95.3			なし	2	羽口先端部～体部片。基部欠損。胎土はきめ細かく白色軽石を含む。やや硬質に焼成。	
741-34	土製品 羽口(A型)	1496	7.5	5.2	2.0	77.0			なし	1	羽口先端部～体部片。通風孔内面は丁寧に撫で整形されている。先端部は頸が突き出るように溶損している。先端部の頸部に欠け口があり椀形鍛冶滓が付着していた痕跡か。胎土はきめ細かく白色軽石を含む。やや硬質に焼成。	
741-35	土製品 羽口(A型)	1484	7.7	5.5	2.0	79.3			なし	1	羽口体部～基部片。通風孔内面は丁寧に撫で整形されている。胎土はきめ細かく白色軽石を含む。やや硬質に焼成。	
741-36	椀形鍛冶滓 (大、含鉄)	645	5.6	7.6	5.5	231.8			錆化(△)	1	平面円形。厚さ5.5cmと厚手。約1/4残存。上面に粘土質溶解物主体の滓と含鉄部が付着している。前者は羽口の溶損で後者は鉄部が流れ出したものか。下面の一部に炉床土が付着している。滓質が密で光沢のある灰褐色を呈する。	分析資料 TAG-3
741-37	椀形鍛冶滓 (中、含鉄)	742	8.5	5.4	2.3	108.1			錆化(△)	2	平面円形。厚さ2.3cmと薄手。残存1/4。上面に粘土質溶解物主体の滓が付着し下半は気泡が多く滓質は粗であるが鉄部が多く比重が高い。	
741-38 287	椀形鍛冶滓 (中、含鉄)	2204	10.0	8.9	3.1	279.5			錆化(△)	3	平面不整形円形。厚さ3.1cmとやや薄手。残存3/4。上面に粘土質溶解物主体の羽口の溶損した滓が乗っている。滓質は密で比重が高い。内面から錆がにじんでおり鉄部が内在している。下面に酸化土砂が付着しており土砂中には鍛造剥片が多くある。工房床面の土砂が付着したものか。	
741-39 287	椀形鍛冶滓 (小、含鉄)	107	8.6	7.1	3.5	205.1			錆化(△)	6	平面不整形円形。厚さ3.5cmとやや薄手。破面なくほぼ完形。上面は青紫色の粘土質溶解物主体の滓が乗っている。上下面に細かい木炭痕がある。滓質は密で比重が高い。内面から錆がにじんでおり鉄部が内在している。上面の一部に酸化土砂が付着しており土砂中には鍛造剥片が多くある。工房床面の土砂が付着したものか。土砂中にはHr・FPがある。	
741-40 287	椀形鍛冶滓 (小、含鉄)	1163	6.5	6.7	3.8	172.5			錆化(△)	4	平面不整形円形。厚さ3.8cmとやや厚手。一部欠損しているがほぼ完形。上下面に木炭痕がある。下面は内面から錆がにじんでおり鉄部が内在している。滓質は密で比重が高い。上面は青黒色の流動性の高い滓。気泡が多く空洞化している。	
741-41 287	椀形鍛冶滓 (小、含鉄)	479	7.1	5.6	2.3	128.6			錆化(△)	3	平面不整形円形。厚さ2.3cmとやや薄手。一部欠損しているがほぼ完形。上面は紫黒色の粘土質溶解物主体の滓で内面から錆がにじんでいる。滓質は密で比重が高い。	
741-42 287	椀形鍛冶滓 (小、含鉄)	1965	8.0	7.6	3.4	194.9			H(○)	4	平面不整形円形。厚さ3.4cmとやや薄手。右端部が一部欠損しているがほぼ完形。上面左側に粘土質溶解物主体の滓が乗っており、羽口が溶損したものか。内面から錆がにじんでおり鉄部が内在している。放射割れも激しく鉄部が比較的多い。下面に炉床土が付着している。	
741-43	椀形鍛冶滓 (小、含鉄)	1769	6.9	6.4	2.6	123.8			H(○)	4	平面不整形円形。厚さ2.6cmとやや薄手。右側部が一部欠損しているがほぼ完形。上面には粘土質溶解物が付着しており下面は内面から錆がにじんでおり鉄部が内在している。滓質は密で比重が高い。	
741-44	椀形鍛冶滓 (極小)	2144	6.3	3.8	3.1	46.8			なし	1	厚さ3.1cmとやや薄手。周縁は全面破面。発泡した粘土質溶解物主体の椀形鍛冶滓。気泡が多く比重が低い。	
741-45	椀形鍛冶滓 (極小)	1708	6.5	6.9	2.5	91.2			なし	3	平面不整形円形。厚さ2.5cmとやや薄手。上面には粘土質溶解物主体の滓が乗っており羽口が溶損した可能性が高い。下面には白色軽石を含んだ炉床土が付着している。	分析資料 TAG-4
741-46	椀形鍛冶滓 (極小)	1457	5.1	4.9	1.6	45.0			なし	2	平面不整形。厚さ1.6cmと薄手。上面上側は破面であるがほぼ完形。粘土質溶解物主体の滓で上下面とも青黒色を呈している。下面は細かい木炭痕を多く噛みこんでいる。気泡が多いが滓質はやや密。	

遺物観察表

741-47	椀形鍛冶滓 (極小)	323	4.3	4.1	1.6	30.9		なし	2	平面不整形。左側面が破面。粘土質溶解物主体の滓で上下面とも青黒色を呈している。滓質は粗で比重が低い。
741-48	椀形鍛冶滓 (極小)	1403	3.0	3.9	1.0	23.9		なし	2	厚さ1.0cmと薄手。周縁のほとんどが欠損している。粘土質溶解物主体の滓で上下面とも青黒色を呈している。上面左のわずかな盛り上がりは羽口顎部からの垂れか。
741-49	椀形鍛冶滓 (極小)	914	5.2	5.4	2.7	43.8		なし	1	厚さ2.7cmとやや薄手。周縁は全面破面。発泡した粘土質溶解物主体の椀形鍛冶滓。気泡が多く比重が低い。
741-50 287	椀形鍛冶滓 (極小、含鉄)	1294	6.5	5.8	2.1	78.6		錆化(△)	2	平面不整形。厚さ2.1cmとやや薄手。破面なく完形。上面には粘土質溶解物が附着しており粘土質溶解物主体の滓が乗っており羽口が溶損した可能性が高い。下面は内面から錆がにじんでおり鉄部が内在している。比重がやや高い。
741-51 287	椀形鍛冶滓 (極小、含鉄)	2297	6.6	6.1	2.5	98.1		錆化(△)	2	平面不整形。厚さ2.5cmとやや薄手。左右側面が欠損している。上面には粘土質溶解物が附着しており下面は内面から錆がにじんでおり鉄部が内在している。気泡が多いが滓質は密で比重が高い。
741-52	椀形鍛冶滓 (極小、含鉄)	274	4.9	6.1	2.6	67.0		錆化(△)	2	平面不整形。厚さ2.6cmとやや薄手。右端部は欠損しており残存約1/2。粘土質溶解物の滓で上下面とも青黒色を呈している。中央の一部は内面から錆がにじんでおり鉄部が内在している。気泡が多いが滓質は密で比重が高い。
741-53	椀形鍛冶滓 (極小、含鉄)	1878	6.7	4.4	1.5	49.8		錆化(△)	2	平面不整形。厚さは1.5cmと薄手。破面なくほぼ完形。粘土質溶解物主体の滓で上下面とも青黒色を呈している。下面は内面から錆がにじんでおり鉄部が内在している。気泡が多く滓質は粗であるが鉄部が多く比重が高い。
741-54	椀形鍛冶滓 (極小、含鉄)	596	6.4	5.8	1.7	54.0		錆化(△)	2	平面不整形。厚さ1.7cmと薄手。破面なくほぼ完形。粘土質溶解物主体の滓で上下面とも青黒色を呈している。下面には幅0.5cmほどの木炭痕を噛みこんでいる。気泡が多く滓質は粗であるが鉄部が多く比重が高い。
741-55	椀形鍛冶滓 (極小、含鉄)	52	5.2	4.7	1.7	60.3		錆化(△)	2	平面不整形。厚さ1.7cmと薄手。右側面の一部が欠損しているがほぼ完形。上下面に木炭痕あり。粘土質溶解物主体の滓で上下面とも青黒色を呈している。内面から錆がにじんでおり鉄部が内在している。気泡が多く滓質は粗であるが鉄部が多く比重が高い。
741-56	椀形鍛冶滓 (極小、含鉄)	491	5.8	4.1	2.4	47.5		錆化(△)	2	平面不整形。厚さ2.4cmとやや薄手。破面なく完形。上下面に木炭痕あり。内面から錆がにじんでおり鉄部が内在している。下面中央に錆化した含鉄部が露出している。
741-57	椀形鍛冶滓 (極小、含鉄)	1545	4.3	4.0	2.1	33.8		錆化(△)	3	平面不整形。厚さ2.1cmと薄手。左下が欠損しており残存約2/3。粘土質溶解物主体の滓で上下面とも青黒色を呈している。内面から錆がにじんでおり鉄部が内在している。
741-58	椀形鍛冶滓 (極小、含鉄)	1858	6.5	5.7	2.3	86		錆化(△)	3	厚さ2.3cmとやや薄手。周縁のほとんどが欠損している。滓質は密であるが青黒化した粘土質溶解物主体の滓であるため比重は低い。下面全面に白色軽石を含む炉床土が附着している。上面は木炭をほとんど噛みこんでいない。
742-59	椀形鍛冶滓 (極小、含鉄)	834	4.9	5.2	2.1	68.3		錆化(△)	2	平面不整形。厚さ2.1cmと薄手。上面は木炭を多く噛みこんでおり下面は垂れが生じている。気泡が多いが滓質は密で比重が高い。内面から錆がにじんでおり鉄部が内在している。
742-60 287	椀形鍛冶滓 (極小、含鉄)	2112	5.2	7.4	3.0	80.6		II(○)	3	平面不整形。厚さ3.0cmとやや薄手。右下側面が一部欠損しているがほぼ完形。粘土質溶解物主体の滓で上下面とも青黒色を呈している。気泡が多く滓質は粗である。右側面に錆化した含鉄部がある。
742-61 287	椀形鍛冶滓 (極小、含鉄)	1679	6.9	7.4	2.3	110.5		M(◎)	5	平面不整形。厚さ2.3cmとやや薄手。一部欠損しているがほぼ完形。粘土質溶解物主体の滓で上下面とも青黒色を呈している。内面から錆がにじんでおり鉄部が内在している。気泡が多く滓質は粗であるが鉄部が多く比重が高い。
742-62	小割りされた滓	688	5.2	3.0	3.2	63.5		なし	1	厚さ3.2cmとやや薄手。周縁は全面破面。光沢のある灰褐色～青黒色の気泡の少ない滓で比重が高い。椀形鍛冶滓が小割りされたものか。
742-63	小割りされた滓	1250	3.9	3.1	2.8	55.2		なし	1	黒褐色。上面のみが生きている。上面は平滑で垂れが生じている。他は破面。滓質は密。
742-64	小割りされた滓 (含鉄)	377	3.5	3.2	2.7	47.1		錆化(△)	2	上面を除く全面破面。光沢のある灰褐色～青黒色の気泡の少ない滓で比重が高い。破面から錆化した含鉄部が露出している。椀形鍛冶滓が小割りされたものか。
742-65	小割りされた滓 (含鉄)	420	3.7	3.0	2.2	34.4		錆化(△)	2	厚さ2.2cmと薄手。光沢のある灰褐色～青黒色の気泡の少ない滓で比重が高い。破面から錆化した含鉄部が露出している。椀形鍛冶滓が小割りされたものか。
742-66	小割りされた滓 (含鉄)	512	3.0	3.0	2.5	25.1		錆化(△)	2	全面破面。光沢のある灰褐色～青黒色の気泡の少ない滓で比重が高い。破面から錆化した含鉄部が露出している。
742-67	小割りされた滓 (含鉄)	2043	3.2	2.7	2.3	22.4		錆化(△)	2	上面以外全面破面。内面から錆がにじんでおり鉄部が内在している。気泡が多く滓質はやや粗であるが鉄部が多く比重が高い。
742-68	小割りされた滓 (含鉄)	2508	2.9	3.2	2.3	31.6		錆化(△)	2	厚さ2.3cmと薄手。光沢のある灰褐色～青黒色の気泡の少ない滓で比重が高い。破面から錆化した含鉄部が露出している。椀形鍛冶滓が小割りされたものか。
742-69	小割りされた滓 (含鉄)	1435	4.9	5.9	4.2	169.1		錆化(△)	5	厚さ4.2cmとやや厚手。全面破面。光沢のある灰褐色～青黒色の気泡の少ない滓で比重が高い。内面から錆がにじんでおり鉄部が内在している。破面から錆化した含鉄部が露出している。椀形鍛冶滓が小割りされたものか。
742-70	小割りされた滓 (含鉄)	63	4.7	4.8	3.0	87.3		錆化(△)	3	厚さ3.0cmとやや薄手。光沢のある灰褐色～青黒色の気泡の少ない滓で比重が高い。内面から錆がにじんでおり鉄部が内在している。破面から錆化した含鉄部が露出している。椀形鍛冶滓が小割りされたものか。
742-71	小割りされた滓 (含鉄)	361	3.3	3.1	2.8	29.0		錆化(△)	3	上面以外破面。内面から錆がにじんでおり鉄部が内在している。気泡が多く滓質は粗であるが鉄部が多く比重が高い。破面から錆化した含鉄部が露出している。椀形鍛冶滓が小割りされたものか。
742-72 287	鉄塊系遺物	873	4.2	4.4	3.0	74.1		M(◎)	6	黒褐色。放射割れが激しく錆化がすすんでいる。メタル度M(◎)と低く金属鉄はほとんど残存していない。酸化土砂に厚くおおわれている。
742-73	鉄塊系遺物	1373	3.8	2.7	1.8	64.6		M(◎)	5	黒褐色。放射割れが激しく錆化がすすんでいる。メタル度M(◎)と低く金属鉄はほとんど残存していない。酸化土砂に厚くおおわれている。
742-74	鉄塊系遺物	863	3.8	2.5	1.8	36.1		L(●)	5	黒褐色。放射割れが激しく錆化がすすんでいる。メタル度L(●)と高く金属鉄が多く残存している。酸化土砂に厚くおおわれている。
742-75	鉄塊系遺物	1460	5.6	3.6	3.0	24.8		L(●)	5	黒褐色。放射割れが激しく錆化がすすんでいる。メタル度L(●)と高く金属鉄が多く残存している。下側面にガラス化した粘土質溶解物が附着しており残存金属鉄の多い滓である可能性もある。
742-76	鉄塊系遺物	1797	4.8	4.5	2.3	66.7		L(●)	6	黒褐色。放射割れが激しく錆化がすすんでいる。メタル度L(●)と高く金属鉄が多く残存している。酸化土砂に厚くおおわれている。
742-77 287	鉄塊系遺物	837	4.7	4.2	2.8	75.9		L(●)	6	黒褐色。放射割れが激しく錆化がすすんでいる。メタル度L(●)と高く金属鉄が多く残存している。酸化土砂に厚くおおわれている。
742-78	鉄塊系遺物	542	3.9	3.5	2.0	29.8		L(●)	6	黒褐色。放射割れが激しく錆化がすすんでいる。メタル度L(●)と高く金属鉄が多く残存している。酸化土砂に厚くおおわれている。



3面1期 田口上田尻遺跡

田口上田尻遺跡4号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
775-1 290	土師器 壺		(21.0)	-	(4.4)			口縁部片 細砂粒	橙、にぶい 黄橙	良好	2段口縁の接合痕明瞭。内外面へら磨き。口縁部外面4条のハケ目状横撫。	
775-2 290	土師器 甕		(18.0)	-	(3.5)		1/6	礫少量・ 細砂粒	橙、明褐	良好	口縁部横撫で。	
775-3 290	土師器 壺	23	-	6.6	(22.5)			細砂粒	明赤褐、 赤黒、黒、 にぶい褐	良好	外面斜位へらナデで、部分的にへら削り状をなす。くびれ部外面横撫で。内面幅広工具による撫で。	
775-4 290	土師器 壺	20・22・ 24	-	-	(15.8)			細砂粒	明赤褐	良好	外面幅の狭い工具による撫で。内面斜位へらナデ。内外面組作り痕残る。	
775-5 290	土師器 壺	5	-	(5.4)	(5.4)		1/2	粗砂粒・ 細砂粒	暗灰黄、 にぶい赤 褐	やや不良	底部外面中央窪む。外面縦位へらナデ。内面器表摩滅。内面接合痕残る。	
775-6 290	土師器 壺	36	-	(5.4)	(3.5)			粗砂粒・ 細砂粒	橙、黒褐、 にぶい黄 橙	やや不良	底部外面中央窪む。外面縦位へらナデ。内面器表摩滅すが、部分的に丁寧な撫でか残る。	
775-7 290	土師器 高環か		-	-	-			脚部 細砂粒	にぶい黄 橙、褐灰	良好	外面ハケ調整後撫で。内面ハケ目。内面上部絞り目。	

田口上田尻遺跡6号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
776-1 290	土師器 甕	3・5・ 10・12・ 5住	11.2	5.0	13.5			ほぼ完形 礫少量・ 砂粒	明黄褐	良好	体部外面縦位ハケ目(1cmあたり4~5)で下位はへらナデ部分多い。底部外面へら削り。内面斜位から横位へらナデ。口縁部やや雑な横撫で。	
776-2 290	土師器 甕	4・6・8・5 住7・5溝	15.4	-	(9.0)		1/2~ 1/3	粗砂粒・ 細砂粒	褐灰	良好	口縁部大きく開く。体部外面上半ハケ目(1cmあたり9)で下半はへら削り。体部内面撫で。口縁部内面から外面くびれ部下まで横撫で。	
776-3	棒状礫	21	14.6	7.7	4.5	826.0		完形	石英閃緑 岩		棒状礫で明瞭な敲打痕や擦れは認められない。	
777-4 290	土師器 高環	14・17	-	(11.3)	(8.8)			脚部 粗砂粒・ 細砂粒少量	橙	やや不良	器表摩滅。外面縦位へら磨き僅かに残る。円窓3方。脚部内面上部粘土突起部接合痕明瞭。	
777-5 290	土師器 甕		(19.4)	-	(8.9)			口縁部片 粗砂粒・ 細砂粒	橙	良好	口縁部横撫で。端部付近のみ強い横撫で。体部外面へら削り。体部内面へらナデ後撫で。	
777-6 290	土師器 甕	18	(18.2)	-	(22.8)		1/2	細砂粒	黒褐	良好	体部外面ハケ目(1cmあたり7)。体部内面へらナデ後撫で。内面下半器表剥離。口縁部内面から外面くびれ部直下横撫で。	

田口上田尻遺跡9号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
779-1 290	土師器 埴	56・57・ 58・144	8.6	-	8.7			ほぼ完形 細砂粒	にぶい赤 褐	良好	口縁部横撫で。体部内外面撫で。体部下位から底部外面へらナデ。	
779-2 290	土師器 埴	47・48・ 50・51	10.2	-	14.3			ほぼ完形 粗砂粒・ 細砂粒	褐	良好	口縁部付近やや内湾し、直立気味にする。口縁部内面中位から外面口縁部付近と外面くびれ部横撫で。体部外面へらナデ。体部内面撫でで接合痕残る。	
779-3 290	土師器 埴	10-12 ・71・73 ・76・79	12.4	-	14.3			ほぼ完形 細砂粒	暗赤褐	良好	口縁部開き、端部付近屈曲して受け口状とする。口縁部内面から外面くびれ部直下横撫で。体部外面へらナデ。体部内面撫で。体部内面接合痕残る。	
779-4 290	土師器 鉢	89・137 ・139 ・140	(9.8)	-	6.2		1/2	粗砂粒少 量・細砂 粒	にぶい橙	良好	口縁部外反し、口縁部つまむように小さく内湾。体部外面へらナデか。底部外面へらナデで、部分的にへら削り。体部内面丁寧な撫でかへら磨き。	
779-5 290	土師器 鉢	36	(12.0)	-	(5.7)		1/4	細砂粒	にぶい橙	良好	口縁部横撫で。体部外面へら削り。体部内面へらナデ後撫で。	
780-6 290	土師器 埴	133・107	-	-	(8.8)		1/3	粗砂粒・ 細砂粒	褐	良好	口縁部欠損。外面撫で。内面撫で。内面接合痕残る。	
780-7 290	土師器 高環	68・78・ 89・96	18.4	(11.6)	13.1		3/4	細砂粒	暗赤褐	良好	口縁部横撫で。環内面口縁部中位以下内面へらナデで、一部ハケ目状をなす。外面口縁部下半撫で、一部ハケ目。環屈曲部下粗いハケ目(1cmあたり6)。脚接合部付近から脚部外面細かいハケ目(1cmあたり10)。脚部横撫で。	
780-8	土師器 高環	45・60	(17.0)	-	(5.1)		1/3	礫少量・ 砂粒	にぶい赤 褐	良好	口縁部外面若干丸みを持ち、端部尖り気味。口縁部内面上半から口縁部外面横撫で後へら磨き。	
780-9 290	土師器 高環	3	-	(16.4)	(1.8)		1/3	細砂粒	明赤褐	やや不良	器表摩滅。脚部段をなし、水平に近く開く。	
780-10	土師器 器台	21	-	-	-			脚柱部 細砂粒	にぶい橙	良好	外面へら磨き。内面撫で。環部間との筒状部内面へら削り。円孔は3カ所はいずれも一部残存するが、明瞭な高低差がある。	
780-11	土師器 高環	43	-	-	-			脚柱部 細砂粒	にぶい橙	良好	器表やや摩滅。柱部外面へら磨き。柱部内面絞り目撫で消す。柱部内面下部へら削り。裾部横撫で。	
780-12	土師器 高環	2	-	-	-			脚柱部 細砂粒	にぶい橙	良好	外面へら磨き。内面上部絞り目、下部へら削り。	
780-13	土師器 器台か	58	-	-	-			脚部片 細砂粒	にぶい橙	良好	柱部外面撫で上下にハケ目痕残る。内面撫で。内面上部筒状に貫通し、表面は器表と同じ色調。	
780-14	土師器 壺	6・66・ 103	(12.4)	-	(4.9)		1/4	細砂粒	浅黄橙	良好	口縁部外反し、端部丸く肥厚。口縁部横撫で、一部にハケ目残る(1cmあたり10)。肩部外面と頸部内面ハケ目。肩部内面撫で。	
780-15	土師器 甕	34	-	4.2	(2.7)			底部 礫微量・ 砂粒	にぶい黄 褐	良好	外面粗いハケ目(1cmあたり4)。内面撫で。	
780-16	土師器 甕	83	(15.8)	-	(3.9)		1/4	細砂粒	にぶい赤 褐	良好	口縁部中位外面やや厚い。口縁部横撫で。体部外面へら削りか。体部内面撫で。	
780-17 290	土師器 甕	14・136・ 52・69・70・ 72・77・90・ 埋土	15.2	-	(18.1)		3/4~ 1/2	細砂粒	にぶい橙	良好	口縁部横撫で。体部外面ハケ目(1cmあたり7)。体部内面へらナデ。体部内面接合痕明瞭。	
780-18	土師器 壺	20・82	(16.0)	-	(6.4)		1/3	粗砂粒・ 細砂粒	にぶい黄 橙	良好	口縁部外方に折り返す。外面折り返し下部から口縁部内面横撫で。口縁部付近の横撫で、撫で上げ部内外で一致。口縁部内面中位以下の撫で上げ位置は不一致。頸部外面撫で。形部下端接合痕残る。	
780-19	土師器 甕	7・83	(19.8)	-	(3.9)		1/2	細砂粒	明赤褐	良好	口縁部歪む。口縁部外反し、端部付近内湾。口縁部端部尖り気味。口縁部横撫で。	
780-20 290	土師器 甕	22-28・30・ 32・34・35・ 37・38・40 ・42・46	16.4	-	(25.0)		1/2	粗砂粒・ 細砂粒	明赤褐	良好	口縁部下半外傾し、上半外反。口縁部横撫で。体部外面ハケ目(1cmあたり9)。体部外面下位のハケ目不明瞭で、底部付近へらナデ。肩部内面ハケ目(1cmあたり8)。体部内面撫で。	



遺物観察表

780-21 291	土師器 甕	67・76・87・ 91・92・98・ 99・134・ 138・142・ 143・埋土	13.1	-	(11.2)		3/4	粗砂粒・ 細砂粒	灰褐色	良好	口縁部横撫で。体部外面上半ヘラナデ、下半ヘラ削り。体部内面上位撫で、中位以下ヘラナデ。
780-22	土師器 台付甕	P7 (150)	-	(9.4)	(7.6)		台部片	細砂粒	にぶい黄 橙	やや不良	器壁厚い。台裾部横撫で。内外面撫で。
780-23	土師器 壺		-	-	-		肩部小片	細砂粒	にぶい橙	良好	外面簾状文。下部にも簾状文か。上部に刻み文か。
780-24	土師器 壺		-	-	-		体部片	細砂粒	橙	良好	外面飾横線文後に列点文。
781-25	土師器 壺	6・66・ 103	-	-	-		体部片	細砂粒	橙	やや不良	外面ハケ目(1cmあたり6)後、上部ヘラ磨き。内面撫で、上部のみハケ目(1cmあたり12)。上下不明瞭。
781-26	円礫	153	9.0	8.4	7.2	715.0	完形	粗粒輝石 安山岩			球状礫で敲打痕や擦れなどは認められない。軽微な被熱よるのか表面がやや黒変する。
781-27 291	石製品 白玉	5	2.0	2.0	0.9	4.8	わずかに 欠損	滑石			やや大形の白玉で、径0.7mmほどの穿孔がある。

田口上田尻遺跡13号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
783-1 291	土師器 器台	5・貯蔵 穴	-	-	-		脚部	細砂粒	橙、浅黄 橙	良好	脚部外面ヘラ磨き。円孔は3方2段。内面ヘラ削り。	
783-2	土師器 高環	11・12	-	-	-		底部～脚 部上位	細砂粒	明赤褐	良好	坏部断面にぶい橙色。坏部外面撫で。脚部外面ヘラナデ。脚部内面絞目。脚部円孔3カ所に上部が残る。	
783-3	土師器 甕	掘り方13	-	4.4	(2.0)		底部	細砂粒	にぶい黄 橙、黒褐	良好	外面撫で。内面ヘラナデ。	
784-4	土師器 甕		(13.0)	-	(14.1)		口縁部一 部、体部 1/3	細砂粒	橙、にぶ い黄橙	良好	頸部で屈曲し、口縁部短く開く。口縁部横撫で。体部外面細かいハケ目(1cmあたり10)。肩部外面、体部ハケ目の後、やや幅広い横位ハケ目(1cmあたり7)を横線状に2段施す。下段は観察されない部分もある。体部内面ヘラナデで、肩部内面は削りに近い。	
784-5 291	土師器 甕	1・2	(15.8)	-	(11.6)		1/3	細砂粒	にぶい 橙、黒褐	良好	頸部屈曲し、口縁部直線的に開く。口縁部内面やや平坦。体部外面斜位ハケ目(1cmあたり7)。体部内面斜位ヘラナデ。体部調整後、口縁部内面から頸部屈曲部下まで横撫で。	

田口上田尻遺跡14号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
786-1	土師器 手握ね		-	(2.4)	(3.2)		1/4	粗砂粒・ 細砂粒	にぶい黄 橙	良好	内面から底部外面黒色。外面ヘラナデ。内面撫で。	
786-2	土師器 壺		-	-	-		体部片	細砂粒	橙	良好	内外面撫で。	
786-3 291	土師器 埴	52	-	-	(7.0)		口縁一部 底部完	細砂粒	にぶい橙	良好	口縁部内面から外面くびれ部直下横撫で。体部外面ヘラナデ。底部外面ヘラ削り。体部から内面撫で。	
786-4 291	土師器 鉢	65	10.8	4.0	6.9		ほぼ完形	粗砂粒・ 細砂粒	にぶい橙	良好	体部内湾し、口縁部短く直立。口縁部横撫で。体部外面ヘラナデ。体部内面撫で、ヘラナデ状の痕跡残る。	
786-5 291	土師器 鉢	2-4	11.4	3.2	6.7		1/2	粗砂粒・ 細砂粒	明赤褐	やや不良	口縁部横撫で。内面口縁部下稜線明瞭。体部内外面撫で。外面口縁部下位接合痕残る。	
786-6	土師器 高環	36	-	-	-		坏底部	粗砂粒・ 細砂粒	褐	良好	坏底部外面ヘラナデ。坏底部内面撫で。脚部内面上部柄状の接合痕残る。	
786-7	土師器 高環	1・5・6	-	-	-		坏底部	細砂粒	明赤褐	良好	内面調整と脚接合痕から坏底部と考えられるが、内湾し稜線を有さない。内外面撫で。	
786-8 291	土師器 高環	33	-	13.6	(9.4)		脚部	細砂粒	にぶい橙	良好	脚裾部横撫で、脚柱部外面ヘラナデ。脚内面中位ヘラ削り後撫でか。脚内面上位撫で。	
786-9	土師器 高環	27・51・ 59-62	22.8	-	(6.2)		2/3	細砂粒	にぶい橙	良好	口縁部横撫で。外面屈曲部付近まで横撫で。屈曲部下位ヘラナデ。接合部筒状に突き出る。	
786-10	土師器 高環	27・51・ 59-62	-	(18.9)	(2.8)		1/3	細砂粒	にぶい橙	良好	端部に粘土が水平に付着する接地痕があり脚部の可能性がある。内外面横撫で。屈曲部接合痕で欠損。	
786-11	土師器 高環	34	-	-	-		脚柱部	細砂粒	橙	良好	外面撫で。外面裾部横撫で。内面中央ヘラ削り。内面上部絞目。	
786-12	土師器 高環	13	-	-	-		脚柱部	粗砂粒少 量・細砂 粒	にぶい赤 褐	良好	外面撫で。内面裾部横撫で。内面中位ヘラ削り。内面上位撫で。	
786-13	土師器 高環		-	-	-		脚柱部	細砂粒	にぶい橙	良好	外面上位縦位、中位横位ヘラナデ後撫で。内面裾部横撫で。内面中位強い縦位撫で。	
787-14 291	土師器 壺	42	(17.2)	-	(11.7)		1/2	細砂粒	にぶい赤 褐	良好	口縁部端部立ち上がり、端部尖る。外面ハケ目(1cmあたり5)後、口縁部横撫で。肩部内面ヘラナデ。頸部と肩部内面接合痕残る。	
787-15 291	土師器 甕	14・15・ 18・19	-	5.9	(4.2)		底部	細砂粒	にぶい褐	良好	残存部外面下部と上部ヘラ削り、中位ハケ目。内面削りに近いヘラナデ。接合部で欠損。	
787-16 291	土師器 甕か壺	38・40	-	8.5	(4.9)		底部	細砂粒	明赤褐	良好	底部外面ヘラ削り。体部外面ヘラナデ。底部内面ヘラナデ、体部下位ハケ目。	
786-17 291	土師器 台付甕		(14.6)	-	(9.2)		1/4	粗砂粒少 量・細砂 粒	にぶい赤 褐	良好	口縁部直線的に開く。口縁部内面中位僅かに膨らみ、端部僅かに窪む。口縁部内面から外面くびれ部直下横撫で。体部外面上位粗いヘラ磨き。体部外面下位ヘラナデ。内面口縁部下、口縁部側の粘土突き出る。体部内面撫で接合痕僅かに残る。	
787-18 291	土師器 台付甕	20・24・ 26	16.4	-	(21.2)		1/2	礫・砂粒	にぶい黄 褐	やや不良	口縁部雑な横撫で。体部外面ヘラ削り。底部付近はヘラナデ。台部欠損。体部内面接合痕明瞭に残る。	
787-19	石製品 不明	47	9.6	7.5	5.5	129.4	完形	ニッ岳石			円礫の中央部に紐を掛けるためのものか刻みを一周させている。	
787-20	粘土塊		-	-	1.2		不詳	細砂粒	にぶい黄 褐	不詳	片面が黒色を呈する。用途不明。	
787-21	粘土塊		-	-	1.8		不詳	細砂粒	にぶい赤 褐	不詳	丸みを帯びた面は黒色を呈する。両面に草本の茎圧痕が残るが、内部にはなく、混ぜたとは考えにくい。	

田口上田尻遺跡15号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
788-1	土師器 鉢	5・8	11.6	5.2	5.1		3/4	細砂粒	にぶい橙	良好	体部内湾し、口縁部ほぼ直立。口縁部内面後をなして厚みを減じ、端部尖る。口縁部横撫で。外面ハケ目(1cmあたり7)。体部から底部内面ヘラナデ後撫で。底部外面周囲が高く高台状をなす。	
788-2	土師器 高環	1・15住内 土坑13・14	(10.6)	(12.8)	8.8		1/3	細砂粒	橙	良好	坏部内面から脚部外面ヘラ磨き。脚部外面凹凸によりヘラ磨きが途切れる。裾部内面横撫で。脚部内面撫で。	
789-3 291	土師器 高環	15住内1 土坑	-	-	-		1/3	細砂粒	にぶい橙	良好	器表やや摩滅するが、内面側がより摩滅。坏部内面から脚部外面ヘラ磨き。脚部内面ヘラにより括る。円窓1カ所残存。坏部の挿入突起部脚部内面に最大で1.5cm突き出る。	

遺物観察表

789-4	土師器 高環	5	-	-	-		坏下部～ 脚部	細砂粒	にぶい橙	良好	環底部内面撫で。環底部外面から脚部外面へラ磨き。ヘラ磨きは砂の移動による筋が残り、単位不明瞭。口窓2カ所残存し、3方と考えられる。	
-------	-----------	---	---	---	---	--	------------	-----	------	----	---	--

田口上田尻遺跡18号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考	
790-1 291	土師器 高環		(11.8)	-	(4.4)		1/3	粗砂粒・ 細砂粒	橙、明赤 褐	良好	外面から口縁部内面上位、底部内面器表摩滅。内面へラ磨き。環底部外面へラ磨き。		
791-2 291	土師器 高環	20・22・ 掘り方・ 8溝	(20.8)	-	(7.1)		1/2	粗砂粒少 量・細砂 粒	にぶい黄 橙、オリ ーブ黒	良好	環底部小さく、脚部付近でゆるい稜をなして口縁部に至る。口縁部内湾。内外面密なへラ磨き。		
791-3 291	土師器 壺	17・18	17.2	-	(8.2)		1/2	礫微量・ 砂粒	橙、黄橙	良好	器表部分的に摩滅。口縁部外反し、端部付近大きく折り返す。折り返し部内外面横撫で。口縁部内面中位以下、幅広くやや粗い横位へラ磨き。口縁部外面中位ハケ目(1cmあたり7)残る。口縁部外面下位横撫でか。		
791-4	土師器 壺		-	-	-			口縁部小 片	細砂粒	にぶい褐	良好	口縁部外面縁帯をなし、縁帯部に凹線2条巡る。口縁部内面凸帯巡り、凸帯より上位に櫛歯状工具による刺突文巡らす。外面縁帯下には爪状痕があるが、意図的か否か不明。	
791-5 291	土師器 甕	4・23・ 24	(16.0)	-	(11.1)		3/4	粗砂粒・ 細砂粒	明赤褐、 明黄褐、 暗灰黄、 灰	良好	口縁部平面形歪む。口縁部横撫でで、口縁部内面ハケ目状工具を使用。口縁部外面下位から体部外面ハケ目(1cmあたり8)。体部内面へラナデ。		
792-6	土師器 甕	3	-	(5.8)	(2.5)		1/2	細砂粒	にぶい褐	やや不良	体部外面へラナデかへラ削り。内面撫で。		
792-7	土師器 壺		-	-	-			頸部小 片	細砂粒	浅黄橙	やや不良	屈曲部外面に貼り付け突帯巡る。	
792-8 291	土師器 台付甕	5	-	6.0	(5.2)			台部	細砂粒	明赤褐、 灰褐、に ぶい黄橙	良好	台端部横撫で。台部内外面、底部内面ハケ目(1cmあたり5)。	

田口上田尻遺跡24号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考	
795-1	土師器 甕		(16.6)	-	(2.2)			口縁部片	細砂粒	灰褐	やや不良	口縁部僅かに屈曲する。口縁部外面ハケ目後、口縁部横撫で。	
796-2 291	土師器 壺	1・2・15住 3・8・10	-	-	(18.8)		1/3	細砂粒	橙	良好	最大径が体部下位に位置する。外面ハケ目後へラ磨き。体部下位へラナデ。内面へラナデ、接合痕明瞭に残る。		

田口上田尻遺跡28号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考	
799-1 292	土師器 環	58	13.8	-	4.1		ほぼ完形	粗砂粒少 量・細砂 粒	にぶい褐	良好	口縁部横撫で。体部外面撫で。底部外面へラ削り。内面口縁部以下撫で後へラ磨き。		
799-2 292	土師器 環	44	14.8	-	(4.6)		1/3	細砂粒	褐	良好	口縁部開き、内面直線的に内傾。口縁部横撫で。体部から底部外面ハケ目(1cmあたり5)。体部から底部内面撫で。		
799-3 292	土師器 罎	56	8.8	3.5	(8.2)		ほぼ完形	粗砂粒少 量・粒細 砂粒	にぶい黄 褐	良好	口縁部やや内湾。口縁部内面からくびれ部直下横撫で。体部外面中位撫で、体部下位から底部外面へラ削り。体部から底部内面撫で。		
799-4	土師器 罎		(9.0)	-	(3.4)			口縁部片	粗砂粒少 量・細砂 粒	にぶい橙	良好	口縁部内外面横撫で。外面体部付近強い横撫でにより体部尖り気味。口縁部一部にハケ目残る。	
799-5 292	土師器 罎	6・10	-	(3.2)	(6.1)			頸部～体 部下位、 体部中位 ～底部	粗砂粒少 量・細砂 粒	にぶい橙	良好	口縁部開く。口縁部内面から外面くびれ部直下横撫で。体部外面へラナデ。肩部縦位撫で、体部内面強い横位撫で。肩部内面接合痕残る。	
799-6 292	土師器 罎	1・2・5	13.8	-	17.5		ほぼ完形	細砂粒	赤褐	良好	口縁部付近内湾。口縁部内面から肩部外面横撫で、口縁部外面下位にへラ磨き。体部外面中位ハケ目(1cmあたり6)。体部外面下位幅の狭いへラナデ。		
799-7 292	土師器 甕	28・44・ 52・55・57	12.6	4.3	11.2		3/4	粗砂粒・ 細砂粒	明赤褐	良好	口縁部内面ハケ目後横撫で。口縁部外面横撫で後ハケ目。体部外面から底部外面ハケ目(1cmあたり5)。体部内面へラナデ。		
799-8 292	土師器 甕	8・9	(12.0)	-	(10.9)		1/3	粗砂粒・ 細砂粒	暗褐	良好	外面器表剥離部多い。口縁部横撫で。体部外面へラ削り。上位はへラナデか。体部内面撫で。		
799-9	土師器 甕		-	(8.0)	(12.3)			底部片	明赤褐		外面削りに近いへラナデ。内面ハケ目(1cmあたり8)。底部へラで切り、内面をへらで面取りする。		
799-10 292	土師器 甕か	41・43・ 46	(22.0)	-	(16.9)		1/4	細砂粒	にぶい褐	良好	体部外面へラナデ。体部下位接合部で「く」の字状に撫で方向替える。内面へラナデ。口縁部外面から端部のみ横撫で。下部欠損。		
800-11 292	土師器 高環	4	16.8	-	(5.9)			環部	粗砂粒・ 細砂粒	橙	良好	口縁部中位で外反。中位以上横撫で。体部内面から底部内面へラナデ後撫で。外面口縁部中位以下撫で。	
800-12	土師器 高環	30	(18.2)	-	(6.0)			環部片	粗砂粒少 量・細砂 粒	橙	良好	下部の屈曲弱く、口縁部下位から中位で緩く外反。器壁やや厚い。口縁部横撫で後内外面へラ磨き。	
800-13	土師器 高環	59	-	-	-			環底部	粗砂粒少 量・細砂 粒	にぶい褐	良好	環底部外面へラ削り。屈曲部以上の残存僅かで左右の立ち上がり角度異なる。環底部内面撫で。	
800-14	土師器 高環		(18.4)	-	(3.0)		1/6	細砂粒	にぶい黄 橙	良好	口縁部大きく開き、端部やや内湾。口縁部上位横撫で、中位撫での後、内面下手磨き。		
800-15 292	土師器 高環	3	-	12.6	(8.5)			脚部	粗砂粒少 量・細砂 粒	にぶい褐	良好	外面屈曲部上から内面裾部横撫で。脚柱部内面へラ削り。脚柱部外面撫で。	
800-16 292	土師器 高環		-	12.4	(2.6)			脚裾部	礫微量・ 砂粒	明赤褐	良好	裾部横撫で。外面脚柱部撫で。	
800-17	土師器 高環か器台	60	-	(11.4)	(5.9)			裾一部、 柱部2/3	細砂粒	明赤褐	良好	裾部横撫で。脚柱部外面撫で。脚柱部内面上位指撫で、中位へラナデ後なで。	
800-18	土師器 壺	40	(17.8)	-	(8.1)			口縁部	細砂粒	明赤褐	良好	口縁部平坦で内面に小さく突き出る。口縁部横撫で。肩部外面へラナデか。肩部内面撫で。	
800-19 292	土師器 甕	51	(19.3)	-	(6.0)		1/2	細砂粒	明赤褐	良好	口縁部横撫で。肩部内面撫で。		
800-20 292	土師器 甕	37・44・ 47・48	14.4	(6.0)	21.1		ほぼ完形	粗砂粒・ 細砂粒	明赤褐	良好	口縁部内面ハケ目後横撫で。口縁部外面横撫で後ハケ目。体部外面から底部外面ハケ目(1cmあたり5)。体部内面上半ハケ目、下位は器表剥離し不明瞭。		
800-21	土師器 甕	50	-	6.0	(2.2)			底部	細砂粒	にぶい赤 褐	良好	体部外面へラ削りと磨き状のへラナデ。内面へラナデ。	
800-22 292	土師器 甕	11・18	-	7.2	(4.2)			底部	細砂粒	灰褐	良好	体部から底部外面へラ削り。内面へラナデ。	

遺物観察表

800-23 292	土師器 台付甕	60	15.2	11.4	16.6		ほぼ完形	粗砂粒少量・細砂粒	明赤褐	良好	口縁部内面から肩部外面横撫で後、口縁部内面の縦位へラ磨き。体部外面部分的に削りに近いへラナデ。脚裾部横撫で。体部内面撫で、上位と下位に接合痕残る。	
---------------	------------	----	------	------	------	--	------	-----------	-----	----	---	--

田口上田尻遺跡32号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考	
801-1 292	土師器 埴	7	(9.6)	4.4	5.3		3/4	細砂粒	橙	良好	幅広の折り返し口縁は内湾する。内外面へラ磨きであるが、口縁部外面と体部外面下位は磨き残し多い。体部内面上位へラナデ。		
801-2	土師器 埴	9・10・ 18・24溝	(11.0)	-	(5.2)		1/4	細砂粒	にぶい橙	良好	口縁部下位ハケ目後外面密なへラ磨き。内面横撫で。器壁薄い。		
801-3 292	土師器 甕	18	(10.2)	-	(8.0)			口縁部一 部、体部 1/3	細砂粒	にぶい黄 橙	良好	口縁部横撫で。体部外面撫で後下位へラ削り、上位に接合痕残る。内面へラナデ、上位に接合痕明瞭に残る。	
801-4	土師器 壺		-	-	-			肩部小片	細砂粒	にぶい橙	良好	外面ハケ目(1cmあたり6~10)後、半裁竹管状工具による鋸歯文。鋸歯文部分のみ赤色塗彩。内面撫で。	
801-5 292	土師器 壺	貯蔵穴 24・24溝	(17.7)	-	(9.0)			口縁部片	細砂粒	橙	良好	口縁部付近受け口状。肩部内面から外面ハケ目(1cmあたり10)後、口縁部上位横撫で。肩部内面撫で。	
801-6	土師器 高坏	21	(16.2)	-	(5.0)		1/3	細砂粒	褐	良好	口縁部内面小さく肥厚。内外面密なへラ磨き。		
801-7 292	土師器 台付甕	6	-	8.4	(7.1)		台部	細砂粒	明赤褐	良好	外面ハケ目(1cmあたり13)後、体部貼付。貼付部へラナデ。内面へラナデ。		
801-8 292	土師器 台付甕	1・42土 坑	(11.8)	-	(13.2)		1/3	細砂粒	にぶい橙	良好	小型。口縁部「S」字状。外面ハケ目(1cmあたり4)。内面下半へラナデ、上半撫で。		
801-9	土師器 甕	2・5・24 溝	(14.6)	-	(20.4)			上半部片 胴部片	細砂粒	褐	良好	口縁部ゆるい「S」字状。へラ削り後上位と下位ハケ目(1cmあたり7)。内面撫で。口縁部横撫で。口縁部外面部分的にハケ目残る。	

田口上田尻遺跡33号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考	
802-1 292	土師器 環	28	13.2~ 13.6	-	5.3		完形	細砂粒	明褐	良好	口縁部外傾して開く。体部から底部外面へラナデ。体部から底部内面撫で。口縁部横撫で。屈曲部外面と体部内面上位接合痕残る。		
802-2 292	土師器 環	80	15.2	-	4.0		完形	細砂粒	明赤褐	良好	口縁部内面稜をなし、内面のみ内湾。口縁部横撫で内外面の撫で上げ部は一致。体部から底部内面撫で。体部から底部外面へラナデ(砂粒の移動がほとんどなく、撫でつけられている)。外面口縁下撫で。		
802-3 292	土師器 環	3・69	(15.0)	-	(5.3)		1/2	細砂粒	明褐	良好	口縁部小さく外反。体部外面撫でと粗いハケ目(1cmあたり4)。内面撫でと棒状工具による撫で。口縁部横撫では外面ハケ目より古い。		
802-4	土師器 環		(12.4)	-	(5.2)			口縁部片	粗砂粒少量、 細砂粒	明褐	良好	口縁部横撫で。体部外面撫で後へラナデであるが、器表の凹凸のため単位不明。体部内面器表剥離。	歪みにより推定径異なるが、5と同一個体の可能性高い。
802-5	土師器 環	30・59	(13.6)	-	(5.3)			口縁部片	粗砂粒少量、 細砂粒	褐	良好	口縁部横撫で。体部外面撫で後へラナデであるが、器表の凹凸のため単位不明。体部内面器表剥離。	歪みにより推定径異なるが、4と同一個体の可能性高い。
805-6	土師器 壺か甕		-	3.3~ 3.6	(2.8)		底部	細砂粒	褐	良好	内外面へラナデ。底部外面中央窪む。		
805-7	土師器 小型丸底埴		-	-	-		1/4	細砂粒少量	器表付近 赤褐、断 面灰黄	良好	口縁部内外面へラ磨き。外面くびれ部直下撫で。体部外面下位へラ削り。		
805-8	土師器 埴		(8.4)	-	(4.2)		1/4	細砂粒	褐	良好	内外面横撫で。		
805-9 292	土師器 埴		(10.8)	-	(4.1)		1/3	細砂粒	褐	良好	口縁部横撫で。外面粗いへラ磨き。内面口縁部下斜位撫で。		
805-10 292	土師器 高坏	20	17.3	-	(6.0)		坏部完形	礫少量・ 砂粒	明赤褐	良好	内面へラナデ、外面下位へラ削り後内外面を挟むように横撫で。横撫でなで上げ痕が内外面で一致する。坏部外面底部撫で。脚部欠損。		
805-11	土師器 高坏	5	(18.0)	-	(5.6)		1/4	細砂粒	明褐	良好	口縁部沈線状に窪む。坏部撫で。坏部外面下位へラナデ、口縁部横撫で後内外面粗いへラ磨き。坏底部割れ口中央、接合部で欠損。		
805-12	土師器 高坏	5	(18.0)	-	(5.2)		1/4	細砂粒	明褐	良好	口縁部沈線状に窪む。坏部撫で。坏部外面下位へラナデ、口縁部横撫で後内外面粗いへラ磨き。坏底部割れ口中央、接合部で欠損。		
805-13	土師器 高坏	14	(20.0)	-	(6.4)		1/4	細砂粒	褐	良好	器壁厚い。口縁部横撫で後、坏部内外面粗いへラ磨き。		
805-14 292	土師器 高坏		-	(13.8)	(7.7)		1/2	細砂粒	明赤褐	良好	外面器表摩滅。脚部外面へラナデかへラ磨き。裾部横撫で。脚部内面上部絞目状に波打つ、脚部中央絞目状の凹凸を撫で消す。		
805-15	土師器 甕		(12.8)	-	(2.6)			口縁部片	粗砂粒・ 細砂粒	灰褐	良好	口縁部付近横撫で。口縁部外面へラ削りとへラナデの中間的な整形。	
805-16	土師器 甕		(12.7)	-	(2.4)		1/6	細砂粒	灰褐	良好	口縁部端部尖り、外面横線2条。口縁部横撫で。内面下位にハケ目残る。		
805-17 292	土師器 有孔鉢	P6(86)	(10.6)	4.8	8.8		3/4	粗砂粒少量	にぶい黄 橙	良好	体部上位から口縁部内湾し、口縁部外面から端部のみ横撫で。口縁部下位の接合痕明瞭に残る。体部内外面へラナデ。底部外面ドーナツ状に窪み、中央に直径1cmほどの孔を設ける。孔はへラで切るのはなく、当初から作る。		
805-18	土師器 甕	90,埋土	-	-	-		1/3	粗砂粒・ 細砂粒	にぶい黄 褐	良好	内外面共にへラ削りとへラナデの中間的な整形。外面下位の整形痕は平坦で砂粒の移動も顕著でへラ削りか。内面の一部にハケ目。	15、19と同一個体の可能性高い	
805-19	土師器 甕	89・92	-	-	-		1/4	粗砂粒・ 細砂粒	にぶい黄 褐	良好	内外面共にへラ削りとへラナデの中間的な整形。外面下位は整形痕が平坦でへラ削りか。内面の一部にハケ目。		
805-20	土師器 甕		(17.2)	-	(4.8)		1/4	細砂粒	褐	良好	口縁部横撫で。肩部内外面撫で。		
805-21	土師器 甕	32	-	(6.0)	(2.9)		1/2	粗砂粒・ 細砂粒	褐	良好	外面下位へラナデ、底部付近へラ削り。内面へラナデ。		
805-22 292	土師器 甕	91	(11.2)	-	(7.0)		1/4	細砂粒	褐	良好	口縁部外反し、中位と端部肥厚。外面へラへラ削り後、口縁部横撫で、外面の横撫で粗く、へラ削り時の砂粒移動痕残る。体部内面へラ削り。		
806-23 292	土師器 甕	17・18・ 19	18.5	6.5	22.5		ほぼ完形	粗砂粒少量・ 細砂粒	にぶい赤 褐	良好	口縁部やや長く、直線的に開く。口縁部内側に小さく肥厚。口縁部横撫で。体部外面へラナデ。体部内面へラナデ。		
806-24 293	土師器 壺	7・11・ 13・14・ 16	18.0	-	(24.9)		1/2	細砂粒	にぶい橙	良好	肩は張り、口縁部外反。口縁部横撫で、内面下位と外面上位と下位にハケ目残る。肩部外面撫で、一部にハケ目残る。肩部内面ハケ目(1cmあたり12)。		

遺物観察表

806-25 293	土師器 壺	21・31・60・ 61・64・67・ 38住31・49 住	15.0 ~ 15.5	-	(10.6)		3/4	細砂粒	にぶい橙	良好	肩部張らず、体部最大径体部中位に位置する。口縁部横撫で。体部外面上位から中位ヘラナデ。体部外面下位撫で。内面は調整をせず、接合痕顕著に残る。体部ヘラナデ単位不明稜。
806-26 293	土師器 壺	24	(24.0)	-	(6.2)		1/3	細砂粒	にぶい赤 褐	良好	口縁部外反し、端部上下は小さくつまみ出す。内外面横撫で、内面一部にヘラ磨き。
806-27	土師器 台付甕		-	-	-		1/3	細砂粒	にぶい褐	良好	体部外面下位ハケ目(1cmあたり7)。底部内面ヘラナデ後撫で。台部外面ヘラナデ。台部内面天井部粘土塗りつける。
806-28	土師器 台付甕		(14.8)	-	(2.2)		1/6	細砂粒	にぶい黄 褐	良好	口縁部「S」字状。屈曲部は丸みを帯びる。口縁部横撫で。
806-29	土師器 台付甕		(14.8)	-	(2.8)		口縁部小 片	細砂粒	にぶい橙	良好	口縁部「S」字状。屈曲部は丸みを帯びる。口縁部横撫で。肩部外面細かいハケ目(1cmあたり8)。
806-30	土師器 台付甕		(14.8)	-	(2.8)		口縁部小 片	細砂粒	にぶい橙	良好	口縁部「S」字状。屈曲部は丸みを帯びる。口縁部横撫で。肩部外面細かいハケ目(1cmあたり9)。
806-31	棒状礫	78	16.7	6.6	4.1	703.0	完形	粗粒輝石 安山岩			棒状礫で敲打痕や擦れなどは認められない。
806-32	棒状礫	73	13.2	5.2	4.4	482.0	完形	変質安山 岩			棒状礫で敲打痕や擦れなどは認められない。
806-33	棒状礫	72	15.0	5.1	4.8	568.0	完形	変質安山 岩			棒状礫で敲打痕や擦れなどは認められない。
806-34	棒状礫	75	16.0	5.8	3.5	503.0	完形	石英閃緑 岩			棒状礫で表面の剥落著しい。
806-35	棒状礫	76	13.6	3.8	3.6	318.0	完形	変質玄武 岩			棒状礫で敲打痕や擦れなどは認められない。
806-36	棒状礫	74	13.7	5.2	3.9	428.0	完形	ひん岩			棒状礫で表面の一部剥離。
806-37	棒状礫	77	15.0	6.3	2.7	412.0	完形	変質安山 岩			扁平な棒状礫で敲打痕や擦れなどは認められない。端部一部欠損。
806-38	棒状礫	44	15.4	5.6	(3.3)	-	3/4	変質安山 岩			河川を流下する際に大きく割れた棒状礫。一方の小口面に僅かな敲打痕。側縁が欠損するが、敲打によるものか否か不明。
807-39	棒状礫	47	16.9	7.1	4.8	803.0	完形	珪室頁岩			やや不整形な棒状礫で敲打痕や擦れなどは認められない。
807-40	棒状礫	46	14.1	3.9	3.0	268.0	完形	変質安山 岩			棒状礫で側面からの剥離が認められる。境界線に摩滅は認められず、使用時の剥離の可能性がある。
807-41	棒状礫	50	14.8	6.3	4.0	600.0	完形	変質安山 岩			やや不整形の棒状礫で敲打痕や擦れなどは認められない。裏面器表1カ所剥離。
807-42	棒状礫	45	13.2	5.4	4.4	470.0	完形	粗粒輝石 安山岩			棒状礫で敲打痕や擦れなどは認められない。
807-43	棒状礫	53	13.7	4.7	3.6	370.0	完形	石英閃緑 岩			棒状礫で表面に剥離が著しいが要因は不明。
807-44	棒状礫	48	14.9	6.4	6.1	910.0	完形	粗粒輝石 安山岩			棒状礫で一方の小口面に僅かな敲打痕。
807-45	棒状礫	54	12.9	5.6	3.4	357.0	完形	変質安山 岩			やや不整形な棒状礫で敲打痕や擦れなどは認められない。
807-46 293	石製品 剣形模造品	43	(5.8)	2.8	0.65	13.2	ほぼ完形	滑石			片面は平坦に整形され、他面は3面の研磨で鑄が表現されている。基部には径1.5mmほどの穿孔が2カ所行われている。

田口上田尻遺跡36号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
811-1	土師器 高環	8	(17.2)	-	(4.6)			口縁部片 細砂粒	明赤褐	良好	内外面横撫で後粗いヘラ磨き	
811-2	土師器 高環		-	-	-			脚柱部片 細砂粒	赤褐	良好	脚柱部円筒状。外面ヘラナデ後撫でか。	
811-3	土師器 甕	9	-	(5.0)	(2.3)		1/2	細砂粒	にぶい橙	良好	体部外面幅の狭いヘラナデ。内面ヘラナデ。	

田口上田尻遺跡38号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
812-1	土師器 壺	8	15.8	-	(9.1)			口縁部片 細砂粒	橙	良好	口縁部上面から外面横撫で。口縁部内面横位ハケ目。外面縦位ハケ目(1cmあたり8)。	
812-2	土師器 甕	5	(11.8)	-	(5.1)			口縁部片 細砂粒粗 砂粒少量	灰褐	良好	口縁部小反外。外面ハケ目(1cmあたり8)。口縁部下位から肩部内面上位横位ハケ目。肩部内面下位やや粗いハケ目(1cmあたり5)。	
813-3	土師器 台付甕	2	-	9.2	(7.2)			台部 細砂粒	にぶい橙	良好	外面粗いハケ目。内面撫で、端部折り返す。	
813-4	土師器 高環	3	-	-	-			底部 細砂粒・ 粗砂粒少 量	橙	良好	内面撫で。環部外面ヘラナデ。	
813-5	石製品 砥石	7	(4.4)	2.4	1.8	23.3		破片か 流紋岩			4面使用し、中央部が細くなる。砥面は中央が低く、小口側が高くなる。小型で細い。小口面は擦られているよう工具痕残らない。砥面：右側：IIc-4、右側以外IIc-5	

田口上田尻遺跡39号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
814-1	土師器 鉢	3	11.6	3.6	4.7		1/2	細砂粒・ 粗砂粒	にぶい褐	良好	口縁部付近強い横撫で、内面は端部下位まで弱い横撫で。内面ヘラナデ。外面体部下位ヘラ削り。	
814-2	土師器 高環	4	-	10.0	(7.4)			脚部 細砂粒	にぶい橙	良好	脚部横撫で。脚部外面ハケ目後撫で。脚部内面絞目。	
814-3	土師器 壺	5	(13.4)	-	(5.6)			口縁部片 細砂粒・ 粗砂粒少 量	にぶい橙	良好	口縁部外面折り返し状の非常に低い段を有する。内面横位ヘラ磨き。外面間隔を開けた縦位ヘラ磨き。	
814-4	土師器 甕	7・埋土	(15.0)	-	(13.2)		上半部	細砂粒・ 粗砂粒	にぶい橙	良好	口縁部外反し、外面横撫で、内面横位ヘラ磨き。体部内面密なヘラ磨き。体部外面上位ヘラナデ。下位ヘラ削り。	2と同一の可能性有り
814-5	土師器 台付甕	6	(11.8)	-	(5.8)			口縁部片 細砂粒	にぶい黄 橙	やや不良	外面ハケ目(1cmあたり5)。全体に器表摩滅。	

田口上田尻遺跡40号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
815-1	土師器 鉢	23	(11.6)	-	(5.8)			口縁部一 部、体部 1/5	明褐、橙、 にぶい赤 褐、灰	良好	口縁部直線的に開く。口縁部内面から肩部外面横撫で。体部外面撫で。体部内面ヘラナデ。体部内面から底部内面器表剥離。	



遺物観察表

815-2	土師器 環か		(11.0)	-	(3.9)		1/5	細砂粒	赤黒、に ぶい黄 褐、褐	良好	口縁部外反し、端部付近内湾。口縁部内面から肩部外面横撫で。体部外面ヘラナデで。体部内面撫でか。くびれ内面口縁部側粘土突き出る。内面調整粗い。
815-3	土師器 埴	20・37	(12.8)	-	(5.8)		口縁部	細砂粒少 量	にぶい黄 褐、褐、 黒褐	良好	口縁部横撫で後、内外面縦位ヘラ磨き。
815-4	土師器 高環	17	-	-	-		脚柱部	細砂粒	橙	良好	外面、幅4mmほどの縦位ヘラナデ。刷毛状の条線が認められ、磨き状とならない。内面撫で、下部はヘラ削り後撫で。
815-5 293	土師器 壺	10・14	(17.6)	-	(4.2)		1/3	粗砂粒少 量・細砂 粒	赤褐、明 赤褐	良好	口縁部下位外反し、上位やや内湾。内面粗いヘラ磨き。外面横撫で。下端接合部で剥かれる。
815-6	土師器 高環	43住	(19.8)	-	(3.0)		口縁部片	細砂粒	橙、にぶ い黄橙	良好	口縁部やや外反し、端部付近小さく内湾。器表やや摩滅。内外面横撫で、粗いヘラ磨き。
815-7	土師器 高環	13・18	(15.8)	-	(5.3)		1/3	細砂粒	明赤褐、赤 褐、暗灰黄 暗オリーブ 褐	良好	口縁部やや内湾し、端部強い横撫でにより尖り気味。口縁部横撫で。口縁部外面細いヘラ磨きを粗く施す。外面横撫での弱い部分に型肌状痕残る。
815-8	土師器 壺	42	-	5.4	(5.2)		底部	粗砂粒少 量、細砂 粒	浅黄橙、 にぶい黄 橙	やや不良	体部外面下位撫で。体部外面中位ハケ目(1cmあたり6)。底部内外面ヘラナデ。体部内面ハケ目状のヘラナデ。
815-9	土師器 甕	8	-	6.4 ~ 6.8	(3.9)		底部	細砂粒	にぶい、 黒褐、に ぶい赤褐	良好	体部から底部外面ハケ目状のヘラナデ。内面ハケ目(1cmあたり7)。
815-10 293	土師器 甕	1・2	(18.8)	-	-		1/4	粗砂粒・ 細砂粒	明暗褐、 黒褐	良好	肩部外面ハケ目。外面下位ヘラナデ。口縁部横撫で。体部内面部分的に接合痕残る。
815-11	土師器 台付甕		-	-	-		口縁部片	粗砂粒・ 細砂粒	橙	良好	肩部外面粗いハケ目(1cmあたり4)。頸部内面斜めハケ目後撫で。
815-12	土師器 台付甕		-	(7.6)	(4.0)		台部片	細砂粒	にぶい橙、 にぶい黄橙	良好	端部内面に折り返す。端部内面指押さえ痕。外面撫で。
815-13	石製品 有孔円板	26	4.1	3.7	0.9	18.9	完形	滑石			扁平で器面に削り痕を明瞭に残している。中央からやや偏った位置に1カ所両面穿孔がされている。孔径0.3cm

田口上田尻遺跡43号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
818-1 293	土師器 埴	33	12.2	-	15.1		ほぼ完形	粗砂粒少 量・細砂 粒	にぶい褐	良好	肩部張り、最大径は肩部となる。頸部屈曲し、口縁部は直線的に開く。端部付近外面は強い横撫でにより立ち上げる。口縁部内面から肩部外面上位横撫で。肩部外面丁寧な撫で。体部から底部外面ヘラナデで、単位不明稜。体部内面ヘラナデ。	
818-2 293	土師器 壺	45	-	5.1	(9.2)		端部1/3、 底部完	粗砂粒少 量・細砂 粒	暗赤褐	良好	体部外面ヘラナデ。体部内面撫で、肩部内面成形時の凹凸残る。底部内面ヘラナデ。	
818-3 293	土師器 甕	29・32	-	-	-		1/3	粗砂粒・ 細砂粒	橙	良好	頸部外湾。口縁上部欠損。口縁部内面から肩部外面上位横撫で。体部外面上位ハケ目、下位横位ヘラ削り。体部内面撫で。体部内面成形時の凹凸残る。	
818-4	土師器 鉢	88	(17.8)	-	(3.9)		1/5	細砂粒	にぶい褐	良好	口縁部内湾。口縁部横撫で。横撫で範囲狭い。体部内外面撫で。口縁部残存部端が急に上方に延びる箇所があるが、歪みか意図的かは判断としない。	
818-5	土師器 甕		(13.6)	-	(3.6)		1/5	細砂粒	にぶい 橙、にぶ い黄橙	良好	口縁部やや内湾。口縁部内面から肩部外面横撫で。横撫で後、内外面斜位ヘラ磨き。外面のヘラ磨き、頸部付近は明瞭だが口縁部は不明瞭。肩部内面撫でかヘラナデ。	
818-6 293	土師器 甕	67	(12.6)	-	(8.8)		口縁部 1/4、体 部1/3	細砂粒	赤褐	良好	器表やや摩滅。口縁部内面から肩部外面横撫で後、口縁部内外面ヘラ磨き。体部外面ヘラ削り。上半はヘラ削り痕を撫で消し、更に斜位ヘラ磨き。外面のヘラ磨きは同じ傾きで口縁部に及ぶ。体部内面ヘラナデか。	
818-7 293	土師器 高環	17・18・ 19	18.2	-	(6.9)		環部	粗砂粒少 量・細砂 粒	橙	良好	外面の稜弱く、口縁部外反し、端部付近内湾気味。口縁部横撫で。底部内面ヘラナデ。底部外面撫で。	
818-8	土師器 高環	34	(16.8)	-	(5.0)		1/6	粗砂粒少 量・細砂 粒	橙	良好	外面稜をなさず、内湾して口縁部に至る。口縁部外反。口縁部横撫で。底部内面器表剥離。底部外面撫で。	
818-9	土師器 高環		(16.8)	-	(5.1)		1/4	粗砂粒・ 細砂粒・ 細砂粒	橙	良好	底部外面周縁稜をなさず上方に短く立ち上がり口縁部に至る。口縁部外反し、端部付近内湾。口縁部横撫で後、内外面粗いヘラ磨き。外面のヘラ磨きは内面に比して幅が狭い。	
818-10 293	土師器 高環	30・31	-	(12.8)	(8.6)		脚部	粗砂粒・ 細砂粒	明赤褐	良好	外面ヘラナデかヘラナデ後撫で。裾部横撫で。柱部内面縦目後、上半ヘラ削り、下半軽い撫で。環部とは接合部で剥かれる。	
818-11	土師器 高環	33・87	-	12.8	(7.0)		1/2	粗砂粒・ 細砂粒	橙	良好	柱部外面撫で、裾部内外面横撫での後、柱部外面縦位ヘラナデ。ヘラナデの一部は裾部に至る。柱部内面縦目。	
818-12	土師器 高環	63	-	-	-		脚部	細砂粒	にぶい橙	良好	外面撫での後ハケ目(1cmあたり7)。裾部横撫で。内面柱部強い撫で。内面、柱部と裾部の接合痕明瞭。	
820-13	土師器 高環	13	-	(12.7)	(4.2)		裾部片	細砂粒	橙	良好	裾部端小さく内湾。柱部内外面撫で。裾部横撫で後、外面粗いヘラ磨き。同一箇所内外面に調整後の粘土塗りつけ部(厚さ2mm)が認められ、剥かれた箇所には当初の横撫でが認められる。焼成以前の補修痕であろう。	
820-14	土師器 高環	掘り方	-	(14.6)	(3.9)		裾部片	細砂粒	暗褐色	やや不良	裾部横撫で。柱部外面撫でか。柱部内面ヘラナデ。	
820-15 293	土師器 甕	48・49・ 50・51・ 54	(19.6)	5.6	32.7		口縁部～ 肩部1/2 欠	礫微量・ 砂粒	にぶい褐	良好	体部最大径やや上位に位置する。頸部屈曲し、口縁部外反。端部平坦。口縁部横撫で。体部外面上半は砂粒移動痕があり、ヘラ削りかヘラナデの後、上位は格子状ヘラ磨き、中位は密な横位ヘラ磨き。体部外面下半はハケ目の後、縦位粗いヘラ磨き。	
820-16 294	土師器 甕	21・24・25・ 35・37・40・41・ 79・87・88・43 住内土坑	16.8	-	(22.7)		1/2	細砂粒	赤褐	良好	内外面器壁剥離部分多い。口縁部内面から肩部外面上位横撫で。体部外面幅の狭い縦位を基本としたヘラナデであるが単位不明稜。体部内面接合痕一部残る。	
820-17	土師器 甕	43	(15.8)	-	(8.4)		1/4	粗砂粒少 量・細砂 粒	にぶい橙	良好	頸部屈曲し、口縁部立ち上がり気味に外反。口縁部横撫で。肩部外面ヘラナデ後、粗いヘラ磨き。肩部内面ヘラナデ後、一部ヘラ磨き。残存部少なく、全体に施されたか否かは不明。	
820-18	土師器 甕	52・59・ 62	(20.6)	-	(7.4)		1/8	粗砂粒・ 細砂粒	にぶい褐	良好	肩は張らず、口縁部外反。体部外面斜位ヘラナデ。体部内面斜位から横位ヘラナデ。	
820-19	土師器 甕	9・85	(16.4)	-	(8.4)		1/8	粗砂粒・ 細砂粒	にぶい赤 褐	良好	口縁部外反し、外面中位肥厚。口縁部横撫で。体部外面ヘラナデ。体部内面削りに近いヘラナデ。	
820-20 294	土師器 甕	9・85	-	5.6	(22.0)		体部1/2、 底部完	粗砂粒・ 細砂粒	にぶい橙	良好	体部外面ハケ目(1cmあたり7)の後、上半ヘラナデ。高部内面削りに近いヘラナデ。体部内面ハケ目(1cmあたり7)の後上半ヘラナデ。	
820-21 294	土師器 甕	14・25・ 38・44・46	-	7.4	(12.8)		下半部	粗砂粒・ 細砂粒	にぶい橙	良好	体部から底部外面ヘラナデ。体部外面ヘラナデ縦位で、上部に横位が認められる。内面ヘラナデ。	
821-22 294	土師器 甕	51・52	17.4 ~ 18.0	-	(17.3)		上半部	粗砂粒・ 細砂粒	赤褐	良好	口縁部横撫で。口縁部外面上位と下位強い横撫で。口縁部外面中位接合痕僅かに残る。体部外面撫で後粗いヘラ磨き。体部内面ヘラナデ。	

遺物観察表

821-23	土師器 甕	52・59・62	(20.6)	-	-		1/8	粗砂粒・ 細砂粒	にぶい褐	良好	肩は張らず、口縁部外反。体部外面斜位ヘラナデ。体部内面斜位から横位ヘラナデ。
821-24 294	土師器 大型鉢	34・50・53 ・58・62・ 65・66・76	(30.2)	8.2	26.0		口縁部 1/4、体 部1/3、 底部完	粗砂粒・ 細砂粒	にぶい褐	良好	体部開き。肩部短くやや内傾。口縁部内湾気味に開く。口縁部内面から肩部外面横撫で。体部外面粗いヘラナデで、単位不明稜。底部内面放射状ヘラナデで、体部内面横位ヘラナデ。
821-25 294	土師器 高環	31・35	-	10.8	(7.6)		台部	粗砂粒少 量・細砂 粒	橙	良好	環部内外面撫で。脚部外面縦位ヘラナデ後撫でか。脚部内面ヘラナデ。裾部横撫で。脚天井部内面接合部の柄明瞭。
821-26 294	土師器 台付甕	42	-	(11.8)	(6.6)		台部	粗砂粒・ 細砂粒	にぶい褐	良好	台部外面縦位ヘラ削りかヘラナデ後撫でか。裾部、内面に折り返し、端部付近横撫で。台部内面上半ヘラナデかヘラ削り。下半撫で。
821-27	石製品 管玉		2.6	0.6	孔 径 0.3	1.4	完形	蛇紋岩			表面の磨きはやや粗い。
821-28	棒状礫	81	(6.9)	2.5	2.2	57	1/2	変玄武岩			棒状の自然礫で、1/2程が欠けているものと考えられる。
821-29	楕円礫	90	10.8	7.9	4.8	301.5	完形	デイサイト 凝灰岩			やや扁平な円礫で一方の小口面中央を開始部とする剥離で大きく欠損。軟質なため、敲打目的の石とは考えにくい。

田口上田尻遺跡44号住居

挿入番号 PL	種 別 器 形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残 存	胎 土 石 材	色 調	焼 成	成 整 形 の 特 徴 等	備 考
821-30 294	土師器 環	8	(10.4)	-	(4.1)		1/3	細砂粒	褐	良好	口縁部外反し、内面直線的に傾斜。口縁部横撫で。体部から底部外面ハケ目(1cmあたり8)。体部内面撫で。底部内面器表剥離。	
821-31	土師器 環	掘り方	(9.0)	-	(4.2)		1/4	細砂粒	明赤褐	良好	口縁部外反し、内面直線的に傾斜。口縁部内面から外面肩部横撫で。体部外面幅の狭いヘラナデ。体部内面撫で。	
821-32	土師器 壺	1	-	-	-		1/3	礫少量・ 砂粒	橙	良好	口縁部内面横撫で。頸部外面撫で。頸部外面撫で以前に縦位のヘラ整形がなされているようで、面取りの稜線が残る。頸部内面ヘラナデ。	

田口上田尻遺跡45号住居

挿入番号 PL	種 別 器 形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残 存	胎 土 石 材	色 調	焼 成	成 整 形 の 特 徴 等	備 考
822- 1 294	土師器 鉢	貯蔵穴23	9.0	3.2	6.3		完形	粗砂粒・ 細砂粒	にぶい橙	良好	口縁部内面から肩部外面横撫で。体部外面撫で。底部外面ヘラナデ。体部から底部内面撫で。	
822- 2	土師器 埴か		-	-	-		口縁部片	細砂粒	黒褐	良好	口縁部受け口状。内外面ヘラ磨き。	
822- 3	土師器 甕		-	-	-		口縁部小 片	粗砂粒・ 細砂粒	にぶい橙	良好	内外面ハケ目後口縁部上半弱い横撫で。口縁部ハケ目残る。体部内面ヘラナデ。	
822- 4	土師器 壺		-	-	-		口縁部小 片	礫少量・ 砂粒	明褐	良好	口縁部外方に折り返す内外面ハケ目後口縁部内面から折り返し部ヘラ磨き。内面は表面のみでハケ目の条線は残る。外面折り返し部以下ハケ目(1cmあたり5)。	
822- 5	土師器 壺		-	-	-		口縁部小 片	細砂粒	浅黄	良好	口縁部外反し、体部付近外方に折り返す。折り返し部横撫で。口縁部内面ヘラ磨き。外面折り返し部以下ハケ目(1cmあたり5)。	
822- 6 294	土師器 高環	貯蔵穴25	17.2	-	(7.4)		環部	粗砂粒・ 細砂粒	橙	良好	口縁部横撫で後、内面粗い放射状ヘラ磨き。環底部外面撫で。接合部突起残る。	
822- 7 294	土師器 高環	貯蔵穴22	-	13.7 ~ 15.0	(8.0)		脚部	礫少量・ 砂粒	にぶい黄 褐	良好	裾部歪む。裾部横撫で。外面ヘラ磨き。内面撫で、上部ヘラ削り。内面上端部接合痕で剥がれる。	

田口上田尻遺跡47号住居

挿入番号 PL	種 別 器 形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残 存	胎 土 石 材	色 調	焼 成	成 整 形 の 特 徴 等	備 考
823- 1	土師器 鉢		(9.8)	-	(4.7)		1/4	細砂粒	橙	良好	口縁部外反。体部上位内傾し、中位で緩い稜をなして内湾。口縁部横撫で。体部中位外面ハケ目後撫で。体部外面下位ヘラ磨きだが、単位不明瞭。内面体部内面器表剥離。	
823- 2	土師器 高環	32	(18.8)	-	(5.2)		1/5	細砂粒	暗褐	良好	口縁部外反し、端部僅かに内湾。口縁部横撫で。屈曲部付近内外面撫で。	
823- 3	土師器 直口壺	7	(17.6)	-	(6.2)		1/6	細砂粒	にぶい赤 褐	良好	口縁部直線的に開き、端部付近内湾して立ち上がる。口縁部と頸部付近横撫で。口縁下部撫で。	
823- 4	土師器 高環	20	(17.8)	-	(5.0)		1/5	細砂粒	にぶい橙	良好	口縁部外反し、端部付近内湾。内外面ヘラ磨き。	
824- 5 294	石製品 剣形模造品	1	6.6	3.1	0.8	18.3	完形	滑石			片面は5単位の磨きで平坦にし、一方は3面の研磨で鏡を表現している。基部に径2mmほどの穿孔が1カ所見られる。	

田口上田尻遺跡49号住居

挿入番号 PL	種 別 器 形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残 存	胎 土 石 材	色 調	焼 成	成 整 形 の 特 徴 等	備 考
825- 1 294	土師器 有孔鉢	9・10	6.2	3.6	3.7		1/2	細砂粒	にぶい黄 橙	良好	てづくね。外面粗い撫で。内面ヘラナデと撫で。	
825- 2 294	土師器 器台	1	6.8	-	(2.8)		環部	粗砂粒・ 少量	にぶい橙	良好	器形歪。口縁部粗い横撫で。体部内面撫で。体部外面ヘラ磨きを行うが、成形時の砂粒移動痕残り、方向と単位不明。	
825- 3 294	土師器 高環	11-13・20・ 33住P2・4・ 5-33住戸	(20.8)	-	(6.7)		1/4 ~ 3/4	細砂粒	にぶい褐	やや不良	内面器表から器表付近黒色。内面口縁部付近横位、環部内面縦位ヘラ磨き。外目斜位ヘラ磨き。脚接合部中央、凸状の接合跡明瞭。	
826- 4	土師器 高環	11-13・20・ 33住P2・4・ 5-33住戸	(20.0)	-	(5.6)		1/3	細砂粒	橙	やや不良	内外面器表摩滅。内面縦位ヘラ磨きか。	
826- 5 294	土師器 台付甕	15・19	-	7.0 ~ 7.6	(5.5)		台部	細砂粒	にぶい褐	良好	裾部横撫で。台部内外面撫で。台部外面上位ヘラナデ。	
826- 6 294	土師器 台付甕	2-6・8	(16.6)	-	16.0		1/2	細砂粒	にぶい褐	良好	口縁部「コ」の字状で、上位水平に近く開く。底部から口縁部内面横位ヘラ磨き。口縁部外面横撫で、端部櫛歯状工具による刺突文。体部外面上位ハケ目(1cmあたり7)。体部外面中位ヘラナデ。体部外面下位縦位ヘラ磨き。台部、接合部から剥落。	

田口上田尻遺跡55号住居

挿入番号 PL	種 別 器 形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残 存	胎 土 石 材	色 調	焼 成	成 整 形 の 特 徴 等	備 考
827- 1 295	土師器 甕	4・5・10・12 復旧痕	18.2	5.6	28.0		3/4	細砂粒	暗赤褐	良好	口縁部横撫で、胴部はヘラ削り後はほぼ全面ヘラ磨き、底部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
827- 2 295	土師器 甕	3・4・6	24.3	7.7	25.2		ほぼ完形	細砂粒	にぶい赤 褐	良好	口縁部横撫で、胴部はヘラ削り後上半が撫で、下半も器面摩滅で不鮮明。内面胴部はヘラナデ。	
828- 3 295	土師器 鉢	2	10.0	-	6.0		完形	細砂粒・ 粗砂粒	にぶい橙	良好	口縁部は横撫で、体部から底部は手持ちヘラ削り。内面は器面摩滅のため不鮮明。	
828- 4 295	土師器 甕	6	14.3	5.6	17.4		ほぼ完形	細砂粒・ 粗砂粒	灰褐	良好	口縁部横撫で、胴部は上半が撫で、下半はヘラ削り、底部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
828- 5 295	土師器 甕	10	16.0	-	(17.4)		1/2(底部 欠損)	細砂粒	灰褐	良好	口縁部横撫で、胴部上半はヘラ磨き、下半は撫で。内面胴部はヘラナデ。	

遺物観察表

828-6	鉄製品 不明	14	(3.9)	1.7	0.5	6.0	破片						断面形状が長方形を呈する板状の製品であり、未成品の可能性が ある。	
田口上田尻遺跡54号住居														
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等		備考	
830-1	土師器 環	16	(14.9)	-	(4.4)		口縁部片	細砂粒	明褐色	良好	口縁部横撫で、体部上半撫で、下半から底部は手持ちヘラ削り。			
831-2 295	土師器 鉢	4・5・ 21・12復 旧痕0	(26.2)	(8.0)	17.4		1/4	細砂粒	赤褐色	良好	口唇部横撫で、口縁部から体部はハケ目(1cmあたり7)、大部分 は不鮮明、底部はヘラ削り。内面もハケ目、体部下半は器面摩滅 のため不鮮明。			
831-3	土師器 高環	9	(15.8)	-	(4.0)		環部口縁 片	細砂粒	明赤褐色	良好	口縁部は横撫で、底部はヘラ削りか。			
831-4 295	土師器 甗	12	9.6	3.1	9.9		完形	細砂粒	にぶい赤 褐色	良好	口縁部から頸部は横撫で、胴部はヘラ削り、底部もヘラ削り。内 面胴部はヘラナデ。			
831-5	土師器 甗	3	-	6.5	(2.8)		底部	細砂粒多	暗赤褐色	良好	底部から胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。			
831-6 295	土師器 甗	15	17	7.0	22.8		ほぼ完形	細砂粒	明赤褐色	良好	口縁部は横撫で、胴部は上半がヘラナデ、下半がヘラ削り、底部 もヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。			
田口上田尻遺跡57号住居														
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等		備考	
832-1	土師器 壺	1	11.3	-	7.0		3/4	細砂粒	灰褐色	良好	口縁部横撫で、体部上半撫で、下半から底部は手持ちヘラ削り。 内面は体部下半から底部はヘラナデ。			
田口上田尻遺跡58号住居														
挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等		備考	
833-1 295	土師器 壺	1	8.9	-	4.5		完形	細砂粒	にぶい赤 褐色	良好	口縁部は横撫で、体部から底部は手持ちヘラ削り。内面は底部か ら体部に放射状ヘラ磨き。		口縁部2ヶ所 mmの穿孔、内 面放射状磨き、 全体3/4黒色	
833-2 295	土師器 壺	12復旧痕 C	12.5	-	7.1		ほぼ完形	細砂粒	にぶい赤 褐色	良好	口縁部横撫で、体部上半撫で、下半から底部は手持ちヘラ削り、 器面摩滅のため単位不鮮明。内面は口縁部横撫で体部から底部は ヘラナデ、体部上半はヘラ磨きか。			
833-3 295	土師器 壺	11	11.5	-	7.1		ほぼ完形	細砂粒	にぶい赤 褐色	良好	内面黒色処理。口縁部は横撫で、体部は撫で、底部は手持ちヘラ 削り。内面は口縁部から体部上半は横撫で、下半から底部はヘラ ナデ。		内面全体～外 面口縁撫で、 燻し状黒色	
833-4 295	土師器 壺	12復旧痕 0	(9.2)	-	5.4		1/3	細砂粒	赤褐色	良好	口縁部は横撫で、体部から底部は手持ちヘラ削り。内面は体部か ら底部にかけてヘラナデ。			
834-5 295	土師器 埴	14・10	13.3	5.2	15.5		3/4(底 部中央欠 損)	細砂粒	赤褐色	良好	口縁部は縦位のヘラ磨き、胴部から底部はヘラ削り、胴部下半は 単位不鮮明。内面は頸部にハケ目(1cmあたり7)、内面はヘラナ デか。		口縁内面横 ハケ目→上位 一部磨き、外 面縦ヘラナデ	
834-6 295	土師器 埴	12復旧痕 C	-	3.7	(8.6)		1/4(口 縁部欠損)	細砂粒	赤褐色	良好	胴部は頸部下が撫で、中位から下位はヘラ削り、下位から底部は 器面摩滅のため単位不鮮明。内面は撫でか。		平底	
834-7 295	土師器 鉢	24	25.7	8.8	13.6		完形	細砂粒・ 粗砂粒	明赤褐色	良好	口縁部は横位、体部は縦位のハケ目(1cmあたり7～9)、底部は ヘラ削りか。内面は横位のハケ目。		内面横ハケ 目、外面横→ 縦ハケ目	
834-8 296	土師器 高環	17・12復 旧痕C	12.4	10.8	13.6		環底～脚 部	細砂粒	赤	良好	杯身部は口縁部から体部横撫で、底部ヘラ削り後間隔をあけた放 射状ヘラ磨き、内面は斜放射状ヘラ磨き。脚部は撫で後間隔をあ けた縦位のヘラ磨き、内面は上半が撫で、下半が横撫で。		内面環部・外 面全体磨き	
834-9 296	土師器 高環	13・12復 旧痕B	17.2	12.1	13.8		1/2	細砂粒	にぶい橙 褐色	良好	杯身部は口縁部から体部横撫で、底部ヘラ削り後放射状ヘラ磨き、 内面は上半が横撫で、下半がヘラナデ。脚部は撫で後縦位のヘラ 磨き、内面は上半がヘラナデ、下半が横撫で。		内面環部・外 面全体磨き、 一部黒色	
834-10 296	土師器 高環	15・13・ 16・17	18.2	15.0	15.5		ほぼ完形	細砂粒	にぶい赤 褐色	良好	杯身部は口縁部横撫で後斜放射状ヘラ磨き、底部はヘラ削り、内 面は口縁部に斜放射状ヘラ磨き。脚部は上半が撫で、裾部が横撫 で後放射状ヘラ磨き、内面は上半が撫で、裾部が横撫で。		内面環部放射 状磨き、外面 放射状磨き・ 一部黒色	
834-11	土師器 壺	12復旧痕 0	(19.2)	-	(10.5)		口縁部片	細砂粒	浅黄橙	良好	口縁部横撫で、胴部はヘラ削り、単位不鮮明。内面は胴部がヘラ ナデ。			
834-12	土師器 甗	12復旧痕 F	(26.6)	-	(6.5)		口縁部片	細砂粒	にぶい赤 褐色	良好	口縁部横撫で、胴部の整形は不明。内面は胴部がヘラナデ。			
835-13 296	土師器 高環	18・20・ 21	18.1	13.2	15.1		ほぼ完形	細砂粒	にぶい赤 褐色	良好	杯身部は口縁部横撫で、底部ヘラ削り。脚部は上半が縦位のヘラ 磨き、裾部は横撫で、内面は脚部が撫で。		内面環部放射 状磨き、外面 放射状磨き・ 一部黒色、柄 の一部観察	
835-14 296	土師器 高環	21・12・ 12復旧痕 C	17.6	13.4	16.6		ほぼ完形	細砂粒	明赤褐色	良好	杯身部は口縁部横撫で、底部ヘラ削り。脚部は上半が縦位の細か いヘラ削り、裾部は横撫で、内面は脚部が撫で。		内面環部放射 状磨き、外面 放射状磨き・ 一部黒色、柄 の一部観察	
835-15 296	土師器 高環	12・18・ 19・21・ 22・12復 旧痕C	17.6	13.4	15.7		ほぼ完形	細砂粒	にぶい橙 褐色	良好	口縁部から体部上半は横撫で、下半はヘラ削り、底部から脚部は 丁寧なヘラ削り、脚部下半は撫でで単位不鮮明、裾部は横撫で。 内面は脚部が撫で。		内面環部放射 状磨き、外面 放射状磨き・ 一部黒色、柄 の一部観察	
835-16 296	土師器 高環	12・21・ 12復旧痕 C	16.7	14.5	16.0		1/2	細砂粒	明赤褐色	良好	杯身口縁部は横撫で、体部は撫で、底部はヘラ削り。脚部は撫で、 裾部は横撫で。内面は杯身口縁部にヘラ磨きか、単位不鮮明、脚 部は撫で、裾部は横撫で。		環部内面磨き、 柄の一部観察、 外面磨き、一 部黒色	
835-17 296	土師器 高環	21	17.1	-	(7.2)		環部	細砂粒	橙	良好	杯身部は口縁部が横撫で、体部から底部がハケ目(1cmあたり7)。 内面は体部から底部がヘラ磨きであるが、単位不鮮明。		環部内外面放 射状磨き、内 面底部黒色	
835-18 296	土師器 壺	23	14.7	6.4	20.0		ほぼ完形	細砂粒	赤褐色	良好	口縁部は横撫で、胴部はヘラ磨き、底部はヘラ削り。内面は口縁 部下半から底部にヘラナデ。		外面磨き、内 面～外面口縁 まで燻し状黒 色	
835-19 296	土師器 甗	12復旧痕 C	15.0	-	(17.1)		口縁～胴 部下位	細砂粒	明赤褐色	良好	口縁部は横撫で、胴部は上位・中位が撫で、下位はヘラ削り。内 面は胴部がヘラナデ。		内面燻し状黒 色、外面口縁 ～胴部磨き	
835-20	土師器 壺	12復旧痕 C	-	(7.0)	(3.1)		底部片	細砂粒	明赤褐色	良好	胴部はヘラ削り後ヘラ磨き、底部はヘラ削り。内面はヘラナデ。			



田口上田尻遺跡81号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
836-1 296	土師器 埴	4・6・7・9・ 15・8・90 住掘り方	7.8	3.6	8.3		ほぼ完形	細砂粒	にぶい赤 褐	良好	口縁部は横撫で後放射状ヘラ磨き、胴部は上半がヘラナデ、下半から底部はヘラ削り。内面は口縁部が横撫で後放射状ヘラ磨き、胴部と底部はヘラナデか。	
836-2 296	土師器 鉢	1-3	12.5	4.7	9.9		ほぼ完形	細砂粒・ 粗砂粒	橙	良好	口縁部横撫で、体部から底部はヘラ削り。内面は口縁部横撫で、体部から底部はヘラナデ、一部にヘラ磨き？	
837-3 297	土師器 高環	16-18・ 71住8	12.8	11.8	15.3		ほぼ完形	細砂粒	にぶい橙	良好	口縁部は横撫で、体部から底部はヘラ削り後体部から口縁部に放射状ヘラ磨き。脚部は縦位のヘラ磨き。内面は杯身が底部から口縁部にかけての放射状ヘラ磨き、脚部はヘラナデ、裾部は横撫で。	
837-4 297	土師器 高環	5・8	16.8	-	(6.6)		坏部	細砂粒・ 粗砂粒	橙	良好	外面は底部から口縁部にかけて放射状ヘラ磨き。内面は口縁部に放射状ヘラ磨き。	
837-5 297	土師器 甕	10・19・ 71住5・7	14.7	-	(20.9)		3/4(底部欠損)	細砂粒・ 粗砂粒	にぶい黄 橙	良好	口縁部は横撫で、胴部はヘラ削り後縦位のヘラ磨き。内面胴部はヘラナデ。	

田口上田尻遺跡89号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
838-1	土師器 鉢	6・7	(14.4)	-	(5.4)		1/8	細砂粒	橙	良好	体部から口縁部直線的に開き器高高い。口縁部横撫で。体部外面ヘラナデ若しくはヘラ削り。体部内面から底部内面ハケ目(1cmあたり8)後撫で。	
838-2	土師器 埴	5	(10.1)	-	(4.0)		1/4	細砂粒	にぶい橙	良好	口縁部横撫で。口縁部外面上位以下ヘラ削り。口縁部内面中位以下丁寧な撫で。	
838-3 297	土師器 埴		9.2		(4.0)		口縁～底 部上位	細砂粒	にぶい黄 橙	良好	口縁部は横撫で、一部にヘラ削り、胴部はヘラ削り。内面は口縁部から胴部にかけてヘラナデ。	
838-4 297	土師器 埴	4・8	(11.8)	-	5.9		口縁部 1/2、底 部完	微少量・ 砂粒	浅橙～黒	良好	くびれ弱く、口縁部直線的に開く。口縁部上半薄くなり、端部尖り気味。口縁部横撫で。体部外面ハケ目(1cmあたり8)。体部内面撫で。	
838-5	土師器 高環	3	(16.0)	-	(5.2)		1/4	粗砂粒少 量・細砂 粒	浅黄橙	良好	底部浅く、口縁部大きく開く。器壁厚い。口縁部器表摩滅。体部内外面ヘラ磨き。	
838-6	土師器 埴		(12.0)	-	(6.2)		口縁部片	細砂粒	橙	良好	口縁部は縦位のヘラ磨き、内面は口縁部横撫で、頸部にヘラナデ。	
838-7	土師器 高環		-	14.6	(6.3)		脚部片	粗砂粒	にぶい黄 橙	良好	脚部に3か所の透孔。脚部はヘラ磨き、裾部は横撫で。内面は底面はヘラ磨き、脚部ヘラナデ、上部にヘラ磨き？	
838-8 297	土師器 壺	1	(17.2)	-	(9.9)		1/2	細砂粒	浅黄橙	良好	口縁部外面縁帯をなし、端部内面やや窪む。口縁部横撫で。肩部外面撫で。肩部内面指頭状圧痕。	
838-9	土師器 甕	掘り方	-	-	-		体部小片	細砂粒	にぶい橙	良好	外面暗灰色。外面叩き目とヘラ削り。内面ヘラナデと細かいハケ目(1cmあたり11)。	
838-10	土師器 甕	10	-	-	-		体部下位 小片	細砂粒	にぶい橙	良好	外面部分的に暗灰色。外面叩き目。内面撫で。	
838-11	土師器 甕か鉢	2	-	4.0	(2.8)		底部	細砂粒	にぶい橙	良好	外面丁寧な撫で。内面幅の狭いヘラナデ若しくはハケ目。	

田口上田尻遺跡91号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
840-1 297	土師器 埴	11・88住 掘り方	14.7	-	6.6		1/2	細砂粒	明赤褐	良好	口縁部横撫で、胴部から底部はヘラ削り後底部から口唇部にかけて放射状ヘラ磨き。内面は口縁部横撫で、胴部ヘラナデ後底部から口縁部にかけて放射状ヘラ磨き。	
840-2 297	土師器 埴	88住45	14.8	-	5.4		1/3	細砂粒	橙	良好	口縁部横撫で、胴部から底部はヘラ削り。内面は底部から口縁部にかけて放射状ヘラ磨き。	
840-3 297	土師器 高環	28・43・49・ 56・掘り方 ・88住5	14.0	-	(6.3)		坏部	細砂粒	明赤褐	良好	口縁部は放射状ヘラ磨き、底部はヘラ削り。内面は底部から口縁部にかけて放射状ヘラ磨き。	
840-4	土師器 高環	16	(14.8)	-	(4.5)		坏部片	細砂粒	橙	良好	口縁部は放射状、底部は横位のヘラ磨。内面は口縁部上半が斜め、下半から底部が横位のヘラ磨き。	
840-5	土師器 高環		-	(11.8)	(1.8)		裾部片	細砂粒	にぶい赤 褐	良好	裾部は放射状ヘラ磨き。内面は横撫で。	
840-6	土師器 高環	12	-	(10.6)	(7.8)		脚部片	細砂粒	にぶい黄 橙	良好	脚部はヘラナデか単位不鮮明、裾部は横撫で、内面脚部はヘラナデ。	
840-7	土師器 高環	54	-	-	-		脚柱部	細砂粒	浅黄	良好	脚部から裾部にかけては縦位のヘラ磨き。内面は撫で。	
840-8	土師器 壺	1・38	(11.3)	-	(4.2)		口縁部片	細砂粒	にぶい黄 褐	良好	口縁部から頸部は横撫で、内面はハケ目(1cmあたり7)か、内面漆塗りか。	
840-9	土師器 壺	1・38	-	-	-		頸部片	細砂粒	にぶい黄 褐	良好	口縁部から頸部は横撫で、胴部は縦位のハケ目(1cmあたり7)。内面はハケ目か、内面漆塗りか。	
840-10 297	土師器 壺	40・掘り方・ 88住掘り方	-	6.0	(17.2)		肩～底部 1/4	細砂粒	明赤褐	良好	胴部はヘラ削り後上半に縦位のヘラ磨き、底部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
840-11 297	土師器 壺	7・17・18・ 20・22・26・ 27・32・45・ 48・88住10	-	5.9	(16.1)		肩～底部	細砂粒・ 粗砂粒	褐灰	良好	胴部は横位のヘラ削り、中位にハケ目が残る？底部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
840-12	土師器 壺		(12.6)	-	(5.0)		口縁部片	細砂粒	暗灰褐	良好	内面胴部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横撫で、胴部はヘラ削りか。内面胴部はヘラナデ。	
840-13	土師器 壺		(15.2)	-	(5.0)		口縁部片	細砂粒	黄褐	良好	内面に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横撫で、胴部は縦位のハケ目(1cmあたり9)。内面胴部はヘラナデ。	12とは口唇端部の整形、口縁部の傾き、口径が異なる
840-14	土師器 甕か	3・4	-	-	-		胴部片	細砂粒	にぶい橙	良好	外面はヘラ削り、内面はヘラナデ。	
840-15	土師器 壺	44	-	5.9	(2.0)		底部	細砂粒	明赤褐	良好	底部はヘラナデ、胴部はヘラ削り。	
840-16	土師器 壺		-	-	-		胴部片	細砂粒	にぶい赤 褐	良好	外面はヘラ削り後線刻？、内面はヘラナデ。	
840-17	土師器 甕		-	-	-		胴部片	細砂粒	にぶい黄 橙	良好	外面は叩き痕、内面はヘラ削り。	
840-18	土師器 甕か	5・6・88 住16	7.1	(3.5)			底部	細砂粒	にぶい橙	良好	外面はヘラ削り、内面はヘラナデ。	
841-19 297	土師器 台付甕	23	8.7	5.3	13.4		ほぼ完形	細砂粒・ 粗砂粒	にぶい橙	良好	口縁部横撫で、胴部から脚部はハケ目(1cmあたり5)、胴部最大径箇所は撫で、脚部も部分的に撫でハケ目を消している。内面は胴部がヘラナデ、脚部は撫でて端部は折り返し。	



遺物観察表

841-20	土師器 台付甕	33・88住 カマド	(14.2)	-	(6.1)		口縁部片	細砂粒	明褐	良好	口縁部横撫で、胴部はハケ目(1cmあたり7)、内面は胴部がヘラナデ。	
841-21	土師器 台付甕		(15.8)	-	(3.8)		口縁部片	細砂粒	にぶい橙	良好	口縁部は横撫で、胴部はハケ目(1cmあたり4)。内面は胴部がヘラナデ。	
841-22	土師器 台付甕	9	(13.6)	-	(3.0)		口縁部片	細砂粒	にぶい橙	良好	口縁部は横撫で、胴部はハケ目。内面は胴部がヘラナデ。	
841-23	土師器 台付甕		(12.3)	-	(3.2)		口縁部片	細砂粒	褐灰	良好	口縁部は横撫で、胴部はハケ目(1cmあたり5)。内面は胴部がヘラナデ。	
841-24	土師器 台付甕	39・47	-	-	-		台部	細砂粒・粗砂粒	にぶい褐 灰	良好	胴部はハケ目(1cmあたり7)、脚部は横撫で。内面は胴部がヘラナデか、脚部には指頭痕が残る。	
841-25	土師器 台付甕	33・88住 カマド	-	-	-		肩部片	細砂粒	橙	良好	外面はハケ目、内面はヘラナデ。	

田口上田尻遺跡93号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
842-1	土師器 器台	6	-	-	-		脚部(裾部欠損)	細砂粒	橙	良好	底部に穿孔、脚部に3か所2段の透孔。脚部はヘラ磨きか。内面は底部がヘラ磨き、脚部はヘラナデ。	
842-2	土師器 器台		-	-	-		脚部上位	細砂粒	明赤褐	良好	脚部はヘラ磨きか。脚部上位に3か所の透孔。	
842-3	土師器 高環	44	-	-	-		環底部	細砂粒	橙	良好	脚部は貼付、口縁部横撫で、底部はヘラナデ。	
842-4	土師器 高環	45・52・ 53・掘り方	20.0	-	(6.0)		環部片	細砂粒	明褐	良好	口縁部横撫で、体部ヘラナデか、底部はヘラ削り器面摩滅のため詳細不鮮明。	
842-5 297	土師器 高環	10	-	15.5	(8.3)		脚部	細砂粒	にぶい黄 橙	良好	脚部に3か所の透孔。脚部はヘラ削りかヘラ磨き、裾部は横撫で。内面はヘラナデ。	
842-6	土師器 甕	4・5	(12.7)	-	(6.9)		上半部片	細砂粒	橙	良好	口縁部から頸部は横撫で、胴部はハケ目(1cmあたり6)。内面胴部もハケ目。	
842-7	土師器 台付甕	9	-	7.4	(5.5)		台部	細砂粒	にぶい黄 橙	良好	脚部はヘラナデ、裾部は横撫で、内面脚部はハケ目(1cmあたり8)。	
842-8	土師器 甕	13	(21.0)	-	(4.2)		口縁部片	細砂粒	明赤褐	良好	口縁部は横撫で、頸部はハケ目(1cmあたり10)。	
842-9 297	鉄製品 鏃		17.2	4.0	0.4	16.6	完形				腸扶鏃であり、やや長脚で先端が尖らない逆刺を有する。	

田口上田尻遺跡96号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
844-1	土師器 壺	2	-	-	-		底部片	細砂粒	にぶい褐	良好	外面はハケ目(1cmあたり7)後線刻、内面はヘラナデ。	
844-2	土師器 甕	掘り方	-	-	-		口縁部片	細砂粒	にぶい橙	良好	口縁部は横撫で。	
844-3	土師器 甕	掘り方	-	(5.8)	(2.0)		底部片	細砂粒	にぶい褐	良好	底部と胴部はヘラ削りか。内面はヘラナデ。	

田口上田尻遺跡100号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
845-1 297	土師器 埴	60	-	4.6	(14.9)		ほぼ完形 (口縁上位欠損)	細砂粒	明赤褐	良好	口縁部は横撫で、胴部はヘラ削り後脚部から底部にかけて縦位のヘラ磨き、底部はヘラ削り。内面は口縁部に放射状ヘラ磨き、胴部はヘラナデか。	
845-2 297	土師器 高環	57・101 住掘り方	(18.6)	-	(3.7)		環部片	細砂粒・ 褐色粒	明赤褐	良好	口縁部は横撫で後放射状ヘラ磨き、底部はヘラナデ。内面は口縁部に放射状ヘラ磨き。	
845-3 298	土師器 高環	7・66	(13.8 9)	-	(5.2)		環部片	細砂粒	にぶい橙	良好	口縁部は放射状ヘラ磨き、底部はヘラ削り。内面は口縁部に放射状ヘラ磨き、一部器面摩滅のため不鮮明。	
845-4	土師器 壺	32・36・ 37	(26.6)	-	(5.9)		口縁部片	細砂粒	にぶい黄 橙	良好	口唇部横撫で、口縁部は縦位のヘラ磨き、頸部はヘラナデ。内面は口縁部横撫で、口縁部縦位のヘラ磨き、頸部はハケ目か。	
845-5 298	土師器 壺	3・63・ 79・11		9.0	(21.6)		下半部片	細砂粒・ 粗砂粒	橙	良好	底部は砂底か、胴部はヘラ削り後ヘラ磨きであるが器面摩滅のため単位不鮮明。内面はヘラナデ。	
845-6 298	土師器 壺	76	14.7	-	(5.9)		口縁部	細砂粒・ 粗砂粒	にぶい赤 褐	良好	口唇部は横撫で、口縁部ハケ目(1cmあたり4)、胴部はヘラナデか。内面は口縁部が横撫で、胴部はヘラナデ。	
845-7	土師器 甕	82・86	(18.2)	-	(3.0)		口縁部片	細砂粒・ 粗砂粒	にぶい橙	良好	口唇部部に1条の凹線がめぐる。口縁部は横撫で。	
845-8	土師器 甕	40・87	-	(7.2)	(2.6)		底部片	細砂粒・ 粗砂粒	にぶい黄 橙	良好	外面はヘラ削り後ヘラ磨き、磨きの単位不鮮明。内面はヘラナデ。	
845-9	土師器 台付甕	64	(16.5)	-	(3.2)		口縁部片	細砂粒	にぶい黄 橙	良好	口縁部から頸部は横撫で、胴部はハケ目(1cmあたり6)。内面胴部はヘラナデ。	
845-10	土師器 台付甕	55	(17.8)	-	(2.8)		口縁部片	細砂粒	にぶい黄 橙	良好	口縁部から頸部は横撫で、胴部はハケ目(1cmあたり7)。内面胴部はヘラナデ。	
845-11	土師器 台付甕	58	(17.6)	-	(2.1)		口縁部片	細砂粒	にぶい黄 橙	良好	口縁部は横撫で。	

田口上田尻遺跡106号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
846-1 298	土師器 鉢	3	13.6	6.0	5.4		完形	細砂粒	灰白	還元焰	外面は平行叩き痕、内面は同心円状アテ具痕が残る。	
846-2 298	土師器 埴	掘り方56	9.1	3.6	7.6		ほぼ完形	細砂粒・ 粗砂粒	明赤褐	良好	口縁部から胴部中位は縦位のヘラ磨き、下位と底部はヘラ削り。内面は口縁部が縦位のヘラ磨き、胴部は撫でか。	
847-3 298	土師器 高環	2	20.2	-	(7.6)		環部	細砂粒	にぶい黄 橙	良好	口唇部は横撫で、口縁部から底部はハケ目(1cmあたり6)、稜はヘラ削り。内面はハケ目後底部から体部に斜方向のヘラ磨き。	
847-4	土師器 高環	9	(15.8)	-	(3.1)		口縁部片	細砂粒	明赤褐	良好	口縁部は横撫で後放射状ヘラ磨き。	
847-5 298	土師器 壺	1	-	9.0	(8.7)		下半部	細砂粒・ 粗砂粒	にぶい赤 褐	良好	底部と胴部はヘラ削り。内面はハケ目(1cmあたり3)。	
847-6 298	土師器 壺	4・5・掘り 方54・55	-	7.0	(22.2)		3/4(口 縁部欠損)	細砂粒	暗赤褐	良好	胴部上半は撫で、下半と底部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	

田口上田尻遺跡108号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
849-1	土師器 台付甕	3	17.8	-	(4.6)		口縁部片	細砂粒	明褐灰	良好	口縁部は横撫で、胴部はハケ目(1cmあたり7)。内面は胴部がヘラナデ。	
849-2	土師器 台付甕		14.8	-	(2.6)		口縁部片	細砂粒	浅黄橙	良好	口縁部は横撫で。	

田口上田尻遺跡114号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
852-1 298	土師器 甕	1・8	(16.4)	4.9 ~ 5.3	16.7		1/4	粗砂粒・ 細砂粒	にぶい赤 褐	良好	器形やや歪み、口縁部中心と底部中心がずれる。口縁部横撫で。 外面上位撫で、中位以下ヘラ削り。肩部内面ヘラナデ。体部内面 調整痕不明瞭。	

田口上田尻遺跡122号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
853-1 298	土師器 環	5	15.6	-	5.7		3/4	細砂粒	赤褐、黒	良好	体部内面から口縁部横撫で。内面ヘラ磨き。体部外面ハケ状ヘラ ナデ。底部外面ヘラ削りだが単位不明瞭。	
853-2 298	土師器 高環	32	12.6	-	(8.5)		1/2	細砂粒	橙、にぶ い黄橙	良好	体部外面ヘラナデ。内面ヘラナデ後、口縁部横撫で。脚部外面ヘ ラ磨き。脚柱部内面ヘラ削り後、撫でか。円孔3方で3カ所残存。	
853-3	土師器 台付甕か		-	(11.8)	(3.2)		1/5	細砂粒	橙、にぶ い黄橙	良好	裾部横撫で。外面上位ヘラナデか。	
853-4	土師器 高環	11	-	(15.8)	(3.2)		1/4	細砂粒	明赤褐、 にぶい赤 褐、褐灰	良好	裾部稜をなして広がる。裾部横撫で。	
854-5 298	土師器 有孔鉢	16・14	(18.0)	4.0	13.0		口縁部一 部、1/2	細砂粒	明赤褐、 にぶい赤 褐	良好	口縁部横撫で。体部外面ハケ目(1cmあたり7)。体部外面下位撫で。 体部内面ヘラナデ。	
854-6 298	土師器 甕	18・19・ 22	(24.6)	8.0	23.0		1/2	粗砂粒・ 細砂粒	橙、明赤 褐	良好	口縁部横撫で。体部外面ハケ目(1cmあたり5)。頸部内面ハケ目(1 cmあたり5)。体部内面ヘラ削り状のヘラナデ。体部内面接合痕残る。	
854-7	鉄製品 不明	1	(3.5)	0.9	0.4	6.0	破片				断面形状が長方形を呈する棒状の製品である。	

田口上田尻遺跡123号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
855-1 298	土師器 鉢	2・5	14.0	-	(10.2)		底部欠	粗砂粒・ 細砂粒	にぶい赤 褐	良好	口縁部受け口状。器表剥離するが、外面がより著しい。口縁部内面 下位ハケ目(1cmあたり8)後、口縁部横撫で。体部外面上位ヘラ磨 き、中位ハケ目(1cmあたり7)、下位ヘラ削り。体部内面ヘラ磨き。	
855-2 298	土師器 甕	3・4・7	(16.0)	-	(24.2)		2/3	細砂粒	褐	良好	体部に比して口縁部器壁やや薄い。口縁部内面から外面くびれ部直下 横撫で。体部外面上半ハケ目(1cmあたり10)の後、下半中心にヘラナ デ。体部内面上位ハケ目(1cmあたり8)、中位強い撫で、下位ハケ目。	
855-3 299	土師器 甕	2・5	-	6.2	(23.5)		1/2	粗砂粒・ 細砂粒	暗褐	良好	体部は径に比して高さがある。外面ハケ目(1cmあたり7)。内面 器表剥離するが、ハケ目と接合痕が認められる。	

田口上田尻遺跡129号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
858-1 299	土師器 高環	5・7	12.2	-	(10.4)		3/4	粗砂粒少 量・細砂粒	浅黄橙	良好	口縁部横撫で。環部内面ヘラ磨き。環部外面と脚部外面単位不明 瞭なヘラ磨き。脚部円孔3方2段。脚部内面上位ヘラ削り。	
858-2 299	土師器 埴 埴	2・3・ 128住カ マド	(7.3)	5.5	6.8 ~ 7.1		ほぼ完形	細砂粒	橙	良好	口縁部直線的で僅かに開く。肩部内面から外面くびれ部直下横撫 で。高部外面縦位ヘラ削り若しくはヘラナデ。体部外面ヘラ削り 後に斜位ヘラナデで、ヘラナデ間にヘラ削り痕残る。体部内面丁 寧な撫でだが、肩部と底部付近に接合痕残る。	
858-3 299	土師器 甕	1	16.8 ~ 17.5	5.5 ~ 5.8	22.0 ~ 22.6		完形	粗砂粒少 量・細砂粒	にぶい黄 橙	良好	口縁部平坦。器表やや摩滅。口縁部横撫で。体部外面ハケ目(1 cmあたり5)。体部外面下位紐作り痕の凹凸残る。頸部内面幅の狭 いヘラナデ。体部内面器表の剥離多い。	

田口上田尻遺跡133号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
859-1 299	土師器 小型丸底埴	37	-	-	(3.9)		底部	細砂粒	橙	良好	小型丸底で底部外面ヘラ削りかヘラナデ後、外面ヘラ磨き。内面 撫で。	
859-2 299	土師器 小型丸底埴	28	11.1	-	6.0		完形	粗砂粒少 量・細砂粒	にぶい黄 橙	良好	頸部くびれ、口縁部直線的に開く。口縁下半僅かに内湾した後、上 部僅かに外反。口縁部内面から口縁部外面上半横撫で。口縁部内面 上半の横撫で、撫で上げ部が認められる。くびれ部外面棒状工具に よる不連続な撫で。底部外面ヘラナデかヘラ削り。底部内面撫で。	
859-3 299	土師器 直口壺	29	-	-	(8.0)		頸部一部、 底部完	細砂粒	にぶい橙	良好	体部から底部外面ヘラ磨き。体部内面ハケ目。口縁部横撫で。	
859-4	土師器 器台	17	-	-	-		脚柱部	細砂粒	明赤褐、 褐灰	良好	外面丁寧なヘラ磨き。柱部内面ヘラ削り。裾部内面横撫で。	
859-5 299	土師器 壺	10	(15.8)	-	(6.6)		上半1/3、 下半完	細砂粒	にぶい黄 橙	良好	2段口縁で屈曲部外面稜をなし、内面は強い横撫でにより凹ませ る。口縁部上方に小さく立ち上げ、外面横線状に凹む。器表や や摩滅。下段内外面粗いヘラ磨き。	
859-6	土師器 甕		-	5.2	(2.2)		底部	細砂粒	にぶい褐	良好	外面撫で。内面ハケ目(1cmあたり10)。	
859-7	土師器 甕	117住掘り 方・132住	(11.8)	-	(13.1)		1/3	細砂粒	にぶい褐	良好	口縁部直線的だが、上半部僅かに内湾。口縁部横撫で。体部外面ハ ケ目(1cm内6)。体部内面上位ヘラナデ。下位撫でで、単位不明瞭。	
861-8 299	土師器 甕	13	13.6	5.4	20.0		完形	粗砂粒少 量・細砂粒	にぶい黄 橙	良好	口縁部外傾し、上半上部で外反。頸部から肩部外面ハケ目(1cmあ たり11~12)。体部外面ヘラ削り後、一部ハケ目残る。体部内面 ヘラナデで、接合痕残る。底部外面周縁やや摩滅。	
861-9 299	石製品 剣形模造品	1	4.8	1.9	0.4	5.5	ほぼ完形				片面は平坦で、一方は4面の研磨で断面台形状に成形している。 基部の穿孔は径2mmほどで、平坦面側からの片面穿孔である。	

田口上田尻遺跡140号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
863-1	土師器 甕	4	-	-	-		体部片	粗砂粒・ 細砂粒	明赤灰	良好	外面叩き目。内面ヘラナデと粗いハケ目(1cmあたり4)。	
864-2 299	土師器 台付甕	1	-	(7.5)	(12.3)		体部1/2、 台部完	粗砂粒・ 細砂粒	橙	良好	体部から台部外面ハケ目(1cmあたり6)、体部外面、ハケ目以前 の横位ヘラ削り痕一部残る。体部内面ヘラナデ後撫で。台部内面 撫で。台部内面指頭丘痕状の窪み目立つ。	

田口上田尻遺跡149号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
867-1 299	土師器 平底鉢		(9.8)	(5.5)	6.0		口縁部一 部、底部 1/3	粗砂少 量・細砂 粒	明赤褐	良好	口縁部屈曲して開く。体部直線的に開き、肩部で屈曲。口縁部横 撫で。体部外面、一部ヘラ削り状を呈するヘラナデ。内面撫で。 全体に調整が難。	
867-2	土師器 鉢か		(13.0)	-	(6.8)		口縁部一 部、1/3	細砂粒	褐	やや不良	体部ほぼ直立し、口縁部上半は外反。口縁部横撫で。体部外面ヘ ラナデか。体部内面調整痕不明。器表やや摩滅。	
867-3	土師器 壺		(18.4)	-	(6.8)		1/8	細砂粒	褐	良好	口縁部外反し、端部付近は内湾気味。口縁部上面凹線状に窪む。 口縁部横撫で。	

遺物観察表

868-4 299	土師器 高坏	4	17.6	14.0	16.1		完形	粗砂粒・ 細砂粒	橙	良好	口縁部外反。脚端部若干反り返る。口縁部外面上半横撫での後、一部へら磨き。坏部内面器表剥離し、調整痕不明。坏部外面屈曲部へらナデ。坏底部外面撫で。脚端部横撫で。脚柱部内面、横位へら削り。	
868-5 299	土師器 甕	9	12.8	5.8	16.9		完形	粗砂粒少量・細砂粒	橙	良好	最大径は体部下位に位置し、口縁部直線的に開く。口縁部横撫で。体部外面上半縦位へらナデ。体部外面最大径下部横位へらナデ。体部外面下部縦位へら削り。底部外面へら削り。体部内面へらナデ。	
869-6 299	土師器 甕	5	15.0	5.3	17.3～ 18.2		ほぼ完形	細砂粒	褐	良好	最大径は体部中位にあり、口縁部ほぼ均一に外反。口縁部内面から肩部外面横撫で。体部外面へらナデ。体部内面撫でかへらナデ。	
869-7 299	土師器 甕	1	15.8	-	(21.0)		底部欠損	礫少量・ 砂粒	橙	良好	口縁部外反し、端部内湾気味に立ち上がる。体部丸みを有する。口縁部横撫で。体部外面へらナデ。体部内面へらナデ単位不明瞭。	

田口上田尻遺跡151号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
870-1 299	土師器 高坏	3・5・掘り方	(17.0)	-	(5.0)		1/4	細砂	赤褐	良好	口縁部横撫で。内面口縁部下位から底部に粗いへら磨き。底部外面撫で。	
870-2	土師器 鉢か甕		-	-	-		口縁部片	礫微量・ 砂粒	明褐	良好	口縁部外反。口縁部横撫で。体部外面縦位へらナデ。体部内面へらナデ。	
870-3	土師器 甕	埋土	-	(7.2)	(2.1)		1/2	細砂粒	にぶい褐	良好	体部外面撫で。底部内面縦位撫で。	

田口上田尻遺跡155号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
872-1	土師器 甕		-	(6.8)	(4.2)		1/4	細砂粒	明黄褐	やや不良	外面撫で。内面へらナデか。	
872-2 299	土師器 甕	2-5	-	(5.6)	(9.2)		1/2～ 2/3	礫微量・ 砂粒	橙色	良好	外面へら削り状のへらナデ。内面上部ハケ目(1cmあたり10)。底部内面へらナデ。体部屈曲部内面に接合痕残る。	

田口上田尻遺跡159号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
873-1 300	土師器 鉢	7	11.0	-	6.8		ほぼ完形	細砂粒	褐	良好	口縁部短く外反。口縁部横撫で。体部から底部外面へらナデで、下半は幅広くへら削りに近い。体部から底部内面へら磨き。	
873-2 300	土師器 鉢	14	(10.0)	-	(5.6)		1/3	細砂粒	褐	良好	口縁部直線的に短く開く。口縁部横撫で。外面上半へらナデ。外面下半へら削り。内面撫で。	
874-3	土師器 埴		-	-	(2.0)		1/4	細砂粒	橙	良好	口縁部欠損。体部外面撫で、底部外面へら削り。へら削り単位不明瞭。内面放射状へら磨き。	
874-4	土師器 器台	13	-	-	-		脚部	細砂粒	灰白	やや不良	外面へら磨き。坏部内面へら磨き。脚部円孔は3カ所。	
874-5 300	土師器 高坏	9	14.9～ 15.2	-	(7.1)		坏部一部 欠	粗砂粒少量・ 細砂粒	褐	良好	2段口縁状を呈する。坏部外面下半を先行してへらナデし、後半を後でへらナデ。内面口縁端部付近丁寧な横撫で。内面、口縁端部付近以下はへらナデの後撫でか。	
874-6	土師器 高坏か		-	(11.3)	(3.4)		1/4	細砂粒	褐	良好	端部付近横撫で。脚部内外面撫で。	
874-7 300	土師器 壺	1・2	-	4.2～ 4.8	(9.1)		1/2	粗砂少量・ 細砂粒	赤褐	良好	体部内面器表ほとんど剥離。口縁部内面から肩部外面横撫で。体部外面へらナデで単位不明瞭。体部外面下位へら削り。	
875-8	土師器 壺か甕	5	-	(6.0)	(3.3)		1/4	細砂粒	にぶい黄 橙	良好	外面密な縦位へらナデ。内面撫で。	
875-9	土師器 壺か甕	掘り方	-	(4.6)	(1.2)		2/3	細砂粒	橙	良好	体部外面から底部外面へら削り。内面器表剥離。	
875-10 300	土師器 甕	11	-	5.7	(9.1)		下半部	細砂粒	褐	良好	丸底気味。内外面へらナデ。	

田口上田尻遺跡163号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
876-1	土師器 甕		(12.9)	-	(6.5)		1/6	礫微量・ 砂粒	にぶい黄 橙	良好	口縁部やや雑な横撫で。口縁部外面から体部外面細かいハケ目(1cmあたり12)。体部内面雑なへらナデ。	

田口上田尻遺跡165号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
878-1	土師器 坏	2・10	(16.4)	7.0	5.2		口縁1/3、 底部完	粗砂粒・ 細砂粒	橙	良好	口縁部屈曲して外反。丸底気味だが、場所によっては体部境に稜や段を有する。口縁部横撫で。体部から底部外面雑な撫で。内面丁寧な撫で、底部にはへらナデ痕が残る。	
878-2	土師器 坏	9	(14.5)	-	(4.9)		1/4	細砂粒	赤褐	良好	口縁部外反。口縁部内面直線的で、外面横線状に上下2段に凹む。口縁部横撫で。体部内外面へら磨き。	
878-3 300	土師器 鉢	1土坑14	(10.2)	4.0～ 4.8	6.7		1/3	細砂粒	褐	良好	口縁部外反。口縁部横撫で。体部外面撫で、部分的に型肌痕残る。体部から底部内面へらナデ。	
878-4 300	土師器 埴	4	11.0	-	(5.2)		口縁部	細砂粒	赤褐	良好	口縁部内面上半から口縁部外面横撫で。口縁部内面下部丁寧な撫で若しくはへらナデ。	
878-5	土師器 高坏		(17.0)	-	(5.0)		1/4	粗砂粒少量・ 細砂粒	暗赤	良好	外面横撫で。内面へらナデ。	
878-6	土師器 甕	掘り方15	(17.0)	-	(4.9)		1/4	細砂粒	赤褐	良好	口縁部端部外方から押されて変形するが、意図的ではないと考えられる。口縁部横撫で。頸部内面接合痕残る。	
878-7	土師器 高坏	10	-	-	-		脚部	細砂粒	赤褐	良好	脚柱部外面やや幅広くのへら磨き。裾部横撫で。脚柱部内面撫で、下部へら削り。	
878-8	土師器 甕	6	-	6.5	(2.2)		2/3	礫微量・ 砂粒	橙	良好	体部から底部外面へらナデ。底部内面ハケ状のへらナデ。	
878-9	土師器 甕	2	-	(9.2)	(7.2)		1/5	細砂粒	橙	良好	外面幅の狭い縦位へらナデ。内面横位へらナデ。焼成前穿孔部へら削り。底部内面下位撫で。	
878-10 300	土師器 甕	4・11・ 10	(16.0)	-	(15.4)		口縁1/4、 体部1/3	粗砂粒・ 細砂粒	赤褐	良好	口縁部器壁厚い。口縁部屈曲して外反。口縁部内面から肩部外面横撫で。体部外面上半へらナデ、下半へら削り。体部内面へらナデ。	
878-11 300	土師器 甕	13	(17.0)	-	(11.7)		1/3	細砂粒	赤褐	良好	口縁部、内面に稜をなして外反。肩部内面上位から外面肩部上位横撫で。体部内外面へらナデ。	
878-12 300	土師器 甕	4・5・ 10・11	17.0	8.0～ 8.2	27.0		体部1/2 欠	細砂粒	赤褐	良好	口縁部屈曲して外反。丸底気味だが体部境の稜や低い段差認められる。口縁部内面から肩部外面横撫で。体部外面上位へらナデ。体部外面へら削り。体部内面砂粒移動痕があり、へらナデだが単位不明瞭。	

田口上田尻遺跡171号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
880-1 300	土師器 埴	16・21・ 27	12.3	3.5	5.5		完形	粗砂粒少量・ 細砂粒	にぶい橙	やや不良	口縁部屈曲して外反し、端部は上方に立ち上げる。口縁部横撫で。体部外面上半撫で、下半へらナデ。体部内面上位弱い横撫で、下位へらナデ後撫でか。	

遺物観察表

880-2	土師器 壺		(12.0)	-	(4.5)		1/6	細砂粒	にぶい褐	良好	口縁部外反し、内面内傾。口縁部横撫で。体部外面ヘラナデか、内面撫で。
880-3	土師器 壺		(7.8)	-	(3.6)		1/4	粗砂粒少量・細砂粒	褐	良好	不整半球状を呈し、口縁部のみ横撫で。体部内外面撫で。底部外面磨き状に光沢を有する。
880-4	土師器 壺	7	-	-	(8.6)		1/2	細砂粒	赤褐	良好	体部中央は張る。体部外面下半ヘラナデ。体部外面上位ヘラ磨き。体部内面強い撫で。肩部内面成形時の窪み残る。
880-5	土師器 台付鉢	3・41	-	-	-		底部1/3	礫微量・砂粒	にぶい黄橙	やや不良	外面撫で、指頭圧痕状の窪み残る。外面下端付近接合時の横撫で残る。内面ヘラナデ。外面には下部に続く湾曲部僅かに残るが、内面には認められず、底部と考えられる。
881-6 300	土師器 甗	41	23.5	7.8	20.2～21.1		ほぼ完形	細砂粒	赤褐	良好	口縁部屈曲して外反。肩部は張らず、底部に向かいすぼまる。体部外面ヘラナデ。体部内面削りに近いヘラナデ。体部内面中位器表剥離。体部内面下位粗いヘラ磨き。穿孔部内面ヘラ削り。
881-7 300	土師器 甗	35	(24.2)	-	(17.4)		1/3	粗砂粒少量・細砂粒	褐	良好	口縁部外反し、肩部は張らず底部に向かってすぼまる。口縁部横撫で。口縁部内外面接合痕残る。体部外面ヘラナデ。体部内面上半横位ヘラナデ、下半縦位ヘラナデ。内面部分的にヘラ磨き。体部内面中位接合痕残る。
881-8	土師器 甗		-	(6.8)	(9.1)		1/8	粗砂粒少量・細砂粒	にぶい褐	良好	底部焼成前に切り抜く。外面ヘラ削りに近いヘラナデで単位不明瞭。内面の縦位ヘラナデ単位不明瞭。内面接合痕残る。
881-9 300	土師器 高環	15・19・38・40・握り方	19.1	14.2	15.3～16.7		ほぼ完形	礫微量・砂粒	明赤褐	良好	口縁部外反。脚端部内湾。口縁部横撫で、端部付近のみ丁寧な横撫で。坏部内外面と脚部外面ヘラ磨き。脚柱部内面撫でと絞り目、ヘラ削り。
881-10 300	土師器 高環	23	1.6.8	-	(12.4)		坏部3/4、裾部欠損	粗砂粒少量・細砂粒	にぶい赤褐	良好	口縁部内湾気味に開く。口縁部内面から坏部外面横撫での後、内外面ヘラ磨き。坏底部外面ヘラ削り後撫で。脚柱部外面ヘラナデの後撫で。柱部内面ヘラ削り。
881-11 300	土師器 台付鉢	29	17.3	-	(8.4)		坏部	細砂粒	褐	良好	口縁部外反し、内面は稜をなす。口縁部横撫で。体部内外面撫で。坏底部外面ヘラ磨き。脚部欠損。脚欠損部中央は1.5×1.3cmの穴が認められ、内面の穴周囲には器表の剥がれが認められる。脚欠損後に接合部を底部側から穿孔して甗に転用した可能性がある。
881-12 300	土師器 高環	5	17.6	-	(6.7)		坏部	粗砂粒少量・細砂粒	にぶい赤褐	良好	口縁部外反し、端部内湾。口縁部端部尖り気味。口縁部横撫で、端部付近丁寧な横撫で。坏部内面下半ヘラナデ。坏底部外面磨き状のヘラナデ。
881-13 300	土師器 高環	30・32・33	18.4～18.9	-	(7.0)		坏部	粗砂粒少量・細砂粒	にぶい赤褐	良好	口縁部外反。口縁部内外面横撫で、端部付近のみ丁寧な横撫で。坏底部内面から口縁部外面ヘラ磨き。坏底部外面雑なヘラナデ。器壁やや厚い。
881-14 300	土師器 高環	42	-	14.2	(9.4)		脚部	細砂粒	褐	良好	脚部は2段口縁状を呈する。脚柱部外面撫で。裾部横撫での後、外面にヘラ磨き。柱部内面撫で。
881-15 301	土師器 高環	36	-	14.8	(8.6)		柱部完、裾部一部	細砂粒	褐	良好	柱部やや太く、裾部は2段口縁状を呈し大きく開く。外面やや粗いヘラ磨き。裾部外面屈曲部の立ち上がり部分のみ強い横撫で。柱部内面上半撫で、下半はヘラ削り。
881-16 301	土師器 高環	1	-	10.8	(11.8)		口縁部と裾部3/4欠損	粗砂粒少量・細砂粒	にぶい赤褐	良好	口縁部外反して開く。口縁部内面から坏部外面横撫で。坏部外面、横撫で以前のヘラ状工具による整形痕残る。坏底部外面周縁ヘラナデ。脚部外面ヘラナデかヘラ磨き。脚部横撫で。脚柱部内面ヘラ削り。
881-17 301	土師器 甗	5	(15.6)	6.5	22.8		ほぼ完形	粗砂粒少量・細砂粒	にぶい赤褐	良好	口縁部直線的に広がる。口縁部内面から肩部外面横撫で。体部外面撫での後、やや粗い斜位ヘラナデ。体部内面ヘラナデか。体部内面接合痕残る。

田口上田尻遺跡173号住居

挿入番号 PL	種別器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
882-1	土師器 高環		(21.0)	-	(4.1)		1/8	細砂粒	明赤褐	良好	口縁部端部付近、屈曲して立ち上がる。口縁部横撫で。	
882-2	土師器 高環	5	-	-	-			細砂粒	赤褐	良好	外面ハケ目の後撫で。内面絞り目と撫で。	
882-3	土師器 小型壺		(5.8)	-	(3.1)		1/4	細砂粒	明赤褐	良好	口縁上部上方に立ち上がり、端部尖り気味。口縁部横撫で。口縁部外面下半ハケ目(1cmあたり8)。	
882-4	石製品 砥石	3	(9.1)	4.1	3.3	-	1/2か	砥沢石			現存長9.1cm、幅2.3～4.1cm、厚さ2.1～3.2cm。裏面を除く3面を使用。裏面は段差もあり割れ面であるが、面がやや平滑で平整形の工具により調整されたような痕跡が認められる。製作時の形状不明。中砥。	幅:2.3-4.1cm 砥面:表1b、側面1a

田口上田尻遺跡174号住居

挿入番号 PL	種別器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
883-1	土師器 鉢	3	-	(4.6)	(6.7)		1/5	粗砂粒少量・細砂粒	灰褐	良好	口縁部外反。口縁部横撫で。体部外面撫で。体部外面下端ヘラ削り。体部内面ヘラナデ。	
883-2	土師器 壺	4	(13.4)	-	(7.2)		1/9	粗砂粒少量・細砂粒	明赤褐	良好	残存率低く、傾きや口径は不正確。口縁部内湾。口縁部上半。外面口縁部下半以下撫で。内面口縁部下半ヘラナデ。肩部内面撫でか。	

田口上田尻遺跡177号住居

挿入番号 PL	種別器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
885-1	土師器 環		(13.0)	-	(3.4)		1/9	細砂粒	にぶい褐	良好	口縁部横撫で。体部外面ハケ目の後撫で。体部内面撫でか。	
885-2	土師器 埴		-	-	-			粗砂粒少量・細砂粒	にぶい褐	良好	肩部外面上位横撫で。肩部外面下位丁寧な撫で。体部外面下位ヘラナデ。体部外面撫で、体部内面指撫で。	
885-3	土師器 甗か壺		-	-	-			細砂粒	にぶい黄橙	良好	外面ハケ目(1cmあたり5)。内面撫で。	
885-4	土師器 甗	2	(17.8)	-	(5.0)		1/4	細砂粒	にぶい赤褐	良好	口縁部横撫で。外面口縁部下端、強い横撫でにより凹線状に窪む。	
885-5 301	土師器 甗	16	-	(5.8)	(15.4)			粗砂粒少量・細砂粒	暗赤褐	良好	口縁部内面から肩部外面横撫で。体部外面上半撫で。体部外面中位横位ヘラ削りで単位不明瞭。体部外面下位ヘラ削り。体部外面下半部分的にヘラナデ。体部内面ヘラナデで、接合痕明瞭に残る。	

田口上田尻遺跡土坑

挿入番号 PL	種別器形	遺構名注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
891-1	土師器 高環	424土坑	(17.6)	-	(4.8)		1/4	粗砂粒・細砂粒	褐	良好	口縁部直線的に開く。口縁部横撫で。内面粗いヘラ磨き。坏底部外面ヘラナデ。	
891-2	土師器 鉢	424土坑	(12.2)	-	(5.0)		1/6	粗砂粒少量・細砂粒	褐	良好	口縁部横撫で。体部外面粗いハケ目(1cmあたり4)。体部内面撫で。	3と同一個体の可能性高い
891-3	土師器 鉢	424土坑	(12.2)	-	(5.6)			粗砂粒少量・細砂粒	褐	良好	口縁部横撫で。体部外面粗いハケ目(1cmあたり4)。体部内面撫で。	2と同一個体の可能性高い



遺物観察表

891-4 301	土師器 高坏	426土坑 1	18.3	-	(6.2)		3/4	粗砂粒少量・細砂粒	褐	良好	口縁端部付近丁寧な横撫で。口縁部横撫で。坏底部外面放射状のハケ目(1cmあたり5)。口縁部内面下位以下ヘラナデ。	
--------------	-----------	------------	------	---	-------	--	-----	-----------	---	----	--	--

3面1期 田口下田尻遺跡

田口下田尻遺跡6号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石 材	色 調	焼 成	成 整 形 の 特 徴 等	備 考
893-1 301	土師器 小型鉢	11	8.4	3.1	6.3		ほぼ完形	砂粒を含む	にぶい褐	酸化	口縁外面横撫で、体部外面はハケ目後磨きと思われる。内面は横位ハケ目。	底面の摩滅は認められない
893-2	土師器 壺	16	(9.6)	-	(3.3)		口縁部片	雲母細粒を含む	にぶい褐	酸化	口縁部内外面とも横撫で。	東海西部系
893-3	土師器 器台か	9	-	(12.0)	(3.4)		裾部片	輝石多い	にぶい褐	酸化	外面は縦位ハケメ後磨き。内面は横位ハケ目後撫で。	
893-4	土師器 高坏	10	(18.0)	-	(5.0)		杯部片	細砂粒を含む	にぶい赤褐	酸化	杯部内外面に斜位磨き	
893-5 301	土師器 高坏	12	-	(12.5)	(8.2)		脚部	細砂粒を含む	にぶい赤褐	酸化	脚外面縦位磨き、内面ヘラナデ、上位3ヵ所に円孔を穿つ。杯部との結合はほぼ充填による。	
893-6	土師器 壺	7	(18.0)	-	(3.2)		口縁部片	細砂粒を含む	褐	酸化	口唇部がやや外方へ突出。口縁折り返し部の下端は丸い。外面は板状具小口面による撫で、内面は細かい横位磨き。	
893-7	土師器 甕		(17.4)	-	(3.6)		口縁部片	細砂粒を含む	にぶい褐	酸化	外面は縦位、内面は横位のハケ目。	
893-8	土師器 甕	4	(20.0)	-	(4.6)		口縁部片	細砂粒を含む	橙	酸化	口縁部外面縦位ハケ目、内面横撫で	
893-9	土師器 甕		(19.0)	-	(2.7)		口縁部片	雲母細粒を含む	にぶい褐	酸化	口縁内外面とも横撫で、頸部外面に削り痕。	混入品か
893-10	土師器 壺		-	(5.7)	(4.0)		底部片	砂粒を含む	にぶい赤褐	酸化	外面は縦位ハケ目、内面は横位ハケ目。底面は輪状上げ底。	
893-11	土師器 甕	13	(22.9)	-	(10.4)		口縁～肩 部部片	輝石多い	にぶい橙	酸化	外面に縦位ハケメ後縦位磨き、内面は横位ハケ目後ヘラナデ。	
893-12	棒状礫	21	9.6	5.9	4.5	364.7	完形	粗粒輝石 安山岩			棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
893-13 301	棒状礫	18	13.0	4.4	3.1	257.3	完形	かこう岩			一端を欠損し、表面のハゼが激しく、使用痕跡は判然としない。	
893-14 301	棒状礫	22	12.9	6.5	5.5	687.2	完形	粗粒輝石 安山岩			棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
893-15 301	棒状礫	19	15.4	7.4	5.3	890.2	完形	粗粒輝石 安山岩			棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
893-16 301	棒状礫	20	16.0	7.4	6.1	938.1	完形	石英斑岩			棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
893-17	鉄製品 刀子		(8.1)	1.3	0.55	4.9	刃部欠				茎か	

田口下田尻遺跡21号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石 材	色 調	焼 成	成 整 形 の 特 徴 等	備 考
894-1 301	土師器 蓋	1	-	摘径 4.5	(5.2)		摘み部	細砂粒を含む	褐	酸化	内外面ともヘラナデ。天井部との結合はほぼ充填による。	
894-2	土師器 甕		(11.0)	-	(6.8)		口縁～胴 中位部片	砂粒を含む	にぶい褐	酸化	口縁内外面とも横撫で、体部外面は縦位ハケ目、体部内面は横位ハケ目と撫で。	
894-3	土師器 高坏か		-	-	-		頸部片か	細砂粒を含む	にぶい橙	酸化	杯部は中位で外折して開き、屈曲部に断面三角形の突帯を廻らす。一部にハケ目を残し、内外面全体に丁寧な横位磨き。	
894-4 301	土師器 高坏	6・16住 掘り方	-	(11.1)	(9.0)		脚部	砂粒を含む	暗赤	酸化	杯部内面と外面全体に赤彩、脚部外面は横位主体の磨き、内面撫で。杯部との結合はほぼ充填による。	
894-5	土師器 高坏	16住	-	(10.0)	(3.6)		裾部片	砂粒を含む	にぶい黄褐	酸化	外面磨き、内面ハケ目	
894-6 301	土師器 甕		14.6	-	(2.8)		口縁部片	白色粒を含む	灰褐	酸化	内面の一部にハケ目を残して口縁内外面横撫で。体部は縦位ハケ目か。	
894-7	土師器 甕	16住掘り 方	(15.0)	-	(3.2)		口縁部片	細砂粒を含む	にぶい黄橙	酸化	口縁内外面とも横撫で。頸部以下外面は細かいハケ目。	
894-8	土師器 甕		(16.2)	-	(2.9)		口縁部片	白色粒を含む	にぶい黄	酸化	口縁部横撫で。外面には撫でに使用した工具(柱目板か)の条線を残す。	
895-9	土師器 甕		(18.1)	-	(4.0)		口縁部片	細砂粒を含む	にぶい褐	酸化	口縁内外面とも横撫で、外面下位に斜位ハケ目を残す。	
895-10	土師器 甕	16住カマ ド	(23.2)	-	(4.9)		口縁部片	白色粒を含む	橙	酸化	口縁部横撫で、体部内外面とも斜位ハケ目のち一部撫で。	
895-11	土師器 甕	16住	(19.9)	-	(4.8)		口縁部片	細砂粒を含む	灰黄褐	酸化	口縁外面は横撫で、内面横位磨き。口縁下半に斜位ハケ目を残す。	
895-12	土師器 甕	16住掘り 方	(15.0)	-	(4.2)		口縁部片	細砂粒を含む	にぶい橙	酸化	断面「5」字状の崩れた形状。口縁内外面とも横撫で。体部整形は撫でと思われるが不明瞭。	北陸系類似
895-13	土師器 甕か		-	(5.0)	(3.1)		底部片	砂粒を含む	明赤褐	酸化	外面削り、内面撫で。	
895-14 301	土師器 壺		-	(7.8)	(6.5)		底部	砂粒を含む	褐	酸化	外面は縦位ハケメ後磨き、内面はヘラナデ。底面は中央がわずかにくぼむ。	
895-15	土師器 壺		-	(7.2)	(3.8)		底部片	砂粒を含む	にぶい黄褐	酸化	外面は磨き、内面は横位ハケ目。	
895-16	土師器 甕		-	-	-		胴部片	砂粒を含む	にぶい赤褐	酸化	体部外面ハケ目またはタタキ目、内面撫で。	外面タタキ目か
895-17 301	石製品 砥石	8	(8.8)	4.0	3.4	143.0	3/4	砥沢石			3面使用	

田口下田尻遺跡32号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石 材	色 調	焼 成	成 整 形 の 特 徴 等	備 考
897-1 301	土師器 卍	4	9.0	4.2	7.9		口縁一部 欠	砂粒を含む	赤褐	酸化	口縁内外面とも板小口によると思われる横撫で。体部は撫でと上半部に粗い磨き。	
897-2 301	土師器 高坏	5・6	19.8	-	(6.1)		坏部	チャート 細礫含む	橙	酸化	杯部内外面とも横撫で後、放射状磨き。脚部との接合はほぼ充填による。	
897-3	土師器 高坏	3	-	-	-		脚部上半	細砂粒を含む	明赤褐	酸化	外面は縦位ヘラナデ、内面上位に絞りを残し、下位は粘土組接合痕を残して撫で。	

遺物観察表

897-4 301	土師器 小型甕	7	-	-	(8.4)		頸～底部	砂粒を含む	にぶい橙	酸化	底部中央に小さな凹みの丸底。外面縦ハケ目後、下半と頸部に撫で。内面は下半にハケ目を残し、撫で。	底面全体に被熱赤変、体部中に煤付着、内面中に喫水線上こげが廻る。
897-5 301	土師器 甕	P1-10	17.1	5.4	18.7		完形	砂粒を含む	橙	酸化	内外面とも板状具小口による撫で、口縁内外面は幅広の横撫で。底面はわずかに中央がくぼむ輪状。	口縁外面に吹きこぼれ痕、体外面中に煤、底面付近のみ被熱赤変。内面底部からやや上位にこげ痕が廻る。

田口下田尻遺跡42号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
898-1	土師器 高杯	1・3	-	-	-		環中位～ 脚部中位	細砂粒を 含む	赤褐	酸化	内外面とも丁寧な縦位磨き。脚柱部上位は内実。	畿内系有稜高杯
898-2	土師器 壺	5	-	(5.3)	(3.0)		底部片	砂粒を含む	にぶい赤 褐	酸化	体部外面縦位ヘラナデ、内面横位ハケ目。底面削り。	

田口下田尻遺跡65号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
899-1	土師器 甕		(12.0)	-	(4.4)		口縁部片	細砂粒を 含む	黒褐	酸化	口縁横撫で、体部は撫でか。	
899-2	土師器 甕	1	(14.0)	-	(6.4)		口縁部片	砂粒を含む	灰黄褐	酸化	口縁横撫で、体部外面削り、縦位ハケ目。体部内面はヘラナデ、頸部内面は横位ハケ目。	
899-3 302	土師器 甕	1	(13.6)	-	(7.2)		口縁～肩 部片	細砂粒を 含む	灰黄褐	酸化	口縁横撫で、頸部～体部外面に斜位ハケ目、内面は横位ハケ目。	口縁外面に吹きこぼれ痕、肩部外面に煤付着
899-4 302	土師器 壺	5・11・ 13	(11.9)	-	(5.4)		口縁部片	砂粒を含む	にぶい橙	酸化	口縁内外面横撫で。頸部外面はヘラ状具小口による撫で、内面は横位ハケ目と撫で。	
899-5 302	土師器 壺	7	(14.0)	-	(7.5)		口縁～肩 部片	細砂粒を 含む	橙	酸化	肩部外面に縦位ハケ目後撫で、口縁内外面にヘラ横撫で。肩部内面ヘラナデ。	

田口下田尻遺跡66号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
900-1 302	土師器 埴	23	11.5	4.6	6.6		口一部欠	砂粒を含む	橙	酸化	口縁横撫で後縦磨き。体部外面は下位削り、他は撫で。	底面周縁摩滅。
900-2	土師器 埴	カマド	(8.4)	-	(4.0)		口縁部片	細砂粒を 含む	にぶい黄 橙	酸化	内外面とも丁寧な斜位磨き。	精製小型品。赤彩の可能性あり
900-3	土師器 埴		-	(4.8)	(4.4)		胴中位～ 底部	細砂粒を 含む	にぶい橙	酸化	外面から底は磨き。内面ヘラナデ。	底面周縁摩滅
900-4	土師器 埴		(11.9)	-	(3.9)		口縁部片	細砂粒を 含む	にぶい黄 褐	酸化	口縁部外面～体部内面に横位磨き。体部外面は斜位ハケ目。	
900-5 302	土師器 鉢	35	(12.9)	4.5	5.5		口～体部 2/3欠	細砂粒を 含む	にぶい橙	酸化	内面は斜位、外面は横位磨き。底面磨き。内面は赤変焼成、底面付近に黒斑。	在来弥生系
900-6 302	土師器 器台	28	9.1	8.5	7.7		口一部欠	細砂粒を 含む	橙	酸化	受け部内面は横磨き、外面撫で。脚部外面は縦ハケ目のち縦ヘラナデ、内面は斜ハケ目のち撫で。脚中に3孔を穿つ。	受け部中央付近は摩滅
900-7	土師器 器台	18	-	-	-		脚上半部 片	細砂粒を 含む	にぶい黄 橙	酸化	外面は縦磨き、内面はハケ目後撫で。脚上位に4カ所と思われる円孔を穿つ。	
900-8	土師器 高杯	60住	-	-	-		杯部下位 片	細砂粒を 含む	にぶい黄 橙	酸化	内外面磨き。脚部との接合は、杯底穿孔部への嵌め込み式。	
901-9	土師器 器台か高杯		-	(9.4)	(3.4)		脚下半部 片	細砂粒を 含む	明褐	酸化	外面は縦磨き、内面は同心円状ハケ目。底面はドーナツ状凹み底。内面はヘラナデ。3孔を穿つ。	
901-10	土師器 器台か高杯		-	(9.0)	(4.3)		脚下半部 片	細砂粒を 含む	にぶい黄 橙	酸化	内外面とも削り後斜位磨き。4ないし5孔を穿つ。	
901-11 302	土師器 鉢	69住	(14.1)	-	(5.7)		口縁部片	細砂粒を 含む	にぶい赤 褐	酸化	口唇内面に内傾する平坦面。口縁と体部外面は横位磨き、口縁内面は放射状縦位磨き、体部内面は横撫で。口縁下端が弱い段状をなし、一次整形のハケ目を残す。	粘土精良、整形丁寧な精製品
901-12 302	土師器 壺	21・7復 旧痕D	(17.1)	-	(5.2)		口縁～頸 部片	砂粒を含む	にぶい橙	酸化	幅広の折り返し口縁で、下端にハケ目工具によると思われる刻みを廻らす。外面整形は横撫で主体。口縁内面は赤彩のち磨き。	赤彩は風化、退色
901-13	土師器 壺	13	-	-	-		肩部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化	外面は横位主体のハケ目。内面は接合痕と指圧痕を残し、縦位ヘラナデ。櫛歯具の歯数9歯、幅2.6cmまで確認される。	
901-14 302	土師器 甕	39	11.8	3.9	10.4		完形	砂粒を含む	橙	酸化	体部外面ハケ目後撫で。口縁内面は板状具小口による横撫で、体部内面は横ハケ目。	外面肩部以下煤ける。底面周縁摩滅
902-15 302	土師器 甕	33	11.1	3.4	10.8		口一部欠	細砂粒を 含む	浅黄	酸化	体部外面に整った密な斜ハケ目(左上方)、頸部にハケ目垂下のち口縁～頸部に横撫で。体部内面は丁寧な撫でと磨き。ハケ目工具はS字襷に類似。	体部外面全体が煤ける
902-16 302	土師器 甕	31	13.5	4.3	14.0		口一部欠	砂粒を含む	灰褐	酸化	底はドーナツ状凹み底。体部外面は縦削り後縦ヘラナデ。内面は斜削り後まばらなヘラナデ。口縁は板状具小口による横撫で。	体部下半外面に被熱赤変部と煤け、体部内面下半に殺粒と思われるおこげ痕が見られる。
902-17 302	土師器 甕	15・19・ 72住1・7	(13.9)	-	(9.5)		口縁～胴 中位	砂粒を含む	にぶい赤 褐	酸化	体部外面削り後縦位ハケ目。体部内面は削り、肩部付近は横ハケ目後板状具小口による横撫で。口縁横撫で、内面はハケ目撫で。	
902-18 302	土師器 鉢	貯40	(14.2)	-	(6.6)		口～胴中 位片	細砂粒を 含む	にぶい黄 橙	酸化	内湾口縁の内外面に赤彩の可能性有り。頸部～体部の内外面に横位主体の磨き。頸部外面に一次整形のハケ目を残す。	
902-19 302	土師器 台付甕	37	18.4	-	(27.7)		口～台部 中位	砂粒を含む	褐灰	酸化	口唇つまみ上げ。口縁の段と頸部内面はヘラナデで強い稜をつくる。頸部外面に粘土付加して横撫で。脚部天井に砂目粘土を補填。頸部～肩部は下方向、体部は左上方へ5～6段のハケ目を重ねる。脚部は右下方へのハケ目。内面は幅広い平滑な板状具小口による撫で。頸部～肩部内面は縦指撫で。ハケ目工具となる櫛歯具は11歯以上、幅3cm以上であることが確認される。	脚部～胴下位は被熱赤変、胴中位は煤け。吹きこぼれと焦げ付き痕は認められない。

遺物観察表

902-20 302	土師器 台付甕		(18.5)	-	(3.4)		口縁部片	細砂粒を 含む	にぶい黄 橙	酸化	口唇部内面に内傾する平坦面。口縁外面はヘラ具による横撫 で強い稜をつくる。頸部ハケ目は左下方。頸部内面はヘラナデで 丸く仕上げる。	
902-21 302	土師器 台付甕	4・6-8	(15.6)	-	(9.5)		口縁～肩 部片	細砂粒を 含む	にぶい黄 橙	酸化	頸部外面に粘土付加して横撫で。体部最大径部分の内外面に指圧 痕による凹凸を残す。頸部～肩部に左下方へ、体部は左上方へハ ケ目。櫛歯具の歯数15歯、幅2.5cmまで確認される。	器壁厚最小値 2mmを測る
902-22 302	土師器 台付甕	29	(14.9)	-	(10.7)		口縁～胴 中位片	細砂粒を 含む	にぶい黄 褐	酸化	口唇上面に明瞭な平坦面。胴最大径部分に指圧痕の凹凸を残す。 頸部内面はヘラナデ。頸部～肩部に左下方、体部は左上方、肩部 に横位のハケ目を右回り(上から見て時計回り)に施す。内面は幅 広の板状具小口による横撫で、肩部は縦指撫で。櫛歯具は13歯以上、 幅2.8cm以上が確認される。	
902-23 302	土師器 台付甕	6	-	-	-		胴下位～ 台部上位 片	細砂粒を 含む	にぶい橙	酸化	体部外面削り後縦位ハケ目。体部内面は削り、肩部付近は横ハケ 目後板状具小口による横撫で。口縁横撫で、内面はハケ目撫で。	
902-24 302	土製品 土玉	1	2.1	2.1	2.1	6.5	完形	細砂粒を 含む	にぶい黄 橙	酸化	三角状	

田口下田尻遺跡67号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
903-1 302	土師器 鉢	47	9.5	4.0	4.5		ほぼ完形	細砂粒を 含む	にぶい褐	酸化	外面削り後撫で、内面撫で。外面は粗い磨きか光沢部分あり。	内面荒れ、底 面周縁は摩滅
903-2 302	土師器 鉢	10	12.9	4.2	6.2		完形	細砂粒を 含む	にぶい橙	酸化	内面ハケ目、内外面とも横位磨きで仕上げる。	底面と体部下 端が摩滅。在 来弥生系か
903-3 302	土師器 器台	39	7.2	6.5	6.3		完形	細砂粒を 含む	にぶい赤 褐	酸化	受け部、脚部とも外面は磨き、受け部内面は摩滅。脚部との結合 はぼぞ充填。脚部に段違い不均等に3孔を穿つ。	
903-4 302	土師器 器台	40	8.7	6.1	7.1		完形	細砂粒を 含む	にぶい橙	酸化	受け部、脚部とも外面は磨き。脚部の上部と下部の段違いに2孔 一对計4孔を穿つ。	
903-5 302	土師器 器台	8	6.9	8.7	8.5		完形	砂粒を含 む	にぶい褐	酸化	受け部内外面は放射状磨き。脚部の外面はハケ目を残して縦位磨 き、内面は撫で。脚部3孔のうち、1孔のみ高位置にずれて穿つ。	
903-6 302	土師器 器台	45	7.3	12.1	8.6		完形	砂粒を含 む	にぶい褐	酸化	内外面とも細かいハケ目、受け部口縁と脚部のみ横撫で。脚中 位に3孔を穿つ。	
903-7 302	土師器 器台	53	7.4	8.8	9.1		完形	砂粒を含 む	明赤褐	酸化	受け部内面は斜位磨き、受け部～脚部外面は縦位磨き。脚部内面 は接合痕を残して撫で。脚部上位と下位の2段に交互配置で3孔、 計6孔を穿つ。	受け部内面中 央が荒れ
903-8	土師器 器台		(9.0)	貫孔径 17.0mm	4.6		坏～脚部 上位	砂粒を含 む	黄橙	酸化	外面は縦ヘラナデ、内面は撫で。	器面荒れ
904-9 302	土師器 高坏	25	20.0	11.0	13.6		完形	砂粒を含 む	にぶい黄 橙	酸化	杯部内面は全体を4分割した横位磨き、外面は横位及び斜位磨き。 脚部は外面が縦位磨き、内面は横位磨き。	在来弥生系
904-10 302	土師器 高坏	27	20.9	10.0	12.9		口縁一部 欠	細砂粒を 含む	にぶい黄 橙	酸化	杯部底面の稜は明瞭、脚は中位がわずかに膨らみ、裾部は弱く外反。 杯部と脚部内外面はハケ目の放射状縦磨き。口縁付近と脚部付 近を横位磨き。3孔を穿つ。	
904-11 303	土師器 高坏	57	24.5	-	(7.8)		脚部欠	細砂粒を 含む	にぶい褐	酸化	杯部底面の稜は凹凸有り一定しない。脚部との結合はぼぞ充填。 内外面とも削り後ハケ目後内面を縦位磨き、外面を横位磨き。	
904-12 303	土師器 壺	31	12.8	7.5	24.7		口縁一部 欠	細砂粒を 含む	橙	酸化	口縁横撫で、胴部は縦位主体の磨き。内面は撫で、粗い磨き。胴 部下位に焼成後の穿孔。	底面は摩滅。 胴の片面に楕 円形黒斑、肩 に粗圧痕
904-13 303	土師器 壺	30・33・ 43・62	13.3	7.0	27.1		ほぼ完形	細砂粒を 含む	明黄褐	酸化	胴部外面ハケ目後中位以上を横位、下位を縦位磨き。工具撫で、 口縁部ハケ目後横撫で。胴部内面はヘラナデ。成形時の器面凹凸 を残す。	
904-14	弥生土器 壺	3	(14.0)	-	(8.3)		口縁部片	砂粒を含 む	橙	酸化	口唇部横撫で、口縁部ヘラナデ後磨き、内面ヘラナデ、など	
904-15	弥生土器 壺	66住	(16.0)	-	(5.2)		口縁部片	砂粒を含 む	橙	酸化	口縁部撫で後磨き、折り返し口縁	
904-16 303	土師器 壺	14・17・25・ 33・35・38・40 ~44・46・49・ 50・56・58・ 61・63・64・ 66・72・74	(14.5)	6.2	29.0		ほぼ完形	砂粒を含 む	橙	酸化	玉縁状の折り返し口縁。外面は目の粗い整ったハケ目、内面は目 の細かい整ったハケ目で整形。胴内面上半はハケ目後ヘラナデ。 底面はヘラナデ。	
905-17 303	土師器 壺	9・37・50 ~52・70・ 72・75	-	-	-		頸～胴部 下位片	細砂粒を 含む	灰褐	酸化	板状工具の小口によると思われる撫で、一部ハケ目を残すが不明 瞭。内面は丁寧な撫で、底面付近は粗い磨き。	
905-18	土師器 (甕)		-	-	-		胴部片	細砂粒を 含む	にぶい橙	酸化	ハケ目の後櫛歯状文を複数重ねて施文。内面は横位磨き。	樽式
905-19 303	土師器 壺	5・20	-	-	-		胴中位～ 下位片	砂粒を含 む	灰褐	酸化	体部外面に斜及び横位のハケ目。内面はヘラナデ。	
905-20 303	土師器 甕	22・33・ 52・54・ 26・41・ 55	12.4	4.8	15.4		ほぼ完形	砂粒を含 む	褐灰	酸化	口縁～体部の外面に粗い縦位ハケ目、口縁～体部内面は細かい横 位ハケ目のち体部のみ丁寧な磨き。	体部下半～底 部外面は被熱 赤変、体部内 面中位にこげ 痕
905-21	土師器 壺	21	-	6.4	(2.2)		底部片	砂粒を含 む	橙	酸化	外面ハケ目、内面撫で。底部やや突出し、摩滅。	
905-22 303	土師器 甕	32	18.4	5.3	25.6		完形	砂粒を含 む	にぶい褐	酸化	体部外面に粗い縦位ハケ目後下半をヘラ先小口撫でで仕上げる。 内面は細かい横ハケ目。口縁は横撫で。底面は輪状で浅い凹み。	体部内面中位 に薄くこげ痕 を残す
905-23 303	土師器 甕	28・29・ 41・48・ 68・69・ 24	17.5	4.5	29.3		ほぼ完形	砂粒を含 む	にぶい褐	酸化	体部内外面とも縦位ハケ目後外面はヘラ先小口撫で、内面は削り。 口縁内外面は横撫で。	底内面にわず かにこげ痕を 残す
905-24	土師器 (台付甕)		(16.0)	-	(4.4)		口縁部片	砂粒を含 む	暗赤褐	酸化	口縁外面横撫で後縦位ハケ目、肩部は横位ハケ目。口縁内面は横 位ハケ目、体部内面はヘラナデ。	
905-25 303	土師器 台付甕	11・10・ 16	(16.0)	-	(14.7)		口縁～胴 中位	砂粒を含 む	明褐	酸化	口唇外面にハケ目工具による刻み、口頸部は縦位、体部は横位の 目の粗いハケ目。内面は横ハケ目後、口縁は縦位、体部は横位の 磨き。	南関東～東海 東部系

遺物観察表

906-26 303	土師器 台付甕		(18.3)	-	(25.2)			口～胴部 下位	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化	口縁及び頸部外面は柃目板小口を使った横撫で。外面は胴部に整形時削り痕を残して体部中～下半が上ないし左上方、肩部が左下方へハケ目を施し、肩部には頸部から離れて横位に廻らす。ハケ目工具となる櫛歯具はハケ目痕跡から13歯、幅3.8cmまで確認できる。内面は丁寧なヘラナデ、指撫で。頸部内面はヘラナデで整形。底部内面には砂目粘土の付加が見られる。	胴下半がわずかに煤けた痕跡、内面にこげ痕は見られない。
---------------	------------	--	--------	---	--------	--	--	------------	-------	-----------	----	---	-----------------------------

田口下田尻遺跡69号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
908-1 304	土師器 高環	13	-	(6.0)	(5.5)		底～台部	細砂粒を含む	にぶい赤 褐	酸化	外面及び杯部と思われる底面は縦位磨き。脚部内面は削り。	ミニチュア 品、蓋とも考 え得る
908-2	土師器 甕	12	(12.0)	-	(4.2)		口縁部片	細砂粒を含む	にぶい橙	酸化	口縁部横撫で、体部内外面とも斜位ハケ目のち一部撫で。体部外面は縦位ハケ目。口縁～体部内面は横位磨き。	
908-3	土師器 甕		(14.0)	-	(2.9)		口縁部片	細砂粒を含む	にぶい橙	酸化	内外面とも撫でか粗い磨き。	
908-4	土師器 甕		(15.0)	-	(4.0)		口縁部片	細砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化	外面に斜位ハケ目、口縁部横撫で。内面は体部にハケ目を残し横撫で。	
908-5	土師器 甕	11	-	-	-		頸～肩部 片	細砂粒を含む	内面 橙、 外面 灰褐	酸化	外面の頸部は縦位、体部は斜位のハケ目、口縁横撫で。内面は口縁～体部に横位主体のハケ目。	

田口下田尻遺跡71号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
909-1 304	土師器 直口壺	4	9.0	4.7	16.9		完形	砂粒を含む	浅黄	酸化	口縁は内湾して立ち上がる。口縁外面の一部にハケ目を残し、口縁外面は横撫でと磨き、胴部外面は縦位磨き。口縁内面は横撫でとまばらな縦位磨き、胴部内面整形は撫でか。	口縁から肩 外面の一部に 焼成時の赤変 あり。胴外面 側に黒斑。
909-2	土師器 壺	40-42	-	-	-		頸～胴下 半	砂粒を含む	浅黄	酸化	内外面撫で。一部ハケ目が見られるが荒れて不明瞭。	
909-3	土師器 ミニチュアか		-	-	-		脚脛部?	砂粒を含む	灰褐	酸化	半円状土製品	
909-4 304	土師器 器台	81	8.7	11.9	8.7		ほぼ完形	砂粒を含む	明赤褐	酸化	脚部外面は縦位ヘラ先撫で、受け部内面は磨き。受け部外面と脚部内面は撫でが見られるが荒れのため不明瞭。脚部円孔は対位4カ所に穿つ。	
909-5	土師器 器台		(9.6)	-	(1.6)		環部片	細砂粒を含む	にぶい橙	酸化	ハケ目後内外面磨き。口唇上縁に小さな平坦面。	
909-6	土師器 器台	7	-	-	-		脚上半部	細砂粒を含む	にぶい赤 褐	酸化	外面縦位磨き、天井部上位に絞目このす。貫通孔は中心をずれ、径7mm。脚部円孔は対位4カ所と思われる。	
909-7	土師器 台付甕	72	-	-	-		脚上半部	砂粒を含む	橙	酸化	外面は一部ハケ目を残してヘラナデ、内面は横位ヘラナデ。体部との結合はほぼ充填と見られるが、充填粘土痕が不明確で、貫通したまま別用途に使われたか。	二次的被熱痕 不明確
909-8 304	高環か	27・28・ 35	-	(16.5)	(2.8)		裾部片	砂粒を含む	にぶい橙	酸化	外面削り後ハケ目、内面ヘラナデ。	
909-9	土師器 高環か器台		-	(10.3)	(4.2)		脚裾部片	細砂粒を含む	にぶい橙	酸化	外面磨き、内面は一部ハケ目を残して撫で。	
909-10	土師器 高環	86	-	-	-		脚上半部	細砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化	外面は縦位磨き、内面はヘラナデ。天井部に削り痕を残す。杯底面との結合に粘土塊を充填したくぼみを残す。	
909-11	土師器 器台		-	-	-		脚上半部 片	細砂粒を含む	にぶい橙	酸化	外面縦位磨き、内面ヘラナデ。脚部円孔は3カ所。	
909-12	土師器 壺	83	(13.0)	-	(3.1)		口縁部片	砂粒を含む	にぶい赤 褐	酸化	口縁外面は磨き、頸部外面は横位ハケ目。内面整形は荒れて不明。	
911-13 304	土師器 壺	45・46・48 -50・61・ 65・67・71	11.2	5.7	26.5		ほぼ完形	砂粒を含む	橙	酸化	口縁外面削り、胴部外面は斜位ハケ目を残して磨きに近い縦位ヘラナデ。内面は口縁と底部にハケ目を残して横位ヘラナデ。底面削り。	底面不安定。 胴中位外面に 煤付着
911-14 304	土師器 壺	82	14.4	-	(8.0)		口縁～肩 部	輝石多い	にぶい橙	酸化	断面が薄い「蒲葺」形の折り返し口縁の下端に乱雑な押圧を加える。外面の口縁と肩部に横位磨き、口縁内面は横撫で、体部内面ヘラナデ。	
911-15 304	土師器 壺	1流路82 ・1鍛冶 707	(14.4)	-	(7.3)		口縁～肩 部	細砂粒を含む	にぶい橙	酸化	口縁横撫で後まばらな磨き、肩部外面磨き、肩部内面は撫で。	頸部内面に 粗圧痕、6×3 mm
911-16 304	土師器 壺	1-54・56- 58・60・61・ 92・211P	-	5.3	(19.4)		胴上位～ 底部片部 片	砂粒を含む	橙	酸化	外面は斜位ハケ目、内面は下位接合部に境に、底部までをらせん状斜位ハケ目、上位頸部までをヘラナデ。底部はやや突出する。	
911-17 304	土師器 壺	22-24・ 36-39・ 66・88	-	-	-		頸～下半 部 1/2	砂粒を含む	にぶい褐	酸化	外面は一部にハケ目を残して縦位の磨き、内面は下半にハケ目を残し、上半は撫で。	
911-18 304	土師器 甕	2・3	(13.6)	6.6	15.1		1/2	細砂粒を含む	暗赤褐	酸化	外面と口縁内面に赤彩。外面上半と内面全体に横位磨き、外面下半は縦位磨き。	底面全体に 摩滅、剥離
911-19	土師器 甕	85	(14.0)	-	(5.3)		口縁～肩 部片	砂粒を含む	にぶい褐	酸化	口縁内外面とも横撫で。頸部～体部外面に縦位ハケ目、体部内面は削り。	
911-20	土師器 甕		(16.6)	-	(3.8)		口縁部片	砂粒を含む	暗灰黄	酸化	口縁横撫で。外面頸部ハケ目、体部内面横位ハケ目。	
911-21	土師器 甕	70	(14.2)	-	(7.2)		口縁部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化	口縁横撫で、体部内外面とも横位ハケ目。	
911-22	土師器 甕		(18.4)	-	(3.4)		口縁部片	砂粒を含む	明褐	酸化	口縁部外面ハケ目後横撫で	
911-23	土師器 鉢か	73	-	(4.2)	(4.5)		底部片	砂粒を含む	橙	酸化	内外面とも撫でと磨きか。器面荒れ。	
911-24	土師器 壺	29	-	(5.6)	(2.4)		底部片	砂粒を含む	にぶい橙	酸化	外面はハケ目後削り、内面は丁寧な磨き。底面は断面が三角高台状の上げ底。	
911-25	土師器 壺か	18	-	(5.5)	(3.6)		底部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化	外面縦位ハケ目、内面はハケ目後削り。	
911-26 304	土師器 壺	78	-	(6.4)	(3.6)		底部	砂粒を含む	にぶい褐	酸化	体部～底外面削り、内面撫で後粗い磨き。	底縁摩滅
912-27	土師器 甕	69	(18.0)	-	(4.5)		口縁部片	砂粒を含む	赤褐	酸化	口唇部外面に櫛歯具による刻み、口縁外面は整った縦位ハケ目。内面は外面と異なる目の細かい横位ハケ目。外面ハケ目の櫛歯状工具は歯数13、幅2.8cmまで確認できる。	
912-28	土師器 甕		(18.0)	-	(4.1)		口縁部片	砂粒を含む	橙	酸化	口縁外面に斜位ハケ目後横撫で。頸部外面に削り状の強いハケ目、内面は横位ハケ目。	
912-29	土師器 甕		(21.0)	-	(2.8)		口縁部片	砂粒を含む	橙	酸化	口縁内外面とも横撫で。体部外面は削りか、体部内面は板状具小口による撫でか。	



遺物観察表

912-30	土師器 甕	84	(21.8)	-	(5.2)		口縁部片	砂粒を含む	にぶい黄 褐	酸化	口縁横撫で。頸部外面は縦位削り、体部内面は撫で。	
912-31 304	土師器 台付甕	67・68・ 67住24	16.6	8.9	27.0		ほぼ完形	砂粒を含む	灰黄	酸化	口縁上段の内面に弱い沈線。頸～肩に下方、体部は下から左上方で4～5段分けのハケ目を施す。肩に横位ハケ目を右回りに廻らす。ハケ目の櫛歯具はスパンが不揃いで鋭く、22歯、幅1.8cmまで確認できる。内面は平滑なへう状具と指頭による撫で。脚部内面の天井部には補強のための砂目粘土を付加し、全体に丁寧に撫で。	内面中位に焦げ付き痕らしき黒ずみが見られる

田口下田尻遺跡72号住居

挿図番号 PL	種 器 別 形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残 存	胎 土 石 材	色 調	焼 成	成 整 形 の 特 徴 等	備 考
913- 1	土師器 甕		(16.0)	-	(2.4)		口縁部片	細砂粒を 含む	褐	酸化	一部にハケ目をのこして口縁部内外とも横撫で。	
913- 2 304	土師器 壺	2-4	-	8.0	(23.9)		口縁一部 欠損	砂粒を含む	にぶい橙	酸化	外面は口頸部が縦位、肩が斜位、胴が縦位の磨き。内面は頸部が縦位磨き、胴部がヘラナデ。	底面周辺が摩滅

田口下田尻遺跡73号住居

挿図番号 PL	種 器 別 形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残 存	胎 土 石 材	色 調	焼 成	成 整 形 の 特 徴 等	備 考
915- 1 304	土師器 高坏	10	-	-	-		坏底部	精良	橙	酸化	内外面とも磨き。底面貫通孔は焼成前穿孔。	筒状脚部と思われる
915- 2	土師器 壺		-	-	-		肩部片	砂粒を含む	にぶい黄 褐	酸化	弱い刻みを加えた凸帯を横位に廻らし、上位を撫で、下位にハケ目を施す。内面は撫で。	
915- 3	土師器 壺		-	-	-		肩部片	砂粒を含む	褐灰	酸化	櫛歯横線文(幅15mm)を上下にめぐらし、中位に櫛歯具小口による鋸歯文を廻らす。鋸歯文には赤彩。	東海西部系加飾壺
915- 4 304	土師器 壺	1・2	-	5.3	(5.3)		胴下位～ 底部	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化	外面斜ハケ目のちまばらな磨き。内面撫でか。内面剥離著しい。底面削り。	
915- 5 304	土師器 甕	7	-	8.0	(5.2)		胴下位～ 底部	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化	外面、底面とも削り。内面ヘラナデ。	
915- 6 304	土師器 台付甕	8・15・ 16	(10.4)	-	(10.8)		口縁～胴 部下位片	砂粒を含む	黒褐	酸化	口縁横撫で。体部外面は細かい縦ハケ目、内面は粗い横撫で。	
915- 7	土師器 小型甕		-	(4.6)	(2.4)		底部片	砂粒を含む	にぶい褐	酸化	内面磨き、外面ヘラナデか。ドーナツ状凹み底。	
915- 8	土師器 甕	11	-	4.8	(3.3)		底部片	砂粒を含む	にぶい橙	酸化	外面縦削り、内面ヘラナデ。	
915- 9	土師器 台付甕	9	-	(8.9)	(5.5)		台部片	砂粒を含む	黄褐	酸化	外面縦ヘラナデ。内面削り。裾部横撫で。	東海西部系か

田口下田尻遺跡76号住居

挿図番号 PL	種 器 別 形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残 存	胎 土 石 材	色 調	焼 成	成 整 形 の 特 徴 等	備 考
916- 1 304	土師器 ミニチュア壺	1	2.1	2.0	3.6		口縁一部 欠	細砂粒を 含む	にぶい赤 褐	酸化	手握ね整形。外面ヘラナデ。	
916- 2	土師器 壺		-	(4.3)	(1.5)		底部片	砂粒を含む	灰褐	酸化	外面削り、内面撫で。底面は輪状上げ底。	
916- 3	土師器 壺		-	(7.0)	(2.3)		底部片	砂粒を含む	明赤褐	酸化	外面削り、内面撫で。底面は削り平底。	底面縁辺は摩滅

田口下田尻遺跡105号住居

挿図番号 PL	種 器 別 形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残 存	胎 土 石 材	色 調	焼 成	成 整 形 の 特 徴 等	備 考
917- 1 305	土師器 鉢	49・55	12.4	4.3	4.9		口縁一部 欠	砂粒を含む	橙	酸化	外面は斜ハケ目とヘラナデ。内面は斜ハケ目。口縁部は横撫で。底面中央凹み底。	底面剥離著しい
917- 2	土師器 甕	10	(11.7)	-	(6.1)		口縁～肩 部片	細砂粒を 含む	明赤褐	酸化	口縁外面横撫で、内面横ハケ目。体部外面斜位ハケ目、内面撫で。肩部内面に初め疑いある圧痕(6.5×4.0mm)。	外面焼け
917- 3 305	土師器 器台	48	-	-	-		脚部	細砂粒を 含む	にぶい橙	酸化	脚部に3カ所2段の円孔を穿つ。外面ヘラナデと縦磨き、内面ハケ目後撫で。	
917- 4	土師器 器台	62	(8.9)	-	(4.2)		受け部片	砂粒を含む	橙	酸化	外面は削り後撫でと粗い磨き、内面は横ハケ目と撫で。	内面に種子圧痕(4mm大)
917- 5	土師器 高坏か	50	(21.6)	-	(8.6)		口縁～体 部片	砂粒を含む	橙	酸化	内外面とも斜位及び縦位磨き。	
917- 6	土師器 高坏	82・83	(20.0)	-	(5.0)		口縁部片	砂粒を含む	橙	酸化	内面斜位磨き残、外面器表荒れ	
917- 7	土師器 壺	58・109 ・124住	-	-	-		胴上半部	砂粒を含む	橙	酸化	斜線と横線で絵画らしきモチーフを描出。整形はハケ目のち斜磨き。内面は頸部指頭押圧、胴部は斜ハケ目。	
918- 8 305	土師器 壺	4-6・11・ 13-14・16- 17・31・32・ 38-41・123	(11.4)	(6.0)	21.6		3/4	細砂粒を 含む	にぶい黄 橙	酸化	口縁は断面三角形に肥厚、体部は削り後胴部は横位、肩部は斜位の丁寧な磨き。器面剥離。	器形はバレススタイル壺
918- 9 305	土師器 壺	8・34・ 51・56・ 124住	-	-	-		胴上半部	砂粒を含む	にぶい橙	酸化	外面は粗い横磨き。内面は頸部に絞りを残し。横位ハケ目後横撫で。	2重口縁壺と思われる
918-10	土師器 壺か	25	-	7.3	(3.1)		底部	砂粒を多 く含む	にぶい橙	酸化	不安定な突出底。内外面とも削り後撫で。	
919-11 305	土師器 壺	65-66-85- 87-90-92- 93-101-105- 106-118	16.4	7.0	30.7		ほぼ完形	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化	口縁内外面は横撫で、体部外面は斜削り後上半部に縦横の撫で。	肩部1カ所に黒斑
919-12	土師器 壺	35・124 ・7罎	-	7.0	(4.2)		胴下半部	砂粒を含む	橙	酸化	外面は縦磨き、内面は同心円状ハケ目。底面はドーナツ状凹み底。	
919-13	土師器 甕	33・36・ 41・52・ 119	(15.8)	(4.6)	(21.0)		口 縁 部 片、肩 部 片、底 部 片	砂粒を含む	褐	酸化	口縁横撫で。体部外面は斜ハケ目、下半削りのちまばらな磨き。体部内面は全体に横ハケ目。	接合しない3片による図上復元
919-14	土師器 甕	13・114	(14.2)	-	(8.9)		口～体部 片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化	内外面削りと撫でと思われるが、器面荒れ著しい。	台付鉢か
919-15 305	土師器 甕	27・61・ 63・71・ 113	(14.5)	-	(11.2)		口～胴上 半部	砂粒を含む	明赤褐	酸化	体部外面は斜位ハケ目、内面は横位ハケ目。口縁横撫で。	二次的な赤変
919-16	土師器 壺	18・29・ 30・42・ 43	-	-	-		胴上半部 片	砂粒を含む	橙	酸化	胴外面はハケ目と横削り後まばらなヘラナデ。内面全体に横ハケ目、下半にまばらな縦ハケ目。	
919-17	土師器 甕	18	(17.0)	-	(6.5)		口縁部片	砂粒を含む	にぶい橙	酸化	口縁横撫で。外面は斜ハケ目と横削り後まばらな磨き。肩部内面はハケ目のち撫で。	
919-18	土師器 鉢か	37・57	-	5.8	(5.5)		底部	砂粒を含む	明赤褐	酸化	体部外面縦のハケ目と削り後まばらな磨き。内面磨き。底面削りのみ。	

遺物観察表

919-19 305	土師器 甕	73・74・ 78・79・ 112・117	(13.6)	-	(12.3)		口～胴上 半部	砂粒を含む	橙	酸化	肩部は左下へ、胴部は左上への斜ハケ目。肩部横ハケ目。頸部内面に横ハケ目。肩～胴外面にハケ目前の斜位削り痕を残す。	
---------------	----------	-----------------------------	--------	---	--------	--	------------	-------	---	----	--	--

田口下田尻遺跡107号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
920-1	土師器 高環	3	-	(13.3)	(4.2)		脚部	精良	にぶい黄 橙	酸化	脚部中位以下が内湾して開く。外面は丁寧な縦位磨き、内面は撫で。尾張系に類似穿孔の有無は不明。	
920-2	土師器 高環か器台		-	(15.8)	(1.5)		裾部片	砂粒を含む	橙	酸化	裾端部玉縁状。外面磨き、内面撫で。	
920-3	土師器 壺		-	-	-		口縁部片	精良	赤褐	酸化	折り返し口縁の外面横撫で、頸部外面は縦位ハケ目、内面は丁寧な横位磨き。	

田口下田尻遺跡117号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
921-1	土師器 台付甕	1・3・4・ 8・9	(14.8)	(7.6)	(23.6)		口縁部片	砂粒を含む	にぶい橙	酸化	口縁横撫で、肩部は縦、体部下半の内外面とも横ハケ目。外面一部にハケ目前の削り痕を残す。脚部外面は撫で。	

田口下田尻遺跡116号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
923-1	土師器 鉢か	4	(15.0)	-	(5.6)		環口縁部片	細砂粒を含む	にぶい橙	酸化	内外面とも粗い横磨き。	
923-2	土師器 高環	6・9・掘り 方29	(15.5)	-	(4.3)		口縁部片	細砂粒を含む	にぶい橙	酸化	外面横磨き、内面は剥離。	
923-3	土師器 高環か器台	5・8	(17.3)	-	(4.1)		環口縁部片	砂粒を含む	明褐	酸化	外面は斜及び横磨き、内面は横ハケ目。	
923-4 305	土師器 高環	10	-	(11.0)	(9.4)		脚部	細砂粒を含む	にぶい橙	酸化	外面は縦磨き。内面上半は横削り、下半は横撫で。	
923-5 305	土師器 高環	11	-	-	-		脚部片	細砂粒を含む	浅黄橙	酸化	外面は縦ハケ目のち縦磨き。内面横ハケ目。	
923-6 305	土師器 甕	17・19・ 22・23	-	4.0	(9.7)-		口縁部欠 損	粗砂多い、 精良	明赤褐	酸化	体部外面横方向の粗いハケ目後細かい縦方向ハケ目。口縁内面に横ハケ目、体部内面は横ヘラナデ。	
923-7 305	土師器 甕	貯穴15・ 24・掘り 方28	(17.0)	-	(20.0)		口縁～肩 部中位片	砂粒を含む	にぶい橙	酸化	口縁内外面横ハケ目。体部外面は縦位主体のハケ目、内面は横ハケ目。口縁と体部は接合箇所ないか同一個体か	
923-8	土師器 台付甕		-	(8.0)	(5.2)		台部片	砂粒を含む	橙	酸化	内外面とも撫でか。体部との接合はほぞ充填と思われる。	
923-9 305	土師器 甕	1	(16.9)	-	(12.4)		上半部片	砂粒を含む	にぶい橙	酸化	口縁外面横撫で、体部外面縦ハケ目、肩部ヘラナデ。体部内面横ハケ目。ハケ目工具は細かく整った板小口。	外面下半に煤付着
923-10	弥生土器 壺		-	-	-		肩部片		赤褐	酸化		

田口下田尻遺跡119号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
924-1 305	土師器 手焙形土器	2	-	-	-		体部1/5 片	輝石、石 英	橙	酸化	受け口状口縁で体部下位に押しつぶすような刻みを加えた突帯が廻る。覆い部は欠。外面全体に斜位ハケ目、頸部の下に鋭いヘラ先による斜線文を描く。	体部外面に煤付着痕、内面体部中位にこげ痕。近江ないし伊勢系か。
924-2 305	土師器 鉢	6・13	(15.5)	5.5	6.9		3/4	砂粒を含む	にぶい橙	酸化	口縁ゆがむ。内外面とも横位磨き。	
924-3 305	土師器 鉢	20	(10.2)	-	(6.6)		口縁～胴 部中位片	白岩片細 礫	灰黄褐	酸化	体部外面に斜位ハケ目、内面はヘラナデ。口縁は横撫で、口唇部剥離。	台付甕の可能性あり
924-4 305	土師器 甕	3-5	(9.8)	(4.3)	9.8		3/4	砂粒を含む	明黄褐	酸化	外面縦位削り、内面ヘラナデ。口縁は手捏ねの不整形のまま。底面中央やや凹み底。	体部中位外面に煤付着
924-5 305	土師器 有孔鉢	41・72	(10.5)	4.0	9.0		1/2	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化	外面縦位削り、内面ヘラナデ。口縁は手捏ねの不整形のまま。底面中央やや凹み底。	体部中位外面に煤付着
924-6	土師器 高環	15	-	-	-		環底部片	精良	にぶい黄 橙	酸化	外面は斜位、内面は横位の磨き。杯底面に円形の段状凹み。	東海西部系
925-7 305	土師器 壺	23・43・ 46・47	(13.7)	-	(13.7)		口縁～肩 部	砂粒を含む	橙	酸化	やや内湾きみの口縁で、頸部に1条の突帯を廻らす。肩部に櫛描波状文、横線文、波状文の順で施文。櫛描施文具は櫛歯数10歯、幅1.5cm。櫛歯先端は鋭く細い。口縁内面と胴無文部は磨き。胴内面は撫で。	東海系加飾壺
925-8 305	土師器 壺	19	-	4.5	(2.9)		底部	砂粒を含む	にぶい褐	酸化	内外面ともハケ目。底面は削りのみ。	
925-9 305	土師器 壺	54・56・ 66・69・ 71	-	6.0	(25.6)		頸～底部	砂粒を含む	褐	酸化	頸部に籬状文、肩に櫛描波状文を重ねて廻らしたと考えられる。胴部外面は縦横位の磨き、内面は板状具小口による撫で。頸部内面は横位磨き。頸～肩部の文様帯部分のみ著しい剥離を見せ、文様はほとんど識別できない。故意に文様を消したものか。	樽式。底面周辺は摩滅
925-10 305	土師器 甕	1・8・ 11・78・ 79	(13.1)	4.4	22.3		1/2	砂粒を多く 含む	にぶい褐	酸化	口縁内外面とも横撫で。体部外面は斜位削り、内面はヘラナデ。底面は小さな上げ底。	外面の胴下半は被熱赤変、その内面部分にこげ痕。外面体部上位全体に煤付着。
925-11 306	土師器 甕	35-37	13.4	-	(13.9)		口縁～胴 部下位	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化	口縁内外面とも横撫で。体部外面は上位が斜位、下半が縦位の磨き。内面は平滑な用具による丁寧な撫で。	体部外面全体に煤付着。台付甕か。
925-12 306	土師器 高杯	51	-	(9.3)	(5.4)		台部	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化	外面縦位磨き、内面は撫で。杯部との結合はほぞ充填により、脚内面天井部をなでつけて仕上げる。	在来弥生系か
925-13 306	土師器 台付甕	52	-	9.0	(4.6)		台部	砂粒を含む	橙	酸化	幅の狭い板状具小口で、外面縦位、内面は横位の撫で。裾部横撫で。体部との結合はほぞ充填による。	東海西部系
925-14	弥生土器 高環	28	(24.8)	-	(4.7)		口縁部片	細砂粒を含む	橙	酸化	内面に凹線山形紋、外面撫で。	
925-15	弥生土器 壺	48・108 住	-	-	-		肩部片		橙	酸化	外面に凹線で平行線と隆帯貼付。	
925-16	弥生土器 壺		-	-	-				淡黄	酸化	外面に凹線で山形紋。	
925-17 306	鉄製品 釘	80	5.7	0.7	0.5	3.2	完形				一端に孔。	

遺物観察表

田口下田尻遺跡121号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
926-1 306	土師器 結合器台	6・10・ 11	(17.5)	(12.0)	(12.7)		1/2	細砂粒を 含む	橙	酸化	受け部下端に4カ所、脚部に上下2段3カ所の円孔を穿つ。受け部は削り後縦位ヘラナデ(粗い磨き)、脚部外面は縦位磨きで仕上げられる。	
926-2 306	土師器 器台	111住	(8.3)	-	(5.5)		1/4	細砂粒を 含む	明黄褐	酸化	受け部内面は撫で、外面は縦位削り。脚部外面はヘラナデ、内面は撫で。脚部円孔は3カ所か。	受け部内面上位に著しい剥離
926-3 306	土師器 器台か	19・20・ 22	-	8.7	(2.8)		脚部	細砂粒を 含む	明黄褐	酸化	外面縦位ヘラナデ、内面横撫で。円孔数は不明。	
926-4 306	土師器 器台	28	-	(8.3)	(4.4)		脚部	細砂粒を 含む	明褐	酸化	外面は削り後縦位磨き、内面はハケ目のち削り。上下段違いで3孔づつを穿った可能性あり。	
926-5 306	土師器 甕	13	(20.2)	-	(5.5)		口縁部片	砂粒を 含む	にぶい黄 橙	酸化	口縁内外面とも柾目板小口による横撫で、体部内外面に横位ハケメのち撫で。頸部外面に縦ハケ目を残す。	頸～肩外面に煤付着
926-6 306	土師器 直口壺	8・9・ 12・17・ 21・23	(10.6)	4.5	(14.5)		上半部、 下半部	精良	にぶい黄 橙	酸化	口縁外面は縦位削りのち縦位磨き、内面は横位削りのち横位磨き。胴部外面は縦位ハケメと削り、粗い磨き。胴内面は撫で。底面は削りのち磨き。	接合しない胴部上下を図上復原
926-7 306	土師器 甕	33・35・ 37・40・ 111住	(17.7)	-	(9.2)		口縁～肩 部	砂粒を 含む	灰黄褐	酸化	口縁内外面横撫で。頸部外面に沈線を廻らす。頸部～肩部に左下、胴中位に左上方のハケ目。肩部に横位ハケ目。内面は撫で。ハケ目工具と思われる櫛歯具は、21歯、幅3.9cmまで確認できる。	
926-8 306	土師器 台付甕	1・5	(18.6)	-	(8.1)		口縁～肩 部片	砂粒を 含む	黒褐	酸化	口唇内面に弱い平坦面。口縁内外面横撫で。頸部外面にヘラ先に沈線を廻らす。頸部～肩部に左下、胴中位に左上方のハケ目。肩部に横位ハケ目。内面は撫で。ハケ目工具と思われる櫛歯具は、20歯、幅3.6cmまで確認できる。	口縁外面に吹きこぼれ痕か
926-9	弥生土器 壺		-	-	-		肩部片		橙	酸化	外面に縄文。	

田口下田尻遺跡122号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
927-1 306	土師器 高杯	21	13.0	-	(5.8)		坏部	砂粒を 含む	にぶい橙	酸化	杯部内外面とも斜位磨き。脚部との結合はほぞ充填による。杯底面は黒変し、剥離する。	
927-2 306	土師器 壺	30	-	-	-		口縁部片	砂粒を 含む	にぶい橙	酸化	頸部内面上位の内傾面から、パレストイル壺に類似する折り返し口縁と思われる。折り返し部剥離の擬口縁の一部に焼成後の割れ目と思われる半円形の挟りが見られる。	体部内面中位に帯状のこげ痕を認める
927-3 306	土師器 甕	9	14.0	5.9	15.3		ほぼ完形	砂粒を 含む	にぶい黄 橙	酸化	外面削り、内面はヘラナデ。口頸部内外面に整形時のハケ目を残す。底面は突出で、低面削り整形。	体部内面中位に帯状のこげ痕を認める
927-4 306	土師器 壺	5・6・8	13.0	6.4	23.2		ほぼ完形	砂粒を 含む	にぶい橙	酸化	口縁横撫で。外面に細かい縦位ハケ目の後ヘラナデと削りで整形。内面は丁寧なヘラナデで、頸部を削りで整形。	底面周縁は摩滅
928-5 306	土師器 台付甕	4・5・7・10・ 13・16・18・ 20・22・23・ 36・40	16.0	9.8	25.5		口縁1/4、 体部の一 部欠	白色粒子 を含む	にぶい橙	酸化	口縁は強く「く」の字状に屈曲し、「棗」形の体部へ続く。内外面に縦位主体の細かいハケ目の後、外面は削り、内面はヘラナデで整形。脚部内外面撫で。	東海西部系に類似
928-6 306	土師器 台付甕	6	15.8	8.2	26.0		体の一部 欠	砂粒を 含む	にぶい橙	酸化	体部外面に縦位、口縁～体部の内面に横位の細かいハケ目。体部下外面と体部内面全体に縦位ヘラナデ。脚部内外面は撫で。口唇部上面に平坦面を作る。	体部中～上位の一部に煤付着

田口下田尻遺跡125号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
930-1	土師器 ミニチュア		-	(3.9)	(1.7)		底部片	精良	にぶい橙	還元	内底ハケ目、甕形か	
930-2 306	土師器 器台	8	6.7	8.0	6.2		ほぼ完形	精良	橙	酸化	受け部内面は横磨き、受け部から脚部外面は縦磨き。脚内面は撫で。脚部やや上位の4カ所に円孔を穿つ。	
930-3	土師器 高杯		-	(18.0)	(0.8)		裾部片	細砂粒を 含む	にぶい橙	酸化	内外面とも横撫で。	
930-4	土師器 (鉢)		-	-	-		口縁部片	細砂粒を 含む	にぶい橙	酸化	幅広の折り返し口縁で、内面は横ハケ目。外面撫で。	
930-5 306	土師器 (台付甕)	9	(17.8)	-	(12.4)		上半部片	小石を 含む	明赤褐	酸化	口縁横撫で、外面頸部～体部に斜ハケ目(右下へ)。体部内面削り。	

田口下田尻遺跡127号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
931-1	土師器 壺		-	(6.7)	(2.8)		底部	片岩含む	黒褐	酸化	外面削り後ヘラナデ、内面はヘラナデ。	
931-2	弥生土器 壺		-	-	-		口縁部片		赤褐	酸化	外面に凹線と櫛歯文。	

田口下田尻遺跡139号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
932-1 306	土師器 甕	2	(16.0)	-	(14.0)		上半部片	砂粒を 含む	にぶい橙	酸化	体部外面縦位削り後縦位ヘラナデ、内面は横位削り、口縁横撫で。	口縁と体上半の外面に煤付着

田口下田尻遺跡30号溝

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
937-1 307	土師器 埴	1	9.4	-	(6.4)		口縁部	細砂粒を 含む	にぶい黄 橙	酸化	口縁部外面ハケ目。	
937-2 307	土師器 器台	15	-	-	-		坏底～脚 部(短欠)	細砂粒を 含む	にぶい黄 褐	酸化	円孔三方透かし、脚外面磨き、杯部内面磨き。	
937-3	土師器 器台か	29	-	-	-		脚部片	細砂粒を 含む	にぶい黄 褐	酸化	円孔三方透かし、脚外面磨き。	
937-4 307	土師器 高杯		-	-	-		坏底～脚 部上位	精良	赤褐	酸化	円孔四方透かし、脚外面工具撫で。	
937-5 307	土師器 埴	1・東側 部分・7・ 9畑	(10.5)	(4.0)	(16.2)		口縁部片、 口縁～中 位底部	砂粒を 含む	橙	酸化	平底、体部外面磨き、赤彩か。	
937-6	土師器 壺		-	-	-		口縁部片	細砂粒を 含む	にぶい橙	酸化	口縁部折り返し、口縁部外面に工具押捺痕。	
937-7	土師器 壺	20	-	-	-		頸部片	細砂粒を 含む	にぶい橙	酸化	内外面器表荒れ。	

遺物観察表

937-8	土師器壺	1流路	-	8.2	(3.7)		底部	細砂粒を含む	にぶい黄橙	酸化	内底中央撫で、体部内面細かいハケ目、外底周縁磨減。	
937-9	土師器甕		(20.3)	-	(4.5)		口縁部片	細砂粒を含む	にぶい橙	酸化	口唇部が外側へ突出する、口縁部外面ハケ目残。	
937-10	土師器甕		-	(6.7)	(1.8)		底部	砂粒を含む	橙	酸化	内底撫で、外底無調整。	

田口下田尻遺跡1号低地

挿入番号 PL	種別形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
939-1 307	土師器高環	712	10.8	-	(6.1)		坏部	精良	赤褐	酸化	杯部内外面磨き。	
939-2	土師器高環か器台	10	-	-	-		1/2	砂粒を多く含む	にぶい橙	酸化	脚部円孔三方透かし、杯部底面と口縁部との境に段あり、杯部内外面磨き、杯部内面赤彩。	
939-3	土師器高環		-	(18.6)	(3.8)		裾部片	精良	明赤褐	酸化	脚部外面磨き、内面ハケ目状。	
939-4	土師器壺		(18.2)	-	(2.3)		口縁部片			酸化		
939-5 307	土師器壺	711-44住5・9・10・47住10・131・144土・25溝	14.7	9.5	27.3		1/2	砂粒を多く含む	明赤褐	酸化	口縁部外面にハケ目残、体部外面工具撫でか、外底非回転削り、体部やや扁平。	頸部内面接合痕
939-6	土師器甕		(13.8)	-	(3.7)		口縁部片	砂粒を含む	にぶい褐	酸化	体部外面非回転削り。	
939-7	土師器甕		(14.0)	-	(3.9)		口縁部片	砂粒を含む	明褐	酸化	口縁部内面に粗いハケ目。	
939-8	土師器甕		(15.0)	-	(6.6)		口縁～肩部片	砂粒を含む	橙	酸化	体部外面ハケ目状。	
939-9	土師器甕		(20.8)	-	(3.7)		口縁部片	砂粒を含む	橙	酸化	体部外面ハケ目状。	
939-10 307	土師器甕		(14.0)	-	(14.7)		口縁～胴部下位片	砂粒を含む	にぶい橙	酸化	体部内外面撫で、外面に煤付着。	
941-11 307	土師器甕		-	5.3	(5.6)		下半部	砂粒を含む	にぶい黄橙	酸化	内底ハケ目残、外底非回転削り。	
941-12 307	弥生土器壺	7集石	(15.8)	-	(3.3)		口縁部片		にぶい黄橙	酸化	折り返し口縁で、列点文と棒状貼付文。	
941-13 307	鉄製品釘か	643	4.6	5.0	0.4	2.5	完形				断面四角。	
941-14 307	銅製品不明		1.7	0.9	0.2	0.7					チップか、小片。	

田口下田尻遺跡6号畑

挿入番号 PL	種別形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
943-1	土師器甕		-	-	-		頸部片	砂粒を含む	黄褐	酸化	接合痕残る。	
943-2	土師器高環		-	-	-		脚部中位片	精良	赤黄褐	酸化	円孔二段透かし。	

田口下田尻遺跡7b・7c号畑

挿入番号 PL	種別形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
945-1 307	土師器甕	溝西	-	4.0	(8.6)		胴中位～底部	砂粒を含む	にぶい橙	酸化	径0.7cm単孔、体部外面下位非回転撫でか。	
945-2 307	土師器小型鉢	溝西	9.4	-	(8.4)		1/2(底部中央欠)	砂粒を含む	にぶい橙	酸化	体部外面ハケ目、内面撫で。	
945-3 307	土師器高環か	4	(12.0)	-	(3.2)		坏部片	精良	にぶい橙	酸化	器台の可能性あり、内外面磨き。	
945-4 307	土師器高環か	2	-	6.0	(5.8)		坏底～脚部	砂粒を含む	橙	酸化	器台の可能性あり、内外面磨き可能性あり、脚外面下位磨き。	
945-5 307	土師器高環	6	-	-	-		坏底～脚部下位	精良	にぶい黄橙	酸化	円孔三方透かし、脚外面磨き。	
945-6	土師器高環	溝西	-	-	-		坏底部片	砂粒を含む	橙	酸化	杯部内面磨き。	
945-7 307	土師器壺	3	(15.2)	-	(6.3)		口縁部片	砂粒を含む	にぶい黄橙	酸化	折り返し口縁、口縁部内面ハケ目。	
945-8	土師器壺	5	(12.8)	-	(4.0)		口縁部片	砂粒を含む	明赤褐	酸化	体部外面非回転撫で。	
945-9	土師器壺	溝西	(22.1)	-	(6.2)		口縁部片	砂粒を含む	橙	酸化	二段口縁、内外面器表荒れ。	
945-10	土師器甕	4, 溝西	-	6.0	(6.1)		底部	砂粒を多く含む	にぶい橙	酸化	体部外面撫で、外底磨減。	
945-11	土師器壺	溝西	-	-	-		肩部片	砂粒を含む	明褐	酸化	体部外面ハケ目、外面赤彩か。	

田口下田尻遺跡8号畑

挿入番号 PL	種別形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
945-12	土師器甕	東側部分	-	(5.3)	(2.8)		底部片	砂粒を含む	にぶい黄橙	酸化	内底撫で。	
945-13	土師器甕	東側部分	-	(5.2)	(4.2)		底部片	砂粒を含む	明赤褐	酸化	内底ハケ目残。	

田口下田尻遺跡5号畑

挿入番号 PL	種別形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
946-1	土師器埴		(9.8)	-	(3.2)		口縁部片	砂粒を含む	橙	酸化	内湾気味、器表荒れ。	
946-2	土師器甕		-	-	-		胴部片	砂粒を含む	にぶい橙	酸化	外面ハケ目。	
946-3	土師器甕		-	-	-		胴部片	砂粒を含む	黒褐	酸化	頸部直下片、外面ハケ目、内面撫で。	
946-4	土師器甕		-	-	-		胴部片	砂粒を含む	灰黄褐	酸化	外面ハケ目、小片。	



遺物観察表

946-5	土師器 甕		-	-	-		胴部片	砂粒を含む	黒褐	酸化	内面撫で	
946-6	土師器 甕		-	-	-		胴部片	砂粒を含む	明赤褐	酸化	小片	
946-7	土師器 甕		-	-	-		胴部片	砂粒を含む	明赤褐	酸化	小片	
946-8	土師器 甕		-	-	-		胴部片	砂粒を含む	褐	酸化	内面ハケ目、外面削り後ハケ目?	
946-9	土師器 甕		-	-	-		胴部片	砂粒を含む	外黒褐、内 にぶい褐	酸化	外面煤付着	
946-10	土師器 甕		-	-	-		胴部片	砂粒を含む	明赤褐	酸化	内面削り、外面ハケ目	
946-11	土師器 台付甕		-	(8.4)	(3.0)		脚部裾	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化	二次火熱	

田口下田尻遺跡土坑

挿入番号 PL	種別 器形	遺構名 注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
947-1	土師器 台付甕	237土坑	(14.0)	-	(4.4)		口縁部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化	体部外面ハケ目	
948-1	土師器 高坏	193土坑	-	(15.0)	(2.5)		裾部片	細砂粒を 含む	にぶい黄 橙	酸化	小片	
948-2	土師器 壺	193土坑 5・16	-	-	(16.6)		胴部片	砂粒を含む	にぶい赤 褐	酸化	体部外面磨き、内面撫で	最大径(18.7)
948-3	土師器 壺	193土坑 18	-	(7.7)	(1.0)		底部片	細砂粒を 含む	内灰黄 褐、外明 赤褐	酸化	内底粗い磨き	
948-4	土師器 壺	193土坑 1-6・8- 11・17	(15.5)	-	(17.5)		上半部	砂粒を含む	にぶい橙	酸化	口縁部内面磨き、体部内面撫で、器表荒れ	
948-5	土師器 壺	193土坑 13・15	-	(7.2)	(13.3)		下半部	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化	体部外面ハケ目後磨き、内面ハケ目後撫で	接合痕残
949-1	土師器 鉢	230土坑 9	(20.6)	-	(5.0)		口縁部片	細砂粒を 含む	にぶい黄 橙	酸化	体部外面非回転削り、内面磨き残	
949-2	土師器 鉢か	230土坑 10	(21.8)	-	(5.6)		口縁部片	細砂粒を 含む	にぶい橙	酸化	体部内面磨き	
949-3	土師器 器台	230土坑	(7.9)	-	(1.1)		口縁部片	細砂粒を 含む	にぶい橙	酸化	杯部、内外面磨き	
949-4	土師器 器台か	230土坑	-	(10.5)	(4.1)		脚部片	細砂粒を 含む	にぶい褐	酸化	円孔透かし2孔残	
949-5	土師器 台付甕か	230土坑 1	-	(8.7)	(5.2)		台部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化	台部直線的	
949-6	土師器 台付甕	230土坑	-	9.9	(8.2)		台部	砂粒を含む	にぶい橙	酸化	外面ハケ目、内底器表荒れ、台部端折り返し	

3面II期 田口上田尻遺跡

田口上田尻遺跡1号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
951-1	土師器 甕	6・8・12	-	4.0	(4.2)		底部	細砂粒	褐	良好	体部下端外面取り状の稜線があり、ヘラ磨き以前にヘラ削りを行っている可能性高い。底部焼成前の穿孔。	
951-2	土師器 高坏	貯蔵穴18	(14.8)	-	(3.4)		1/6	細砂粒	にぶい橙	良好	口縁部端部やや平坦。口縁部横撫で。内外面ヘラ磨き。	
951-3	土師器 高坏	3	-	(6.9)	(5.2)		脚部	細砂粒	にぶい赤 褐	良好	脚部内面横撫で。脚部中位内面ヘラ削り後撫で。裾部外面横位ヘラ磨き、脚部外面縦位ヘラ磨き。	
951-4	土師器 高坏	貯蔵穴 16・17・19	-	(14.4)	(5.7)		脚部1/2	粗砂粒・ 細砂粒	にぶい橙	やや不良	器表摩滅し調整痕不明。円窓2カ所残存し、3方と考えられる。裾部中位内湾。	
951-5	土師器 壺か	4・5	-	-	-		肩部片	礫少量・ 砂粒	にぶい黄 橙	良好	外面ハケ目(1cmあたり8)。内面撫でで接合痕明瞭に残る。	
951-6	土師器 壺か甕		-	3.6 ~3.8	(2.2)		底部	粗砂粒・ 細砂粒	にぶい橙	良好	外面ヘラ削り後撫で。内面ヘラナデ。底部外面ヘラ削り。	
951-7	土師器 甕		-	3.5	(3.4)		底部	粗砂粒少量・ 細砂粒	にぶい黄 橙	良好	器表と割れ口摩滅。	

田口上田尻遺跡7号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
952-1	土師器 器台	5	-	-	-		脚部	粗砂粒・ 細砂粒少量	明褐	良好	脚部中位やや膨らむ。円窓3カ所。坏部内外面と脚部外面ヘラ磨き。内面一部ハケ目で多くは撫で。	
952-2	土師器 高坏	4	-	-	-		脚部	細砂粒	にぶい黄 橙	良好	外面縦位ヘラ磨き。円窓3カ所。脚部内面上部に坏部挿入痕僅かに残る。	
952-3	土師器 高坏	8	-	-	-		脚部	細砂粒	にぶい黄 褐	良好	坏部内外面と脚部外面ヘラ磨き。円窓1カ所僅かに残る。脚部内面上部、坏部挿入痕明瞭に残る。	
952-4	土師器 甕	3	-	-	-		上半部片 (口唇部 欠損)	細砂粒	明褐	良好	頸部外面から体部上位ハケ目(1cmあたり5)。外面体部中位ヘラ削りとヘラナデ。口縁部横撫で。体部内面幅広のヘラナデ。頸部内面接合痕明瞭に残る。	
952-5	土師器 台付甕	6	-	(7.8)	(7.2)		台部片	礫少量・ 砂粒	橙	良好	坏部内面器表摩滅。脚部外面粗いハケ目(1cmあたり4)。裾部横撫で。内面上部、底部突起挿入痕残る。	
952-6	石製品 不明	13	8.2	7.4	4.4	281	完形	粗粒輝石 安山岩			やや扁平な円盤で、表面中央に僅かな敲打痕。	

田口上田尻遺跡10号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
954-1	土師器 甕	102	-	3.8	(3.2)		底部	細砂粒	にぶい橙	良好	外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。	
954-2	土師器 鉢か	掘り方	-	3.2	(4.0)		底部	細砂粒	にぶい黄 橙	良好	内面と体部外面密なヘラ磨き。底部外面ヘラ削り。	
954-3	土師器 器台	20	-	9.3	(6.2)		脚部	粗砂粒・ 細砂粒	にぶい橙	やや不良	器表摩滅。脚部外面砂粒の移動が認められ、ヘラナデかヘラ削りの後ヘラ磨きか。ヘラ磨き範囲や単位不明。貫通孔は撫でか。器形やや歪む。円孔3カ所すべて残存。	
954-4	土師器 器台	掘り方22	-	-	-		脚柱部	細砂粒・ 粗砂粒	にぶい橙	良好	外面撫で。裾部内面撫で。貫通孔細く長い。	

遺物観察表

955-5 308	土師器 器台	13・14・ 15	-	-	-		1/2	粗砂粒・ 細砂粒	にぶい橙	良好	口縁部外面幅狭く深いへら磨き。口縁部内面へら磨きか。単位不明稜。脚部外面へら磨き。脚部内面へら削り。裾部内面横撫で。脚部円孔90度方向に2カ所残存。	
955-6	土師器 高坏	4・16・ 17	(19.0)	-	(5.1)		口縁部小 片	細砂粒	にぶい橙	やや不良	器表摩滅著しい。口縁部直線的に開き、口径大きい。	
955-7 308	土師器 高坏	4・16・ 17	-	-	-		坏底部～ 脚上部	細砂粒	にぶい橙	やや不良	器表摩滅著しい。坏部大きく開く。坏底部外面接合痕?残存。脚部円孔2カ所残存し、配置から3カ所と考えられる。	
955-8	土師器 高坏	4・16・ 17	-	(10.8)	(3.3)		1/3	細砂粒	にぶい橙	やや不良	裾端部内面僅かに窪む。器表摩滅著しい。円孔2カ所残存し、配置から3カ所と考えられる。	
955-9	土師器 甕		(11.8)	-	(4.0)		1/6	細砂粒	灰黄褐	良好	口縁部外反し、内面下部明瞭な稜をなす。肩部内外面ハケ目(1cmあたり6)。口縁部ハケ目後横撫で。	
955-10	土師器 壺	12	-	5.0	(2.1)		底部	細砂粒	橙	良好	体部外面へらナデか。内面へらナデ。	
955-11 308	土師器 甕		-	4.9	(4.6)		底部	細砂粒	にぶい褐	良好	底部突き出し、底径小さい。外面叩き目。内面細かいハケ目(1cmあたり10)。	

田口上田尻遺跡104号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
958-1 308	土師器 壺	13・17・ 69溝2・4	12.8	-	(23.7)		1/4(底 部欠損)	細砂粒・ 粗砂粒	灰黄褐	良好	口縁部から頸部は横撫で、胴部はへら削り。内面胴部はへらナデ。	
958-2	土師器 甕	18	(11.0)	-	(8.4)		上半部片	細砂粒・ 粗砂粒	にぶい橙	良好	口縁部横撫で、胴部はハケ目(1cmあたり6)。内面は胴部がへらナデ。	北陸系 外面 ハケ目・肩部 黒色、外面胴 部ハケ目
958-3 308	土師器 甕	9・10・ 15・16・ 掘り方	-	3.8	(12.1)		1/4(口 縁部欠 損)	細砂粒・ 粗砂粒・ 礫	灰黄褐	良好	頸部は横撫で、胴部はハケ目(1cmあたり5)、底部は器面摩滅のため整形不鮮明。内面は頸部下にハケ目が残るが、胴部は器面摩滅のため整形不明。	北陸系 外面 ハケ目・肩部 黒色
958-4	土師器 甕	3・37	(16.6)	-	(5.0)		口縁部片	細砂粒	橙	良好	口縁部は横撫で、胴部はへら削り。内面胴部はへらナデ。	内面黒色
958-5	土師器 甕	12	-	3.8	(2.4)		底部	細砂粒	明黄褐	良好	底部と胴部はへら削り。内面はへらナデ。	4と同一個 体か
958-6	土師器 甕	14	-	-	(3.3)		底部	細砂粒	にぶい橙	良好	外面はへら削り、内面はへらナデ。	北陸系 外面 ハケ目・肩部 黒色、底部尖 底状で小さく 厚い

田口上田尻遺跡134号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
962-1	土師器 甕	101	-	2.1 ~ 2.5	(2.8)		底部	細砂粒	にぶい黄 橙	良好	外面へら削りかへらナデ。内面撫でで凹凸多い。孔径0.7~0.8cm。	
962-2	土師器 鉢か	132住	(12.1)	-	(5.1)		1/6	粗砂粒少 量・細砂 粒	にぶい橙	良好	体部内湾し、口縁部下で稜をなし外反した後内湾して立ち上がる。口縁部内面から、外面くびれ部直下横撫で。体部内外面撫で。	
962-3	土師器 鉢か	203、貯 蔵穴217	-	5.5	(4.6)		体部一 部、底部 完	細砂粒	灰黄～ にぶい赤 褐	良好	体部外面へらナデ。底部内面縦位、体部内面横位へら磨き。	
962-4 308	土師器 高坏	17・141、 132住	-	-	(4.8)		口縁部、 裾部欠	粗砂粒・ 細砂粒	浅黄橙	良好	器表摩滅。口縁部外反し大きく開く。口縁部横撫で。大部調整痕不明。脚部外面へらナデとハケ目(1cmあたり7)。脚部円孔3方に一部残存。	
962-5 308	土師器 高坏	201・204、 2つ213	-	-	(5.2)		坏部	粗砂粒・ 細砂粒	橙	良好	口縁部ほぼ水平に近く開く。坏底部外面は稜をなす。口縁部横撫で。体部外面へら削り。坏底部外面へら削り。坏部内面撫で。底部は脚部との接合部ではずれる。	
962-6 308	土師器 台付壺	116・109 ・39・46	-	-	-		頸部一 部～底 部2/3	細砂粒	にぶい褐	良好	頸部から体部中位外面へら磨き。体部下位外面撫で。内面口縁部から体部中位へら磨きだが、単位不明稜。底部内面強い撫で。脚部欠損。	7と同一個 体か
962-7	土師器 台付壺	61、132 住、掘り 方	-	-	-		1/3	細砂粒	にぶい褐	良好	肩は張らず、口縁部は筒状に立ち上がり、上位で外反。器表やや摩滅。高部内面から口縁部外面横撫で。外面の一部にへら磨き残る。体部外面へら磨き。体部内面へらナデ。	6と同一個 体か
962-8	土師器 壺	8	(12.9)	-	(7.9)		1/8	細砂粒	橙	やや不良	口縁部外面下位稜をなし、有段口縁状を呈する。口縁部内面へら磨き。口縁部外面摩滅により調整痕不明。体部外面へら磨き。体部内面幅広のへらナデ。	
962-9 308	土師器 壺	3・28、 130住掘 方、132住	-	-	-		1/3	細砂粒	橙	良好	頸部くびれ、口縁は直線的に開く。口縁部外面横撫で。口縁部外面体部外面と同様な工具によるへらナデ。体部外面木目状の浅い条線のあるへらナデ。肩部内面指撫で。体部内面へらナデ。	
962-10	土師器 壺	19・64・90 ・119・187、 132住	-	-	-		肩部片	細砂粒	橙	良好	内外面ハケ目の後へら磨き。内面へら磨き単位不明瞭。内面頸部付近指押しえ痕残る。	11と同一個 体か
962-11	土師器 壺	113・170、 1柱穴	-	(7.6)	(9.4)		1/2	細砂粒	橙	良好	底部外面円筒状に立ち上がる。内外面へら磨き。	10と同一個 体か
962-12 308	土師器 壺	77・79・92・96 ・97・100・102 ・112・134・146 ・161・168・178 ・192・201、2つ 1213、貯蔵 穴231、130 住120・122 ・125、掘り方、 132住	16.3	7.1	27.7		3/4	粗砂粒少 量・細砂 粒	明赤褐	良好	口縁部横撫で。体部外面上半や密なへら磨き、下半はへら削り後粗いへら磨き。体部内面中位へらナデ、下位へら磨き。底部内面周縁ハケ目(1cmあたり7~10)、底部内面撫で。	
962-13 308	土師器 壺	155・121 ・205	(12.4)	-	(13.4)		一部～ 2/3	細砂粒	にぶい黄 橙	良好	肩は張らず、口縁部は筒状に立ち上がり、上位で外反。器表やや摩滅。高部内面から口縁部外面横撫で。外面の一部にへら磨き残る。体部外面へら磨き。体部内面へらナデ。	14と同一個 体の可能性あり
962-14 308	土師器 壺	109・142・ 143・149・ 166・182・ 183・199・203	-	6.2	(14.8)		2/3	細砂粒	浅黄橙	良好	外面へら磨き。内面丁寧な撫でか。底部内面へらナデ。体部無花果形。	13と同一個 体の可能性あり
963-15 309	土師器 甕	24・115・ 209、1柱 穴、貯蔵 穴228・230	(15.2)	2.9	17.9		1/3	粗砂粒少 量・細砂 粒	にぶい赤 褐	良好	口縁部の作りはシャープ。口縁部横撫で、端部内面から外面の横撫では強く丁寧。横撫で後、体部外面ハケ目(1cmあたり7)。体部内面へらナデ。	
963-16 309	土師器 甕	12・17・35・ 52・55・63・ 69・185	(14.6)	-	(12.8)		1/3	細砂粒	にぶい赤 褐	良好	口縁端部の作りはシャープ。口縁端部付近強い横撫で、ハケ目状を呈する。口縁部横撫で。頸部外面ハケ目(1cmあたり6~8)。体部外面ハケ目に近いへらナデ。体部内面強いへらナデ。	
963-17 309	土師器 甕	98・126、 1柱穴	(11.0)	-	(7.7)		1/3	粗砂粒・ 細砂粒	にぶい橙	良好	胎土の粒子が粗めでやや軽い感があり、全体に調整が雑。口縁端部付近のみ横撫で。口縁部内面下半へらナデか。口縁部外面中位をへらナデ後、頸部のへらナデを行い、肩部外面に工具痕を残す。体部外面縦位へらナデ。	

遺物観察表

963-18 309	土師器 甕	75・78・182・ 42・44・73・ 186、2ヶツト 214、132住・ 掘り方	(12.6)	-	(15.6)		1/2	粗砂粒・ 細砂粒	にぶい黄 橙	良好	なで肩で最大径は体部中位。口縁部横撫で。体部外面上半磨くよ うなヘラナデ。体部中位横位、下位斜位ヘラ削り。肩部内面幅の 狭いヘラ状工具による抉るような撫で。体部内面撫でかヘラナデ。
963-19	土師器 甕	20・219・ 220、貯蔵 穴226・235	(15.2)	-	(7.8)		1/3	細砂粒	浅黄橙	良好	口縁部外湾し、端面面取りしたようにシャープ。口縁部上半横撫で。 内面口縁部下半から体部ヘラナデ。外面口縁部下半から体部丁寧 な撫で。
963-20 309	土師器 甕	81・94・ 97・99・ 132・150	(11.0)	-	(14.0)		1/4	粗砂粒・ 細砂粒	にぶい橙	良好	胎土の粒子が粗めでやや軽い感があり、全体に調整が雑。口縁端 部付近のみ粗く横撫で。体部外面撫で、頸部にヘラ削り痕、体 部下位にヘラナデ。体部内面ヘラナデで、一部ハケ状を呈する。
963-21	土師器 甕	29・65・ 70、1柱 穴	(17.5)	-	(7.4)		1/5	細砂粒	にぶい褐	やや不良	口縁部外反。内外面ハケ目(1cmあたり4)の後、口縁部横撫で。
963-22	土師器 甕	117	-	-	-		肩部片	細砂粒	灰黄褐～ 灰褐	良好	外面叩き目。内面撫で。
963-23	土師器 甕	28・38・83・ 88・89・96、 132住	-	-	-		体部上位 片	粗砂粒少 量・細砂 粒	橙	やや不良	外面粗いハケ目(1cmあたり5)。体部内面縦位撫で。口縁部内面 横撫で。頸部と肩部境内面に接合痕残る。
963-24	土師器 壺	167・169・ 173・175・ 179・181・ 183・195・203	-	(5.0)	(17.8)		1/4～ 1/3	粗砂粒少 量・細砂 粒	赤褐	良好	体部丸みが少なく器高高い。外面縦位ヘラ磨き。底部内面付近ヘ ラナデ。体部中位撫で。
964-25 309	土師器 壺	10・25・40・ 121、貯蔵 穴238	-	6.5	(9.2)		1/4	細砂粒	黄灰、に ぶい橙	良好	外面ヘラ磨き。内面器表剥離。底部外面モミ状圧痕あり。
964-26	土師器 甕	182・207	-	(4.1)	(7.0)		1/4	粗砂粒少 量・細砂 粒	赤褐	良好	外面ハケ目状のヘラナデ。内面細かいハケ目(1cmあたり10)。
964-27	土師器 甕		-	(6.0)	(2.3)		1/2	粗砂粒少 量・細砂 粒	にぶい黄 橙	良好	体部外面撫でか。底部外面から体部外面下端ヘラナデ。底部内面 ハケ目(1cmあたり10)。
964-28	土師器 甕	30	-	4.2	(2.8)		底部完	粗砂粒・ 細砂粒	にぶい橙	良好	体部外面ヘラナデかヘラ磨き。底部内面ハケ目(1cmあたり9)。 底部外面やや摩滅。
964-29	土師器 甕		(7.0)	-	(2.5)		1/4	粗砂粒少 量・細砂 粒	灰褐	やや不良	内外面ヘラ削り状のヘラナデ(砂粒の移動を伴うヘラナデ)。ヘラ ナデの単位不明瞭。
964-30	土師器 台付甕か	113・125・ 164・196・ 111、132住	14.7	-	(10.0)		2/3	粗砂粒・ 細砂粒	にぶい黄 橙	良好	口縁下端部が肩部内に落ち込み、口縁部変形する。口縁部横撫で。 体部外面細かいハケ目(1cmあたり13)。体部内面斜位撫でかヘラ ナデ。
964-31	土師器 台付甕か	36・144・ 155・195	-	-	-		1/3	細砂粒	にぶい黄 橙	良好	内外面ハケ目(1cmあたり8)。外面下部は横位ヘラ削り。内面下 半は器表剥離し調整痕不明。
964-32	土師器 台付甕か	171・191	-	-	-		1/4	粗砂粒・ 細砂粒	灰褐	良好	底部、台部との接合部で剥がれる。体部外面ハケ目(1cmあたり 12)で、下位はヘラ削り。体部中位内面ヘラナデで、接合痕以下ハ ケ目。
964-33 309	土師器 台付甕	76、132 住掘り方	-	8.2	(7.2)		台部	粗砂少 量・細砂 粒	橙	良好	器表摩滅し、調整痕不明。柄状接合部ではがれる。
964-34	土師器 台付甕	80・84・91・ 124・129・ 131・135・178	-	-	-		底部	細砂粒	にぶい橙	良好	外面ヘラナデ。内面ハケ目のような条線残るが、器表摩滅のため 不明瞭。台部欠損。
964-35 309	土師器 台付甕	153・160・ 180・185、 132住	-	9.2	(9.6)		底部～台 部	粗砂粒少 量・細砂 粒	にぶい橙	良好	器壁やや厚く、台部はやや内湾。体部外面ハケ状のヘラナデの 後、やや粗いヘラ磨き。台部外面ハケ状のヘラナデ。台端部付近 横撫で。体部下位接合部で欠損し、一部がいわゆる擬似口縁を呈 する。
964-36 309	土師器 台付甕	31・109 ・204	-	(10.3)	(6.9)		台部	粗砂少 量・細砂 粒	にぶい黄 橙	良好	台裾部横撫で。台部内外面撫で。外面接合部ハケ目後撫で。内面 上部ヘラナデ。底部内面ヘラナデ。
964-37 309	土師器 台付甕転用	28・32・33・ 40・43・48・ 53・56・63・ 69・137、貯 蔵穴232・ 239	-	-	-		1/2	細砂粒	にぶい赤 褐	良好	台付甕の台部欠損後に錐状工具で1カ所穿孔。内面穿孔部周囲に 薄い器表の剥離が認められ、底部外面側からの穿孔であろう。体 部外面ハケ目(1cmあたり5)。体部外面中位の一部分に波状文。体 部外面下位ヘラ磨き。内面ヘラ磨きだが単位不明瞭。

田口上田尻遺跡164号住居

挿入番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(良) cm	底径(輪) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
966-1	土師器 高環	82、掘り 方	-	(21.0)	(2.6)		1/4	細砂粒	にぶい橙	良好	器壁薄く裾部大きく開く。外面ヘラ磨き。裾部内面横撫で。内面 撫で。	
966-2 309	土師器 甕	14・1・ 25・23・ 9	13.2	-	(14.0)		2/3	粗砂粒・ 細砂粒	にぶい橙	良好	口縁部横撫で。体部外面ハケ目(1cmあたり8)。頸部内面ハケ目 後撫で。体部内面撫で。	
966-3 309	土師器 甕	27・47	(16.0)	-	(11.2)		1/3	粗砂粒少 量・細砂 粒	にぶい黄 橙	良好	器壁やや厚く、口縁部直線的に開く。口縁端面面取りし、内面は 角張る。頸部から肩部外面ハケ目(1cmあたり8)。体部外面ヘラ ナデ。体部内面撫で。	上半と下半は 接合がなく、 接合時の復元 に従っている
966-4	土師器 甕	21	(12.8)	-	(5.8)		1/8	粗砂粒・ 細砂粒	赤褐	やや不良	口縁部から体部外面器表剥離。体部外面粗いハケ目の条線部分の み残る(1cmあたり5)。体部内面ヘラナデか。	
966-5	土師器 甕	18	(14.8)	-	(5.0)		1/4	粗砂粒・ 細砂粒	にぶい橙	良好	口縁部から体部上位横撫で。体部外面撫で。体部内面強い撫で。	
966-6 309	土師器 甕	72、掘り 方	(19.0)	(2.6)	(25.8)		体部片	細砂粒	にぶい橙	良好	内外面ヘラ削りからヘラナデであるが、細い棒状具による条線が 認められる。	
966-7	土師器 甕		-	(4.2)	(1.8)		1/2	細砂粒	明赤褐	良好	体部外面ハケ目。底部内面ハケ目だが、体部下端のため不明瞭。 底部外面高台状をなし、中央窪む。	
966-8	土師器 甕	73	-	4.0	(2.0)		1/2	細砂粒	にぶい黄 橙	良好	体部外面撫で。体部内面ヘラナデ。	
966-9	土師器 甕	16、掘り 方	-	(4.4)	(4.4)		1/3	粗砂粒・ 細砂粒	にぶい橙	良好	体部下端から底部外面器表剥離。体部外面ヘラ削り。内面撫で。	
966-10	土師器 台付甕	51	-	(9.4)	(6.2)		2/3	粗砂粒・ 細砂粒	にぶい黄 橙	良好	裾部横撫で。台部内外面ヘラナデ。底部内面5cm×5cm、最大厚 0.5cmの粘土板貼り付ける。	
966-11 309	土師器 台付甕	2・3・20・ 32・60・62・ 64・66・69・ 71・79、掘 り方	(17.8)	10.2	(29.4)		口縁部 1/2、体 部一部	細砂粒	にぶい黄 橙	良好	頸部屈曲し、口縁部外反。口縁部内面から肩部外面上位横撫で。 体部外面叩き目の後、肩部外面やや粗いハケ目を施し、体部下 半の上位ヘラ削り。台部外面撫で。台裾部横撫で。台部内面ヘラ削り。 底部と台天井部は接合部で剥がれ、丸孔が開いた状態。体部内面 ヘラナデ。	

967-12	土師器 甕	72、掘り 方	-	-	-		体部片	細砂粒	にぶい橙	良好	内外面へラ削りからへラナデであるが、細い棒状具による条線が認められる。
967-13	鉄製品 槍筈	掘り方	(8.3)	1.1	0.7	9.5	1/2				断面長方形を呈する茎の一部を欠損する。刃部は断面三角形で、3.5mmほどの反りを有する。
967-14	鉄製品 不明	掘り方	(2.2)	0.8	0.6	2.1	破片				断面長方形で、両端部を欠損する。刀子の茎の可能性が有る。

田口上田尻遺跡166号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
969-1	土師器 高坏	1	-	-	-		坏部1/6、 脚部	粗砂粒・ 細砂粒	黒褐	良好	細砂粒を多く含み、砂っぽい感のある胎土。器表摩滅。坏部内外面一部にへラ磨きが残る。脚部外面へラ削りかへラナデ。脚部内面撫で。脚部円孔は3方すべて上部のみ残存。	
969-2	土師器 甕		(15.8)	-	(3.1)		1/6	粗砂粒少 量・細砂粒	にぶい橙	良好	口縁部内面へラ状工具による横撫で。口縁部外面やや雑な横撫で。	

田口上田尻遺跡31号畑

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
973-1	土師器 高坏	3	-	-	-		脚部	細砂粒	にぶい黄 橙	良好	裾部は筒状の柱部から内湾気味に開く。円孔3カ所。外面へラ磨き。脚部内面撫で。坏底部内面器表摩滅。	

3面II期 田口下田尻遺跡

田口下田尻遺跡13号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
977-1	土師器 高坏	8	(12.3)	-	(8.4)		口縁～脚 中位	細砂粒を 含む	にぶい黄 橙	酸化	杯部内外面は横位主体、脚部外面は縦位の磨き。脚部内面はハケ目と撫で。杯部との結合はほぞ充填による。	
977-2	土師器 高坏		(12.7)	-	(4.2)		口縁部片	細砂粒を 含む	にぶい橙	酸化	杯部内外面とも縦位主体の磨き。	
977-3	土師器 高坏	2・1、廃 滓場709	-	(11.4)	(11.8)		坏中位～ 裾部	砂粒を 含む	橙	酸化	杯部は直径8cmの円板を底面に、稜をもって直線的に開く。脚部は中位で屈曲して下方へ開く。全体に縦位(放射状)の磨き。脚内面は削り後裾部付近を横撫で。脚部屈曲部に3カ所の円孔を穿つ。	東海西部系有 稜高杯
977-4	土師器 器台		(8.5)	-	(1.3)		坏部口縁 部片	細砂粒を 含む	浅黄橙	酸化	受け部内面は放射状磨き、外面磨き。	
977-5	土師器 高坏		-	(12.0)	(4.2)		脚部	細砂粒を 含む	にぶい橙	酸化	中位で屈曲して下方に開く。外面はハケ目後縦位磨き、内面は上位に削り、下半は横撫で。円孔は3カ所と思われる。	
977-6	土師器 高坏		-	(11.8)	(4.1)		脚部	細砂粒を 含む	にぶい橙	酸化	外面は縦位磨き、内面は横撫で。円孔は3カ所と思われる。	肩外面の一部 に煤付着。
977-7	土師器 甕	3	(10.0)	-	(3.2)		口縁部片	細砂粒を 含む	にぶい橙	酸化	口縁内外面と体部内面は横撫で、体部外面は縦位ハケ目のち撫で。	
977-8	土師器 甕	7	(10.0)	-	(3.7)		口縁部片	細砂粒を 含む	にぶい橙	酸化	口縁内面に弱い段をもつ。内外面とも丁寧な横撫で。	
977-9	土師器 壺	14	-	(4.0)	(9.3)		胴部中位 ～底部片	白色粒を 含む	にぶい赤 褐	酸化	外面は削り後、下半は横位、中位以上は斜位の磨き。内面は底付近にハケ目を残してへラナデ。	底面摩滅。
977-10	土師器 壺	10	-	(5.0)	(2.4)		底部片	細砂粒を 含む	灰黄褐	酸化	外面は削り後磨き、内面は底部付近にハケ目を残して撫で。	底面摩滅。
977-11	土師器 台付甕	4	-	9.0	(6.2)		台部	小石含む	黒	酸化	内外面とも斜位ハケ目。底内面は同心円状ハケ目。体部結合はほぞ充填による。	東海西部系単 口縁台付甕に 類似

田口下田尻遺跡51号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
979-1	土師器 鉢か		(12.8)	-	(4.0)		口縁部片	砂粒を 含む	にぶい褐	酸化	口縁横撫で、体部外面は斜位ハケ目、体部内面は丁寧な撫で。	
979-2	土師器 有孔鉢	6	-	(6.0)	(4.2)		底部片	輝石粗砂	橙	酸化	外面縦へラナデ。内面削り後撫で。底縁辺摩滅。	孔径10mm強
979-3	土師器 高坏	7	-	-	-		脚部片	石英、白 鉱物多い	橙	酸化	外面は縦へラナデ。内面上位は絞りを残し下位は削りのち横撫で。	
979-4	土師器 壺	1	-	-	-		体部片	粗砂多い ～灰	にぶい橙	酸化	外面斜ハケ目整形後、胴部に丸棒状具による3mm幅の沈線で斜格子目文を描く。肩部には柁目板小口によると思われる目の細かい櫛目横線文を廻らす。斜格子目文は右下方斜線を左下方斜線が切る。最終段階で肩部にまばらな斜位磨きを施す。内面は横ハケ目後全面に横削り。	器形と櫛目文 の特徴から東 海西部系と思 われるが、斜 格子目文は稀 少例
979-5	土師器 甕		8.5	-	(3.5)		口縁片	粗砂多い	橙	酸化	口縁横撫で。体部内外面は削りか。	
979-6	土師器 壺	1	-	6.7	(1.9)		底部片	砂粒を 含む	にぶい黄 橙	酸化	底は粘土円板貼付成形により突出、やや不安定。内面は放射状ハケ目、外面はへラナデ。	

田口下田尻遺跡64号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
980-1	土師器 高坏	45	(17.0)	-	(3.9)		坏口縁部 片	砂粒を 含む	浅黄橙	酸化	外面は斜位ハケ目。内面は荒れて整形不明。	
980-2	土師器 高坏	20-22	(19.8)	-	(4.6)		坏口縁部 片	細砂粒を 含む	橙	酸化	口唇部に外傾する小さな平坦面。内外面とも斜位主体の丁寧な磨き。	
980-3	土師器 高坏		-	(12.8)	(4.3)		脚部中位 ～裾部	細砂粒を 含む	にぶい橙	酸化	外面縦位磨き、内面は縦位ハケ目のち撫で。	
980-4	土師器 高坏	4・9	-	13.8	(4.6)		脚部	砂粒を 含む	にぶい橙	酸化	外面縦位磨き、内面裾部横撫で。	外面に火漶状 の赤変
980-5	土師器 高坏	15・17	-	12.2	(4.6)		脚部中位 ～裾部	細砂粒を 含む	にぶい黄 橙	酸化	外面は縦位磨き、内面は上位に削り痕を残し横位へラナデ。上下2段並列で3カ所、計6孔を穿つ。	
980-6	土師器 高坏	13・15	-	17.5	(7.1)		脚部	細砂粒を 含む	にぶい黄 橙	酸化	外面は縦位放射状磨き、内面は下位にハケ目を残し、上位をへラナデ。円孔は上下2段並列3カ所に穿つ。	
980-7	土師器 壺	24	-	(7.0)	(6.0)		下半部片	砂粒を 含む	にぶい黄 橙	酸化	外面は横位磨き、内面は横位ハケ目。底面は輪状上げ底。	
980-8	土師器 甕	27	(16.4)	-	(6.4)		口縁部片	砂粒を 含む	にぶい黄 橙	酸化	口縁内外面横撫で、外面は斜位へラナデ、横位削り。内面は撫で。	
980-9	土師器 甕	9	(14.6)	-	(3.5)		口縁部片	砂粒を 含む	黒褐	酸化	口縁横撫で、肩外面は横位ハケ目、肩内面撫で。	
980-10	土師器 甕	31	(16.6)	-	(5.3)		口縁部片	砂粒を 含む	橙	酸化	口縁横撫で、体部外面は斜位へラナデ、内面は横位へラナデ。	口縁外面に吹 きこぼれ痕
980-11	土師器 甕	1・13	(14.4)	-	(8.6)		口縁部片	砂粒を 含む	にぶい橙	酸化	口縁横撫で。体部内外面とも縦位へラナデ。	



遺物観察表

982-12 310	弥生土器 壺	30	(24.0)	-	(2.6)		肩部片					折り返し口縁で波状文を施す。	波状文
982-13 310	棒状礫	40	13.8	5.4	4.2	520.7	完形	粗粒輝石 安山岩				棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
982-14	棒状礫	44	13.0	6.9	5.7	817.8	完形	粗粒輝石 安山岩				棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
982-15	棒状礫	37	14.0	7.3	5.9	742.2	完形	角閃石安 山岩				棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
982-16	棒状礫	42	19.0	9.3	5.4	1546.1	完形	石英閃緑 岩				棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
982-17 310	棒状礫	39	13.7	5.8	4.6	500.3	完形	溶結凝灰 岩				棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
982-18 310	棒状礫	35	14.3	6.1	4.7	707.7	完形	粗粒輝石 安山岩				中央部表面とくに滑らか。	
982-19	棒状礫	41	14.7	7.4	4.0	665.9	完形	粗粒輝石 安山岩				棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
982-20	棒状礫	36	14.5	6.6	4.8	712.3	完形	変質安山 岩				棒状礫で、使用痕跡は判然としない。	
982-21	棒状礫	38	14.1	7.2	6.3	9010.8	完形	溶結凝灰 岩				中央部表面とくに滑らか。	

田口下田尻遺跡104号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
983-1 310	土師器 蓋	9	-	(8.9)	(4.8)		摘み基部 と裾部片	砂粒を含む	にぶい黄 褐色	酸化	外面は粗い磨き。内面撫で。	壺とセットか
983-2 310	土師器 高坏	3・4	(18.0)	-	(4.0)		坏部片	砂粒を含む	橙	酸化	杯部内外面とも縦位の放射状磨き。杯部底外面は削り。	
983-3	土師器 高坏	13	-	-	-		脚部中位 片	砂粒を含む	にぶい黄 褐色	酸化	脚部3カ所に円孔を穿つ。脚外面は縦→横方向の磨き。内面撫で。	
983-4	土師器 甕		(13.0)	-	(1.0)		口縁部片	精良	にぶい黄 褐色	酸化	口唇部上縁に平坦面。口縁横撫で。	受け口口縁
983-5 310	土師器 高坏	2	12.1	7.8	8.6		完形	砂粒を含む	にぶい黄 褐色	酸化	口縁と杯部内面は横撫で。杯部外面は横位、脚部外面は縦位の削り。	在来弥生系 脚裾部と脚内面は横撫で。
983-6	土師器 器台	16	-	-	-		裾部片	精良	にぶい黄 褐色	酸化	凸部部の両側に斜行短線文を配し、2条平行沈線で区画する。裾 外傾には3条沈線を廻らし、ヘラ描により鋸歯文(ハ字状)を廻ら す。	北陸系有段器 台の器形に尾 張系の裝飾高 杯と同類の文 様を施文
983-7	土師器 壺	7	-	-	-		肩部片	砂粒を含む	褐色	酸化	細かく整った櫛描横線文、下位にヘラ先沈線による鋸歯文を廻らす。 鋸歯文部のみ赤彩の可能性あり。	東海西部系
983-8	土師器 壺		(13.0)	-	(2.5)		口縁部片	砂粒を含む	にぶい黄 褐色	酸化	内外面横撫で。口縁外側に小さな平坦面。	
983-9	土師器 甕		(15.3)	-	(3.3)		口縁部片	砂粒を含む	明赤褐色	酸化	体部外面縦削り。口縁内面はハケ目後撫で。体部内面撫で。	
983-10	土師器 甕		(18.6)	-	(3.2)		口縁部片	砂粒を含む	橙	酸化	内外面横撫で	
983-11 310	土師器 甕	8	(10.9)	-	(5.2)		口縁部片	白く緻密	浅黄褐色	酸化	受け口状口縁で、外面上部に浅いハケ目施文具で擬凹線を廻らす。 体部外面は浅く整った斜位ハケ目(右下方向へ)。内面は丁寧なヘ ラナデ。	北陸南西部系 に類似。胎土 も在来弥生系 と異なる。
983-12	土師器 壺	12	-	(5.4)	(2.6)		底部片	砂粒を含む	にぶい黄 褐色	酸化	体部外面削り、底内面撫で。底面削りのみ。	二次的被熱に より色変
983-13	弥生土器 壺		-	-	-		肩部片	砂粒を含む	にぶい黄 褐色	酸化	外面波状紋	樽式
983-14 310	土師器 台付甕	6	-	9.0	(4.5)		脚台部	砂粒を含む	にぶい黄 褐色	酸化	内外面とも斜位のヘラ先撫で。裾部は横撫で。	東海西部系に 類似
983-15 310	石製品 砥石		(3.4)	(2.8)	1.1	11.7	破片	砥沢石			2面使用	

田口下田尻遺跡120号住居

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
986-1 310	土師器 鉢	5	-	3.7	(2.8)		底部	細砂粒を 含む	黄褐色	酸化	外面撫で。内面は横位ハケ目。	
986-2 310	土師器 器台	14	8.8	孔径 (1.1)	(3.5)		坏~脚部 上位	細砂粒を 含む	明褐色	酸化	受け部の内外面とも横磨き、脚部外面は縦位磨き。	器面に赤彩か。 赤色顔料わず かに付着
986-3	土師器 鉢	ビット3	(10.8)	-	(5.2)		口縁部片	砂粒を含む	にぶい黄 褐色	酸化	口唇は丸縁で、口縁株が丸みを持って張り出す。口縁横撫で、体 部外面は削り、内面は板状具小口による撫で。	北陸系に形状 類似
986-4	土師器 甕		-	(4.6)	(3.5)		底部片	砂粒を含む	橙	酸化	体部外面削り後粗い縦ヘラナデ。内面は横位ヘラナデ。	全体に被熱赤 変
986-5	土師器 壺	1	-	5.0	(3.2)		底部	砂粒を含む	オリーブ 褐色	酸化	内底撫で、体部外面工具撫で、外底不明圧痕。	外底磨滅
986-6 310	土師器 台付甕	3・19	-	(6.7)	(9.5)		肩~体部	砂粒を含む	にぶい黄 褐色	酸化	体部内面工具撫で、外面磨きか。	
986-7	土師器 台付甕		-	(6.5)	(3.5)		脚部片	砂粒を含む	褐色	酸化	内外面とも細かなハケ目。体部との接合はほぞ充填による。	東海西部系
988-8 310	弥生土器 壺		-	-	-		肩部片	精良	灰白	酸化	凹線の間に連続山形文様、外面赤彩、頸部内面赤彩。	
988-9 310	弥生土器 壺		-	-	-		肩部片	細砂粒を 含む	にぶい黄 褐色	酸化	外面にハケ目、工具押捺列、外面赤彩。	

田口下田尻遺跡9号畑

挿図番号 PL	種別 器形	注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
990-1	土師器 甕	2	(13.8)	-	(6.1)		口縁~肩 部片	砂粒を含む	にぶい黄 褐色	酸化	体部外面ハケ目。	

ビット出土遺物

田口上田尻遺跡ビット

挿図番号 PL	種別 器形	遺構名 注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
991-1	銅製品 銭貨	137ビット 1	2.5	-	0.1	3.4	完形				寛永通宝。	初鋳1626

遺物観察表

991-2	銅製品 銭貨	150ピット 1	2.4	-	0.1	3.5	完形						紹聖元宝	初鑄1094
991-3	銅製品 銭貨	189ピット 1	2.5	-	0.1	2.1	完形						天聖元宝(篆)	初鑄1023
991-4	土師器 甕	194ピット	(18.8)	-	(8.4)		破片	礫少量・ 砂粒	褐	良好			口縁部横撫で。体部外面へラ削り。体部内面丁寧なヘラナデ。	5と同一個体の可能性高い
991-5 310	土師器 甕	194ピット	(19.2)	-	(11.4)		1/4	礫少量・ 砂粒	褐	良好			口縁部横撫で。体部外面へラ削り。体部内面丁寧なヘラナデ。	4と同一個体の可能性高い
991-6	在地系 銅	237ピット	-	-	-		体部下位 片	A	黒				体部外湾して開く。外面体部下位凹線状に窪む。外面体部下端型肌顕著に残る。この箇所から底部外面かけて器表にぶい褐色。色調、断面中央から黒褐、にぶい褐、黒色のサンドイッチ状。	江戸時代
991-7	土師器 高杯	245ピット	(19.6)	-	(3.1)		坏部片	細砂粒	褐	良好			口縁部横撫で。体部外面へラ削り。体部内面丁寧なヘラナデ。	
991-8 310	土師器 杯	245ピット 1	(13.4)	-	(6.2)		1/4	粗砂粒少 量・細砂 粒	褐	良好			口縁部外傾。口縁部内面から外面くびれ部直下まで横撫で。体部外面上位撫で。体部外面中位以下へラ削り。体部内面撫で後へラ磨き。	
991-9	土師器 高杯	289ピット 1	-	(16.0)	(11.4)		脚部	礫少量・ 砂粒	橙	良好			器表やや摩滅。脚部外面へラ磨き。円窓2段3方。脚部内面上部に坏部接合痕明瞭に残る。	
991-10 310	肥前陶器 陶胎染付碗	318ピット 1	10.0	4.1	6.1		口縁部 1/3欠		灰				底部周縁で屈曲し、体部から口縁部直線的に立ち上がる。外面東屋山水。高台端部を除き施釉。	18世紀前半。
991-11	瀬戸・美濃陶器 志野丸皿	336ピット	(12.2)	-	(2.4)				灰白				体部丸味を帯び、口縁部外反。高台脇削り込む。全面長石釉。粗い貫入。	大窯4後半
991-12	石製品 砥石	350ピット	(8.6)	4.0	3.8	-	1/3か	砥沢石					現存長8.8cm。右側面を水平にした場合の幅は2.7～4.1cm。同一箇所における表裏面幅の差は8mmであるが、左側面は使用されており、当初形状のいびつさを示さない。右側面は不使用で平整痕が残る。中砥、1面不使用。	幅：2.7～4.1cm、差：8mm 砥面：表裏左側面1c-1
991-13	須恵器 蓋	354ピット	(11.3)	摘径-	(2.4)		1/3	細砂粒	灰	還元炎			天井部外面右回転へラ削り後つまみ貼付。つまみ欠損。口縁部小さく湾曲する返りを有する。	
991-14	石製品 砥石	388ピット 1	(11.1)	3.4	2.6	-	2/3	砥沢石					現存長11.2cm。表裏を使用し、中央付近が厚く小口に向って薄くなる。両側面は未使用で、浅く細かい条線が残る平整痕が残る。両側面は平行ではなく、広い部分で2.6～3.3cm、狭い部分で2.5～2.1cmと均一ではなく、直方体に仕上げられていない。右側面を水平にした場合の幅は2.6～3.4cm、同一箇所での表裏面幅の差は7mm。中砥、両側面不使用。	幅：2.6～3.4cm、差：7mm 砥面：表裏1b-1、裏1dか
991-15	銅製品 銭貨	521ピット 1	2.3	-	0.1	2.1	完形						治平元宝(篆)	初鑄1064
991-16	土師器 甕	712ピット	19.0	-	(6.1)		口縁部片	細砂粒	にぶい褐	良好			脚部は貼付。胴部はへラ削り、内面はへラナデ。	
991-17	土師器 高杯	1053ピット	-	-	(4.8)		脚部(裾部欠損)	細砂粒多量	橙	良好			脚部に3か所の透孔。脚部は器面摩滅のため整形不明。内面脚部はへラナデか。	
991-18	石製品 砥石	1127ピット	(10.8)	3.2	4.2	-	2/3か	砥沢石					現存長10.8cm。左側面を水平にした場合の幅は2.8～3.2cm。同一箇所での表裏面幅の差は10mm。主要砥面は表面で、残存部中央が低く、両端が高い。低い部分のほぼ中央で若干高くなり、緩い稜をなす。全体長が不明であるが、他の砥石を参考にすると、欠損部が中央付近の可能性が高い。図示していないが、表面には左上がりの細かい斜め条線が認められる。両側面は不使用で櫛状整痕が残る。裏面も左上がりの細かい条線が認められ、表面が平滑であるが、下部に櫛状整痕が認められ、軽微な使用である。上部小口面に櫛状整痕残る。中砥、2面不使用、1面ほぼ不使用。	幅：2.8～3.2cm、差：10mm 砥面：表裏1a-3
991-19	在地系 皿	1427ピット 1・2	9.1	6.0	2.3		一部欠	A	橙				体部から口縁部直線的に開く。器壁やや厚い。底部左回転糸切無調整。やや歪む。	江戸時代
991-20	在地系 皿	1427ピット 2	9.3	5.9	2.4		完形	A	橙				体部から口縁部直線的に開く。底部器壁薄いが、体部は厚い。底部左回転糸切無調整。歪み著しい。	江戸時代

田口下田尻遺跡ピット

挿図番号 PL	種別 器形	遺構名 注記番号	口径(長) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
992-1	土師器 甕	7ピット	(22.3)	-	(6.7)		口縁部片	砂粒を含む	にぶい橙	酸化	体部外面削り。	
992-2	土師器 甕	7ピット	(11.5)	-	(7.4)		口へ肩部 片	砂粒を含む	にぶい赤 褐	酸化	外面吹きこぼれ痕か、内面黒色付着物。	
992-3 310	鉄製品 紡錘車	11ピット 1	12.8	4.8	0.6	31.9	軸あり				軸端部欠、短軸断面四角形。	
992-4	在地系 すり鉢	58ピット	-	-	-		破片	A	褐灰	還元	口縁部内面突き出る。口縁部横撫で。突出部やや摩滅。	15世紀前半
992-5	土師器 杯	62ピット	(11.8)	-	(3.5)		口縁部片	精良	明赤褐	酸化	外面器表荒れ。	
992-6	土師器 台付甕	63ピット	-	-	(3.2)		底部	砂粒を含む	にぶい黄 褐	酸化	内外面器表荒れ。	
992-7 310	銅製品 銭貨	64ピット	2.4	-	2.2		完形				元祐通宝(真)、北宋	初鑄1086
992-8	在地系 すり鉢	97ピット	-	-	-		破片	A	にぶい黄 褐	酸化	口縁部横撫で。口縁部丸く、内面突き出る。突出部やや摩滅。内面に直径2cmほどの水摩した礫の剥落痕がある。胎土中にも丸みを帯びた礫を含む。	15世紀前半
992-9	土師器 杯	99ピット	(9.9)	-	(3.0)		口縁部片	砂粒を含む	にぶい黄 褐	酸化	体部外面撫で。	
992-10	土師器 杯	119ピット	(14.8)	-	(3.4)		口縁部片	砂粒を含む	褐	酸化	外底非回転削り。	
992-11 310	鉄製品 不明	231ピット	(1.4)	0.6	0.3	0.5					断面四角、小片。	
992-12 310	土師器 杯	263ピット	(12.4)	8.3	3.3		1/4	精良	橙	酸化	外面非回転削り、黒色付着物。	
992-13	土師器 甕	309ピット	(19.0)	-	(6.5)		口縁部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化	体部外面削り。	
992-14	須恵器 杯	321ピット	-	(5.0)	(2.2)		底部片	砂粒を含む	灰黄	還元	外底非回転削り。	
992-15	土師器 杯	345ピット	(14.0)	-	-		口縁部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化	内面黒色磨き。	
992-16 310	須恵器 埴	466ピット 1	10.2	5.6	4.3		完形	白色粒子 を含む	橙	酸化気味	体部外面非回転削り・撫で、その他回転撫で。	
992-17	土師器 器台	474ピット	(8.1)	-	(3.0)		坏部	砂粒を含む	にぶい褐	酸化	杯部内面撫で。	

遺物観察表

992-18	須恵器 甕	487ピット	-	-	-		胴部片	砂粒を含む	灰白	還元	外面平行タタキ目、内面同心円当て具痕。	
992-19	土師器 壺か	525ピット	(8.8)	-	(2.8)		口縁部片	砂粒を含む	橙	酸化	内外面器表荒れ。	

遺構外

田口上田尻遺跡

挿入番号 PL	種別 器形	遺構名 注記番号	口径(径) cm	底径(幅) cm	器高(厚) cm	重さ g	残存	胎土 石材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考	
993-1 311	弥生土器 鉢	V区2面 56	11.6	4.0	5.7		1/2	細砂粒	黒褐	良好	外面全体に縦位の磨き、底部は削り。内面は口縁部が横位、体部から底部は斜めのヘラ磨き。	在来樽式系	
993-2 311	土師器 ミニチュアか支脚	8溝 15	8.6	3.7	9.3 ~ 10.0		完形	粗砂粒・ 細砂粒	褐	良好	手捏ねによる雑な作り。内外面ハケ目(1cmあたり4)。内面調整雑で接合痕明瞭。内外面に粘土の付着が認められ、支脚の可能性はある。		
993-3 311	土師器 壺	14溝 7-15	10.8	(6.0)	21.7		3/4	粗砂粒少 量・細砂粒	にぶい橙	やや不良	口縁部横撫で。頸部外面以下ハケ目(1cmあたり5)後、まばらな磨き。内面は下位にハケ目を残しヘラナデ。口縁内面は粗い磨き。		
993-4	土師器 壺	1区	-	-	-			口縁部小 片	細砂粒	にぶい橙	良好	口縁外面は薄い粘土帯付加により肥厚。口唇部に刻み。内面ハケ目後、粗い磨き。	
993-5	緑釉陶器 皿	21溝 1	(15.1)	-	(2.0)		1/10	A	灰	普通	底部から緩く内湾して広がり、口縁部は僅かに外反する。高台貼付部から剥がれる。内外面緑釉。		
993-6	緑釉陶器 碗	Ⅲ区	-	-	-			体部片	A	灰	普通	体部下位内湾し、中位は直線的に開く。内外面緑釉。	
993-7	緑釉陶器 碗	V区 10	-	(8.2)	(2.1)			底部片	A	にぶい橙	不良	胎土酸化。底部内面部分的にヘラ磨き。高台内外面に幅の狭い工具による回転撫で痕あり。	
993-8	緑釉陶器 碗か皿	53溝	-	(7.9)	(1.4)			底部片	A	灰	普通	高台「ハ」字状に開き、端部外方に広がる。貼付高台。全面緑釉施釉するが、表面は荒れてざらつく。	
993-9 311	緑釉陶器 碗	V区 12	(15.0)	-	(3.4)			口縁部片	A	灰	普通	体部内湾し、口縁端部は短く外反する。内外面緑釉。	
993-10 311	緑釉陶器 碗	V区 16	-	-	-			口縁部片	A	灰白	普通	口縁部緩く外反する。内外面緑釉。	
993-11 311	緑釉陶器 碗	18復旧痕 ピット	-	-	-			口縁部片	A	灰白	やや不良	焼き締まり弱い。口縁部僅かに内湾して開き、端部付近で器厚を増した後、端部を薄くする。内外面緑釉。	
993-12 311	緑釉陶器 碗	V区	-	-	-			口縁部片	C'	灰白	普通	胎土中に白色鉱物を多く含むせいか霜降り状に見える。口縁端部外反する。内外面緑釉。	
993-13 311	緑釉陶器 碗か	V区 4	-	-	-			口縁部片	Aか	橙	不良	胎土酸化。口縁端部僅かに外反する。内外面緑釉。	
993-14 311	緑釉陶器 碗か	V区 5	-	-	-			口縁部片	A	灰白	普通	口縁部小片。内外面緑釉。	
993-15 311	緑釉陶器 碗か皿	V区 2	-	-	-			口縁部片	Cか	灰白	普通	口縁部外反する。内外面緑釉。	
993-16 311	緑釉陶器 碗か	V区 1	-	-	-			体部片	A	灰白	普通	体部内湾する。内外面緑釉。	
993-17 311	緑釉陶器 碗	V区 14	-	-	-			体部下位 片	A	灰白	普通	体部下位は張り、外傾する体部から外反して上位は外反する。内外面緑釉。釉厚薄い。	
993-18 311	緑釉陶器 不詳	V区 3	-	-	-			破片	A	灰	普通	部位不詳。内外面緑釉。	
993-19 311	緑釉陶器 不詳	V区 15	-	-	-			体部片	C'	にぶい黄 褐から灰	普通	内外面緑釉。外面上半釉剥落。	
993-20 311	緑釉陶器 不詳	748ピット	-	-	-			小片	A	にぶい橙	普通	胎土酸化。小片のため部位不詳。内外面緑釉。	
993-21 311	緑釉陶器 不詳	V区 8	-	-	-			体部片	A	にぶい橙	不良	胎土酸化。内外面緑釉。内面の釉厚薄い。	
993-22 311	緑釉陶器 不詳	64溝 1	-	-	-			小片	A	にぶい橙 から灰	やや不良	胎土の一部酸化。小片のため部位不詳。器壁薄い。内外面緑釉。	
993-23 311	緑釉陶器 不詳	67溝	-	-	-			小片	A'	にぶい橙	不良	胎土酸化。小片のため部位不詳。内外面緑釉。	
993-24 311	緑釉陶器 不詳	V区 13	-	-	-			体部片	Aか	灰白	やや不良	胎土は淡黄色味を帯び、酸化気味。内外面緑釉。	
993-25 311	緑釉陶器 不詳	V区	-	-	-			小片	A	灰	普通	上部で外反し始めており、口縁部下小片の可能性はある。内外面緑釉。	
993-26 311	緑釉陶器 不詳	V区 9	-	-	-			小片	A	灰白	普通	小片のため部位不詳。内外面緑釉。	
993-27 311	緑釉陶器 不詳	V区 7	-	-	-			小片	A	灰	普通	碗か皿の体部片か。内外面緑釉。	
993-28 311	緑釉陶器 不詳	4低地	-	-	-			小片	Aか	灰白	普通	細片のため部位不詳。内外面緑釉。	
993-29 311	緑釉陶器 碗	69溝 1	-	-	-			底部片	A	灰白	やや不良	焼き締まりやや弱い。底部中央の小片。内外面緑釉。	
993-30 311	緑釉陶器 不詳	V区 11	-	-	-			底部片	A	灰白	普通	底部中央に向かい緩く窪む。碗か皿の底部か。内外面緑釉。	
993-31 311	緑釉陶器 不詳	28復旧痕 B	-	-	-			底部片か	A'	灰	普通	碗か皿の底部片か。内外面緑釉。釉厚薄い。胎土中に白色粘土縞が入る。	
993-32 311	緑釉陶器 碗	15復旧痕 G1	-	(7.9)	(2.2)		1/3	C'	灰白から 灰	ふつつ		高台外面外方に広がり、内面側端部窪む。底部内面と体部外面へラ磨き。底部内面周縁に浅い圏線1条廻る。貼付高台。	
993-33 311	緑釉陶器 碗か皿	52溝	-	-	-			口縁部片	A	淡赤橙か ら褐灰	やや不良	胎土部分的に酸化状態。口縁部小さく外湾する。内外面緑釉。	
993-34 311	緑釉陶器 碗か	27復旧痕 N	-	-	-			口縁部片	A	灰	普通	口縁端部片。湾曲が不均一で、残存部に輪花となっている可能性が高い。内外面緑釉。	
993-35 311	緑釉陶器 不詳	53溝	-	-	-			小片	A	灰	普通	小片のため部位不詳。内外面緑釉。	
993-36 311	緑釉陶器 不詳	15復旧痕 F	-	-	-			小片	Aか	にぶい橙	不良	小片のため部位不詳。胎土酸化。内外面緑釉。	
993-37 311	緑釉陶器 不詳	20復旧痕 A	-	-	-			小片	Aか	灰	普通	小片のため部位不詳。内外面緑釉。	
993-38 311	緑釉陶器 皿	-	-	-	-			体部小片	A	にぶい橙	不良	胎土は酸化状態。内外面緑釉。	
993-39	土製品 土錘	19畑1面	(3.0)	1.3	孔径 0.2	5.7	2/3	夾雑物無	にぶい橙	良好	表面は撫で。穿孔は径2mm。		
994-41	石製品 火打石	1面	2.1	1.8	0.8	3.0	完形	玉髓			最も薄く、鋭利な箇所には微細な階段状剥離のような使用痕が残る。使用痕長は1.2cm。		

遺物観察表

994-46 311	石製品 石皿	I区積 21	(18.2)	25.0	8.6	4050.0	1/2								擦面は平滑化している。	
995-52 311	石製品 模造品	Ⅵ区	3.6	2.4	0.6	7.0	ほぼ完形	滑石							不整楕円形に整形し、周囲と表裏を粗く研磨する。側面には整形時の剥離面が残る。穿孔と貫通しない孔が各1カ所認められる。	
995-53 311	石製品 模造品	Ⅲ区	2.6	0.6	0.5	1.4	完形	蛇紋岩							表面の磨きはやや粗い	
995-54 311	石製品 白玉か	V区 1	-	1.6	0.5	1.0	一部欠	滑石							円盤状に整形し、中央に穿孔する。周縁は面取り状に磨いて円形に近く仕上げる。裏面は剥がれている可能性がある。	
995-55	土製品 紡錘車	64溝	4.1	(2.0)	1.8	(16.9)	1/2	細砂粒・粗砂粒	にぶい黄 橙	良好				表裏、側面とも撫で。	孔径0.8cm	
挿入番号 PL	器種	形態・素材	遺構名	出土 位置	長 cm	幅 cm	重さ g	石 材	製作・使用状況							
994-40 311	石核	幅広剥片	48号溝	-	2.5	2.8	5.2	黒曜石	裏面側で剥離後したのち、背面側で小型剥片を剥離。							
994-42 311	加工痕ある剥片	横長剥片	19号畠	2	8.3	3.1	33.2	黒色頁岩	完成状態。素材を横位に用い、両側縁を加工。属性的には小型の打製石斧に近い。							
994-43 311	打製石斧	分銅型	1号土塁	-	9.5	7.6	237.6	珪質頁岩	完成状態。上下両端とも刃部再生が著しい。捲縛痕は不明瞭で、「挟り」も新鮮に見える。装着部を刃部再生と伴い移動させている可能性も想定しておきたい。							
994-44 311	磨製石斧	定角式	Ⅱ区		(9.5)	5.7	189.9	不明	刃部裏面側を大きく破損。エッジは摩耗しており、破損後も使用。表裏面とも被熱剥離。							
994-45 311	石鎌	幅広剥片	1号石積み	39	(12.0)	8.1	269.4	灰色安山 岩	完成状態。表裏面・側縁とも摩耗。裏面側の剥離は刃部再生に伴う剥離。上半部を欠損。							
994-47 311	石鎌	横長剥片	7号復旧痕下	-	16.5	10.0	272.7	灰色安山 岩	完成状態。薄手で加工状態は粗い。刃部表裏面・左右両側縁は著しく摩耗。装着痕は見られない。							
994-48 311	石鎌	横長剥片	8号復旧痕		18.9	10.4	605.9	ホルン フェルス	左側縁に礫面を大きく残す。風化して摩耗痕等の確認は難しいが、エッジは概してシャープ。未使用？							
995-49 311	石鎌?	幅広剥片	40号住	P-1	(9.8)	(7.0)	163.6	黒色頁岩	完成状態。欠損部は開き気味で、これより本体部分が接続するように見える。裏面側上部に顕著な摩耗痕。							
995-50 311	石鎌	横長剥片	V区	3	17.5	11.0	641.9	黒色頁岩	左側縁装着部は潰れ。概してエッジは新鮮で、摩耗痕等は見られない。左辺側に刃部が偏る。未使用？							
995-51 311	石鎌	幅広剥片	48号溝	-	11.0	8.1	258.6	黒色頁岩	完成状態。ローリングして摩耗痕等は不明。刃部再生。							

田口下田尻遺跡

挿入番号 PL	種別 器形	遺構名 注記番号	口径 cm	底径 cm	器高 cm	重さ g	残存	胎土 石 材	色調	焼成	成整形の特徴等	備考
996-59 312	弥生土器 甕	1低地2面	(12.0)	-	(8.6)		口～肩部 片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化	口縁折り返しで、口縁から頸部に乱れた櫛描波状文4条を廻らす。内面は横位磨き。	後期樽式
996-60 312	弥生土器 壺	I区Ⅵ層	-	-	-		頸部片	石英多い 粗砂	外面にぶ い橙、内 面橙	酸化	頸部に8分割前後の3連止め櫛状文、肩に2条(以上)の櫛描横線文を廻らす。施文具は8歯、幅15mmの櫛状具。口頸部の外面は縦磨き、内面横磨き。肩内面は撫で。	後期樽式
996-61	土師器 壺	13復旧痕	-	-	-		肩部片	軽石、輝 石の粗砂	にぶい橙	酸化	櫛描による横線と波状文の交互施文を廻らす。施文具は11歯、幅21mmの櫛状具Ⅱ種(楯目板小口とおもわれる)。	東海西部系
996-62	弥生土器 甕	Ⅱ区2面 Ⅵ層	-	-	-		口縁部片	軽石、輝 石の粗砂	灰黄褐	酸化	口縁部折り返しで口唇、口縁外面及び肩に縄文(LR)を廻らす。頸部はヘラ先による粗い横撫で。内面は横磨き。	中期後半か
996-63 312	弥生土器 甕	12復旧痕 E	-	-	-		体部片	石英細礫	にぶい黄 橙	酸化	3帯(以上)の縄文(LR)を横位施文。内面は撫で。	中期後半か
996-64	土師器 壺	Ⅱ区2面 Ⅵ層	-	-	-		肩部片	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化	頸部に断面三角凸帯。肩に櫛描横線文と波形の大きい櫛描波状文を廻らす。施文具は11歯、幅16mmの櫛状具Ⅱ種。	東海西部系
996-65	土師器 壺	I区3面 1+2	(16.0)	-	(6.1)		口縁部片	細砂粒を 含む	にぶい橙	酸化	口縁外面肥厚で擬凹線、内面にわずかな凸帯を廻らせ櫛歯による羽状刺突を廻らす。肩部に櫛描横線文。口頸内面に赤彩。	濃尾系パレス スタイル壺
996-66	土師器 甕	Ⅱ区2面	(11.7)	-	(3.9)		口縁部片	細砂粒を 含む	赤褐	酸化	口唇外面に縦位の刻み列を廻らす。口頸部外面は縦ハケ目、内面は撫で。	南関東系
996-67 312	土師器 埴	1低地 104	7.6	4.6	8.8		完形	細砂粒を 含む	橙	酸化	口縁部内彎気味、体部外面は板小口による撫で。内面撫で。	
996-68 312	土師器 埴	1低地	(10.8)	3.8	5.2		1/2	精良	橙	酸化	内外面ともに横位ないし斜位の磨き。	後期樽式系
996-69 312	土師器 埴	1低地 706	(9.8)	3.8	6.8		1/2	精良	にぶい黄 橙	酸化	安定した平底で、体部外面は縦位、他は横位主体の磨き。	
996-70 312	土師器 器台	1低地 702	(7.8)	(10.0)	(9.8)		1/2	砂粒を含む	にぶい橙	酸化	脚部上位に3カ所の円孔を穿つ。受け部内面及び外面全体に磨き。脚内面はヘラナデ。	
996-71 312	土師器 高杯	1低地 709	(14.9)	(11.5)	14.8		1/2	細砂粒を 含む	にぶい赤 褐	酸化	杯部内面は放射状磨き、外面全体にヘラナデのち粗い縦位磨き。脚内面は横ハケ目のまま。杯底の段は削り出し。	元屋敷型高杯 の模倣か
996-72 312	土師器 甕	1低地Ⅵ 層	(9.0)	4.0	13.04		ほぼ完形	細砂粒を 含む	灰黄	酸化	口縁は屈曲気味に立ち上がる。外面は粗目のハケ目を斜位に施し、内面は横位ハケ目の後横磨き。底面はやや上げ底気味。	千種甕の影響 を受けた在来 品か
996-73 312	弥生系 壺	1低地 610 ・612・617- 621735-050	-	5.4	(17.5)		頸～底部	砂粒含む	褐	酸化	頸部太く、下膨れの胴部突出する底部が特徴。頸部は縦、胴部は横の磨き。胴下位～底は削り。内面は頸部にハケ目を残す磨き、胴部はヘラナデ。底面は摩滅。	古墳前期の無 文となる箱清 水式系壺に類 似
997-74 312	土師器 S字台付甕	1低地 624 ・633・635	14.8	8.5	23.3		ほぼ完形	砂粒を含む	にぶい黄 橙	酸化	口縁上段がやや長く外反、口唇は丸く肥厚。体部最大径はやや上位にある。頸～肩は左下方、体部中位以下は左上方へのハケ目。頸から肩に横位ハケ目を廻らす。内面ヘラナデ。	在地産
997-75 312	土師器 甕	1低地 631	(19.7)	5.0	21.4		ほぼ完形	砂粒含む	にぶい黄 橙	酸化	口唇部に弱い面取り、口縁横撫で。体部外面は削り後縦位のまばらな磨き。内面はヘラナデ。底面は削り痕残す。	千種甕の影響 か模倣
997-76 312	土師器 鉢	44溝 15	12.3	4.0	6.9		ほぼ完形	砂粒を含む	赤褐	酸化	口縁横撫で。体部外面は不定方向の削り、内面撫で。底面は中央のややくぼむ平底。	
997-77 312	埴輪 円筒	4溝	-	-	厚2.0		基底部片	砂粒を含む	にぶい橙	酸化	外面縦ハケ目	
997-78	埴輪 円筒	2復旧痕	-	-	-		突帯部分	白色粒子 を含む	にぶい黄 橙	酸化	外面縦ハケ目	
997-79 312	土製品 土鍾	Ⅲ区2面 6	5.4	1.7	1.6	12.0	ほぼ完形	精良	にぶい黄 橙	酸化	断面は円形で、平面形は両端を落とした紡錘形を呈し、一端を欠損する。	孔径0.6cm
997-80 312	土製品 土鍾	I区 16	4.7	2.1	1.7	15.1	完形	細砂粒を 含む	にぶい黄 橙	酸化	断面は不整楕円形で、平面形は両端を落とした紡錘形を呈する。	孔径0.5cm
997-81 312	土製品 土鍾	Ⅲ区2面 7	(4.5)	1.5	1.4	8.8	3/4	精良	にぶい橙	酸化	平面形は両端を落とした紡錘形を呈し、一端を欠損する。	孔径0.5cm
997-82 312	土製品 土鍾	Ⅲ区1面	4.0	1.2	1.2	5.8	1/2	精良	にぶい橙	酸化	断面は円形で、棒状の平面形を呈する。	孔径0.5cm
997-83 312	土製品 土鍾	Ⅲ区2面 6	(3.5)	1.6	1.3	6.4	3/4	細砂粒を 含む	にぶい橙	酸化	断面は楕円形で、両端を落とした紡錘形の平面形で、一端を欠損する。	孔径0.4cm



遺物観察表

997-84 312	土製品 土鍾	I区15	3.8	1.9	1.2	6.2	ほぼ完形	細砂粒を 含む	灰黄褐	酸化	断面は楕円形で、両端を落とした紡錘形の平面形を呈する。	孔径0.4cm
997-85 312	土製品 土鍾	I区14	3.4	1.7	1.7	8.9	ほぼ完形	細砂粒を 含む	黒褐	酸化	断面は円形で、平面形は両端を落とした紡錘形を呈する。	孔径0.4cm
997-86 312	土製品 土鍾	Ⅲ区2面 5	2.8	1.4	1.3	5.0	完形	精良	にぶい橙	酸化	断面は楕円形で、両端を落とした紡錘形の平面形を呈する。	孔径0.4cm
997-87 312	緑釉陶器 不詳	I区2面	-	-	-		体部片	A	灰白	普通	内外面緑釉。	
997-88 312	緑釉陶器 壺	I区2面	-	-	-		体部片	A	にぶい橙	普通	胎土は酸化。内外面緑釉。内面上半の釉斑状に白濁する。	
997-89 312	緑釉陶器 壺	I区	-	-	-		口縁部片	A	黄灰	普通	口縁部僅かに外反。内外面緑釉。釉厚やや薄く、緑色が薄い。	
997-90 312	緑釉陶器 壺	I区 7	-	-	-		口縁部片	A	灰	普通	口縁部外反。口縁部下の湾曲がきつづく、小型品の可能性高い。内外面緑釉。	
997-91 312	緑釉陶器 壺	I区 2	-	(6.4)	(2.0)		底部片	A	にぶい橙 から明褐 灰	やや不良	底部付近の胎土酸化。高台端部僅かに窪み、内面小さく面取り。内面と高台端部の釉擦れる。	
997-92 312	緑釉陶器 壺	I区 4	-	-	-		高台部片	A	灰	普通	高台端部窪む。貼り付け部から剥落。高台外面から端部緑釉。残存部高台内側無釉。釉調は濃い。	
997-93 312	緑釉陶器 不詳	I区 7	-	-	-		体部片	A	灰	普通	内外面緑釉。釉の発色は良好。	
997-94 312	緑釉陶器 壺か	I区・II 区2面	-	-	-		体部片	A	灰	不良	内外面緑釉。部分的に釉白濁。内外面器表のヒビ部分(釉下)に白土撫で付け痕あり。釉調や表面の白土の特徴から512図-27と同一個体の可能性あり。	
997-95 312	緑釉陶器 壺	I区 34	-	-	-		口縁部片	A	灰	普通	口縁部僅かに外反。内外面緑釉。釉厚やや薄く、緑色が薄い。	
997-96 312	緑釉陶器 壺か皿	I区	-	-	-		底部片	C	灰	普通	高台器壁薄い。内外面緑釉。内面と高台内トチン痕各1カ所。	
997-97 312	緑釉陶器 壺	46土坑 1	(14.8)	-	(3.1)		口縁部片	Aか	灰白	普通	器壁やや厚い。内湾する体部から緩やかに外反する口縁部に至る。口縁部小さく外反する。内外面緑釉。	
997-98 312	緑釉陶器 皿か	46土坑 3	-	-	-		口縁部片	A	灰白から にぶい橙	やや不良	器壁薄く、口縁部ゆるく内湾する。内外面緑釉。端部外面釉剥落、内面は斑状に剥落。	
997-99 312	緑釉陶器 壺	46土坑 4	-	-	-		口縁部片	A	灰白	普通	口縁部外反。内外面緑釉。釉厚は薄く、内面は特に薄い。口縁部部の胎土中に厚さ1mm、長さ5mmの白土粒含む。	
997-100 312	緑釉陶器 壺	46土坑 5	-	-	-		口縁部片	A	灰白	普通	内湾する体部から、口縁部は小さく外反する。内外面緑釉。内面の釉厚薄く、部分的に剥落する。	
997-101 312	緑釉陶器 壺	46土坑 17	-	-	-		口縁部片	A'	灰	普通	口縁部器壁薄く、小さく外反する。内外面緑釉。胎土灰白色の縞あり。	
997-102 312	緑釉陶器 壺	46土坑 17	-	-	-		体部下位 片	A	灰	普通	体部下位内湾。内外面緑釉。内面の釉部分的に剥落する。	
997-103 312	緑釉陶器 壺か皿	79土坑	-	-	-		口縁部片	A	灰	普通	口縁部小さく外反。内外面緑釉。	
997-104 312	緑釉陶器 壺	52土坑	-	-	-		体部片	A	灰白	やや不良	胎土焼き締まり弱い。体部下位内湾し、口縁部外反する。内外面緑釉。緑釉厚薄く、部分的に剥落する。	
997-105 312	緑釉陶器 壺か皿	52土坑	-	-	-		体部片	A	にぶい橙	不良	胎土酸化。残存部内湾。内外面の緑釉厚薄い。	
997-106 312	緑釉陶器 壺	52土坑 1	-	-	-		体部下位 片	A'	灰	普通	高台胎部片。内面の釉部分的に剥落。内外面緑釉。胎土灰白色の縞あり。	
997-107 312	緑釉陶器 壺か皿	212土坑	-	-	-		口縁部片	A	灰白	普通	器壁薄く、端部内面肥厚して丸くおさめる。	
997-108 312	緑釉陶器 皿か	4溝	-	-	-		口縁部片	A	灰	普通	端部欠損。内面内湾し、端部付近小さく外反。内外面緑釉。釉厚やや薄い。	
997-109 312	緑釉陶器 皿か	4溝	-	-	-		体部片	A	灰白	普通	内外面緑釉。外面回転ヘラ削り。	
997-110 312	緑釉陶器 壺か皿	2集石 1	-	-	-		底部片	B	黄灰、部 分的にに ぶい橙	普通	内面陰刻文。やや軟質で緑釉は黄緑がかる。内外面施釉。	
997-111 312	緑釉陶器 壺	231土坑 1	13.7	7.6	4.1	2/3	A	灰白から 淡黄	やや不良	胎土部分的に酸化状態。体部下位は張らず、外面中位は稜をなす。口縁部水平に開く。内面底部周縁屈曲し、圏線状をなす。貼付高台。高台内接地部間隔3.3cmの三又トチン痕。全面緑釉。		
997-112 313	緑釉陶器 皿	18溝	-	-	-		体部片	A	灰	普通	内外面緑釉。外面轆轤目明瞭。	
997-113 313	緑釉陶器 壺か皿	18溝	-	-	-		体部片	A	黄灰	普通	胎土は酸化。内外面緑釉。	
998-114 313	須臾器 甕	Ⅲ区1-3 面・50溝 2・3・5・ 7・9・11 (55.7)	頸部径 (25.0) 最大径 (55.7)	-	-		口縁部欠 片	白色粒子 を含む	灰	還元	丸底、体部中位やや上に最大径がある。軽接合痕残、体部外面撫で、内面無紋当て具痕。	歪みあり
998-119 313	石製品 模造品	1低地	5.1	2.2	1.3	13.3	略完	滑石			剣形、孔径0.2cm。	
998-120 313	石製品 模造品	44溝	(2.3)	1.1	0.2	0.7	1/2	蛇紋岩			両面に擦痕あり、鏡形か。	
998-121 313	土製品 紡錘車	Ⅲ区2面	(2.1)	4.0	1.6	15.0	1/2	精良	にぶい黄 橙	酸化	孔径0.8cm。	
998-122 313	鉄製品 火打ち金	I区	1.9	5.3	0.2	2.2					三角形の板状、1孔。	
挿入番号 PL	器種	形態・素材	遺構名	出土 位置	長 cm	幅 cm	重さ g	石材	製作・使用状況			
998-115 313	削器	幅広剥片	Ⅳ区	-	10.0	13.1	617.1	細粒輝石 安山岩	表裏面とも端部側の加工量が多い。背面側上端・裏面端部の粗い加工部に摩擦痕。			
998-116 313	石鎌?	幅広剥片	I区		(9.8)	(7.5)	266.8	細粒輝石 安山岩	完成状態?上端側のエッジは潰れ、刃部としての機能は見込めない。			
998-117 313	加工痕ある剥片	幅広剥片	Ⅳ区	-	7.4	(9.0)	158.9	細粒輝石 安山岩	打面側の表裏面を粗く加工する。対辺は未加工だが、加工・石材観は石鎌に近い。			
998-118 313	石鎌	幅広剥片	13復旧痕	-	20.0	10.3	693.6	細粒輝石 安山岩	完成状態。装着部は上端付近に作出、頭部は膨らむ。刃部摩擦・捲縛痕あり。右側縁が直線的で、刃部再生の影響を受けている。			

第53表 遺物集計表

1面I期 田口上田尻遺跡

遺構名		陶磁器	在地系土器	金属製品	石製品	その他
1号復旧痕	掲載	4	1	3		
	未掲載	2	3			252
2号復旧痕	掲載		1	4		
	未掲載	17	3		1	79
3号復旧痕	掲載		1		1	
	未掲載	19	1			16
4号復旧痕	掲載		3		2	
	未掲載	17	3		6	75
5号復旧痕	掲載					
	未掲載				2	6
6号復旧痕	掲載					
	未掲載	1				16
7号復旧痕	掲載				1	
	未掲載					37
8号復旧痕	掲載	1	1			
	未掲載	11	5	1	11	197
9号復旧痕	掲載	9		1	1	
	未掲載	29	6	2	14	228
10号復旧痕	掲載	3			1	
	未掲載	8	1		13	123
11号復旧痕	掲載	3	1		7	
	未掲載	3	4		2	4
12号復旧痕	掲載	9	1	1	1	
	未掲載	19	10	1	31	217
13号復旧痕	掲載	8	3	3	3	
	未掲載	22	24		13	791
14号復旧痕	掲載					
	未掲載					27
15号復旧痕	掲載	5	3	3		
	未掲載	24	16		12	779
16号復旧痕	掲載					
	未掲載	1				7
17号復旧痕	掲載					
	未掲載	1			4	229
18号復旧痕	掲載	1		2		
	未掲載	15	68		19	923
19号復旧痕	掲載				1	
	未掲載		2	1	6	471
20号復旧痕	掲載			3		
	未掲載	24	14	1	29	1508
21号復旧痕	掲載					
	未掲載	15	1		3	447
23号復旧痕	掲載	5				
	未掲載	9	2		5	295
24号復旧痕	掲載					
	未掲載					1
25号復旧痕	掲載					
	未掲載	6	1		1	30
26号復旧痕	掲載					
	未掲載	1				1
27号復旧痕	掲載	3		1		
	未掲載	7	4		3	187
28号復旧痕	掲載	1		3		
	未掲載	6	2		3	716
29号復旧痕	掲載					
	未掲載					13
30号復旧痕	掲載					
	未掲載		1			6

1面I期 田口下田尻遺跡

遺構名		陶磁器	在地系土器	金属製品	石製品	その他
1号復旧痕	掲載					1
	未掲載	2				
2号復旧痕	掲載			1		
	未掲載	3	1	1		47
3号復旧痕	掲載					
	未掲載	5				26
4号復旧痕	掲載				1	
	未掲載				1	60
5号復旧痕	掲載			1		
	未掲載					12
6号復旧痕	掲載			3		
	未掲載	5				445
7号復旧痕	掲載	1		2		
	未掲載	3				118

8号復旧痕	掲載			1		
	未掲載					117
9号復旧痕	掲載		1			
	未掲載		9			290
10号復旧痕	掲載					
	未掲載		3			46
11号復旧痕	掲載					
	未掲載		1			27
12号復旧痕	掲載					
	未掲載					21
13号復旧痕	掲載		1	2	1	
	未掲載		3	1	1	57
14号復旧痕	掲載					
	未掲載					139
15号復旧痕	掲載					
	未掲載					95
17号復旧痕	掲載					
	未掲載					51
18号復旧痕	掲載					
	未掲載					2
19号復旧痕	掲載					
	未掲載					7
20号復旧痕	掲載					
	未掲載		5	1		15
21号復旧痕	掲載					
	未掲載		1			8
23号復旧痕	掲載					
	未掲載					25
24号復旧痕	掲載					
	未掲載					1
25号復旧痕	掲載					
	未掲載		4			10
26号復旧痕	掲載					
	未掲載		1			
28号復旧痕	掲載					
	未掲載		1			18

1面II期 田口上田尻遺跡

遺構名		陶磁器	在地系土器	金属製品	石製品	その他
1号建物	掲載	13	3	36	8	2
	未掲載	61	28	17	15	576
2号建物	掲載	1			1	
	未掲載					
1号井戸	掲載	2			2	
	未掲載					
48a号溝	掲載	20	2	1	10	
	未掲載			5		50
49号溝	掲載		1			
	未掲載	3	8		4	21
50号溝	掲載	11	5		1	2
	未掲載	18	23	2	10	30
1号土塁	掲載	25	8	1	4	
	未掲載	43	28	3	15	147
1号畑	掲載		2			
	未掲載	1				
11号畑	掲載	1				
	未掲載	5	2		1	63
13号畑	掲載	8	2	1	5	
	未掲載	64	36	4		180
14号畑	掲載			1		
	未掲載	10	8		2	17
16号畑	掲載		1			
	未掲載	9	12		12	3
30号畑	掲載			1		
	未掲載					1
墓地	掲載			12	1	
	未掲載			2	1	3
281号土坑	掲載			22		1
	未掲載				2	1
4号配石	掲載				1	
	未掲載			1		

1面II期 田口下田尻遺跡

遺構名		陶磁器	在地系土器	金属製品	石製品	その他
1b号道	掲載	2		1	1	
	未掲載	4	1			31

1面III期 田口上田尻遺跡

遺構名		陶磁器	在地系土器	金属製品	石製品	その他
8号溝	掲載	4	21	10	51	1
	未掲載	6	54		103	3489
11号溝	掲載		1	2	1	
	未掲載					37
21号溝	掲載	6		3	2	
	未掲載	10	12	1	6	227
22号溝	掲載	2			5	
	未掲載	6	7		1	92
25号溝	掲載	2	2	1	1	
	未掲載	1	7		5	334
28号溝	掲載		1			
	未掲載				2	
29号溝	掲載		3		1	
	未掲載					95
31号溝	掲載	6	1		1	
	未掲載	5	2	1	1	54
47号溝	掲載	2				
	未掲載	3				2
33号溝	掲載				1	
	未掲載				1	
34号溝	掲載	5	2		3	
	未掲載	40	13		3	52
35号溝	掲載				1	
	未掲載	2			1	1
36号溝	掲載		1			
	未掲載				2	5
40号溝	掲載		2		1	
	未掲載	2			2	25
42号溝	掲載		1		1	
	未掲載		1			1
43号溝	掲載	1				
	未掲載	7				10
46号溝	掲載	1				
	未掲載		1			4
48b号溝	掲載	192	70	4	42	
	未掲載	447	514		59	1058
58号溝	掲載		2			
	未掲載	1	3		1	30
57号溝	掲載	39	7	1	3	1
	未掲載	119	85	3	10	148
60号溝	掲載	2	1			1
	未掲載	6	5			138
67号溝	掲載	2			1	
	未掲載		2			41
78号溝	掲載		1			
	未掲載	2			1	500
1号低地	掲載	1				
	未掲載		2		1	109
2号低地	掲載	6	4		1	
	未掲載	14	24		5	227
1号道	掲載			1		
	未掲載	6	2	1		394
18号畑	掲載	6			1	
	未掲載	18	16		5	547
19号畑	掲載				1	
	未掲載	2	3	1	7	33
20号畑	掲載				1	
	未掲載	5	2			78
6号集石	掲載	8	2	4	1	2
	未掲載					
土坑	掲載	15	3	5	5	
	未掲載	1027	25	8	30	29

1面III期 田口下田尻遺跡

遺構名		陶磁器	在地系土器	金属製品	石製品	その他
48号溝	掲載				1	
	未掲載	2				381
49号溝	掲載					1
	未掲載					116
1c号道・4号溝	掲載	7	1	10	3	
	未掲載	7	2			56
204号土坑(墓坑)	掲載	5		4	1	2
	未掲載	3	2	1		79

遺物集計表

212号土坑 (墓坑)	掲載	1			2	
	未掲載					21
土坑	掲載		1		3	
	未掲載		2			12

2面Ⅰ期 田口上田尻遺跡

遺構名		陶磁器	在地系土器	金属製品	石製品	その他
3号溝	掲載	1			1	
	未掲載				7	46
4号溝	掲載	1			2	93
	未掲載	1	5			
14号溝	掲載	2			2	3
	未掲載	5			17	1874
37号溝	掲載	1	4		6	
	未掲載	1	6		5	320
53号溝	掲載	1	8	1	3	
	未掲載	3	23		9	750
54号溝	掲載	2	2	1		
	未掲載	4	3		2	221
55号溝	掲載					1
	未掲載	9	3		3	111
62号溝	掲載	1	1			
	未掲載	2	1		1	271
70号溝	掲載		3			
	未掲載		3			21
213号土坑 (墓坑)	掲載			6		
	未掲載					5
283号土坑 (墓坑)	掲載			3		
	未掲載	1		3		9
338号土坑 (墓坑)	掲載			6		
	未掲載					12
4号集石	掲載		6		4	
	未掲載	1	37	1	1	114
5号集石	掲載				1	
	未掲載					154
土坑	掲載	3	3			
	未掲載	543	10	1	2	14

2面Ⅰ期 田口下田尻遺跡

遺構名		陶磁器	在地系土器	金属製品	石製品	その他
21号溝	掲載				1	
	未掲載					33
37号溝	掲載			1		
	未掲載	1				395
202号土坑 (墓坑)	掲載			17		
	未掲載					23
206号土坑 (墓坑)	掲載			6		
	未掲載					13
227号土坑 (墓坑)	掲載			2		
	未掲載					30
1号集石F	掲載				1	
	未掲載	4			2	7
1号集石G	掲載				2	
	未掲載	2	3			
3号集石	掲載				1	
	未掲載	7				
土坑	掲載	1	2	8	7	
	未掲載	2	7		7	1042

2面Ⅱ期 田口上田尻遺跡

遺構名		土師器	須恵器	施釉陶器	金属製品	石製品	その他
2号住居	掲載	1	8				
	未掲載	190	86	2		2	
3号住居	掲載	1	13	3			
	未掲載	600	96			5	6
5号住居	掲載		4				
	未掲載	75	33				5
8号住居	掲載	18	5			1	
	未掲載	1133	109	30		30	
11号住居	掲載	5			1		
	未掲載	153	3			19	
16号住居	掲載	19	1				
	未掲載	636	1			12	1
17号住居	掲載	4					
	未掲載	59				5	
20号住居	掲載	1	2				
	未掲載	76	8	1		1	
25号住居	掲載	7					
	未掲載	48	1	1	1	1	

29号住居	掲載	1	4				
	未掲載	20	4	2		1	
31号住居	掲載	2	2			1	
	未掲載	16	4				
34号住居	掲載	8					
	未掲載	56					2
37号住居	掲載		1				
	未掲載	31	18			2	
41号住居	掲載	8	1				
	未掲載	373	13			10	2
42号住居	掲載		2				1
	未掲載	99	6				
46号住居	掲載	2					
	未掲載	160		1		2	
48号住居	掲載		6	1			
	未掲載	20	17	4		1	
52号住居	掲載	3	3				
	未掲載	95	3			4	2
53号住居	掲載	2					
	未掲載	31	4				
56号住居	掲載	9					
	未掲載	162	8	2			
60号住居	掲載	2	1				
	未掲載	168	4			1	6
61号住居	掲載	4	3				
	未掲載	498	15			10	3
62号住居	掲載		7				
	未掲載	467	71	6		4	1
63号住居	掲載	6	2				
	未掲載	451	9	1		2	1
64号住居	掲載	4	2	1			
	未掲載	293	9			9	1
66号住居	掲載	3	2		1		
	未掲載	217	25				2
67号住居	掲載		1				
	未掲載	39	10				
68号住居	掲載	5					
	未掲載	40	1				
69号住居	掲載		11	3			
	未掲載	276	112	2		1	2
71号住居	掲載						1
	未掲載	41					1
72号住居	掲載	3	4	1	1		
	未掲載	781	33				
73号住居	掲載	1	3				
	未掲載	195	9	2		1	
74号住居	掲載	2	11	2		1	
	未掲載	244	69	6		3	
75号住居	掲載	2	1				
	未掲載	131					
76号住居	掲載	4	1			1	
	未掲載	203	15	1	2	1	4
77号住居	掲載	2					
	未掲載	44	1	1			
78号住居	掲載	3		1			
	未掲載	171	13				
79号住居	掲載		5	5			1
	未掲載	82	50	5		1	3
80号住居	掲載	3	5				
	未掲載	256	53	2		2	3
82号住居	掲載		2	2			
	未掲載	117	32			1	
83号住居	掲載	4	2				
	未掲載	97	2			1	2
84号住居	掲載	9	5			3	1
	未掲載	476	18				5
86号住居	掲載		5	1			
	未掲載	129	37	2			1
90号住居	掲載	1		1			
	未掲載	48	1	2			
87号住居	掲載	1					
	未掲載	1					
88号住居	掲載	9	5				
	未掲載	687	28			1	4
92号住居	掲載	6		1			
	未掲載	79	11				
94号住居	掲載		2				
	未掲載	35	4				2
97号住居	掲載	1	1				
	未掲載	45	2				1
98号住居	掲載	10					
	未掲載	58	3			1	
101号住居	掲載	4		1			
	未掲載	34	12				

103号住居	掲載	5					
	未掲載	40			2		
105号住居	掲載		7	4			
	未掲載	176	40	6			2
109号住居	掲載		1				
	未掲載						
110号住居	掲載	6					
	未掲載	213	1	2			
112号住居	掲載	1					
	未掲載	43	4	2		1	
115号住居	掲載		2				
	未掲載	16	3				
116号住居	掲載	8	6			1	
	未掲載	480	24				4
117号住居	掲載	23	3			1	
	未掲載	616	12				3
118号住居	掲載	2	1			1	13
	未掲載	379	14	4		285	6
119号住居	掲載	3	2				
	未掲載	305	23				2
120号住居	掲載	2	16	5	5	2	
	未掲載	277	87	13		1	1
121号住居	掲載	1					
	未掲載	80	3				1
125号住居	掲載	2	2	1	1		
	未掲載	24	17	4	3		
127号住居	掲載	1	5				1
	未掲載	287	43				1
128号住居	掲載		3				
	未掲載	98	28	3		1	
130号住居	掲載	16	7				
	未掲載	211	62			3	26
131号住居	掲載	5	2	1			
	未掲載	118	6	1			
132号住居	掲載	11					3
	未掲載	365	34				19
135号住居	掲載	3	4	1	1		
	未掲載	82	32	8		1	
136号住居	掲載			2			
	未掲載	25	15				
137号住居	掲載	1	1				
	未掲載	25	2				
139号住居	掲載	4	3				
	未掲載	258	49			1	1
141号住居	掲載		9	1			
	未掲載	172	49	10		1	
142号住居	掲載		4	2			
	未掲載	144	32	5			
143号住居	掲載	1	8	2			3
	未掲載	196	95	10			
144号住居	掲載		1	2			
	未掲載	103	14	2			
147号住居	掲載	2					

遺物集計表

179号住居	掲載	1	1						
	未掲載	31	4						
180号住居	掲載		2						
	未掲載	8	1						
71号溝	掲載				1				
	未掲載	3							
81号溝	掲載		3						
	未掲載	79	27	1					
土坑	掲載	6	14	12					
	未掲載	1439	167	35	25	36	12		

2面Ⅱ期 田口下田尻遺跡

遺構名		土師器	須恵器	施釉陶器	金属製品	石製品	その他
1号住居	掲載	3	22		3		
	未掲載	433	193	33			
2号住居	掲載	5	4		2	31	
	未掲載	177	10			6	
3号住居	掲載	5					
	未掲載	177	19	5		2	
4号住居	掲載	1				3	
	未掲載	70	8				
5号住居	掲載	4	1		1	17	5
	未掲載	449	36	4			2
7号住居	掲載		1				
	未掲載	14					
8号住居	掲載	4	5	1			
	未掲載	167	51	3			
9号住居	掲載				1		
	未掲載	111	68	12			
10号住居	掲載	9	2	2	8	10	
	未掲載	479	54	11	1		5
11号住居	掲載		37	9	6		
	未掲載	89	328	40			
12号住居	掲載		29	8	3		
	未掲載	107	485	30			
14号住居	掲載		2	2			
	未掲載		14				
15号住居	掲載	6					
	未掲載	122		2	1		
16号住居	掲載	11			4	18	1
	未掲載	507	6			1	
17号住居	掲載	33	3		2	36	
	未掲載	729	8				
18号住居	掲載	4					
	未掲載	125	4				
19号住居	掲載	1	7		1		
	未掲載	58	53	4			
20号住居	掲載	2	10				
	未掲載	54	69	7		1	
22号住居	掲載		23	6			
	未掲載	41	160	3			1
23号住居	掲載		8	2			
	未掲載	39	273	22			
24号住居	掲載		16	4	3		
	未掲載	204	109	31			
25号住居	掲載		4	5	4		
	未掲載			5			
26号住居	掲載	9	6		3		
	未掲載	260	11				1
28号住居	掲載	4	5	1			
	未掲載	147	43	2			
29号住居	掲載	3	13			1	
	未掲載	152	83	4			
30号住居	掲載	1	1				
	未掲載	35					
31号住居	掲載		3				
	未掲載	4	3				
33号住居	掲載	3	7				
	未掲載	169	17				
35号住居	掲載	21	4		1	2	
	未掲載	541	20				
36号住居	掲載	6				12	1
	未掲載	199	10			1	
37号住居	掲載	3	17	1			
	未掲載	227	164	5			
38号住居	掲載	11	2			1	
	未掲載	263	159	7			
39号住居	掲載	18	2			2	
	未掲載	415	18	2			
50号住居	掲載	3	2		1		
	未掲載	74	8	2			
41号住居	掲載	2					
	未掲載	154	3				

43号住居	掲載	4	6				
	未掲載	67	12	2			
44号住居	掲載		15	1	2		1
	未掲載	210	102	1			
45号住居	掲載	1	15	3	3	3	10
	未掲載	225	47				2
47号住居	掲載		13	4			
	未掲載	340	203	37			
48号住居	掲載	1	21	1			
	未掲載	132	43				
49号住居	掲載		1				
	未掲載	26	8				
52号住居	掲載		7		1		
	未掲載	38	29	4			
53号住居	掲載	1				3	
	未掲載						
54号住居	掲載		1		2		
	未掲載	5	1				
55号住居	掲載		7		2		
	未掲載	26	38	6			
56号住居	掲載	3					
	未掲載	329	47	5			
57号住居	掲載	5	10				
	未掲載	3	2	10			1
58号住居	掲載	2					
	未掲載	14	3				
59号住居	掲載	21	26	8	2		
	未掲載	863	121	31			
60号住居	掲載	18	1		7	14	7
	未掲載	751	5			1	6
61号住居	掲載	6					4
	未掲載	300	4				
62号住居	掲載	1	1	1	2	1	
	未掲載						2
63号住居	掲載	9	7				
	未掲載	448	42	1			
68号住居	掲載	1	2				1
	未掲載	22					
70号住居	掲載	8	1	2			1
	未掲載	201	39	10			
74号住居	掲載						
	未掲載	46	193				
75号住居	掲載	17					
	未掲載	265	8	1			
77号住居	掲載		23	1	4		
	未掲載	101	132	2			4
78号住居	掲載		3	1		1	
	未掲載	103	66	7			
79号住居	掲載	2				1	
	未掲載	87	4				
80号住居	掲載		12		5		
	未掲載	84	89	1			
81号住居	掲載		21		3		
	未掲載	234	145	8			
82号住居	掲載	1	14	6	6		
	未掲載	477	274	41			4
83号住居	掲載	4	10	3	4		
	未掲載	342	82	1			
84号住居	掲載	3	17	4	2		
	未掲載	334	15	12			4
85a号住居	掲載	2	7	2	1		
	未掲載	172	60	12			
86号住居	掲載		3	1			
	未掲載	31	41	2			
87号住居	掲載	1	5		1		
	未掲載	190	49	15			
88号住居	掲載		8	2			
	未掲載	199	94	7			
89号住居	掲載	1	2				2
	未掲載	7	7	2			
90号住居	掲載	1	8	1	7		
	未掲載	428	61	3			
91号住居	掲載		8				
	未掲載	238	61	4			
92号住居	掲載	2	6	1	1		
	未掲載	381	61	6			1
93号住居	掲載	12	12		4	1	
	未掲載	1067	124	2			7
94号住居	掲載	3	2	3	1		
	未掲載	72	9	6			1
95号住居	掲載	2	5				
	未掲載	26	19	2			
96号住居	掲載	2	9			1	
	未掲載	151	84	1			

97号住居	掲載		10	2	1		
	未掲載	71	148	12			1
98号住居	掲載	2	8	6			
	未掲載	479	122	17			1
99号住居	掲載	5			3	15	
	未掲載	151		3		3	
100号住居	掲載		8				
	未掲載	37	21	2			
101号住居	掲載	1				1	
	未掲載	7	16	2			
102号住居	掲載	6	8		3		
	未掲載	491	81	10		1	11
103号住居	掲載	10	6	1			
	未掲載	196	130	7			
108号住居	掲載	1	1	2			
	未掲載	62	26	2			
109号住居	掲載	1					
	未掲載	4	1				
110号住居	掲載		10				
	未掲載	33	33	2			2
111号住居	掲載	7					
	未掲載	101					1
112号住居	掲載		9	2	2	1	
	未掲載	25	20	2			4
126号住居	掲載	1					
	未掲載	34	3				
128号住居	掲載	10	11	2	2		
	未掲載	440	87	19			
129号住居	掲載	21	1	1			
	未掲載	392	215	19			
130号住居	掲載		13		1		
	未掲載	215	117	19			
136号住居	掲載	2		2			
	未掲載	80	18	4			1
131号住居	掲載	1	4				
	未掲載	248	46	2			
132号住居	掲載	5	4				
	未掲載	213	8				
133号住居	掲載	3					
	未掲載	23	1				



遺物集計表

3面Ⅰ期 田口上田尻遺跡

遺構名		土 師 器	弥 生 土 器	金 属 製 品	石 製 品	そ の 他
4号住居	掲載	7				
	未掲載	700	3		6	19
6号住居	掲載	5				1
	未掲載	250	11		5	11
9号住居	掲載	25			2	
	未掲載	970	2		49	3
13号住居	掲載	5				
	未掲載	216			27	1
14号住居	掲載	18			1	2
	未掲載	330	2		16	5
15号住居	掲載	4				
	未掲載	77	1		7	1
18号住居	掲載	8				
	未掲載	349	2		2	1
24号住居	掲載	2				
	未掲載	32	5			
28号住居	掲載	23				
	未掲載	328	17		6	
32号住居	掲載	9				
	未掲載	117			3	4
33号住居	掲載	30			16	
	未掲載	676	1		35	2
36号住居	掲載	3				
	未掲載	168			10	4
38号住居	掲載	4			1	
	未掲載	62			9	2
39号住居	掲載	5				
	未掲載	33	1		1	3
40号住居	掲載	12			1	
	未掲載	435	3		8	1
43号住居	掲載	26			3	
	未掲載	883			9	8
44号住居	掲載	3				
	未掲載	75			1	
45号住居	掲載	7				
	未掲載	170	2		4	4
47号住居	掲載	4			1	
	未掲載	262				2
49号住居	掲載	6				
	未掲載	29	1		10	2
55号住居	掲載	5		1		
	未掲載	1				
54号住居	掲載	6				
	未掲載	137			16	
57号住居	掲載	1				
	未掲載	19			1	1
58号住居	掲載	20				
	未掲載	67			1	
81号住居	掲載	5				
	未掲載	20	4			
89号住居	掲載	11				
	未掲載	94	1		4	
91号住居	掲載	25				
	未掲載	375			3	2
93号住居	掲載	8		1		
	未掲載	143	1		2	5
96号住居	掲載	3				
	未掲載	47	1			3
100号住居	掲載	11				
	未掲載	96				2
106号住居	掲載	6				
	未掲載	51			1	3
108号住居	掲載	2				
	未掲載	22				
114号住居	掲載	1				
	未掲載	27				
122号住居	掲載	6		1		
	未掲載	263			10	8
123号住居	掲載	3				
	未掲載	39				
129号住居	掲載	3				
	未掲載	14			1	
133号住居	掲載	8			1	
	未掲載	104				1
140号住居	掲載	2				
	未掲載	20	1		1	2
149号住居	掲載	7				
	未掲載	75				2
151号住居	掲載	3				
	未掲載	49				1

155号住居	掲載	2				
	未掲載	44			1	2
159号住居	掲載	10				
	未掲載	120	2			
163号住居	掲載	1				
	未掲載	86	6			
165号住居	掲載	12				
	未掲載	234				
171号住居	掲載	17				
	未掲載	374	2			1
173号住居	掲載	3			1	
	未掲載	59			3	
174号住居	掲載	2				
	未掲載	14				
177号住居	掲載	5				
	未掲載	208	2		3	12
土坑	掲載	4				
	未掲載	79			1	2

3面Ⅰ期 田口下田尻遺跡

遺構名		土 師 器	弥 生 土 器	金 属 製 品	石 製 品	そ の 他
6号住居	掲載	11		1	5	
	未掲載	199				17
21号住居	掲載	16			1	
	未掲載	281	2			3
32号住居	掲載	5				
	未掲載	54				1
42号住居	掲載	2				
	未掲載	33				2
65号住居	掲載	5				
	未掲載	171	1			
66号住居	掲載	23				1
	未掲載	493				
67号住居	掲載	24	2			
	未掲載	45				
69号住居	掲載	5				
	未掲載	112	1			
71号住居	掲載	31				
	未掲載	626	2			6
72号住居	掲載	2				
	未掲載	25				1
73号住居	掲載	9				
	未掲載	81				1
76号住居	掲載	3				
	未掲載	43				1
105号住居	掲載	19				
	未掲載	299				5
107号住居	掲載	3				
	未掲載	69		1		4
117号住居	掲載	1				
	未掲載	85				
116号住居	掲載	9	1			
	未掲載	228	2			2
119号住居	掲載	13	3	1		
	未掲載	244				1
121号住居	掲載	8	1			
	未掲載	206				
122号住居	掲載	6				
	未掲載	61				14
125号住居	掲載	5				
	未掲載	38				2
127号住居	掲載	1	1			
	未掲載	15				
139号住居	掲載	1				
	未掲載	3				
30号溝	掲載	10				
	未掲載	72				5
1号低地	掲載	11	1	2		
	未掲載	50		1	1	29
6号畑	掲載	2				
	未掲載					
7b・7c号畑	掲載	11				
	未掲載	9				1
8号畑	掲載	2				
	未掲載	45				4
5号畑	掲載	11				
	未掲載	7				
土坑	掲載	12				
	未掲載	203				7

3面Ⅱ期 田口上田尻遺跡

遺構名		土 師 器	弥 生 土 器	金 属 製 品	石 製 品	そ の 他
1号住居	掲載	7				
	未掲載	138	7		8	19
7号住居	掲載	5				1
	未掲載	313	1		7	1
10号住居	掲載	11				
	未掲載	149	1		6	
104号住居	掲載	6				
	未掲載	103	1		8	6
134号住居	掲載	37				
	未掲載	274	17	1		30
164号住居	掲載	12		2		
	未掲載	408	7	2	3	9
166号住居	掲載	2				
	未掲載	20	1			
31号畑	掲載	1				
	未掲載					6

3面Ⅱ期 田口下田尻遺跡

遺構名		土 師 器	弥 生 土 器	金 属 製 品	石 製 品	そ の 他
13号住居	掲載	11				
	未掲載	176				20
51号住居	掲載	6				
	未掲載	170				8
64号住居	掲載	11	1			9
	未掲載	482	5	1		12
104号住居	掲載	13	1		1	
	未掲載	81				
120号住居	掲載	7	2			
	未掲載	391	4			6
9号畑	掲載	1				
	未掲載	68				

田口上田尻遺跡

遺構名		土 師 器	須 恵 器	金 属 製 品	石 製 品	陶 磁 器	そ の 他
ピット	掲載	7	1	4	2	2	3
	未掲載	772	126	3	1	11	7

田口下田尻遺跡

遺構名		土 師 器	須 恵 器	金 属 製 品	石 製 品	陶 磁 器	そ の 他
ピット	掲載	11	3	3			2
	未掲載	309	37		6	8	14

田口上田尻遺跡

遺構名		土 師 器	須 恵 器	施 釉 陶 器	金 属 製 品	石 製 品	そ の 他
遺構外	掲載	4		34		16	3
	未掲載	15169	1878	796	46	413	598

田口下田尻遺跡

遺構名		土 師 器	須 恵 器	施 釉 陶 器	金 属 製 品	石 製 品	そ の 他
遺構外	掲載	14	1	27	1	6	15
	未掲載	21267	4449	817	23	5	160

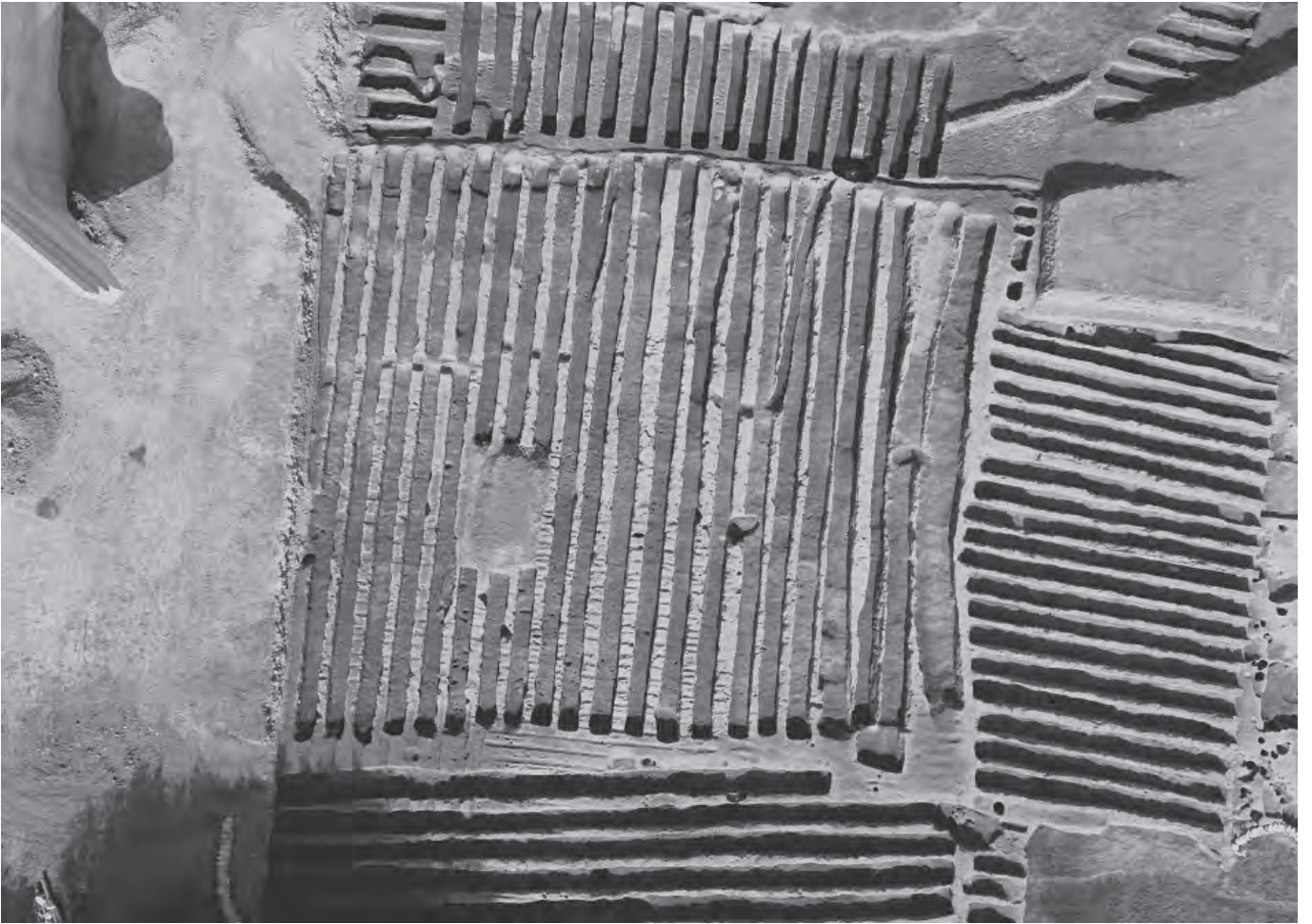
# 写真図版



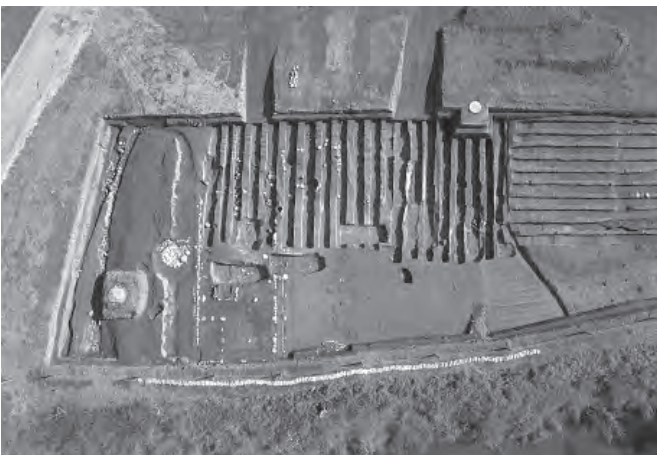
1面I期  
田口上田尻遺跡  
復旧痕



I・Ⅲ区復旧痕 全景 空撮



Ⅵ区復旧痕 全景 空撮

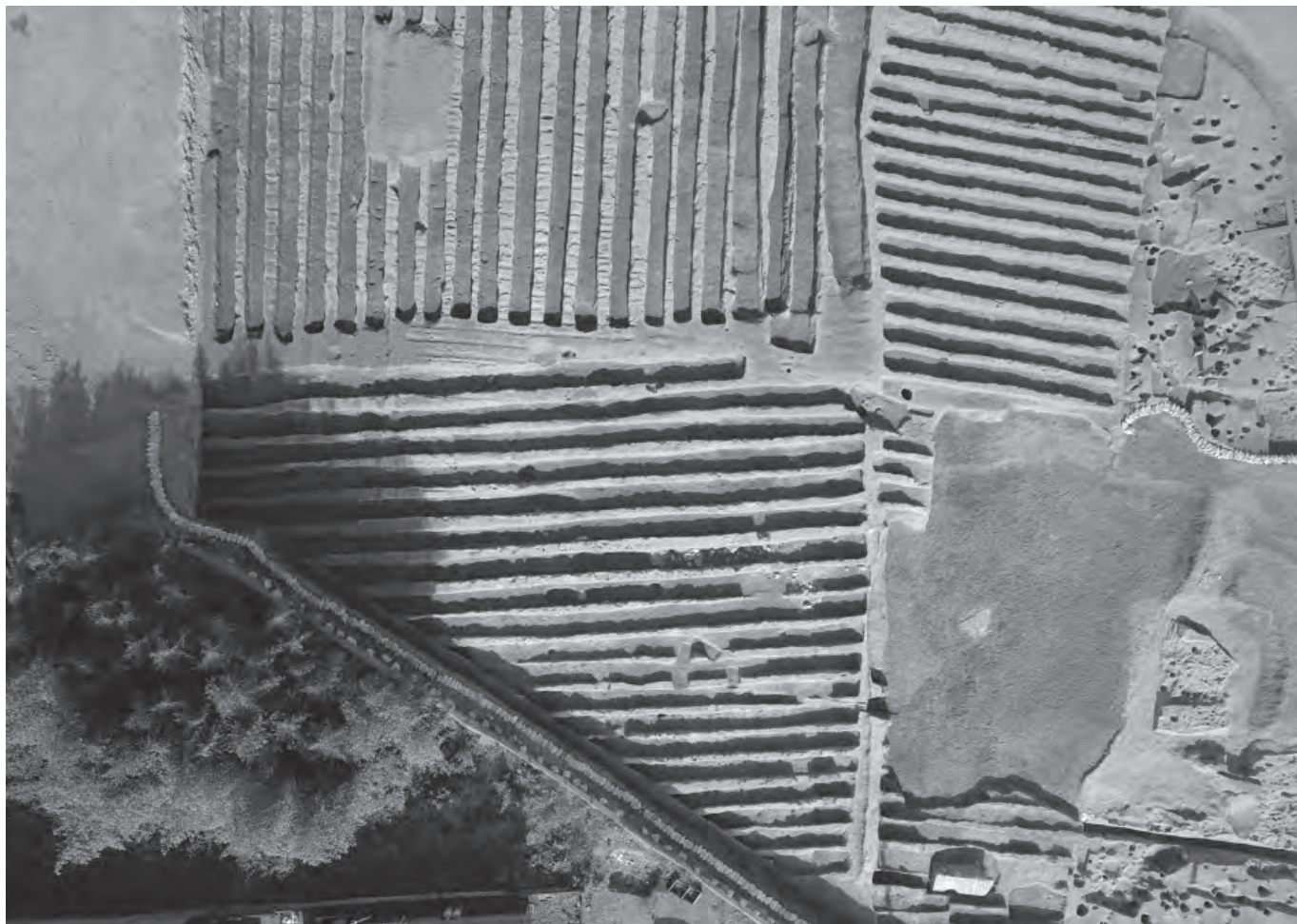


Ⅳ区復旧痕 全景 空撮



Ⅴ区復旧痕 全景 空撮





VI区復旧痕 全景 空撮



V区復旧痕 全景 空撮





3・4号復旧痕 全景 西から



3号復旧痕 全景 東から



2号復旧痕 全景 東から



1号復旧痕 全景 北から



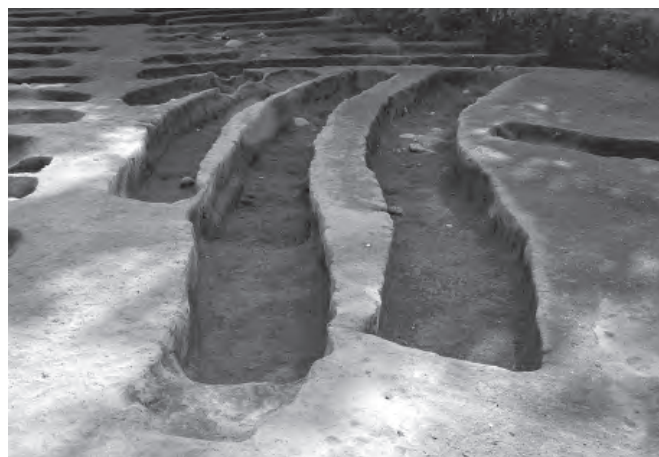
1号復旧痕 土層断面 東から



3号復旧痕 全景 南から



6・8号復旧痕 全景 西から



6号復旧痕 全景 北から



# PL.4



7号復旧痕 全景 北から



7号復旧痕 土層断面 東から



9号復旧痕 全景 北から



9・10号復旧痕 全景 東から



9号復旧痕 土層断面 東から



9号復旧痕 土層断面 東から



10号復旧痕 全景 北から



10号復旧痕 全景 北西から





10号復旧痕 土層断面 東から



10号復旧痕 土層断面 東から



10号復旧痕 土層断面 東から



10号復旧痕 遺物出土状態



12号復旧痕 全景 西から



12号復旧痕 土層断面 東から



13号復旧痕 全景 北から



13・22号復旧痕 全景 北東から





13・22号復旧痕 全景 北西から



13号復旧痕 全景 東から



13号復旧痕 全景 東から



13号復旧痕 全景 西から



13号復旧痕 土層断面



16・17号復旧痕 全景 北から



16・17号復旧痕 全景 南から



18号復旧痕 全景 東から





19号復旧痕 全景 西から



20号復旧痕 全景 西から



21号復旧痕 検出状況 南から



21号復旧痕 全景 北から



22号復旧痕 全景 南西から



22号復旧痕 全景 東から



23・24号復旧痕 全景 東から



24号復旧痕 全景 北から





25号復旧痕 全景 東から



26号復旧痕 全景 東から



27号復旧痕 全景 西から



27号復旧痕 工具痕



28号復旧痕 全景 西から

1面I期  
田口上田尻遺跡  
溝・土坑



5号溝 土層断面 西から



146号土坑 土層断面 西から



1面I期  
田口下田尻遺跡  
復旧痕



II区北側復旧痕 全景 空撮



II区復旧痕 全景 空撮



IV区復旧痕 全景 空撮

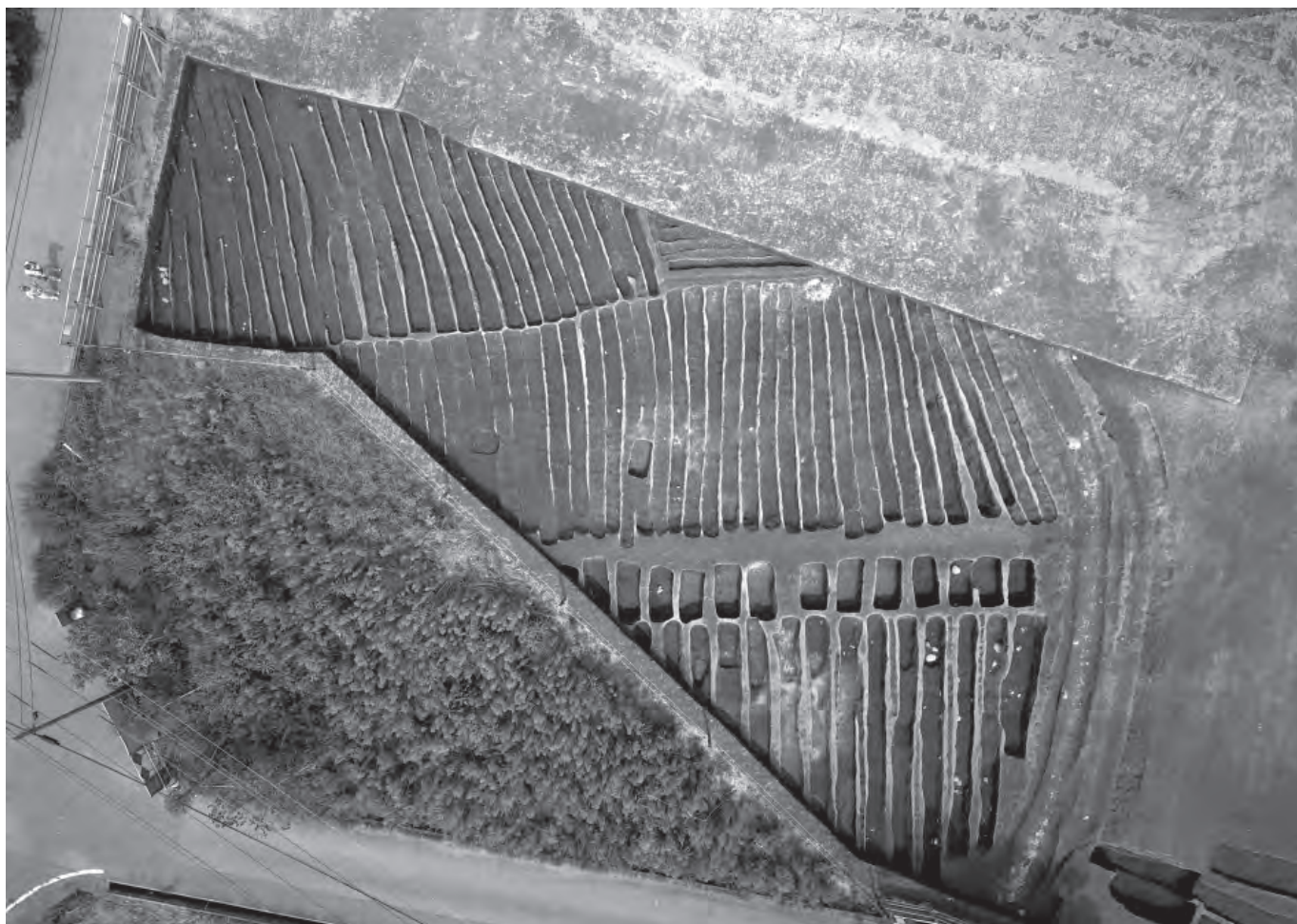


I区北側復旧痕 全景 空撮





I区北側復旧痕 全景 空撮



I区南側復旧痕 全景 空撮





1・2号復旧痕 全景 南から



1号復旧痕 土層断面 西から



3号復旧痕 全景 東から



3号復旧痕 土層断面 東から



4号復旧痕 全景 西から



4号復旧痕 土層断面 西から



3・4号復旧痕 全景 東から

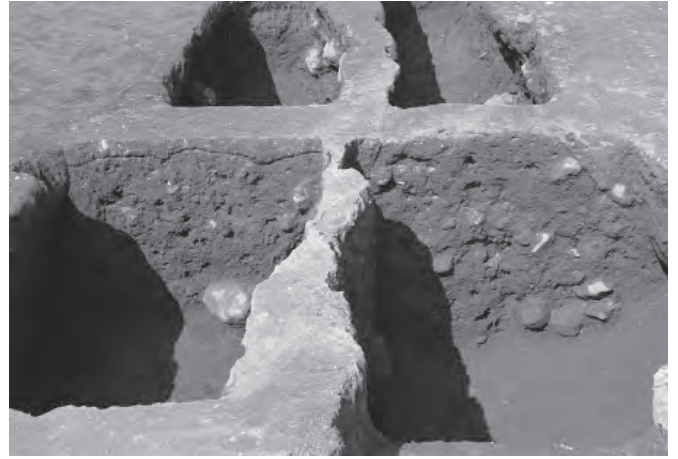


4号復旧痕 土層断面 西から





5号復旧痕 全景 西から



5号復旧痕 土層断面 東から



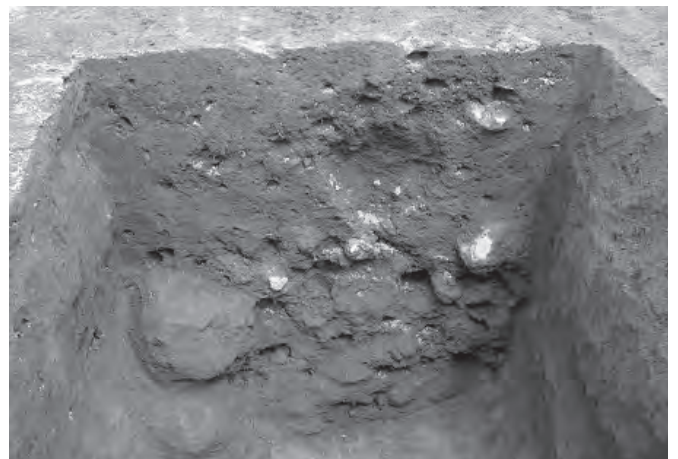
6～8号復旧痕 全景 南から



6号復旧痕 土層断面 北から



6～8号復旧痕 全景 西から



7号復旧痕 土層断面 南から

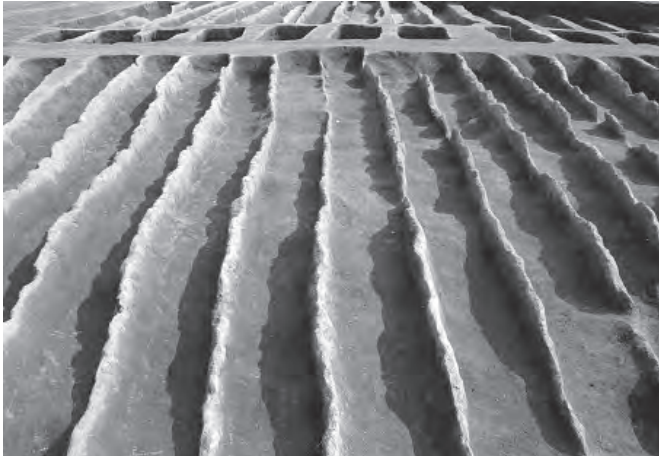


8号復旧痕 全景 北西から

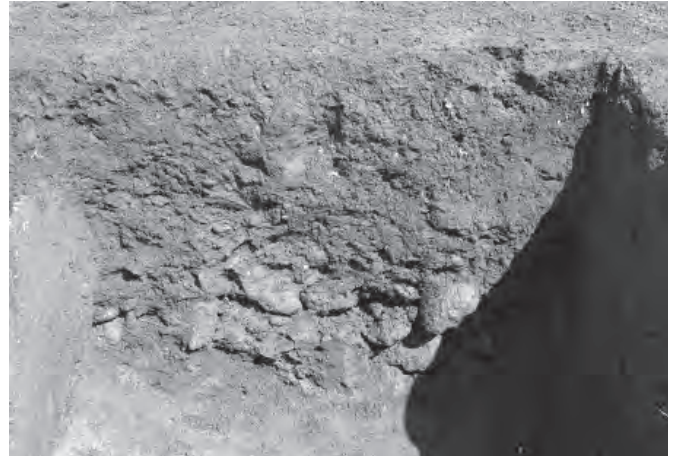


9号復旧痕 全景 南から





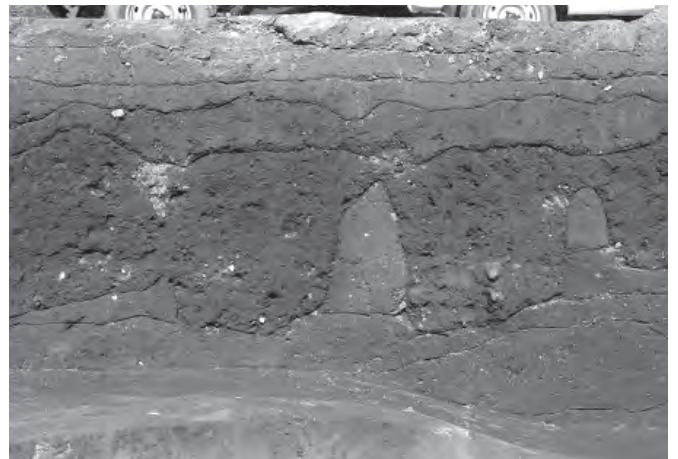
8号復旧痕 全景 北から



8号復旧痕 土層断面 南から



9号復旧痕 土層断面 南から



9号復旧痕 土層断面 南から



10号復旧痕 全景 南から



10号復旧痕 土層断面 西から

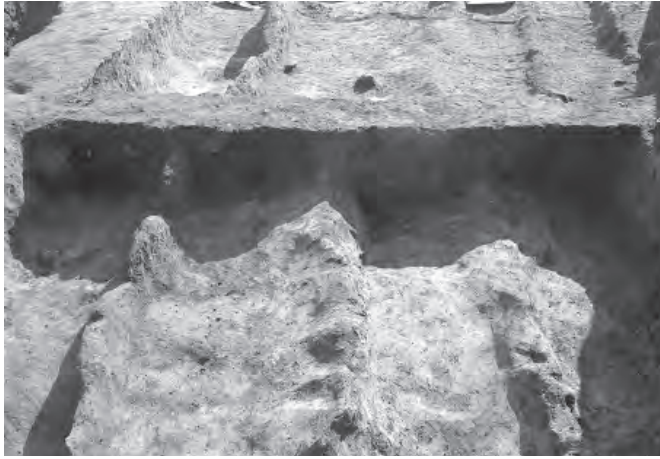


11号復旧痕 土層断面 東から



13号復旧痕 全景 南から





14・15号復旧痕 全景 北から



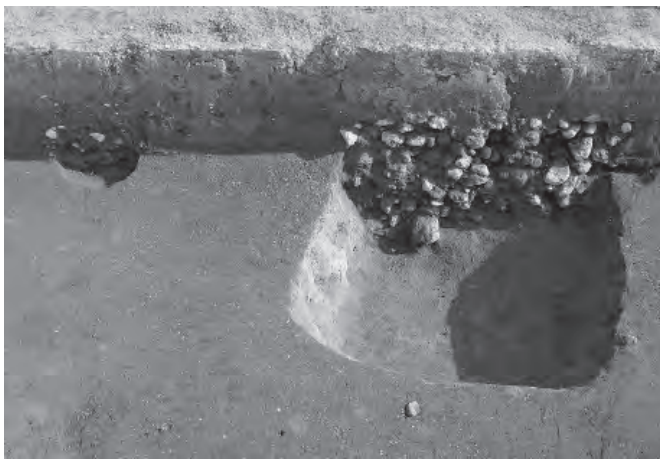
16号復旧痕 全景 北から



17号復旧痕 全景 東から



17号復旧痕 全景 東から



18号復旧痕 全景 西から



19号復旧痕 土層断面 東から



20号復旧痕 全景 北から



21・23号復旧痕 全景 北から

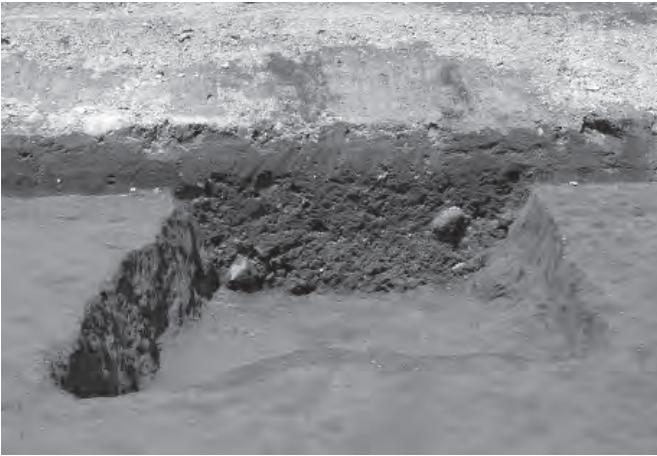




23号復旧痕 全景 南から



23号復旧痕 土層断面 西から



24号復旧痕 全景 東から



27号復旧痕 全景 南から



27号復旧痕 全景 東から



41号溝 全景 西から

1面I期  
田口下田尻遺跡  
溝



1面II期  
田口上田尻遺跡  
建物



1号建物 全景 空撮



1号建物 全景 空撮



1号建物 全景 東から



1号建物 全景 北から





1号建物 全景 西から



1号建物 礎石 北から



1号建物 全景 北から



1号建物 礎石 東から



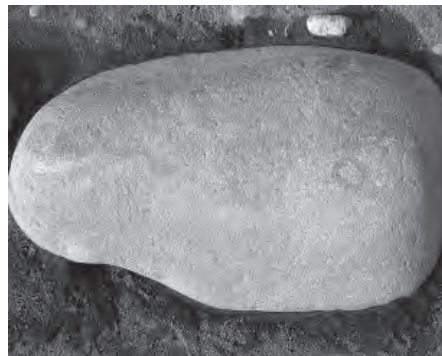
1号建物 南側礎石 西から



1号建物 全景 東から



1号建物 北側礎石 西から



1号建物 礎石



1号建物 礎石



1号建物 礎石

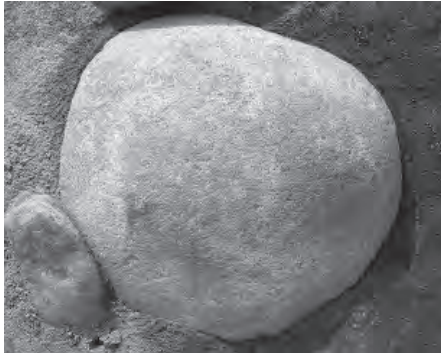


1号建物 礎石



1号建物 礎石





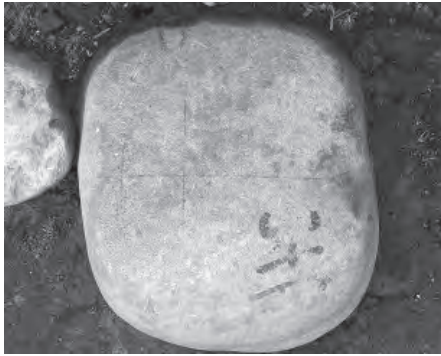
1号建物 礎石



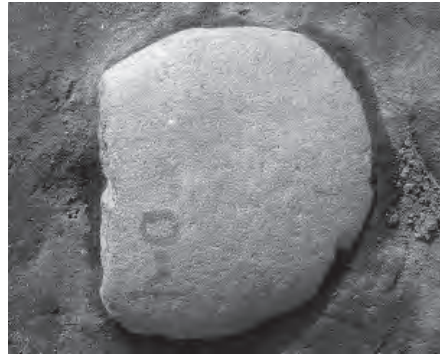
1号建物 礎石



1号建物 礎石



1号建物 礎石



1号建物 礎石



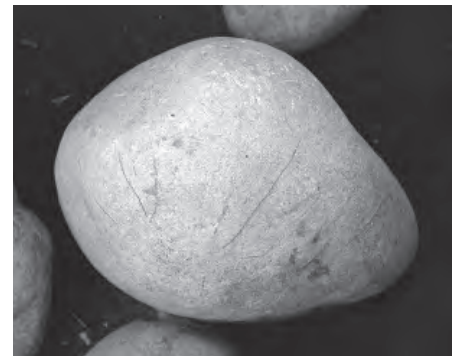
1号建物 礎石



1号建物 礎石



1号建物 礎石



1号建物 礎石



1号建物 囲炉裏全景 東から

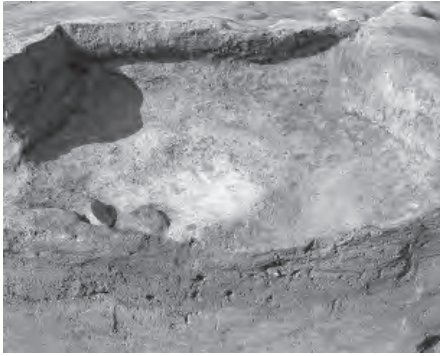


1号建物 囲炉裏全景 西から

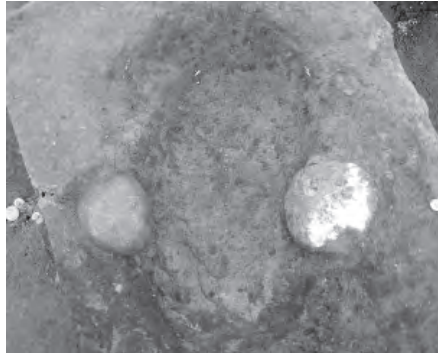


1号建物 囲炉裏全景 南から





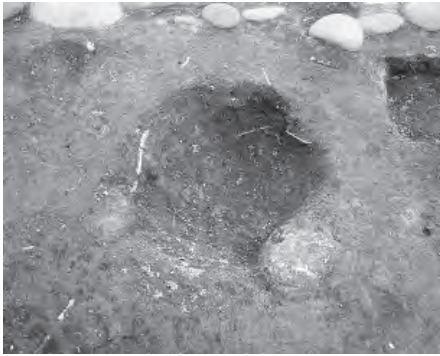
1号建物 囲炉裏全景 東から



1号建物 竈全景 南から



1号建物 竈土層断面 南から



1号建物 竈全景 南から



1号建物 竈土層断面 南から



1号建物 埋設桶全景 北から



1号建物 馬屋全景 南から



1号建物 埋設桶全景 北から



1号建物 埋設桶土層断面 北から



1号建物 入口部分土層断面



1号建物 埋設桶・礫全景



1号建物 礫群全景





1号建物 南側礎石全景 西から



1号建物 土間土層断面



1号建物 広間・座敷下土層断面



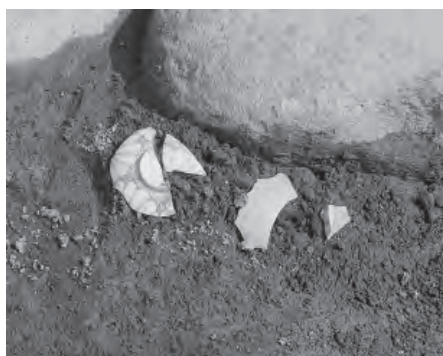
1号建物 土間土層断面



1号建物 遺物出土状態



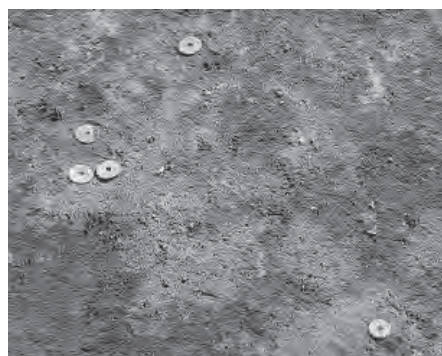
1号建物 遺物出土状態



1号建物 遺物出土状態



1号建物 遺物出土状態



1号建物 遺物出土状態



1号建物 遺物出土状態



1号建物 集石



1号建物 集石



1号建物 集石



1号建物 庭全景 南から



1号建物 庭全景 南から





1号建物 4号配石全景 東から



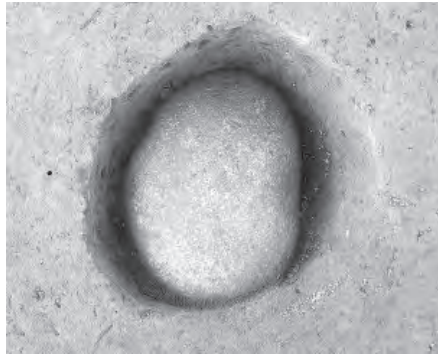
1号建物 4号配石全景 東から



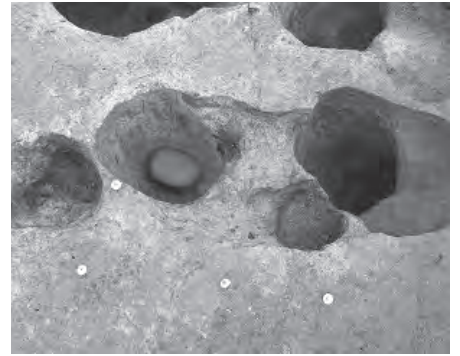
1号建物 ピット群全景



1号建物 ピット土層断面 南から



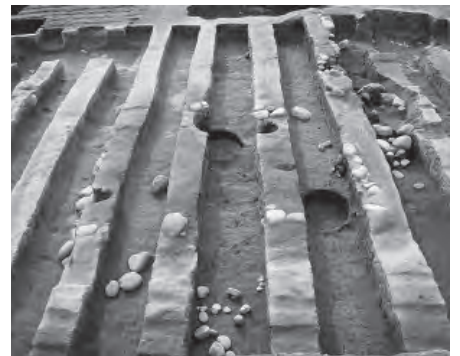
1号建物 ピット全景 南から



1号建物 ピット群全景 西から



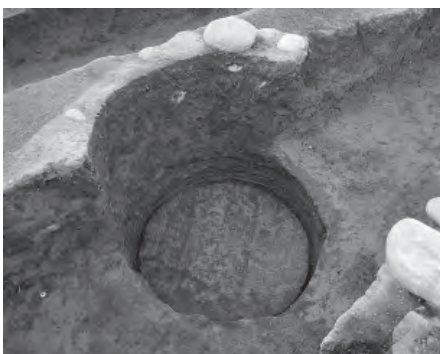
2号建物 全景 東から



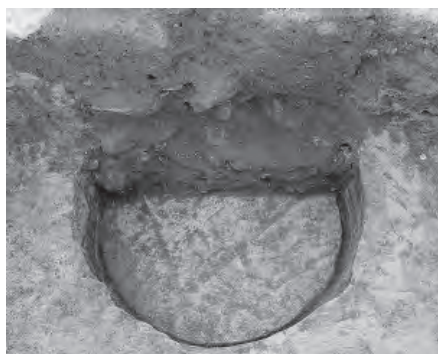
2号建物 全景 東から



2号建物 1・2号埋設桶全景 東から



2号建物 1号埋設桶全景 北から



2号建物 1号埋設桶土層断面 北から



2号建物 2号埋設桶土層断面 南から

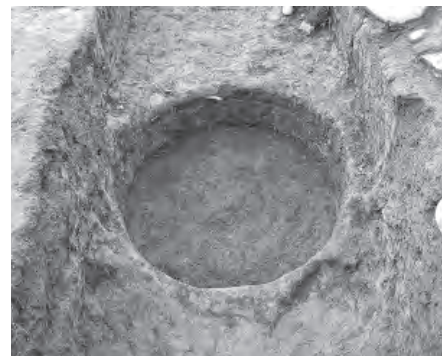




2号建物 1・2号埋設桶全景 南から



2号建物 3号埋設桶土層断面 西から



2号建物 3号埋設桶全景 東から



3号建物 全景 東から

1面II期  
田口上田尻遺跡  
井戸・溝・土塁・道・水田・  
畑・墓坑・埋設桶



1号井戸 土層断面 南から



1号井戸 全景 北から



1号井戸 遺物出土状態



1号井戸 底部全景 上から





19・20号溝 全景 空撮



19号溝 全景 南西から



19号溝 土層断面 東から



48号溝 全景 東から



48号溝 全景 西から



48号溝 遺物出土状態



48号溝 全景 西から





49号溝 全景 東から



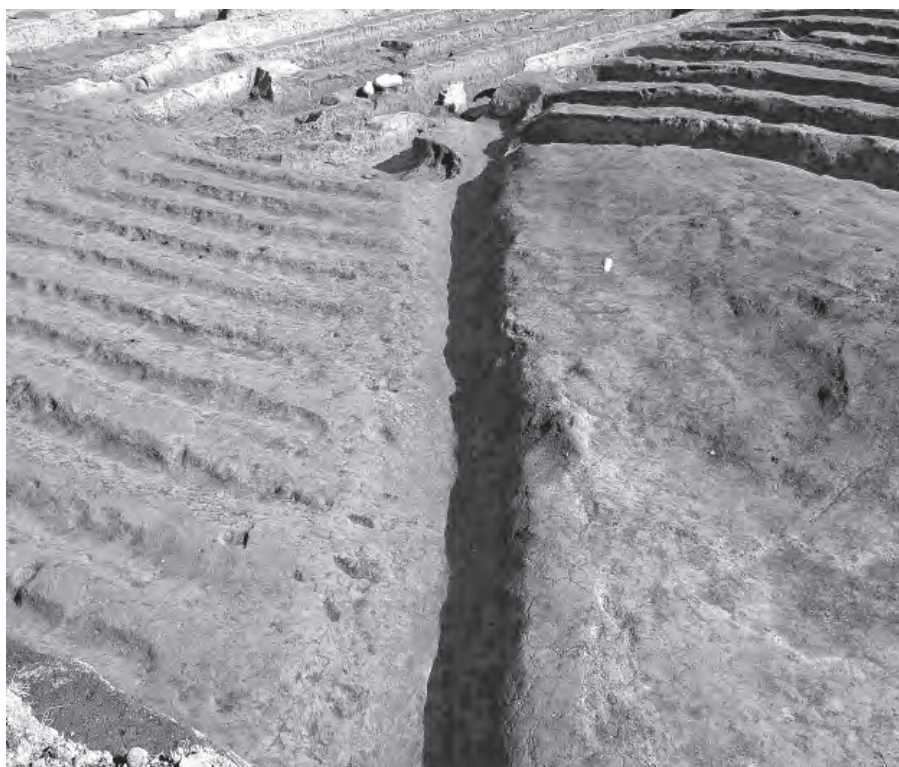
50号溝 全景 西から



50号溝 遺物出土状態



50号溝 北壁遺物出土状態 南東から



51号溝 全景 西から



51号溝 全景 東から



51号溝 全景 西から



51号溝 北東端下面石積み全景 北から



51号溝 北東端全景 南から



73号溝 土層断面



76号溝 全景 南から



1号土塁 土層断面 南東から





1号土塁 全景 西から



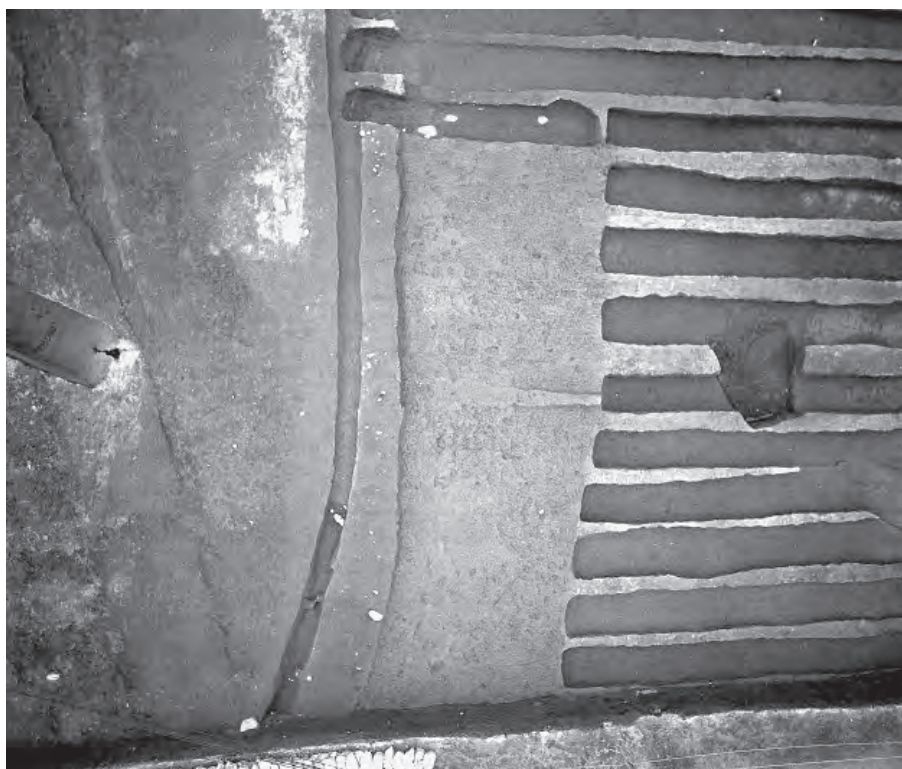
2号道 全景 南西から



3号道 全景 北から



6号道 全景 西から



道 全景 空撮



1・2号水田 全景 東から



水田 全景 西から



1号水田 土層断面 東から





1・2号水田畦 土層断面 東から



2号水田 植物依存体



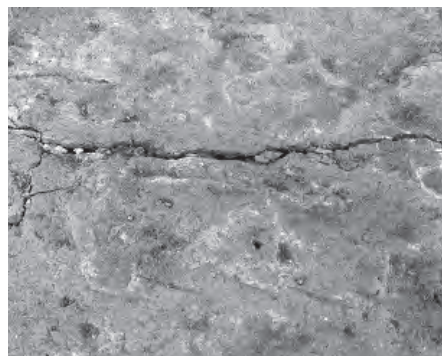
3号水田 全景 東から



3号水田 土層断面



4・5号水田 全景 西から



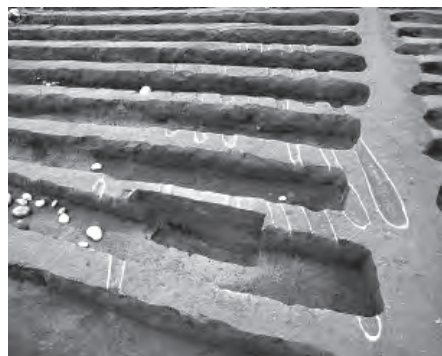
4号水田 銅製品出土状態



4・5号水田 全景 東から



1号畑 検出状況



1号畑 全景 北から



1号畑 土層断面 南から



2号畑 検出状況 東から



2号畑 全景 北から



3号畑 全景 北から



3号畑 土層断面 東から



11号畑 全景 南東から





12号畑 全景 東から



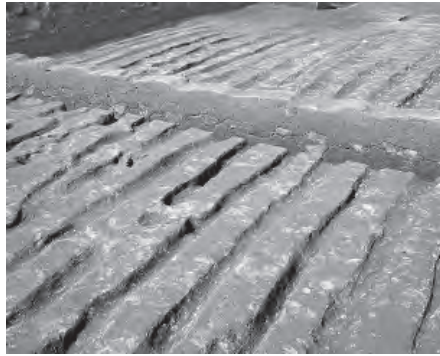
13号畑 検出状況



13・14号水田 全景 南から



13号畑 全景 北から



13号畑 土層断面



14号畑 全景 南から



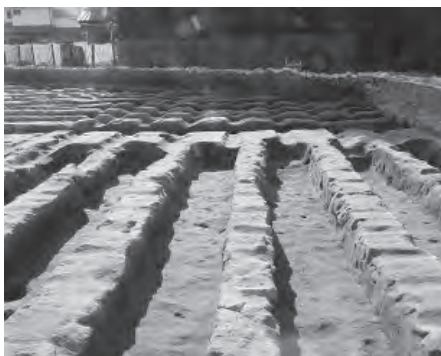
15号畑 土層断面



17号畑 全景 東から



23号畑 全景 東から



25号畑 全景 東から



26号畑 全景 西から



28号畑 全景 西から



281号土坑(墓坑) 全景 南東から

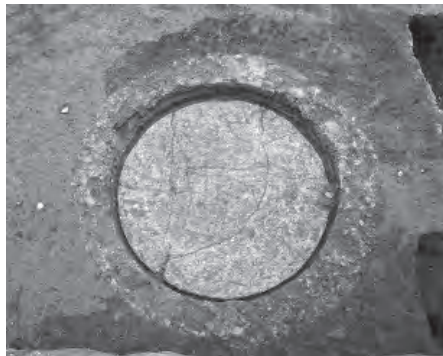


281号土坑(墓坑) 全景 南西から



281号土坑(墓坑) 土層断面 北から

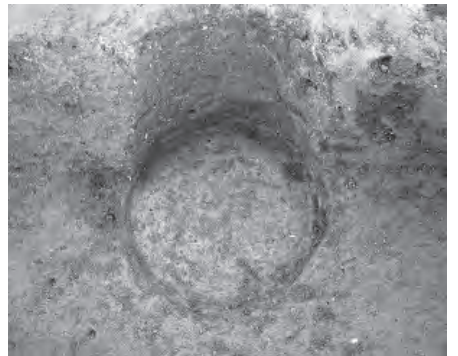




34号土坑(埋設桶) 全景 北から



15号畑 1号埋設桶全景 西から



15号畑 2号埋設桶全景 西から



3号埋設桶 全景 北から

1面II期  
田口下田口遺跡  
道・畑



1b号道 全景 東から



1号道 全景



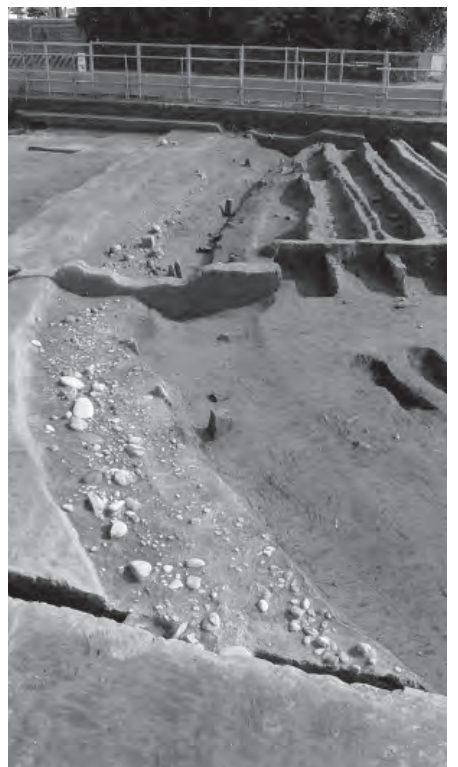
1b号道 遺物出土状態



1号道 全景 西から



1号道 全景 南から



1号道 全景 北から

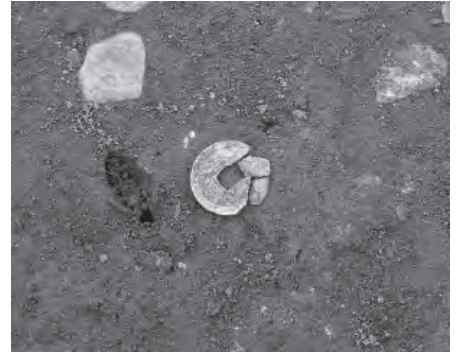




1号道 土層断面 南から



1号道 遺物出土状態 南から



1号道 遺物出土状態 南から



10号畑 全景 南から



IV区溝 全景 空撮

1面Ⅲ期  
田口上田尻遺跡  
溝・低地・道・配石・畑・  
埋設桶・集石・土坑



VI区溝 全景 空撮



8号溝 全景 西から



8号溝 底面 西から

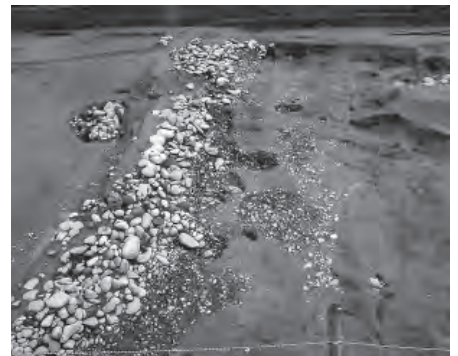




I・II区溝 全景 空撮



8号溝 石積み検出状況 南から



8号溝 石積み検出状況 北から



II区8号溝 全景 空撮



8号溝 土層断面 東から



8号溝 石積み土層断面 南から



8号溝 石積み検出状況 西から



8号溝 石積み検出状況 西から



8号溝 石積み土層断面 南から





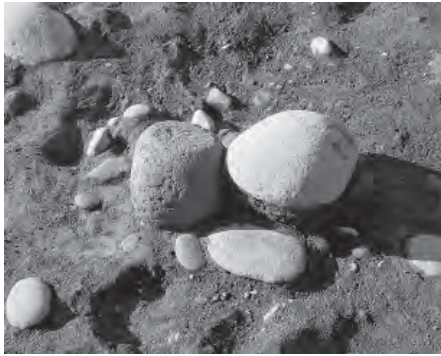
8号溝 遺物出土状態 南西から



8号溝 遺物出土状態 北から



8号溝 遺物出土状態 北から



8号溝 遺物出土状態 南から



8号溝 遺物出土状態



8号溝 北壁土層断面 南から



8号溝 遺物出土状態 西から



8号溝 遺物出土状態



10号溝 全景 西から



11号溝 全景 西から



12号溝 全景 東から



13号溝 全景 東から



21号溝 全景 北から

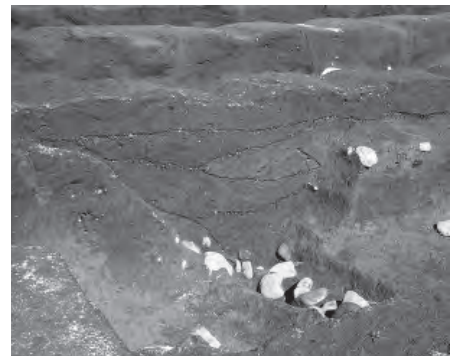




溝 全景 空撮



21号溝 全景 南から



21号溝 土層断面



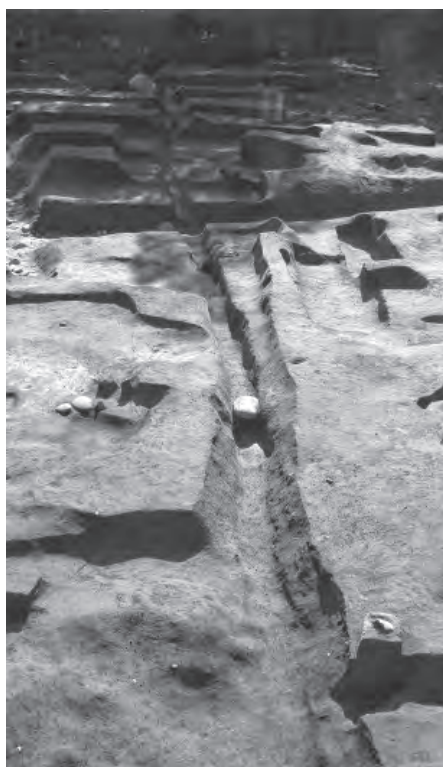
21号溝 遺物出土状態



21号溝 遺物出土状態



22号溝 全景 南から



22号溝 全景 北から



22号溝 遺物出土状態



22号溝 遺物出土状態



22号溝 全景 南から



22号溝 土層断面 北から





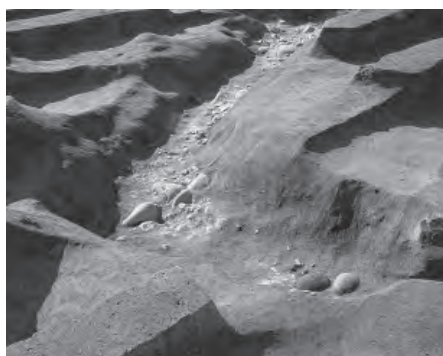
23号溝 全景 南から



25号溝 全景 東から



23号溝 土層断面 西から



25号溝 南東部全景 東から



25号溝 南東部全景 西から



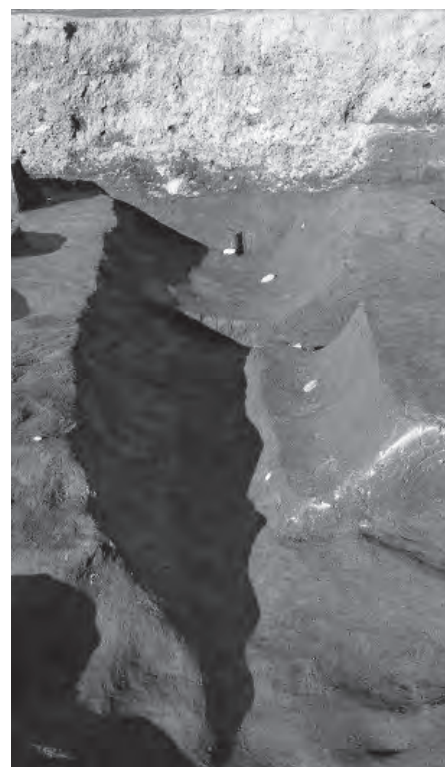
25号溝 土層断面 西から



25号溝 遺物出土状態

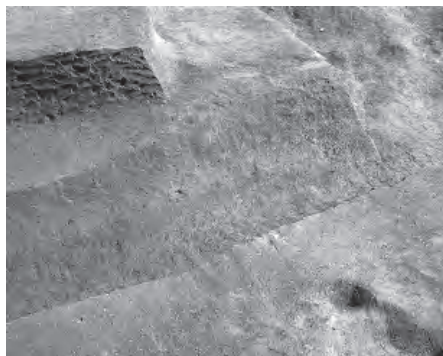


28号溝 全景 西から



31号溝 全景 南から





31号溝 全景 西から



31号溝 遺物出土状態 西から



Ⅲ区溝 全景 空撮



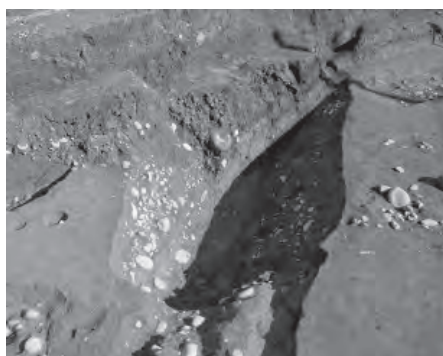
34号溝 全景 北から



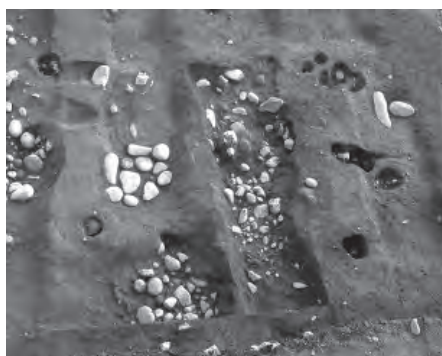
34号溝 遺物出土状態



34号溝 全景 北西から



34号溝 全景 西から



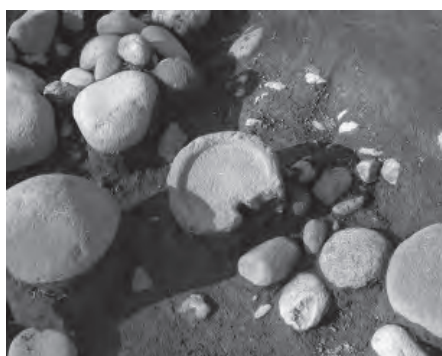
39号溝 全景 西から



39号溝 土層断面 東から



40号溝 遺物出土状態



40号溝 遺物出土状態

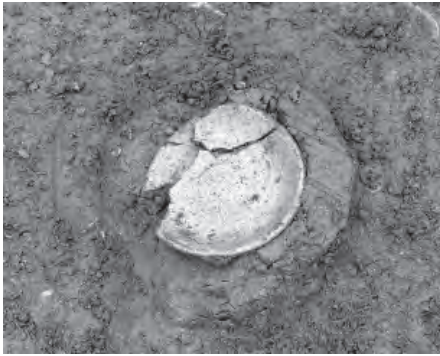


40・41・43号溝 全景 南から





42号溝 全景 東から



42号溝 遺物出土状態



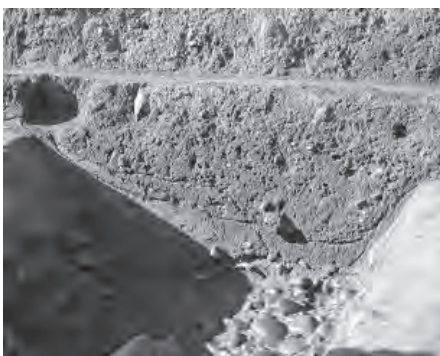
IV区溝 全景 空撮



48b号溝 全景 西から



48b号溝 全景 東から



48b号溝 土層断面



48b号溝 石積み検出状況 南から



48b号溝 遺物出土状態

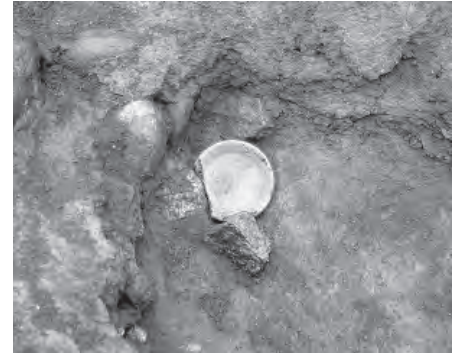




48b号溝 全景 東から



48b号溝 全景 東から



48b号溝 遺物出土状態



48b号溝 遺物出土状態



48b号溝 遺物出土状態



57号溝 土層断面 東から



57号溝 東側屈曲部全景 北から

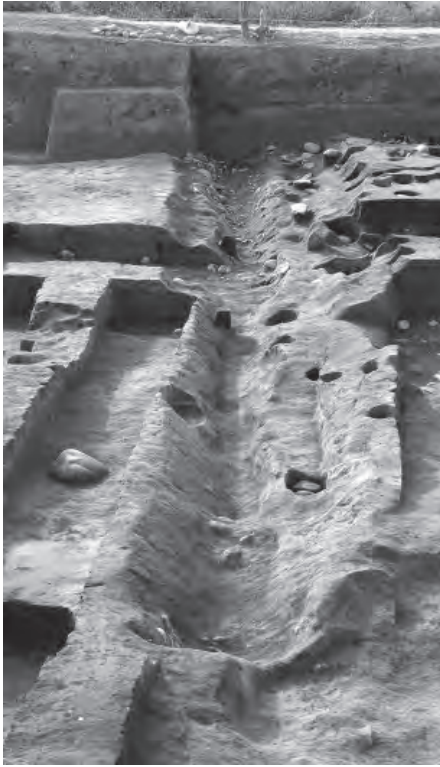


58号溝 全景 東から

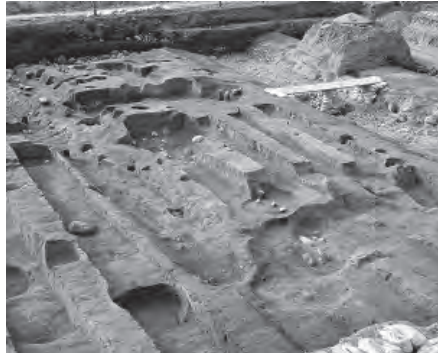


58号溝 全景 西から

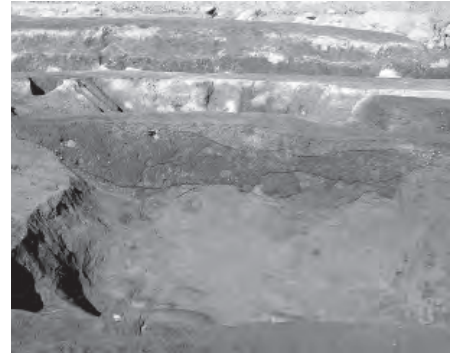




60号溝 全景 東から



60号溝 全景 南東から



60号溝 土層断面 東から



VI区溝 全景 空撮



63号溝 全景 南から



63号溝 全景 南から



63号溝 土層断面 東から



64号溝 全景 東から



65号溝 全景 南から

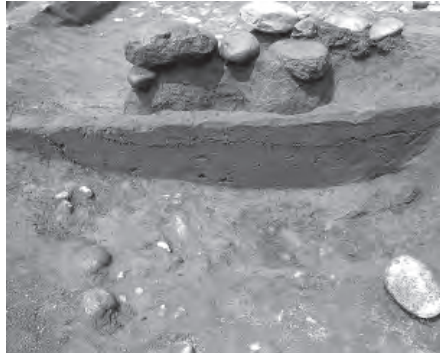


66号溝 全景 東から





67号溝 全景 東から



67号溝 土層断面



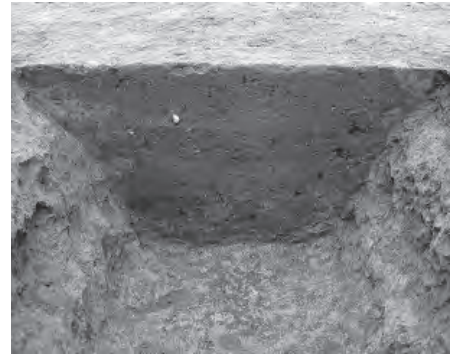
68号溝 全景 東から



78号溝 全景 北から



78号溝 全景 西から



78号溝 土層断面 南から



78号溝 土層断面 西から



82号溝 全景 東から



83号溝 全景 西から



82号溝 土層断面 東から



83号溝 土層断面 南から



86号溝 全景 北から



86号溝 土層断面 北から



87号溝 全景 北から

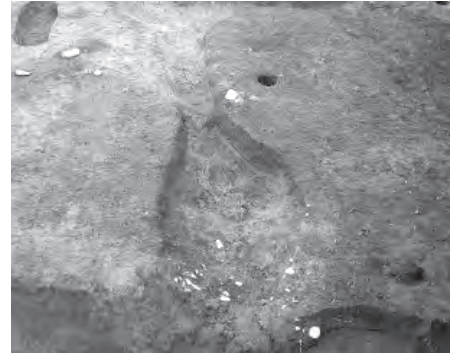




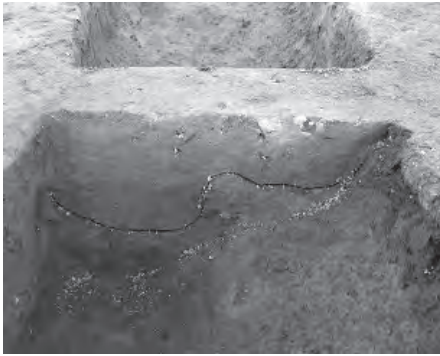
87号溝 土層断面 南から



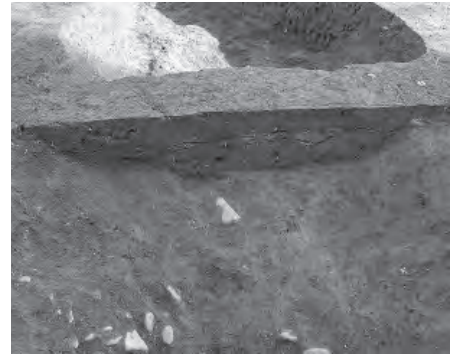
89号溝 全景 東から



91号溝 全景 西から



89号溝 土層断面



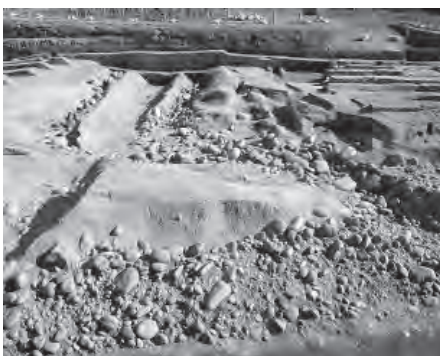
91号溝 土層断面



IV区低地 全景 空撮



1号低地 全景 北から



1号低地 全景 西から



2号低地 全景 西から



2号低地 土層断面 東から





1号道 全景 南から



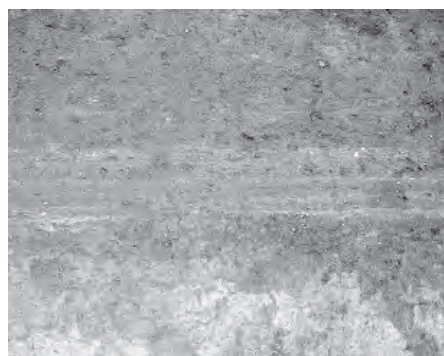
1号道 全景 北から



1号道 全景 南から



8・9号道 全景 東から



9号道 土層断面



18~20号畑 下層全景 北から



1号配石 全景 南から



18~20号畑 下層全景 東から



66号土坑(埋設桶) 土層断面 北から



66号土坑(埋設桶) 全景 北から



66号土坑(埋設桶) 検出状況 北から

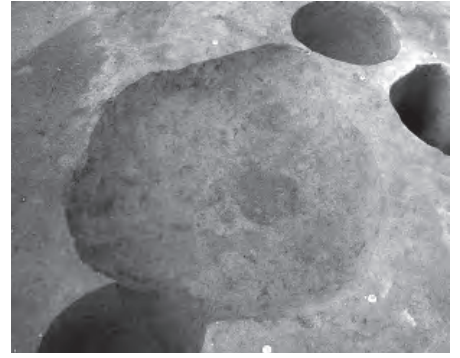




6号集石 全景 北から



11号土坑 全景 南から



25号土坑 全景 東から



2号土坑 全景 南から



11号土坑 土層断面 西から



25号土坑 土層断面 東から



26号土坑 全景 東から



51号土坑 全景 東から



53~56号土坑 全景 北から



26号土坑 土層断面 南から



51号土坑 遺物出土状態 東から



74号土坑 全景 南から



71号土坑 土層断面 北から



79号土坑 全景 西から



80号土坑 全景 西から





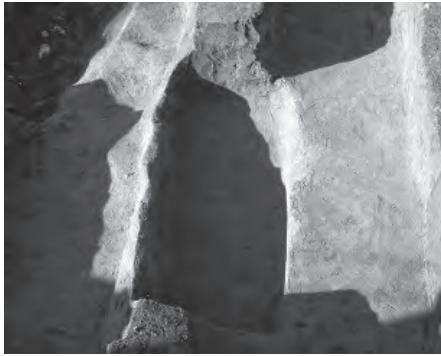
81号土坑 全景 南から



86号土坑 全景 東から



86号土坑 土層断面 東から



89号土坑 全景 東から



100号土坑 土層断面 南から



129号土坑 土層断面 西から



130号土坑 土層断面 西から



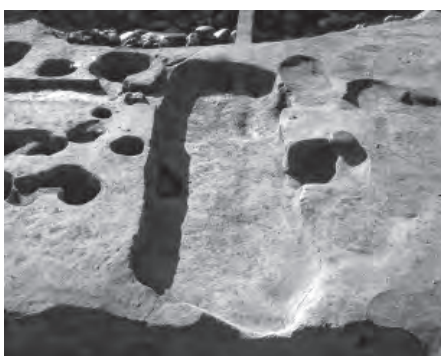
147号土坑 全景 南から



148号土坑 全景 南から



131号土坑 全景 北から



150号土坑 全景 東から



147号土坑 土層断面 南から



148号土坑 土層断面 北から





152～168号土坑 全景 東から



153号土坑 土層断面 北東から



156号土坑 土層断面 北東から



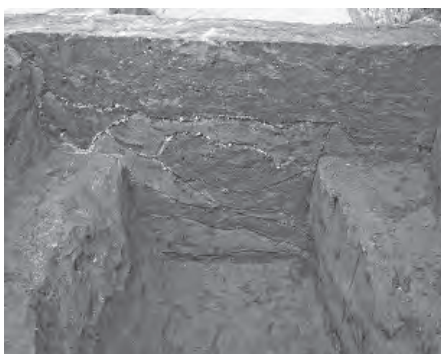
152号土坑 全景 東から



155号土坑 全景 西から



157号土坑 全景 南から



152号土坑 土層断面 南から



155号土坑 土層断面 南西から



157号土坑 土層断面 南東から





159号土坑 全景 南から



160号土坑 全景 南から



165号土坑 全景 南から



159号土坑 土層断面 北から



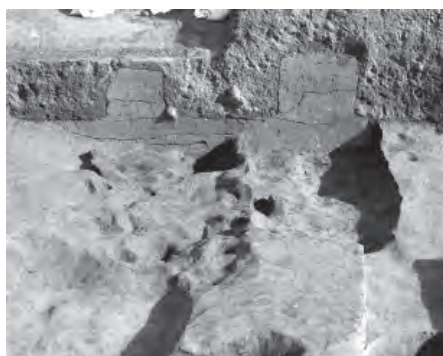
160号土坑 土層断面 南東から



168号土坑 土層断面 南から



170号土坑 全景 東から



200号土坑 全景 西から



216号土坑 全景 東から



246号土坑 全景 西から



280号土坑 遺物出土状態 北東から



288～292号土坑 全景 南から





296号土坑 土層断面 南から



308～310号土坑 全景 東から



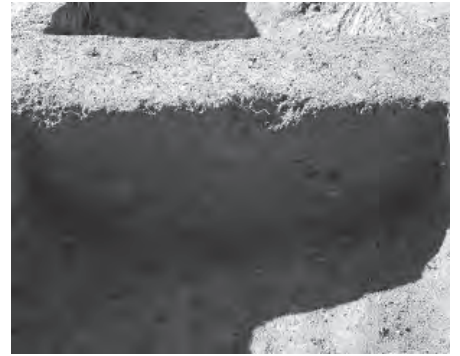
313号土坑 全景 東から



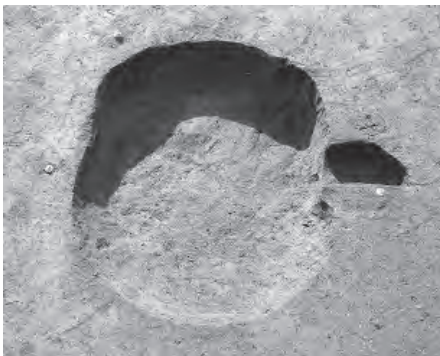
297・298号土坑 土層断面 南から



309・310号土坑 土層断面 南から



314号土坑 土層断面 東から



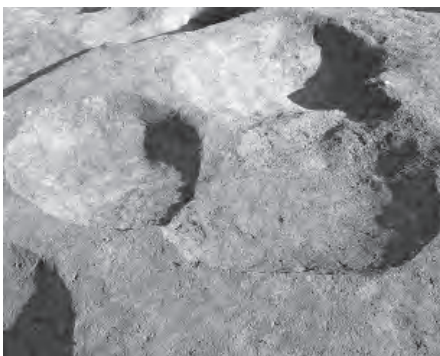
315号土坑 全景 北から



321～324号土坑 全景 西から



379号土坑 全景 東から



422・423号土坑 全景 北西から



394・395号土坑 全景 北から



321・323・324号土坑 土層断面 西から



379号土坑 土層断面 南から



1面Ⅲ期  
田口下田尻遺跡  
溝・道・墓坑・土坑



49号溝 土層断面 南から



49号溝 全景 東から



49号溝 遺物出土状態



49号溝 遺物出土状態



1c号道・4号溝 全景 南から



1c号道・4号溝 全景 北から



1c号道・4号溝 北側全景 東から



1c号道・4号溝 全景 南東から



1c号道・4号溝 土層断面 東から

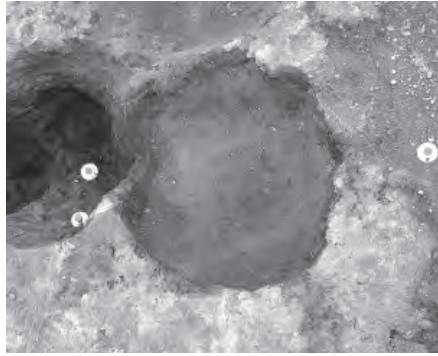


1c号道・4号溝 全景 南から

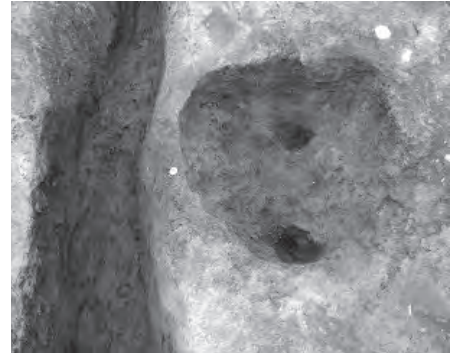




1c号道・4号溝 下面ピット土層断面



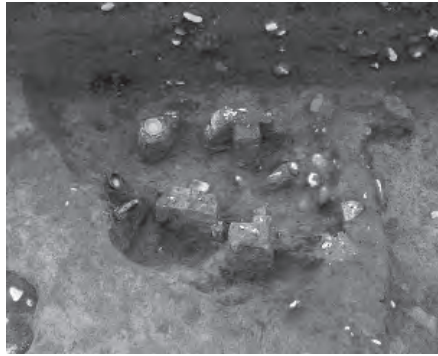
1c号道・4号溝 下面ピット全景 南から



1c号道・4号溝 下面ピット全景 南から



204・212号土坑(墓坑) 全景 東から



204号土坑(墓坑) 全景 東から



204号土坑(墓坑) 全景 東から



212号土坑(墓坑) 全景 東から



212号土坑(墓坑) 遺物出土状態



214号土坑 全景 北から



214号土坑 土層断面

2面1期  
田口上田尻遺跡  
溝・畑



3・4号溝 土層断面 南から



6号溝 土層断面 南から



I・II区溝・畑 全景 空撮

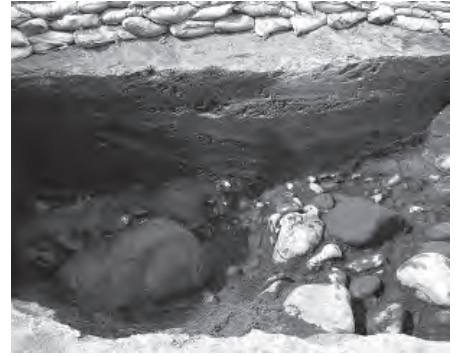




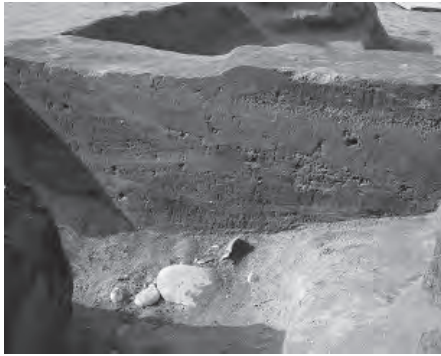
14号溝 全景 北西から



14号溝 土層断面 南東から



14号溝 北側土層断面 南東から



14号溝 土層断面 北西から



14号溝 遺物出土状態 南東から



14号溝 遺物出土状態 南から



27号溝 全景 東から



37号溝 全景 北から



37号溝 遺物出土状態



37号溝 遺物出土状態



37号溝 土層断面 南から

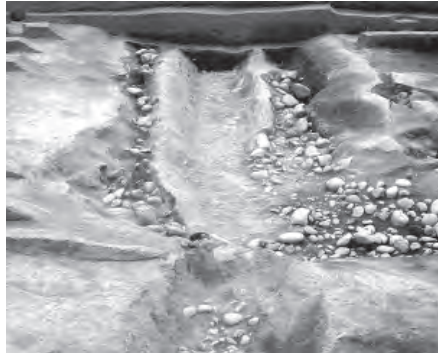


IV区溝 全景 空撮





53～56号溝 全景 東から



53～56号溝 全景 西から



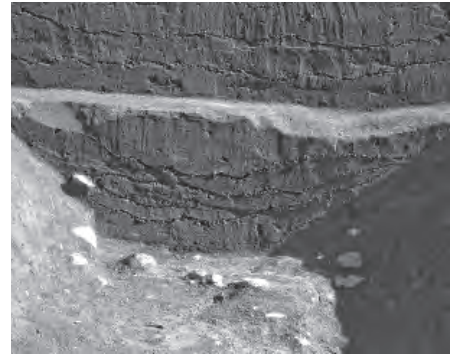
53～56号溝 全景 南西から



53～56号溝 遺物出土状態 南西から



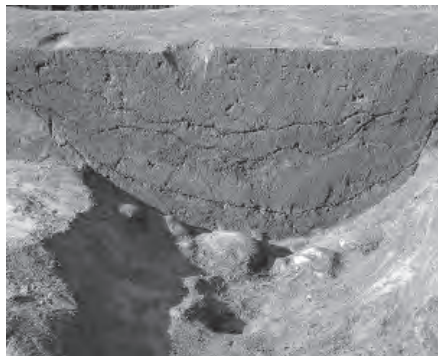
53～56号溝 遺物出土状態 南西から



53号溝 土層断面 西から



55号溝 土層断面 西から



56号溝 土層断面 東から



53～55号溝 全景 東から



53号溝 全景 南から



53号溝 全景 西から



53・62号溝 土層断面



55号溝 遺物出土状態

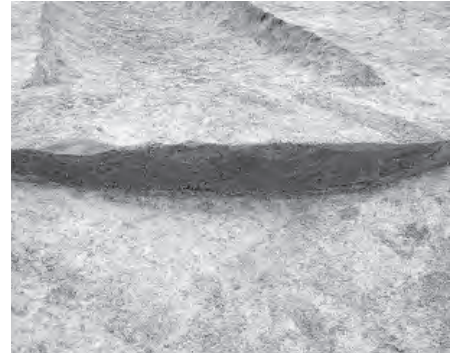




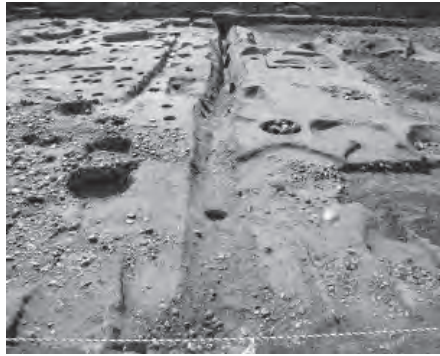
59号溝 全景 西から



62号溝 全景 南から



62号溝 土層断面



69号溝 全景 東から



69号溝 土層断面



70号溝 全景 東から



29号畑 全景 北から

2面1期  
田口上田尻遺跡  
墓坑・土坑・配石・集石・  
ピット



3号土坑(墓坑) 全景 東から



3号土坑(墓坑) 全景 南から



3号土坑(墓坑) 土層断面



112号土坑(墓坑) 土層断面

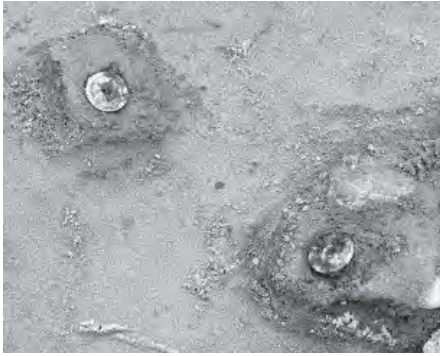


213号土坑(墓坑) 全景 西から



213号土坑(墓坑) 土層断面





213号土坑(墓坑) 遺物出土状態



251号土坑(墓坑) 全景 南から



251号土坑(墓坑) 土層断面 南から



283号土坑(墓坑) 全景 南から



283号土坑(墓坑) 土層断面 南から



338号土坑(墓坑) 全景 南東から



338号土坑(墓坑) 人骨出土状態 東から



338号土坑(墓坑) 頭骨出土状態 南から



338号土坑(墓坑) 土層断面



350号土坑(墓坑) 全景 南東から



350号土坑(墓坑) 人骨出土状態 南西から



350号土坑(墓坑) 土層断面



396号土坑(墓坑) 全景 東から



397号土坑(墓坑) 全景 西から



2号配石 全景 西から





3号集石 全景 北から



4号集石 全景 西から



5号集石 全景 南から



17号土坑 全景 北から



59号土坑 全景 西から



59号土坑 土層断面 西から



60号土坑 全景 西から



65号土坑 全景 西から



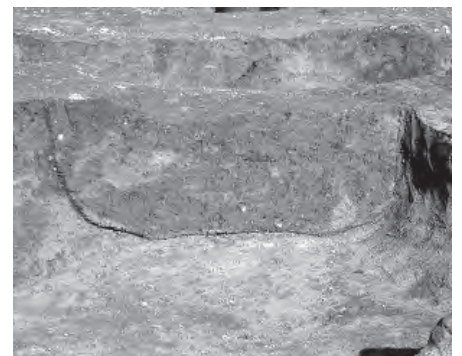
65号土坑 土層断面 北から



76号土坑 全景 南から



85号土坑 全景 北から



94号土坑 全景 北から



173・174号土坑 全景 北から



211号土坑 全景 北西から



233号土坑 全景 東から





242号土坑 全景



242号土坑 土層断面 南東から



306・307号土坑 全景 西から



328号土坑 全景 南から



328号土坑 土層断面 南から



342号土坑 全景 東から



383号土坑 全景 北から



402号土坑 全景 西から



342号土坑 土層断面 南から



383号土坑 土層断面



IV区ピット群 全景



VI区ピット群 全景



V区中央部ピット群 全景 南から

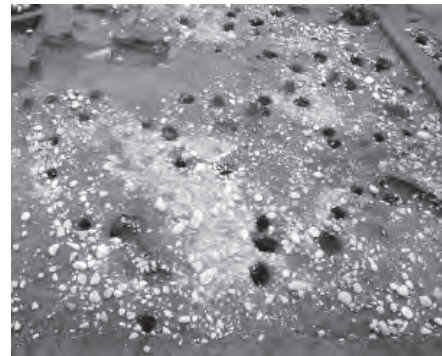




I区ピット群 全景 西から



V区南東部ピット群 全景 東から



V区南東部ピット群 全景 南から

2面1期  
田口下田尻遺跡  
溝・墓坑・集石・土坑



5～8号溝 全景 南西から



9号溝 全景 東から



9号溝 全景 西から



9号溝 土層断面



12号溝 全景 西から



12号溝 土層断面 西から



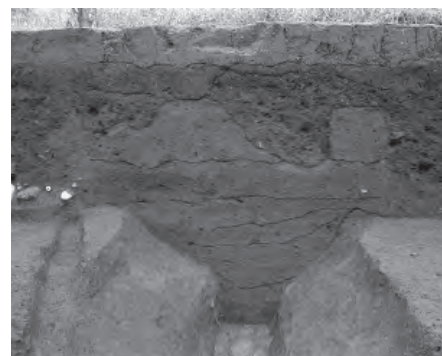
15号溝 全景 北から



18号溝 礫出土状態 南から

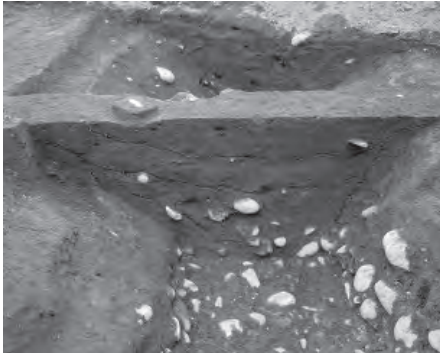


18号溝 全景 南から



18号溝 土層断面 北から





18号溝 土層断面 北から



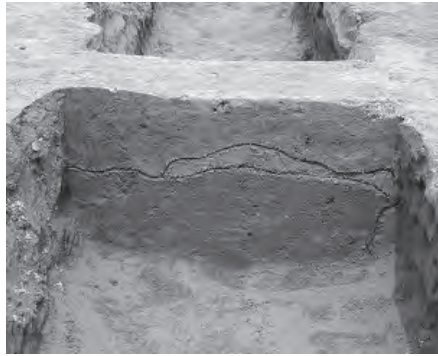
21号溝 全景 南から



33~36号溝 全景 南から



39号溝全景 東から



39号溝 土層断面 南から



40号溝 全景 東から



40号溝 土層断面 西から



46号溝 全景 東から



46号溝 土層断面 西から



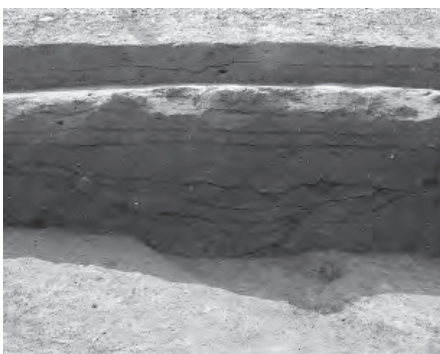
47号溝 全景



53号溝 全景 東から



107号土坑(墓坑) 全景 西から



53号溝 土層断面 東から



107号土坑(墓坑) 土層断面 南から





202・205・206号土坑(墓坑) 全景 南から



202号土坑(墓坑) 全景 東から



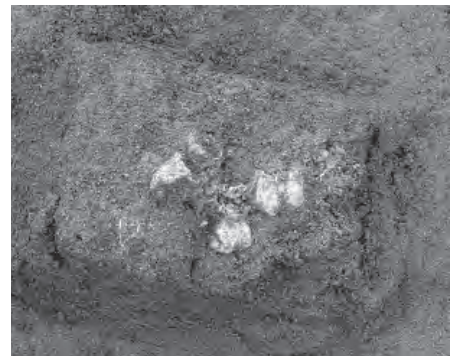
202号土坑(墓坑) 全景 北から



202号土坑(墓坑) 遺物出土状態 東から



205号土坑(墓坑) 全景 南から



205号土坑(墓坑) 歯出土状態 南から



206号土坑(墓坑) 全景 南から



206号土坑(墓坑) 土層断面 南から



227号土坑(墓坑) 全景 東から



227号土坑(墓坑) 土層断面 西から





1号集石 全景 北から



1号集石B 全景 北から



1号集石C 全景 南から



1号集石D 全景 東から



1号集石E 全景 南西から



1号集石F 全景 北東から



1号集石G 全景 東から



1号集石H 全景 北から



1号集石I 全景 東から



2号集石A 全景 北から



2号集石 全景 南から





2号集石B 全景 北から



2号集石C 全景 南西から



2号集石D 全景 北から



25~28・35・39号土坑 全景 北から



25~28号土坑 全景 東から



26号土坑 土層断面 東から



29・30・34号土坑 全景 東から



29・30・34号土坑 土層断面 西から



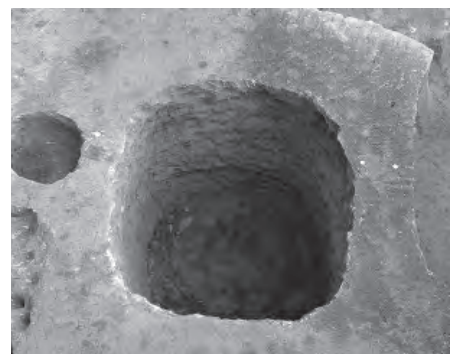
46号土坑 遺物出土状態 西から



63・64・68・69・73号土坑 全景 北から



198号土坑 全景 南から

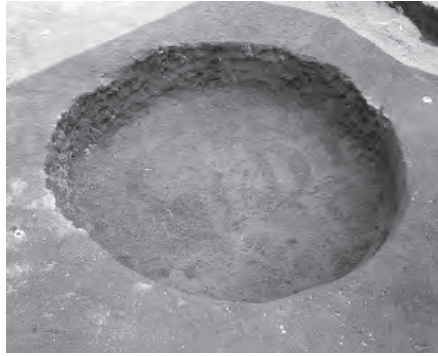


203号土坑 全景 北から





203号土坑 土層断面 南から



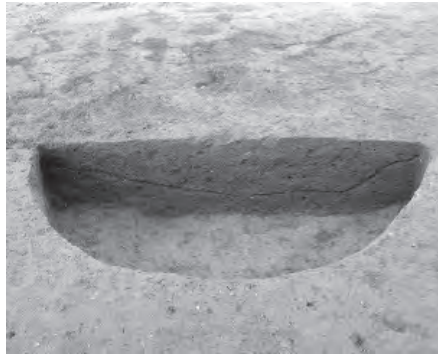
215号土坑 全景 南から



217号土坑 全景 南から



229号土坑 全景 南東から



215号土坑 土層断面 南から



217号土坑 土層断面 南から



254号土坑 全景 東から



345号土坑 検出状況 南から



345号土坑 全景 南東から



345号土坑 土層断面 北東から



345号土坑 炭化物出土状態 西から



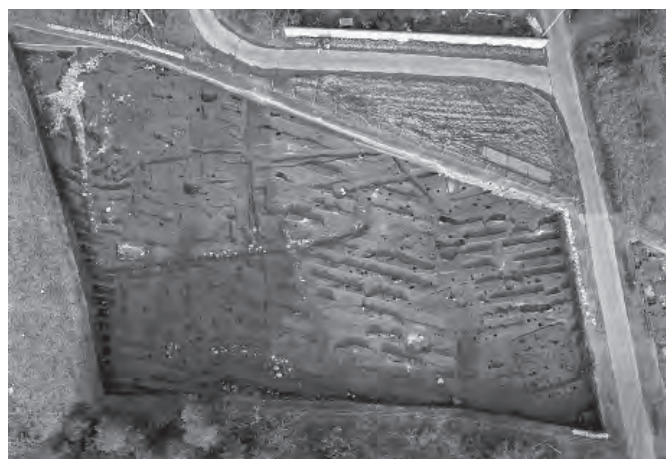
345号土坑 遺物出土状態 南から



345号土坑 全景 北東から



2面II期  
田口上田尻遺跡  
竪穴住居



Ⅲ区 全景 空撮



Ⅰ・Ⅱ区 全景 空撮



Ⅵ区 全景 空撮



Ⅴ区南 全景 空撮

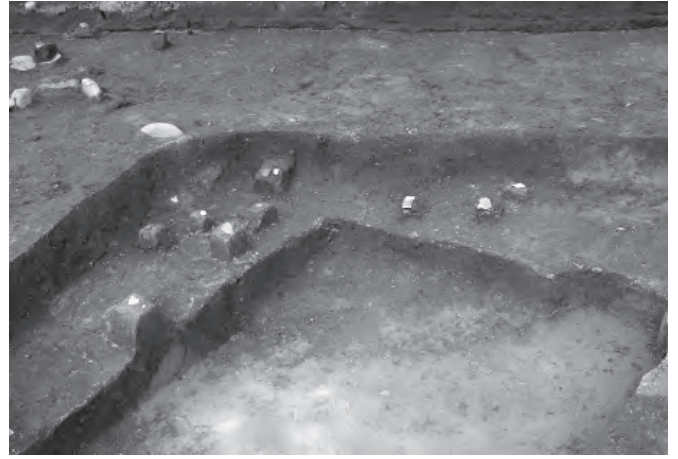


Ⅴ区 全景 空撮





2号住居 全景 西から



2号住居 遺物出土状態 西から



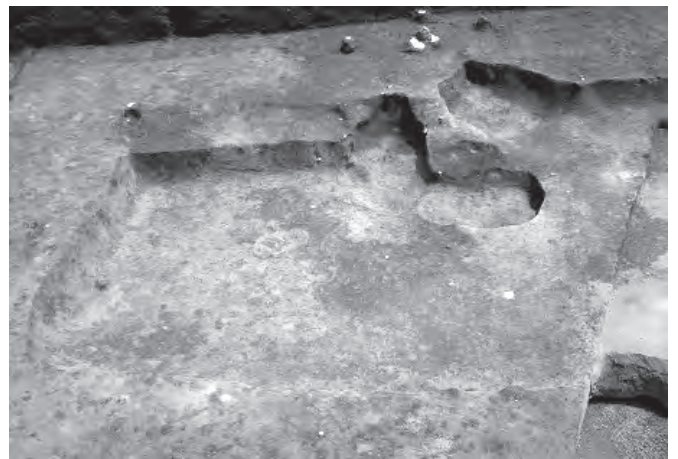
2号住居 カマド全景 西から



3a・3b号住居 遺物出土状態 西から



3a・3b号住居 全景 西から



3a・3b号住居 掘り方全景 西から



3a号住居 カマド全景 西から



3a号住居 カマド掘り方全景 西から





3b号住居 カマド全景 西から



3号住居 掘り方全景 西から



5号住居 炭化材出土状態全景 西から



5号住居 遺物出土状態 西から



5号住居 炭化材出土状態 西から





5号住居 遺物出土状態 西から



5号住居 遺物出土状態 西から



8号住居 全景 北から



8号住居 掘り方全景 北から



8号住居 遺物出土状態 東から



8号住居 カマド全景 西から



11号住居 全景 西から



11号住居 遺物出土状態 西から





16号住居 全景 西から



16号住居 掘り方全景 西から



16号住居 全景 西から



16号住居 Aカマド全景 西から



16号住居 Bカマド全景 西から



16号住居 遺物出土状態 西から



16号住居 遺物出土状態





17号住居 掘り方全景 北から



17号住居 遺物出土状態 南から



19号住居 全景 西から



20号住居 カマド全景 西から



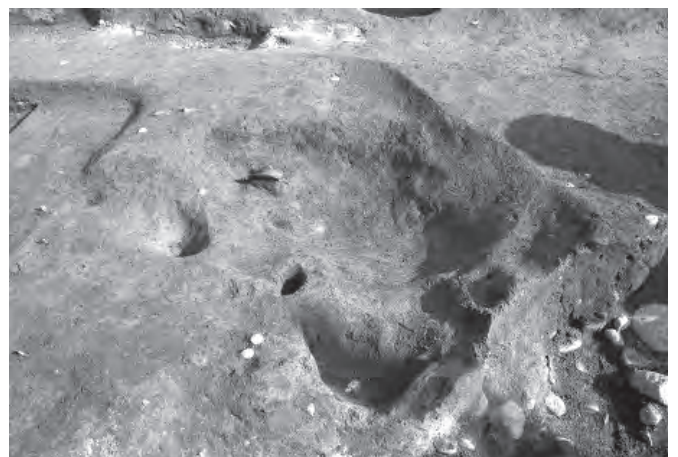
20号住居 カマド掘り方全景 西から



25号住居 全景 西から



25号住居 カマド全景 西から

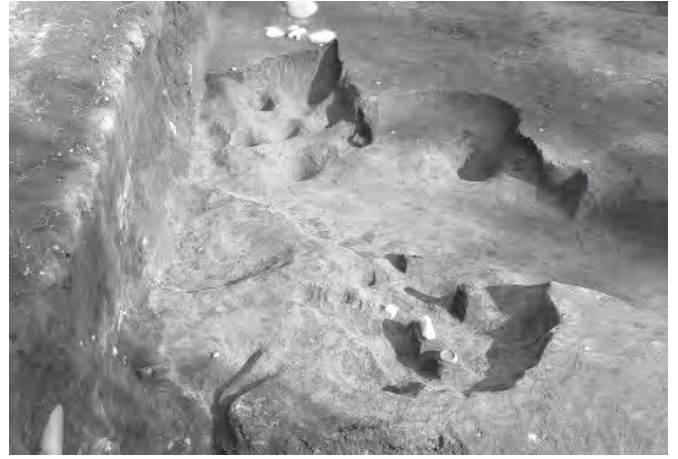


25号住居 カマド掘り方全景 西から





25号住居 遺物出土状態 西から



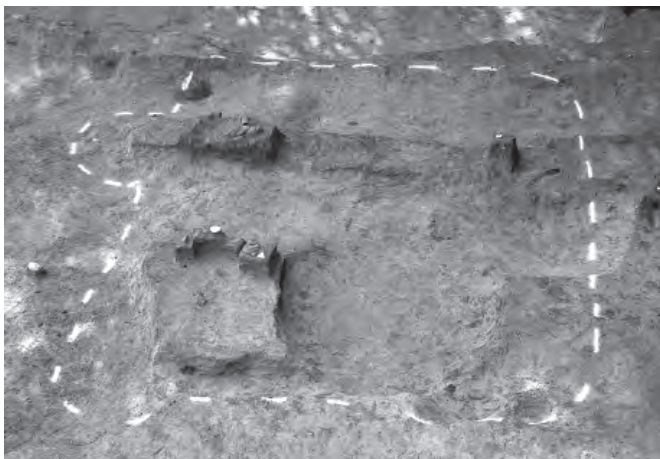
29号住居 掘り方全景 南から



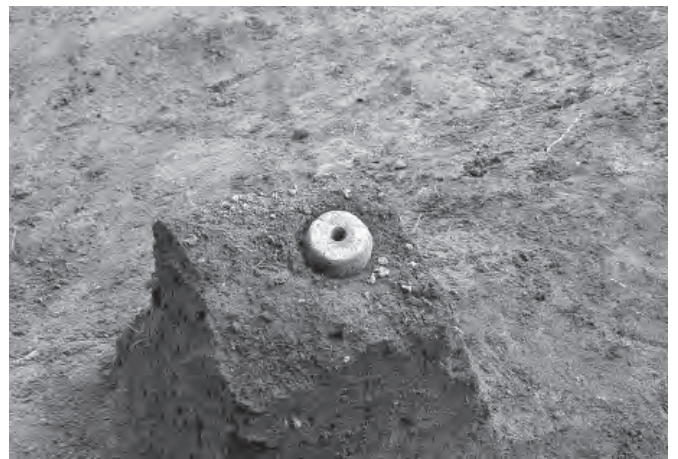
29号住居 カマド掘り方全景 西から



30号住居 全景 南から



31号住居 全景 北から



31号住居 遺物出土状態



34号住居 全景



34号住居 カマド全景 東から

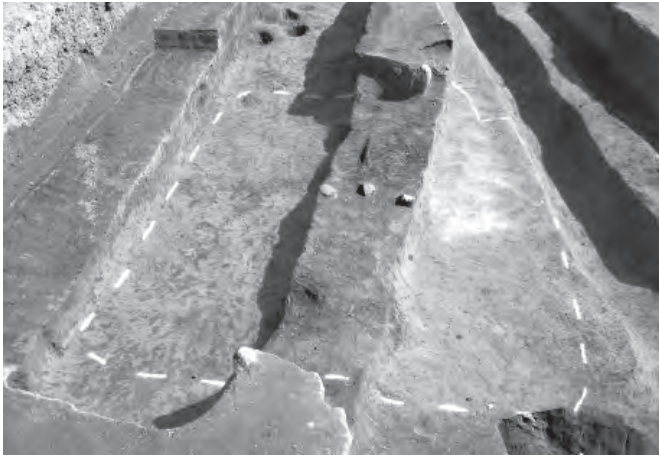




34号住居 掘り方遺物出土状態 東から



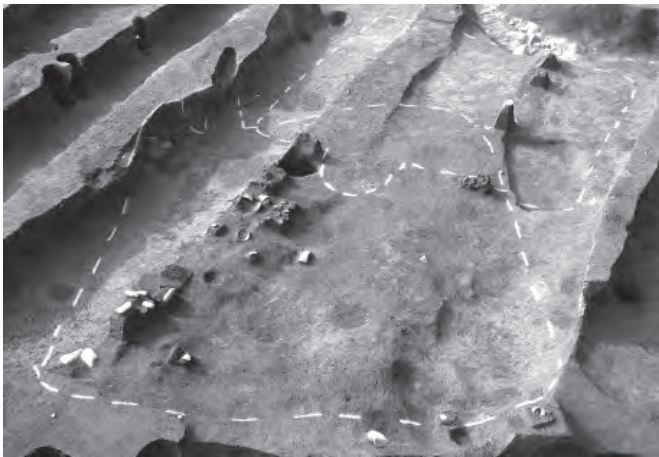
34号住居 遺物出土状態



37号住居 全景 西から



37号住居 カマド全景 西から



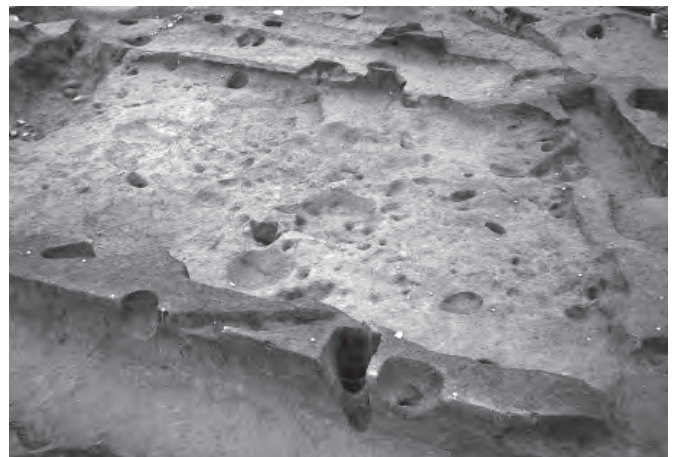
41号住居 全景 東から



41号住居 遺物出土状態 東から



42号住居 全景 西から



42号住居 掘り方全景 南から

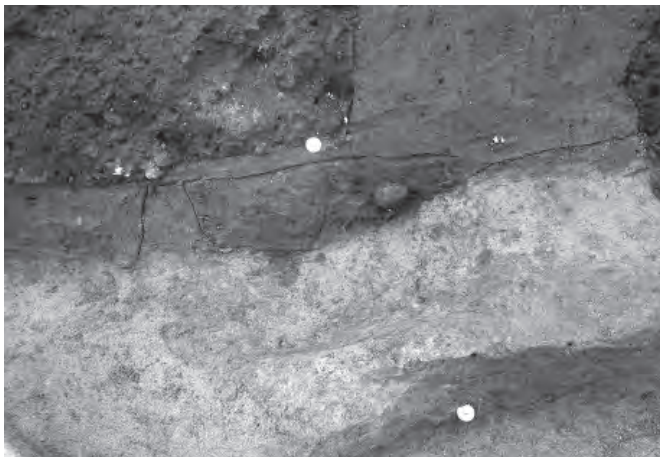




46号住居 全景 北から



46号住居 掘り方全景 北から



50号住居 土層断面 東から



52号住居 全景 北から



52号住居 全景 北から



52号住居 掘り方全景 東から



52号住居 掘り方全景 北から



53号住居 掘り方全景 西から





56号住居 全景 南から



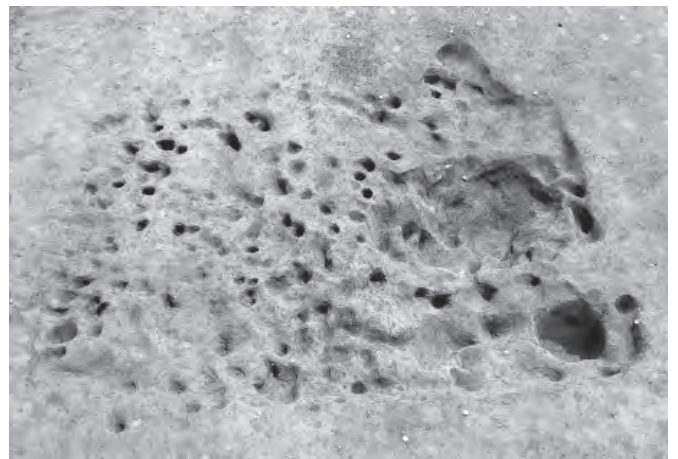
56号住居 掘り方全景 西から



56号住居 カマド全景 西から



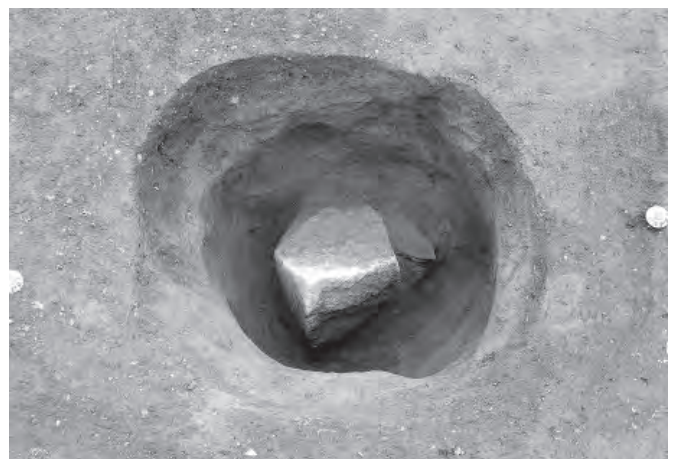
59号住居 全景 西から



59号住居 掘り方全景 西から



59号住居 カマド掘り方全景 西から



59号住居 貯蔵穴全景 西から





60号住居 全景 西から



60号住居 カマド全景 西から



60号住居 カマド土層断面 西から



60号住居 カマド遺物出土状態 東から



61号住居 全景 西から



61号住居 掘り方全景 西から

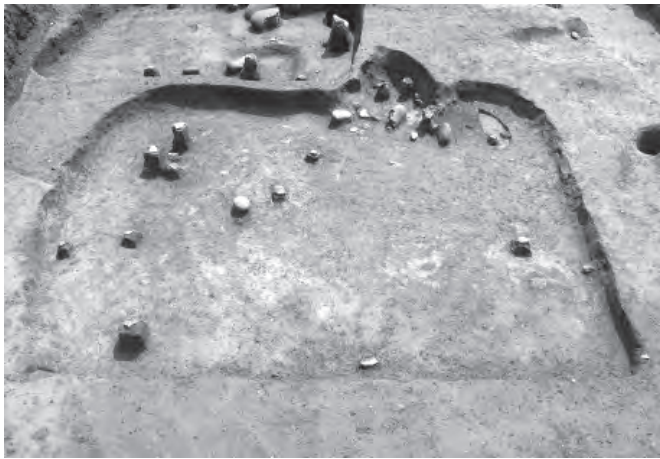


61号住居 カマド全景 西から



61号住居 カマド掘り方全景 西から





62号住居 全景 西から



62号住居 掘り方全景 西から



62号住居 カマド全景 西から



62号住居 カマド掘り方全景 西から



62号住居 貯蔵穴土層断面 西から



62号住居 遺物出土状態 西から



63・75号住居 全景 西から



63号住居 掘り方全景 西から





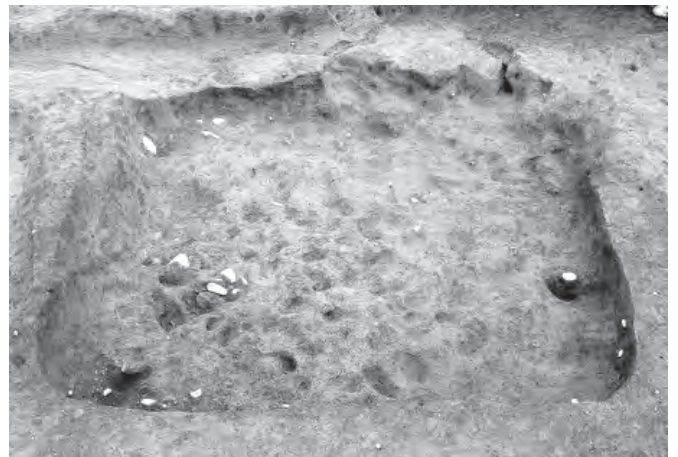
63号住居 カマド全景 西から



63号住居 遺物出土状態 西から



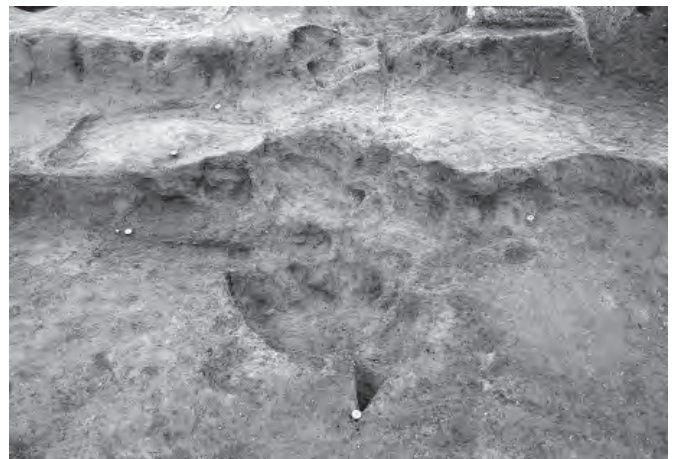
64号住居 全景 西から



64号住居 掘り方全景 西から



64号住居 カマド全景 西から



64号住居 カマド掘り方全景 西から



64号住居 遺物出土状態 東から



66号住居 全景 西から

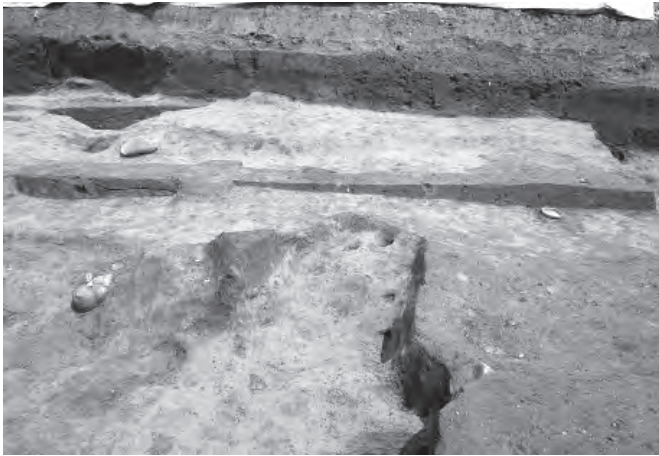




66号住居 遺物出土状態



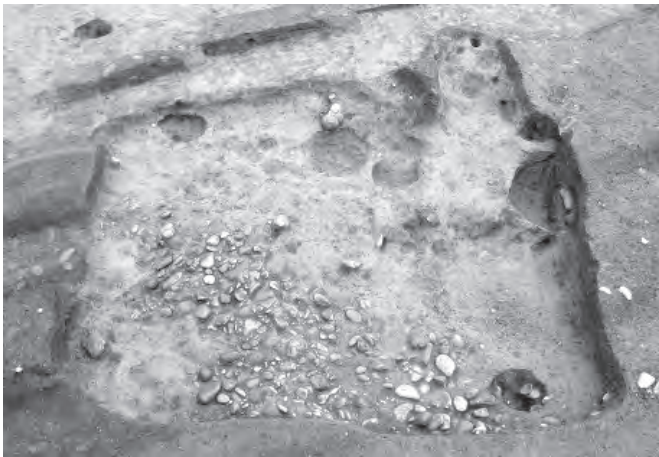
67号住居 全景 西から



68号住居 土層断面 西から



69号住居 全景 西から



69号住居 掘り方全景 西から



69号住居 カマド全景 西から



69号住居 カマド掘り方全景 西から



69号住居 遺物出土状態 西から





69号住居 遺物出土状態



69号住居 遺物出土状態 西から



71号住居 全景 西から



71号住居 遺物出土状態



72号住居 全景 西から



72号住居 掘り方全景 西から

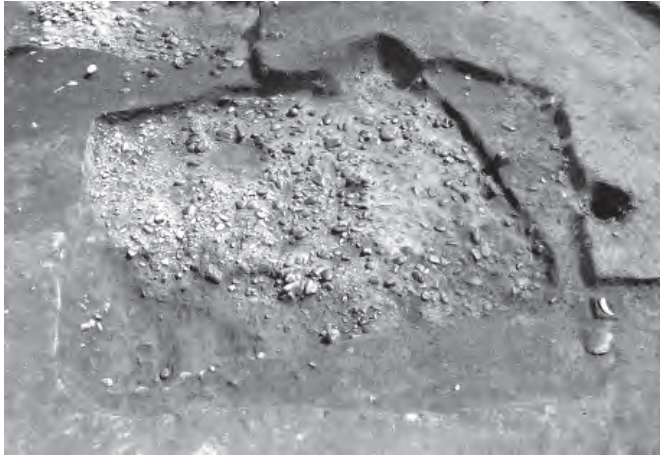


72号住居 カマド全景 西から



72号住居 遺物出土状態 西から





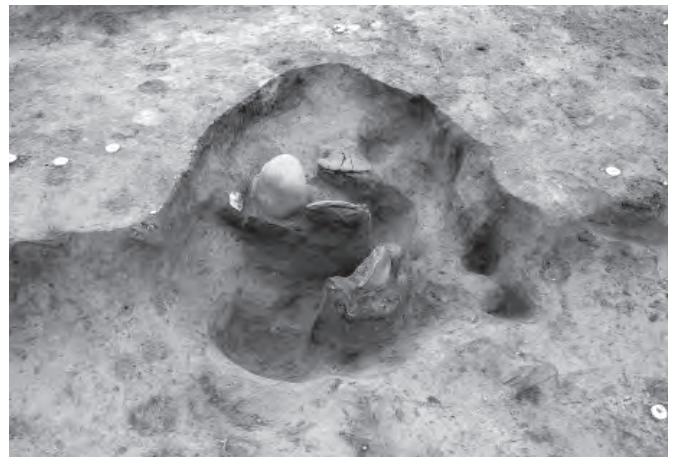
73号住居 全景 西から



73号住居 遺物出土状態 西から



74号住居 全景 西から



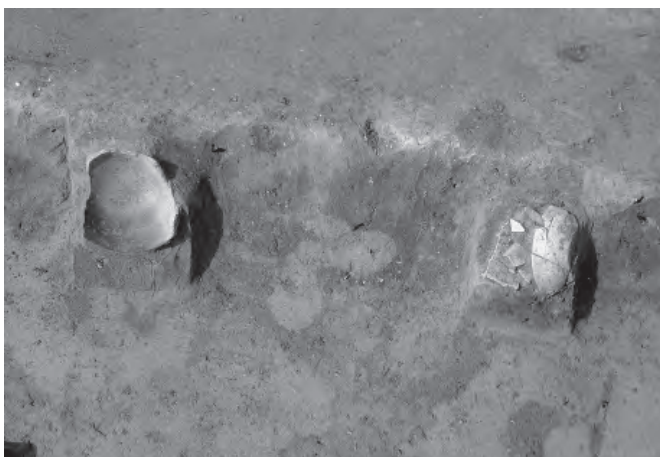
74号住居 カマド掘り方全景 西から



74号住居 遺物出土状態



74号住居 遺物出土状態



74号住居 遺物出土状態



75・97号住居 掘り方全景 北から





75号住居 遺物出土状態 西から



76号住居 全景 西から



75号住居 カマド全景 西から



76号住居 遺物出土状態



76号住居 遺物出土状態



77号住居 土層断面 東から



78号住居 全景 西から



78号住居 カマド全景 西から

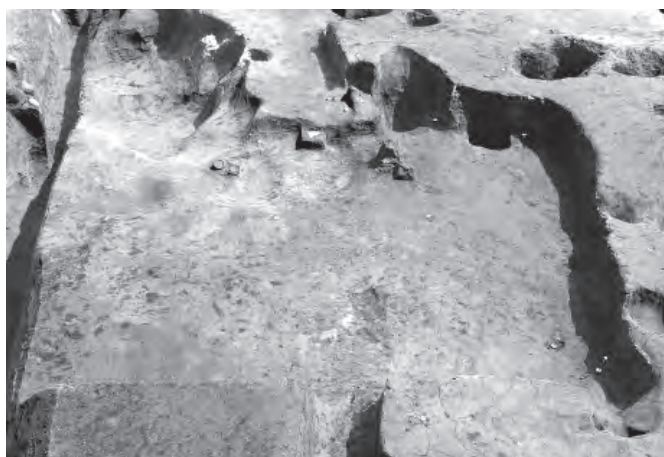




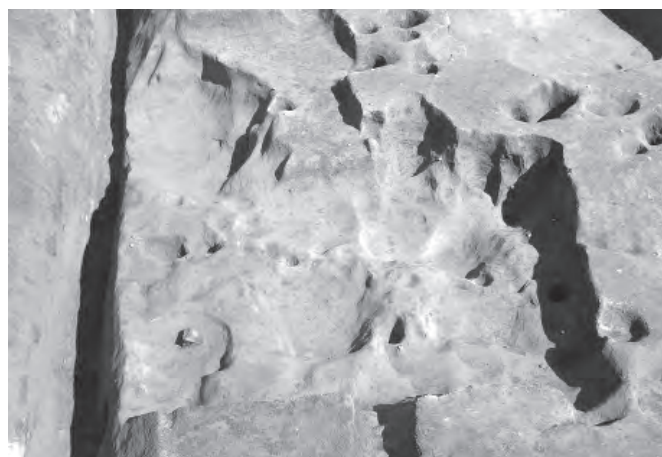
79号住居 全景 西から



79号住居 カマド全景 西から



80号住居 全景 西から



80号住居 掘り方全景 西から



80号住居 カマド全景 西から



80号住居 遺物出土状態 西から



82号住居 全景 西から



82号住居 掘り方全景 西から

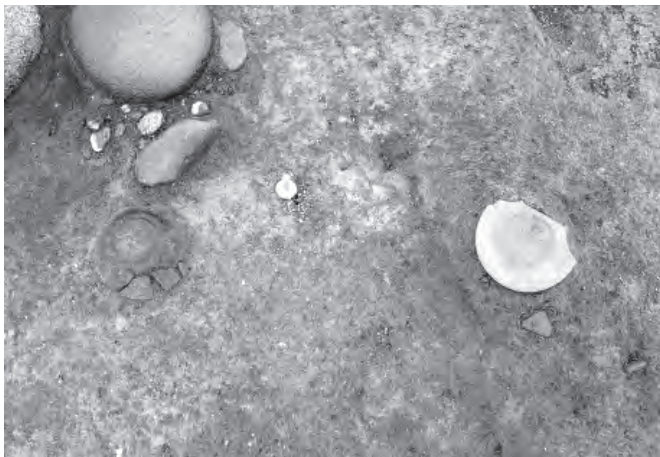




82号住居 カマド全景 西から



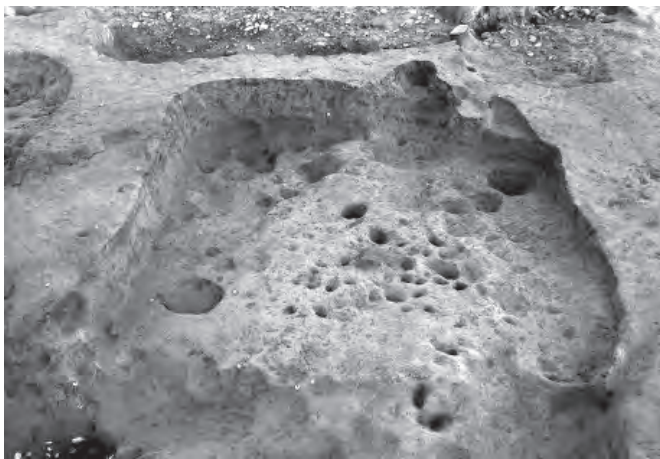
82号住居 カマド掘り方全景 西から



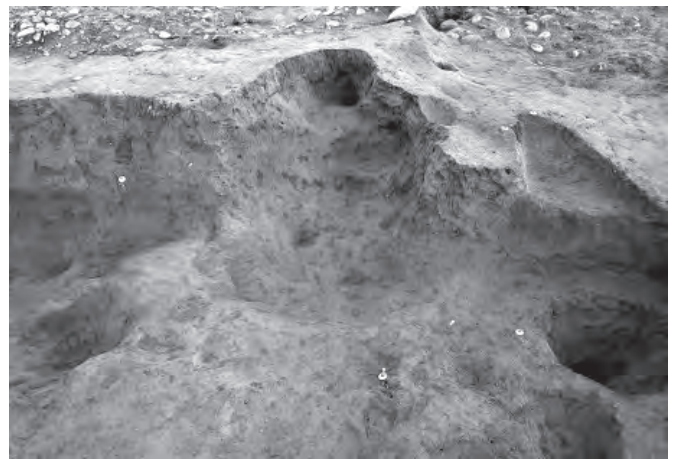
82号住居 遺物出土状態 西から



83号住居 全景 西から



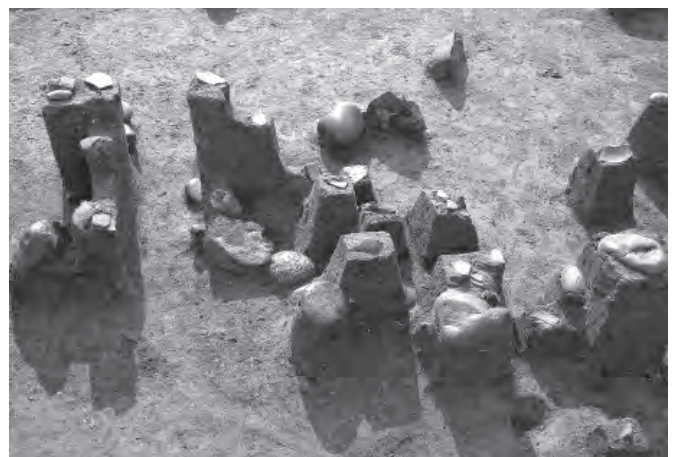
83号住居 掘り方全景 西から



83号住居 カマド掘り方全景



83号住居 遺物出土状態 西から



83号住居 遺物出土状態 西から





84号住居(鍛冶遺構) 全景 西から



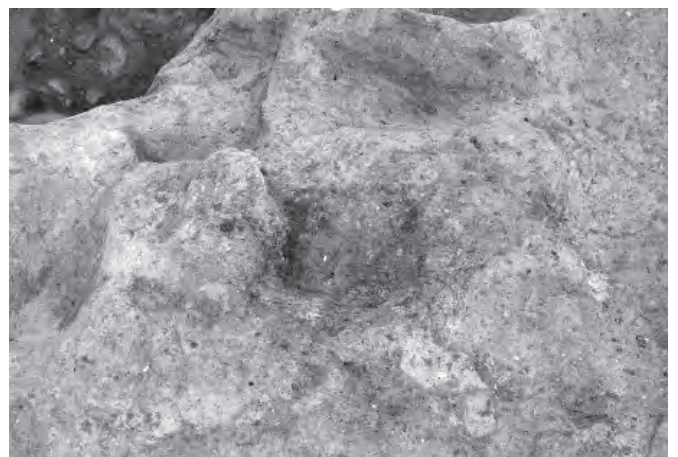
84号住居(鍛冶遺構) 全景 西から



84号住居(鍛冶遺構) 掘り方全景 西から

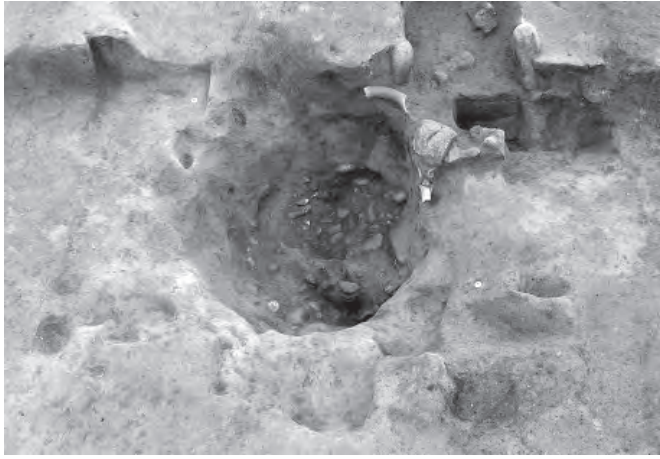


84号住居(鍛冶遺構) カマド全景 西から



84号住居(鍛冶遺構) 炉検出状況 西から





84号住居(鍛冶遺構) 土坑1 全景 西から



84号住居(鍛冶遺構) 遺物出土状態 西から



84号住居(鍛冶遺構) 遺物出土状態 西から



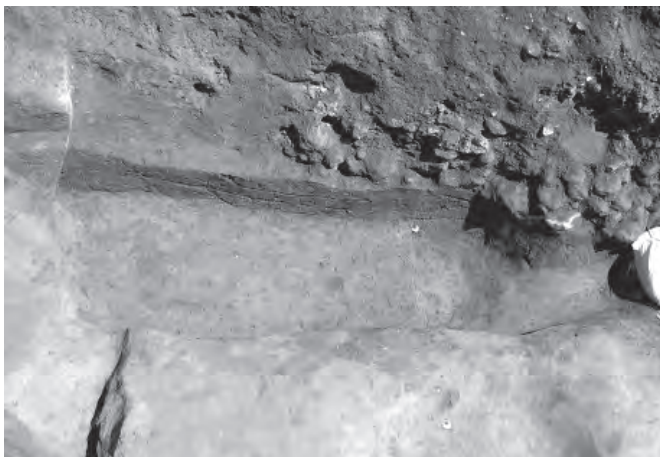
84号住居(鍛冶遺構) 遺物出土状態 西から



86号住居 全景 西から



86号住居 カマド全景 西から



87号住居 全景 西から



88号住居 全景 西から





88号住居 カマド全景 西から



88号住居 遺物出土状態



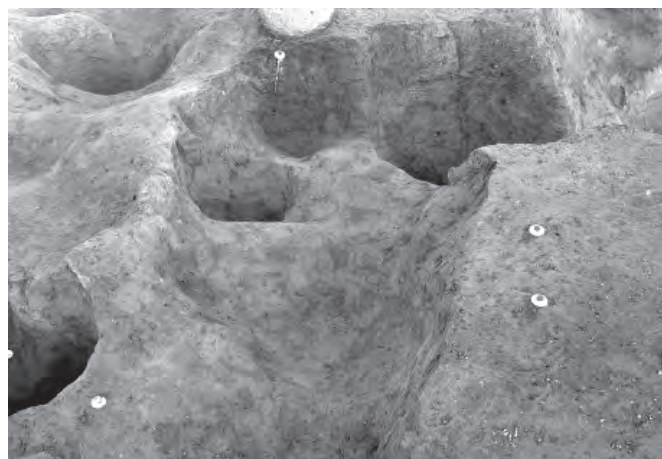
88号住居 遺物出土状態



90号住居 全景 西から



90号住居 掘り方全景 西から



90号住居 カマド掘り方全景 西から



90号住居 遺物出土状態 西から



90号住居 遺物出土状態 西から





92号住居 全景 西から



92号住居 遺物出土状態 西から



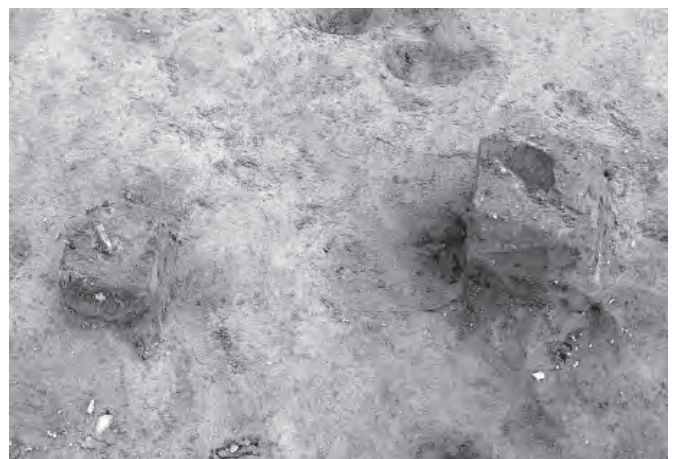
94号住居 全景 西から



94号住居 遺物出土状態 北西から



96号住居 全景 西から



96号住居 遺物出土状態

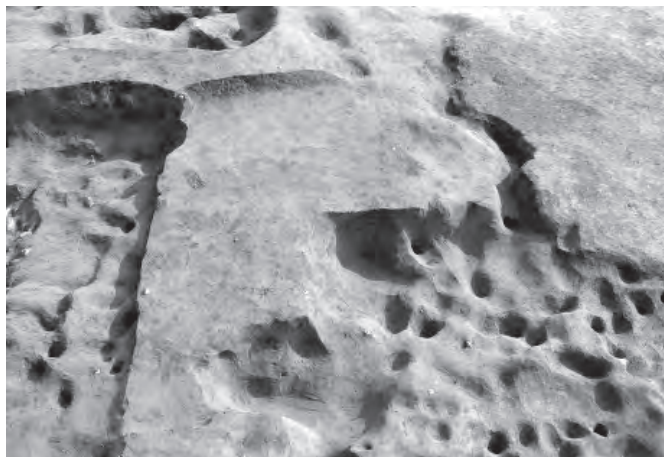


96号住居 遺物出土状態



98号住居 掘り方全景





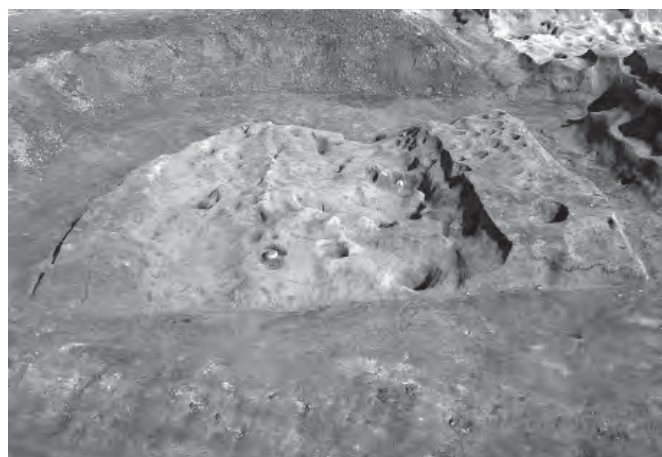
99号住居 全景 北から



101号住居 カマド全景 西から



102号住居 全景 西から



105・106号住居 掘り方全景 西から



105号住居 土層断面



105号住居 遺物出土状態

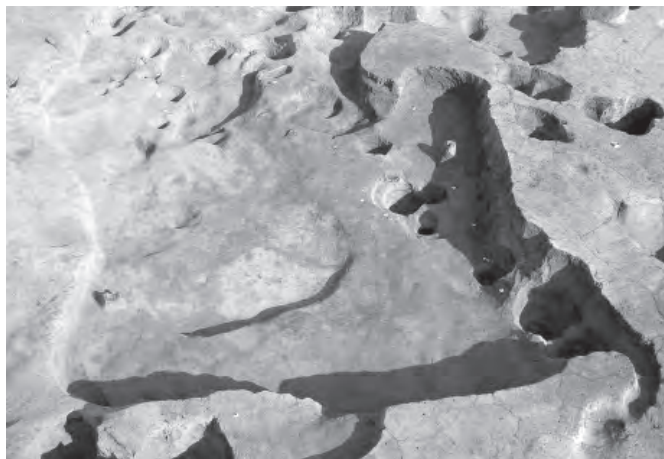


105号住居 遺物出土状態

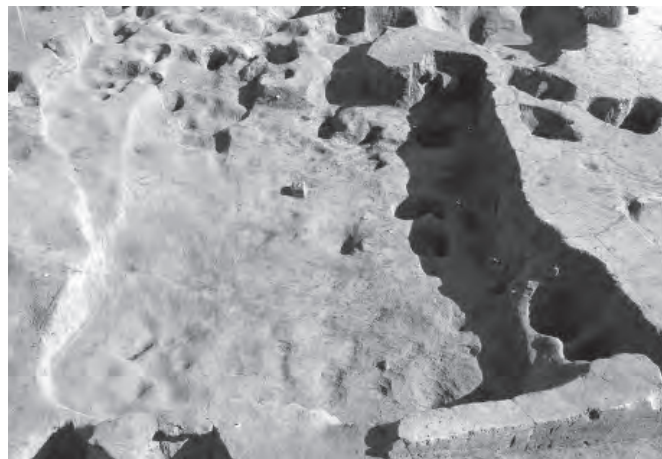


109号住居 カマド全景 西から





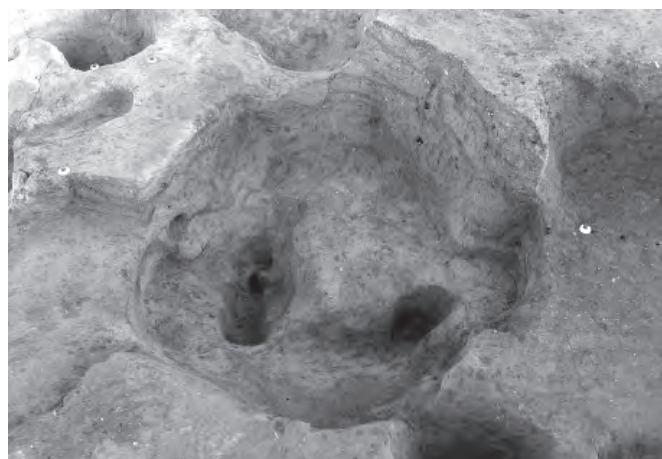
110号住居 全景 西から



110号住居 掘り方全景 西から



110号住居 カマド全景 西から



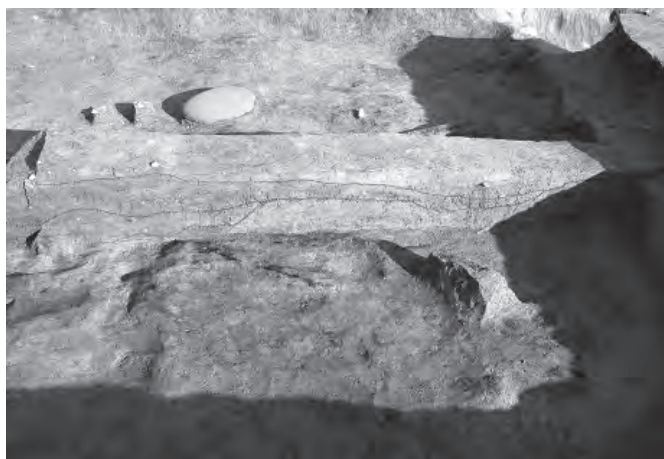
110号住居 カマド掘り方全景 西から



112号住居 遺物出土状態



112号住居 遺物出土状態



113号住居 土層断面 西から



116号住居 掘り方全景 北西から





115号住居 カマド全景 西から



115号住居 カマド掘り方全景



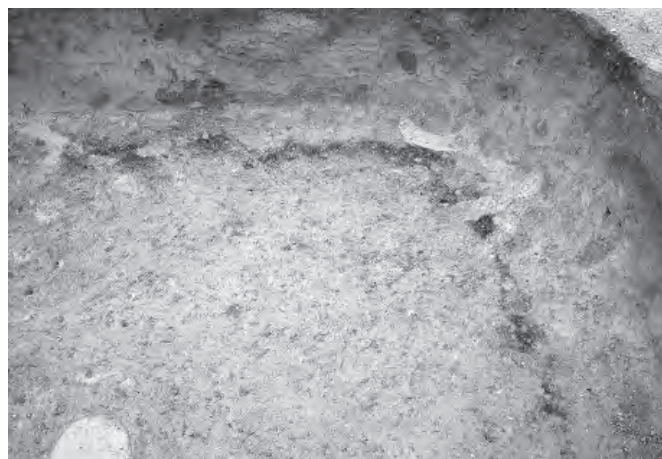
116号住居 全景 西から



116号住居 カマド全景 西から



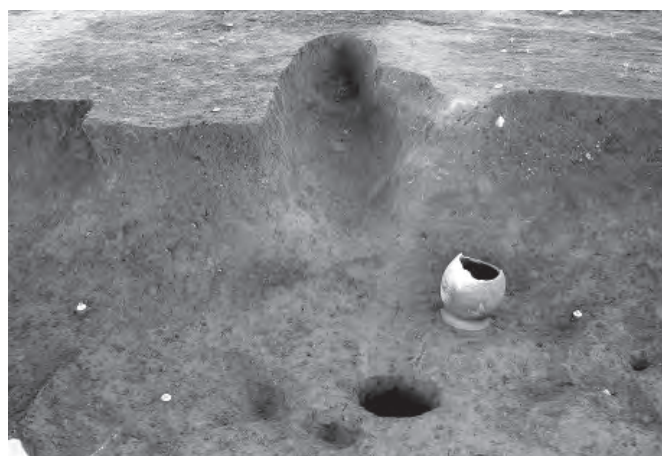
117号住居 全景 西から



117号住居 炭化物検出状況



117号住居 カマド全景 西から



117号住居 カマド掘り方全景 西から





117号住居 遺物出土状態



117号住居 遺物出土状態



117号住居 遺物出土状態



117号住居 遺物出土状態



118号住居(鍛冶遺構) 全景 西から





118号住居(鍛冶遺構) 掘り方全景 西から



118号住居(鍛冶遺構) カマド全景 西から



118号住居(鍛冶遺構) 遺物出土状態 西から



118号住居(鍛冶遺構) 遺物出土状態 西から



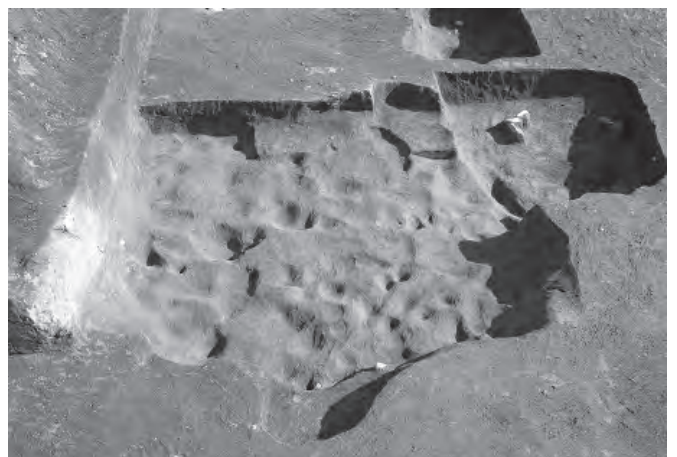
118号住居(鍛冶遺構) 遺物出土状態 西から



118号住居(鍛冶遺構) 遺物出土状態 西から



119号住居 全景



119号住居 掘り方全景





119号住居 カマド全景



119号住居 遺物出土状態



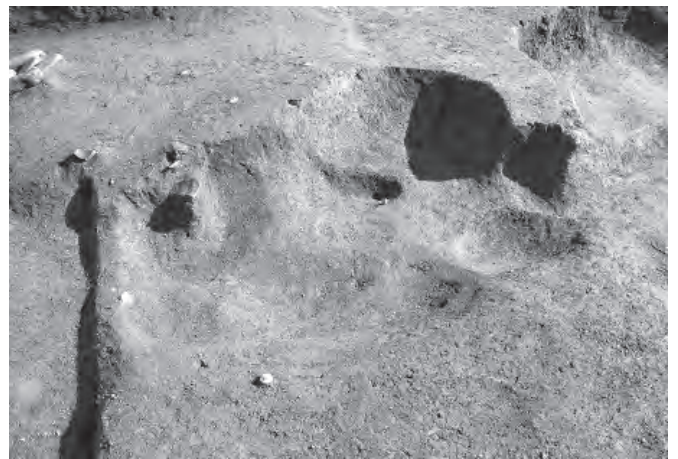
120号住居 全景 西から



120号住居 掘り方全景 西から



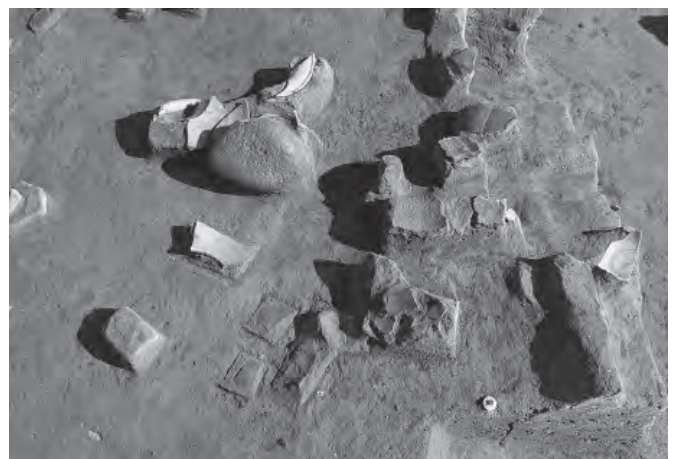
120号住居 カマド全景 西から



120号住居 カマド掘り方全景 西から



120号住居 遺物出土状態 西から



120号住居 遺物出土状態 西から





120号住居 遺物出土状態



120号住居 遺物出土状態



120号住居 遺物出土状態



120号住居 遺物出土状態



121号住居 掘り方全景 西から



121号住居 カマド全景 西から



125号住居 全景 西から

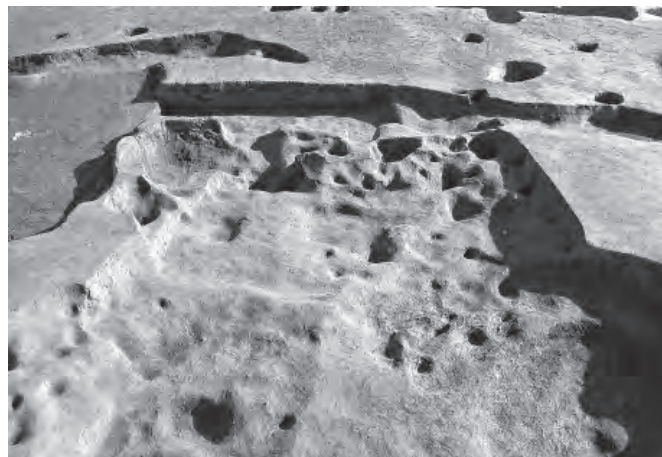


125号住居 掘り方全景 西から





125号住居 遺物出土状態



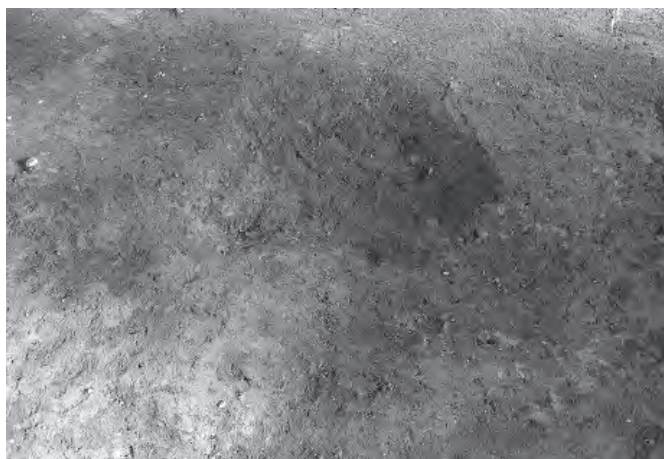
126号住居 掘り方全景 西から



127・175号住居 全景 西から



127・175号住居 掘り方全景 西から



127号住居 カマド全景 西から



127号住居 P1土層断面



128号住居 全景 北から



128号住居 掘り方全景 北から





128号住居 カマド全景 北から



128号住居 カマド掘り方全景 北から



130号住居 全景 西から



130号住居 掘り方全景 西から



130号住居 カマド全景 西から





130号住居 カマド掘り方全景 西から



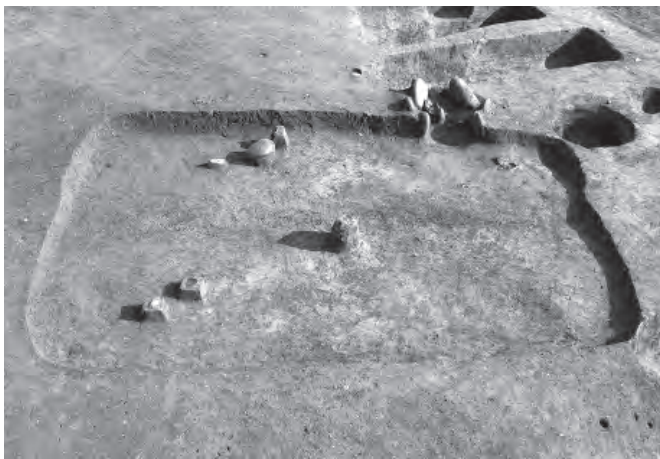
130号住居 遺物出土状態



130号住居 遺物出土状態



130号住居 遺物出土状態



131号住居 全景 西から



131号住居 掘り方全景 西から



131号住居 カマド全景 西から



131号住居 カマド掘り方全景 西から





132号住居 全景 東から



132号住居 掘り方全景 東から



132号住居 カマド全景 東から



132号住居 カマド掘り方全景 東から



132号住居 貯蔵穴全景 東から



132号住居 土層断面 南西から



132号住居 遺物出土状態 南東から



132号住居 遺物出土状態 北西から





135号住居 全景 西から



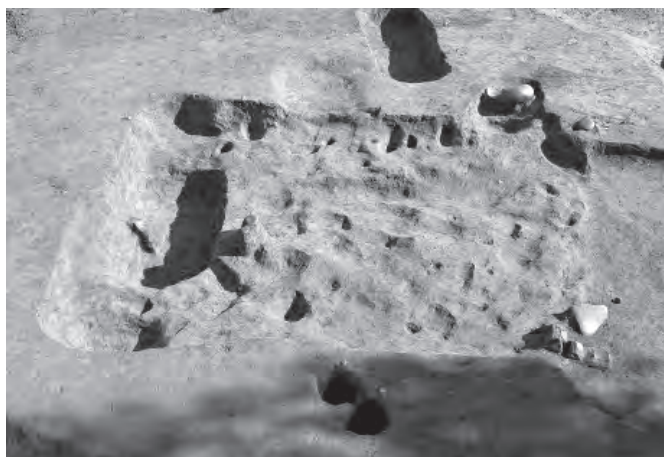
135号住居 掘り方全景 西から



135号住居 カマド全景 西から



135号住居 カマド掘り方全景 西から



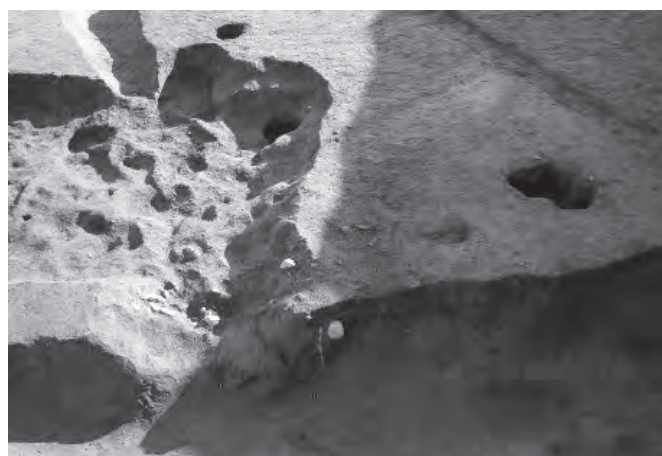
136号住居 掘り方全景 西から



136号住居 カマド掘り方全景 西から



136号住居 遺物出土状態



137号住居 全景 西から





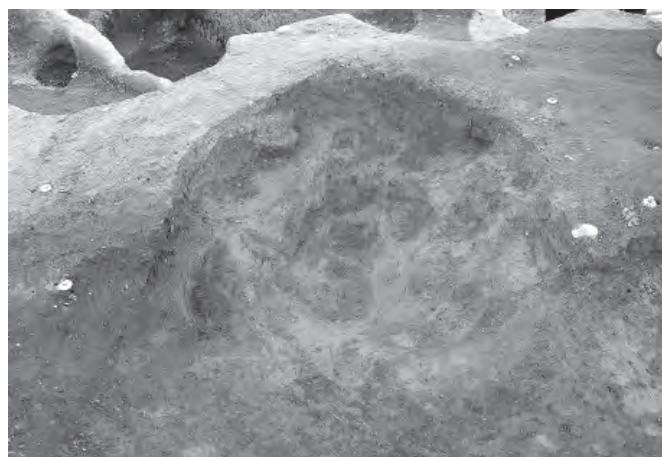
139号住居 全景 西から



139号住居 掘り方全景 西から



139号住居 カマド全景 西から



139号住居 カマド掘り方全景 西から



141号住居 全景 西から



141号住居 掘り方全景 西から



141号住居 カマド全景 西から



142号住居 全景 西から





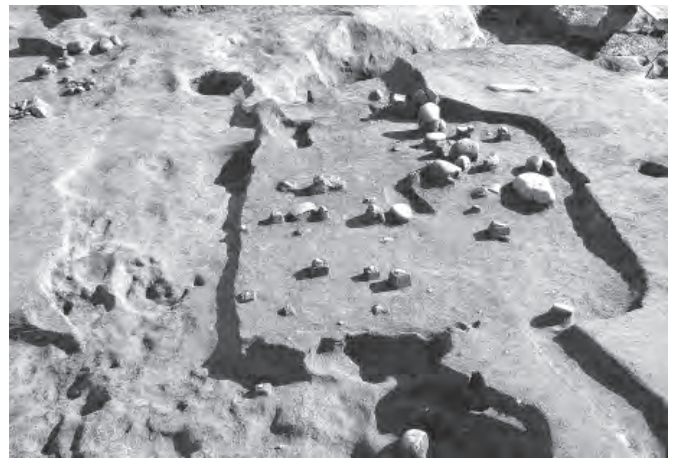
142号住居 掘り方全景 西から



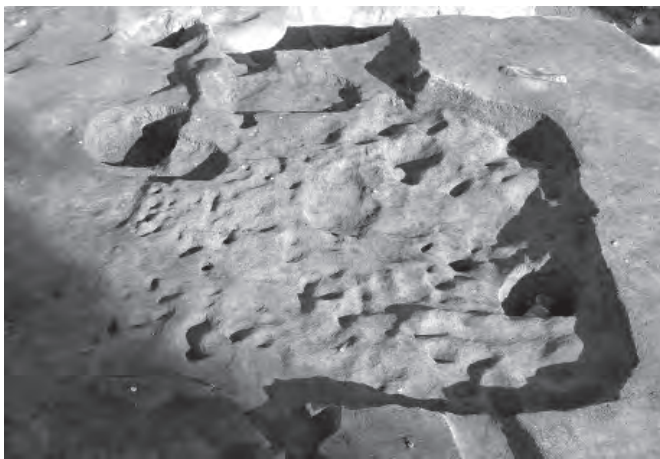
142号住居 カマド全景 西から



142号住居 遺物出土状態



143号住居 全景 西から



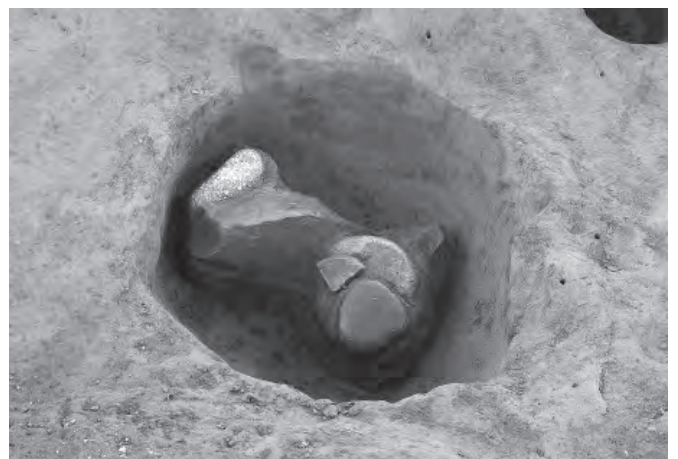
143号住居 掘り方全景 西から



143号住居 カマド全景 西から



143号住居 カマド掘り方全景 西から



143号住居 土坑1全景

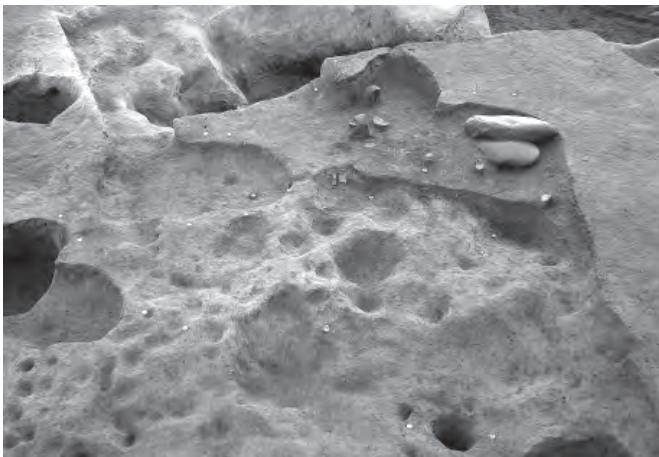




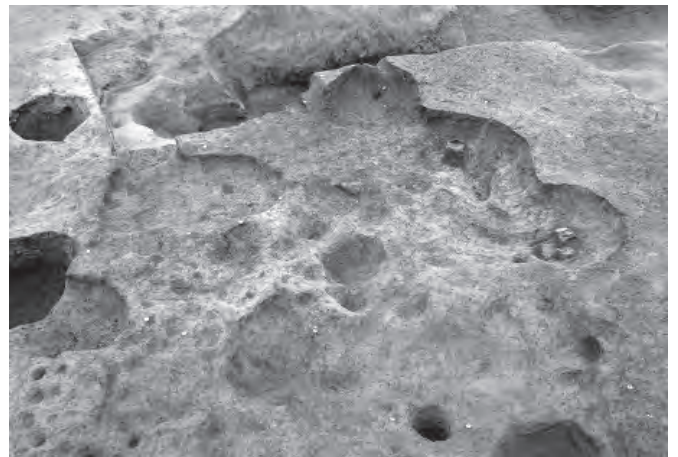
143号住居 遺物出土状態 北西から



143号住居 遺物出土状態 南西から



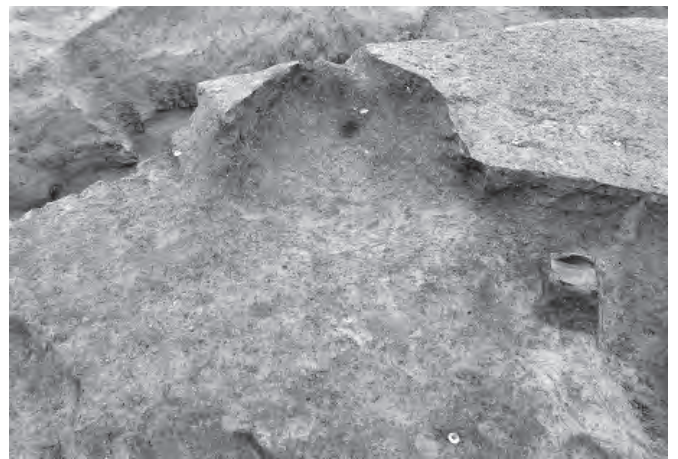
144号住居 全景 西から



144号住居 掘り方全景 西から



144号住居 カマド全景 西から



144号住居 カマド掘り方全景 西から

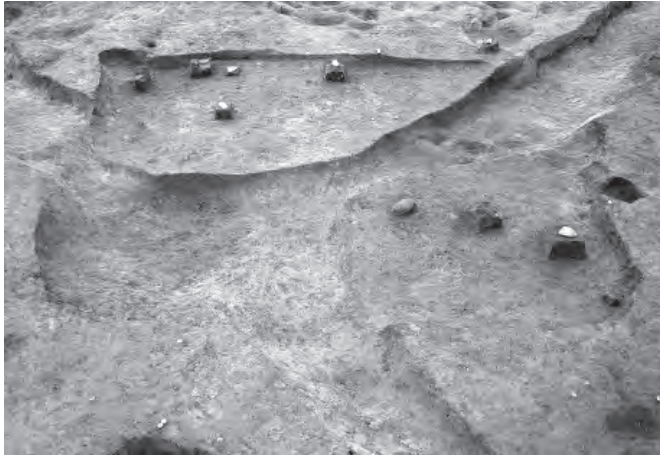


144号住居 遺物出土状態 西から



145号住居 全景 北から

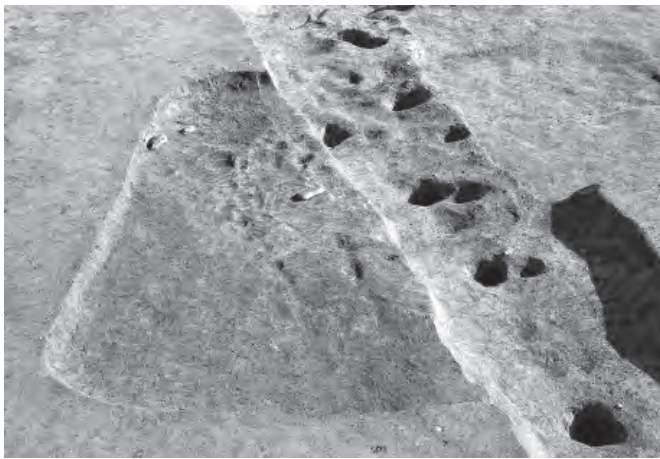




147号住居 全景 西から



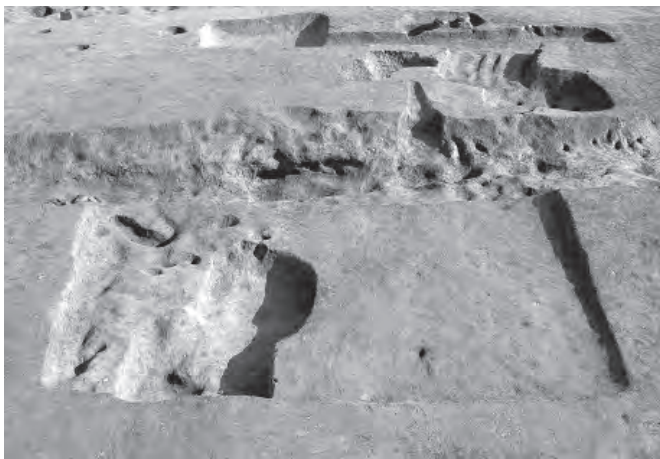
147号住居 掘り方全景 西から



150号住居 全景 西から



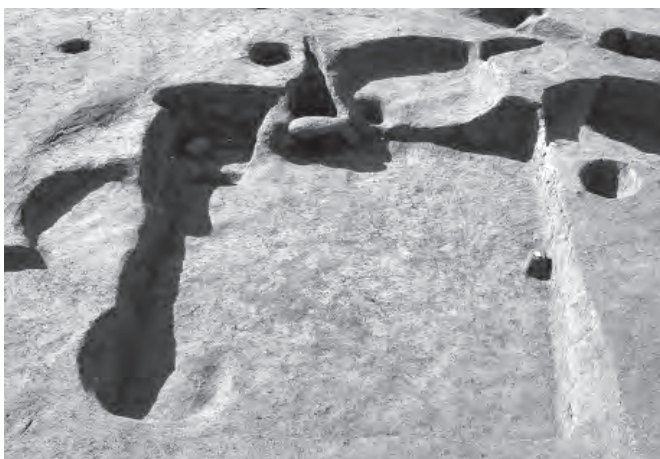
150号住居 掘り方全景 西から



152号住居 全景 西から



152号住居 カマド全景 西から



153号住居 全景 東から



153号住居 掘り方全景 東から





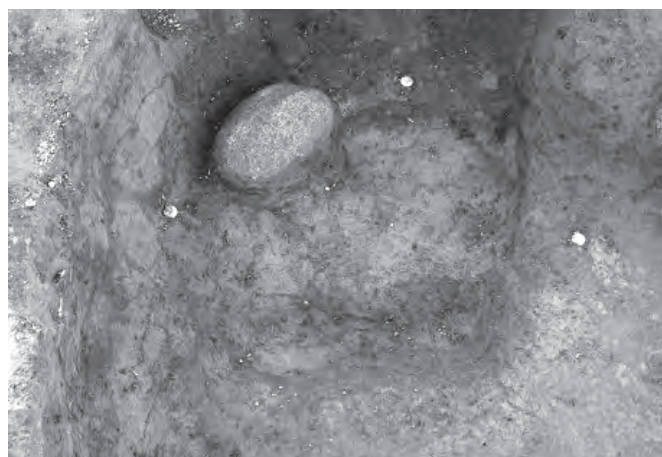
153号住居 カマド全景 東から



153号住居 カマド掘り方全景 東から



153号住居 カマド掘り方全景 東から



153号住居 貯蔵穴全景 東から



154号住居 全景 西から



154号住居 カマド全景 西から



154号住居 遺物出土状態 西から

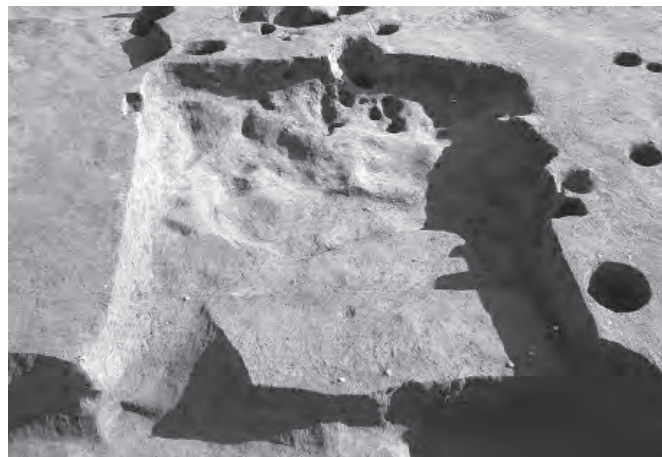


154号住居 遺物出土状態





156号住居 全景 西から



156号住居 掘り方全景 西から



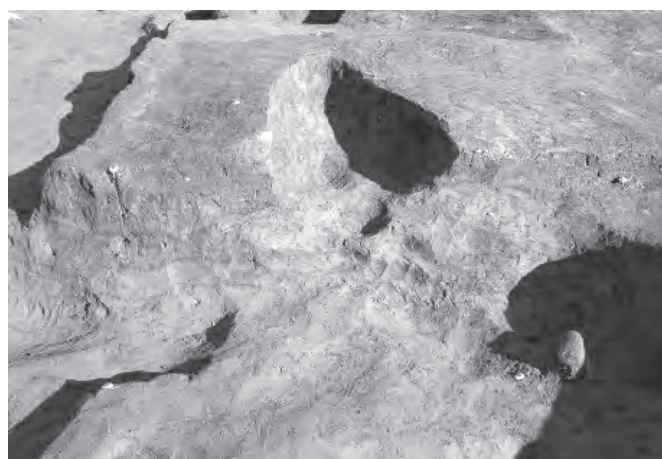
156号住居 カマド全景 西から



156号住居 カマド掘り方全景 西から



157号住居 掘り方全景 西から



157号住居 カマド掘り方全景 西から



158号住居 全景 東から



158号住居 掘り方全景 東から

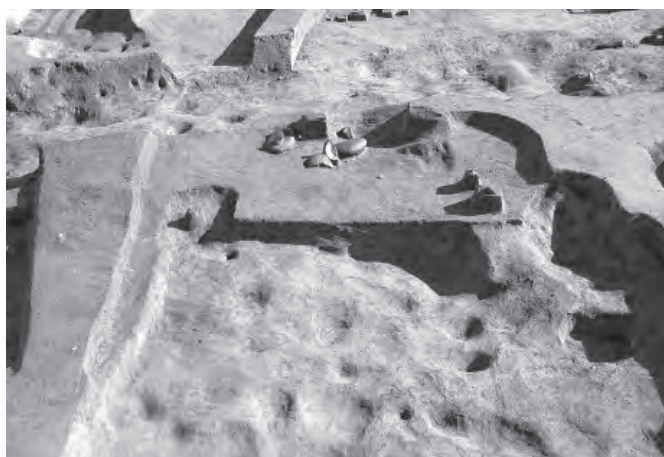




158号住居 カマド全景 東から



158号住居 遺物出土状態 北西から



160号住居 全景 西から



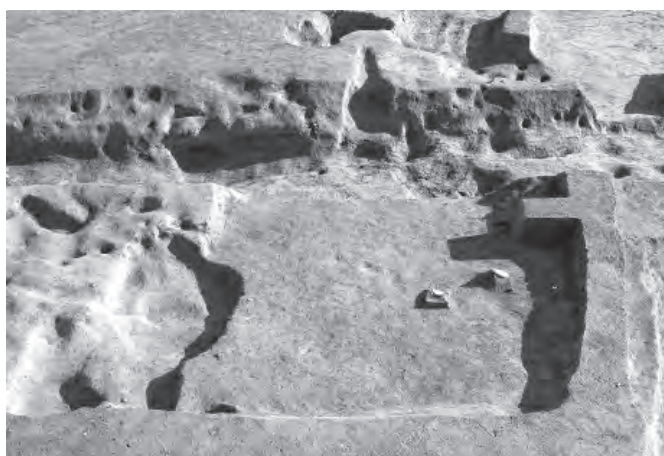
160号住居 掘り方全景 西から



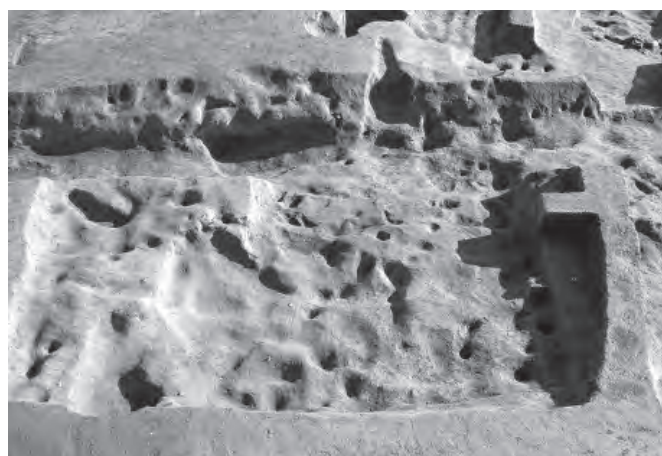
160号住居 カマド全景 西から



160号住居 遺物出土状態

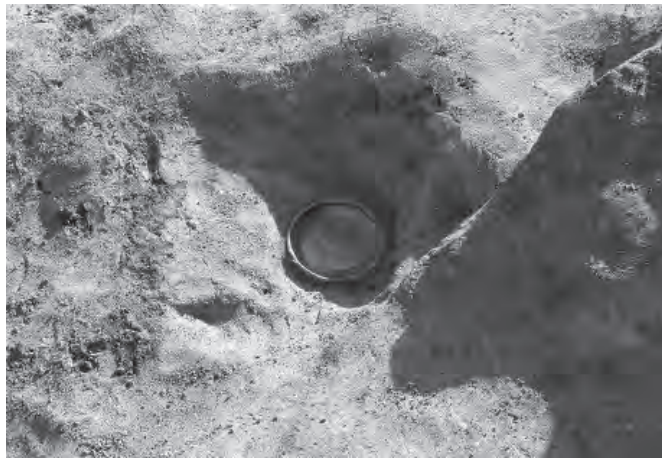


161号住居 全景 西から

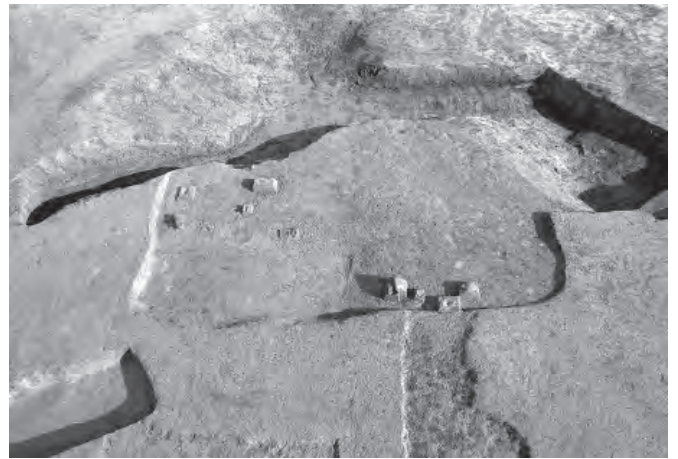


161号住居 掘り方全景 西から





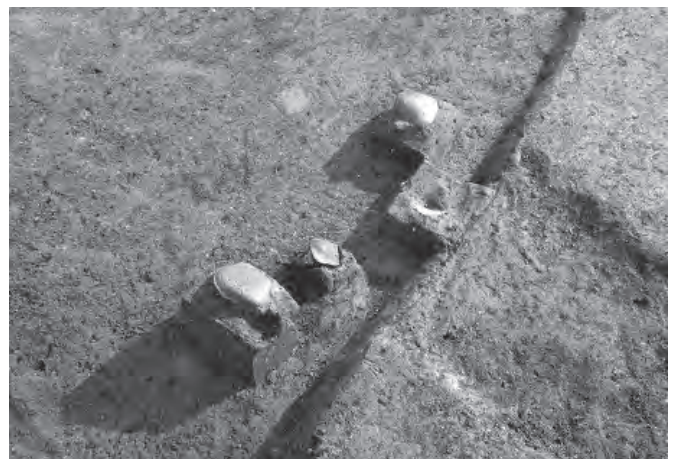
161号住居 遺物出土状態 北西から



162号住居 全景 西から



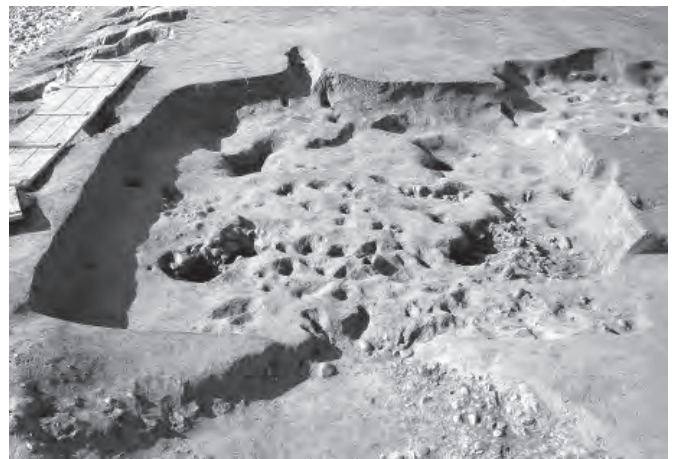
162号住居 掘り方全景 西から



162号住居 遺物出土状態 北西から



167号住居 全景 東から



167号住居 掘り方全景 東から



167号住居 カマド全景 東から

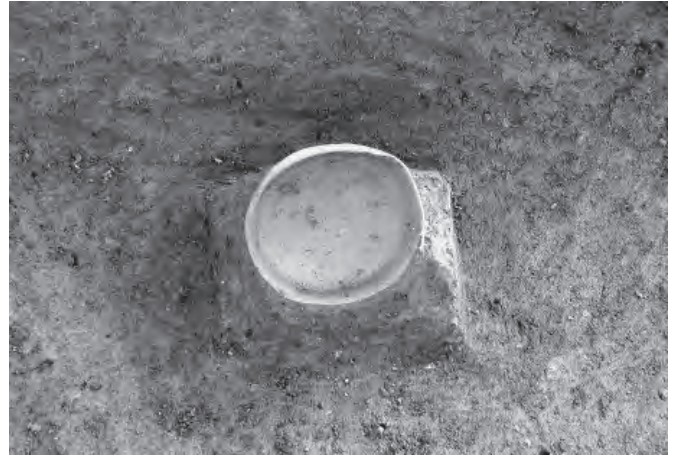


167号住居 カマド掘り方全景 東から





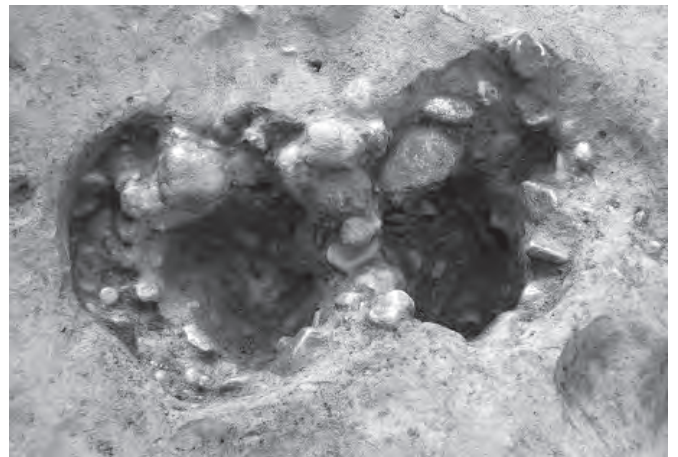
167号住居 遺物出土状態 北東から



167号住居 遺物出土状態 北から



167号住居 柱穴完掘状況



167号住居 柱穴完掘状況



168号住居 全景 西から



168号住居 カマド全景 西から



170号住居 全景 東から



170号住居 カマド全景 東から





170号住居 カマド掘り方全景 東から



170号住居 遺物出土状態



170号住居 遺物出土状態



170号住居 遺物出土状態



172号住居 全景 西から



175号住居 全景 西から

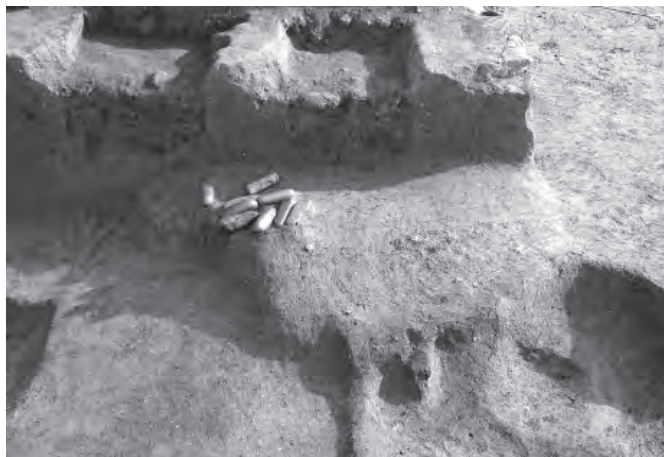


175号住居 カマド全景 西から

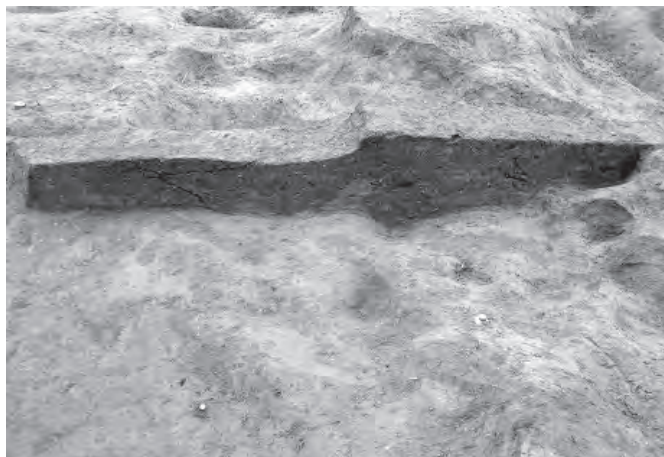


175号住居 カマド掘り方全景 西から





176号住居 遺物出土状態 西から



179号住居 掘り方土層断面

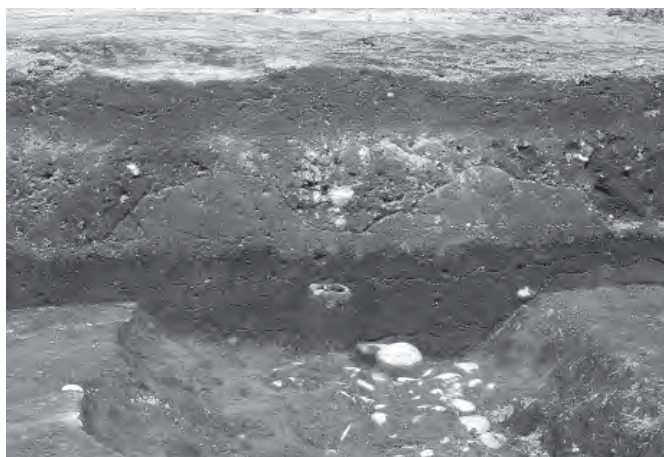


180号住居 カマド掘り方全景 西から

2面II期  
田口上田尻遺跡  
溝・畑・土坑



7号溝 全景 西から



7号溝 東壁土層断面 西から



17・18号溝 全景 南から



18号溝 土層断面 南から





71号溝 全景



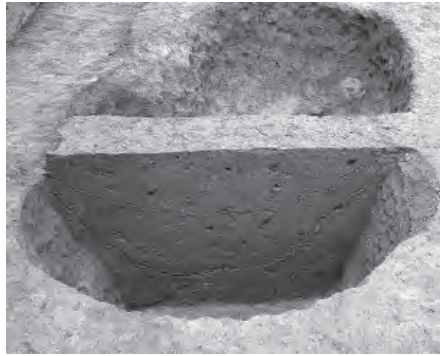
81号溝 全景 北から



29号畑 全景 南から



5号土坑 全景 南から



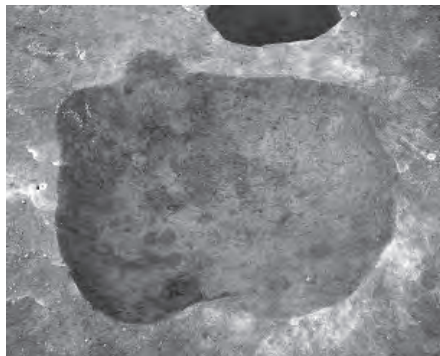
5号土坑 土層断面 東から



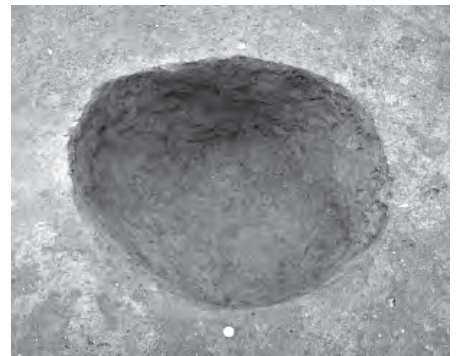
10号土坑 全景 西から



12号土坑 全景 北から



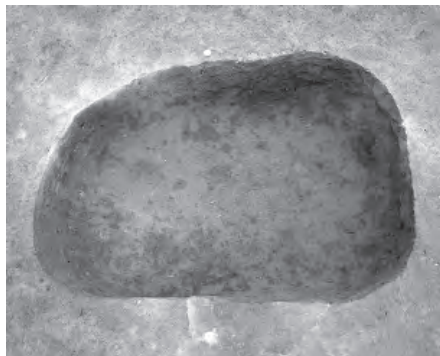
13号土坑 全景 東から



15号土坑 全景 東から



15号土坑 土層断面 南から



16号土坑 全景 東から



18号土坑 土層断面 北から



19号土坑 全景 南東から



20号土坑 全景 西から

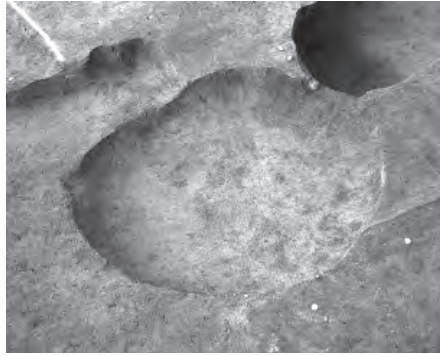


31号土坑 全景 南から





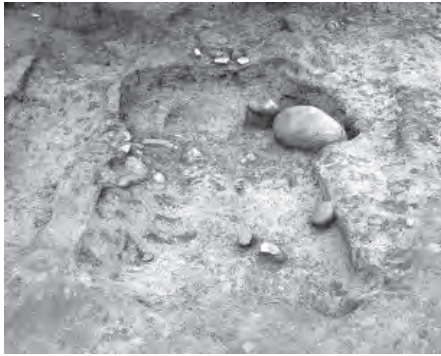
32号土坑 全景 南から



33号土坑 全景 南から



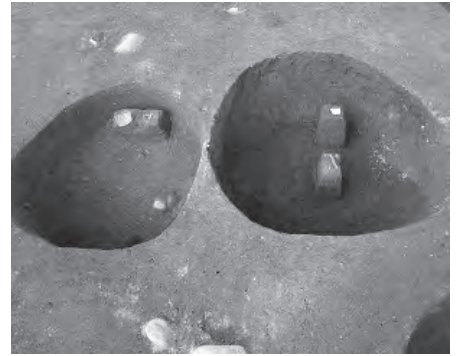
38号土坑 全景 南から



41号土坑 全景 東から



42・43号土坑 全景 北から



62・63号土坑 全景 南から



64号土坑 全景 南から



83号土坑 全景 北から



87号土坑 全景 東から



149号土坑 全景 西から



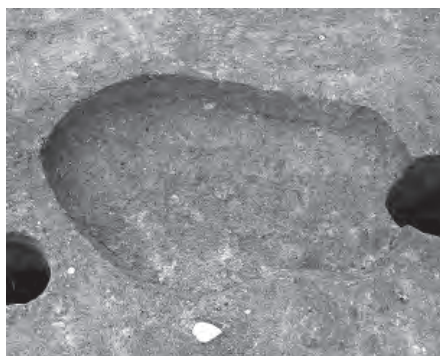
191号土坑 全景 西から



193号土坑 全景 西から



202号土坑 全景 北から



206号土坑 全景 南から



208号土坑 全景 西から





209号土坑 全景 西から



223号土坑 全景 東から



225号土坑 全景 北から



228号土坑 全景 南から



230号土坑 土層断面 南から



240号土坑 全景 北から



241号土坑 全景 西から



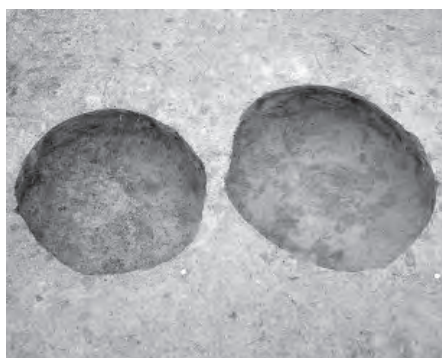
304・305号土坑 全景 東から



319号土坑 全景 北から



326・332～334号土坑 全景 北西から



335・336号土坑 全景 南東から



347号土坑 全景 北から



351号土坑 全景 南から



368号土坑 全景 西から



368号土坑 遺物出土状態 北西から

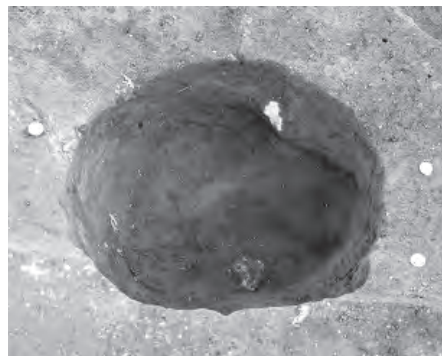




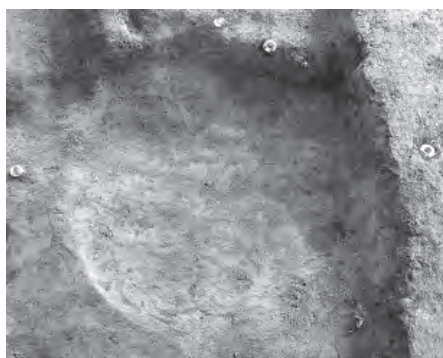
370号土坑 全景 南から



380号土坑 全景 南から



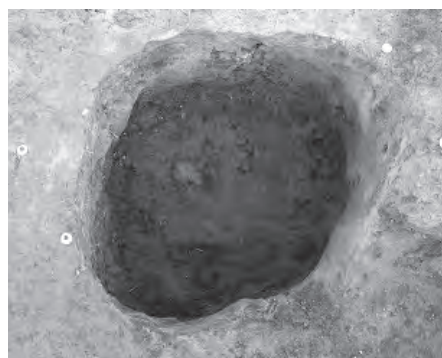
390号土坑 全景



404号土坑 全景 東から



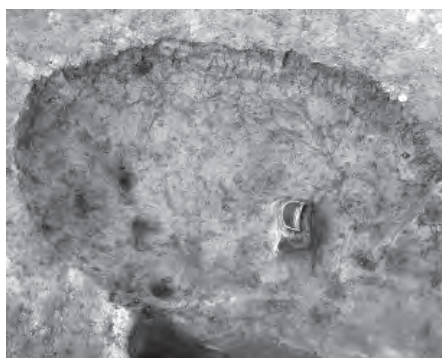
409・410号土坑 全景 北から



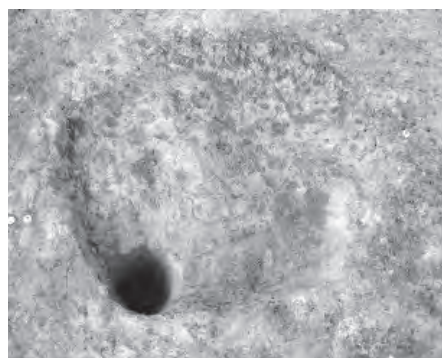
414号土坑 全景 西から



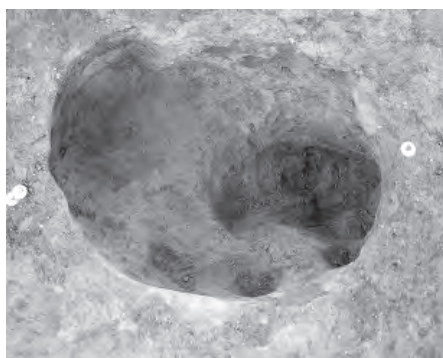
415号土坑 全景 西から



417号土坑 全景 南から



419号土坑 全景 南から



420号土坑 全景 南から



426号土坑 全景 南から



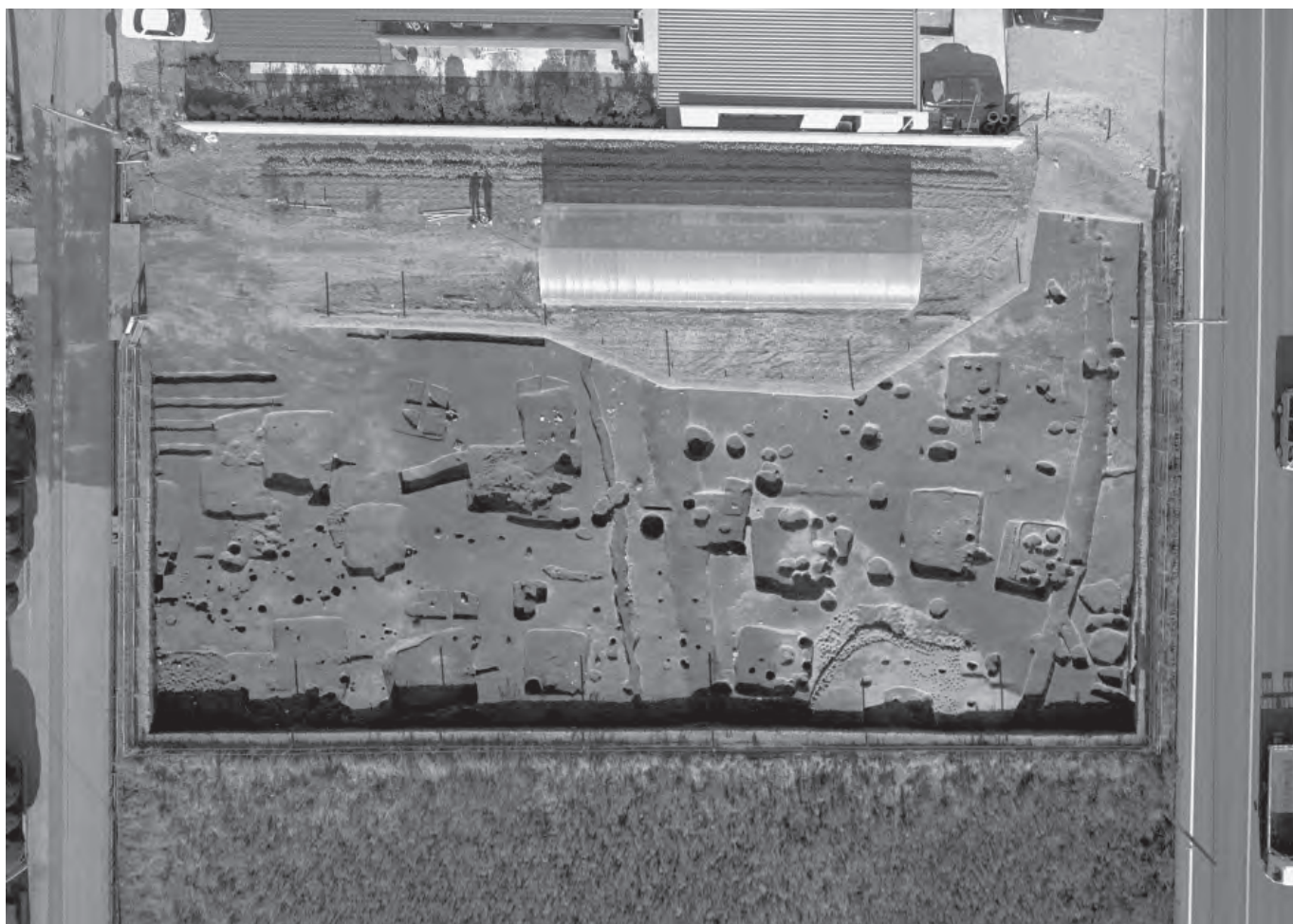
429～431号土坑 全景 東から



2面II期  
田口下田尻遺跡  
竪穴住居



II区北側 全景 空撮



II区南側 全景 空撮



I区北側 全景 空撮



IV区 全景 空撮





Ⅲ区 全景 空撮



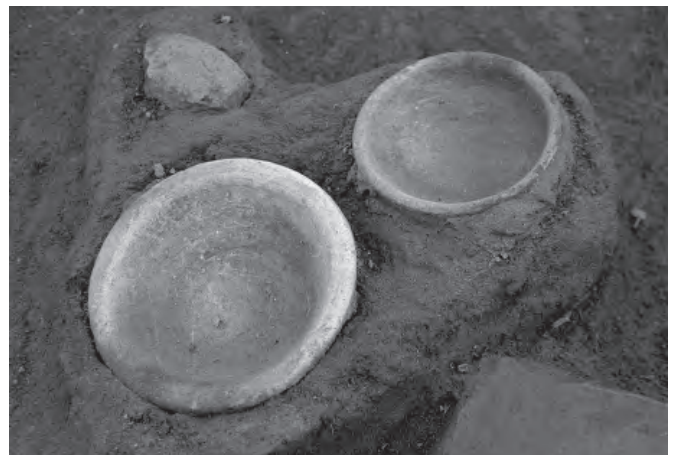
1号住居 全景 西から



1号住居 カマド全景 西から



1号住居 カマド掘り方全景 西から



1号住居 遺物出土状態





2号住居 全景 西から



2号住居 掘り方全景 西から



2号住居 遺物出土状態



2号住居 遺物出土状態



2号住居 遺物出土状態



3号住居 全景 西から



3号住居 カマド全景 西から



3号住居 カマド掘り方全景 西から





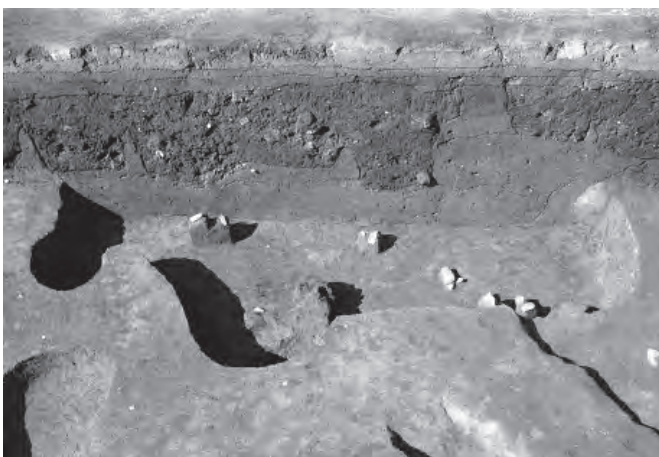
4号住居 全景 南東から



4号住居 遺物出土状態 南から



5号住居(鍛冶遺構) 全景 西から

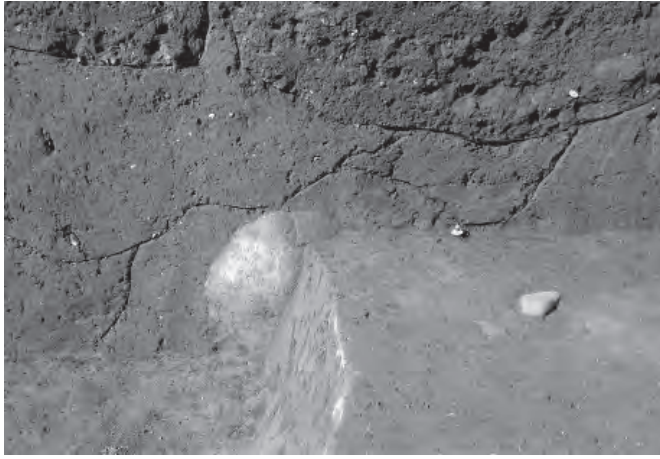


5号住居(鍛冶遺構) 南側全景 南から

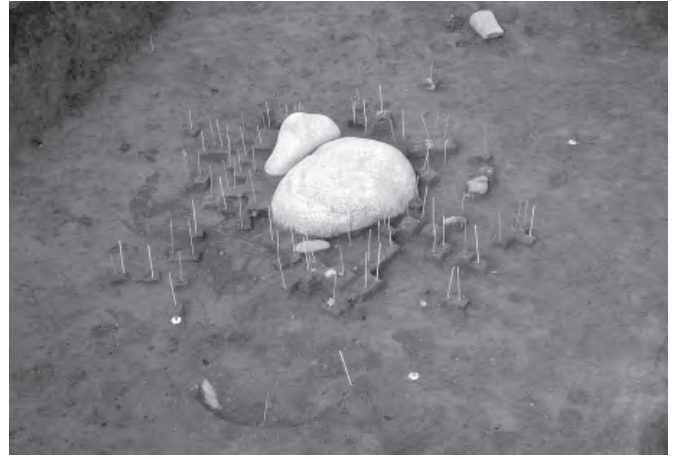


5号住居(鍛冶遺構) カマド全景 西から





5号住居(鍛冶遺構) カマド検出状況 南から



5号住居(鍛冶遺構) 台石・鍛造剥片出土状態 西から



5号住居(鍛冶遺構) 遺物出土状態



5号住居(鍛冶遺構) 牛下顎骨出土状態 西から



7・8号住居 全景 北から



8号住居 南東部全景 西から



7号住居 カマド全景 東から



8号住居 カマド全景 西から





9号住居 全景 西から



9号住居 貯蔵穴遺物出土状態 北から



10号住居 全景 西から



10号住居 掘り方全景 西から



10号住居 遺物出土状態 西から



10号住居 遺物出土状態 南西から



11号住居 全景 西から



11号住居 掘り方全景 西から





11号住居 遺物出土状態 西から



11号住居 カマド全景 西から



11号住居 カマド掘り方全景 西から



11号住居 遺物出土状態 西から



11号住居 土坑6遺物出土状態 西から





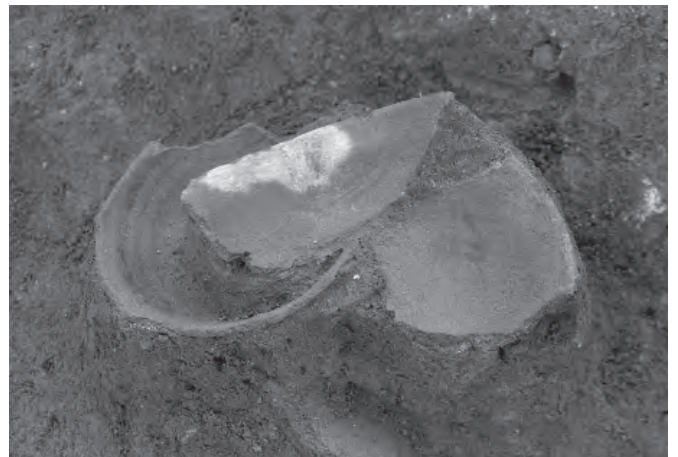
12号住居 全景 西から



12号住居 掘り方全景 西から



12号住居 カマド全景 西から



12号住居 遺物出土状態 北から



14号住居 全景 西から



14号住居 カマド全景 西から



14号住居 遺物出土状態 東から

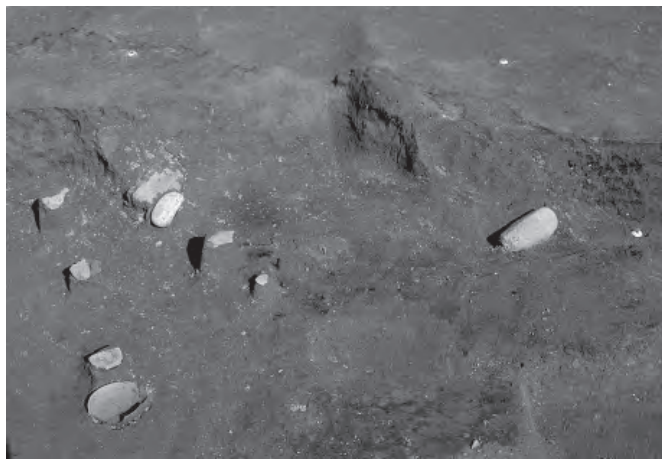


14号住居 遺物出土状態 北から

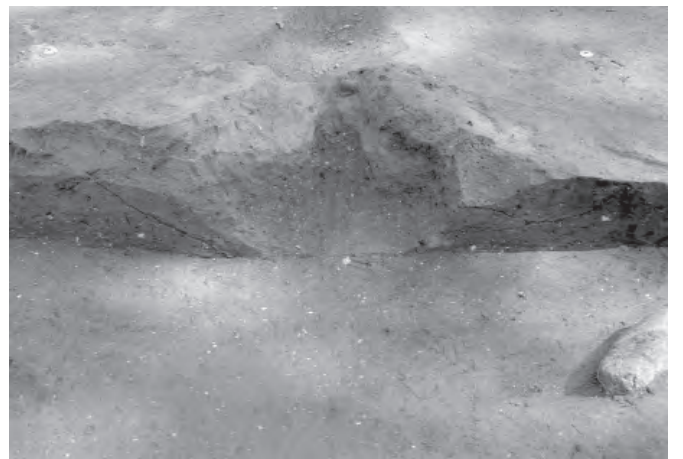




15号住居 全景 南西から



15号住居 カマド全景 南西から



15号住居 カマド掘り方全景 南西から



15号住居 東西土層断面 南東から



15号住居 P4土層断面

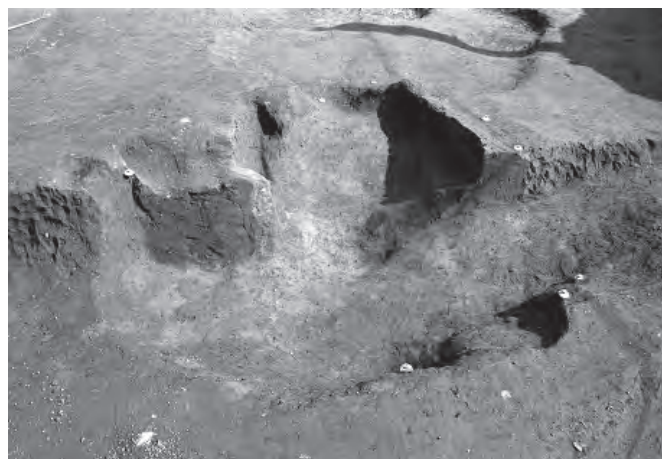




16号住居 全景 北から



16号住居 カマド全景 西から



16号住居 カマド掘り方全景 西から



16号住居 遺物出土状態 東から



16号住居 西壁石組み施設 東から





16号住居 西壁石組み施設 北から



16号住居 西壁石組み施設 西から



16号住居 遺物出土状態 西から



16号住居 カマド焼骨出土状態



17号住居 全景 西から





17号住居 掘り方全景 西から



17号住居 カマド全景 西から



17号住居 カマド掘り方全景 西から



17号住居 遺物出土状態



17号住居 遺物出土状態 南西から



17号住居 遺物出土状態



17号住居 遺物出土状態



17号住居 礫出土状態





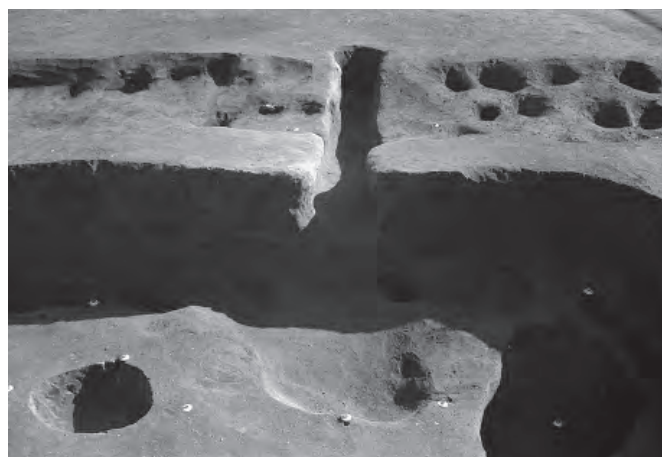
18号住居 全景 西から



18号住居 掘り方全景 北西から



18号住居 カマド全景 西から



18号住居 カマド掘り方全景 西から



19号住居 全景 西から

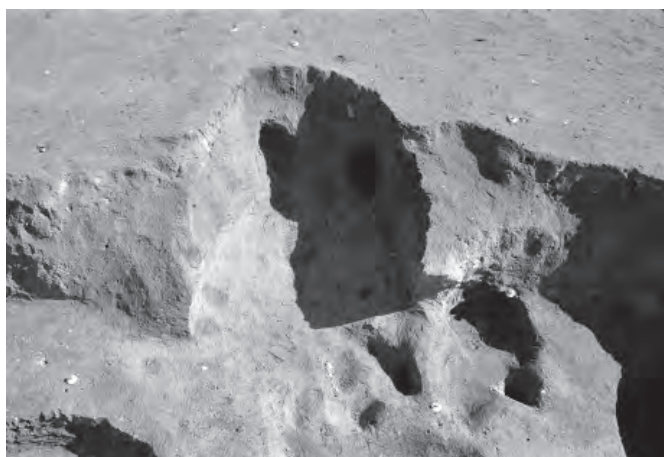




19号住居 掘り方全景 西から



19号住居 カマド全景 西から



19号住居 カマド掘り方全景 西から



19号住居 遺物出土状態 西から



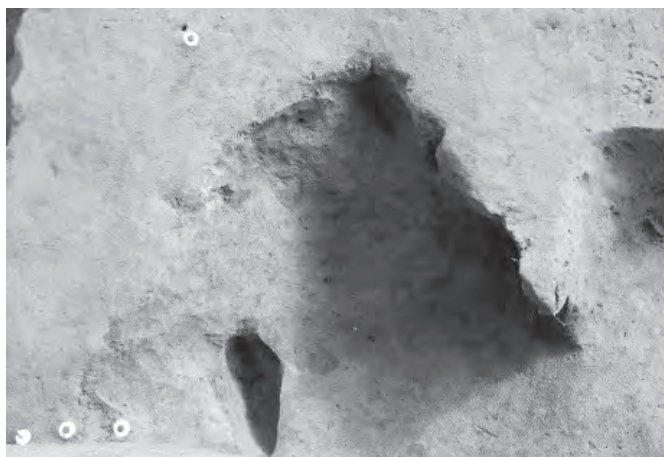
20号住居 南半全景 西から



20号住居 北半全景 北から



20号住居 カマド全景 北西から



20号住居 カマド掘り方全景 北から





22号住居 掘り方全景 西から



22号住居 カマド全景 西から



22号住居 カマド掘り方全景 西から



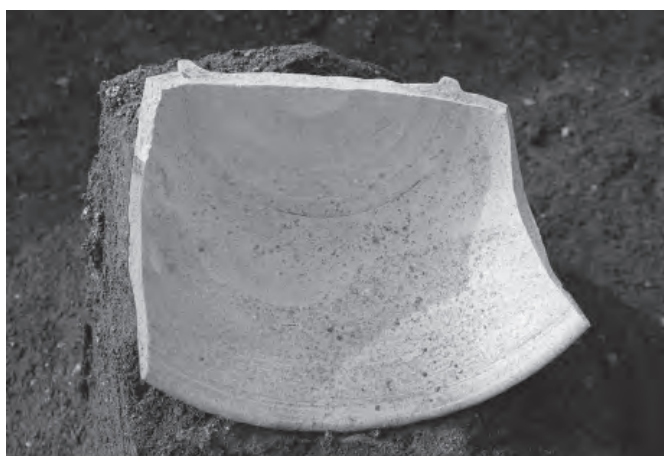
22号住居 遺物出土状態 南東から



22号住居 遺物出土状態 西から



22号住居 遺物出土状態 北から



22号住居 遺物出土状態 南東から



22号住居 遺物出土状態 南から





22号住居 遺物出土状態 西から



22号住居 土坑1礫出土状態 北西から



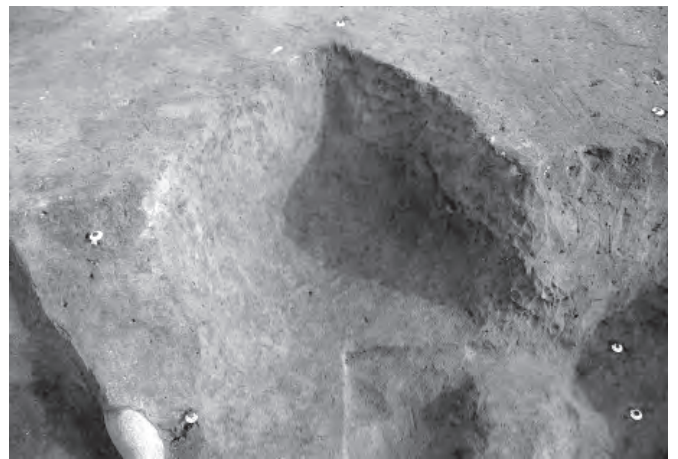
23号住居 全景 西から



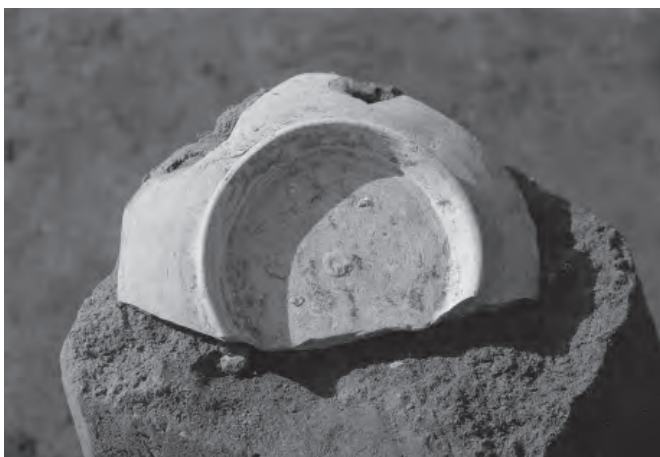
23号住居 掘り方全景 西から



23号住居 カマド全景 西から



23号住居 カマド掘り方全景 西から



23号住居 遺物出土状態

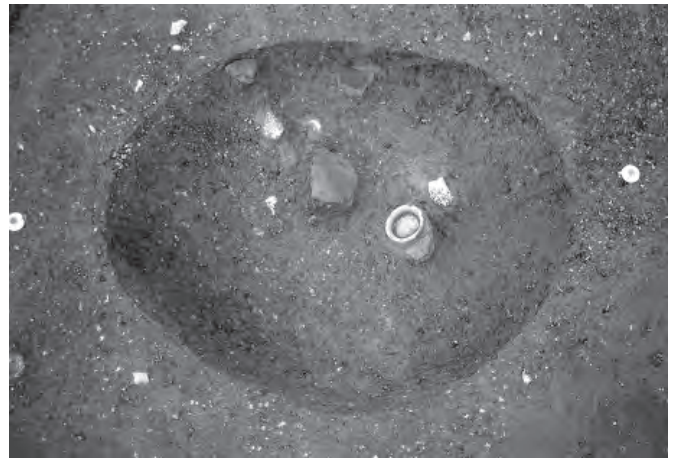


24号住居 全景 西から





24号住居 カマド全景 西から



24号住居 土坑2全景 南から



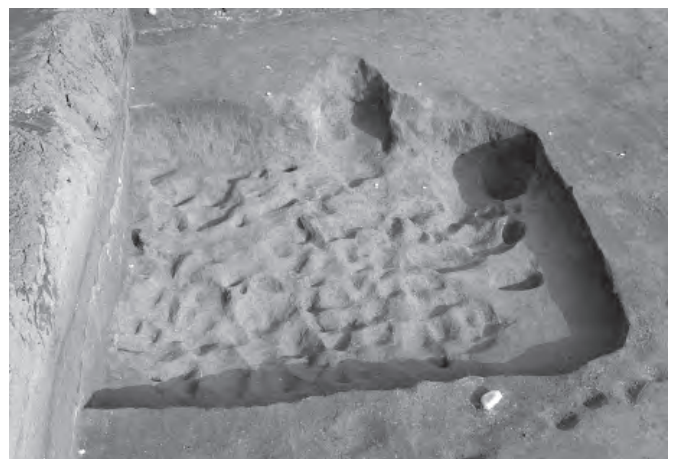
25号住居 カマド全景 西から



25号住居 カマド掘り方全景 西から



26号住居 全景 西から



26号住居 掘り方全景 西から



26号住居 カマド全景 西から



26号住居 カマド掘り方全景 西から

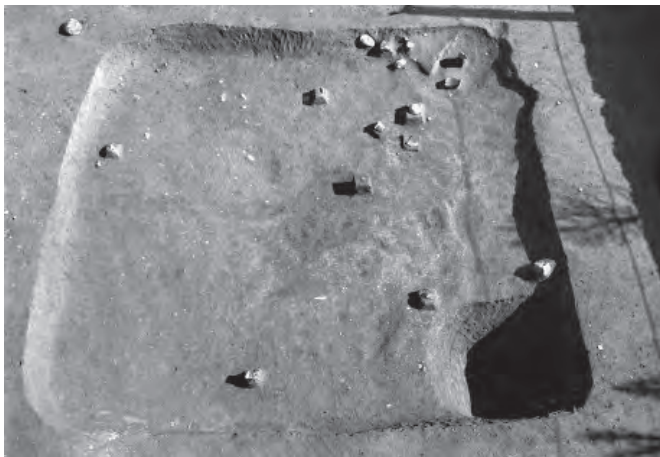




26号住居 貯蔵穴遺物出土状態 西から



26号住居 遺物出土状態 南西から



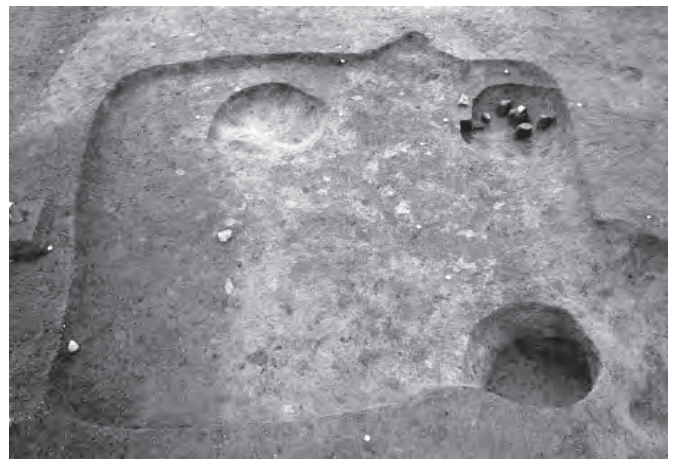
28号住居 全景 西から



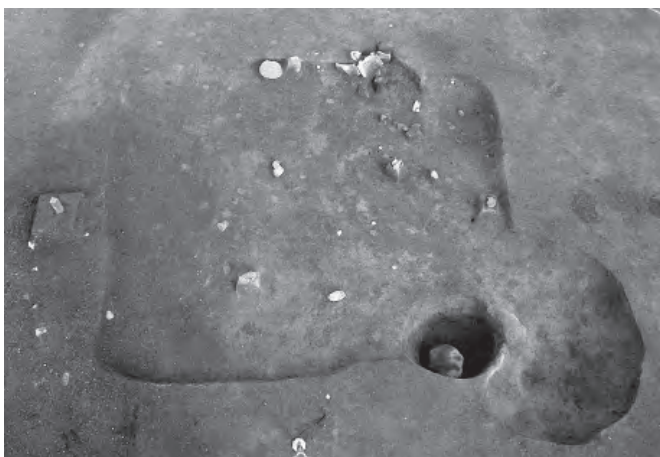
28号住居 貯蔵穴遺物出土状態 西から



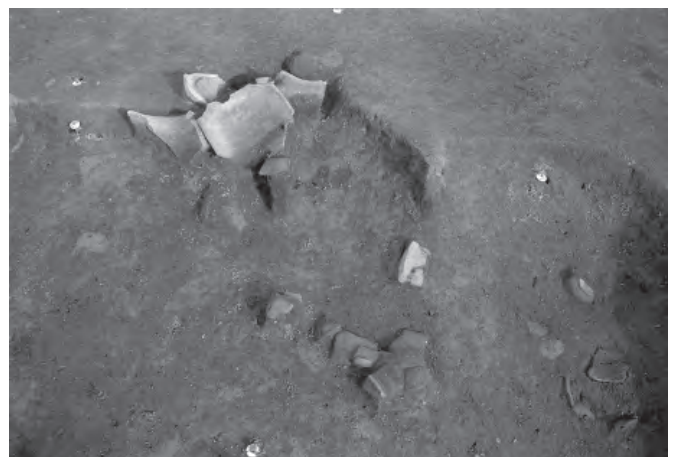
28号住居 遺物出土状態 西から



29号住居 全景 西から



29号住居 遺物出土状態 西から



29号住居 カマド全景 西から





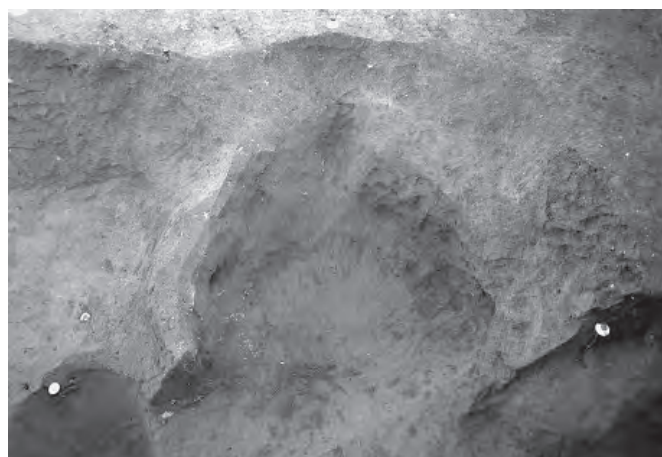
29号住居 貯藏穴遺物出土状態 西から



29号住居 遺物出土状態 西から



30号住居 全景 西から



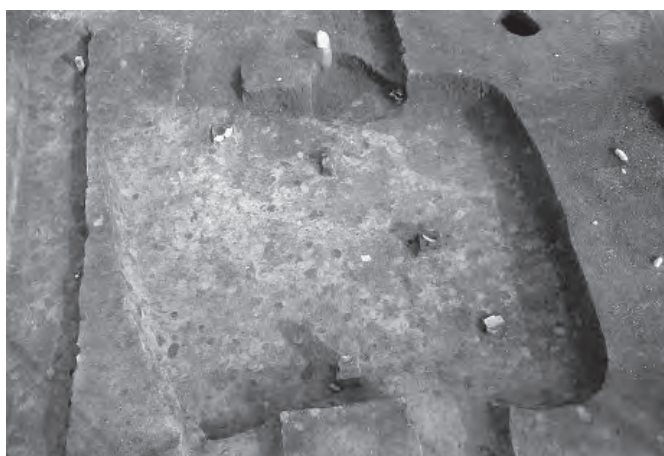
30号住居 カマド掘り方全景 西から



31号住居 カマド全景 西から



31号住居 カマド掘り方全景 西から



33号住居 全景 西から



33号住居 カマド全景 西から





35号住居 全景 西から



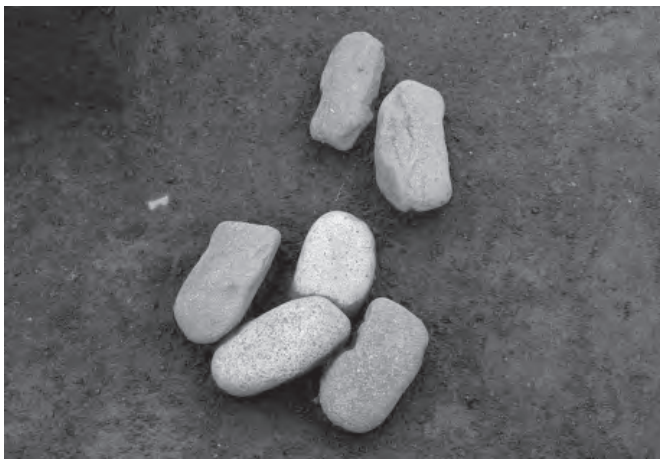
35号住居 全景 西から



35号住居 カマド全景 西から



35号住居 カマド土層断面 西から



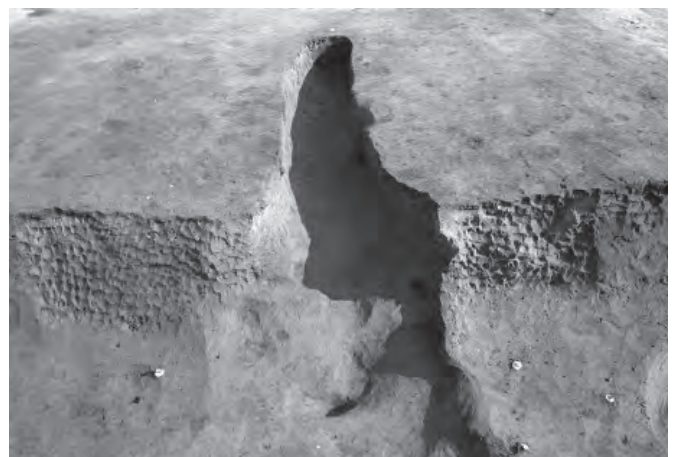
35号住居 遺物出土状態 北から



35号住居 遺物出土状態 北東から



36号住居 カマド全景 西から



36号住居 カマド掘り方全景 西から





36号住居 全景 西から



36号住居 礫出土状態 西から



36号住居 遺物出土状態 西から



37号住居 全景 西から



37号住居 掘り方全景 北西から





37号住居 カマド全景 北西から



37号住居 遺物出土状態 西から



37号住居 遺物出土状態 西から



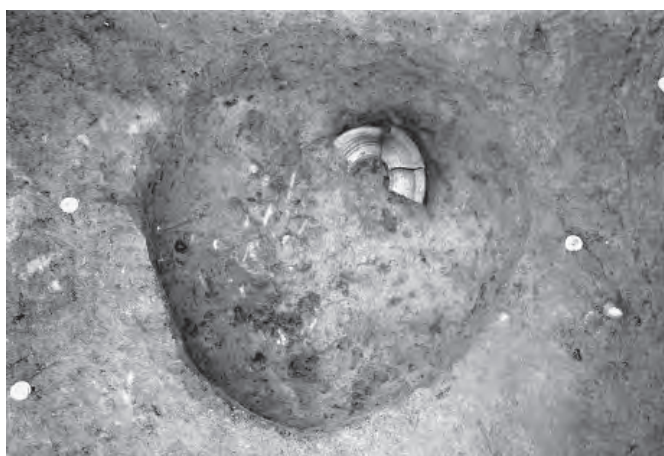
38号住居 全景 西から



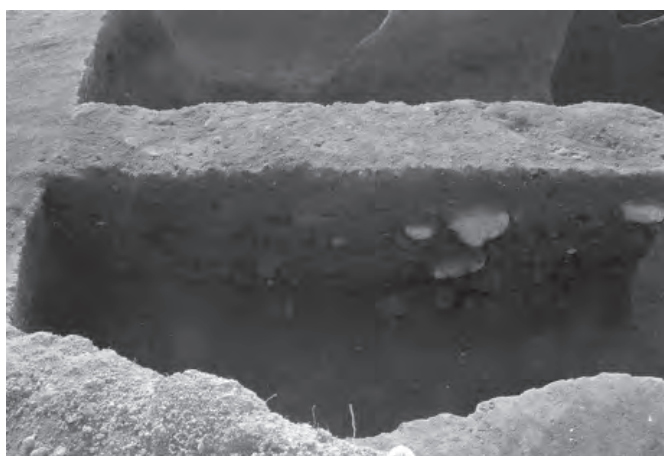
38号住居 掘り方全景 西から



38号住居 カマド全景 北西から

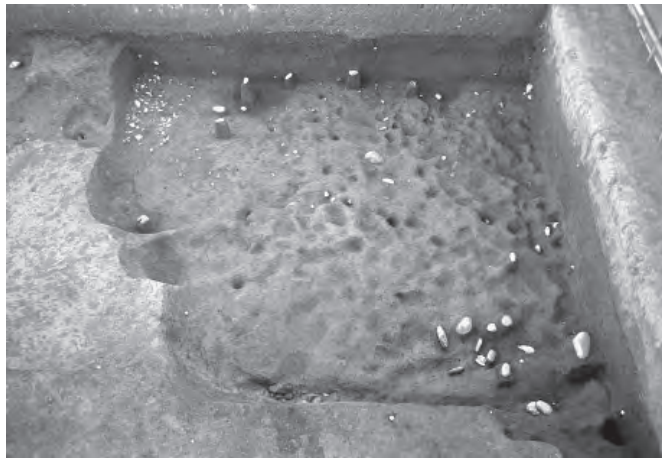


38号住居 貯蔵穴遺物出土状態 北から



39号住居 全景 西から

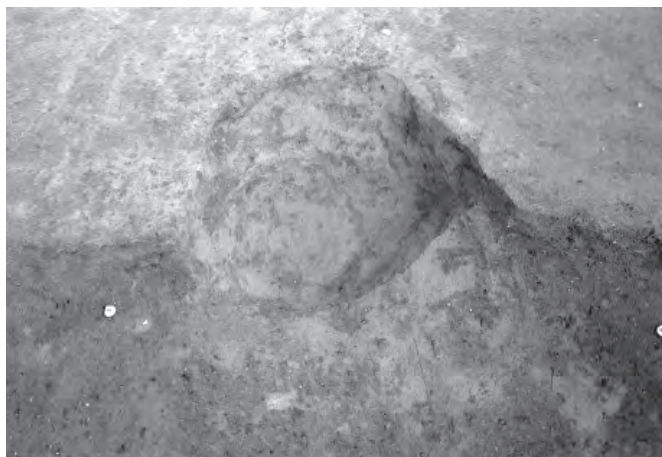




39号住居 掘り方全景 北から



39号住居 カマド全景 西から



39号住居 カマド掘り方全景 西から



40号住居 カマド全景 西から



41号住居 全景 西から



41号住居 掘り方全景 西から



41号住居 カマド全景 西から



41号住居 カマド掘り方全景 西から





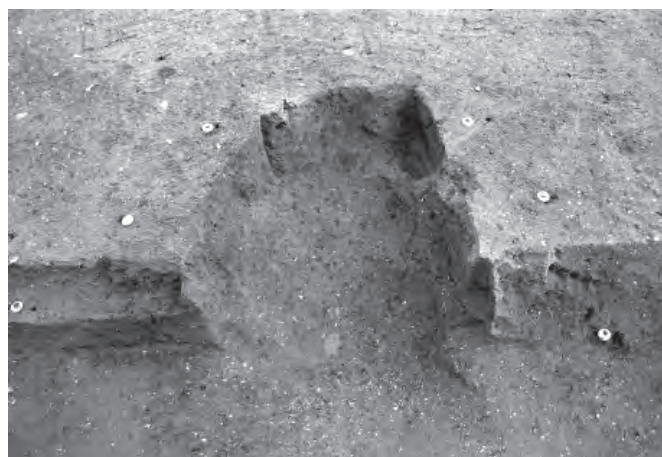
43号住居 全景 西から



43号住居 カマド全景 西から



43号住居 カマド全景 西から



43号住居 カマド掘り方全景 西から



44号住居 全景 西から



44号住居 カマド全景 西から



44号住居 遺物出土状態



45号住居(鍛冶遺構) 全景 西から

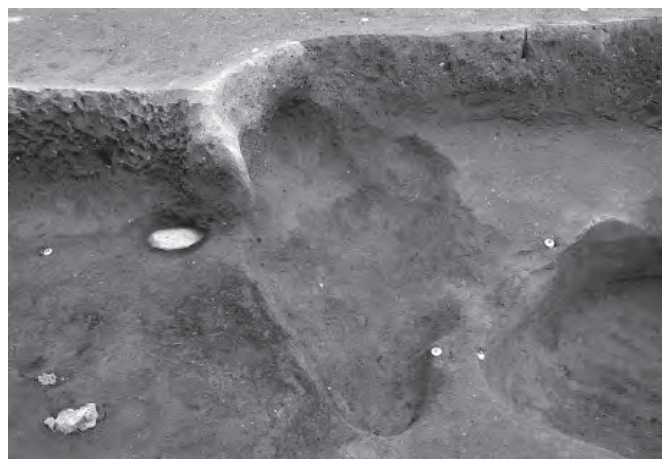




45号住居(鍛冶遺構) 全景 西から



45号住居(鍛冶遺構) 掘り方全景 西から



45号住居(鍛冶遺構) カマド全景 西から

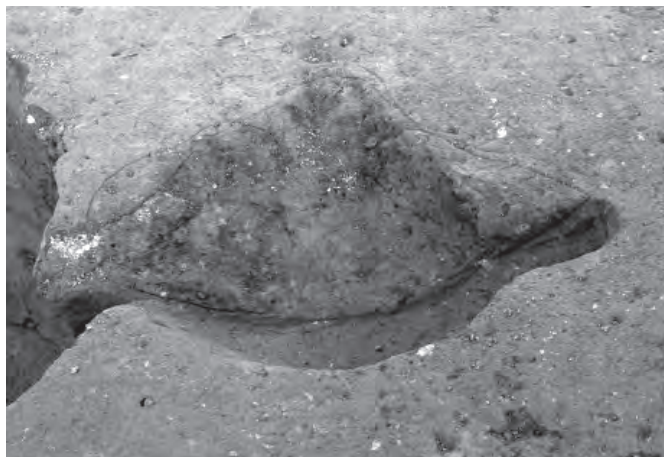


45号住居(鍛冶遺構) 床面検出状況 西から



45号住居(鍛冶遺構) 炉・作業坑掘り上げ状況 南から





45号住居(鍛冶遺構) 炉土層断面 南から



45号住居(鍛冶遺構) 鍛造剥片検出状況 西から



45号住居(鍛冶遺構) 遺物出土状態



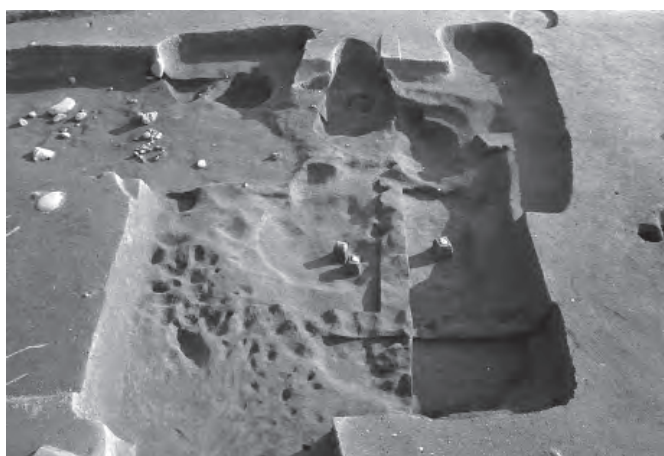
45号住居(鍛冶遺構) 遺物出土状態



45号住居(鍛冶遺構) 遺物出土状態 西から



47号住居 全景 西から



47号住居 掘り方全景 西から



47号住居 カマド全景 西から





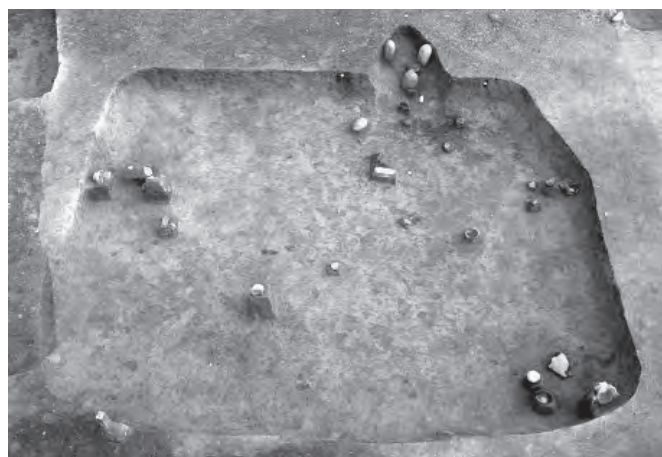
47号住居 遺物出土状態 西から



47号住居 遺物出土状態



47号住居 遺物出土状態



48号住居 全景 西から



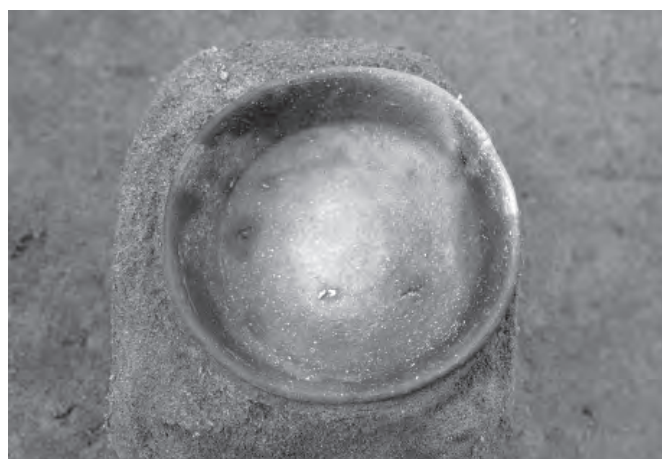
48号住居 カマド全景 西から



48号住居 カマド掘り方全景 西から

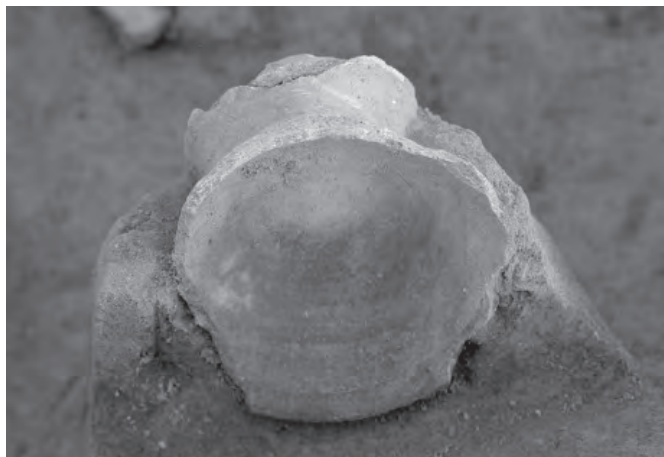


48号住居 遺物出土状態 西から



48号住居 遺物出土状態 西から





48号住居 遺物出土状態



49号住居 全景 全景 北から



50号住居 全景 東から



50号住居 カマド掘り方全景 西から



50号住居 遺物出土状態 東から



52号住居 全景 西から

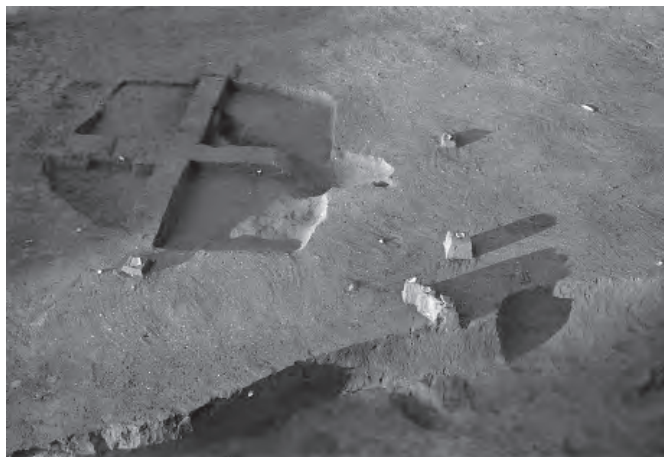


52号住居 カマド全景 北西から



53号住居 全景・土層断面 南から

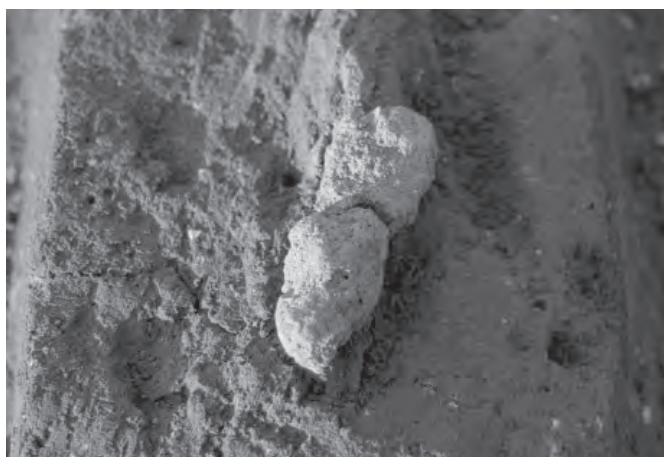




54号住居 全景 南から



54号住居 遺物出土状態 南から



54号住居 遺物出土状態 南から



55号住居 南半全景 西から



55号住居 カマド全景 西から



55号住居 カマド掘り方全景 西から



55号住居 遺物出土状態 南から

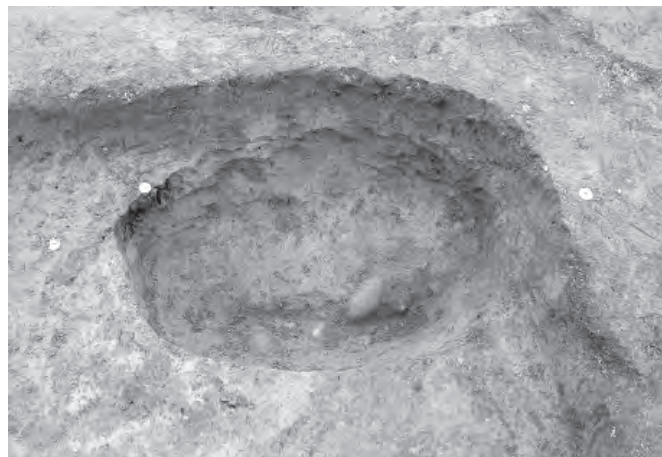


56号住居 全景 西から





56号住居 カマド全景 西から



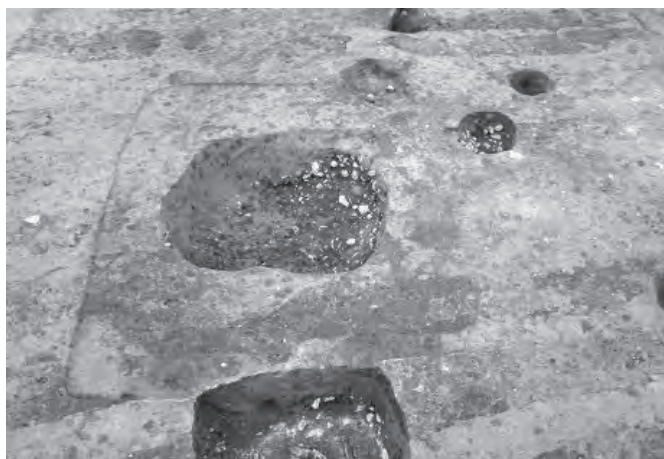
56号住居 貯蔵穴全景 西から



57号住居 全景 北から



57号住居 カマド全景 北から



58号住居 全景 西から



58号住居 カマド全景 西から



58号住居 貯蔵穴土層断面 西から



59号住居 全景 西から





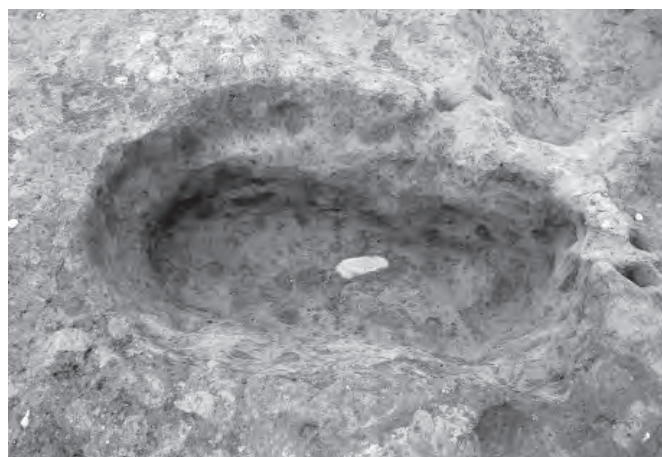
59号住居 カマド全景 西から



59号住居 貯蔵穴遺物出土状態 西から



59号住居 貯蔵穴遺物出土状態 南西から



59号住居 貯蔵穴掘り上げ状況 西から



60号住居 全景 西から





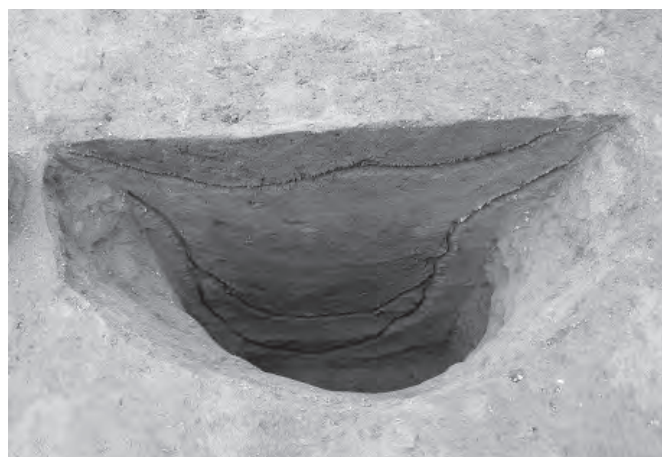
60号住居 土層断面 西から



60号住居 カマド全景 西から



60号住居 カマド掘り方土層断面 西から



60号住居 P1土層断面 南から



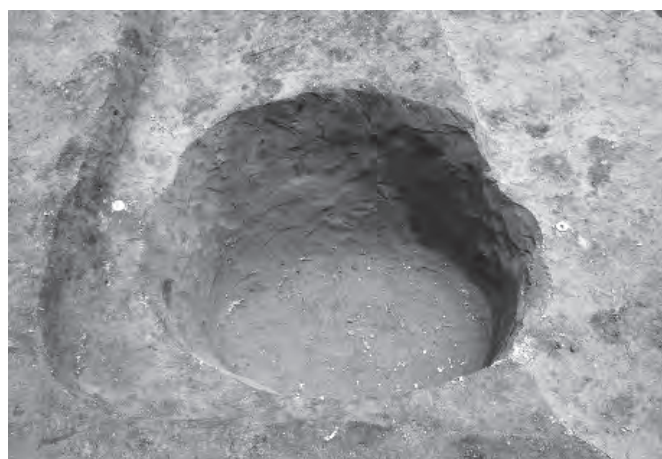
61号住居 全景 西から



61号住居 遺物出土状態 西から



62号住居 全景 西から

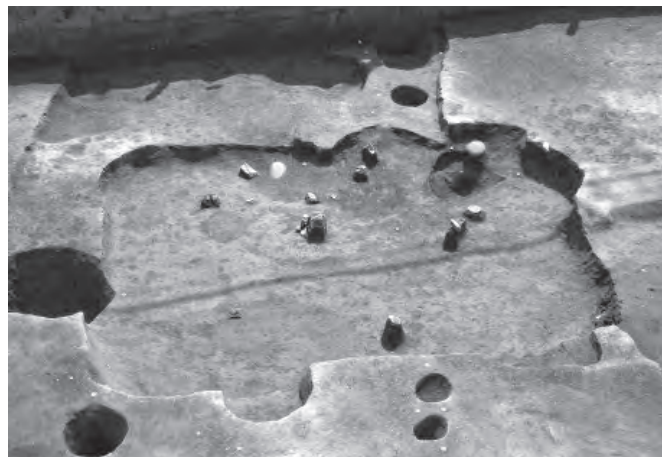


62号住居 土坑2全景 西から

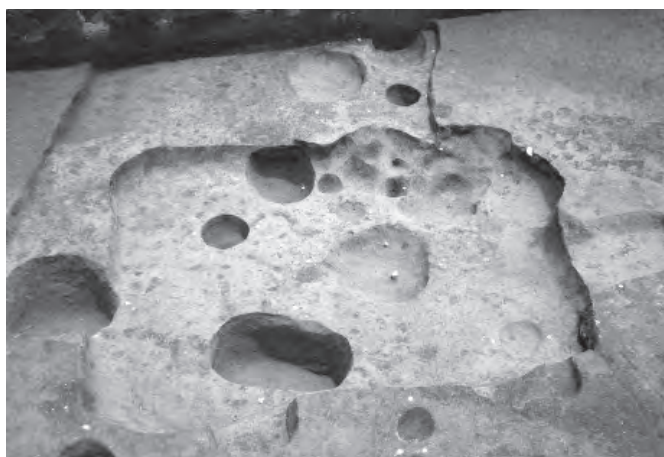




62号住居 巡方出土状態 北から



63号住居 全景 西から



63号住居 掘り方全景 西から



63号住居 カマド全景 西から



63号住居 土坑2全景 西から



68・70号住居 全景 北から



68号住居 遺物出土状態 北から



74号住居 全景 西から





74号住居 カマド全景 南西から



74号住居 カマド掘り方全景 西から



75号住居 全景 西から



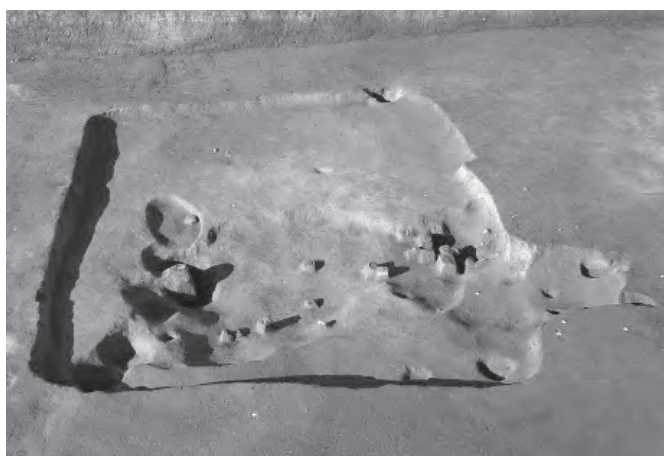
75号住居 掘り方全景 西から



75号住居 カマド全景 西から



75号住居 土層断面 南西から

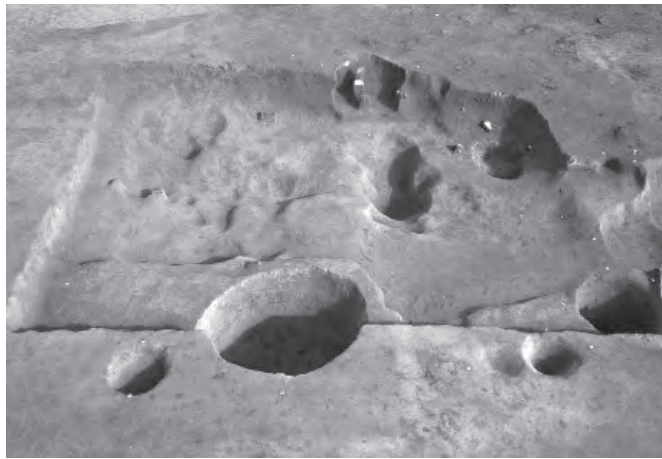


77号住居 全景 南から

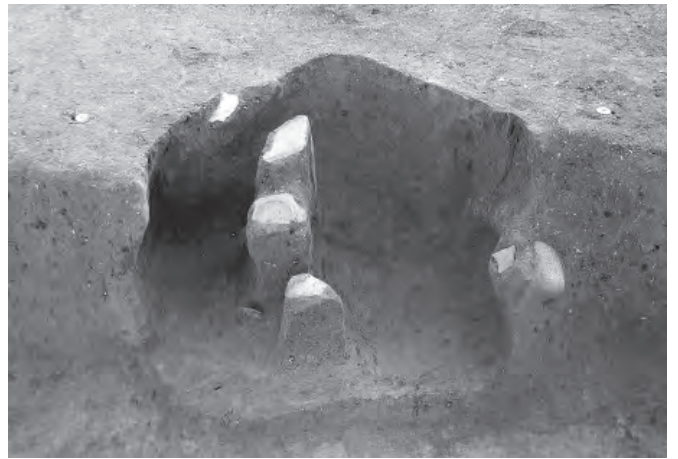


77号住居 カマド全景 西から





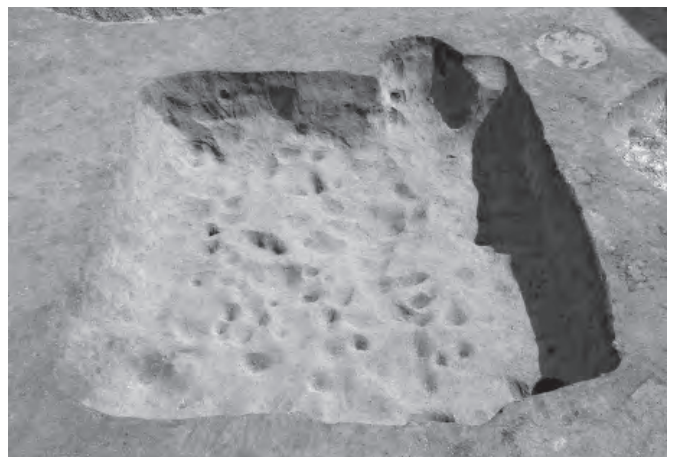
78号住居 掘り方全景 西から



78号住居 カマド全景 西から



79号住居 全景 西から



79号住居 掘り方全景 西から



79号住居 カマド全景 西から



79号住居 カマド掘り方全景 西から



79号住居 カマド全景 南東から



80号住居 全景 西から





80号住居 掘り方全景 西から



80号住居 カマド全景 西から



80号住居 カマド掘り方全景 西から



80号住居 鉄鍬出土状態 南西から



81号住居 全景 南西から



81号住居 カマド全景 南西から

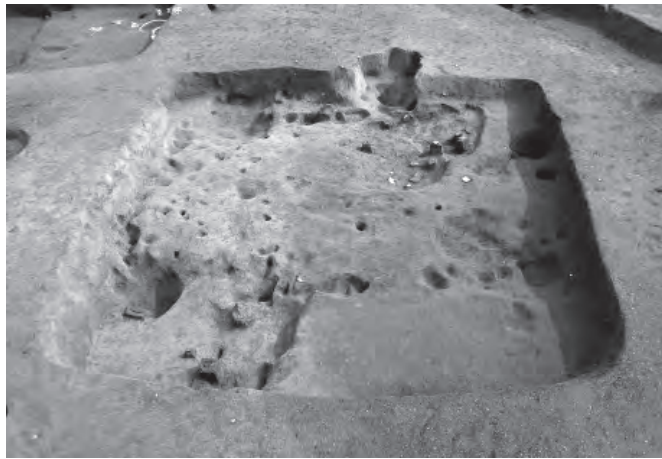


81号住居 カマド掘り方全景 南西から



82号住居 全景 西から





82号住居 掘り方全景 西から



82号住居 カマド全景 西から



82号住居 カマド掘り方全景 西から



82号住居 掘り方遺物出土状態 北から



82号住居 鉄器出土状態 西から



83号住居 全景 南西から



83号住居 掘り方全景 南西から

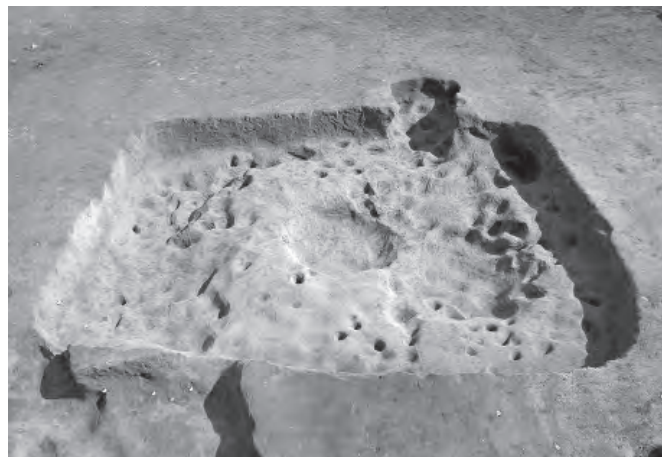


83号住居 カマド全景 南西から

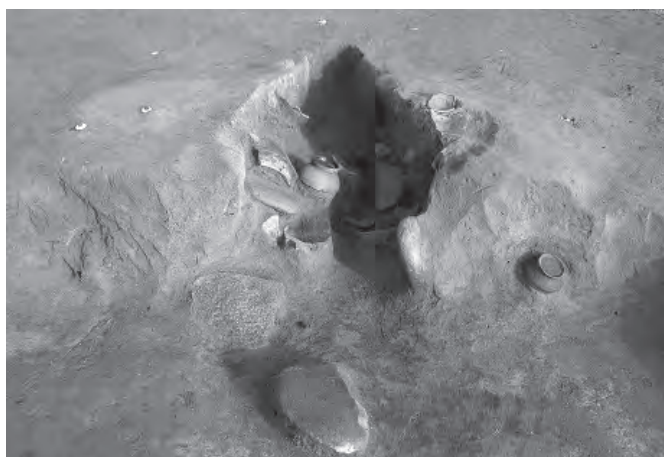




84号住居 全景 西から



84号住居 掘り方全景 西から



84号住居 カマド全景 西から



84号住居 カマド掘り方全景 西から



85号住居 全景 北から



85号住居 カマド全景 西から



86号住居 全景 西から



86号住居 掘り方全景 西から

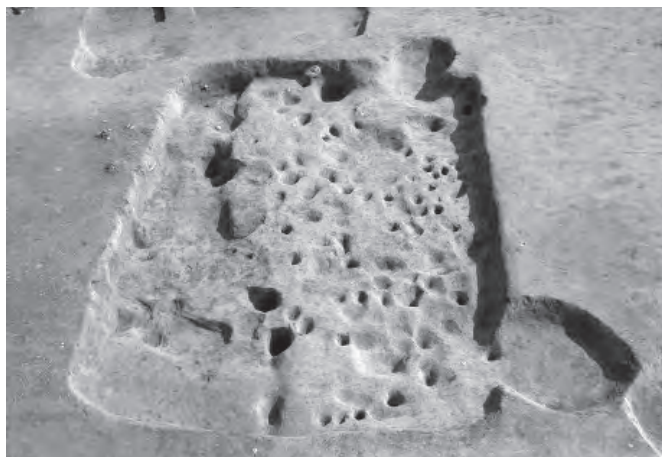




86号住居 カマド全景 西から



87号住居 全景 西から



87号住居 掘り方全景 西から



87号住居 カマド全景 西から



88号住居 全景 北西から



88号住居 掘り方全景 北西から



88号住居 遺物出土状態 北西から



88号住居 A・Bカマド全景 北西から

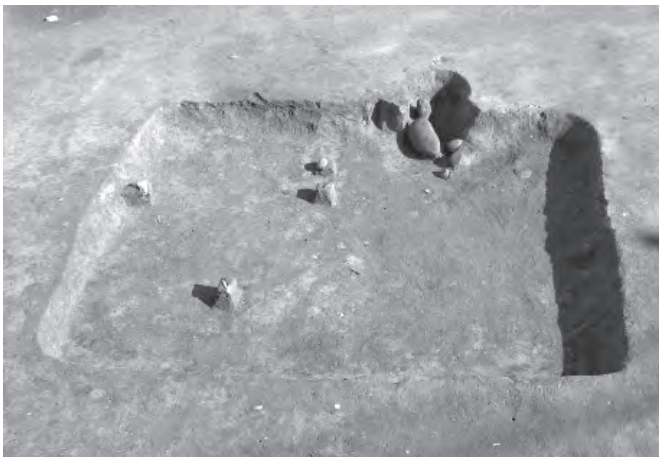




88号住居 Aカマド掘り方全景 北西から



88号住居 Bカマド掘り方全景 北西から



89号住居 全景 西から



89号住居 掘り方全景 西から



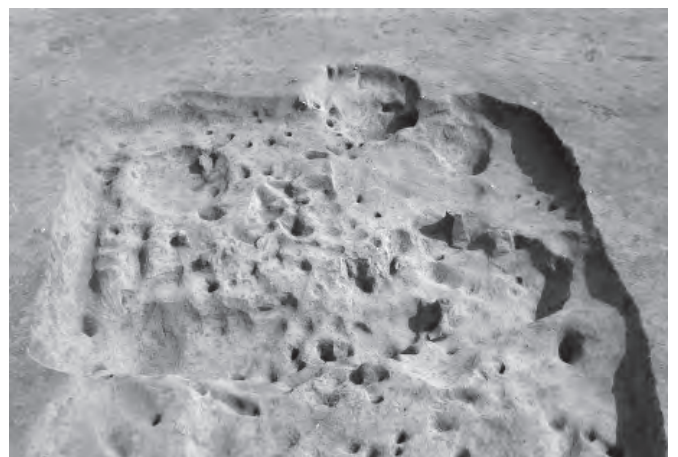
89号住居 カマド全景 西から



89号住居 土錘出土状態 西から



90号住居 全景 西から



90号住居 掘り方全景 西から





90号住居 カマド全景 西から



90号住居 遺物出土状態 北東から



91号住居 全景 西から



91号住居 カマド全景 西から



91号住居 カマド掘り方全景 西から



92号住居 全景 西から

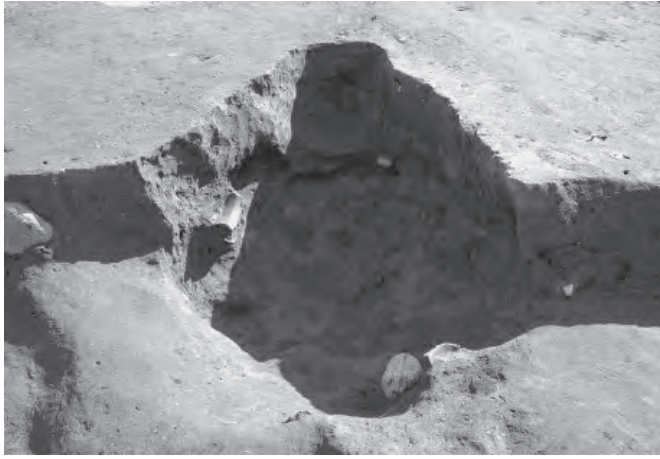


92号住居 遺物出土状態 西から

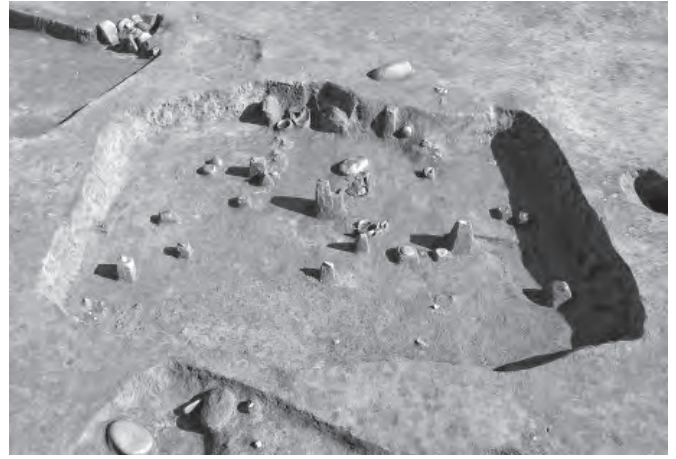


92号住居 カマド全景 西から

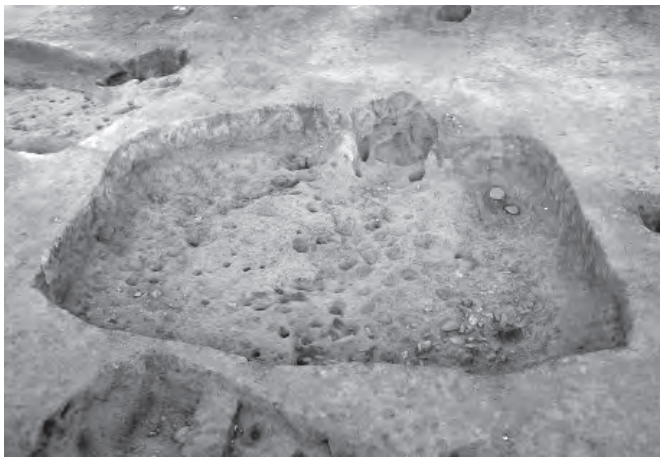




92号住居 カマド掘り方全景 西から



93号住居 全景 南西から



93号住居 掘り方全景 南西から



93号住居 カマド全景 南西から



93号住居 遺物出土状態 南東から



93号住居 遺物出土状態 西から

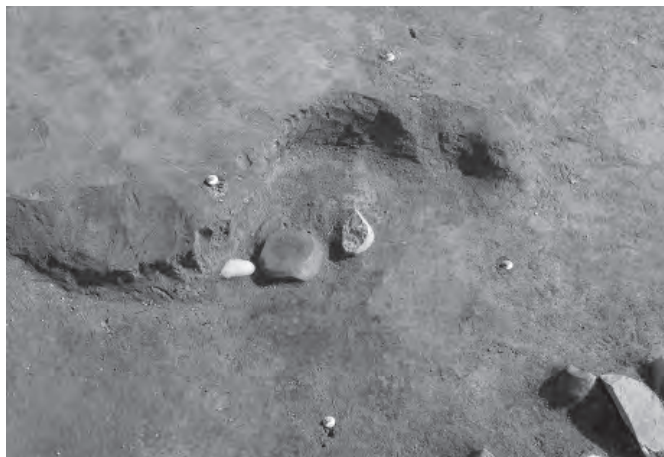


94号住居 全景 西から

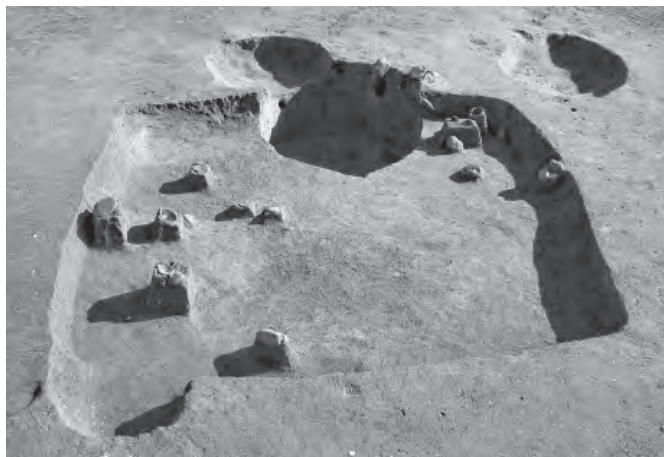


94号住居 掘り方全景 西から





94号住居 カマド全景 西から



95号住居 全景 南西から



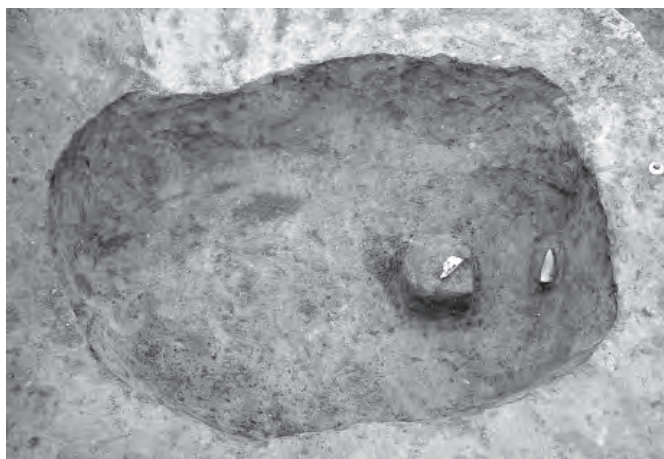
95号住居 掘り方全景 南西から



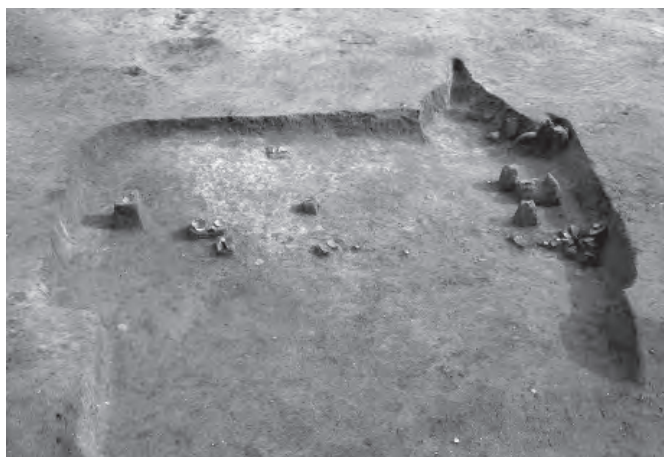
95号住居 カマド全景 西から



95号住居 遺物出土状態 南から



95号住居 土坑3 遺物出土状態 南西から



96号住居 全景 南西から



96号住居 掘り方全景 南西から





96号住居 Bカマド全景 南西から



96号住居 Aカマド全景 北西から



96号住居 遺物出土状態 北西から



97号住居 全景 南西から



97号住居 掘り方全景 西から



97号住居 カマド全景 西から



97号住居 カマド掘り方全景 西から



98号住居 全景 北から

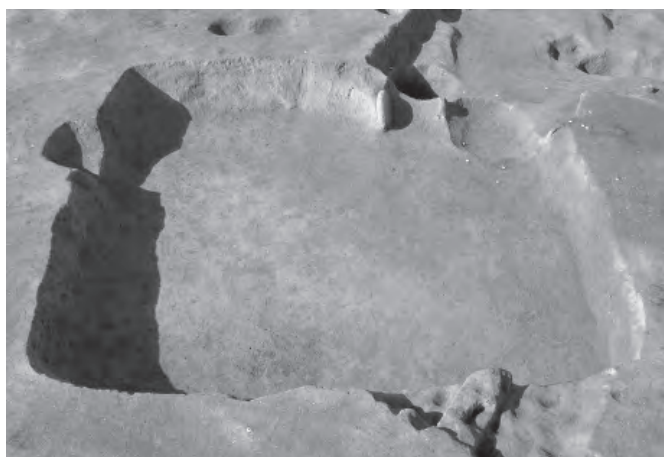




98号住居 掘り方全景 西から



98号住居 カマド全景 西から



99号住居 全景 南東から



99号住居 遺物出土状態 南西から



99号住居 カマド全景 南東から



99号住居 掘り方全景 北東から



99号住居 遺物出土状態 北から

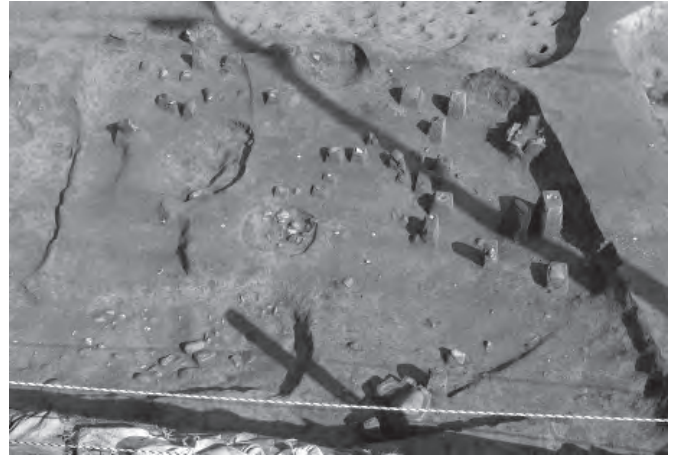


101号住居 全景 北から





101号住居 カマド全景 北から



102号住居 全景 南西から



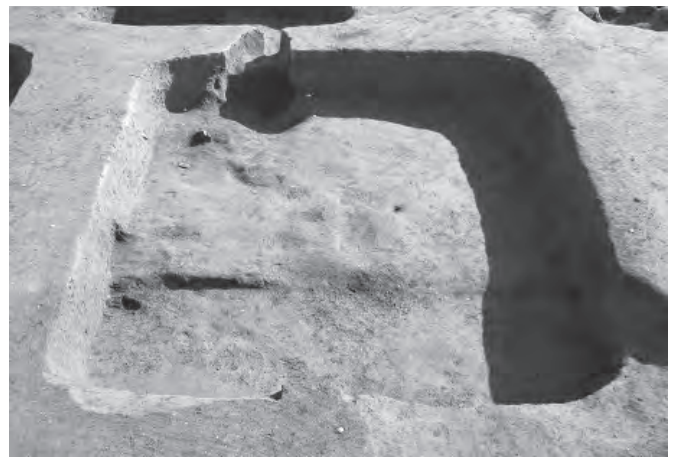
102号住居 カマド全景 南西から



102号住居 遺物出土状態 西から



103号住居 全景 北西から



103号住居 掘り方全景 北西から



103号住居 カマド全景 北西から



103号住居 遺物出土状態 南から





108号住居 全景 西から



108号住居 カマド全景 西から



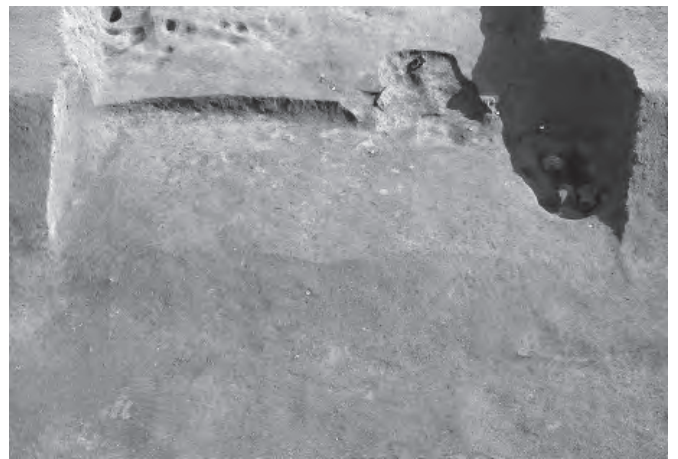
108号住居 遺物出土状態 西から



108号住居 刀子出土状態 西から



109号住居 全景 西から



110号住居 全景 西から



110号住居 遺物出土状態 西から



110号住居 カマド掘り方全景 西から

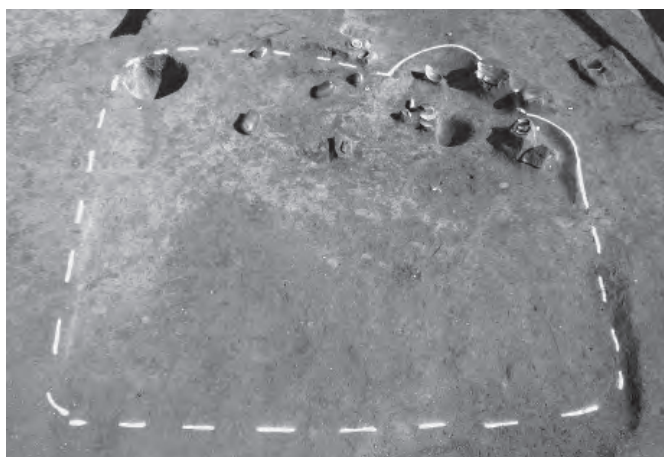




111号住居 全景 北から



111号住居 カマド全景 北西から



112号住居 全景 西から



112号住居 カマド全景 西から



112号住居 遺物出土状態 北から



112号住居 鉄器出土状態 北西から



118号住居 全景 西から



126号住居 掘り方部分 西から

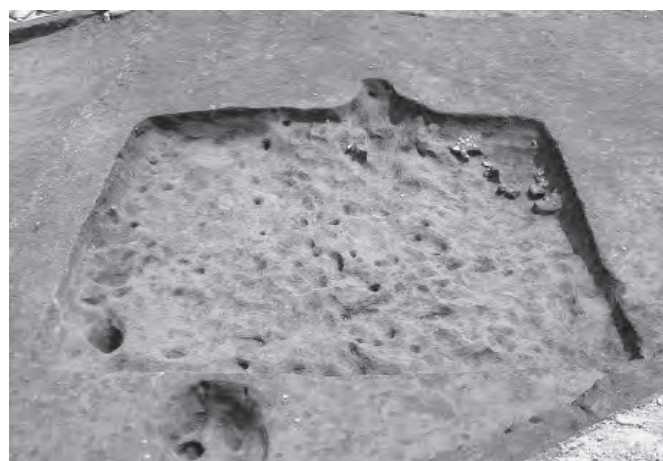




128・129号住居全景 空撮



128号住居 全景 北西から



128号住居 掘り方全景 北西から



128号住居 カマド全景 西から



128号住居 遺物出土状態 北から





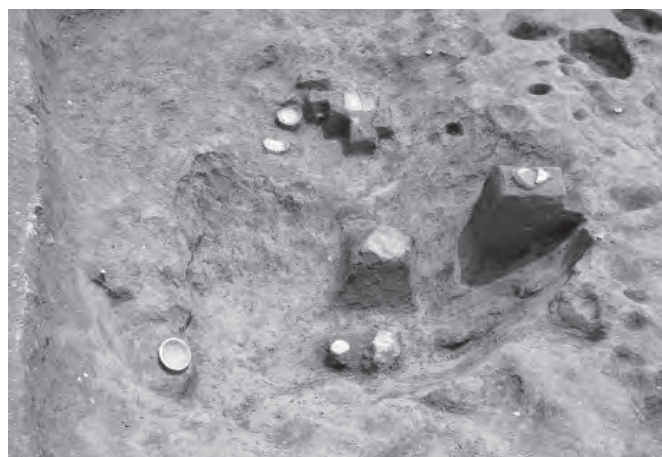
129号住居 全景 西から



129号住居 掘り方全景 西から



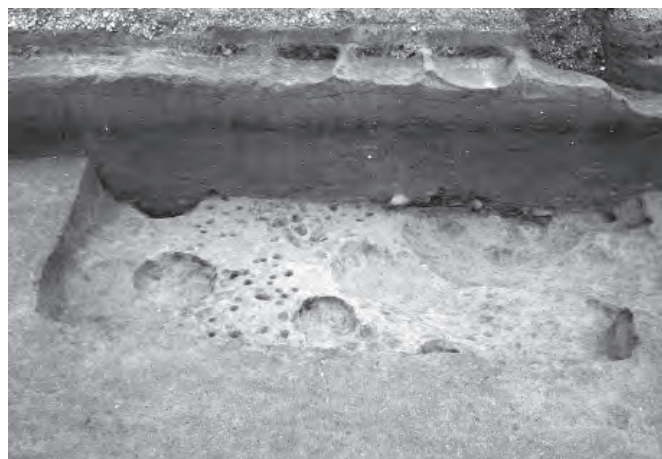
129号住居 カマド全景 西から



129号住居 土坑7遺物出土状態 西から



130号住居 全景 西から



130号住居 掘り方全景 西から

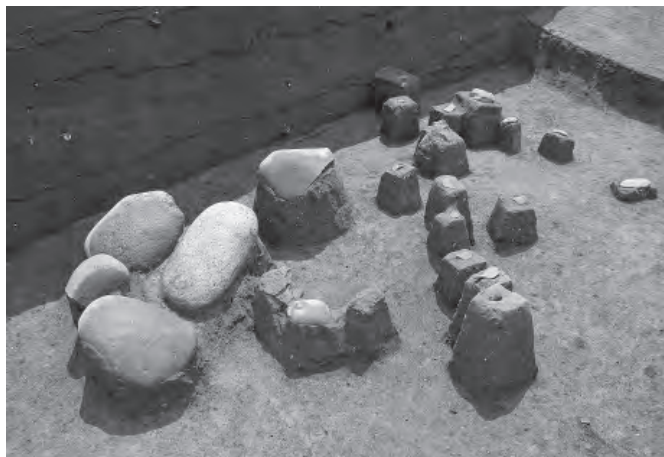


130号住居 遺物出土状態 西から

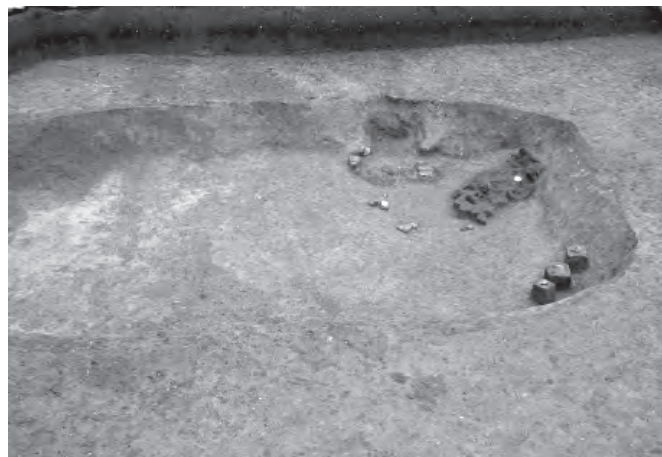


131号住居 全景 西から





131号住居 遺物出土状態 北西から



132・133号住居 全景 西から



132～134号住居 掘り方全景 西から



132号住居 灰出土状態 北西から

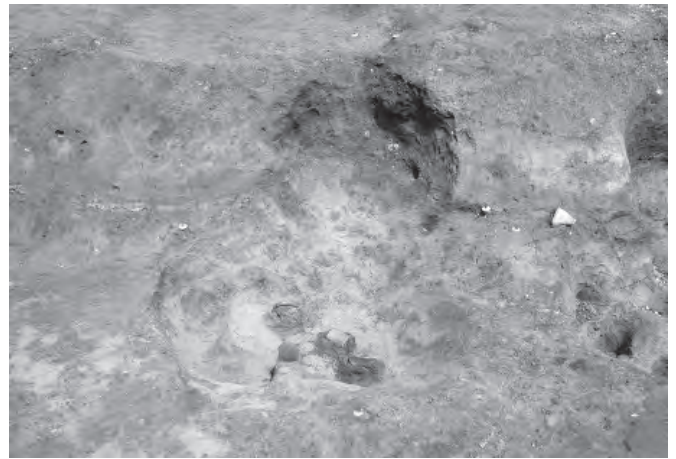


132号住居 カマド全景 西から

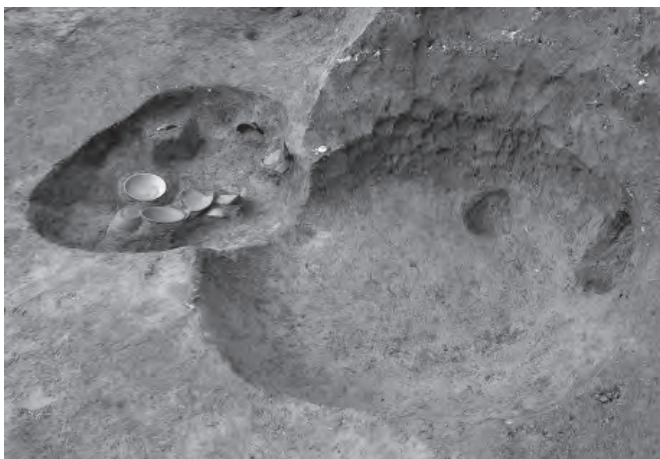




132号住居 貯蔵穴土層断面 西から



133号住居 カマド掘り方全景 西から



133号住居 貯蔵穴全景 南西から



133・134号住居 掘り方全景 西から



134号住居 掘り方全景 西から



134号住居 土層断面 南西から



134号住居 カマド全景 西から



134号住居 カマド全景 西から





134号住居 貯蔵穴土層断面 南から



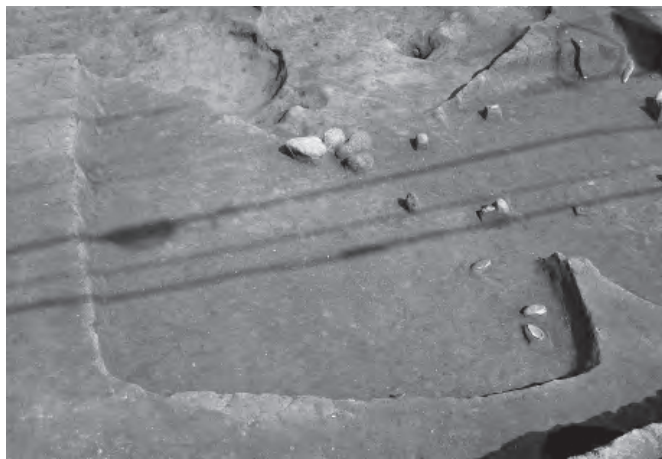
134号住居 貯蔵穴遺物出土状態 南東から



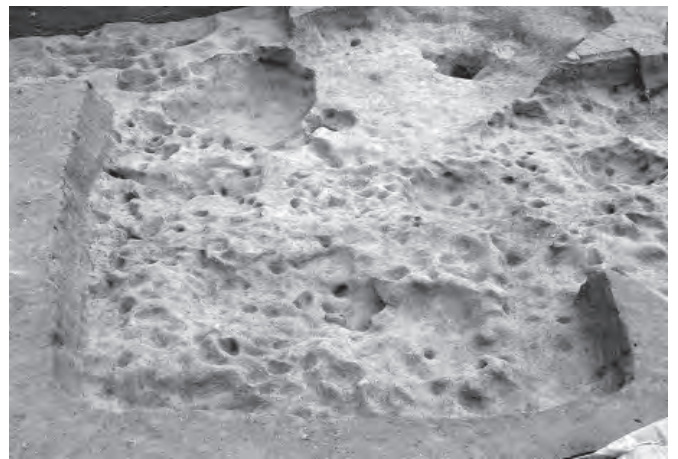
135号住居 全景 南から



136号住居 全景 西から



137号住居 全景 西から



137号住居 掘り方全景 西から



137号住居 遺物出土状態 北から



138号住居 全景 南から





138号住居 掘り方全景 南から



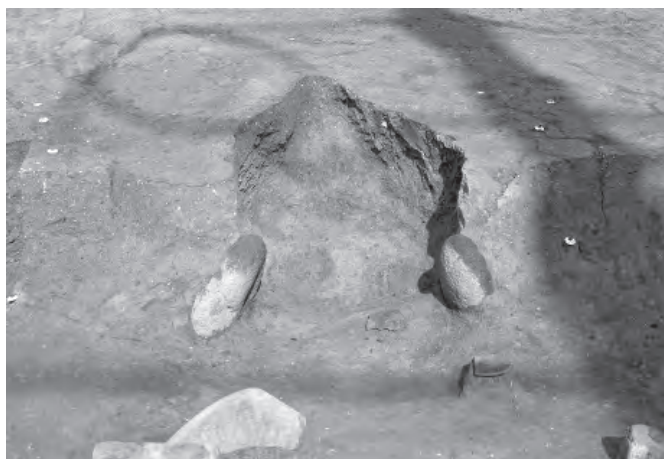
138号住居 遺物出土状態 北から



138号住居 遺物出土状態 東から



138号住居 掘り方遺物出土状態 西から



138号住居 カマド全景 西から



138号住居 カマド掘り方全景 西から



140号住居 全景 西から



140号住居 カマド全景 西から



2面II期  
田口下田尻遺跡  
溝・低地・道・墓坑・集石



10号溝 全景 南から



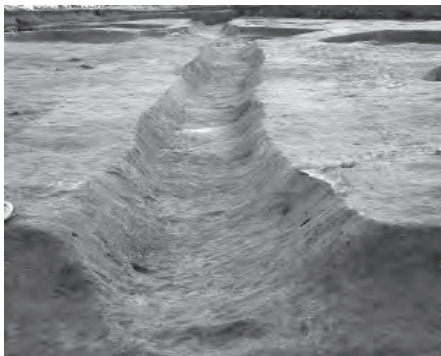
10号溝 全景 北から



10号溝 土層断面 南から



14号溝 全景 南から



14号溝 全景 西から



14号溝 全景 西から



14号溝 土層断面 西から



14号溝 遺物出土状態



14号溝 遺物出土状態



14号溝 馬歯出土状態



19号溝 全景 東から



19号溝 遺物出土状態 東から



25号溝 全景 南から





27号溝 全景 東から



29号溝 全景 東から



31号溝 全景 南東から



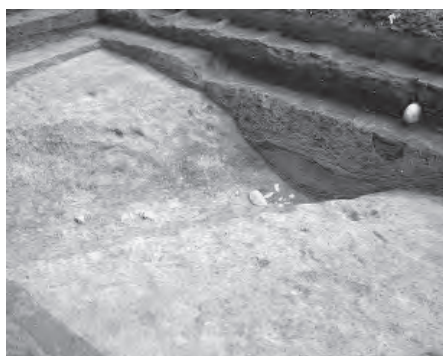
31号溝 土層断面 南東から



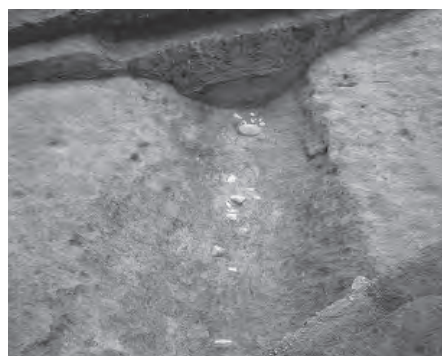
54号溝 全景 空撮



54号溝 全景 南東から



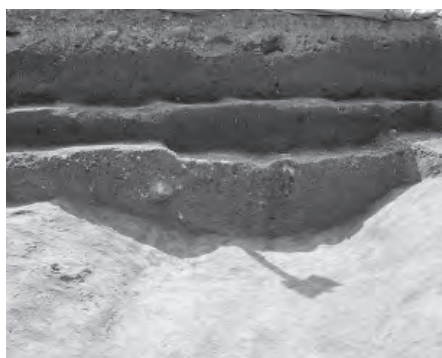
54号溝 全景 南西から



54号溝 全景 南東から



54号溝 土層断面 北西から



54号溝 土層断面 南東から



44号溝 全景 西から



44号溝 全景 東から



44号溝 土層断面 西から



45号溝 全景 南から





45号溝 土層断面 南から



52号溝 全景 南から



52号溝 土層断面 南東から



1号低地廃滓場 遺物出土状態 南から



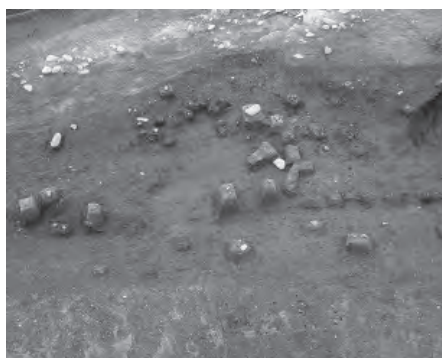
1号低地廃滓場 遺物出土状態 南から



1号低地廃滓場 遺物出土状態 南から



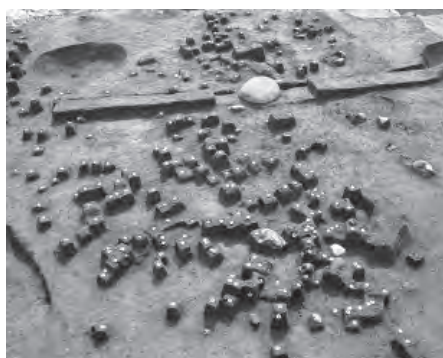
1号低地廃滓場 遺物出土状態 北から



1号低地廃滓場 遺物出土状態



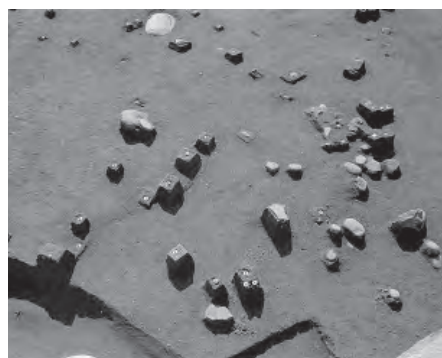
1号低地廃滓場 遺物出土状態



1号低地廃滓場 遺物出土状態 南から



1号低地廃滓場 遺物出土状態 南から



1号低地廃滓場 遺物出土状態 南から



1号低地廃滓場 遺物出土状態 南から

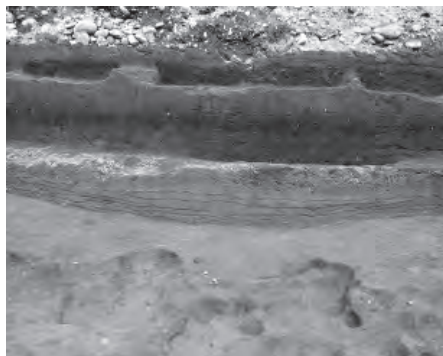


1号低地廃滓場 遺物出土状態 南から



2号低地 全景 南から

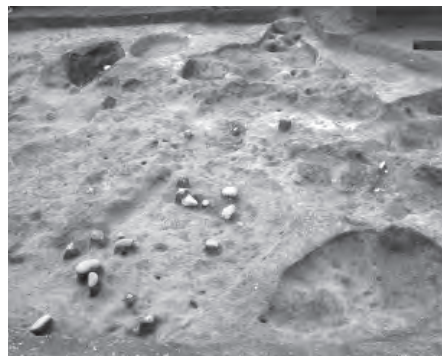




2号低地 土層断面 西から



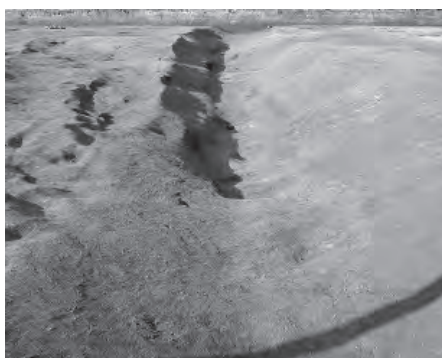
3号低地 全景 東から



3号低地 全景 東から



2号道 全景 北から



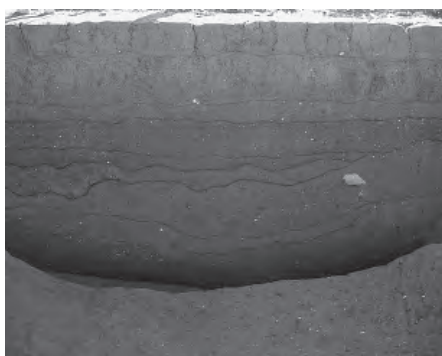
2・3号道 III区全景 南から



3号道 II区全景 南から



3号道 II区全景 南から



3号道 土層断面 北から



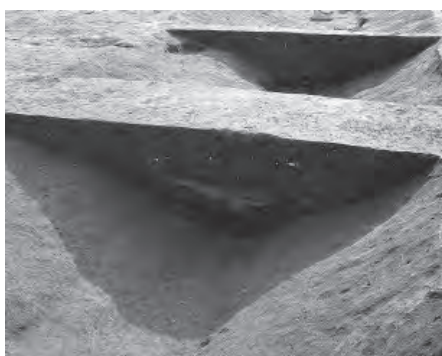
3号道 I区全景 南から



3号道 III区全景 南から



3号道 土層断面 南から



3号道 土層断面 北から



3号道 土層断面 南から





3号道 硬化面全景 南から



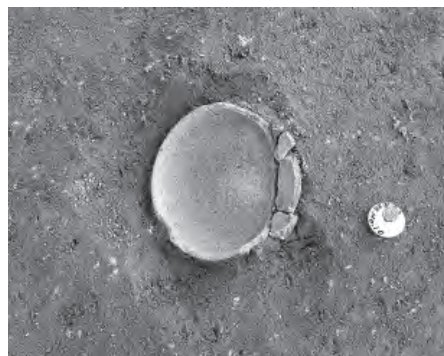
3号道 下層全景 南東から



3号道 遺物出土状態



3号道 遺物出土状態



3号道 遺物出土状態



3号道 馬歯出土状態



3号道 馬歯出土状態



170号土坑(墓坑) 全景 北東から



170号土坑(墓坑) 土層断面 南東から



346号土坑(墓坑) 検出状況 南から



346号土坑(墓坑) 全景 南から



346号土坑(墓坑) 焼骨出土状態 南西から



346号土坑(墓坑) 土層断面



4号集石 検出状況 東から

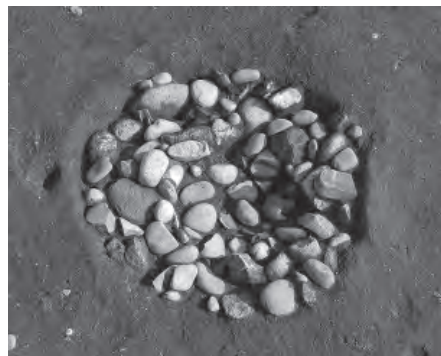




4号集石 集石状態1面 東から



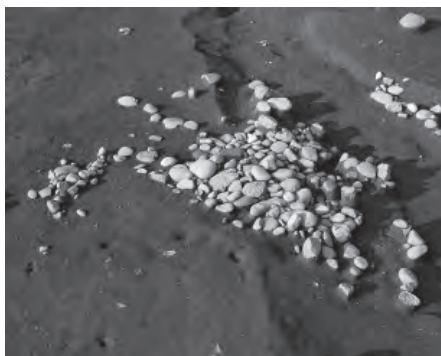
4号集石 集石状態2面 東から



4号集石 集石状態3面 西から



4号集石 完掘状態 南から



5号集石 全景 南から



6号集石 全景 南から



7号集石 全景 南から



8号集石 集石状態1面 西から



8号集石 集石状態2面 西から

2面II期  
田口下田尻遺跡  
土坑・ピット



19号土坑 全景 南から



22号土坑 全景 南西から



23号土坑 全景 東から

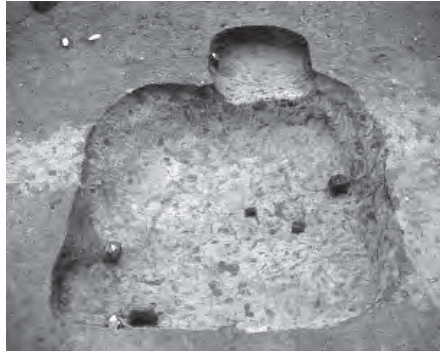


31号土坑 全景 北から





33号土坑 全景 南から



36・37号土坑 全景 西から



41号土坑 全景 南から



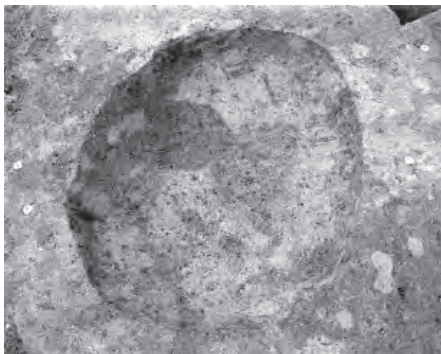
42号土坑 全景 北から



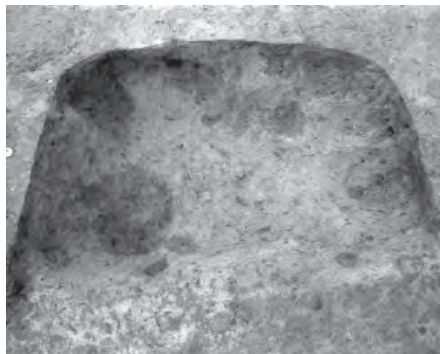
45号土坑 全景 西から



51号土坑 全景 南から



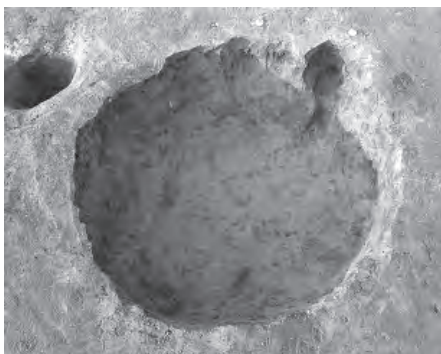
59号土坑 全景 南から



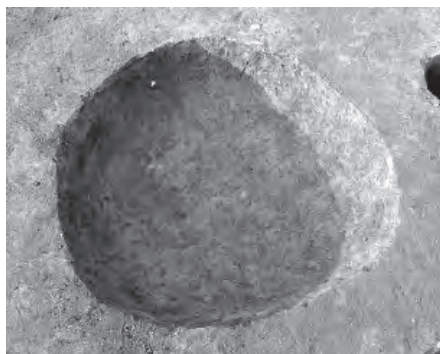
60号土坑 全景 南から



61号土坑 全景 北東から



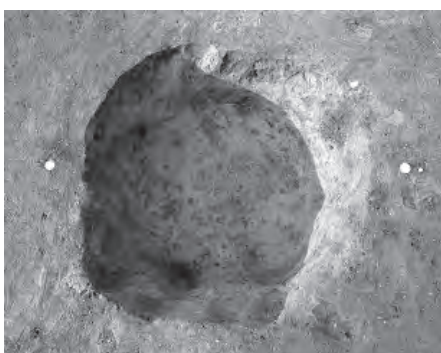
84号土坑 全景 南から



86号土坑 全景 南から



87号土坑 全景 南から



90号土坑 全景 南から

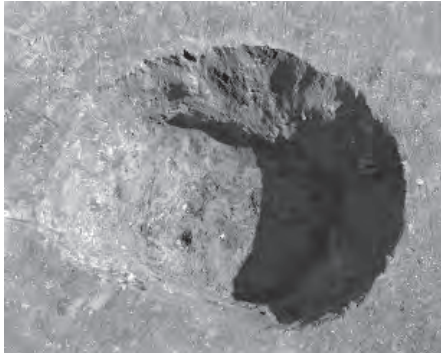


92・95～97・99～101号土坑 全景 東から

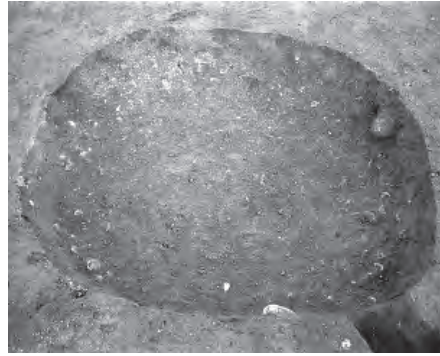


98号土坑 全景 東から

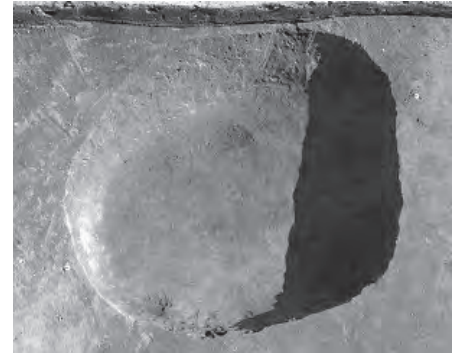




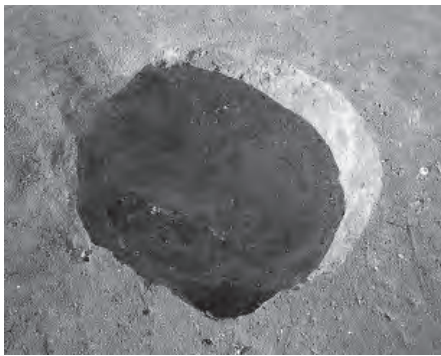
113号土坑 全景 西から



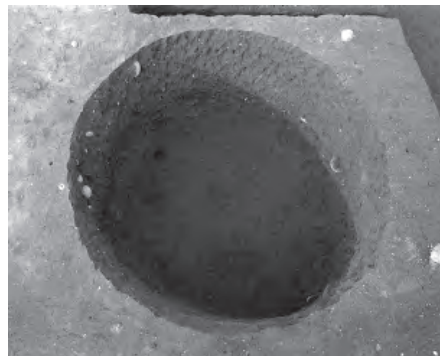
114号土坑 全景 西から



115号土坑 全景 西から



123号土坑 全景 南から



128号土坑 全景 南東から



129号土坑 全景 南から



132・133号土坑 全景 南東から



138・139号土坑 全景 東から



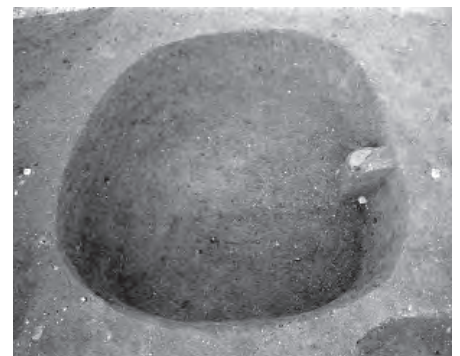
140号土坑 全景 南から



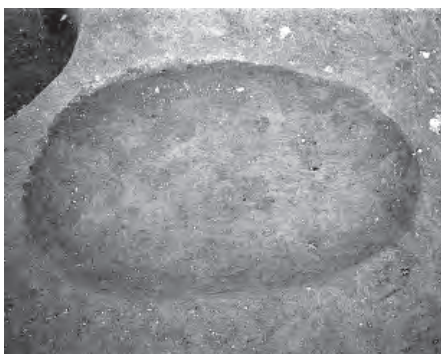
142号土坑 全景 南から



145号土坑 全景 北から



146号土坑 全景 南から



147号土坑 全景 南から



151号土坑 全景 西から

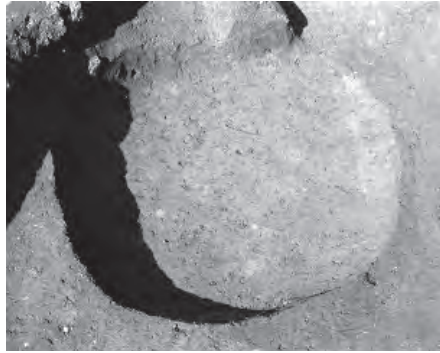


152号土坑 全景 南から





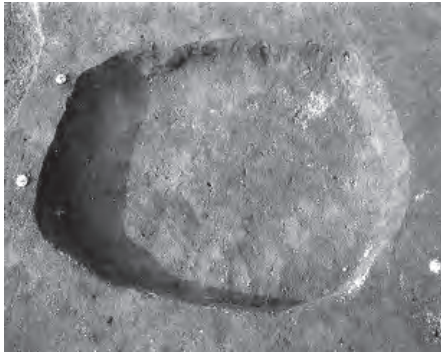
157号土坑 全景 西から



160号土坑 全景 南から



163号土坑 全景 南から



167号土坑 全景 東から



171号土坑 全景 西から



182号土坑 全景 西から



183号土坑 全景 西から



184号土坑 全景 西から



189号土坑 全景 東から



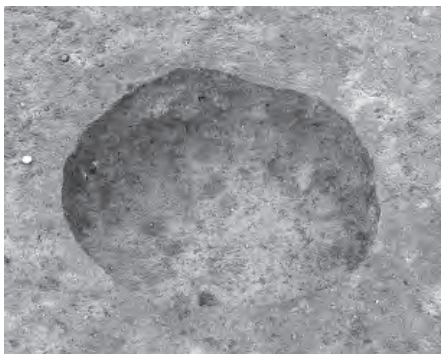
209号土坑 全景 北から



238号土坑 全景 南から



270号土坑 全景 西から



272号土坑 全景 南から

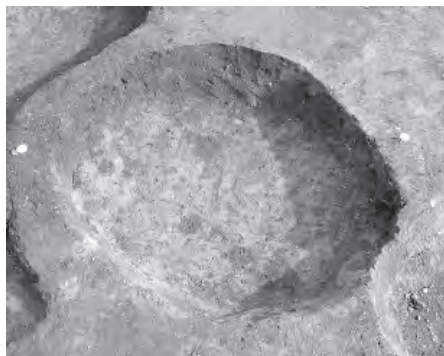


278号土坑 全景 南から



280号土坑 全景 西から





283号土坑 全景 南から



288号土坑 全景 南から



295号土坑 全景 南東から



296号土坑 全景



305号土坑 全景 北から



307号土坑 全景 西から



312号土坑 全景 南から



316号土坑 全景 南西から



318号土坑 全景 西から



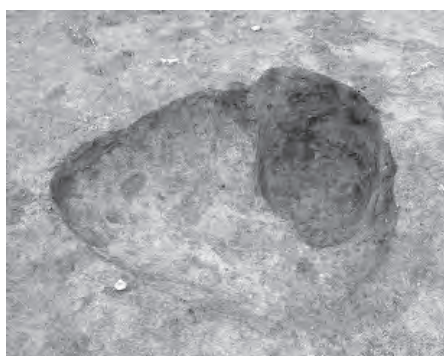
332号土坑 全景 東から



333号土坑 全景 南から



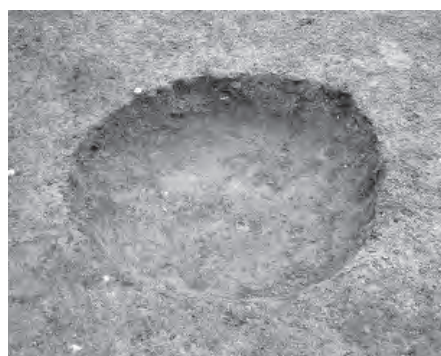
334号土坑 全景 東から



335号土坑 全景 西から

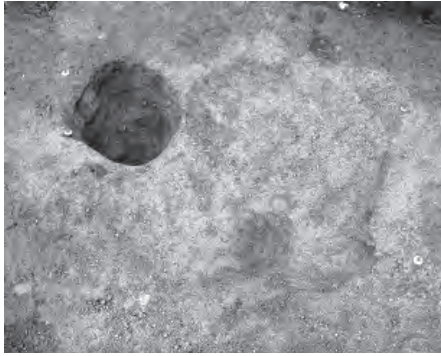


336・337号土坑 全景 南東から

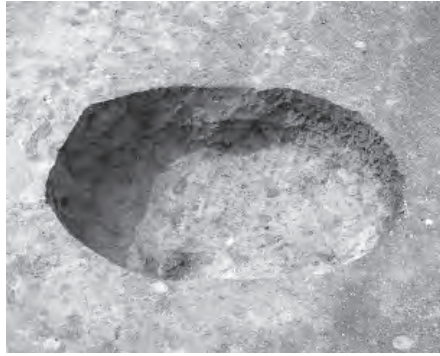


338号土坑 全景 南から

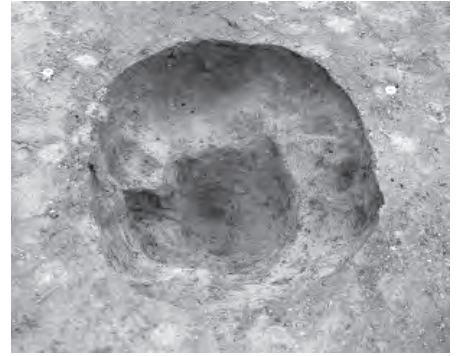




339号土坑 全景 西から



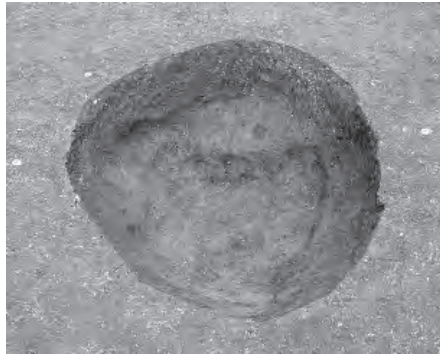
342号土坑 全景 南から



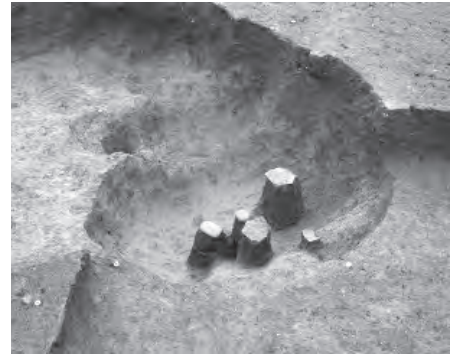
343号土坑 全景 南から



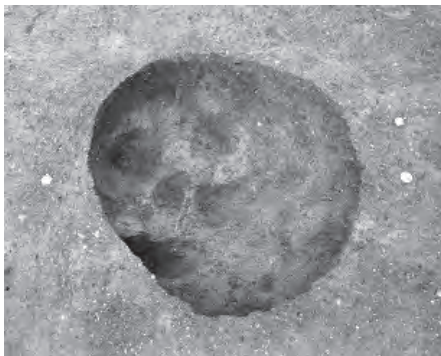
344号土坑 全景 南から



348号土坑 全景 南から



350号土坑 全景 東から



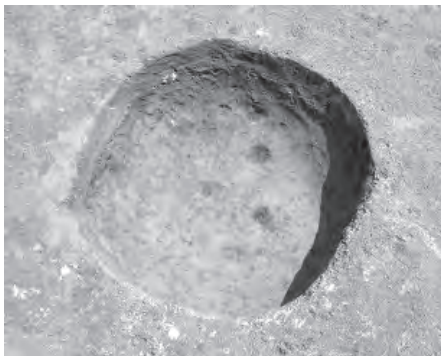
351号土坑 全景 南から



353号土坑 礫検出状況 西から



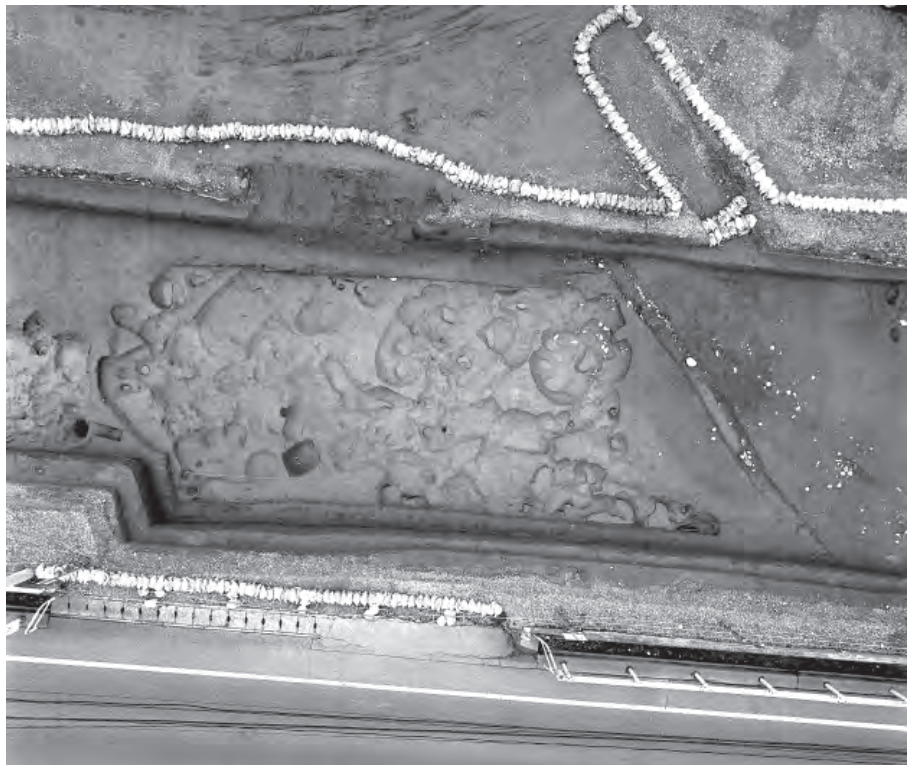
353号土坑 全景 西から



355号土坑 全景 南から



356号土坑 全景 南東から

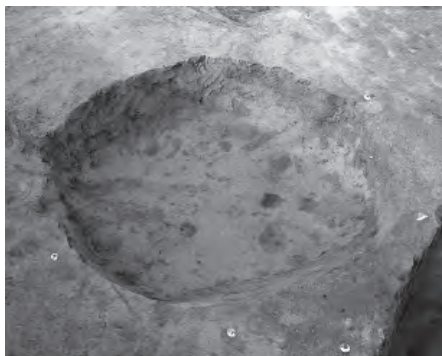


IV区3号低地 土坑群全景 空撮





368・377号土坑 全景 東から



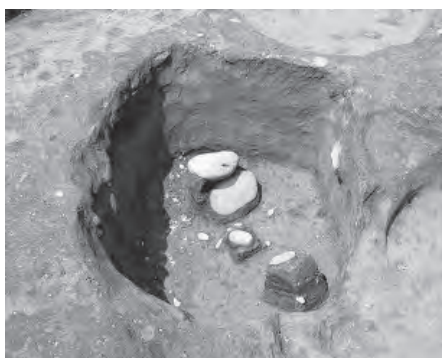
370号土坑 全景 南から



371号土坑 全景 東から



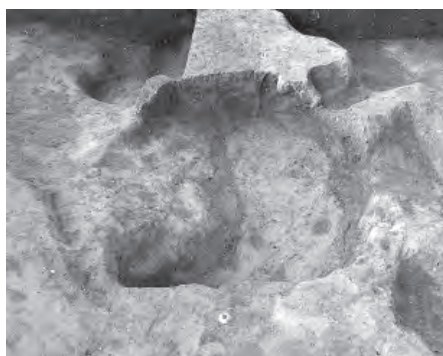
371号土坑 土層断面 東から



372号土坑 全景 南東から



372号土坑 土層断面 南西から



373号土坑 全景 北から



374号土坑 全景



466号ピット 遺物出土状態



263号ピット 遺物出土状態



I区東側ピット群 全景 南から



219～230号ピット 全景 西から



481～486号ピット 全景



467～475号ピット 全景



457～463号ピット 全景



3面1期  
田口上田尻遺跡  
竪穴住居



4号住居 全景 西から



4号住居 掘り方全景 西から



4号住居 遺物出土状態 西から



6号住居 全景 南から



6号住居 遺物出土状態 北東から



6号住居 遺物出土状態 南西から



9号住居 遺物出土状態 東から





9号住居 全景 北から



9号住居 掘り方全景 北から



9号住居 炭化材検出状況 北東から

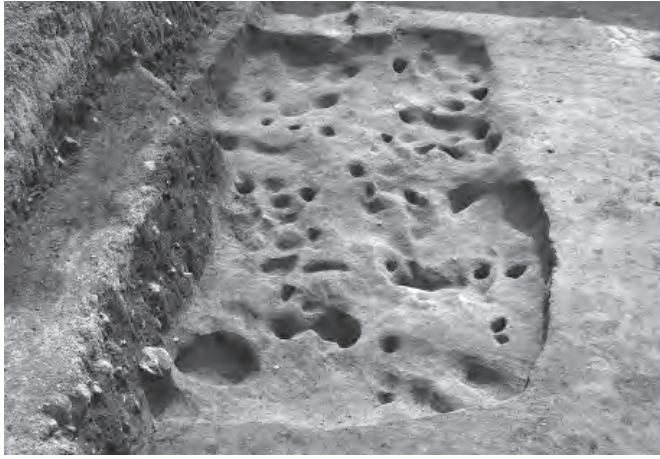


9号住居 遺物出土状態 南東から



12号住居 全景 東から





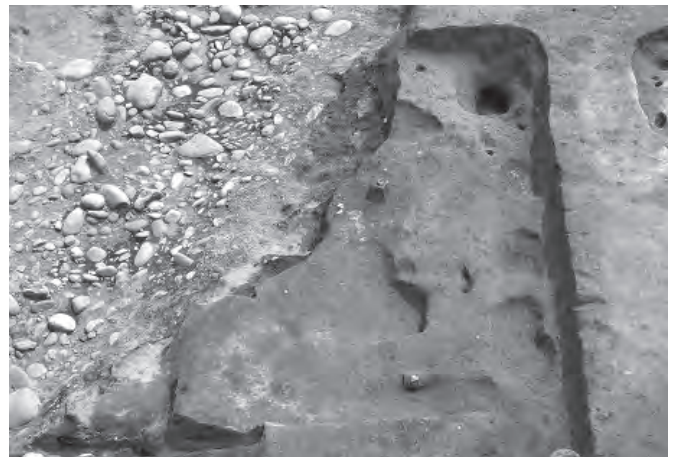
12号住居 掘り方全景 東から



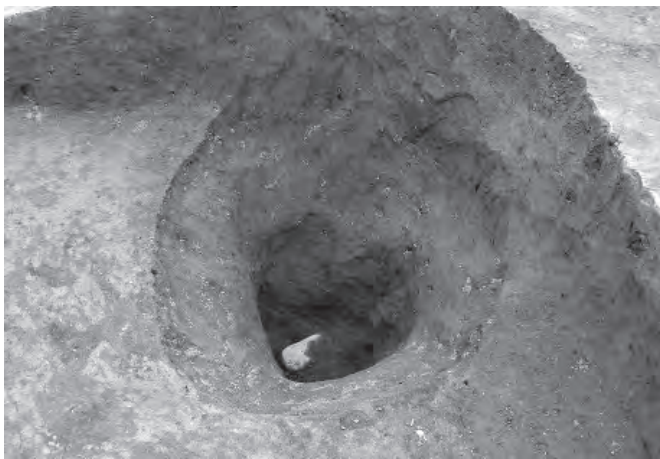
12号住居 炉土層断面 南東から



13号住居 全景 西から



13号住居 掘り方全景 西から



13号住居 貯蔵穴全景 西から



14号住居 全景 北から



14号住居 掘り方全景 北から



14号住居 遺物出土状態 北から





14号住居 遺物出土状態 北から



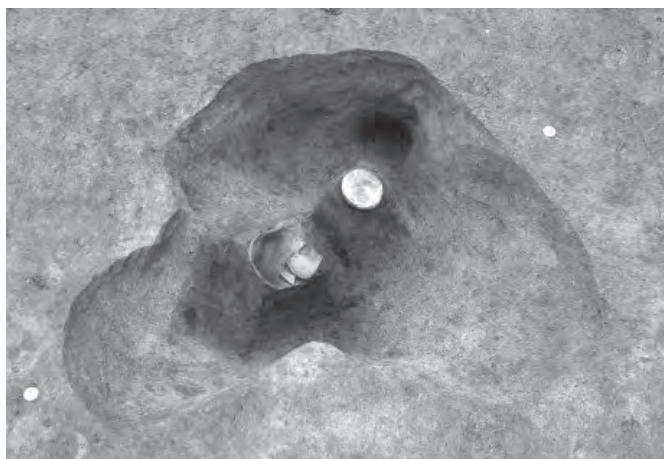
14号住居 遺物出土状態 北から



15号住居 全景 東から



15号住居 炉全景 北から



15号住居 P1 遺物出土状態 北から



15号住居 遺物出土状態 西から



18号住居 全景 西から



18号住居 P1 礫出土状態 西から





21号住居 全景 北から



21号住居 掘り方全景 北から



23号住居 全景 北から



23号住居 土層断面 北から



24号住居 全景 北から



24号住居 遺物出土状態 北から



27号住居 全景 北から



28号住居 全景 北から

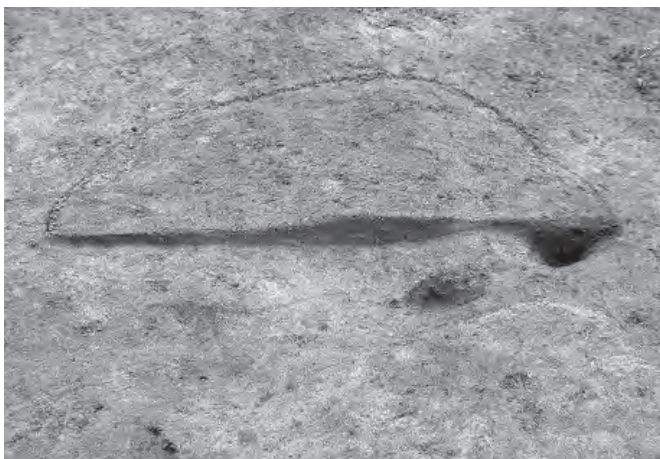




28号住居 遺物出土状態 北西から



28号住居 遺物出土状態 北西から



28号住居 炉土層断面 東から



32号住居 全景 西から



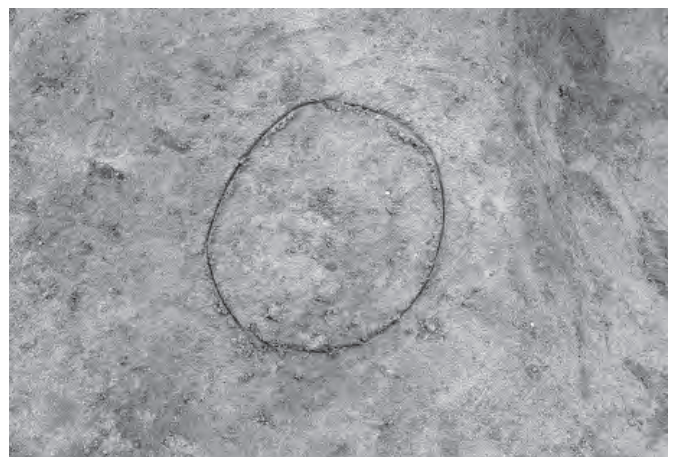
32号住居 貯蔵穴遺物出土状態 南から



32号住居 遺物出土状態 東から

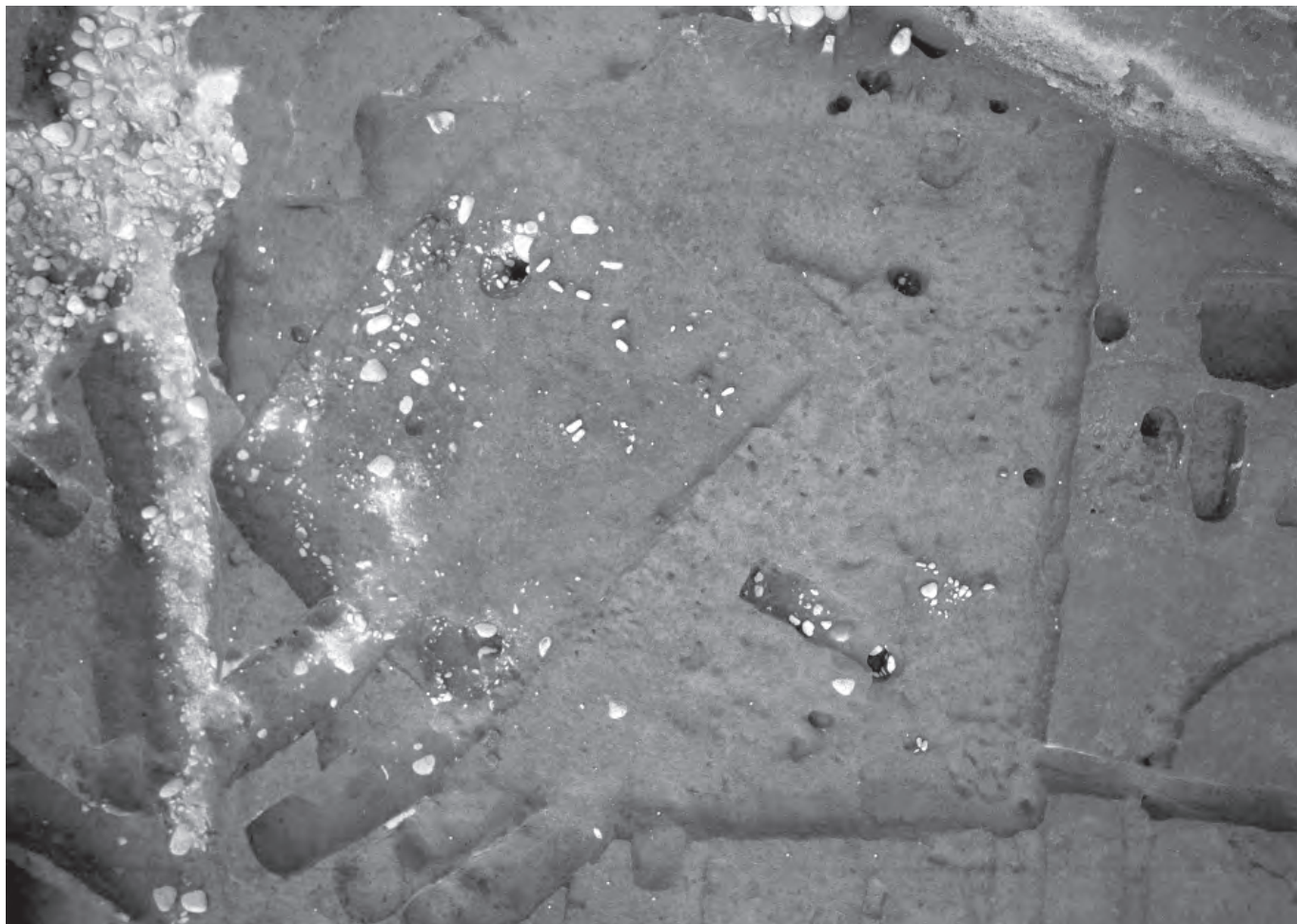


32号住居 遺物出土状態 南西から



32号住居 炉検出状況 西から





33号住居 全景 空撮



33号住居 全景 北東から





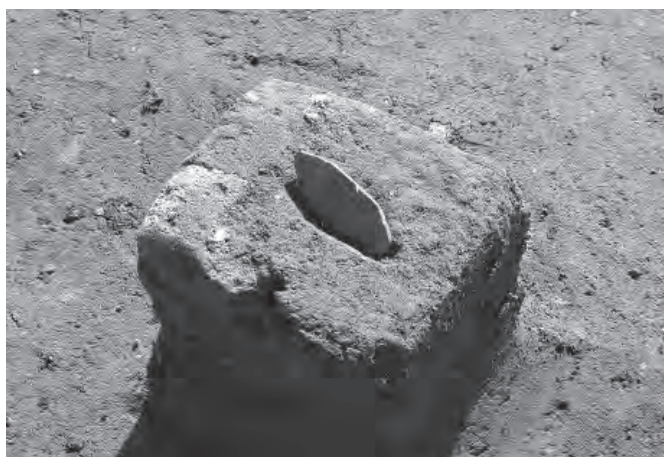
33号住居 掘り方全景 北東から



33号住居 遺物出土状態 西から



33号住居 遺物出土状態 西から



33号住居 石製模造品出土状態 南から



33号住居 遺物出土状態 西から



33号住居 遺物出土状態 西から



33号住居 遺物出土状態 北西から



33号住居 遺物出土状態 西から





33号住居 P4遺物出土状態 東から



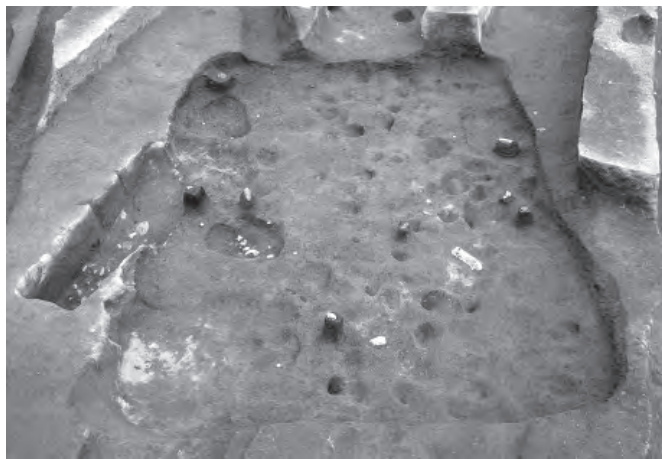
33号住居 赤色顔料出土状態 西から



35号住居 全景 北から



36号住居 全景 西から



36号住居 掘り方全景 西から



38号住居 全景 西から

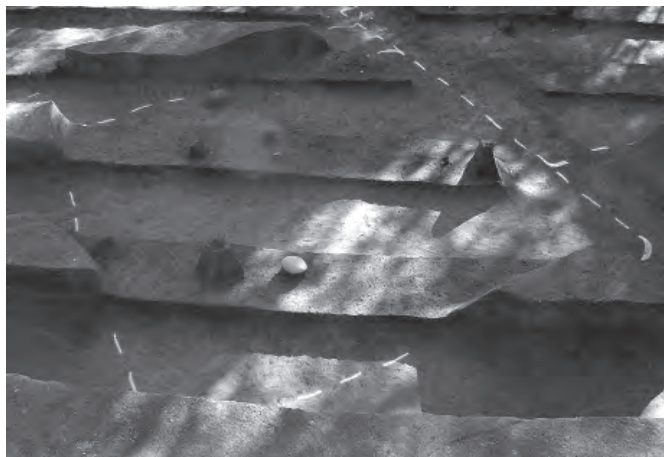


38号住居 炉土層断面 南から



38号住居 遺物出土状態

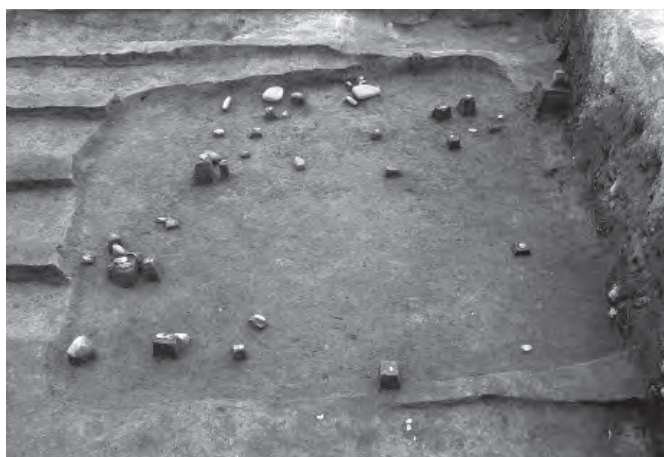




39号住居 全景 西から



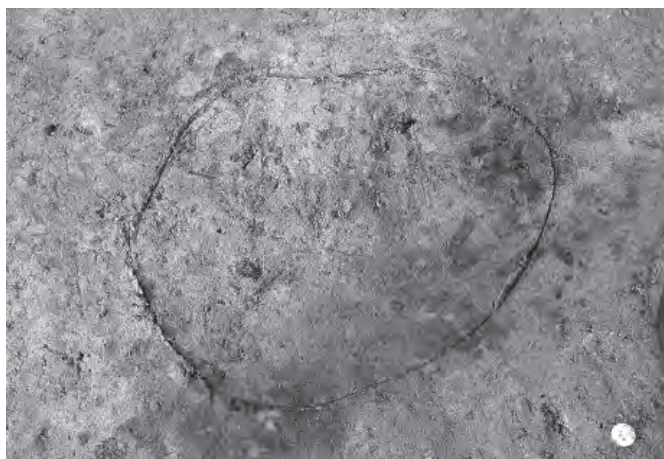
39号住居 炉検出状況 西から



40号住居 全景 南から



40号住居 掘り方全景 南から



40号住居 炉検出状況 南から



40号住居 遺物出土状態 東から



43号住居 全景 西から



43号住居 掘り方全景 南から





43号住居 遺物出土状態 北西から



43号住居 遺物出土状態 東から



44号住居 全景 南東から



44号住居 掘り方全景 西から



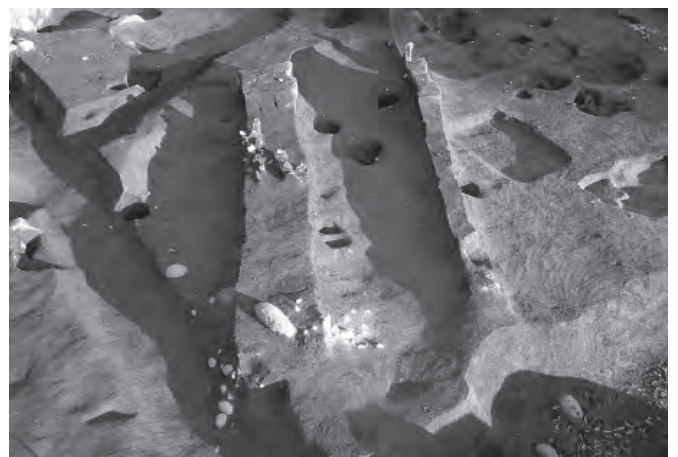
45号住居 全景 東から



45号住居 貯蔵穴土層断面 東から



45号住居 貯蔵穴遺物出土状態 北から

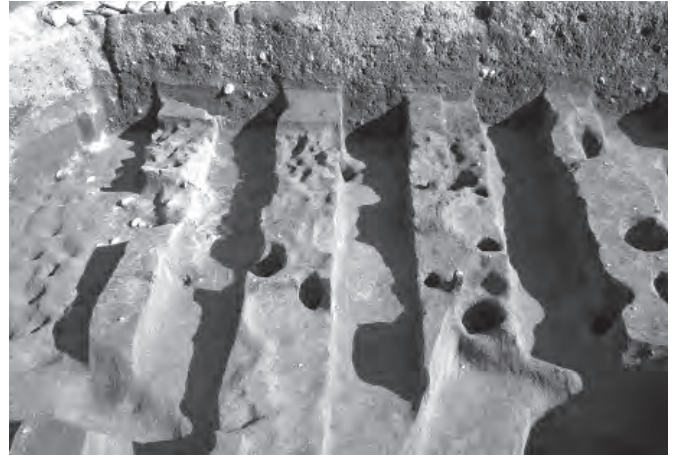


47号住居 全景 西から





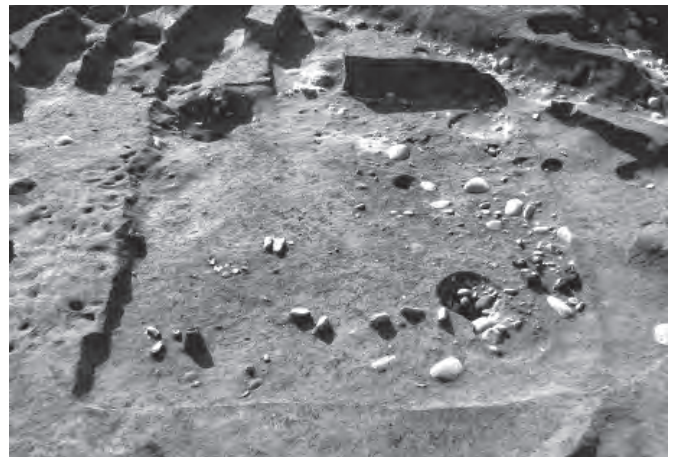
47号住居 遺物出土状態 西から



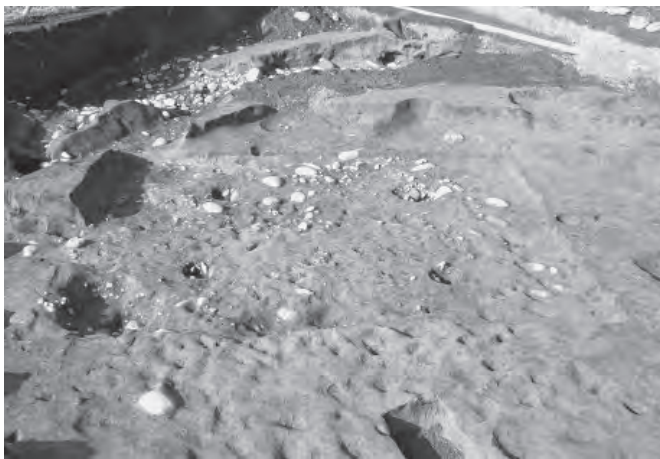
48号住居 全景 西から



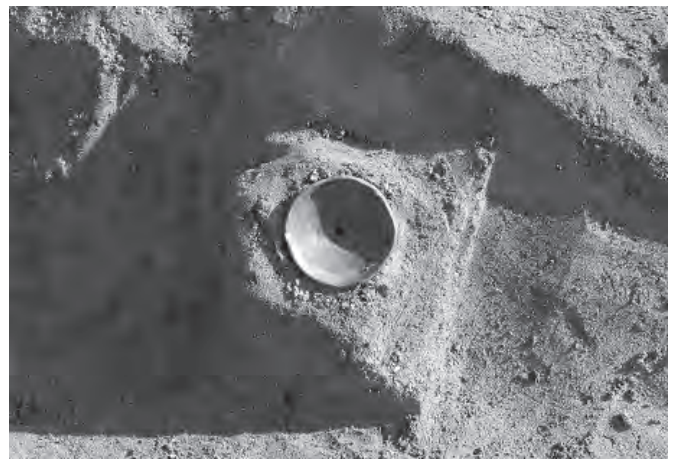
48号住居 全景 南から



49号住居 全景 北から



49号住居 掘り方全景 南東から



49号住居 遺物出土状態 西から



49号住居 遺物出土状態 西から



51号住居 全景 西から

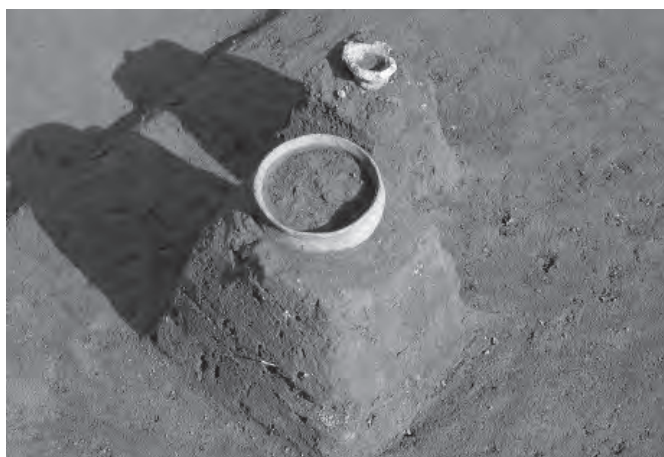




51号住居 掘り方全景 西から



51号住居 遺物出土状態 北西から



51号住居 遺物出土状態 南西から



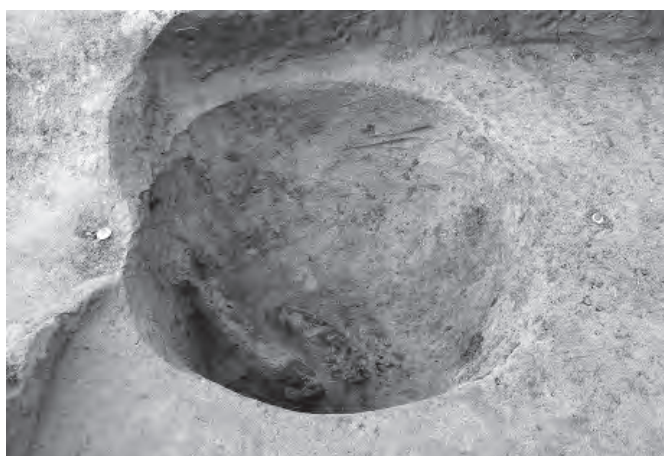
55号住居 全景 西から



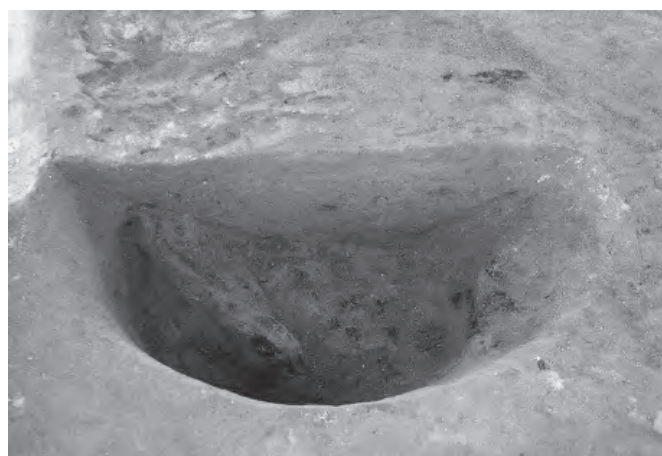
55号住居 P1土層断面 南から



54号住居 全景 東から



54号住居 貯蔵穴全景 南から



54号住居 貯蔵穴土層断面 南から





54号住居 遺物出土状態 東から



54号住居 遺物出土状態 南西から



57号住居 全景 東から



58号住居 遺物出土状態 西から



58号住居 遺物出土状態 北から



58号住居 遺物出土状態 北から



58号住居 遺物出土状態 南から



81号住居 全景 西から





81号住居 遺物出土状態 南から



81号住居 遺物出土状態 西から



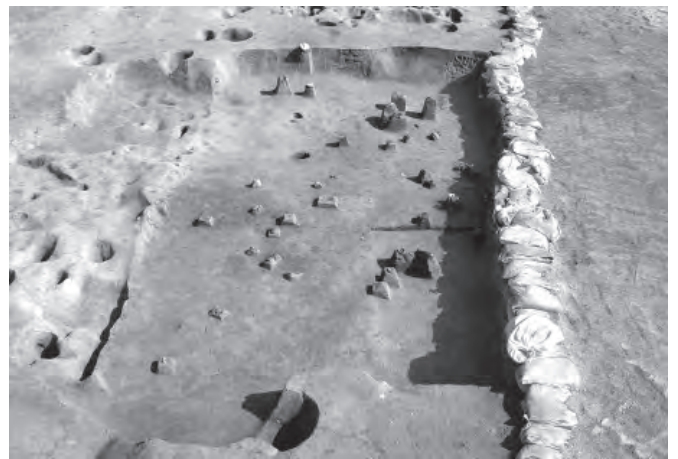
89号住居 全景 北から



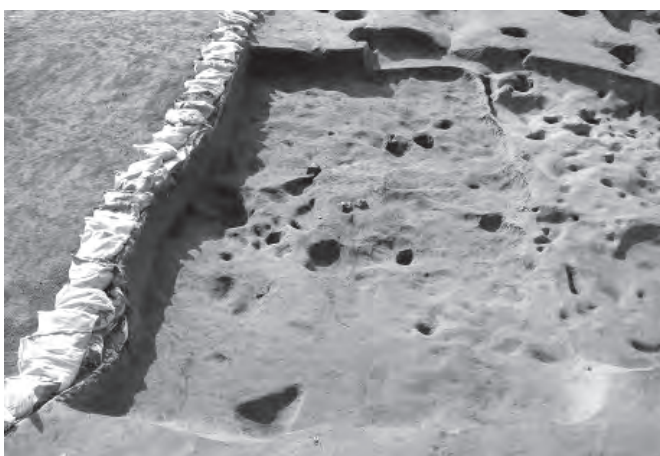
89号住居 遺物出土状態 北西から



89号住居 掘り方遺物出土状態 北西から



91号住居 全景 西から



91号住居 掘り方全景 東から



91号住居 遺物出土状態 南東から





91号住居 遺物出土状態 北から



91号住居 遺物出土状態 東から



93号住居 全景 西から



93号住居 遺物出土状態 北から



93号住居 鉄鏃出土状態 北から



100号住居 遺物出土状態 南から



106号住居 炭化材出土状態 南から

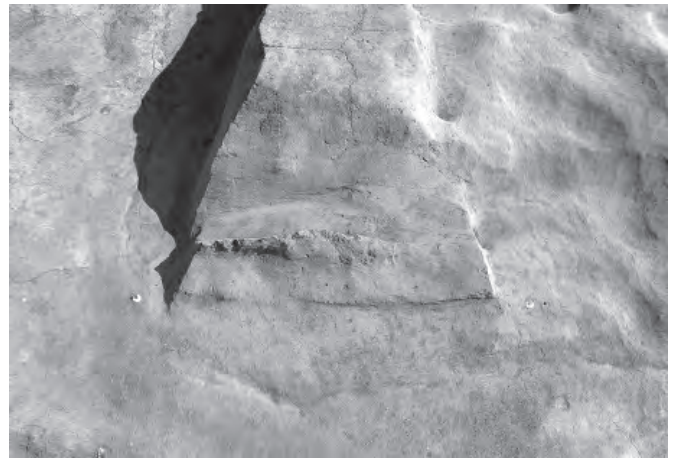


106号住居 遺物出土状態 南から





106号住居 掘り方遺物出土状態 東から



107号住居 全景 西から



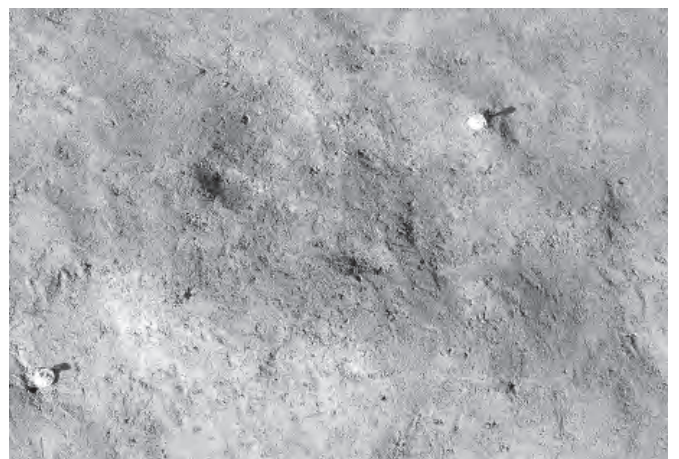
108号住居 全景 西から



111号住居 掘り方全景 南から



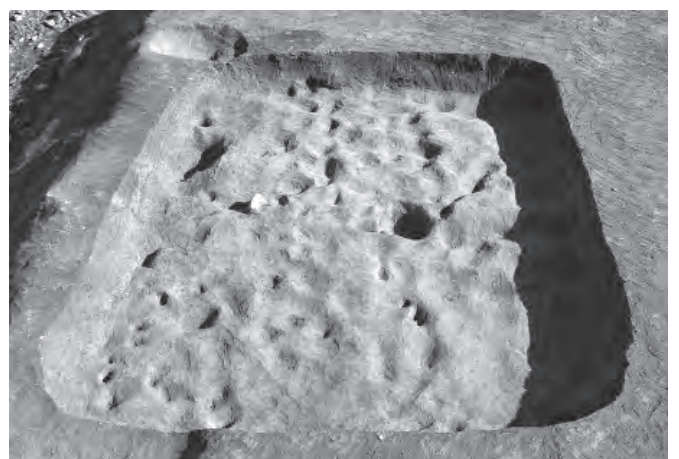
114号住居 全景 南西から



114号住居 炉検出状況 東から



122号住居 全景 西から



122号住居 掘り方全景 西から





122号住居 遺物出土状態 西から



122号住居 遺物出土状態 西から



122号住居 炉検出状況 西から



123号住居 全景 東から



123号住居 遺物出土状態 東から



124号住居 全景 東から



129号住居 全景 南から

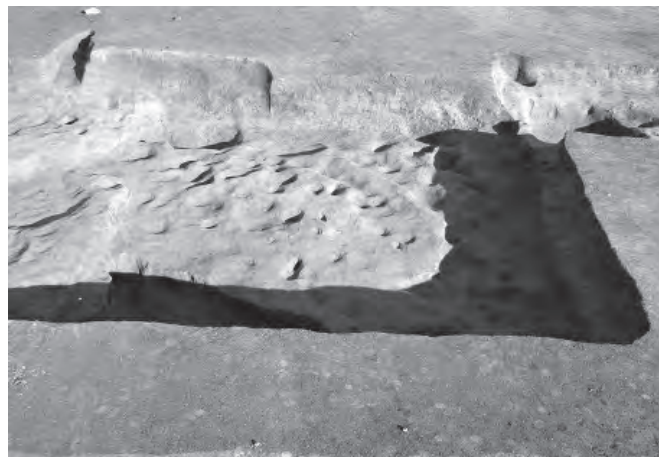


129号住居 遺物出土状態 北から





129号住居 遺物出土状態 南から



133号住居 掘り方全景 西から



133号住居 全景 西から



133号住居 遺物出土状態 北から



133号住居 遺物出土状態 西から





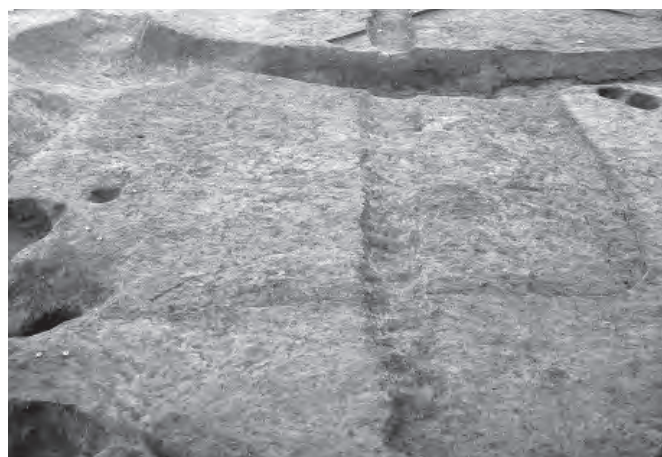
133号住居 遺物出土状態 南から



133号住居 遺物出土状態 西から



133号住居 遺物出土状態 東から



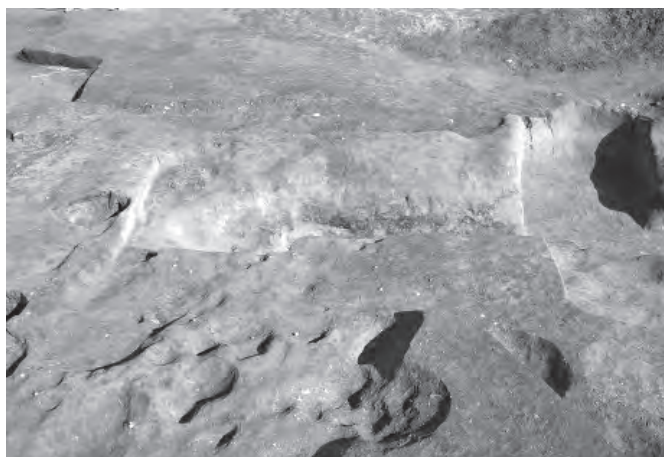
138号住居 全景 西から



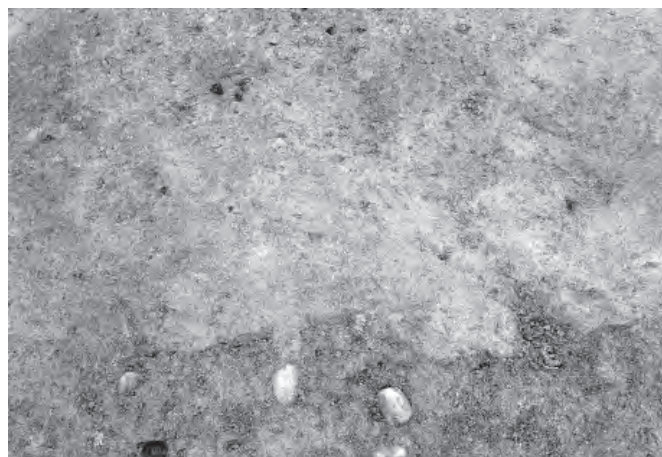
140号住居 全景 西から



140号住居 遺物出土状態 西から



146号住居 全景 西から



146号住居 炉検出状況 西から





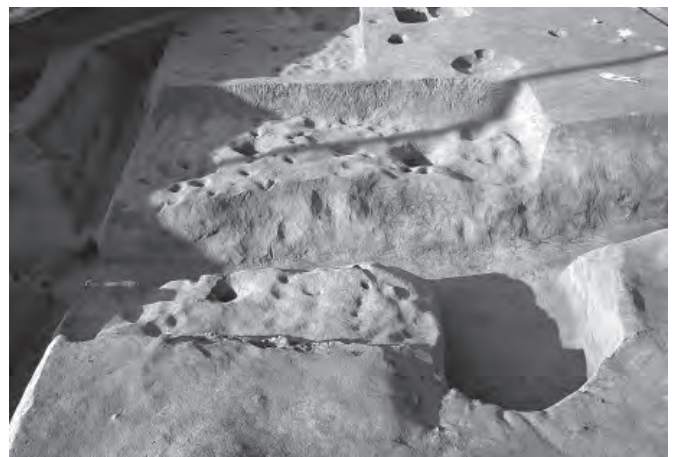
148号住居 全景 西から



148号住居 掘り方全景 西から



149号住居 全景 東から



149号住居 掘り方全景 東から



149号住居 遺物出土状態 北東から



149号住居 遺物出土状態 北東から



149号住居 P3礫出土状態 東から



149号住居 遺物出土状態 南西から





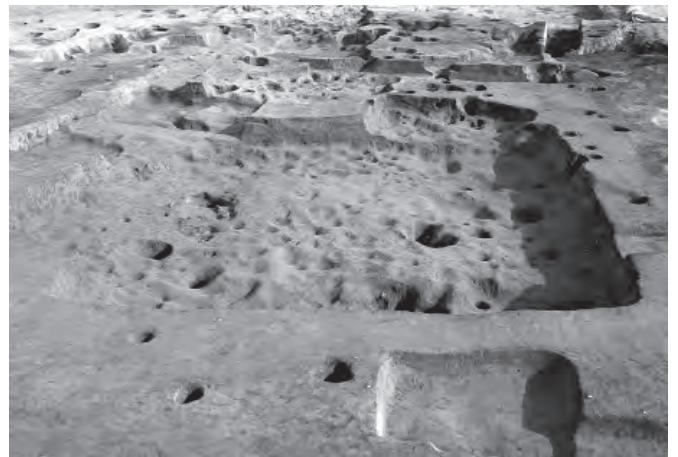
151号住居 炉検出状況 北から



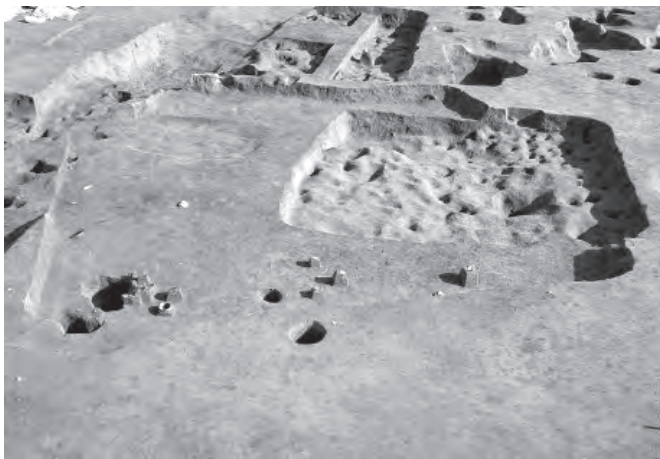
151号住居 掘り方全景 西から



155号住居 全景 西から



155号住居 掘り方全景 西から



159号住居 全景 南西から



159号住居 遺物出土状態 南から



159号住居 遺物出土状態 北東から



163号住居 全景 北東から





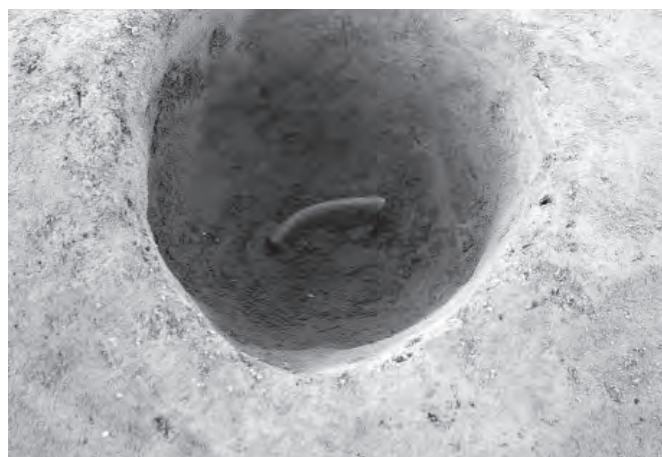
163号住居 掘り方全景 北東から



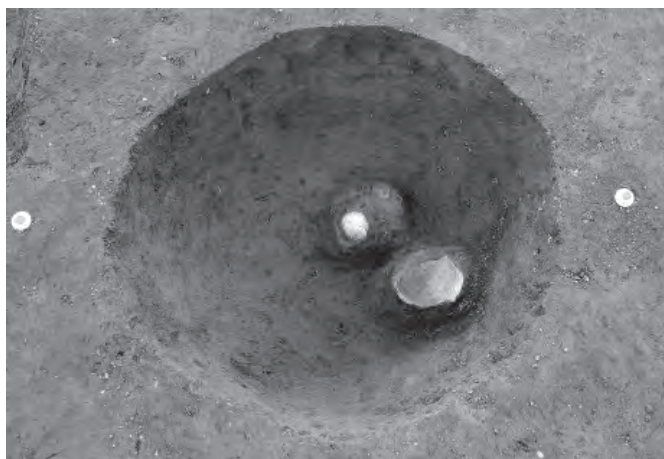
165号住居 全景 西から



165号住居 掘り方全景 西から



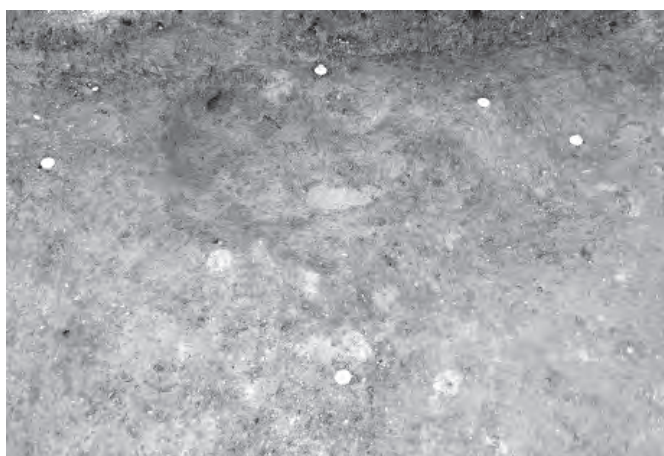
165号住居 P7 遺物出土状態 東から



165号住居 土坑2 遺物出土状態 南から



165号住居 遺物出土状態 北から



169号住居 炉検出状況 北東から



171号住居 全景 東から





171号住居 遺物出土状態 南東から



171号住居 遺物出土状態 東から



171号住居 遺物出土状態 北西から



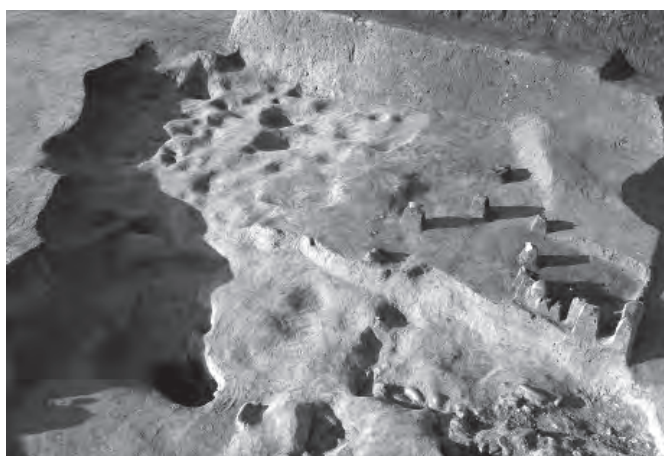
173号住居 全景 西から



173号住居 遺物出土状態 西から



174号住居 全景 西から



177号住居 全景 南東から



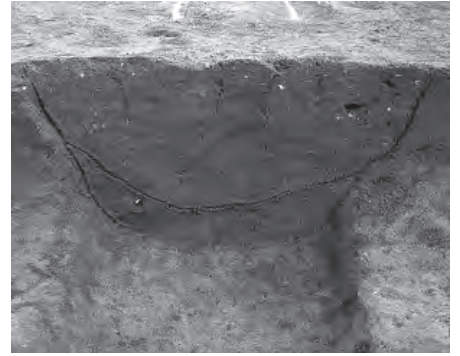
177号住居 遺物出土状態 北から



3面I期  
田口上田尻遺跡  
溝・畑・土坑



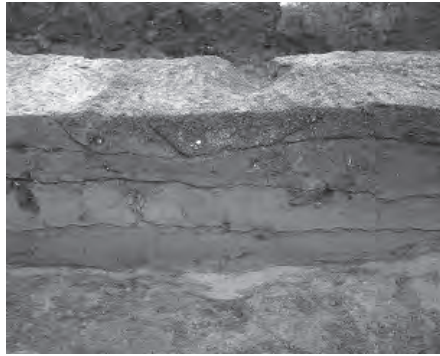
32号溝 全景 南から



32号溝 土層断面 南から



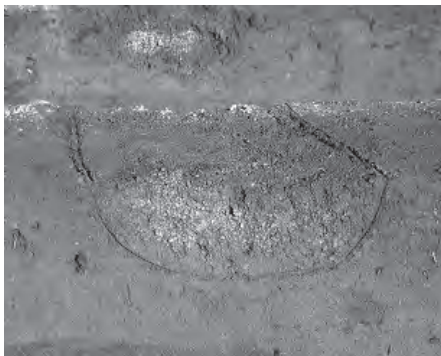
72号溝 全景 西から



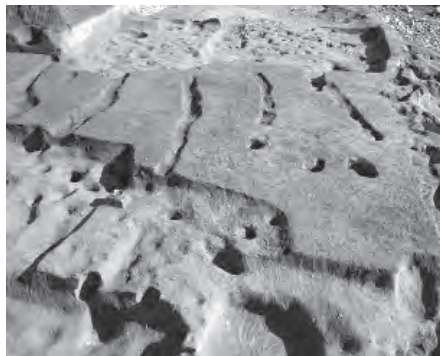
21号畑 全景 南から



22号畑 全景 西から



22号畑 土層断面 西から



33号畑 全景 西から



33号畑 検出状況 南から



33号畑 土層断面 西から



36号畑 全景 北から



196・197号土坑 土層断面 南から



3面1期  
田口下田尻遺跡  
竪穴住居



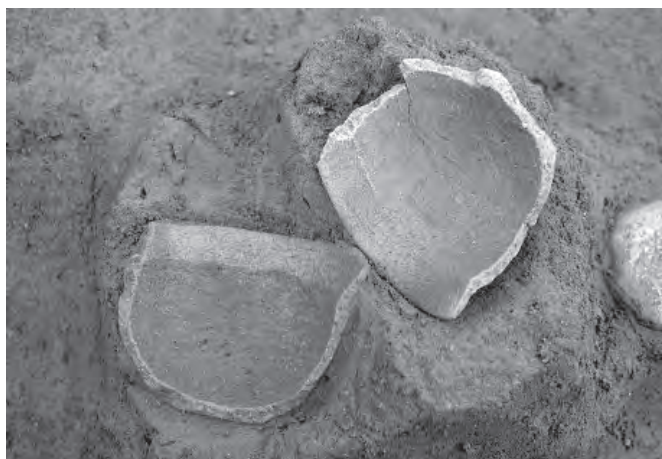
6号住居 全景 北西から



6号住居 炉検出状況 北から



6号住居 遺物出土状態 北西から



6号住居 遺物出土状態 西から



6号住居 遺物出土状態



6号住居 貯蔵穴土層断面 南西から

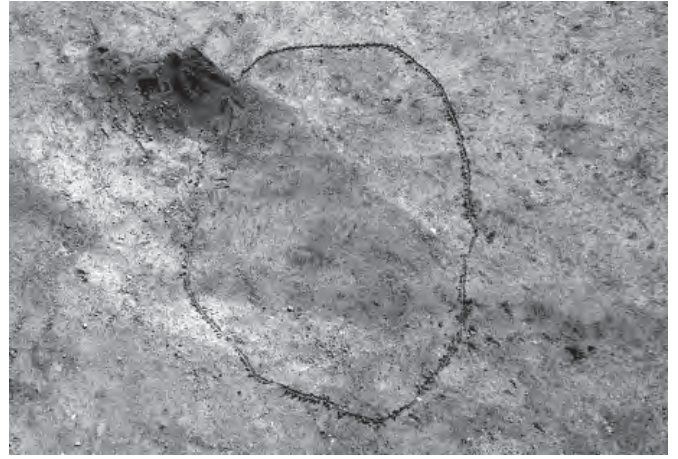


21号住居 全景 北から





21号住居 遺物出土状態 北から



21号住居 炉検出状況 北西から



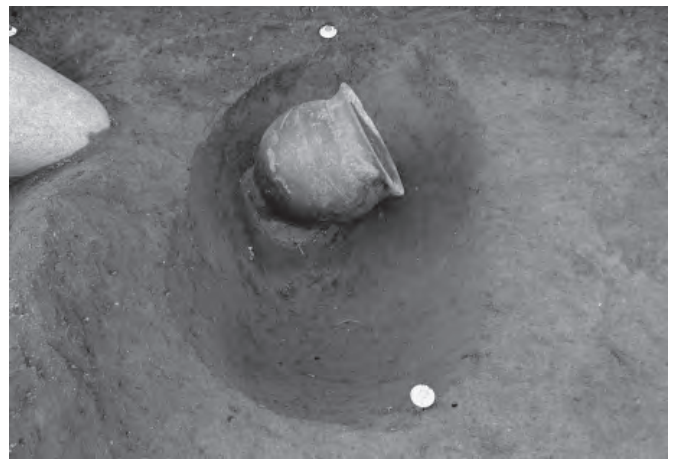
21号住居 遺物出土状態



32号住居 全景 南から



32号住居 遺物出土状態 東から



32号住居 貯蔵穴遺物出土状態 東から



32号住居 貯蔵穴土層断面 北から



42号住居 全景 西から





66号住居 全景 南東から



66号住居 遺物出土状態 南から



66号住居 遺物出土状態 南から



66号住居 遺物出土状態 南から



66号住居 貯蔵穴遺物出土状態 東から



66号住居 遺物出土状態 南から



66号住居 遺物出土状態 東から





66号住居 遺物出土状態 東から



67号住居 全景 南西から



67号住居 遺物出土状態 南東から



67号住居 遺物出土状態 北西から



67号住居 遺物出土状態 北西から





67号住居 遺物出土状態 西から



67号住居 遺物出土状態 南東から



67号住居 遺物出土状態 南から



67号住居 遺物出土状態 西から



69号住居 全景 西から



69号住居 遺物出土状態 南西から



69号住居 全景 南から





71号住居 全景 南から



71号住居 遺物出土状態 南から



71号住居 遺物出土状態 南から



71号住居 遺物出土状態 南から



71号住居 遺物出土状態 南から





71号住居 遺物出土状態 南から



71号住居 遺物出土状態 南から



71号住居 炭化材出土状態 南から



72号住居 全景 西から



72号住居 遺物出土状態 西から



72号住居 遺物出土状態 北から



73号住居 全景 北から



73号住居 掘り方全景 北から





73号住居 遺物出土状態 西から



76号住居 全景 南から



76号住居 遺物出土状態 東から



105号住居 全景 南から



105号住居 掘り方全景 西から



105号住居 土層断面 西から



105号住居 遺物出土状態 北西から



107号住居 炭化材出土状態 北から





107号住居 全景 西から



107号住居 炭化材出土状態 東から



116号住居 全景 西から



116号住居 掘り方全景 南から



116号住居 遺物出土状態 北西から





116号住居 貯蔵穴検出状況 南西から



116号住居 貯蔵穴検出状況 北から



116号住居 貯蔵穴土層断面 南から



117号住居 全景 西から



117号住居 掘り方全景 西から



117号住居 土層断面 南から



119号住居 全景 南東から



119号住居 掘り方全景 南東から





119号住居 遺物出土状態 南から



119号住居 遺物出土状態 南西から



119号住居 遺物出土状態 南から



121号住居 全景 東から



121号住居 遺物出土状態 北から



122号住居 全景 西から



122号住居 遺物出土状態 西から



124号住居 全景 南から





125号住居 全景 南から



125号住居 掘り方全景 南から



125号住居 遺物出土状態 南から

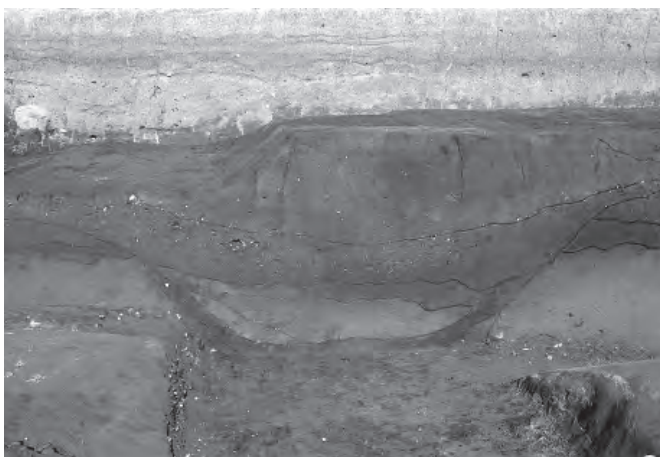


127号住居 全景 南から

3面I期  
田口下田尻遺跡  
溝・畑・土坑



30号溝 全景 南東から

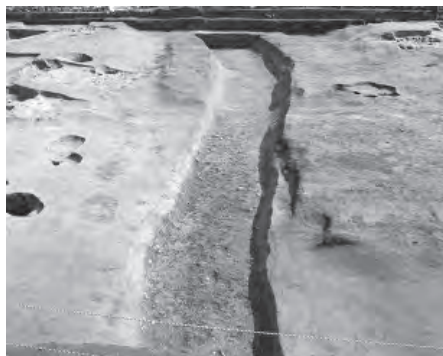


30号溝 土層断面 南から



30号溝 I区北側全景 南から





30号溝 Ⅲ区全景 北から



30号溝 Ⅲ区全景 南から



30号溝 Ⅲ区全景 空撮



30号溝 Ⅰ区全景 南から



30号溝 Ⅰ区冠水状況 南から



30号溝 Ⅰ区土層断面 南から



30号溝 Ⅲ区土層断面 南から



30号溝 Ⅲ区土層断面 南から



5・6号畑 全景 南から



5・6号畑 全景 西から



5号畑 土層断面 西から

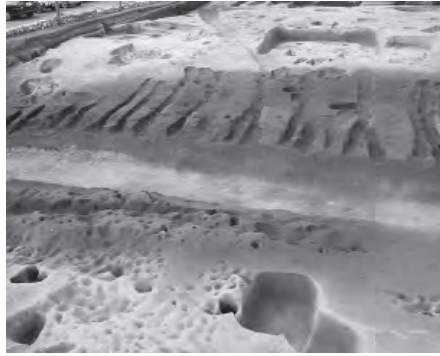


6号畑 全景 西から





6号畑 土層断面 西から



7号畑 全景 東から



7号畑 全景 南から



7号畑 全景 南から



7号畑 土層断面 西から



8号畑 全景 南から



8号畑 全景 南から



8号畑 土層断面 南から



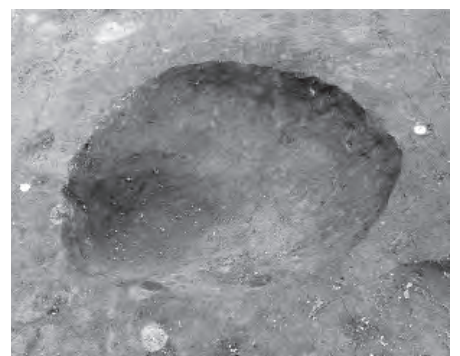
225号土坑 土層断面 北から



230号土坑 全景 北から



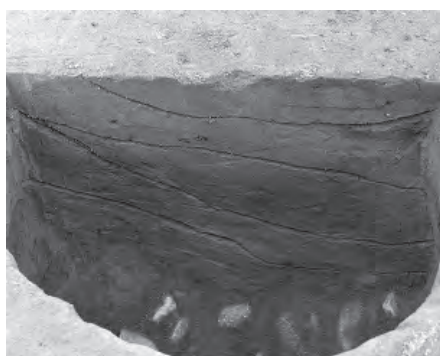
237号土坑 全景 北西から



240号土坑 全景 南から



240号土坑 土層断面 南から



259号土坑 土層断面



260号土坑 土層断面



3面II期  
田口上田尻遺跡  
竪穴住居



1号住居 全景 西から



1号住居 土層断面 南から



1号住居 掘り方全景 北から



7号住居 全景 西から



7号住居 掘り方全景 西から



7号住居 遺物出土状態 西から



7号住居 土層断面 西から





10号住居 北半全景 北から



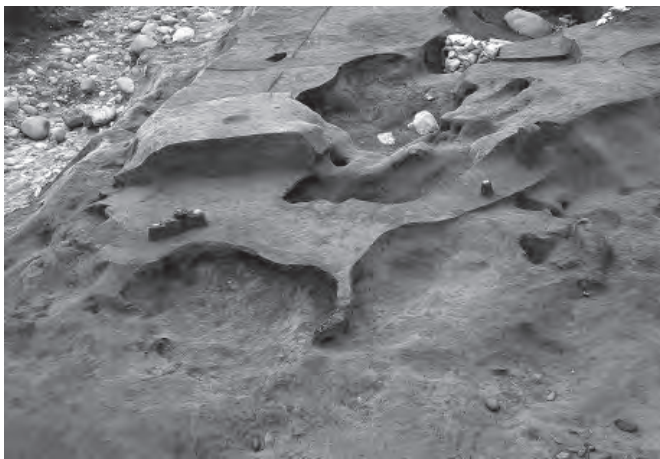
10号住居 土層断面 北東から



10号住居 遺物出土状態 北東から



10号住居 北半掘り方全景 北から



26号住居 全景 東から



26号住居 土層断面 南から



26号住居 遺物出土状態 東から



104号住居 全景 西から





104号住居 遺物出土状態 西から



104号住居 遺物出土状態 北から



134号住居 全景 東から



134号住居 掘り方全景 東から



134号住居 土層断面 南西から





134号住居 土層断面 南西から



134号住居 土層断面 北東から



134号住居 貯蔵穴遺物出土状態 西から



134号住居 炉検出状態 西から



134号住居 遺物出土状態 西から



134号住居 遺物出土状態 南西から

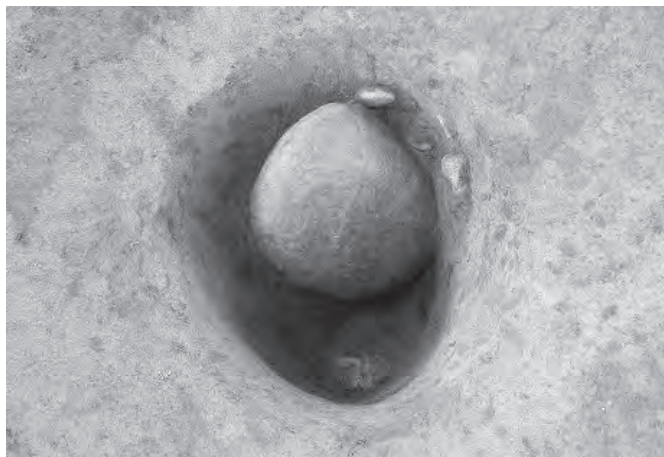


134号住居 遺物出土状態 北から



134号住居 鉄器出土状態 北から





134号住居 P 3 礫出土状態 北西から



134号住居 P 3 土層断面 北東から



164号住居 全景 東から



164号住居 土層断面 南西から



164号住居 炉検出状況 西から



164号住居 遺物出土状態 北から



166号住居 全景 南西から



166号住居 土層断面 南から

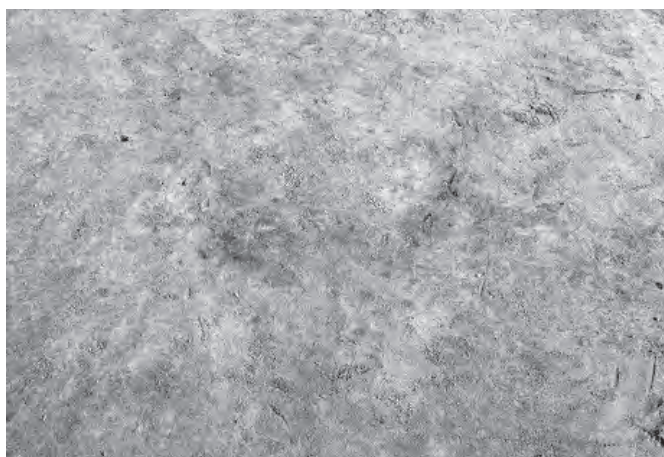




166号住居 土層断面 西から



166号住居 遺物出土状態 東から



166号住居 炉検出状況 西から

3面II期  
田口上田尻遺跡  
溝・畑



45号溝 全景 南から



4・5号畑 全景 南東から



4号畑 土層断面 東から





5号畑 土層断面 東から



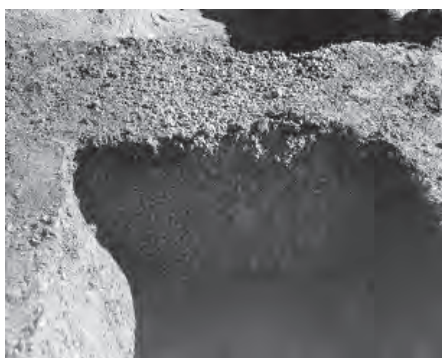
7号畑 全景 北東から



7号畑 土層断面 北東から



31号畑 全景 西から



31号畑 土層断面 西から



32号畑 全景 西から



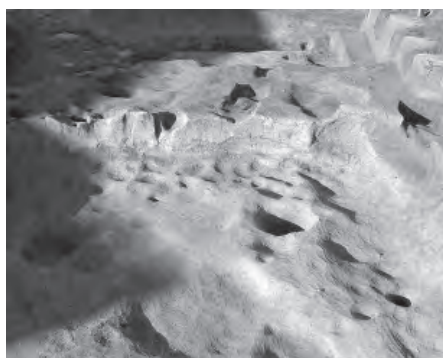
32号畑 土層断面 西から



33b・37号畑 全景 北から



33b号畑 検出状況 北西から



34号畑 全景 南から



34号畑 土層断面 南から



35号畑 全景 南から



35号畑 土層断面 南から



36号畑 全景 北から



38号畑 全景 北から



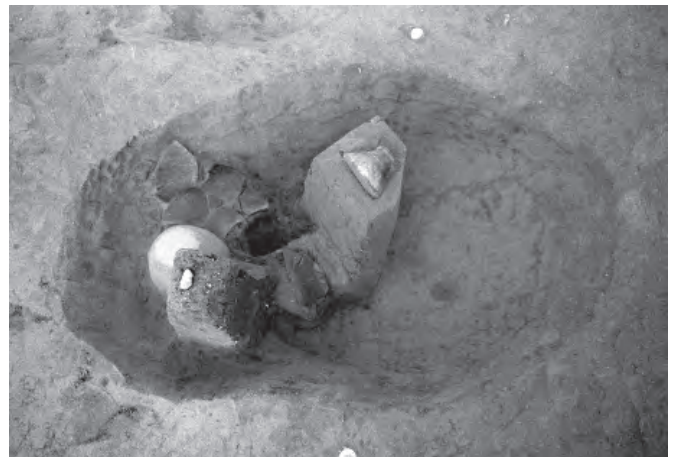
3面II期  
田口下田尻遺跡  
竪穴住居



13号住居 全景 北西から



13号住居 炉検出状況 南から



13号住居 貯蔵穴遺物出土状態 西から



13号住居 P4遺物出土状態 西から



13号住居 P2土層断面 北から



13号住居 遺物出土状態 北から



13号住居 遺物出土状態 北から





13号住居 遺物出土状態 北から



13号住居 遺物出土状態 北から



13号住居 遺物出土状態



51号住居 北半全景 北から



51号住居 南半全景 東から



51号住居 土層断面 南から



51号住居 遺物出土状態



51号住居 遺物出土状態 北から





64号住居 北半全景 西から



64号住居 南半全景 西から



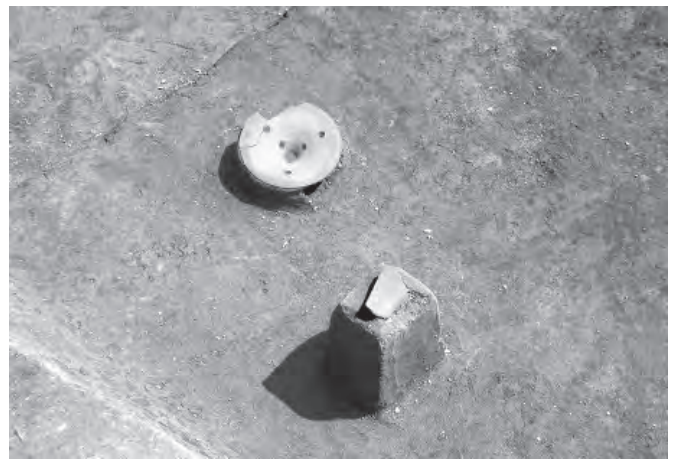
64号住居 北半掘り方全景 西から



64号住居 土層断面 南から



64号住居 炉土層断面 南から



64号住居 遺物出土状態 南西から



64号住居 遺物出土状態 北東から



64号住居 P4土層断面 南から





104号住居 全景 東から



104号住居 土層断面 南から



104号住居 炉全景 西から



104号住居 礫出土状態 西から



104号住居 掘り方全景 西から



120号住居 全景 西から



120号住居 土層断面 南から



120号住居 全景 西から





120号住居 掘り方全景 南から



120号住居 柱穴確認状況 西から



120号住居 炉土層断面 北東から

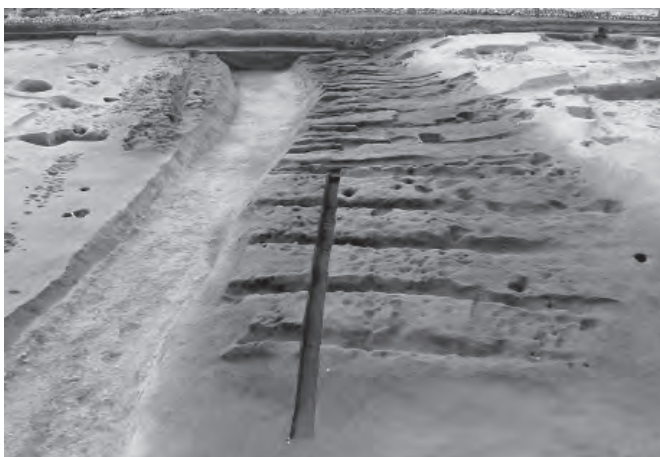


120号住居 炉全景 北東から

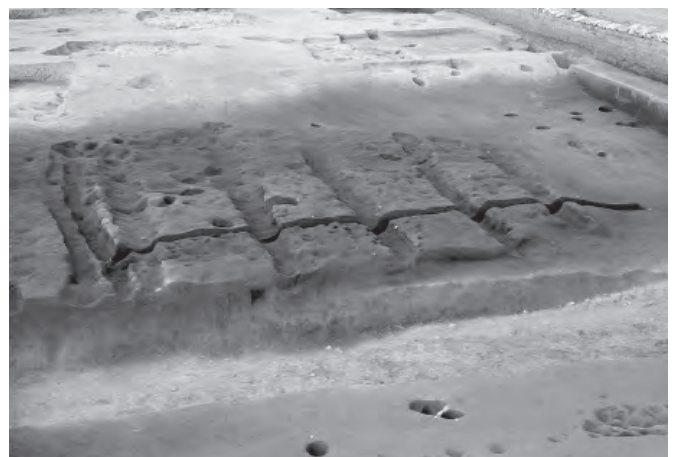


120号住居 遺物出土状態 西から

3面II期  
田口下田尻遺跡  
畑・土坑



7a号畑 全景 北から



7a号畑 部分 東から

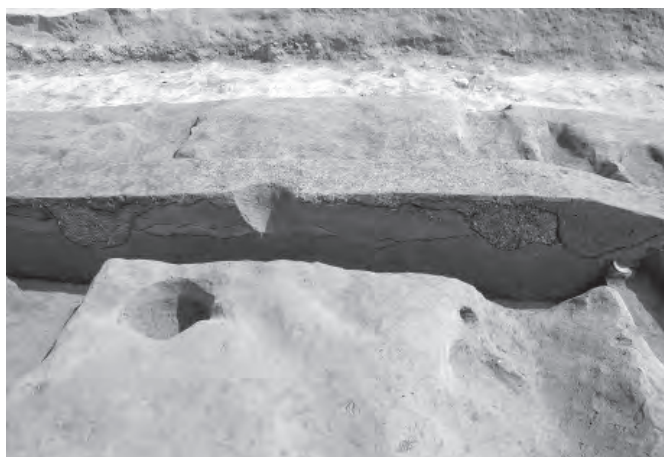




7a号畑 土層断面 西から



7a号畑 土層断面 北西から



7a号畑 土層断面 西から



241号土坑 土層断面 西から



# PL.228

1面I期 田口上田尻遺跡



1



2



6



6~8(1/1)

1号復旧痕



8



2号復旧痕

13(1/2)



15

3号復旧痕



20

7号復旧痕

15・20(1/4)



19(1/4)



109(1/6)

4号復旧痕



43(1/6)



46

42・46(1/6)



31

9号復旧痕



34



35



37(1/4)

10号復旧痕

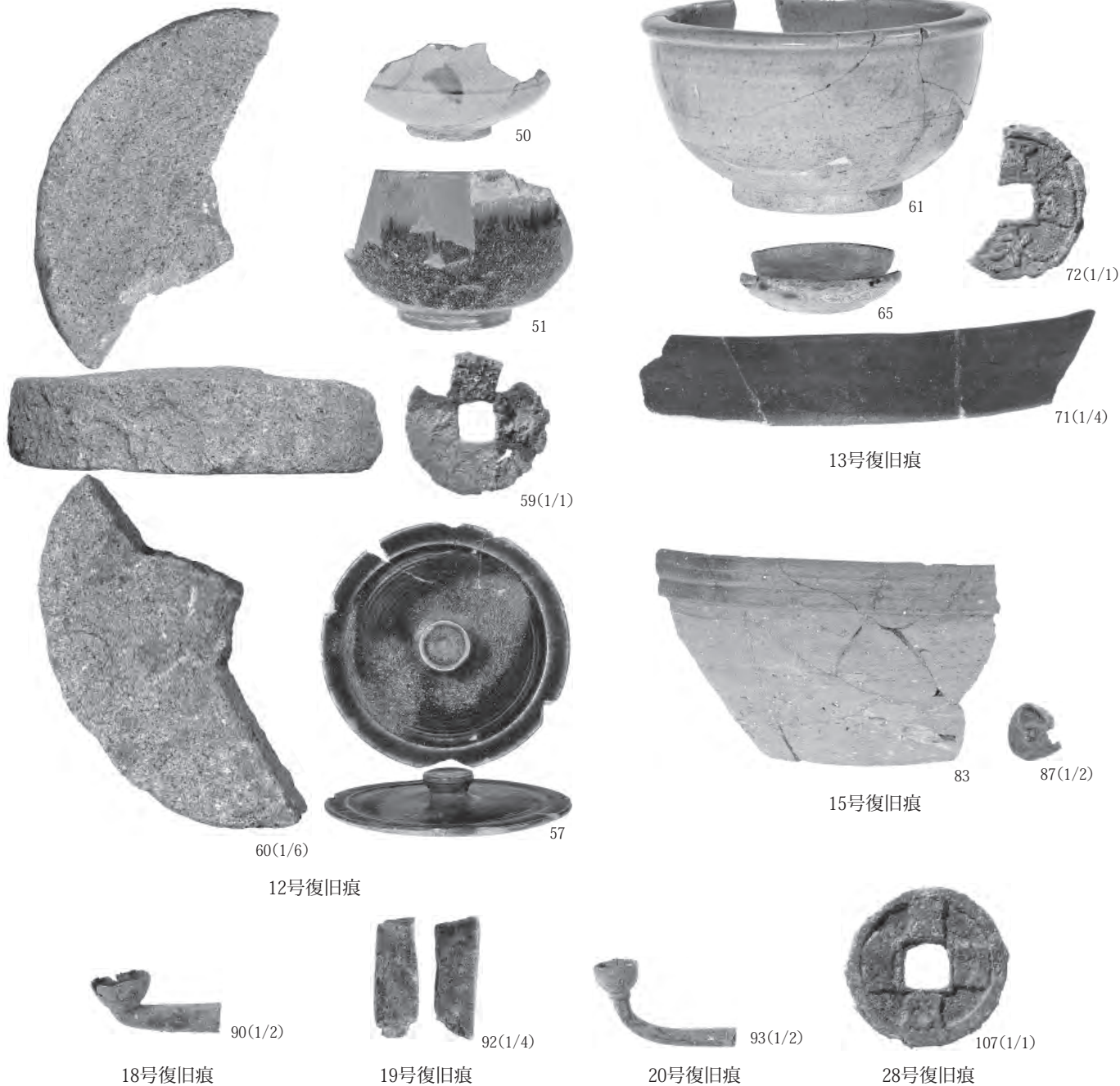


11号復旧痕

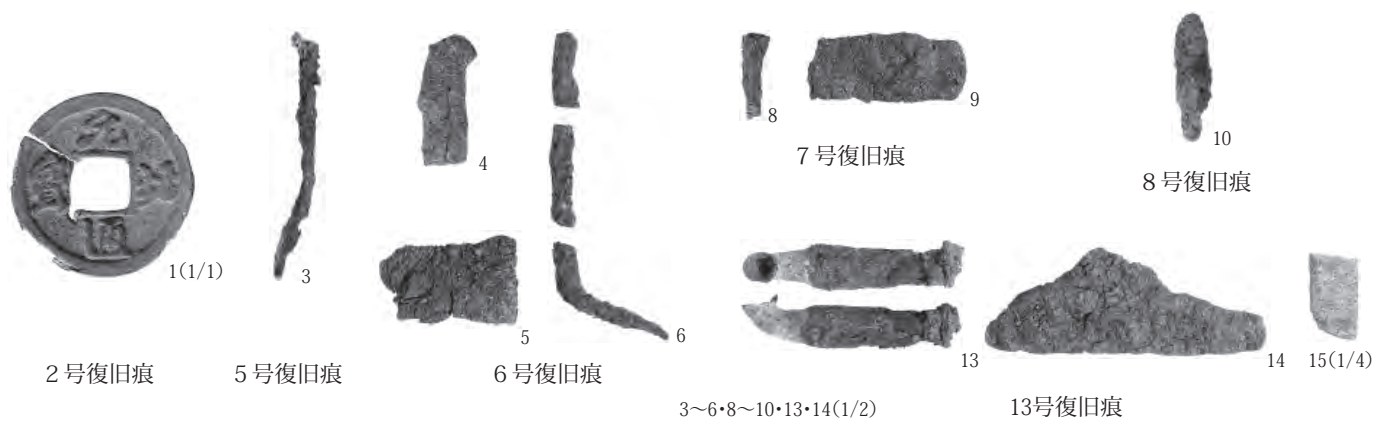


42





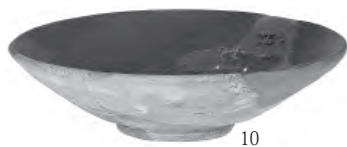
1面I期 田口下田尻遺跡





# PL.230

1面II期 田口上田尻遺跡



10



20



21



37



14

20~22・24(1/2)



22



24



40



41



43



44



45



46



47



48



49



50



60・62(1/6)



51



52



60



62



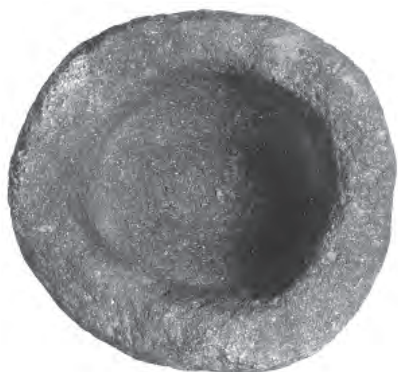
54



55(1/4)

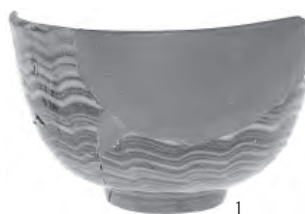
40・41・43~52・54(1/1)

1号建物



3(1/6)

1号井戸



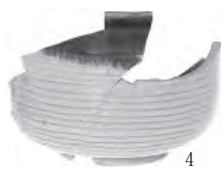
1



9



10



4



23(1/1)



28(1/6)

48a号溝(1)



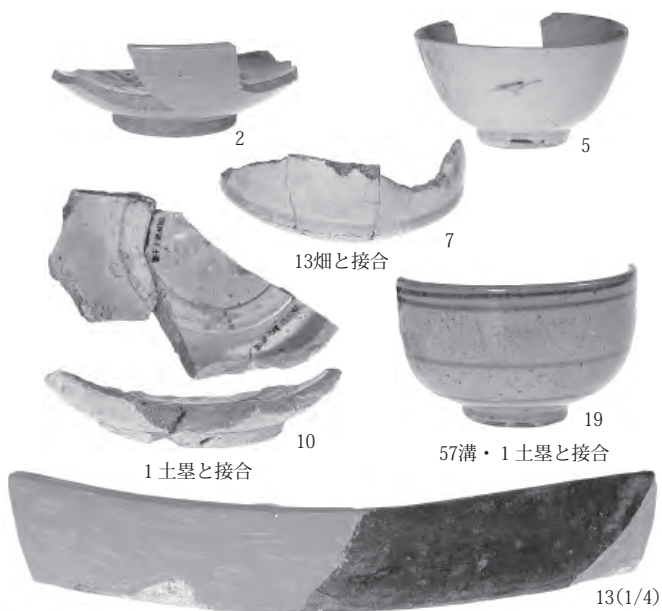


29~33(1/6)

48a号溝(2)



49・50号溝



50号溝



19(1/4)

22(1/1)

25

27

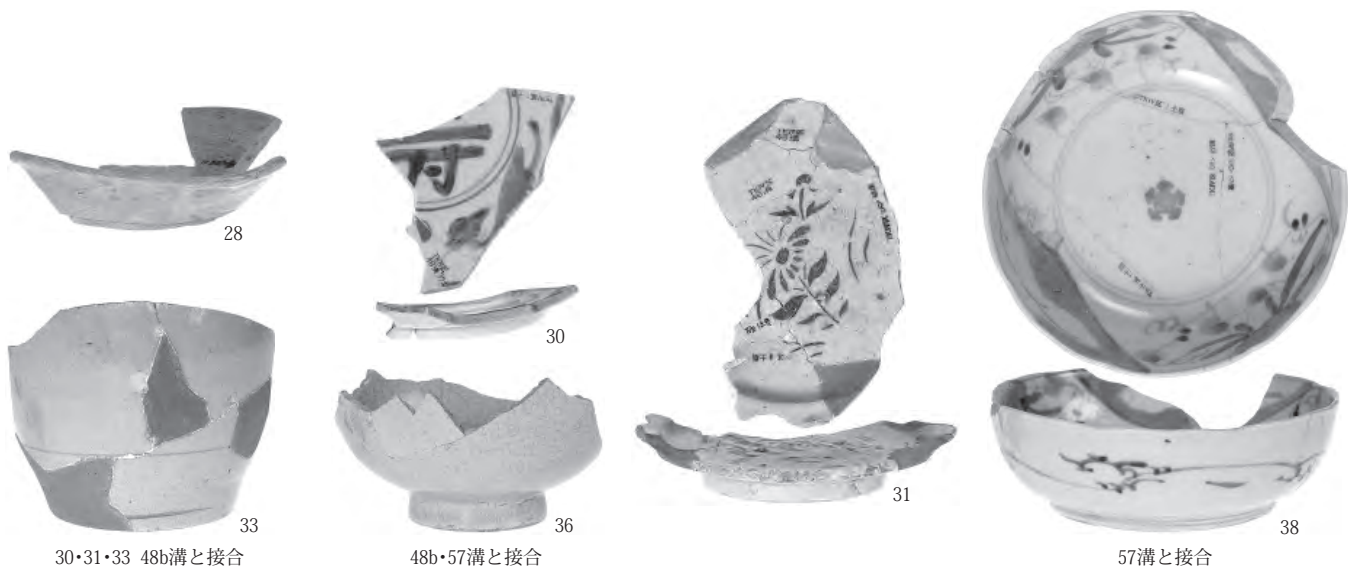


1号土塁(1)

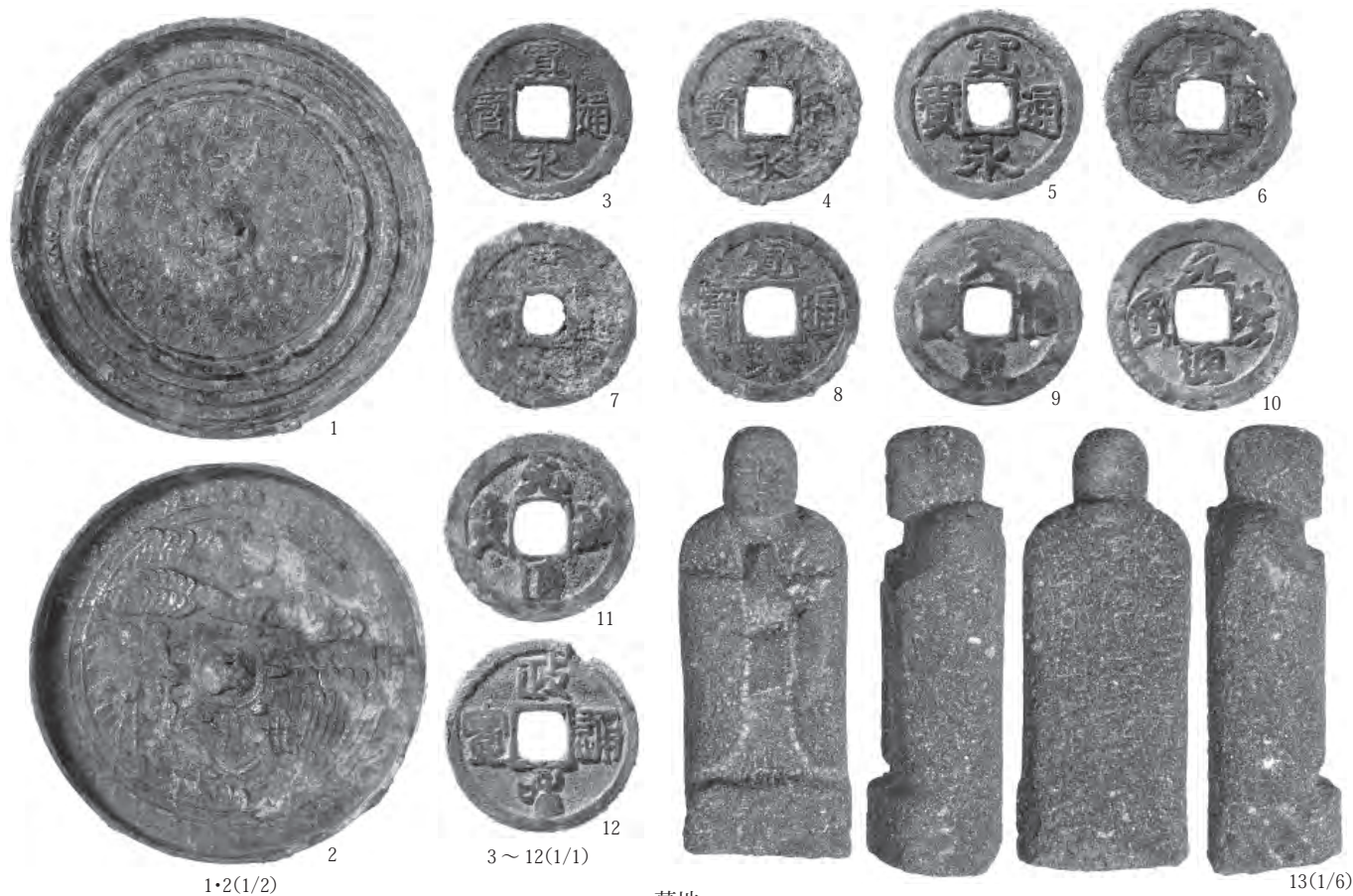
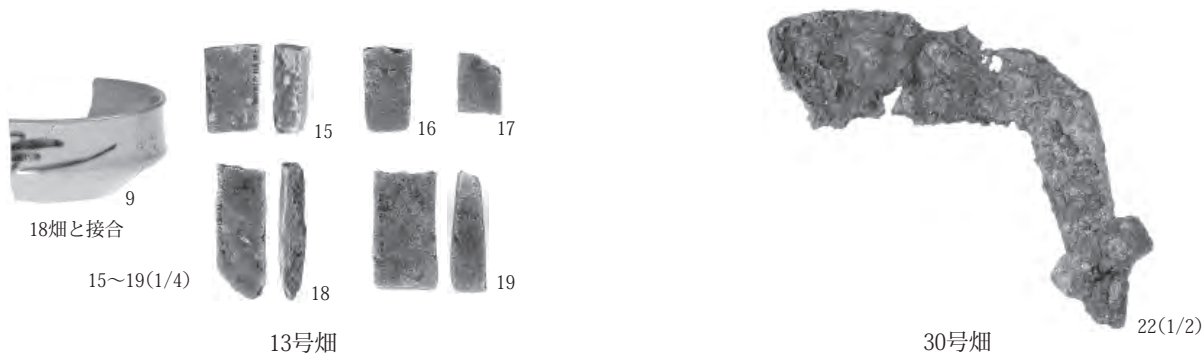


17(1/6)

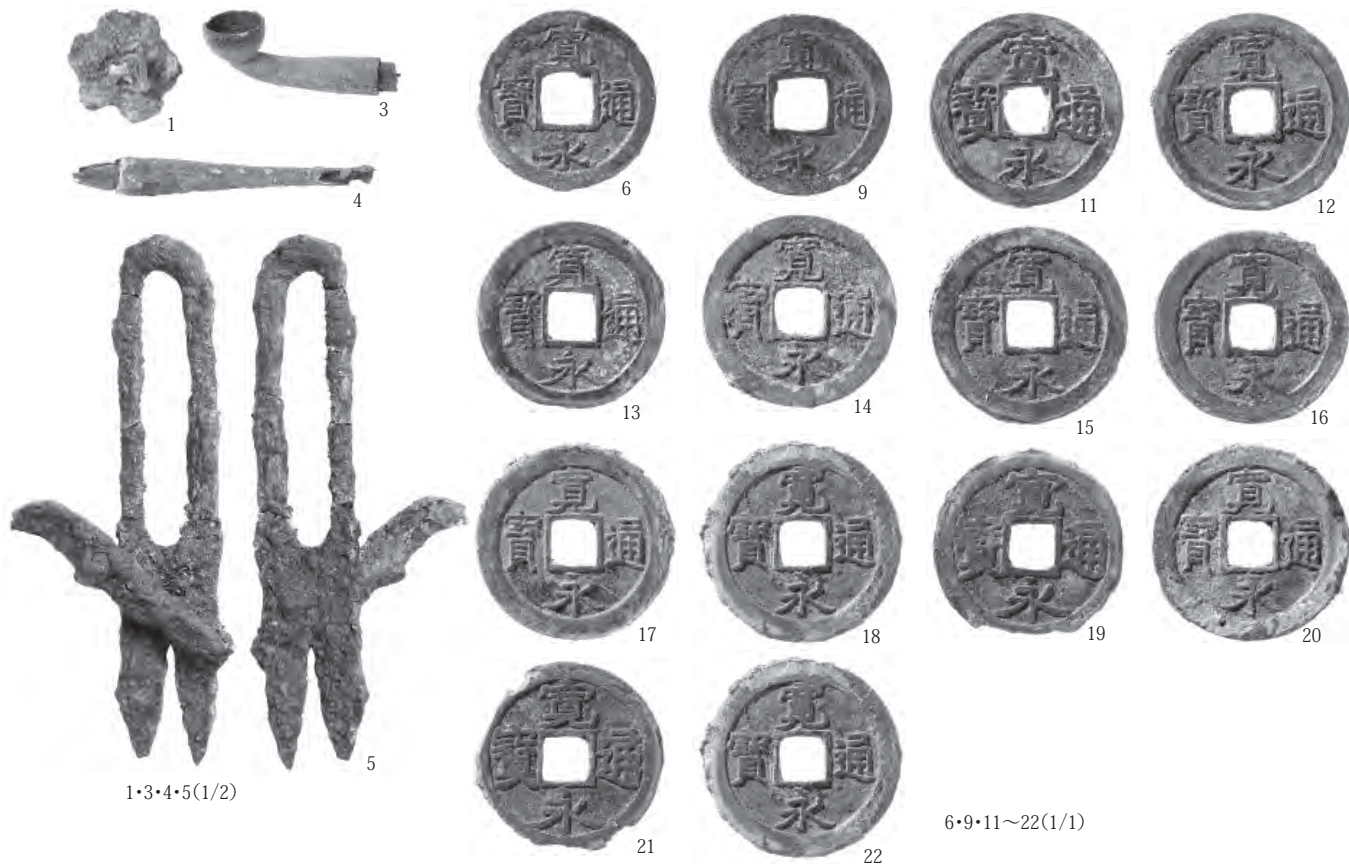




1号土壘(2)





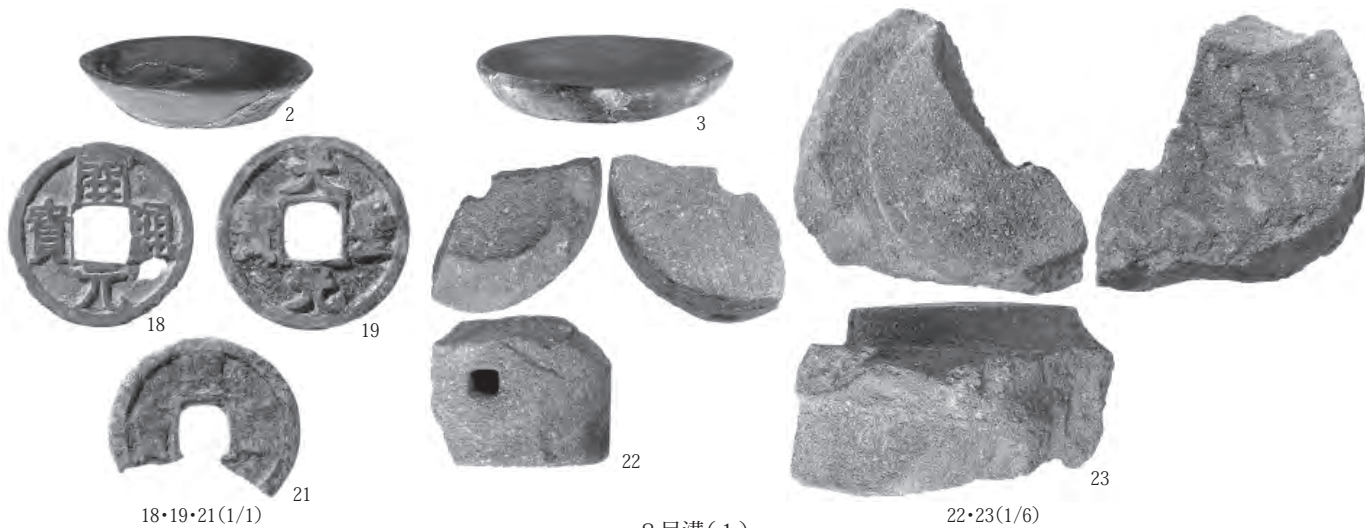


281号土坑(墓坑)

1面II期 田口下田尻遺跡



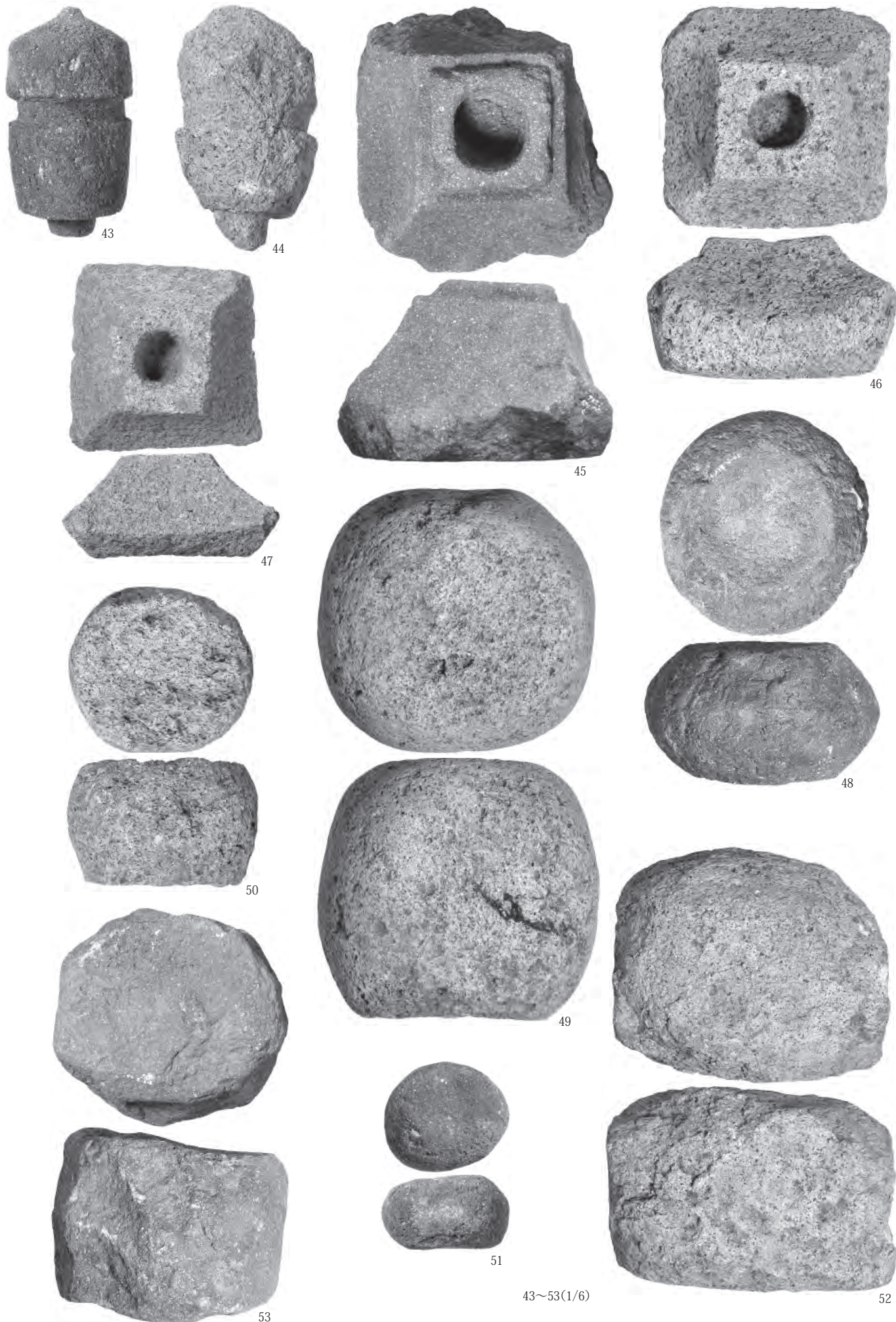
1面III期 田口上田尻遺跡











43~53(1/6)

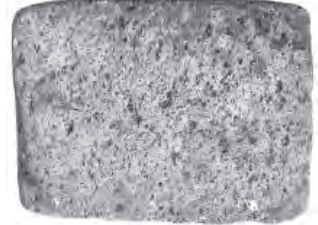




54



55



56

54~56(1/6)

8号溝(4)



62



63



64



65



66



67

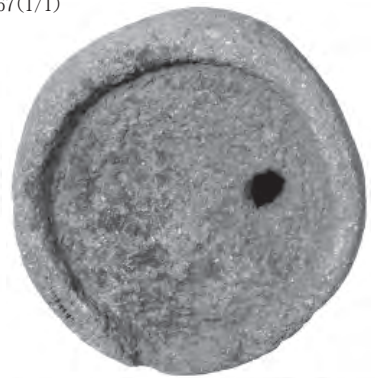
62~67(1/1)



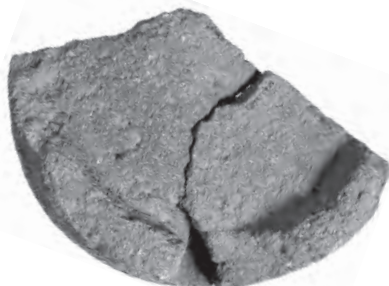
68(1/4)



69



70



69~71・73・76(1/6)



71



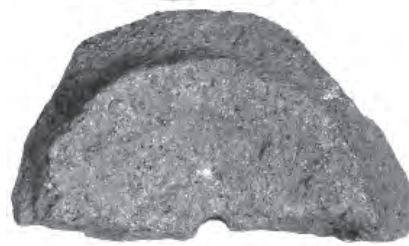
73



76

8号溝石積み(1)

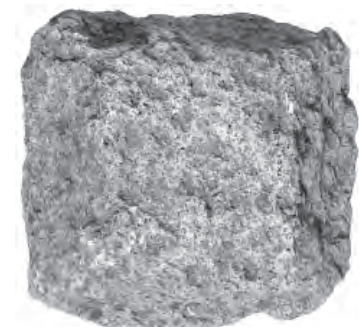




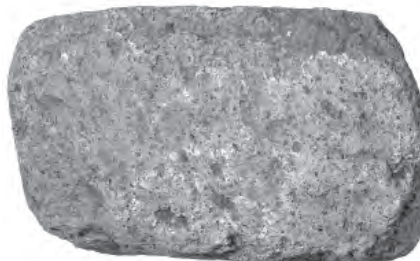
72



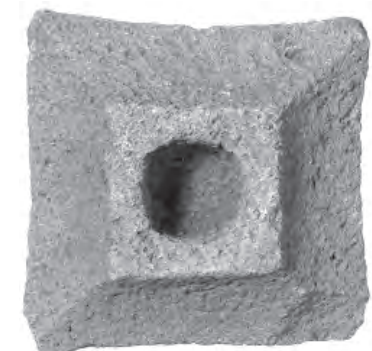
74



75



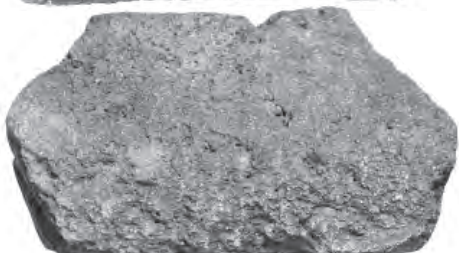
81



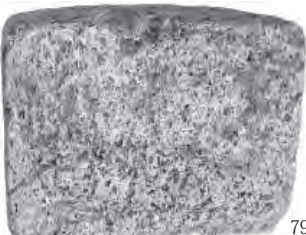
77



78



80



79



82

72・74・75・77～82(1/6)



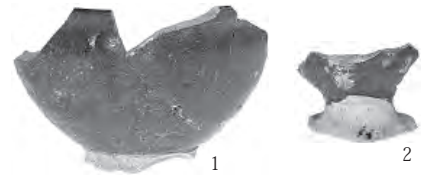
PL.238



2  
2・3(1/1)  
12号溝



9(1/1)  
21号溝



1  
2  
22号溝



2



5(1/6)  
29号溝

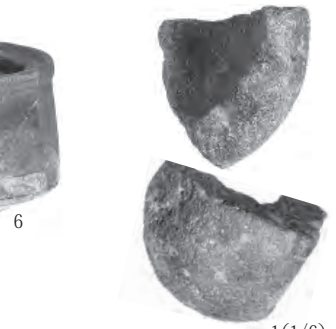


3

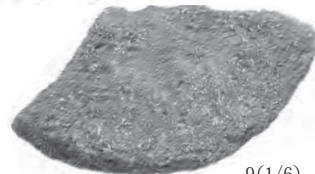
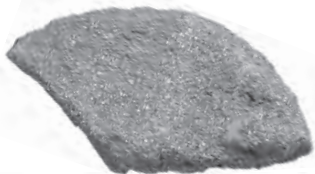
31号溝



48b溝と接合



1(1/6)  
33号溝



9(1/6)

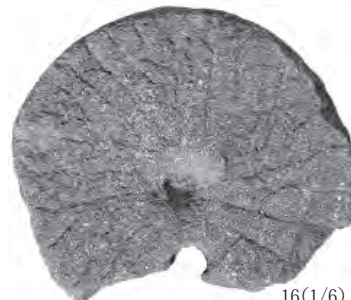
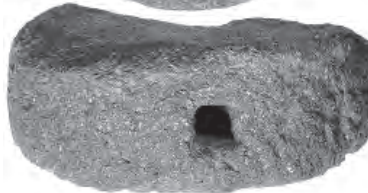


10(1/4)

34号溝



14



16(1/6)

40号溝



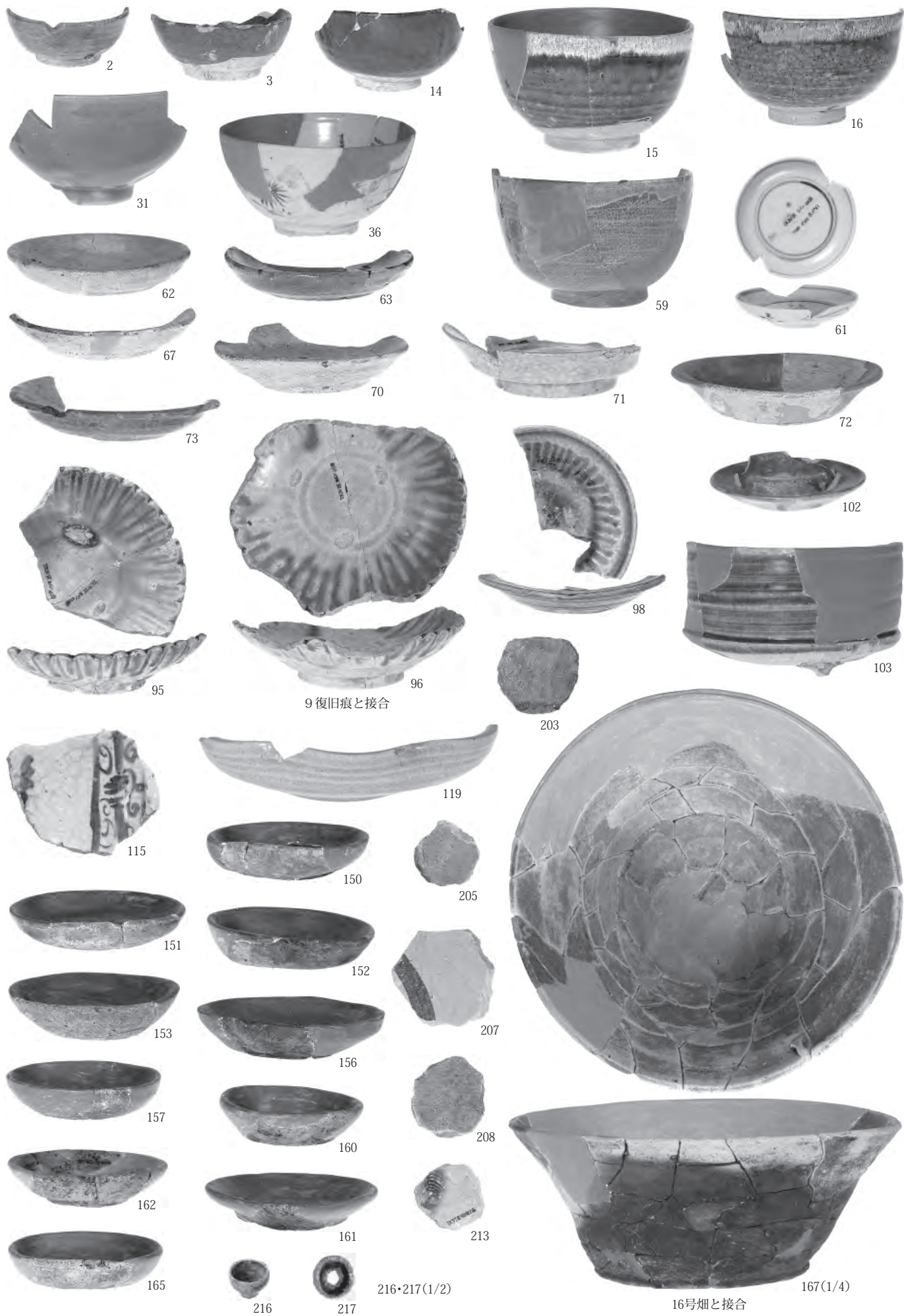
17



18(1/6)

42号溝

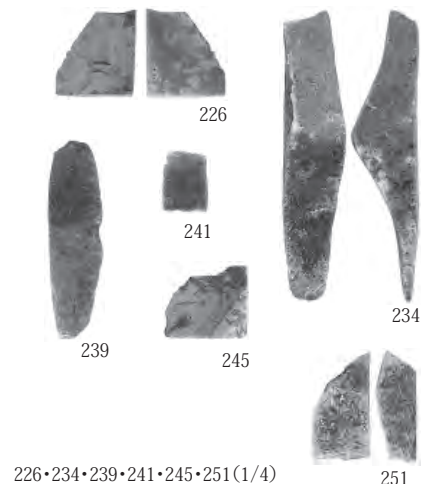








214(1/6)



226

241

239

245

234

251

226・234・239・241・245・251(1/4)



215(1/6)



258

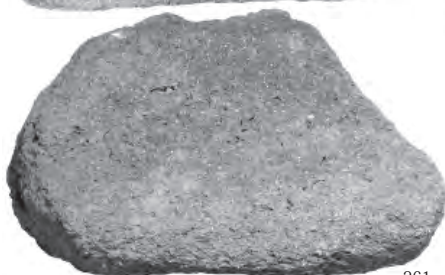


260



259

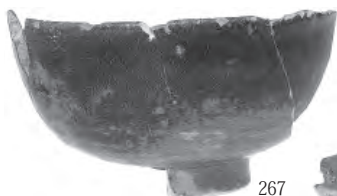
258~261(1/6)



261



275



267



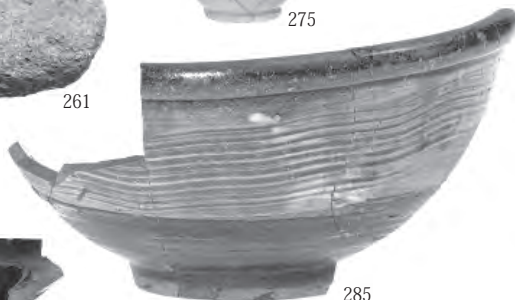
277



278



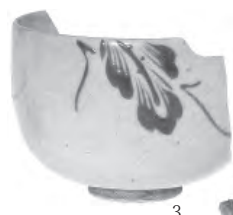
279



285

267・275・277~279・285 57溝と接合

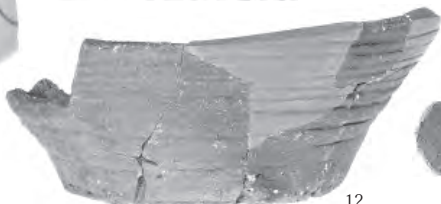
48b号溝(2)



3



18(1/2)

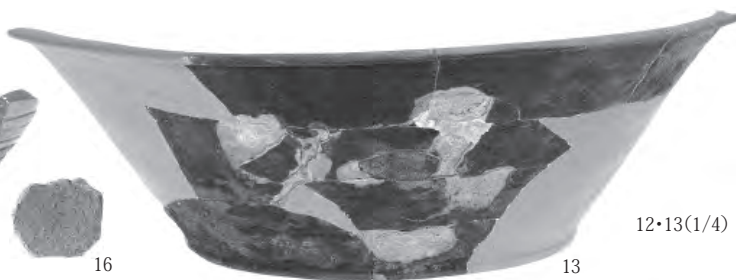


12



16

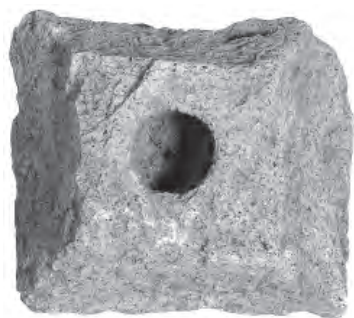
57号溝(1)



12・13(1/4)

13





21(1/6)



50号溝と接合

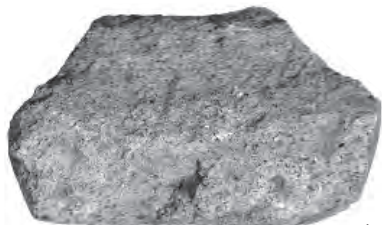


1

67号溝



3(1/4)



57号溝(2)



48



5

2号低地



4



7

18号畑

7~9(1/4)



8

19号畑



9

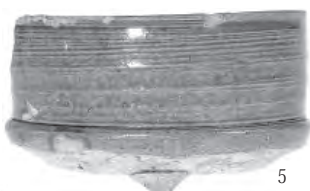
20号畑



1



2



5



8(1/4)



13



14

13・14(1/1)

6号集石



17(1/6)



7(1/6)

51号土坑



1

86号土坑



3



4

280号土坑



1(1/1)

288号土坑



2(1/1)

289号土坑



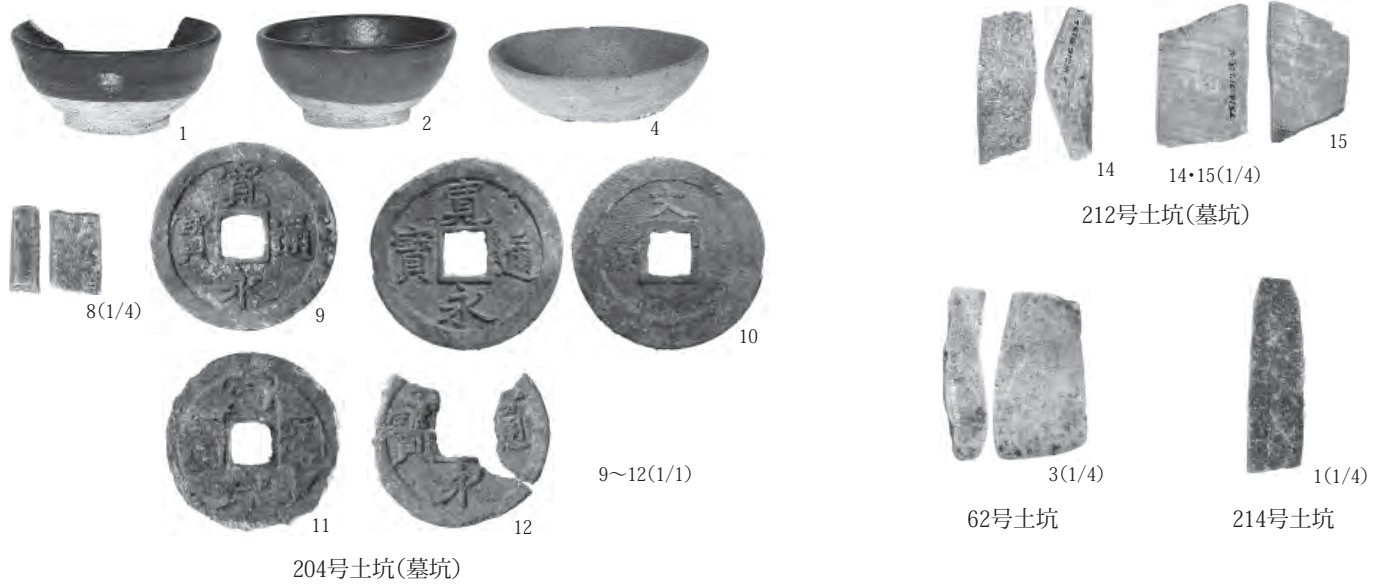
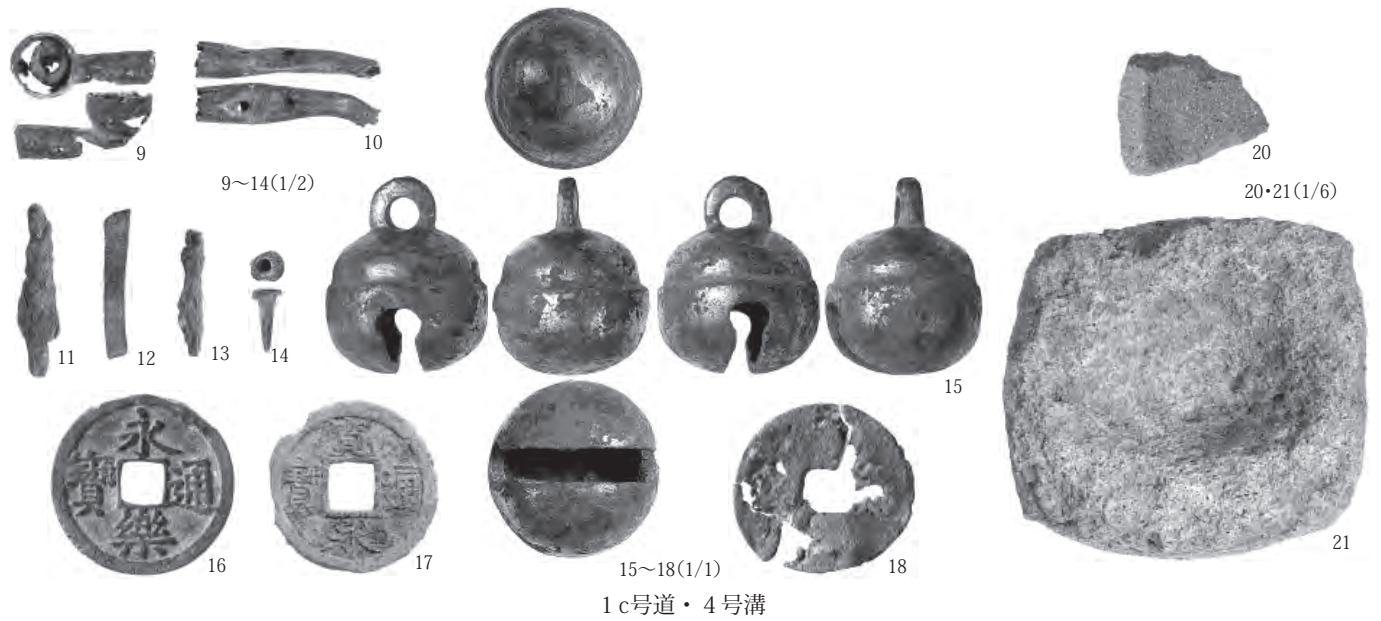
1(1/1)

322号土坑

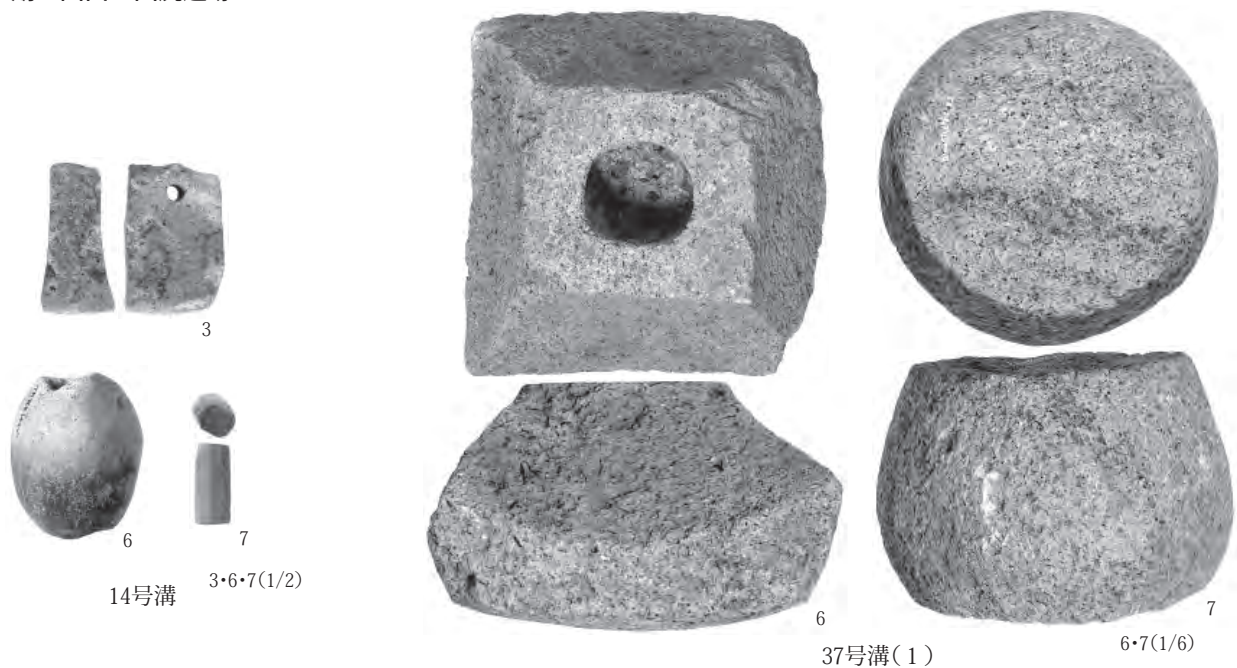


# PL.242

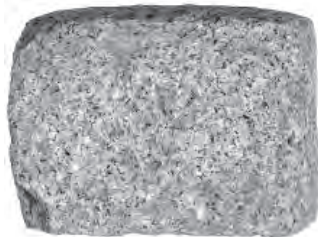
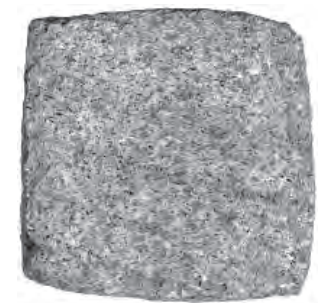
## 1面III期 田口下田尻遺跡



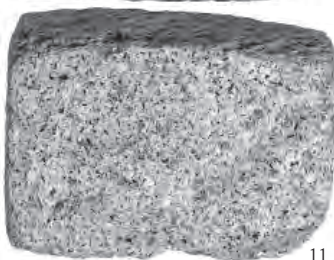
## 2面I期 田口上田尻遺跡





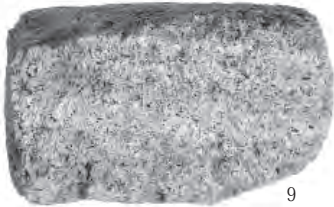
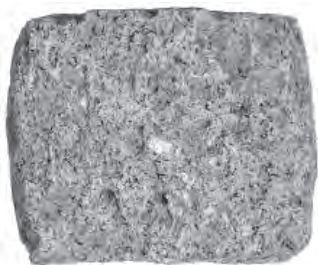


8

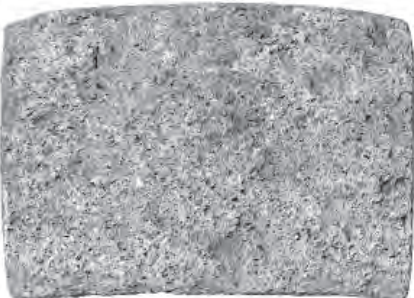


11

8~11(1/6)

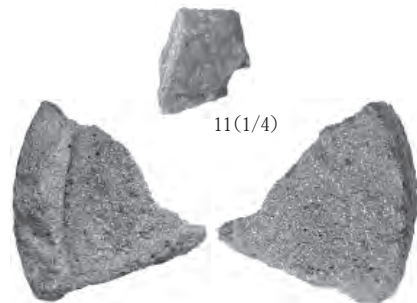


9



10

37号沟(2)



11(1/4)

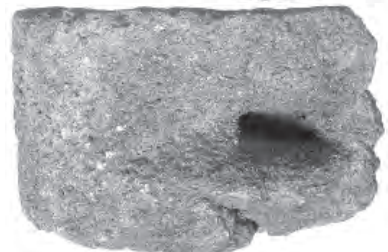
53号沟

12(1/6)



18(1/1)

54号沟



19(1/6)

55号沟



1



2



3



4



5



6

1~6(1/1)

213号土坑(墓坑)



1



2



3

1~3(1/1)

283号土坑(墓坑)



4



5



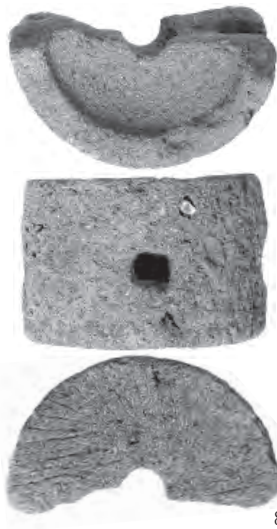
6

4~6(1/1)

338号土坑(墓坑)

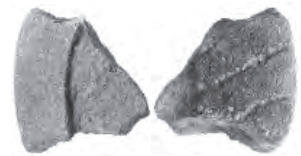


PL.244



8~10(1/6)

4号集石



11(1/6)

5号集石



2

60号土坑



1

358号土坑

2面I期 田口下田尻遺跡



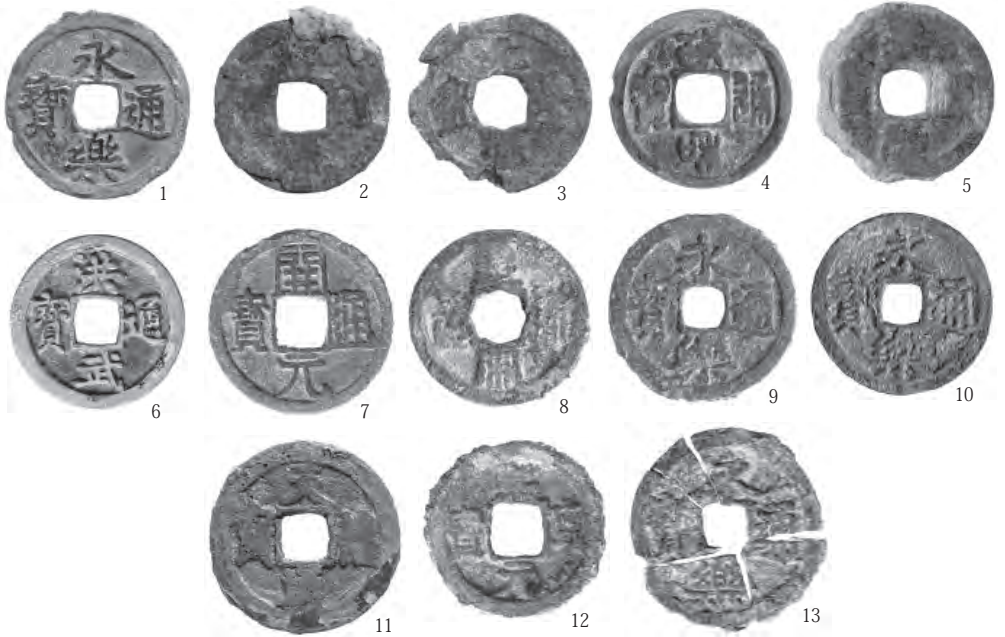
1(1/2)

37号溝



1(1/6)

21号溝



1~13(1/1)

202号土坑(墓坑)



18~23(1/1)

206号土坑(墓坑)



24(1/1)

227号土坑(墓坑)



25(1/2)



1(1/6)

24号土坑



3(1/1)

28号土坑



1(1/1)

29号土坑



2(1/1)

30号土坑

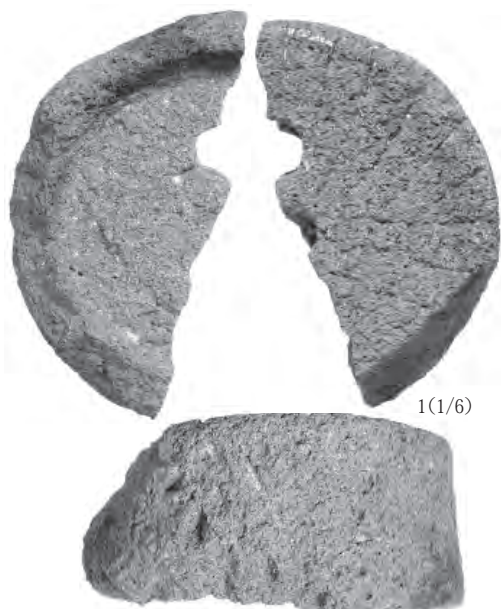




1~5(1/2)

46号土坑

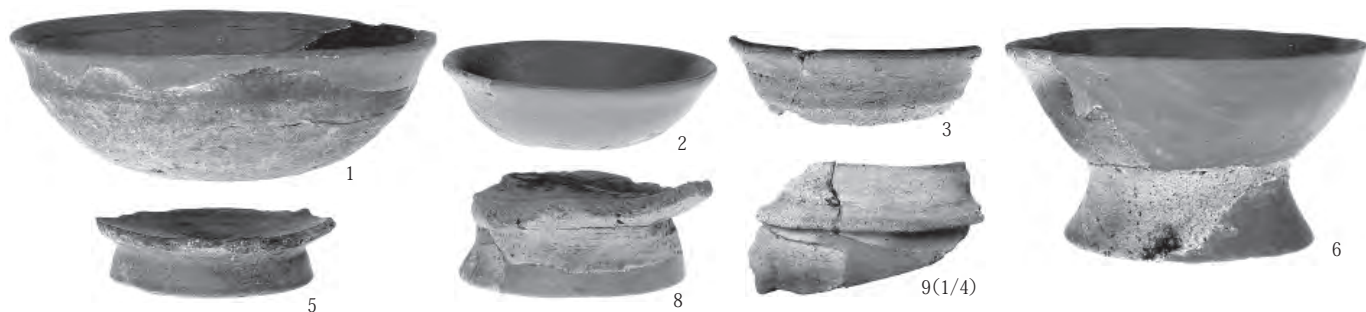
6~10(1/6)



1(1/6)

73号土坑

2面II期 田口上田尻遺跡



2号住居



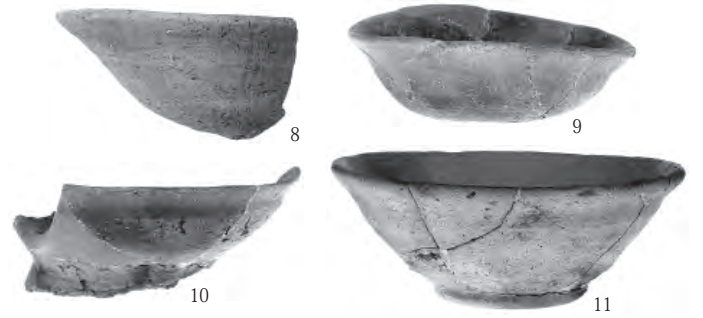
3a号住居(1)



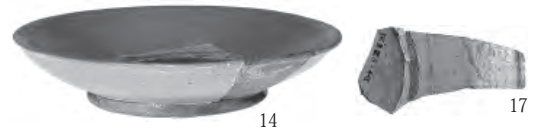


6(1/4)

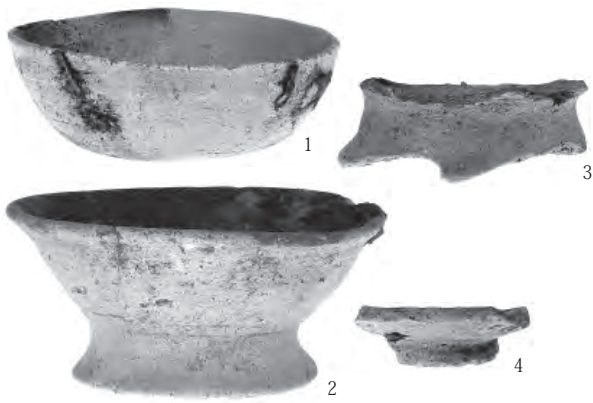
3a号住居(2)



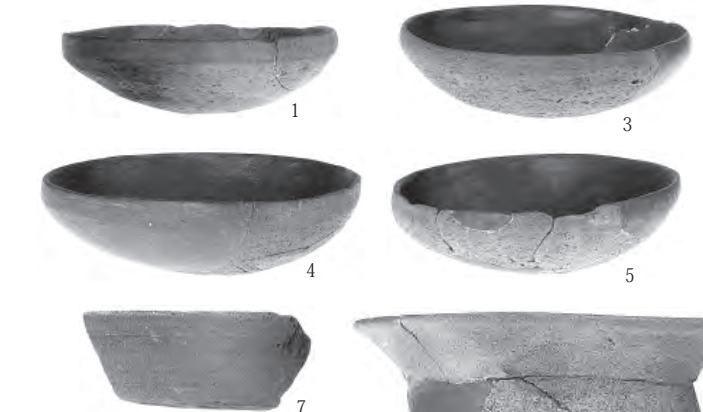
3b号住居



3a・3b号住居



5号住居



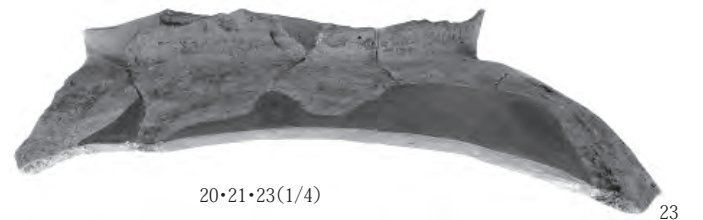
11号住居



16号住居(1)



20・21・23(1/4)



8号住居

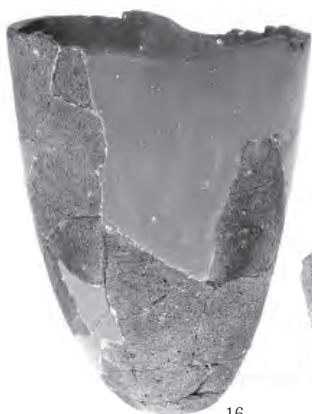




15

15~17(1/4)

16号住居(2)



16



17



1



2

17号住居

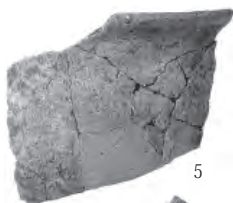


1(1/4)

20号住居



1



5



6



3

5~7(1/4)



7

25号住居



5(1/2)



1

31号住居



2



5(1/4)

29号住居



7·8(1/4)



7

34号住居



1



2



3



4

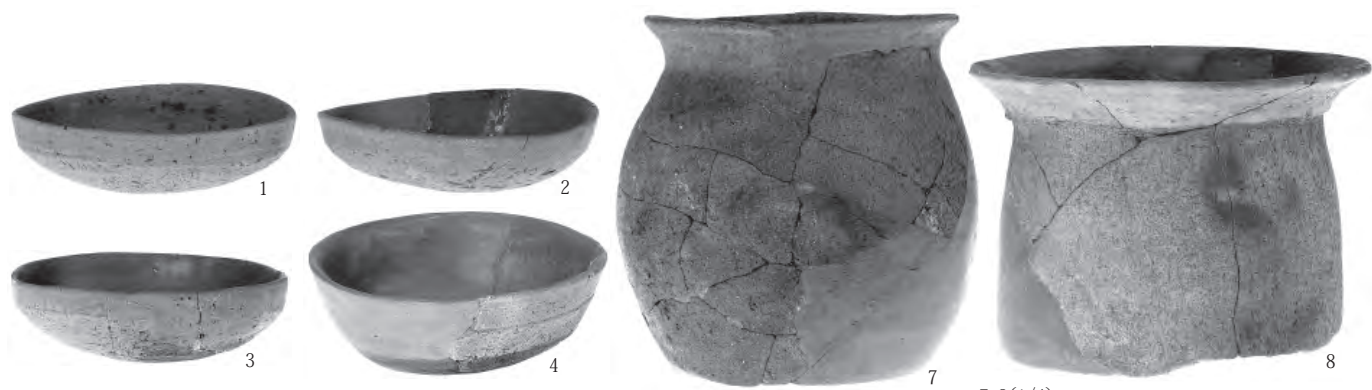


5



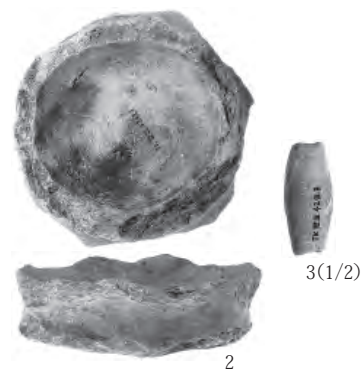
6





41号住居

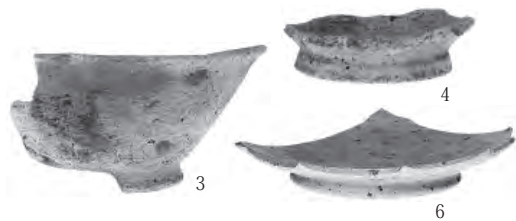
7·8(1/4)



42号住居



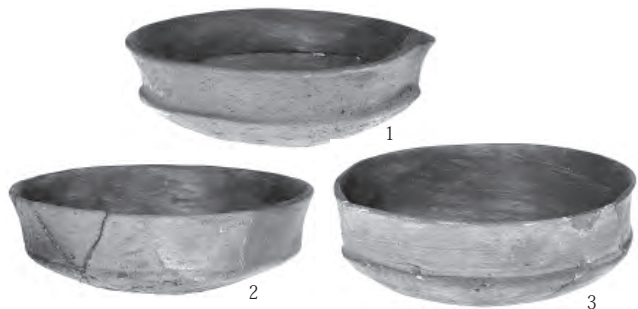
46号住居



48号住居



52号住居



56号住居



61号住居



60号住居

2·3(1/4)



62号住居



63号住居(1)





63号住居(2)



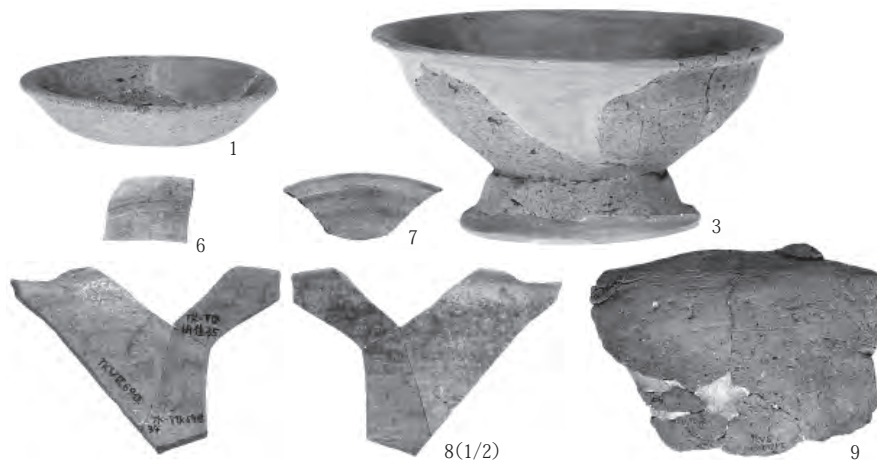
64号住居



66号住居



68号住居



69号住居



12(1/4)



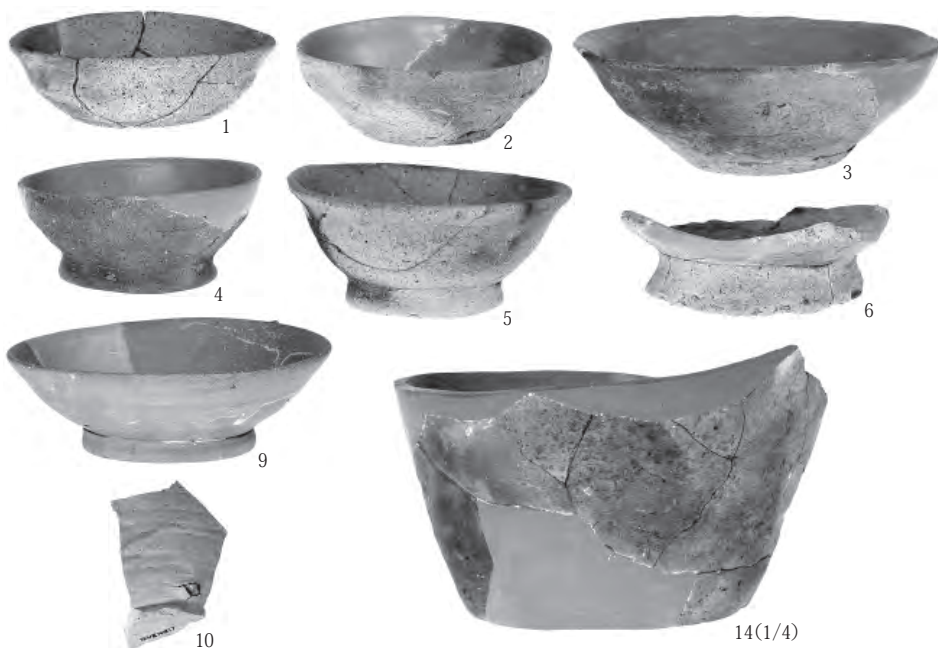
72号住居



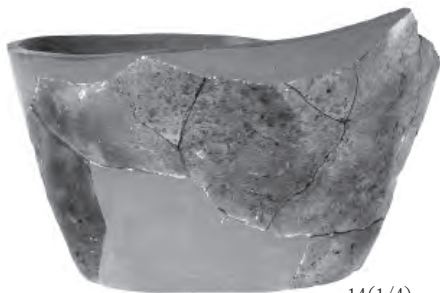
73号住居



76号住居



74号住居



14(1/4)

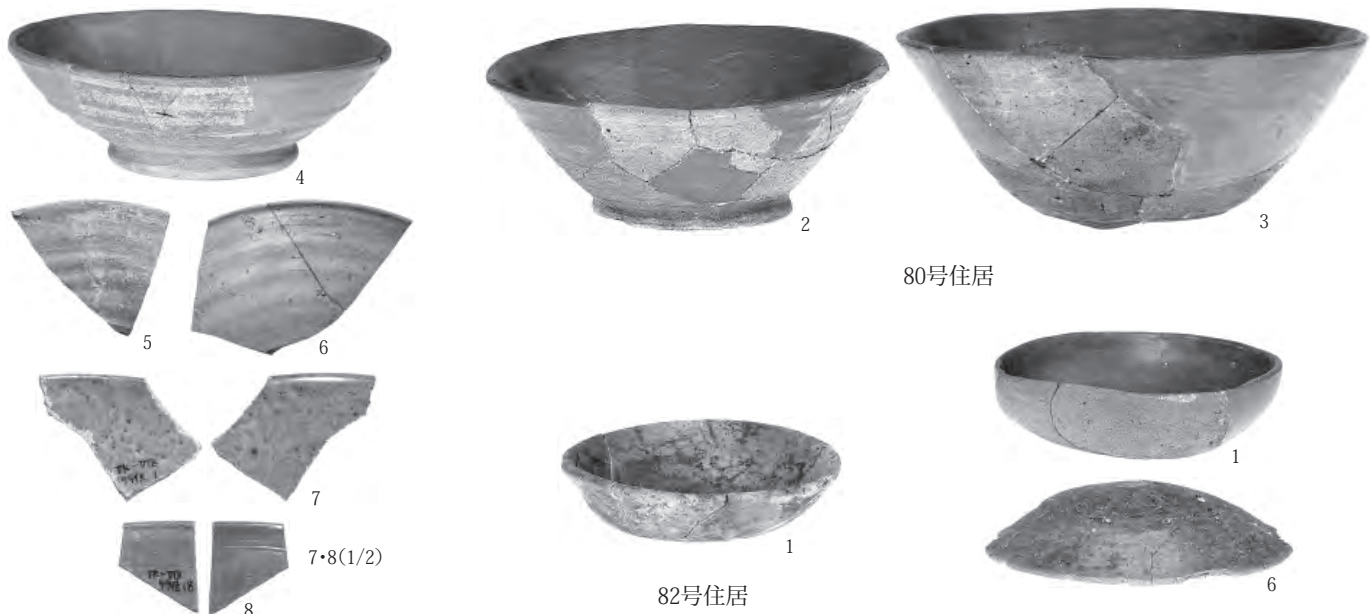


78号住居

3(1/4)



PL.250



80号住居

82号住居

83号住居

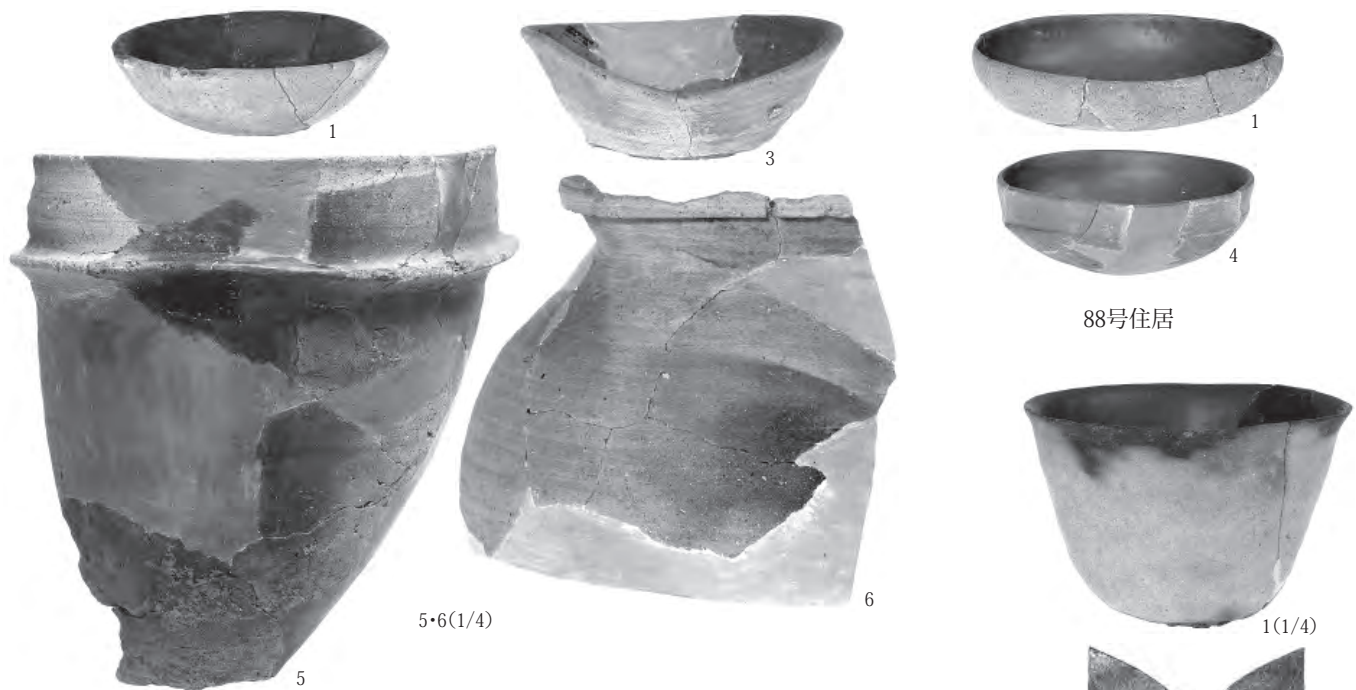
79号住居



7・8・13・14・19～21・26・28・33～37・40・43(1/4)

84号住居





5·6(1/4)

88号住居

1(1/4)

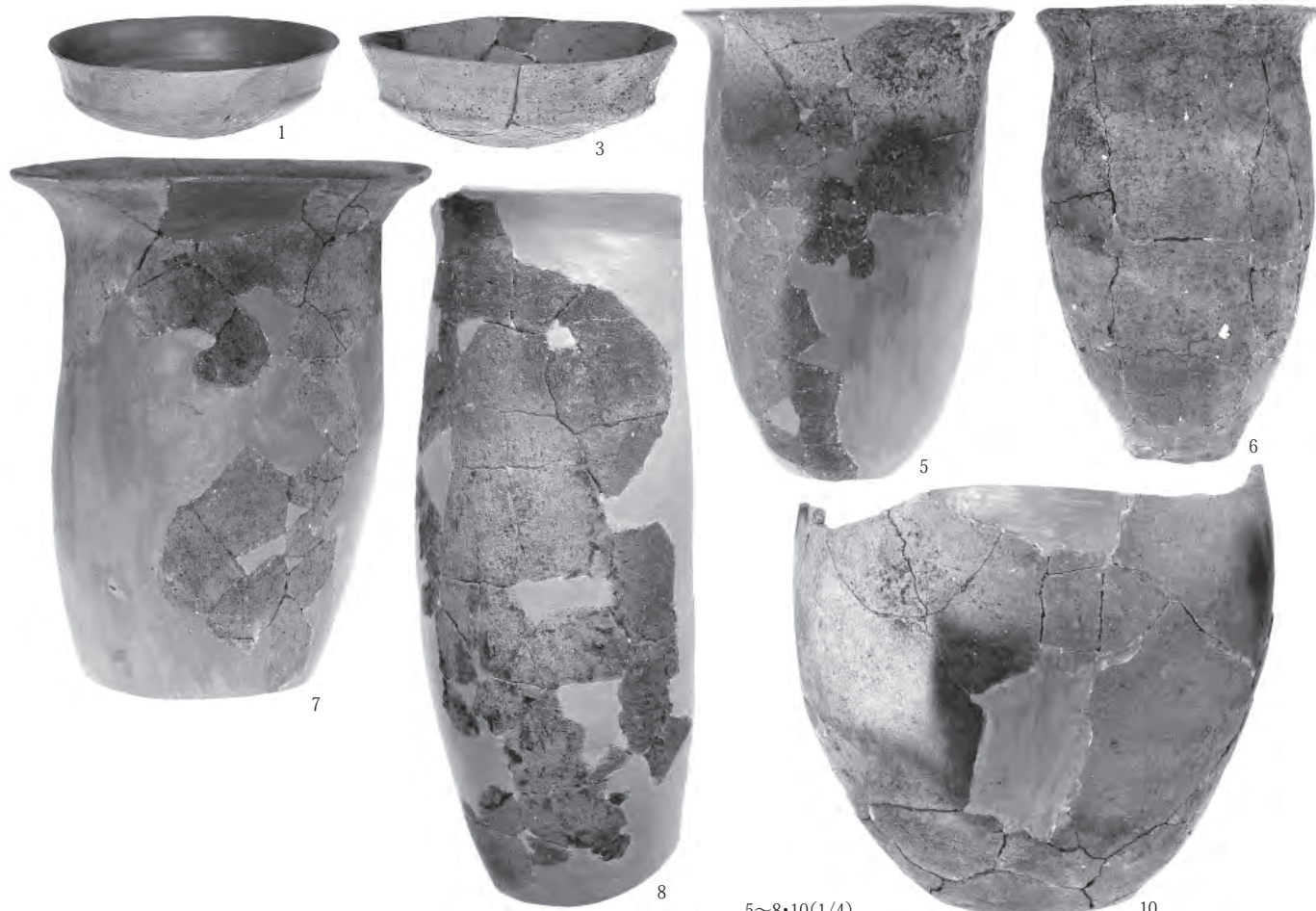
86号住居

2(1/2)

90号住居

92号住居

94号住居



5~8·10(1/4)

98号住居

10



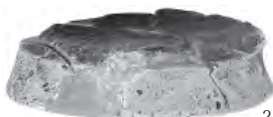


2

101号住居



1



2



4(1/2)



5



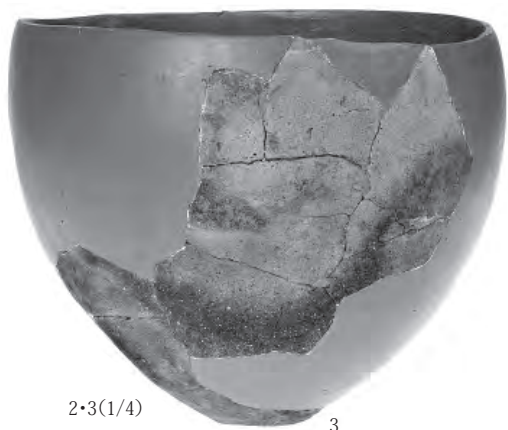
5·8(1/4)

8

105号住居



2



3

2·3(1/4)

103号住居



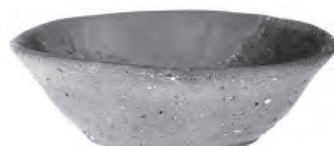
1



5



6



7



9

116号住居



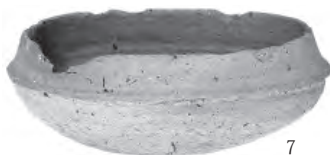
1



2



3



7



12



19

117号住居(1)



18

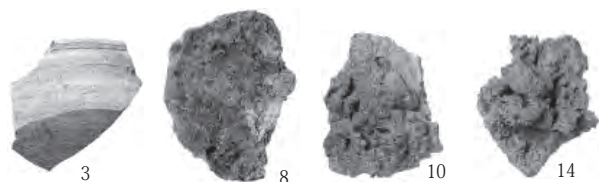
12·18·19(1/4)





20·22·25(1/4)

117号住居(2)

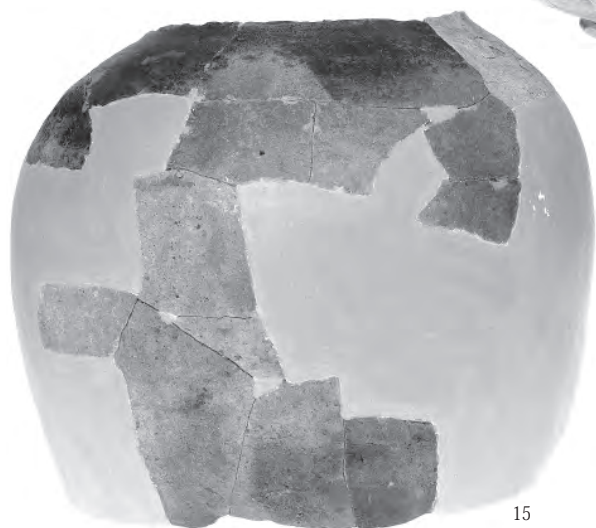
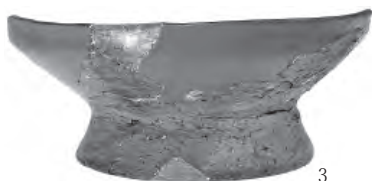


8·10·14(1/4)

118号住居



119号住居



15·16(1/4)

120号住居(1)





20



23



22

20•22•23(1/4)

120号住居(2)



1

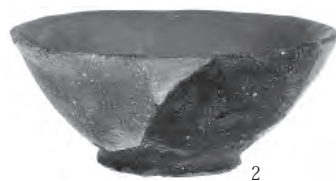


2

125号住居



1



2

128号住居



1



2



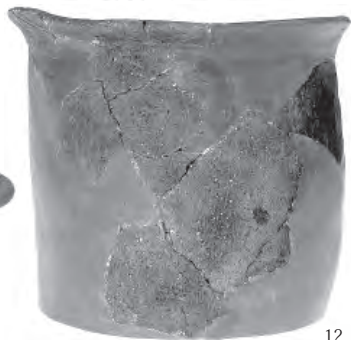
6



8



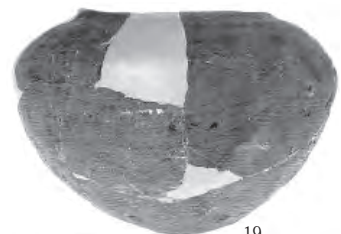
9



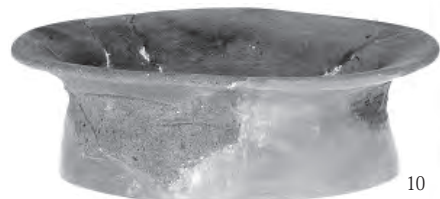
12



16



19



10

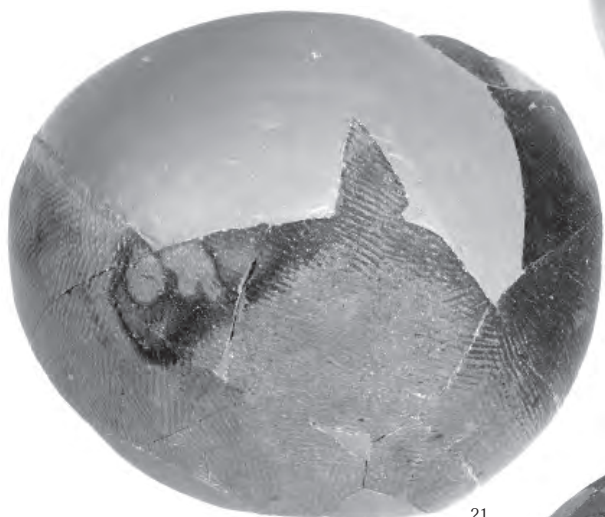
10•12•20(1/4)



20

130号住居(1)





21



22



23

21~23(1/4)

130号住居(2)



1



2



4

131号住居





8



14

8·14(1/4)

132号住居



1

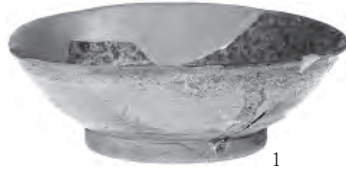


5



3

135号住居

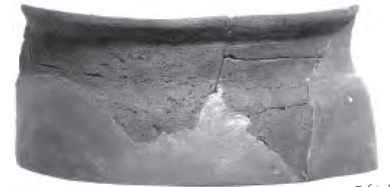


1



2(1/2)

136号住居



5(1/4)

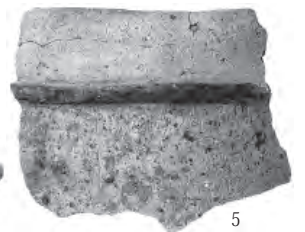
139号住居



4



6



5

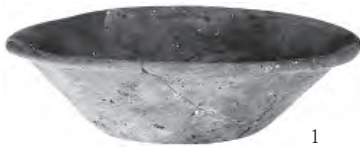


8



3

142号住居



1



4



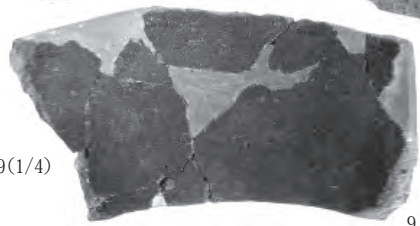
5



6(1/4)

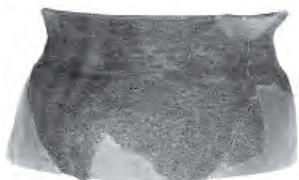
143号住居

5·6·8·9(1/4)



9

141号住居

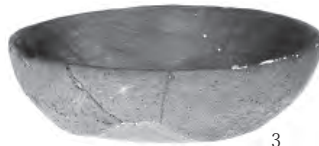


2(1/4)

147号住居



1



3



4



5



6



7



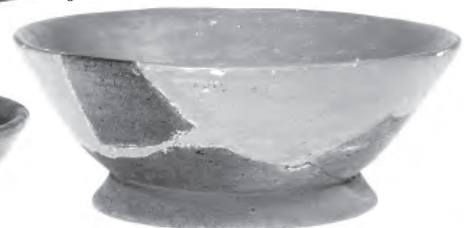
2

153号住居



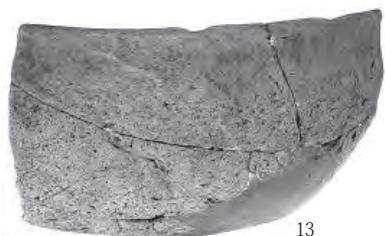
11

154号住居(1)



12





13



15(1/4)



24

154号住居(2)



1



1



2(1/4)

158号住居



2



3



2

160号住居



4



5



6



7(1/4)

156号住居



1

161号住居



1

162号住居



1



2



3



4



8



13



18



14

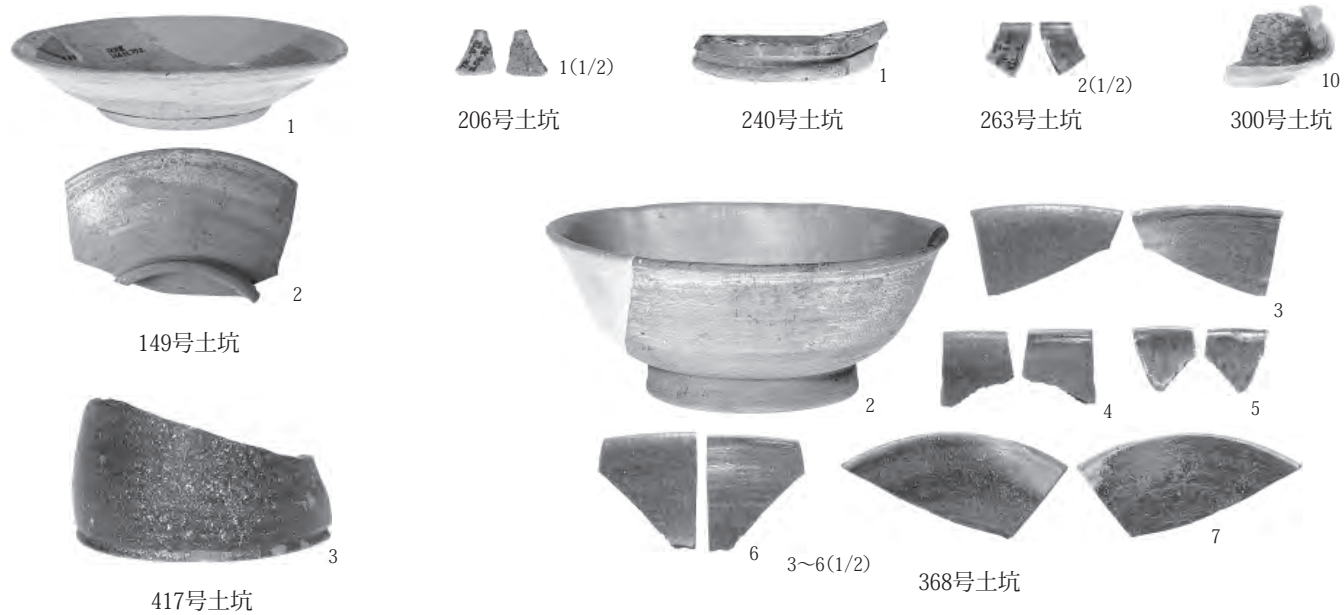
13・14・18・19(1/4)

167号住居



19

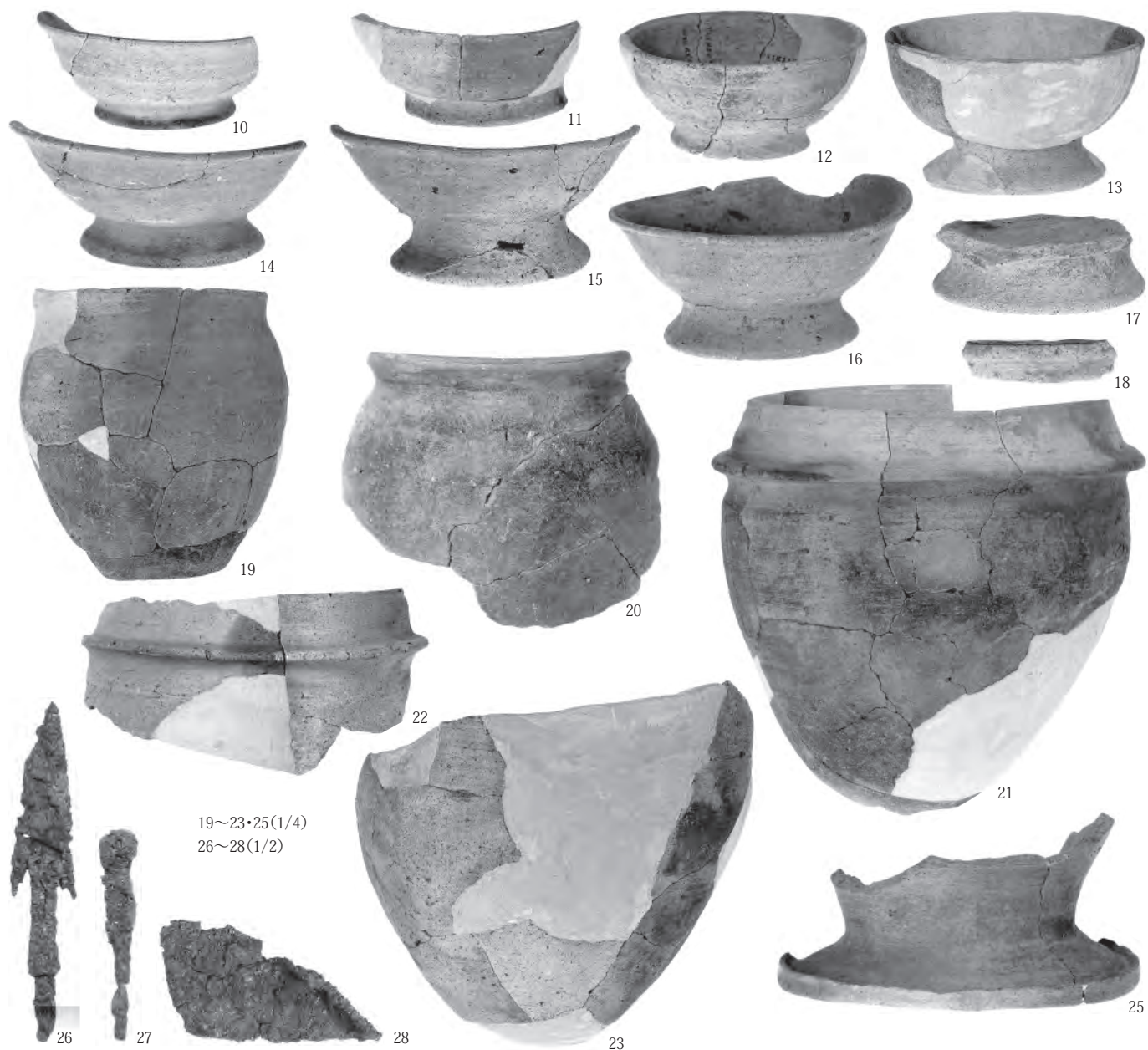




2面II期 田口下田尻遺跡





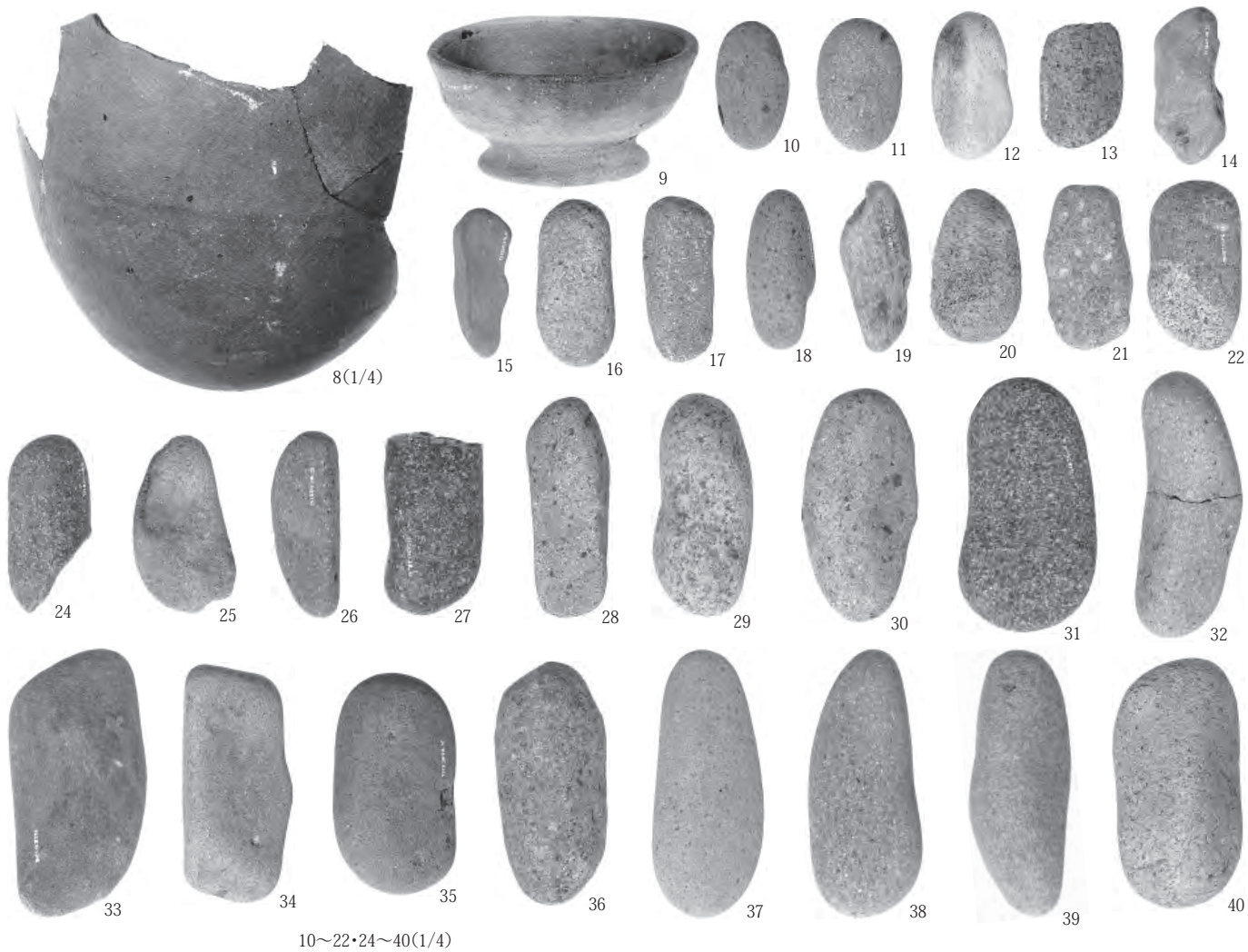


1号住居(2)

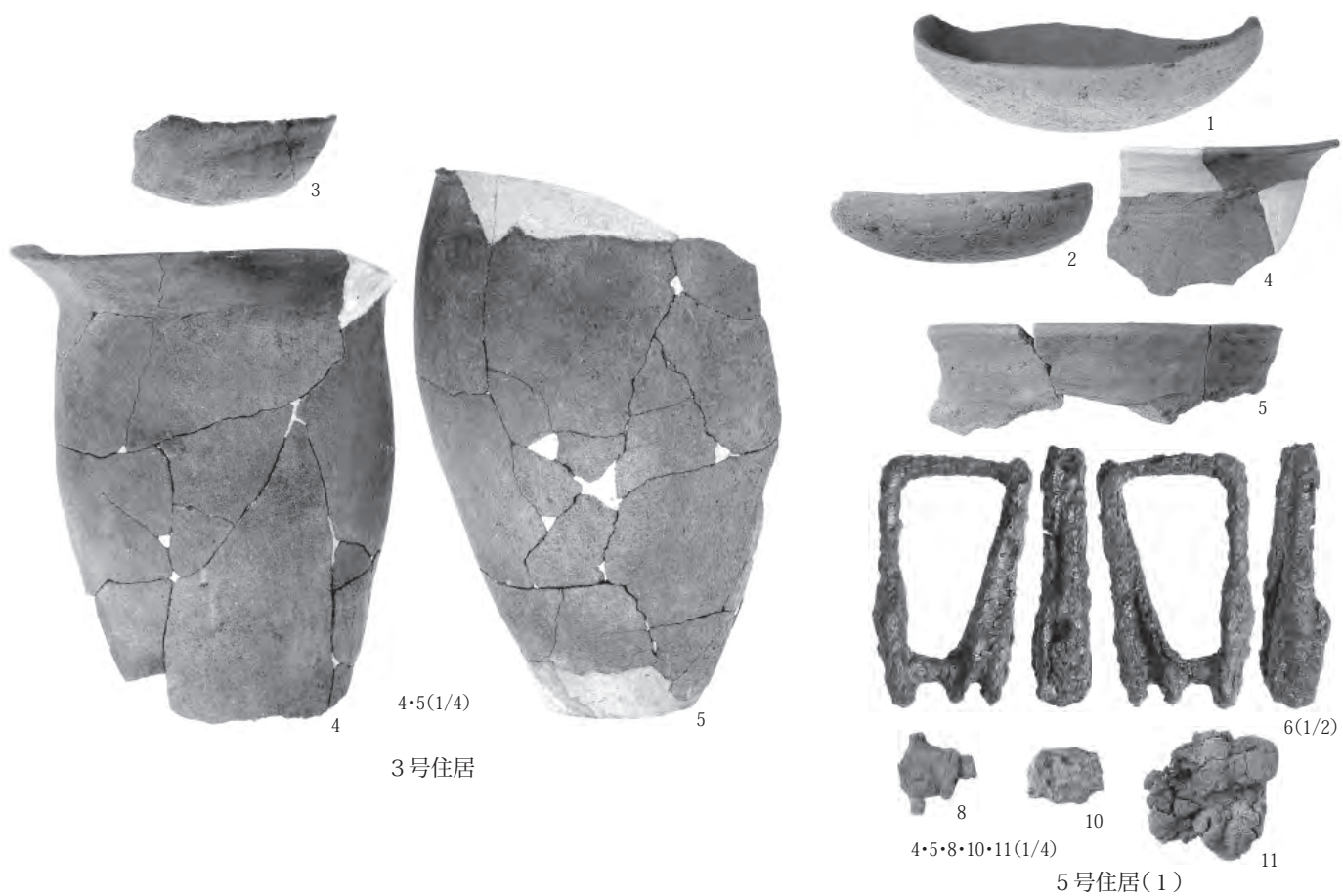


2号住居(1)

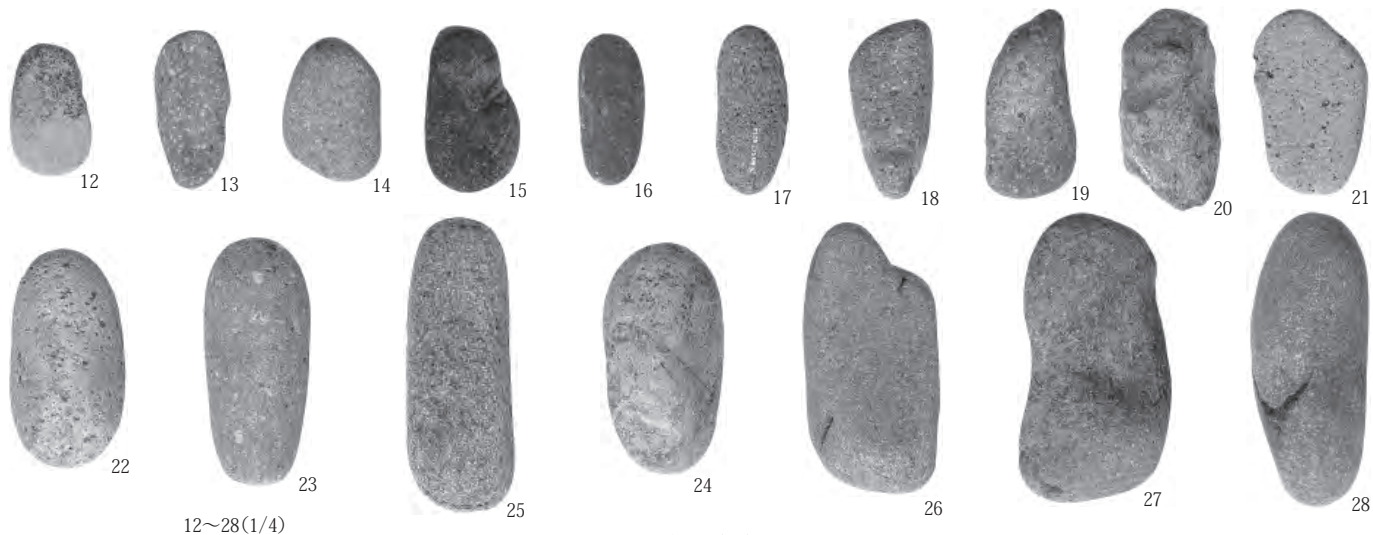




2号住居(2)

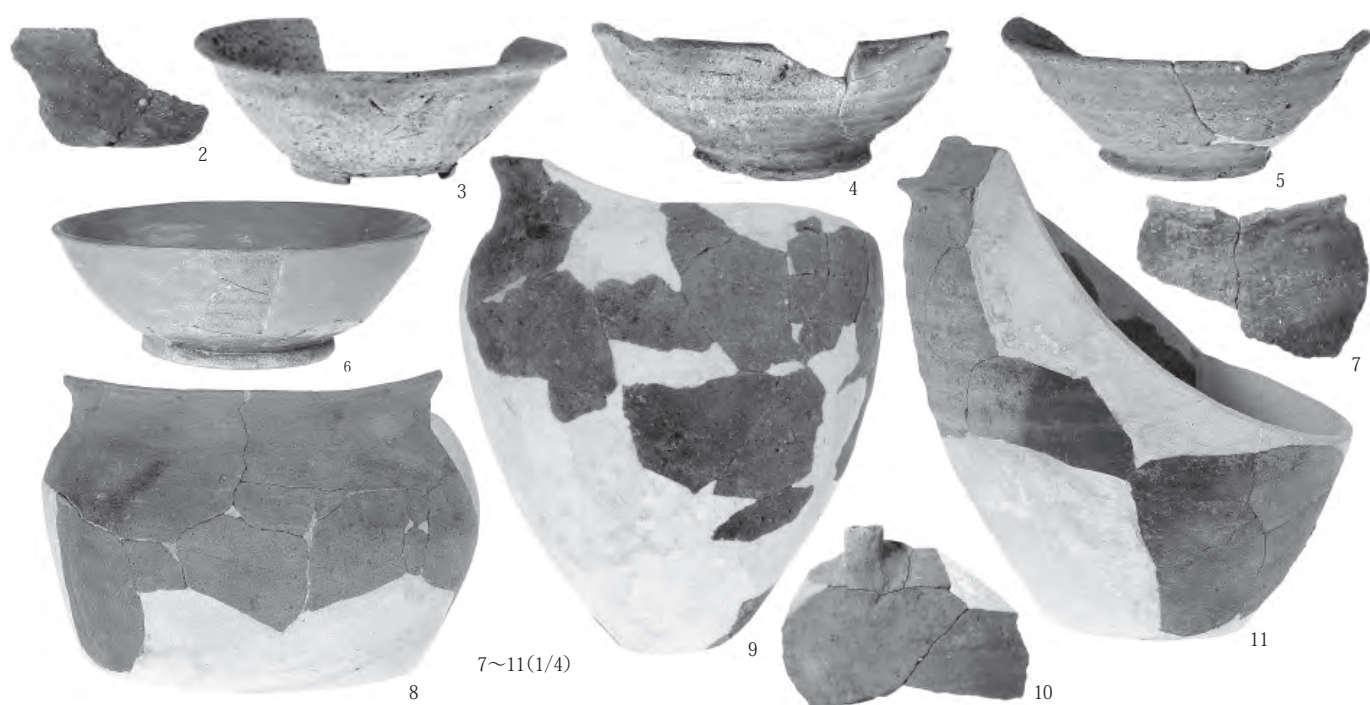






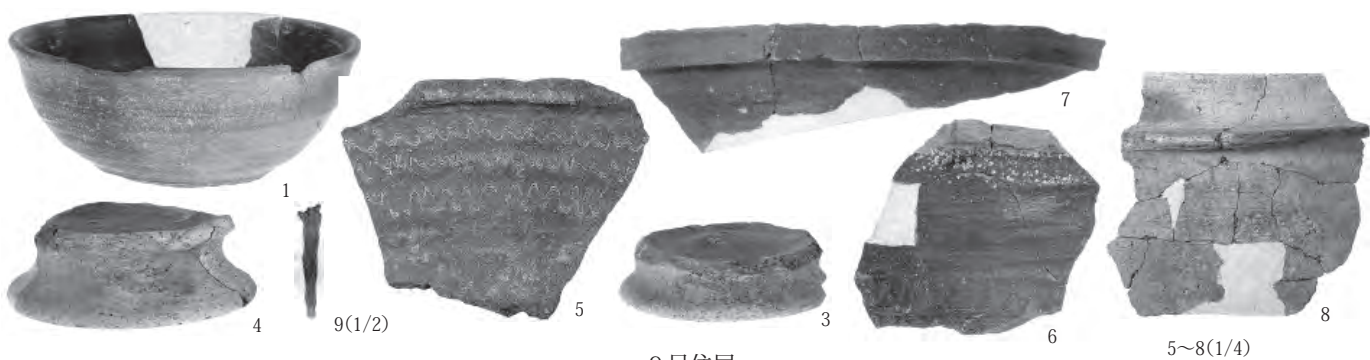
12~28(1/4)

5号住居(2)



7~11(1/4)

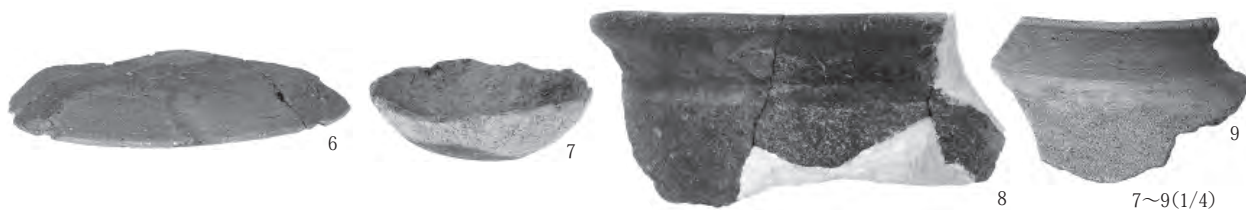
8号住居



9(1/2)

9号住居

5~8(1/4)



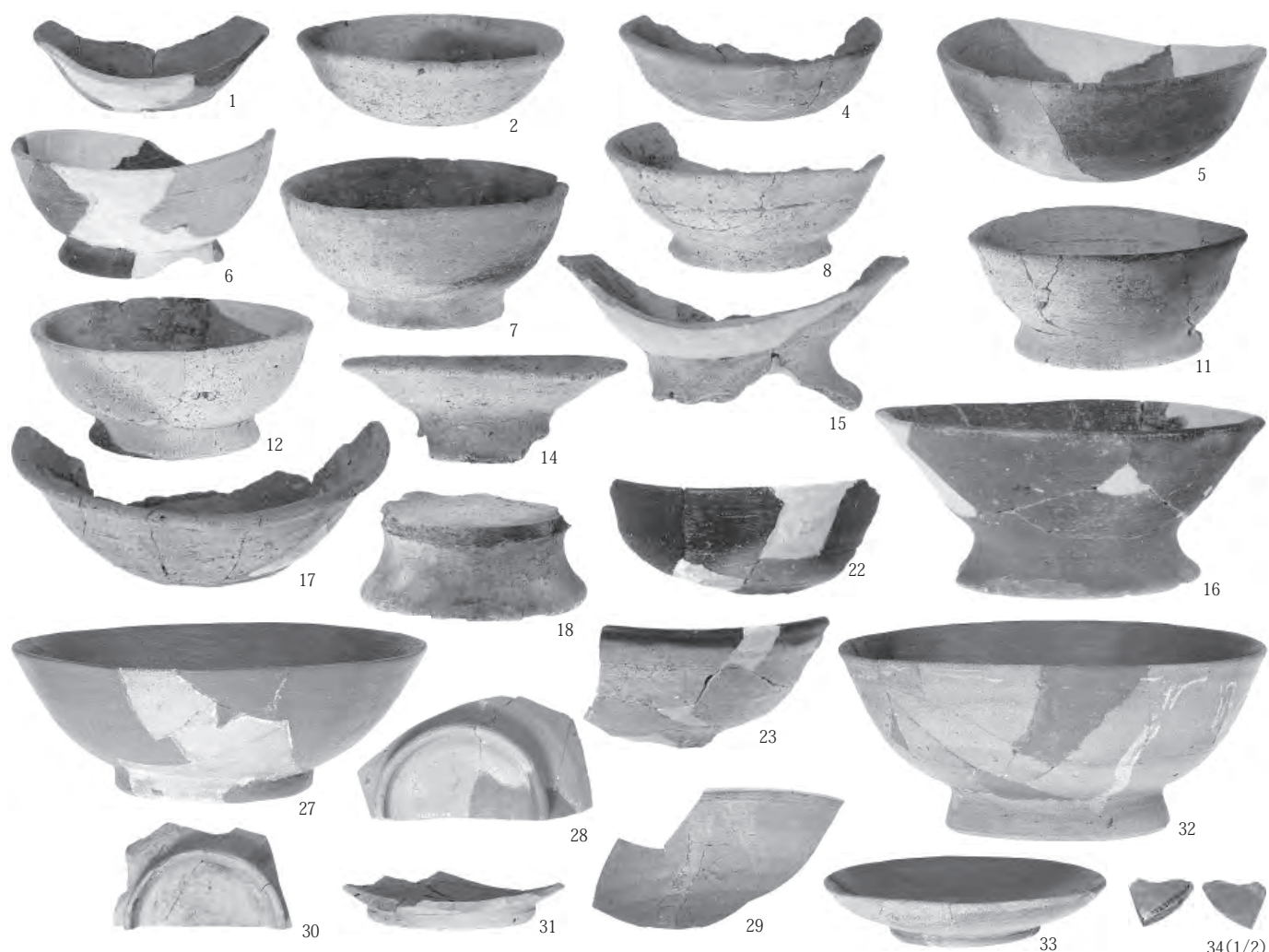
7~9(1/4)

10号住居(1)





10号住居(2)

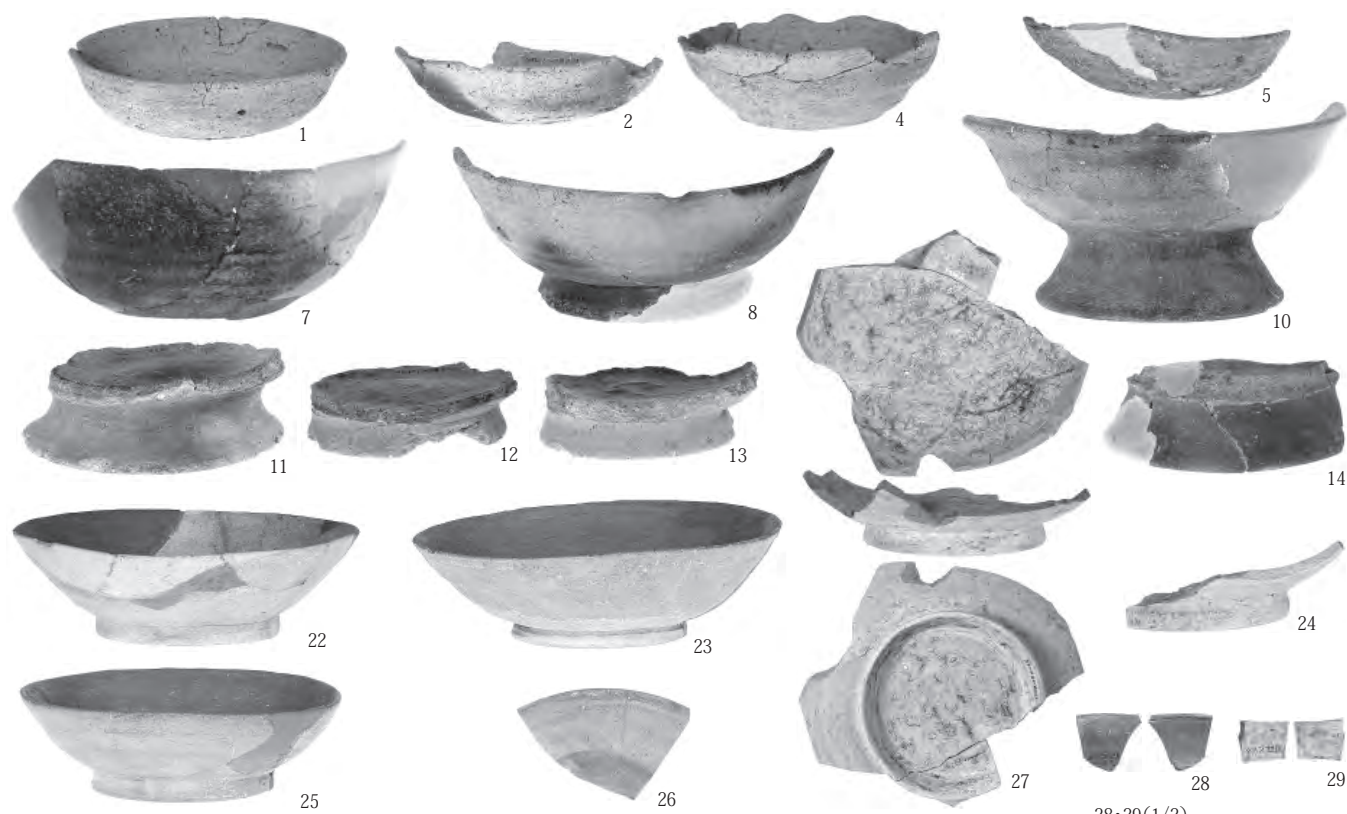


11号住居(1)





11号住居(2)

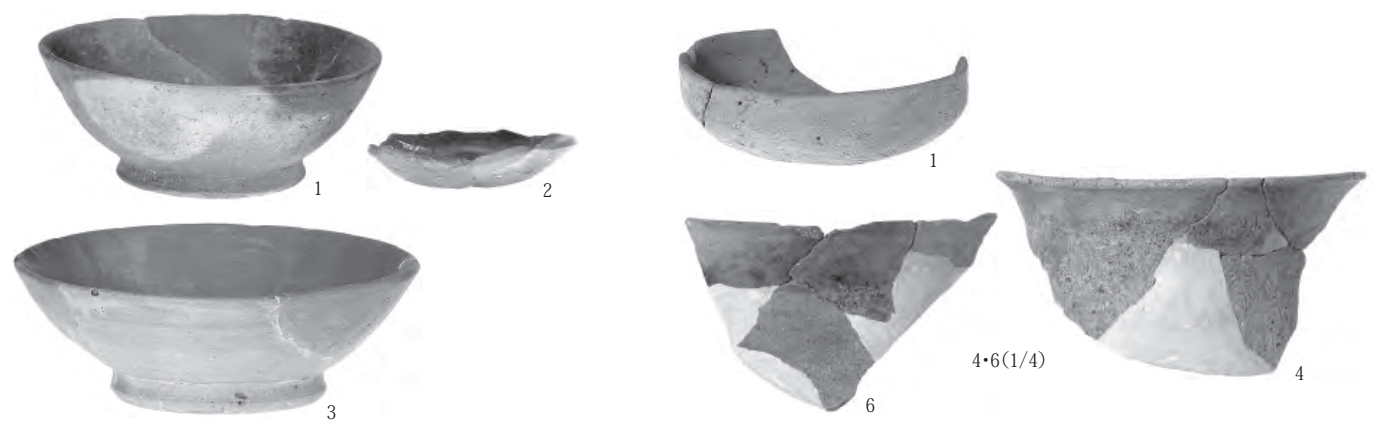


12号住居(1)





12号住居(2)



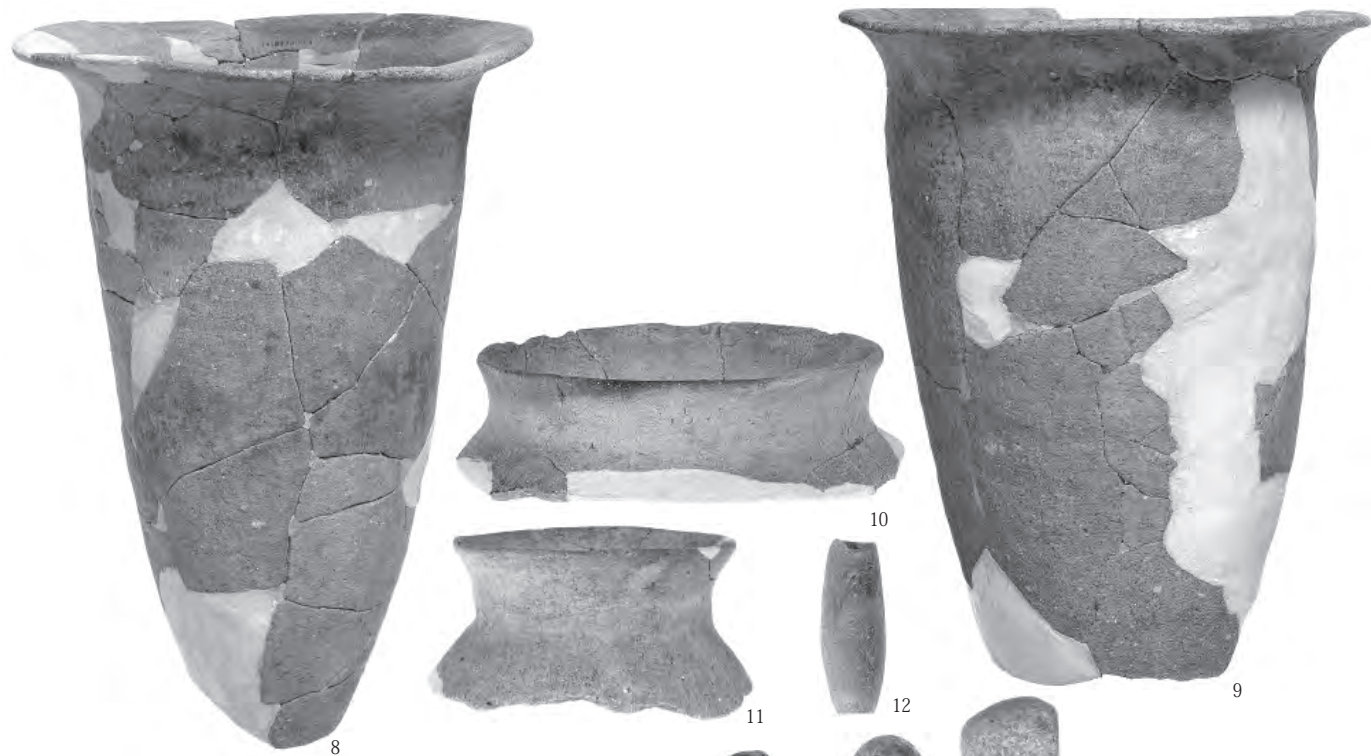
14号住居

15号住居



16号住居(1)





8~11·13~18·20~28(1/4)

16号住居(2)

12·31~34(1/2)

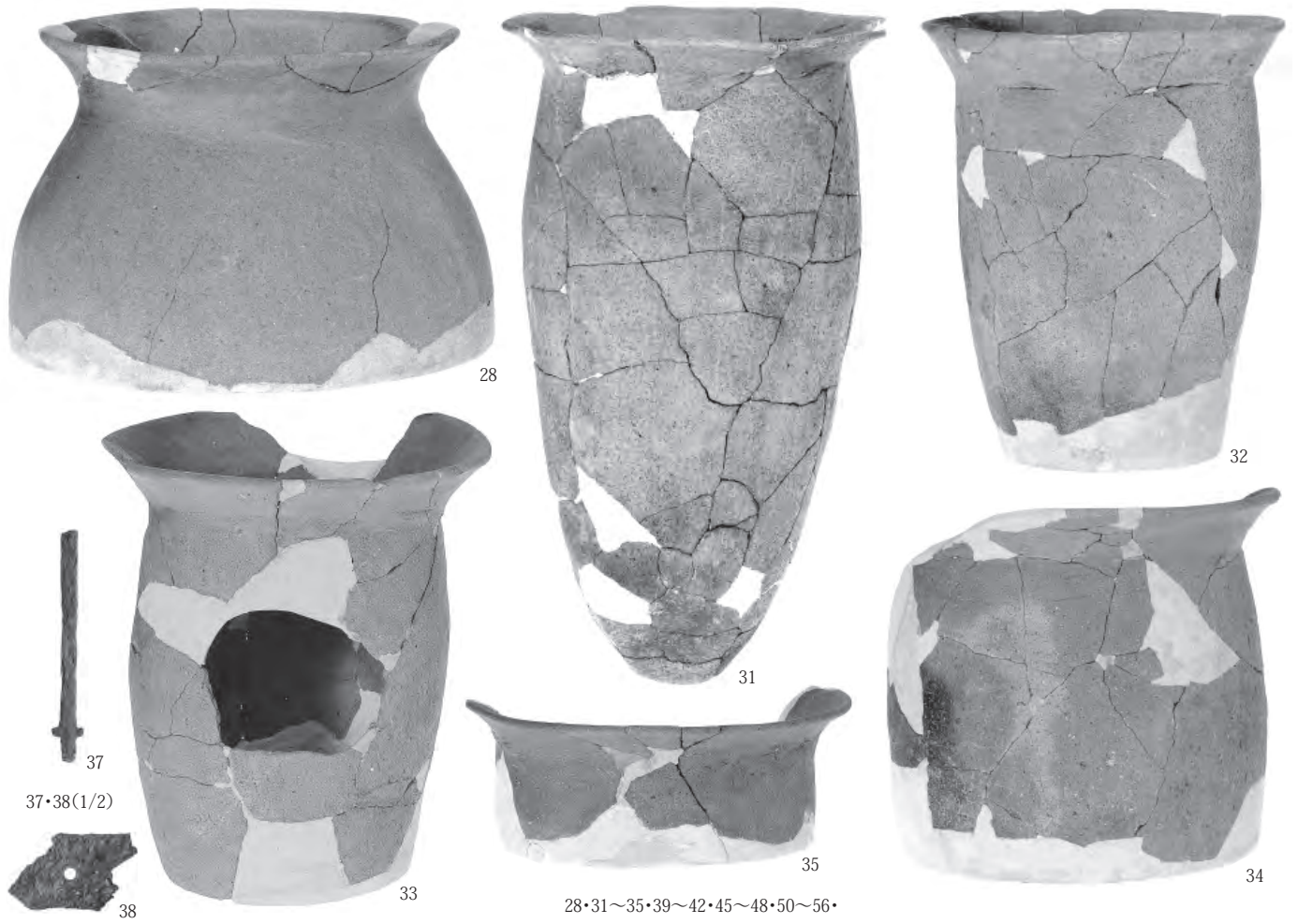


17号住居(1)



27(1/4)



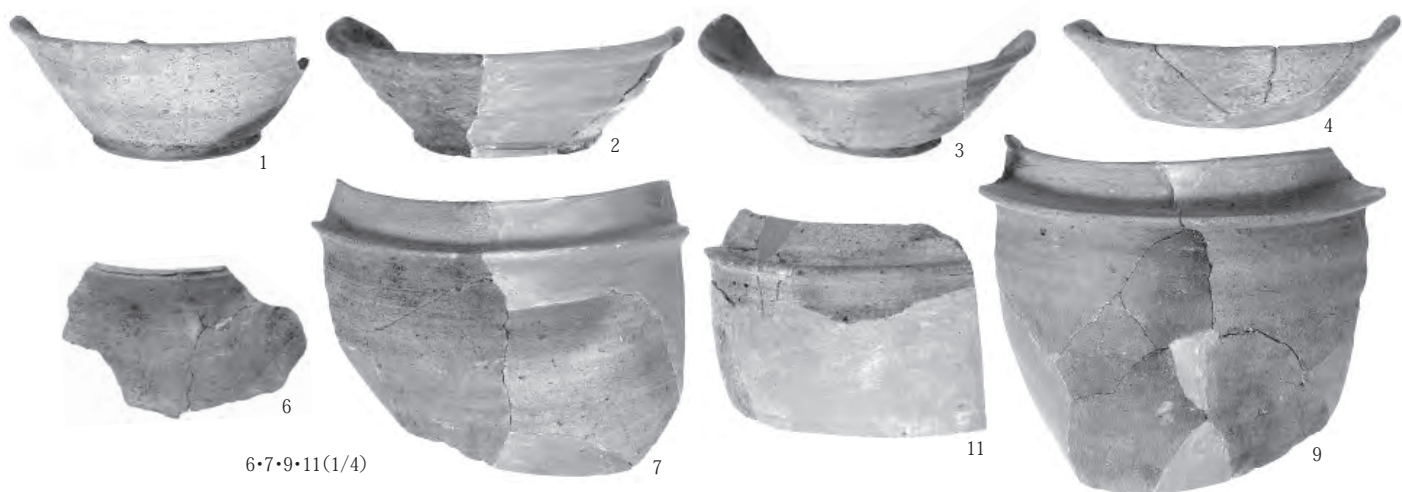




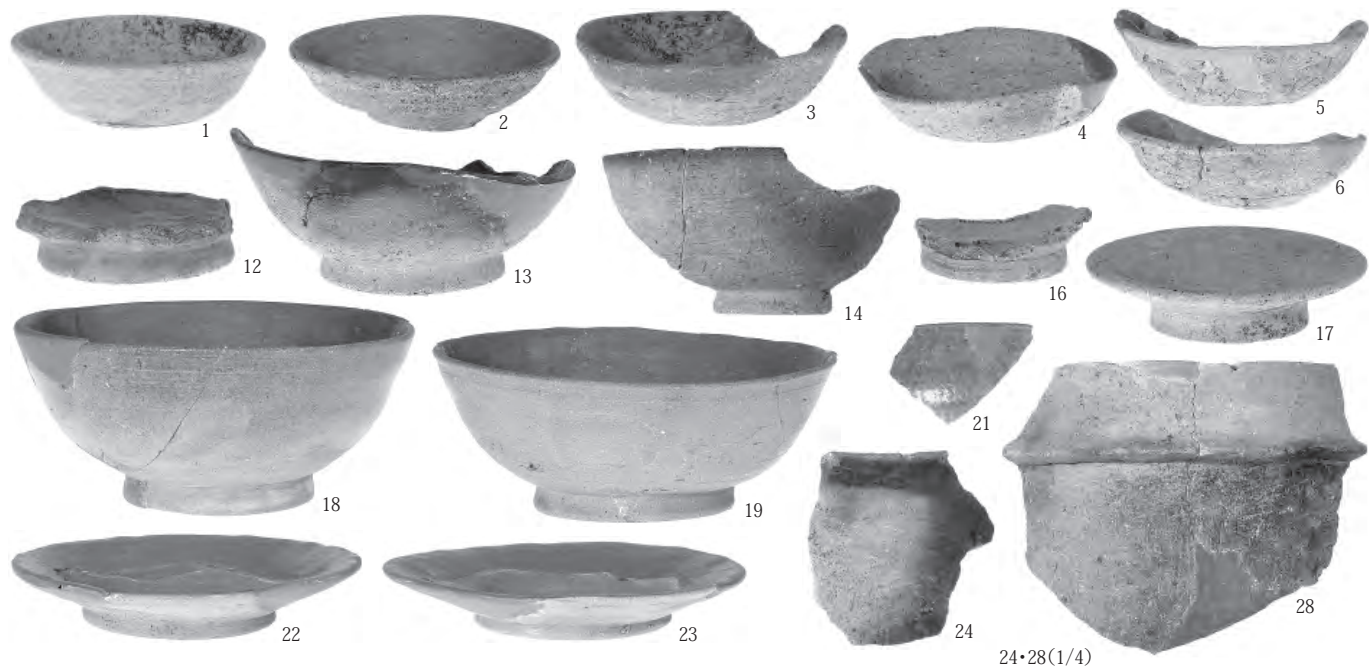


18号住居

19号住居

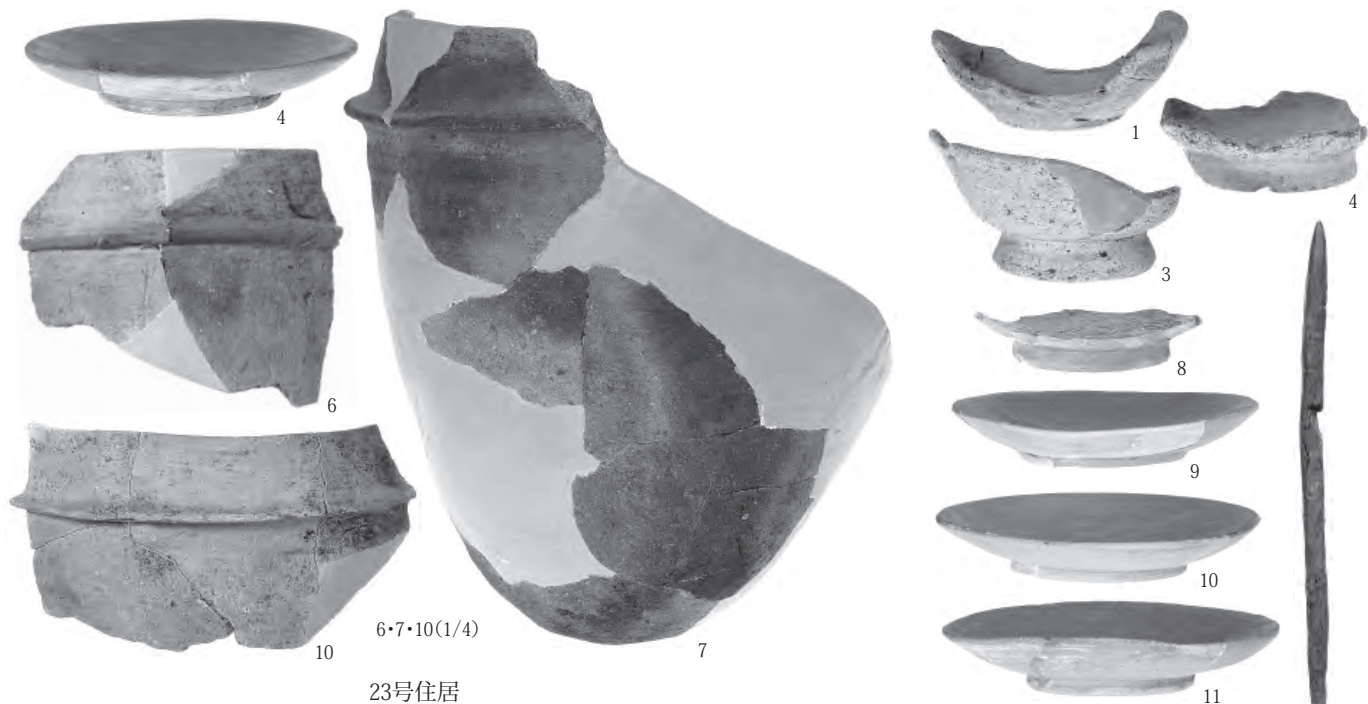


20号住居



22号住居



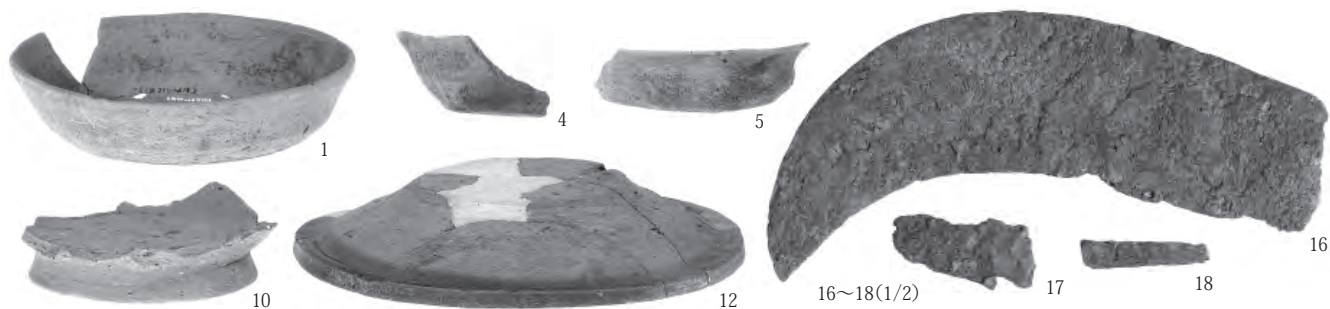


23号住居



25号住居

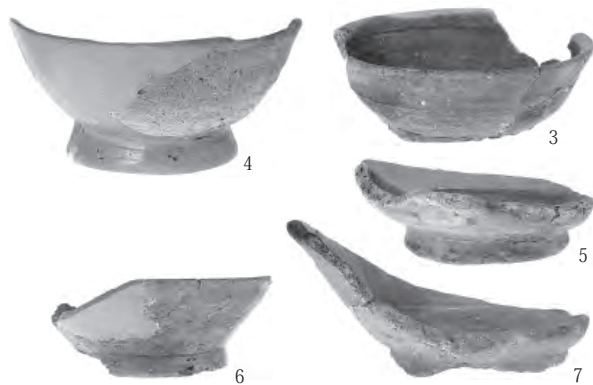
24号住居



26号住居

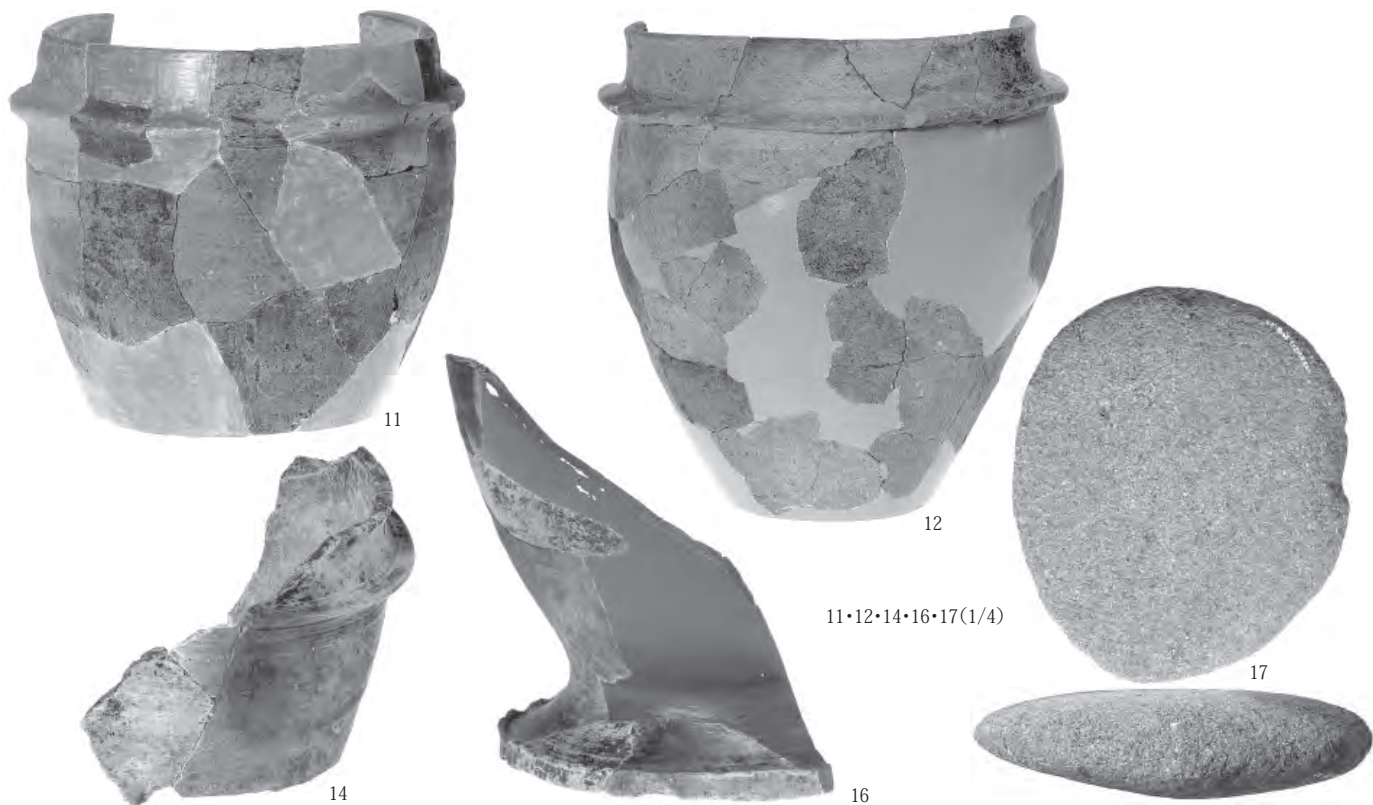


28号住居



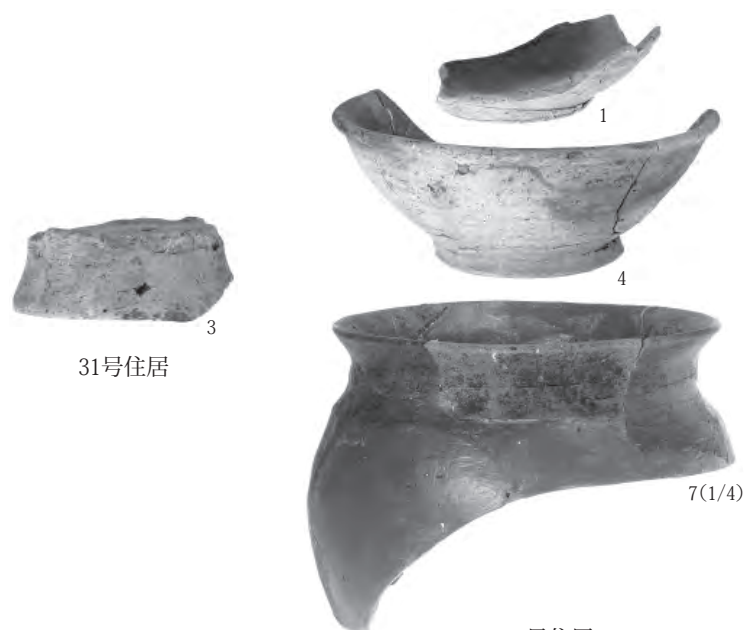
29号住居(1)





11·12·14·16·17(1/4)

29号住居(2)



31号住居

33号住居



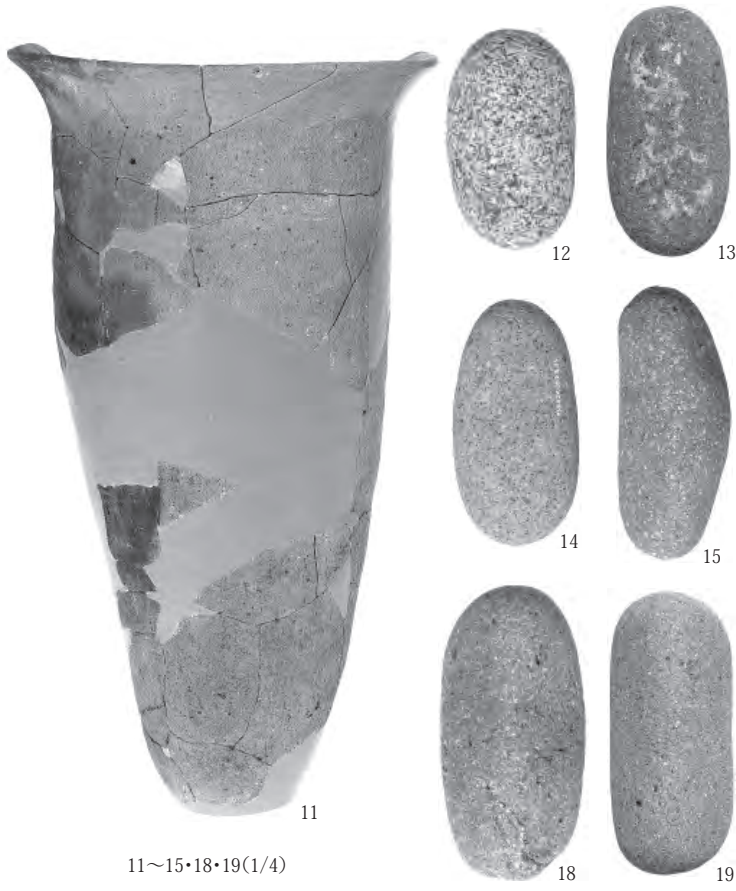
35号住居



5·7~10(1/4)

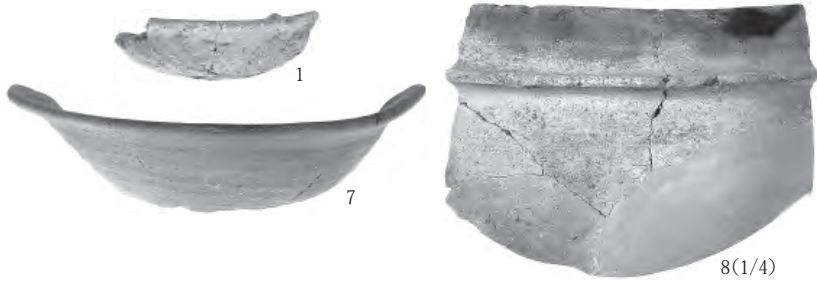
36号住居(1)



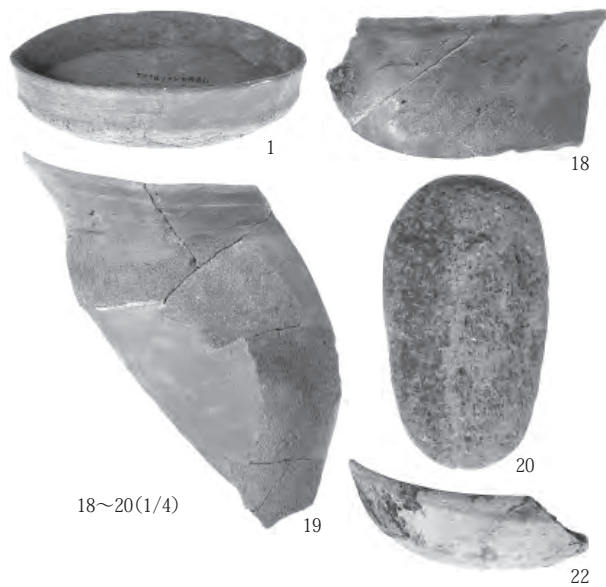


11~15·18·19(1/4)

36号住居(2)



38号住居



18~20(1/4)

39号住居



37号住居



41号住居



43号住居(1)

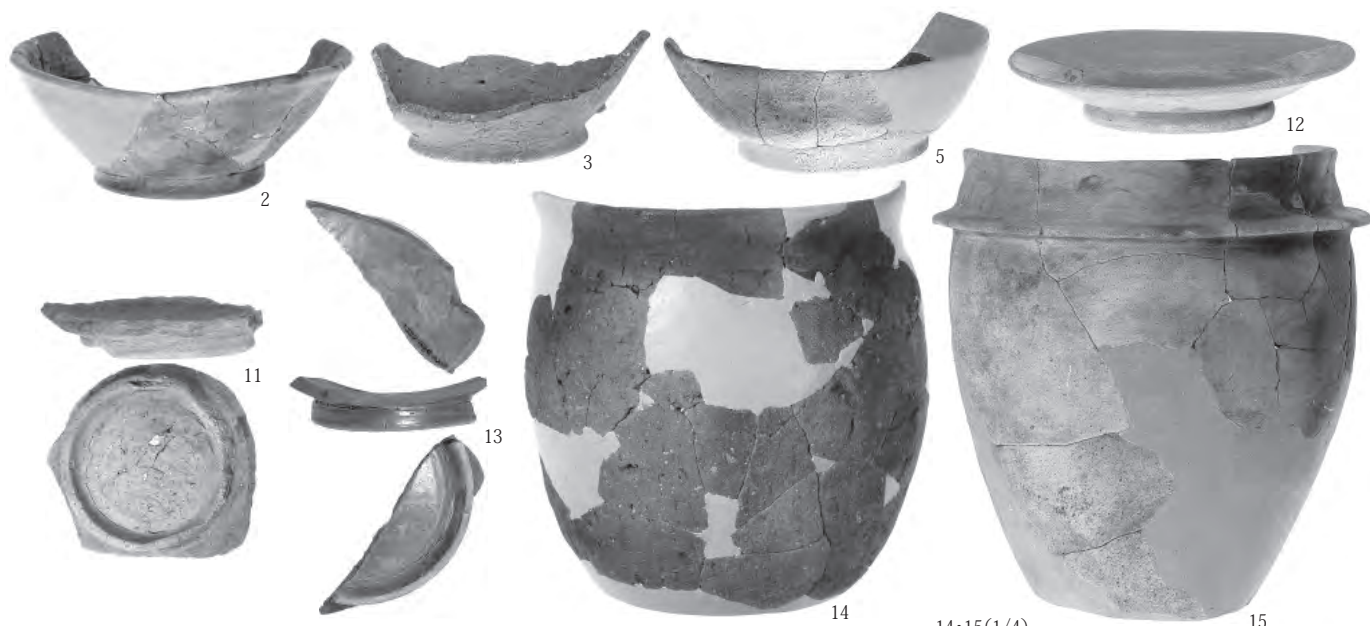




43号住居(2)

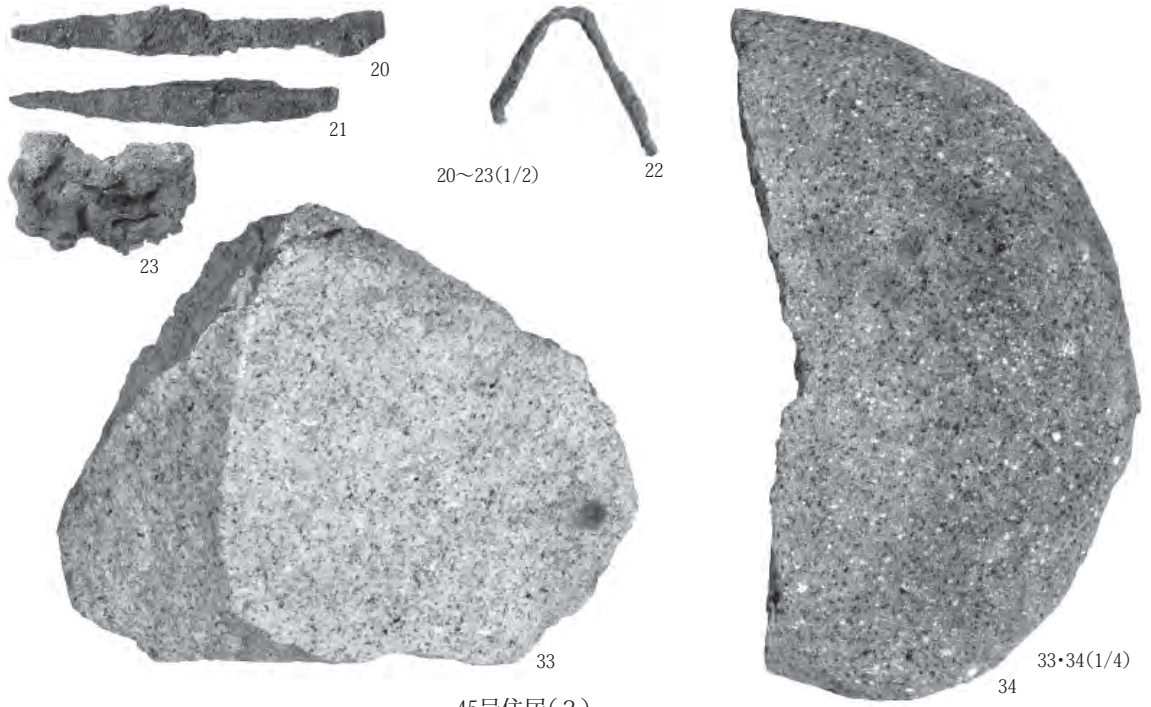


44号住居



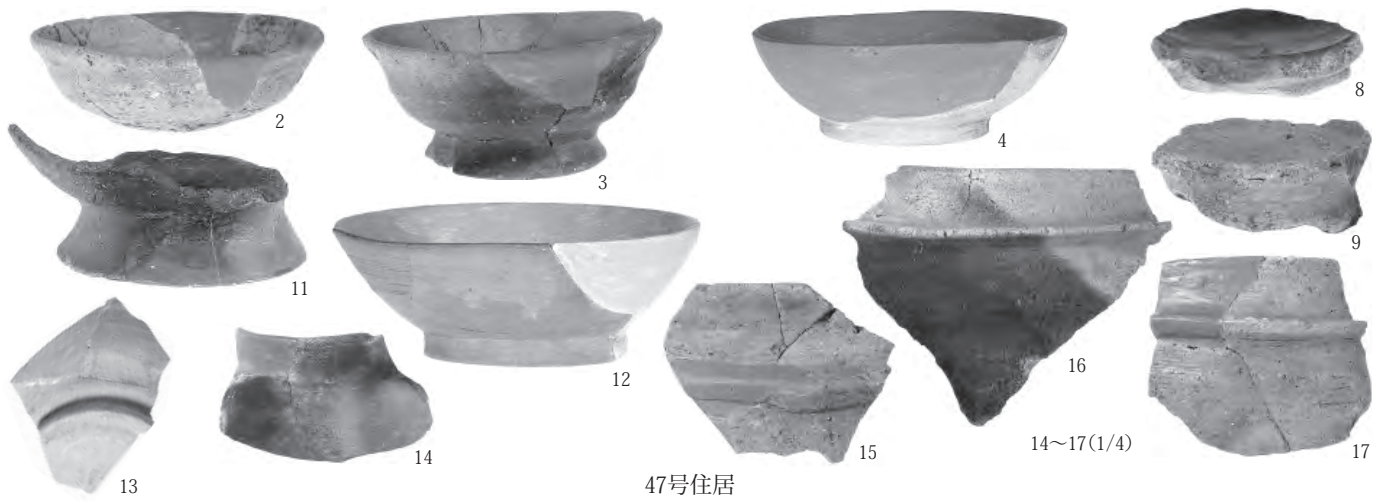
45号住居(1)





20~23(1/2)

45号住居(2)



14~17(1/4)

47号住居



23(1/4)

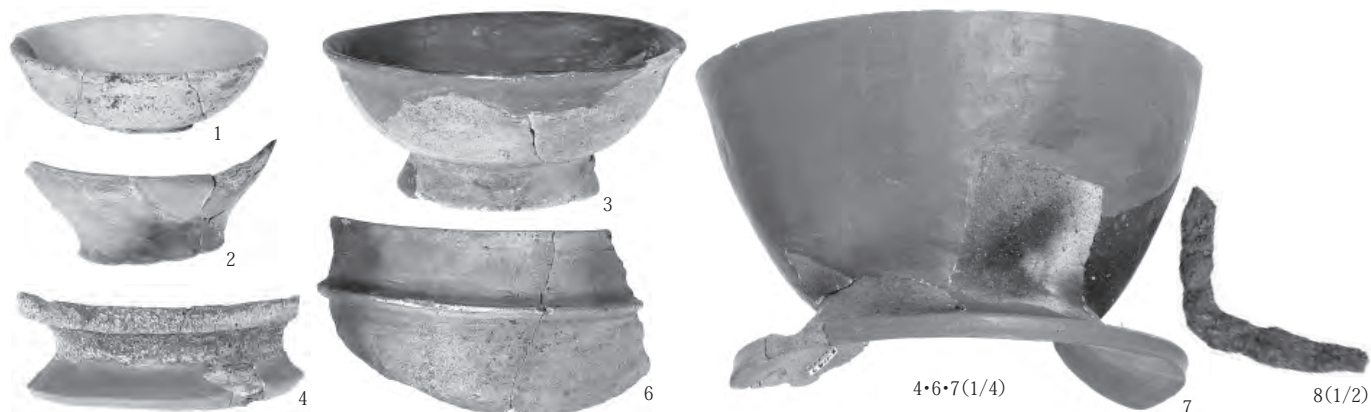
48号住居



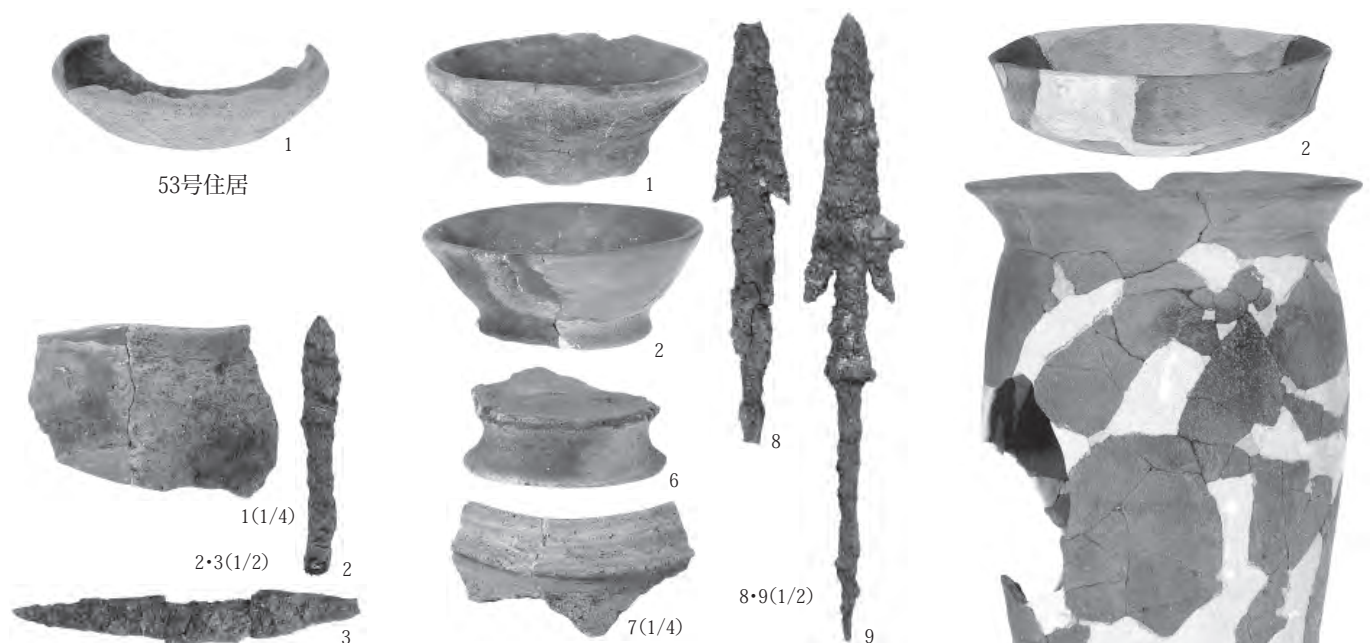
6(1/2)

50号住居





52号住居



53号住居

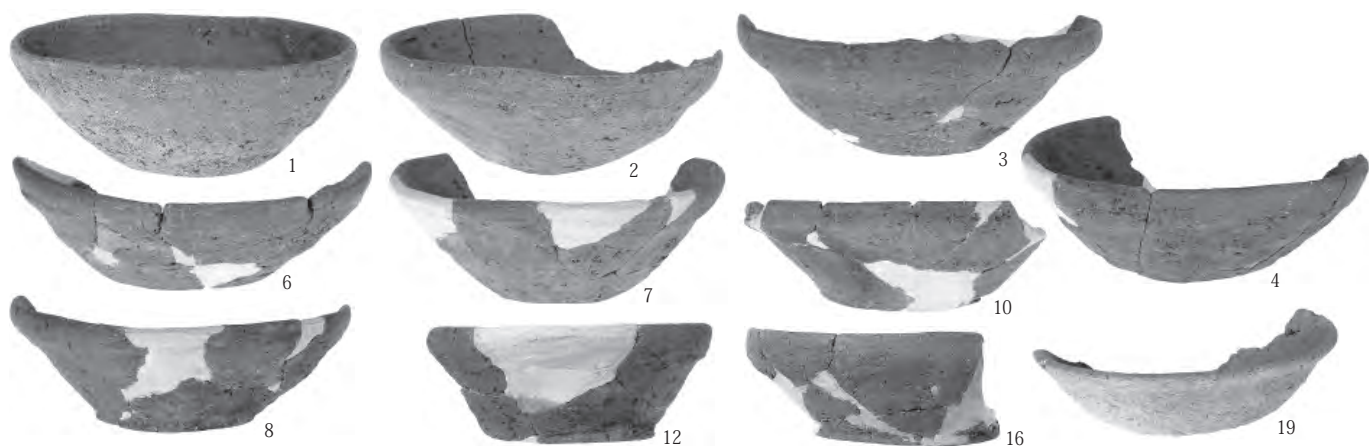
54号住居

55号住居



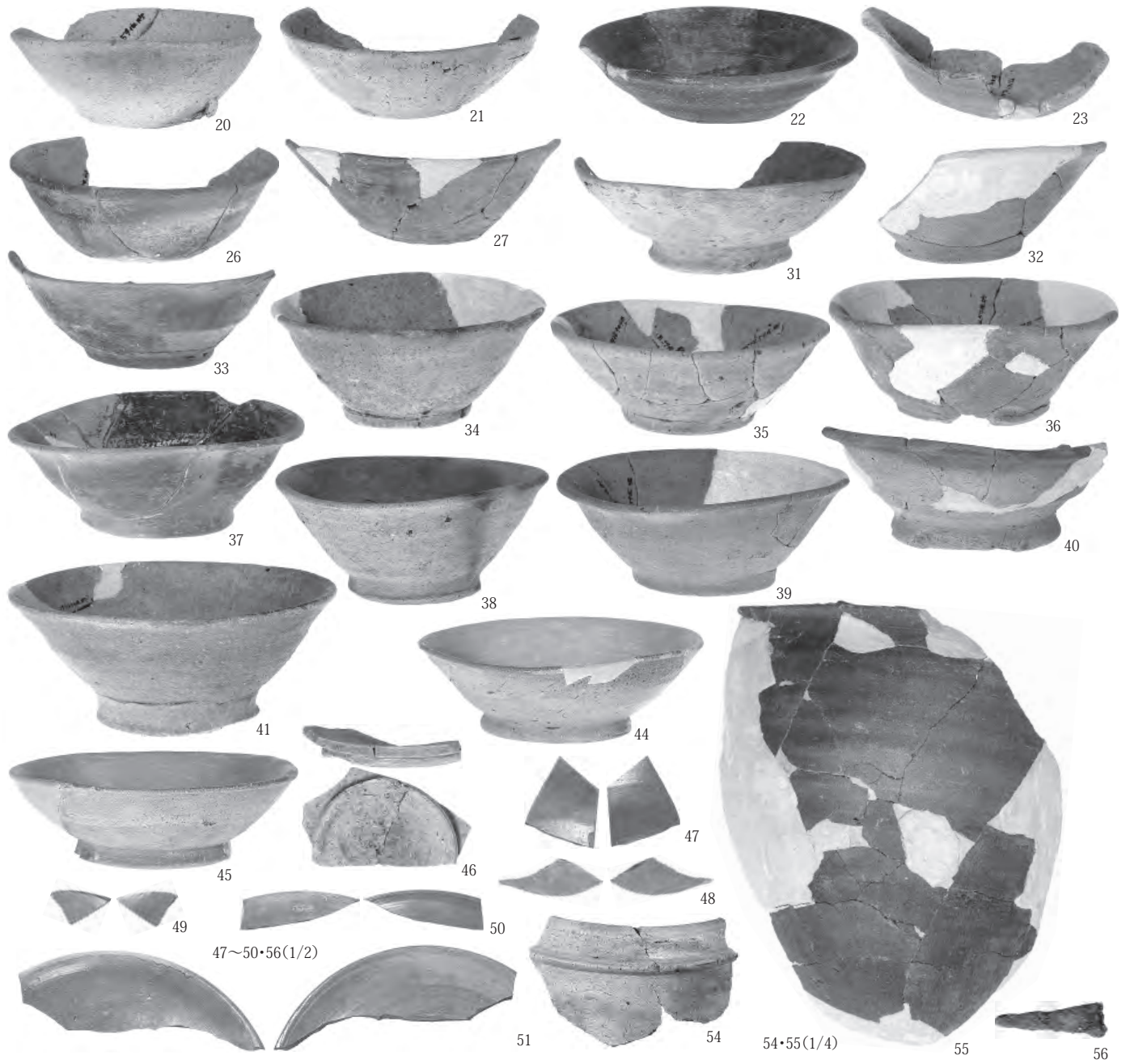
57号住居

56号住居

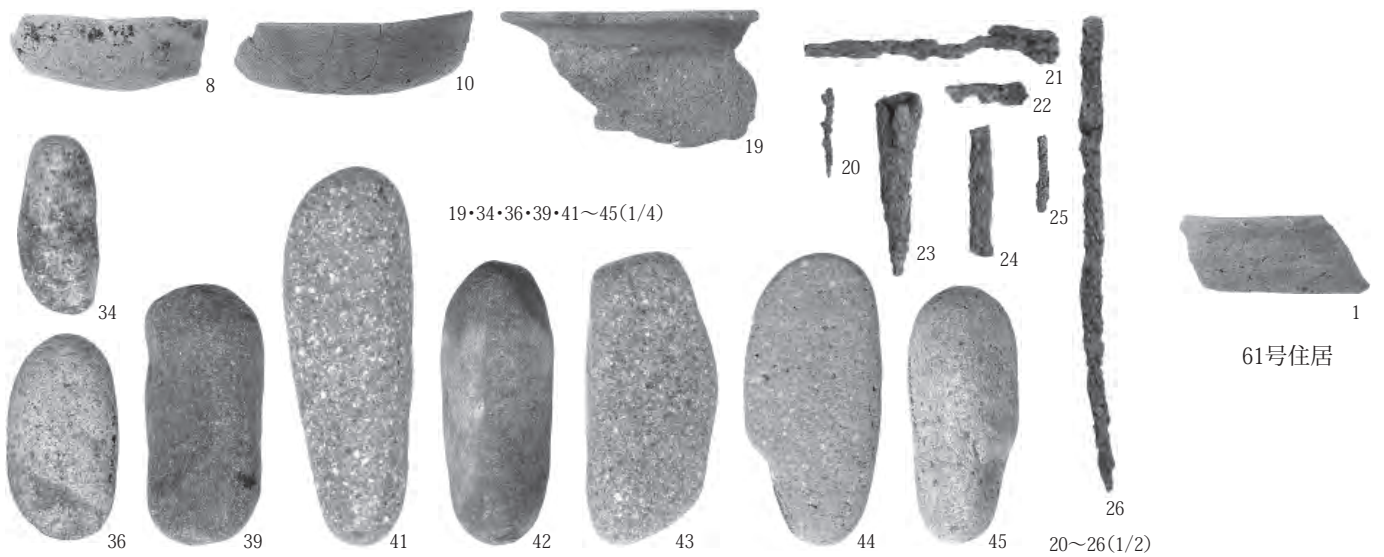


59号住居(1)





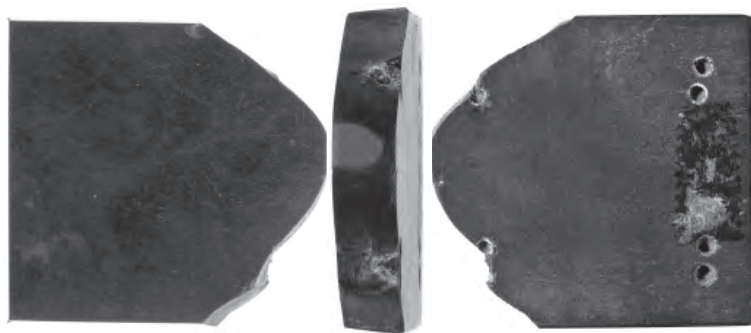
59号住居(2)



60号住居

61号住居





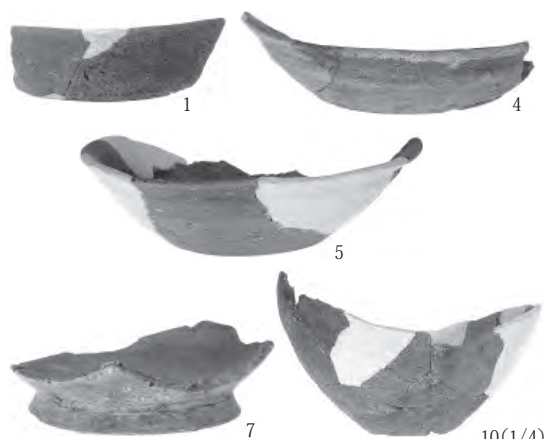
6(1/1)



4

5

62号住居



1

4

5

7

10(1/4)

63号住居



4

5

6

7

8

9

70号住居



1

68号住居



1

3

4

5

6

7

8

9

10

14

74号住居(1)

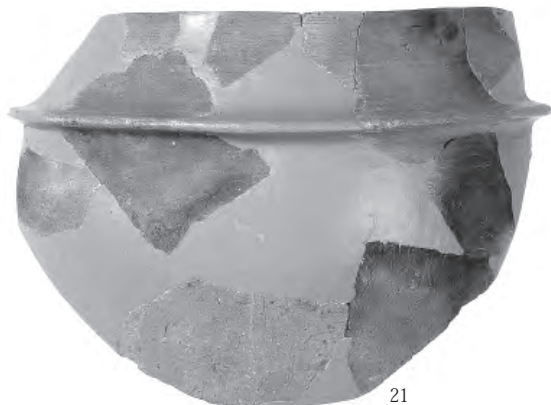




18



20



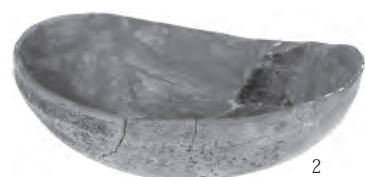
21



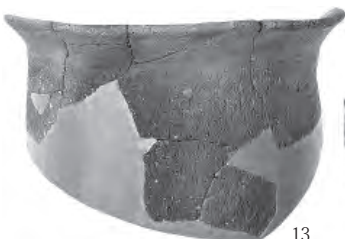
19

18~21(1/4)

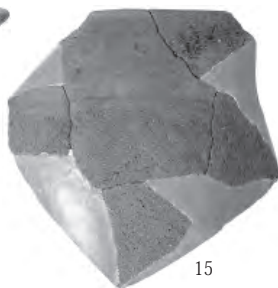
74号住居(2)



2



13



15



10



4



16

13•15•16(1/4)

75号住居



1



2



3



4



5



6



9



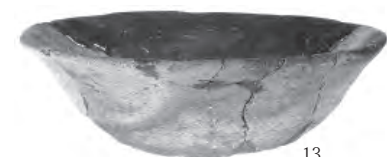
11



12



10



13



17



18

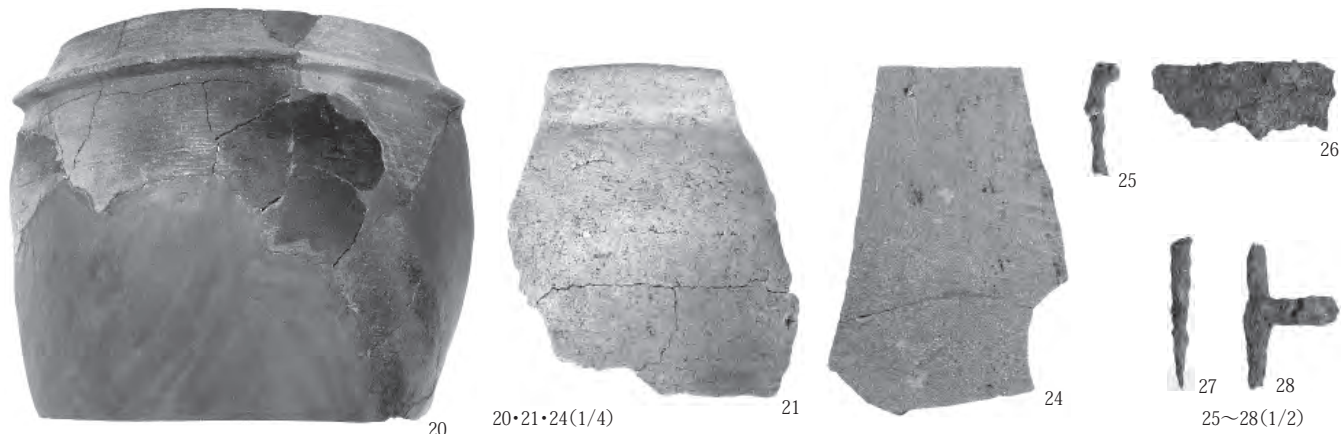
18•19(1/4)



19

77号住居(1)





20·21·24(1/4)

25~28(1/2)

77号住居(2)



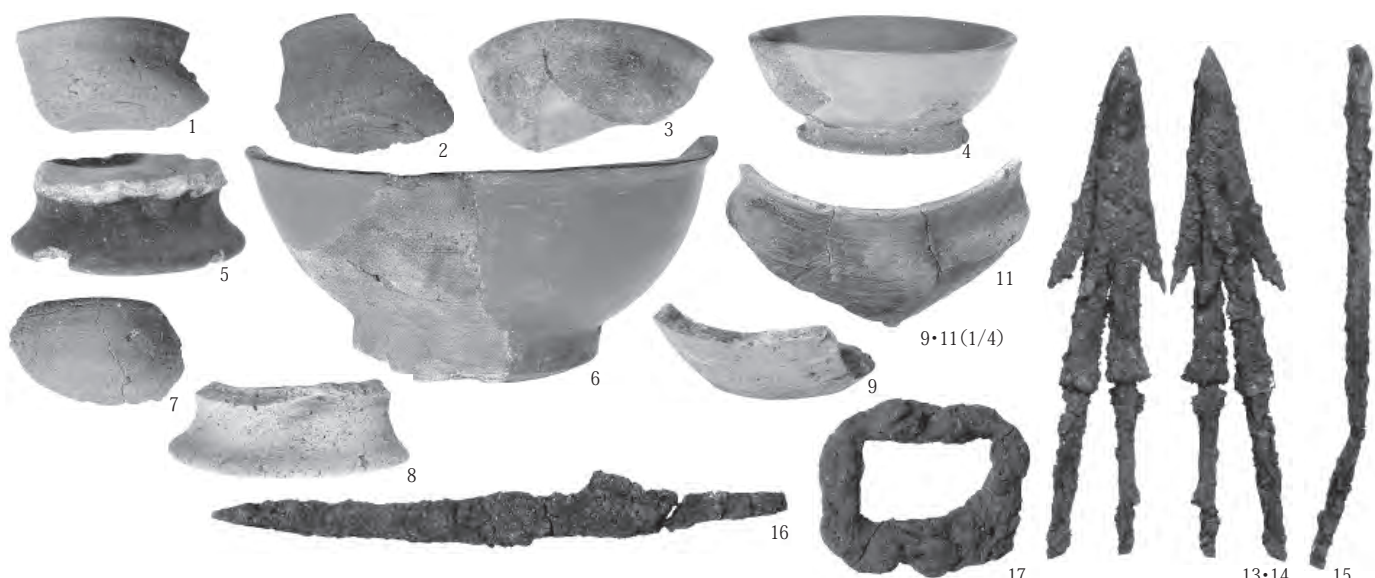
4·5(1/4)

78号住居



3(1/4)

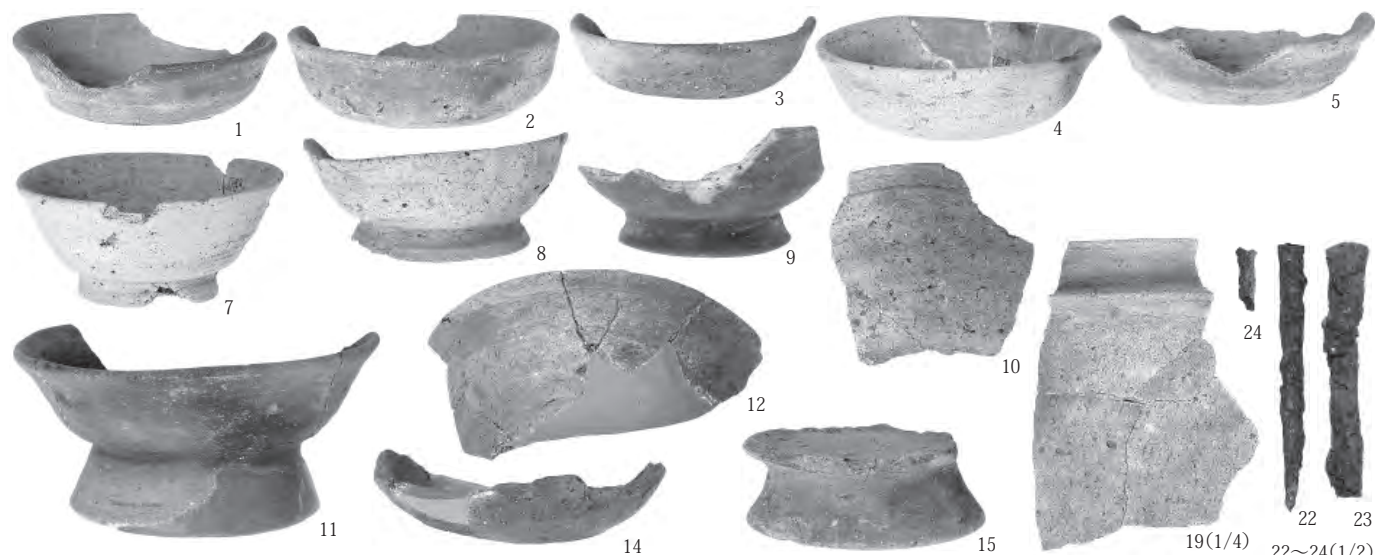
79号住居



9·11(1/4)

13~17(1/2)

80号住居

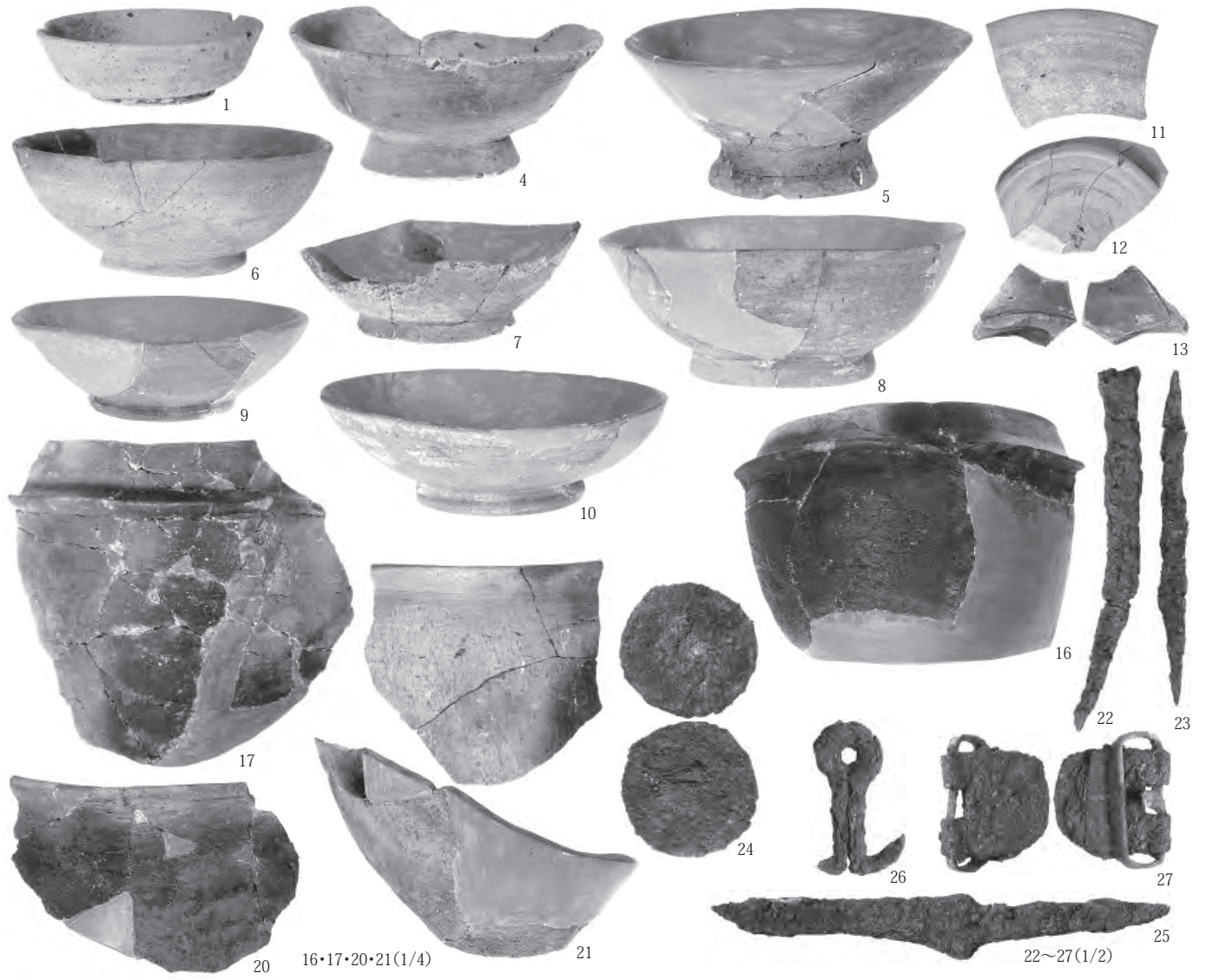


19(1/4)

22~24(1/2)

81号住居

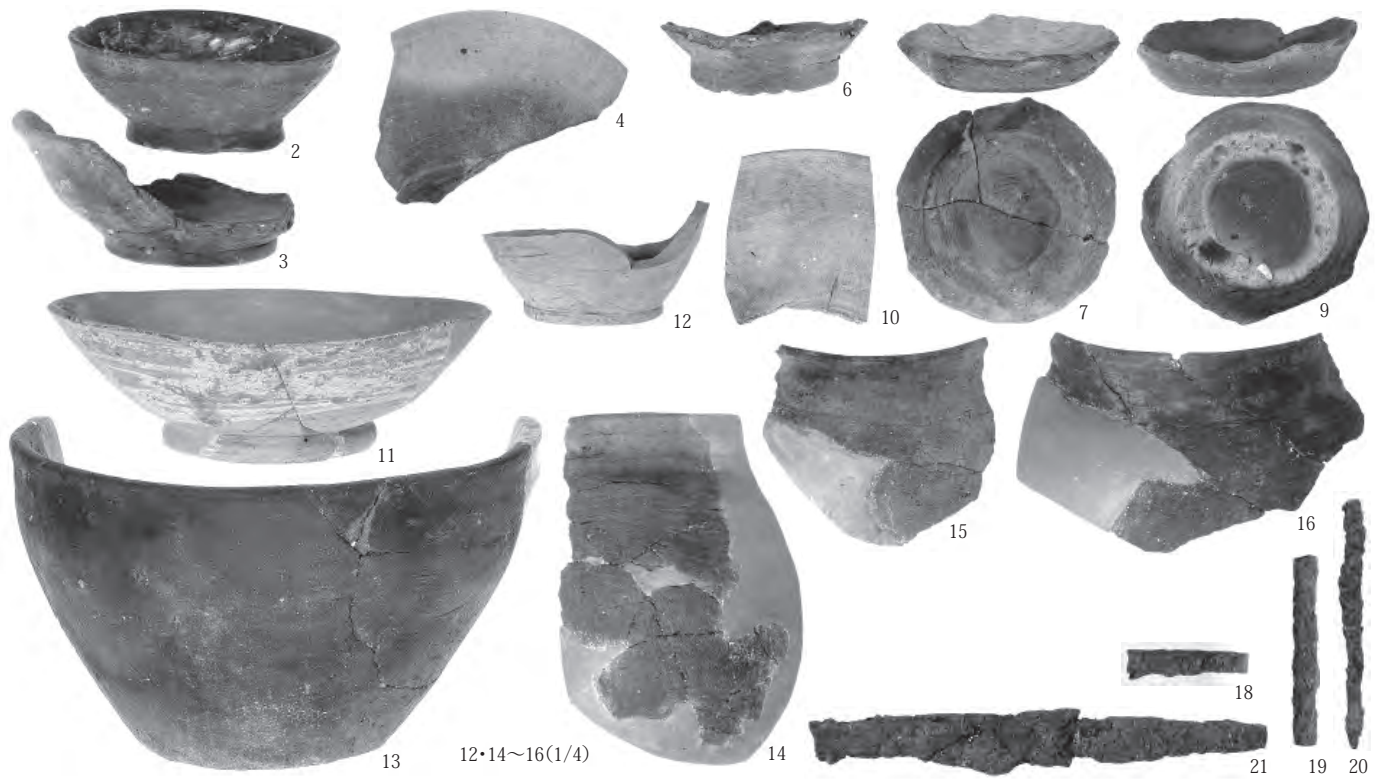




16·17·20·21(1/4)

22~27(1/2)

82号住居

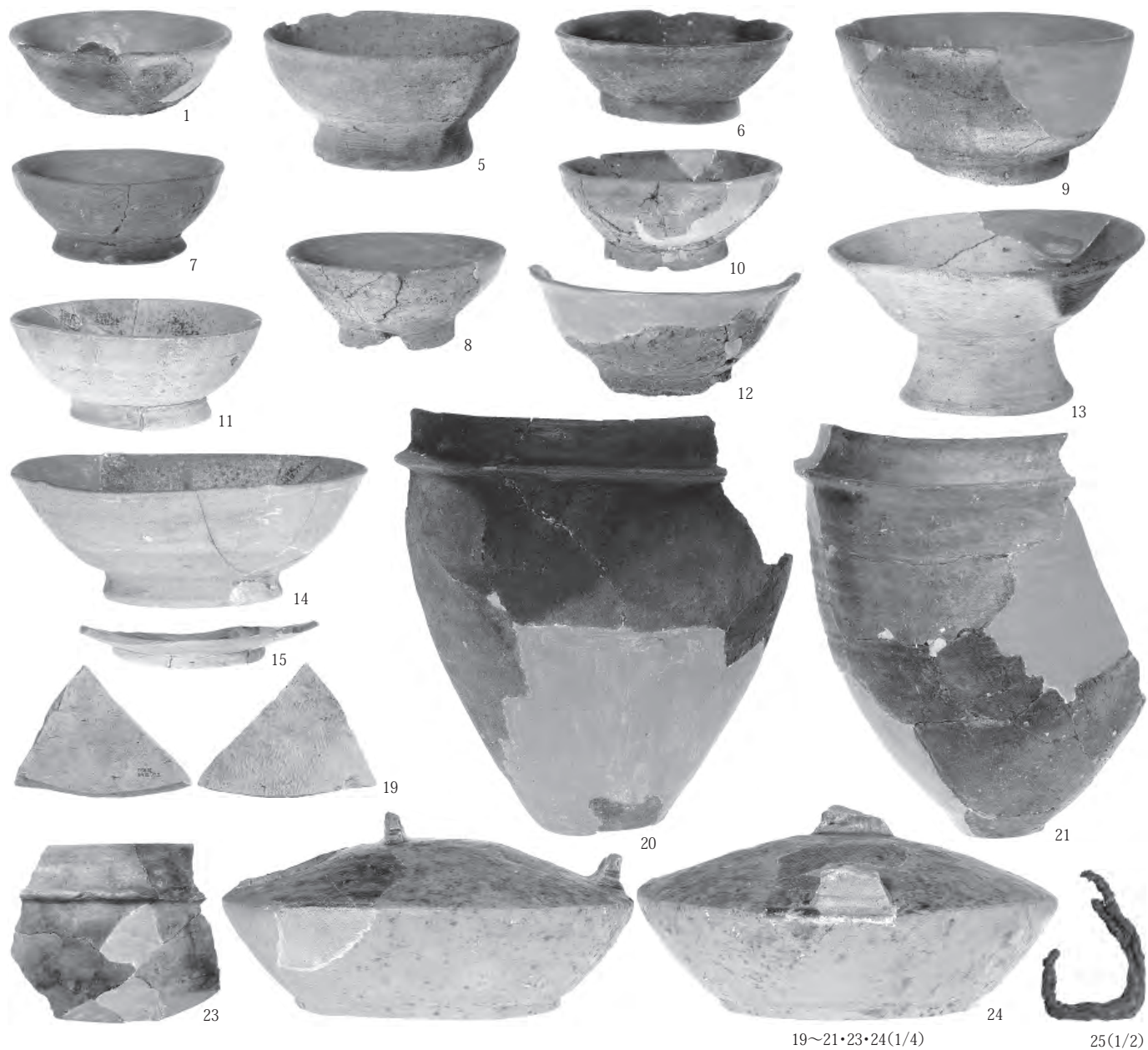


12·14~16(1/4)

18~21(1/2)

83号住居

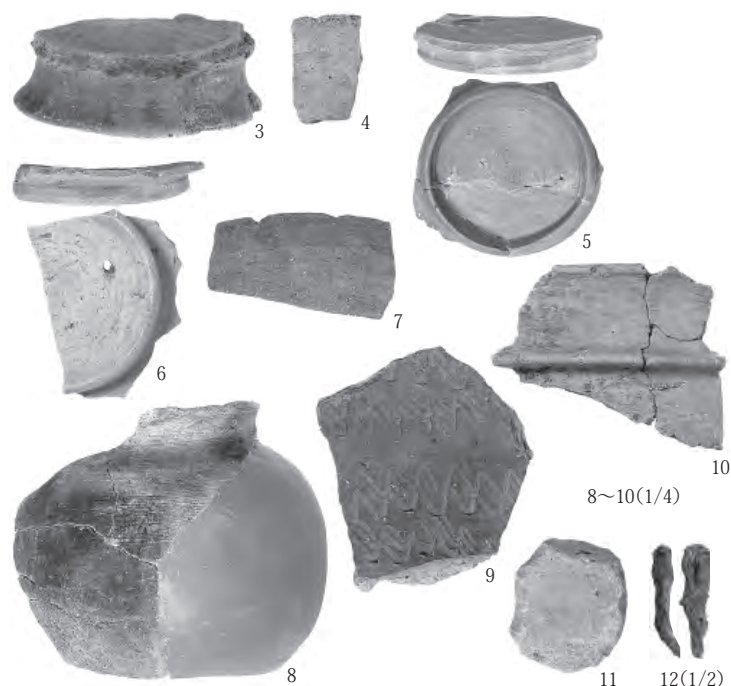




84号住居

19~21·23·24(1/4)

25(1/2)



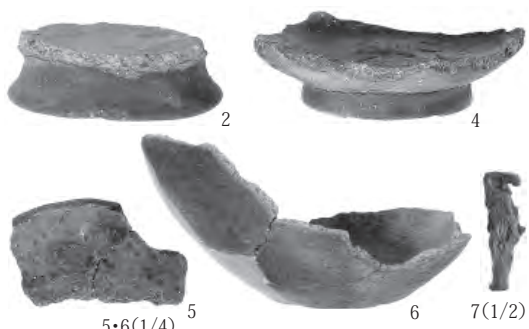
85a号住居

8~10(1/4)

11 12(1/2)



86号住居



87号住居

5·6(1/4)

7(1/2)

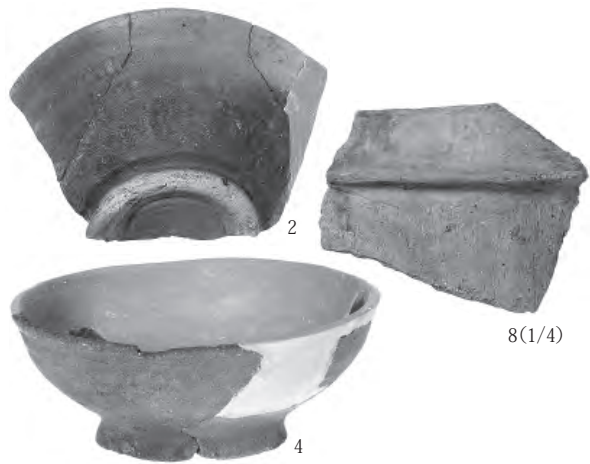
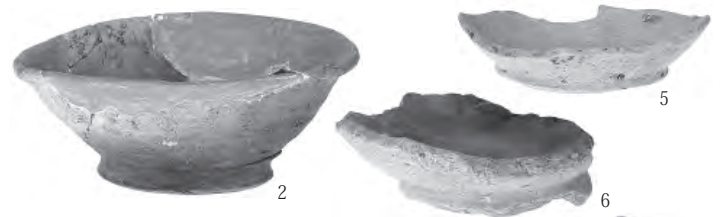




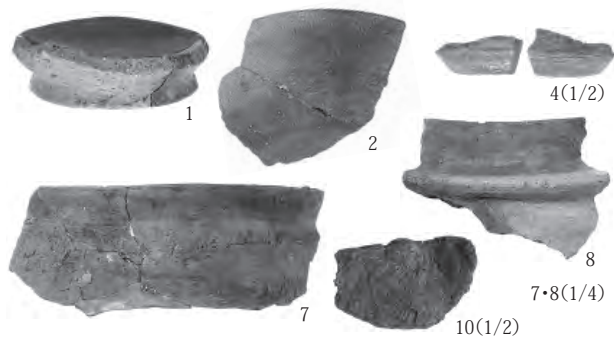
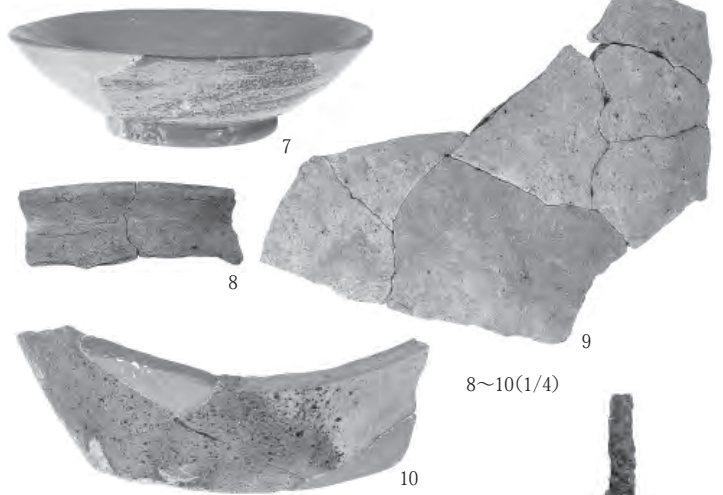
88号住居



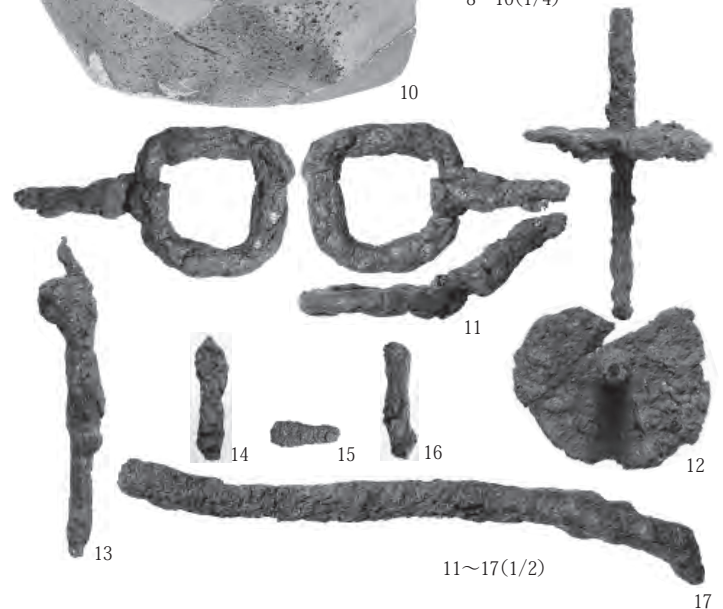
89号住居



91号住居

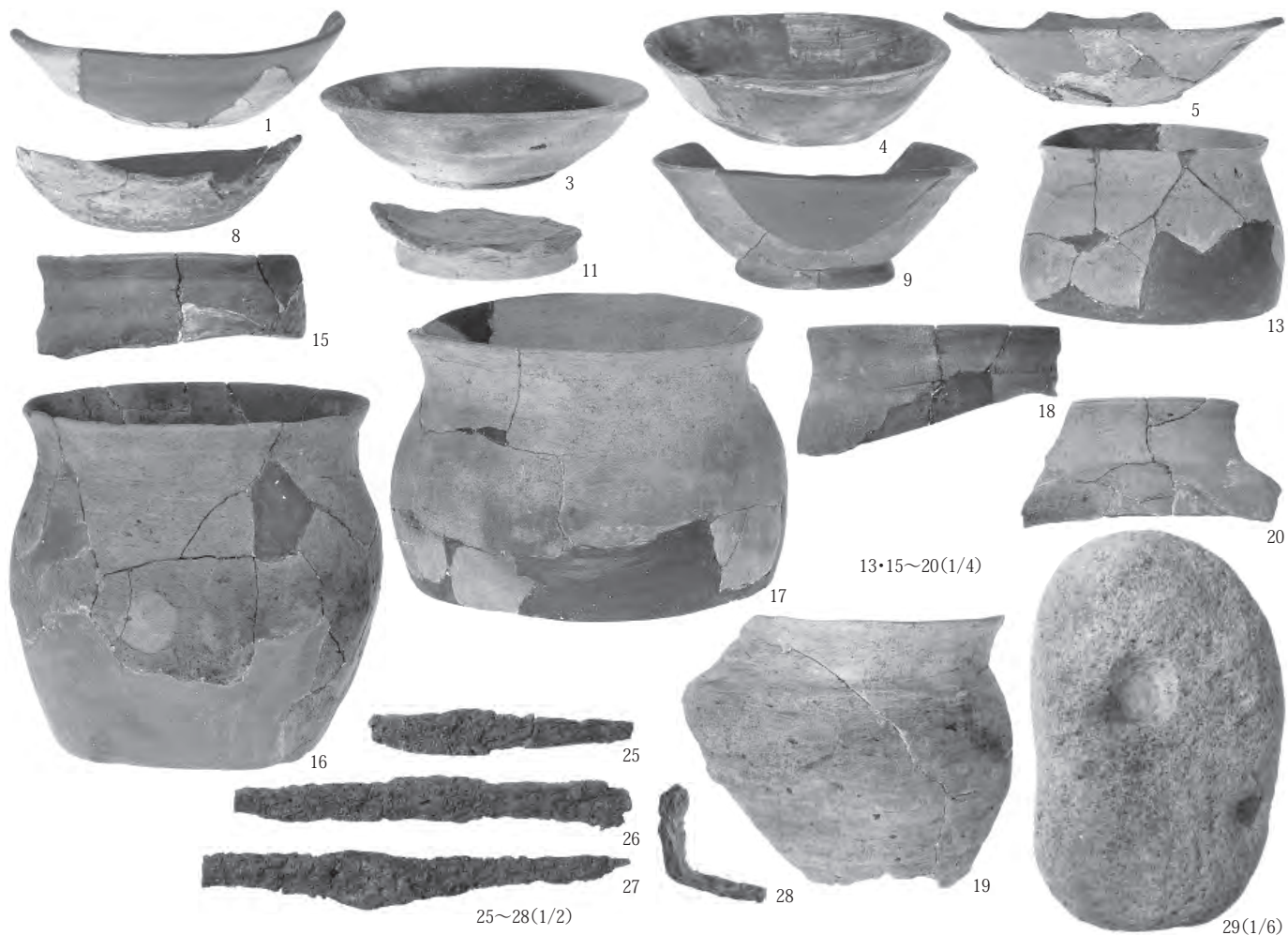


92号住居

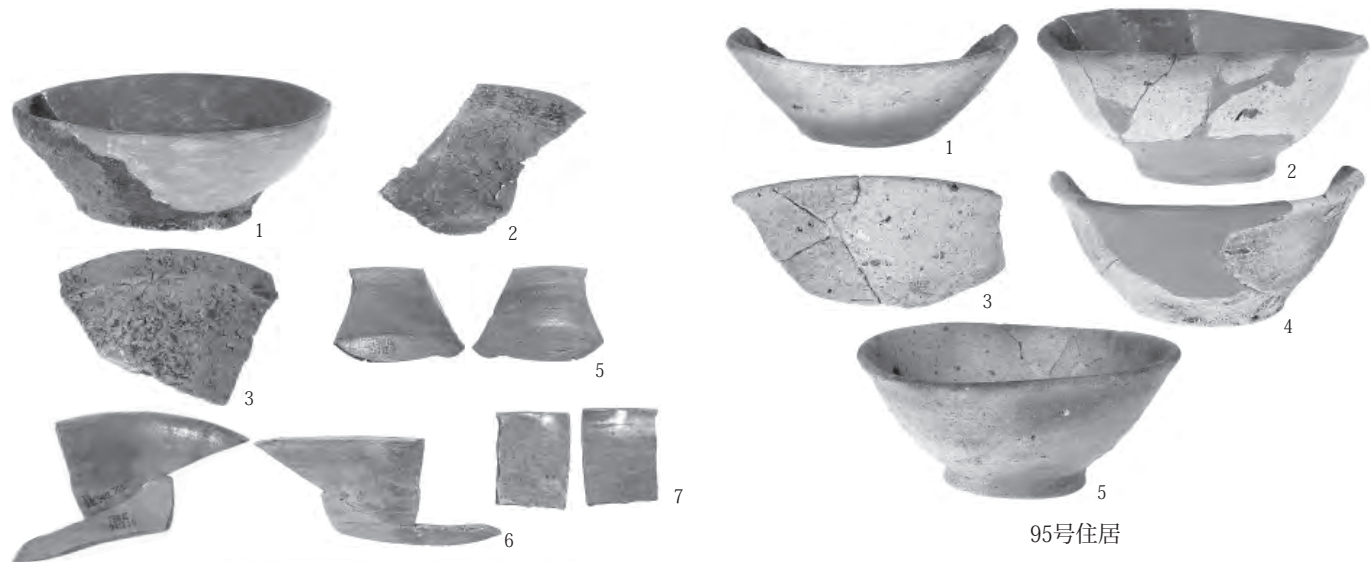


90号住居





93号住居



94号住居

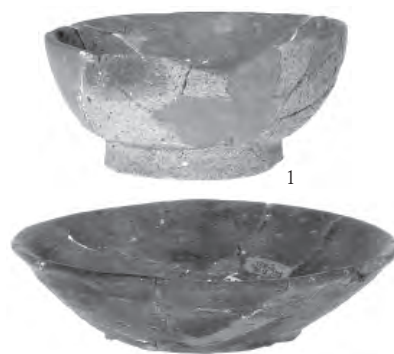


94号住居

7·9(1/2)

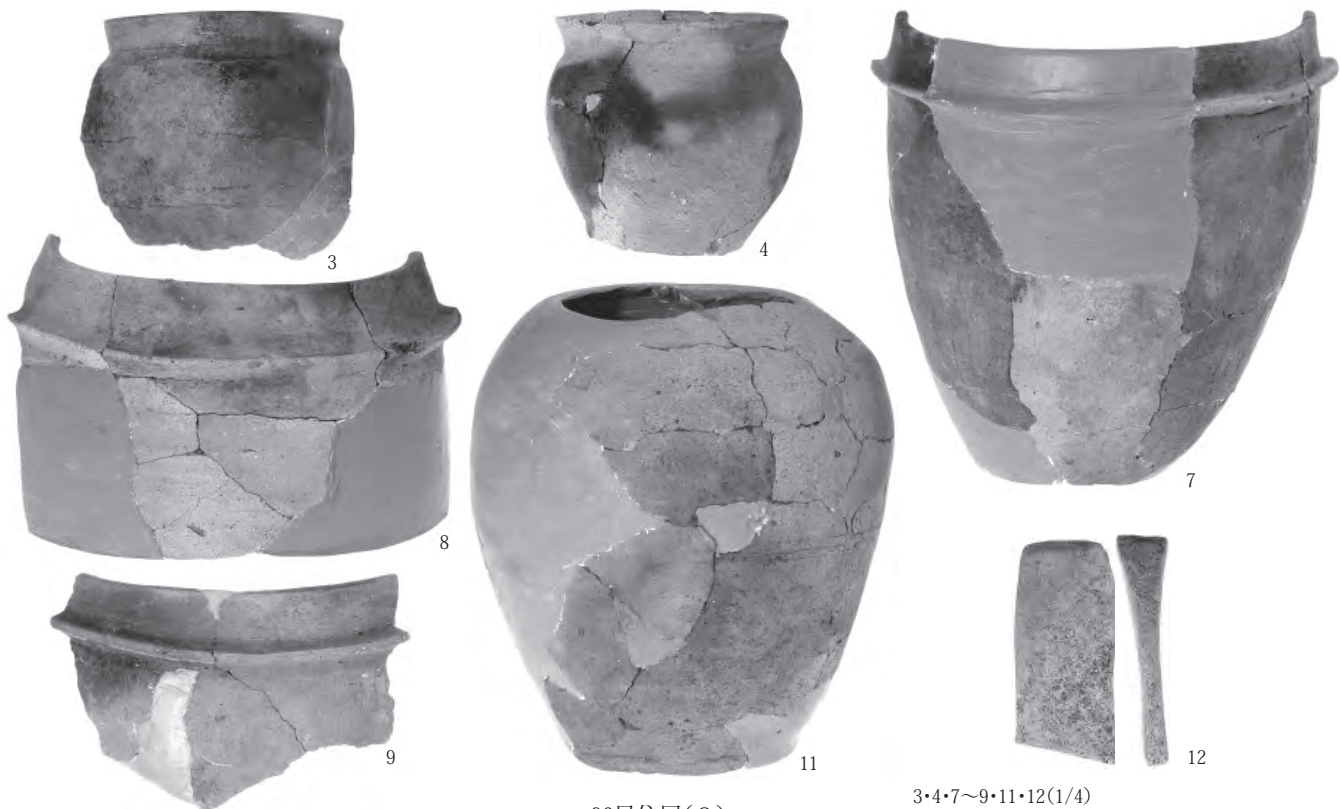


95号住居



96号住居(1)



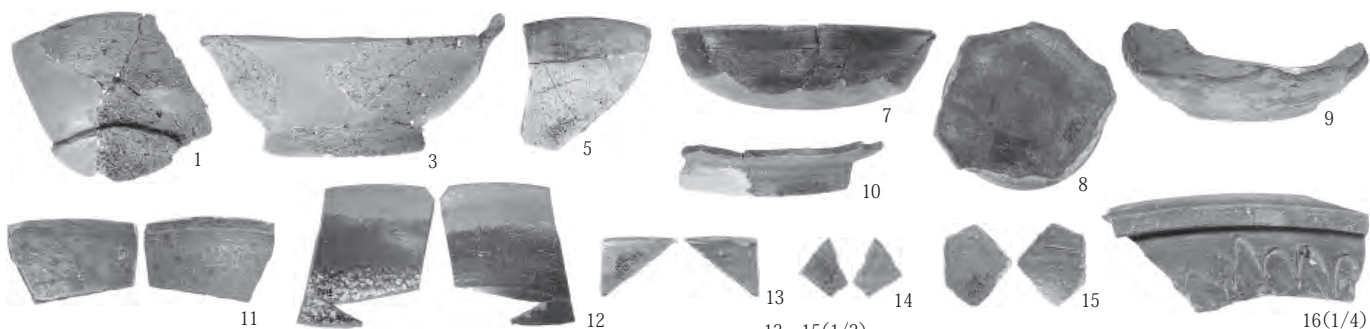


96号住居(2)

3·4·7~9·11·12(1/4)



97号住居

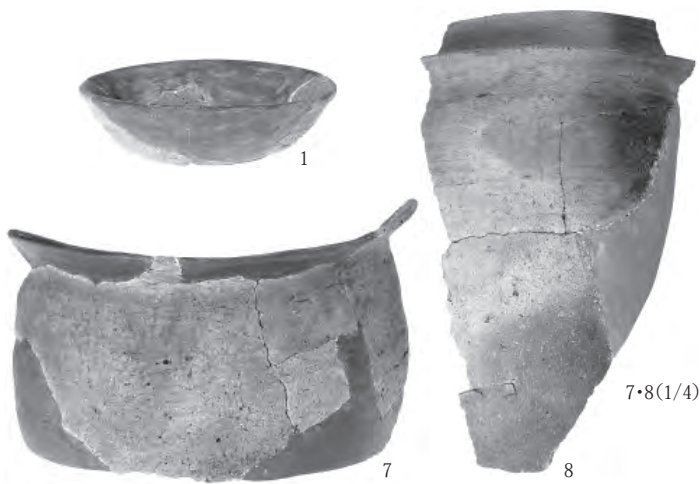


98号住居

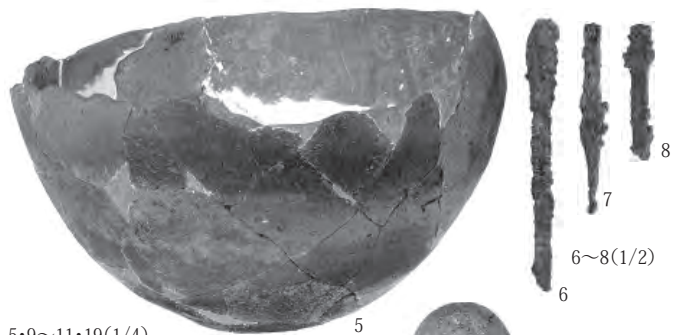
13~15(1/2)

16(1/4)



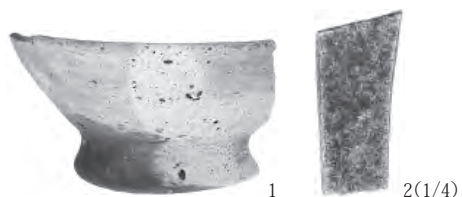


100号住居

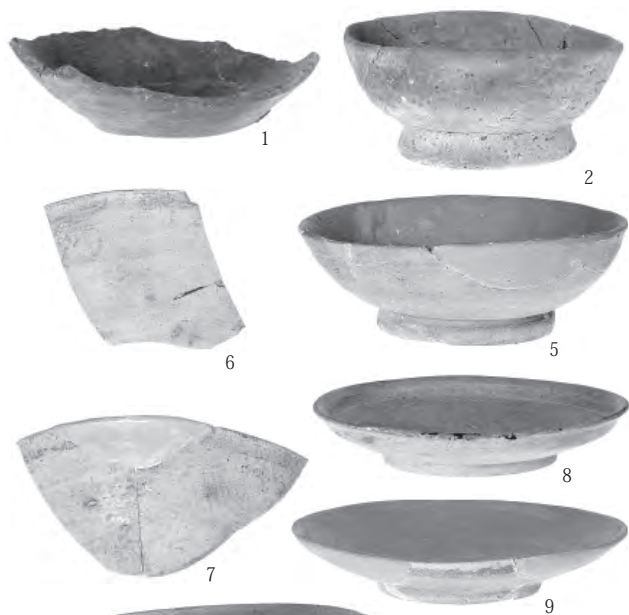


5·9~11·19(1/4)

101号住居



99号住居



15·16(1/2)

102号住居



103号住居





2



3  
3·4(1/2)

108号住居

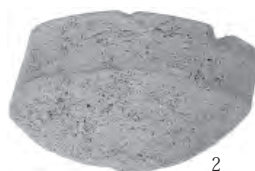


1

109号住居



1



2



3



4



7(1/4)

111号住居



2



3



8



9(1/4)

110号住居



1



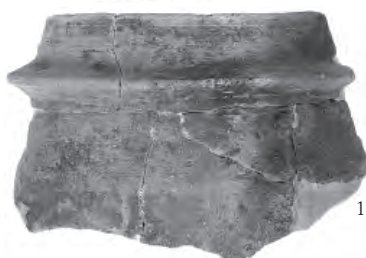
2



4



5



11



14

11·14(1/4)



8



7



12

12·13(1/2)



13

112号住居

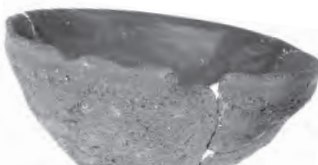


1(1/4)

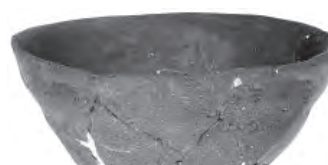
126号住居



1



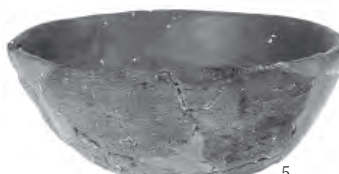
2



3



4



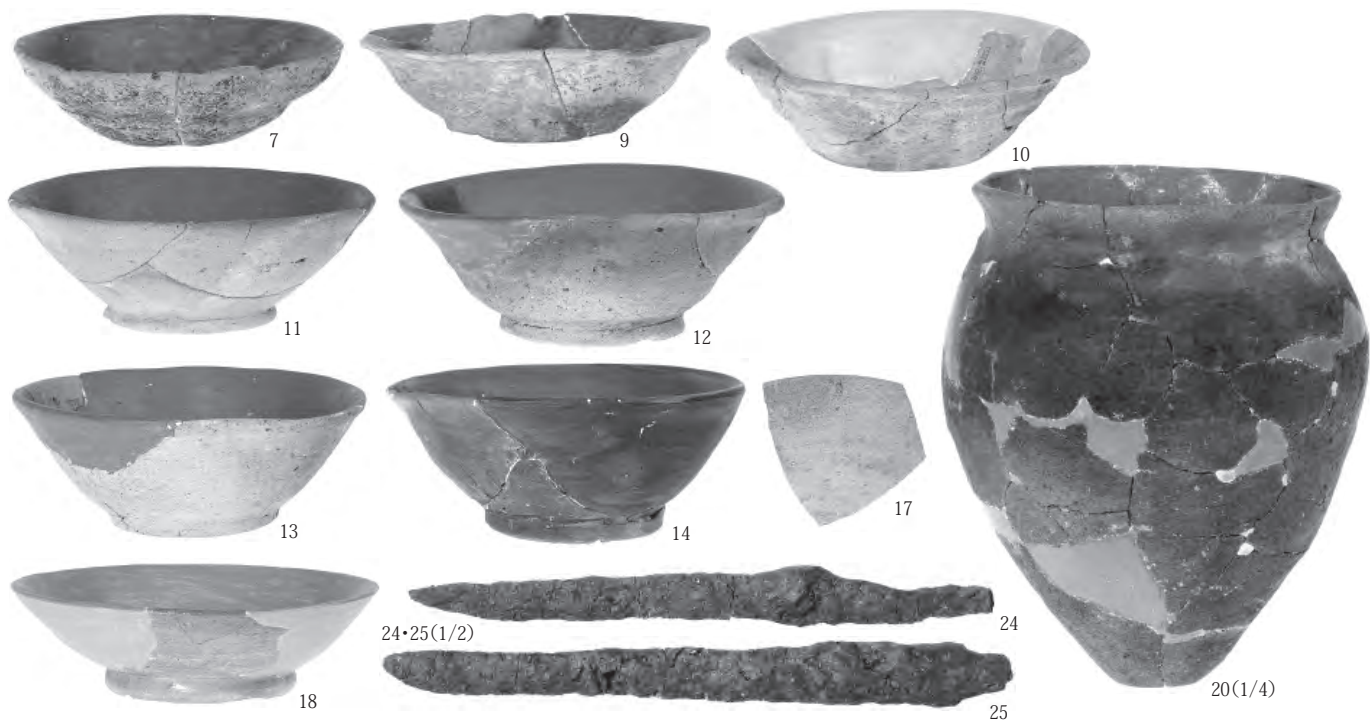
5



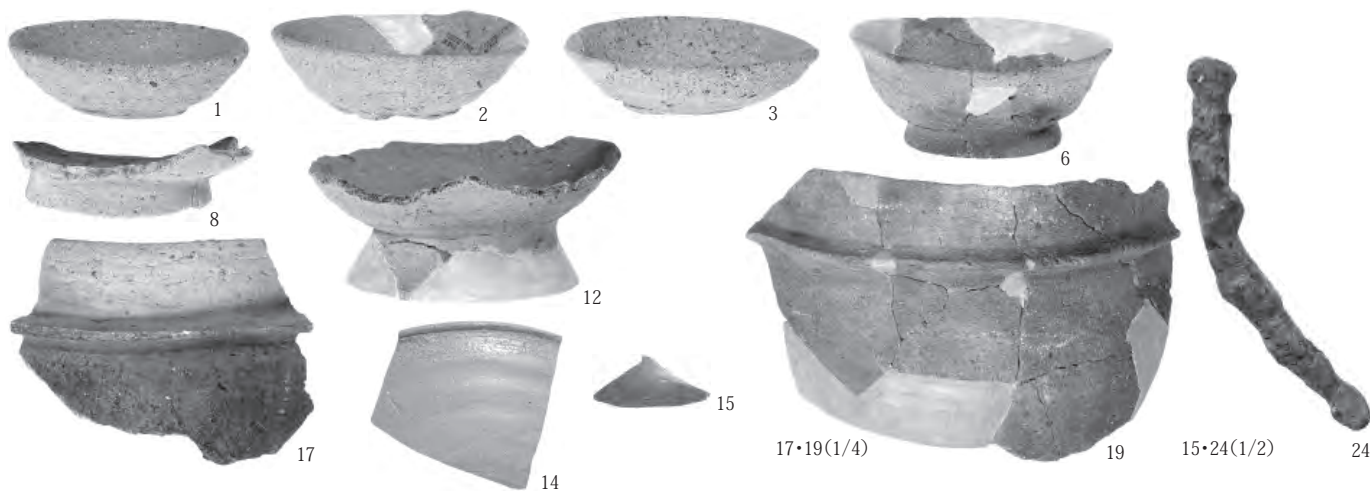
6

128号住居(1)

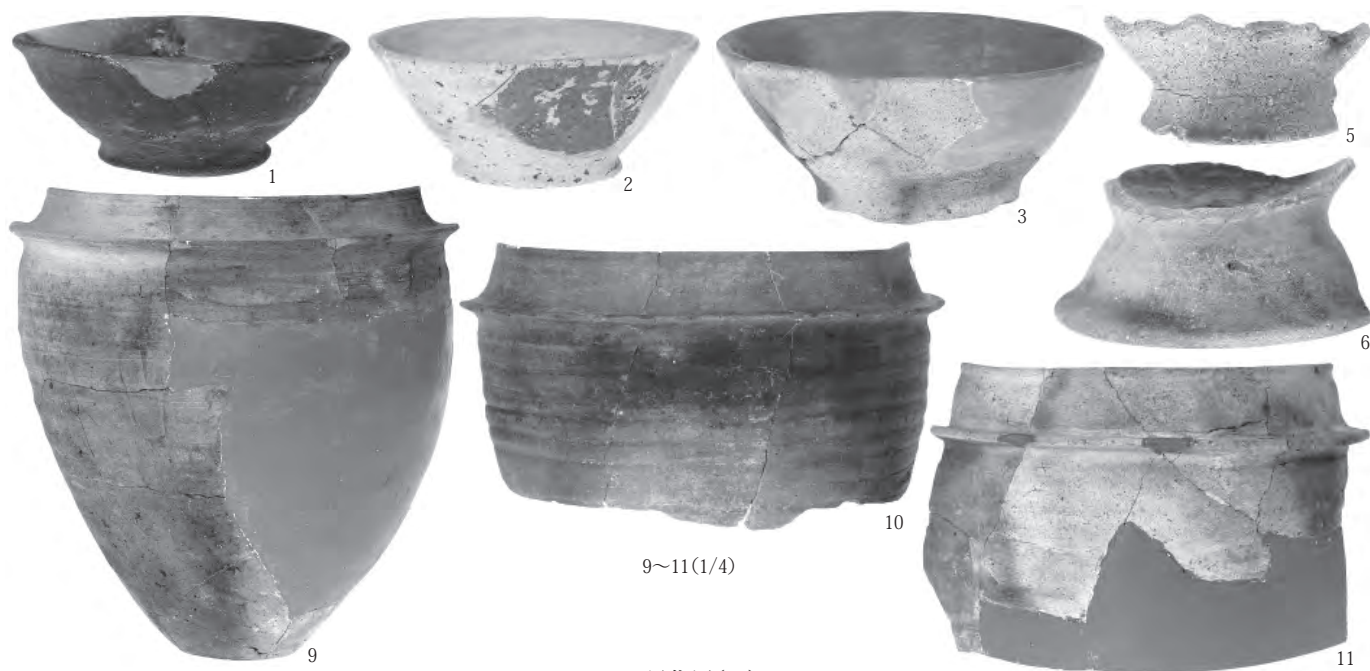




128号住居(2)

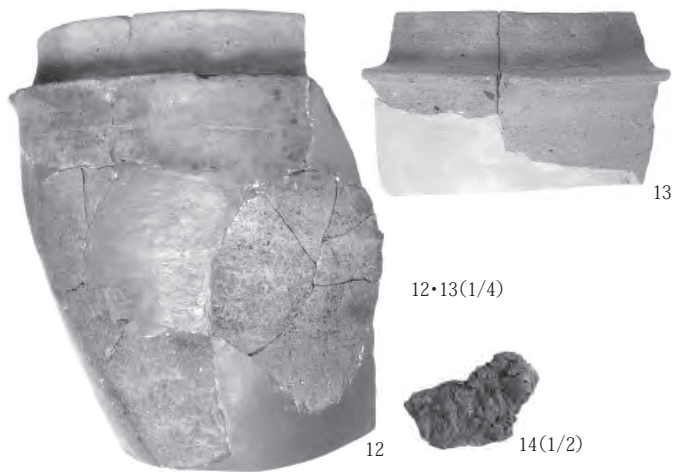


129号住居

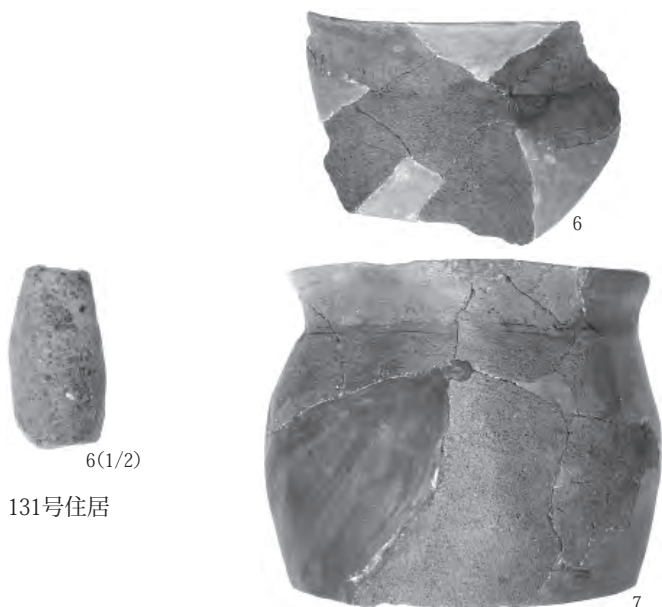


130号住居(1)





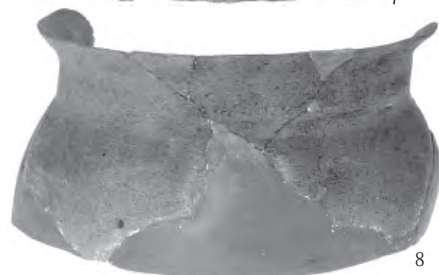
130号住居(2)



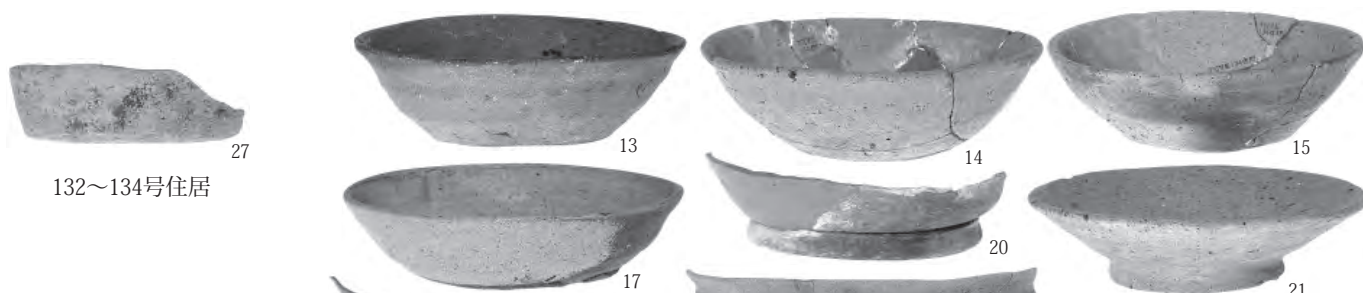
131号住居



136号住居



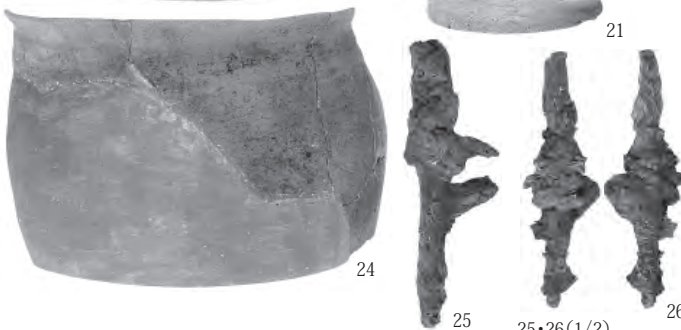
132号住居 6~8(1/4)



132~134号住居



133号住居



134号住居

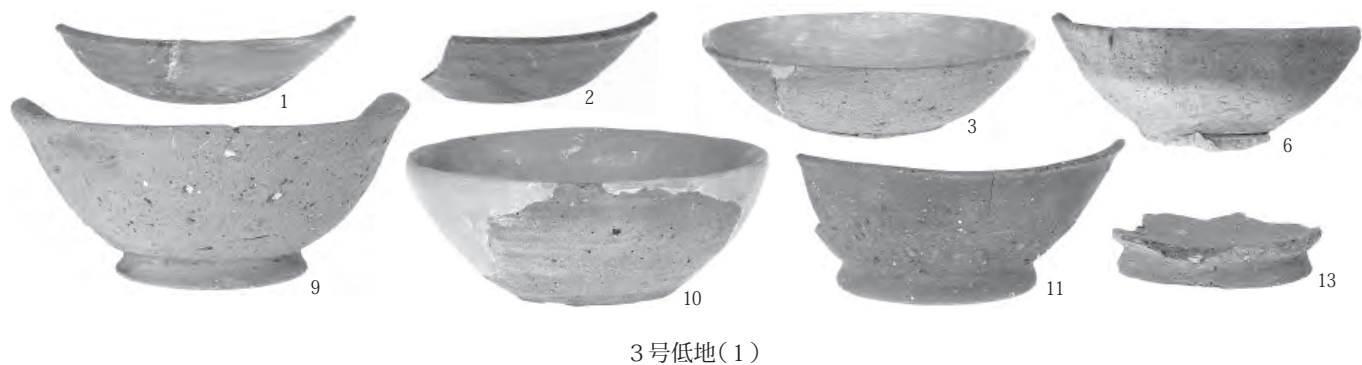
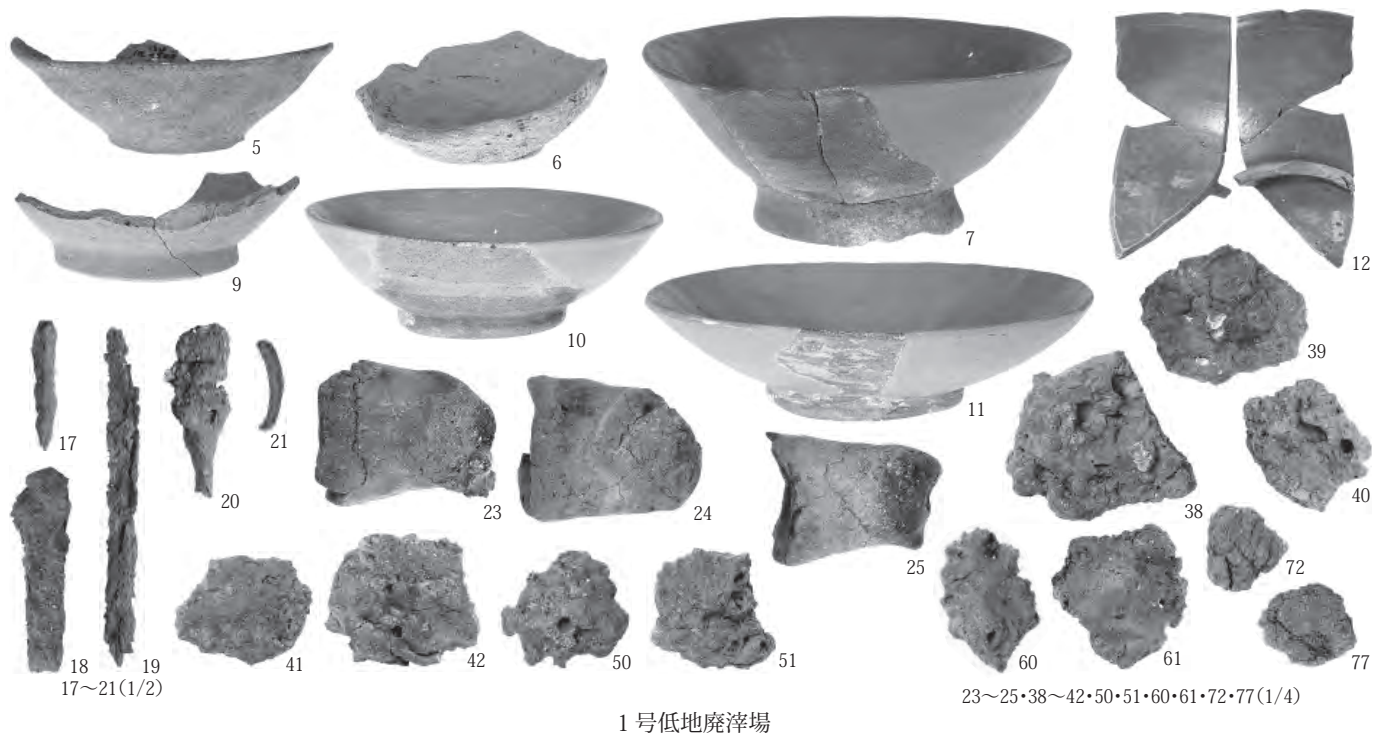
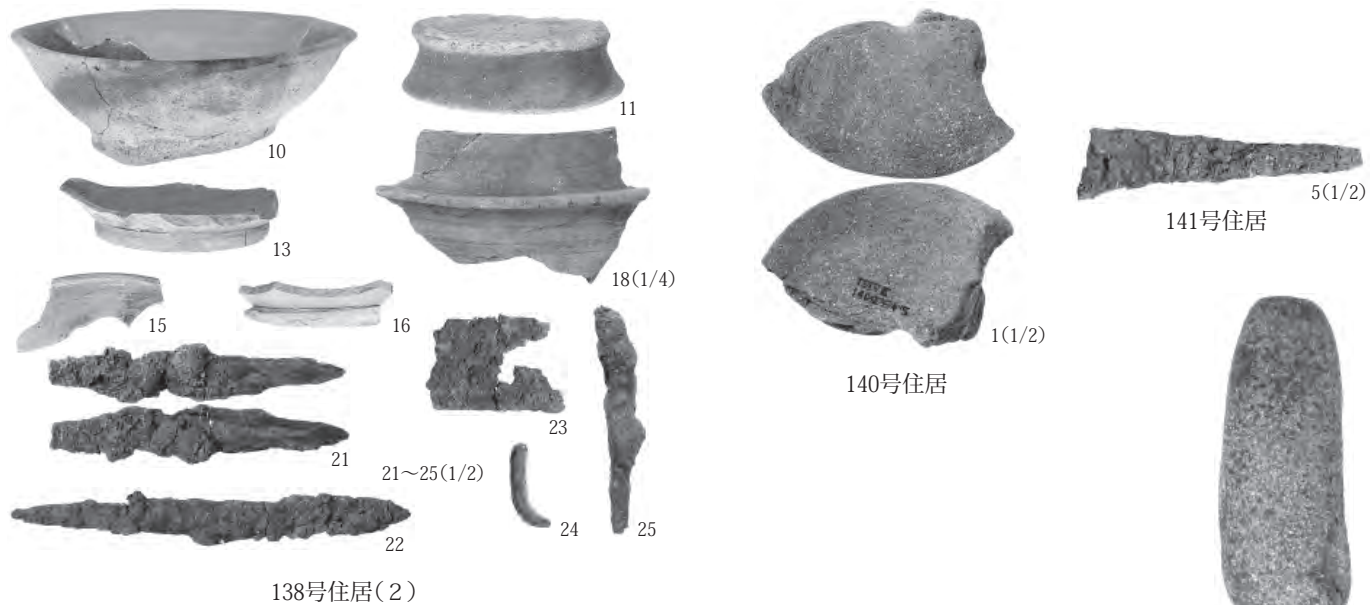


137号住居

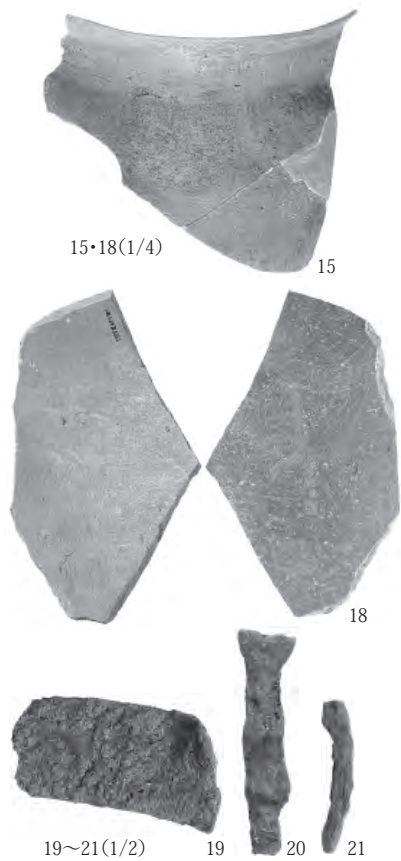


138号住居(1)

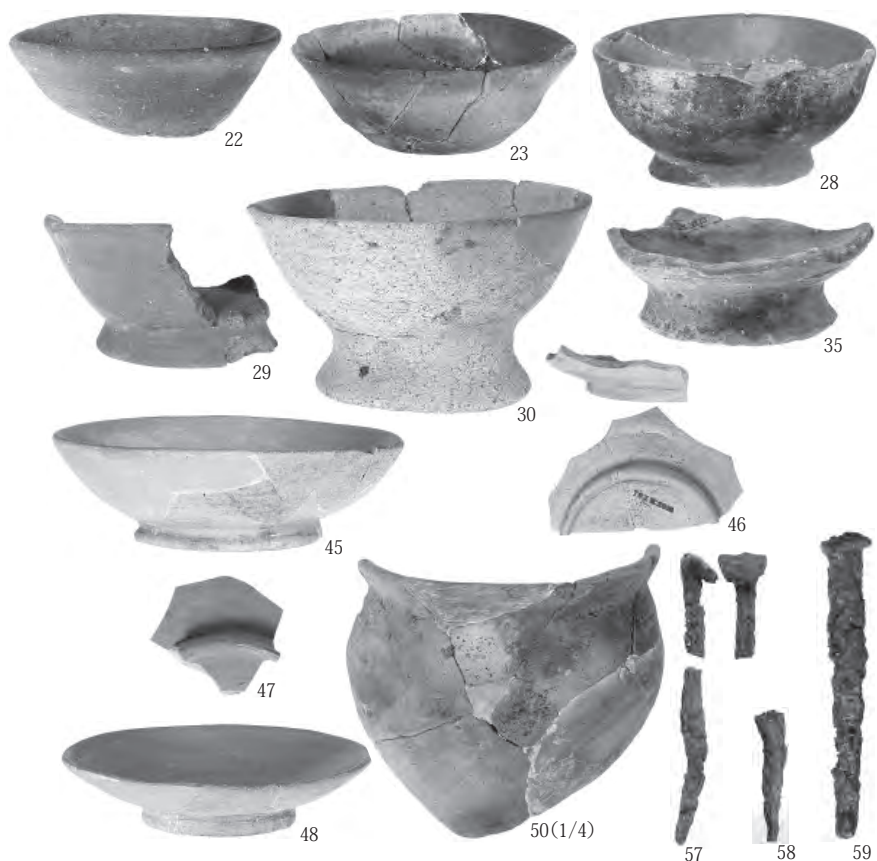






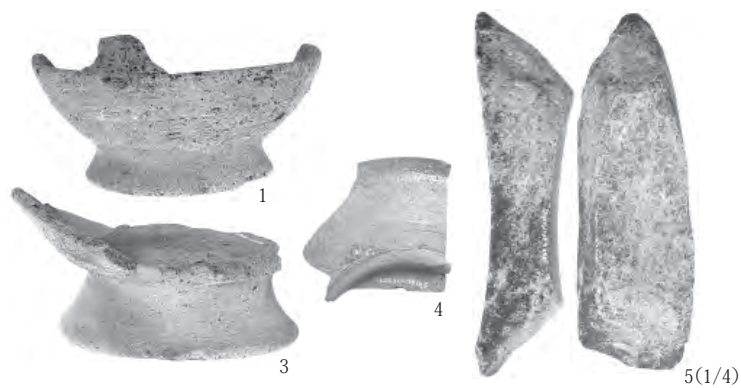


3号低地(2)

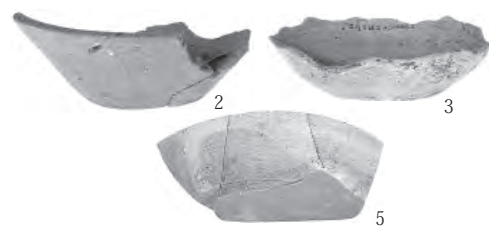


3号道

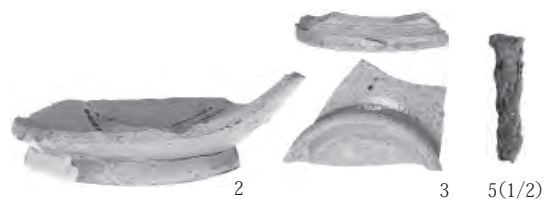
57~59(1/2)



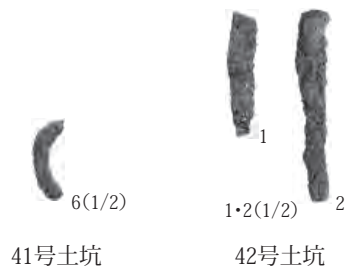
170号土坑(墓坑)



22号土坑

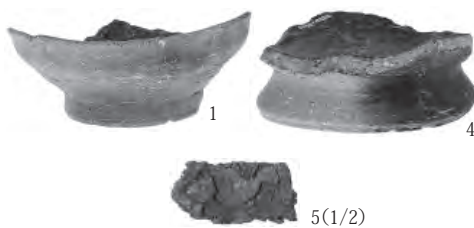


36号土坑



41号土坑

42号土坑



45号土坑



53号土坑

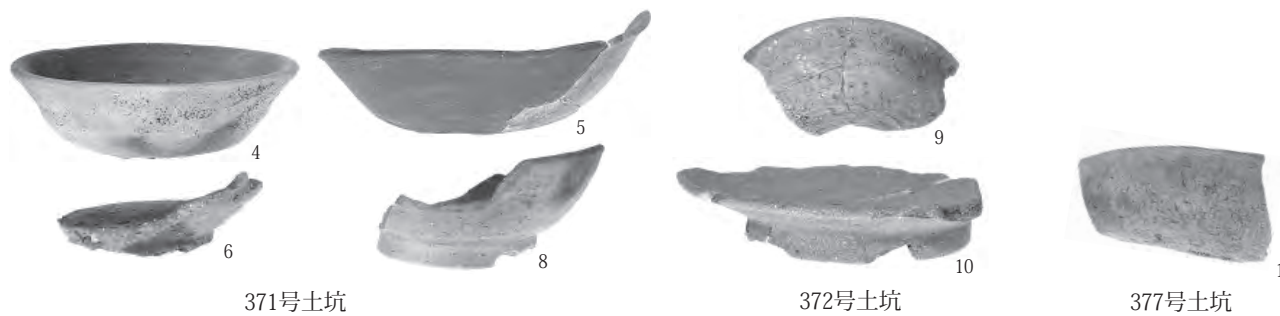
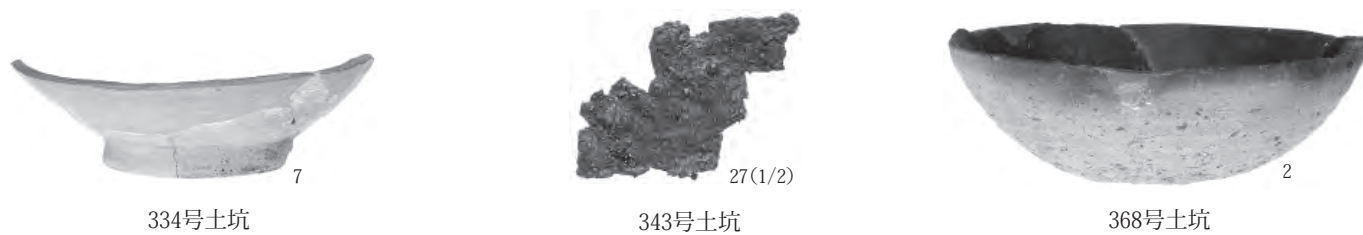
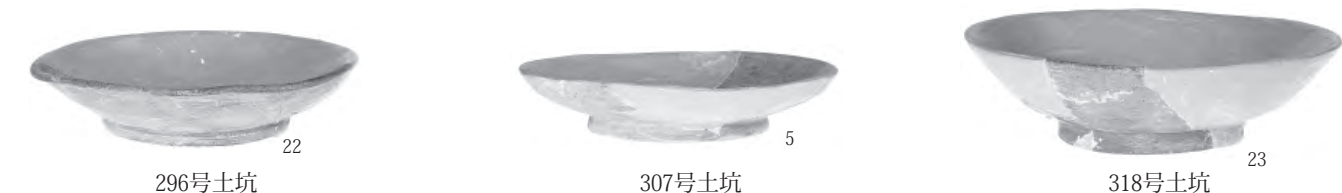
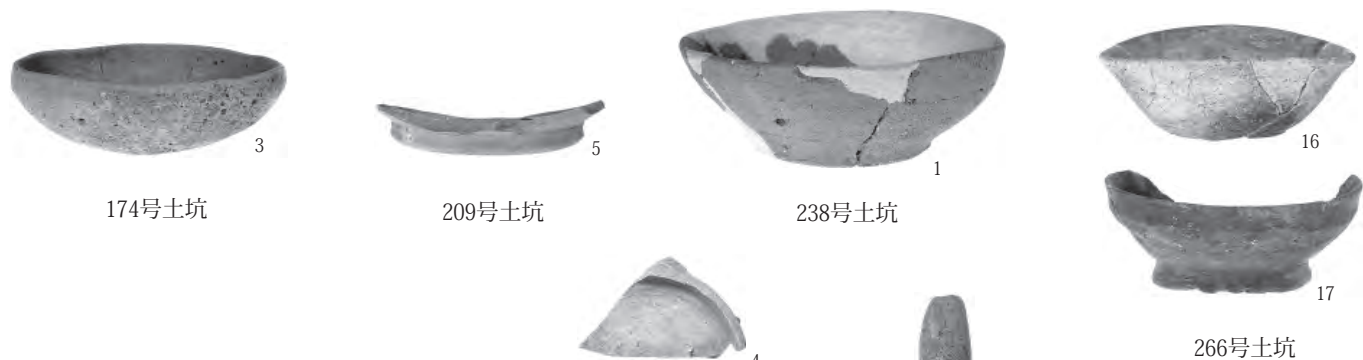
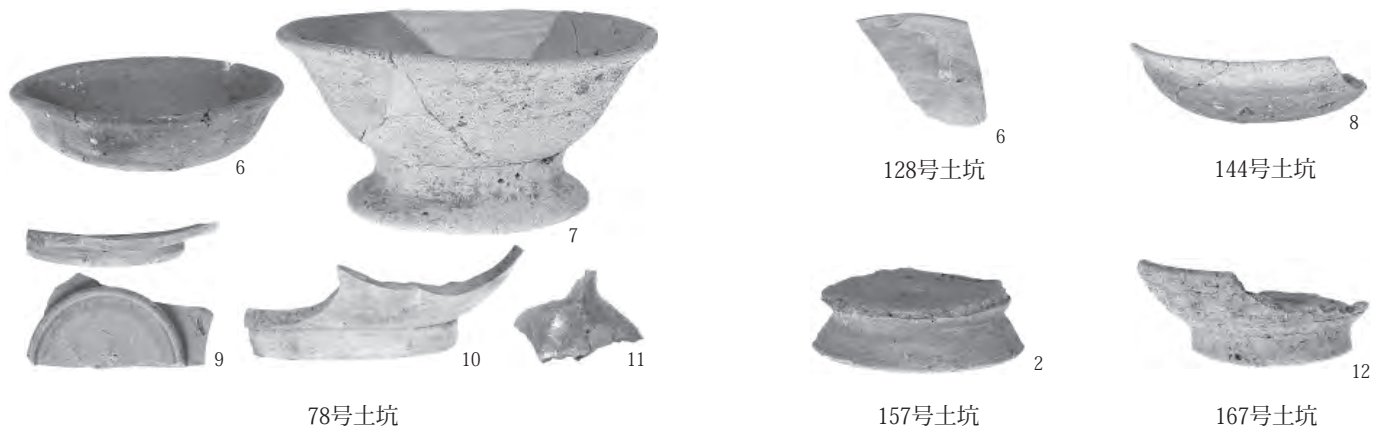
3~5(1/2)



54号土坑

75号土坑

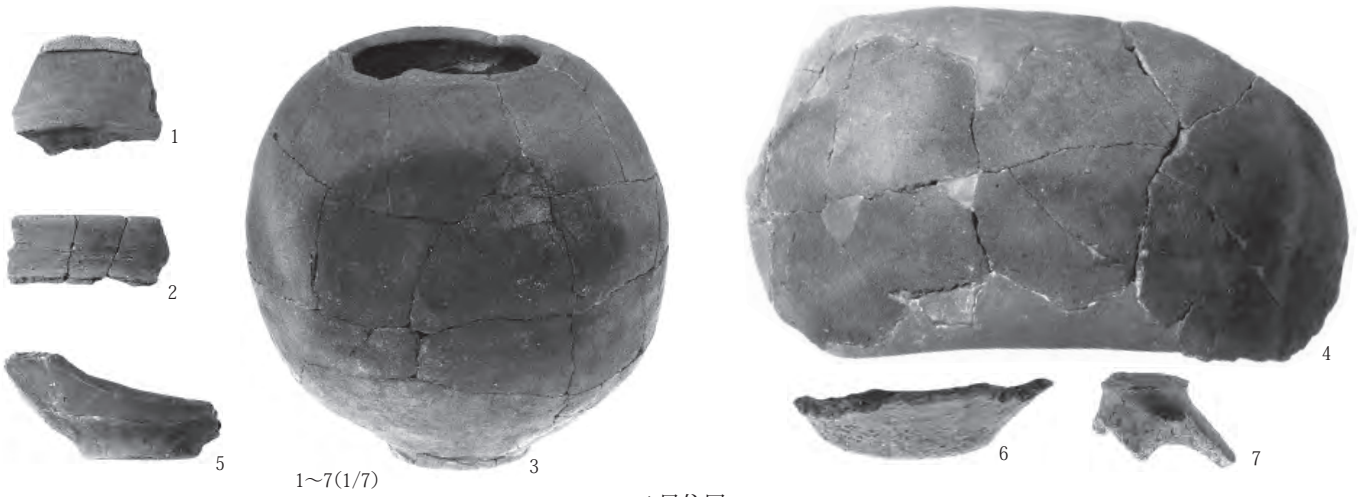




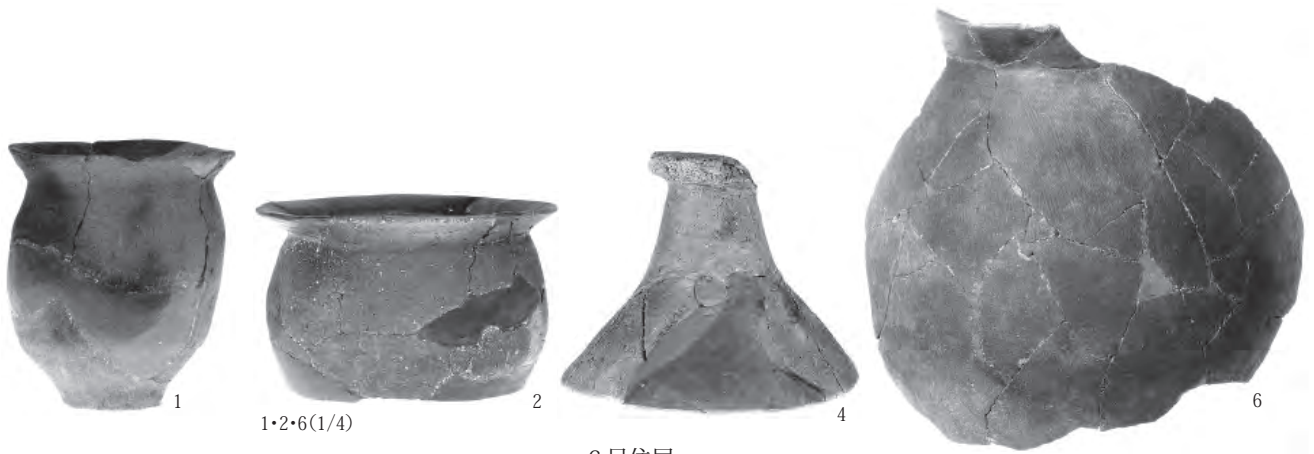


# PL.290

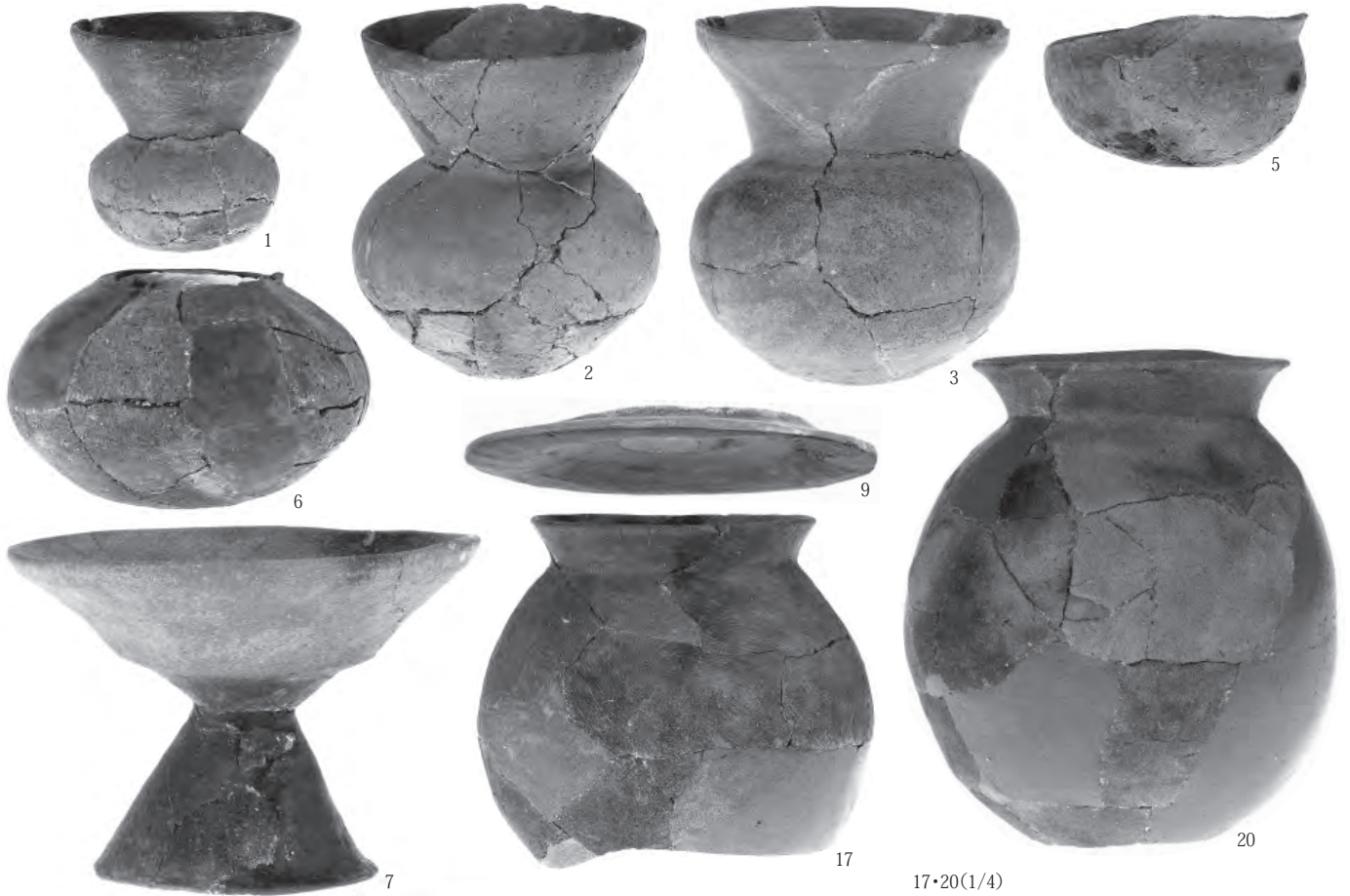
3面I期 田口上田尻遺跡



4号住居

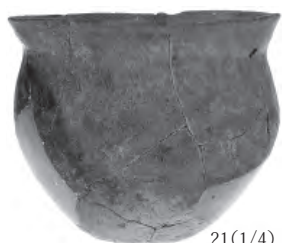


6号住居



9号住居(1)





21(1/4)



27(1/2)

9号住居(2)



1



5(1/4)

13号住居



3



4



5



8



14



9



15



16



17

14~18(1/4)



18

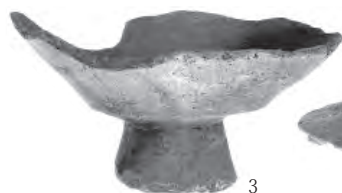
14号住居



1

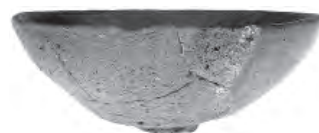


2



3

15号住居



1



2



3



8

3·5·8(1/4)

18号住居



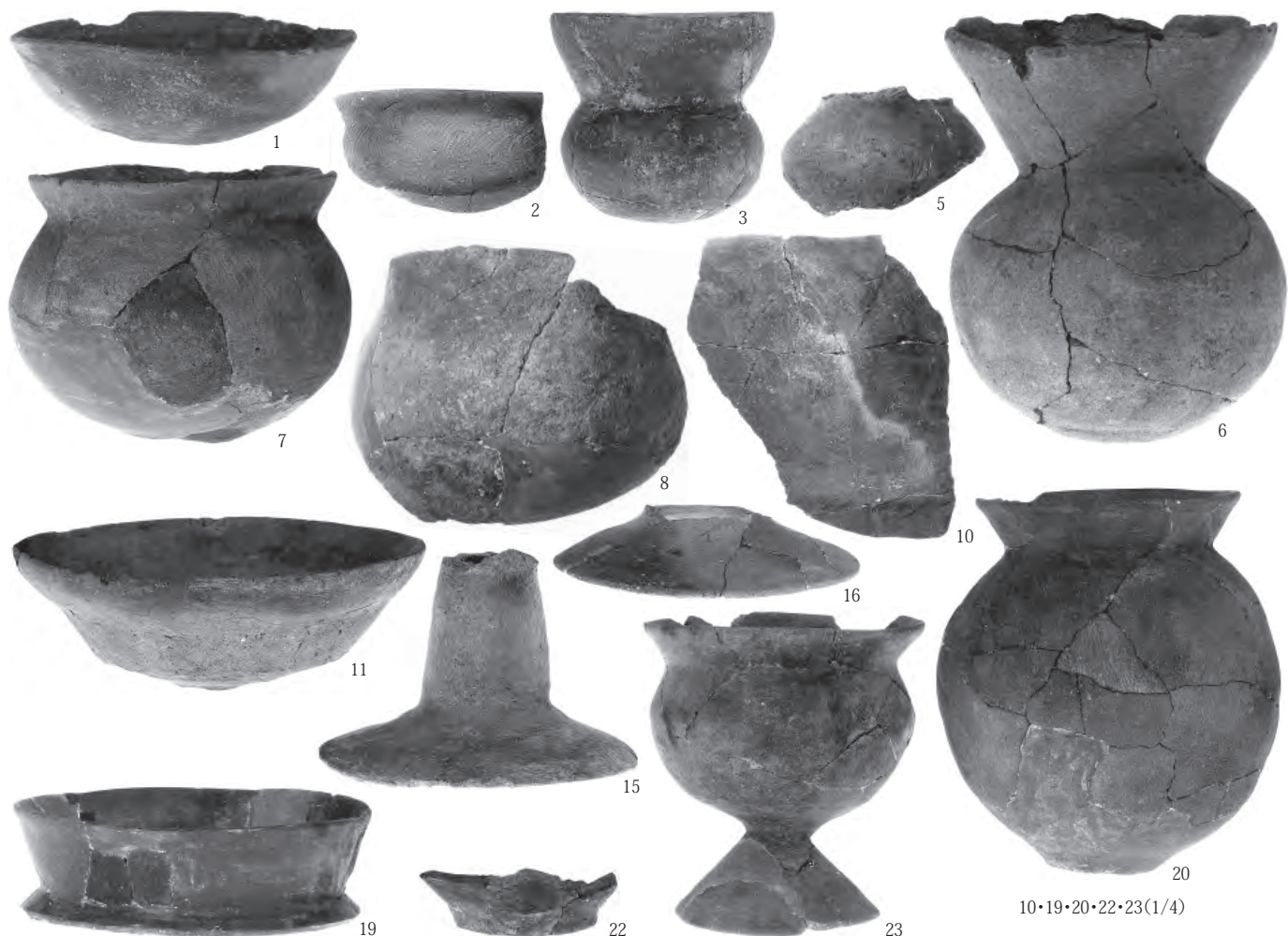
2(1/4)

24号住居



5

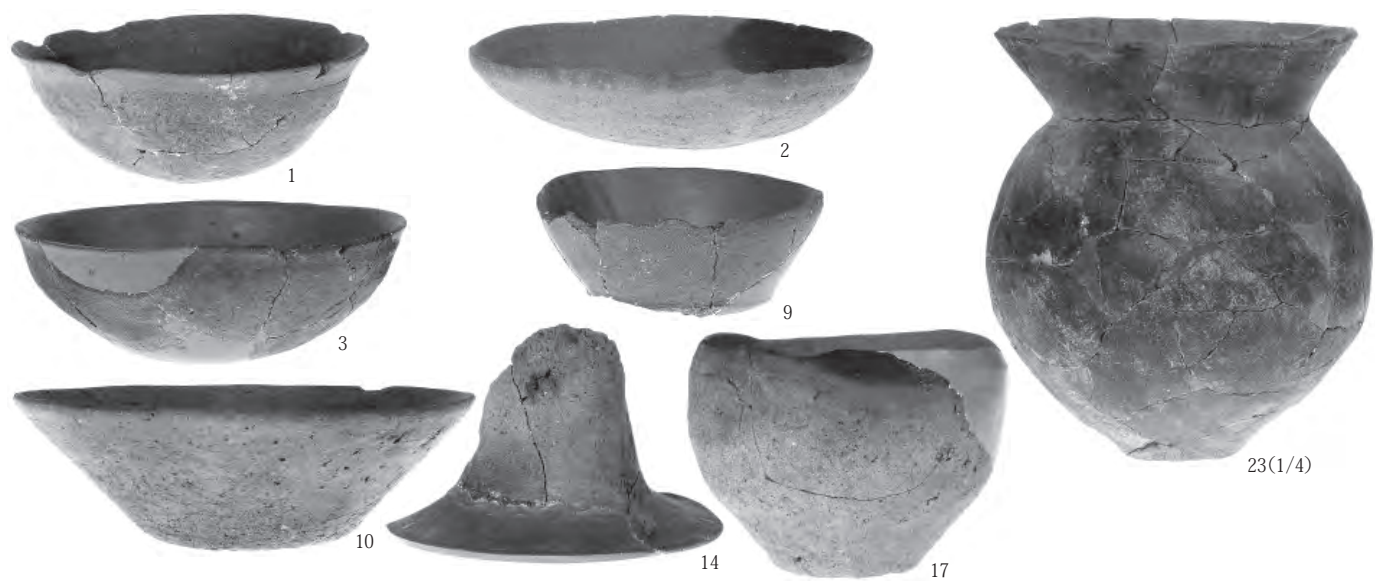




28号住居

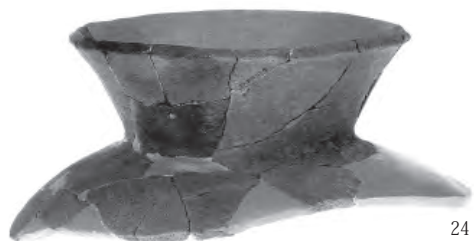


32号住居



33号住居(1)





24



1



3

38号住居

1·3(1/4)



25



1

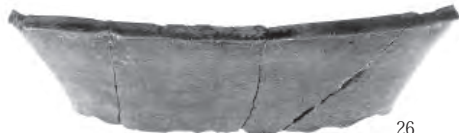


2



4(1/4)

39号住居



26

24~26(1/4)



46(1/2)

33号住居(2)



5



10(1/4)

40号住居



1



2



3

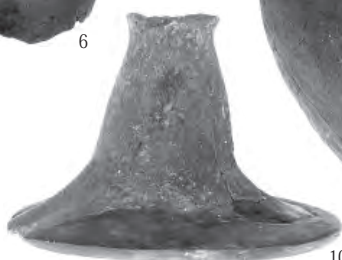


6

6·15(1/4)



7



10



15

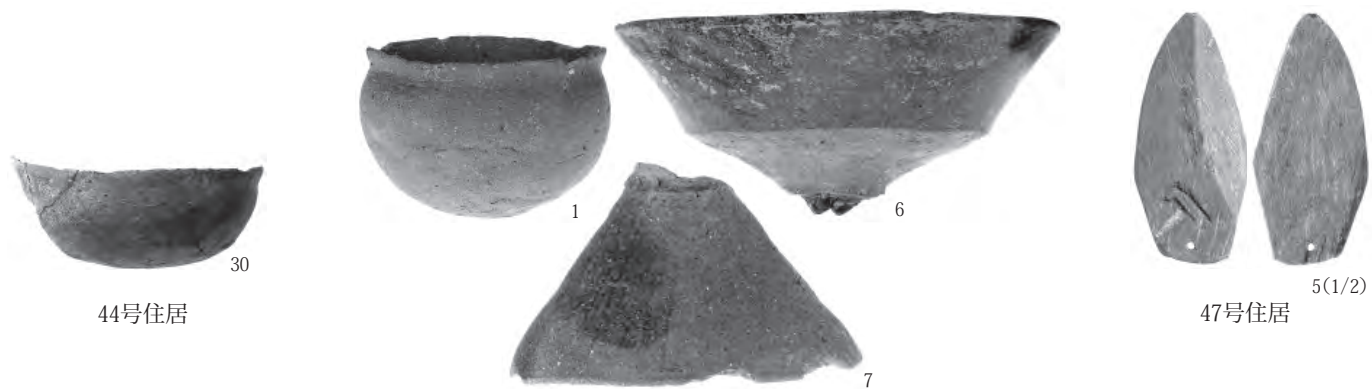
43号住居(1)





43号住居(2)

16・20~22・24・26(1/4)



44号住居

45号住居

47号住居



49号住居

5・6(1/4)





54号住居



55号住居

1・2・4・5(1/4)

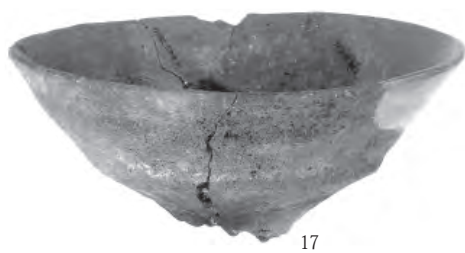


58号住居(1)





18·19(1/4)



58号住居(2)

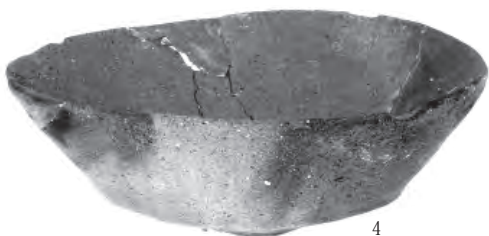


81号住居(1)





3



4



5(1/4)

81号住居(2)



3

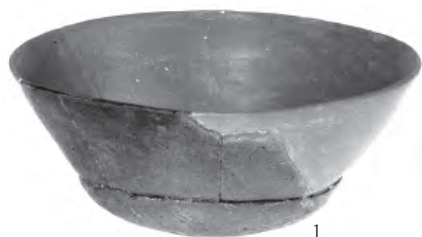


4

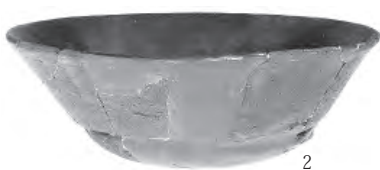


8(1/4)

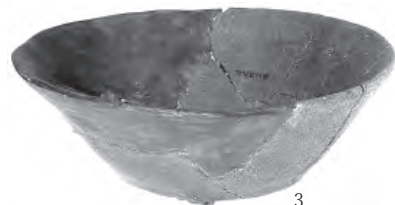
89号住居



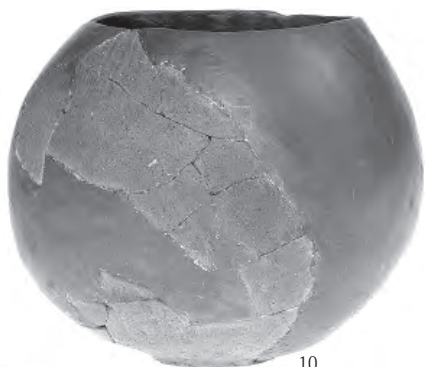
1



2



3



10

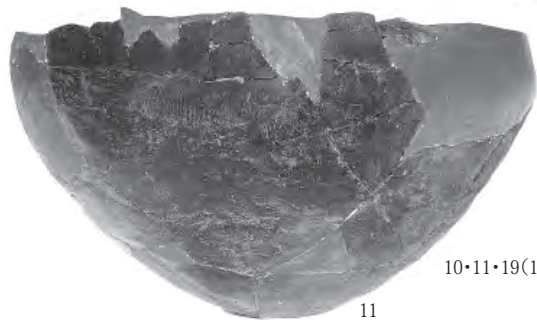


5



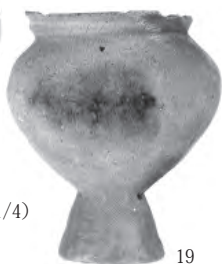
9(1/2)

93号住居



11

10·11·19(1/4)



19

91号住居



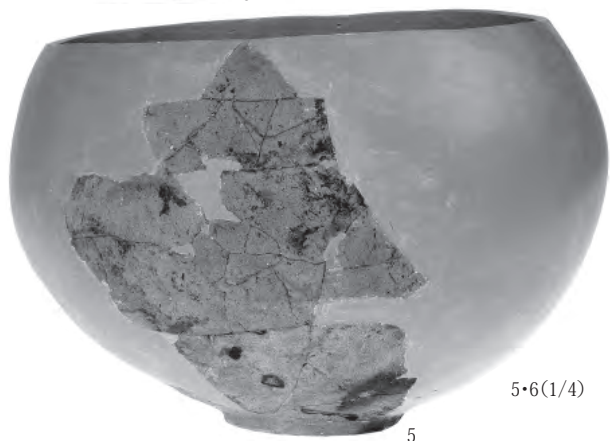
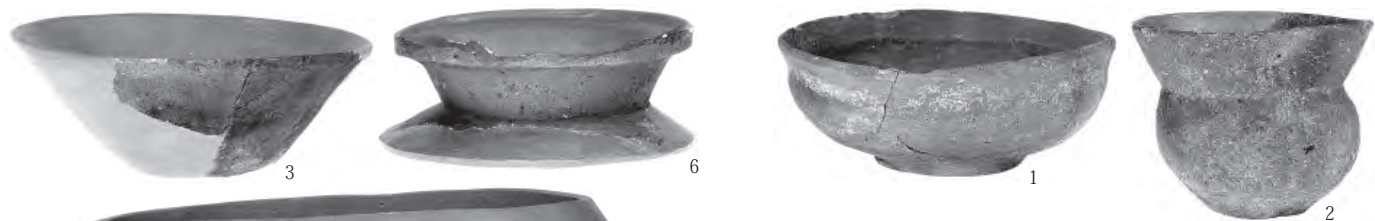
1



2

100号住居(1)





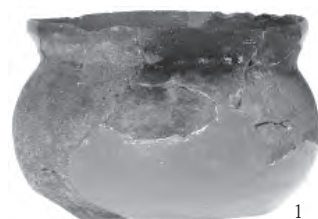
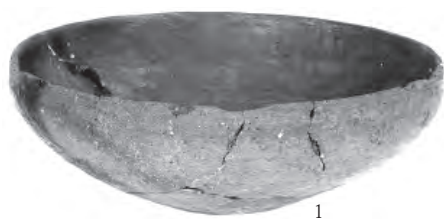
100号住居(2)



114号住居



106号住居



122号住居

123号住居(1)





123号住居(2)



2·3(1/4)

129号住居



133号住居



140号住居

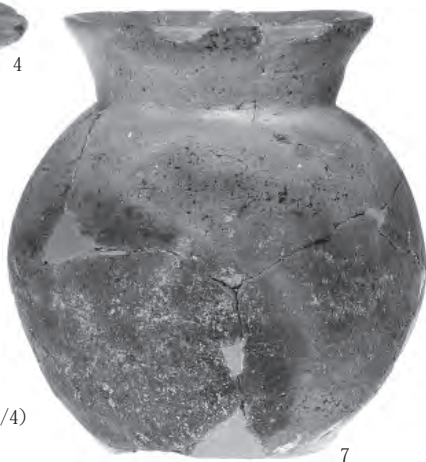


151号住居



5~7(1/4)

149号住居



155号住居

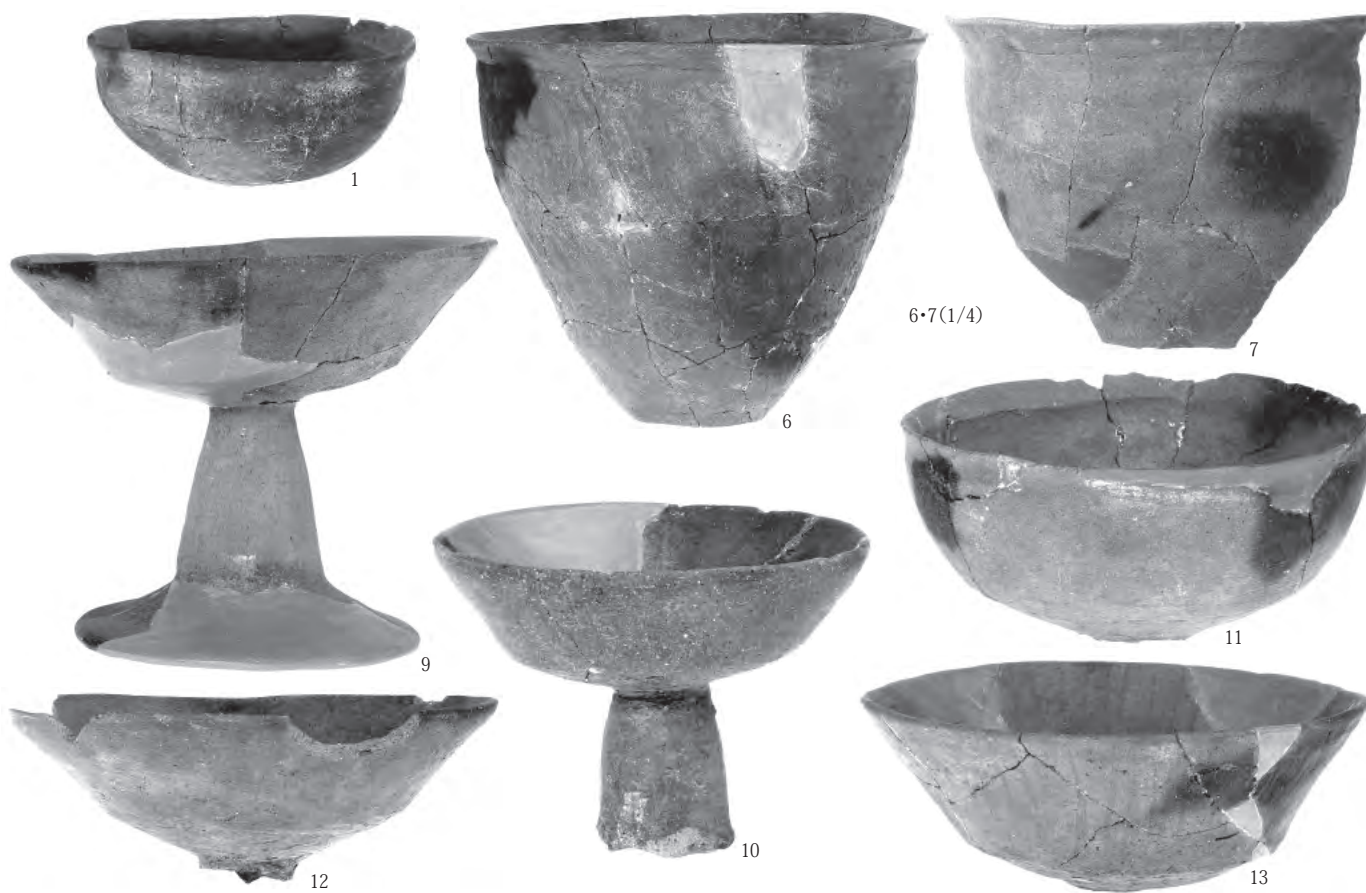




159号住居



165号住居



171号住居(1)





14



15



5(1/4)

177号住居



16

171号住居(2)



17(1/4)



4

426号土坑

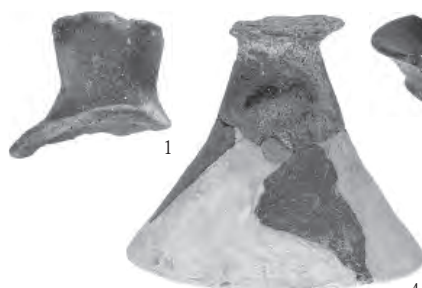
3面I期 田口下田尻遺跡



1



5



6

6・14・17(1/4)



13



14

13~16(1/4)



15



16

6号住居



14

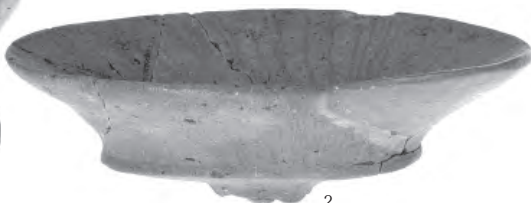
21号住居



17



1



2

32号住居



4

4・5(1/4)



5





3  
3~5(1/4)

4

5

65号住居



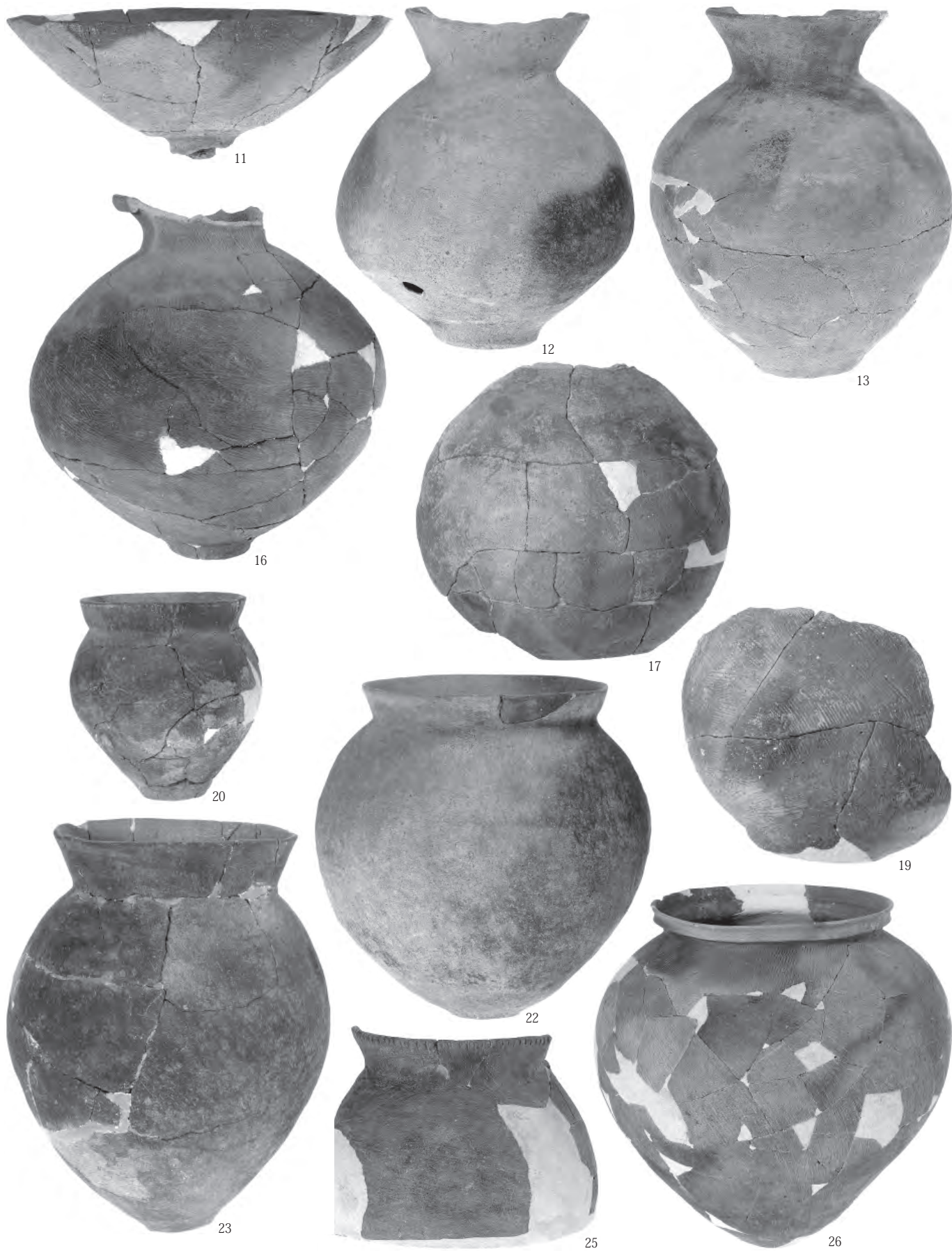
12•14~22(1/4)

66号住居



67号住居(1)





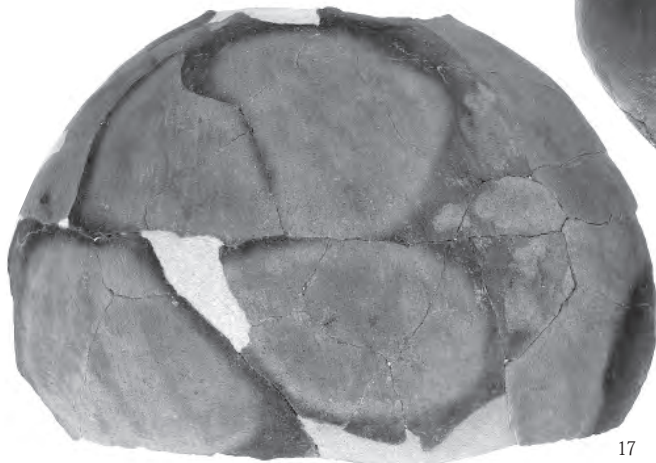
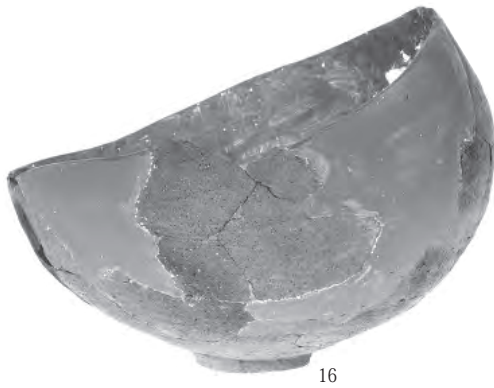
12·13·16·17·19·20·22·23·25·26(1/4)

67号住居(2)



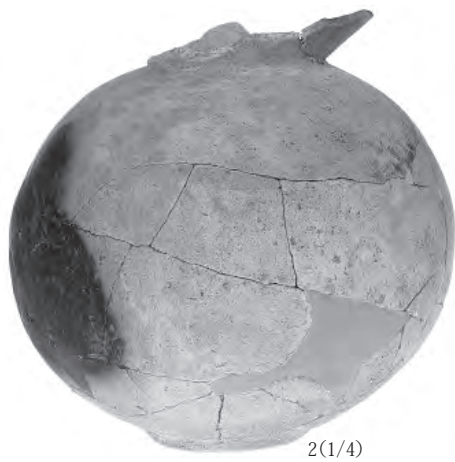


69号住居

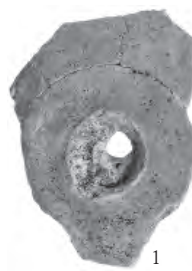


13~18·26·31(1/4)

71号住居



72号住居



4~6(1/4)

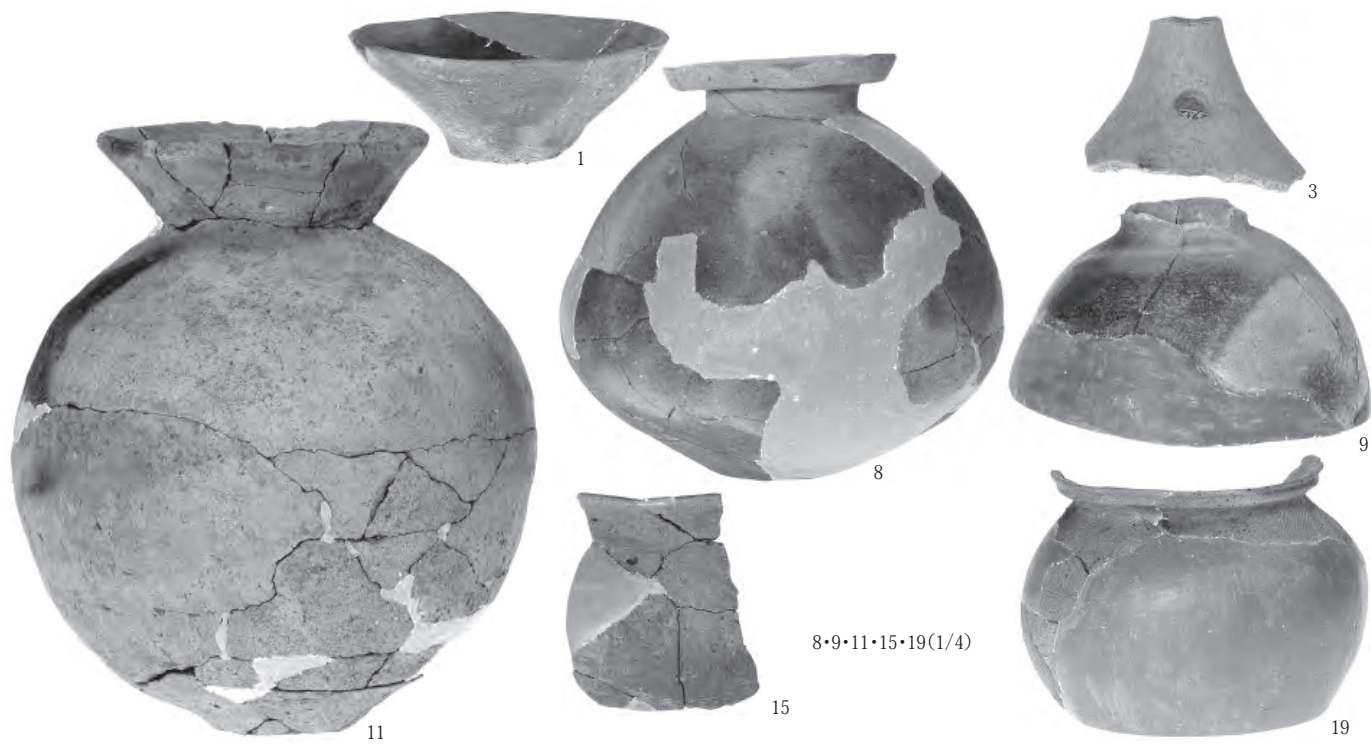


73号住居

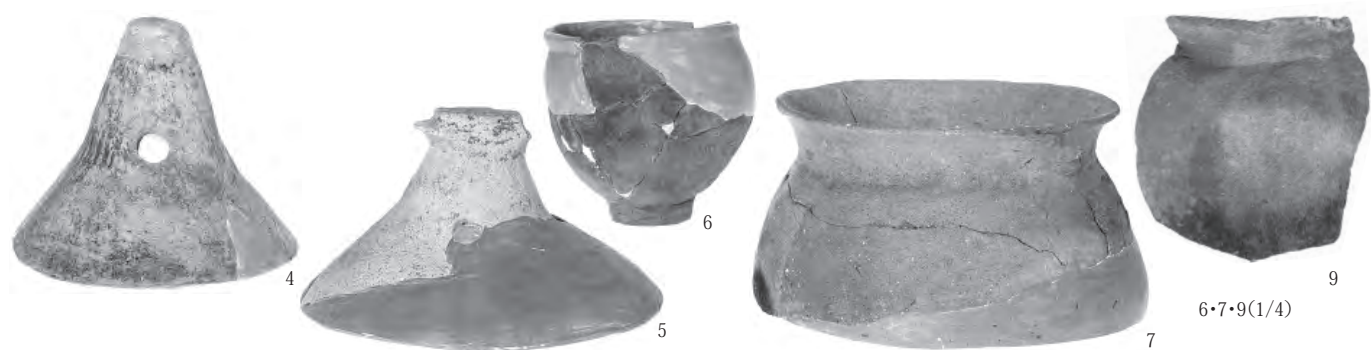


76号住居

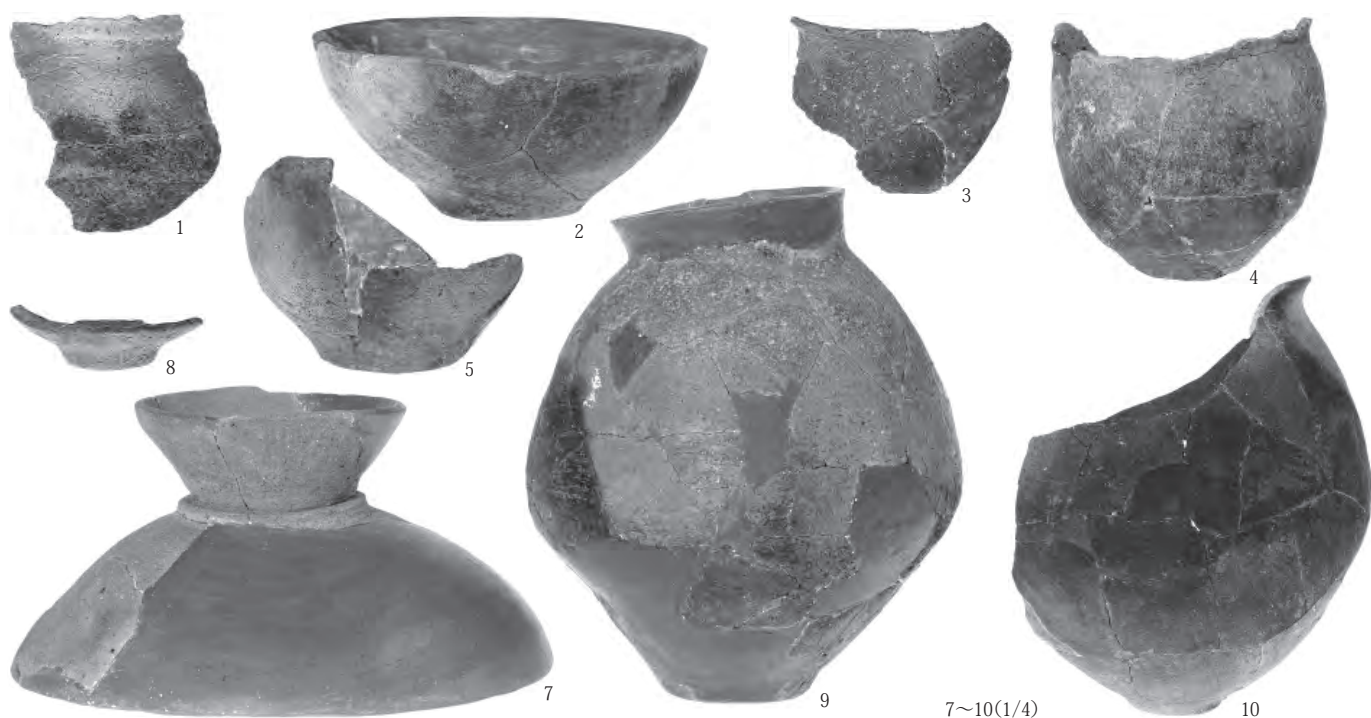




105号住居

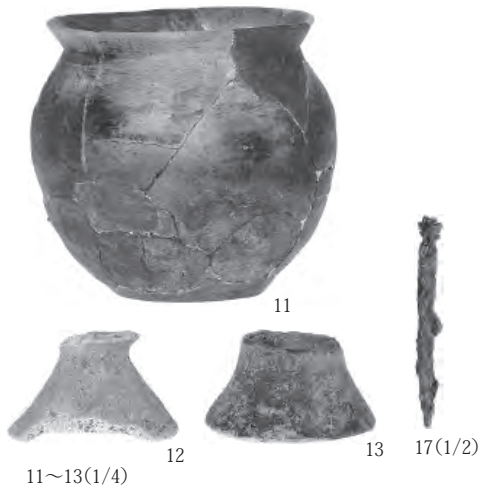


116号住居

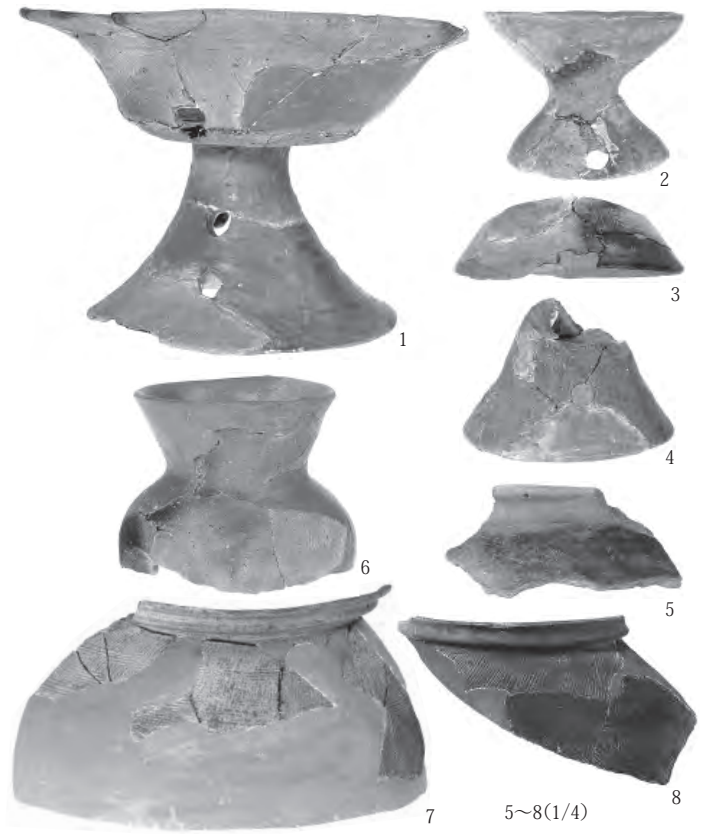


119号住居(1)

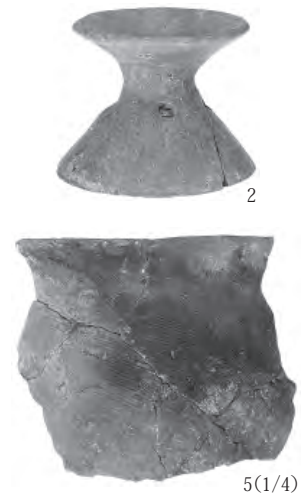




119号住居(2)



121号住居



125号住居



3~6(1/4)



122号住居



139号住居





1



2

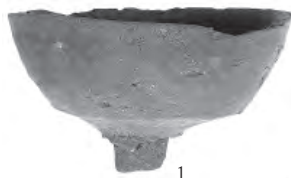


4

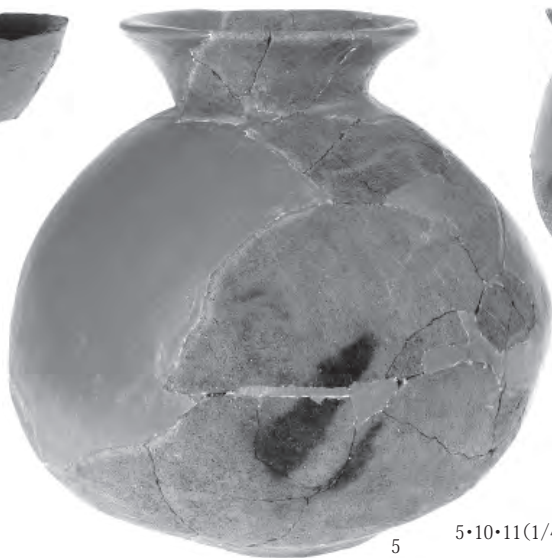


5(1/4)

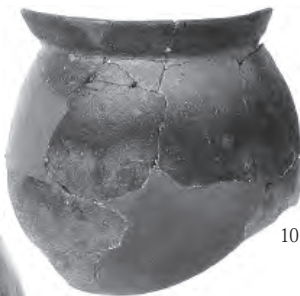
30号沟



1



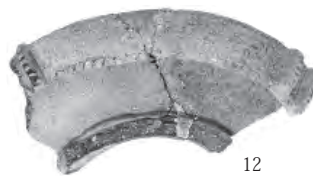
5



10



11



12



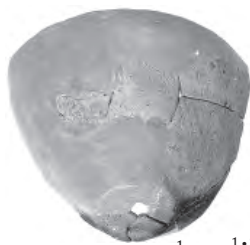
13·14(1/2)

13

14

5·10·11(1/4)

1号低地



1



1·7(1/4)



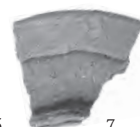
3



4



5



7

7b·7号畑



2



4



5



5

2·4·5(1/4)

193号土坑



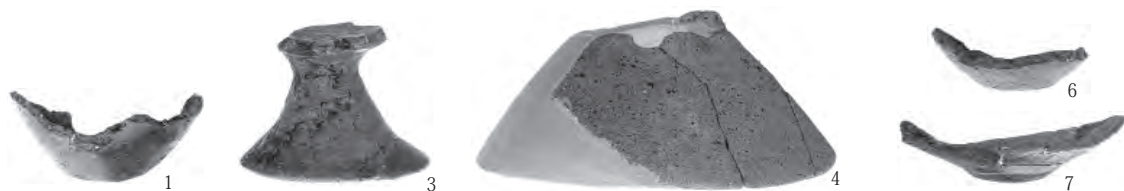
6

5·6(1/4)

230号土坑

# PL.308

3面II期 田口上田尻遺跡

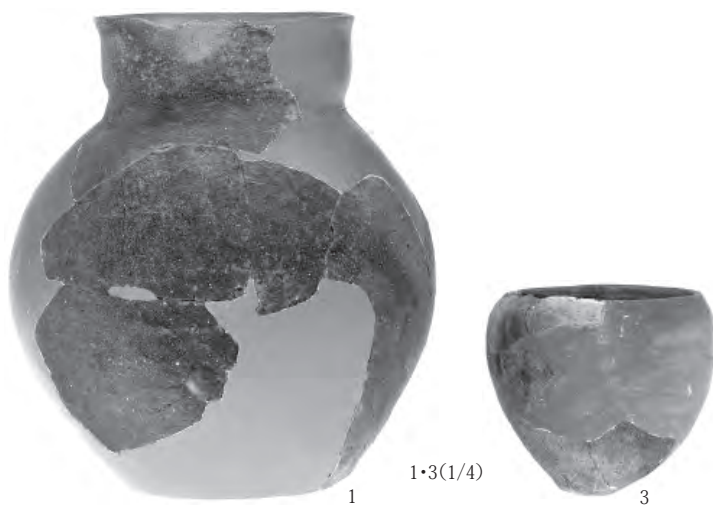


1号住居

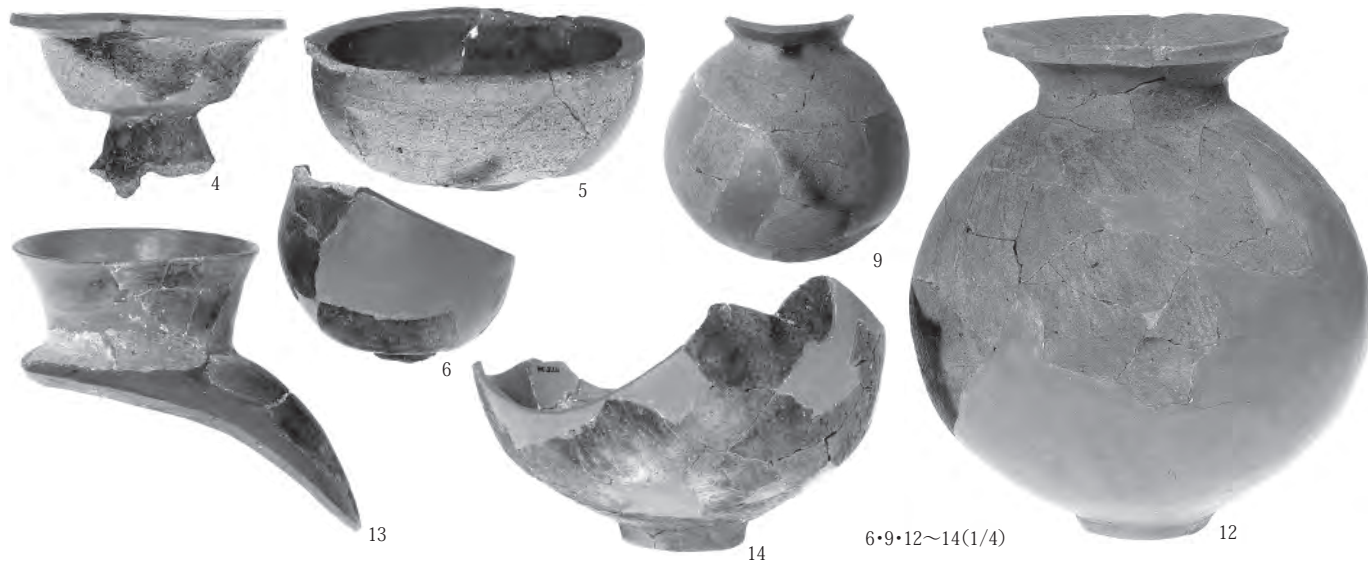


7号住居

10号住居



104号住居



134号住居(1)





15~18•20•25•33•35~37(1/4)

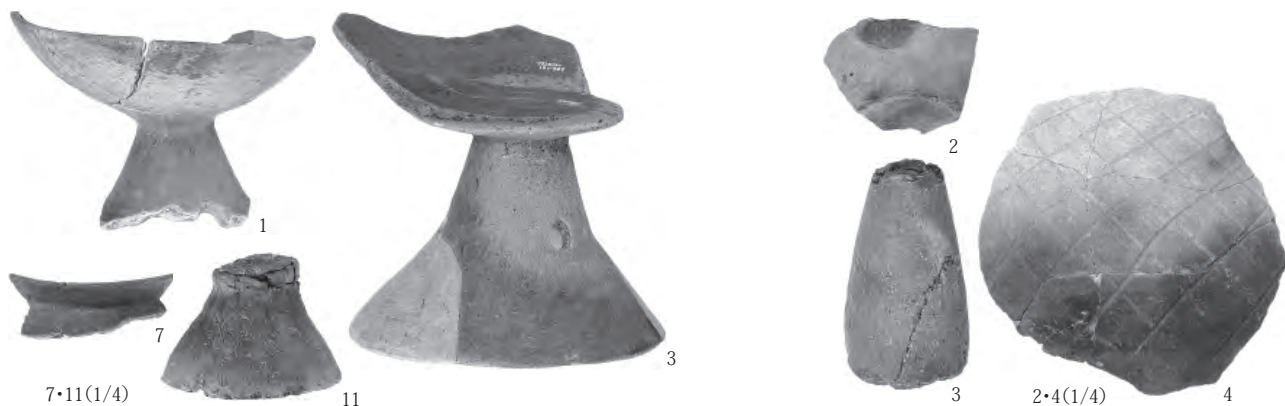
134号住居(2)



2•3•6•11(1/4)

164号住居

3面II期 田口下田尻遺跡



7•11(1/4)

13号住居

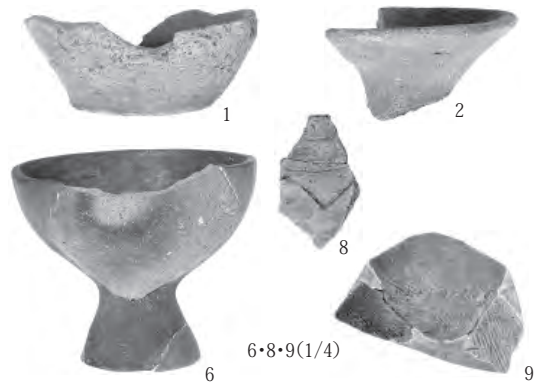
51号住居



64号住居

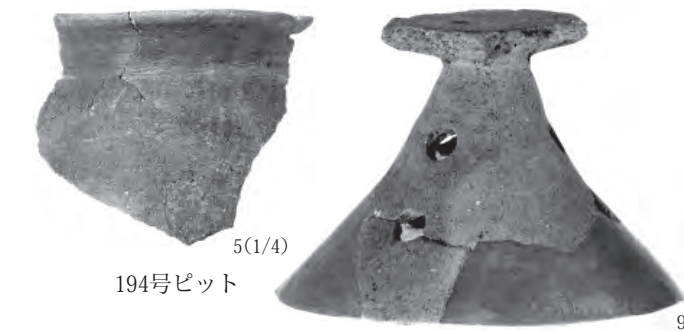


104号住居



120号住居

ピット



194号ピット

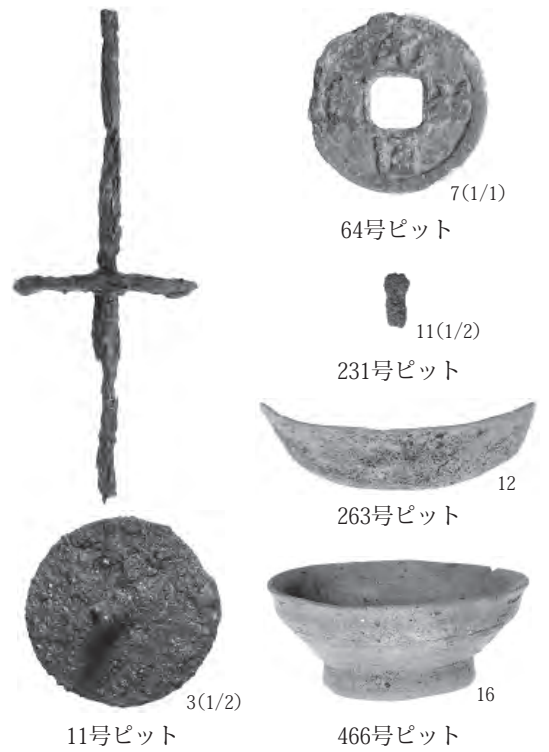
289号ピット



245号ピット

318号ピット

田口上田尻遺跡ピット



7(1/1)

64号ピット

11(1/2)

231号ピット

12

263号ピット

3(1/2)

11号ピット

16

466号ピット

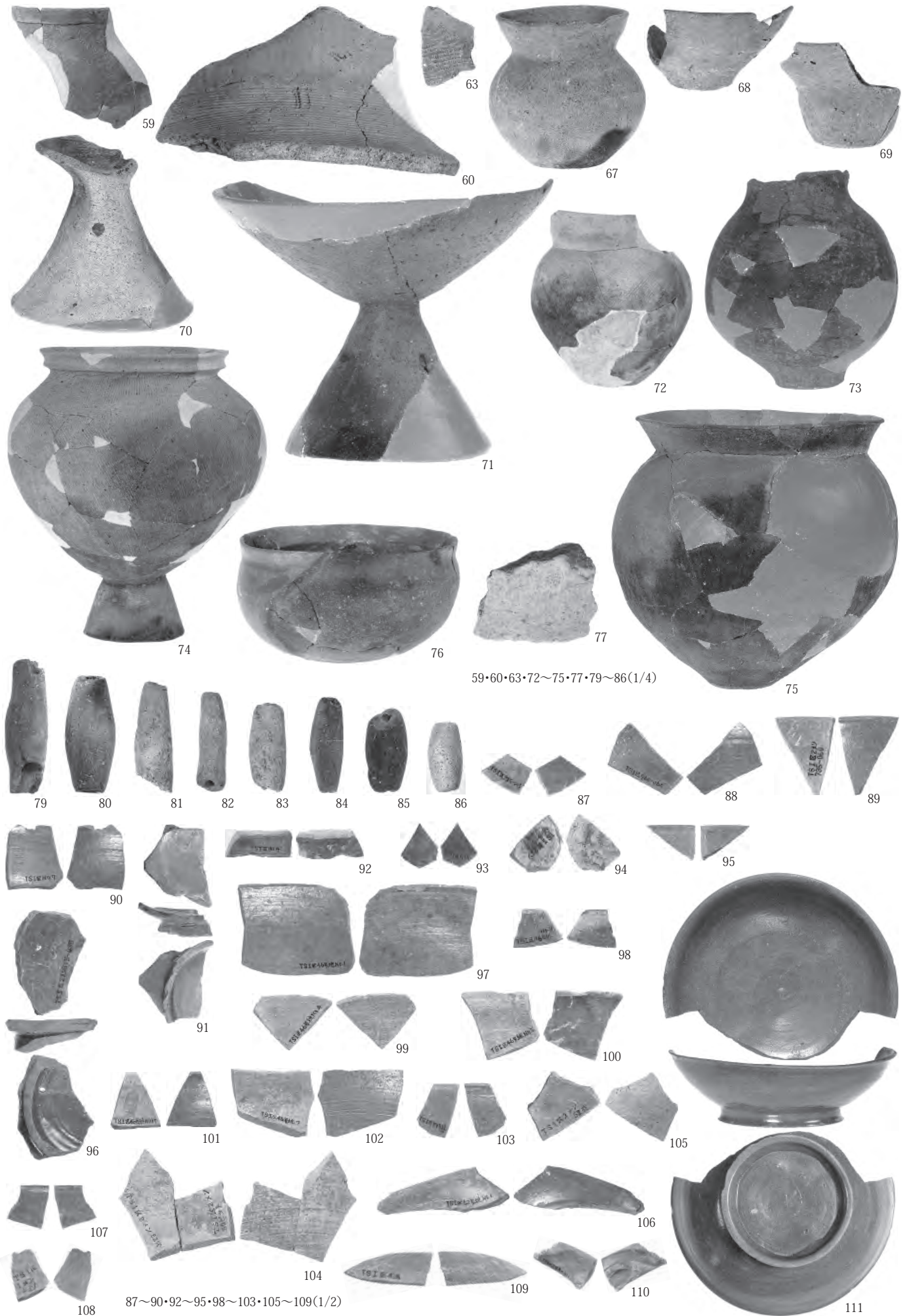
田口下田尻遺跡ピット



遺構外

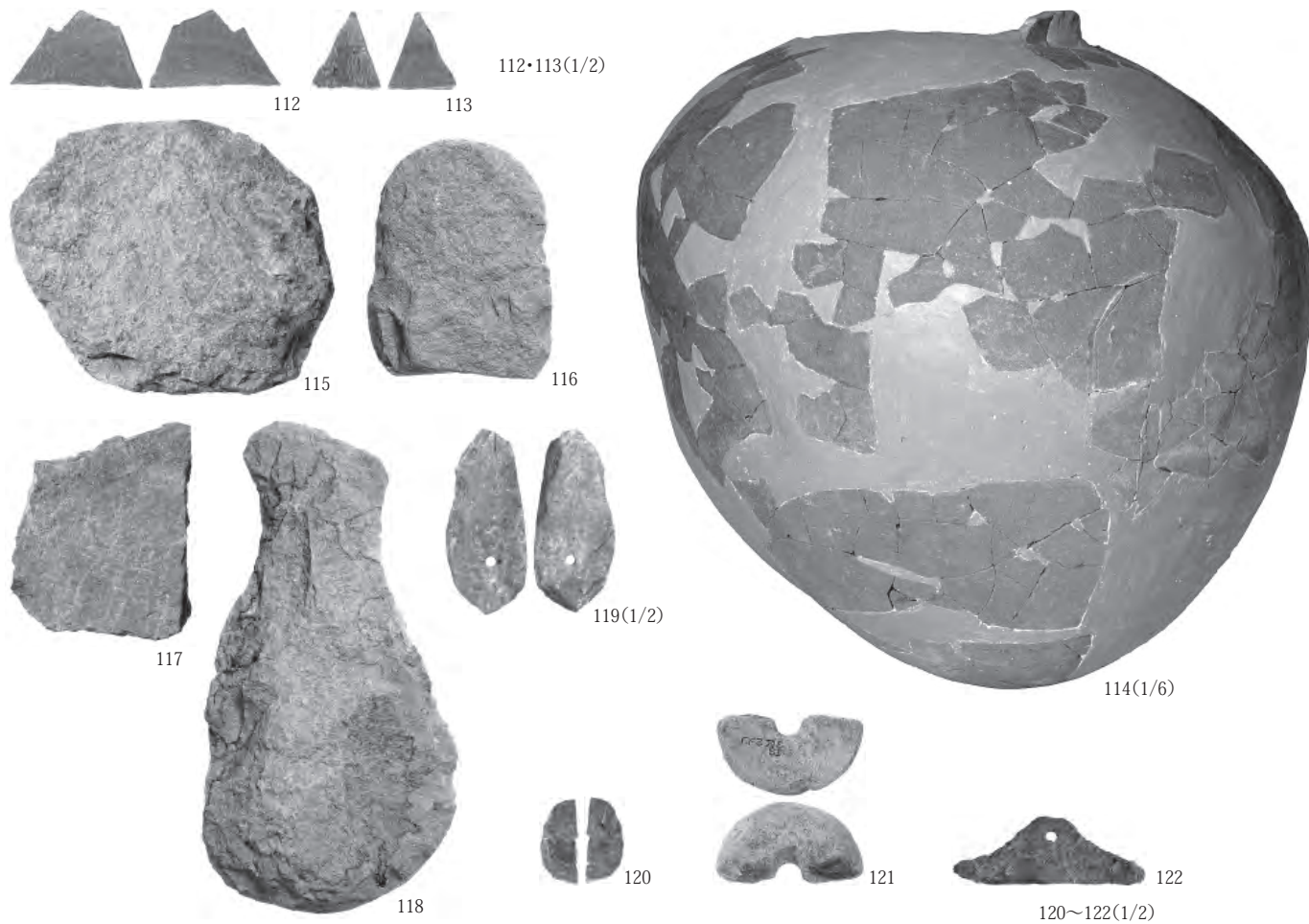


田口上田尻遺跡遺構外



田口下田尻遺跡遺構外(1)





田口下田尻遺跡遺構外(2)

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第527集

## 田口上田尻遺跡・田口下田尻遺跡

—遺物観察表・写真図版編—

一般国道17号(前橋渋川バイパス)改築工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書第2集

---

平成24(2012)年3月9日 印刷

平成24(2012)年3月16日 発行

編集・発行／財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2

電話(0279)52-2511(代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／上毛新聞社事業局出版部

---



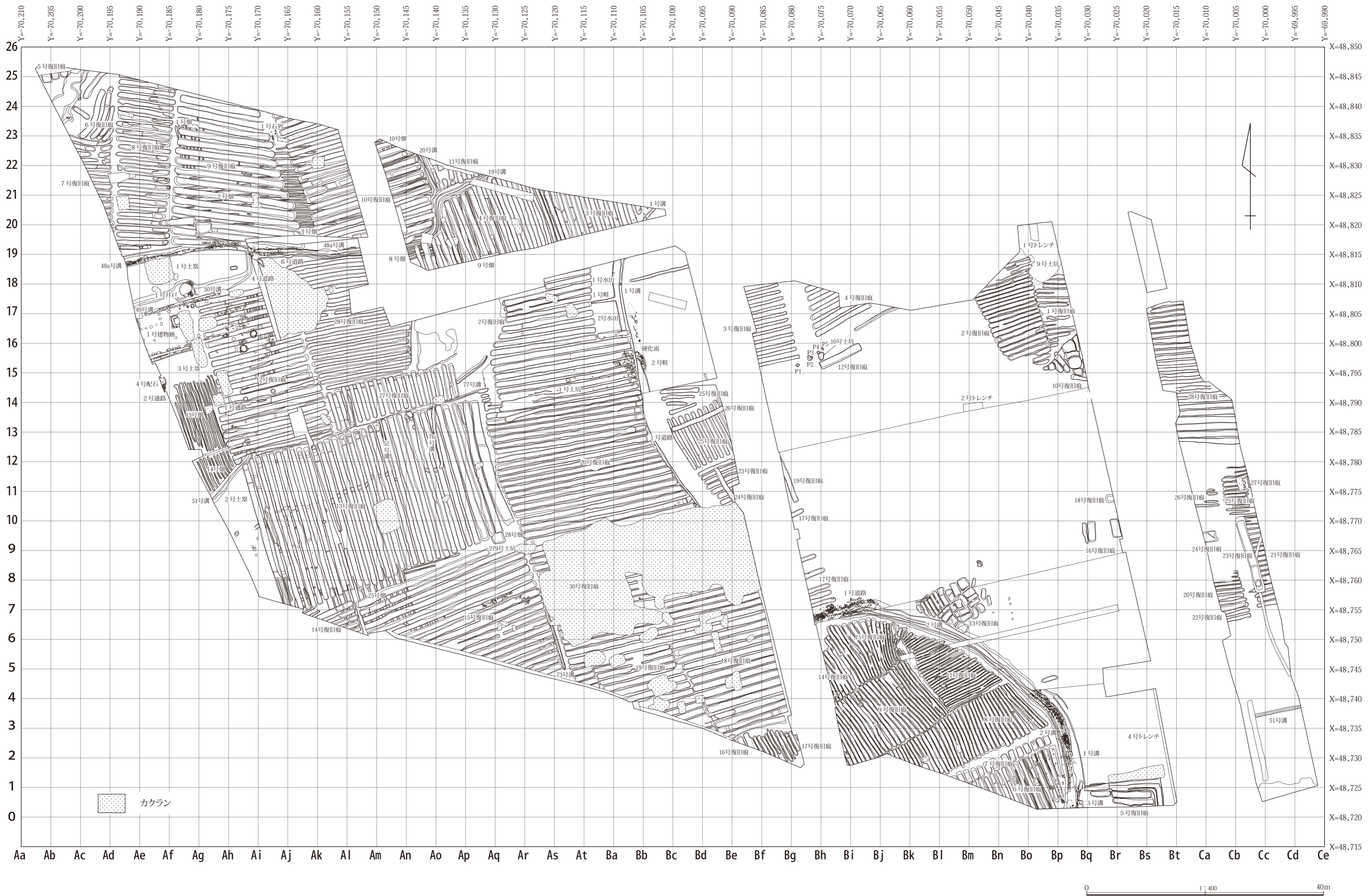
# 田口上田尻遺跡 田口下田尻遺跡

一般国道17号(前橋渋川バイパス)改築工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書第2集

## 付 図

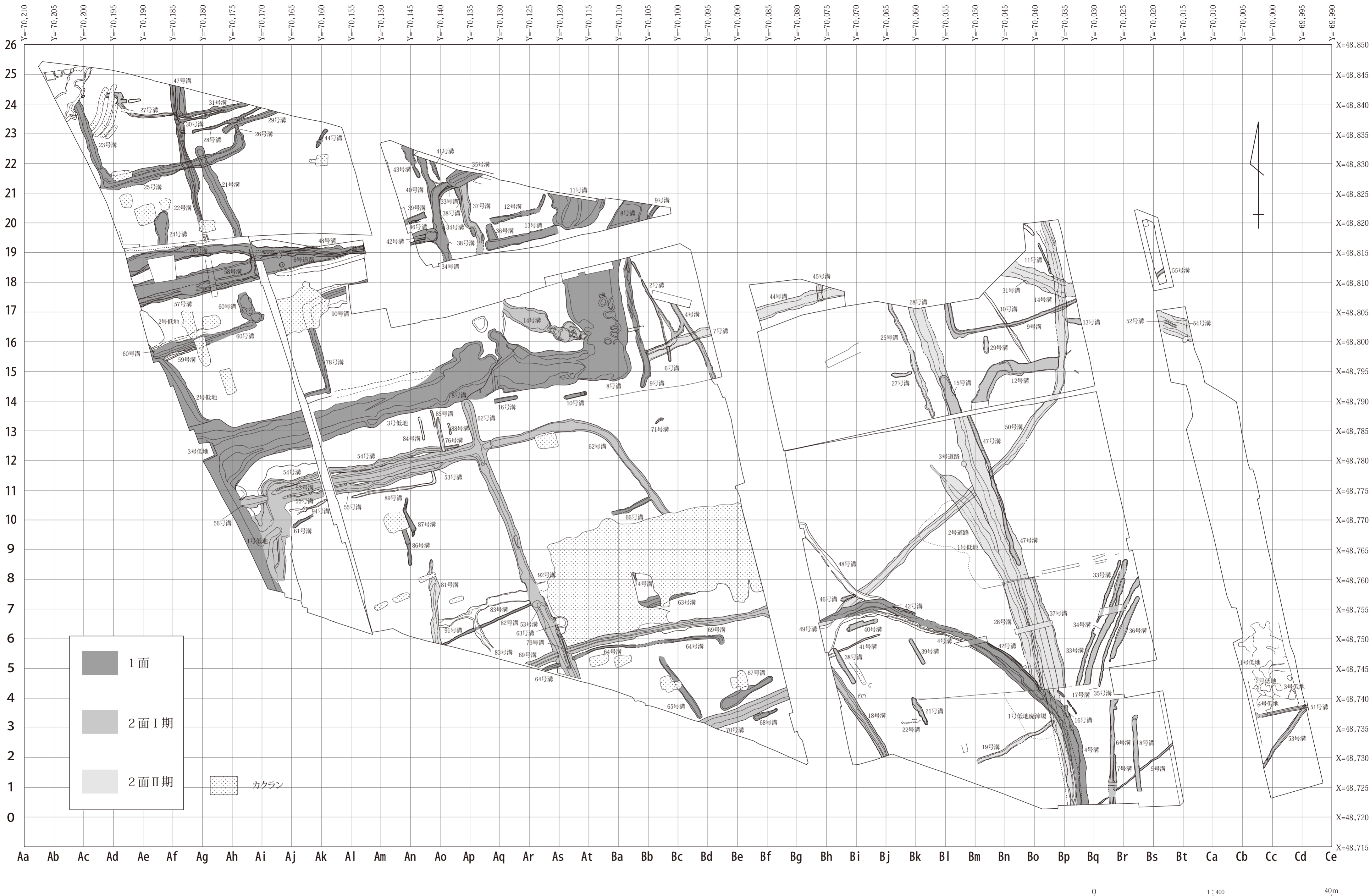
- |     |               |
|-----|---------------|
| 付図1 | 1面遺構全体図       |
| 付図2 | 1面～2面溝等全体図    |
| 付図3 | 2面遺構全体図       |
| 付図4 | 3面遺構全体図       |
| 付図5 | 1面～3面土坑・墓坑全体図 |
| 付図6 | ピット全体図        |
| 付図7 | ピット詳細図        |





付図1 田口上田尻遺跡・下田尻遺跡遺跡 1面遺構全体図





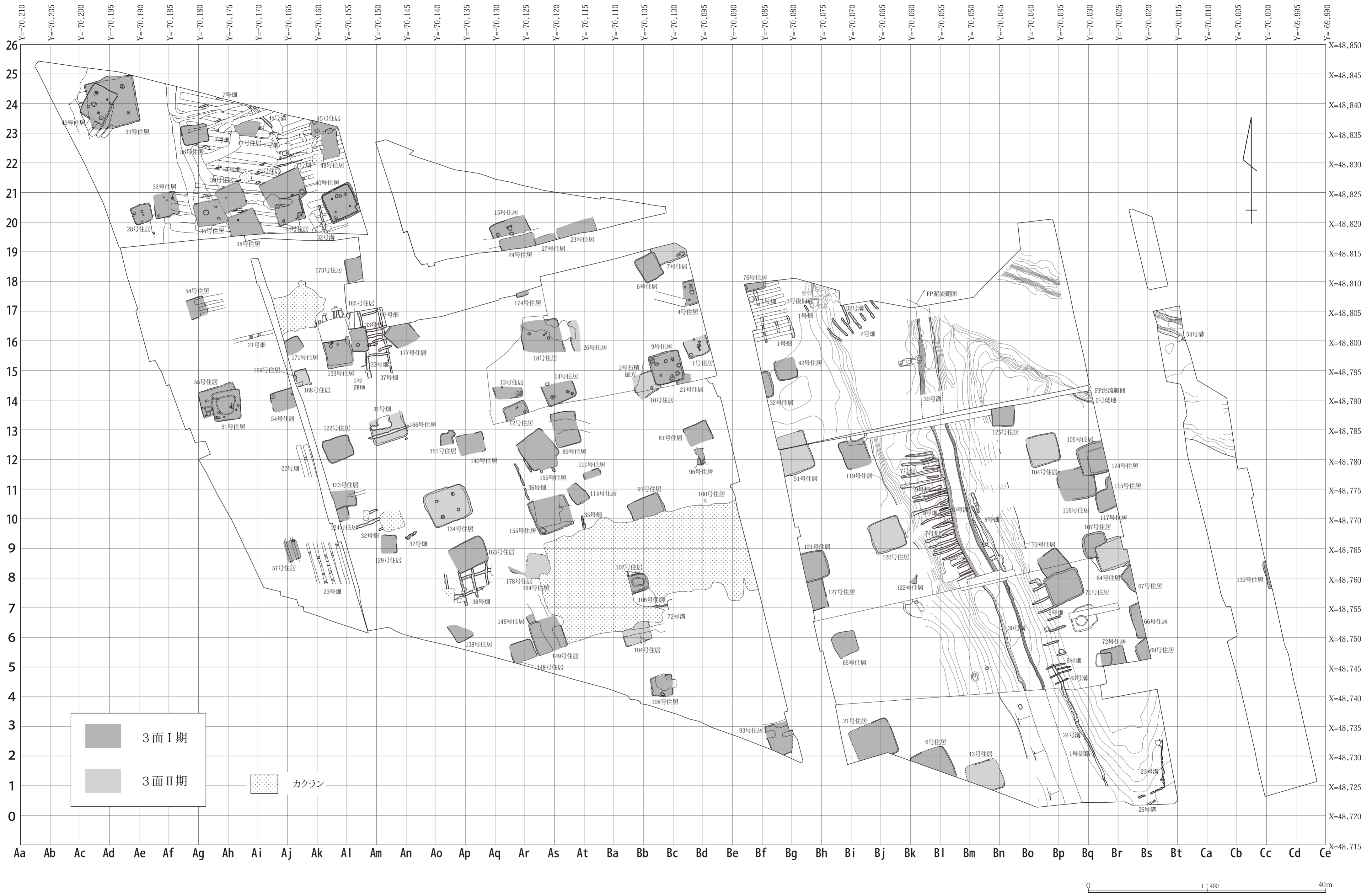
付図2 田口上田尻遺跡・田口下田尻遺跡 1面～2面溝等全体図





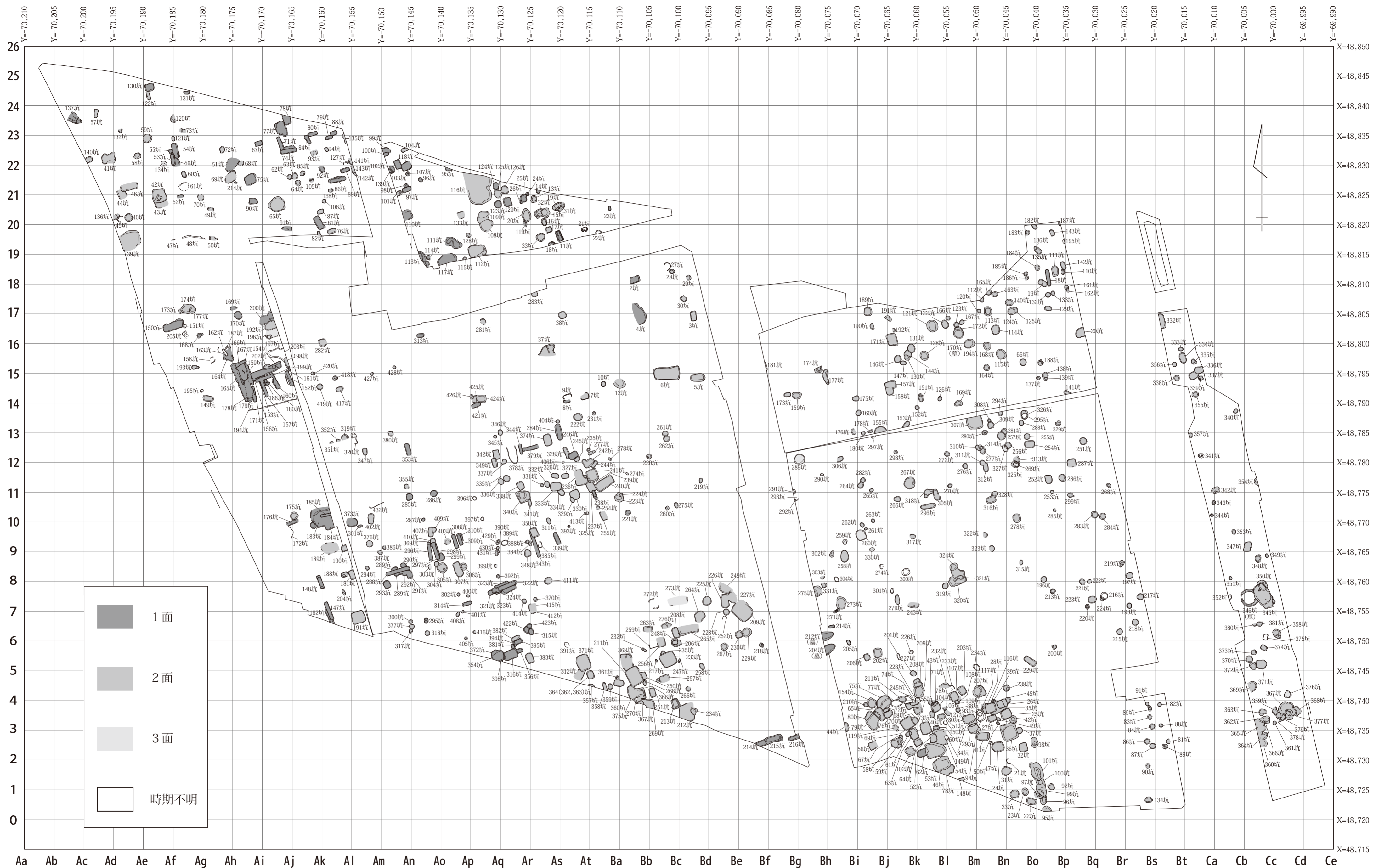
付図3 田口上田尻遺跡・田口下田尻遺跡 2面遺構全体図





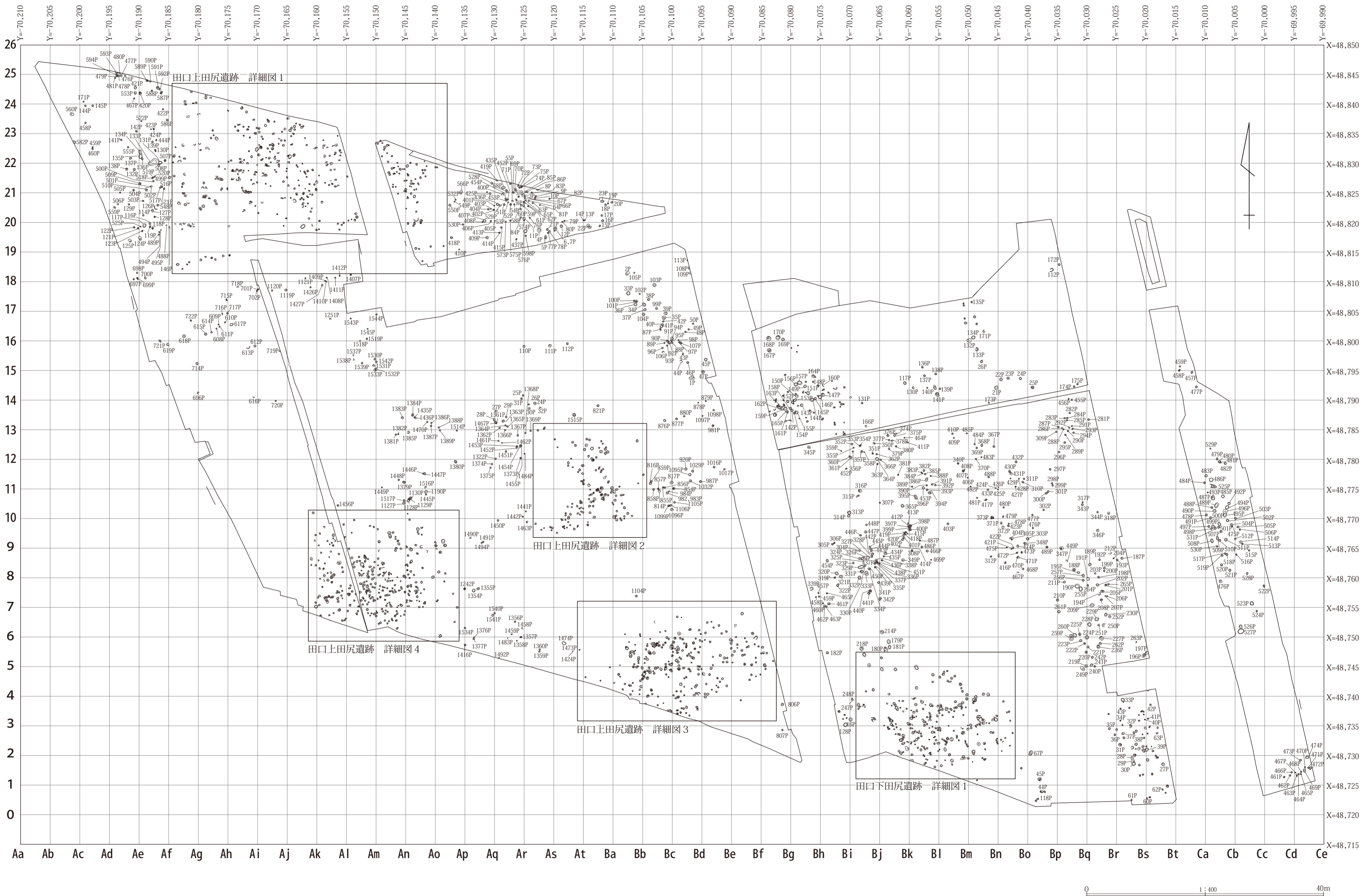
付図4 田口上田尻遺跡・田口下田尻遺跡 3面遺構全体図





付図5 田口上田尻遺跡・田口下田尻遺跡 1面～3面土坑・墓坑全体図



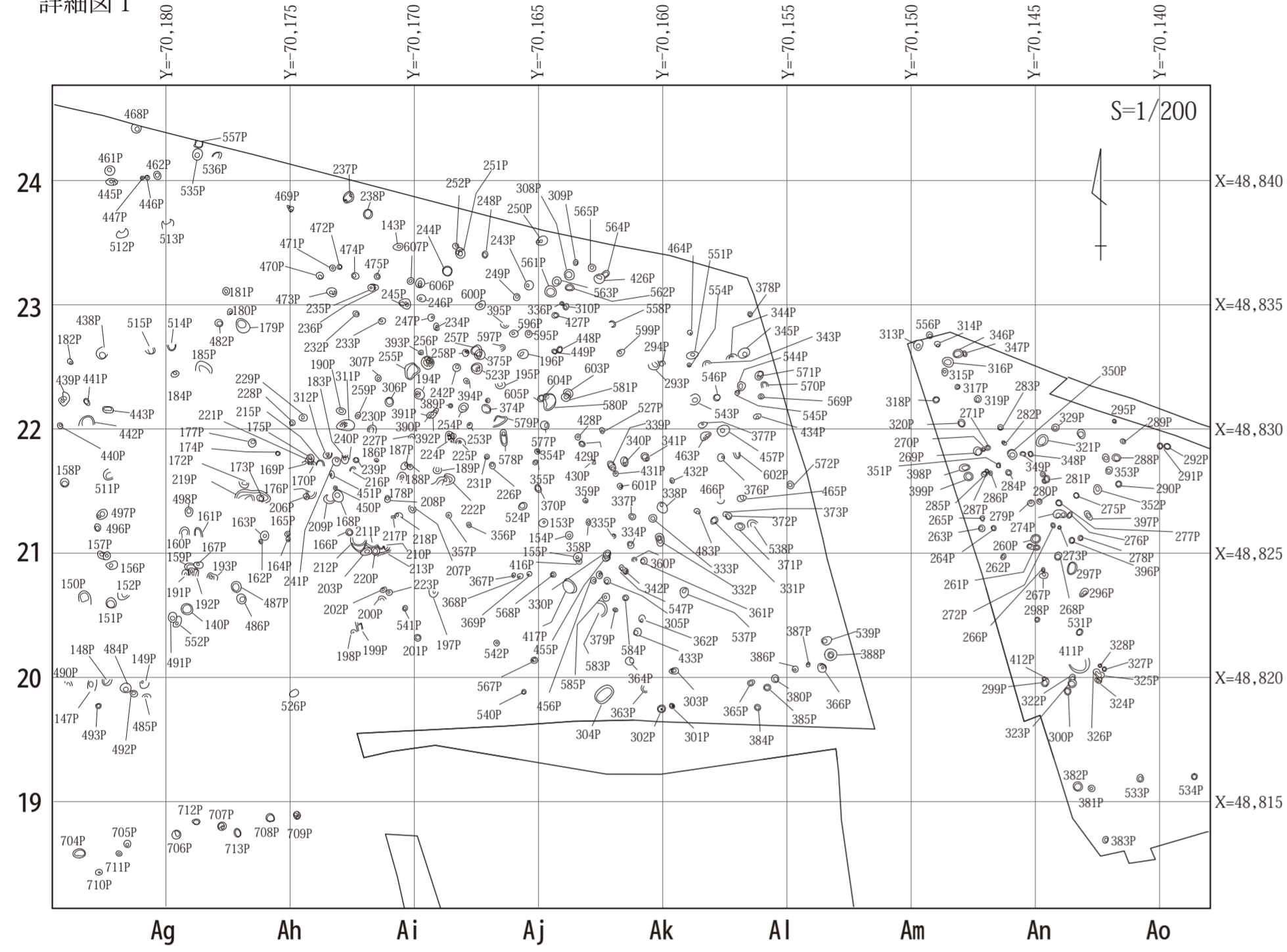


付図6 田口上田尻遺跡・田口下田尻遺跡 ピット全体図

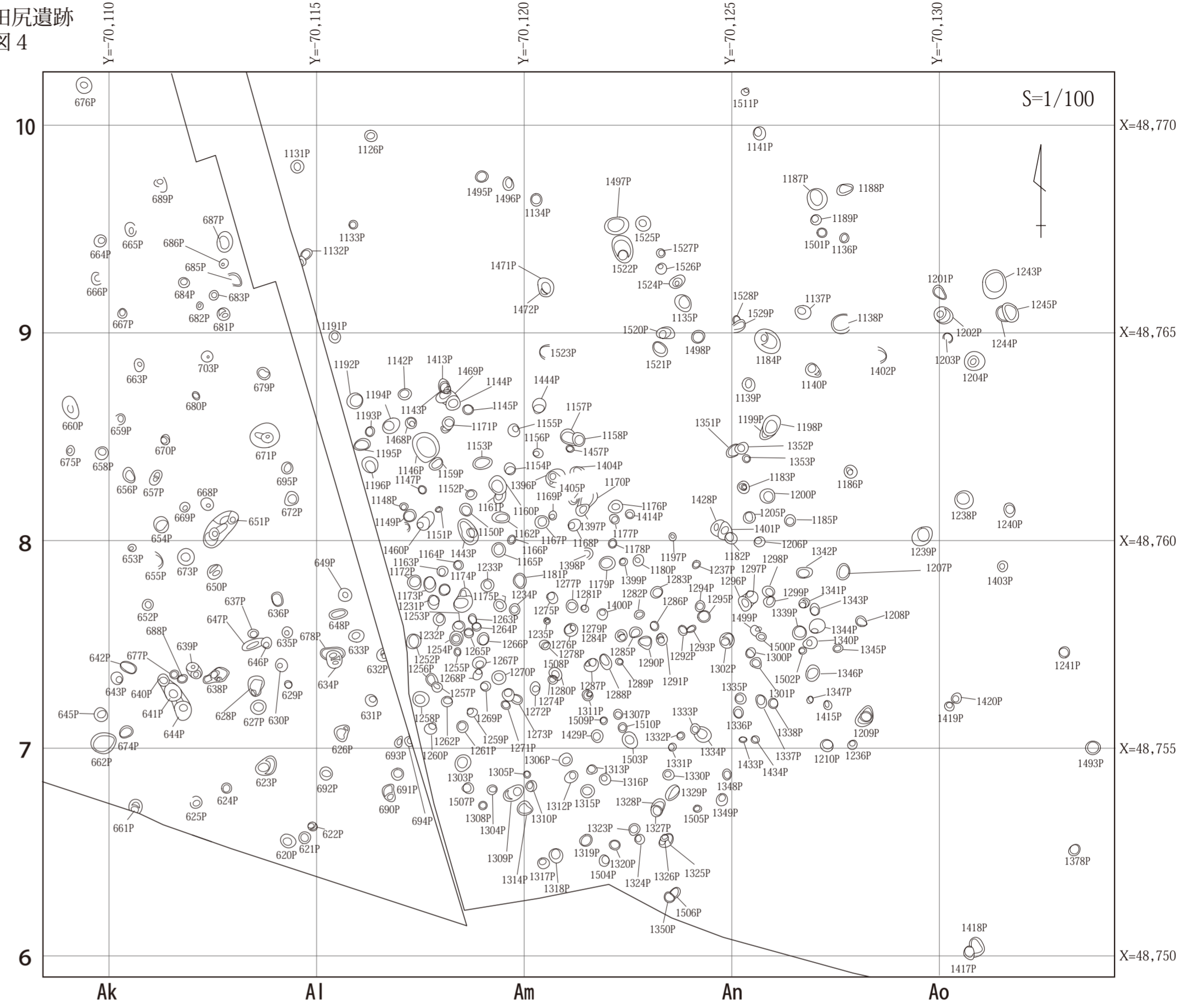


付図7 田口上田尻遺跡・田口下田尻遺跡 ピット詳細図

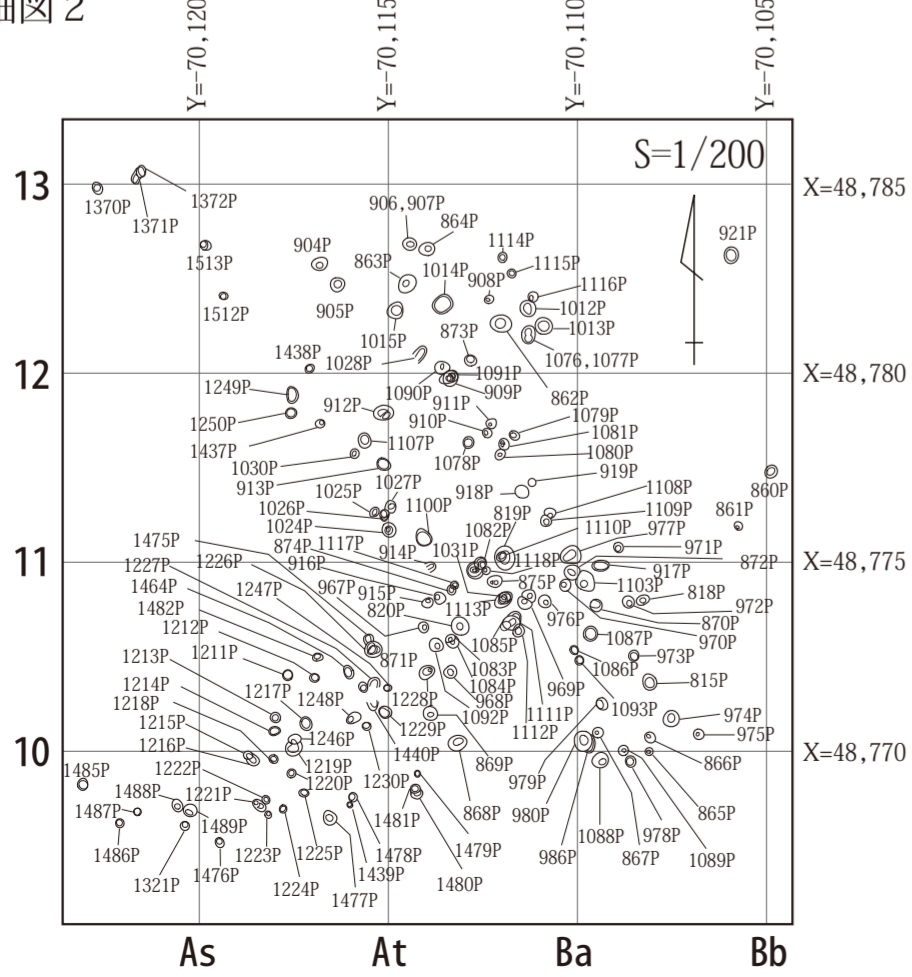
田口上田尻遺跡  
詳細図1



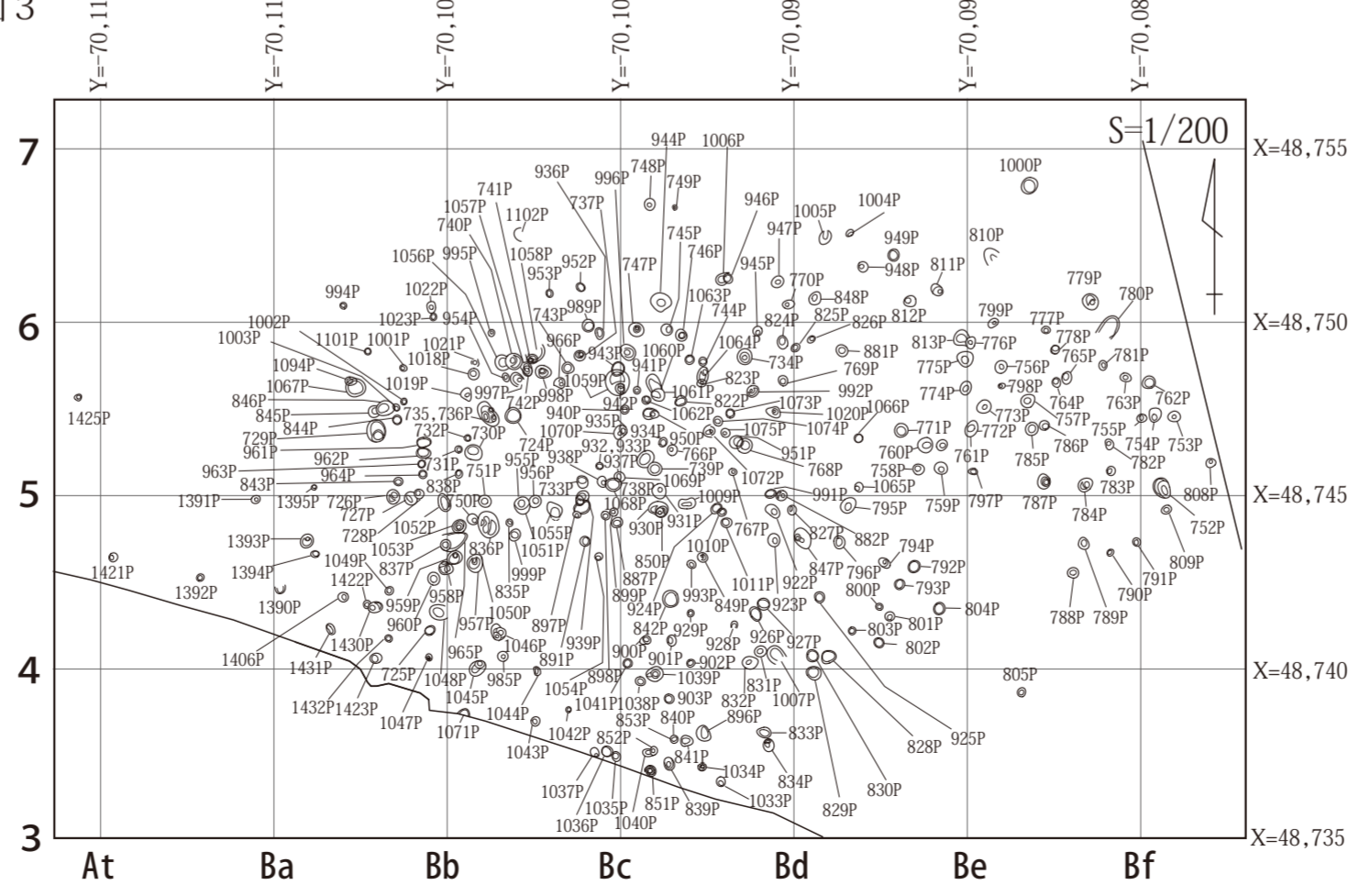
田口上田尻遺跡  
詳細図4



田口上田尻遺跡  
詳細図2



田口上田尻遺跡  
詳細図3



田口下田尻遺跡  
詳細図1

